東京都埋蔵文化財センター調査報告　第 390 集

港区

圓福寺跡遺跡

－（仮称）愛宕山周辺地区（F・G 地区）市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2025・8

東京都埋蔵文化財センター

圓福寺跡遺跡の調査

港区圓福寺跡遺跡は武蔵野台地南東端部の小丘である愛宕山の東麓に位置します。愛宕山は信仰と景観で名高い聖域であり、標高約 26 mを測り、この周辺で一番高い場所です。愛宕神社に上るための出世の石段は観光名所として著名で、現在も観光客が絶えることはありません。

遺跡名の由来となる圓福寺は、新義真言宗の寺院で、慶長８（1603）年に徳川家康の命により創建された愛宕神社の別当寺として江戸時代を通して当地に境内を有していました。

圓福寺跡遺跡（港区遺跡№ 212）は港区愛宕一丁目に所在し、地表面の標高５～６ mに位置し、西から東に緩やかに傾斜しており、国道 301 号線へと繋がります（写真１）。発掘調査は独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部による愛宕山周辺地区の市街地再開発事業に伴うもので、令和２年 12 月から開始し、途中、整理作業期間を挟みながらも、令和６年 10 月まで実施しました。発掘調査面積は 3,202㎡で、調査終了後、整理作業を行い、今回の発掘調査報告書の刊行に至っています。掘削残土置き場等、作業エリアを確保する都合上、発掘調査対象範囲を区割りして調査したため、全体の調査状況を一面で見られる写真は撮れませんでしたが、比較的全体象が分かる写真として北半部の調査開始前（写真２）、南半部の調査開始直後の状況を表示します（写真３）。



写真１　圓福寺跡遺跡付近（北東から）



写真２　調査区北側全景（南西から）



写真３　調査区南側全景（西から）

本遺跡の地表面には礫やコンクリート混じりの土層が堆積し、コンクリート基礎が広範囲に広がっていました。コンクリート基礎の間を掘り抜くと、ほとんどの場所で江戸時代の遺構と遺物が検出されました。本遺跡の遺物は地表直下の盛土や攪乱された土層から江戸時代を主体とする陶磁器や瓦等が出土しました。盛土には明治以降と考えられるものから縄文時代に遡る遺物が含まれていました。地表から遺物の全く出土しなかった砂層（H 層）までの深さは３ mを超える場合もあります（写真４）。

江戸時代の圓福寺跡の調査が主体と考え、発掘調査に臨みましたが、結果として、縄文時代、弥生時代、古墳時代・古代、中世、近世、近代の複合遺跡であることが明らかとなりました。特に徳川家康が江戸時代初期に、愛宕神社や圓福寺を創

建する前の中世段階から当遺跡の土地利用が活発になされていたことが、中世まで遡る遺構の存在や板碑、中世陶磁器の検出から明らかになりました。徳川家康が社寺を創建する下地はその前の時代から醸成されていたと言えるかもしれません。中世に帰属する可能性の高い遺構としては、隅丸長方形を呈する SX22 という土坑があげられます（写真 5）。覆土からは中世に帰属する土器と石器が出土しています。本遺跡からは板碑が破片を含めて約 20 点出土しています。中でも「文明六年」（1474 年）という年号が記された板碑の出土は一つの成果です。キリーク・サク・サの下に「文明六年甲午　逆修妙祐禅尼　十一月三日」と刻まれ、白色粘土層（D 層）からやや浮いた状態で出土しています（写真 6）。また圓福寺は幕末に廃絶されたと云われていますが、それ以降の明治時代以降にも遺構が残っていました。縄文時代から近代までの遺構を数えると、その数は 1,100 基以上になります。

主体となる江戸時代では 17 世紀代に構築された地鎮遺構（SX32）の検出が注目されます。地鎮遺構自体が発見・調査されることも珍しいのですが、良好な遺存状態を保っていたことから、江戸時代の地鎮のあり方を考える上でも重要な資料になるものと考えられます。中央に設置された銅製の宝瓶と呼ばれる蓋付の壺を中心に 20 枚（1 連）を数える土器皿が強い規則性に則り、置かれていました（写真 7）。土器皿の上には五色玉と考えられる特に色に重点を持たせた小石が配置されていました。中央の土器皿には黄色（流紋岩）の小石が、北には黒色（安山岩）の小石が、東には青色（緑色凝灰岩）小石が、南には赤色（チャート）の小石が、西には白色（石英）の小石が配されていました。これらは陰陽五行説に則って配置されていたものと考えられます。80cm 四方の穴の中央の銅製の宝瓶には蓋があり、固く閉まって開きませんが、何らかの液体等を入れていたものと思われます。この宝



写真４　M区南壁土層断面（北から）



写真５　E区土坑（SX22）完掘（南から）



写真６　G区板碑出土状態（北から）

瓶の外面には、紐で縛られたような痕跡がかすかに残っていました。先述した土器皿を取り上げると、中央を独鈷で貫通させた輪宝が８枚出土しました（写真８）。輪宝から突出した独鈷は輪宝の上より下が長い状態でした。このことから独鈷は上から輪宝を打ち付けたものではなく、あらかじめ穴を穿って、埋置したものであることが分かります。こうした地鎮遺構は、寺院の建立に伴って行なう地鎮めのための儀礼に伴う遺構と考えられます。しかしながらこの地鎮遺構が慶長８（1603）年に徳川家康の命により創建された時の遺構であるのかどうかは、土器皿の製作時期が 17 世紀初頭よりも新しいと思われるため、可能性は低いものと思われます。となると遺跡内には焼土の堆積箇所もありますので、大火事の後の復興のための寺全体の地鎮であるとか、何らかの新しいお堂を建てた時であるとか、周年行事等で構築された可能性が考えられます。

圓福寺関係と考えられる遺構はこの地鎮遺構の他に、多数の礎石建物跡、ピット群、溝状遺構、石組遺構、木組遺構、瓦組遺構、池、井戸、土坑、ピットなどにより構成されていました。また瓦や板材、芥等を廃棄した遺構も認められています。出土した遺物も陶器、磁器、土器、瓦、ミニチュア、土製品、金属製品、銭貨、木製品、ガラス製品、石製品等と多岐にわたります。この他にも、自然遺物である獣骨を主体とする骨類や貝などがまとまって出土した遺構等も調査されています。

礎石建物跡は数多く検出されていますが、後世の攪乱を多く受け、建物範囲の一部が壊されていた場合も数多くありました。E 区の SB4 では大型単独礎石や、方形礎石、円形礎石の３種類の礎石が検出されました（写真９）。J 区の SB1 は古い時期には円形の堅牢なつくりの礎石であったものが、その後簡易な方形の礎石になったものと考えられます（写真 10）。円形の礎石は穴を穿ち、大形の礫を配置し、その上に小礫を土と版築して土台としていました（写真 11）。M 区の SB2 は円形の穴を穿ち、円形の扁平な礫を置き、礎石としていました（写真 12）。この SB2 礎石建物跡は SX73 という 17 世紀代に位置付けられる広域焼土跡を剥がした直下から検出されたものです。焼土は礎石建物跡を覆っているため、建物が焼失したことに起因する焼土堆積である可能性があります。この焼土については出土遺物から 17 世紀中葉以降の焼土である可能性があります。これら礎石群は圓福寺のお堂の基礎であったものと思われます。また最後に行われた N 区の調査では護摩堂と推定される SB8 礎石建物跡（写真 13）と地鎮のためと考えられる五重塔や銅棒を収めた小甕も検出されました（写真 14）。この小甕は時期的には明治に入ったものであるため、「寺終い」に伴う遺構かもしれません。

本遺跡からは木材を使った遺構や遺物が数多く検出されています。調査区北東端で検出された SX5 は木杭を長方形あるいは正方形に打ち込み、建物基礎とした遺構で、確認できた最大長は、6.95 m



写真７　J区地鎮遺構（SX32）土器皿・五色玉出土状態（南から）

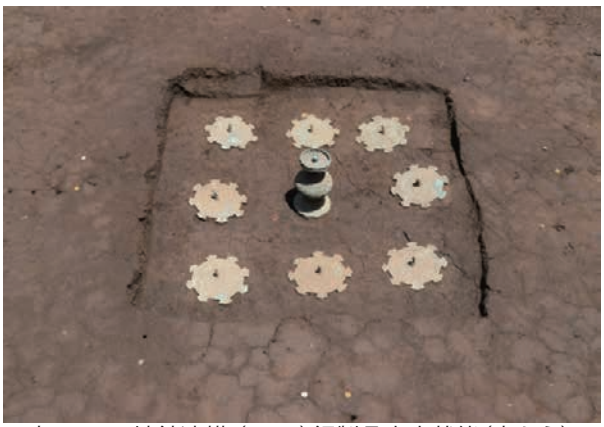


写真８　J区地鎮遺構（SX32）銅製品出土状態（南から）

を測ります（写真 15）。主軸方向は北からやや東に振れていました。また調査地南西隅の H 区では杭を打ち込み外側に板柵を設置した遺構も検出されています。最大長 4.8 m、最大幅 2.7 m、深さは約 90㎝を測ります。覆土からは木製品、石製品、陶磁器、土器、瓦等が出土しています。用途としてはごみ溜め（芥溜り）が考えられます（写真 16 ）。木製品は井戸や大型の土坑の中から漆碗、箸、栓、火打金の柄などが出土しています。木製品は条件が揃わないと通常は残らない遺物であるため、江戸期の寺域内の生活を考える上で良い資料となりました。

当遺跡から出土した遺物の中で、数量的に卓越したものは瓦です。圓福寺の伽藍の建物の屋根のほとんどは瓦葺きであった可能性が高いものと思われます。瓦は瓦溜りという瓦を優先的に捨てた遺構（写真 24）や井戸、溝などの遺構だけでなく、盛土の中からも数多く出土しました。当遺跡の場合、



写真９　E区礎石建物跡（SB4）全景（南から）



写真10　J区礎石建物跡（SB1）全景（西から）



写真11　J区礎石（SS116）断面（南から）



写真12　M区礎石建物跡（SB2）全景（北から）



写真13　N区礎石建物跡（SB8）全景（東から）



写真14　N区小甕（SX140）出土状態（南から）

瓦の中には海鼠瓦という伽藍施設や壁などに使用される遺物も出土しています。また瓦を排水や雨落ち施設のために用いた遺構も検出されました。SX55 は平瓦の破片を用いた瓦敷遺構、SX56 は瓦を使用した配管状の施設です（写真 17）。また調査区内には南北に走る溝、東西に走る溝、深い溝、浅い溝、屈曲する溝等多種多様な溝が穿たれていました（写真 18）。

寺域内には池跡も検出されました。SX16 は中央を大型配管に切られていたため全容は不明ですが、漆喰の貼られた面が最大長 5.5 mを測ります。漆喰範囲内には大形の甕（SX15）、踏み石状の扁平な礫が漆喰上層に規則的に配されていました（写真 19）。

当遺跡では井戸の構築が多いという特徴がありました。約 3,000㎡の中に 40 基を超える井戸が検出されました。井戸の形態も様々で、素掘りの掘り抜き井戸、掘り方の中に桶を埋設した井戸、砂層の下にも汲み上げ施設が伸びる井戸などです。出土した遺物から井戸の廃棄年代を想定しましたが、17 世紀代の遺物、18 世紀代の遺物、19 世紀代の遺物、明治以降の遺物を含む井戸があり、井戸は一気に構築・廃棄されたものではなく、数百年の長期にわたり構築・使用・廃棄されていたものと思われます。SE30 は 17 世紀代の陶器が多く出土した井戸で、掘り抜きの井戸でした（写真 20）、SE32 は掘り方を持ち、桶を埋設するタイプでした（写真 21）。井戸のほとんどが砂層まで掘り込まれていました。井戸の多さは真水の必要性を現わしているものと考えられ､海との関係性があります。

本遺跡からは板材等が多量に出土する遺構も検出されました（写真 22）。隅丸長方形を呈する胞衣皿埋納遺構からは胞衣皿と徳利 2 点が出土しました（写真 23）。瓦溜りという、瓦を廃棄した遺構も数多く見つかっています。特に N 区の護摩堂があったと考えられる範囲からは、極めて多量の瓦が出土しました。写真は N 区の SX126 の瓦の出土状態です（写真 24）。

当遺跡の特徴として、貝の堆積、獣骨等の出土があげられます。獣骨が出土する場合、貝と隣接した状態で出土する場合が多々ありました（写真 25）。この SX19 の骨と貝の出土範囲は約 3 mに及び、分析により骨はウマであることが判明しました。貝の堆積は遺構覆土に堆積する場合、斜面下方に流れたような状態で堆積した場合、平地にマウント状に堆積する場合（写真 26）等がありました。堆積範囲は方形に近い形状で、長径約 4 mを測ります。手前には板碑が出土しています。調査地からは最大長 2 mを超える大型の土坑も検出されています。SK30 は垂直の壁を持つ遺構で、倉庫的な遺構であった可能性があります。下位からは桶が検出されているため、井戸と切り合っていた可能性があります（写真 27）。

中近世の陶器では中世末から江戸初頭の天目茶碗や緑色、黄色を呈する碗皿類の他に南伊勢系の鍋等も出土しています。近世の陶器では碗、皿、鉢、擂鉢、瓶、甕、土瓶、植木鉢などが出土しています。江戸時代の磁器では碗、皿、鉢、蓋物、段重、香炉、仏飯器、急須などが出土しています。土器では皿が目立ち、灯明皿、焙烙、火鉢などが出土しています。土器皿破片の中には金箔の貼られたものもありました。瓦は軒丸瓦、丸瓦、軒平瓦、平瓦、桟瓦の他に滴水瓦や海鼠瓦も出土しています。自然遺物としては獣骨や土嚢袋 300 体以上の多量の混土貝なども出土しています。貝はヤマトシジミ、ハマグリ、カキ、ハイガイ等が出土しましたが、ヤマトシジミの出土が目立ちました。

近世に継続する近代の遺構と遺物も検出されています。特筆すべき遺構としては先述した N 区で出された地鎮のためと考えられる甕埋設遺構が挙げられます。甕は幕末に廃棄されたと思われる瓦堆積を掘り込んで穴を穿ち、埋設されていました。甕の中には液体と白色の砂状の物質と棒状の銅製品



写真15　A区木杭建物基礎（SX5）全景（西から）



写真16　H区木組遺構（SX23）全景（南から）



写真17　J区瓦埋設遺構（SX55）全景（西から）



写真18　H区溝（D11）完掘（西から）



写真19　E区池跡（SX16）全景（北から）



写真20　K区井戸跡（SE30）遺物出土状態（西から）



写真21　M区井戸（SE32）桶検出状態（西から）



写真22　A区木材廃棄土坑（SK7）検出状態（西から）



写真23　B区胞衣皿埋納遺構（SK1）検出状態（南から）



写真24　N区瓦溜り（SX126）断面（北から）



写真25　E区獣骨・貝堆積遺構（SX19）検出状態（南から）



写真26　J区貝堆積遺構（SX34）検出状態（東から）



写真27　C区大型土坑（SK30）土層断面（西から）



写真28　M区大形木材（SX101）出土状態（南東から）



写真29　C区縄文土坑（SK28）土層断面（東から）



写真30　J区弥生土坑（SK127）土器出土状態（北西から）

が設置されていました。これを慎重に探索したところ、彩色された五重塔のミニチュアと金糸等が見つかりました。幕末から明治にかけても、礎石建物跡（N 区 SB7）や井戸、便所甕、火力施設等が構築されていました。当該期の遺物は陶磁器、土器、瓦、煉瓦、ガラス製品等も出土しています。鉄道関連では「路電」や「東京市マーク」の刻まれた煉瓦も出土しており、近代の圓福寺跡遺跡を考える上で重要なものもあります。

前述したように、江戸時代以前の遺構と遺物が当初の予測より多く検出されました。縄文時代では前期前半、後晩期の遺構が検出されています。縄文時代晩期に構築された大形の土坑と考えられる遺構が調査区中央東側の灰色を呈するシルト層面で検出されました。細長い楕円形の孔を穿ち、加工されたと考えられる大形木材が埋置されていました（写真 28）。土坑の規模は確認面で長さ約 4 m、



写真31　I区古代の溝（SD16・SD17）全景（北から）

幅約１ｍ、深さ約 30㎝を測ります。壁は緩やかに立ち上がり、木材の表面である湾曲のある方を下にして検出されました。分析の結果、木材はトネリコ属シオジ節で、年代は縄文時代晩期の可能性が高いことが分かりました。縄文時代の海岸がすぐ近くに迫っていた可能性が高く、それに関係した遺構と考えられます。このほかにも縄文時代後期と考えられる円形の土坑が検出されています（写真29）。遺構の性格は墓壙等が考えられますが、居住の痕跡は認められていません。縄文土器は後晩期を主体としていましたが、数は多くありませんが早期・前期・中期の土器も出土しています。早期後半では表裏に条痕文が施文された土器が、前期では平行沈線文上にボタン状の貼り付けが付された土器が、中期では金雲母を多量に含む土器や縄文地文に垂下沈線文が施された土器等も出土しています。

弥生時代では土坑やピット、遺物集中地点が検出され、遺物が出土しています。写真 30 は、土坑内（J区 SK127）の弥生時代の甕形土器の出土状態です。残念ながら北西側は江戸時代の瓦溜りに切られており全容はわかりませんでしたが、接合の結果、器形のわかる土器となりました（本文第 132 図・図版 108）。弥生時代中期頃の甕形土器と考えています。赤彩が認められる後期の壺形土器等の破片も出土しています。縄文土器も含め、ローリングを受けた小片が多いことも特徴の１つです。

写真 31 は古代に帰属すると考えられる南北に走る溝状遺構で、土師器や須恵器等が覆土中から出土しました。規模は幅３ｍ以上、浅い段状の立ち上がりが認められており、特殊な形状を呈しています。

また、調査区からは古墳時代、あるいは古代の須恵器、土師器の他に管状の土錘が約 40 点出土しています。漁撈に使われたものと考えられます。また浮きに使われたと考えられる軽石も 10 点出土し、活発な当該期の漁撈活動の有様が伝わってきます。

Summary

The Empuku-ji Temple Site, Minato Ward, is located at the eastern foot of Mt. Atago (Atago Yama), a small hill at the southeastern end of the Musashino Plateau.

At the peak of Mt. Atago is the Atago Shrine, founded in 1603 by order of Tokugawa Ieyasu. Still today it remains a spot for worship and sightseeing.

Empuku-ji Temple, which the archeological site was named after, is a temple of the Shingi Shingon sect. It was founded as a betto-ji temple of the Atago Shrine and remained present throughout the Edo period. However, in the Meiji era, it is said to have become ruined due partly to haibutsu kishaku (anti-Buddhist movement).

The present excavation survey, in connection with the redevelopment program for the surroundings of Mt. Atago, was launched in December 2020 and ended in October 2024. The survey area was 3,017 m2.

The excavation, as had been expected earlier, revealed numerous ruins and relics related to the Empuku-ji Temple, which existed in the Edo period. Also detected were ruins and relics dating back to before the Middle Ages, some even dating back to the Jomon period. The ruins detected numbered as many as more than 1,000.

Among the ruins related to the Empuku-ji Temple were cornerstones and post holes for buildings, masonry ditches and unsupported gutters, garden ponds, wells, soil piles, and construction ceremony ruins. Among the relics found were pottery, ceramics, and earthenware, roof tiles, metal products, coins, lacquerware, wooden products, glass products, stone towers, stone products, animal bodies (horse bones, etc.), and seashells. Particularly notable are the construction ceremony ruins. We unearthed treasure bottles, Cakraratna (a wheel-shaped treasure possessed by the ideal universal ruler), single-pronged vajra, and other copper products, along with earthen plates, and small stones considered to have been five-colored stones. These products are considered to date back to the latter half of the 17th century or later. They are presumably buried in connection with a groundbreaking ceremony when the buildings related to the Empuku-ji Temple were about to be built.

Among the unearthed relics from the Middle Ages are several stone stupas. One of the stone stupas thus found is carved with the year 1474 (the sixth year of the Bummei era). It is thus a precious archeological material.

Among the finds dating back to the ancient times are ditch-shaped structures. Their soil coverings have proved to contain haji ware and sue-ware. Among the other finds are more than 40 pipe-shaped clay sinkers dating back to the Tumulus period or the ancient times. They are proof that fishing was actively conducted in those days.

From the Yayoi period, we unearthed soil piles and pits, along with urns whose former shapes popular in that same period were evident, as well as red-colored pots, among others.

From the soil layer dating back to the Jomon era, we unearthed earthenware from the initial to the last Jomon period, along with a large piece of timber. That large piece of timber was installed in a hole dug to an oblong oval approximately 4 m long, 1 m wide, and 30 cm deep.

Thus, the excavation survey has revealed that the site of the Empuku-ji Temple, Minato Ward, and its surroundings were used as a place of people's everyday life not only in the Edo period but also, in some areas, as early as the Jomon period.

序　言

港区圓福寺跡遺跡は愛宕神社の所在する愛宕山の東麓に位置します。遺跡名の由来は、かつて愛宕神社の別当寺として同地に所在した新義真言宗圓福寺に因みます。圓福寺の歴史は徳川家康の命により愛宕神社が創建された慶長８年（1603）まで遡り、廃仏毀釈により廃寺となる明治時代まで続きます。

今回の調査は独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部による愛宕山周辺地区の市街地再開発事業に伴い実施されたもので、調査の結果、当初の予想どおり、圓福寺に関わる多くの遺構・遺物が発見されました。加えて、圓福寺創建以前、縄文時代、弥生時代、古代、中世の遺構・遺物の発見も遺跡周辺の歴史を研究する上で大きな成果と言えます。

これらの成果をまとめた本書が、今後多くの方々に活用されることで、埋蔵文化財や地域の歴史への理解を深めるための一助となれば幸いです。

本報告書の刊行にあたり、ご協力とご指導を頂きました独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部、東京都教育庁地域教育支援部、港区教育委員会に厚く御礼を申し上げます。

また、調査に対して多くのご助言を賜りました研究者の皆様、調査の実施にご協力頂きました近隣住民の皆様に心より感謝申し上げます。

令和７年８ 月

公益財団法人　東京都教育支援機構
理事長　坂東　眞理子

例　言

1　本書は（仮称）愛宕山周辺地区（Ｆ・Ｇ地区）市街地再開発事業に伴う港区圓福寺跡遺跡（港区№212遺跡）の発掘調査報告（東京都埋蔵文化財センター調査報告第390集）である。

2　調査は独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部の委託を受け、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団東京都埋蔵文化財センターが開始し、令和５年４月１日に公益財団法人東京学校支援機構東京都埋蔵文化財センターへ事業を移管した。その後、令和５年７月１日からは公益財団法人東京都教育支援機構東京都埋蔵文化財センターと改称し、事業を継続実施した。

3　遺跡所在地：東京都港区愛宕一丁目７ほか

4　調査面積：3,202㎡

5　発掘調査　令和２年12月21日～令和４年９月７日
　　令和４年12月１日～令和５年３月31日
　　令和６年６月５日～令和６年10月７日
　一次整理　令和３年１月12日～令和４年９月16日
　　令和４年12月１日～令和５年３月17日
　　令和６年７月２日～令和６年11月８日
　二次整理及び報告書作成期間
　　令和４年９月７日～令和４年11月30日
　　令和５年３月１日～令和５年12月27日
　　令和６年９月２日～令和７年４月15日

6　本事業における事業者との事業調整等は東京都教育庁地域教育支援部管理課が担当・指導した。
　課長代理　鈴木徳子
　埋蔵文化財担当　平田　健

7　調査担当者
　東京都埋蔵文化財センター愛宕一丁目分室
　　調査課長代理　内野　正（令和２年12月～）
　　調査研究員　　堀　恭介（～令和３年３月31日）
　　調査研究員　　金持健司（令和４年４月１日～令和７年４月15日）
　　調査協力　　株式会社鴻池組　　株式会社ジオダイナミック　ヒューマンテック

8　本報告の執筆は内野　正、金持健司が分担し、編集は内野が行った。文責は各文末に記した。

9　地鎮遺構（SX32）に係る金属製品（宝瓶・輪宝・独鈷）の保存処理、元素組成分析、CT分析、埋納甕（SX140）のCT分析、内容物の検出は長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター）が行い、分析結果に基づく、所見も得ることができた。

10　出土した遺物・試料に関して、下記の方々と機関に分析鑑定等を委託・依頼した。
　（1）石質同定：柴田　徹（有限会社考古石材研究所）
　（２）動物遺体同定：山根洋子（港区立郷土歴史館）

（3）樹種同定：鈴木伸哉（昭和女子大学准教授）

（4）土壌分析・放射性炭素年代測定（パリノ・サーヴェイ株式会社）

11　出土した貝類遺体の貝種同定・組成の分析については、東京都埋蔵文化財センターと千葉県立中央博物館との共同研究として行った。分析は宮本由子（東京都埋蔵文化財センター）と黒住耐二（ウルマ自然史研究所・元千葉県立中央博物館）が行い、成果についてはⅤ章に掲載した。

12　本報告の概要については、以下において一部を発表、報告しているが、本書の刊行を以て正式報告とする。

東京都埋蔵文化財センター 2020『東京都埋蔵文化財センター 年報 41 令和 2（2020）年度』

東京都埋蔵文化財センター 2021『東京都埋蔵文化財センター 年報 42 令和 3（2021）年度』

東京都埋蔵文化財センター 2022『東京都埋蔵文化財センター 年報 43 令和 4（2022）年度』

東京都埋蔵文化財センター 2022『遺跡発掘調査発表会 2021』

東京都埋蔵文化財センター 2022『遺跡発掘調査発表会 2022』

港区立郷土歴史館 2023『港区文化財年報 3 －令和 3・ 4 年度の調査－』

13　出土遺物および発掘調査・整理に関わる図面・写真等記録類は、港区教育委員会で保管している。

14　本書で掲載・参照した地形図・絵図等は以下のとおりである。

第 1 図・第 3 図：東京都教育委員会「東京都遺跡地図情報インターネット提供サービス」

第 2 図：港区立郷土資料館 2012「港区の弥生時代遺跡マップ」『港区の弥生時代』

Ⅵ章付図：『諸宗作事図帳　第 174 巻（新義真言宗）』（国立国会図書館デジタルコレクション）

15　板碑の拓本については、港区教育委員会から、『港区史　資料編 1』用データの提供を受けた。

16　土色の表記には、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』を用い、土色・マンセルノーションで表した。

17　出土遺物の注記は、東京都港区№ 212 遺跡の略号として「TM212」を用い、区名と遺構番号あるいは調査区名等を付した。

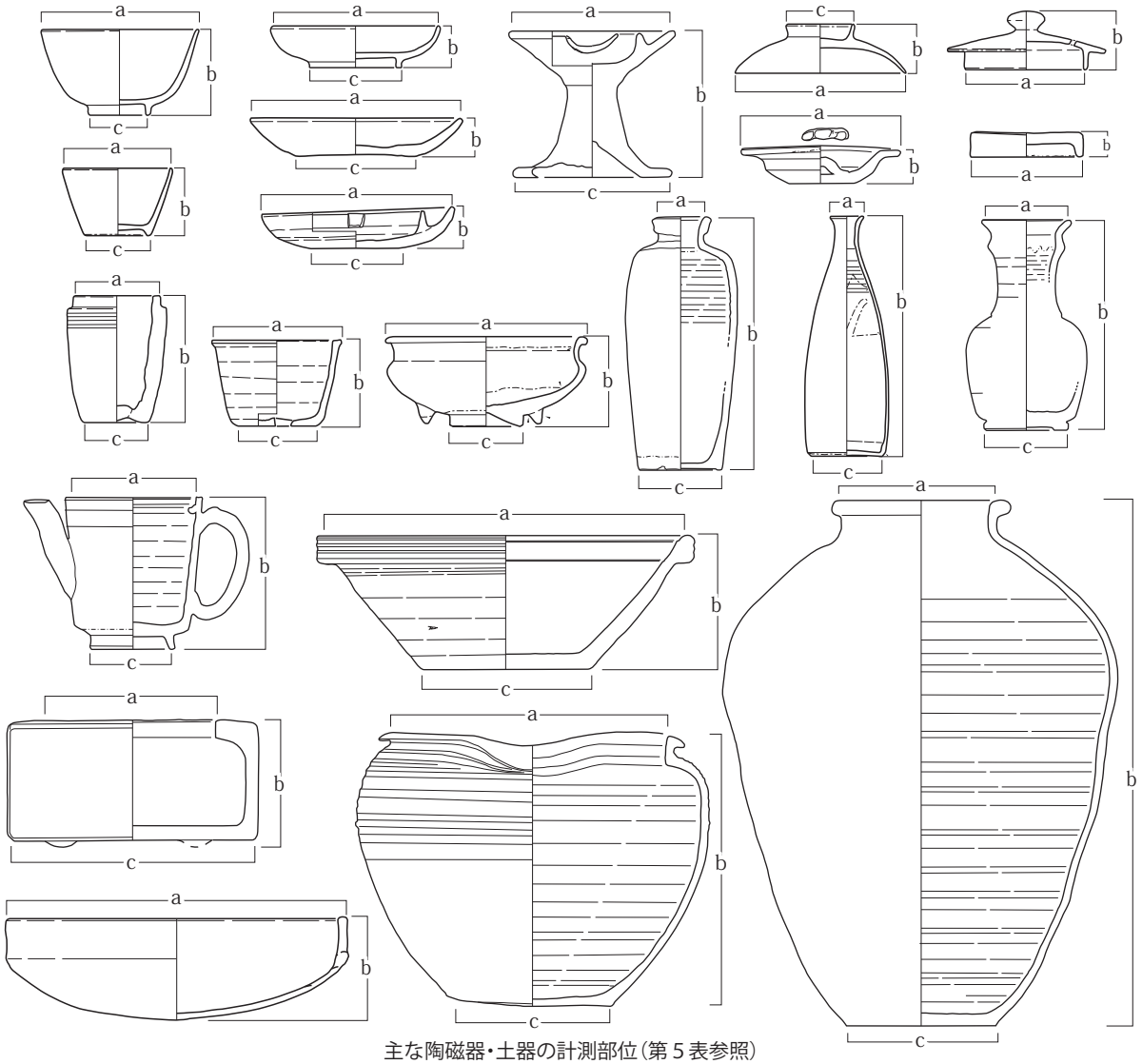
18　図中の方位記号は真北を示し、標高は TP（東京湾平均海面）である。

19　遺構番号は遺構種類ごとに付したが、検出時に付したため、整理で認識が変わったものもある。また整理時に遺構ではないと判断したもの、他の遺構に吸収されてしまったものについては、欠番とした。

20　発掘調査及び整理に関して、下記の方々と機関にご指導・ご協力を賜った。記して感謝いたします。（順不同・敬称略）

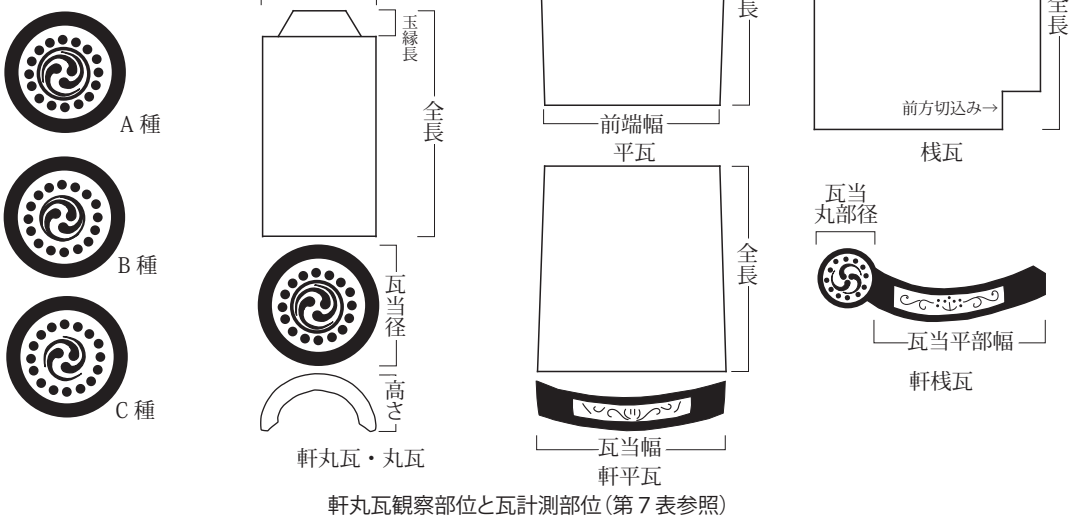
東京都教育庁地域教育支援部管理課　港区教育委員会事務局教育推進部図書文化財課

谷川章雄・渋谷葉子・岡本康則・杉本絵美・月岡千栄・佐藤龍之介



主な陶磁器・土器の計測部位（第 5 表参照）

軒丸瓦の連珠三巴文の分類（金子 1994 より）
A 種：圏線を有し、巴の尾部が圏線に接しないもの。
B 種：圏線を有し、巴の尾部が圏線と一体化するもの。
C 種：圏線を有さないもの。



軒丸瓦観察部位と瓦計測部位（第 7 表参照）

凡例

目　次

圓福寺跡遺跡の調査
Summary
序言
例言
凡例
Ⅰ　発掘調査の概要……1
　1　調査に至る経緯……1
　2　調査の方法……1
　3　調査の経過……2
Ⅱ　遺跡の位置と環境……6
　1　地理的環境……6
　2　周辺の遺跡……6
Ⅲ　遺跡の層序……12
Ⅳ　検出された遺構と遺物……20
　1　縄文時代～古代の遺構と遺物……20
　　A　大形木材出土遺構……20
　　B　焼土跡……20
　　C　土坑……21
　　D　ピット……23
　　E　遺物集中地点……24
　　F　溝状遺構……24
　2　中近世の遺構……30
　　A　獣骨出土遺構……30
　　B　土坑……31
　　C　遺物集中地点……31
　3　近世以降の遺構と遺物……32
　　A　地鎮遺構……32
　　B　礎石建物跡・礎石列・礎石……33
　　C　石組遺構……45
　　D　礫集中遺構……46
　　E　木組遺構……47
　　F　杭列・杭跡……48
　　G　瓦埋設遺構……49
　　H　溝状遺構……50
　　I　埋甕……52

J　池跡……53
K　井戸跡……53
L　焼土跡……61
M　土器皿多出遺構……62
N　木製品・木材廃棄土坑……63
O　胞衣皿埋納遺構……63
P　漆喰含有土坑……64
Q　瓦溜り（瓦廃棄遺構）……64
R　貝堆積遺構……68
S　大型土坑……71
T　土坑……73
U　ピット……81
V　その他遺構……82
4　中近世の遺物……83
A　陶磁器・土器……83
B　ミニチュア・土製品……86
C　瓦……86
D　石塔・石製品……88
E　金属製品……88
F　銭貨……89
G　ガラス製品……89
H　骨角製品……90
I　漆器・木製品……90
J　動物遺体……90
Ⅴ　自然科学分析……399
1　港区圓福寺跡遺跡の自然科学分析……399
2　港区・圓福寺跡遺跡出土の貝類遺体……421
3　港区圓福寺跡遺跡から出土した木材の樹種……440
Ⅵ　調査の成果と課題……441
参考文献……446
写真図版
抄録

調査概要 写真目次

写真１　圓福寺跡遺跡付近（北東から）
写真２　調査区北側全景（南西から）
写真３　調査区南側全景（西から）
写真４　M 区南壁土層断面（北から）
写真５　E 区土坑（SX22）完掘（南から）
写真６　G 区板碑出土状態（北から）
写真７　J 区地鎮遺構（SX32）土器皿・五色玉出土状態（南から）
写真８　J 区地鎮遺構（SX32）銅製品出土状態（南から）
写真９　E 区礎石建物跡（SB4）全景（南から）
写真 10 J 区礎石建物跡（SB1）全景（西から）
写真 11 J 区礎石（SS116）断面（南から）
写真 12 M 区礎石建物跡（SB2）全景（北から）
写真 13 N 区礎石建物跡（SB8）全景（東から）
写真 14 N 区小甕（SX140）出土状態（南から）
写真 15 A 区木杭建物基礎（SX5）全景（西から）
写真 16 H 区木組遺構（SX23）全景（南から）
写真 17 J 区瓦埋設遺構（SX55）全景（西から）
写真 18 H 区溝（D11）完掘（西から）
写真 19 E 区池跡（SX16）全景（北から）
写真 20 K 区井戸跡（SE30）遺物出土状態（西から）
写真 21 M 区井戸（SE32）桶検出状態（西から）
写真 22 A 区木材廃棄土坑（SK7）検出状態（西から）
写真 23 B 区胞衣皿埋納遺構（SK1）検出状態（南から）
写真 24 N 区瓦溜り（SX126）断面（北から）
写真 25 E 区獣骨・貝堆積遺構（SX19）検出状態（南から）
写真 26 J 区貝堆積遺構（SX34）検出状態（東から）
写真 27 C 区大型土坑（SK30）土層断面（西から）
写真 28 M 区大形木材（SX101）出土状態（南東から）
写真 29 C 区縄文土坑（SK28）土層断面（東から）
写真 30 J 区弥生土坑（SK127）土器出土状態（北西から）
写真 31 I 区古代の溝（SD16・SD17）全景（北から）

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置（1/5,000）……8
第 2 図　調査地点と地形図（1/40,000）……9
第 3 図　周辺の遺跡（1/5,000）……10
第 4 図　遺構全体図（1/300）……13
第 5 図　地区割と層序位置（1/400）……16
第 6 図　遺跡の層序（1）（1/80）……17
第 7 図　遺跡の層序（2）（1/80）……18
第 8 図　遺跡の層序（3）（1/80）……19
第 9 図　A 区遺構分布図（1/160）……91
第 10 図　B 区遺構分布図（1/120）……92
第 11 図　C 区遺構分布図（1/120）……93
第 12 図　D 区遺構分布図（1/120）……94
第 13 図　E 区遺構分布図（1/120）……95
第 14 図　F 区遺構分布図（1/100）……96
第 15 図　G 区遺構分布図（1/120）……97
第 16 図　H 区遺構分布図（1/150）……98
第 17 図　I 区遺構分布図（1/120）……99
第 18 図　J 区遺構分布図（1/120）……100
第 19 図　K 区遺構分布図（1/120）……101
第 20 図　L 区遺構分布図（1/60）……102
第 21 図　M 区遺構分布図（1/120）……103
第 22 図　N 区遺構分布図（1/150）……104
第 23 図　縄文時代～古代の遺構（1）（1/40）……105
第 24 図　縄文時代～古代の遺構（2）（1/60）……106
第 25 図　縄文時代～古代の遺構（3）（1/60）……107
第 26 図　縄文時代～古代の遺構（4）（1/60）……108
第 27 図　縄文時代～古代の遺構（5）（1/60・1/100）……109
第 28 図　縄文時代～古代の遺構（6）（1/60・1/100）……110
第 29 図　縄文時代～古代の遺構（7）（1/60）……111
第 30 図　管状土錘・軽石・種子の分布（1/400）……112
第 31 図　中近世の遺構（1）（1/20）……113
第 32 図　中近世の遺構（2）（1/10）……114
第 33 図　中近世の遺構（3）（1/60）……115
第 34 図　中近世の遺構（4）（1/60）……116
第 35 図　中近世の遺構（5）（1/60）……117
第 36 図　近世以降の遺構（1）（1/10）……118

第 37 図　近世以降の遺構（2）（1/10）……119
第 38 図　近世以降の遺構（3）（1/10）……120
第 39 図　近世以降の遺構（4）（1/60）……121
第 40 図　近世以降の遺構（5）（1/60）……122
第 41 図　近世以降の遺構（6）（1/60）……123
第 42 図　近世以降の遺構（7）（1/60）……124
第 43 図　近世以降の遺構（8）（1/60）……125
第 44 図　近世以降の遺構（9）（1/80）……126
第 45 図　近世以降の遺構（10）（1/80）……127
第 46 図　近世以降の遺構（11）（1/80）……128
第 47 図　近世以降の遺構（12）（1/80）……129
第 48 図　近世以降の遺構（13）（1/60）……130
第 49 図　近世以降の遺構（14）（1/150）……131
第 50 図　近世以降の遺構（15）（1/60）……132
第 51 図　近世以降の遺構（16）（1/60）……133
第 52 図　近世以降の遺構（17）（1/60）……134
第 53 図　近世以降の遺構（18）（1/40・1/60）……135
第 54 図　近世以降の遺構（19）（1/60）……136
第 55 図　近世以降の遺構（20）（1/60）……137
第 56 図　近世以降の遺構（21）（1/60）……138
第 57 図　近世以降の遺構（22）（1/60）……139
第 58 図　近世以降の遺構（23）（1/60）……140
第 59 図　近世以降の遺構（24）（1/30・1/60）……141
第 60 図　近世以降の遺構（25）（1/60）……142
第 61 図　近世以降の遺構（26）（1/30・1/40）……143
第 62 図　近世以降の遺構（27）（1/60）……144
第 63 図　近世以降の遺構（28）（1/40）……145
第 64 図　近世以降の遺構（29）（1/60）……146
第 65 図　近世以降の遺構（30）（1/60）……147
第 66 図　近世以降の遺構（31）（1/60）……148
第 67 図　近世以降の遺構（32）（1/60）……149
第 68 図　近世以降の遺構（33）（1/20・1/40）……150
第 69 図　近世以降の遺構（34）（1/60）……151
第 70 図　近世以降の遺構（35）（1/60）……152
第 71 図　近世以降の遺構（36）（1/60）……153
第 72 図　近世以降の遺構（37）（1/60）……154
第 73 図　近世以降の遺構（38）（1/60）……155
第 74 図　近世以降の遺構（39）（1/60）……156
第 75 図　近世以降の遺構（40）（1/60）……157
第 76 図　近世以降の遺構（41）（1/60）……158
第 77 図　近世以降の遺構（42）（1/60）……159
第 78 図　近世以降の遺構（43）（1/60）……160
第 79 図　近世以降の遺構（44）（1/60）……161
第 80 図　近世以降の遺構（45）（1/60）……162
第 81 図　近世以降の遺構（46）（1/60）……163
第 82 図　近世以降の遺構（47）（1/30・1/40・1/60）164
第 83 図　近世以降の遺構（48）（1/60）……165
第 84 図　近世以降の遺構（49）（1/60・1/100）……166
第 85 図　近世以降の遺構（50）（1/20・1/60）……167
第 86 図　近世以降の遺構（51）（1/60）……168
第 87 図　近世以降の遺構（52）（1/60）……169
第 88 図　近世以降の遺構（53）（1/30）……170
第 89 図　近世以降の遺構（54）（1/60）……171
第 90 図　近世以降の遺構（55）（1/60）……172
第 91 図　近世以降の遺構（56）（1/60）……173
第 92 図　近世以降の遺構（57）（1/100）……174
第 93 図　近世以降の遺構（58）（1/60）……175
第 94 図　近世以降の遺構（59）（1/60）……176
第 95 図　近世以降の遺構（60）（1/60）……177
第 96 図　近世以降の遺構（61）（1/60）……178
第 97 図　近世以降の遺構（62）（1/60）……179
第 98 図　近世以降の遺構（63）（1/40・1/60）……180
第 99 図　近世以降の遺構（64）（1/60）……181
第 100 図　近世以降の遺構（65）（1/60）……182
第 101 図　近世以降の遺構（66）（1/60）……183
第 102 図　近世以降の遺構（67）（1/60）……184
第 103 図　近世以降の遺構（68）（1/60）……185
第 104 図　近世以降の遺構（69）（1/60）……186
第 105 図　近世以降の遺構（70）（1/60）……187
第 106 図　近世以降の遺構（71）（1/60）……188
第 107 図　近世以降の遺構（72）（1/20・1/60）……189
第 108 図　近世以降の遺構（73）（1/60）……190
第 109 図　近世以降の遺構（74）（1/60）……191
第 110 図　近世以降の遺構（75）（1/60）……192

第 111 図　近世以降の遺構（76）（1/60）.....193
第 112 図　近世以降の遺構（77）（1/60）.....194
第 113 図　近世以降の遺構（78）（1/60）.....195
第 114 図　近世以降の遺構（79）（1/60）.....196
第 115 図　近世以降の遺構（80）（1/60）.....197
第 116 図　近世以降の遺構（81）（1/60）.....198
第 117 図　近世以降の遺構（82）（1/60）.....199
第 118 図　近世以降の遺構（83）（1/60）.....200
第 119 図　近世以降の遺構（84）（1/60）.....201
第 120 図　近世以降の遺構（85）（1/60）.....202
第 121 図　近世以降の遺構（86）（1/40）.....203
第 122 図　近世以降の遺構（87）（1/40・1/60）.....204
第 123 図　近世以降の遺構（88）（1/40）.....205
第 124 図　近世以降の遺構（89）（1/40）.....206
第 125 図　近世以降の遺構（90）（1/40）.....207
第 126 図　近世以降の遺構（91）（1/40）.....208
第 127 図　近世以降の遺構（92）（1/40）.....209
第 128 図　近世以降の遺構（93）（1/40）.....210
第 129 図　近世以降の遺構（94）（1/40）.....211
第 130 図　近世以降の遺構（95）（1/40）.....212
第 131 図　近世以降の遺構（96）（1/40）.....213
第 132 図　縄文～古代の出土遺物（1）（1/2・1/3・1/4）..278
第 133 図　縄文～古代の出土遺物（2）（1/2・1/3）279
第 134 図　縄文～古代の出土遺物（3）（1/3）.....280
第 135 図　縄文～古代の出土遺物（4）（1/2・1/3）281
第 136 図　縄文～古代の出土遺物（5）（1/3）.....282
第 137 図　縄文～古代の出土遺物（6）（1/3）.....283
第 138 図　縄文～古代の出土遺物（7）（1/3）.....284
第 139 図　縄文～古代の出土遺物（8）（1/3）.....285
第 140 図　縄文～古代の出土遺物（9）（1/2・1/3）286
第 141 図　縄文～古代の出土遺物（10）（1/3）.....287
第 142 図　縄文～古代の出土遺物（11）（1/2）.....288
第 143 図　縄文～古代の出土遺物（12）（1/2・2/3）....289
第 144 図　縄文～古代の出土遺物（13）（1/3・2/3）....290
第 145 図　陶磁器・土器（１）（1/3）.....303
第 146 図　陶磁器・土器（２）（1/3）.....304
第 147 図　陶磁器・土器（３）（1/3）.....305
第 148 図　陶磁器・土器（４）（1/3）.....306
第 149 図　陶磁器・土器（５）（1/3）.....307
第 150 図　陶磁器・土器（６）（1/3）.....308
第 151 図　陶磁器・土器（７）（1/3）.....309
第 152 図　陶磁器・土器（８）（1/3）.....310
第 153 図　陶磁器・土器（９）（1/3）.....311
第 154 図　陶磁器・土器（10）（1/3）.....312
第 155 図　陶磁器・土器（11）（1/3）.....313
第 156 図　陶磁器・土器（12）（1/3）.....314
第 157 図　陶磁器・土器（13）（1/3）.....315
第 158 図　陶磁器・土器（14）（1/3）.....316
第 159 図　陶磁器・土器（15）（1/3）.....317
第 160 図　陶磁器・土器（16）（1/3・1/6）.....318
第 161 図　陶磁器・土器（17）（1/3）.....319
第 162 図　陶磁器・土器（18）（1/3）.....320
第 163 図　陶磁器・土器（19）（1/3）.....321
第 164 図　陶磁器・土器（20）（1/3）.....322
第 165 図　陶磁器・土器（21）（1/3）.....323
第 166 図　陶磁器・土器（22）（1/3）.....324
第 167 図　陶磁器・土器（23）（1/3）.....325
第 168 図　陶磁器・土器（24）（1/3・1/6）.....326
第 169 図　陶磁器・土器（25）（1/3・1/6）.....327
第 170 図　陶磁器・土器（26）（1/3）.....328
第 171 図　陶磁器・土器（27）（1/3）.....329
第 172 図　陶磁器・土器（28）（1/3）.....330
第 173 図　陶磁器・土器（29）（1/3）.....331
第 174 図　陶磁器・土器（30）（1/3・1/6）.....332
第 175 図　陶磁器・土器（31）（1/3）.....333
第 176 図　陶磁器・土器（32）（1/3）.....334
第 177 図　陶磁器・土器（33）（1/3）.....335
第 178 図　陶磁器・土器（34）（1/3）.....336
第 179 図　陶磁器・土器（35）（1/3・1/2・1/1 他）.....337
第 180 図　ミニチュア・土製品（１）（1/2）.....355
第 181 図　ミニチュア・土製品（２）（1/2）.....356
第 182 図　瓦（１）（1/6）.....358
第 183 図　瓦（２）（1/6）.....359
第 184 図　瓦（３）（1/6）.....360

第 185 図　瓦（４）（1/6）……361
第 186 図　瓦（５）（1/6）……362
第 187 図　瓦（６）（1/6）……363
第 188 図　瓦（７）（1/6）……364
第 189 図　瓦（８）（1/6）……365
第 190 図　瓦（９）（1/6）……366
第 191 図　瓦（10）（1/6）……367
第 192 図　瓦（11）（1/6）……368
第 193 図　瓦刻印（2/3）……368
第 194 図　石塔・石製品（１）（1/6）……373
第 195 図　石塔・石製品（２）（1/6）……374
第 196 図　石塔・石製品（３）（1/6）……375
第 197 図　石塔・石製品（４）（1/3）……376
第 198 図　石塔・石製品（５）（1/2・1/3・1/6）……377
第 199 図　金属製品（１）〈地鎮具〉（1/3）……379
第 200 図　金属製品（２）〈地鎮具〉（1/3）……380
第 201 図　金属製品（３）〈地鎮具〉（1/3）……381
第 202 図　金属製品（４）（1/2・1/4）……383
第 203 図　金属製品（５）（1/2）……384
第 204 図　金属製品（６）（1/2）……385
第 205 図　金属製品（７）（1/2・1/4）……386
第 206 図　銭貨（2/3）……388
第 207 図　ガラス製品（1/3）……390
第 208 図　骨角製品（1/2）……391
第 209 図　漆器・木製品（１）（1/3）……392
第 210 図　漆器・木製品（２）（1/3）……393
第 211 図　漆器・木製品（３）（1/3）……394
第 212 図　漆器・木製品（４）（1/3）……395
第 213 図　漆器・木製品（５）（1/6）……396
第 214 図　SX145 出土のウマの歯（1/2）……398

表目次

第１表　発掘調査と整理作業の経過……３
第２表　周辺の遺跡一覧……11
第３表　遺構一覧……214
第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧……291
第５表　陶磁器・土器一覧……338
第６表　ミニチュア・土製品一覧……357
第７表　瓦一覧……369
第８表　瓦刻印一覧……372
第９表　石塔・石製品一覧……378
第 10 表　SX32（地鎮遺構）金属製品法量・諸元素分析表……381
第 11 表　金属製品一覧……387
第 12 表　銭貨一覧……389
第 13 表　ガラス製品一覧……391
第 14 表　漆器・木製品一覧……396
第 15 表　動物遺体一覧……397

写真図版目次

図版１　1. A 区第２面全景（東から）
2. B 区全景（東から）
3. C 区全景（東から）
4. D 区全景（南東から）
5. E 区全景（南から）
図版２　1. F 区全景（北から）
2. G 区全景（東から）
3. H 区北半分全景（北から）
4. H 区南半分 SX26・SD12 全景（東から）
5. I 区・J 区全景（北から）
6. I 区 SD16・SD17 完掘（南から）
7. I 区南端部全景（東から）
図版３　1. I 区・J 区全景（東から）
2. J 区第２面全景（東から）
3. J 区北西端部全景（北から）
4. J 区東半部全景（東から）
5. K 区全景（北から）
6. L 区全景（西から）
7. M 区南西部全景（北から）
8. M 区北端部江戸以前全景（北東から）

図版 4　1. N 区全景（南から）
2. N 区全景（東から）
図版 5　1. A 区北壁土層断面（南から）
2. E 区北壁土層断面（南から）
3. I 区東壁土層断面（西から）
4. K 区北壁土層断面（南から）
5. M 区東壁土層断面（西から）
6. N 区西壁土層断面（東から）
図版 6　1. M 区 SX101 木材検出状態（南東から）
2. M 区 SX101 検出状態（南から）
3. M 区 SX101 調査状況（北東から）
4. M 区 SX101 土層断面（北西から）
5. M 区 SX101 覆土上層縄文土器出土状態（北東から）
図版 7　1. J 区 SX67 検出状態（南から）
2. C 区 SK28 土層断面（東から）
3. C 区 SK28 遺物出土状態（南から）
4. C 区 SK28 完掘（南から）
5. D 区 SK32 土層断面（南から）
6. D 区 SK32 完掘（南から）
7. I 区 SK106 土層断面（南から）
8. J 区 SK119 完掘（南から）
図版 8　1. J 区 SK109・SP380 土層断面（南西から）
2. J 区 SK109 完掘（北から）
3. J 区 SK120 遺物出土状態（南から）
4. J 区 SK120 完掘（北から）
5. J 区 SK128 土層断面（東から）
6. J 区 SK128 土器出土状態（東から）
7. J 区 SX65 調査状況（南から）
8. J区SK120・SX65・SK109全景（北から）
図版 9　1. J 区 SX69・SK127 全景（北から）
2. J 区 SK127 弥生土器出土状態（北西から）
3. J 区 SK127 完掘（東から）
4. M 区 SK136 遺構検出状態（東から）
5. M 区 SK136 遺物出土状態（東から）
図版 10　1. C 区 SD4 土層断面（南東から）
2. C 区 SD4 全景（南から）
3. E 区 SD4 全景（西から）
4. E 区 SD9 土層断面（南から）
5. G 区 SD9・SD13 遺物出土状態（南から）
6. G 区 SD13 検出状態（南西から）
図版 11　1. E 区 SD10 遺物出土状態（南から）
2. I 区 SD16 検出状態（北から）
3. J 区 SD16 全景（北から）
4. I 区・J 区 SD16・SD17 全景（南から）
図版 12　1. M 区 SD35 検出状態（南から）
2. M 区 SD35 遺物検出状態（北から）
3. A 区 SK4 土層断面（西から）
4. A 区 SK4 完掘（西から）
5. A 区 SK5 完掘（西から）
6. G 区 SK82 土層断面（南から）
7. G 区 SK82 完掘（南から）
8. M 区 SX90 検出状態（北西から）
図版 13　1. E 区 SX19 獣骨出土状態（北から）
2. E 区 SX19 獣骨・貝出土状態（東から）
3. E 区 SX19 獣骨・貝出土状態（西から）
4. M 区 SX85 獣骨出土状態（東から）
5. M 区 SX85 完掘（東から）
図版 14　1. N 区 SK156・SX145 土層断面（南から）
2. N 区 SX145 獣骨出土状態（南から）
3. N 区 SX145 南半部獣骨出土状態（南から）
4. N 区 SX145 下部土層断面（南から）
5. N 区 SX145 獣骨出土状態（西から）
図版 15　1. E 区 SX22 遺物出土状態（南から）
2. E 区 SX22 完掘（北西から）
3. E 区 SX22 周辺全景（北から）
4. E 区北壁東側下層土層断面（南から）
5. G 区板碑出土状態（北から）
6. G 区板碑出土状態（西から）
7. J 区 SK93 遺物出土状態（北から）
8. J区SK93土器・骨出土状態（北西から）

図版 16　1. J 区 SX35・SX41 検出状態（北東から）
2. J 区 SX35 板碑出土状態（南東から）
3. J 区 SX35 土層断面（東から）
4. J 区 SX35 完掘（南から）
5. M 区 SX100 遺物出土状態（南から）
6. M 区 SX100 遺物出土状態（南から）
7. M 区 SX100 土層断面（東から）
8. M 区 SX100 遺物出土状態（東から）

図版 17　1. J 区 SX32 検出状態最上層（南から）
2. J 区 SX32 土器皿検出状態（南から）
3. J 区 SX32 第 1 面検出状態（南から）
4. J 区 SX32 土器皿と玉石等出土状態（南から）
5. J 区 SX32 土器皿取り上げ後（南から）

図版 18　1. J 区 SX32 土層断面（南から）
2. J 区 SX32 銅製品出土状態（南から）
3. J 区 SX32 第 2 面検出状態（東から）
4. J 区 SX32 銅製品出土状態（東から）
5. J 区 SX32 完掘（南から）

図版 19　1. N 区 SX140 検出状態（南から）
2. N 区 SX140 陶器蓋取外し（南から）
3. N 区 SX140 陶器蓋裏（南から）
4. N 区 SX138・SX140 土層断面(南から)
5. N 区 SX140 土層断面（南から）

図版 20　1. J 区 SB1 新段階礎石群全景（西から）
2. J 区 SS94・SS118・SS95 検出状態（西から）
3. J 区 SS97・SS98 検出状態（西から）
4. J 区 SS96 検出状態（西から）
5. J 区 SS92 検出状態（西から）

図版 21　1. J 区 SB1 古段階礎石群全景（北から）
2. J 区 SS116 土層断面（西から）
3. J 区 SS99 底石出土状態（西から）
4. J 区 SS100 土層断面（西から）
5. J 区 SS117 土層断面（西から）

図版 22　1.M 区 SB2 全景（北から）
2.M 区 SS131 土層断面（東から）
3. M 区 SS132 検出状態（南から）
4. M 区 SS133 柱痕検出状態（東から）
5. M 区 SS135 土層断面（北から）

図版 23　1. A 区 SS10A・SS10B・SS10C 検出状態（東から）
2. A 区 SS7 検出状態（西から）
3. A 区 SS8 検出状態（西から）
4. A 区 SS9 土層断面（東から）
5. A 区 SS9 完掘（南から）

図版 24　1. E 区 SB4 全景（南から）
2. E 区 SS46 検出状態（南から）
3. E 区 SS21・SS43 検出状態（東から）
4. E 区 SS22 検出状態（南から）
5. E 区 SS63 検出状態（北から）

図版 25　1. E 区 SS32 土層断面（西から）
2. E 区 SS32 検出状態（西から）
3. E 区 SS35 検出状態（西から）
4. E 区 SS35 土層断面（西から）
5. E 区 SS35 底石検出状態（西から）
6. E 区 SS35 掘り方完掘（西から）
7. E 区 SS62 検出状態（東から）
8. E 区 SS62 掘り方完掘（北から）

図版 26　1. E 区 SS34 土層断面（東から）
2. E 区 SS34 瓦検出状態（南から）
3. E 区 SS34 土層断面（東から）
4. E 区 SS34 瓦下礎石検出状態（東から）
5. E 区 SS26-1 礎石検出状態（南から）
6. E 区 SS40 土層断面（西から）
7. E 区 SS25 土層断面（南から）
8. E 区 SS30 土層断面（東から）

図版 27　1. C 区 SB5 全景（東から）
2. C 区礎石列土層断面（北から）
3. C 区礎石列土層断面（北から）
4. C 区礎石列土層断面（北から）
5. C 区礎石列土層断面（北から）
6. C 区礎石列土層断面（北から）
7. C 区 SSS5-4・SSS5-5 土層断面(北から)

8. C 区礎石列礫検出状態（北から）

図版 28　1. H 区全景（南西から）
2. H 区 SS80 土層断面（南から）
3. G 区 SK67B 検出状態（南西から）
4. G 区 SS71・SS72 土層断面（北から）
5. G 区 SS75 礎石検出状態（東から）

図版 29　1. N 区 SB8 全景（東から）
2. N 区 SB8 全景（北から）
3. N 区 SS171（南から）
4. N 区 SS172（南から）
5. N 区 SS166（東から）

図版 30　1. N 区 SS193（南から）
2. N 区 SS174・SS175（東から）
3. N 区 SS176（南から）
4. N 区 SS186（北から）
5. N 区 SS187（東から）
6. N 区 SS188（東から）
7. N 区 SS182（北から）
8. N 区 SS179(左)・SS178(右)（北から）

図版 31　1. N 区 SS184 土層断面（東から）
2. N 区 SS184 完掘（東から）
3. N 区 SS185 土層断面（東から）
4. N 区 SS194 完掘（南東から）
5. N 区 SS190 土層断面（南から）
6. N 区 SS190 完掘（西から）
7. N 区 SS195 完掘（南から）
8. N 区 SB10 全景（東から）

図版 32　1. B 区 SS1 土層断面（西から）
2. B 区 SS1 検出状態（北から）
3. B 区 SS2・SS3 検出状態（南から）
4. B 区 SS2・SS3・SK1 検出状態（西から）
5. E 区 SS19 全景（北から）
6. E 区 SS19 南側石組検出状態（南から）
7. E 区 SS19 掘り方完掘（南側）（南から）

図版 33　1. J 区 SX52 石組検出状態と土層断面（南から）
2. J 区 SX52 検出状態（南から）
3. J 区 SX52 検出状態（南から）
4. J 区 SX52 全景（西から）
5. J 区 SX53 検出状態（南から）

図版 34　1. B 区 SS2 検出状態（北から）
2. B 区 SS2 検出状態（東から）
3. A 区 SS6 検出状態（西から）
4. A 区 SS6 完掘（南から）
5. A 区 SS13 検出状態（南から）
6. E 区 SS16-2 検出状態（南から）
7. E 区 SS16-2 検出状態（北から）

図版 35　1. E 区 SS16-2 掘り方完掘（南から）
2. L 区 SX71 土層断面（北から）
3. L 区 SX71 完掘（南から）
4. G 区 SX30 敷石検出状態（西から）

図版 36　1. N 区 SX122 全景（南から）
2. N 区 SX109 検出状態（東から）
3. N 区 SS168 検出状態（西から）
4. N 区 SX123 土層断面（南から）
5. N 区 SX123 石組検出状態（東から）

図版 37　1. F 区 SK59 土層断面（北から）
2. F 区 SK59 底部板材検出状態（北から）
3. K 区 SX61 底部板材検出状態（南から）
4. A 区 SX5 木杭建物基礎検出状態（東から）
5. A 区 SX5 木杭建物基礎検出状態（西から）

図版 38　1. H 区 SX23 検出状態（北西から）
2. H 区 SX23 土層断面（西から）
3. H 区 SX23 木製品出土状態（西から）
4. H 区 SX23 杭と板材検出状態（東から）
5. H 区 SX23 掘り方完掘（南西から）

図版 39　1. N 区 SX117(桶) 検出状態（南から）
2. N 区 SX117 土層断面（東から）
3. N 区 SX131 土層断面（南から）
4. N 区 SX135 土層断面（東から）
5. N 区 SX135 南端部土層断面（北から）
6. N 区 SX135 西半部遺物出土状態（東から）

7. N 区 SX135 完掘（東から）
8. N 区 SX135 掘り方完掘（東から）

図版 40 1. I 区 SA1 検出状態（南から）
2. I 区 SA2 完掘（南から）
3. I 区 SA3 検出状態（南から）
4. I 区 SA4 検出状態（南から）
5. K 区 SA7 土坑下杭検出状態（南から）
6. J 区 SA10 検出状態（東から）
7. L 区 SA13 検出状態（北から）
8. A 区 SX3 杭列検出状態（東から）

図版 41 1. E 区 SS23 全景（北から）
2. J 区 SX55･SX56･SX57 全景（西から）

図版 42 1. J 区 SX55・SX56 検出状態（西から）
2. J 区 SX55・SX56 土層断面（南から）
3. J 区 SX57 検出状態（西から）
4. J 区 SX57 土層断面（東から）
5. J 区 SX57 掘り方完掘（西から）
6. J 区 SX58 検出状態（西から）
7. J 区 SX58 瓦出土状態（北から）

図版 43 1. E 区 SD6 土層断面（南から）
2. E 区 SD6 全景（南から）
3. E 区 SD7 土層断面（北から）
4. E 区 SD7 全景（北から）
5. E 区 SD8 掘り方完掘全景（西から）
6. E 区 SD8 土層断面（西から）

図版 44 1. H 区 SD11 土層断面（西から）
2. H 区 SD11 全景（西から）
3. H 区 SD12･SE15･SX23 土層断面（南東から）
4. H 区 SD12 土層断面（南東から）
5. H 区 SD12 全景（西から）
6. J 区 SD14 土層断面（西から）
7. J 区 SD14 全景（東から）

図版 45 1. H 区 SX26・SD12 全景（北から）
2. H 区 SX26・SD12 全景（北東から）
3. H 区 SX26 遺物出土状態（北東から）
4. E 区 SK41 遺物出土状態（南から）
5. E 区 SK41 遺物出土状態（東から）

図版 46 1. I 区 SD15 土層断面（南から）
2. I 区 SD15 完掘（北から）
3. J 区 SD19 土層断面（南から）
4. J 区 SD19 全景（南から）
5. J 区 SD20 土層断面（北から）
6. J 区 SD19・SD20 全景（北から）
7. K 区 SD21 全景（南から）
8. K 区 SD22 完掘（西から）

図版 47 1. K 区 SD25 と層序（西から）
2. K 区 SD25 土層断面（西から）
3. J 区 SD26 土層断面（西から）
4. J 区 SD26 全景（西から）
5. M 区 SD28 土層断面（南から）
6. M 区 SD28 全景（南から）
7. M 区 SD29 土層断面（南から）
8. M 区 SB2･SD29(西端) 全景（北から）

図版 48 1. M 区 SD30 全景（南から）
2. L 区 SD31 土層断面（北から）
3. L 区 SD31 遺物出土状態（北から）
4. L 区 SD31 全景（南から）
5. M 区 SD33 検出状態（北から）
6. M 区 SD33 全景（北から）
7. M 区 SX98 土層断面（北から）
8. M 区 SX98 全景（北から）

図版 49 1. N 区 SD37･SX121 土層断面（東から）
2. N 区 SD37 全景（東から）
3. N 区 SD36 全景（南から）
4. N 区 SD38 土層断面（南から）
5. N 区 SD38 全景（南から）

図版 50 1. E 区 SX16 全景（北から）
2. E 区 SX16 全景（東から）
3. E 区 SX16 土層断面（北から）
4. E 区 SX15 陶器甕出土状態（北から）
5. E 区 SX16 掘り方土層断面（南から）

図版 51 1. A 区 SE1 1 段目土層断面（南から）
2. A 区 SE1 完掘（東から）

3. A 区 SE1 完掘（東から）
4. A 区 SE2 土層断面（南から）
5. A 区 SE2 3段目小型桶検出状態(南から)
6. A 区 SE2 3段目小型桶断面状態(南から)
7. A 区 SE2 掘り方完掘（南東から）

図版 52 1. B 区 SE3 土層断面（東から）
2. B 区 SE3 完掘（東から）
3. A 区 SE4 下部桶出土状態（東から）
4. A 区 SE4 木樋検出状態（西から）
5. C 区 SE5 土層断面（北から）
6. C 区 SE5 検出状態（北から）
7. C 区 SE5 土層断面（北から）
8. C 区 SE5・SE13 土層断面（北から）

図版 53 1. C 区 SE6 土層断面（南西から）
2. D 区 SE7 完掘（東から）
3. F 区 SE9 土層断面（西から）
4. F 区 SE10 土層断面（東から）
5. F 区 SE9・SE10 検出状態（東から）
6. H 区 SE12 土層断面（西から）
7. H 区 SE12 2段目桶検出状態(東から)

図版 54 1. H 区 SE14 検出状態（南から）
2. H 区 SE15 土層断面（北から）
3. I 区 SE16 土層断面（南から）
4. I 区 SE16 完掘（南から）
5. I 区 SE17・SE18 土層断面（南から）
6. I 区 SE17 遺物出土状態（南から）
7. I 区 SE17 側板検出状態（南から）
8. I 区 SE17・SE18 土層断面（南から）

図版 55 1. I 区 SE19 土層断面（西から）
2. I 区 SE19 完掘（西から）
3. I 区 SE19 周辺土坑全景（北から）
4. I 区 SK80 完掘（南から）
5. J 区 SE20 土層断面（南から）
6. J 区 SE20 桶部完掘（南から）
7. J 区 SE20 土層断面（北から）
8. J 区 SE20 全景（北から）

図版 56 1. I 区 SE21 土層断面（西から）
2. I 区 SE21 遺物出土状態（西から）
3. I 区 SE21 中層遺物出土状態（東から）
4. I 区 SE21 全景（南から）
5. I 区 SE22 土層断面（北から）
6. I 区 SE22 調査状況（北から）
7. J 区 SE23 上部完掘（南から）
8. J 区 SE24（左）完掘・SE23（右）土層断面（西から）

図版 57 1. J 区 SE24 上部土層断面（南から）
2. J 区 SE24 上部完掘（南から）
3. J 区 SE23(右)・SE24(左)土層断面(西から)
4. J 区 SE24 完掘（西から）
5. I 区 SE25 上面遺物出土状態（西から）
6. I 区 SE25 上部完掘（西から）
7. I 区 SE25 下部土層断面（西から）
8. I 区 SE25 完掘（西から）

図版 58 1. J 区 SE26 上部土層断面（南から）
2. J 区 SE26 桶部遺物出土状態（南から）
3. J 区 SE26 桶部完掘（南から）
4. J 区 SE27 上部土層断面（南から）
5. J 区 SE27 完掘（東から）

図版 59 1. J 区 SE28 土層断面（南から）
2. J 区 SE28 完掘（南から）
3. J 区 SE29 遺物出土状態（西から）
4. J 区 SE29 土層断面（西から）
5. K 区 SE30 上部完掘（西から）
6. K 区 SE30 最下層遺物出土状態（西から）
7. K 区 SE30 下部土層断面（西から）
8. K 区 SE30 完掘（西から）

図版 60 1. L 区 SE31・SX73 検出状態（北から）
2. L 区 SE31 土層断面（北から）
3. L 区 SE31 完掘（北から）
4. M 区 SE32 完掘（東から）
5. M 区 SE32 桶土層断面（西から）
6. M 区 SE32 桶検出状態（西から）
7. M 区 SE32 桶内焼塩壷・下駄出土状態

（西から）
8. M 区 SE32 土層断面（西から）

図版 61 1. M 区 SE33 土層断面（東から）
2. M 区 SE33 瓦敷検出状態（東から）
3. M 区 SE33 土層断面（北から）
4. M 区 SE33 完掘（東から）
5. M 区 SE34 桶検状態（西から）
6. M 区 SE34 底板検出状態（西から）
7. M 区 SE34 完掘 (底板)（西から）
8. M 区 SE34 掘り方完掘（南から）

図版 62 1. M 区 SE35 土層断面（南西から）
2. M 区 SE35 遺物出土状態（南西から）
3. M 区 SE35 １段目内側完掘（西から）
4. M 区 SE36 土層断面（南から）
5. M 区 SE35 桶検出状態（南から）
6. M 区 SE35 ２段目桶土層断面(西から)
7. L 区 SE37 土層断面（北から）
8. L 区 SE37 完掘（南から）

図版 63 1. M 区 SE38 上部土層断面（北から）
2. M 区 SE38 遺物出土状態（北から）
3. M 区 SE38 完掘（北から）
4. M 区 SE38 下部土層断面（北から）
5. M 区 SE39 上部完掘（東から）
6. M 区 SE39 漆椀出土状態（北東から）
7.M 区 SE39 下部土層断面（北西から）
8. M 区 SE39 完掘（北西から）

図版 64 1. N 区 SE40 土層断面（東から）
2. N 区 SE40 ２段目桶検出状態(東から)
3. N 区 SE40 ３段目検出状態（西から）
4. N 区 SE40 深掘り状況（南から）
5. N 区 SE41 土層断面（南から）
6. N 区 SE41 銭貨出土状態（南から）
7. N 区 SE41 完掘（北から）
8. N 区 SE41 深堀り土層断面（南から）

図版 65 1. N 区 SE43 土層断面（南東から）
2. N 区 SE43 完掘（北から）
3. N 区 SX136（井戸）遺物出土状態（東から）
4. N 区 SX136（井戸）完掘（東から）
5. N 区 SX136（井戸）（左）・SE43（右）掘り方（東から）
6. N 区 SE45 土層断面（南から）
7. N 区 SE45 完掘（南から）
8. N 区 SX149（井戸）１段目・２段目（南東から）

図版 66 1. J 区 SX50 焼土検出状態（北から）
2. J 区 SX50・SX51 土層断面（北から）
3. L 区・M 区 SX73 焼土検出状態(西から)
4. L 区 SX73 焼土検出状態（南から）
5. E 区 SP143 土層断面（西から）
6. M 区 SX79 土層断面（東から）
7. L 区 SX84 検出状態（北から）
8. L 区 SX84 土層断面（東から）

図版 67 1. N 区 SX110 全景（南から）
2. N 区 SX110 焼土・遺物出土状態（南から）
3. N 区 SX110 西壁中央瓦出土状態（東から）
4. N 区 SX110 土層断面（東から）
5. N 区 SX116 円形焼土検出状態(東から)

図版 68 1. K 区 SK114 遺物出土状態（南から）
2. K 区 SK114 土器皿出土状態（西から）
3. K 区 SK114 土層断面（西から）
4. K 区 SK114 完掘（南から）
5. N 区 SX126 下層・SX137・SX139 土器皿等出土状態（東から）

図版 69 1. N 区 SX126 下層土器皿出土状態（南から）
2. N 区 SX137 土器皿出土状態（東から）
3. N 区 SX139 土器皿出土状態（東から）
4. N 区 SX152 土器皿出土状態（北から）
5. B 区 SK1 検出状態（西から）
6. B 区 SK1 土層断面（北から）
7. B 区 SK1 遺物出土状態（北から）

8. B 区 SK1 完掘（西から）

図版 70 1. M 区 SX91 漆喰堆積状態（南から）
2. M 区 SX91 遺物出土状態（南から）
3. M 区 SX91 遺物出土状態（東から）
4. M 区 SX91 土層断面（南から）
5. M 区 SX91 完掘（南から）

図版 71 1. N 区 SX112 遺物出土状態（東から）
2. N 区 SX112 完掘（北から）
3. N 区 SX119 検出状態（北から）
4. N 区 SX125 漆喰検出状態（北東から）
5. N 区 SX128 骨・瓦出土状態（東から）
6. N 区 SX128 土層断面（南から）
7. N 区 SX128 遺物出土状態（東から）
8. N 区 SX128 完掘（南から）

図版 72 1. A 区 SK7 木材出土状態（東から）
2. A 区 SK7 木材出土状態（西から）
3. A 区 SK7 完掘（北から）
4. F 区 SK60 木材出土状態（南から）
5. F 区 SK60 土層断面（南から）
6. F 区 SK60 下層木材出土状態（西から）
7. F 区 SK60 下層木材出土状態（西から）
8. F 区 SK60 完掘（西から）

図版 73 1. H 区 SK68 土層断面（南から）
2. H 区 SK68 完掘（南から）
3. H 区 SK68・SK70 周辺状況全景（南西から）
4. H 区 SK70 土層断面（東から）
5. H 区 SK70 完掘（東から）

図版 74 1. N 区 SX126 北壁土層断面（南から）
2. N区SX126下層木材出土状態(南から)
3. N 区 SX137 木材出土状態（北から）
4. N 区 SX137 遺物・薄皮状木製品等出土状態（北から）
5. N 区 SX137 木製品・木材出土状態（南から）

図版 75 1. E 区 SK36 土層断面（南から）
2. E 区 SK37 土層断面（南から）
3. E 区 SK47 東壁土層断面（西から）
4. E 区 SK47 完掘（東から）
5. F 区 SK61 土層断面（東から）
6. F 区 SK61 完掘（東から）
7. G 区 SK67A 検出状態（南西から）
8. G 区 SK67A 土層断面（東から）

図版 76 1. A 区 SX7 土層断面（南から）
2. A 区 SX7 完掘（北から）
3. I 区 SX31 遺物出土状態（南から）
4. I 区 SX31 上部完掘（南から）
5. I 区 SX31 遺物出土状態（南から）
6. I 区 SX39 遺物出土状態（東から）
7. I 区 SX39 土層断面（東から）
8. I 区 SX39 完掘（東から）

図版 77 1. J 区 SX68 土層断面（南から）
2. J 区 SX68 完掘（西から）
3. J 区 SX69 土層断面（南から）
4. J 区 SX69 完掘（北から）
5. J 区 SX69 完掘（西から）

図版 78 1. N 区 SX114 瓦出土状態（西から）
2. N 区 SX120 遺物出土状態（東から）
3. N 区 SX120 土層断面（南から）
4. N 区 SX106 検出状態（東から）
5. N 区 SX121 検出状態（東から）

図版 79 1. N 区 SX124 土層断面（東から）
2. N 区 SX126・SX127(瓦) 出土状態（南から）
3. N 区 SX126 上部土層断面（南から）
4. N 区 SX126 東壁全景（南から）
5. N 区 SX126 瓦と土器皿出土状態（北から）

図版 80 1. N 区 SX129 土層断面（南から）
2. N 区 SX129 完掘（東から）
3. N 区江戸面遺構検出状態 SX130 他(東から)
4. N 区 SX132 東側プラン検出状態（北から）

5. N区SX132東壁・SX134土層断面(南から)

図版 81 1. I区 SK100 土層断面（南から）
2. I区 SK100 完掘（東から）
3. I区 SK97 土層断面（南から）
4. I区 SP316 土層断面（南から）
5. A区 SX3 北側貝堆積状態（東から）

図版 82 1. J区 SX14 検出状態（南から）
2. J区 SX14 骨出土状態（東から）
3. J区 SX14 土層断面（南から）
4. J区 SX62 土層断面（西から）
5. J区 SX14 完掘（南から）

図版 83 1. J区 SX34 検出状態（東から）
2. J区 SX34 土層断面（東から）
3. J区 SX34 土層断面（東から）
4. J区 SX37 検出状態（東から）
5. I区 SX38 検出状態（東から）
6. I区 SX41 検出状態（南から）
7. I区 SX42 検出状態（東から）
8. I区 SX42 土層断面（南から）

図版 84 1. I区 SX43 検出状態（西から）
2. I区 SX44 検出状態（南から）
3. I区 SX45 骨・貝出土状態（西から）
4. I区 SX46 検出状態（東から）
5. J区 SX48 検出状態（南東から）
6. J区 SX48 土層断面（北西から）
7. J区 SX49 検出状態（南から）
8. J区 SX49 上部土層断面（北東から）

図版 85 1. M区 SX81 土層断面（西から）
2. L区 SX89 検出状態（北から）
3. L区 SX89 土層断面（北から）
4. M区 SX92 検出状態（南から）
5. M区 SX92 土層断面（北から）
6. M区 SX92 完掘（西から）
7. M区 SX93 検出状態（南から）
8. M区 SX93 完掘（東から）

図版 86 1. M区 SX94 完掘（南東から）
2. M区 SX94 種子出土状態（北から）
3. M区 SX95 検出状態（北から）
4. M区 SX95 土層断面（南東から）
5. M区 SX96 検出状態（東から）

図版 87 1. M区 SX96 貝層サンプリング状況
2. M区 SX96 貝層サンプリング状況
3. M区 SX96 土層断面（南東から）
4. M区 SX96 完掘（南東から）
5. M区 SX96 遺物出土状態（西から）
6. M区 SX97 検出状態（東から）
7. M区 SX97 遺物出土状態（東から）
8. M区 SX97 土層断面（南東から）

図版 88 1. C区 SK30A 上部土層断面（西から）
2. C区 SK30A 土層断面（西から）
3. C区 SK30B 桶検出状態（南から）
4. C区 SK30B 完掘（北から）
5. I区 SM1 検出状態（西から）
6. I区 SM1 遺物出土状態（南から）
7. I区SM1第2面金箔土器出土状態(南から)
8. I区 SM1 全景（南から）

図版 89 1. K区全景（南西から）
2. K区 SM2 土層断面（西から）
3. K区 SM2 遺物出土状態（南から）
4. K区 SM2 完掘（東から）
5. K区SM3(左)・SK114(右)土層断面(南から)
6. K区 SM3 遺物出土状態（西から）
7. K区 SM3 遺物出土状態（南から）
8. K区 SM3 完掘（南から）

図版 90 1. K区 SM4 土層断面（西から）
2. K区SM4(右)・SK117(左)完掘(西から)
3. J区 SX70 土層断面（北から）
4. J区 SX70 完掘（北から）
5. F区 SX21 遺物出土状態（西から）

図版 91 1. N区 SM6 完掘（北から）
2. N区 SM6 土層断面（南から）
3. N区 SM6 下部トレンチ土層断面（南東から）

4. N 区 SX127 土層断面（北から）
5. N 区 SX127 完掘（西から）

図版 92 1. B 区 SK21 土層断面（北から）
2. B 区 SK21 完掘（北から）
3. B 区 SK22 土層断面（北から）
4. C 区 SK25 土層断面（北から）
5. C 区 SK29 完掘（東から）
6. E 区 SK40 土層断面（南から）
7. D 区 SK35 土層断面（西から）
8. D 区 SK35 完掘（西から）

図版 93 1. F 区 SK53 礫出土状態（南から）
2. F 区 SK53 土層断面（南から）
3. F 区 SK54 検出状態（北から）
4. F 区 SK58 完掘（北から）
5. F 区 SK55 土層断面（東から）
6. F 区 SK55 完掘（南から）
7. F 区 SK63 土層断面（南から）
8. F 区 SK63 完掘（西から）

図版 94 1. F 区 SK64 土層断面（南から）
2. F 区 SK64 完掘（西から）
3. H 区 SK72 土層断面（南から）
4. H 区 SK73（右）・SP229（左）土層断面（東から）
5. I 区 SK77 完掘（南から）
6. I 区 SK77 遺物出土状態（北から）
7. I 区 SK99 土層断面（南から）
8. I 区 SK99 完掘（南から）

図版 95 1. J 区 SK90 完掘（南から）
2. J 区 SK105 土層断面（南から）
3. I 区 SK103 土層断面（南から）
4. I 区 SK103 完掘（南から）
5. I 区 SK104 土層断面（南から）
6. I 区 SK104 完掘（南から）
7. I 区 SK108 土層断面（東から）
8. I 区 SK108 完掘（東から）

図版 96 1. K 区 SX113 土層断面（南から）
2. K 区 SK113 完掘（北東から）
3. K 区 SK117 完掘（西から）
4. E 区 SX18 調査状況（南から）
5. E 区 SX18 土層断面（南から）

図版 97 1. N 区 SX127 土層断面（南から）
2. N 区 SK138 完掘（南から）
3. N 区 SK140 完掘（東から）
4. N 区 SK140（左）・SX124（右）土層断面（東から）
5. N 区 SK141 土層断面（南から）
6. N 区 SK141 完掘（南から）
7. N 区 SK143 土層断面（東から）
8. N 区 SK147 完掘（西から）

図版 98 1. N 区 SK150 土層断面（南から）
2. N 区 SK150(左)・SK152(右)完掘(西から)
3. N 区 SK153 土層断面（東から）
4. N 区 SK153 完掘（東から）
5. N 区 SK158 完掘（南から）
6. N 区 SK161 土層断面（東から）
7. N 区 SK162 土層断面（北から）
8. N 区 SK163 完掘（南から）

図版 99 1. A 区 SP5（右）・SP6（左）土層断面（東から）
2. A 区 SP5（右）・SP6（左）完掘（西から）
3. A 区 SP28(右)・SP30(左)土層断面(西から)
4. B 区 SP62 土層断面（南から）
5. C 区 SP71 土層断面（南から）
6. C 区 SP71(右)・SP84(左)完掘(北から)
7. C 区 SP74 土層断面（北から）
8. C 区 SP74(左)・SP82(右)完掘(東から)

図版 100 1. F 区 SP170 土層断面（南から）
2. F 区 SP170 完掘（南から）
3. F 区 SP171 土層断面（西から）
4. F 区 SP183（左）・SP184（右）土層断面（南から）
5. F 区 SP183(左)・SP184(右)完掘(南から)
6. F 区 SP190 土層断面（南から）
7. F 区 SP190 完掘（南から）

図版 101 1. F 区 SP194 土層断面（南から）

2. F 区 SP194 完掘（西から）
3. F 区 SP197 土層断面（南から）
4. H 区 SP207 土層断面（北から）
5. H 区 SP206 土層断面（東から）
6. H 区 SP206 完掘（東から）
7. H 区 SP208 土層断面（東から）
8. H 区 SP208 完掘（東から）
図版 102 1. J 区 SP256 土層断面（南から）
2. J 区 SP256 完掘（南から）
3. J 区 SP257 土層断面（南から）
4. J 区 SP257 完掘（南から）
5. J 区 SP262 土層断面（南から）
6. J 区 SP261（左）・SP262（右）完掘（南から）
7. J 区 SP267 土層断面（南から）
8. J 区 SP267（左）・SP268（右）完掘（東 から）
図版 103 1. I 区 SP282 土層断面（南から）
2. I 区 SP291 完掘（南から）
3. I 区 SP292 土層断面（南から）
4. I 区 SP292 完掘（南から）
5. I 区 SP294 土層断面（南から）
6. I 区 SP295 土層断面（南から）
7. J 区 SP333 土層断面（南から）
8. J 区 SP334 土層断面（南から）
図版 104 1. J 区 SP336 礫出土状態（南から）
2. J 区 SP338 礫出土状態（東から）
3. J 区 SP361 土層断面（南から）
4. J 区 SP361 完掘（南から）
5. J 区 SP364 瓦出土状態（南から）
6. J 区 SP368 遺物出土状態（南から）
7. J 区 SP370 土層断面（西から）
8. J 区 SP370 完掘（東から）
図版 105 1. J 区 SP372 土層断面（東から）
2. J 区 SP372 完掘（東から）
3. K 区 SP382 土層断面（西から）
4. K 区 SP382 完掘（西から）
5. K 区 SP383 土層断面（南から）
6. J 区 SP390 完掘（西から）
7. J 区 SP392 遺物出土状態（西から）
8. J 区 SP392 完掘（西から）
図版 106 1. N 区 SP449 完掘（東から）
2. N 区 SP455 土層断面（東から）
3. N 区 SP452（左）・SP453（右）土層断面（北から）
4. N 区 SP452（左）・SP453（右）完掘（北から）
5. N 区 SP455 完掘（南から）
6. N 区 SP456 完掘（南から）
7. N 区 SP458 完掘（南から）
8. N 区 SP462 土層断面（北から）
図版 107 1. N 区 SP463 完掘（東から）
2. N 区 SP467（右）・SP468（左）土層断面（南から）
3. N 区 SP469（左）・SP470（右）土層断面（東から）
4. N 区 SP475 土層断面（東から）
5. N 区 SP477 土層断面（東から）
6. N 区 SP479 土層断面（北から）
7. N 区 SP478 土層断面（北東から）
8. N 区 SP478 完掘（南から）
図版 108　縄文～古代の出土遺物（１）
図版 109　縄文～古代の出土遺物（２）
図版 110　縄文～古代の出土遺物（３）
図版 111　縄文～古代の出土遺物（４）
図版 112　縄文～古代の出土遺物（５）
図版 113　縄文～古代の出土遺物（６）
図版 114　縄文～古代の出土遺物（７）
図版 115　縄文～古代の出土遺物（８）
図版 116　縄文～古代の出土遺物（９）
図版 117　縄文～古代の出土遺物（10）
図版 118　縄文～古代の出土遺物（11）
図版 119　縄文～古代の出土遺物（12）
図版 120　縄文～古代の出土遺物（13）

Ⅰ　発掘調査の概要

1　調査に至る経緯

港区圓福寺跡遺跡（港区 No.212 遺跡）は、現在、愛宕神社が所在する愛宕山の東麓に位置する。当地点は独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部（以下、UR 都市機構）の計画した（仮称）愛宕山周辺地区（F・G 地区）市街地再開発事業の用地に当たることから、平成 31 年２月 22 日付で、同法人から港区教育委員会に対して、埋蔵文化財の有無およびその取り扱いについて照会がなされた。

港区教育委員会は港区埋蔵文化財取扱要綱第３条第１項（３）に基づき、埋蔵文化財存否確認調査が必要であるとの結論から、平成 31 年３月 28 日付で、UR 都市機構に対して、試掘調査が必要な旨、回答した（30 港教教文第 1442 号）。試掘調査は港区教育委員会の指導の下、令和元年７月 22 日から同年７月 26 日かけて実施され、その結果、近世の遺構と遺物が検出された。試掘調査の結果を受け、港区教育委員会は、令和元年 ９月 12 日付で、UR 都市機構に対して、事業地内に埋蔵文化財が残存している旨及びその残存範囲を報告した（31 港教教文第 750 号）。なお、この報告で示した埋蔵文化財の残存範囲については、後日、『諸宗作事図帳』の検討に基づき、港区教育委員会から、令和元年 12 月 25 日付で、UR 都市機構に対して、埋蔵文化財の残存範囲が広がったため、調査範囲を広げるように報告している（31 港教教文第 1046 号）。

以上の経過をもって、令和２年７月 15 日付で独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部長、東京都教育委員会教育長、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（現公益財団法人東京都教育支援機構）理事長の三者によって、「（仮称）愛宕山周辺地区（F・G 地区）市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財（圓福寺跡遺跡）発掘調査に関する協定書」が締結された。この協定書に基づき、令和２年７月 31 日付で独立行政法人都市再生機構東日本都市再生本部と公益財団法人東京都スポーツ文化事業団（現公益財団法人東京都教育支援機構）東京都埋蔵文化財センターは令和２年度の委託契約を締結、その後、準備工を経て、令和２年 12 月 21 日から掘削を伴う本格的な発掘作業を開始した。なお、今回の三者協定については、埋蔵文化財発掘調査を進める過程で、再開発事業計画の進捗や埋蔵文化財の残存状況等に伴い調査対象面積追加の必要性が生じた場合は、あらためて三者協議を行い、結果として４回の変更協定（令和３年 10 月５日付、令和４年 12 月 14 日付、令和６年３月 27 日付、令和７年１月 24 日付）を行っている。（内野）

2　調査の方法

発掘調査は先ず安全管理等に関わる準備工から開始した。令和２年 10 月 19 日に万能鋼鈑資材を搬入、29 日にはゲートを含む万能鋼鈑設置を完了した。準備工の後、本格的な発掘調査は令和２年 12 月 21 日より開始した。調査区の設定に関しては、国土地理院の公共座標を基準に、１辺５ｍのグリッドを設定し、南西端を基点に東西軸は算用数字、南北軸はアルファベット軸で表記した。

調査の方法としては、コンクリート基礎、アスファルト舗装、盛土、撹乱土、表土の掘削については重機を主体に掘削したが、コンクリート基礎については、ワイヤーソーやコンクリート圧砕機を使

用して解体除去した。遺物包含層掘削については人力掘削で行ない、遺構面精査、遺構調査等についても人力で行った。遺構の検出は鋤簾等を使用し丁寧に行い、土層堆積の確認のためのセクションベルトを設定し、半掘または四分割して記録を取りながら調査を進めた。遺構密度が高く、切り合い関係が分かり難い場合には、長いセクションベルトを通しで設定し、土層確認・切り合い関係確認を行い、新しいものから調査した。調査終了後、区画ごとに東京都教育委員会及び施行者と終了確認を実施し、その後、重機主体で埋戻しを行った。検出された遺構については、遺構実測支援ソフトウェアや写真測量ソフトウェアを用いた測量調査を適宜行った。またセクション図に関しては基本的に 1/20 で作成し、必要に応じて 1/10 で作成した。写真撮影はデジタルカメラでの撮影をメインとし、必要に応じて 35㎜一眼レフカメラによるモノクロ及びカラースライドフィルム撮影を実施した。

なお発掘調査については、東京都教育委員会の指導を受けながら実施した。発掘調査期間中は、ほぼ月 1 回の割合で、UR 都市機構、東京都教育庁地域教育支援部管理課、港区教育委員会事務局教育推進部図書文化財課、東京都埋蔵文化財センターで定例会議を行ない、進捗状況の報告・問題点の共有・協議等を行った。（金持）

3　調査の経過

令和 2 年度調査

A 区（434㎡）、B 区（160㎡）の調査を実施した。

A 区の調査は令和 2 年 12 月 21 日から令和 3 年 3 月 24 日まで実施した。A 区は当初発掘調査対象外になっていたが、圓福寺中門が配置されていた箇所に該当するため、11 月 27 日に遺構確認調査を実施し、東京都教育委員会、港区教育委員会、UR 都市機構の 3 者により協議の結果、本調査の対象となった経緯がある。調査の結果、中門跡と想定される礎石は特に検出されなかったが、南東側で南北方向の対の礎石が検出された。その東側には井戸（SE2）が、その南東側では木組遺構（SX5）が検出された。A 区南西側からも井戸（SE1）が検出され、調査の結果、多量の瓦で充填されていることが判明した。

B 区は汚染土範囲に該当したが、遺構が残存していることが判明したため、令和 3 年 1 月初頭より調査を開始した。建物基礎等の石組遺構、胞衣皿埋納遺構、瓦溜り等、近世及び近世以降の遺構が多く、調査は令和 3 年度まで継続となった。

令和 3 年度調査

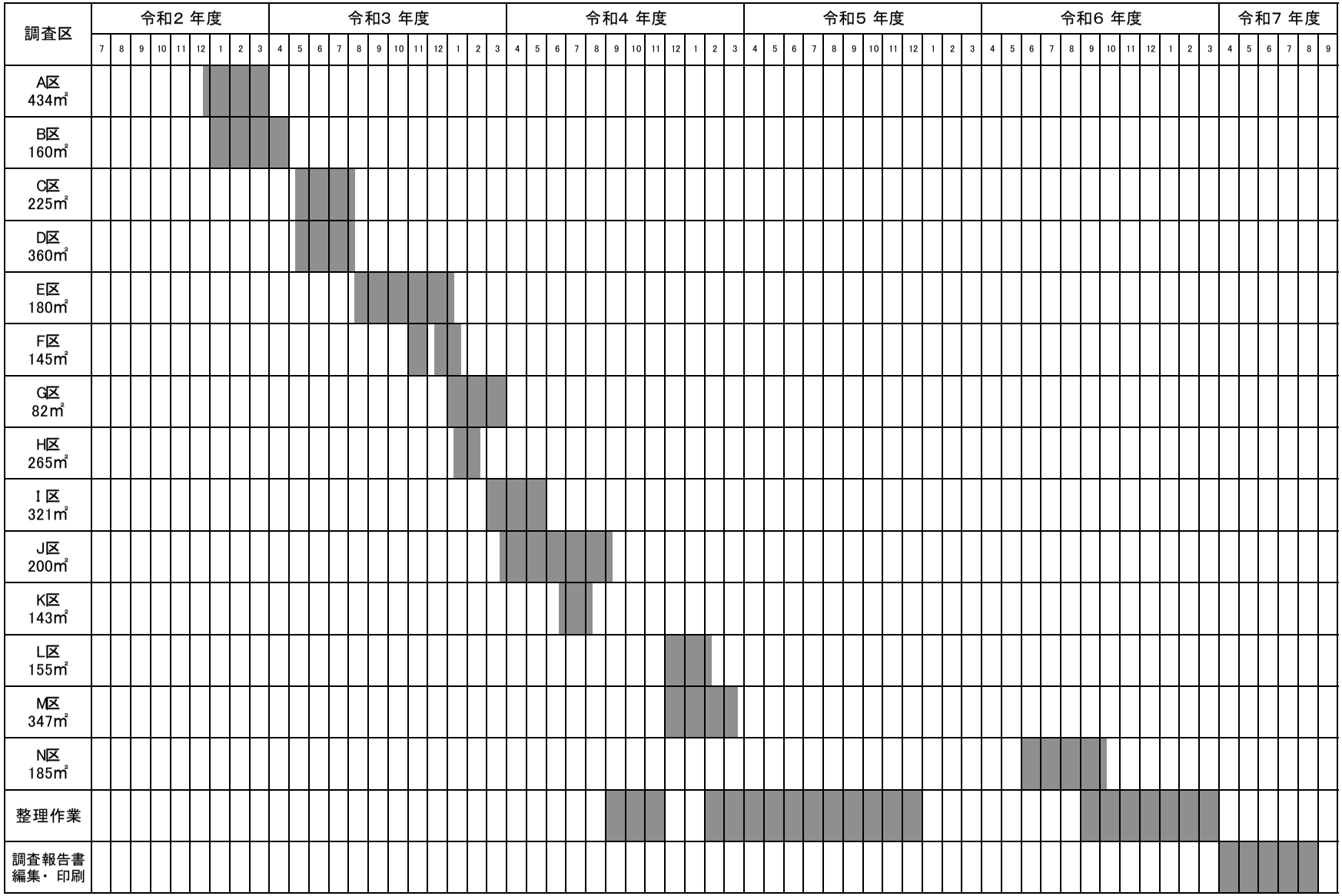
前年度からの継続である B 区の他、C 区（225㎡）、D 区（360㎡）、E 区（180㎡）、F 区（145㎡）、G 区（82㎡）、H 区（265㎡）、I 区（321㎡）の調査を実施した。

B 区は溝（SD1・SD2 等）の調査を実施し、令和 3 年 4 月 23 日に終了した。調査地下層からは縄文土器が出土したため、検出地点を記録し、採り上げた。

C 区と D 区の調査は令和 3 年 5 月 14 日から同年 8 月 5 日まで併行して実施した。C 区では規則的に配された礎石建物基礎、ピット、井戸、土坑等が検出され、特に土坑（SK28）の時代は縄文時代後期と考えられる。また、遺物として、土師器、管状土錘、縄文土器等が出土した。D 区は既存の土間コン撤去後、表土掘削を行い、礎石群、ピット列、井戸、木組遺構、土坑、ピット等が検出された。

E 区の調査は令和 3 年 8 月 17 日から令和 4 年 1 月 7 日まで実施した。池跡、井戸、土坑、礎石列、

第1 表　発掘調査と 整理作業の経過



ピット等が検出された。また、中近世と考えられる動物骨と貝堆積が同一面で検出された（SX19）。その下方からは楕円形大型土坑（SX22）が検出され、中世の土器と石器が出土した。また「文明六年」（1474 年）の年号が刻まれた板碑も出土した。

F 区の調査は令和 3 年 11 月 2 日から令和 4 年 1 月 20 日まで実施した。木杭列、井戸、土坑、ピットが検出された。木材廃棄遺構（SK60）からは木材とともに陶磁器、土器、瓦が多量に出土した。

G 区の調査は令和 4 年 1 月 5 日から同年 3 月 31 日まで実施した。礎石列、礫集中遺構、溝、土坑、ピットが検出された。

H 区の調査は令和 4 年 1 月 19 日から同年 2 月 18 日まで実施した。北側からは、礎石、井戸、土坑、ピットが検出され、南側からは芥溜りや井戸、溝、埋甕が検出された。芥溜り（SX23）からは、多量の木製品が出土した。

I 区の調査は令和 4 年 3 月 1 日から開始し、令和 4 年度に継続した。近代のコンクリート基礎内に近世の整地土が良好に残存している状況が確認された。

令和 4 年度調査

前年度からの継続である I 区の他、J 区（200㎡）、K 区（143㎡）、L 区（155㎡）、M 区（347㎡）の調査及び二次整理作業を実施した。

I 区の調査は 5 月 30 日まで実施した。遺構の残存状況は比較的良好で、近世では井戸・土坑・ピット・貝堆積遺構等が検出され、遺物も 17 世紀代の陶磁器や土器皿がまとまって出土した。5 月 10 日には I 区を中心とした区域を対象に、高所作業車から写真撮影を実施した。5 月後半からは灰色シルト層（D 層）で確認された南北方向の溝の調査を実施した。溝からは須恵器や土師器が出土したため、古墳時代以降の遺構と判断した。

J 区の調査は前年度末（3 月 28 日）から着手し、令和 4 年 9 月 7 日まで実施した。地鎮遺構、広域焼土跡下の礎石建物跡・瓦敷遺構・石組遺構、井戸、貝堆積遺構等が検出された。遺存状態の良好な遺構が多かったことから、作業の効率化を図るため、必要に応じてメタシェイプ写真測量を実施した。地鎮遺構は慎重な調査を要するため、土層観察用の土層を十字に設け、掘削を開始した。掘り下げるにしたがい、中央の宝瓶の周りの土器皿群の遺存状態が良好であることが確認され、礎石建物跡も調査の結果、新古 2 時期の変遷過程があることが判明した。

K 区の調査は令和 4 年 6 月 22 日から同年 8 月 3 日まで実施した。K 区の北側からは 17 世紀代の井戸や大形の土坑が検出され、井戸からは陶器碗・皿や木製品等が多く出土した。

L 区、M 区の調査は令和 4 年 12 月 1 日から開始し、L 区は令和 5 年 2 月 1 日に、M 区は同年 3 月 17 日に終了した。L 区では広域に堆積した焼土とともに江戸時代の遺構と遺物が検出された。M 区では井戸や貝堆積遺構等、近世の遺構が検出され、さらにそれらの遺構の下位で確認された灰色粘土層を掘り下げたところ、縄文時代と考えられる長さ約 4 mの大形木材の入った遺構が検出された。

令和 4 年度は発掘調査の工期との関係から、屋内での整理作業を令和 4 年 9 月から同年 11 月、令和 5 年 2 月から同年 3 月までの期間で実施した。作業内容は主に遺構については、測量データ、デジカメ現場写真等の整理作業、遺物については陶磁器・土器類、瓦類の分類・接合を行い、さらに調査報告書掲載に向けて資料の抽出を行った。なお、多量に出土した瓦類については、分類・接合以前に、保存資料と廃棄資料の選別を行っている。

令和５年度調査

調査区の作業としては、前年度から引続きＭ区の埋戻しのみで、主な作業としては前年度までに調査が終了したＡからＭ区の整理作業を実施した。

４月からの整理作業は先ず、Ａ区の遺物の接合作業、実測遺物選択を実施した。さらに陶磁器接合、遺物トレース作業、拓本、遺構写真選択作業を開始した。５月からは近世陶磁器の実測用写真撮影を開始し、６月からはＢ区・Ｃ区の陶磁器接合を開始した。７月半ばからは銭貨等のさび落とし作業を開始した。８月後半からは軽石製品や管状土錘の整理に入った。８月末からは瓦の接合、データ抽出、台帳記入及び、金属製品の台帳記入、保管袋への入れ替え作業を開始した。また、軽石等の実測、ガラス製品の分類等も開始した。10 月からは陶磁器、金属製品・石製品の実測及び拓本とトレース図を合せ、レイアウトする作業を開始した。10 月半ばからはＡ区～Ｍ区までの瓦の接合と遺構写真の確認を終了した。Ａ区～Ｍ区までの調査報告書掲載用に抽出した写真については仮版組を行った。11 月は瓦の実測、遺物実測用写真撮影、遺物図版レイアウト作業、遺構図版の確認・修正作業等を実施した。11 月半ばにはＡ区～Ｍ区までの瓦実測遺物の選択を終了、木製品の調査報告書掲載分選択作業を実施した。12 月は瓦及び木製品の写真撮影、銭貨の拓本作成、瓦・木製品のトレース作業を実施した。12 月 26 日には遺構図版の仮印刷を実施した。

令和６年１月以降はＮ区の調査が開始される令和６年６月まで、事務所内の図面、写真等の記録類、遺物類の保全管理を行った。

令和６年度の調査

前年度に引続き、４月から５月にかけて事務所内で記録類、遺物類の保全管理を行い、６月以降はＮ区の発掘調査及びその整理作業を行った。

Ｎ区の調査面積は 185㎡で、令和６年６月５日から同年 10 月７日まで実施した。

Ｎ区内には既存のコンクリート基礎が残っていたため、それらの撤去を行った後、調査を本格的に開始した。随所に近代以降の攪乱が入っていたが、撹乱土の除去を慎重に行い、遺構確認を進めたところ、調査区西側の所々で広域焼土層が、さらに礎石や瓦溜り、井戸等が調査区全面で検出された。井戸の検出面上に土器皿が配置されたと考えられる遺構も検出されたため、出土状況の微細図を作成して取り上げている。調査が進むにしたがって、木組の地下室や獣骨埋納遺構、瓦溜りも検出された。瓦溜りの下位からは、大形の礎石を２列配列した礎石建物跡が検出され、絵図史料との照合から圓福寺の「護摩堂」に関連する可能性が高いと判断されたため、実測・写真撮影を慎重に行った。また、蓋付の小甕を埋設した遺構が検出され（SX140）、甕内に液体と沈殿物の存在が認められたため、沈殿物ごと取上げ、後日、分析を行った。当初の想定より、検出された遺構の数が多く、また、出土瓦の数量も甚大であったが、調査は当初予定していた期間内で終了した。

Ｎ区の調査成果に係る整理作業は令和５年度までのＡ区からＭ区までの調査成果と合わせ、東京都埋蔵文化財センター大塚分室において令和７年３月まで実施した。

遺物及び図面等記録類の港区教育委員会への移管は令和７年３月 19 日に行っている。

調査報告書の編集作業は令和６年度末から同７年度４月にかけて行い、今回の刊行に至っている。（内野・金持）

Ⅱ　遺跡の位置と環境

1　地理的環境

東京都港区は、西側の高台（武蔵野台地）と東側の低地（海岸低地）に大別できる。遺跡は武蔵野台地東端の淀橋台の東端部に位置する。淀橋台は西から赤坂台地、麻布台地、板倉台地と呼称され、遺跡は愛宕山を直近で見上げる位置にある。見上げる先は台地であるが、調査地の地盤は砂堆積であり、低地ということができよう。しかしながらこの砂層の上に、砂礫層、灰色のシルト層、遺物を包含する黒色土、褐色を呈する盛土（整地層）と思われる土層が堆積していた。そこに江戸時代を主体とする遺構群が構築されていたことから、低地及び斜面地と区分することができようか。調査地は西から東に傾斜する斜面地にあり、国道に接している（第 1 図・第 2 図）。国道から東側は、「愛宕下遺跡群」と呼ばれた地域であり、愛宕下遺跡として大規模な発掘調査が行われている。

また台地には樹脂状に細かい谷が入っている。区の中央部を流れる古川沿いには、谷底低地が所在する。愛宕山を掘り抜いた愛宕隧道は、往時の寺域の範囲内であったものと推定される。江戸以前の海岸線は新橋駅～田町駅の京浜東北線付近にあったものと思われる。田町駅と品川駅の中間に新設された虎ノ門ヒルズ駅にも海岸線に伴う遺構が検出されている。本遺跡の東側には国道 1 号線が配され、交通の大動脈となっている。調査区地は南北にやや長い長方形に近い形状を呈しており、西側の台地から東側の低地に向けに大きく傾斜していた。南北の傾斜については大きな差はなかった。（金持）

2　周辺の遺跡

旧石器時代前期に当たる約 12 万年前は、港区は海に沈んでいた。旧石器時代の遺跡があることから 2 万 7 千年前頃には陸地化したものと考えられる。港区では縄文時代前期頃から人々の活動が盛んになったものと思われ、227 か所の埋蔵文化財包蔵地が確認されている。（第 3 図・第 1 表）

旧石器時代

本遺跡からは旧石器時代の遺物は出土していない。港区内の旧石器時代では、長門萩毛利家屋敷跡遺跡（№９）で、AT 層（約 29,000 年前に堆積か）の下位で、石器ブロックや礫群が検出されている。

縄文時代

本遺跡からは縄文時代晩期と考えられる大形木材出土遺構や縄文時代前期及び後期の円形の土坑が検出され、縄文時代早期から晩期の遺物が出土した。早期、前期、中期までの遺物は少なく、後期及び晩期の土器の出土が多かった。港区内では明確な草創期の遺物の出土はなく、近隣では新宿区百人町三丁目西遺跡で、隆起線文系土器が出土している。区内では汐留遺跡から早期前半撚糸文系土器が、長門萩藩毛利家屋敷跡遺跡では楕円形押型文土器が出土している。縄文時代前期の縄文海進期から人々の活動が活発化する。本遺跡でも土坑の内 1 基が前期前半期に構築された可能性が高い。近江山上藩稲垣家屋敷跡遺跡では住居跡が 1 軒検出されている。長門萩藩毛利家屋敷跡遺跡では、中期後半の竪穴住居跡が、港区三田に所在する伊皿子貝塚では、縄文時代後期の敷石住居跡が検出されているが、住居跡検出例は少ないと言えよう。虎ノ門５丁目に所在する「西久保八幡貝塚（ＴＭ

18）は縄文時代後期の貝塚で、都の史跡となっている。堀之内式～加曽利Ｂ式期を主体とした貝層とその後の晩期の遺物包含層が確認されている。晩期の土器の出土遺跡としては、前述した伊皿子貝塚が挙げられる。

弥生時代

今回の調査では土坑や遺物集中地点が検出され、遺存状態の良い弥生時代の土器が検出されているが、江戸時代の瓦溜りに切られていて遺構及び遺物の全容は不明である。出土した弥生土器はフォルム的には中期後葉の宮ノ台式と共通性が高いものと思われた。ただし折返し口縁上の刺突文のあり方、器壁が極めて薄いことなど相違性も見られた。また出土遺物は小片が多かったが壺形・甕形土器破片900点以上が出土しているが、甕よりも壺破片の割合がかなり高いように思えた。港区内では弥生時代中期中葉から始まって、20箇所以上の弥生時代の遺跡が知られている。台地縁辺部に多くが分布し、亀塚公園遺跡、三田台町遺跡、伊皿子貝塚遺跡、雁木坂上遺跡などが挙げられる。前述した伊皿子貝塚からは、方形周溝墓が２基検出されている。雁木坂上遺跡からは弥生時代後期の住居跡が３軒、陸奥八戸藩南部家屋敷跡遺跡からは弥生時代後期～古墳時代前期の竪穴住居跡４軒が検出されている。

古墳～古代

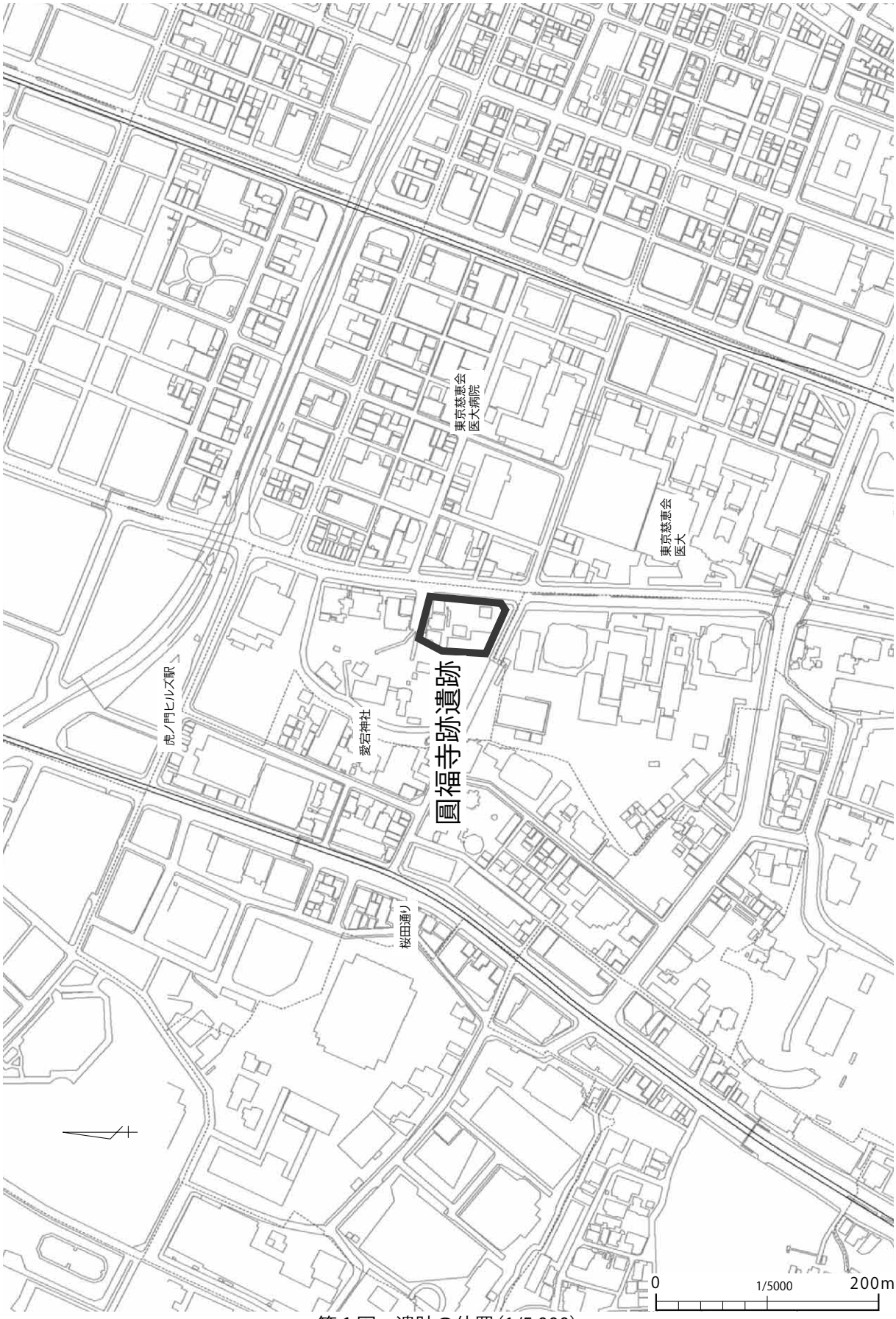
当遺跡では南北に走る溝が数条検出されており、土師器、須恵器等が出土している。また調査区からは古墳時代前期のＳ字状口縁台付甕が出土している。港区の古墳時代の遺跡は芝丸山古墳が著名だが、伊皿子貝塚遺跡からは古墳時代後期の住居跡３軒、平安時代の住居跡が１軒検出されている。奈良・平安時代にも小規模ではあるが竪穴建物跡や土坑が検出されている。遺跡南側の「増上寺子院群―天陽院跡遺跡（TM223）では、古墳時代から古代・中世にかけての遺物が約２千点出土している。

中世

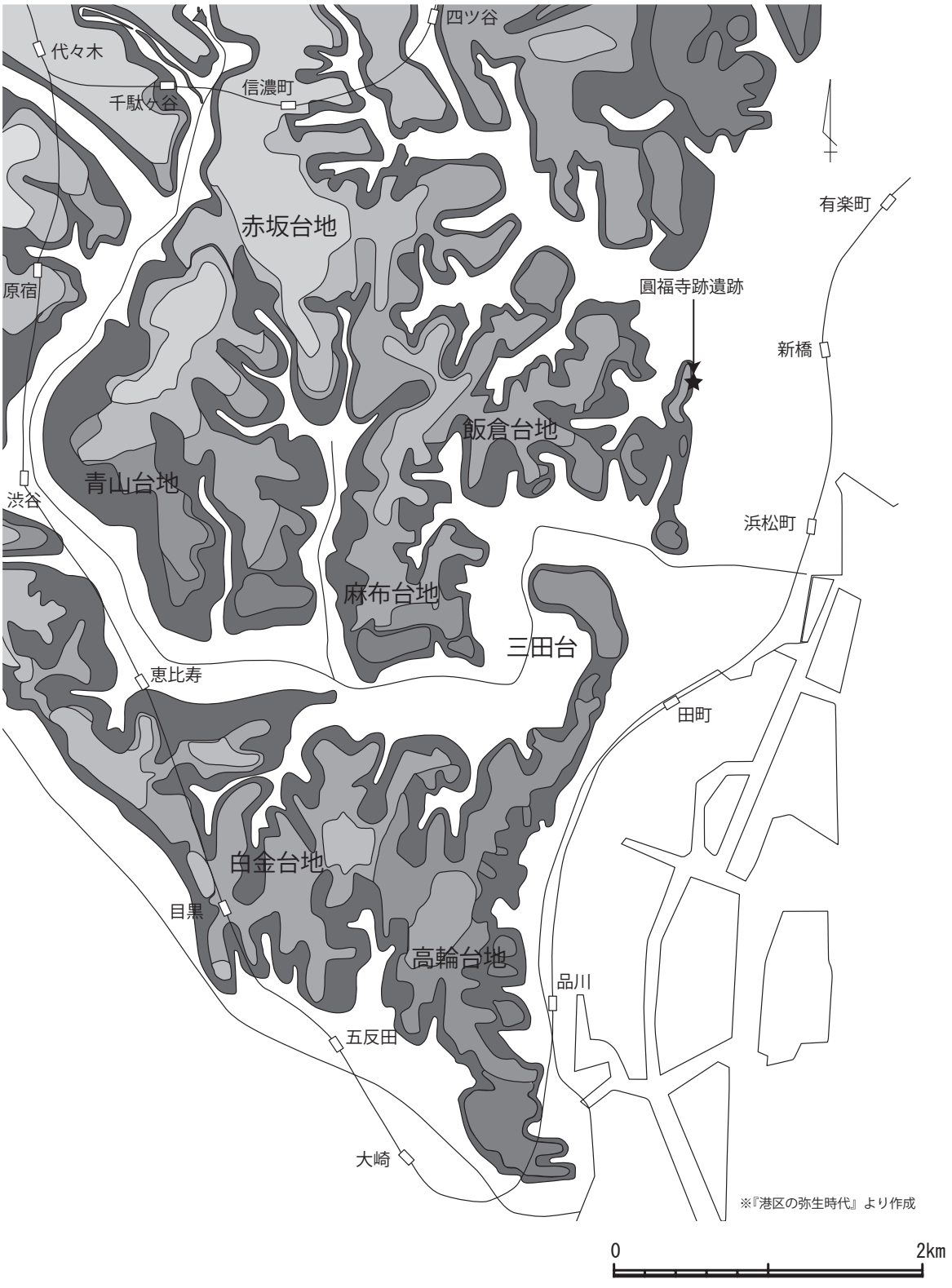
本遺跡からは楕円形大型土坑、獣骨を中心とする骨や貝出土遺構等が検出されている。遺物では南伊勢系鍋、天目茶碗を始めとする陶磁器類と板碑等が検出されている。板碑の内最大のものは、文明六年（1474）の銘があり、注視される。近場の中世の城館としては詳細不明な「西久保城山遺跡（TM15）」と明治時代まで土塁の残っていた「太田道灌城跡（TM17 ）」が登録されている。

近世以降

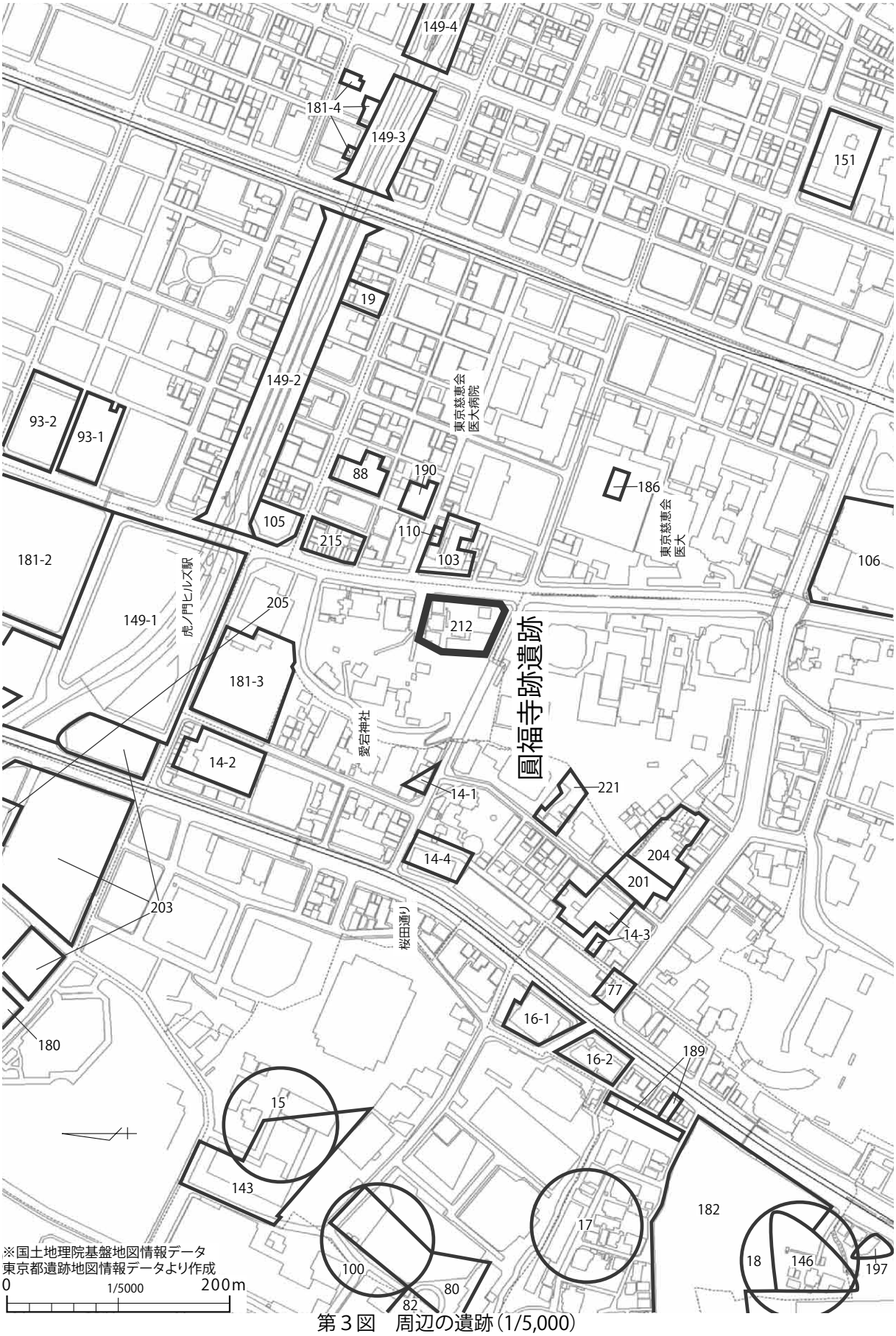
本遺跡の主体をなす時期で、地鎮遺構、多数の礎石建物跡、井戸、芥溜り、瓦溜り、木組遺構、石組遺構等の遺構と多種多様の遺物が検出されている。地鎮遺構は長門萩毛利家屋敷跡遺跡でも検出されており、土地の拝領か普請に伴うものかは不明であるが、大名屋敷に関連する遺構と考えられる。当遺跡の地鎮遺構は社寺の普請に伴うものと位置づけられる。遺跡の東側は「愛宕下遺跡群」で大名屋敷、旗本屋敷等が調査されており、大きな成果を上げている。他に大名屋敷に関わる遺跡としては播磨龍野藩脇坂家遺跡・陸奥仙台藩伊達家・陸奥会津藩保科家屋敷、陸奥八戸藩南部家屋敷跡遺跡、肥前佐賀藩鍋島家屋敷跡遺跡等が挙げられその数は多い。旗本屋敷としては港区№105遺跡（ＴＭ105）や港区№19遺跡（ＴＭ19）が挙げられる。社寺遺跡としては南西側に「天徳寺寺域第３遺跡（TM14 -3）が、南側には「増上寺寺域遺跡群（TM106）」が所在している。埋葬施設や蔵骨器が検出されている。町屋としては「芝神谷町町屋跡遺跡（ＴＭ16）」が挙げられ、江戸時代17世紀前葉から19世紀にいたる造成について明らかにされている。（金持）



第１図　遺跡の位置（1/5,000）



第２図　調査地点と地形図 (1/40,000)



第３図　周辺の遺跡（1/5,000）

第２表　周辺の遺跡一覧

番号	遺構名	所在地	遺跡の概要	時代
212	**圓福寺跡遺跡**	**港区 愛宕一丁目**	**社寺**	**近世**
14-1	天徳寺寺域第1遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世
14-2	天徳寺寺域第2遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世
14-3	天徳寺寺域第3遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺　その他の墓	近世
14-4	天徳寺寺域第4遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世
15	西久保城山遺跡	港区 虎ノ門四丁目	城館	中世
16-1	芝神谷町町屋跡遺跡	港区 虎ノ門五丁目	町屋跡	近世
16-2	芝神谷町町屋跡第2遺跡	港区 虎ノ門五丁目	町屋跡	近世
17	太田道灌城跡	港区 虎ノ門五丁目	城館	中世
18	西久保八幡貝塚	港区 虎ノ門五丁目	貝塚	縄文時代（後期）
19	港区No19遺跡	港区 西新橋二丁目	武家屋敷跡	近世
77	港区No77遺跡	港区 虎ノ門五丁目	町屋跡・道路	近世
80	西久保城山地区武家屋敷跡遺跡	港区 虎ノ門四丁目	武家屋敷跡	近世
82	麻布市兵衛町地区武家屋敷跡遺跡	港区 六本木一丁目	武家屋敷跡	近世
88	越後長岡藩牧野家屋敷跡第1遺跡	港区 西新橋三丁目	武家屋敷跡	近世
93-2	伊勢菰野藩土方家屋敷跡第2遺跡	港区 西新橋二丁目	大名屋敷跡	近世
100	港区№100遺跡	港区 虎ノ門四丁目	包蔵地	縄文時代（前期～後期） 弥生時代 古墳時代 奈良時代 平安時代
103	大和小泉藩片桐家屋敷跡遺跡	港区 西新橋三丁目	大名屋敷跡	近世
105	港区No105遺跡	港区 西新橋二丁目	武家屋敷跡	近世
106	増上寺寺域第一遺跡	港区 芝公園三丁目	社寺	近世
110	越後長岡藩牧野家屋敷跡第2遺跡	港区 西新橋三丁目	大名屋敷跡	近世
143	上野沼田藩土岐家屋敷跡遺跡	港区 虎ノ門四丁目	屋敷	近世
146	西久保八幡神社遺跡	港区 虎ノ門五丁目	社寺	近世
149-1	愛宕下第1遺跡	港区 虎ノ門一丁目	包蔵地・屋敷	縄文時代（中期～後期） 近世
149-2	愛宕下第2遺跡	港区 新橋四丁目	屋敷	近世
149-3	愛宕下第3遺跡	港区 新橋四丁目	屋敷	近世
149-4	愛宕下第4遺跡	港区 新橋四丁目	屋敷	近世
151	港区No151遺跡	港区新橋六丁目	屋敷　礎石溝・土坑	近世
180	肥前佐賀藩鍋島家屋敷跡遺跡	港区 虎ノ門二丁目	屋敷	近世
181-2	愛宕下武家屋敷群-近江水口藩加藤家屋敷跡遺跡	港区 虎ノ門一丁目	屋敷	近世
181-3	愛宕下武家屋敷群-鎧小路南地区遺跡	港区 愛宕一丁目	屋敷	近世
181-4	愛宕下武家屋敷群-睦一関藩田村家屋敷跡遺跡	港区 新橋四丁目	屋敷	近世
182	我善坊谷遺跡	港区 麻布台一丁目	屋敷	近世
186	教善寺寺域遺跡	港区 六本木五丁目	社寺	近世
189	神谷町町屋跡遺跡	港区 虎ノ門五丁目	その他（町屋）	近世
190	越後長岡藩牧野家屋敷跡第３遺跡	港区 西新橋三丁目	屋敷	近世
197	飯倉町一丁目町屋跡遺跡	港区 麻布台一丁目	その他（町屋跡）	近世
201	天徳寺寺域第５遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世
203	西久保地区武家屋敷跡遺跡	港区 虎ノ門一・二丁目	屋敷	近世
204	俊朝寺寺域遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世
205	旗本土方家屋敷跡	港区 虎ノ門二丁目	屋敷	近世
215	越後長岡藩牧野家屋敷跡第4遺跡	港区 西新橋三丁目	屋敷	近世
221	天徳寺寺域第7遺跡	港区 虎ノ門三丁目	社寺	近世

Ⅲ　遺跡の層序

圓福寺跡遺跡の層序

圓福寺跡遺跡の堆積土層は基本的に西から東に大きく、北から南に小さく傾斜して堆積している。本遺跡の層序は以下のとおりである（第５・６図、図版５）。

基盤となるのは砂層である(H 層)。砂層の上には砂礫層(G 層)の存在が確認された場合が多くある。砂礫層の上は灰色シルト層（D 層）の場合とローム層類似層（E 層、F 層）の場合があった。灰色シルト層では古代～縄文時代に帰属する遺構が検出されている。この面で検出される遺構の覆土は黒色あるいは黒褐色を呈している（C 層類似層)。黒色土は上下２層に分離できる場合があり、上層はやや褐色がかっており、江戸時代の遺物の出土を確認できた場合もある。下層からは中世以前の遺物が出土した。特に縄文時代・弥生時代の遺物の出土が目立った（C 層)。C 層の上には、酸化土を多く含む暗褐色土が所在している（B 層)。この面では江戸時代の遺構が数多く検出されている。B 層の上に堆積する盛土的な土層は褐色土を基調とする土層で、水平にいくつかの土層が堆積し、その厚さが１ｍ以上という場合もあった（A 層)。

巻頭写真４は調査地南側 M 区南壁のセクション写真である。これを見ていただくと、上からコンクリート建物基礎、その直下は撹乱を受けているが、焼土（SX73）を含む暗褐色土層、その下が黄褐色土を基調とする約 70㎝の盛土層、その下が褐色を呈する C 層上層、黒色を呈する C 層下層、灰色粘土である D 層が堆積している。この下には G 層（砂礫層）が堆積している。焼土を剥ぐと直下で礎石建物跡が検出された。礎石建物跡はこの盛土上にあり、盛土が江戸時代の古い段階で行われたことを示唆している。

A 層（盛土層）

A 層は場所によって異なるものの、基本的に水平堆積している状態が多かった。盛土層は層厚約 30㎝で、３層堆積している場所もある。基本的に褐色を呈していた。

B 層（酸化土混入層）

茶色の筋状、粒状土の入った土層である。江戸時代の遺構の多くはこの土層面で検出されている。貝を覆土にする遺構の確認面も、この B 層に類似した土であった。この B 層では、江戸時代の遺物を包含している場合が多かった。

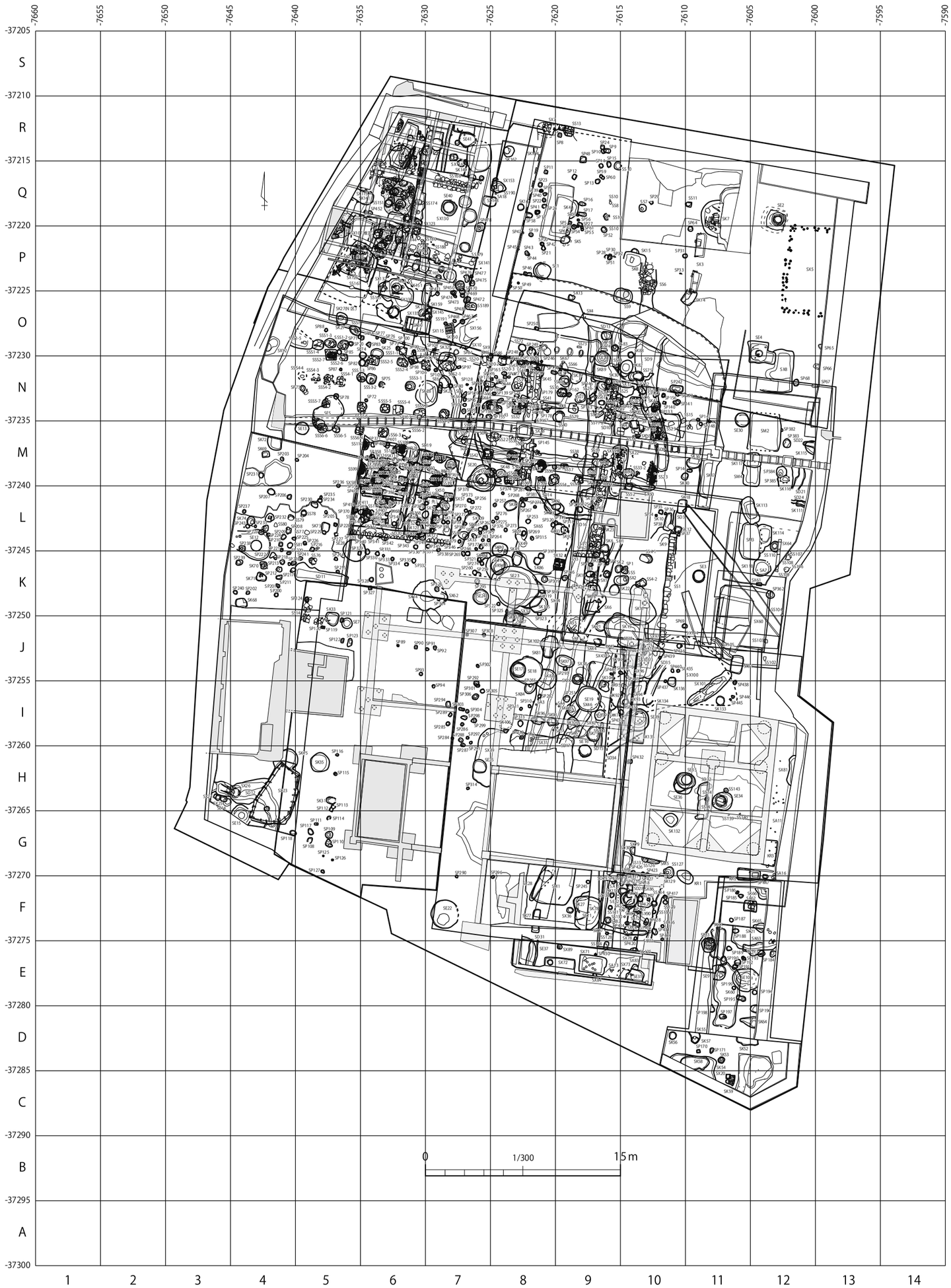
C 層（黒色土層）

基本的に黒色土であるが。大きく２つに分離される。上層には江戸時代の遺物が含まれている場合もあった。下層は黒味を増し、古代以前の遺物の出土が目立った。

Ｃ―１層　　Ｃ－２層よりは黒味が弱く、暗褐色や褐色に近い色調を呈する場合もあった。中近世の遺物が含まれる土層である。

Ｃ－２層　　縄文・弥生土器が含まれる土層。縄文・弥生時代の土坑の覆土は当層に類似した土層である。

D層（シルト層）　灰色を呈する。古代の溝等は当層で検出されている。今回の調査では明確な遺物の包含は認められなかった。溝等の覆土は黒色を呈しており、場合によっては砂層が溝底面に溜ま



第４図　遺構全体図　（1/300）

っている場合もあった。

Ｅ層（褐色筋状土含有層）Ｄ層を基調とし、根状の褐色筋状土が入る土層である。全地域に堆積してはいなかった。

Ｆ層（黄褐色土）上層の褐色土が主体となる土層。一見ローム層に似ている。分布は一部の区域のみに認められた。

Ｇ層（砂礫層）１～２㎝の砂利が多量に含まれる土層である。当層直上で顕著に摩滅した土器が数点出土した。極めて顕著にローリングを受けた遺物である。

Ｈ層（砂層）井戸の掘り込みは当層まで掘り込まれて終了している場合が多かった。砂層に到達した時点でぴったりと終了している井戸も複数認められた。また当層にピット状の穴が見つかり、管のようなものの存在を予想させる場合もあった。砂層である当層に包含された遺物は今回の調査では１点も確認されていない。基盤となる自然堆積層と考えられる。

以下Ａ～Ｆのセクション図ごとに土層堆積について付記しておきたい。

土層断面図　Ａ（Ａ区北壁土層断面図）

調査地中央北端部の東西土層断面図で、層厚 1.2 ｍを測る盛土から砂層まで約３ｍを測った。砂層の上には砂礫層、シルト層、２枚の黒色土層が所在した。またその上には水付のローム層のような土層も認められた。

土層断面図　Ｂ（Ｅ区北壁土層断面図）

調査地中央北寄りの当時土層断面図で、層厚１ｍを測る盛土から砂層まで約３ｍを測った。砂層の上には砂利層、シルト層、２層の黒色土層が所在した。

土層断面図　Ｃ（Ｉ区東壁土層断面図）

調査区南端部の東寄り南北土層断面図で、盛土途中からの図である。砂礫層の上にはシルト層、黒色土層が所在した。セクション図右側は 17 世紀代に廃棄されたと考えられるＳＥ 21(井戸）であり、Ｂ層から掘り込まれていた。

土層断面図　Ｄ（Ｋ区東壁土層断面図）

調査地東端部の南北・東西土層断面図である。盛土途中からの図であり、盛土以下の土層は、ほぼ水平に堆積していた。砂礫層の上には、シルト層、黒色土層が所在した。SD25 および杭もＢ層に類似した２層で検出されている。

土層断面図　Ｅ（Ｍ区南壁土層断面図）

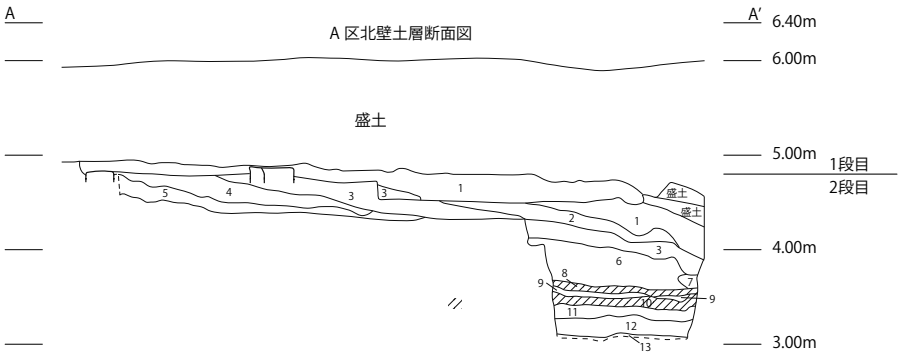
調査地南西端部の東西土層断面図で上部にはコンクリート基礎が所在し、直下には広域焼土跡である SX73 が所在した。このセクション部分は攪乱を大きく受け、記載されたような土層となっていた。この焼土を剥がすと礎石建物跡が検出された。砂礫層の上にはシルト層が、その上には黒色土層が堆積していた。この黒色土は７層で、縄文土器の包含が認められた。またその上の６層は灰黄褐色土を呈していたが、江戸時代の遺物が含まれていることを確認している。

土層断面図　Ｆ（Ｎ区西壁土層断面図）

調査区北東端の南北土層断面図で、上部は大きく撹乱を受けていた。攪乱及び瓦溜り等の遺構の検出頻度が高く、遺構のない土層の堆積を確認するのが難しかった。台地に近い斜面部では砂層が高い位置で見つかり、その上には砂層と粘土層の中間的な土層が認められた。（金持）

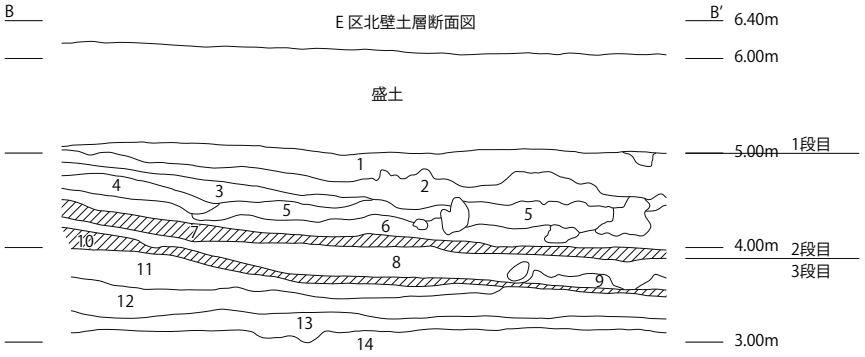


第５図　地区割と層序位置（1/400）



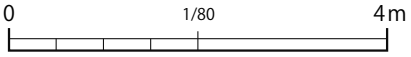
A区北壁

1. 10YR2/3 黒褐色　締まりは有。粘性は有。1～3mmの焼土粒、1～3mm、10mm大の炭を3％ずつ含む。1～5mmの小礫を10％含む。
2. 2.5Y6/3 にぶい黄色　締まりは有。粘性は強い。白色粘性土を含む。部分的に酸化した赤色土を含む。
3. 10YR2/1 黒褐色　締まりは強い。粘性は強い。やや粒質土。1～3mmｵﾚﾝｼﾞ、褐色粒を10％弱含む。
4. 10YR2/2 黒褐色　締まりは強い。粘性は極めて強い。やや粒質土。1～3mmのｵﾚﾝｼﾞ、褐色粒を5％弱含む。
5. 10YR4/4 褐色　締まりは有。粘性は弱い。砂質土。5mm砂岩の小礫を含む。
6. 10YR6/3 にぶい黄橙色　締まりは有。粘性は強い。水付ﾛｰﾑか。10層～11層がﾌﾞﾛｯｸ状に含まれる。
7. 10YR6/4 褐色　締まりは有。粘性は有。やや砂質。2層より締まりは弱く、粘性は強い。
8. 10YR1.7/1 黒色　締まりは有。粘性は強い。植物片を僅かに含む。6.7層とは不整合。
9. 10YR6/3 にぶい黄橙色　締まりは強い。粘性は極めて強い。粘質土。6層に類似する。
10. 10YR2/1 黒色　締まりは強い。粘性は極めて強い。粘質土。9～11層は色相が異なる粘土層。C層相当。
11. 10YR5/1 褐灰色　締まりは強い。粘性は極めて強い。粘質土。D層相当。
12. 5YR4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　締まりは強い。粘性は弱い。砂礫層。G層相等。
13. 10YR5/8 黄褐色　締まりは無し。粘性は無し。砂層。H層相等。

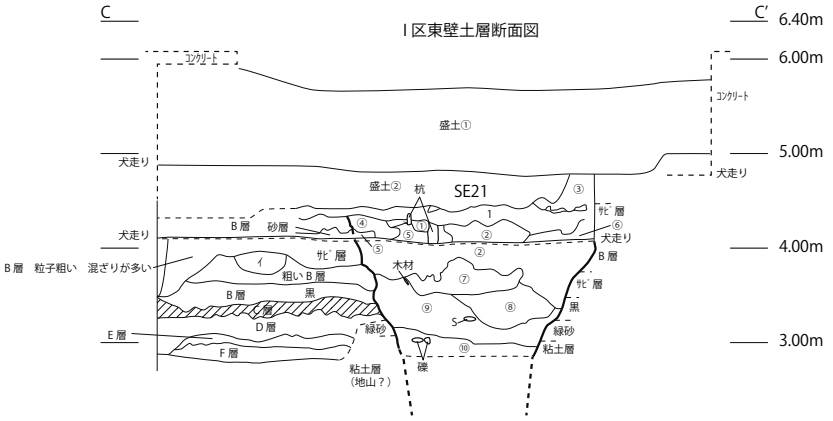


E 区大型トレンチ北壁

1. 10YR2/3 黒褐色　粘性ややあり、締りあり。白色土粒、橙色土粒(1㎜以下)をわずかに含む。
2. 10YR2/2 黒褐色　粘性ややあり、締りあり。Ⅰ層よりやや暗い色調、白色土ﾌﾞﾛｯｸをわずかに含む。
3. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粘性あり、締りあり。Ⅱ層やⅣ層の中間の色調・土質、ﾛｰﾑ質土のﾌﾞﾛｯｸを含む。
4. 10YR3/4 暗褐色　粘性あり、締りあり。ﾛｰﾑ質土に白色土ﾌﾞﾛｯｸをわずかに含む。
5. 10YR3/3 黒褐色　粘性あり、締りあり。やや粘土質、褐色・白・黒色土粒を多く含む。
6. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粘性強い、締り強い。白色土を主体とし、ﾛｰﾑ質土・黒色土のﾌﾞﾛｯｸが混じる。
7. 10YR1.7/1 黒色　粘性極めて強い、締り極めて強い。黒色の粘土層、白色土がﾌﾞﾛｯｸ状に入る、炭粒を多く含む。C層相等。
8. 10YR5/6 黄褐色　粘性あり、締りあり。粘土と砂の混じり土、10㎜の白色粘土ﾌﾞﾛｯｸを部分的に含む。
9. 10YR8/4 浅黄橙色　粘性極めて強い、締り極めて強い。白色の粘土層、部分的に酸化した箇所が見られる。
10. 10YR2/1 黒褐色　粘性極めて強い、締り極めて強い。7層に似るが2～3㎜の少礫をわずかに含む。C層相等。
11. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粘性極めて強い、締り極めて強い。粘土を主体に砂が混じる黒・白・褐色土粒を多く含む。
12. 10YR5/2 灰黄褐色　粘性あり、締り極めて強い。2～5㎜の礫と砂を主体とし粘質土が混じる。
13. 10YR4/6 褐色　粘性弱い、締り極めて強い。5㎜の礫を多く含む砂礫層。赤く酸化する。G層相等。
14. 5Y7/4 浅黄色　砂層。H層相等。



第６図　遺跡の層序（１）(1/80)



I 区東壁

盛土①. 10YR5/6 黄褐色　ﾛｰﾑを 20%、礫を 5%、ｺﾝｸﾘを 10%等含む。締まりは弱い。

盛土②. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性強い。0.5 ～ 1cm 大の焼土を 10%、1 ～ 3mm 大の炭 5%、瓦を 5%含む。

SE21

1 . 2.5Y6/1 黄灰色　粒子は細かく、粘性極めて強い。1～3mm大の炭を3%含む。

①. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子はやや細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まり強く、硬質。

②. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。2～3cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まり弱いが、硬質。

③. 焼土を含む層。

④. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まり強く、やや硬質。

⑤. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。0.5～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10%含む。締まりやや弱いが、硬質。

⑥. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子はやや細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりやや強く、やや硬質。

⑦. 10YR3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10%含む。締まり弱く、やや軟質。

⑧. 10YR3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～5cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸを20%含む。締まり弱く、軟質。

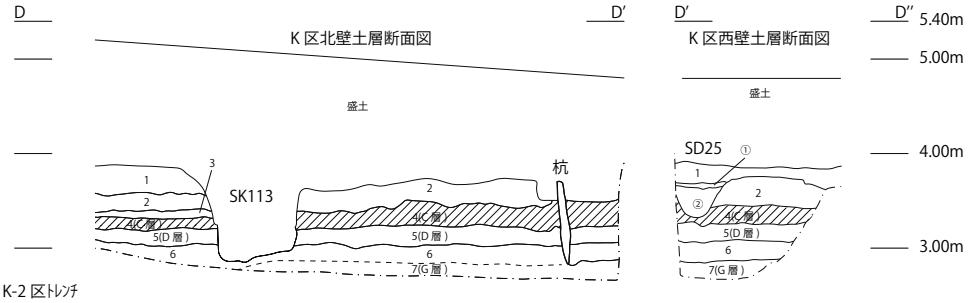
⑨. 7.5Y4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は粗く、粘性は強い。1～2cm大の緑黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを50%含む。締まり弱く、軟質。

⑩. 10Y5/2 ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子は粗く、粘性は強い。1～7cm大の緑色粘土層を70%含む。締まり弱く、軟質。

ｲ. 7.5YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりやや弱く、やや軟質。

E層 7.5YR 5/1 褐灰色　DとFの漸位層。粒子はやや細かく、粘性は強いF層をﾍﾞｰｽに2～3mm大の砂利を10%含む。締まり強く、硬質。

F層 10YR 6/6 明黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。0.5～1.5cm大の砂利層。締まり弱いが、硬質。



K-2 区ﾄﾚﾝﾁ

1 . 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。攪乱の影響を受ける。３～５㎜大の白色粒を少量含む。締まりやや弱く、やや軟質。

2 . 10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや強い。５㎜大の黄白色粘土粒を少量含む。締まりやや弱く、やや軟質。

3 . 2.5Y8/1 灰白色　粒子の細かい灰白色粘土層。

4 . N2/ 黒色　粒子は細かく粘性は強い。基本土層 C 層と考えられる。

5 . 2.5Y5/1 黄灰色　ｼﾙﾄ層。粒子は細かく、粘性は強い。基本土層 D 層と考えられる。

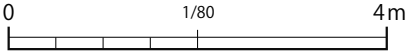
6 . 2.5YR5/4 黄褐色　粒子はやや粗く、褐色筋状土を多く含む。締まりは強く、硬質。

7 . 2.5YR5/4 にぶい黄色　砂礫層。粘性に欠き、硬質。基本土層 G 層と思われる。

SD25

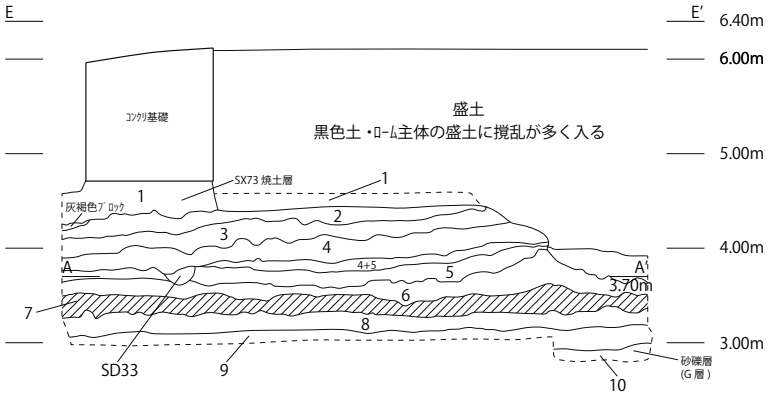
①. 10YR6/8 明黄褐　粒子はやや細かく、粘性は弱い。締まりやや強く、やや硬質。

②. 10YR6/4 にぶい黄橙　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸ等を少量含む。締まりは弱く、軟質。



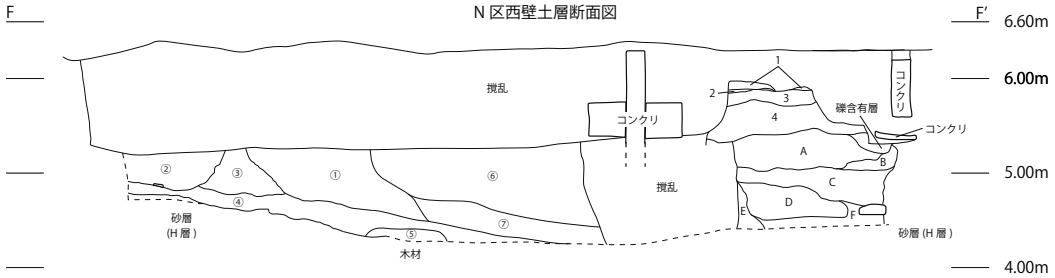
第７図　遺跡の層序（２）（1/80）

M1 区南壁土層断面図



1. SX７３焼土層。
2. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。黄褐粘土ブロックを30％、1～3mm大の炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 2.5Y4/4 オリーブ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の粘土ブロックを20％、1～5mm大の黒色土を2％含む。締まりは弱く、軟質。
4. 2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性に欠く。黄白色粘土ブロックベース。締まりは弱く、軟質。2～4は近似した盛土である。
4＋5. 10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。サビ状褐色粒を若干含む。締まりは良好、やや硬質。
5. 7.5YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～3mm大のサビを5％含む。締まりは良好、やや硬質。
6. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。0.5～2cm大の7.5Y6/2 灰オリーブブロックを3％含む。江戸時代の遺物を含む。
7. N2/ 黒色　粒子は極めて細かく、粘性は強い。締まりのないスカスカの土壌で、基本層序C層（下層）に類似する。
8. 10YR6/1 褐灰色　D層（上層）。粒子は極めて細かく、粘性は極めて強い。古墳～古代の溝は当層で検出されている。上面は極めて滑りやすい。
9. 10YR5/1 褐灰色　D層（下層）。粒子は細かく、粘性は強い。やや混じり物が多い。
10. 7.5YR5/4 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性に書く、砂礫を多様に含む。締まりは弱いが、硬質。基本層序G層に類似する。

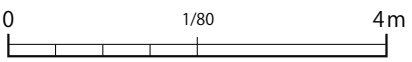
N 区西壁土層断面図



SX110
1. 5YR5/6 明赤褐色　焼土層。
2. 5YR4/1 褐灰色　焼土層の下の黒味の強い土層。
3. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。炭を若干含む。やや軟質。
4. 7.5YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～10cm大の瓦を15％、1～3mm大の焼土を3％含む。締まりは弱く、軟質。

SX126
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、砂質だが粘性はやや有り。2～3mm大の粘土を5％、炭を2％、2～5cm大の礫を3％含む。締まりは弱く、硬質。
②. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。瓦を1％、炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR5/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、粘性はやや有り。2cm大の礫を3％、1～3mm大の炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。
④. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。粘土ブロック、瓦を若干含む。木材を多く含む。締まりはやや弱いが、硬質。
⑤. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、木材を多量に含む。
⑥. 10YR5/1 褐灰色　80％以上瓦主体層。
⑦. 10YR5/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～10cm大の瓦を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SX127
A. 5Y6/2 灰オリーブ色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
B. 2.5Y6/6 明黄褐色　褐色土をベースに粘土ブロック40％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
C. 10YR4/6 褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。1～3mm大の焼土を3％、炭を3％含む。
D. 2.5Y6/8 明黄褐色　砂層と粘土ブロックの混合土。
E. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。黄白色粘土を10％含む。やや硬質。
F. 10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。炭を多く含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



第８図　遺跡の層序（３）（1/80）

Ⅳ　検出された遺構と遺物

縄文時代から近世以降に至るまで長期の土地利用がなされていたことが発掘調査によって判明している。江戸時代と古代以前の遺構では、確認面が異なる場合が多く、時期決定の大きな一助となった。主体となる江戸時代の遺構には多種多様のものがあったが、中世まで遡る可能性のある遺構と同一面で検出される場合が多かった。切り合い関係がない場合は遺物の出土状況から時期決定を行なわざるを得ない場合も多々あった。

縄文時代の土器と弥生時代の土器が同一遺構から出土する場合、弥生時代の土器と古墳時代以降の土師器・須恵器が一緒に出土する場合も多々あった。古代以前の遺物は小片・細片が極めて多く、器面がローリングを受け摩滅している場合が多かったため、胎土等から時期を決定した遺物も多かった。時期決定に関しては不明瞭な要素を含んでいるが、縄文土器 449 点、弥生土器 925 点、土師器 93 点、須恵器 37 点を数えた。今回調査した溝状遺構 1 つを見ても、弥生土器、古墳時代の土器、古代の土器、そして僅かに中世遺物が同一遺構から出土する場合もあった。特にシルト層で遺構が検出される場合は遺構規模が大きいため、その廃棄時期決定は難しいと言わざるを得ない。基本的なデータに関しては、遺構一覧表及び遺物一覧表を作成したので、それを参照されたい。

1　縄文時代～古代の遺構と遺物

多種類の遺構と遺物が検出されている。ここでは縄文～古代までの遺構を種別に分類し、報告する。

A　大形木材出土遺構（第 23 図、第 3 表、図版 6）

SX101（第 23 図、第 3 表、図版 6）

M 区の灰色粘土層（D 層）で検出された。当初広範囲に広がる黒色土である C 層の掘削を十字ベルトを設定し掘削していたが、灰色粘土層の検出された範囲の中に不明瞭な黒色の細長い楕円形を呈するプランが確認された。このプランにベルトを設定し掘削したところ、下面に湾曲を持つ木材が姿を出し始めた。精査するとこの伐採木の長さは約 3.70 m、幅 0.65 mを測ることが分かった。覆土最上層からは縄文晩期の土器破片 1 点と軽石破片が 1 点出土した。木材も北側は遺存状態が良かったが、南側の遺存状態は良くなかった。遺構は出土遺物及び木材の年代等から、縄文時代晩期に帰属するものと判断した。樹種や年代測定等の科学分析結果については第Ⅴ章を参照願いたい。用途としては加工用木材保管施設を考えたい。

出土遺物（第 132 図 17・18、第 4 表、図版 108―17・18）

第 132 図 17 は安行 3 式と考えられるヘラ描き沈線による三叉文を持つ深鉢胴部破片で覆土最上層から出土した。文様は深く、焼成堅緻。18 は軽石破片である。現存最大長 3.2㎝、厚さ 1.6㎝を測る。重さは 3.2 ｇを量る。

B　焼土跡（第 23 図、第 3 表、図版 7）

SX67（第 23 図、第 3 表、図版 7）

J 区の SD20 の底面で検出された焼土跡である。伴出遺物はないが検出層がローム層に類似した F 層であることから、縄文時代の所産と考えた。円形を呈し、炭化物が残る。江戸時代の溝により壊さ

れており、炭化物は厚さ３㎝程度を測る。底面は強く焼け、火勢の影響を強く受けた状況と考えられる。

C　土坑（第 24 図～第 26 図、第 29 図、第３表、図版７～９・12）

SK28（第 24 図、第３表、図版７）

C 区で検出された円形を呈する土坑である。長径 1.98 m、短径 1.56 m、深さ 36㎝を測る。覆土は黒色土を基調とするが、焼土粒、炭化物粒が少量含まれ、東側底面が、やや赤化していた。覆土からは縄文と考えられる土器が 14 点と石器が 1 点出土している。遺構の時期は、出土遺物から縄文時代後期の可能性が高いと考えられる。

出土遺物（第 132 図３～ 11、第 144 図６、第４表、図版 108―３～ 11、120―６）

第 132 図３～ 11 は縄文土器と考えられる。３には隆帯脇の刺突文が、4・6 には横位沈線文が、7・８には３本沈線文が、９には細い沈線文が、５には押引文が認められた。11 は木葉痕を持つ底部破片で、中央部がやや窪む。３の色調は浅黄橙を呈し、胎土には茶色粒子が目立った。第 144 図６は敲打器と思われる石器である。長さ 11.8㎝、現存幅 5.3㎝、厚さ 4.7㎝、重さ 362.8 ｇを量る。石材は砂岩であろうか。

SK32（第 24 図、第３表、図版７）

C 区で検出された楕円形を呈する土坑で、直径 1.60 m前後、深さ 48㎝を測る。北側は N 区の SK160 として調査を実施した。覆土が SK28 と類似しているため、縄文時代の土坑と考えられる。SK28 とは約 1.70 mの距離を持つ。SK119 同様、当遺跡での 1 番古い遺構と考えられる。

出土遺物（第 132 図１、第４表、図版 108―1）

第 132 図 1 は繊維を含む土器である。文様は沈線文らしきものが認められるが、不明瞭で繊維の量が多いため前期前半の土器と判断した。

SK106（第 25 図、第３表、図版７）

J 区の E 層で検出された円形の土坑で、北側は風鎮に壊されていたため、全容は不明。現存最大長 0.90 m、深さ 18㎝を測る。確認面はロームに類似した F 層で、覆土は黒褐色土を呈する。遺物は出土していない。

SK109（第 25 図、第３表、図版８）

J 区で検出された細長楕円形の土坑で、長径 0.85 m、短径 0.57 m、深さ 19㎝を測る。主軸方向は N37° E を指す。遺物は出土していない。

SK119（第 24 図、第７表、図版７）

J 区で検出された円形を呈する遺構で、SE23 と SK105 に切られていた。現存最大長 1.90 m、深さ 18㎝を測る。また外形内側に沿ってピット状の落ち込みが数ヶ所認められたが、不明瞭であった。覆土は黒褐色土で、覆土からは縄文時代前期前半の繊維土器の小片が出土している。

出土遺物（第 132 図２、第４表、図版 108―2）

第 132 図２は胎土中の繊維量が多く、脆弱である。文様は不明。前期前半の土器と考えたい。

SK120（第 25 図、第３表、図版８）

J 区で検出されたほぼ円形の土坑である。SX65 を切っているものと考えられる。黒褐色土を呈する覆土からは、弥生土器と縄文土器が合計 10 点出土した。弥生時代中期の土坑である。

出土遺物（第 133 図 30 ～ 33、第４表、図版 109―30 ～ 33）

第 133 図 30 は弥生土器の細頸壺形土器の口縁部と考えられる。口唇部は肥厚する。横位沈線文と縄文が認められる。表面の色調は橙色､断面の色調は灰褐色を呈している。中期後葉の土器である。31 にも横位沈線文が認められる。32 は無文の弥生土器か。33 は底部破片である。

SK127（第 26 図、第３表、図版９）

J 区で検出された土坑で、江戸時代の瓦溜りである SX69 に切られていて全容は不明。本来は楕円形に近い形状を呈していたものと思われる。覆土の主体は粒子の粗い暗褐色土であった。規模は残存部で長径 0.84 m、深さ 14㎝を測る。弥生時代中期後葉と考えられる甕形土器が出土している。

出土遺物（第 132 図 19、第４表、図版 108―19）

第 132 図 19 は弥生時代中期と考えられる甕形土器である。破片からから全体復元を試みた。口縁は開き、胴部最大径を中位に持つ。小さめの底部から小さく屈曲、胴部中位まで立ち上がり、一度緩やかに内傾しながら外反する口縁部に至る。口縁部は折返し状で、斜位のハケメの上に刺突文。以下縦位のハケメ。薄手の土器で、口径 22㎝、胴部最大径 19.7㎝、器高 30.2㎝、底径 6cm を測る。器形的には宮ノ台式に似ているが、折返し口縁部に刺突文という違いが時期的要素なのか、地域的な要素なのかは不明である。

SK128（第 24 図、第３表、図版８）

ほぼ円形を呈する土坑で、J 区ロームに類似する F 層で検出された。長径 1.44 m、短径 1.32 m、深さ 36㎝を測る。覆土は黒褐色土を基調とし、C 層に類似していた。覆土からは縄文土器が出土している。遺構の帰属時期については縄文晩期以降と考えられる。

出土遺物（第 132 図 12 ～ 15、第４表、図版 108―12 ～ 15）

第 132 図 12 は地文に縄文を持ち区画沈線文が施文される。13 には横位波状沈線文と刺突文、3 本 1 単位の鋸歯状の沈線文が施文されている。14 は外面無文、内面擦痕の器面に凹凸が顕著な土器、15 は無文の土器で、全土器ともに、胎土には白色粒と角閃石が目立った。縄文時代晩期あるいは弥生土器と考えられる。

SK136（第 26 図、第３表、図版９）

M 区で検出された隅丸方形を呈する土坑で、長径 0.72 m、短径 0.66 m、深さ 18㎝を測る。覆土は黒褐色を呈し、弥生土器と桃と思われる種子が出土している。弥生時代の土坑と考えられる。

出土遺物（第 132 図 21・22、第４表、図版 108―21・22）

第 132 図 21、22 は弥生時代の甕形土器破片で、21 は口縁部、22 は胴部である。内外面にハケメが施される。両者ともに焼成は良好で、色調は黒色を呈する。

SK137（第 26 図、第３表）

M 区で検出された土坑で隅丸長方形を呈する。長径 0.42 m、短径 0.09 m、深さ 10cm を測り、主軸方向は N16° E を指す。覆土は C 層に類似する黒褐色土層であった。遺物の出土はない。

SX156（第 22 図、第３表）

N 区の南西端で検出された縄文時代と思われる落込みである。現存長径 2.40 m、深さは約 50㎝を測る。覆土は C 層に類似していたが、遺物の出土は皆無であった。

SK 4（第 29 図、第３表、図版 12）

A 区で検出された円形を呈する土坑である。壁は角度を持って明確に立ち上がる。トレンチに切ら

れており、全容は不明。現存最大長 1.44 m、深さ 1.14 mを測る。覆土上層は、やや硬質な黒褐色土層であった。縄文土器 1 点、弥生土器と思われる胴部無文破片 5 点が出土している。縄文土器には繊維が含まれている。弥生時代の土坑と考えたい。

出土遺物（第 132 図 20、第 4 表、図版 108―20）

第 132 図 20 は弥生土器の壺形土器と考えられる胴部無文の破片である。

SK 5（第 29 図、第 3 表、図版 12）

A 区で検出された円形を呈する土坑である。現存最大長約 0.75m、深さ 72㎝を測る。覆土の主体は黒褐色土であった。覆土からは土器が 2 点出土している。土器は無文で 1 点は縄文土器、1 点は土師器の可能性が高いが、不明確である。弥生～古代の土坑である。

出土遺物（第 132 図 24、第 4 表、図版 108―24）

第 132 図 24 は、無文の土師器破片と思われる。焼成はやや不良である。

SK82（第 29 図、第 3 表、図版 12）

G 区で検出された円形の土坑で、古代に帰属する土坑と考えられる。直径約 1.08m、深さ 36㎝を測る。覆土は黒褐色土を呈し、覆土からは須恵器が出土している。古代の土坑と考えられる。

出土遺物（第 132 図 25、第 4 表、図版 108-25）

第 132 図 25 は須恵器の甕胴部で、外面には叩き目が、内面には押え痕が認められる。

D　ピット

SP380（第 25 図、第 3 表、図版 8）

円形のピットで、弥生時代の土坑の可能性のある SK109 を切っていたが、大きな時間差は考えられない。覆土は黒褐色土であった。

出土遺物（第 132 図 16、第 4 表、図版 108―16）

第 132 図 16 は弥生土器の壺形土器の頸部破片で、3 本の波状沈線文が 2 段施文されている。断面の色調は灰褐色を呈する。

SP387（第 24 図、第 3 表）

縄文時代の SK119 の壁際で検出されたピットである。覆土からは、縄文土器が出土している。

SP435（第 26 図、第 3 表）

M 区 D 層で検出された円形を呈するピットである。直径 0.24m 前後、深さ 5 ㎝を測る。覆土から弥生土器が 1 点出土している。

SP436（第 26 図、第 3 表）

M 区の D 層で検出された円形を呈するピットである。長径 0.42 m、深さ 6 cm を測る。弥生時代のピットの可能性がある。

SP437（第 26 図、第 3 表）

M 区 D 層で検出された隅丸方形を呈するピットである。長径 0.18 m、深さ 6 cm を測る。覆土から土器が 1 点出土している。弥生時代のピットと考えられる。

出土遺物（第 132 図 23、第 4 表、図版 108―23）

第 132 図 23 は弥生時代の壺形土器で、肩部は丸みを持ち、S 字状結節と羽状縄文が施文されている。砂礫を若干含むが精選されている。焼成は良好堅緻である。

SP438（第 26 図、第３表）

M 区 D 層で検出された円形を呈するピットである。長径 0.36 m、深さ 4㎝を測る。

SP442（第 26 図、第３表）

M 区 D 層で検出された円形を呈するピットである。

SP5（第 29 図、第３表、図版 99）

B 区で検出された隅丸方形のピットで、直径 0.30 m、深さは 36㎝を測る。

SP6（第 29 図、第３表、図版 99）

B 区で検出された隅丸方形ピットで、底に向かって窄まる形態を呈する。直径 0.60 m、深さは 48㎝を測る。

また I 区の SX36 は、D 層で検出された自然木（珪化木）と考えられる遺構である。

E　遺物集中地点（第 25 図、第３表、図版８）

SX65（第 25 図、第３表、図版８）

J 区で検出された弥生時代の遺物集中地点である。井戸である SE29 に切られている。また土坑である SK120 と重複するが、これにも切られていた可能性が高い。SX65 は 浅い掘り込みを持つものと判断したが、不明瞭であった。C 層に類似した黒褐色土を基調とする覆土からは、縄文時代後晩期の土器と弥生時代の土器が混在して出土した。当初住居跡の可能性を考え、十字にベルトを設定して調査を開始したが、西側の立ち上がりを想定することはできたものの、他では明確な立ち上がりを確認できなかったため、遺物集中地点とした。窪みのような場所に遺物が溜まった可能性もある。この窪みの範囲は、楕円形に近い形状を呈し、長径 5.65 m、短径 3.86 m、壁を推定できたところで 15㎝を測った。出土した土器は摩滅のために文様を確認できたものは僅かで、色調的には褐色を呈する土器、白色に近い色を呈する土器が半々であった。弥生時代の遺構の可能性が高い。

出土遺物（第 133 図 1 ～ 29、第７表、図版 109―１～ 29）

縄文時代の土器、弥生時代の土器、土製品が混在していた。主体となるのは弥生土器であった。第 133 図 1 は口縁部破片で、２～ 23 は頸部・肩部・胴部破片、24 ～ 27 は底部破片である。3 には垂下沈線文が、6 には波状沈線文が施文される。７は鋸歯文、13 は菱形文の可能性がある。13 の色調は白い。弥生土器は壺形土器が主体で、第 133 図５・６・８・10・12・18 には赤彩が認められた。24 ～ 27 は底部破片で、24 は摩耗が著しく文様不明、25 は底部 1/6 が残存、底径 6cm、26 は底径 6.7㎝を、27 は底径 6.4㎝を推定する。27 には、木葉痕が認められた。28、29 は土製円板と考えられる。周囲には使用による摩耗が認められる。弥生時代中期に遡る遺物が主体と考えられる。

F　溝状遺構

遺跡からは弥生時代～古代の溝が９条検出されている。多くの遺構に切られていること、コンクリート施設に壊されていることなど様々な理由で、端から端まで検出される場合は少なかった。また出土遺物に関しても、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が同じ遺構から出土することも多かった。

SD1（第 27 図、第３表）

B 区で検出された溝で、SD2 と並行する。約 8.6 mを確認した、幅は約 0.7 m、深さ 24㎝を測る。主軸方向は N22° E を指す。検出面、覆土から弥生～古代のいずれかに帰属する可能性が高い。SD2 を切っている可能性があるが判然としない。

SD2（第 27 図、第３表）

B 区で検出された溝で、約 7.8 ｍを確認した。幅は約 0.7 ｍ、深さは 27㎝を測り、主軸方向はＮ 7° E を指す。検出面、覆土から弥生時代～古代に帰属する可能性が高い。

出土遺物（第 134 図１～３、第４表、図版 110―１～３）

第 134 図 1 は弥生壺形土器の口縁部破片で内外面にハケメが、２・３は頸部破片で、２には横位沈線文と縄文が施文されている。にぶい橙色を呈する。３は色調が白色の土器で刺突文が施文されている。２・3 の断面の色調は灰褐色を呈する。

SD4（第 27 図、第３表、図版 10）

C・E 区で検出された溝で、他の溝とは大きく様相が異なる溝で、ほぼ直角に屈曲する。確認最大長は 23.50 m、幅 0.90 m、深さ 28㎝、主軸方向は N7° E と N81°を指す。出土遺物から弥生～古墳時代に帰属する可能性が高いものと考えている。出土した遺物には、僅かに江戸遺物２点が含まれていたが流れ込みの可能性が高い。主体は 40 点以上の弥生時代の遺物であった。

出土遺物（第 134 図４～ 10、第４表、図版 110―４～ 10）

第 134 図 4 は口縁部破片、5 ～ 10 は頸部・肩部・胴部破片である。４は弥生土器の甕形土器で口唇部にはキザミがあり、ハケメが施されている。キザミは特徴的で、板痕が認められた。板痕の認められた弥生時代の甕はこの 1 点のみであった。５は赤彩のある羽状縄文施文の弥生土器で、やや厚手で、焼成堅緻な土器である。６には曲線的な沈線文が、７には沈線とハケメが認められる。８は球胴形の胴部破片で、色調は赤褐色を呈する。８・９は土師器甕と思われる。

SD9（第 27 図、第３表、図版 10）

E 区で検出された南北溝で、確認最大長 11.60 m、幅 1.32 m、深さ 0.24 ｍを測り、主軸方向はＮ 6°Ｗを測る。SD4 と比べると、広めの底面から緩やかに立ち上がっている。弥生土器がやや数量的に勝るが、土師器、須恵器が出土しているため、古代の溝と考えたい。

出土遺物（第 134 図 11 ～ 17、第４表、図版 110―11 ～ 17）

第 134 図 11、16 は須恵器甕、12 は古墳時代前期の S 字状口縁の甕であろう。13 ～ 15、17 は弥生土器で 13 には鋸歯状沈線文が、14 には羽状縄文が施文される。15 は底部破片で、木葉痕が認められる。17 は壺形土器の胴部破片と思われ、屈曲する。

SD10（第 28 図、第３表、図版 11）

E 区で検出された南北溝で、南半部は SD13 と合流したような状況を呈する。現存最大長 19.70 m、幅 1.60 m、深さ 40㎝を測り、主軸方向はＮ 3° E を指す。出土遺物等から古代に帰属する溝と考えられる。SD16 と同様の覆土であった。覆土からの遺物の主体は弥生土器と土師器であり、須恵器が少量出土している。また礫も比較的多く出土しているが、チャートが主体を占めている。SD13・SD16 同様、古代の溝と考えたい。

出土遺物（第 134 図 18 ～ 39、第４表、図版 110―18 ～ 39）

SD9・SD10 遺物については、SD10 で説明することとした。弥生土器、土師器、須恵器、石製品が混在して出土している。第 134 図 18 は弥生土器壺形土器の肩部破片、19・20 は土師器甕の口縁部から胴部上位の破片で、胴部には縦位のヘラケズリが認められる。時期的には、古墳時代の甕の可能性が高い。21 ～ 24、27、30 は縄文・弥生土器の口縁部破片、30 ～ 34 は土師器の口縁部破

片と思われる。23 は外反する折返し口縁、24 の口唇部は平坦で内面が肥厚する。30 は S 字状口縁の模倣甕か。31・34 の口縁部は「く」の字形を呈する。32 は鉢の口縁部破片で、肩は丸みを持つ。33・34 の口縁部は外反する。35・36 は土師器の底部破片で横位のヘラケズリが目立つ。35 の底径は 6.0㎝、36 の底径は 7.8㎝を推定する。37 は須恵器広口壺の肩部、38 は須恵器の坏の底部破片で、高台がある。39 は端部に敲打痕があるため、石製品と考えた。長さ 10.2㎝、重さ 174 ｇ。

SD13（第 28 図、第 7 表、図版 10）

G 区で検出された南北方向の溝である。現存最大長約 12 m、幅約 1.7 m、深さ 40㎝を測り、主軸方向はＮ 3 ° E を指す。古代の須恵器蓋等が出土している。SD16 に連続する溝である可能性が高い。遺物の主体は弥生土器と土師器である。

出土遺物（第 135 図 1 ～ 19、第 4 表、図版 111―１～ 19）

縄文土器、弥生土器と土師器、須恵器が混在していた。第 135 図 1 ～ 9・11・12 は弥生土器で、1 ～ 8 は口縁部破片、9 ～ 13 は頸部・肩部・胴部破片である。２の口唇部は肥厚し、3 の口唇部は三角形状に尖る。４・５は折返し口縁で縄文が施文される。９には波状沈線文が、10 には列点文と沈線文が施文されている。11 には縄文が、12 には縄文施文後の横位沈線文が施される。外面には赤彩が認められ、断面は褐灰色である。13 の表裏には条痕文が施文されているが、繊維の混入の有無を判断できなかった。14・15 は土師器で、14 は台付甕、15 は坏の口縁部破片と考えられ、ヨコナデが認められる。16 ～ 19 は須恵器である。16 は坏破片、17 ～ 19 は蓋破片である。

SD16（第 28 図、第 7 表、図版２・11）

Ｉ区、Ｊ区で検出された溝状遺構で、南北に走っている。現存最大長 20.30 m、幅 3.20 m、深さ 60㎝を測り、主軸方向はＮ 13° E を指す。白色シルト面で検出された。南側は大きく撹乱が入っており続きを追うことはできなかった。おそらく当遺跡だけで納まる性格の溝ではない可能性が高い。溝は比較的浅く、幅は広く、擂鉢状に立ち上がるのではなく、小さな段状を呈して立ち上がっていた。壁及び底面も白色シルト層であった。廃棄時期についても出土遺物等から古代に帰属するものと考えられる。覆土最下層には砂が堆積している場合が多かった。SD13 と合わせると、長さは約 33m になる。

出土遺物（第 135 図 20 ～ 39、第 4 表、図版 111―20 ～ 39）

縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が混在していたが、主体は土師器、須恵器であった。第 135 図 20、25、27 ～ 29 は弥生土器の可能性が高い。20 は口唇平坦な折返し口縁で、端部には刺突が施文される。内外面に赤彩。21 の口唇部内側は肥厚する。22 の口縁部と頸部の間には段差がある。23 の内面には赤彩が認められ、25 には波状沈線文が施文されている。26 は縄文土器か。27 には波状沈線文が認められ、断面は灰褐色を呈している。28･29 には外面にはハケメが施文されている。30 ～ 32 は土師器で、30 は手持ちヘラケズリの坏か。31・32 は甕である。32 の口径は 13.2㎝を推定する。33 は縄文深鉢底部、35 は弥生壺底部と考えられる。底径は 5㎝。36 ～ 38 は須恵器である。36 の口縁部は小さく外反する。37 は高台部のみの小破片で、38 は壺の口縁部破片である。39 は軽石で、やはり 1 面に平坦部が認められた。長さ 7.3㎝、幅 5.8㎝。高さ 6cm を測る。

SD17（第 17 図、第 7 表、図版 11）

Ｉ区、Ｊ区で検出された溝状遺構である。現存最大長 8.40 m、幅 1.08 m、深さ 36㎝を測り、主軸方向はＮ 30° E を指す。コンクリート基礎に伴う犬走りの下に入り込むため、全容は不明。SD16

の西側の白色シルト層で検出された。覆土は上層が褐色土、下層が暗褐色土であった。遺物は流れ込みと考えられる土器が 1 点のみ認められた。

SD35（第 29 図、第 3 表、図版 12）

M 区の D 層で検出されたやや東に振れた南北溝で、現存確認長 2.58 m、幅 0.72 m、深さ 6 cm を測り、主軸方向は N29° E を指す。覆土からは種子、木製品、礫等が出土している。

SX90（第 29 図、第 3 表、図版 12）

M 区の D 層で検出された炭化材が入った溝状の遺構である。現存最大長 2.10 m、幅 0.24 m、深さはおよそ 20㎝を測り、主軸方向は N40° W を指す。

縄文～古代の遺構外出土遺物（第 136 図～第 144 図、第 4 表、図版 112 ～ 117）

縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土製品、石器、石製品、が出土している。縄文時代と弥生時代の遺物については小片が多かったこと、ローリングを受け文様が摩滅した遺物が多かったこと、出土位置に両者が混在する場合が多かったこと等から縄文土器か弥生土器かの判別すら難しかった。分類に誤りがあるかもしれない。土器・土製品については、遺物一覧表を参照されたい。

第 136 図、第 137 図 1 ～ 31、33 は縄文土器と考えられる。第 136 図 1 ～ 3 には条痕文が施文される。早期後半の土器と考えられる。4 ～ 6 は小片であるが、海綿骨針の混入が認められるため、早期末葉の土器である可能性が高い。

7 ～ 11 は繊維が多量に含まれる縄文時代前期前半の土器で、7 ・ 8 には円形の貼付け文等の文様が認められる。関山式と考えられよう。11 は底部破片で、貝殻背圧痕文が認められる。12 ～ 16 は前期後半の可能性が高い土器で、14 には横位沈線文が、15 には単節縄文が、16 には半截竹管による平行沈線文が施文されている。また第 137 図 31 も前期前半の土器底部の可能性が高い。

17 ～ 28 は縄文時代中期と考えられる土器で、17 は隆帯上や隆帯脇に刺突文が施文される土器で、阿玉台式である。18 ～ 21 も中期前半の土器と考えられる。18 には撚糸文が、19 には方形区画文が、20 には横位押引き状沈線文が認められる。21 は肥厚した口唇部に刻み目が、縦位には縦位の沈線文が施文されている。22 には隆帯上に刻みが、23 の垂下隆帯文の脇に刺突が、24 は隆帯が認められる。25・26 は中期後半の加曽利 E 土器と考えられる。25 の口縁部は内湾し、無文下に横位の沈線文が施文される。26 は縄文地に垂下沈線文が認められる土器である。28 は極めて強くローリングを受け、ほとんど文様が見えない土器であるが、うっすらと元は文様があったのではないかと思われる痕跡のある土器で、器形と器厚から中期後半の土器と考えた。

第 136 図 29 ～ 35、第 137 図 1 ～ 33 までは縄文時代後晩期の土器が主体となる。29 は磨消縄文の土器で称名寺式土器と考えられる。30 についても同様である。31・32 には沈線文が、33・34 は焼成堅緻な土器で縄文地に沈線文が施文される。35 の焼成は堅緻ではないが、縄文地に沈線文が施文されている。第 137 図 1 ～ 24 には沈線文が施文されている。 1 は加曽利 B 式であろうか。曲線的な沈線文が施文されている。 2 には磨消縄文が、 3 には波状沈線文と鋸歯状の沈線文が認められる。4 には縄文地に沈線文が、5 の沈線文は斜位に引かれている。 6 は横位沈線文、 7 には屈曲する沈線文が施文される。 8 ・ 9 は曲線的な沈線文が施文される土器で、 8 は薄手である。10・11 には横位沈線文が、12 には刺突文が施文される。13・14 の沈線は細い。15 には刺突文と曲線的な沈線文が、19・22・23 には横位沈線文が施文されている。20・21 には区画沈線文と列点文が認められる。

25は輪積み痕で割れている厚手の土器である。26は縄文地に6本の横位沈線文が施文されている。28は文様不明瞭。31は算玉状の底部小片である。

33には円弧文があり、安行3式と考えられる。伊皿子貝塚等の土器と類似したものと思われる。32と34については弥生時代中期の土器か縄文晩期の土器か、判断できなかった。32には深い横位沈線と鋸歯状沈線が施文されている。34は3本を1単位とする沈線文が横位と鋸歯状に繰り返される。再葬墓と考えられる遺構から出土する土器と類似している。

第138図、第139図、第141図1～12は弥生土器が主体である。第138図1・2は櫛描文土器である。1には擬流水文と波状沈線文が、2には斜縄文、横位沈線文、波状沈線文が施文されている。3は個体復元したSK127出土土器と共通性が高い土器で、長めの折返し口縁に刺突文が施され、口唇部は尖り気味である。胴部には縦位沈線文が引かれている。全体に薄手なことも復元個体と一致している。1・2は壺形土器、3は甕型土器で、弥生時代中期後葉の土器と考えられる。

4～7は同一個体と考えられる。4の器形は頸部から胴部に向かって丸みを持って広がっている。補修孔が1箇所認められる。色調は赤褐色を呈し、焼成はやや不良、器面には凹凸が著しい。文様は縄文地に刺突文が施され､断面の色調は灰褐色を呈する。器形から弥生土器を考えたが確証はない。8～12は刺突文と鋸歯状あるいは波状の沈線文が施文された土器である。8は肥厚する口縁部を持ち、横位沈線文上に刺突文が、その下位には縄文が施文されている。9の胴部は丸みを持ち、3本横位沈線文、3本横位波状沈線文が施文されている。10・11には鋸歯状沈線文と刺突文が施文されている。12は横位沈線文、鋸歯状沈線文、刺突文が施文されている。13・14、16～18には波状沈線文が、15には横位沈線文が認められる。19・20、22～24、26・27にはハケメが認められる。20～22は口縁部破片で、21はかなり薄手で、22の口唇部上にはキザミが認められる。24・25・27には沈線文が引かれている。28～31は色調が白色に近い土器で、28の内外面、29の内面には赤彩が認められる。28の文様は太沈線文と刺突文、29は刺突文、30・31には横位沈線文が施文されている。これら白色の土器についても断面が灰褐色を呈しているものが多かった。

第139図は、2以外は弥生時代でも新しい段階と考えられる土器を一括した。139図1～14は口縁部破片であり、1・2、4・5、7～10は折返し状を呈している。第139図1は口縁部が大きく開く壺形土器破片、縄文上に刺突文が施文された内外面赤彩の土器である。1は弥生後期の壺形土器口縁である。2は口縁部から垂下する浮文があり、斜位の調整痕下には赤彩が認められる。内面は折返しから頸部にかけて縄文が施文されている。3，6，8、10の口唇部は平坦で、3については隆帯が認められるが、ミニチュアの可能性がある。4～6・8には縄文が、7の内面には斜線文が、9・11・12の内面には赤彩が認められる。13・14にはハケメが引かれている。

15～42は壺形土器の口縁部付近、頸部、胴部破片で、15、18・19・22・23・31・35には赤彩が認められた。15～17・28・32・33～40にはハケメが、19～26には縄文が、26・27、29・30、41・42には沈線文が施文されている。41の沈線文は深く、42の沈線文は連続する。42については墓壙等で検出される土器と共通点があるように思われた。

第140図は、底部破片、脚部破片を一括した。古墳時代以降の遺物も一部含んでいる。1～10は平底の底部破片で、11～22は脚部破片である。1は底径2.9㎝を計る弥生時代の壺形土器の底部破片で、内外面に赤彩が施されている。2、5・6には木葉痕が、7には網代痕が、3・8には外面

赤彩が認められる。

12 は高坏の脚部か、厚手で、ミガキが顕著である。長脚であり、内外面に赤彩が認められる。13 ～ 22 は台付甕の脚部で、ハケメが施される。

第 141 図 1 ～ 12、16 は弥生時代の甕形土器で、13 ～ 28 は土師器、須恵器である。1 ～ 9 は口縁部破片で、口唇上にキザミが入る。色調は黒味が強いものが多かった。10 ～ 12 は胴部破片で、10・12 の外面には縦位・横位のハケメが、11 の内外面位はハケメが引かれている。

13 ～ 15、17 ～ 20、22 ～ 25 は口縁部破片である。13 ～ 15 は土師器甕の口縁部で、頸部は「く」の字形に屈曲している。13 の推定口径は 12㎝を計る。17 は S 字状口縁の甕の可能性が高い。焼成は良好堅緻である。19 は厚手の坏口縁部、20 は短い口縁部が外反する。21 は古墳時代初頭の広口壺と考えられる。頸部は「く」の字形に屈曲し、ハケメが縦位、斜位に引かれている。22 ～ 28 は須恵器と考えられる。22 の頸部も「く」の字状に屈曲する。23 は坏の口縁部小破片、24 は長径瓶の口縁部か。内面に自然釉が認められる。25 は甕口縁部、26 ～ 28 は胴部甕破片である。

遺構外出土の土製品（第 142 図、第 4 表、図版 118）

土製品は土製円板、焼成粘土塊、不明土製品、管状土錘に分類した。長径等計測値については、遺物一覧表をご参照願いたい。第 142 図 1 ・ 2 は縁辺部が使用されたと考えられる土製円板である。1 には一部赤彩らしき痕跡が残るため弥生時代の円板の可能性が高い。2 についても断面が褐灰色を呈するため、縄文晩期あるいは弥生時代の遺物の可能性が高い。 3 は球状を呈する、 4 は表面凹凸顕著な土製品である。 5 も凹凸顕著であるが、片面に面上の平坦面がある。

6 ～ 30 は管状土錘である。小破片を含め 40 点が出土し、25 点を図示した。紡錘形（ 6 ～ 24）、不明 (25)、円筒形（26 ～ 30）となる。端部には紐を掛けたことを想像させるような痕跡が認められる場合があった（14・15・19・20・29 等）。またこれら管状土錘については、第 30 図に分布図を掲載したが、南北中央ラインに顕著に分布することが判明している。弥生時代～古墳時代の溝と考えられる SD 1 、 2 、 4 、 9 号溝、古代と考えられる SD10、13、16、17 号溝の検出位置に近いことも考え合わせると古墳時代あるいは古代に関連が深い可能性が高いものと思われる。

遺構外出土の軽石・石器・石製品（第 143・144 図、図版 119・120）

縄文時代から古代に帰属すると思われる軽石、石器、石製品が出土している。

第 143 図 1 ～ 8 は軽石である。平面的には円形、楕円形、隅丸三角形、隅丸長方形を呈するものがある。共通しているのは、ここでは「座り」と仮称するが、多面有る中の一面に平坦面を作り出しているのではないかと思われるものが多い点である。第 143 図 1 は円形に近い形状を呈し、長径 3.4 ㎝、短径 2.9㎝、高さ 5.0㎝を測る。 4 は長径 4.9㎝、短径 3.0㎝、高さ 2.3㎝を測り、重さ 9.3 ｇを量る。 5 は長方形に近い形状を呈し、長径 5.2㎝、短径 3.9㎝、高さ 3.5㎝を測る。重さは 20.9 ｇを量る。 6 は長径 4.1㎝、短径 3.9㎝、高さ 2.4㎝を計り、重さは 8.4 ｇを量る。 7 は楕円形を呈し、長径 7.4㎝、短径 6.0cm、高さ 3.2㎝を測る。重さは 44 ｇを量る。 8 は円形を呈し、長径 6.0cm、短径 6.0cm、高さ 3.6㎝を計り、重さは 44.9 ｇを量る。一部紐掛けのような痕跡があるが不明瞭である。軽石の石材は全て多孔質の浮石凝灰岩であろうか。

第 143 図 9 は石匙と考えられる。現存長 2.9㎝、現存幅 3.4㎝、厚さ 0.7㎝を測る。10 は二次加工剥片か。長さ 3.9㎝、幅 6.1㎝、厚さ 1.3㎝を測る。重さ 29.8 ｇ、石材はメノウであろうか。11 は

石錐と考えたいが、先端部を若干欠く。現存長 4.4㎝、幅 4.0㎝、厚さ 2.3㎝を測る。

第 144 図 1 は二次加工剥片とした。長さ 1.6㎝、現存幅 3.6㎝、厚さ 0.7㎝を測る。２、３は打製石斧破片、２は現存長 6.8㎝、幅 4.9㎝、厚さ 0.7㎝を、重さは 61.4 ｇを量る。粘板岩である。３は現存長 5.3㎝、幅 6.6㎝、厚さ 3.0㎝を測る。被熱痕があり、重さは 119.7 ｇを量る。４も打製石斧の可能性があり、現存長 11.7㎝、幅 12.8㎝、厚さ 4.6㎝を測る。重さは 750.5 ｇを量り、閃緑岩製と思われる。５は台石で、中央部に敲打痕があり、全面的に磨かれ、裏面は広く被熱する。現存長 13.0㎝、幅 13.2㎝、厚さ 8.1㎝を測る。重さは約３㎏。７は敲打器としたいが、編物石と称される石製品とも類似する。7 は長さ 14.7㎝、幅 5.0㎝、厚さ 4.7㎝を測る。安山岩質粗粒凝灰岩か。両端部に使用痕と思われる痕跡が認められる。（金持）

２　中近世の遺構

中世にまで遡る可能性の高い遺構を一括した。遺構の確認面については中世まで遡る可能性のある遺構も近世の遺構もほぼ同一面での検出であったため、遺構覆土や出土遺物、出土状態等から判断を行った。また貝については、土嚢袋に土ごと取り上げて採取している。全ての混土貝が水洗できたわけではなく統一的な出土量を比較するため、これを「混土貝」として表にも㎏単位で表示している。

A　獣骨出土遺構

SX14（第 34 図、第３表、図版 82）

D 区、J 区の境界で検出された。覆土に貝を含まない SP324 に切られていた。平面形態は整然とした円形を呈するが、東側に連続して貝を含む SX62 が所在し、その部分は出っ張っていた。規模は直径 2.58 m、短径 2.22 m、下端で長径 1.02 m、短径 0.78 mを測った。上層では当初直径 2.5 mの範囲に中央と東側を中心とした貝の堆積が見られた。これら貝を含めた堆積状況を知るためにセクションベルトを十字に設定し掘削を開始したが、なかなか底面に至らず、最終的には 1.8 mの深さで水平な底面を確認することができた。貝に混じって骨や縄文土器、古代以降の土器、江戸期の遺物も少量出土した。瓦が 1 点と少ないことに特徴がある。遺構の壁は井戸の様な垂直な状況ではなく、擂鉢状を呈していた。本遺跡の中では特異な遺構である。覆土は貝を含む部分では褐色土が主体で、外側の部分では暗褐色土が主体であった。貝の堆積とその外側が別遺構の可能性があるが、明確にできなかった。混土貝は 23.1㎏と多量に出土している。骨はウマが３点、人骨が 1 点とのことであった。

SX62（第 34 図、第３表、図版 82）

SX14 の東側に連続する混貝土層の貝堆積遺構であるため、ここで報告する。貝の堆積は上位より下位中央部の方が多かった。平面形態は楕円形を呈し、現存最大長 0.55 m、深さ 70㎝を測る。覆土は暗褐色土あるいは黒褐色土が主体で、貝土が 0.2㎏出土している。

SX19（第 31 図、第３表、図版 13）

E 区で検出された獣骨及び混土貝層の貝堆積が認められた遺構である。獣骨分布範囲は楕円形に近い形状を呈し、長径 2.75 m、短径 1.75 mを測り、主軸方向は N14° E を指す。南側には楕円形に近い形状の貝の堆積が認められた。長径 1.38 m、短径 0.70 mを測り、主軸方向は獣骨の分布とほぼ同じと考えられる。レベル的には若干骨が高い位置で検出されているが、新旧関係は不明である。伴出遺物がないため帰属時期について述べることができないが、中世まで遡る可能性があるものと思わ

れる。骨については、分析が行われている。骨はウマで、四肢骨等がまとまって出土した。遺存状態が悪く部位の特定が困難なものも多かったが、ウマの臼歯や寛骨（骨盤）が確認された。寛骨は左右が揃っているもの以外に、1 点が出土しており、ウマは 2 個体分と考えられるとの分析であった。

SX85（第 33 図、第 3 表、図版 13）

M 区で検出された獣骨出土遺構で、貝は伴っていなかった。獣骨は不明瞭な楕円形のプラン内で検出された。プランは長径 0.90 m、短径 0.47 m、深さ約 10㎝を測り、主軸方向は N67° W を指す。覆土はやや軟質な暗褐色土であった。骨は分析の結果、ウマの下顎骨であることが判明した。

SX145（第 32 図、第 3 表、図版 14）

N 区の砂層で検出された楕円形を呈する獣骨出土遺構である。南側を幕末～明治の木製地下室遺構に切られていたため全容は不明。規模は残存長径 0.91m、短径 0.56 m、深さは 22㎝を測り、主軸方向は N 5° E を指す。西側は SK156 と接していた。骨の入った土ごと取り上げ、分析を依頼した。結果、骨種はウマで、土の中から歯の骨がまとまって出土した。

SK93（第 34・112 図、第 3 表、図版 15）

J 区で検出された円形に近い形状を呈する土坑で、直径約 1 m、深さ 96㎝を測る。上部を SK92 に切られていた。覆土は粒子の粗い暗褐色土を主体としていた。覆土からは南伊勢系と思われる羽釜破片、獣骨、弥生土器等が出土している。獣骨はウシあるいはウマとのことであった。遺構の廃棄年代は 14 ～ 15 世紀代と考えられる。

B　土坑

SX22（第 33 図、第 3 表、図版 15）

丁寧に作られた楕円形を呈する大型の土坑で、長径 3.94 m、短径 1.18 m、深さ 1 mを測り、主軸方向は N 5° E を指す。底面は水平面が狭く、壁は緩やかに開き気味に立ち上がる。覆土からは 8 点の遺物が出土した。中央部から石器が、北端部から中世の鍋が出土した。この 2 点は図示したが、それ以外はいずれも小片で縄文土器 1 点、弥生土器 2 点、中世と考えられる土器皿 2 点、礫 1 点であった。用途としては、墓壙の可能性を考えてしまうが、確証はない。

SX35（第 35 図、第 3 表、図版 16）

J 区の江戸遺構検出面で検出された土坑で、円形が推定される。周辺には混貝土層の貝堆積が数か所認められている。規模は直径 1.20 mが推定され、短径 1.02 m、深さ 77㎝を測る。覆土は 2 層に分層され、上層は粒子の粗い黒褐色土、下層は粘性の強い灰黄褐色土であった。土坑最上部から板碑と石製品が出土した。石製品は地輪の可能性があり、上面には水輪を載せるためか、若干の加工痕が認められる。出土遺物が覆土最上層からの出土であるため帰属についての断定は難しいが、土坑内出土遺物と判断した。帰属時期については、遺物から中世にまで遡る可能性がある。

C　遺物集中地点

SX100（第 35 図、第 3 表、図版 16）

M 区で検出された遺物集中地点で、東西に長い楕不明瞭な円形状の平面形態を持つ。貝堆積遺構である SX94 に切られ、縄文土坑である SX101 を切っていた。長径で 1.09 m、幅 0.54 m、深さ 27㎝程度を測る。掘り込みは西側で確認されたのみである。覆土の主体はやや軟質な黒褐色土で、C 層に類似していた。中近世の遺物集中地点と考えたが、それ以前の古い遺物集中地点と重なっていた可

能性も否めない。中世陶器、土師器、須恵器、軽石１点、種子８点等が出土している。

３　近世以降の遺構と遺物

本遺跡の主体となる時期である。圓福寺の伽藍を構成する遺構が多いと思われるが、多種多様の遺構が複雑に切り合っていた。遺物も極めて多量の瓦とともに多種多様のものが検出されている。また中世に構築された遺構と江戸時代に構築されたと思われる遺構が同一面上で検出されることも数多く確認されている。そのため遺構の変遷過程については、明確に把握できなかった。便宜的に分類した遺構種類別に述べていくが、複数の要素を持つものもあり、説明が前後してしまう遺構もあったことを先に述べておく。

A　地鎮遺構（第 36 図～第 38 図、第３表、図版 17 ～ 19）

Ｊ区で検出された江戸時代前期の地鎮遺構とＮ区で検出された明治時代の地鎮遺構と考えられる遺構が検出されている。時代も構造も大きく異なる。

SX32（第 36・37 図、第３表、図版 17・18）

今回の調査範囲のほぼ中央、Ｊ区で検出された遺構である。規模は確認面で南北 0.85m、東西 0.82m、底面で南北 74㎝、東西 72㎝、深さ 30㎝を測る。当初宝瓶と思われる銅製壺（第 36 図№１）の周りに土器皿数点が検出され（第 36 図№２）、特殊な遺構が埋設されていることが想定された。そのため宝瓶を中心に南北、東西方向に４分割のブリッジを設定し、土器皿の広がりを確認しながら慎重に広げていった。最終的に１連（20 枚）の土器皿が検出された。以下第 36 図については、図№を省略するが、土器皿は中心部に４枚（№２～５）、北東側に４枚（№６～９）、南東側に４枚（№10 ～ 13）、南西側に４枚（№ 14 ～ 17）、北西側に４枚（№ 18 ～ 21）が置かれていた。土器皿内には有機物や何らかの遺物が包含されている可能性があったため、気をつけながら土を取り除いた。その結果、土器皿の上には五色玉が配置されていたことが判明した。№ 22 は№５の土器皿の上に置かれていた黄色を呈する小石で、石材は流紋岩。北には黒色№ 30（安山岩）の小石が、東には№ 24 の青色（緑色凝灰岩）小石が、南には№ 27 の赤色（チャート）の小石が、西には№ 28 の白色（石英）の小石が配されていた。これらは陰陽五行説に則って配置されていることものと考えられる。宝瓶の蓋が閉まっているが、何らかの液体を入れていたものと思われる。この宝瓶には、紐で縛られたような痕跡が残っていた。

この土器皿群を取り上げると、規則的に配置された銅製品が８セット出土した。銅製品は薄い輪宝を約 14㎝の独鈷で貫通した製品である。独鈷は輪宝の上に出た部分は約 3㎝、輪宝の下の部分が約 11㎝であった。このことから輪宝を置いて上から打ち付ける橛ではなく、掘り方を掘って、そこに銅製品を設置したことが明確となった。覆土は７層に分層された。基調となるのは暗褐色土あるいは褐色土で、６層については、にぶい黄褐色土で、土層堆積の乱れが認められた。また４層には若干ではあるが焼土粒が含まれていた。全体に堆積は軟質であった。このことからも遺構内の遺物、土等が全く動いていないとは言えないことが判明した。遺存状態は良いのは間違いないが、自然営力を含めて後世の影響は受けているという調査者の実感を述べておきたい。

SX140（第 38 図・第 51 図・第 94 図、第７表、図版 19）

当遺構はＮ区の護摩堂基礎と考えられる礎石群の置かれていた布堀状の遺構（SX138 瓦溜り）に

埋め込まれた瓦を除けて、円形の掘り方を穿ち、陶器小甕を埋設した遺構である。掘り込みは確認面で南北 0.28 m、東西 0.31 m、底面で南北 0.23 m、東西 0.21m、深さ 19㎝を測った。甕蓋を開けたところ、蓋の内面には「1 升 100 ○」の墨書が認められた。また小甕内の北方向には銅棒が立ち、甕内には土の堆積とその上には液体の堆積が認められた。甕内の充填物の確認・処理には分析室の協力を仰がないと大切な情報を逃す可能性があったため早急に連絡し、出土位置等の記録後、小甕を取り上げ、分析室に運搬した。分析室で慎重に調査したところ、墨書紙、金糸や五重塔のミニチュアが収められていることが確認された。江戸時代の様相を強く残す小甕であるが、時期的には明治時代以降の所産と考えられる。この小甕について用途は述べられないが、甕内の遺物内容からも何らかの地鎮のためにここに埋設されたものと考えられよう。

B　礎石建物跡・礎石列・礎石（第 39 図～第 54 図、第 3 表、図版 20 ～ 31）

本遺跡からは多数の礎石建物跡が検出されている。礎石の構造も多種多様であったが、概観して 4 種類に大別した。A 類は、方形を基調とするいくつかの礫を置いた礎石建物跡である。上方が削平された可能性もあるが、比較的浅い。B 類は方形を基調とする穴を穿ち、大きめの礫を配置した後、土を固め、瓦あるいは礫で充填する。C 類は円形の穴を穿ち、大きな礫を配置した後、土を固め、その上に小形の礫を砂利状に充填したもの。D 類は円形の穴を穿ち、大きな礎石を底に埋設したもので規模により 2 種類に細分できる。なお礎石間の距離については、芯真法で記載している。また SB6 に関しては礎石とピットが混在しながら規則的に並んでいる。そのためここで扱うこととした。

SB 1（第 39 図～第 41 図、第 3 表、図版 20・21）

礎石は新古 2 段階に分類することができたが、主軸方向はほぼ一致していた。両者を合わせた SX52 の石組遺構まで入れた規模は南北 7.30 m、東西 7.50 mであった。南側に所在する SX52(石組遺構) の主軸方向はN 86°Wを指す。

新段階（第 39 図、第 3 表、図版 20）

A 類の方形を基調とする礎石建物跡の配列である。礎石の規模はおよそ 60cm 四方のものが多かった。SS92、SS94、SS95、SS96、SS97、SS98 の 6 基が該当し、規模は東西 6.15 m、南北 1.45 mを測る。主軸方向はN 86°Wを指す。東西石組遺構である SX52 の主軸方向と一致する。当礎石群は SX57 の瓦配管遺構や南北に走る SD19 、SD20 号遺構を切って構築されていた。SS97、SS96、SS118 は芯真法で 1.8 mの距離を測る。SS98 と SS95 は 3.60m、SS95 と SS92 の距離も 1.8 mを測る。SS97 と SS98、SS118 と SS95 の距離は 90㎝を測る。

また共通する遺構が北側の C 区、E 区からも検出されている。配置と検出面の同一性から SS91、SS93 も何らかの関連性があった可能性があるが、不明である。

SS92 は、瓦埋設遺構の SX57 を切って構築されていた。

古段階（第 39 図、第 3 表、図版 21）

円形を基本とする礎石建物跡の配列で、C 類である。SS117、SS100、SS113 と SS99、SS123、SS116 の 6 基で構成される。その規模は南北 2.85 m、東西 7.00 mを測り、主軸方向はN 82°Wを指す。当礎石建物跡は円形の穴を穿ち、底面に大礫を置き、暗褐色土を版築し面となし、その上に玉砂利を置く構造を持っている。SS117 と SS100 と SS113 の距離は約 3 mを測る。SS99 と SS123 の距離は約 2 m、SS123 と SS116 の距離は約 4 mを測る。SS113 と SS116 の距離は約 1.8m を測る。この南

北ラインを延長すると SS55、SS56 の瓦埋設遺構が所在するため、極めて関連性が高いものと考えられる。

SS99 からは永楽通寶等が出土しており、江戸前期まで遡る可能性がある。また SS93 と SS91 は類似した礎石で、1.9 mの距離を持つ。

SB2（第 42 図、第３表、図版 22・47）

M 区で検出された円形の掘り込みを持つ礎石建物跡で、D 類である。礎石は円形扁平な礎石を選択している。M 区及び L 区に広がる SX73（広域焼土跡）を除去すると、当礎石建物跡が検出され始めた。礎石建物の範囲は南北 4.45 m、東西 4.55 mとほぼ正方形を呈していた。礎石は規則性を持って配置され、礎石に沿って溝 (SD29) も穿たれていた。SD28 については、広域焼土跡である SX73 を切っており、礎石より新しく、礎石に伴っていない。SB2 掘立柱内で検出された井戸（SE32）についても、礎石より新しい可能性が高いものと思われる。

扁平な単独礎石を持つ礎石としては SS133、SS132A、SS129、SS131、SS136、SS130、SS128、SS132B、SS135、SS129 が規則的に配列されていた。SS133 と SS132 の距離は 2.20 mを、SS132 と SS129 との距離は 1.94 mを測る。東西方向については概ね同様の距離を持つ。南北方向に関しては、SS133 と SS131 が 0.95m、SS131 と SS130 が 0.95 m、SS130 と SS128 が 1.04 m、SS128 と SS144 との距離は 0.98 mを測った。ややずれて SS134 と SS136 が所在した。その距離は 0.70 mを測った。また礎石があるべき位置にピットが所在する例として、SP423，SP419、SP422，SP417，SP414，SP415 、SP416、SP420 があげられる。また SB2 の範囲内には SP417、SP420 が所在した。規模については遺構一覧表を参照されたい。SX73（古い焼土跡）直下で検出されたため本遺跡の礎石の中では古段階のものと考えている。以下 SB2 に関連する可能性のある遺構について述べておく。

SK129（第 42・116 図、第３表）

SB2 に関連する可能性のある礎石土坑で、上面に礎石である SS127 が所在し、底面にも礎石が検出された。覆土には焼土粒、炭が少量含まれていた。上面は風鎮杭に壊されていた。SP424、SS129 のライン上、SS129 の北側 2.30m に位置する。

SP414（第 42 図、第 83 図、第３表）

SS130、SP416 ラインに乗り、SS130 からは東に 1.80m の距離を持つ。覆土には焼土・炭を含む。

SP415（第 42 図、第３表）

SB2 の東西ライン、南北ラインに乗り、SS130 の東 2.25 mに所在する。

SP416（第 42 図、第３表）

SB2 の東西ライン、南北ラインに乗り、北側の SS129 とは 1.87 mを測る。覆土に炭・焼土を含む。

SP419（第 42 図、第３表）

SS144、SS133 ラインに乗り、SS133 の北側 1.05 mに所在する。

SP422（第 42 図、第３表）

SS132、SS135 ラインに乗り、SS132 とは南側に約 1 mの距離を持つ。

SP423（第 42 図、第３表）

SS135､SS132 ラインに乗り､SS132 の北側約２mに所在する。覆土には焼土・炭化物を含んでいた。

SP424（第 42 図、第３表）

SB2 の東西、南北ラインに乗り、SS144 とは東に 4.25m、SP416 とは約 1 mの距離を持つ。

SB 3（第 43 図、第 3 表、図版 23）

A 区で検出された SS9 と SK8 は門跡と捉えることができると判断した。芯真法で 2.70 mを測る。

SS9（第 43 図、第 3 表）

掘り方は長径 1.44 m、短径 1.14 m、深さ 60㎝を測る。礎石は長径 0.50 m、短径 0.37 mと大形のものであった。SK8 との距離は 2.70 mを測る。SK8 との主軸方向は、N 10° E を指す。大型 D 類である。

SK8（第 43 図、第 3 表、図版 23）

A 区で検出された掘り込みを持つ礎石である。礎石は底面に単独設置されていた。長径 1.74 m、現存短径 1.08 m、深さ 90㎝を測る。礎石は長方形を呈し、長径 40㎝、短径 25㎝を測る。北側の SK15 は木杭が残るピットで、SK8 と関連する遺構の可能性がある。また SS10D 及び SS7 とは直線上に並んでいる。SS10D との距離は 2.10 m、SSD10 と SS7 との距離は 1.90 mを測る。

SB3 は SS7、SS10D、SS10A、SS8 で 1 間 1 間の方形を形成するやや東西方向にやや長い礎石群を中心に、ライン上に礎石が展開したため、大きな範囲として捉えた礎石建物跡である。南北に 4.95 m、東西に約 2.50 mを測った。SS10 と SS8 の距離は 2.95 mを測った。直線状には並ぶが、礎石にレベル的な違いがあるため門跡と礎石建物は別の遺構の可能性が高い。SS9 と SK8 が門跡であるなら、絵地図とは照合しないため、それより古い段階で廃絶された可能性が高い。

SB4（第 44・45 図、第 3 表、図版 24 ～ 26）

E 区で検出された礎石群である。方形プランのものと楕円形プラン、円形プランの礎石があり、J 区同様方形プランが新しい。中央部は東西に大型配管が入っており、全容不明。また石組遺構である SS16、SS19 に切られている。本礎石建物跡は 7 － M・N 区、8 ～ 11 ―L ～ N 区に広がっている。礎石群の東側には、瓦埋設遺構である SS23 が所在する。この主軸は N 8° E で礎石群と同じであるため、一連の遺構として捉えられよう。A 類・B 類・C 類が混在している。

南北列①は SS21 と SS34 で構成される。

SS21（第 44・45 図、第 3 表、図版 24）

方形プランを呈する。大形の礫を配し、土と瓦で固めて、またその上に大型の礫を配置していた。磁器が 2 点、鬼瓦破片が 12 点以上出土している。

SS34（第 44・45 図、第 3 表、図版 26）

方形プランを呈し、大形の礫を配し、瓦を入れ込み、土を固め、さらに大型の礫を配置していた。北側の SS21 とは 3.70 mの距離を持ち、東側の SS35 とは約 1.8 mの距離を測る。

南北列②（方形あるいは楕円形プランを持ち、大礫の下に中礫を配するタイプ）で SS46、SS44、SS43、SS22、SS63 は南北に並ぶ。

SS46（第 44・45 図、第 3 表、図版 24）

SS46 は方形を呈し、方形の大礫の周りに小礫を配している。SS46 と SS44 の距離は 1.80 mを測る。

SS44（第 44・45 図、第 3 表）

楕円形の大礫の下に中礫が配されていた。SS44 と SS43 の距離は 2.00 mを測る。

SS43（第 44・45 図、第 3 表、図版 24）

方形を呈し、楕円形大型礫の下に中礫を配している。SS21 に隣接する。

SS22（第 44・45 図、第３表、図版 24）

礫が３段積み重なった礎石である。珍しいタイプの礎石なのか、他では上部が飛んでしまったのかは不明である。SS22 と SS63 の距離は 2.90 mを測る。

SS63（第 44・45 図、第３表、図版 24）

墨書のある大きな円礫による単独礎石の下に、大きな平石の周囲に小さな平たい礫が配されていた。墨書は○の中に大か、丸の直径は外側で 12.5㎝を測る。

南北列③（方形礎石）

南北列１に平行して約 0.7 m東には、SS48、SS31、SS32、SS36、SS62 が並ぶ。

SS48（第 44・45 図、第３表）

大礫を中心に中礫が配されていた。SS31 との距離は約２mを測る。

SS31（第 44・45 図、第３表）

大礫を中心に中礫が配されていた。SS32 との距離は 1.80 mを測る。

SS32（第 44・45 図、第３表、図版 27）

方形プランを呈する。中礫の下に多量の瓦、瓦の下に大礫を中心に７点の礫を配していた。方形壁外に粘土を貼り付けている。

SS35（第 44・45 図、第３表、図版 25）

方形プランを呈し、大礫を中心に９点の中礫を配し、土を固め、その上に多量の瓦を敷いていた。

これら SS21、SS32、SS34、SS35 で南北 3.60 m、東西 2.00 mの建物礎石の主体的な礎石であった可能性が考えられる。主軸方向はＮ７°Ｅを指す。

SS62（第 44 図、第３表、図版 25）

方形を呈し、扁平な礫を９点整然と並べ、周囲には粘土の堆積が認められた。北側の SS35 とは 1.80 mの距離を測る。扁平な礫を。覆土からは江戸時代の土器が５点出土している。

南北列④は SS41、SS56、SS55 で構成される。

SS41（第 44・45 図、第３表）

円形の穴を穿ち、底面に円礫を設置している。SS56 とは 4.70 mの距離を持つ。

SS56（第 44 図、第３表）

円形の穴を穿ち、瓦を充填し、大型の礎石を設置している。

SS55（第 44 図、第３表）

楕円形を呈するやや小型の礎石である。

南北列⑤は SS66、SS65、SS30、SS40，SS54 で構成される。

SS66（第 44・45・53・91 図、第３表）

一部Ｇ区にまたがる。大きな楕円形礎石の周囲に小礫、その下に多量の瓦を配置。

SS65（第 44・45 図、第３表）

円形の穴を穿ち、大礫を設置してから砂利入れ込み。北側 SS66 とは距離 1.00 mを測る。

SS30（第 44・45 図、第３表、図版 26）

円形の穴を穿ち、大型礫を設置してから、小砂利を版築。東側の SS40 とは 1.90 mの距離。

SS40（第 44・45 図、第３表、図版 26）

円形の穴を穿ち、中央に大礫を設置し、周囲に中礫を詰め、その上に砂利を入れる。

SS54（第 44 図、第３表）

大型礫の周りに中形礫を配置、SS40 とは 3.90 mを測る。

南北列⑥は SS26-1、SS61、SS28、SS59、SS39 で構成される。

SS26-1（第 44・45・57 図、第３表、図版 26）

中央に大礫を設置する。SS61 とは、1.30 mの距離を持つ。

SS61（第 44 図、第３表）

中央に大礫を設置する。

SS28（第 44・45 図、第３表）

方形の穴を穿ち、礎石を設置。SS59 とは、3.30 mを測る。

SS59（第 44 図、第３表）

楕円形の穴を穿ち、大礫を設置。SS39 とは、1.40 mの距離を持つ。

南北列⑦は SS24、SS16-1、SS17-1、SS33-1、SS52 で構成される。

SS24（第 44・45・64 図、第３表）

江戸時代の溝である SD6 を切る。楕円形の穴を穿ち、大礫を設置。SS16-1 とは 0.90 mの距離を持つ。江戸磁器３点、土師器１点等が出土している。

SS16-1（第 44・45 図、第３表）

隅丸長方形の比較的大きな穴を穿ち、楕円形の大礫を中央に周囲に中礫を配置。東側の SS17-1 とは 1.80 mを測る。

SS17-1（第 44・45 図、第３表）

円形の穴を穿ち、中央に大型の長方形礫を、周囲に中礫を充填する。SS33-1 とは 3.85 mの距離を持つ。

SS38-1（第 44・45 図、第３表）

楕円形の穴を穿ち、楕円形の大型礫を中心に、周囲に中礫を充填する。

SS52（第 44・45 図、第３表）

隅丸方形に近い形状を呈する。

東西列は５列認められた。

東西列①は SS45、SS46、SS20-3、SS48、SS66 が並び、SS46、SS48 については記述済である。

SS45（第 45・45 図、第３表）

SB4 の北西端部の礎石で、６点以上の礫で構成される。SS46 との距離は 1.30 mを測る。

SS46（第 44・45 図、第３表）

隅丸方形を呈し、大型の礫の下に中形の礫が設置されていた。

SS20-3（第 44・54 図、第３表）

礎石は６点で、３カ所に分かれて分布。全体の範囲は最大 2.20 m、0.90 mに及ぶ。

東西列②は SS49、SS65、SS26-1、SS24 が並び、SS49 以外は記述済である。B 類あるいは C 類である。

SS49（第 44・45 図、第３表）

円形の穴を穿ち、底面に大礫を設置した後、砂利を入れ込んでいる。

東西列③は SS44、SS31、SS30、SS27、SS25、SS16-1 が並び、SS27、SS25 以外は記述済である。

SS27（第 44 図、第 3 表）

焼土を含む瓦層を版築している。磁器が 1 点出土している。

SS25（第 44 図、第 3 表、図版 26）

版築された瓦層が認められた。東側の SS16-1 との距離は、1.50 mを測る。

東西列④は SS50、SS41、SS29，SS28 は並び、SS41、SS28 は記述済である。

SS50（第 44・45 図、第 3 表）

方形の穴を穿ち、底面に大礫を置き、上に砂利層を充填する。構造的には北側の SS49 と類似する。距離は 2.30 mを測る。

SS29（第 44・45 図、第 3 表）

隅丸方形の穴を穿ち、礫を 3 点置く。

東西列⑤は SS21、SS32、SS40、SS17-1、SS58 は並び、SS58 以外は記述済である。

SS58（第 44 図、第 3 表）

瓦埋設遺構である SS23 とは同一面検出で、隣接していた。多量の礫が配置され、西側の SS17-1 とは、1.8 mの距離を持つ。覆土からは軒丸瓦、丸瓦等が出土している。

東西列⑥は SS22、SS36、SS57 は並び、SS22 については、記述済である。

SS36（第 44 図、第 3 表）

割れた方形の単独礎石で、北側をカルバート管に切られる。西側の SS22 との距離は、1.40 mを測る。

SS57（第 44・117 図、第 3 表）

SX18 の最上層で検出された礎石で、礫が 3 点以上出土した。

東西列⑦は SS42、SS34，SS35、SS37、SS33-1 が並び、SS42 以外は記述済である。

SS42（第 44・45 図、第 3 表）

SB4 南西端部の礎石か。方形の穴を穿ち、中央に長方形の大礫を置き、周囲に中礫を配している。

SS37（第 44 図、第 3 表）

楕円形を呈し、礫を数点置いている。西側の SS56 との距離は、1.80 mを測る。

東西列⑧は SS63、SS67、SS64、SS55，SS54、SS53，SS52 は並ぶ。SS67、SS64、SS53 以外は記述済である。

SS67（第 44 図、第 3 表）

大礫の周りに中礫が配されている。SS64 とは接し、西側の SS63 とは、2.20 mの距離を持つ。

SS64（第 44 図、第 3 表）

中央の大礫の周囲に中礫が配されている。東側の SS54 との距離は、2.40 mを測る。

その他、列に乗らない礎石として、SS17-2、SS18、SS38、SS60、SK44 が SB4 の範囲内に所在する。第 3 表遺構一覧表を参照されたい。範囲内のピットとしては、SP136、SP137,SP138 があり、SP136 の覆土内には焼土が認められた。また SX18 は井戸であった可能性のある土坑である。

SB5（第 46・47 図、第 3 表、図版 27）

C 区で検出された礎石群で、最大で東西に 13.80 m、南北に 7.20 mを測る。主軸方向は N86° W

を指す。方形プランのものと円形プランの礎石があるが、J区のようなプランによる明確な差を見出すことができない。そして両者ともに同じラインに乗っているため、明確な建物配置を想定できなかった。推定ではあるが、礎石建物跡が３棟以上建っていた可能性がある。SB04 同様ラインごとに述べていきたい。

東西列①では SSS1-5、SSS1-4、SSS1-3，SSS1-2、SSS1-1 が並ぶ。

SSS-1-5（第 46・47 図、第３表）

隅丸長方形の掘り込みに数点の礫が配されている。SSS1-4 とは接している。

SSS-1-4（第 46・47 図、第３表）

楕円形に穴を穿ち、大礫の周辺に中礫を配している。SSS1-3 とは 0.90 mの距離を測る。

SSS1-3（第 46・47 図、第３表）

楕円形に穴を穿ち、大礫の周辺に中礫を配している。SSS1-2 とは 0.90 mの距離を測る。

SSS1-2（第 46・47 図、第３表）

不整楕円形の掘込みの中央に大型の礫を配し、周囲に中形の礫を置いていた。東側の SSS1-1 とは 4.50 mの距離を測る。

SSS1-1（第 46・47 図、第３表）

方形の穴を穿ち、中央に大礫を周囲に中礫を配している。

東西列②では SSS2-7、SSS2-6、SSS2-5、SSS2-4、SSS2-2、SSS2-1 が並ぶ。

SSS2-7（第 46・47 図、第３表）

方形の掘込みに瓦礫を充填している。SSS2-6 とは、0.90 mの距離を測る。

SSS2-6（第 46・47 図、第３表）

方形の掘込みの中央に大礫を､周囲に中礫を配している。東側の SSS2-5 とは 2.20 mの距離を持つ。

SSS2-5（第 46・47 図、第３表）

方形の掘込みの中央に大礫を､周囲に中礫を配している。東側の SSS2-4 とは 2.40 mの距離を持つ。

SSS2-4（第 46・47 図、第３表）

方形に近い掘込みの中に礫を配す。東側の SSS2-2 とは 1.80 mの距離を持つ。

SSS2-2（第 46・47 図、第３表）

方形に近い掘込みの中に礫を配す。東側の SSS2-1 とは 1.80 mの距離を持つ。

SSS2-1（第 46・47 図、第３表）

楕円形の掘込みの中央に大礫を、周囲に中礫を配する。

東西列③では SSS3-3、SSS3-2、SSS3-1 が並ぶが、他の礎石列とは異なり、平面形態が円形に近い形状を呈すること、主軸方向も異なり、N 83° W を指す。

SSS3-3（第 46・47 図、第３表）

円形の掘込みに礫を数点配置する。

SSS3-2（第 46・47 図、第３表）

ほぼ円形の掘り込みに礫を配置する。東側の SSS3-1 とは約３mの距離を持つ。

SSS3-1（第 46・47 図、第３表）

ほぼ円形の掘り込みに礫を配置する。

東西列④では SSS4-4、SSS4-3、SSS4-2、SSS4-1 が並ぶ。これらの礎石列に関しては、平面形態の確認が不明瞭であった。

東西列⑤では SSS5-7、SSS5-6、SSS5-5、SSS5-4、SSS5-3、SSS5-2、SSS5-1 が並ぶ。

SSS5-7（第 46・47 図、第３表）

方形に近い形状の掘込みに礫を配する。東側の SSS6-5 とは約 2.70 mの距離を持つ。

SSS5-6（第 46・47 図、第３表）

方形に近い形状の掘り込みに礫を配する。東側の SSS5-5 とは、約 1.80 mの距離を測る。

SSS5-5（第 46・47 図、第３表、図版 27）

方形の掘り込み中央に大礫を配し､周囲に中礫を配する。東側の SSS5-4 とは､約 1 mの距離を持つ。

SSS5-4（第 46・47 図、第３表、図版 27）

方形の掘り込み中央に長方形の大礫を置き、周囲に中礫を配する。東側の SSS5-3 とは 1.80 mの距離を測る。

SSS5-3（第 46・47 図、第３表）

方形の掘り込みの中に礫を配する。東側の SSS5-2 とは、約 1.8 mの距離を測る。

SSS5-2（第 46・47 図、第３表）

方形の掘り込みのほぼ中央に大礫を置き、周囲に中礫を配している。東側の SSS5-1 とは、約 2.1 mの距離を測る。

SSS5-1（第 46・47 図、第３表）

不明瞭な掘り込みの中に礫が配されていた。

東西列⑥では SSS6-6、SSS6-5、SSS6-4、SSS6-3、SSS6-2、SSS6-1 は並ぶ。

SSS6-6（第 46・47 図、第３表）

ほぼ円形の掘り込みの中に礫を配する。東側の SSS6-5 とは 1.10 mの距離を持つ。

SSS6-5（第 46・47 図、第３表）

ほぼ円形の掘り込みの中に礫を配する。東側の SSS6-4 とは 1.80 mの距離を持つ。

SSS6-4（第 46・47 図、第３表）

方形の掘り込みの中に礫を配する。東側の SSS6-3 とは 1.80 mの距離を持つ。

SSS6-3（第 46・47 図、第３表）

方形の掘り込みの中に礫を配する。東側の SSS6-2 とは 1.80 mの距離を持つ。

SSS6-2（第 46・47 図、第３表）

方形と推定される掘り込みの中に礫を配する。SSS6-1 とは約 4.7 mの距離を測る。

SSS6-1（第 46・47 図、第３表）

ほぼ円形の掘り込みの中に礫を配する。SD4 を切っている。

南北列は最東端の SSS5-1 と SSS6-1 を加えると 12 本のラインを数えるが、SSS7、SSS2-3 を除いて全ての礎石が東西ラインに乗っているため、SSS7、SSS2-3 関連以外の記述は割愛する。

南北列⑨では SSS2-3、SSS3-1、SSS6-2 は並ぶが、SSS2-3 は東西ラインからは北にずれた位置で検出されている。

SSS2-3（第 46・47 図、第３表）

東西ラインから北側にずれた位置で検出されている。平面形態は方形を呈し、深さは 16cm を測る。南側の SSS3-1 との距離は、2.10 mを測る。

SSS7（第 46・47 図、第３表）

楕円形の掘り方の中に礫を配置する。また SB5 とは関連しないと思われるが、掘り込みを持つ礎石（SK24）が検出されている。

SB6（第 48・122・123 図、第３表、図版 28）

H 区で検出された礎石群とピット群である。検出面が砂層であるため、大幅な削平を受けた可能性があり、礎石群のみでの明確な規則性は読み取れていないが、一部の土坑やピットを合わせて考えると、何らかの建物の基礎である可能性は高いものと思われる。これらの広がりは、最大長 11.25 m、最大幅 8.15 m、主軸方向はＮ 9° E を指す。以下主に礎石と礫の入っていた土坑等特徴的な遺構について記述する。

SS76（第 48 図、第３表）

円形に近い形状の掘り込みに、大礫、中礫を配置する。北側の SS77 とは約 2.30 mの距離を持つ。

SS77（第 48 図、第３表）

円形に近い形状の大礫が置かれていた。北側の SS78 とは 1.55 mの距離を持つ。

SS78（第 48 図、第３表）

隅丸方形に近い形状を呈し、大型の礫が配置される。SS79 とは約 1.20 mの距離を持つ。

SS79（第 48・54 図、第３表）

隅丸方形に近い形状を呈し、大型の礫が配置される。

SS80（第 48 図、第３表）

H 区で検出。隅丸長方形の掘り込みを持つ土坑の覆土上位に平石を配する。

SS81（第 48 図、第３表）

円形に近い形状を呈し、大礫を配する。

SK69（第 48 図、第３表）

H 区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、SP203、SP204 と並ぶ。覆土からは磁器が出土している。東側の SP203 とは約 1.30 mの距離を持つ。

SK74（第 48 図、第３表）

円形を呈する土坑の上面に長径 30cm の礫が配されていた。東側の SP232 とは 1.80 mの距離を測る。

SP208（第 48・123 図、第３表）

隅丸方形を呈する掘り込み内の上面に礫を配する。礫を持つ SK74 とは約 2.80 m、北側の SS79 とは 1.10 m、東側の SS77 とは 1.50 mの距離を持つ。

SP217（第 48・123 図、第３表）

楕円形状の掘り込みの覆土上部から小礫が出土。西側の SP212 とは約 0.90 mの距離を測る。

SP228（第 48 図、第３表）

隅丸方形の掘り込みに礫が 2 点配されている。北側の礫を持つ SS79 とは 3.50 mの距離を測る。

SP232（第 48・122 図、第３表）

上部に礫と瓦が散布し、下位にピットが認められた。SS78 とは 2.70 mの距離を持つ。SP232・SS78 ラインと SS78・SS76 ラインとは直交し、主軸方向は N13 ° W を指す。規模は南北 3.85 m× 東西 2.70 mを測る。

SP239（第 48・122 図、第 3 表）

楕円形に近い掘り込みを持ち、深さは 56㎝を測った。北側の SP238 とは 1.10 m、東側の SK70 とは約 2 mの距離を測る。その他のピット等については一覧表を参照のこと。

N 区礎石群（第 49・50 図、第 3 表、図版 29 ～ 31）

N 区で検出された礎石群で 4 群に分類される。SB07 は近世以降に帰属する煉瓦を含む礎石群で、SB8 は護摩堂に関する礎石群と考えられる。SB09 は円形の掘り込みを持ち、底面に根石を置くタイプの礎石群である。また SB10 は対を成す門の可能性のある大型の礎石群である。

SB7（第 49・50 図、第 3 表）

N 区で西側で検出された N18° E を指す礎石群で、その範囲は 9.50 m× 1.80 mに及ぶ。基本的に盛土を除去した段階で検出された礎石群である。掘り込み内には煉瓦の入った礎石もあり、時期的には近代に構築されたものと考えられよう。近代であるため個別の説明は割愛する。遺構一覧表を参照いただきたい。

SB8（第 49・51 図、第 3 表、図版 29・30）

N 区の SX138 瓦溜り（布堀状）の瓦を取り上げると、その底面から主に 2 点を 1 セットとした礎石が検出され始めた。SS166 が最初に検出された礎石である。2 点が 1 セットになる礎石は、本礎石建物跡のみである。極めて特徴的な構造であり、中には同一個体の礎石をわざわざ割って 2 つにした可能性の高い礎石も存在した。SS176 と SS193 である。このことが建築学的な様相を表しているのか、宗教的な様相なのかについては不明である。ただし端部と思われる礎石は方形を呈するやや大きめの単独礎石であった。これら礎石群は、絵地図によると「護摩堂」とされている。

南北についてはおそらく約 9.3 mを測るものと思われるが、東西については東側が広範囲に削平を受けていたことから不明と言わざるを得ない（KR9）。現状で 5.40 mを測った。主軸方向は N 10° E を指し、A 区の SB3、H区の SB6 とほぼ一致し、E 区の SB4、M区の SB2 とも近い値を呈することが判明した。以下北側の礎石から述べていきたい。

SS171（第 49・51 図、第 3 表、図版 29）

当礎石建物跡の北西角石と考えている。正方形を呈し、南側の SS172 との距離は 1.05m を測る。石材は凝灰岩と思われる。

SS172（第 49・51 図、第 3 表、図版 29）

2 点礎石で、1 点が三角形状、1 点が台形状を呈する。南側の SS193 との距離は、0.90 mを測る。石材は凝灰岩と思われる。

SS193（第 51 図、第 3 表、図版 30）

割られた 2 点礎石で、円形基調の礫を用いていた。石材は安山岩で、南側の SS173 とは約 1.1m を測る。

SS173（第 49・51 図、第 3 表）

2 点礎石で 1 点は円形を 1 点は長方形を呈する。石材は円形のものが安山岩、長方形のものが溶

結凝灰岩であった。南側の SS169 との距離は、約 1 mを測る。

SS169（第 49・51 図、第３表）

SS174 の上で検出された長方形の礫で、長径 30㎝、短径 25㎝を測る。SB8 の礎石ではない可能性が高い。

SS174（第 49・51 図、第３表、図版 30）

SS174 の下で検出された散石状の礎石で、同様の SS175 も散石状であるが７、８点の礫が東西に置かれている。南側の SS175 との距離は約 0.90 mを測る。

SS175（第 49・51 図、第３表、図版 30）

４、５点の礎石で構成される。主体の礫は 25㎝を測る。南側の SS176 との距離は 1.15 mを測る。

SS176（第 49・51 図、第３表、図版 30）

割られたあるいは割った結果の２点礎石で、本来は円形基調の礫を用いていた。石材は安山岩で、斫の痕跡及び柱が置かれていた痕跡が想定できる。直径 15㎝程度であろうか。南側の SS177 との距離は約 0.80 mを測る。

SS177（第 49・51 図、第３表）

２点礎石で、本来は楕円形状の礫であった可能性が高い。南側の角石である SS186 との距離は 0.80 mを測る。

SS186（第 49・51 図、第３表、図版 30）

角石と南側の小礫２点を含んだ範囲は 0.57m × 0.47m で、角石自体は 50㎝× 36㎝を測る。東側の SS187 との距離は 1.00 mを測る。

SS187（第 49・51 図、第３表、図版 30）

南側の礎石は布堀状の瓦溜りである SX141 の底面に置かれていた。SS187 は別個体の２点礎石で、30㎝前後の礫を使用している。東側の SS188 とは 0.90 mの距離を測る。

SS188（第 49・51 図、第３表、図版 30）

別個体の２点礎石で、33㎝の長方形礫と 37㎝の三角形礫で構成される。東側の SS182 とは、0.90 mの距離を持つ。

SS182（第 49・51 図、第３表、図版 30）

別個体の２点礎石で、32㎝の長方形礫と 36㎝の三角形礫で構成される。東側の SS178 とは、0.95 mの距離を持つ。

SS178（第 49・51 図、第３表、図版 30）

別個体の２点礎石で、27㎝の三角形状の礫と 30㎝の楕円形礫で構成される。東側の SS179 とは１.00 mの距離を測る。

SS179（第 49・51 図、第３表、図版 30）

別個体の２点礎石で、27㎝の三角形状の礫と 40㎝大の楕円形礫で構成される。東側の終わりには方形礫の存在が想定されるため、少なくともう１基の礎石はあったものと思われる。９間６間の建物であった可能性がある。また SS187、SS188 の内側にも SS180、SS181 の礎石が存在したが、SB8 より古い礎石の可能性がある。これら個別の計測値については、一覧表を参照願いたい。

SB9（第 49・51 図、第３表、図版）

N区で検出された掘り込みを持つ、根石と考えられる礎石を持つ一群を一括した。D類が主体である。他の遺構に切られて消失してしまった場合多いものと思われる。規模はSS184・SS185・SS192・SK153の主体部で東西2.40 m、南北1.20 mを測り、南側のSS191まで入れた最大の広がりを想定すると5.40 m×4.00 mとなる。時期的にはSB7、SB8よりも古いものと考えられる。SK153は礎石より新しい可能性が高い。

SS184（第49・52図、第3表、図版31）

底面に円形の根石を持つ礎石で、直径約40㎝、深さ43㎝を測る。北側のSS192とは0.75 mの距離を測る。

SS185（第49・52図、第3表、図版31）

円形の根石を持つ礎石である。円形の土坑であるSK153に切られていた。東側に所在するSS192とは1.95 mの距離を測る。

SS192（第49・52図、第3表）

円形の掘り込みを持ち、溶結凝灰岩の礎石が重なって置かれていた。西側のSS185との主軸方向は、N 77°Wを指す。

SS189（第49・52図、第3表）

SP484に切られていた。覆土には焼土を含み、扁平な礎石が底面より浮いた位置で検出されている。

SS191（第49・52図、第3表）

覆土には焼土を含み、扁平な礎石が底面より浮いた位置で検出されている。

SB10（第49・52図、第3表、図版31）

SS190とSS195の対をなす礎石遺構と考えられる。礎石間の距離は2.95 mを測る。主軸方向はN 7°Eを指し、E区のSB4と一致し、SB2，SB6、SB8とも近似した値を示した。大型D類である。

門跡と仮定するならば、斜面下から上がってくる位置に、護摩堂と考えられる東側の礎石と仮定するならば、斜面地対策として堅牢な礎石を設置したこととなる。

SS190（第49・52図、第3表、図版31）

SS194に北側を切られていた。他の礎石と比較して極めて大きく、確認面で長径1.15m、短径0.90 m、深さも80㎝を測った。礎石の規模は長径57㎝、短径40㎝を、厚さ10cm以上を測った。安山岩と思われる。覆土は柱痕部とその外側とでは大きく異なっていた。柱痕部では瓦が多量に含まれるやや軟質な土層であり、外側は粘土ブロックを含むにぶい黄褐色を呈するやや硬質な土層であった。上端に近い壁際には杭痕が認められた。

SS195（第49・52図、第3表、図版31）

円形の礎石で、直径0.85 m、深さ85㎝を測る。礎石自体も円形を呈し、直径50cm、厚さ15㎝以上を測った。礎石は水の影響と風化からか、極めて崩れやすく、ボロボロと崩れ、取り上げることができなかった。花崗岩と思われる。SS190同様、上端に近い壁際には、杭痕が認められた。

SS194（第49・52図、第3表、図版31）

SS190を切って構築されていた。根石を持つ礎石である。長径0.51 m、短径0.40 m、深さ58㎝を測る。覆土は粘土ブロックと炭を若干含む褐色土で、底面に小さめの礎石が所在した。

その他の礎石（第53・54図、第3表）

礎石建物と捉えることができなかった礎石も多出しており、特徴的な礎石を中心に述べておく。

SS4-1（第 53 図、第３表）

Ｂ区で検出された。扁平な大礫の下には焼土がその下には瓦の堆積が認められた。江戸時代の遺物が多出した。覆土は軟質で、焼土粒が若干含まれていた。南側の SS4-2 との距離は 1.90 ｍを測る。

SS4-2（第 53 図、第３表）

Ｂ区で検出された。礫は２点検出され、礫の下からは瓦が出土した。

SS5（第 53 図、第３表）

Ｂ区で検出された。覆土には焼土が含まれ、陶磁器、土器、瓦、金属製品が出土している。

SS11（第 53 図、第３表）

Ａ区で検出された隅丸方形を呈する礎石で、礎石は変形五角形を呈する。

SS12（第 53 図、第３表）

Ａ区で検出された礫集中と礎石２点である。

SS14（第 54 図、第３表）

Ｄ区で検出された礎石群で、３基を数える。Ｌ字状を呈する。

SS18（第 44・54 図、第３表）

Ｅ区で検出された礎石で、掘り方は楕円形を呈する。陶磁器、土器皿が出土している。

SS71（第３表、図版 28）

Ｇ区で検出された大きな円礫による単独礎石で、掘り方の平面形態は隅丸方形を呈する。江戸時代の土器が１点出土している。

SS75（第３表、図版 28）

Ｇ区で検出された掘込を有する礎石で、大礫の周囲には板状に亘った礫が周囲に配されていた。土器皿破片が１点出土している。

SS110（第 54 図、第３表）

Ｋ区で検出されたピットの底に礎石を持つ遺構である。ミニチュア陶器等が出土している。

SK62（第 54 図、第３表）

Ｆ区で検出された。扁平の礫を２つ並べ、周囲にも礫を配置する。長径 1.02 ｍ、短径 0.78 ｍ、深さ 24㎝を測る。上面には角礫に混ざって瓦、陶磁器、土器が若干出土している。

SK67B（第 53 図、第３表、図版 28）

Ｇ区で検出された SK67A の焼土排除後に現れた礎石列である。掘り込みを有していた。礫はほぼ等間隔に５点配置されていた。西から礫間隔はおよそ１ｍ、１ｍ、0.9 ｍ、１ｍを測る。

SP372（第 39・124 図、第３表、図版 105）

Ｊ区で検出された垂直に立ち上がる壁を持ち、底面に大礫を配置した礎石である。覆土は粘土ブロックを含む暗褐色土であった。検出位置に明確な規則性は見つけられなかった。土器皿、金属製品等が出土している。

Ｃ　石組遺構（第 55・57 図、第３表、図版 32）

石垣状に石を組み立てたものや間知石を並べたものを石組遺構とし、溝状の遺構の中等に礫を敷き詰めたように置いた遺構を礫集中遺構とした。

SS1（第 55 図、第 3 表、図版 32）

B 区で検出された南北方向の石組遺構である。構築は江戸時代まで遡る可能性があるものと考えている。現存長 9.03 m、後世の手が加わっているものと考えられる。最大 3 段で天端石が 2 段構築されている箇所もあった。また土を挟んで小形の礫を敷石状に配して根固めしていたような状況が認められた。最大で 67㎝の高さを測った。

SS3（第 55 図、第 3 表、図版 32）

B 区で検出された東西方向の間知石の石組遺構である。扁平でやや小さめの間知石が 9 点確認できる。現存確認長 2.82 m、幅 0.48 m、深さは 20㎝程度を測り、主軸方向はN 83°Wを指す。

SS19（第 44・45・55・64 図、第 3 表、図版 32）

E 区で検出された南北方向の石組溝である。中央部を配管で切られており、全容は不明。現存最大長 9.50 m、幅 1.25 m、深さ 45㎝を測り、主軸方向はN 5 ° E を指す。覆土には煉瓦が入っているが構築は幕末まで遡る可能性がある。陶磁器、土器、瓦、金属、銭貨、骨角、ガラス製品、石製品と多種類の遺物が出土している。

SX52（第 39 ～ 41、56 図、第 3 表、図版 33）

J 区で検出された東西方向に走る石組遺構で 2 段積みであった。途中で礫は途切れるものの東西長 7.68 m、南北 0.66 m、深さ 1 .00 mを測り、主軸方向はN 86°Wを指す。掘り方覆土はにぶい黄褐色土をベースとし、焼土粒を僅かに含む場合があった。掘り方の一部は基盤である砂層にまで達していた。33 点の礎石の石材は緑色凝灰角礫岩であった。出土遺物には 19 世紀代の陶磁器小片が多かった。掘り方からは 500 点以上の瓦が出土していた。北側に広がる SB1 礎石建物跡の新段階礎石群と関連するものと考えられる。比較的長期間に亘り使用されていたのではないかと想定される。

SX53（第 56 図、第 3 表、図版 33）

J 区で検出された間知石 3 点の遺構である。長径 1.02 m、短径 0.22 m、深さ 16㎝を測り、主軸方向はN 64°Wを指す。間知石の下には瓦が所在しており、卍文のものもあった。

SX64（第 56 図、第 3 表）

K 区で検出された石組遺構で、長径 2.49 m、幅 0.25 mを測り、主軸方向はN 6 ° E を指す。近代以降に帰属するものと考えられる。

SX122（第 58 図、第 3 表、図版 36）

N 区で検出された長方形を呈する石組遺構である。長径 0.52 m、幅 0.16 m、高さ 10㎝を測る。石材は溶結凝灰岩と思われる。

D　礫集中遺構（第 20・43・44・57・58 図、第 3 表、図版 32・34 ～ 36）

SS2（第 57 図、第 3 表、図版 32・34）

B 区で検出された南北方向の礫集中遺構である。現存確認長 8.12 m、幅 1.00 mを測り、主軸方向はN 10° E を指す。出土遺物は江戸時代の磁器、陶器、土器が主体であるが、明治以降の染付便器破片やガラス製品が僅かではあるが出土している。

SS6（第 43・57 図、第 3 表、図版 34）

A 区で検出された礫集中遺構で、SB3 の南東側に位置する。溝状の掘り込みの中に、角礫、円礫が充填されていた。溝の現存長径は 3.75 m、幅 1.35 m、深さ 36㎝を測り、主軸方向はN 3 ° E を指す。

SS13（第 57 図、第３表、図版 34）

A 区調査区北壁にかかって検出された礫集中で、瓦及び礫が多量に敷き詰められている。長径 0.78 m、短径 0.72 mを測る。

SS16-2（第 44・57 図、第３表、図版 34・35）

E 区で検出された南北に走る礫多出の遺構である。現存最大長 4.65 m、幅 0.95 m、深さ 0.38 m を測り、主軸方向はＮ 4° E を指す。礫に混ざって石臼も出土している。

SK44（第 44 図、第３表）

E 区で検出された礫集中で、長径 1.60 m、短径 0.64 mの楕円形の範囲に大礫を多く設置していた。位置的には同様の礫集中である SS162-2 の延長線上に所在する。覆土からは硯が出土している。

SX30（第 57 図、第３表、図版 35）

G 区で検出された土坑の底面に礫が敷かれたような状況で検出された遺構で、北側を SX29 に切られている。全体の規模は東西長 3.00 m、南北長 1.40 m、深さ 18㎝を測る。中心は礫の分布する長径 1.30 mの範囲と考えられる。円礫が多い。直近から板碑破片が 1 点出土している。また出土した陶器の底部も中世に帰属する可能性があるが判然としないため、ここで報告する。

SX71（第 20・82 図、第３表、図版 35）

L 区で検出された礫集中遺構で、隅丸長方形を呈し、焼土跡である SX84 を切っていた。長径 2.05 m、短径 1.32 m、深さ 78㎝を測る。100 点以上出土した礫の多くは杭で支えられていた。

SS168（第 49・58 図、第３表、図版 36）

N 区中央北寄りで検出された礫集中遺構で東西方向に伸びていた。現存長径 7.25m、短径 0.85 m、深さ 30㎝を測り、主軸方向はN 78°Wを指す。同様の遺構である西側の SX109 まで加えるとその長さは 7.25 mになる。

SX109（第 49・58 図、第３表、図版 36）

N 区西壁際で検出された大形の礫による集中遺構である。平面形態は円形より方形に近い。西側は調査不可能であるため、全容は不明。東西長 1.01 m、南北長 1.51 mを測る。東側に所在する SS168 とは共通性が高く、本来はつながっていた可能性がある。両遺構の中間に位置する SS146 についても同様の遺構である可能性がある。

SX123（第 58 図、第３表、図版 36）

N 区で検出された礫集中遺構で、西側は瓦溜りである SX129 と接していた。方形を呈し、長径 1.35 m、短径 1.25 m、深さ 19㎝を測る。覆土は粘性の強い暗褐色土で、礫が 45 点程度含まれていた。陶磁器、土器、瓦が出土している。

E　木組遺構（第 59 ～ 61 図、第３表、図版 37 ～ 39）

多種多様な木組遺構が検出されている。木材を使って作られている遺構を一括した。規模も桶状の小さな遺構から、土蔵や芥溜りと考えられる大形の遺構まで様様である。

SX5（第 59 図、第３表、図版 37）

A 区で、土蔵基礎の可能性のある杭列が長方形状に検出されている。東側は調査区外であるため全容は不明。遺構検出面の標高は 3.35 mを測り、盛土から 1.50 m以上下がった位置で検出されている。現状で杭の外側の規模は南北で 6.95 m、東西で現存長 3.50 mを測る。杭は約 60 本が検出され、杭

の長さは最長 1.35 mを測る。主軸方向はN 7° E を指す。

SX20（第 59 図、第 3 表）

F 区で検出された木箱で、木組遺構である SK59 を切っていた。上端直径 36㎝、下端 24㎝、高さは 18㎝を測る。

SK59（第 59 図、第 3 表、図版 37）

F 区で検出された木製枡の遺構で、一部を SX20 に切られていた。覆土は黄色粘土で、上部には瓦が認められた。覆土からは磁器破片が 1 点、海鼠瓦が 1 点出土している。

SX23（第 60 図、第 3 表、図版 38・44）

H 区で検出された木組遺構で、芥溜りと考えられる。杭を打ち、木製の横板 3 段を杭の外側に回していた。その範囲は南北 4.80 m、東西 2.70 mに及ぶ。杭は支えを除くと、25 本程度を数え、高さ 1.20 mほどのものが多かった。覆土は大きく 2 層に分層され、上層が締まりの弱い灰色土、下層がやや締まりのある暗灰色土であった。籠を始めとする木製品、陶磁器、土器、金属製品、多量の瓦等が出土している。瓦は卍文の軒丸瓦も出土している。南側には円形のピットが 1 基穿たれていた。覆土は白色粘土を主体としていた。

SX61（第 59 図、第 3 表、図版 37）

K 区で検出された。浅い長方形を呈する土坑を掘削したところ底面に板が敷かれていることが判明した。長径 0.39 m、短径 0.21 m、深さ 6cm を測り、主軸方向は N85° W を指す。覆土は締まりにかける褐灰色土で、遺物の出土はなかった。

SX117（第 61 図、第 3 表、図版 39）

N 区南東側で検出された桶で、上部は削平を受けた可能性が高く、底面のみの検出となった。桶の直径は 55㎝、掘り方直径は 0.72 mを測る。円形の底板で南北方向に板目があった。明黄褐色を呈する覆土からは銭貨が 1 枚出土している。

SX131（第 61 図、第 3 表、図版 39）

N 区で検出された円形を呈する遺構で、直径 0.45m、深さ 19㎝を測る。整然とした円形を呈すること、覆土が粘性の強い灰色土であることから、桶が引き抜かれた遺構と判断した。遺物の出土は皆無であった。

SX135（第 61 図、第 3 表、図版 39）

N 区で検出された木製の枡を持つ地下室と考えられる遺構で、掘り方は長径 2.02 m、短径 1.22 m、深さ 90㎝を測る。内板材は長径 1.83 m、短径 0.98 m、深さ 26cm を測る。北側には獣骨を埋葬した SX145 が所在するが、これを切って構築されていた。覆土は粒子の粗い暗褐色土をベースにし、覆土からは多様な遺物が出土した。陶磁器、土器、瓦、碁石等の土製品、金属製品、銭貨、種子、ガラスが出土しており、出土した遺物は江戸時代のものもあるが、主体は明治以降のものであった。上部は攪乱等によって削平されていた。

F　杭列・杭跡（第 62 図、第 3 表、図版 40）

杭跡は木質を残すものを含め、SA1 から SA19 までを認識している。3 本を 1 単位とした杭が多かったが、溝等に伴って直線的に打たれた杭もあった。

SA1 は I 区で検出された 4 本の杭痕である。一部木質が残っていた。SA2 は 1 区で SX31（瓦溜り）

の炭化材堆積部を切って構築されていた３本杭である。SA3・SA ４はＩ区の粘土層で検出された３本杭で。木質が残っていた。SA4 は３本杭で、杭間がやや広めであった。SA5 もＩ区で検出された２本の杭痕である。SA6 もＩ区で検出された１本杭で、木質部が残っていた。

SA7・SA8 はＫ区の SK118、SK117 の底面で検出された杭で、SA ７は３本を、SA8 では多数を確認している。

SA9・SA10 はＪ区で検出された杭で、SA9 は３本、SA10 は２本杭で、一部木質が残る。SA11・SA12 はＭ区で検出された杭で、SA11 はＭ区東壁際で多数検出された。SA12 は SD28 周辺で多数検出された杭で、長径約５m、幅約１mの範囲に 10 点以上の杭跡が確認された。SA13 はＬ区で検出された３本杭で、内１本には木質が残っていた。SA14 はＩ区の SX39 の壁際で検出された２本杭である。SA15・SA16 はＭ区で検出された杭で、SA15 は SB2 内で検出された杭列である。杭が６本並んで検出された。主軸方向は、Ｎ７°Ｅを指す。SA16 は、Ｍ区の南東端で検出された３本杭である。

SA17・SA18 はＮ区で検出された杭で、門跡と思われる SS190 の確認面壁際で検出され、SA18 は SS195 の確認面壁際で検出された。

SX3（第 62 図、第３表、図版 40・81）

Ａ区で検出された南北方向の杭列である。杭は最長 1.25 mを測り、杭の下方には貝の堆積が認められた。

G　瓦埋設遺構（第 39・41・44・63 図、第３表、図版 41・42）

当遺跡からは瓦を埋設して、施設として使用した遺構が検出されている。建物跡の雨落ち施設や配管施設として瓦を用いた可能性が考えられる。

SS23（第 44・63 図、第３表、図版 41）

Ｅ区で検出された瓦敷遺構で、中央を配管で壊されていたが、長径約４m、幅 0.46 mの範囲に主に平瓦破片が敷き詰められていた。主軸方向はＮ８°Ｅを指す。瓦は 682 点を数えた。周囲には瓦を囲うように礫が集中して配置されていた。この範囲は長径 5.52 m、短径 0.99 mを測る。主軸は南北方向である。同様の遺構としてＪ区で検出された SX55 が挙げられる。

SX55（第 39・41・63 図、第３表、図版 41・42）

Ｊ区で検出された SB1 の関連施設と考えられる。主軸方向も SB1 や後述する SX56 と一致している。瓦は割られた平瓦を縦列に配置している。用途としては雨落ちに関連する可能性が考えられるが、配置的な確証がない。瓦は 244 点を数え、35,660g を量る。同様の遺構として前述したＥ区の SS23 があるが、平瓦を置く向きが異なっている。瓦と瓦の間からの陶磁器類の出土はなかったが、周辺から獣骨破片が１点出土した。イノシシの歯という分析結果が出ている。

SX56（第 39・41・63 図、第３表、図版 41・42）

Ｊ区で検出された SB1 の関連施設と考えられる。SX55 の東側に平行して構築されており、７点以上の丸瓦を正位に設置して使用している。長径 2.13 m、短径 0.12 m、深さ 15㎝を測り、Ｎ７°Ｅを指す。主軸方向も SX55 とは、一致している。瓦は 56 点を数え、8,150 ｇを量る。

SX57（第 39・41・63 図、第３表、図版 41・42）

SB1 に関連する瓦による東西配管施設で、丸瓦を使用している。SD19・20 を挟んで SS58 と連続

した遺構と考えられる。SX57 の長径は 3.00 m、幅 0.24 m、深さ 12cm を測り、主軸方向は N82° W を指す。SS92、SS95 の SB1 新段階の方形礎石群に切られており、瓦埋設遺構は SB1 の古段階の礎石建物跡と関連する可能性が高いものと思われる。瓦は 44 点を数え、11,010 g を量る。

SX58（第 39 ～ 41 図、第 3 表、図版 42）

SB01 を構成する瓦を使用した配管施設で、丸瓦を主に壁に沿って斜め置きして使用している。SB2 新段階の礎石建物を構成する SS98 の方形礎石に切られていた。長径 3.80 m、幅 0.40 m、深さ 16㎝を測る。瓦は 56 点を数え、6,680 g を量る。

H　溝状遺構（第 39・40・60・64 ～ 67・77 図、第 3 表、図版 43 ～ 49）

近世以降に帰属すると考えられる溝を一括した。

SD3（第 64 図、第 3 表）

B 区で検出された南北溝で SS1 の下で検出され、北側を SK18 に切られていた。現存長 3.48 m、幅 0.30 m、深さ 20㎝を測り、主軸方向は N 6 ° E を指す。

SD5（第 64 図、第 3 表）

E 区で検出された南北溝で、SS58 の下で検出され、南側を大型配管に切られていた。現存長 1.2 m、幅 0.54 m、深さは 30 ㎝を測り、主軸方向は N 3 ° E を指す。磁器 11 点等江戸時代の遺物が出土している。

SD6（第 64 図、第 3 表、図版 43）

E 区で検出された南北溝で、SS24 に切られていた。現存長 0.84m、幅 0.54 m、深さ 24㎝を測り、主軸方向は N 3 ° E を指す。覆土中には焼土、粘土が含まれていた。江戸時代の磁器等が出土している。

SD7（第 64 図、第 3 表、図版 43）

E 区で検出された南北溝で、中央を大型配管に、南側を SS63 に切られていた。現存長は 6.90 m、幅 0.36 m、深さ 12cm を測る。主軸方向は北半ではほぼ北方向、南半では N 6 ° W を指す。江戸時代の陶器、遺存度の高い瓦等が出土している。

SD8（第 64 図、第 3 表、図版 43）

E 区で検出された東西溝で、西側を石組溝である SS19 によって切られている。現存長 2.10 m、幅 0.42 m、深さ 12cm を測り、主軸方向は N86° W を指す。覆土からは江戸時代の陶器、土器、瓦等が出土している。

SD11（第 64 図、第 3 表、図版 44）

H 区で検出された東西方向の土坑状の溝である。壁は緩やかに立ち上がり、現存長 4.14 m、幅 0.90 m、深さ 36㎝を測る。主軸方向は N81° W を指す。覆土からは墨書のある土器皿等が出土している。

SD12（第 60・72 図、第 3 表、図版 44・45）

H 区で検出された江戸期の溝で、弧状（くの字状）に屈曲する。現存長は約 7 m、幅 1.75 m、深さ 96㎝を測る。やや丸みのある底面より緩やかに立ち上がる。井戸である SE15 及び芥溜りの SX23 に切られていた。多量の木製品や板材とともに陶磁器、土器等が出土した。出土遺物から 19 世紀前半に廃棄されたものと考えられる。

SD14（第 65 図、第 3 表、図版 44）

J 区で検出された弧状を呈する溝で、現存長は 5.40 mを測る。幅 0.42 m、深さ 24㎝を測る。覆土は暗褐色土を呈し、やや軟質で、若干の焼土及び炭化物を含んでいた。覆土からは近世の土器や瓦が若干出土している。

SD15（第 65 図、第 3 表、図版 46）

I 区の東壁際で検出された南北溝である。現存長 1.86 m、幅 0.24 m、深さ 16㎝を測り、主軸方向はＮ 9 ° E を指す。壁は緩やかに立ち上がる。底面は砂層にまで到達していた。覆土は黄褐色ブロック、褐色ブロックを含む暗褐色土であり、貝堆積を切っていた。

SD19（39・40 図、第 3 表、図版 46）

J区西端部の中央部で検出された南北溝で、20号溝状遺構を切っていた。現存長約6.5 m、幅0.54 m、深さ 18㎝を測り、主軸方向はＮ 12° E を指す。覆土は上下 2 層に分層される。上層は粘土ブロックを多く含む土層、下層は暗褐色土を呈する。覆土上層からは磁器小破片、徳利破片や瓦が出土している。

SD20（第 39・40 図、第 3 表、図版 46）

J 区西端部の中央部で検出された溝で、SD19 に切られていた。現存長 6.30 m、幅 0.42 m、深さ 36㎝を測り、主軸方向は SD19 と同一である。出土した遺物は瓦溜りの SX69 と遺構間接合した。

SD21（第 65 図、第 3 表、図版 46）

K 区で検出された南北溝で、東西に走る大型配管に切られる。現存長 1.74 mを測り、幅 0.60m、深さ 9 cm を測り、主軸方向はＮ 15° E を指す。灰褐色を呈する覆土からは、天目茶碗、土器皿、瓦等が出土している。

SD22（第 65 図、第 3 表、図版 46）

K 区東端で検出された近世以降の東西溝で、東側は調査範囲外であり、一部のみを調査した。最大長 0.90 m、幅 0.48 m、深さ 24㎝を測り、主軸方向はＮ 81°Wを指す。

SD23・SD24・SD25（第 19 図、第 3 表、図版 47）

K 区東壁セクションで観察できた溝で、形状・規模・主軸方向が類似していた。底面は丸みを持ち、緩やかに立ち上がる。SD25 は、覆土は 2 層に分層された。覆土からは江戸時代の瓦が出土している。

SD26（第 65 図、第 3 表、図版 47）

J 区で検出された東西溝である。最大長 3.18 m、幅 0.24 m、深さ 6cm を測り、主軸方向は N82° W を指す。B 層に類似した土層が覆土で、瓦が出土しているため江戸時代の所産の可能性が高い。

SD27（第 66 図、第 3 表）

M 区で検出された東西溝で、焼土堆積の SX73 より新しい。現存長 3.30 m、幅 0.36 mを測り、主軸方向は N82° W を指す。

SD28（第 42・66 図、第 3 表、図版 47）

M 区で検出された南北溝で、覆土には炭化粒が多く含まれていた。広域焼土堆積の SX73 を切る。現存長 1.70 m、幅 0.48 m、深さ 15㎝を測り、主軸方向はＮ 2 ° E を指す。

SD29（第 42・66・116 図、第 3 表、図版 47）

SB2 に伴うと考えられる南北溝で礎石建物跡の西側に所在する。現存長 2.46 m、幅 0.36 m、深さ 12cm を測り、主軸方向はＮ 8 ° E を指す。覆土には焼土、炭が含まれていた。SB2 の雨落ち溝的な役割を果たしていた可能性がある。

SD30（第 66 図、第 3 表、図版 48）

M 区で検出された土坑状の南北溝である。西側をコンクリ基礎に切られる。南側は攪乱が入り不明瞭であった。確認長 1.80 m、幅 0.60 m、深さ 36㎝を測る。壁は緩やかに立ち上がる。覆土には焼土を含んでいた。

SD31（第 66・79 図、第 3 表、図版 48）

L 区で検出された南北に走る溝で、SE37 を切っていた。現存長は約 2 m、幅 0.72 m、深さ 12㎝を測り、主軸方向はN 10° E を指す。覆土は粒子の粗い褐色土で、土器皿の出土が多かった。土器皿は直径 13cm を計り、地鎮遺構の土器皿より小ぶりであった。また外面に金箔の認められる土器皿の小片も出土している。

SD32（第 66 図、第 3 表）

M 区の井戸である SE32 と SE33 の間で検出された溝で、南北方向に構築されていた。上部は削平を受け、泥炭層で確認された。最大長 2.88 m、幅 0.66 m、深さ 15㎝を測り、主軸方向はN 6 ° E を指す。覆土は焼土を若干含む B 層類似層であることから、江戸時代の所産と考えられよう。

SD33（第 66 図、第 3 表、図版 48）

M 区の南北軸のやや東に振れた溝で、A 層直下の B 層上面で検出された。現存長 4.20 m、幅 0.42 m、深さ 12cm を測る。主軸方向は N15° E を指す。覆土の一部に A 層に類似する黄褐色粘土ブロックを含んでいる。

SD34（第 67 図、第 3 表）

M 区で検出された溝で、現存長 3.12 m、幅 0.54 m、深さ 18㎝を測る。主軸方向はN 59° E を指す。斜め方向を指す稀有な溝であった。覆土は締まりのやや弱いオリーブ褐色土を基調としていた。

SD36（第 67 図、第 3 表、図版 49）

N 区北側で検出された南北溝である。現存長 3.05 m、幅 0.22 m、深さ 7㎝を測り、主軸方向はN 19° E を指す。壁は擂鉢状に立ち上がり、覆土は炭化物を微量含む土層であった。

SD37（第 67 図、第 3 表、図版 49）

N 区で検出された東西溝で、現存長は 0.95 m、幅 0.25 m、深さ 20㎝を測る。西壁の中にまだ潜っていくものと思われる。覆土は粒子の粗い軟質な土層で、瓦を含んでいた。上部を SX121 の瓦溜りに切られていた。

SD38（第 67 図、第 3 表、図版 49）

N 区北端部中央で検出された南北溝で、現存長 3.57 m、幅 0.28 m、深さ 10㎝を測る。主軸方向はN 10° E を指す。壁は擂鉢状に立ち上がり、焼土を微量含む覆土中には瓦が含まれていた。締まりは弱く軟質な堆積をしていた。

SX98（第 99 図、第 3 表、図版 48）

M 区で検出された溝状遺構で、SE97 及び SE98 の貝堆積遺構を切っていた。確認長 3.48 m、幅 0.78 m、深さ 30cm を測り、主軸方向は N7° E を指す。壁は緩やかに立ち上がり、覆土はにぶい黄褐色土を基調とする土層であった。覆土には貝が少量含まれていた。

l　埋甕（第 60・68・72・107 図、第 3 表、図版 45）

江戸時代の埋甕が 3 ヶ所で検出されている。E 区の土坑の中から検出された SK41 と SD12 と関連

する大型の甕である SX21 、池に関連する埋甕の SX15 である。SX15 については池の項目で述べる。地鎮遺構の埋甕 (SX140) は明治以降の埋甕であり前述した。明治以降の便所甕については後述する。

SK41（第 68・107 図、第３表、図版 45）

E 区で検出された埋甕で、池（SX16）北端部にかかる位置に所在する。甕は楕円形を呈する土坑の中に横倒しの状態で検出された。掘り方は直径 0.81 m、短径 0.67m、深さ 54㎝を測る。主軸方向はN 24° E を指す。甕は口縁部のほとんどを欠いていた。覆土は上層はにぶい黄褐色土、下層は暗褐灰色土であった。SX16（池跡）との新旧関係は不明である。

SX26（第 60・72 図、第３表、図版２・45）

H 区で検出された信楽産と思われる埋甕である。溝である SD12 上に位置している。甕は溝廃棄後に設置された可能性もあるが、溝と一体の機能を持っていた可能性がある。甕は直径 1.00 m、底径 0.70 m程度のスペースにやや東に傾く状態で設置されていたものと考えられる。深さは 1.30 mを推定する。遺構写真は底部から胴部中位の写真であるが、口縁部～胴部上位の破片が出てきて接合することが確認され、ほぼ完形となった。溝周辺からは陶磁器、土器、砥石破片が出土している。

J　池跡（第 68 図、第３表、図版 50）

SX15・SX16・SX17・SS15（第 68 図、第３表、図版 50）

E 区で検出された池跡である。南側を大型配管に切られ、全容は不明。漆喰の堆積状況等を確認するために東西方向に幅 50cm のトレンチを入れ断面調査を実施した。SX16 の現存する平面形態は長方形を呈し、付属施設として甕、礎石があげられる。SX17 は SX16 の前段階の池であった可能性が考えられよう。

SX15（第 68 図、第３表、図版 50）

SX15 は丹波産の甕で、ほぼ完形の状態で漆喰層下に埋設されていた。甕内覆土はやや硬質な灰色土であった。この甕内覆土に貝が含まれているかどうかを黒住氏に分析していただいたが、貝は含まれていないことが判明している（Ⅴ章自然科学分析参照）。甕の掘り方は長径 0.86 m、短径 0.39 m、深さ 48㎝を測る。掘り方の覆土の主体は木っ端を若干含む褐灰色土をベースにしていた。

SX16（第 68 図、第３表、図版 50）

池跡の漆喰の範囲は東西長 5.50 m、南北長 2.70 m、深さ 32cm を測り、主軸方向は N73° W を指す。トレンチ観察により漆喰層が主に３枚重なって構築されていたことが判明した。漆喰層の粒子は細かく、硬質であった。礎石は 12 点を数えた。礎石には扁平なものが用いられているが、長方形の黒色を呈する礎石と楕円形あるいは円形の白色の安山岩礎石、そして板状の礎石が配置分けされていた。またこの SS16 の北東側には板状の礎石を２つ並べた SS15 が所在している。

SX17（第 68 図、第３表）

SX17 は、SX16 の北側に位置する池と思われる遺構である。SS16-2 等に切られ、全容は不明である。現存長径 3.36 m、現存短径 1.72 mを測る。SX16 の前段階の池であった可能性を考えたい。

SS15（第 68 図、第３表、図版 50）

池跡の東側に隣接した位置で検出された漆喰が付着した礎石である。池との関連性が高いものと考えられる。池跡内の南西の板状礎石（礎石６・７）と類似しているため、関連が考えられる。

K　井戸跡（第 42・69 ～ 81 図、第３表、図版 51 ～ 65・69）

本遺跡からは井戸及び水溜めに供したと思われる遺構が多出している。井戸の覆土からは陶磁器、土器、木製品等が出土しているが、銭貨の出現率が高いという特徴が認められた。井戸の覆土の中や井戸の壁に貝の堆積が認められた井戸が複数あり、貝堆積遺構より新しい井戸が多かったと考えることができよう。出土遺物からは 17 世紀、18 世紀、19 世紀、明治以降に廃棄されたと考えられるものがあり、江戸時代を通して井戸の構築・廃棄が行われていた可能性が高い。

SE1（第 69 図、第 3 表、図版 51）

A 区で検出された円形の井戸で、素掘りで直径 1.32 m、深さ 3.42 mを測る。底は H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。上層中層にも瓦は数多く含まれていたが、覆土最下層は瓦で充填されている状態であった。覆土は軟質な黒褐色土を基調としていた。瓦は細かく割れているものが多かった。明治時代以降の遺物、コバルト磁器が顕著であった。出土した船形土製品は大阪城の安土桃山時代の土坑から出土したものと形態が類似しており、興味深い。真鍮製と思われる指輪や煙管、一銭銅貨、ガラス製品も出土している。図示していないが砥石も出土している。出土遺物から廃棄は近代になってからと考えられる。

SE2（第 69 図、第 3 表、図版 51）

A 区北東で検出された井戸である。検出段階では桶は見られず、円形のプランが確認されたため半掘を行った。約 0.8 mで 1 段目の桶が、約 1.80 mで 2 段目の桶が検出された。2 段目の桶の上端から約 0.8 m下からは小形の桶が検出されている。小形の桶と 2 段目桶の間には、大形の礫が詰められており、N 区で検出された SX149 と共通する。桶の直径は約 90cm で、下方が広がっていた。2 段目も同様であるが、径はやや大きくなる。小桶の直径は約 75㎝を測る。方形を呈する掘り方は長径 2.05 m、短径 1.80 mを測る。H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。覆土上層は軟質な堆積で、砂利を多量に含んでいた。覆土からは唐銭の開元通宝（初鋳 621 年）、寛永通宝 5 枚、不明 3 等が出土している。18 世紀代に廃棄された井戸と考えられよう。

SE3（第 69 図、第 3 表、図版 52）

B 区で検出された円形の掘り方を持つ井戸で、内側には桶が所在した。直径 0.96 mを測り、深さは 2.04 mを測った。直径 92㎝の桶は砂層に到達していており、覆土は粘土ブロックを含む締まりの弱い土層であった。覆土上部からは瓦が多く出土した。陶器・土器も少量出土している。他に鏡 1 枚、銭貨破片 1 枚等が出土している。

SE4（第 70 図、第 3 表、図版 52）

A 区の南東端で検出された井戸である。東側に約 0.90 mの方形の張出し部を持つ直径 1.65 mの方形の掘り方内に直径約 1 mの円形の桶と直径約 55㎝の小形の桶が所在した。桶は H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。桶上端から約 0.70 mで小桶を確認した。確認面から約 1 m掘り下げると、木樋状の方形管に当たり、砂層の中に 2 m以上確認できたが、底には至らなかった。掘削底面には、杭痕が 3 ヶ所に認められた。褐灰色を呈する覆土には瓦と少量の陶磁器が含まれていた。SE3 同様瓦は覆土上部に多量に含まれていた。締まりは弱く、軟質な堆積であった。出土遺物は火鉢等他の井戸ではさほど出土しない遺物が多いことに特徴がある。19 世紀前半に廃棄されたものと考えられる。

SE5（第 70 図、第 3 表、図版 52）

C 区で検出された不整形プランを持つ井戸である。直径約 2 mの円形の掘り方の西側に偏った位

置で桶が検出された。また東側にはやや浅い楕円形の落ち込みが所在した。西約 0.8 mの位置には SE13 が所在する。桶は確認面では直径 66㎝を測り、下位に向かい広がり、下位では約 80㎝を測り、H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。桶の西側には溶結凝灰岩の配置が認められた。桶板は上端が 65㎝、桶内覆土上層は青灰色を呈する土層で、木っ端が含まれていた。掘り方の覆土には粘土ブロックが目立った。桶内覆土下層にはかなりの水が含まれていた。

SE6（第 70 図、第３表、図版 53）

C 区で検出された井戸で、深さ 1.6 mで、底に到達した。直径約 0.86 mを測り、桶板は検出されていない。H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。覆土は 7 層に分層され、粒子の粗い、粘性のやや強い土が主体となっていた。最下層には粘土ブロックの混入が多量に含まれていた。遺物は少ない。

SE7（第 70 図、第３表、図版 53）

D区で検出された円形の素掘りの井戸である。上部を SP121 に一部切られていた。直径約 0.8 m、深さ 90㎝を測る。覆土は褐灰色土をベースとし、遺物の出土は陶器 1 点と少なかった。

SE9（第 71 図、第３表、図版 53）

F 区で検出された円形素掘りの井戸で、約 0.6 m東には 10 号井戸が所在する。規模は直径約 1.30 m、深さ 2.43 mを測る。桶はなく、底面は砂層を掘り込んでいた。覆土は 4 層に分層され、上位２／３には焼土、及び瓦が多量に含まれていた。海鼠瓦も認められた。下層は青灰色土をベースとした土層で、木材、銭貨、角釘、瓦、礫等が含まれていた。SE10 と接合する遺物があった。出土遺物等から 17 世紀代廃棄の井戸と考えられる。

SE10（第 71 図、第３表、図版 53）

F 区で検出された円形素掘りの井戸で北西 2.20 mには M 区 SE33 が所在する。上部には木材を多量に含む SK60 が所在しており、井戸を切って構築されていた。そのためか井戸覆土にも木材の混入があった。井戸の直径は約 1.8 m、深さは 1.56 mを測った。覆土上層は焼土を含む土層、中・下層は青灰色土をベースとする土層であった。覆土からは融着した銭貨の出土がみられた。最下端の円形の落ち込みは桶が抜かれたものの可能性がある。掘り込みは、ちょうど砂層で止まっていた。出土遺物等から 17 世紀代に廃棄された井戸と考えられる。

SE12（第 71 図、第３表、図版 53）

H区で検出された円形を呈する井戸で、桶と円形の掘り方からなる。掘り方は西側の広がりを除くと直径約 2.3 mを測る。桶は直径 85㎝を測り、3 段が確認されている。覆土は桶内が粘性の強い黒褐色土層、掘り方が粘土ブロックを含む灰黄褐色土層をベースとしていた。約 2.7 mまで調査したが底には達しなかった。

SE13（第 70 図、第３表、図版 52）

C 区で検出された円形の井戸で、素掘りと考えられる。明確な桶板は検出されなかった。覆土は粒子の粗い軟質な灰暗色土で、砂礫をやや多量に含んでいた。覆土に瓦はさほど含まれていなかった。H 層（黄褐色砂層）を掘り込んでいた。深さ 2.50 mまで調査したが、底まで到達できなかった。銭貨が出土している。

SE14（第 72 図、第３表、図版 54）

H区で検出された円形の井戸で、桶と掘り方が認められた。南東約 0.4 mには SE15 が所在する。

桶の直径 65㎝、掘り方直径約 0.8 m、深さは 1.02 mまで掘削したが、調査区南壁際であったため安全上それ以上は掘削できなかった。確認面直下に蓋状の漆喰が認められた。

SE15（第 72 図、第３表、図版 54）

H 区で検出された円形の井戸で、調査区南壁際で検出された。直径約 1.6 m、深さ 1.50 m（表土から 2.2 m）まで調査したが底面に至らず、安全上断念した。底面で直径約 45㎝の桶を確認した。覆土は上層は瓦を多量に含む暗オリーブ灰色土、下層には粘土ブロックが含まれていた。

SE16（第 71 図、第３表、図版 54）

I 区で検出された井戸で、陶管が用いられており、廃棄は近代と考えられる。確認面で直径約 0.96 mを測った。陶管３段の下で木製桶が検出された。深さが 2.70 mを超え、周囲の土が崩れてきたことから、安全上調査を打ち切った。廃棄は近代、構築は近世であった可能性が高い。

SE17（第 73 図、第３表、図版 54）

SE17 が SE18 を切っていると考えたが、SE18 が SE17 の掘り方であった可能性がある。下部で検出された桶は直径約 90㎝を測り、底面は砂層に到達していた。覆土は粒子の細かい炭化粒を含む暗褐色土であった。遺物のほとんどが SE17 からの出土で陶磁器、土器、瓦、銭貨、砥石で 700 点以上が出土している。SE18 からは 20 点程度と少なかった。

SE18（第 73 図、第３表、図版 54）

SE17 の掘り方か。円形を呈し、最大長 2.50 m、幅 2.20 m、深さ 2.15 mを測る。覆土は粒子の粗い白色粘土ブロックを含む灰褐色土をベースとしていた。覆土からは磁器 1 点、陶器２点、土器 16 点が出土した。廃棄時期は 19 世紀代と考えられる。

SE19（第 73 図、第３表、図版 55）

I 区で検出された円形の井戸である。粘土層、泥炭層、シルト層を掘り込んで、底面は黄色砂層に達しており、底が認められた。規模は直径約２mを測り、深さ３mを測った。周囲には土坑が 4 基規則的な配置を持った状態で見つかっており、関連性が強いと考えたため、下記に連続して報告することとした。上屋に関する遺構の可能性が考えられる。覆土には上位には細かな貝の堆積が認められたが、下位ではその含有量は少なく、炭化粒を含む灰褐色土を主体としていた。当井戸跡は一部壁に貝層の堆積が認められたことからも貝層よりも新しい遺構であることは間違いない。以下周囲の 4 基の遺構について記述する。

SK80（第 73 図、第３表、図版 55）

SE19 の北西に位置し、円形を呈する。直径約 0.8 m、深さ 84㎝を測る。段状の壁を呈し、角釘が 1 点出土している。

SK99（第 73 図、第３表、図版 94）

円形を呈するピット状の土坑である。直径約 0.8 m、深さ 66㎝を測る。上層は粘土ブロックを含む褐色土、下層は暗褐色土であった。

SK103（第 73 図、第３表、図版 95）

SE19 の南西に位置する。円形に近い形状を呈し、壁は段状を呈する。最大長 0.96 m、深さ 45㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土を基調としていた。陶器､瓦など遺物が若干出土している。

SK104（第 73 図、第３表、図版 95）

SE19 の北東に位置する。直径約 0.9 m、深さ 60㎝を測り、貝堆積を切っていた。覆土は基本的には SK103 と類似していたが、柱痕状の堆積が認められたことが異なる。柱痕状の堆積部には軟質な土層が堆積していた。

SE20（第 74 図、第３表、図版 55）

J 区で検出された井戸で、掘り方の規模は直径 2.00 mを測る。中央部には約 90㎝の桶の痕跡が認められた。また下部には桶の痕跡の外側に粘土が貼られていた。砂層にも到達し、２m以上を掘削したが、地盤が緩い区域で崩落の危険あるため安全上底までは調査できなかった。覆土は締まりの弱い暗褐色土を基調にしており、出土遺物は概して少なく、陶器６点、土器２点等が出土しているが、実測できうる遺物はなかった。掘り方は円形を呈し、上層は粘土ブロックを含む灰褐色土であった。

SE21（第 74 図、第３表、図版 56）

I 区南端部で検出された比較的大形な井戸で、円形を呈する。上部には溶結凝灰岩がやや多量に配石されていた（SX27）。最大長 2.46 m、深さ 2.22 mを測る。掘削深度が盛土からは３mを超え、安全を考慮し、完掘は断念した。出土遺物に磁器がなく、木製品が多いのが特徴で、擂鉢等も出土している。覆土は粘土ブロックを含む灰色粘土層を主体としていた。出土遺物等から 17 世紀代に廃棄された井戸と考えられる。

SE22（第 76 図、第３表、図版 56）

I 区南西端部で検出された。壁際での検出であり、風鎮基礎の下で検出されたため、掘削は 3.20 mを超えたあたりで、安全上中途で断念せざるを得なかった。直径約２.0 m、井戸自体の掘削深度は深さ約 1.5 mを測る。覆土は粘土ブロックを多量に含む土層を主体とし、覆土から遺物の出土はほとんどなかった。底面には小桶状のプランが認められたが、前述した安全上の理由で調査できなかった。

SE23（第 75 図、第３表、図版 56・57）

大形の井戸で、後世のコンクリ風鎮及びその基礎杭により破壊されていた。貝堆積遺構である SX34 を切って構築されていた。周辺には SE24、SE26、SE27 の３基の井戸が所在する、結果的に井戸密集地となった。東側の SE26 を切って構築されていた。露出していた風鎮基礎杭にはひびが入り、倒れてくる可能性があったため人力での掘削は諦め、断面調査に切り替えた。直径は約 2.5 m、深さは 1.92 mを測った。覆土上層は粘土ブロックを含む暗褐色土を主体とする土層で、覆土下層は青みの強い青灰色土ブロックを多量に含む土層であった。砂層を抜いて構築されていた。

SE24（第 75 図、第３表、図版 56・57）

J 区で検出された直径 1.20 mほどの井戸で、深さ 1.72 mを測り、底面まで確認することができた。底は丁度砂層に到達した位置であった。覆土最上層は粘土ブロックを含むオリーブ褐色土、以下黒褐色土、褐色土、下層はオリーブ黒褐色土を呈した土層であった。遺物は出土しなかった。

SE25（第 76 図、第３表、図版 57）

井戸確認面に遺物集中があり、土器皿５個体と少し離れた位置で焼塩壺が出土した。炭化物がやや多量に含まれた土層であった。これらの遺物は SX39 の瓦溜りに帰属する可能性もあるが、この SE25 の井戸の廃棄に伴う儀礼等でここに配置された可能性もある。井戸は直径約１m、深さは 1.76 mを測った。覆土最上層は暗褐色土で、下が褐色土を、下層は粘土ブロックと青灰色ブロックを多量

に含む暗褐色土を呈する。井戸の底は黄褐色砂層に達していた。廃棄時期としては 17 世紀代を推定する。

SE26（第 75 図、第 3 表、図版 58）

J 区 SE23 の北西側に位置し、SE23 と SK94 に切られていた。桶部（実際には桶は抜かれて無かった）と掘り方部を有する井戸で、完掘することができた。掘り方は直径約 2.20m、桶部は直径約 1.10 m を測った。桶部内からは土器皿、銅製品、銭貨、鉄銭等も出土している。一部の土器皿は重なった状態で検出されている。覆土は桶内外に少量の貝破片を含む暗褐色土を基調としている。掘り方覆土は粘土ブロックを含む褐色土が主体であり、やはり貝片が若干含まれていた。廃棄時期は 17 世紀代を推定する。

SE27（第 75 図、第 3 表、図版 58）

J 区の SE23 上の風鎮の横で検出された井戸で、底面まで調査することができた。底面は黄褐色砂層に達していた。直径約 1.5 m、深さ 1.68 mを測った。覆土上層は貝を含む暗褐色土層で、レンズ状に堆積し、その下の土層は黒味の強い暗褐色土であった。下位には粘土ブロックを少量含む土層等が堆積していた。概して遺物の出土は少なかった。

SE28（第 76 図、第 3 表、図版 59）

J 区で検出された大形の浅い井戸と考えられる。掘り込みは浅いが砂層に到達しており、雨が降ると水が溜まることが確認された。最大長 1.70 m、深さ 60㎝を測る。覆土からは貫入の顕著な志野系陶器破片や土器皿が若干出土しているが遺物は少ない。図化できる遺物は皆無であった。

SE29（第 76 図、第 3 表、図版 59）

J 区で検出された小形の素掘りの井戸で、黒褐色を呈する覆土下層は軟質な堆積をしていた。最大長約 1 m、深さは 1.08 mを測った。弥生時代の遺物集中地点である SX65 を切っており、覆土からは礫、弥生土器等が出土している。近世の遺物の出土はなかった。

SE30（第 77 図、第 3 表、図版 59）

K 区で検出された素掘りの井戸で、底面まで調査することができた。砂層に到達していた。直径約 1 m、深さは 1.26 mを測った。17 世紀代と考えられる天目茶碗、陶器皿、土器皿等多量の遺存状態の良い遺物が出土した。完形の遺物が多いのがこの井戸の特徴でもある。遺物の出土位置は覆土中位と下層に分かれ、廃棄が少なくとも 2 度に亘って行われた可能性を考えることができる。銭貨や木製品も出土したが、逆に瓦は 3 点と少なかった。出土遺物から 17 世紀代に廃棄された井戸と考えられる。

SE31（第 77 図、第 3 表、図版 60）

L 区のコンクリ基礎際で検出された。コンクリ基礎及び砂利層は約 1.8 mの高さがあり、安全を確保できる範囲で調査を実施した。井戸と推定されるこの遺構は直径 1.20 mを推定し、深さは 78㎝まで確認した。確認面の北側に隣接した位置に溶結凝灰岩の集積があり（SX83）、SE5 や SE21 と共通する。また何らかの蓋の可能性のある木製品が西側にずれて検出された。この下には青灰色の土層の堆積が認められ、遺物が若干出土している。

SX83（第 77 図、第 3 表）

L 区で検出された礫集中遺構で、SE31 に関連する遺構と考えられる。不整形を呈する。30 点以

上の小礫に混ざって擂鉢破片が 1 点出土した。

SE32（第 42・77 図、第 3 表、図版 60）

M 区の SB2 の礎石建物跡の範囲内で検出された井戸である。井戸の確認面では SX75、SX76、SD28 など複数の遺構が当井戸跡を切っており、上部はその影響を受けていた。セクションベルトを設定し、掘削を開始すると曲げ物や陶器碗、擂鉢、瓦等が出土し始めた。桶は当初確認できず、およそ 2.5 m掘削したところで検出された。桶の直径は約 80㎝を測った。掘り方の最大長は約 1.3 mを測った。中層では五弁花を持つ磁器皿、漆椀等が出土した。約 2.5 m掘削したところで桶が検出された。この桶を掘削したところ、下駄や「泉州麻生」の銘のある焼塩壺が検出された。この下にも桶が続いていることが確認できたが、安全上調査することはできなかった。桶は H 層（砂層）に到達していた。焼土跡である SX73 及び礎石建物跡の SB2 を切っていたものと考えられる。時期的には 18 世紀代の井戸と思われる。

SE33（第 78 図、第 3 表、図版 61）

M 区で検出された本遺構は約 30㎝掘削した段階で直径 1 .00 mの円形の掘り方の範囲に瓦が全面に敷かれ、丸石をその上に置いた状況が確認された。瓦の敷かれた面の上の層からは小形の木材等が出土していた。瓦の下からも陶器や金属製品等が出土し、底面までの深さは 84㎝を測った。井戸と考えここで報告するが、他の用途を持った遺構の可能性もある。

SE34（第 78 図、第 3 表、図版 61）

M 区の E あるいは F 層で検出された桶のある井戸跡である。周囲は後世の建物等の基礎で大きく掘削されていた。精査したところ二重の円形プランが表出したためセクションベルトを設定して掘削を開始した。掘り進めると内側の円形ラインからは、桶が検出された。覆土からは徳利や擂鉢などの陶器、瓦等が多出した。桶を取り上げると、底板が検出され、吸水口も検出された。残存する桶の側板の長さは 1.25 m、幅は 75㎝を測った。掘り方からは瓦がやや多量に出土した。底は砂利層下の砂層まで掘り込まれていた。また吸水口のあった場所下には小さな円形プランがあり、砂層を掘り抜き掘削されているものと思われる。19 世紀前半に廃棄された遺構と考えられる。

SE35（第 78 図、第 3 表、図版 62）

M 区の E 層あるいは F 層で検出された。周辺は大きな削平がなされていたことが分かっている。SE35・SE36 の平面形態は井戸の重なったような瓢箪型を呈しており、西半を掘削したところ、すぐ桶の側板が検出された。桶の直径は 85㎝を測った。井戸の切り合いを想定して、セクションベルトを設定、半掘を開始した。0.65 mほど掘り下げるとしっかりとした 2 段目の桶が検出された。2 段目の桶は 1 段目の桶の内側に所在していることが判明した。この桶は H 層（砂層）に到達していた。2 段目の桶が検出されると、息抜きに使われた可能性のある竹が出土した。掘り方を含めた規模は最大長 1.44 m、深さ 2.16 mを測る。

SE36（第 78 図、第 3 表、図版 62）

SE35 に切られていた。覆土は中央部約 0.8 mが粒子の粗い軟質土、その外側はやや硬質な土層であったため、桶が抜かれた可能性もあるが、判然としない。最大長 1.38 m、深さ 90㎝を測る。

SE37（第 79 図、第 3 表、図版 62）

調査区南端部、L 区で検出された井戸と考えられる遺構である。風鎮等の下で検出されたため、安

全上掘削範囲が限られ、全容は不明である。上部をSD31に切られていた。覆土は大きく上下2層に分層され、上層は暗褐色土、下層はオリーブ褐色土を基調としていた。覆土からは、擂鉢破片や金属製品が若干出土している。底面は平坦で、シルト層に達していた。

SE38（第79図、第3表、図版63）

M区で検出された井戸で、貝堆積遺構であるSX96を切っていた。風鎮のコンクリート杭に壊されており、このコンクリート杭にもひびが入っていたため安全を考慮し、完掘は諦めた。井戸は砂層（H層）にまで至っていた。推定規模は直径約1.5ｍで、1.38ｍまで調査を行った。覆土は若干の細かな貝を含む灰黒色土を基調とした土で、締まりは弱かった。覆土からは薄手の酒杯、擂鉢、瓦、鉄製品、木製品、礫等が出土している。

SE39（第79図、第3表、図版63）

M区で検出された井戸である。風鎮下基礎杭2本が狭い井戸中に入っており、安全上底面までの完掘作業はできなかった。規模は直径1.80ｍ程度で、深さは2.10ｍを測った。覆土は灰黒色土呈する土層が主体で、漆椀の他に瓦や礫が出土している。遺物の量は、少なかった。

SE40（第80図、第3表、図版64）

N区の中央部の試掘調査で検出された空洞を持つ井戸で、検出面から約30㎝の空洞の最上位には土の堆積と水平に礫を敷いた様子が確認できた。確認面から約0.4ｍで陶管が確認された。陶管は直径80㎝を測り、3段まで確認できた。井戸中央には鉄管がかなり深い場所まで突き刺さっており重機での引き上げを試みたが当初抜けなかった。鉄管は「息抜き」の役目を果たしていた可能性がある。水平に配置された礫の下にはぽっかりと2ｍ以上の空洞があり、人力掘削すれば転落を避けられないため、協議の上、重機による断面調査に切り替えた。

SE41（第80図、第3表、図版64）

N区北端部中央から検出された井戸で、東側は攪乱され、全容は不明。直径約1.25ｍ、深さ2ｍを測る。覆土は7層に分層されたが、主体は粒子の粗い黄褐色土あるいは褐色土であった。覆土からは土器皿や銭貨が出土した。断ち割り調査を実施したが、北側は崩れやすく、安全を考慮して約2.2ｍまで重機掘削を実施した。砂層まで掘削したが、底面を確認することはできなかった。

SE43（第81図、第3表、図版65）

N区南端部で検出された井戸で、検出時に井戸プランの中に、土器皿の集中が確認されたためSX152として、微細図を作成して取り上げてから調査に入った。SE43は南側に所在するSX136（井戸）とは掘り方部分でつながっており、井戸の桶と桶の間は約1ｍを測る。SE43の桶の直径は約70㎝、深さは1ｍを測った。桶の覆土は木っ端を含む黒褐色土層や木材を含む灰色土層であった。掘り方の規模は最大長2.45ｍ、最大幅2.00ｍを測る。SX136の桶とは規模もほぼ類似しており、対状を呈する。前述したようにSE43の上部には土器皿が集中して11枚置かれていた（SX152）。「井戸終い」等の儀式に用いた土器皿の可能性があるが、推定の域を出ない。覆土は3層に分層された。中位の2層は黒褐色を呈し、木っ端を含んでいた。当井戸跡には周囲に掘り方が所在しており、板材や陶磁器等がややまとまって出土した。

SX152（第81図、第3表、図版69）

SE43の検出に同時にみつかった土器皿集中で、11枚が確認された。出土状態からSE43の廃棄に

伴うものの可能性がある。土器皿の集中は楕円形に近い形状を呈し、長径 34cm、短径 21cm の範囲であった。

SX154（第 81 図、第３表、図版 65）

SE43 及び SX136 の２つの井戸の掘り方である。不整形を呈し、規模は最大長 2.45 m、最大幅 2.00 m、深さは約１mを測る。覆土は粘土ブロックを含む褐灰色土をベースにしていた。陶磁器、土器、瓦、木材等が出土した。

SX136（第 81 図、第３表、図版 65）

N 区で検出された井戸で、SE43 とは約１mの距離を持つ。桶の直径は約 75㎝、深さは 65㎝を測る。掘り方は楕円形に近い不整形を呈し、最大長 2.27 m、最大幅 1.42 m、深さ 63㎝を測る。桶の覆土は小砂利を含む暗褐色土で、上部からは陶器碗や青磁仏具等が出土した。

SE45（第 80 図、第３表、図版 65）

N 区の北西側で調査終盤に検出された。上には護摩堂の礎石（SS172）が乗っており、礎石取り上げ後調査を実施した。規模は最大長 0.74 m、最大幅 0.72 m、深さは 1.8 mまで確認したが、安全上それ以上は掘削できなかった。覆土は浅黄色土がベースで、遺物の出土は少なかった。

SX149（第 80 図、第３表、図版 65）

N 区の中央西寄りで検出された井戸である。掘り方は最大長 0.95 m、その中に径 50㎝前後の桶を有していた。桶の２段目は径約 40㎝とさらに小さく、掘り方には比較的大形の礫が配置されていた。掘り方の深さは、1.20 mを測った。木材廃棄遺構である SX137 を切って構築されていた。覆土上部は粒子の極めて粗い土層であった。覆土からは陶磁器、土器、瓦、金属製品、銭貨、板材等が出土した。出土した遺物から 19 世紀代に廃棄された井戸と考えられる。

L　焼土跡（第 66・82 ～ 84・92 図、第３表、図版 60・66・67）

焼土跡には広範囲に広がり、建物が燃えた後の状況を示したような状態の焼土跡と何らかの目的のために浅い穴を穿ち、焚火状に火を焚いたものと考えられる焼土跡に分類することができる。前者を広範囲焼土跡とすると SX50 、SX73、SX110 が該当し、後者では SX79、SX84 等が該当する。

SX50（第 82 図、第３表、図版 66）

J 区で検出された広範囲に広がる焼土跡である。最大で東西約７m、南北約６mに広がっていた。時期的には近世以降の堆積と考えられる。焼土は明赤褐色を呈し、やや軟質であった。江戸時代の遺物、蹴りガラス等の明治時代の遺物、統制陶器や洋皿まで出土している。また瓦も 500 点近く出土しているが、酸化炎焼成の赤い瓦が目立った。

SX73（第 83 図、第３表、図版 60・66）

L 区及び M 区に広範囲に広がる焼土跡である。広がりは最大で南北 9.50 m、東西 5.60 mを測る。SD28、SX71・75・76 等に切られている。焼土は明褐色を呈し、粒子は粗く、やや軟質な堆積を呈していた。覆土からは陶磁器、土器、瓦、金属製品、銭貨、石製品等が出土した。特徴として舶載磁器や舶載陶器が比較的多く含まれていた。また銭貨は朝鮮通寶（初鋳 1423）、寛永通宝５枚以上が出土している。接合によりほぼ完形となった砥石も出土している。

この厚さ 15㎝ほどの焼土を剥ぐと掘り込み内に扁平円礫を配置した礎石建物跡である SB1 が検出された。本焼土跡はあたかも SB1 を覆うように検出されており、SB1 の消失と関わる可能性がある。

時期的には 17 世紀代のため、明暦の大火に関連する焼土の可能性がある。

SX79（第 82・83 図、第 3 表、図版 66）

M 区で検出された円形を呈する焼土跡で、東側をコンクリ基礎で切られていたため全容は不明。最大長 0.60 m、現存最大幅 0.36 m、深さ 21cm を測る。明赤褐色を呈する焼土の主体は最上層にあり、その下に炭化面が所在する部分もあった。

SX84（第 82 図、第 3 表、図版 66）

M区南壁際で検出された。南側はコンクリート基礎に、北側は礫集中である SX71 に切られているため全容は不明。炭化面の上に焼土が厚く堆積していた。現存長径は 0.31 m、短径は 0.21㎡で、深さは 8 ㎝を測る。遺物は出土しなかった。

SX86（第 66・82・108 図、第 3 表）

M 区で検出された隅丸方形（ベース形）を呈する焼土跡である。長径 1.20 m、短径 1.02 m、深さ 15㎝を測る。黒褐色土を呈する覆土には焼土と炭が含まれるが、焼土は 7 %とその量は多くはなかった。陶器、土器、種子、石製品等が出土した。石製品は小形の硯である。

SX110（第 84・92 図、第 3 表、図版 67）

N 区西側に広がる広域焼土跡である。西側は調査区外、KR4 ～ 8 に切られ全容は不明。焼土下から江戸時代の瓦溜り等が検出されている。現認できる範囲は東西 8.10 m、東西 5.70 mに及ぶ。覆土からは江戸時代の陶磁器、瓦が出土したが、それ以降の近代瓦やガラス製品も出土している。焼土の下には紫色に近い焼成面が所在したため、この場所で火が焚かれた可能性がある。1,000 点を超える多量の瓦の他に陶磁器、土器も多量に、土製品、ガラス製品、石製品も少量出土している。出土遺物等から近代の焼土跡と考えられよう。

SX116（第 84 図、第 3 表、図版 67）

N 区で検出された円形を呈する焼土跡である。直径 0.4 m前後で、深さ 5 ㎝を測る。赤褐色を呈する焼土下には瓦の堆積が認められた。

SP143（第 82 図、第 3 表、図版 66）

E 区で検出された覆土が焼土主体のピットで、SK38 に切られていた。直径 0.45 m程度の円形を呈し、深さは 20㎝を測る。覆土の焼土量は 15％程度で、円礫が 10 点以上出土している。

SP146（第 82 図、第 3 表）

E 区検出された焼土を覆土とするピットで、北側は区境壁のため全容不明。最大長 0.48 m、深さ 16㎝を測る。覆土の焼土量は 40％程度で、磁器、瓦が出土した。

M　土器皿多出遺構（第 103 図、第 3 表、図版 68・89）

ここで報告するのは K 区 SK114 と N 区 SX139 のみである。地鎮遺構である J 区 SX32 の土器皿 20 枚や、溝である L 区 SD31 からも多量の土器皿が出土している。また、N 区の SE43 の上部で確認された SX152 の土器皿 11 枚、瓦溜りである SX126 下層の土器皿群、木材廃棄遺構である SX137 の覆土上部出土土器皿については、そちらの項目で述べている。

SK114（第 103 図、第 3 表、図版 68・89）

K 区で検出された方形を呈する土坑で、大型土坑である SM3 に切られていた。長径 1.43 m、短径 0.90 m、深さ 53㎝を測り、主軸方向はＮ 1° E を指す。覆土には焼土、炭化材が多く含まれており、

土器皿 10 点以上が出土し、焼塩壺（泉州麻生）や白鳥徳利も少ないが出土している。土器皿は小形のものが多かった。焼塩壺等から 18 世紀に廃棄されたものと考えられる。

SX139（第 3 表、図版 68・69）

N 区で検出された土器皿集中で、土器皿が 20 枚重なったまま横倒しに出土した。紐等は確認できなかった。

N　木製品・木材廃棄土坑（第 48・87・88 図、第 3 表、図版 68・69・72 ～ 74）

比較的大形で、多量の木製品や木材が出土した遺構を一括した。

SK7（第 87 図、第 3 表、図版 72）

A 区から出土した円形を呈する土坑で、板材が多量に出土した。現存最大長 2.86 m、深さ 75㎝を測る。覆土､特に上層には焼土がやや多量に含まれていた。この土坑の底部からは貝が出土している。また出土遺物の中には舶載磁器、土器皿や銭貨 10 枚以上が出土した。17 世紀代に廃棄された可能性が高い。

SK60（第 87 図、第 3 表、図版 72）

F 区で検出された隅丸長方形を呈する大形の木材多出遺構である。最大長 4.90 m、幅 1.99 m、深さ 50cm を測る。壁は溝状の緩やかな立ち上がりを呈する。木材堆積後に若干の土器皿が、その上に瓦がレンズ状に堆積している。覆土からは陶磁器、土器、瓦（海鼠瓦を含む）、寛永通宝等が比較的多く出土している。廃棄時期は 18 世紀代と考えられる。

SK68（第 48・87 図、第 3 表、図版 73）

H 区から出土した隅丸方形を基調とする土坑で、木箱、板材をはじめとする多量の木材が出土した。覆土からは磁器若干と陶器が少量出土している。急須類もまとまって出土している。19 世紀中葉以降の廃棄が推定される。

SK70（第 87 図、第 3 表、図版 73）

H 区で検出された隅丸方形を呈する土坑で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。直径約 0.5 m、深さ 90㎝を測る。覆土は 2 層に分層された。主体となる 2 層は、やや硬質な灰色土であった。木材と陶器破片 2 点が出土した。

SX137（第 88 図、第 3 表、図版 68・69・74）

N 区で検出された木製品を多出した遺構で、北東コーナーの一部を井戸である SX149 に切られていた。方形を呈し、規模は長径 2.62 m、短径 2.50 m、深さ約 50cm を測る。壁面、底面の多くが砂層であり、崩落が著しかった。土器皿、木製品、木材、瓦、種子等が多量に出土した。土器皿は黒色を呈する覆土上部でまとまって出土したものである。10 枚程度が L 字状に出土していた。木材の中には桶底板も複数枚出土した。出土遺物から 18 世紀代に廃棄された遺構と考えられよう。すぐ北側には地下室と考えられる SX127 も所在するため、N 区西側は寺域の倉庫あるいは廃棄に関わる役割を担っていた可能性がある。

O　胞衣皿埋納遺構（第 85 図、第 3 表、図版 69）

SK1（第 85 図、第 3 表、図版 69）

B 区で検出された胞衣皿埋納遺構で､楕円形を呈する。最大長 0.67 m､幅 0.43 m､深さ 32㎝を測る。焼土・炭を少量含む褐灰色の覆土からは徳利大瓶 2 点、土器皿（上皿＋下皿）2 セット等が検出され

た。埋納は 19 世紀中葉以降と考えられる。

P　漆喰含有土坑（第 85・86 図、第 3 表、図版 70・71・75）

漆喰を覆土に比較的多量に含む土坑を一括した。

SK61（第 85 図、第 3 表、図版 75）

F 区で検出された漆喰含有土坑で、隅丸長方形を呈するものと思われる。長径 2.30 m、短径 1.13 m、深さ 18㎝を測る。覆土は瓦と漆喰を多量に含む暗オリーブ褐色土で、瓦をやや多量に、陶磁器、土器が少量出土している。

SX91（第 85 図、第 3 表、図版 70）

M 区で検出された漆喰を多量に含む長方形の土坑である。長径 1.37 m、短径 0.90 m、深さ 40㎝を測り、主軸方向は N11° E を指す。覆土は多量の漆喰を含む淡黄色土をベースにし、少量の陶磁器、土器、土製品とやや多量の瓦が出土した。植木鉢に転用された青磁も出土している。

SX112（第 86 図、第 3 表、図版 71）

N 区で検出された漆喰含有土坑で、西側をコンクリートに、北側を攪乱に切られ、全容は不明。方形を呈し、現状で約 1.3 m四方、深さ 20㎝を測る。褐色土をベースにする覆土からは、灯明皿や瓦等が出土している。廃棄時期は 19 世紀前半であろうか。

SX119（第 86 図、第 3 表、図版 71）

N 区で検出された漆喰含有土坑で、東側を布掘状瓦溜りの SX138 に切られており、全容は不明。長径 1.92 m、現存短径 0.60 m、深さ 8 cm を測る。覆土は漆喰を約 20％含む褐色土層で、陶磁器、土器、瓦が少量出土した。

SX125（第 86 図、第 3 表、図版 71）

N 区で検出された漆喰含有土坑である。上部が削平された可能性があり、平面的な分布しか捉えられなかった。長径 1.25 m、短径 0.55 mを測る。

SX128（第 86 図、第 3 表、図版 71）

N 区で検出された円形に近い形状を呈する漆喰含有土坑で、長径 1.78 m、短径 1.65 m、深さ 40㎝を測る。上層は漆喰を多量に含む褐色土、下層は漆喰をさほど含まない暗褐色土であった。覆土からは陶磁器、土器、瓦の他に銭貨やマグロの骨等も出土している。19 世紀代に廃棄された土坑と考えられる。

Q　瓦溜り（瓦廃棄遺構）

（第 4・57・58・62・67・76・89 ～ 93 図、第 3 表、図版 19・75 ～ 80・92・93・100）

大型土坑、土坑、ピットに瓦が充填されている場合があった。ここで一括して報告する。平面形態に関しては円形を呈するものもあったが、方形を基調とするものの方が多かった。

SK36（第 89 図、第 3 表、図版 75）

E 区で検出された円形を呈する瓦溜りで、北側は攪乱を受け、全容は不明。長径 1.20 m、深さ 50㎝を測る。覆土は上層が瓦の詰まった層で、下層はやや軟質な褐色土層であった。多量の瓦とともに磁器、陶器、土器が僅かに出土している。

SK37（第 3 表、図版 75）

E 区の北壁際で検出されたため全容は不明。長径 0.60 m、深さ約 60㎝を測る。覆土からは多量

の瓦とともに焼土が出土している。

SK39（第 89 図、第３表）

Ｅ区北端で検出された瓦溜りである。長径 1.15 m、深さ 47㎝を測る。覆土は瓦をベースにするにぶい黄褐色土層である。東壁はよく焼けており、覆土中にも東側には焼土が多量に含まれていた。

SK47（第 89 図、第３表、図版 75）

Ｅ区で検出された隅丸長方形を呈する瓦溜りで、北側を現代の排水管で切られていたため全容は不明。瓦は千点近くが出土しているが、分布としては上部に多かった。覆土の堆積状態はレンズ状を呈していた。瓦の中からは鉛管や砥石も出土している。

SK67A（第 53・91 図、第３表、図版 75）

Ｇ区で検出された覆土に焼土と瓦を多量に含む瓦溜りで、覆土からは陶器と土器が少量出土している。長径 4.83 m、深さ約 50㎝を測る。主軸方向は N81° W を指す。徳利小瓶の底部には墨書が認められるが、読めない。瓦は酸化炎焼成のものが目立つ。桟瓦も出土している。

SX7（第 57・89 図、第３表、図版 76）

Ａ区で検出された瓦溜りで、調査区北壁に面しているため全容は不明。方形に近い形状を呈し、長径 1.38 m、現存幅 0.90 m、深さ 78㎝を測る。確認面では礫の集中が認められたが、これを剥がすと多量の瓦が出土し始めた。覆土は粘土ブロックを含む暗灰黄色土で、焼土が若干認められた。

SX31（第 62・90 図、第３表、図版 76）

Ｉ区で検出された瓦溜りと考えられる遺構で、東西に長い楕円形状を呈していたが大きく撹乱が入り、全容は不明。現存東西長 4.68 m、現存南北長 2.82 m、深さ 42㎝を測った。また西側で検出された SX39 とは同一の遺構の可能性が高い。同一であれば、東西長 7.40 m、南北 4.50 m以上の当遺跡では、大型の瓦溜りとなる。覆土中には特に西側で炭化材の分布が顕著であった。炭化材の集中する範囲の底面では焼土の痕跡が認められた。出土遺物は瓦が主体であったが、擂鉢、土器皿、焼塩壺も出土していた。瓦は遺存度の高いものが多かった。焼塩壺は少なくとも 3 点が「三名戸九兵衛」と刻まれている。17 世紀代の遺物と考えられよう。銭貨が 6 枚出土している。本遺構の廃棄時期は出土遺物等から 17 世紀後半に位置付けられよう。

SX39（第 62・76・90 図、第３表、図版 76）

SX31 の西側で検出され、SE25 を切っていたものと考えられる。前述した通り SX31 とは、同一遺構の可能性が高い。西壁はしっかりと立ち上がっていた。南北長 4.20 m、東西長 1.20 m、深さ 60㎝を測る。土器皿や陶磁器、銭貨が 5 枚以上出土しており、銭貨は割れているものが多かった。

SX68（第 91 図、第３表、図版 77）

Ｊ区で SX69 とともに検出された瓦溜りで、隅丸長方形を呈する。SP406 及び P407 を切っていた。長径 1.32 m、短径 1.20 m、深さ 36㎝を測り、主軸方向はＮ３° Ｅを指す。覆土は暗褐色土を呈するＢ層をベースにした土層で、多量の瓦に混じって陶磁器、土器が僅かに出土している。

SX69（第 91 図、第３表、図版９・77）

弥生時代の土坑である SK127 を切っていた。隅丸長方形を呈する。長径 1.74 m、短径 1.32 m、深さ 48㎝を測り、主軸方向はＮ 5° Ｅを指す。Ｂ層をベースに多量の瓦に混じって楼閣山水文の描かれた皿をはじめ、陶磁器が少量出土している。このうち渦巻文の陶器蓋は SD20 の溝状遺構のものと

遺構間接合した。

SX106（第 92・94 図、第 3 表、図版 78）

N 区の北西端部で検出された円形あるいは隅丸方形が想定される瓦溜りで、西側は調査区外であるため全容は不明。最大長 1 .00 m、現存最大幅 0.37 m、深さ 20㎝を測る。陶磁器、軒桟瓦等が出土している。ガラス製品は壁上からの流れ込みの可能性が高い。

SX107（第 92・93 図、第 3 表）

N 区中央西壁際の SX110 焼土跡の下で検出された瓦溜りで、SX127 の上位部分に付された遺構№である。長径 1.87 m、短径 1.42 m、深さ 30cm ほどを測る。瓦の他に陶磁器、土器が少量出土している。

SX114（第 92 図、第 3 表、図版 78）

N 区の北壁際で検出された瓦溜りであるため、全容は不明。現状でおよそ 1 m四方を測る。卍文瓦、滴水瓦も出土している。

SX120（第 93 図、第 3 表、図版 78）

N 区で検出された瓦溜りで、西側を KR4 に切られているため、全容は不明。長径 1.80 m、現存短径 1.50 mを測る。覆土には焼土が含まれ、軒丸瓦、軒桟瓦等が出土している。

SX121（第 67・93 図、第 3 表、図版 49・78）

N 区の西壁中央で検出された瓦溜りで、北側をコンクリで切られ全容不明。長径 1.12 m、深さ 35㎝を測る。SD37 を切っていた。覆土は粒子の粗い粘性が強い灰褐色土が主体で、瓦の他に磁器、土器が少量出土している。

SX126（第 92・95 図、第 3 表、図版 69・74）

多量の瓦が出土した N 区南西隅の瓦溜りである。SX127 を切っていた。南北長 4.57 m、現存東西長 3.18 m、深さ 1.10 mを測る。覆土は 4 層に分層され、最上層には瓦が極めて多量に含まれており、焼土・炭化物も若干含まれていた。2 層は粘土ブロックを含む黄褐色土、3 層は硬質な褐色土であった。最下層の黒色を呈する 4 層からは板材が出土した。覆土からは陶磁器、土器、瓦、金属製品、銭貨、木製品、種子等が出土している。当層からは土器皿等もまとまって出土しており、瓦を入れ込む前に何らかの祭祀的な行為が行われていた可能性を示唆している。瓦も 3,000 点以上が出土していた。出土遺物から 18 世紀中葉以降に廃棄された遺構と考えられる。

SX127（第 95 図、第 3 表、図版 95）

N 区の南西側で検出された大型土坑で、方形を呈する。西側は調査区外となり、全容は不明。壁は垂直に立ち上がり、地下室として活用されていた可能性が高いと考えられる。しかしながら砂層部では崩壊が著しく、緩やかな立ち上がりとなっていた。西壁際には踏み台のような方形礫が設置されていた。遺構の推定規模は南北長 2.35 m、東西長 2.18 m、深さ 1.05 mを測り、主軸方向は N 10° E を指す。覆土は焼土を若干含む褐色土がベースであった。底面には 1 本杭が認められた。覆土からは多量の遺物が出土した。北側は SX126 に切られているものと判断した。磁器、陶器、土器、瓦、石製品が出土している。土器と瓦の出土が多かった。出土遺物から 17 世紀末葉以降に廃棄された遺構と考えられる。

SX129（第 58・95 図、第 3 表、図版 80）

N 区で礫集中遺構である SX123 と同時に検出された隅丸方形を呈する瓦溜りで、同じ瓦溜りである SX143 を切っていた。長径 1.32 m、短径 1.30 m、深さ 30cm を測る。覆土は漆喰・焼土を若干含む褐色土で、覆土からは陶磁器、土器、瓦が出土している。出土遺物から 18 世紀後半に廃棄された可能性が高い。

SX130（第 92・94 図、第 3 表、図版 80）

N 区で検出された範囲が当遺跡では最大の瓦溜りで、方形を呈する。中央を近代に廃棄された SE40 に、東側を KR9 に切られていた。長径約 7 m×現存短径 5.30 m、深さ 30cm を測る。覆土からは陶磁器、土器、瓦、金属製品、石製品が出土している。瓦はカウントできたものは約 700 点であったが、倍以上が出土していた。

SX132（第 95・96 図、第 3 表、図版 80）

N 区 SX126 の東側に連続して検出された瓦溜りで、多量の遺物が出土した。また西側には SX134 も接して検出された。これらの状況から 3 基の瓦溜りのセクションを通しで作り観察したが、壁はほぼ垂直に立ち上がり、明確な新旧間をつかむことができなかった。しかしさらに下面を掘り下げて再観察した所見としては、SX126 及び SX134 の両者から切られている可能性が高いと判断した。長径 2.98 m、現存短径 1.00 m、深さ 84㎝を測る。覆土は褐色土をベースにし、瓦は覆土中位から下に多く、西から東に向かって斜位に分布していた。覆土からは 1,000 点を超える瓦の他に、陶磁器、土器が出土しているが、磁器より陶器が多かった。

SX133（第 92・94 図、第 3 表）

N 区北端部の瓦溜りで布掘状を呈する長方形の瓦溜りで、調査区外である北側にさらに伸びていることが確認されている。東西方向にセクションを設定して掘削を行なったところ、壁は垂直に立ち上がり底面に大きな段差があることが判明した。瓦がびっしりと 90％以上詰まっており段差部分での新旧関係の判断ができなかった。残りの土層は軟質な黄橙色土であった。現存南北長約 3 m、幅 1.60 m、深さ 26㎝を測り、主軸方向は N 6 ° E を指す。瓦以外に陶磁器が若干出土している。

SX134（第 92・95・96 図、第 3 表、図版 80）

前述した N 区 SX132 の東側で検出された瓦溜りで、東西長 3.80 m、南北長 2.75 m、深さ 85㎝を測る。SE43、SX136 の井戸等は、SX134 掘削後に検出されたものである。覆土はレンズ状に堆積しており、褐色土、褐灰色土等に瓦等を多く含んでいた。瓦の他に陶磁器、土器、金属製品が出土しているが、陶器と磁器の割合はほぼ同じであった。

SX138（第 51・94 図、第 3 表、図版 19）

N 区で検出された布掘状の瓦溜りで、護摩堂と考えられる礎石は、この布掘底面に設置されていた。また地鎮遺構である SX140 はここに充填されていた瓦を掘り出して、甕を設置しており、強い関連性が認められる。北側は調査区外に伸びており、現存長は 9.84 mを測る。幅は北半部では約 0.70 mであるが、南半部では 0.90 mを測る。深さは 50cm を測る。覆土の北側は特に瓦がびっしりと詰まっており、黄橙色土層が僅かに認められた状況であった。瓦はカウントできたものは 1,126 点であった。護摩堂礎石群の掘り方遺構である。

SX141（第 51・94 図、第 3 表、図版 4）

N 区で検出された布掘状の瓦溜りで、護摩堂と考えられる南側礎石列は、この布掘底面に設置され

ていた。SX141 は東側が KR 9により切られており、その先の礎石は消滅されたものと考えられる。現存長径 5.45 m、幅 0.9 m、深さ 36㎝を測る。瓦の量は南北布掘りの SX138 よりは少なかった。陶磁器、土器の出土が目立った。北側には SX155 の浅い布掘状の遺構が隣接している。SX141 の前身の遺構として捉えられる可能性がある。SX138 同様護摩堂礎石群の掘り方である。

SX143（第 95 図、第 3 表）

N 区中央で検出された瓦溜りで、北側を SX129 に切られ、西側には SX127 の東壁があったため、これに切られていた可能性が高い。南北現存長 2.25 m、東西長 2.10 mを測る。覆土からは陶磁器、土器、瓦が出土している。

SX146（第 95・96 図、第 3 表）

N 区で検出された瓦溜りで、南側を SX132 に切られていた。平面形態は楕円形に近い形状を呈し、一部オーバーハングしていた。遺物は磁器、陶器、瓦が少量出土している。

SX148（第 94 図、第 3 表）

N 区で検出された小形円形の瓦溜りである。長径 1.05 m、短径 0.80 m、深さ 15㎝を測る。覆土は軟質な褐色土で、瓦がまとまって出土した。

SX150（第 94 図、第 3 表）

N 区で検出された瓦溜りで、布掘状瓦溜りの SX138 に切られているため、全容は不明。長径 1.30 m、推定短径 0.95 m、深さ 45㎝を測る。覆土は瓦を含むにぶい黄褐色土が主体であった。軒丸瓦の瓦当面完形品も出土している。

SX151（第 95・96 図、第 3 表）

N 区で検出された瓦溜りで、南側の SX134 に切られていた可能性がある。長径 3.10 m、現状短径 1.41 m、深さ 85㎝を測る。床面は凹凸が顕著で、覆土からは陶磁器、土器、瓦が出土している。

SX155（第 51・92・94 図、第 3 表）

N 区で検出された布掘状瓦溜りと考えられる。SX138 及び SX141 に切られている。現存東西長 2.95 m、現存南北長 0.70 m、深さ 20㎝を測り、主軸方向は N 75°W を指す。溶結凝灰岩製の礎石である SS180 が所在していた。

SP183（第 123 図、第 3 表、図版 100）

F 区で検出された小型の瓦溜りで、円形に近い形状を呈する。規模は長径 0.56 m、短径 0.46 m、深さ 22㎝を測る。瓦は覆土上部に充填されていた。磁器が 1 点出土している。東側に類似した遺構である SP184 が所在する。中心の距離は 0.90 mを測る。

SP184（第 123 図、第 3 表、図版 100）

F 区で検出された小型の瓦溜りで、円形に近い形状を呈する。規模は長径 0.52 m、短径 0.40 m、深さ 20㎝を測る。瓦は SP183 同様、上部に充填されていた。陶器が 1 点出土している。

R　貝堆積遺構（第 62・97 ～ 100 図、第 3 表、図版 81 ～ 87）

貝堆積遺構については、中世まで遡る可能性の高い遺構もあったが、分離が難しいため、一部を除いてここで一括して報告する。ほとんどの貝堆積が遺構覆土内のものであったが、数基はマウント状で遺構確認面に乗っているものも所在した。貝は A 区の盛土層、I・J 区の遺構等から出土している。貝が出土した場合、効率化・迅速化を図るために出土位置を記録した後、土嚢袋に取り上げた。その

ため本文内の「混土貝」は土と一緒に取り上げた貝の重さを示している。全ての貝が水洗いされたわけではないので、貝の量を比較するための数値と考えていただきたい。出土した膨大な貝の分析結果については第Ⅴ章「港区・圓福寺跡遺跡の貝類遺体」を参照願いたい。

SX3 下貝層（第 62 図、第３表、図版 40・81）

SX3 は杭列であるが、杭の中位から下位にかけて貝の堆積が認められた。貝層は約 25㎝の深さを確認した。SX3 からは 26.1㎏の混土貝を採取した。

SX34（第 98 図、第３表、図版 83）

調査区ほぼ中央のＪ区で検出された貝堆積遺構で、SE32 に切られていた。平面形態は隅丸方形状を呈する。現場ではマウンド上の盛り上がりがあるものと認識したが、浅い掘り込みがあったのかもしれない。東側に位置する SX35 の板碑出土遺構との関係は併行か、新しいものと考えている。貝は小形のものが多かったがその密度は高いものであった。混土貝は極めて多く、1,075㎏を量った。十字にセクションベルトを設定し、貝を取り上げながら掘削を行った。確認面と出土した土製品から考えて、江戸時代の遺構と考えられる。土製品はベーゴマを模したものであった。

SX37（第 98 図、第７表、図版 83）

Ｉ区で検出された覆土に貝の入る楕円形の遺構で、SE23 に切られていた。長径 1.20 m、短径 0.60 m、深さ 18㎝を測り、主軸方向はＮ 83°Ｗを指す。覆土は硬質で６層に分層され、混土貝 0.1㎏は主に上層に含まれていた。陶磁器、瓦、磁器 10 点、寛永通宝が出土している。

SX38（第 97 図、第３表、図版 83）

Ｉ区の東壁際で検出された楕円形に近い形状の貝堆積遺構で、SE19 及び SK80、SK104 に切られていた。現存長径 2.86 m、短径 2.37 m、深さ 36㎝を測る。３層に分層された覆土は黒褐色あるいは暗褐色を呈し、貝は上層に多く含まれていた。混土貝は 17.1㎏を量った。

SX41（第 97 図、第３表、図版 16・83）

楕円形状のプランの両端に貝が堆積していた。長径 0.84 m、短径 0.48 mを、深さ 12cm を測る。貝は２箇所に分離して分布していた。近接して板碑が検出されている。混土貝は 0.9㎏を量る。

SX42（第 97 図、第３表、図版 83）

Ｉ区東壁際で検出された貝堆積遺構で、平面形態は円形を呈し、斜面に沿って傾斜を持って貝が堆積していた。上面には SK103，SX40 と SD15 が所在しており、これらの遺構よりは古いことが判明している。直径約３m程度で、深さは 93㎝を測った。混土貝は 48.3㎏を量った。覆土は褐色土あるいは暗褐色土がベースで、下層には多量に貝を含んでいた。

SX43（第 97 図、第３表、図版 84）

Ｉ区東壁際に所在する貝堆積遺構で、平面形態は隅丸方形に近い不整形を呈する。長径 0.48 m、短径 0.12 mを測る。混土貝は 4.8㎏を量る。

SX44（第 97 図、第３表、図版 84）

Ｉ区で検出された隅丸方形に近い形状を呈する貝堆積で、掘り方は円形に近い形状を呈する。長径 0.60 m、短径 0.42 mを測る。混土貝は 9.5㎏を量り、覆土からは石製品が出土している。分析によるとヤマトシジミが約９割を占めているようである。

SX45（第 97 図、第３表、図版 84）

I区で検出された貝堆積でSX43の下位で検出されている。東壁に入り込むため全容は不明であるが、楕円形に近い形状を呈している。現認長径0.60 m、幅0.35 mを測る。混土貝は2.1kgを量り、すぐ横から骨小破片が出土した。また南伊勢系の羽釜破片が1点出土している。廃棄時期は中世であろうか。

SX46（第97図、第3表、図版84）

I区東壁の2段目犬走りで検出された貝堆積で、平面形態は三ケ月状を呈する。長径3.00 m、幅0.90 m、深さ72cmを測る。混土貝は16.5kgを量り、覆土からは陶器が若干出土している。

SX47（第3表）

I区の東壁セクションにかかった遺構で、安全上掘削できていないが、イヌの骨が出土している。

SX48（第100図、第3表、図版84）

J区で検出された楕円形の土坑の中に3ヶ所の貝堆積が認められた。SP321を切っており、長径1.14 m、短径0.42 m、深さ42cmを測る。覆土上層に貝が多く含まれ、混土貝は0.94kgを量る。覆土からは銭貨が2枚出土している。

SX49（第99図、第3表、図版84）

J区で検出された楕円形を呈する貝堆積遺構で、貝の堆積は薄かった。長径1.08 m、短径0.42 m、深さ6cmを測り、主軸方向はN37° Wを指す。覆土は褐色土で、上層に貝を含んでいた。混土貝は1.6kgを量る。主体はヤマトシジミで、淡水の貝、マツカサガイ類も含まれていた。

SX81（第100図、第7表、図版85）

M区の東側調査区際で検出された貝堆積遺構で、盛土直下で検出された。長径2.34 m、現存最大幅0.30 m、深さ12cmを測る。覆土から細かな貝が出土している。混土貝は0.48kgを量る。陶磁器、土器等が若干出土しているため、江戸時代の貝堆積遺構と考えられる。

SX89（第100図、第3表、図版85）

M区のD層（シルト層）で検出されたピット状の遺構で、円形を呈し、その底に方形の落ち込みがある。覆土はB層ベースで貝がある程度まとまって含まれていた。混土貝は2 kgを量る。覆土下層はC層に類似しており、貝は含まれていなかった。中世に遡る可能性がある。

SX92（第99図、第3表、図版85）

M区で検出された不整方形を呈する貝堆積遺構で、SP434に切られ、北側はSX98と重複していた。長径1.62 m、短径1.32 m、深さは48cmを測る。覆土はレンズ状の堆積を呈していた。混土貝は148kgを量り、陶器が若干出土している。検出面は江戸時代の遺構が検出されることの多いB層相当であったが、中世まで遡ると考えられる陶器破片も出土している。

SX93（第99図、第3表、図版85）

M区の段の上のB層相当面で検出された貝堆積遺構で、西側はSX92に接続する。楕円形に近い形状が推測できる遺構で、長径1.98 m、現存短径0.60 m、深さ54cmを測る。覆土中に貝が堆積していた。検出は段の上である。混土貝は92.7kgを量る。

SX94（第99図、第3表、図版86）

M区で検出された楕円形と推定できる貝堆積遺構で、北側をSX96と西側をSX98と重複している。現存確認長径1.33 m、短径1.30 m、深さ15cmを測る。覆土からは中世の双魚文の船載磁器等も出

土している。混土貝は 79㎏を量る。

SX95（第 99 図、第 3 表、図版 86）

M 区で検出された楕円形を呈する遺構で、西側は SX98 と重複する。壁は緩やかに立ち上がる。長径 0.48 m、短径 0.30 m、深さ 20㎝を測る。細かい貝片が少量出土している。

SX96（第 99 図、第 3 表、図版 86・87）

M 区で検出された貝堆積遺構で、規模も深さも周辺の貝堆積より大きい。遺構内中心部は、風鎮下のコンクリート杭 4 本で破壊を受けていた。北側を SX97 と、西側を SX98 と南側を SX94 と接している。長径 3.90 m、短径 2.40 m、深さ 36㎝を測った。混土貝は 283㎏を量った。本遺構は、貝のサンプリング調査を実施した。貝に混じって中世に遡る可能性のある陶器 5 点、炻器 3 点、板碑破片の可能性のある緑泥片岩小破片、先の尖った木製品、松ぼっくり等が出土している。

SX97（第 97・99・100 図、第 3 表、図版 87）

M 区で検出された。SE38 号に切られていた。南側は SX96 と重複する。規模は長径 1.20 m、短径 0.60 m、深さ 30cm を測る。覆土は黒色土を基調としており、貝堆積は上層に顕著であった。混土貝は 96.3㎏を量った。

SK97（第 17 図、第 3 表、図版 81）

J 区で検出された楕円形を呈する貝堆積遺構で、マウンド状を呈していた。規模は長径 1.38 m、短径 0.90 m、高さは 12cm を測る。貝は少量出土した。

SK100（第 97 図、第 3 表、図版 81）

J 区で検出された円形に近い形状を呈する土坑で、長径 0.90 m、深さ 36㎝を測る。混土貝は 10.5 ㎏を量る。貝は覆土中央のピット状の部分に多かった。遺物は出土していない。

SP309（第 98 図、第 3 表）

覆土最上層に貝が認められた。混土貝は 0.7㎏を量る。周囲にも貝が分布している。

SP316（第 98 図、第 3 表、図版 81）

覆土最上層に貝が認められた。混土貝は 0.2㎏を量った。

S　大型土坑（第 101 ～ 104 図、第 3 表、図版 88 ～ 91）

大形で方形あるいは円形を基調とした長径 2 m以上の土坑を一括する。壁が垂直に立ち上がるもの、木製品や木材を出土した土坑等もあった。また N 区検出された SX127 については、典型的な大型土坑と考えられるが、瓦溜りとしても活用されていたため、瓦溜りの項で記述済みである。

SM1（第 102 図、第 3 表、図版 88）

I 区で検出された方形の遺構で、北側はコンクリート基礎で壊されており全容は不明。覆土と遺構外の土層が近似していたが、炭が少量入り、やや軟質であり、遺物が方形に分布していたことで掘削することができた。また南側の一部に壁際に板の配置があったこと、覆土内には水平に遺物が堆積する場合が多く、掘削に役立った。十字にセクションベルトを設定し、掘り下げたところ、現存南北長 2.88 m、東西長 2.82 m、深さ 30㎝を測った。主軸方向はN 13° E を指した。覆土からは、陶磁器、土器、瓦、金属、北宋銭を含む銭貨、木製品、種子、礫等が出土した。土器皿の中には器面に金箔が貼られたものも認められた。遺構の廃絶年代は出土遺物から 17 世紀代の前半と考えられよう。出土遺物の傾向として焼塩壺と土器皿、木製品の出土が顕著であった。

SM2（第 102 図、第３表、図版 89）

K 区北側に位置し、平面形態は長方形を呈する。規模は南北長 2.88 m、東西長 2.46 m、深さは 90㎝を測り、主軸方向はＮ 4° Ｅを指す。覆土は大きく 2 層に分層され、上層は褐色土、下層は褐灰色土であった。壁も同様の色調であったが、壁は硬質で、覆土はやや軟質であり、陶磁器、土器、瓦等多量の遺物を含んでいた。覆土上位には一部焼土の堆積が認められた。出土遺物から 18 世紀後半に廃棄された可能性が高い。

SM3（第 103 図、第３表、図版 89）

K 区で検出された、隅丸長方形を呈する大型土坑である。北側には近代以降に廃棄された SK113 があり、これに一部を切られ、東側の土器皿を多出した SK114 を切っていた。南北長 2.76 m、東西長 1.62 m、深さ 54㎝を測り、主軸方向はＮ２° Ｅを指す。覆土は粒子の粗い暗褐色土を基調としていた。覆土からは陶磁器、土器、瓦、金属、銭貨、木製品、獣骨、石製品等が出土した。磁器が比較的多いという傾向があった。鬢水入れ、墨書のある陶器も出土している。骨に関しては、ウシの可能性が指摘されている。廃棄は 18 世紀代と考えられる。

SM4（第 103 図、第３表、図版 90）

K 区で検出された隅丸長方形の土坑で、覆土は粒子の粗い暗褐色土を基調とし、陶磁器、木製品等が出土している。SK117 号遺構に切られているため、本来は南北長２ｍを超えるものと推定した。現存南北長 1.62 m、東西長 1.32 m、深さ 78㎝を測り、主軸方向はＮ 4° Ｅを指す。覆土からは陶磁器、土器、瓦、板材、礫等が出土した。廃棄時期は 19 世紀代と考えられよう。

SM6（第 104 図、第３表、図版 91）

N 区で検出された大形土坑で、２基が切り合っているものと思われ、安全の確保できる範囲でトレンチ掘削を行なったが､明確に分離できなかった｡上部には礫集中遺構である SX109 が所在していた。覆土の堆積は北面では中央部に向かって斜め方向にレンズ状に堆積していたため、西側に向かってさらに大きく伸びていることが想定されよう。南北長 4.61 m、現存幅 1.84 m、深さは 1.70 m以上を測った。粒子の粗い黄褐色を基調とする覆土からは陶磁器、土器、瓦、木材等が出土したが、その量は少なかった。トレンチを入れ底面の確認を行ったが、調査区西壁に接近しているため、安全上確認できなかった。

SK19（第 101 図、第３表）

B 区で検出された不整長方形を呈する大形の土坑で、最大長 3.40 m、深さ 1.38 mを測り、主軸方向はＮ 86°Ｗを指す。壁は緩やかに立ち上がるため、他の大型土坑とは状況が異なっている。貝層を切って構築されており、覆土に少量の貝が、底面には貝層が認められた。貝土は 22.4㎏を量った。覆土の主体は青灰色を呈する土層であった。覆土からは陶器、土器、銭貨、板碑破片、木材、石製品等が出土している。

SK30A（第 101 図、第３表、図版 88）

C 区で検出された方形を呈する遺構で、一部の壁は垂直に立ち上がっていた（巻頭写真 27)。長径 1.96 m、深さ 84㎝を測り、主軸方向はＮ 68°Ｗを指す。下部には桶を伴う施設が所在しており、当施設が方形の地下室か井戸の掘り方か、また他の解釈が成り立つのか判断できなかった。やや硬質で締まりの強い覆土からは陶磁器・土器、銭貨が 1 枚出土している。

SK30B（第 101 図、第 3 表、図版 88）

SK30A の下方で検出された桶を伴う遺構である。平面形態は不整隅丸長方形を呈し、現存長径 2.10 m、幅 1.80 m、深さ 1.68 mを測る。主軸方向はＮ 10°Ｗを指し、Ａとは大きく異なる。Ｂの覆土は A に比べて軟質で、桶の直径は上方で 53㎝、下方で 70㎝を測った。

SX21（第 104 図、第 3 表、図版 90）

F 区の中央部で検出された遺構で、C 層類似層で確認され、黄褐色砂層を覆土としていた不明瞭な長方形を呈する遺構である。南東側には土器皿の集中が認められた。特に遺構の北側は不明瞭で、全容は不明。東西長 3.48 m、南北長 1.74 mを測る。覆土からは陶磁器、土器、瓦、銭貨が出土している。磁器より陶器が多かった。

SX70（第 104 図、第 3 表、図版 90）

J 区の SB1 礎石建物跡検出範囲から検出された細長い長方形を呈する土坑で、長径 2.40 m、短径 0.60 m、深さは 1.08 mを測り、主軸方向はＮ 15° E を指す。壁はほぼ垂直に立ち上がるが、底面は平坦ではなく、やや中心の深いアールを持つ形状を呈している。覆土は褐色土をベースに黄色粘土ブロックを含んでいる土層であった。覆土からは磁器 1 点、土器 1 点が出土している。

T　土坑（第 32・65・73・105 ～ 128 図、第 3 表、図版 14・92 ～ 98）

調査区からは、多種多様な土坑が検出されている。特徴的な土坑について記述し、それ以外は遺構一覧表に記載したので、それを参照されたい。

SK2（第 108 図、第 3 表）

B 区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈し、長径 0.63 m、短径 0.53 m、深さ 27㎝を測る。覆土に焼土を含み、瓦が出土した。

SK3（第 108 図、第 3 表）

B 区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈し、長径 0.55 m、短径 0.41 m、深さ 22㎝を測る。一部攪乱により破壊されており、覆土には焼土が若干含まれていた。

SK6（第 108 図、第 3 表）

B 区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈し、長径 0.67 m、短径 0.65 m、深さ 40㎝を測る。

SK9（第 105 図、第 3 表）

B 区で検出された土坑で、全容不明。長径 2.10 m、深さ 25㎝を測る。

SK10（第 105 図、第 3 表）

B 区で検出された土坑で隅丸長方形を呈する。長径 0.96 m、短径 0.45 m、深さ 52㎝を測り、主軸方向はＮ 12° E を指す。

SK13（第 105 図、第 3 表）

A 区で検出された土坑で、隅丸方形を呈する。長径 0.49 m、短径 0.40 m、深さ 40㎝を測る。

SK14（第 105 図、第 3 表）

A 区で検出された土坑で、隅丸長方形を呈する。江戸以前の土器小片が 1 点出土している。

SK15（第 43 図、第 3 表）

A 区で検出された土坑で、全容は不明。円形を呈する。直径約 0.60 m、深さ 48㎝を測る。

SK17（第 105 図、第 3 表）

B区で検出された不整隅丸長方形の土坑で、最大長2.98 m、幅2.05 m、深さ45㎝を測る。主軸方向はＮ７°Ｗを指す。上層はにぶい黄褐色土層、下層は黒褐色土層で、覆土中には陶磁器、瓦が多量に含まれていた。二重網目文の碗、徳利等の復元率が高い。

SK18（第64図、第３表）

B区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、SD3を切っていた。長径1.02 m、幅0.66 mを測る。覆土は粘土ブロックを含む黒褐色土であった。主軸方向はＮ６°Ｅを指す。

SK20（第105図、第３表）

B区で検出された不整形の土坑で、長径2.45 m、幅1.80 mを測る。

SK21（第10図、第３表、図版92）

B区で検出された円形を呈する土坑で、大型土坑のSK19に切られていた。

SK22（第105図、第３表、図版92）

B区で検出された円形を呈する土坑である。最大長0.85 m×短径0.75 m、深さ61㎝を測る。覆土は粒子のやや粗い暗青灰色土であった。

SK25（第106図、第３表、図版92）

C区で検出された円形を呈する土坑である。銭貨が１枚出土している。

SK27（第118図、第３表）

C区で南側を、N区で北側を調査した。隅丸長方形を呈し、長径0.95 m、短径0.86 m、深さ0.88 mを測り、主軸方向はＮ１°Ｅを指す。覆土上層には焼土が若干含まれ、瓦が出土した。下層は暗褐色あるいは黒褐色を呈する粘土ブロックを少量含む土層であった。

SK29（第106図、第３表、図版92）

C区で検出された隅丸方形の土坑である。最大長1.37 m、最大幅1.24 m、深さ42㎝を測る。覆土は暗褐色あるいは黒褐色を呈する土層で、漆製品が出土している。

SK31（第106図、第３表）

D区で検出された楕円形を呈する土坑で、長径0.75 m、短径0.53 m、深さ20㎝を測り、主軸方向はＮ72°Ｗを指す。覆土は粘土ブロックを含む暗褐色土がベースで、陶磁器、土器、瓦等が少量出土した。

SK35（第106図、第３表、図版92）

D区で検出された円形を呈する土坑で、規模は直径1.50m、深さ60㎝を測る。覆土はやや軟質なオリーブ黒色土で、18世紀代の徳利や桟瓦等が出土している。

SK38（第106図、第３表）

E区で検出されたピット状の土坑であり、底面は水平で、壁は垂直に立ち上がる。長径0.64 m、短径0.56 m、深さ50㎝を測る。陶磁器、瓦、銭貨が僅かに出土している。

SK40（第106図、第３表、図版92）

E区で検出された円形の土坑で、直径0.50 m前後、深さは18㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土で、天保通宝や文久永宝、軒丸瓦が出土している。出土遺物から幕末に位置付けられよう。

SK42（第107図、第３表）

E区で検出された円形を呈する土坑で、壁は直線的に立ち上がる。長径0.54 m、短径0.45 m、深

さ 31㎝を測る。覆土の主体は粘土ブロックを含む軟質な黒褐色土であった。

SK46（第 107 図、第３表）

E 区で検出された楕円形を呈する土坑で、長径 0.81 m、短径 0.58 m、深さ 10㎝を測る。覆土には焼土が含まれ、瓦が 26 点出土している。

SK48（第 107 図、第３表）

E 区で検出された円形を呈する土坑で、覆土中には砂利状の礫が多く含まれていた。長径 0.72 m、短径 0.64 m、深さ 28㎝を測る。

SK50（第 107 図、第３表）

E 区で検出された楕円形を呈する土坑で、長径 2.28 m、短径 0.78 m、深さ 30㎝を測る。覆土中には粘土が含まれ、覆土からは肥前鉄絵鉢が 1 点出土している。

SK52（第 109 図、第３表）

F 区の撹乱直下で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、長径 1.64 m、深さ 33㎝を測る。覆土には焼土、粘土が少量含まれていた。覆土からは南宋銭や北宋銭、鉄銭などが出土した。

SK53（第 109 図、第３表、図版 93）

F 区で検出された円形を呈するピット状の土坑で、覆土には瓦、溶結凝灰岩等が含まれていた。磁器 1 点、陶器 1 点、土器 1 点が出土している。

SK54・58（第 109 図、第３表、図版 93）

F 区で検出された浅く不明瞭な土坑である。SK54 は隅丸方形を呈し、SK58 はその中で検出された楕円形状の土坑である。SK54 は長径 3.56 m、深さ 30 ｃｍを測る。SK54 からは中央が穿孔された土器皿と中央部に鉄の芯状のものが貼り付いた土器皿が出土している。また銭貨も 1 枚出土している。SK58 は長径 2.20m、短径 1.05 mを測る。

SK55（第 109 図、第３表、図版 93）

F 区で検出された楕円形を呈する土坑で、現存最大長 0.84 m、深さ 30cm を測る。覆土はやや硬質な黒褐色土層で、陶磁器・土器、瓦等が少量出土した。

SK56（第 109 図、第３表）

F 区で検出された円形の土坑で、直径は約 0.55 mを測る。磁器が 2 点出土した。

SK57（第 109 図、第３表）

F 区で検出された円形を呈する土坑で、直径 0.65 m前後、深さ 26cm を測る。覆土は粘性の強い黄橙色土であった。

SK63・64・65（第 110 図、第３表、図版 93・94）

F 区で検出された不整隅丸長方形の土坑で、平面形態、黄色粘土層を主体とする覆土であるという共通性から、同様の用途が想定されるため、ここで一括する。規模等に関しては一覧表を参照していただきたい。

SK72（第 48・110 図、第３表、図版 94）

H 区で検出された隅丸方形に近い形状を持つ土坑で、現存長径 1.05 m、深さ 30cm を測る。灰黄褐色を呈する覆土からは、やや多量の瓦、磁器 7 点、陶器 2 点、土器 1 点が出土した。

SK73（第 48 図、第３表、図版 94）

H区で検出された隅丸方形を呈する土坑で、SP229を切っていた。長径0.75 m、深さ30cmを測る。

SK75（第60・110図、第3表）

H区で検出された円形を呈する土坑で、芥溜りのSX23に切られていた。長径1.50 m前後、深さ50cmを測る。覆土は瓦を含む暗褐色土であった。覆土からは陶磁器、土器、瓦が出土した。

SK76（第110図、第3表）

G区で検出されたピット状の土坑である。掘り込みは斜め方向に行われていた。長径0.78 m、深さ54㎝を測る。江戸時代の土器が3点出土している。

SK77（第111図、第3表、図版94）

I区で検出された長方形の土坑で、土蔵基礎の可能性がある。長径約1.80 m、幅0.56 m、深さ66㎝を測る。主軸方向はN6° Eを指す。覆土は黄褐色土をベースにし、陶磁器、土器が少量出土している。

SK81・102（第111図、第3表）

SK81はJ区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、SK102を切っていた。現存長径0.66 m、深さ64㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む黄褐色土で、瓦、金属等が若干出土している。SK102は隅丸方形を呈し、最大長1.34 m、深さ54㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土を基調とし、磁器が1点出土した。

SK83（第73図、第3表）

I区で検出された円形の土坑で、井戸であるSE18に切られていた。直径約1.50 m、深さ約30㎝を測る。覆土上層には貝片や焼土が含まれていた。陶磁器等の遺物は出土しなかった。

SK84（第73図、第3表）

SE18に切られ、SP247を切っている。現存長0.80 m、深さ42㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む黄褐色土をベースとしていた。遺物は出土していない。

SK85（第111図、第3表）

J区で検出された、楕円形に近い形状を呈する土坑で、長径1.08 m、短径0.72 m、深さ15㎝を測り、主軸方向はN 10° Eを指す。覆土からは陶磁器、土器、瓦等が少量出土している。

SK86（第111図、第3表）

J区で検出された円形を呈する土坑で、直径0.55 m前後。深さ14㎝を測る。覆土上層には焼土、炭化粒が若干、粘土ブロックが少量含まれている。覆土からは磁器破片が1点出土している。

SK87（第112図、第3表）

J区B層面で検出された楕円形を呈する土坑で、長径0.96m、短径0.72 m、深さ18㎝を測る。覆土はA層に類似した土層で、遺物は出土しなかった。

SK90（第112図、第3表）

J区で検出された惰円形を呈する土坑で、長径1.20 m、短径1.08 m、深さ18㎝を測る。中央部はピット状にくぼむ。覆土は焼土を若干含む黄褐色土をベースにしていた。覆土からは土器皿1点、砥石破片、瓦41点が出土している。

SK91（第112図、第3表）

J区で検出された土坑で、楕円形を呈する。長径0.66 m、短径0.48 m、深さ24㎝を測り、主軸

方向はN 79° Eを指す。SK120を切っていた。覆土には焼土が若干含まれていた。

SK92（第112図、第3表）

骨の出土したSK93の上で検出された円形の土坑である。直径0.54 m、深さ12cmを測る。覆土は焼土を若干含む暗灰黄色土で、瓦が1点出土した。

SK94（第75・113図、第3表）

J区で検出された不整形の土坑で、SE26を切っていた。長径1.14 m、短径0.96 m、深さ42㎝を測る。覆土は黄褐色粘土をベースとしていた。覆土からは陶磁器、土器、瓦が若干出土した。

SK96（第113図、第3表）

J区で検出された不整楕円形を呈する土坑で、長径1.08 m、短径0.60 m、深さ35㎝を測る。黄褐色粘土ブロックを含む土層を基調としていた。覆土からは、土器、瓦、貝片が若干出土した。

SK98（第113図、第3表）

J区で検出された不整楕円形を呈する土坑で、長径0.87 m、短径0.66 m、深さ39㎝を測る。覆土上層は暗灰黄色、下層は褐色を呈する土層であった。磁器1点、瓦1点が出土した。

SK101（第113図、第3表）

J区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈する。直径約0.70 m、深さ12cmを測る。覆土には焼土、炭化物を含み、貝堆積を切っていた。覆土からは磁器、瓦が若干出土した。

SK105（第113図、第3表、図版95）

J区で検出された土坑で、長径1.38 m、短径1.20 m、深さ48㎝を測る。覆土は褐色土を基調とし、最上層に貝を若干含む。覆土からは縄文土器2点、弥生土器1点、江戸時代の土器1点、礫1点が出土しているが、掘り込み面、貝の堆積状況から中世以降の遺構と判断した。

SK107（第113図、第3表）

J区で検出された円形に近い形状を呈する土坑で、東側は攪乱されており、全容は不明。現存最大長1.74 m、深さ66㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土をベースとしていた。

SK108（第114図、第3表、図版95）

J区で検出された長方形を呈する江戸時代以降の土坑である。長径1.02 m、短径0.48 m、深さ9cmを測り、主軸方向はN80° Wを指す。江戸磁器、陶器の他に弥生土器が2点出土している。

SK110（第114図、第3表）

細長い長方形形状を呈する。現存最大長1.44 m、幅0.96 m、深さ18㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土を基調としていた。磁器、土器、瓦等が少量出土した。土器は南伊勢系の鍋破片か。

SK111（第115図、第3表）

K区壁際で検出された土坑で、溝状を呈していた。現存最大長0.69 m、幅0.42 m、深さ22㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む黄灰色土で、土器皿破片、瓦等が若干出土している。

SK113（第114図、第3表、図版96）

K区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、長径2.10 m、短径1.02 m、深さ1.32 mを測る。覆土には焼土が含まれ、近代以降の遺物も多く入っていた。廃棄は近代以降であるが、構築年代については不明である。

SK116（第114図、第3表）

K区で検出された長方形の土坑である。現存最大長1.52 m、幅1.20 m、深さ10cmを測る。覆土は粒子の粗い褐色土で、陶器、瓦が若干出土している。

SK117（第103図、第3表、図版90・96）

K区で検出され、SM4を切っていた。平面形態は隅丸方形を呈する。長径1.32 m、短径1.14 m、深さ78㎝を測る。覆土は軟質な黄灰色土をベースとし、陶磁器、土器、瓦等がやや多量に出土している。

SK118（第115図、第3表）

K区で検出された円形を呈する土坑で、直径約1.30m、深さ54㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土を基調としており、陶磁器、瓦が若干出土した。

SK121（第115図、第3表）

J区で検出された長方形を呈する土坑で、長径0.90 m、短径0.69m、深さ18㎝を測り、主軸方向はN 79°Wを指す。暗褐色を呈する覆土からは瓦が出土している。

SK122（第115図、第3表）

J区で検出された楕円形に近い形状を呈する土坑である。推定長径1.90 m、短径1.55 m、深さ42㎝を測る。覆土からは100点以上の瓦と、磁器、土器が僅かに出土している。

SK123（第115図、第3表）

J区で検出された円形を呈する土坑である。直径0.54 m、深さは15㎝を測る。覆土はにぶい黄褐色を呈し、磁器、瓦が僅かに出土した。

SK124（第115図、第3表）

J区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、長径0.66 m、幅0.36 m、深さ24㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む褐色土を基調とする。遺物は出土しなかった。

SK125（第65図、第3表）

J区で検出された土坑で、最大長0.84 m、深さ9㎝を測る。覆土は褐色土をベースにしていた。土器、瓦、銭貨が出土している。

SK126（第104図、第3表）

J区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈し、直径0.60 m、深さ12cmを測る。覆土はにぶい黄褐色土で、遺物は出土していない。

SK130（第116図、第3表）

M区で検出された隅丸長方形の土坑で、SE32に切られた土坑と思われる。現存最大長0.53 m、深さ26cmを測る。覆土中には焼土、炭化物粒が目立った。

SK132（第116図、第3表）

M区で検出された楕円形の土坑で、風鎮基礎に近い部分は攪乱の影響を受けていた。直径約1 m、深さ54㎝を測る。覆土には焼土が若干含まれていた。陶磁器、瓦等が少量含まれている。

SK133（第116図、第3表）

M区で検出された円形を呈する土坑で、直径0.70 m前後、深さ12cmを測る。覆土は褐色を呈するブロック的な土層であった。

SK134（第117図、第3表）

M区で検出された円形を呈する土坑で、推定直径は0.95 m、深さ15㎝を測る。壁は緩やかに立

ち上がる。覆土は黄色粘土ブロックを含む黒褐色土であった。遺物の出土はない。

SK138（第 118 図、第 3 表、図版 97）

N 区の北壁際で検出された長方形を呈する土坑である。調査区外に伸びるため、全容は不明。現存最大長 1.60 m、幅 0.53 m、深さ 25㎝を測り、主軸方向はN 83°Wを指す。覆土は焼土ブロックを含むにぶい黄褐色土で、覆土からは、陶磁器、土器が出土している。

SK140（第 118 図、第 3 表、図版 97）

N 区で検出された方形を呈する土坑で、長径 0.85 m、短径 0.70 m、深さ 30cm を測る。壁は緩やかに立ち上がり、覆土は粒子の粗い褐色土を主体としていた。陶磁器、土器が出土した。

SK141（第 118 図、第 3 表、図版 97）

N 区で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、長径 0.55 m、短径 0.30 m、深さ 25㎝を測り、主軸方向はN 1 °Wを指す。覆土は粘土ブロックを含む土層が主体で、瓦と陶磁器が若干出土している。

SK142（第 118 図、第 3 表）

N区で検出された楕円形を呈する土坑で、長径 0.85 m、短径 0.70 m、深さ 11cm を測る。覆土は焼土を若干含む暗褐色土で、陶磁器、土器、瓦が少量出土している。

SK143（第 118 図、第 3 表、図版 97）

N区の西壁際で検出された隅丸長方形を呈する土坑で、現存最大長 1.53 m、短径 0.85 m、深さ 63㎝を測り、主軸方向は、N 67°Wを指す。覆土は上層は軟質な褐色土、下層は暗褐色土で、底面は砂層に達していた。瓦がややまとまって出土した。

SK146（第 118 図、第 3 表）

N区で検出された円形の土坑で、直径 0.74 m、深さ 10cm を測る。覆土は軟質な黒褐色土であった。

SK147（第 118 図、第 3 表、図版 97）

N 区で検出された土坑で、西側を SM6 に切られていたため全容は不明。現存最大長 1.67 m、深さ 40㎝を測る。覆土は粘土ブロックを主体としていた。覆土からは陶器が 1 点出土している。

SK148（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された楕円形を呈する土坑で、現存最大長 1.95 m、幅 1.85 m、深さ 35㎝を測る。覆土は粘土ブロックをベースとする土層で、瓦が若干出土している。

SX149（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された細長長方形の土坑で、SK148 に切られていたため全容は不明。現存最大長 0.75 m、幅 0.32 m、深さ 6 cm を測り、主軸方向は N13° E を指す。覆土は粘土ブロックを含む暗褐色土で、陶器が 1 点出土している。

SK150・152（第 119 図、第 3 表、図版 98）

N 区で検出された土坑で、円形を呈する。直径 1.05 m、深さ 37㎝を測る。覆土は黒色土を主体とし、覆土からは陶磁器、土器、瓦が若干出土した。SK152 は SK150 の南西側に連続する土坑で、隅丸長方形を呈する。現存最大長 0.42 m、深さ 37㎝を測る。礫が 1 点出土している。

SK151（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された土坑で、円形に近い形状を呈する。最大長 0.57 m、深さ 25㎝を測る。壁は擂鉢状に立ち上がる。覆土は粘土ブロックを含む土層をベースにしていた。

SK153（第 52 図、第 3 表、図版 98）

N 区で検出された円形を呈する土坑で、SS185 を切る。長径 0.60 m、深さは 33㎝を測る。覆土からは磁器 4 、土器 12、銭貨 2 点が出土している。

SK154（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された不整形を呈する土坑で、最大長 0.77 m、幅 0.49 m、深さ 20㎝を測る。覆土は黄褐色土をベースにしていた。

SK155（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された隅丸長方形の土坑で、現存最大長 1.30 m、幅 0.40m、深さ 33cm を測る。覆土は粘土ブロックを含む黄褐色土をベースにしていた。瓦が 5 点出土している。

SK156（第 32 図、第 3 表、図版 14）

N 区で検出された楕円形を呈する土坑で、獣骨の出土した SX145 と接していたが、明確な切り合い関係を確認することはできなかった。規模は長径で 0.69 m、短径で 0.38 m、深さ 14㎝を測り、主軸方向はN 34° E を指す。覆土からは江戸時代の陶器、土器、瓦、鉄製等が出土している。

SK157（第 119 図、第 3 表）

N 区で検出された土坑で、隅丸長方形を呈する。長径 1.69 m、幅 0.67 m、深さ 13㎝を測る。覆土はにぶい黄褐色土を呈し、陶器、瓦が若干出土している。

SK158（第 128 図、第 3 表、図版 98）

N区で検出された円形を基調とする土坑で、最大確認長 1.05 m、深さ 25㎝を測る。覆土は焼土を若干含むにぶい黄褐色土層で、瓦が若干出土した。

SK159（第 120 図、第 3 表）

N 区で検出された土坑で、瓦溜りに切られ全容は不明。覆土上層は黄褐色土、下層は暗灰黄色土であった。

SK161（第 120 図、第 3 表、図版 98）

Nで検出された円形を基調とする土坑で、直径約 0.9 m、深さ 25㎝を測る。覆土は粘土ブロックを含む黄褐色土をベースにしていた。

SK162（第 52 図、第 3 表、図版 98）

N 区で検出された円形を呈する遺構である。SS195 の上部で小砂利､粘土ブロックが堆積していた。

SK163（第 120 図、第 3 表、図版 98）

N 区で検出された円形を基調とする土坑で、直径約 0.50 m、深さ 6cm を測る。覆土は粘性の強い暗褐色土であった。遺物は出土していない。

SK166（第 120 図、第 3 表）

N区で検出された隅丸長方形の土坑で、最大長径 2.10 m、幅 0.65 m、深さ 25㎝を測り、主軸方向はN 9 ° E を指す。覆土上層は焼土を若干含む暗褐色土、下層はにぶい黄橙色土であった。

SX8（第 117 図、第 3 表）

A 区東端部の井戸の SE4 の東側で検出された浅い土坑で、不整隅丸長方形を呈する。西側は立ち上がりが不明瞭で、全容は不明。南北長 3.36 m、確認東西長 2.10 m、深さ 24㎝を測り、主軸方向はN 3° E を指す。底面は凹凸が顕著で、壁は緩やかに立ち上がる。覆土は軟質な暗灰色を呈し、陶

磁器、土器、瓦、銭貨、石製品が出土した。銭貨は永楽通宝であった。

SX18（第 117 図、第 3 表、図版 96）

E 区の大型配管の下で検出された井戸に類似した円形の土坑である。上層を切って SS57 が所在していた。直径 1.30 m程度、深さ 2.16 mを測る。壁は一旦窄まった後、やや広い底面に至っている。覆土は上層が黄褐色土、下層がにぶい黄褐色土を呈していた。遺物は少なく、土器皿と吊金具を含む金属製品 2 点が出土している。

SX21（第 104 図、第 3 表、図版 90）

F 区で検出された大形の土坑である。プランは不明瞭であったが、遺物がやや多量に出土している。

SX24（第 108 図、第 3 表）

H 区で検出された円形を呈する土坑で、直径 0.43 m、短径 0.29 m、深さ 21㎝を測る。覆土からは土器がやや多量に出土し、瓦、寛永通宝も出土している。

SX25（第 108 図、第 3 表）

SX24 に隣接していた楕円形を呈する土坑で、長径 0.52 m、短径 0.35 m、深さ 23cm を測る。遺物は石製品 1 点のみであった。

SX29（第 57 図、第 3 表）

G 区で検出された円形の土坑で、SX30 を切って穿たれていた。直径 1.20 m程度で、深さは 1.44 mを測る。覆土は粒子の粗い暗灰黄色土をベースにしていた。瓦、金属製品、木製品が若干出土している。

SX66（第 39・40 図、第 3 表）

J 区で検出された極めて小さな溝状の土坑であったが、細長長方形のプランは明確であった。長径 0.78 m、短径 0.12 m、深さ 3 ㎝を測り、主軸方向はＮ 80°Ｗを指す。覆土には焼土を少量含んでいたが、遺物の出土は無かった。

SX87（第 108 図、第 3 表）

M区で検出された土坑で、南側をSX75に切られ、全容は不明。現存最大長0.80 m、深さ 6 cmを測る。覆土は黒色土で、板材が出土した。

SX124（第 93 図、第 3 表、図版 79）

N 区で検出された土坑で、楕円形を呈する。長径 0.60 m、短径 0.45 m、深さ 15㎝を測る。覆土は砂利を多く含む褐色土で、やや軟質な堆積であった。陶磁器、土器瓦が若干量出土している。

U　ピット（第 121 ～ 131 図、第 3 表、図版 99 ～ 107）

円形、楕円形、方形、隅丸方形、隅丸長方形等種々の平面形態があり、浅いもの、深いもの、焼土や漆喰を含むもの、陶磁器、土器、瓦を含むもの等様々である。ピットは規則的に並ぶ柱穴列等も認められている。また現場ではピットと判断し、遺構名を付与し調査を開始したところ、底面に礎石が設置されていることが判明したもの等もあり、必ずしも名称と性格が合っていない遺構も存在することを述べておきたい。混乱を招くため、遺構名は一度付与したら、基本的に変えていない。

1 号ピット列（第 122 図、第 3 表）

A 区東端部の SP65、SP66、SP67 は規則的に並ぶ。また SP67 の東には SP68 が所在し、関連性が考えられよう。SP65 と SP66 の距離は約 1.6 m、SP66 と SP67 の距離は約 1.5 mを測る。SP67 と

西側の SP68 の距離は約 1.7 mを測る。覆土は粘土ブロックを含む黄橙色土が主体であった。SP68 からは陶器が出土している。

またD区の南西側の5-G・H区にはピットが規則的に並んでいることが整理調査で分かった。南北長 6.80 m、東西長 1.50 mに及ぶ。角に当たる SP110 からは、陶磁器、瓦、銭貨等が出土している。

以下特徴的なピットについて触れておく。

明確な隅丸方形を呈するピットが多かったことも当遺跡の特徴と捉えられる。SP8、12、24、48（A区）、SP7、34、62（B区）、SP71、97、107（C区）、SP90、119、120、126(D区)、SP140、164、175(E区)、SP170（F区）、SP211、221、234、238、239（H区）、SP293、300（I区）、SP264、267、327、329、350、351 、389（J区）、SP429（M区）、SP455、458（N区）等が挙げられる。

江戸時代の遺物が出土したピットも多かった。種別としては瓦が多かったが、陶磁器、土器等も出土する場合が多々あった。SP8、11、26、30、48、49、68（A区）、SP62（B区）、SP71、74 、75、82、S97（C区）、SP108、109、110、117（D区）、SP132、135、136、137、141、145、155、158、159、160、162，168（E区）170 、171、183、184、189、190、196、197（F区）、SP242（G区）、SP206、207 、208、217、222、239（H区）、SP245、284、286、287、292、294（I区）、SP254、267、272、324、329、333 、336 、339、342、343、348、350 、354、355、359、360 、361 、367 、368 、370、371、381、389 392、401（J区）、SP362、382、383、384（K区）、SP430（L区）、SP417、427、428、429、432（M区）、SP451、454、455、462（N区）等があげられる。

SP183 からは舶載陶器破片が出土した。銭貨は SP75(C区）から 1 枚が、角釘が出土したピットとしては、SP160（E区）、SP265、SP372（J区）等があげられる。I区で検出された SP300 からは、骨が出土しており、ウマの歯とのことであった。

またセクションを観察し、柱痕状の覆土堆積が認められたピットは SP115(D区)、SP253、256、257、282(J区)、SP261、270、273、282、295（I区）、SP362（K区）、SP474、478、SP490（N区）等であった。

V　その他の遺構

その他の遺構として、硬化面や近代の火力施設、煉瓦施設、便所甕が挙げられる。

SX40（第 65 図、第３表）

I区の硬化面である。粘土ブロックを含む土層をベースとしていた。銭貨が出土している。

SX59（第 89 図、第３表）

J区の広域焼土跡である SX50 の上で検出された遺構で楕円形を呈する。長径 1.62 m、短径 0.90 m、深さ 30cm を測り、主軸方向は N88° W を指す。覆土には瓦が 282 点、小獣骨がまとまって出土している。獣骨の一部には下顎骨や四肢骨がある程度まとまって出土していた。ネコとの分析であった。その他の骨はイヌの犬歯、シカの臼歯と脛骨、イノシシ類は臼歯とのことであった。明治以降の遺構と判断できよう。

SX60（第３表）

K区南端部で検出された版築層である。6 層を確認した。この版築層を掘り込む遺構は SP362 で、

SS103 は SX60 覆土上層で検出されており、両遺構ともに SX60 よりも新しい。

SX72（第 20 図、第 3 表）

L 区で検出された、コンクリ・レンガを使用した近代の何らかの火力施設である。南壁際で検出されたため、全容は不明。長径 2.36 m、現存短径 1.00 m、深さ 42㎝を測る。底面には四角い小穴が 2 基穿たれている。覆土からは火勢を強く受けたガラス製品、瓦の他に銭貨が 2 枚出土している。

便所甕

近代の便所甕が 8 基以上検出されている。甕の中から遺物が出土する場合が多かった。SX1、SX2 は B 区で検出され、併設されていた。SX1 からは獣骨が出土しており、ウシかウマどちらかという分析を得ている。SX9、SX10、SX12 は C 区で検出された便所甕で、ガラス製品が出土していることが共通する。SX 9からは近代以降の銭貨 8 枚と銅製品、鉛管、眼鏡や栓等が出土している。SX12 からは急須、茶碗、銅製へら状製品等が出土した。SX13 は E 区で検出され、甕内からは陶器破片や鉄片が僅かに出土している。SX33 は J 区の SX50 の検出面で見つかった便所甕である。一銭硬貨等明治以降の銭貨やガラス製品が出土している。SX51 は J 区で検出された便所甕で、陶器や箱庭道具等が出土した。圓福寺は明治に廃寺になったものと考えられているが、少なくとも 10 基近い便所跡が残っており、明治以降も敷地利用がなされていたことは間違いがない。また N 区の地鎮遺構（SX140）や L 区の火力施設（SX72）、後述する煉瓦遺構も明治以降の遺構である。

煉瓦遺構

煉瓦の用いられた遺構を一括する。N 区 SX108、SX115 は煉瓦遺構で、距離は 10.3 mを測る。また L 区の SX72 の火力施設にも煉瓦が用いられていた。（金持）

4　中近世の遺物

A　陶磁器・土器（第 145 ～ 179 図、第 5 表）

今回は出土資料の中から、ある一定の時間内で意図的に廃棄、あるいは埋設されたと判断される一括性の高いものの中から、残存状態の比較的良好なものを抽出し、報告の対象とした。

報告した個々の資料の属性の要点については第 5 表に記したので、ここでは資料の組成から見た場合の大まかな時間的な流れに沿って、その概要について記載したい。

〔13 世紀～ 16 世紀末〕

圓福寺が創建される以前の資料と考えられ、SK93〈土坑〉（第 164 図 10）、SP183〈瓦溜り〉（第 167 図 7）、SX14〈貝堆積土坑〉（第 168 図 9）、SX22〈土坑〉（第 168 図 20）、SX30〈礫集中・敷石遺構〉（第 169 図 9）、SX45〈貝堆積土坑〉（第 174 図 2）、SX94〈貝堆積遺構〉（第 175 図 14）、SX100〈黒色土層〉（第 175 図 15）が挙げられる。出土した遺構の時期としては、近世に帰属するものもあるが、その場合、後世の混入の可能性が高い。

SK93、SX14、SX22、SX45 出土資料は南伊勢系の羽釜で、年代は 14 ～ 15 世紀代と想定される。SX30、SX100 出土資料は瀬戸・美濃窯産の灰釉尊式花瓶の底部片で、年代は 15 世紀代と考えられる。貿易陶磁も数点確認される。SP183 出土資料は細片ではあるが、中国産の青白磁梅瓶の胴部片、SX94 出土資料は内面に双魚文が型打ちされた中国龍泉窯系の青磁鉢と考えられ、いずれも 13 ～ 14 世紀代に搬入された可能性がある。

近世以降の資料に比較して、中世に帰属する資料数は少ないが、南伊勢系の羽釜や貿易陶磁が出土していることから、本遺跡周辺が中世段階において、既に交通や生活の場として活用されていたことが想定される。

〔17 世紀初～中〕

前時期に比較して資料数は格段に増加するが、これは圓福寺創建に伴い、物資の搬入の機会が増えたことに拠ると考えられる。

各遺構内における個々の資料の編年的な位置付けや器種組成の違いによる遺構ごとの新旧は存在すると思われるが、概ねこの時期に該当する資料としては、主に SD11〈溝〉（第 145 図 2 ～ 6）、SD21〈溝〉（第 145 図 20･21）、SD31〈溝〉（第 145 図 17 ～ 19）、SE9〈井戸〉（第 149 図 3 ～ 7）、SE10〈井戸〉（第 149 図 8 ～ 17、第 150 図 1 ～ 5）、SE17〈井戸〉（第 150 図 6 ～ 22）、SE19〈井戸〉（第 151 図 2 ～ 3）、SE21〈井戸〉（第 151 図 5 ～ 7）、SE25〈井戸〉（第 151 図 12 ～ 14）、SE26〈井戸〉（第 151 図 15 ～ 18）、SE30〈井戸〉（第 151 図 19 ～ 34、第 152 図 1 ～ 13）、SE31〈井戸〉（第 152 図 14 ～ 17）、SK7〈土坑〉（第 156 図 5 ～ 11、第 157 図 1 ～ 7）、SK50〈土坑〉（第 161 図 1）、SK64〈土坑〉（第 162 図 20）、SK94〈土坑〉（第 164 図 11）、SM1〈大型土坑〉（第 165 図 1 ～ 18）、SX17〈池〉（第 168 図 12）、SX28〈大型方形土坑〉（第 169 図 3 ～ 6）、SX31〈瓦溜り〉（第 170 図 1 ～ 18）、SX73〈焼土跡〉（第 174 図 9 ～ 22、第 175 図 1 ～ 10）が挙げられる。

これらの資料の内、SX17 出土資料は瀬戸・美濃の大窯で焼成された灰釉折縁菊花文皿と考えられ、その場合、16 世紀末頃まで遡る可能性がある。

SE10、SE30、SM1、SX31、SX73 からは比較的まとまった数量の資料が出土しており、国内産陶器としては、瀬戸･美濃産の天目茶碗、灰釉皿、長石釉皿、同鉄絵皿、擂鉢、肥前唐津産の碗、皿、鉢、備前産の擂鉢、丹波産の擂鉢等が含まれる。土器類としては皿類の他、輪積み成形による焼塩壺が伴う。貿易陶磁も存在し、SE10 からは漳州窯系の青花皿片（第 149 図 8 ～ 11）、SX73 からは漳州窯系あるいは景徳鎮窯系の青花鉢･皿（第 174 図 10 ～ 16）が出土している。漳州窯系の製品としては、他に SK7 出土の赤絵大皿片（第 156 図 5・6）もある。

〔17 世紀後～ 18 世紀初〕

この時期に該当する主な資料としては、SE33〈井戸〉（第 153 図 12 ～ 18、第 154 図 1 ～ 4）、SX21〈大型土坑〉（第 168 図 13 ～ 19）、SX32〈地鎮遺構〉（第 171 図 1 ～ 7、第 172 図 1 ～ 7、第 173 図 1 ～ 6）が挙げられる。前時代と比較して、資料がまとまって出土している遺構の数量は少なく、災害や建物再建等に伴う大きな廃棄行為があまりなされず、次代へ継承されたことも要因のひとつと想定される。肥前産の薄手の磁器染付碗（第 153 図 13、第 168 図 12）や陶胎染付碗（第 153 図 12）、同香炉（第 168 図 16）がある。底部外面には「荒川」の墨書のある SX33 出土の土瓶片（第 153 図 16）は時代的には新しいと考えられ、混入の可能性がある。地鎮遺構である SX32 からはほぼ同じ規格の土器皿が 20 枚出土しており、法量の平均値は口径 13.7㎝、器高 2.5㎝、底径 8.0㎝を測る。外面底部はロクロ左回転の糸切痕を残す。内面底部の周縁は浅い窪みをなす。これらの特徴から、時代的には 17 世紀後半以降に属し、今回は当期に帰属させたが、さらに時期が下る可能性もある。

〔18 世紀前～中〕

この時期に該当する主な資料としては、SE2〈井戸〉（第 148 図 1 ～ 12）、SE32〈井戸〉（第 152

図 18 ～ 26、第 153 図 1 ～ 11）、SS4〈礎石〉（第 167 図 14 ～ 17）が挙げられる。

前時代に引き続き、当期に帰属する資料は少なく、大量に廃棄された形跡はない。比較的多く出土した SE32 の破片数の内訳は、SE32 が磁器 60 点、陶器 451 点、土器 103 点で、陶器の占める割合が多い。肥前の磁器製品については、器壁が厚手の染付碗（第 152 図 18）や染付皿（第 152 図 23 ～ 25）が目立つ。染付皿の装飾は筆書きの他、内面底部にコンニャク判による五弁花を施すものが多い。陶器としては、肥前産の呉器手碗（第 153 図 1）、回転刷毛目碗（同図 2）、銅緑釉蛇目皿（同図 3）、瀬戸・美濃産の灯明受皿（同図 5）、志戸呂産の灯明受皿（同図 6）、瀬戸・美濃の黄釉香炉（同図 7）、泉州堺産の擂鉢（同図 9）、丹波産の擂鉢（同図 10）がある。土器として「泉州麻生」銘刻印の焼塩壺（第 153 図 11）もある。SE2 出土資料には肥前産の磁器染付半球碗（第 148 図 1）の他、瀬戸･美濃産の腰錆茶碗（同図 5）、同梅文皿（同図 7）があり、「泉州麻生」銘刻印の焼塩壺（第 148 図 9）も含まれるが、SE32 出土資料よりもやや新しく、18 世紀後半代に掛かる可能性もある。

〔18 世紀後～ 19 世紀前〕

この時期に該当する主な資料としては、SD12〈溝〉（第 145 図 7 ～ 13）、SE4〈井戸〉（第 148 図 13 ～ 22、第 149 図 1・2）、SE34〈井戸〉（第 154 図 5 ～ 25、第 155 図 1 ～ 9）、SK17〈土坑〉（第 157 図 8 ～ 29、第 158 図 1 ～ 19、第 159 図 1 ～ 18、第 160 図 1 ～ 4）、SK47〈瓦溜り〉（第 160 図 8 ～ 14）、SK60〈木材廃棄遺構〉（第 161 図 5 ～ 21、第 162 図 1 ～ 19）、SM2〈大型土坑〉（第 166 図 1 ～ 15）が挙げられる。

各遺構の出土資料の内容を踏まえると、SK17、SK47、SK60、SM2 は 18 世紀代、SD12，SE4、SE34 は 19 世紀代に廃棄されたことが想定される。

SK17 出土資料の破片数の内訳は磁器 78 点、陶器 355 点、土器 168 点であるが、特に磁器では肥前産の染付二重網目文碗（第 157 図 8 ～ 16）、陶器としては京都・信楽産の小杉碗（同図 19 ～ 23）、瀬戸・美濃産の灰釉徳利（第 158 図 15 ～ 19、第 159 図 1 ～ 7）の残存率・復元率が高い。このことから SK17 出土資料は揃いの食器類が一度にまとめて廃棄された結果と考えられる。

SK60 出土資料の破片数の内訳は磁器 329 片、陶器 548 片、土器 368 片で、数量的には多い。碗皿類については、磁器では肥前産の染付袈裟襷文を口縁部内側に施した丸碗（第 161 図 7）や筒形碗（同図 8）、蛇の目高台碗（同図 9 ～ 11）、陶器では瀬戸・美濃産の腰錆碗（同図 13）、京都・信楽産の上絵付半球碗（同図 14・15）が存在する。焼塩壺としては、板作り成形「泉州麻生」銘刻印（第 162 図 6）、板作り成形無刻印（同図 7）、ロクロ成形無刻印（同図 8）の 3 種が含まれており、SK60 出土資料が廃棄された時間幅は検討の必要がある。

SD12、SE4，SE34 の各遺構出土資料中には瀬戸産の磁器染付製品が確認され、いずれも廃棄時期は 19 世紀以降、幕末・明治初期と思われる。比較的資料数の多い SE34 出土資料の破片数の内訳は、磁器 157 点、陶器 267 点、土器 53 点であるが、瀬戸産の磁器染付碗類（第 154 図 5 ～ 14）が目立ち、まとまって廃棄された状況が判る。

〔19 世紀中～〕

この時期に該当する資料としては、主に SE1〈井戸〉（第 146 図 1 ～ 13、第 147 図 1 ～ 18）、SK1〈胞衣皿埋納遺構〉（第 156 図 1 ～ 4）、SK68〈木材廃棄遺構〉（第 163 図 4 ～ 20、第 164 図 1 ～ 6）、SX12〈近代便所甕〉（第 168 図 1 ～ 8）、SX23〈木組遺構〉（第 168 図 21 ～ 26、第 169 図 1・2）、

SX140〈地鎮遺構〉（第 179 図）が挙げられる。

SK1 は胞衣埋納用の土器皿２点（第 156 図１・2）と徳利２点（同図３・4）が出土している。徳利２点は同形態で、外面上半に薄い灰釉と思われる施釉が認められ、また「小西」の墨書がされている。産地は不明であるが、明治時代以降の製品と考えられる。

SE1 出土資料の破片数の内訳は磁器 263 点、陶器 64 点、土器９点で磁器製品の占める割合が高い。各資料について、明確な判定はできないが、江戸時代の所産になるものの他、磁器としてはクロム青磁碗（第 146 図 3）や人工呉須（コバルト）の製品（同図９他）、陶器としては屋号が鉄釉で記載された所謂高田徳利等、明治時代以降の所産になるものも含まれており、廃棄された時代は 19 世紀後半以降と考えられる。

SX140 は小さな蓋付の甕（第 179 図 1・2）が埋置された状態で出土した遺構である。今回は甕に加え、内容物についても報告する。甕本体は口縁部、高台部を除き、基本的に鉄釉が施され、外面は部分的に藁灰釉が流し掛けされている。甕の内底面には６ヶ所の胎土目、外底面には砂目が付着している。

蓋は把手状のつまみが付き、外縁端からかえり部外面を除き、鉄釉が施され、表面には三葉状に藁灰釉が施されている。なお、蓋の裏面には黒い文字で「升　100」（塗材不明）の記載がある。甕の内部は滞水していたため、吸引したところ泥が堆積し、金糸、金属棒が含まれていることが判り、さらに CT 分析を行った結果、五重塔らしきミニチュアも存在も確認された。泥の堆積は最上層のみで、下層には白色物質が充填されていた。最上層の泥、下層の白色物質を慎重に取り除いた結果、金糸、金属棒、土製五重塔のミニチュアの他、墨書紙の断片も出土した。金属棒は太さ 1cm、長さ 15.4cm の丸棒状をなすと思われるが、検出時の下半部には付着物があり、やや太めになる。本来の用途は不明である。五重塔は高さ 6.5cm で、基壇は黄色、各層は青色と赤色で着色がなされている。墨書紙の記載内容は不明である。

B　ミニチュア・土製品（第 180・181 図、第６表）

概ね 18 世紀後半以降の遺構からの出土資料が多い。

ミニチュアとしては、SE1（井戸）（第 180 図 1）、SS19（石組溝）（同図 5）、SK60（木材廃棄土坑）（同図 3）、SX34（貝堆積遺構）（同図 9）、SX91（漆喰堆積遺構）（同図 10）、B 区一括（第 181 図 1）、C 区一括（同図２・3）、E 区一括（同図５・6）、N 区一括（同図 10・11）の各遺構・調査区出土資料がある。第 180 図 1 は小船のミニチュアで長さは 18.8cm と大きい。部分的に褐色の施釉が残存している。同図５は石柱建物にライオンらしき動物の側面・表面が表現されている。同図３は兜か。同図９は巻貝、同図 10 は何かの足の一部と考えられる。第 181 図 1 は鳥、同図 2･3 は鉢、皿類で、２は白色釉の上に部分掛けの緑色釉が、３は黄色釉が掛けられている。２は美濃焼の織部鉢を模したものか。同図５は擂鉢、同図６は祠である。10 は牛と思われる動物、11 は小鉢である。

土製品としては、遊び道具である泥めんこ（第 180 図２・7・11、第 181 図４・7 ～９・12）、碁石形のおはじき（第 180 図４・6・8・12 ～ 18、第 181 図 13）、実用品としての鞴羽口（第 181 図 14）の他、用途不明の資料（同図 15）もある。15 の表面は凹凸があり、内部は穴が貫通している。

C　瓦（第 182 ～ 193 図、第７・８表）

出土した近世の瓦は主に圓福寺の建物に使用されていたと考えられる。土坑等の遺構内から出土し

た瓦については、共伴する陶磁器の年代からある程度、使用された時期を推定することができるので、時代ごとに概要を記載する。

〈17 世紀初～中〉

数量は少ないが、最も古い時期に位置づけられる資料で、SE9（第 183 図 2）、SE10（同図 3・4）、SK7（第 184 図 1 ～ 3）、SX73（第 188 図 9･10）が相当する。桟瓦は含まれず、本瓦葺きの軒丸瓦、海鼠瓦、輪違い瓦が確認される。広範囲焼土跡である SX73 出土資料は被熱しており、火災に伴う廃棄と想定され、その場合、圓福寺創建時の瓦の可能性が考えられる。

〈17 世紀後葉～ 18 世紀初頭〉

SE33（第 183 図 9）、SX127（第 189 図 24・25）、SX137（第 191 図 11 ～ 15）が相当する。本瓦葺きが主体と考えられるが、桟瓦も含まれる。SX137 出土資料中の鬼瓦（第 191 図 15）には卍文が付く。

〈18 世紀前～中〉

SE2（井戸）（第 182 図 11 ～ 13）が相当する。本瓦の他、桟瓦も含まれる。第 182 図 13 は平部の瓦当文様が江戸式の左桟瓦である。

〈18 世紀後～ 19 世紀前〉

この時期以降、瓦廃棄土坑、瓦溜り等、瓦が多量に出土する遺構が目立つようになる。SD12（庭園関連遺構）（第 182 図 1 ～ 9）、SE4（井戸）（第 182 図 14 ～ 22、第 183 図 1）、SE34（井戸）（第 183 図 10・11）、SK17（大型土坑）（第 184 図 4 ～ 8）、SK47（瓦廃棄土坑）（第 184 図 10 ～ 12）、SK60（木材廃棄土坑）（第 184 図 14・15）、SK67（瓦廃棄土坑・焼土）（第 185 図 1 ～ 9）、SK75（土坑）（第 185 図 10）、SM6（大型土坑）（第 185 図 13 ～ 15）、SX126（瓦溜り）（第 189 図 1 ～ 23）、SX128（漆喰堆積土坑）（第 189 図 26 ～ 30）、SX130（瓦溜り）（第 189 図 31 ～ 34）、SX132（瓦溜り）（第 190 図 1 ～ 18）、SX134（瓦溜り）（第 191 図 2 ～ 9）、SX135（木組遺構）（第 191 図 10）が相当する。

軒丸瓦の瓦当文様としては、通常の巴文の他、卍文がある（第 182 図 3、第 189 図 11、第 191 図 3 他）。卍文は鬼瓦にも使用されており（第 189 図 23）、SE4 から出土した鬼瓦の基板と考えられる資料（第 183 図 1）にも、切込みにより卍文が表現されているようである。卍文を伴う瓦は圓福寺の建物の要所に使用されていたと考えられる。また、軒平瓦・平瓦に加え、軒桟瓦・桟瓦も多用されるが、軒の瓦当文様は江戸式が主体で、東海式等が占める割合は低いようである。また、江戸式瓦当文様の軒平瓦、軒桟瓦には滴水型も存在している（第 182 図 16、第 189 図 31 ～ 33、第 190 図 13）。

〈19 世紀後半以降〉

明治時代に入ってから廃棄された資料であるが、江戸時代から使用されていたと考えられる。SE1（井戸）（第 182 図 10）、SX23（木組遺構）（第 186 図 1 ～ 4）、SX110（広域焼土跡）（第 188 図 12 ～ 15）が相当する。第 182 図 10 は本遺跡においては比較的少ない東海式の瓦当文様の軒桟瓦である。第 186 図 3･4 は後方裏面に条線が施された桟瓦である。SX110 は近代以降の焼土面と考えられ、鬼瓦片が出土している。

刻印のある瓦については、SX59（瓦溜り）から産地の分かる資料が出土している。第 193 図 11 は平瓦かあるいは桟瓦であるが、扇形枠に「石」、「大極（不明）」、「（不明）州」が確認できる。江戸

遺跡からの出土事例から「大極上」、「尾州」の可能が高い。同図 12 は「菊間森貞」の刻印があり、伊予国の菊間産の瓦と考えられる。SX59 の年代は近代以降で、圓福寺との関連性は不明である。

D　石塔・石製品（第 194 ～ 198 図、第 9 表）

石塔類は板碑、石碑、墓石等が出土している。

板碑は 7 点の出土が確認され、いずれも緑泥片岩製である。SX35 出土資料（第 194 図 1）は比較的遺存状態が良好で、表面の主尊種子、蓮座、脇侍種子の刻みが確認できる。五輪塔の地輪と考えられる資料（第 195 図 6）と共伴している。G 区出土資料（第 194 図 2）は頭部破片で、表面には二条線、月輪、主尊種子の刻みが確認できる。I 区出土資料（第 194 図 3）は上下端を欠失しているが、表面に枠線と花瓶が刻まれている。SX30 出土資料（第 194 図 4）は細片であるが、15 世紀代の瀬戸・美濃産の灰釉尊式花瓶の底部片が共伴している。SK19 出土資料（第 194 図 5）は細片である。J 区出土資料（第 194 図 6）は細片であるが、表面にキリークが確認できる。E 区出土資料（第 195 図 1）は上下端を欠失しているが、表面に割付線、二条線、主尊種子、月輪、連座、脇侍種子の他、「文明六年 甲午 逆修妙祐禅尼」銘の刻みが明瞭に残っている。

第 195 図 2･3 は安山岩製の石碑である。断面方形の石柱型で、いずれも上部･下部は欠損している。2 には「（不明）屋幸太郎」と刻まれ、3 には「愛宕屋佐（不明）」と刻まれている。

第 196 図 1 は宝篋印塔相輪の宝珠部と思われる。同図 2 ～ 4 は墓石で、いずれも水鉢である。2 は多孔質安山岩製、3 は軟質砂質緑色凝灰岩製、 4 は変質安山岩製。

第 196 図 5・6 は人為的な加工痕・使用痕が確認され、5 は何らかの台石に、6 は道具として用いられた可能性が考えられる。

石製品としては砥石、硯、碁石、SX32（地鎮遺構）に伴う五色玉、茶臼等が出土している。第 197 図 1 ～ 15 は砥石で、石材は 5 の珪質粘土岩の他は凝灰岩である。第 198 図 1 ～ 4 は硯で、石材は、1 は結晶片岩、2・3 は粘板岩、4 は頁岩である。第 198 図 5・6 は用途不明ながら、磨石の類と考えられる。石材は、2 は安山岩、3 は軽石である。第 198 図 7 ～ 9 は碁石で、いずれも粘板岩である。第 198 図 10 ～ 14 は SX32（地鎮遺構）の土器皿内から出土したもので、陰陽五行に基づく五色玉と考えられる。石材は、10 は流紋岩、11 は緑色凝灰岩、12 はチャート、13 は石英、14 は細粒安山岩である。

第 198 図 15 は茶臼で、石材は閃緑岩で本鞍馬石（京都）の可能性がある。第 198 図 15 は茶臼で、石材は閃緑岩で本鞍馬石（京都）の可能性がある。

E　金属製品（第 199 ～ 205 図、第 10・11 表）

金属製品としては SX32（地鎮遺構）に係る遺物の他、日常生活に係る遺物が出土している。

SX32 に係る遺物は宝瓶 1 点（第 199 図 1）、輪宝 8 点（第 199 図 2 ～ 4、第 200 図 1 ～ 5）、独鈷 8 点（第 201 図 1 ～ 8）である。各遺物の合金組成は別表に示した通りである。

宝瓶は胴部の膨らみに対して頸部・脚部が窄まった後、口縁部、底部に向ってラッパ状に広がる尊形の形状をなす。装飾としては、口縁部、底部の縁帯外面にそれぞれ 2 本の沈線、胴部上方・下方にそれぞれ 1 本の沈線、頸部と脚部にそれぞれ二重の突帯が施されている。口縁内には宝珠つまみの付いた蓋が入っているが、錆により本体と付着しており、現状で取り外しは難しい。なお、CT 画像によると、脚部二重突帯の内側に胴部の底板の存在が確認できる。

輪宝８点はいずれも銅板から切り出したもので、円盤に五角形状の八峰（八つの刃）を具えた八峰輪の形態をなす。８点の八峰の先端部分を含めた最大径の平均は 148.5cm、平均厚は 0.9 mを測る。中央には独鈷を通すための一辺７～ 9mm 程の方形の穿孔がある。

独鈷８点はいずれも両端の鈷の間に把（持ち手）を有する形態をなす。長さは８点の平均値で 134.6㎜であるが、第 201 図 10 のみ 144㎜と他の独鈷より 10㎜程長い。また、各独鈷の把部分は尊形をなすが、その形状や施された突帯、沈線、蓮華文等には違いがみられ、厳密には同一規格ではない。

日常生活に係る遺物は用途の不明なものもあるが、杓子、匙、包丁、容器把手、容器台、煙管雁首、灰ならし、火箸、指輪、鏡、把手、鍵、錠、飾り金具、吊り金具、針状金具、輪状金具、釘等がある。SS4 出土の熔解した金属片は、用途は不明ながら焼土を伴う遺構の性格から、火災に起因する可能性がある。

F　銭貨（第 206 図、第 12 表）

江戸時代から明治時代にかけての銭貨が出土しており、主に年代の推定できる遺構内出土資料の他、遺構外でも渡来銭等、特徴のある資料を抽出し、報告する（第 206 図、第 12 表）。

江戸時代でも比較的古い 17 世紀初頭から中頃あるいは後半に廃棄されたと考えられる遺構内出土資料は SE9（井戸）（6）、SK7（木材廃棄土坑）（12 ～ 17）、SK52（土坑）（20・21）、SM1（大型方形土坑）（22）、SS99（礎石）（25･26）、SX73（広範囲焼土跡）（32･33）、SX127（大型土坑）（36）で、6、12 ～ 17、33、36 は国内で鋳造された寛永通宝で、残存状態が悪い 36 以外は銭文書体の特徴から古寛永（寛永 13 年〈1636〉初鋳）のと思われる。20 の大観通宝、21 の紹熙元宝、22 の熙寧元宝、25 の政和通宝、26 の永楽通宝、32 の朝鮮通宝はいずれも渡来銭である。江戸時代当初の段階では、銭貨の種類としては、国内産の寛永通宝に加え、中世以来の渡来銭が目立つ。

18 世紀代前半から中頃にかけて廃棄されたと思われる資料としては SE2（井戸）（5）、SE32（井戸）（7）、SM3（大型土坑）（23）がある。5 は開元通宝、7、23 は寛永通宝で、7 は古寛永、23 は新寛永。

18 世紀後半から 19 世紀中頃にかけて廃棄されたと思われる資料としては、SX128（漆喰堆積土坑）（37）、SX132（瓦溜り）（38）、SX151（瓦溜り）（41）がある。37、41 はいずれも新寛永通宝で、41 は背面に波文が付く。38 は「節分祭福小判」と記載があり、神社仏閣での節分祭の豆まきの際、同時にまかれたもので、流通貨幣ではない。

19 世紀後半以降、幕末から明治時代になって廃棄された資料としては、SE1（井戸）（1 ～ 4）、SK40（土坑）（18・19）、SX9（便所甕）（28）、SX33（便所甕）（30）、SX110（広域焼土跡）（35）、SX135（木組遺構）（39･40）がある。SK40 からは文久永宝（18）、天保通宝（19）が出土しており、幕末に廃棄された可能性もある。。SE1、SX9、SX110、SX135 は一部江戸時代からの寛永通宝も含まれるが、額面として一銭、二銭、二十銭硬貨が出土している。

G　ガラス製品（207 図、第 13 表）

ガラス製品が出土した遺構は 19 世紀後半以降に位置付けられる。

ガラス製品としては、瓶類（1 ～ 5 ・7・9・12 ～ 14・16・18）の他、おはじき（8・17・19 ～ 21）、栓（10）、ビー玉（15）がある。6 は高熱により溶け、変形したガラスで、当初の器形は不明。11 は薄手の製品であるが、用途不明。瓶類では側面に「醫院」（5）や「神薬」（14）、「大阪　帝國

大學病院」（18）刻印があり、薬瓶として用いられたものが多いようである。2 の側面の「（不明）田製」は 16 の「中田製」の存在を考慮すると「中田製」の可能性もある。

H　骨角製品（第 208 図）

1・2 は SE1（井戸）から出土した鼈甲製と考えられる櫛である。いずれも左右非対称の形をなし、1 は横幅 10.0cm（残存部分）、縦幅 2.9cm、胴部厚み 0.4cm　2 は横幅 11.1cm、縦幅 2.8cm、胴部厚み 0.4cm 程である。いずれも遺構の年代も踏まえると近代の所産である。3 は SS19（石組溝）から出土した箆状の道具である。柄の部分は欠損しているが、先端に向って薄くなり、ナイフ形をなすと思われる。詳細は不明であるが動物製である。4 は E 区遺構外から出土した歯ブラシである。把柄部から頭部まで残っており、長さは 15.0cm 程である。頭部は幅 1.1cm 程の長楕円形をなし、刷毛は失われているが、4 列の刷毛用の穴が開けられており、また、先端部にも 4 ヶ所穴が確認できる。詳細は不明であるが動物骨製である。

I　漆器・木製品（第 210 図、第 14 表）

漆器・木製品は井戸、特に SE30、SE32 など 17 世紀代の遺構からの出土が目立つ。

漆器類としては碗、碗蓋、杓子がある。特に碗類が多く、SE30 出土資料（第 209 図 5 ～ 8）は内面、外面とも黒漆の碗、SE32 出土資料（第 210 図 3 ～ 6）は内面赤漆、外面黒漆の碗である。SE35 から出土した杓子（第 212 図 6）は玉部であるが、黒漆が施されている。

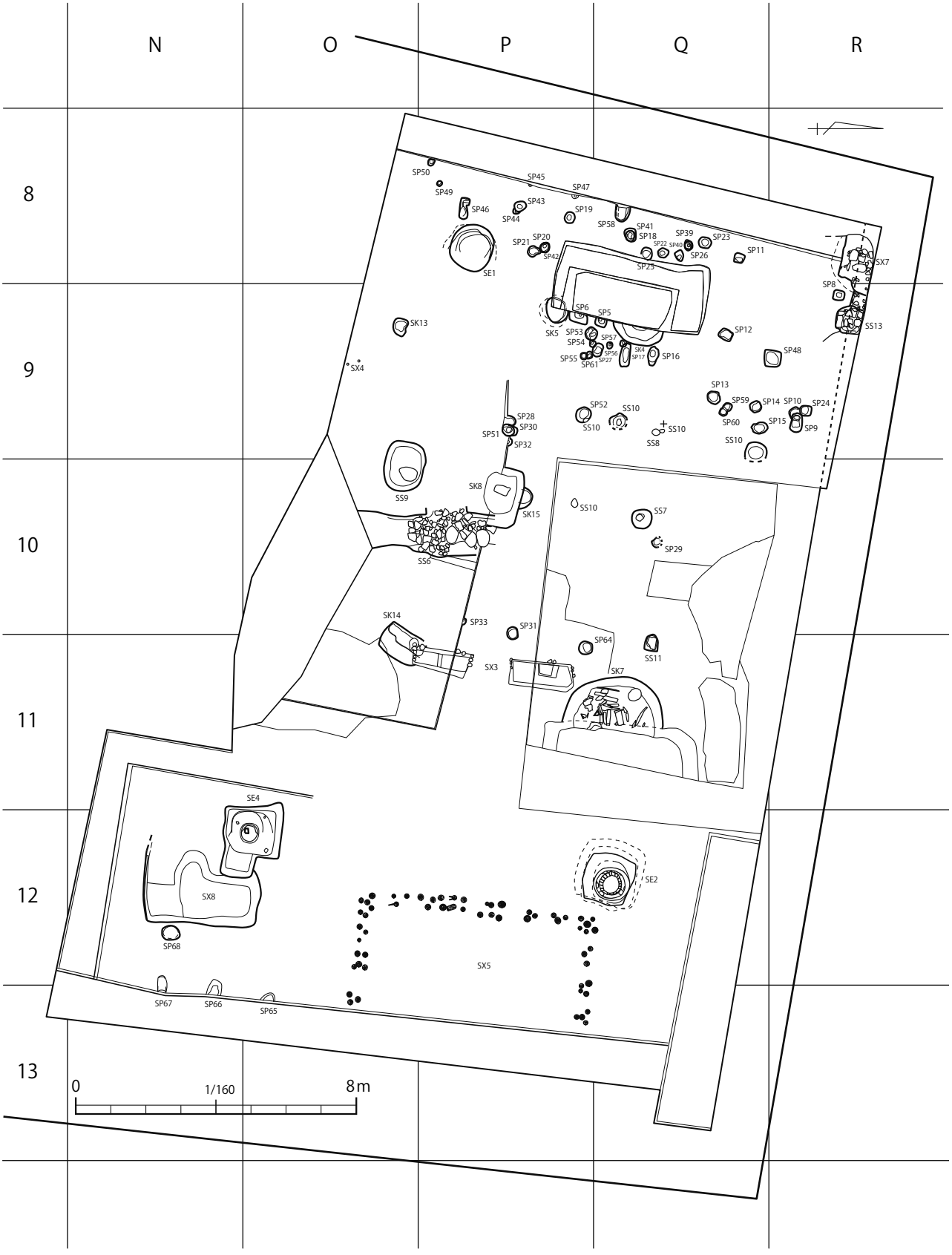
木製品としては箸、曲物の柄杓の側板と底板、桶樽底、栓、下駄、すりこぎ、撚り紐の他、板材が出土している。箸としたのは、長さ 20 から 28cm の棒状の木製品であるが、SM1 出土の 28cm 前後の長さのもの（第 212 図 15）は柄杓の柄の可能性もある。曲物の付いた柄杓としては第 209 図 1 の側板、同図 12 の底板、第 211 図 6・7 の底板、同図 9 の側板がある。桶樽の底板と考えられる資料としては第 213 図 1 があり、片面に焼印が押されている。SE30 出土の板材（第 210 図 1・2）は用途不明であるが、両面に墨書が認められ、1 の片面（同図左）は般若心経の梵字ヂクマンと思われ、2 の片面（同図左）は「大般若」と判読できる。

J　動物遺体（第 214 図、第 15 表）

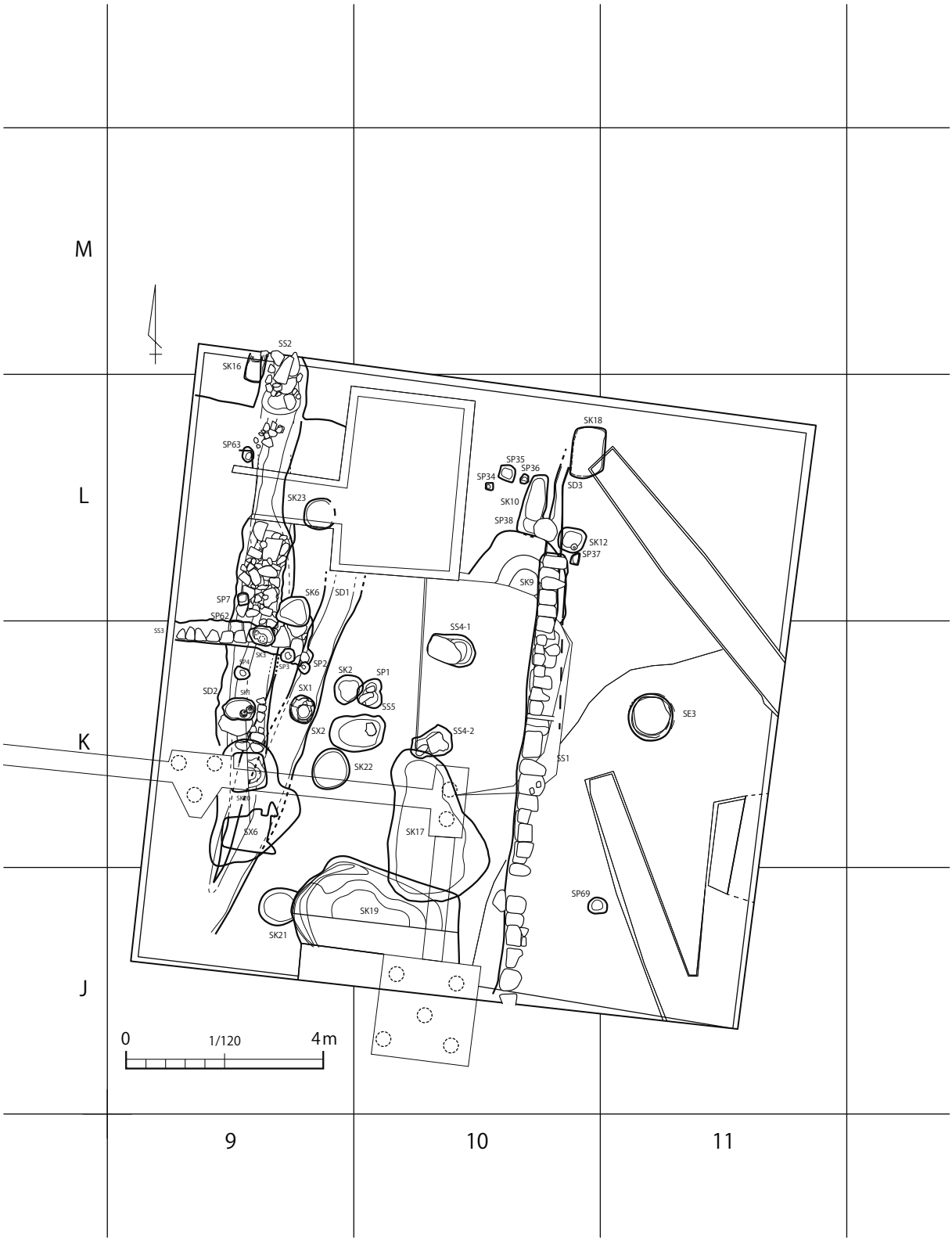
今回の発掘調査で検出された遺構からは多少なりとも動物遺体が出土しているが、専門家による指導の結果、報告の対象とした主な資料は第 15 表のとおりである。資料の内、特に注目されるのは、SX19 と SX145 から検出された動物遺体である。

SX19 は時期的に中世まで遡る可能性のある遺構であるが、動物骨が長径 2.75 m、短径 1.75 mと比較的広い範囲で出土した。遺存状態が悪く、同定が困難なものが多かったが、結果として、動物骨はウマの四肢骨の他、臼歯や寛骨（骨盤）が確認されている。なお、寛骨は左右が揃っているものが２点出土しており、この遺構内で確認されたウマは少なくとも２個体分であることが判明している。

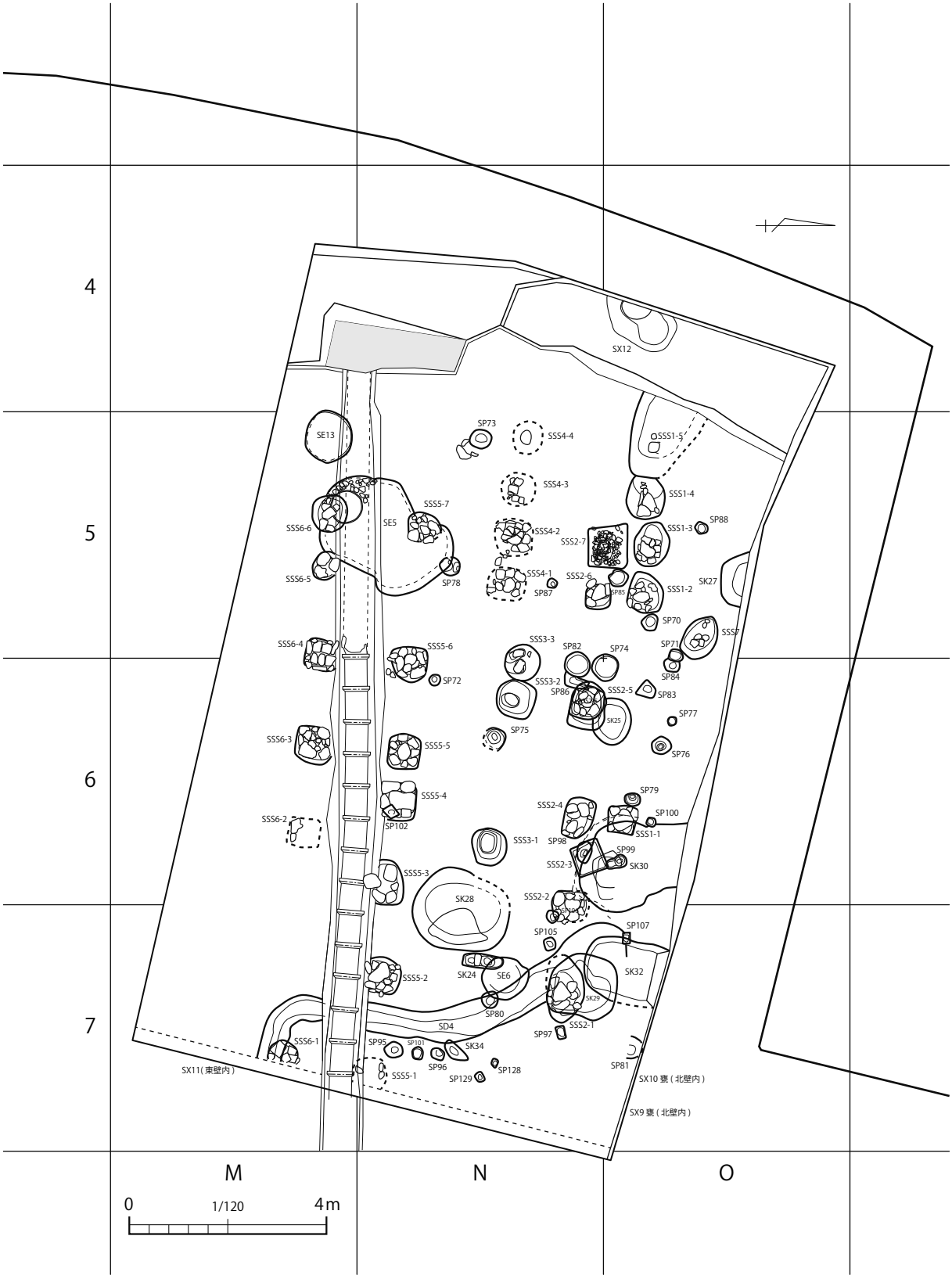
SX145 は長径 0.91m、短径 0.56 m、深さ 0.22 mの土坑で、詳細は不明ながら時期的には中近世に当たる。動物骨が出土しており、同定の結果、ウマの歯・左側手根骨・中足骨・距骨が確認されている。比較的遺存状態が良好なウマの歯の部位については、同一個体と考えられる左右上顎の第２前臼歯・第３前臼歯・第４前臼歯・第１後臼歯・第２後臼歯・第３後臼歯、左右下顎の第２前臼歯・第３前臼歯・第４前臼歯・第１後臼歯・第２後臼歯・第３後臼歯の他、上下顎の切歯も確認されている。上下顎の前臼歯、後臼歯の歯高はいずれも高く、その計測値から推定されるウマの年齢は４歳程度で、比較的若い個体であることが判明した。（内野）



第９図　A 区遺構分布図 (1/160)



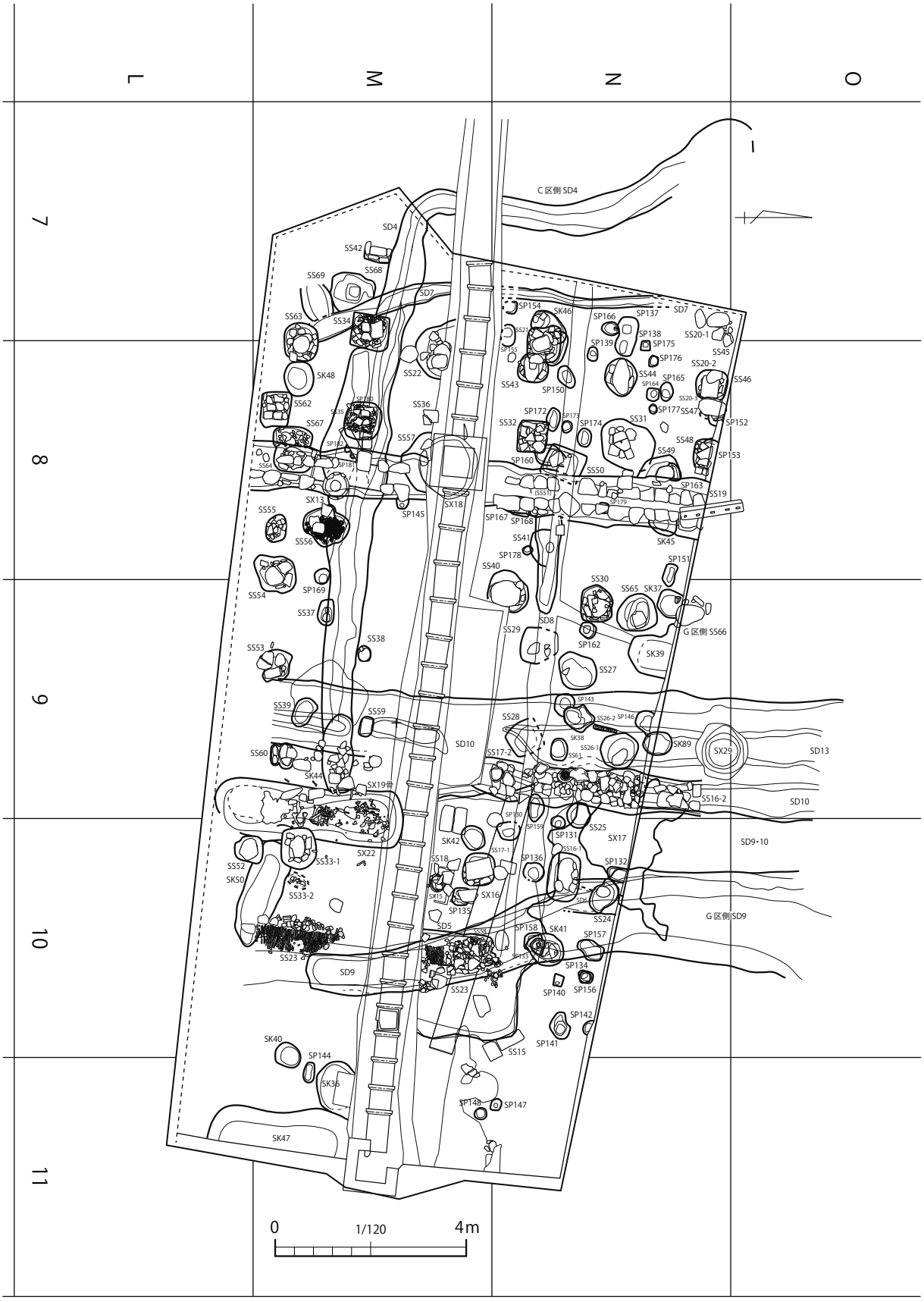
第 10 図　B 区遺構分布図 (1/120)



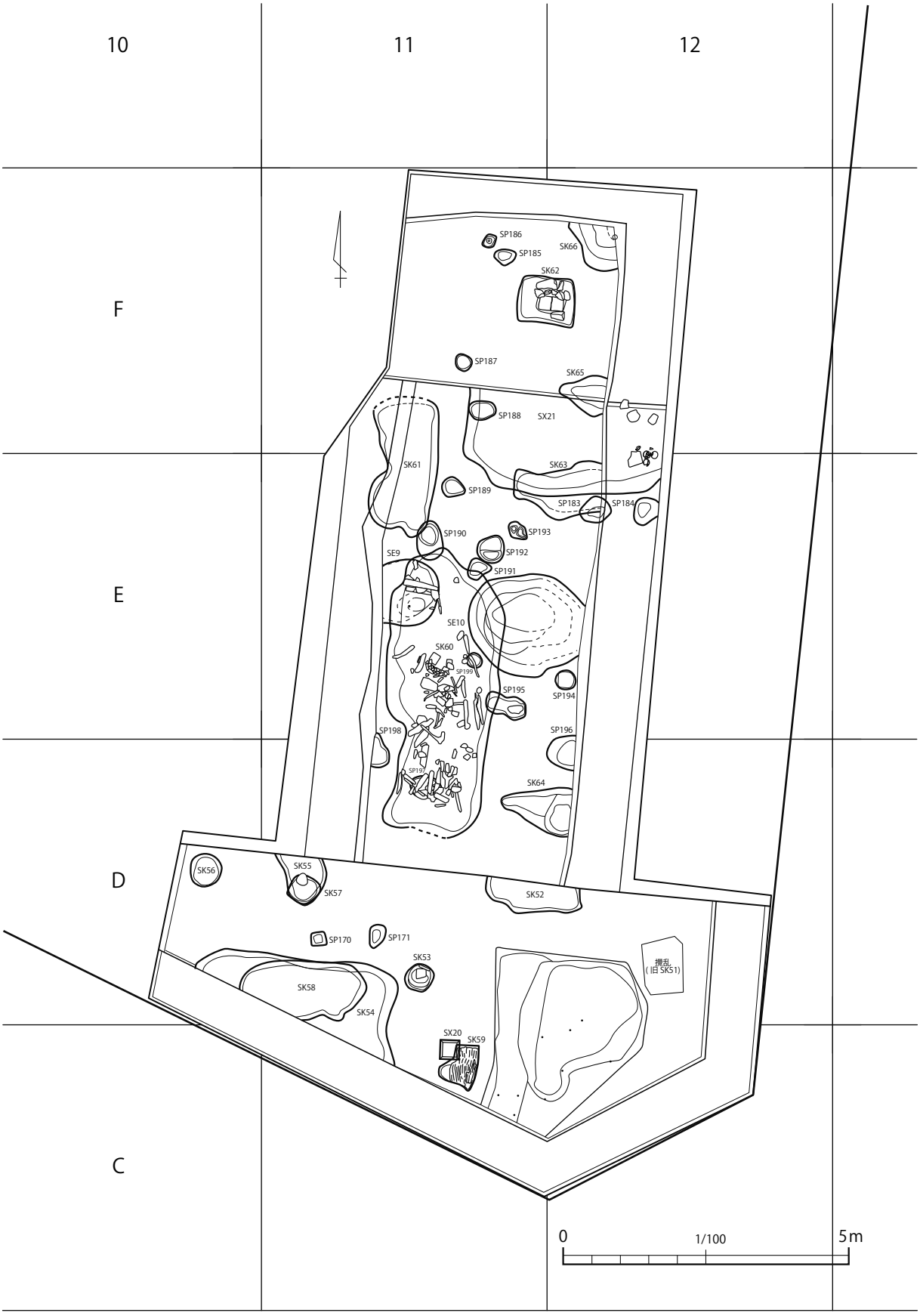
第 11 図　C 区遺構分布図 (1/120)



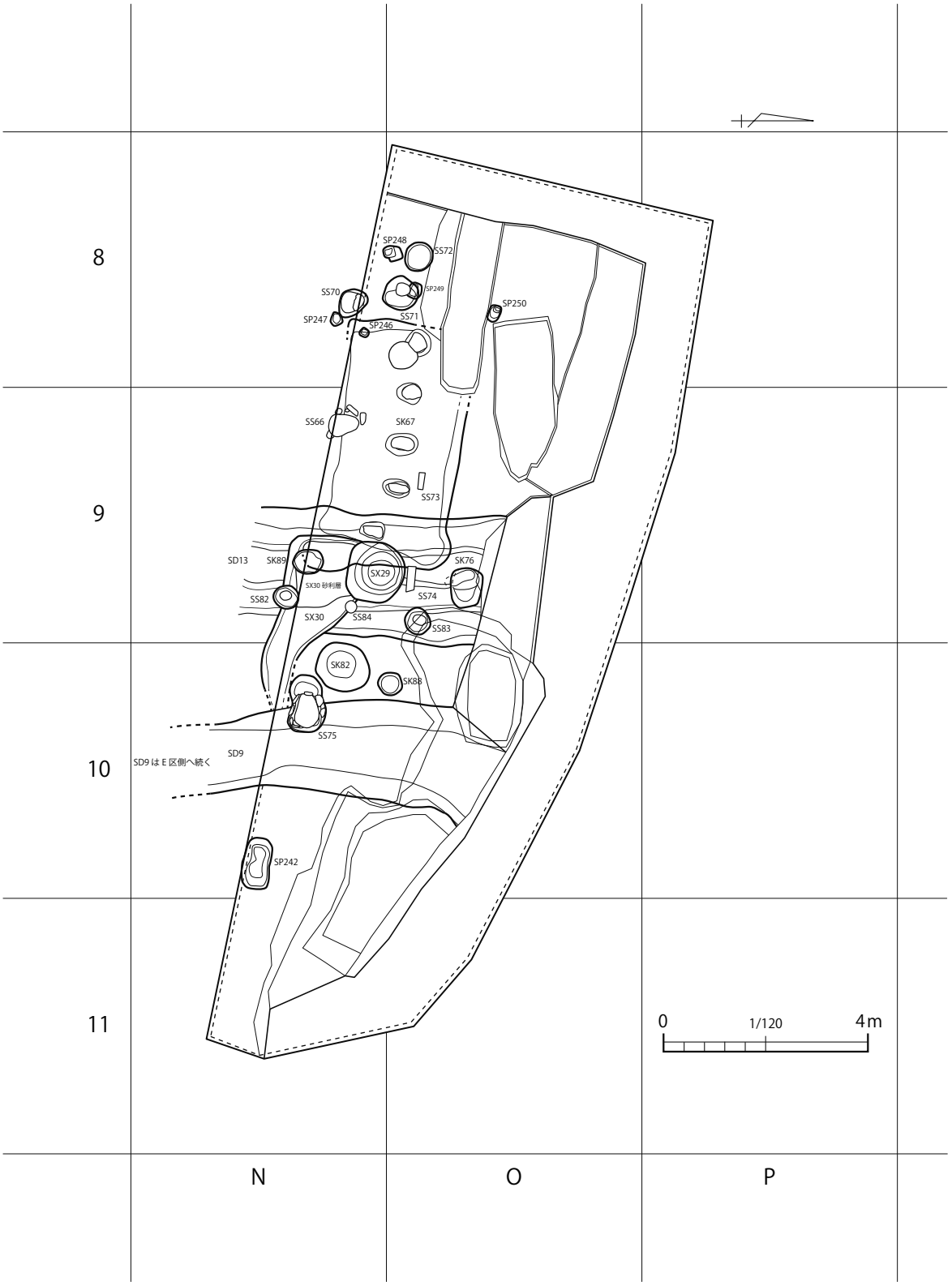
第 12 図　D 区遺構分布図 (1/120)



第 13 図　E 区遺構分布図 (1/120)



第 14 図　F 区遺構分布図 (1/100)



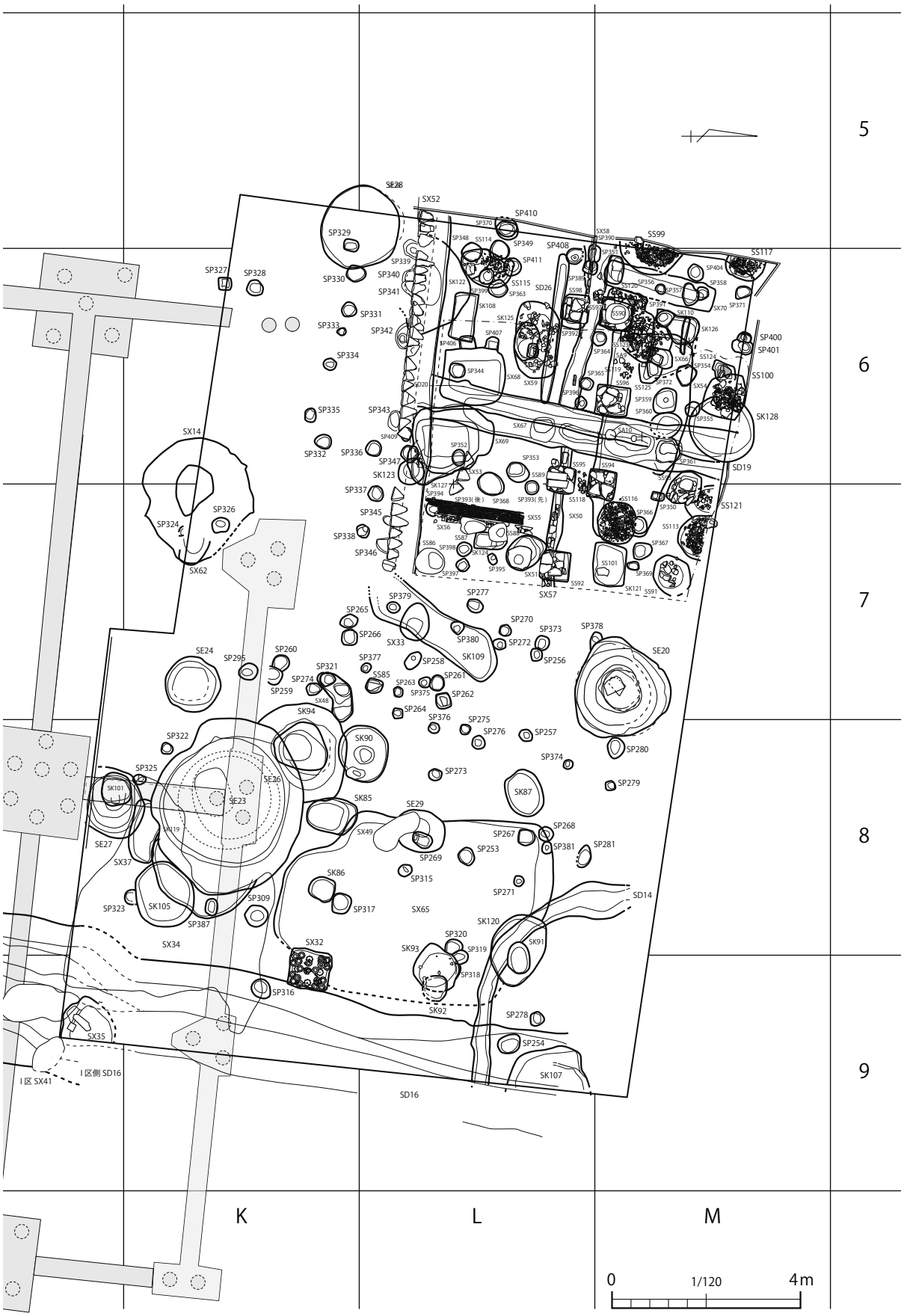
第 15 図　G 区遺構分布図 (1/120)



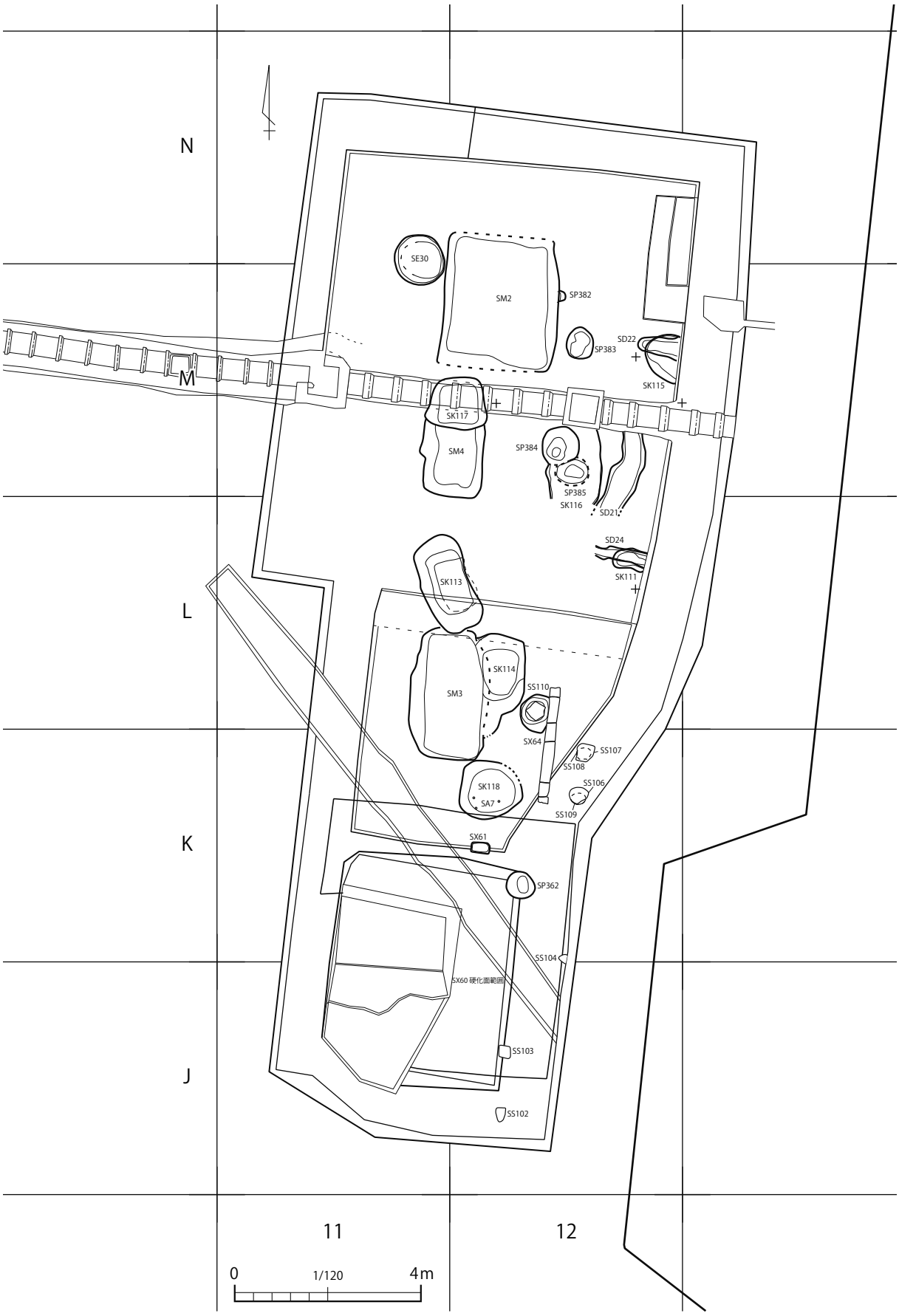
第 16 図　H 区遺構分布図 (1/150)



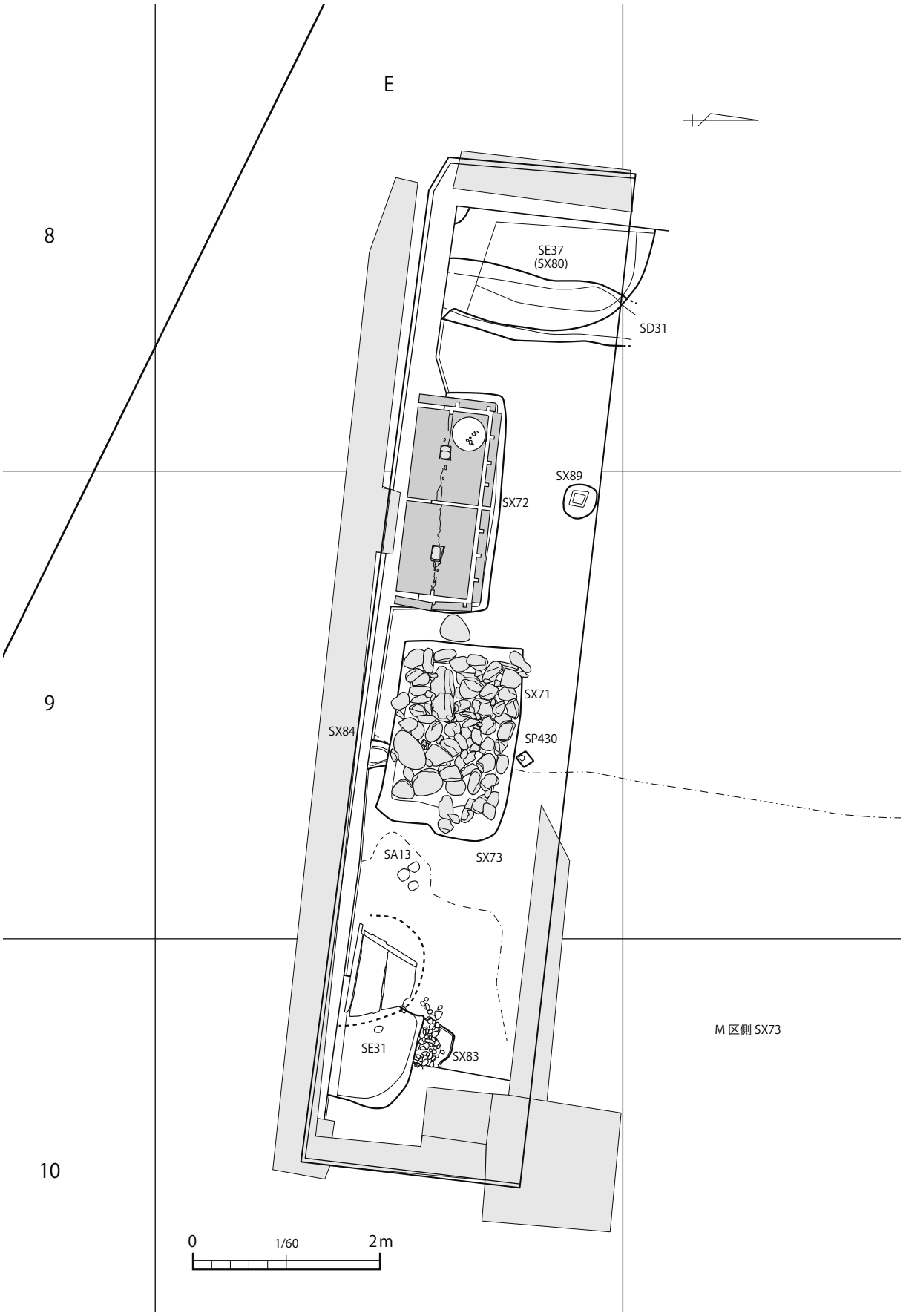
第 17 図　I 区遺構分布図 (1/120)



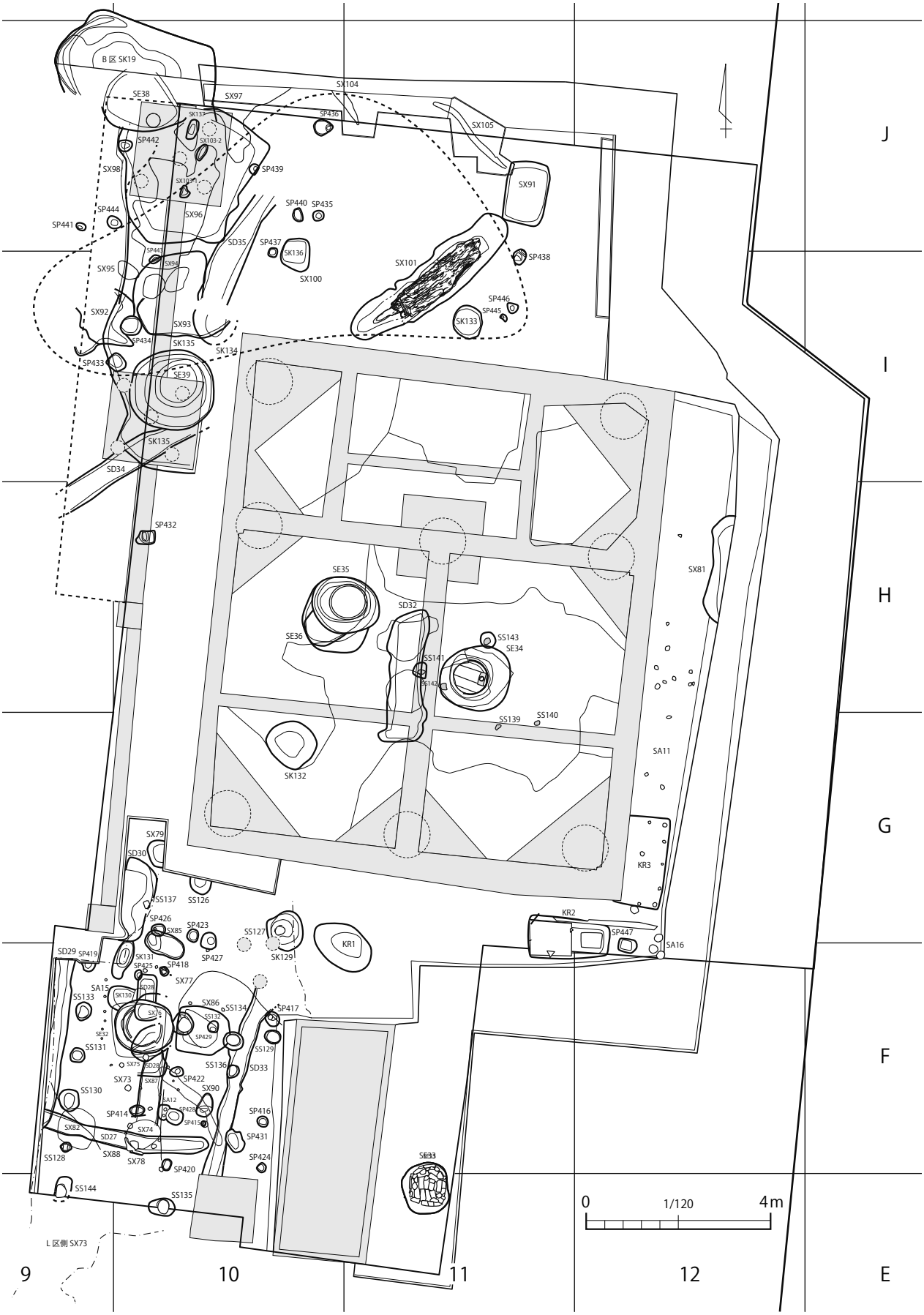
第 18 図　J 区遺構分布図 (1/120)



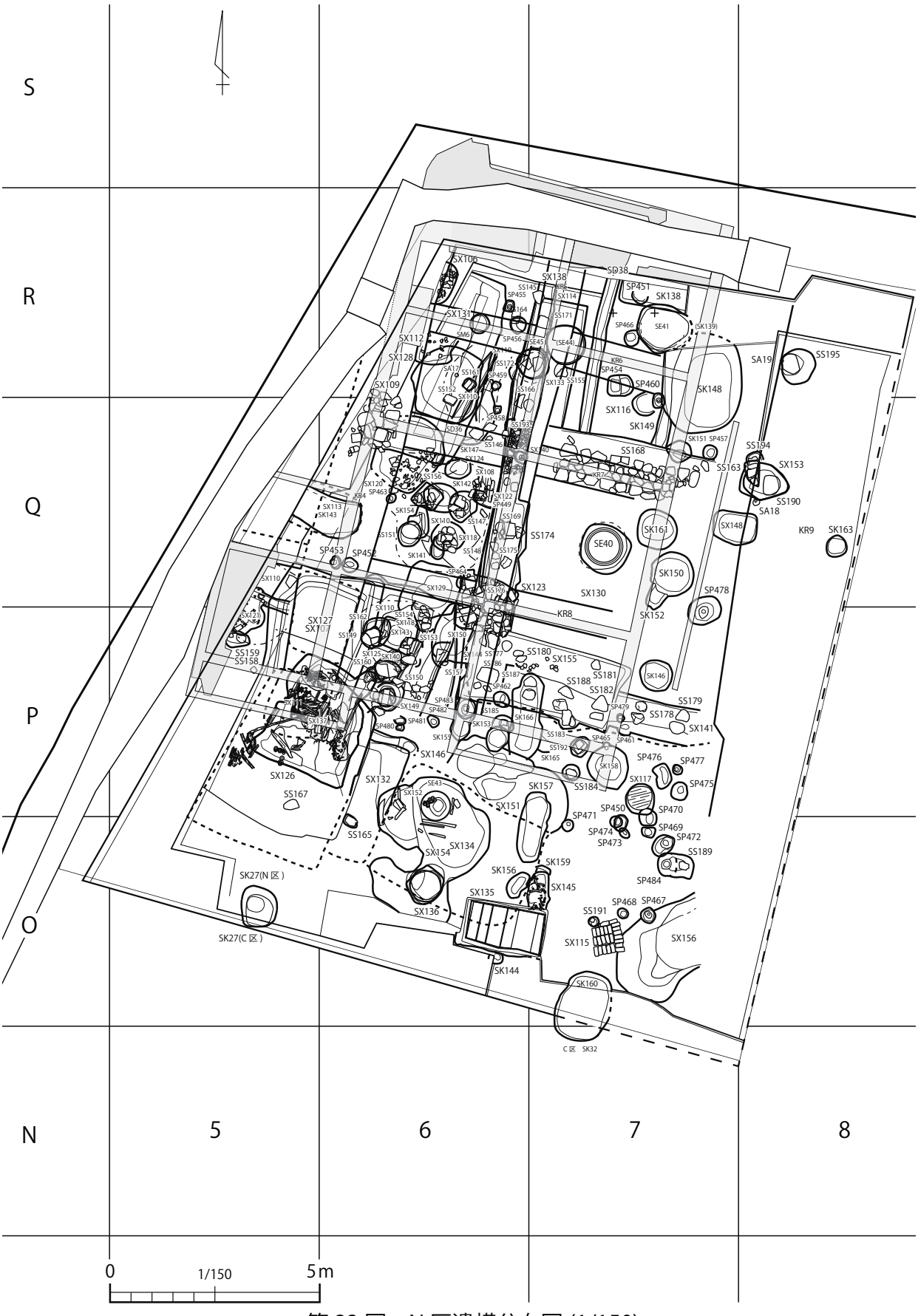
第 19 図　K 区遺構分布図 (1/120)



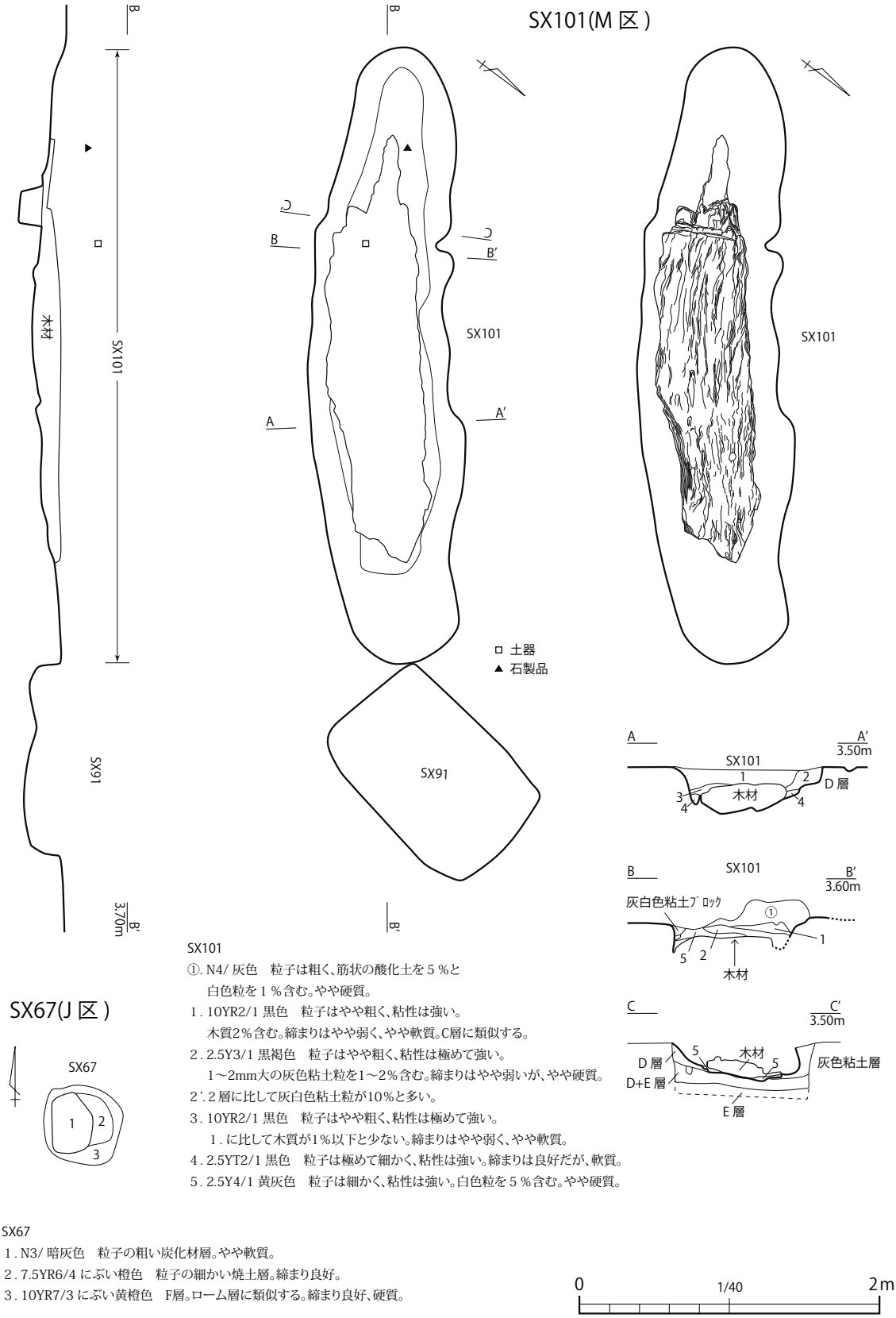
第 20 図　L 区遺構分布図 (1/60)



第 21 図　M 区遺構分布図 (1/120)



第 22 図　N 区遺構分布図 (1/150)

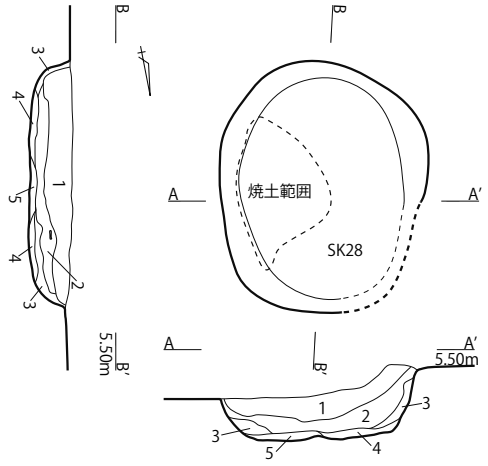


SX101
①. N4/ 灰色　粒子は粗く、筋状の酸化土を５％と
　白色粒を１％含む。やや硬質。
1．10YR2/1 黒色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
　木質2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。C層に類似する。
2．2.5Y3/1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。
　1～2mm大の灰色粘土粒を1～2％含む。締まりはやや弱いが、やや硬質。
2'．2層に比して灰白色粘土粒が10％と多い。
3．10YR2/1 黒色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。
　1．に比して木質が1％以下と少ない。締まりはやや弱く、やや軟質。
4．2.5YT2/1 黒色　粒子は極めて細かく、粘性は強い。締まりは良好だが、軟質。
5．2.5Y4/1 黄灰色　粒子は細かく、粘性は強い。白色粒を５％含む。やや硬質。

SX67
1．N3/ 暗灰色　粒子の粗い炭化材層。やや軟質。
2．7.5YR6/4 にぶい橙色　粒子の細かい焼土層。締まり良好。
3．10YR7/3 にぶい黄橙色　F層。ローム層に類似する。締まり良好、硬質。

第23図　縄文時代～古代の遺構（１）(1/40)

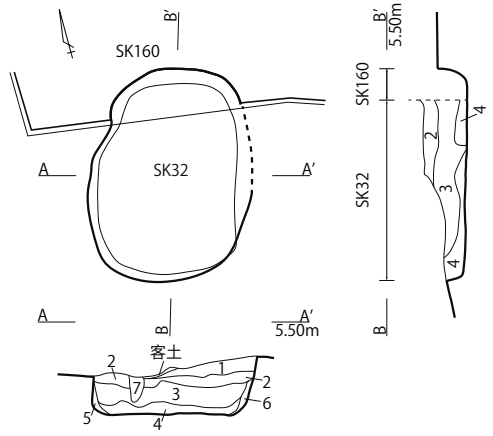
SK28(C区)



SK28

1. 10YR2/2 黒褐色　1~5㎜の焼土粒を2%、1㎜以下の炭化物粒を1%以下、1㎜の橙褐色粒を25%含む。締まり有、粘性有。焼土は中央部が多い。
2. 10YR2/3 黒褐色　1~5㎜の焼土粒を3%、1㎜の炭化物粒を2%、5㎜の明褐色粒を1%含む。土器・小礫を含む。締まり有、粘性有。
3. 10YR3/4 暗褐色　1㎜の褐色土粒を1%以下、1㎜の炭化物粒を5%以下含む。締まり有、粘性有
4. 10YR3/1 黒褐色　3㎜の焼土粒を2%、3~5㎜の炭化物粒を2%、3~5㎜の灰白色粒を2%含む。締まり有、粘性有。
5. 7.5R2/2 黒褐色　5㎜の焼土粒を3%、3~10㎜の炭化物粒を2%、10~30㎜の炭化材粒を1%以下含む。締まり有、粘性有。

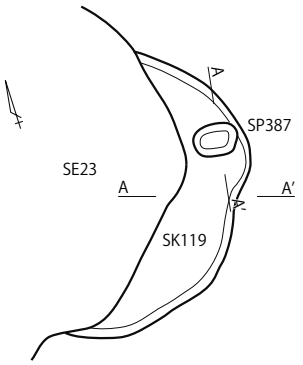
SK32(C・N区)

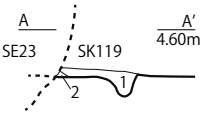


SK32

1. 10YR2/2 黒褐色　1㎜未満の橙褐色粒・褐色粒・白色粒を2%含む。締まり有、粘性有。
2. 7.5YR2/1 黒色　1㎜未満の橙褐色粒・褐色粒・白色粒を1%含む締まり有、粘性有。
3. 10YR2/2 黒褐色　3㎜の褐色粒を1%含む。締まり有、粘性有。中央部は酸化している。
4. 7.5YR2/2 黒褐色　3~5㎜の赤褐色粒を3%含む。締まり有、粘性やや強。底面には地山の白色粘土ﾌﾞﾛｯｸが混じる。
5. 7.5R3/3 褐色　白色粘土ﾌﾞﾛｯｸを3%含む。締まり有、粘性やや強。
6. 1㎜未満の炭化物粒を1%、褐色粒を1%以下含む。締まり有、粘性有。
7. 30㎜の礫を1%未満、5㎜の白色粘土粒を3%含む。締まり弱、粘性弱。

SK119・SP387(J区)

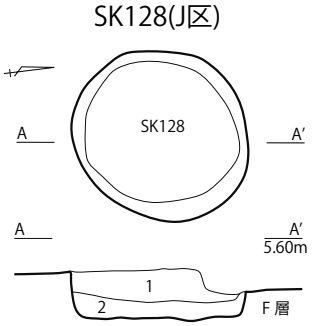




SK119

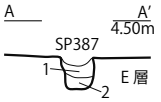
1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1~3㎜大の褐色粒を2%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。褐色粒ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK128(J区)



SK128

1. 10YR2/2 黒褐色　粒子はやや細かく。粘性はやや強い。1㎜大の褐色粒を若干含む。締まりは良好。やや軟質。
2. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。1~2㎜大の褐色粒を1%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



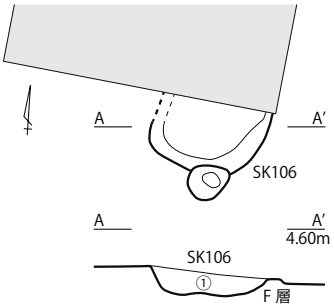
SP387

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。0.5~1cm大のﾛｰﾑﾍﾞｰｽを20%含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

0　1/60　2m

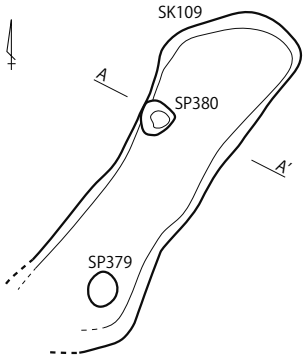
第24図　縄文時代~古代の遺構(2)(1/60)

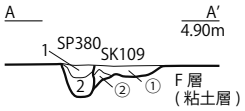
SK106(I 区)



SK106
①. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は細かく、粘性は強い。
1～3mm大の酸化土を5％含む。締まり弱く、
軟質。古墳土坑か。

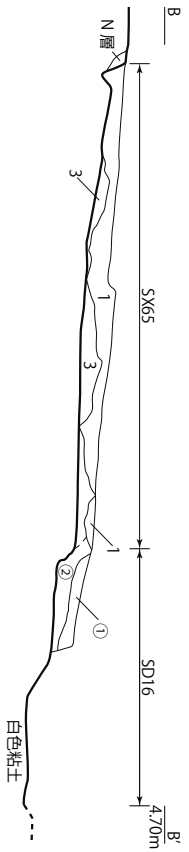
SK109・SP380(J 区)

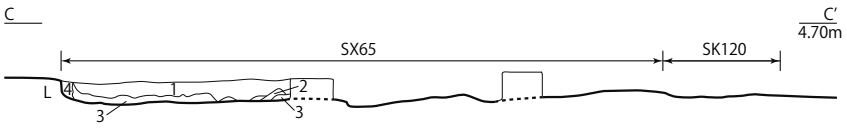




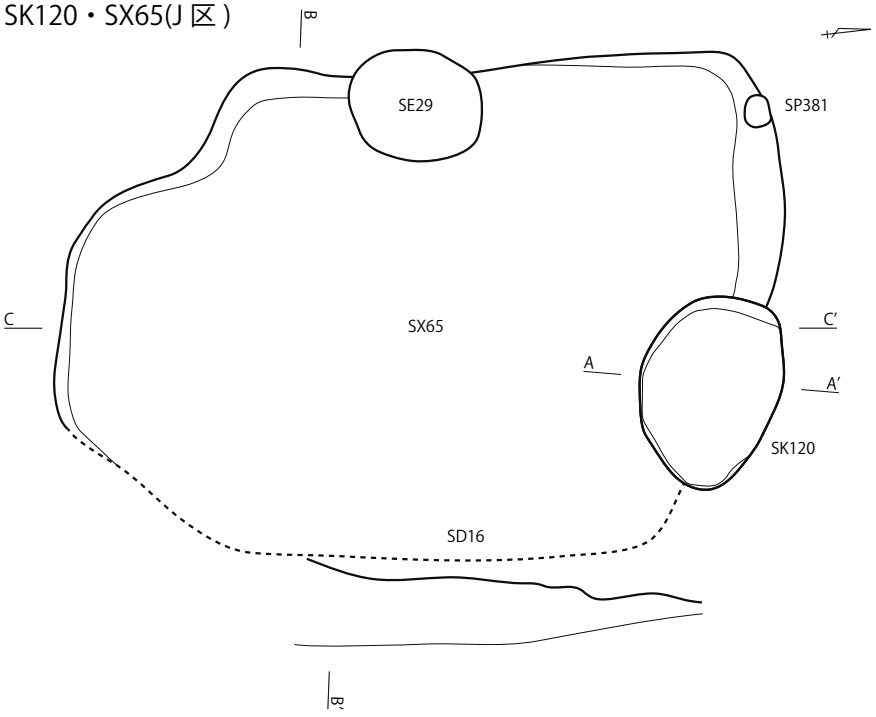
SP380
1 . 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。5mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。5mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、やや軟質。

SK109
①. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。
酸化土を5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。3mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

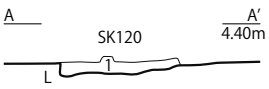




SK120・SX65(J 区)

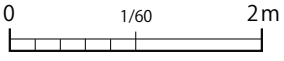


SK120
1 . 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。0.3～1cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは良好、やや硬質。

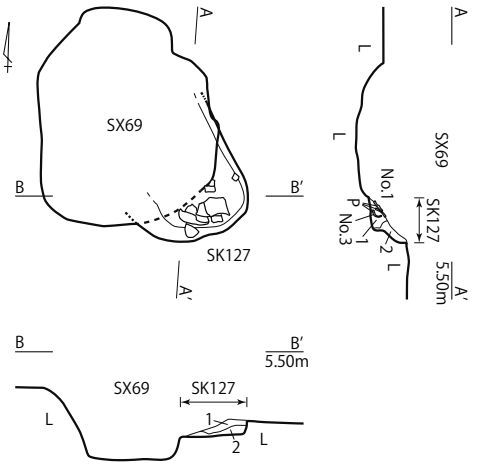


SX65
1 . 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3～5mm大粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。締まりは弱く、軟質。
3 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりはやや弱く、やや軟質。
4 . 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大ﾛｰﾑ粒を2％含む。締まりは弱く、軟質。

SD16
①. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は細かく、粘性は強い。1～2mm大粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりやや弱く、やや軟質。
②. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は極めて強い。灰色粘土ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。



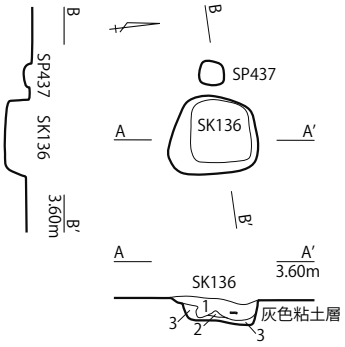
第25図　縄文時代～古代の遺構 (3) (1/60)



SK127

1．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。締まりは良好。やや軟質。

2．10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。ﾛｰﾑ層との漸移的土層。
締まりはやや強く、やや硬質。



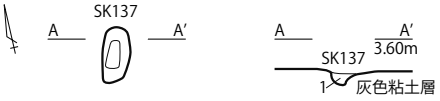
SK136

1．N2/0 黒色　粒子は細かく、粘性は強い。C層類似。
締まりはやや弱く、やや軟質。

2．N1.5/0 黒色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。木質感が高い。
締まりはやや弱く、やや軟質。

3．10Y4/1 灰色　粒子は細かく、粘性は極めて強い。
灰色粘土層をﾍﾞｰｽに、上層を10％混合する。締まりはやや弱く、やや軟質。

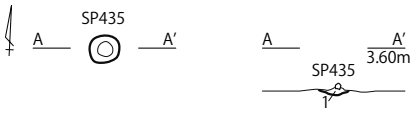
SK137(M 区)



SK137

1．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
灰色粘土層を10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

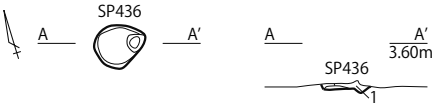
SP435(M 区)



SP435

1．5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。
締まりはやや弱く、やや軟質。

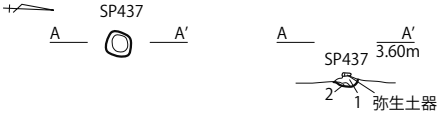
SP436(M 区)



SP436

1．5PB3/1 暗青灰色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。
C層か。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP437(M 区)

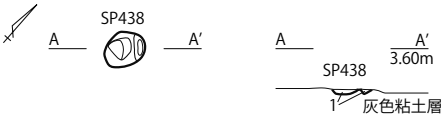


SP437

1．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。
締まりはやや弱く、やや軟質。

2．2.5Y3/1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
灰色粘土と1．の混合土。締まりはやや弱く、やや軟質。

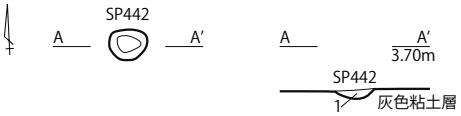
SP438(M 区)



SP438

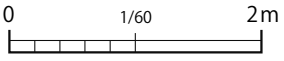
1．10Y2/1 黒色　粒子は細かく、粘性はやや強い。
灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP442(M 区)

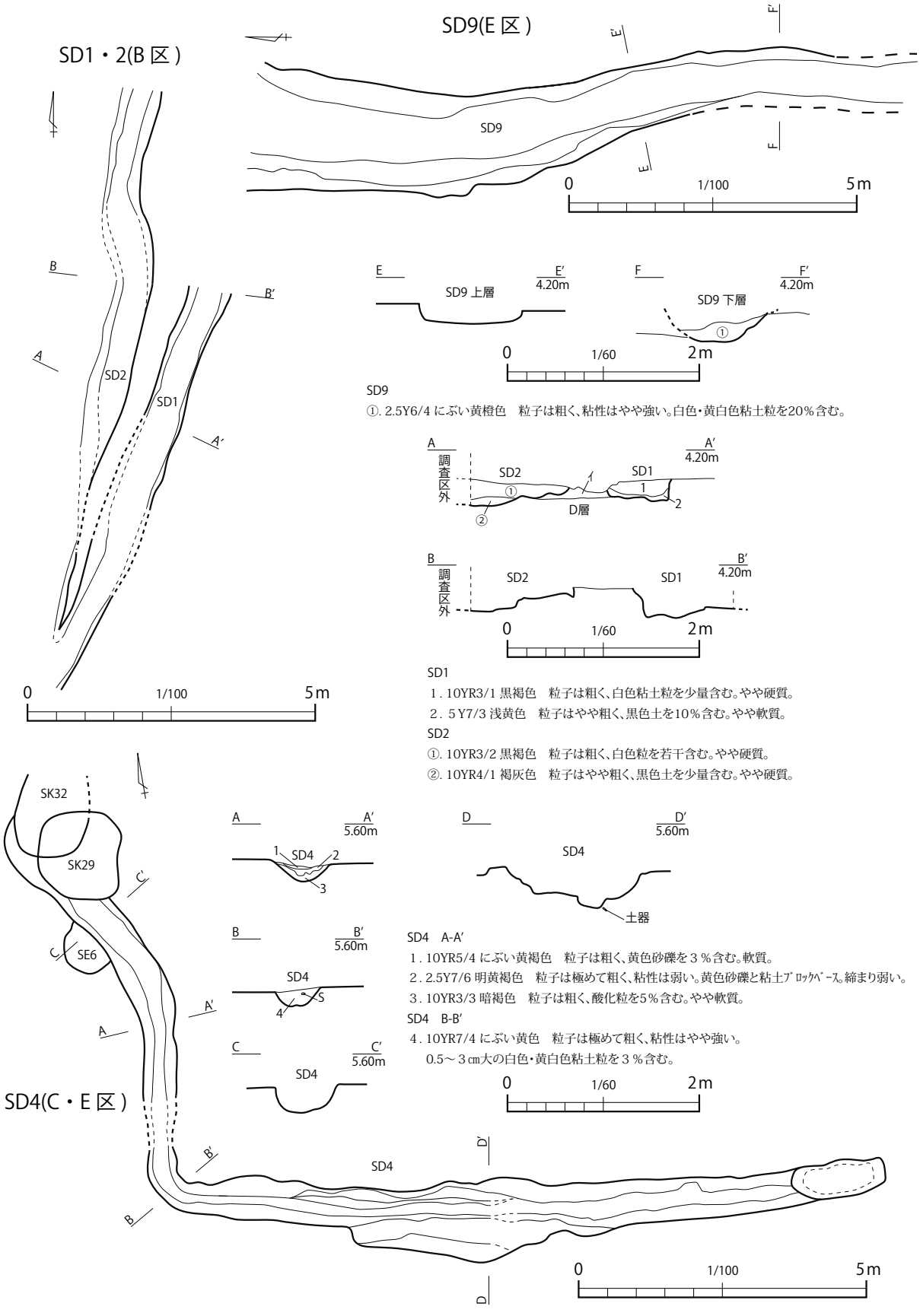


SP442

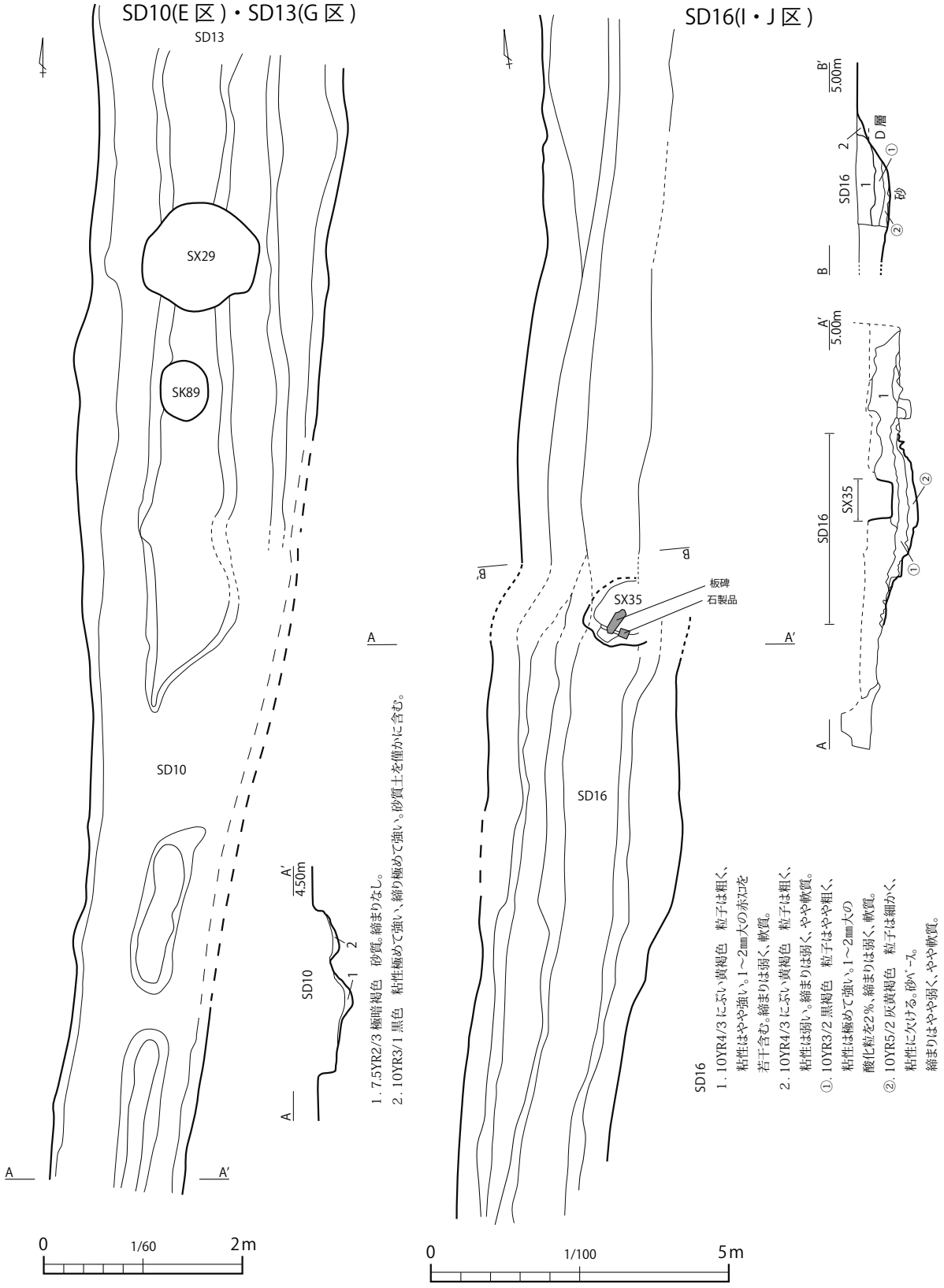
1．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
ｻﾋﾞを若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



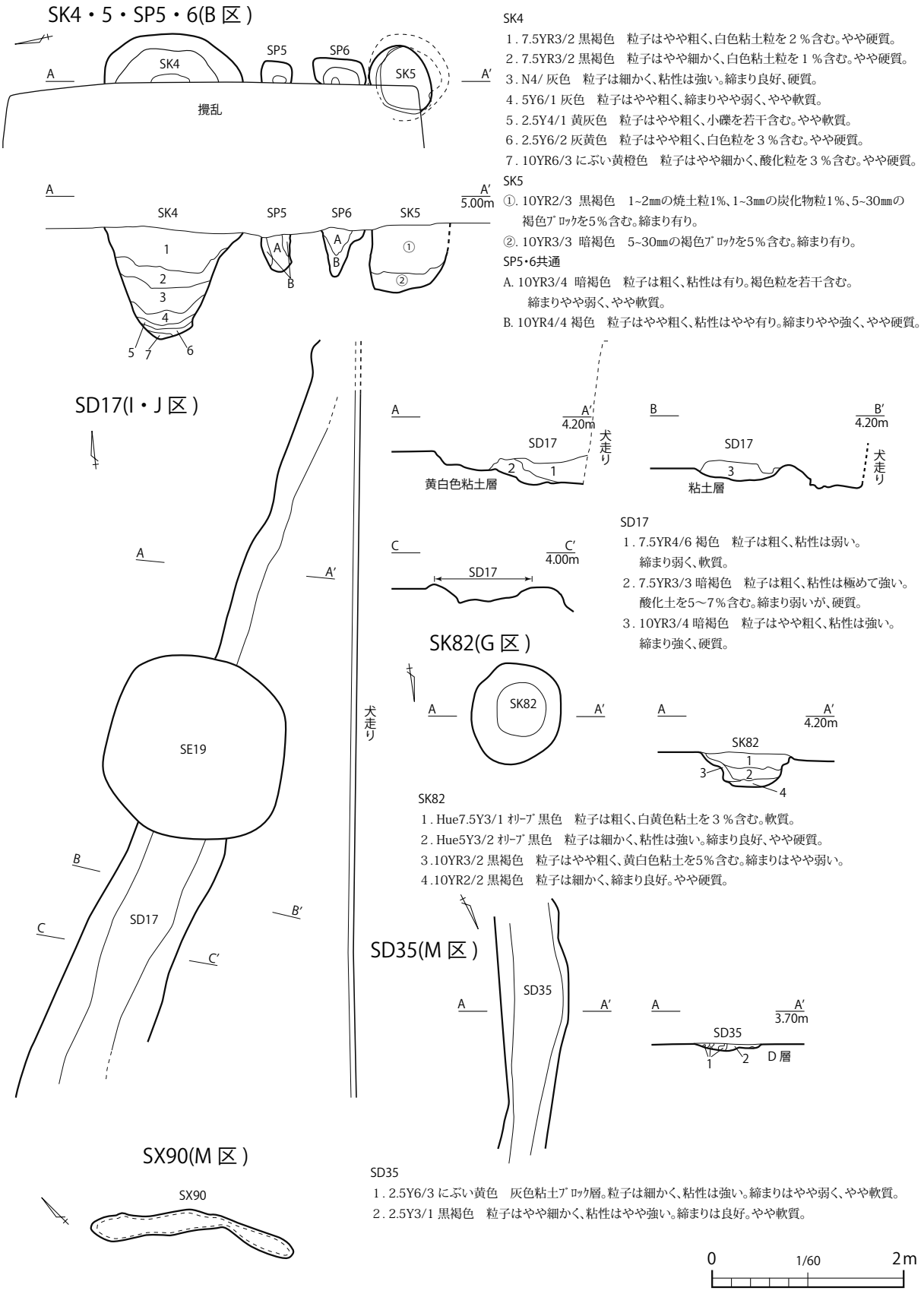
第26図　縄文時代～古代の遺構（4）(1/60)



第27図　縄文時代～古代の遺構（５）　(1/60・1/100)



第28図　縄文時代～古代の遺構（6）　(1/60・1/100)



SK4
1．7.5YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、白色粘土粒を２％含む。やや硬質。
2．7.5YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、白色粘土粒を１％含む。やや硬質。
3．N4/ 灰色　粒子は細かく、粘性は強い。締まり良好、硬質。
4．5Y6/1 灰色　粒子はやや粗く、締まりやや弱く、やや軟質。
5．2.5Y4/1 黄灰色　粒子はやや粗く、小礫を若干含む。やや軟質。
6．2.5Y6/2 灰黄色　粒子はやや粗く、白色粒を３％含む。やや硬質。
7．10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子はやや細かく、酸化粒を３％含む。やや硬質。

SK5
①. 10YR2/3 黒褐色　1~2㎜の焼土粒1%、1~3㎜の炭化物粒1％、5~30㎜の褐色ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まり有り。
②. 10YR3/3 暗褐色　5~30㎜の褐色ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まり有り。

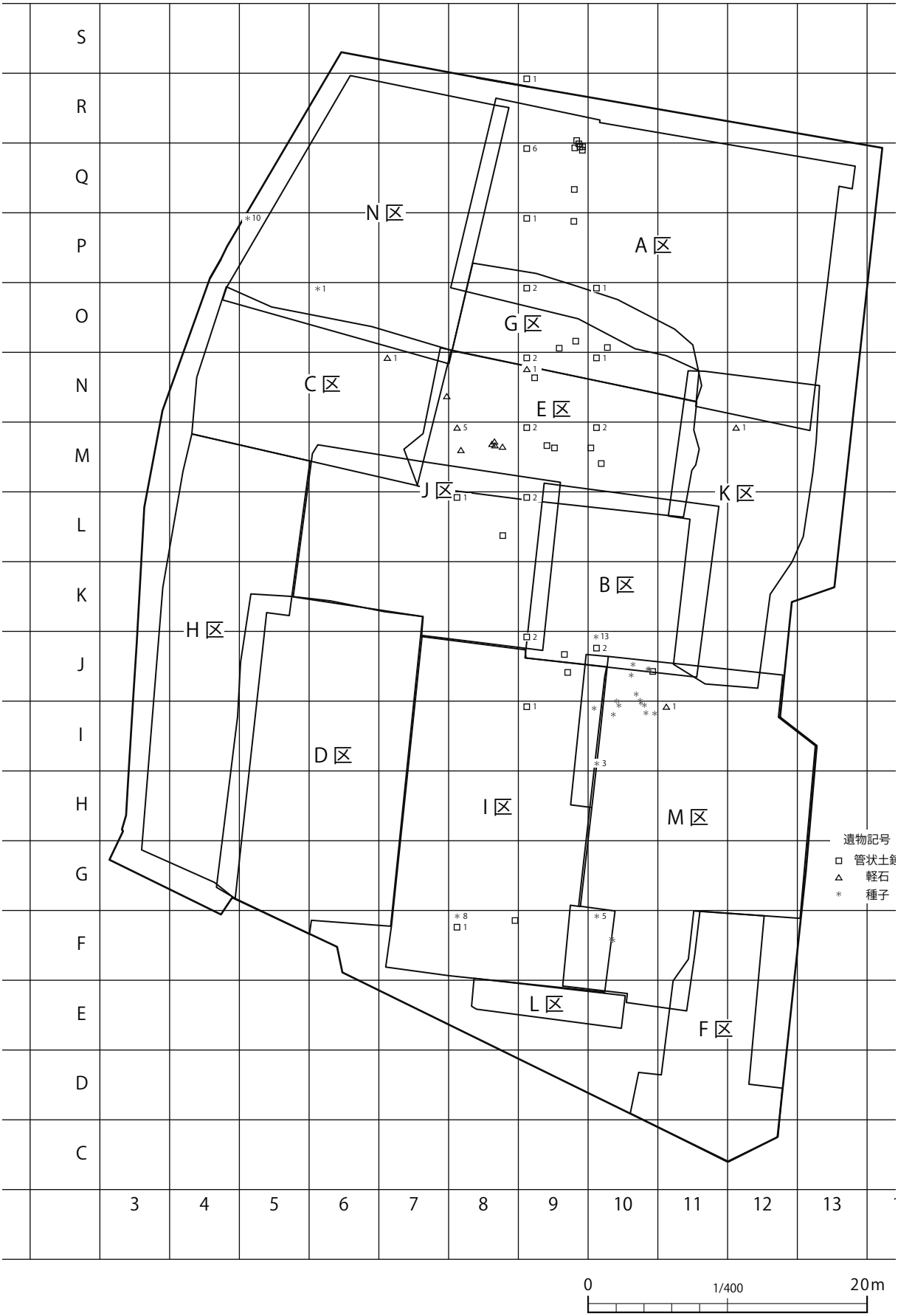
SP5・6共通
A. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は有り。褐色粒を若干含む。締まりやや弱く、やや軟質。
B. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。締まりやや強く、やや硬質。

SD17
1．7.5YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まり弱く、軟質。
2．7.5YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。酸化土を5～7％含む。締まり弱いが、硬質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。締まり強く、硬質。

SK82
1．Hue7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、白黄色粘土を３％含む。軟質。
2．Hue5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は細かく、粘性は強い。締まり良好、やや硬質。
3．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、黄白色粘土を5％含む。締まりはやや弱い。
4．10YR2/2 黒褐色　粒子は細かく、締まり良好。やや硬質。

SD35
1．2.5Y6/3 にぶい黄色　灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。粒子は細かく、粘性は強い。締まりはやや弱く、やや軟質。
2．2.5Y3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりは良好。やや軟質。

第29図　縄文時代～古代の遺構（7）　(1/60)

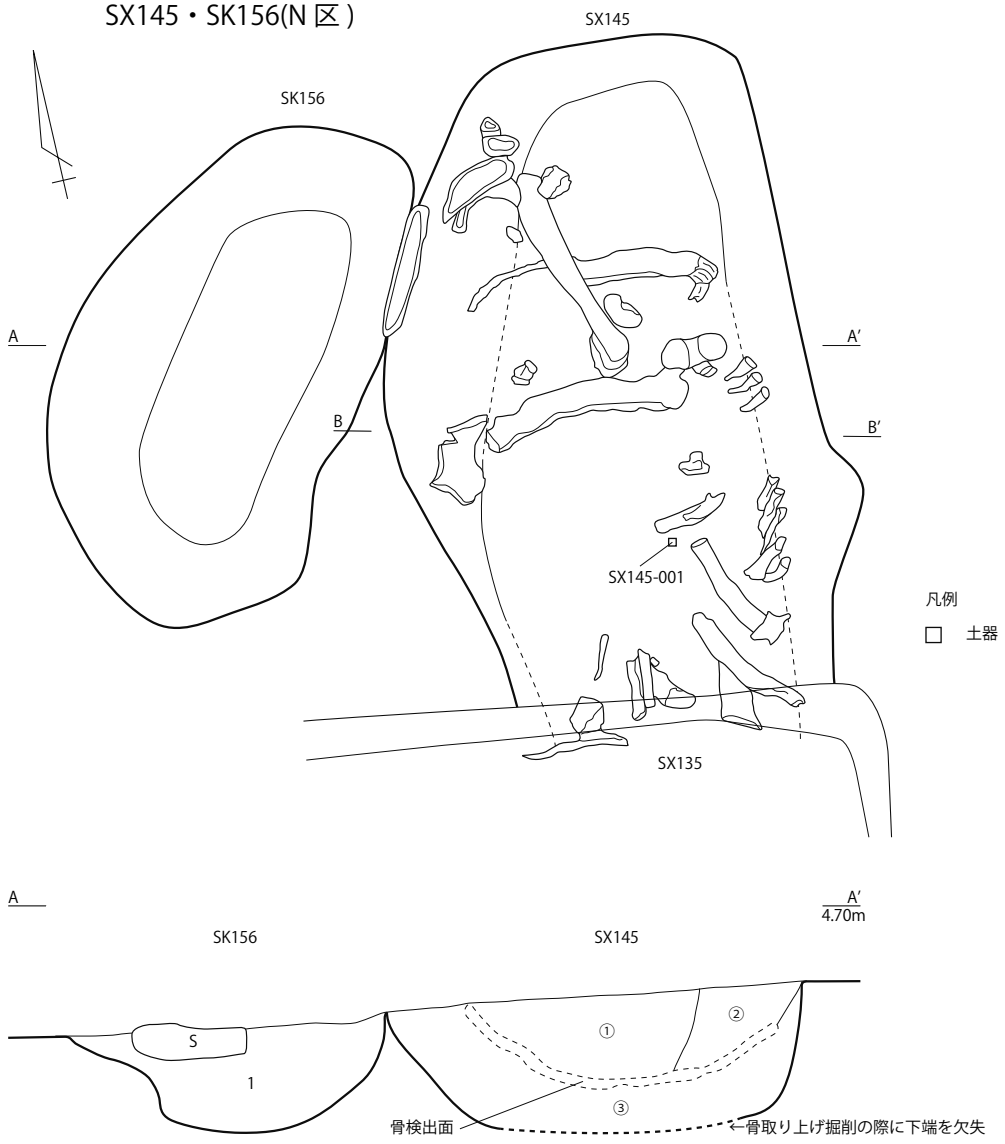


第30図　管状土錘・軽石・種子の分布　(1/400)

SX19(E区)



第31図　中近世の遺構（1）　(1/20)



SK156

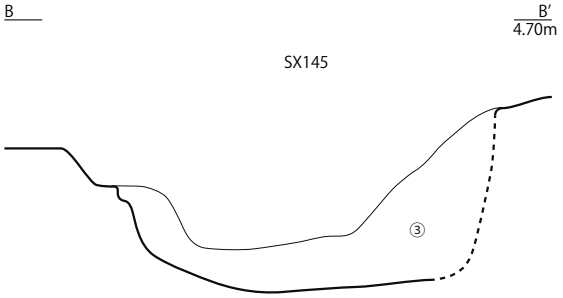
1． 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は細かく、粘性はやや有り。1mm大の焼土を2%、炭を1%含む。締まりは良好、やや硬質。

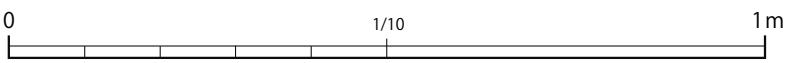
SX145

①. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。2～3mm大の粘土粒を3%、炭を若干含む。締まりは良好、やや硬質。

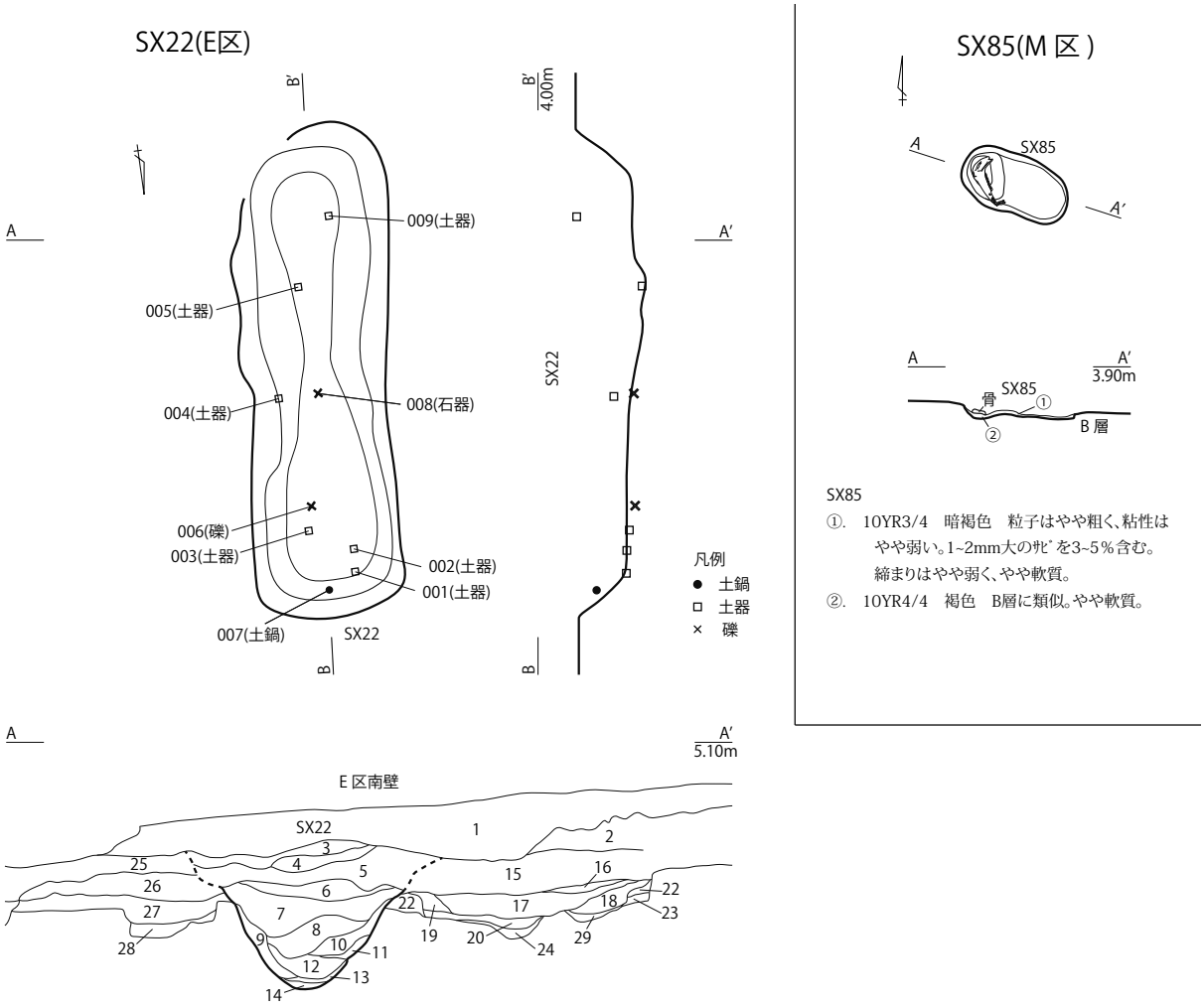
②. 10YR2/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。微細茶色ﾋﾞ を2%と炭を2%含む。ﾌﾜっとしているが締まりは良好、硬質。

③. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。締まりは良好で、やや硬質。



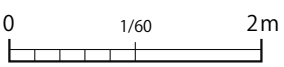


第32図　中近世の遺構（2）　(1/10)



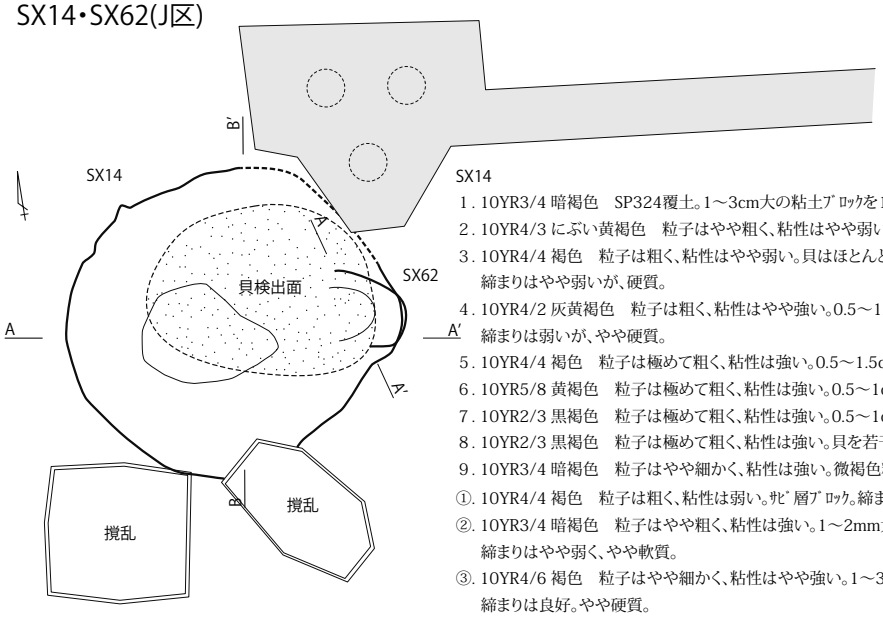
E区南壁
1. 10YR2/3 黒褐色　粘性あり、締まり弱い。全体的に酸化した斑紋が見られる。
土のﾏﾄﾘｸｽも弱い。
2. 10YR2/2 黒褐色　粘性あり、締まり弱い。1層より酸化部は少ない。
土も1層よりﾏﾄﾘｸｽが見られる。
SX22
3. 10YR2/3 黒褐色　粘性あり、締まりあり。灰色の粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2㎝の少礫もわずかに含む。
4. 貝層
5. 10YR2/3 黒褐色　粘性あり、締まりあり。15層より肉眼では
やや明るく見える炭・焼土が全体に散る。
6. 10YR3/3 暗褐色　粘性あり、締まりあり。5㎜大の炭化物を少量含む。
7. 10YR3/2 黒褐色　粘性あり、締まりややあり。5㎜大の炭化物、3㎜大の
粘土を僅かに含む。
8. 10YR2/2 黒褐色　粘性あり、締まり弱い。10㎜大の礫をわずかに含み、
5㎜大の炭化物も微量含む。
9. 7.5YR2/3 黒褐色　粘性あり、締まり弱い。白粒を多く含む流れ込み土。
10. 2.5Y2/1 黒色　粘性あり、締まり弱い。白粒を多く含む、やや砂混じる。
11. 2.5Y2/1 黒色　粘性あり、締まり弱い。白粒を含む。
12. 2.5Y2/1 黒色　粘性あり、締まり弱い。白粒を少量含む。
13. 2.5Y5/1 黄灰色　粘性極めて強い、締まり極めて強い。灰色粘質土。
14. 10YR2/1 黒褐色　粘性弱い、締まりあり。自然堆積土。粘性極めて高く、
締り強い粘土質土。

E区南壁
15. 10YR2/1 黒褐色　粘性強い、締まりあり。自然堆積土。粘性極めて高く、
締り強い粘土質土。
16. 10YR2/1 黒褐色　粘性強い、締まり強い。自然堆積土。粘性極めて高く、
締り強い粘土質土。
17. 10YR2/1 黒褐色　粘性極めて強い、締まり極めて強い。
白・橙色粒をわずかに含む包含層、粘土層。
18. 10YR2/1 黒褐色　19層よりやや暗い、17層より明るい。
白色粒を多く含む。
19. 10YR2/2 黒褐色　粘性極めて強い、締まり極めて強い。
白・褐色粒を多く含む。
20. 7.5YR2/3 黒褐色　粘性なし、締まりなし。砂層。遺物包含層。
22. 黄白色粘土層
23. 黄白色粘土層
24. 黄白色粘土層と黒色粘土層の混合層
25. 10YR2/3 黒褐色　粘性強い、締まりあり。15層と似た土質。
26. 10YR3/4 暗褐色　粘性強い、締まりあり。褐色土ﾌﾞﾛｯｸを50％近く含む。
27. 10YR2/2 黒褐色　19・22層と似た土質。5～10㎜の白色土ﾌﾞﾛｯｸ、
白色粒を多く含む。
28. Ⅵ層と思われる。
29. 10YR3/1 黒色　粘性極めて強い、締まり極めて強い。
砂質土をわずかに含む。



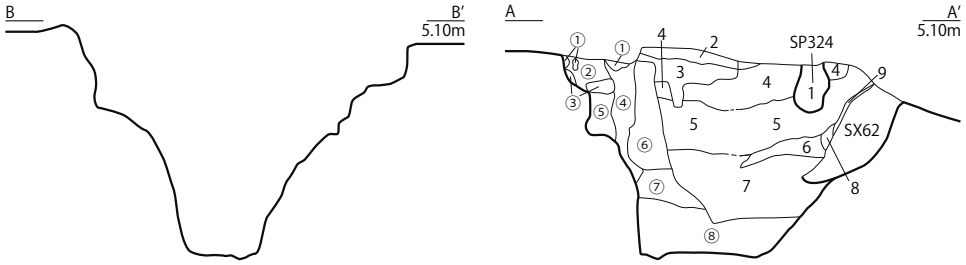
第33図　中近世の遺構(3)　(1/60)

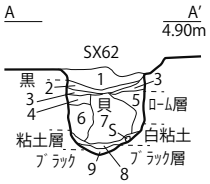
SX14・SX62(J区)



SX14

1. 10YR3/4 暗褐色　SP324覆土。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％と焼土を若干含む。やや硬質。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや弱いが硬質。貝はほとんどなし。
3. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。貝はほとんどなし。ｻﾋﾞを若干含む。
   締まりはやや弱いが、硬質。
4. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。0.5～1.5cm大貝を15％含む。
   締まりは弱いが、やや硬質。
5. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大貝を30％含む。締まりは弱く、軟質。
6. 10YR5/8 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～1cm大貝を10％含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10YR2/3 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～1cm大貝を40％含む。締まりに欠け、軟質。
8. 10YR2/3 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。貝を若干含む。締まりに欠け、軟質。
9. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。微褐色粒を若干含む。締まりは良好。やや軟質。
①. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。ｻﾋﾞ層ﾌﾞﾛｯｸ。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大焼土粒を1％、ﾛｰﾑ粒を1％含む。
   締まりはやや弱く、やや軟質。
③. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。1～3mm大褐色粒を3％含む。
   締まりは良好。やや硬質。
④. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。3～5mm粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは良好。やや軟質。
⑤. 10YR2/3 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。締まりはやや強く、やや硬質。
⑥. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりは良好。やや硬質。
⑦. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。
⑧. 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は強い。ﾛｰﾑ粒を若干含む。締まりはやや弱く、軟質。

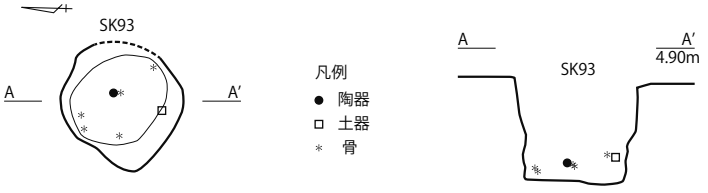


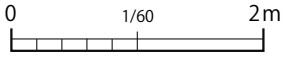


SX62

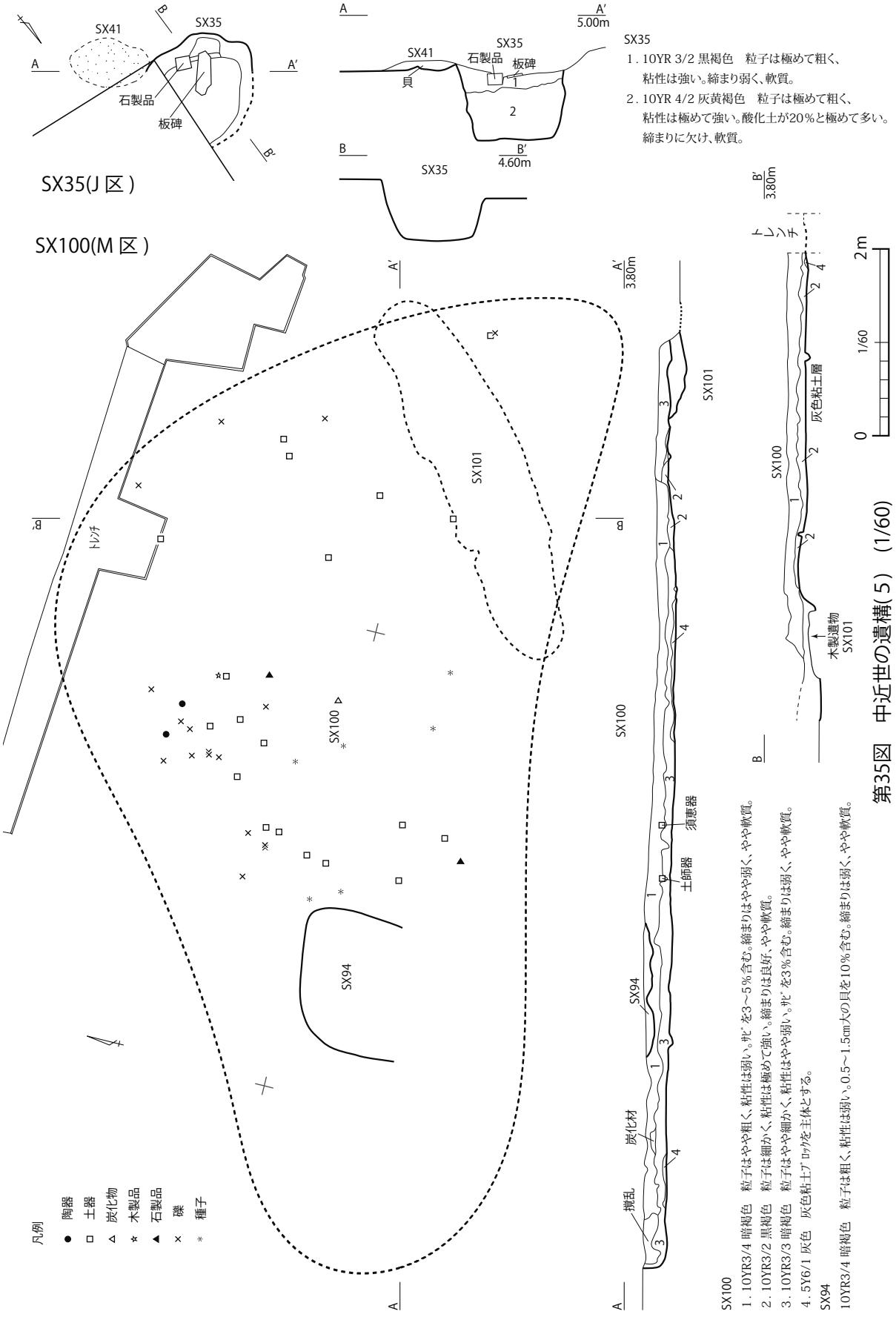
1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の褐色粒を3％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。黄褐色砂分を60％含む。
   締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1mm大褐色粒を若干含む。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。微炭を若干と、5mm大褐色ﾌﾞﾛｯｸを75％含む。
   締まりは弱く、軟質。
5. 10YR3/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。帯状褐色土を60％含む。締まりはやや強く、やや硬質。
6. 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。2～3mm大の褐色粒を10％含む。
   締まりは弱く、軟質。
7. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～2cm大貝を70％含む。締まりに欠け、軟質。
8. 7.5YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。5mm大貝を若干含む。締まりは弱く、軟質。
9. 10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。5mm大貝を若干含む。締まりは弱く、軟質。

SK93(J 区)

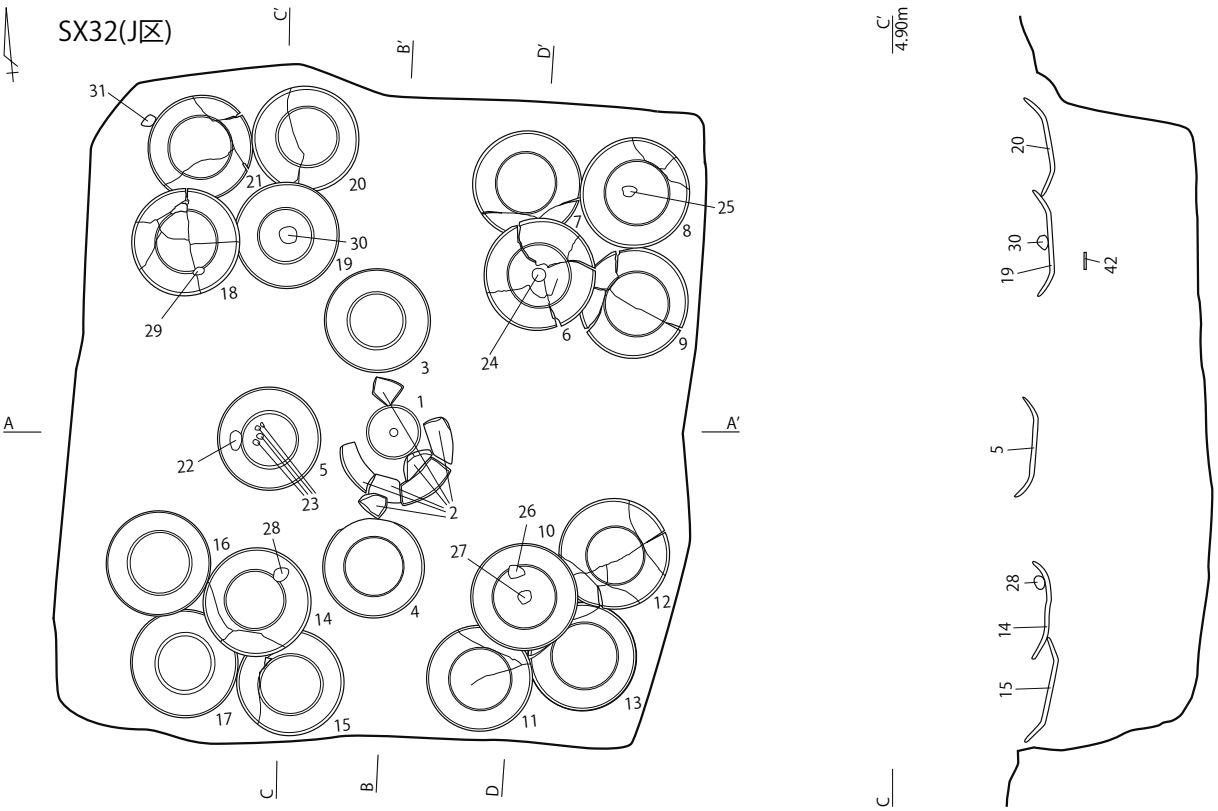




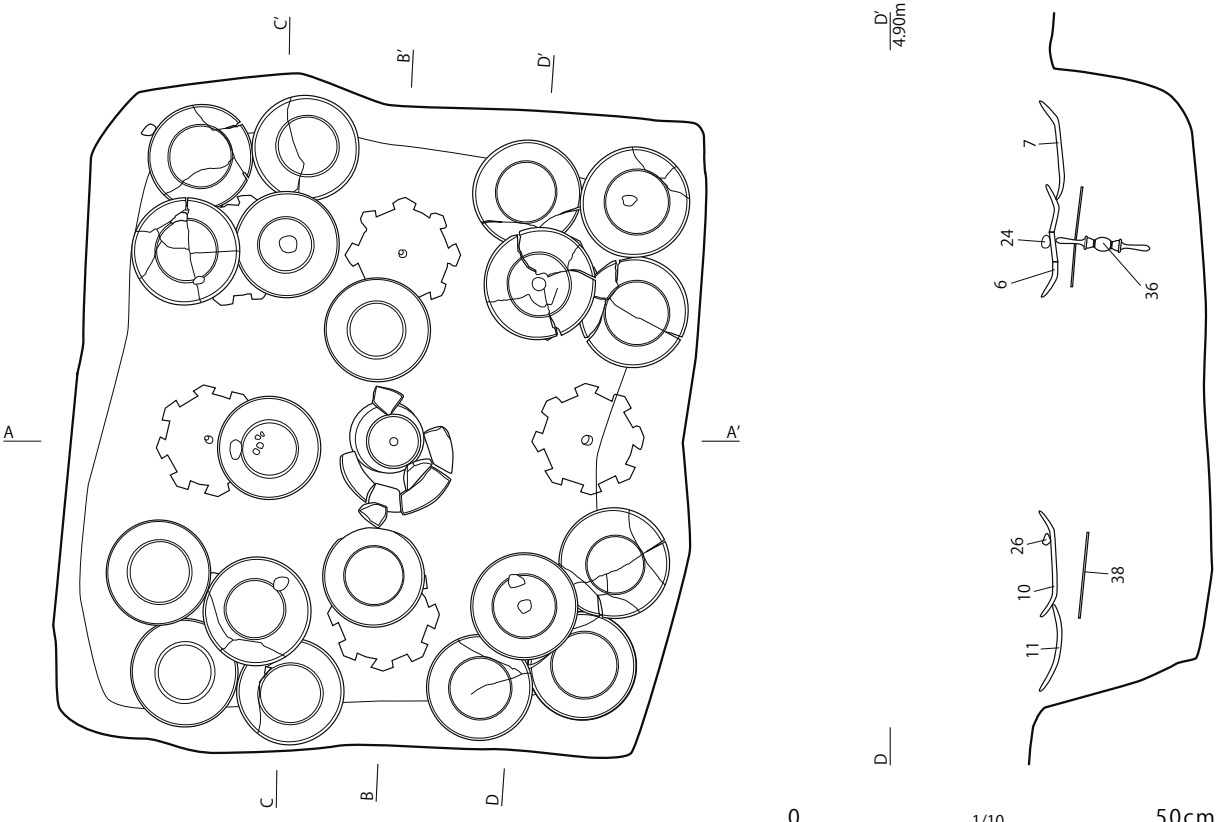
第34図　中近世の遺構（4）　(1/60)



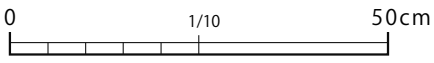
第35図　中近世の遺構(5)　(1/60)



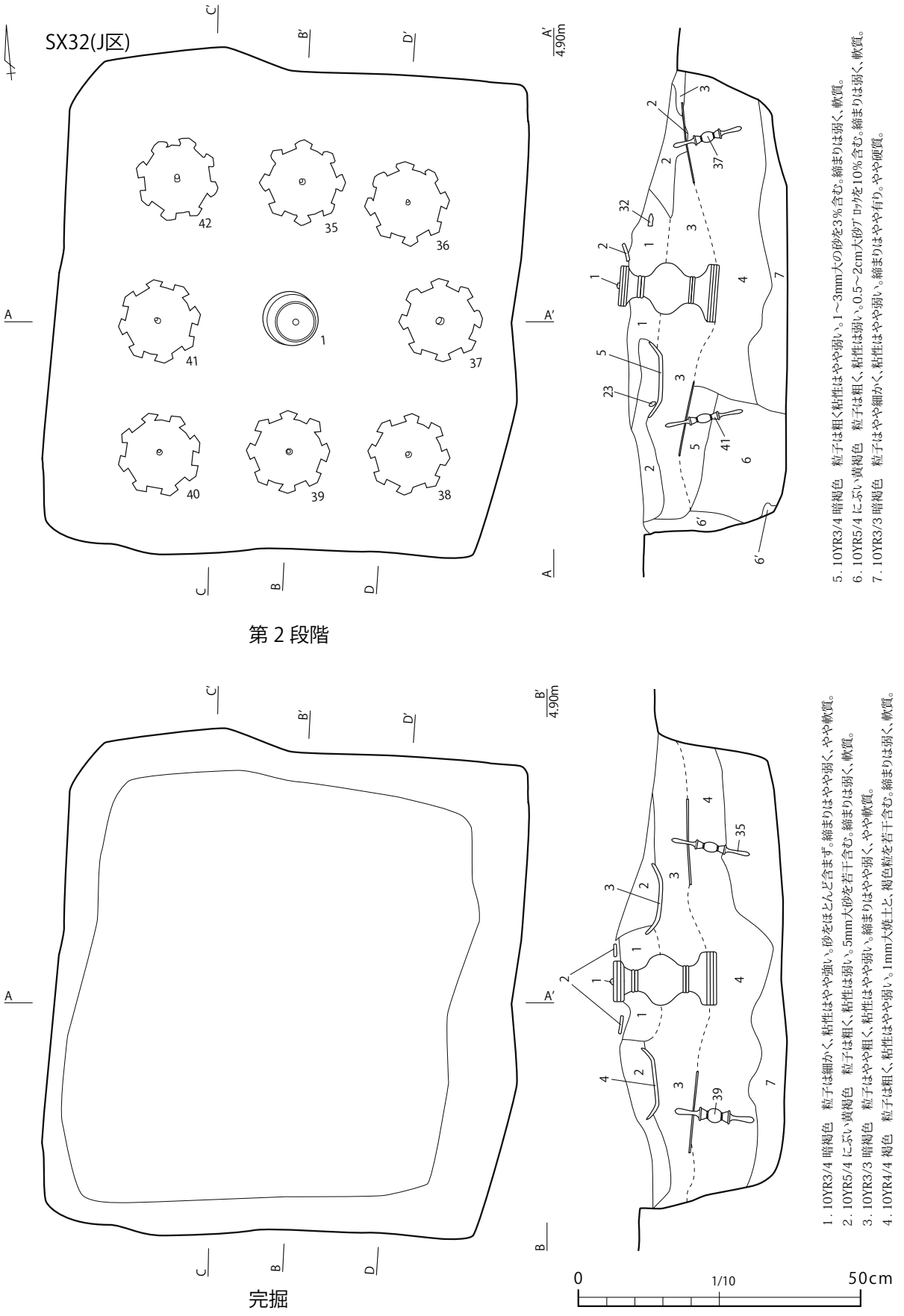
第 1 段階



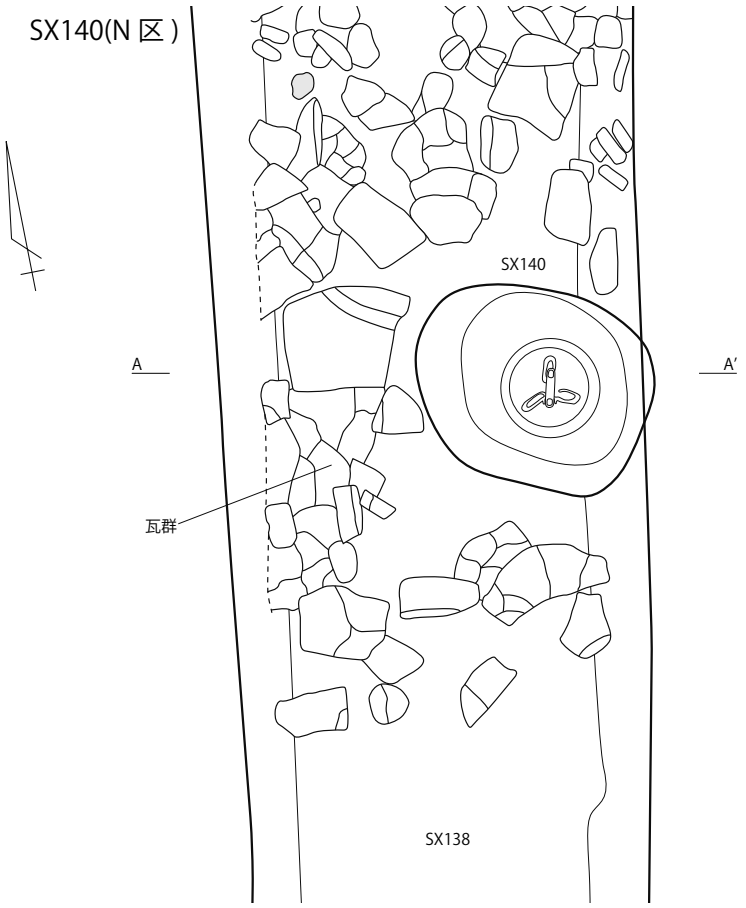
配置状況

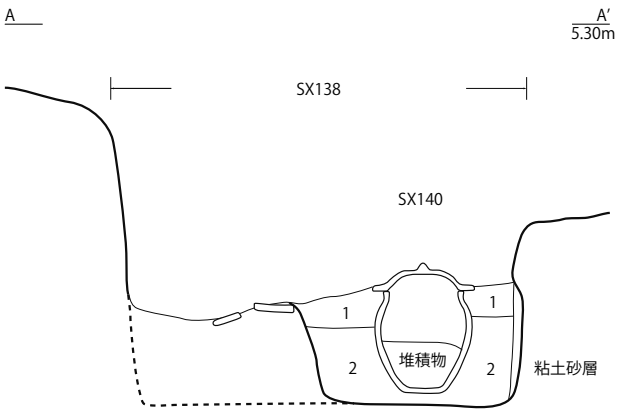


第36図　近世以降の遺構（1）（1/10）



第37図　近世以降の遺構（2）（1/10）

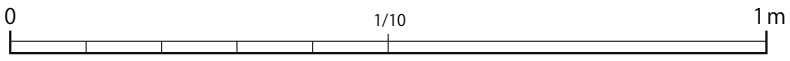




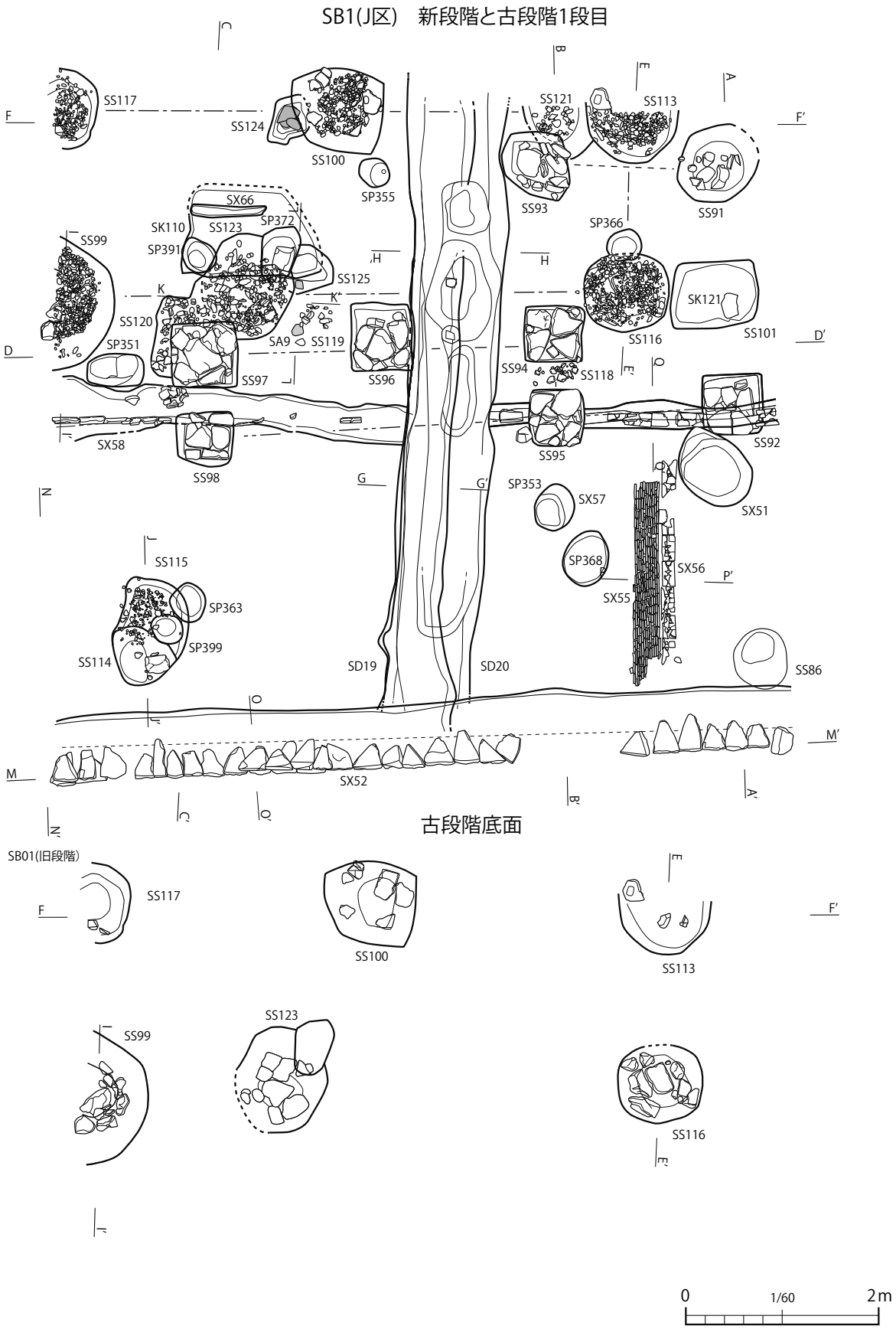
SX140

1. 2.5Y7/4 浅黄色　ﾌﾞﾛｯｸ的に入れ込んだ感じの土層。粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾌﾞﾛｯｸ。締まりは弱く、下層より硬質。

2. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾊﾞｰﾑ。1～2mm大の炭を1％、瓦小片を若干含む。締まりに欠け、軟質。

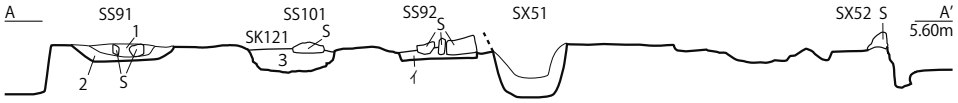


第38図　近世以降の遺構（3）(1/10)



第39図　近世以降の遺構（4）　(1/60)

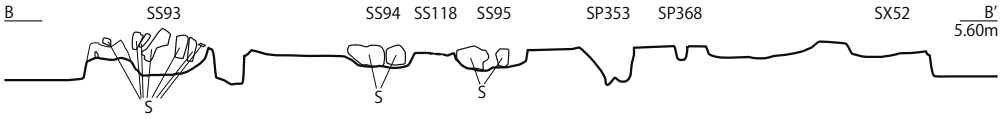
SB1(J 区)

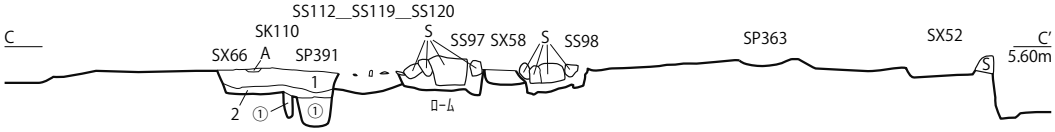


SS91
1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を10％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。締まりはやや強く、やや硬質。

SS92
ｲ. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。微粒子若干。締まり弱く、やや軟質。

SK121
3. 10YR3/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸ5％、炭を1％含む。締まり弱く、軟質。

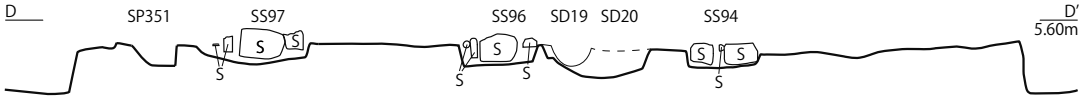


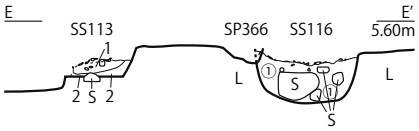


SK110
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。3～8mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

SX66
A. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％、炭を1％含む。締まりは弱く、やや軟質。

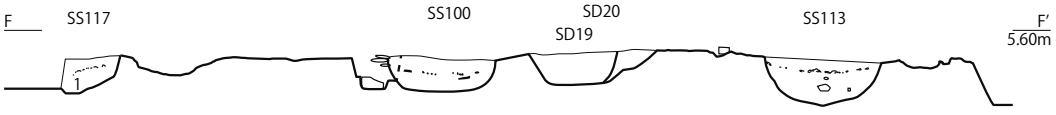
SP391
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、やや軟質。



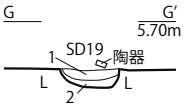


SS113
1．10YR5/4 黄褐　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR3/4 暗褐　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや強く、やや硬質。

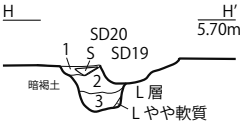
SS116
①. 10YR3/3 暗褐　粒子は細かく、粘性はやや有り。締まりは良好、やや硬質。



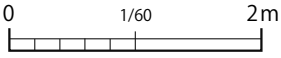
SS117
1．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。1～2mm大の焼土・炭を若干含む。締まりは良好。やや硬質。



SD19
1．10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。粘土ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。
2．10YR5/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性は強い。粘土分を40％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

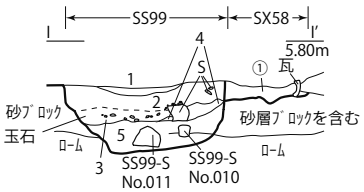


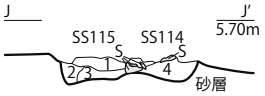
SD20
1．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。締まりは良好。やや軟質。
2．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～5cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽにする。締まりは弱く、軟質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～3cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。

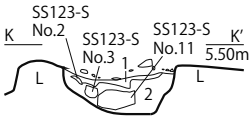


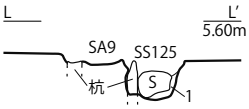
第40図　近世以降の遺構（5）　(1/60)

SB1(J 区)









SS99

1．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の焼土と、炭を2％ずつ含む。締まりはやや弱いが、硬質。
2．2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の礫を3％と、ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは強く、硬質。
3．2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～1.5cm大の玉砂利を50％含む。締まりは弱いが、硬質。
4．2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。
5．10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。ﾛｰﾑ層ﾍﾞｰｽ。やや軟質。

SX58

①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の礫を3％と、炭を若干含む。締まりは弱く、やや軟質。

SS114･SS115

1．7.5YR4/3 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。砂ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは良好。やや軟質。
2．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR7/6 明黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂ﾍﾞｰｽ。締まりは良好。やや軟質。
4．2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子はやや粗い。砂層。やや軟質。

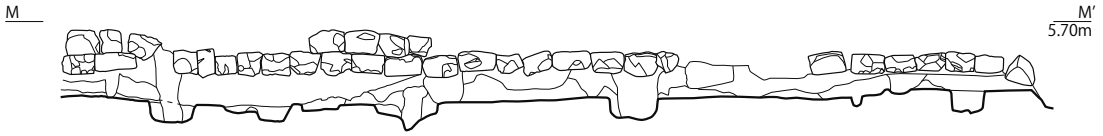
SS123

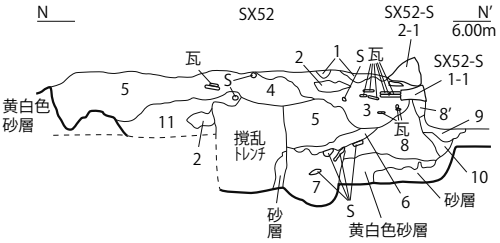
1．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。玉石ﾍﾞｰｽ。締まりは強く、硬質。
2．10YR5/8 黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。ﾛｰﾑﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、硬質。

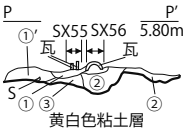
SS125

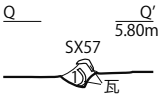
1．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。軟質ﾛｰﾑﾍﾞｰｽ。締まりは良好、やや軟質。

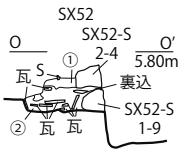
SX52(J 区)











SX55_SX56

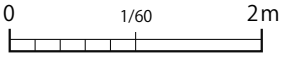
①. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。締まりは良好。やや軟質。
①′. やや硬質。
②. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。締まりは良好。やや硬質。
③. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。黄色粘土層ﾍﾞｰｽ。締まりは良好。やや硬質。

SX57

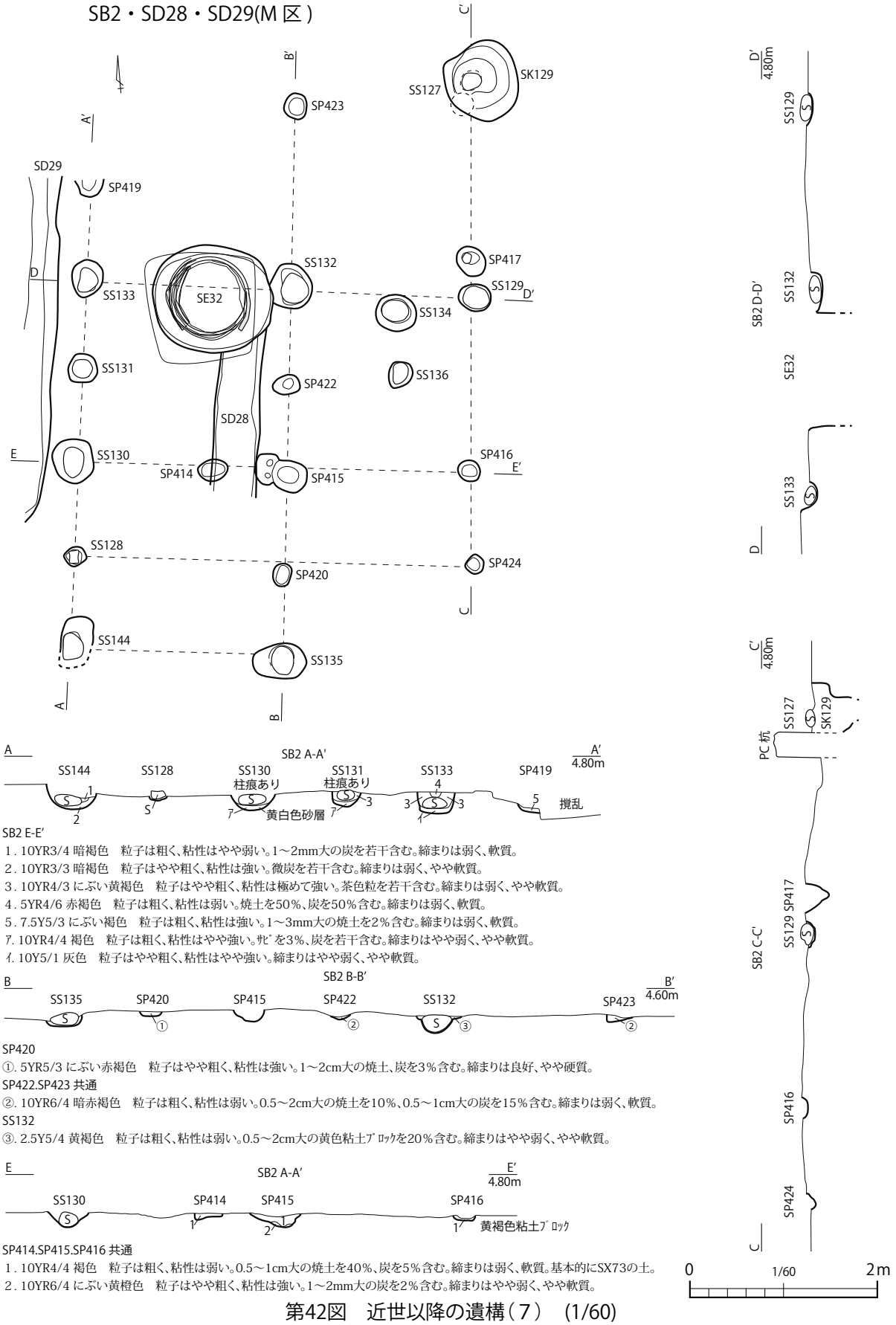
1．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂質土ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。

SX52

1.　10YR3/5 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は弱い。砂分を20％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2.　10YR3/3 暗褐　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。ｻﾋﾞを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3.　10YR5/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性はやや強い。ｻﾋﾞを3％と、焼土と、炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。瓦を15％含む。
4.　10YR4/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性はやや有り。0.5～1cm大砂ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
5.　10YR6/3 にぶい黄橙　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～2cm大砂ﾌﾞﾛｯｸを25％含む。締まりは弱く、軟質。
6.　2.5Y6/4 にぶい黄　粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
7.　10YR5/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は弱い。3cm大砂ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
8.　10YR6/4 にぶい黄橙　粒子は粗く、粘性はやや有り。0.5～2cm大砂ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、やや軟質。
8′.　8よりやや軟質。
9.　10YR5/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を5％と、微焼土を若干含む。締まりは弱く、軟質。
10.　10YR5/4 にぶい黄褐　粒子はやや粗く、粘性は弱い。3mm大砂ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
11.　10YR5/4 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性はやや強い。1～2cm大砂層ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、やや軟質。
①.　10YR4/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
②.　10YR5/6 黄褐　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～2cm大粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％と、炭を若干含む。締まりは弱いが、硬質。



第41図　近世以降の遺構（6）(1/60)



SB2 E-E′

1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。微炭を若干含む。締まりは弱く、やや軟質。
3．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。茶色粒を若干含む。締まりは弱く、やや軟質。
4．5YR4/6 赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。焼土を50％、炭を50％含む。締まりは弱く、軟質。
5．7.5Y5/3 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の焼土を2％含む。締まりは弱く、軟質。
ｱ. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。ｻﾋﾞを3％、炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
ｲ. 10Y5/1 灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP420

①. 5YR5/3 にぶい赤褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2cm大の焼土、炭を3％含む。締まりは良好、やや硬質。

SP422.SP423 共通

②. 10YR6/4 暗赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2cm大の焼土を10％、0.5～1cm大の炭を15％含む。締まりは弱く、軟質。

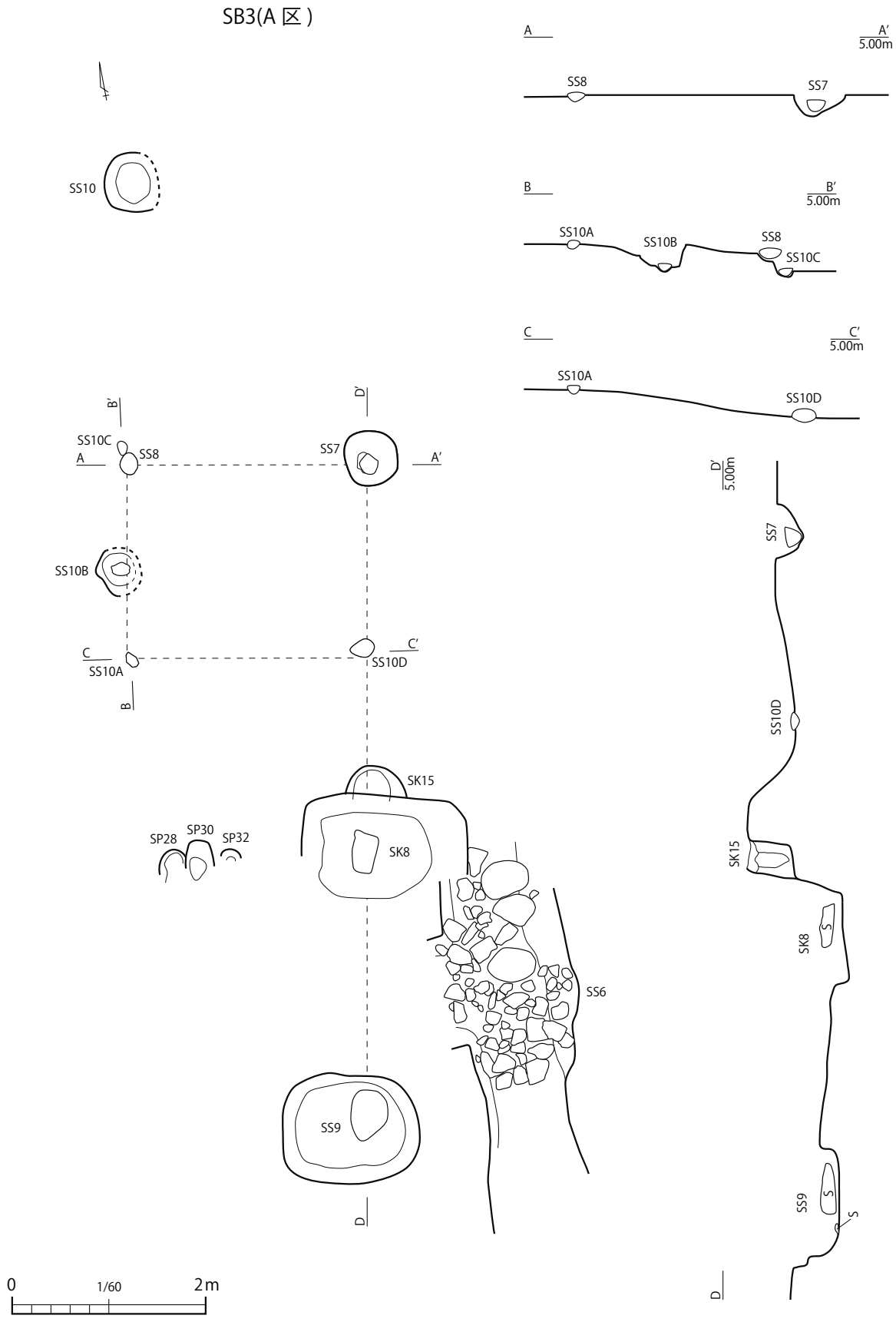
SS132

③. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2cm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

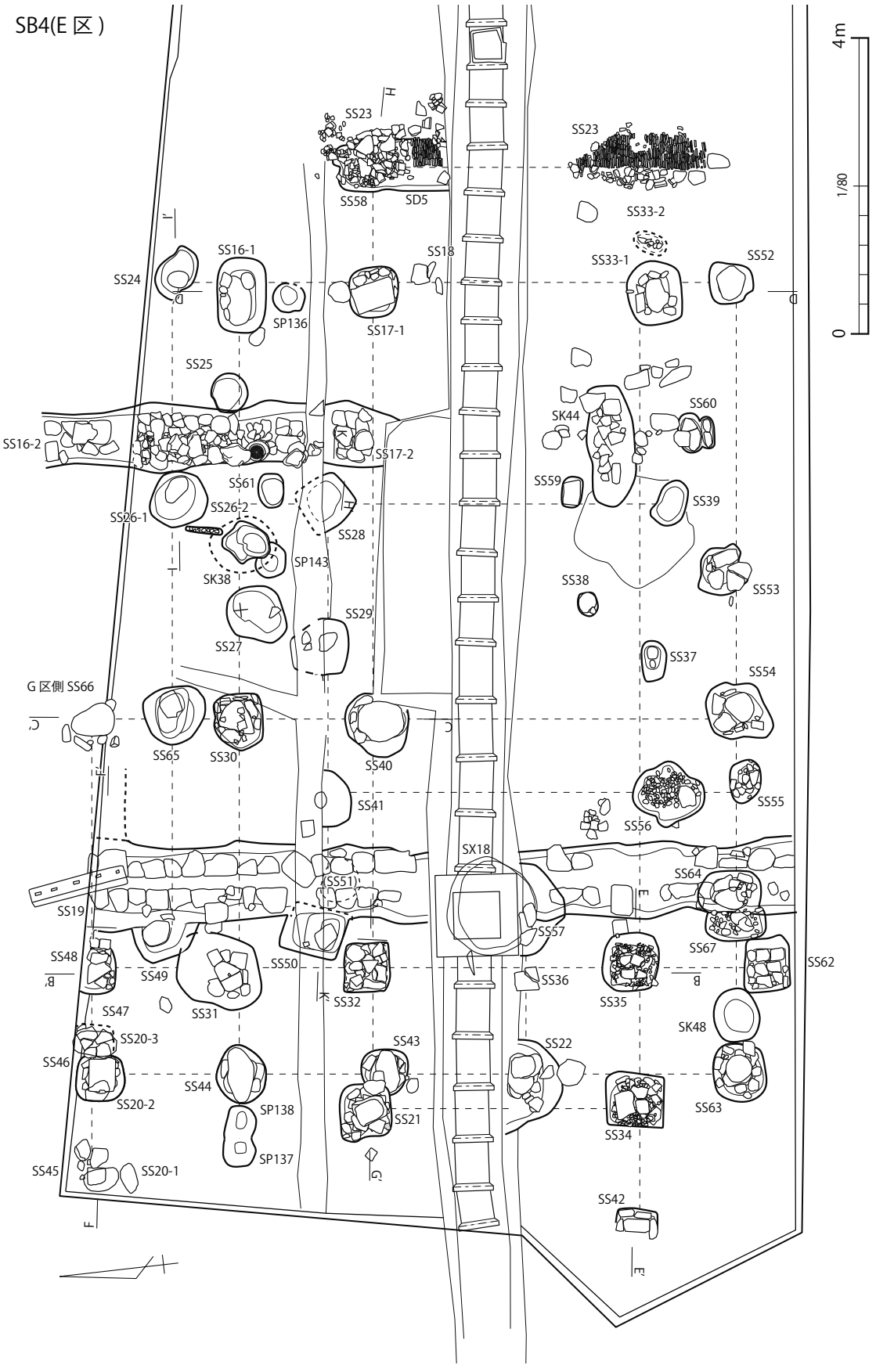
SP414.SP415.SP416 共通

1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の焼土を40％、炭を5％含む。締まりは弱く、軟質。基本的にSX73の土。
2．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大の炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

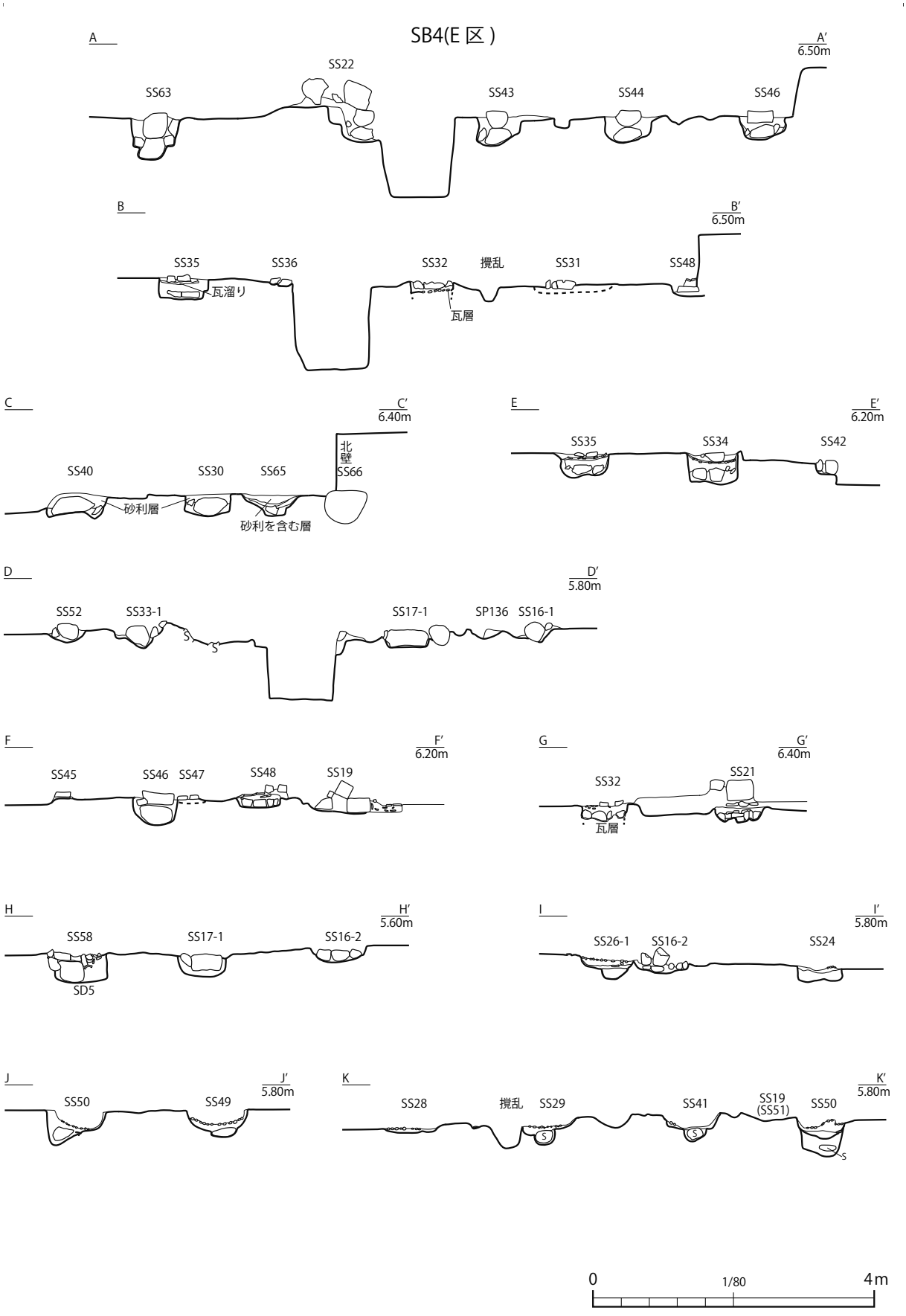
第42図　近世以降の遺構（7）　(1/60)



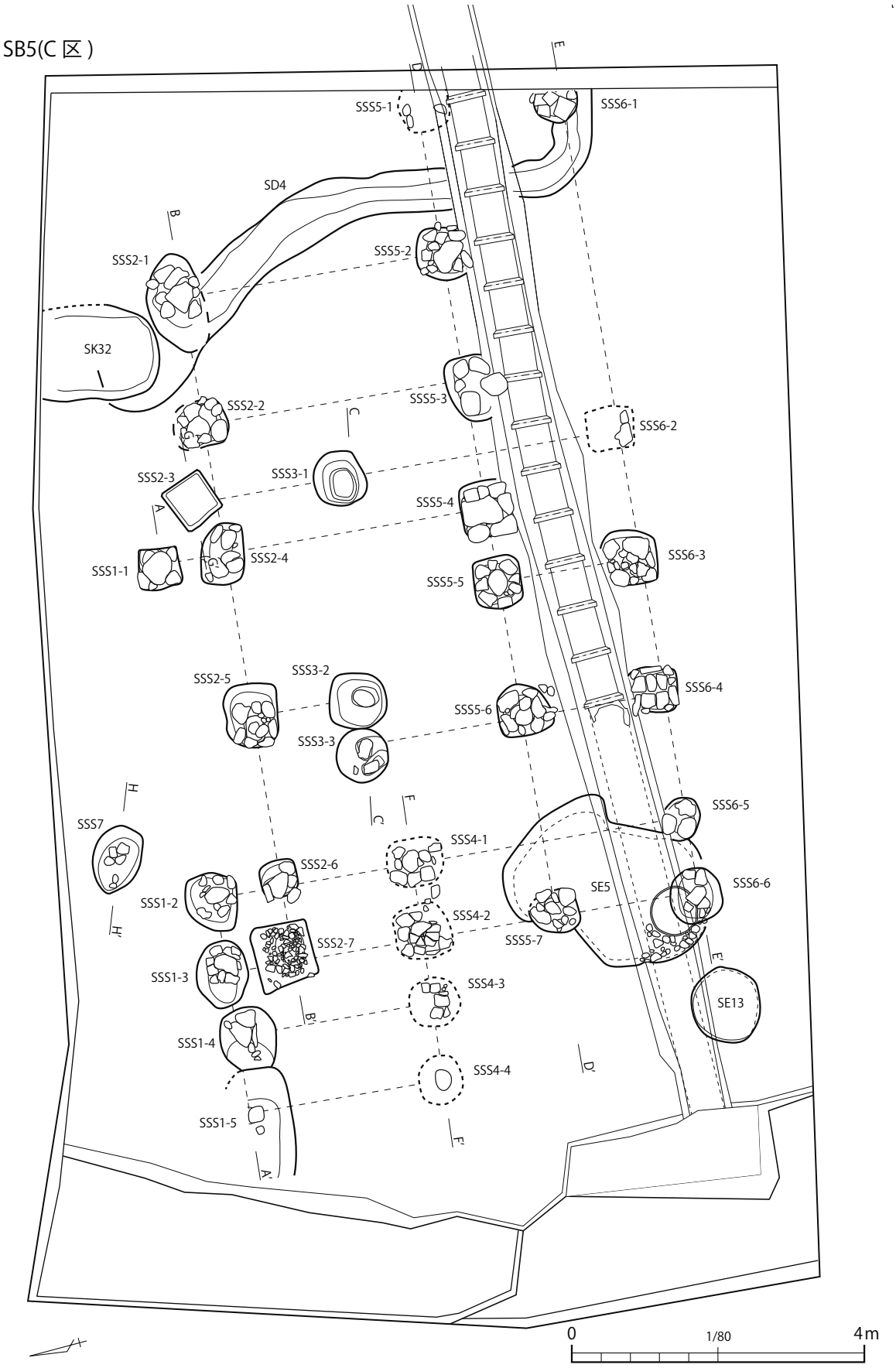
第43図　近世以降の遺構（8）(1/60)



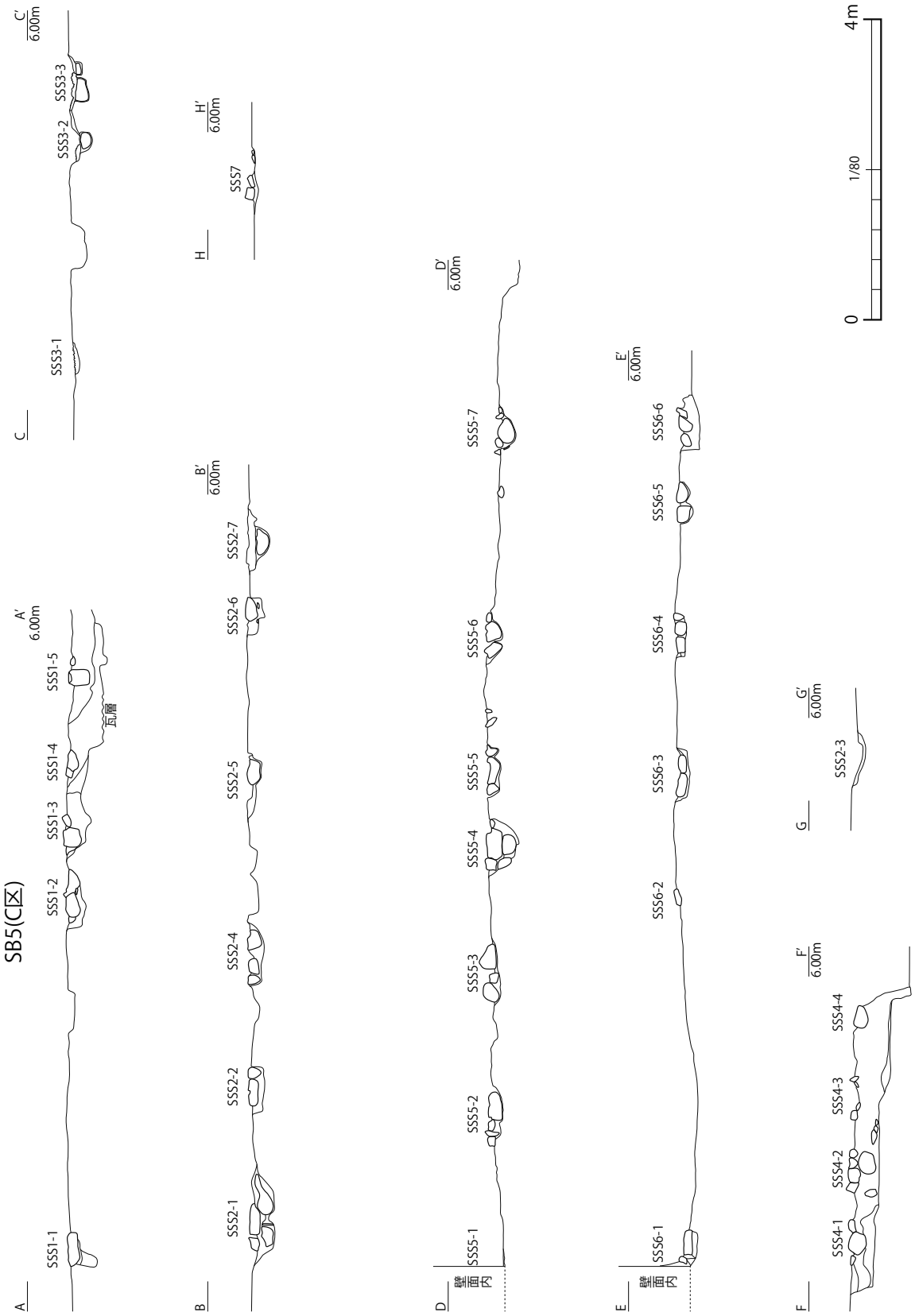
第44図　近世以降の遺構（9）　(1/80)



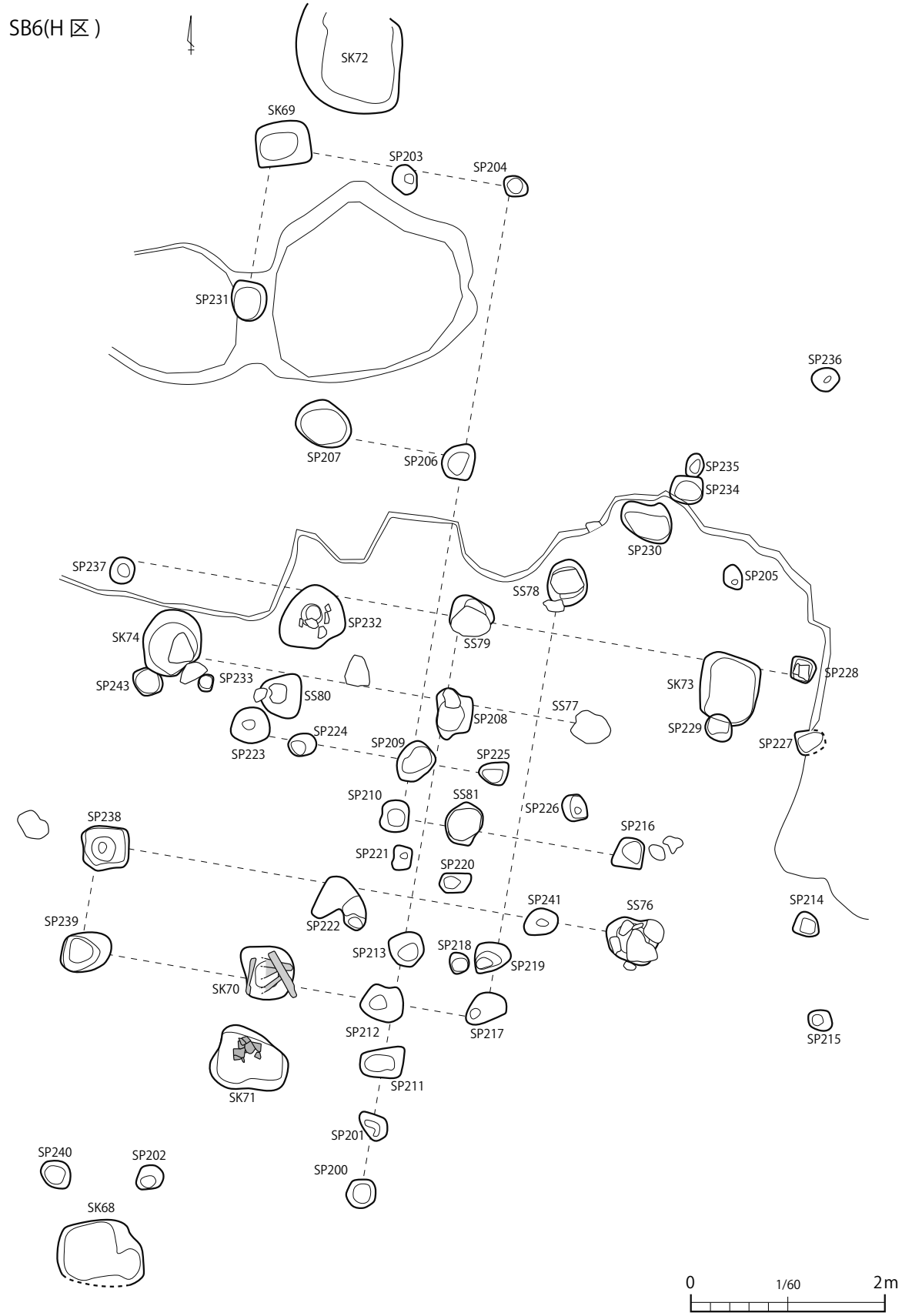
第45図　近世以降の遺構（10）（1/80）



第46図　近世以降の遺構（11）（1/80）

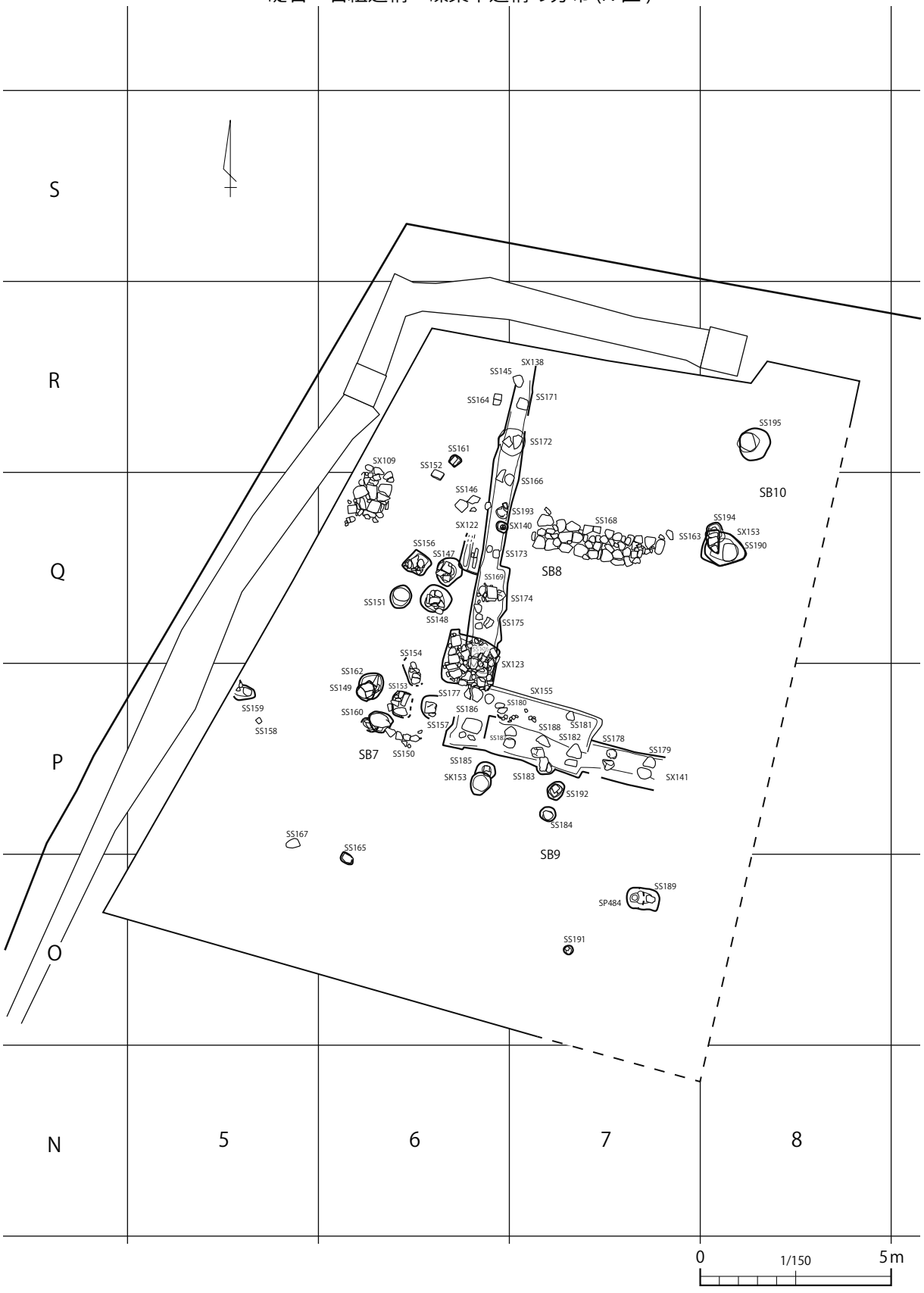


第47図　近世以降の遺構（12）（1/80）

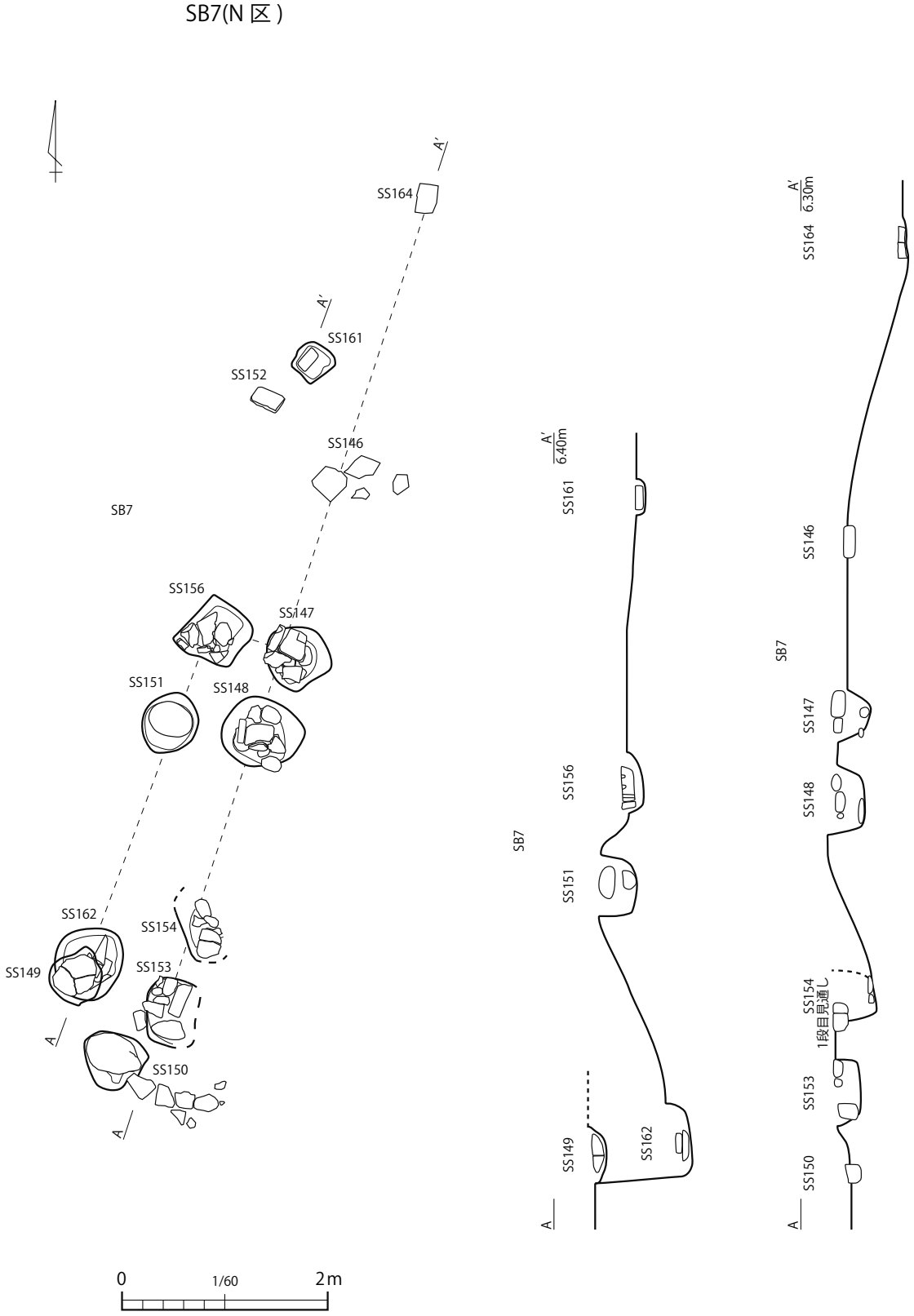


第48図　近世以降の遺構（13）（1/60）

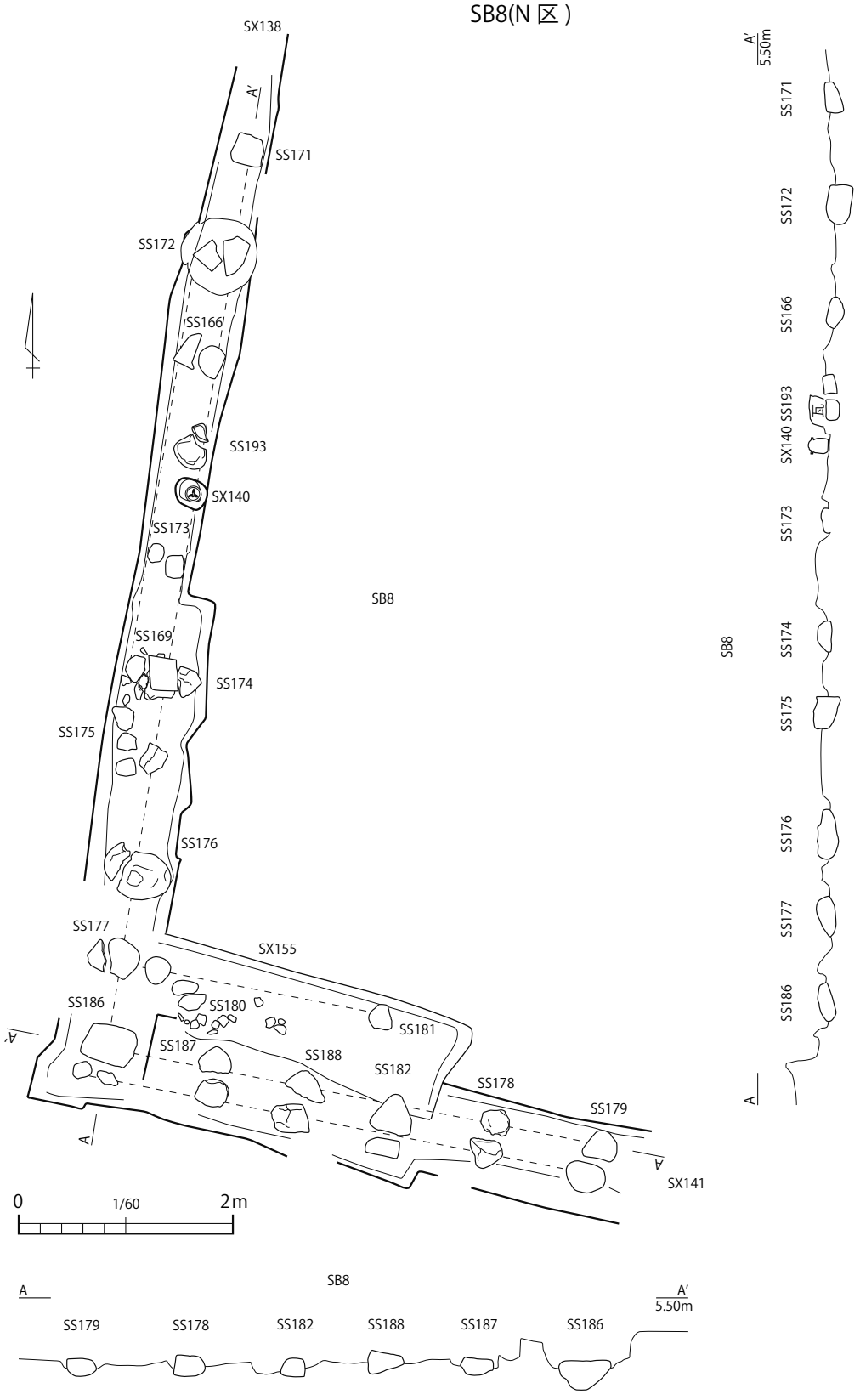
礎石・石組遺構・礫集中遺構の分布 (N 区)



第49図　近世以降の遺構（14）　(1/150)

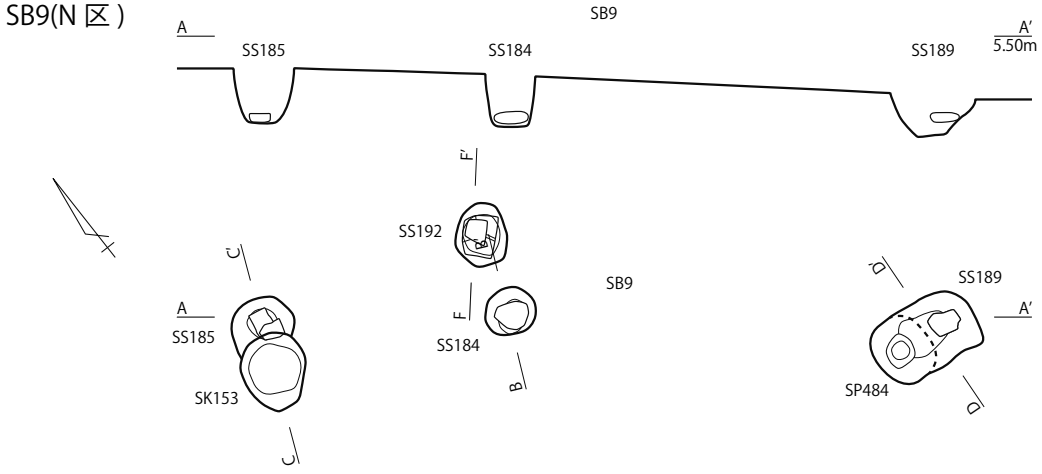


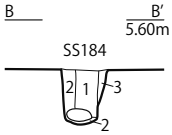
第50図　近世以降の遺構（15）（1/60）



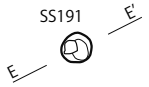
第51図　近世以降の遺構（16）（1/60）

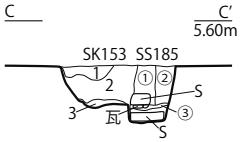
SB9(N 区)

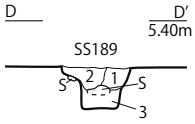




SS184
1. 5Y4/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
　3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。
　締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。
　締まりはやや弱く、やや軟質。



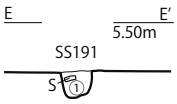




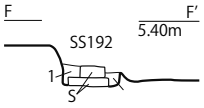
SK153
1. 10YR4/6 褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR2/3 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや有り。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR5/6 黄褐色　粒子は細かく、締まりはやや強く、やや硬質。

SS185
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、締まりは弱く、軟質。
②. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を若干含む。締まりは弱く、軟質。
③. 2.5Y4/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土を50％含む。締まりは弱く、軟質。

SS189
1. 7.5YR5/2 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。
　0.3～0.7cm大の焼土を5％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。3mm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを1％、焼土を1％含む。締まりは弱く、軟質。
3.10YR4/4褐色　粒子はやや粗く、やや軟質。

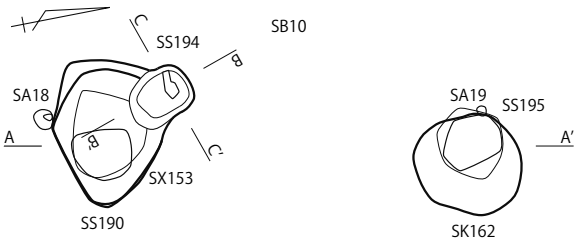


SS191
①. 7.5YR5/4 にぶい褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
　3mm大の焼土を5％、炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや硬質。

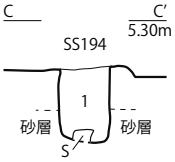


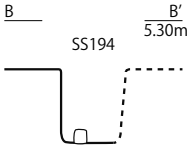
SS192
1. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

SB10(N 区)





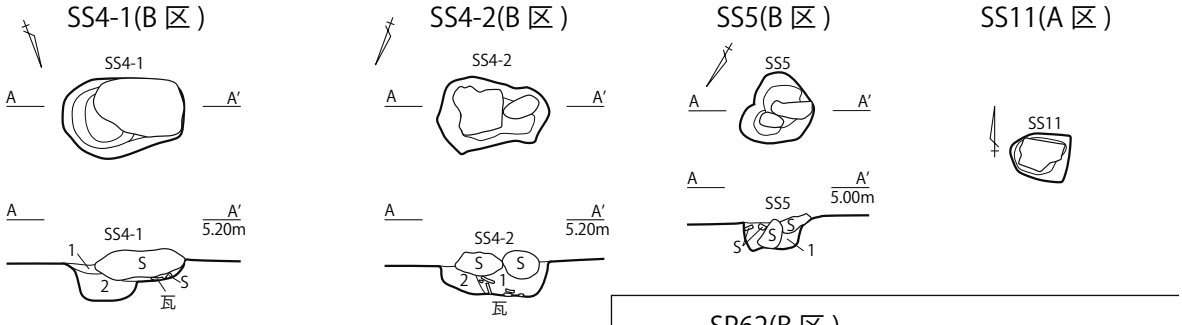




SS194
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の炭を3％、
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



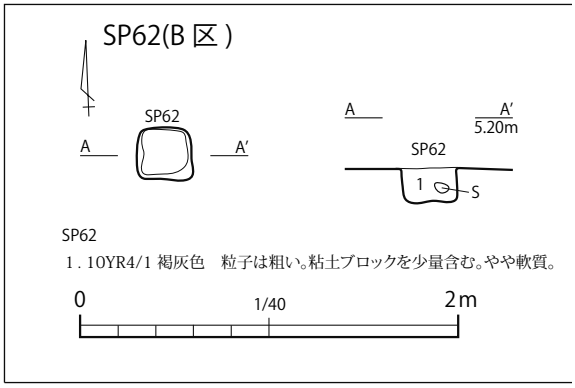
第52図　近世以降の遺構（17）（1/60）



SS4-1
1．10YR5/1 褐灰色　粒子はやや粗く、瓦、炭を少量含む。やや硬質。
2．10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、1～3mm大の焼土粒を2%含む。やや硬質。

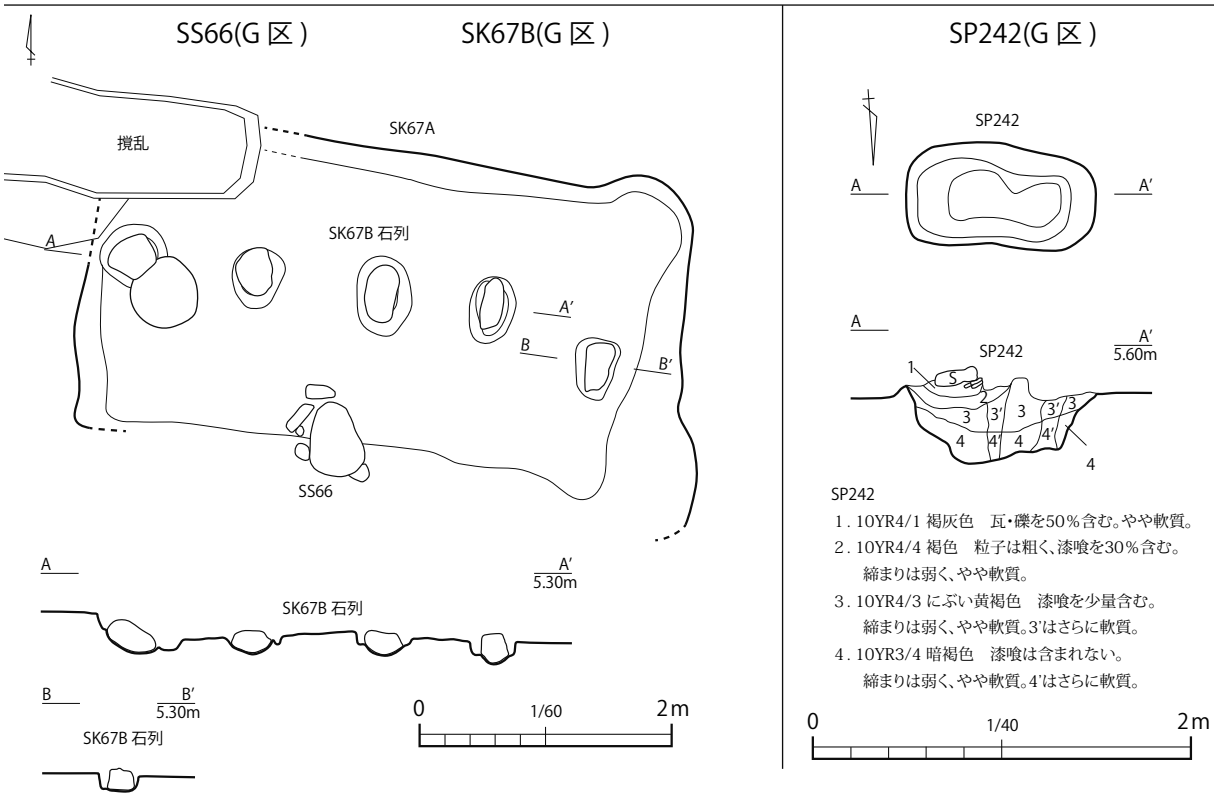
SS4-2
1．5YR5/6 明赤褐色　瓦、炭を少量含む焼土層。やや軟質。
2．瓦をﾍﾞｰｽにする。締まりはやや弱い。

SS5
1．2.5YR3/3(暗オリーブ褐色)　混じり土主体。10mmの焼土ブロック20%。
5～20mmの炭化物粒を20%含む。締り弱、粘性極弱。



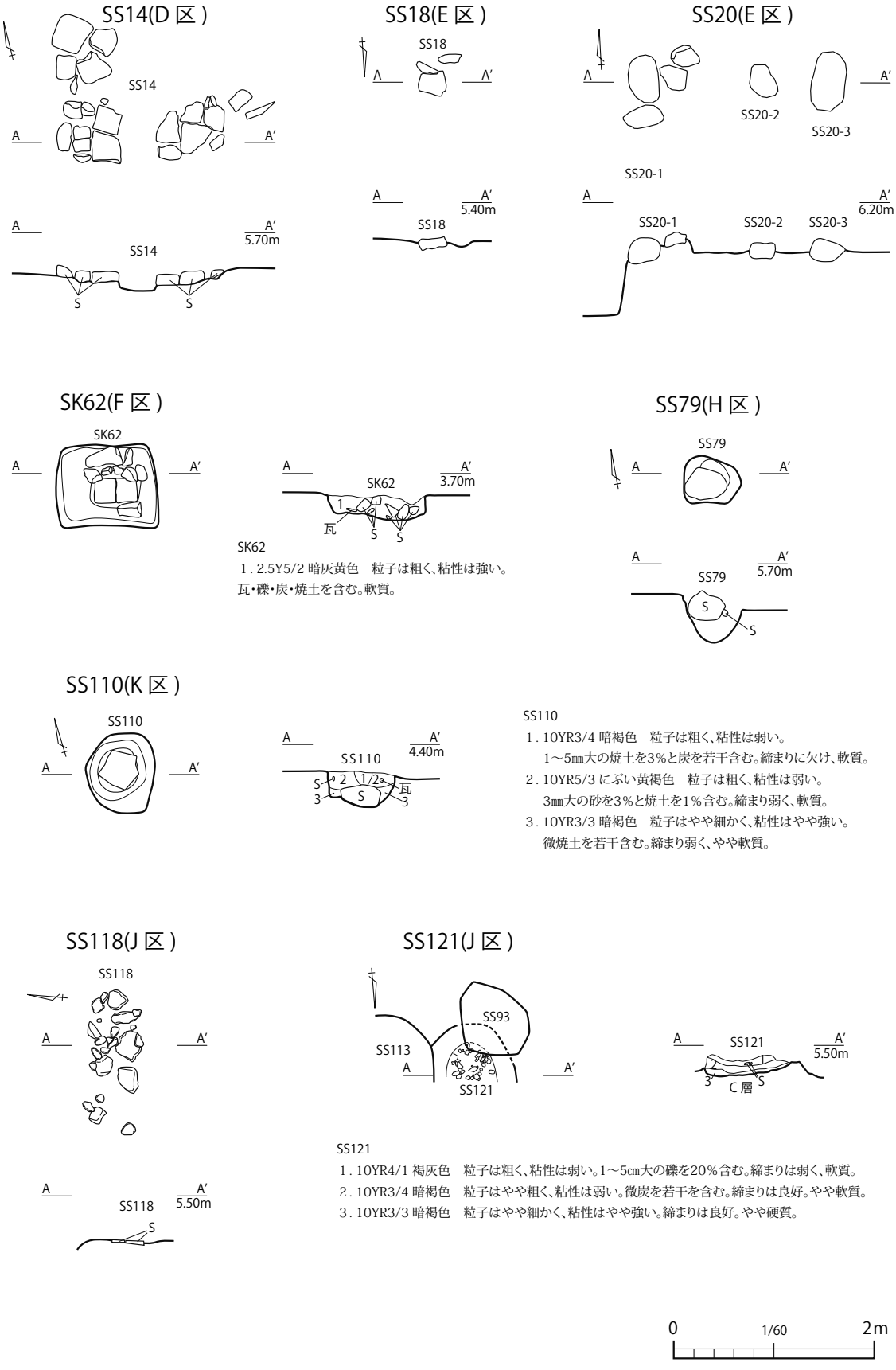
SP62
1．10YR4/1 褐灰色　粒子は粗い。粘土ブロックを少量含む。やや軟質。



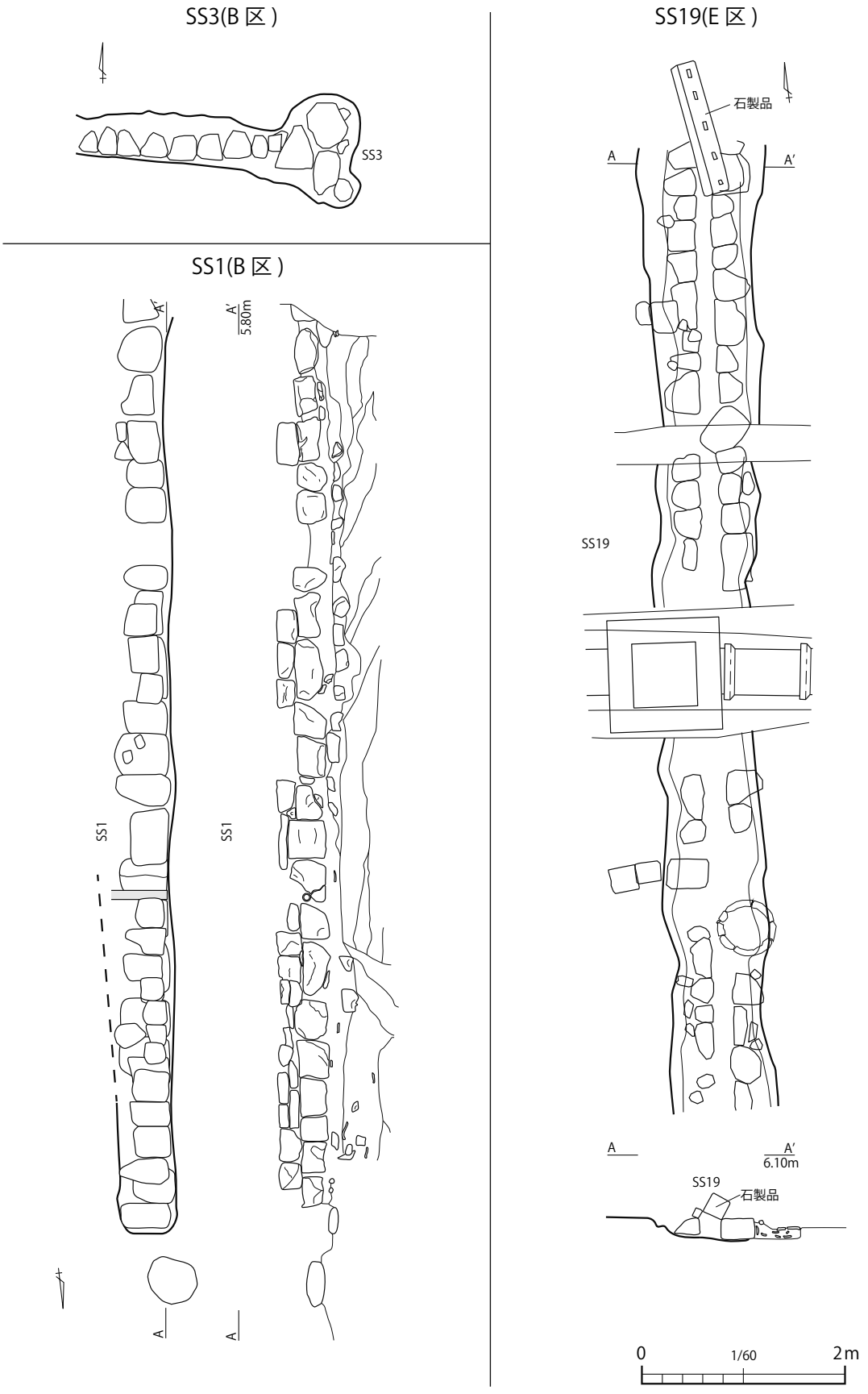


SP242
1．10YR4/1 褐灰色　瓦・礫を50%含む。やや軟質。
2．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、漆喰を30%含む。
締まりは弱く、やや軟質。
3．10YR4/3 にぶい黄褐色　漆喰を少量含む。
締まりは弱く、やや軟質。3'はさらに軟質。
4．10YR3/4 暗褐色　漆喰は含まれない。
締まりは弱く、やや軟質。4'はさらに軟質。

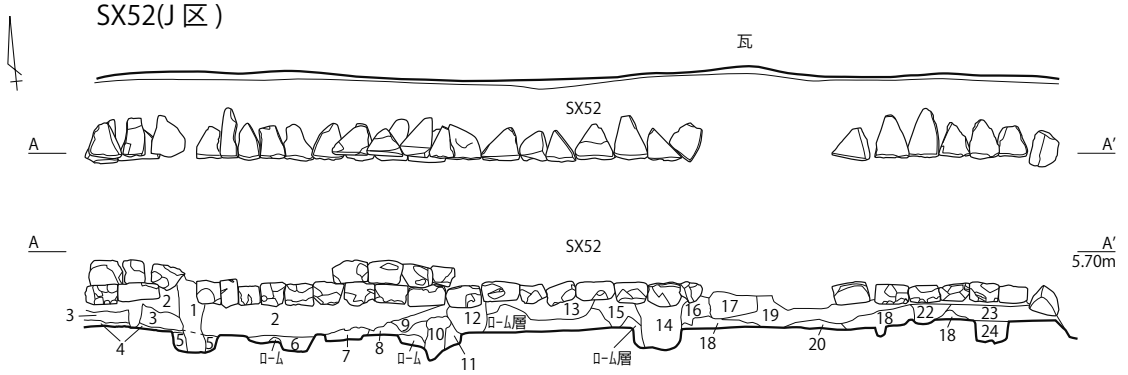
第53図　近世以降の遺構(18)　(1/40・1/60)



第54図　近世以降の遺構（19）　(1/60)



第55図　近世以降の遺構（20）　(1/60)

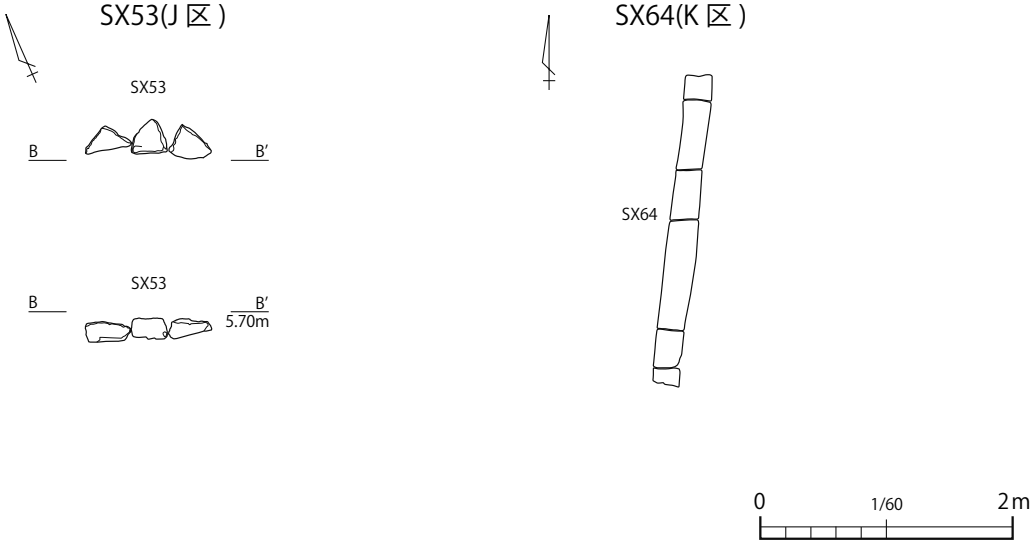


SX52

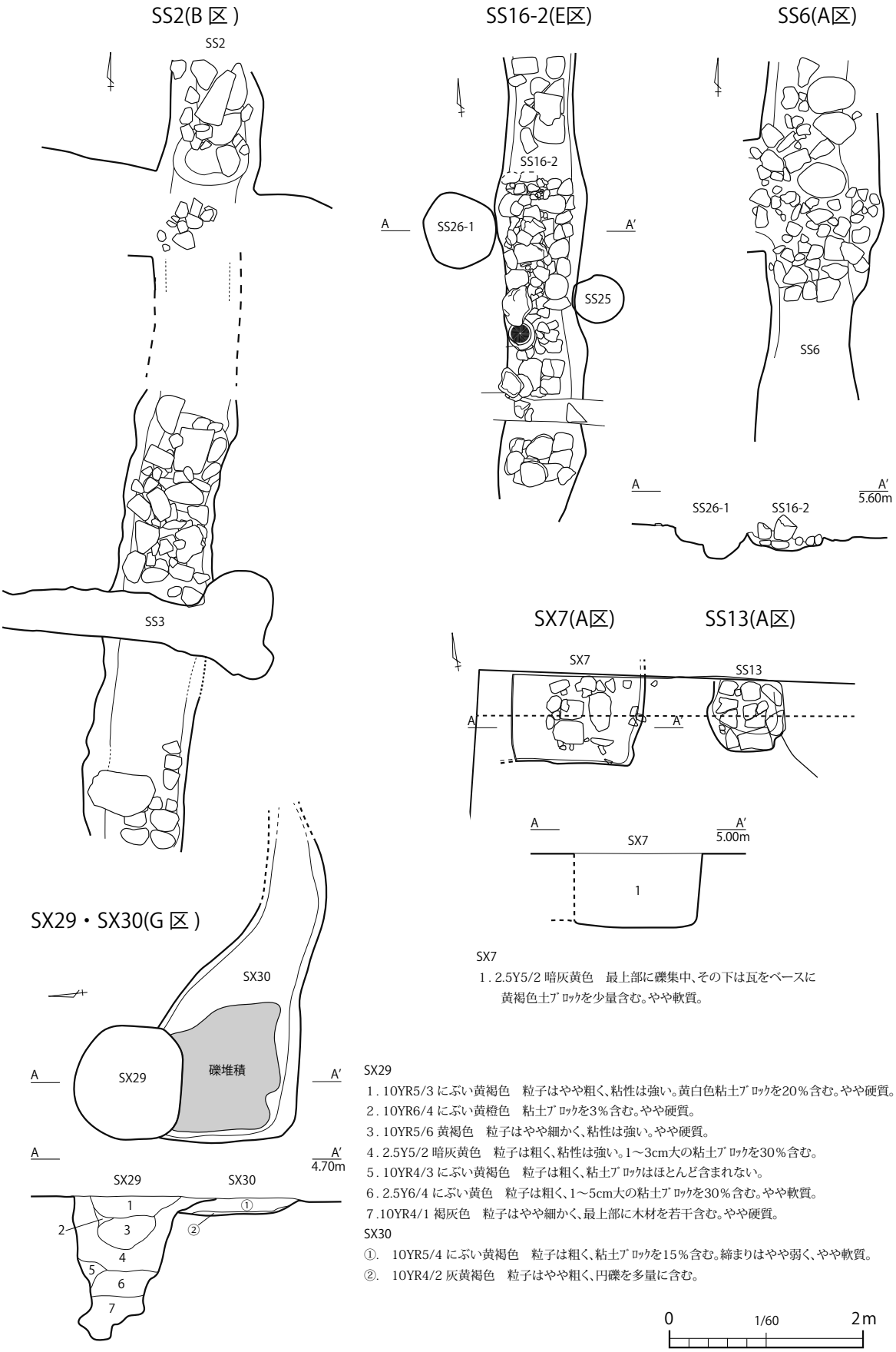
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。酸化土を5％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。酸化土5％と、3㎜大の砂を1％含む。締まりは弱く、軟質
3. 2.5 6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性に欠ける。0.5～0.7㎝大の砂ﾌﾞﾛｯｸを70%、0.5cm大の酸化土を3％含む。締まりは弱いが、硬質。
4. 10YR5/8 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性に欠ける。3㎜大の砂ﾌﾞﾛｯｸを5％と、微白色粒を若干含む。締まりは強く、硬質。
5. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1㎜大の焼土と、炭を1％ずつ含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
6. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。1㎜大の炭を1％と、酸化土2％を含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。3㎜大の礫を1％と、酸化土1％を含む。締まりは弱く、軟質。
8. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。微ｻﾋﾞを若干含む。締まりは良好。やや硬質。
9. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。2～3㎜大の砂を15％と、酸化土を若干含む。締まりは弱く、軟質。
10. 10YR3/3 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。3㎜大の砂ﾌﾞﾛｯｸを3％と、1～2㎜大の炭を2％含む。締まりに欠け、軟質。
11. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。砂と、微炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。

L層 10YR6/6 明黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。1㎜大の炭と、酸化土を若干含む。締まりは良好。硬質。

12. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。帯状に砂層を30％含む。締まりは弱く、軟質。
13. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1㎜大の焼土と、炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
14. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。微焼土と、炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
15. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。微白色粒と、褐色粒を1％ずつ含む。締まりはやや弱いが、硬質。
16. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。微白色粒を若干含む。締まりは弱いが、硬質。
17. 10YR6/6 明黄褐色　粒子はかなり粗く、粘性に欠ける。1～2㎜大のﾊﾟﾐｽ状褐色粒を30％含む。締まりは弱く、軟質。
18. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。微褐色粒と、白色粒を1％ずつ含む。締まりは強く、硬質。
19. 10YR5/4 黄褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。微白色粒を2％含む。締まりはやや弱いが、やや硬質。
20. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は細かく、粘性はやや強い。微白色粒を1％含む。締まりは強く、硬質。
21. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性に欠ける。褐色ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
22. 10YR2/3 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。微白色粒を1％含む。締まりは弱く、軟質。
23. 10YR2/3 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。白色粒を若干含む。締まりは弱く、軟質。
24. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。微褐色粒を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



第56図　近世以降の遺構（21）（1/60）



SX7
1．2.5Y5/2 暗灰黄色　最上部に礫集中、その下は瓦をベースに
　黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。やや軟質。

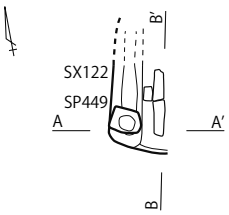
SX29
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。黄白色粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。やや硬質。
2．10YR6/4 にぶい黄橙色　粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。やや硬質。
3．10YR5/6 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。やや硬質。
4．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。
5．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸはほとんど含まれない。
6．2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、1～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。やや軟質。
7．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや細かく、最上部に木材を若干含む。やや硬質。

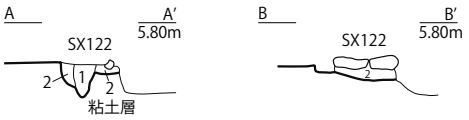
SX30
①．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
②．10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、円礫を多量に含む。

0　1/60　2m

第57図　近世以降の遺構（22）（1/60）

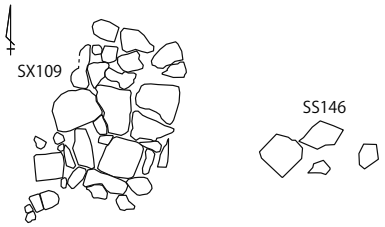
SX122(N 区)





SX122
1. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の炭を1％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。締まり強く、硬質。

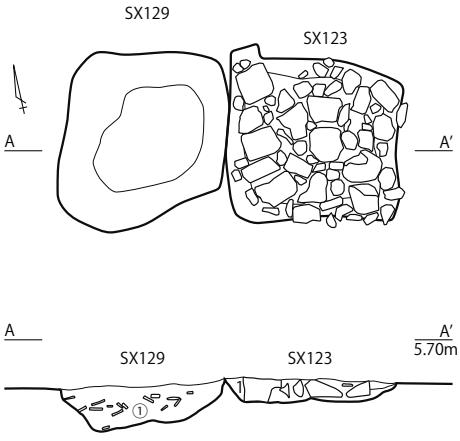
SX109(N 区)



SS168(N 区)



SX123・SX129(N 区)

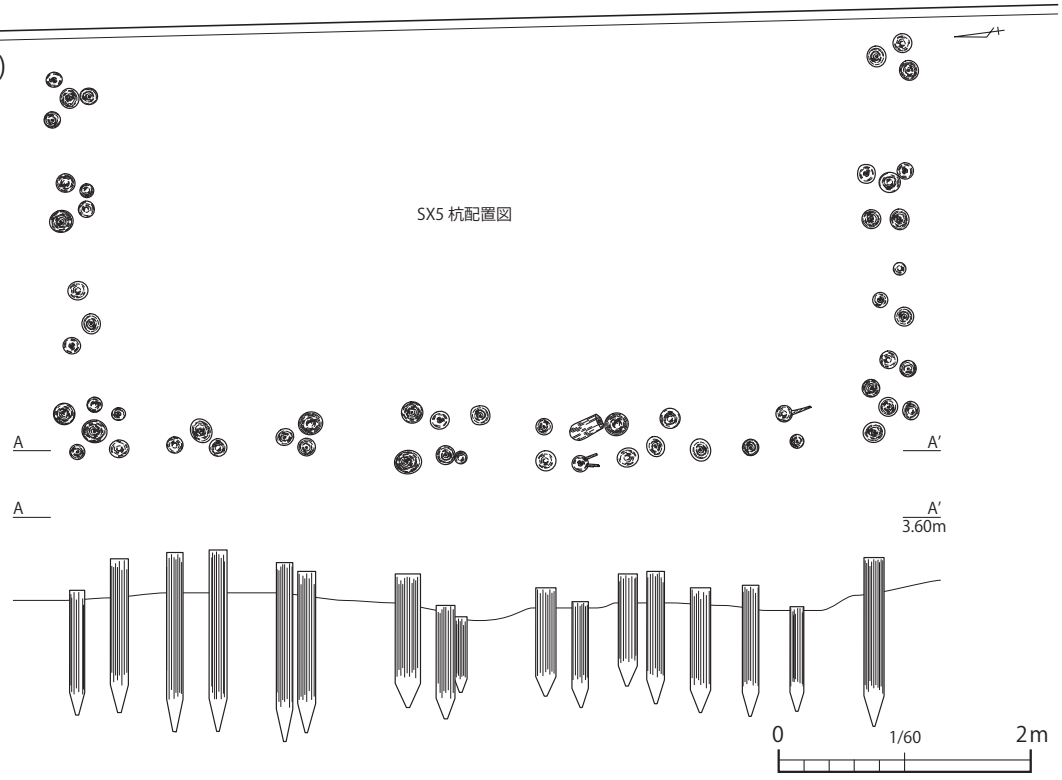


SX129
①. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。漆喰、焼土を若干、3～7cm大の瓦を50％含む。締まりは弱く、軟質。
SX123
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3cm大の礫を5％含む。締まりは弱く、軟質。

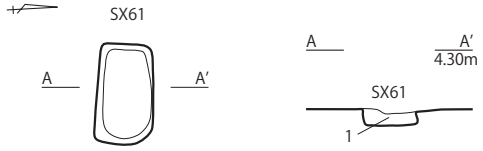


第58図　近世以降の遺構（23）（1/60）

SX5(A 区)

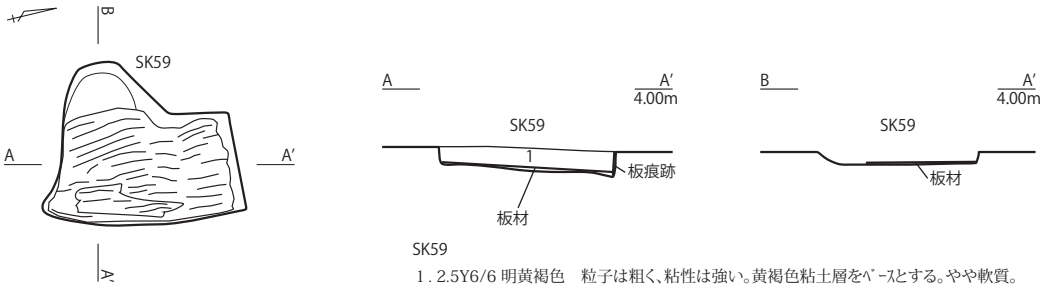


SX61(K 区)



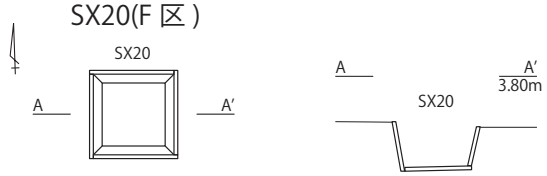
SX61
1．10YR5/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5cm大の
褐色ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりに欠け、軟質。

SK59(F 区)

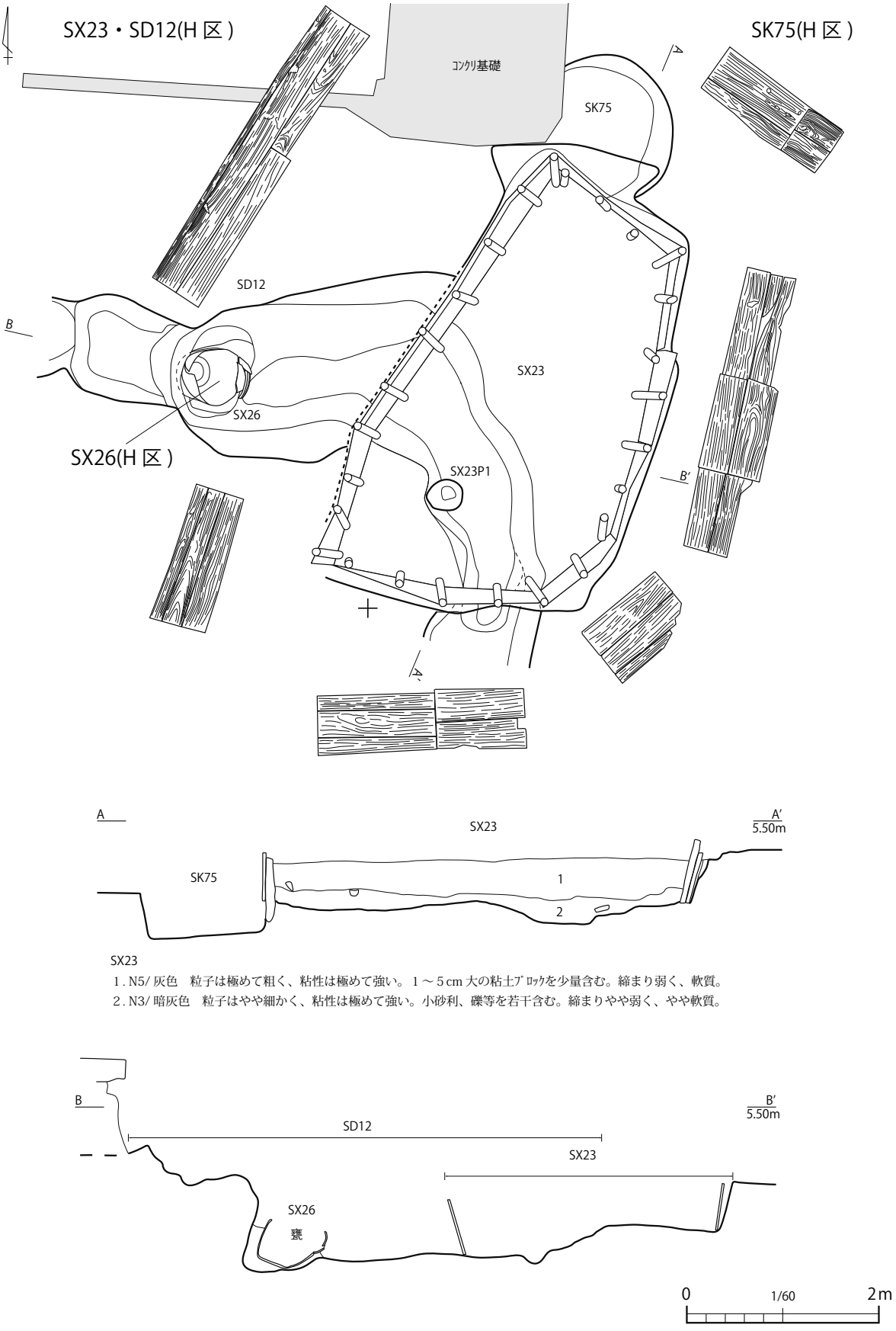


SK59
1．2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。黄褐色粘土層をﾍﾞｰｽとする。やや軟質。

SX20(F 区)

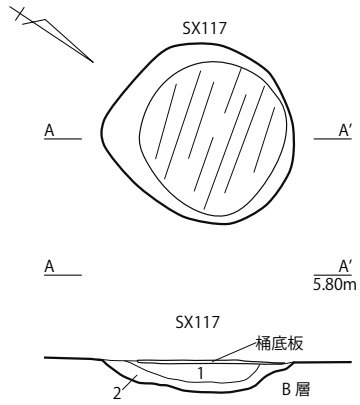


第59図　近世以降の遺構（24）（1/30・1/60）



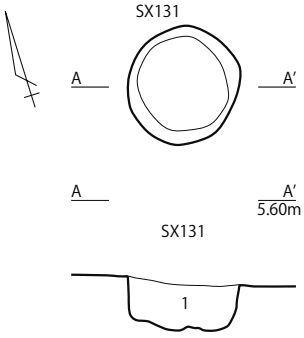
第60図　近世以降の遺構（25）（1/60）

SX117(N 区)



SX117
1. 2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は細かく、粘性はやや有り。やや軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。やや硬質。

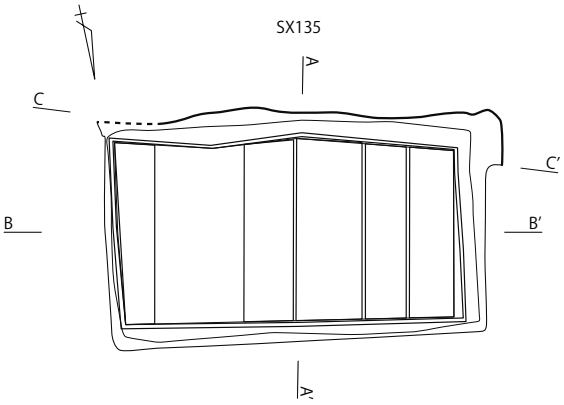
SX131(N 区)

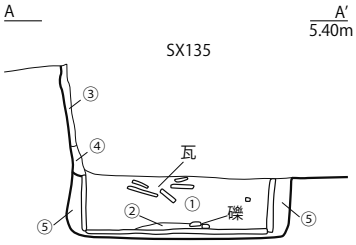


SX131
1. 10YR6/1 灰色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
灰色粘土ﾍﾞｰｽに炭を若干含む。締まりに欠け、やや軟質。

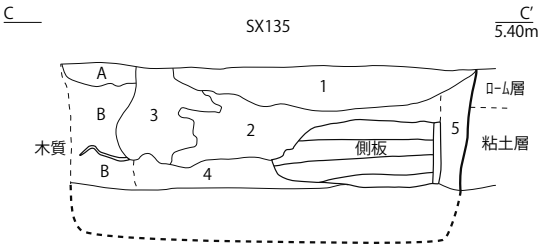
0　1/30　1m

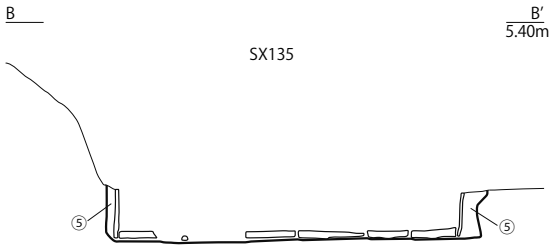
SX135(N 区)





SX135
①. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
木片等を若干含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
鉄分を10％含有。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
12mm大の炭を1％含む。締まりは弱く、軟質。
④. 2.5Y8/4 淡黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。
締まりはやや弱く、やや軟質。
⑤. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。炭を若干含む。
締まりはやや弱く、やや軟質。

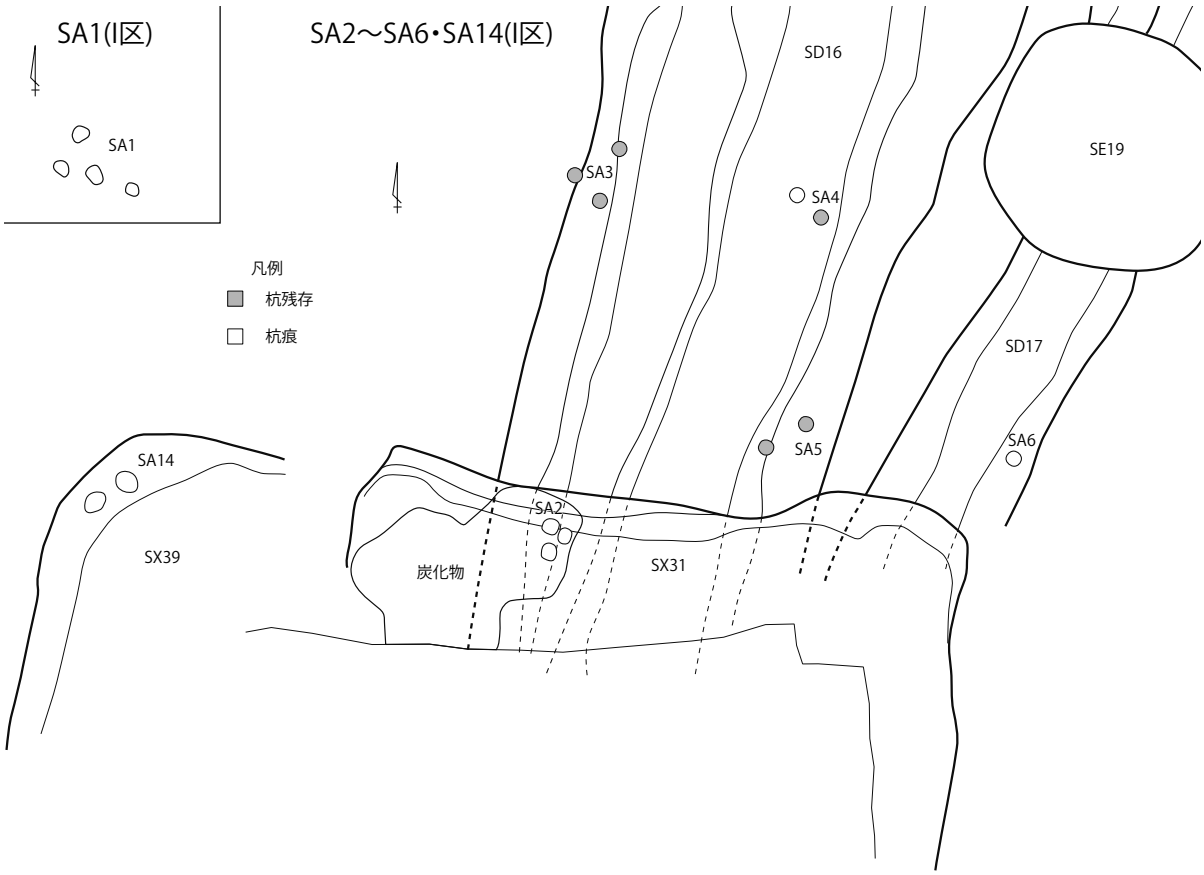


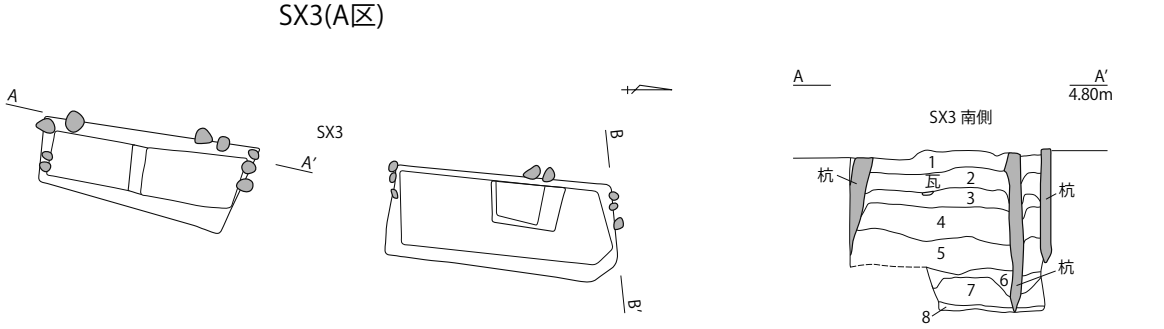


SX135
1. 10YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。茶色粒を3％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR2/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。ﾛｰﾑを10％含む。やや軟質。
4. 2.5Y8/4 淡黄色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。3～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽにする。締まりは弱く、軟質。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色　SX135掘り方土。粒子は極めて粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％と炭を2％含む。締まりに欠け、軟質。
A. 10YR5/6 褐色　ﾛｰﾑ層か。
B. 5Y8/4 淡黄色　粘土層。

0　1/40　2m

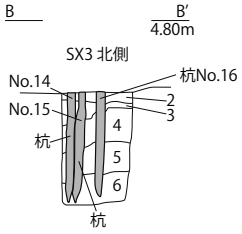
第61図　近世以降の遺構(26)(1/30・1/40)

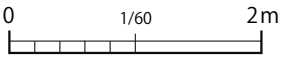




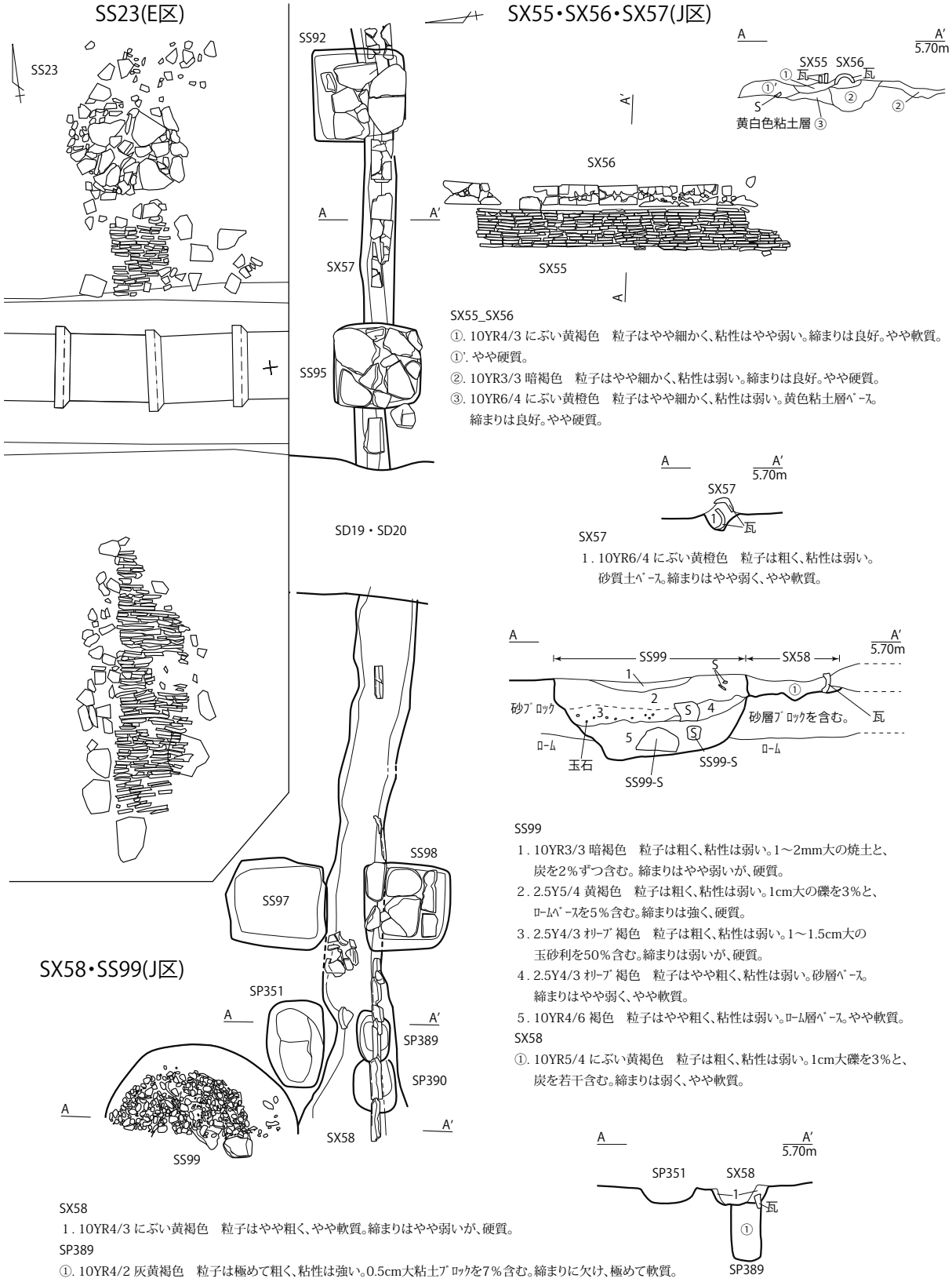
SX3

1．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は細かい。褐色粘土を60％含む。硬質。
2．10YR7/1 灰白色　粒子はやや粗い。灰色粘土をﾍﾞｰｽに炭を若干含む。やや硬質。
3．10YR7/1 灰白色　灰白色粘土ﾍﾞｰｽ。上位に瓦を含む。やや軟質。
4．N6/1 灰色　灰色粘土ﾍﾞｰｽ。やや軟質。
5．N5/1 灰色　灰色粘土に灰白色粘土を5％含む。やや硬質。
6．5B4/1 暗青灰色　灰色粘土層に貝が60％含まれる。
7．N3/1 暗灰色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりはやや弱く、やや軟質。
8．2.5YR7/6 明黄褐色　砂層と考えられる。

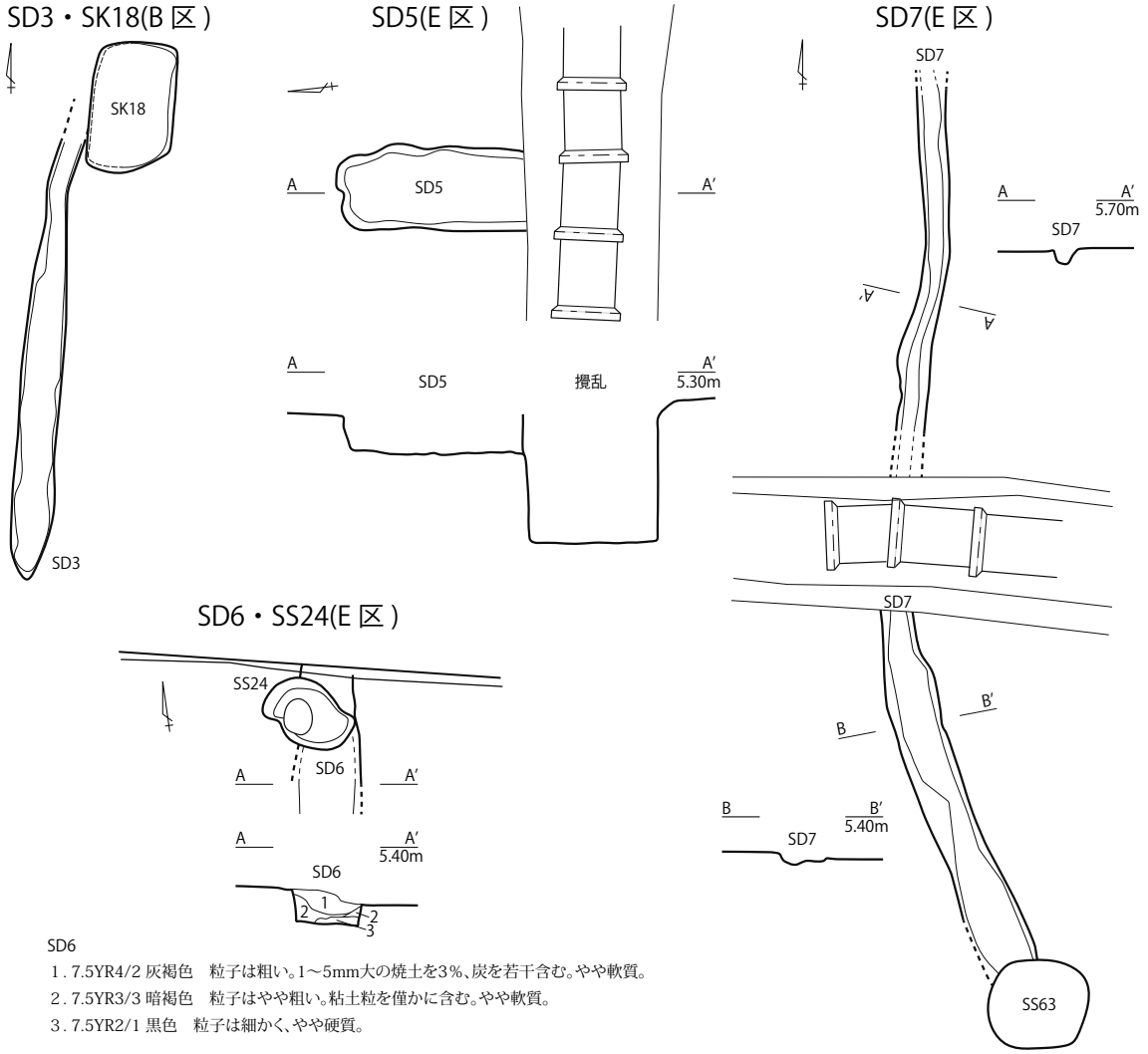




第62図　近世以降の遺構（27）（1/60）



第63図　近世以降の遺構(28)(1/40)



SD6

1．7.5YR4/2 灰褐色　粒子は粗い。1～5mm大の焼土を3%、炭を若干含む。やや軟質。
2．7.5YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗い。粘土粒を僅かに含む。やや軟質。
3．7.5YR2/1 黒色　粒子は細かく、やや硬質。

SD8

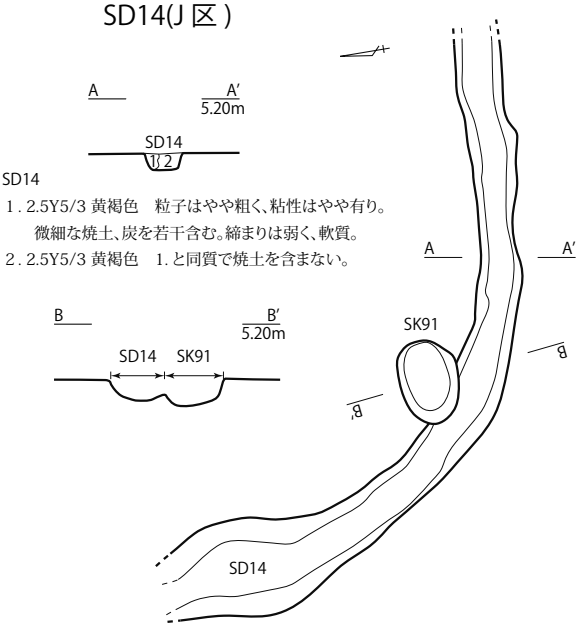
1．2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.3～1cm大の
黄色ﾌﾞﾛｯｸを15%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SD11

1．5Y6/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　杭痕か。やや硬質。
2．10YR5/4 黒色　粒子は粗く、白色粘土を若干含む。やや硬質。
3．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、ｼﾙﾄ粒を若干含む。やや軟質。

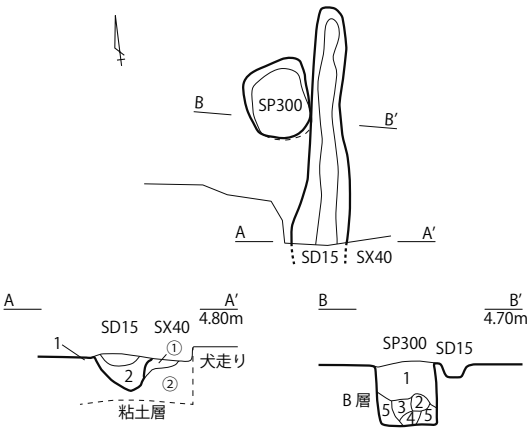
第64図　近世以降の遺構(29)(1/60)

SD14(J 区)



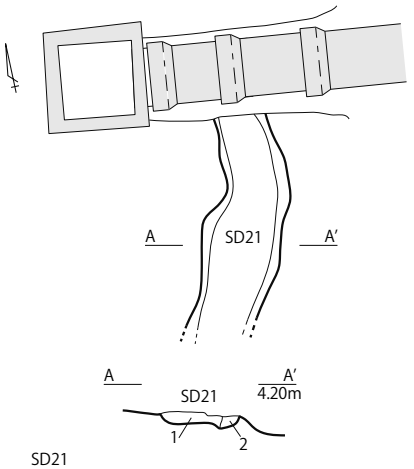
SD14
1 . 2.5Y5/3 黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。
　微細な焼土、炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 2.5Y5/3 黄褐色　1. と同質で焼土を含まない。

SD15・SP300・SX40(I 区)



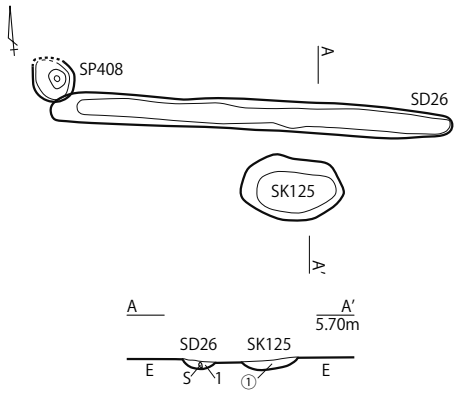
SD15
1 . 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の
　砂層ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の砂層ブロックベース。
SX40
①. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。0.5cm大の砂層ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。
　締まりは弱いが、やや硬質。
②. 10YR5/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性ややあり。0.3～0.5cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは弱く、やや軟質。
SP300
1 . 2.5Y5/4 黄褐色　粒子極めて粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを50％含む。
　締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR5/8 黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ。
3 . 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。
4 . 10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。粘土層。軟質。
5 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

SD21(K 区)



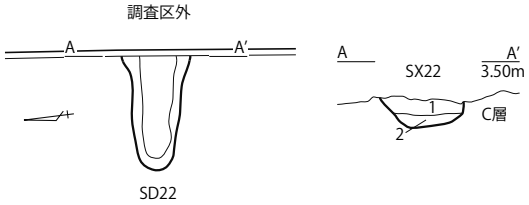
SD21
1 . 7.5YR4/2 灰褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
　微炭若干含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 1よりやや硬質。

SD26・SK125(J 区)

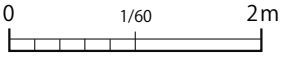


SD26
1 . 7.5YR4/2 灰褐色　粒子は粗く、粘性は強い。B層類似。炭を1％含む。
　締まりは弱く、軟質。
SK125
①. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。B層類似。締まりは弱く、軟質。

SD22(K 区)

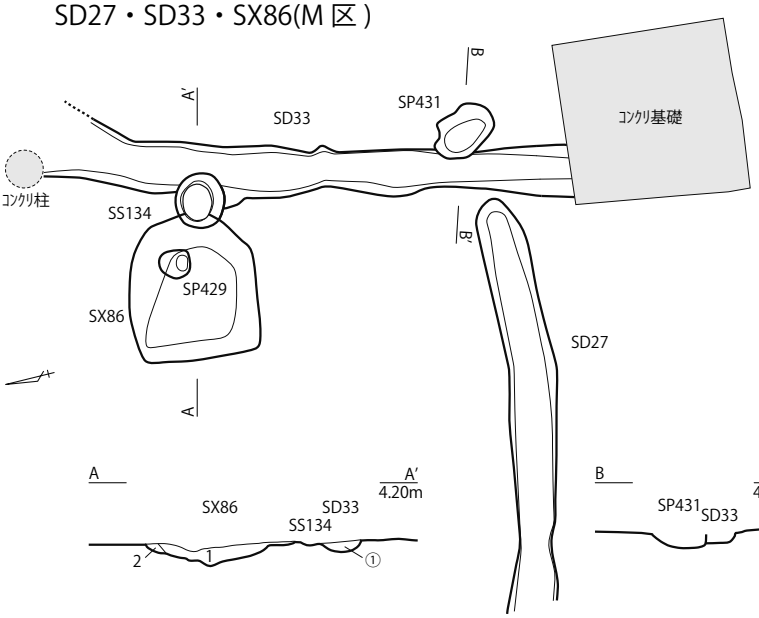


SD22
1 . 2.5Y7/4 浅黄色　砂層ﾍﾞｰｽ。やや軟質。
2 . 2.5Y3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。やや軟質。



第65図　近世以降の遺構（30）（1/60）

SD27・SD33・SX86(M 区)



SD28(M 区)



SX86

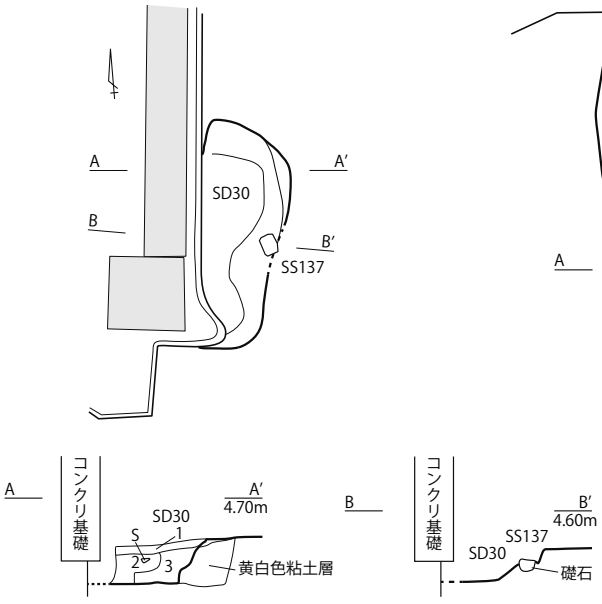
1 . 7.5YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1~2cm大の焼土を7%、炭を3%含む。締まりに欠け、軟質。

2 . 7.5YR2/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。炭を30%含む。締まりは弱く、軟質。

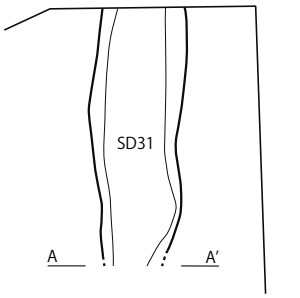
SD33

①. 2.5Y5/4 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。黄褐色ﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽにする。やや軟質。

SD30(M 区)



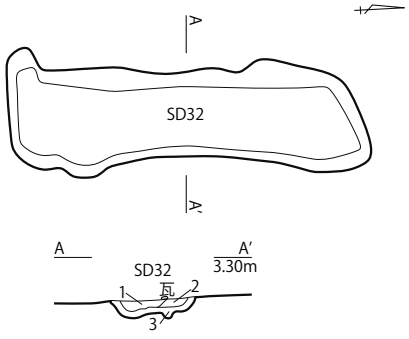
SD31(L 区)



SD31

1 . 7.5YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
2～5mm大のｻﾋﾞ層を10%、粘土ﾌﾞﾛｯｸを7%含む。
締まりは弱く、軟質。

SD32(M 区)



SD30

1 . 5YR4/4 にぶい赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1~5mm大の
焼土を10%、炭を30%含む。締まりに欠け、軟質。

2 . 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性に欠く。砂層。締まりは弱く、軟質。

3 . 5YR3/3 暗赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1~5mm大の焼土を5%、
1~10mm大の炭を7%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SD32

1 . N2/ 黒色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大の焼土を2%、
炭を1%含む。締まりは弱く、軟質。

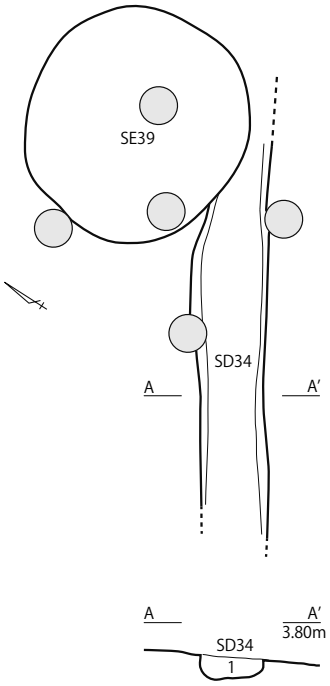
2 . N3/ 暗灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。微焼土を若干含む。
締まりは弱いが、やや硬質。

3 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾌﾞﾛｯｸを含む。
締まりは弱く、やや軟質。

0　1/60　2m

第66図　近世以降の遺構(31)(1/60)

SD34(M 区)



SD34

1 . 2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.3～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを35％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

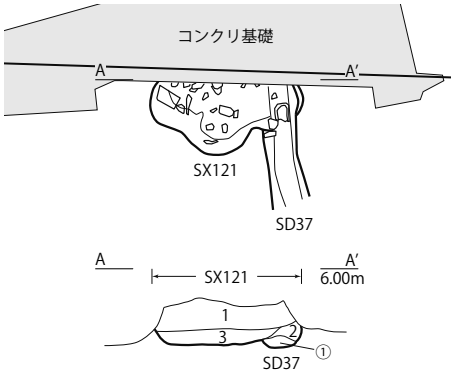
SD36(N 区)



SD36

1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
1～2mm大の炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SD37・SX121(N 区)



SX121

1 . 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。瓦を20％と、1～3mm大の炭を3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

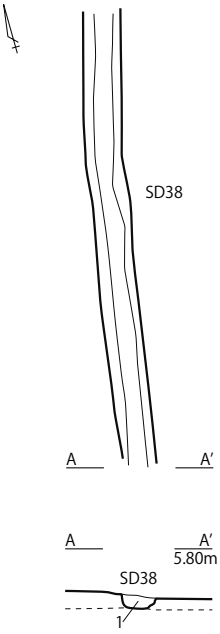
2 . 7.5YR6/2 灰褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。1～3mm大の炭を1％含む。締まりはやや弱いが、やや硬質。

3 . 7.5YR4/2 灰褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。瓦及び礫を10％ずつ含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SD37

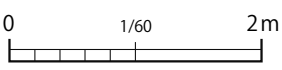
①. 7.5YR5/4 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。

SD38(N 区)

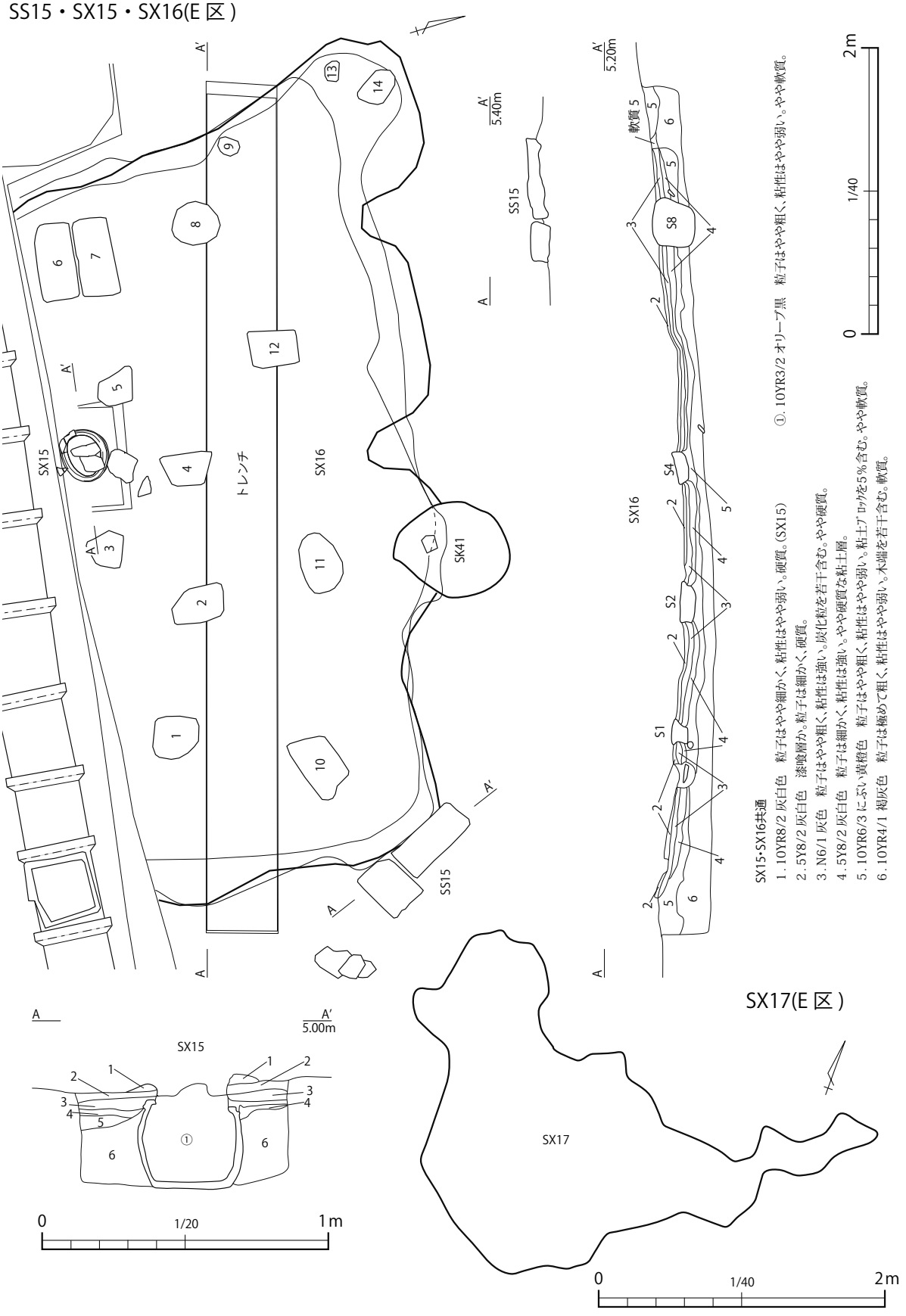


SD38

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
1～2mm大の焼土粒を2％含む。締まりは弱く、軟質。

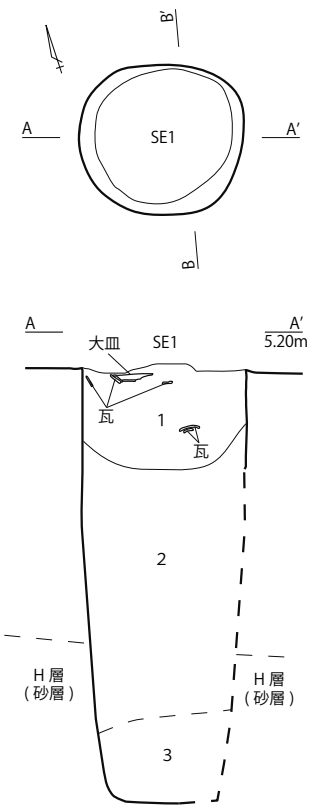


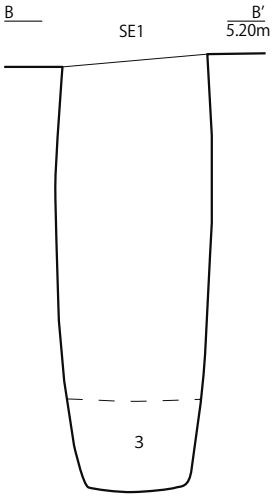
第67図　近世以降の遺構（32）（1/60）



第68図　近世以降の遺構(33)(1/20・1/40)

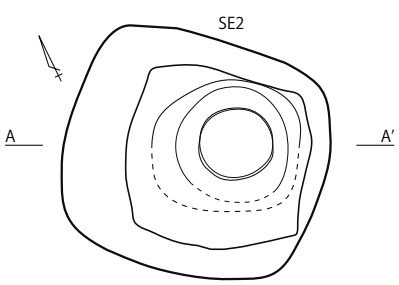
SE1(A 区)

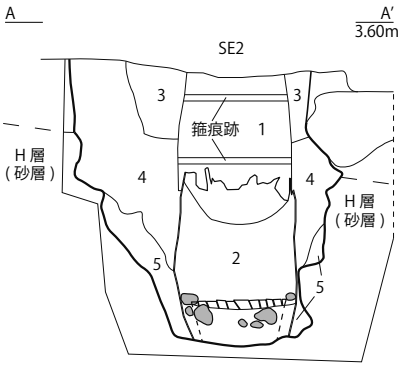


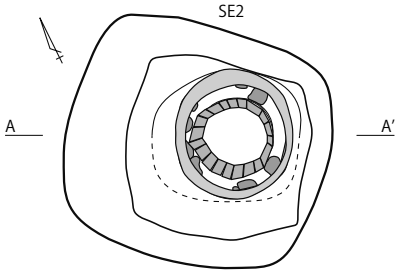


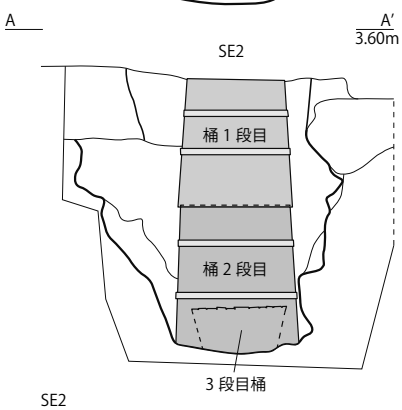
SE1
1 . 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
　砂礫を含む。やや軟質。
2 . 10YR2/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　瓦を多量に含む。軟質。
3 . 10YR 4 /2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
　瓦を極めて多量に含む。締まりは良好、やや硬質。

SE2(A 区)



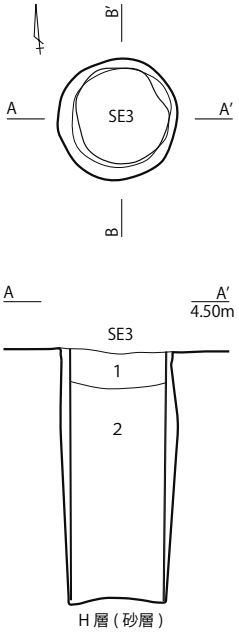


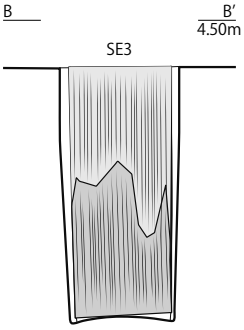




SE2
1 . 10YR 4 /2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性に欠く。
　礫を多量に含む。やや硬質。
2 . 10YR 3 /2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
　礫を少量含む。やや硬質。
掘り方覆土
3 . 10YR5/1 褐灰色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。
　礫を少量含む。やや軟質。
4 . 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。やや硬質。
5 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。
　礫・炭化物を少量含む。硬質。

SE3(B 区)





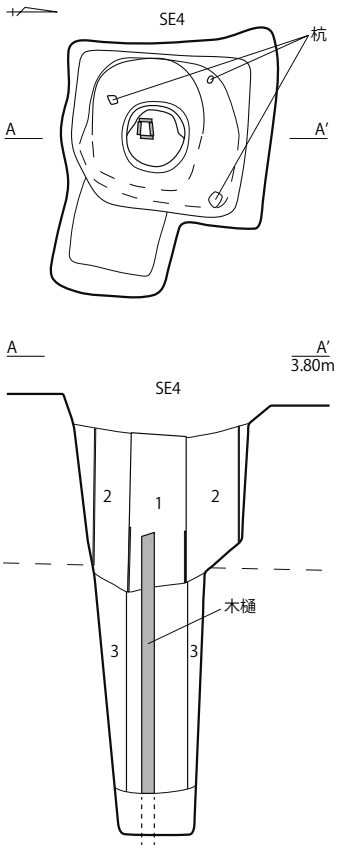
(桶見通し図)

SE3
1 . 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。
　瓦を多量に含む。やや軟質。
2 . 10YR 3 /1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。
　瓦・礫を少量含む。やや硬質。



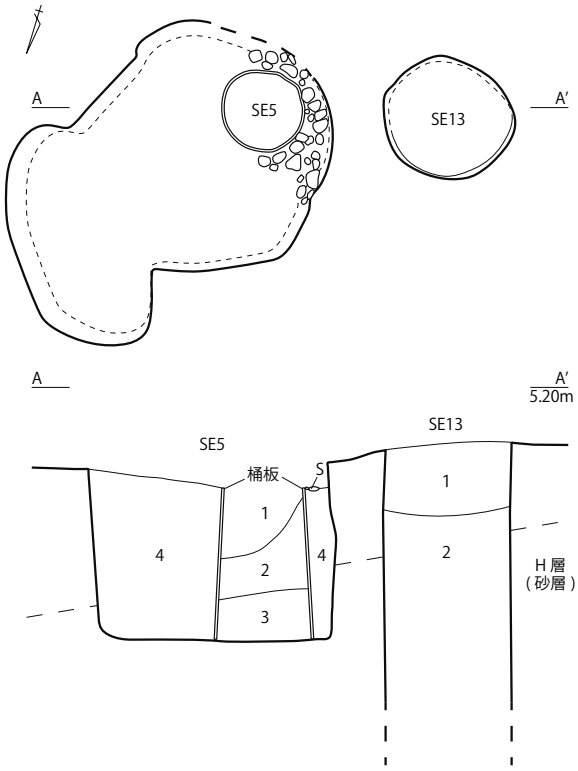
第69図　近世以降の遺構 (34) (1/60)

SE4(A 区)



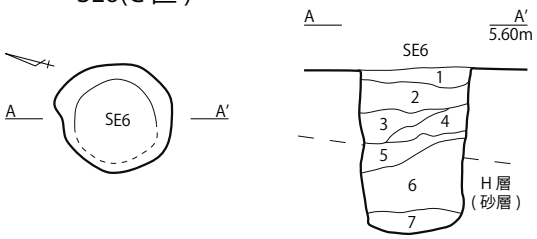
SE4
1．10YR4/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、瓦を多量に含む。
　締まりに欠け、軟質。
2．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。やや硬質。
3．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、礫を若干含む。やや硬質。

SE5・SE13(C 区)



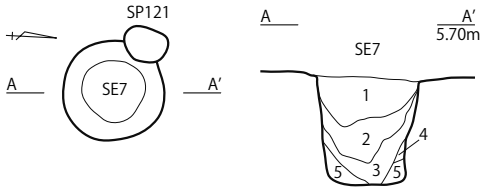
SE5
1．5BG5/1 青灰色　粒子は粗く、粘性はやや有り。灰色粘土層ﾍﾞｰﾝ。木端を若干含む。やや硬質。
2．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。やや軟質。
3．10YR3/1 黒褐色　粒子は細かく、粘性はやや有り。粘土ﾌﾞﾛｯｸを 30％含む。やや軟質。
掘り方覆土
4．10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。軟質。
SE13
1．10YR4/1 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。礫を少量含む。やや軟質。
2．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。礫をやや多量に含む。やや軟質。

SE6(C 区)

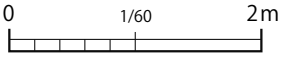


SE6
1．10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。やや硬質。
2．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
　締まりは良好、やや軟質。
3．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。
4．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　やや軟質。
5．10YR4/1 褐灰色　粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。やや軟質。
6．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
　締まりは良好、やや軟質。
7．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。
　やや軟質。

SE7(D 区)

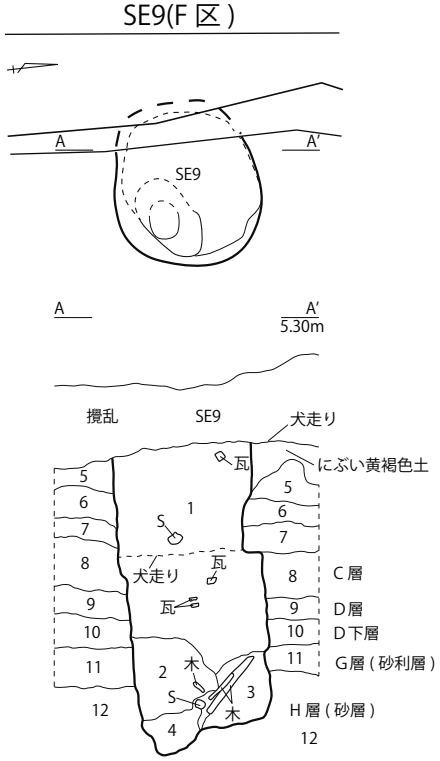


SE7
1．10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。やや軟質。
2．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
　灰色粘土を多量に含む。やや軟質。
3．10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　締まりは良好、やや硬質。
4．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸをやや多量に含む。やや軟質。
5．10YR4/1 褐灰色　粒子は細かく、粘性はやや強い。
　やや硬質。



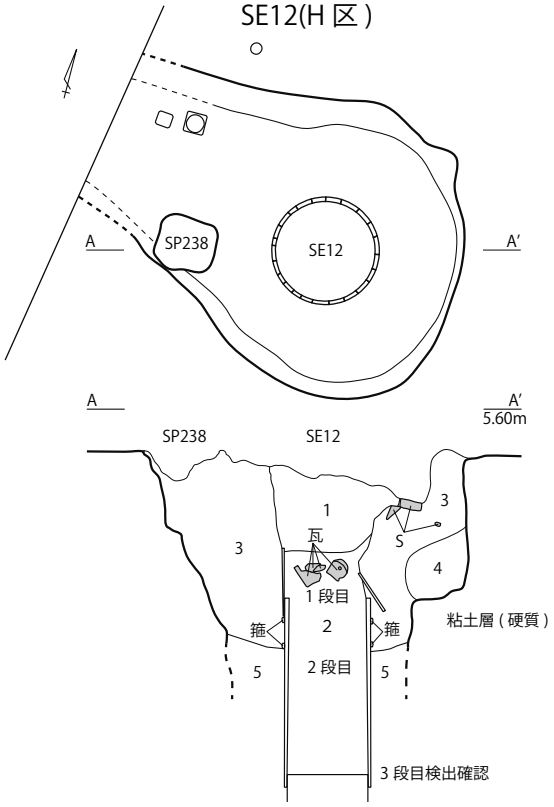
第70図　近世以降の遺構(35)(1/60)

SE9(F 区)



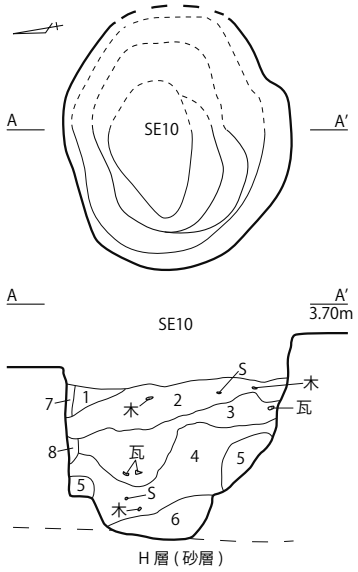
SE9
1. 10YR3/4 暗赤褐色　焼土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む、瓦、礫等を含む。
2. 5BG4/1 暗青灰色　8層の黒色粘土ﾌﾞﾛｯｸを多く含む。
3. 10YR4/3 暗褐色　砂質土に直径50㎜の礫を含む。
4. 10Y6/2 ｵﾘｰﾌﾞ灰色　砂質土に直径50㎜の礫を含む。
掘り込み外土層
5. 10YR8/2 灰白色
6. 10YR6/1 褐灰色
7. 10YR5/1 褐灰色
8. 10YR2/1 黒色　粘土層。C層。
9. 10YR5/1 褐灰色　ｼﾙﾄ層。D層。
10. N6/1 灰色　砂質土。D下層。
11. N5/1 灰色　砂利層。G層。
12. 2.5Y6/6 明黄褐色　H層(砂層)。

SE12(H 区)



SE12
1. 10YR3/1 黒褐色　砂礫・遺物を少量、瓦を含む。粘性は強く、締まりはやや強い。
2. 10YR3/2 黒褐色　遺物を多量に含む。粘性はやや強く、締まりはやや強い。
掘り方覆土
3. 10YR5/2 灰黄褐色　砂礫・粘土ﾌﾞﾛｯｸをやや多量に含む。粘性はやや強く、締まりはやや強い。
4. 3層をﾍﾞｰｽに炭を20%含む。
5. 10YR4/2 灰黄褐色　砂礫・粘土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。粘性はやや強く、締まりは強い。

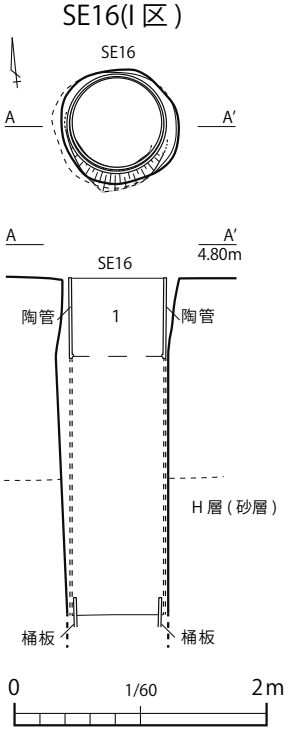
SE10(F 区)



SE10
1. 7.5YR4/3 褐色　粒子は粗く、焼土・粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
2. N3/ 灰色　粒子は粗く、青灰色土をﾍﾞｰｽに焼土が混じる。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、木端を50%含む。締まりはやや弱い。
4. 5BG4/1 暗青灰色　粒子は粗く、粘性はやや有り。ﾊﾞﾌﾞﾙ状。
5. SE9の9層　N2/ 黒色　粒子は細かく、硬質。
6. 5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、粘性はやや有り。板片を含む。やや軟質。
7. SE9の8層　N3/ 暗灰色　粒子は粗く、やや軟質。
8. 2.5Y6/4 にぶい黄色　砂層ﾌﾞﾛｯｸ。

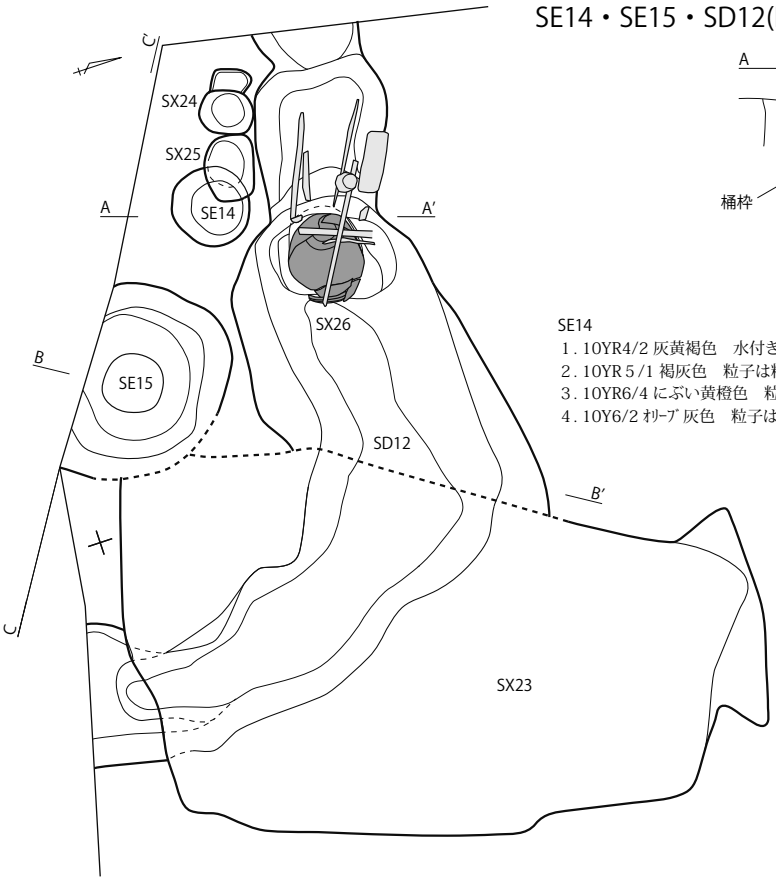
SE16
1. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。締りに欠け、軟質。

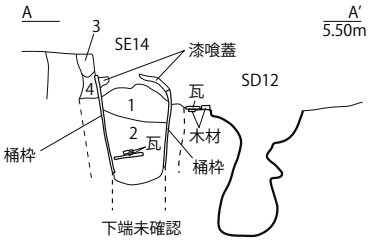
SE16(I 区)



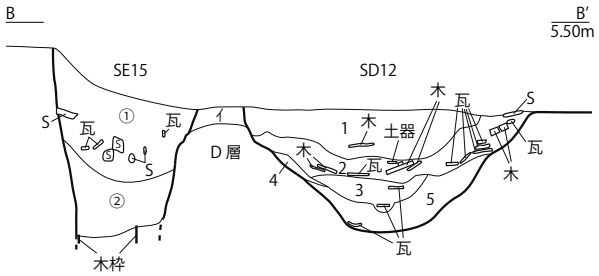
第71図　近世以降の遺構(36) (1/60)

SE14・SE15・SD12(H 区)

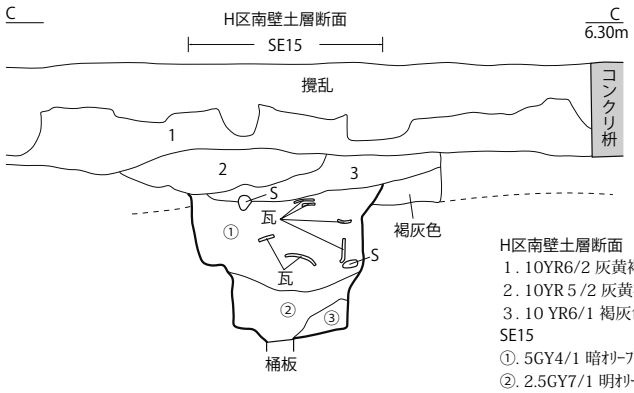




SE14
1．10YR4/2 灰黄褐色　水付き土層。粒子は粗く、やや軟質。瓦・陶磁器片を微量含む。
2．10YR 5 /1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。瓦をやや多量に含む。
3．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は細かく、粘土をﾍﾞｰｽにする。締まりはやや弱いが、硬質。
4．10Y6/2 ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土・砂ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。



SD12
1. N4/ 灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。
　ｵﾘｰﾌﾞ灰粘土ﾌﾞﾛｯｸを斑状に15％含む。やや硬質。
2. N3/ 灰色　粒子はやや粗い。木製品・木材・瓦を多量に含む。やや硬質。
3. N3/ 灰色　粒子は粗く、粘性はやや強い。瓦を少量含む。やや軟質。
4. 2.5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子は粗く、やや軟質。
5. 7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は細かく、粘性は強い。締まりは良好、やや硬質。
イ. 10 YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、礫をやや多量に含む。やや硬質。

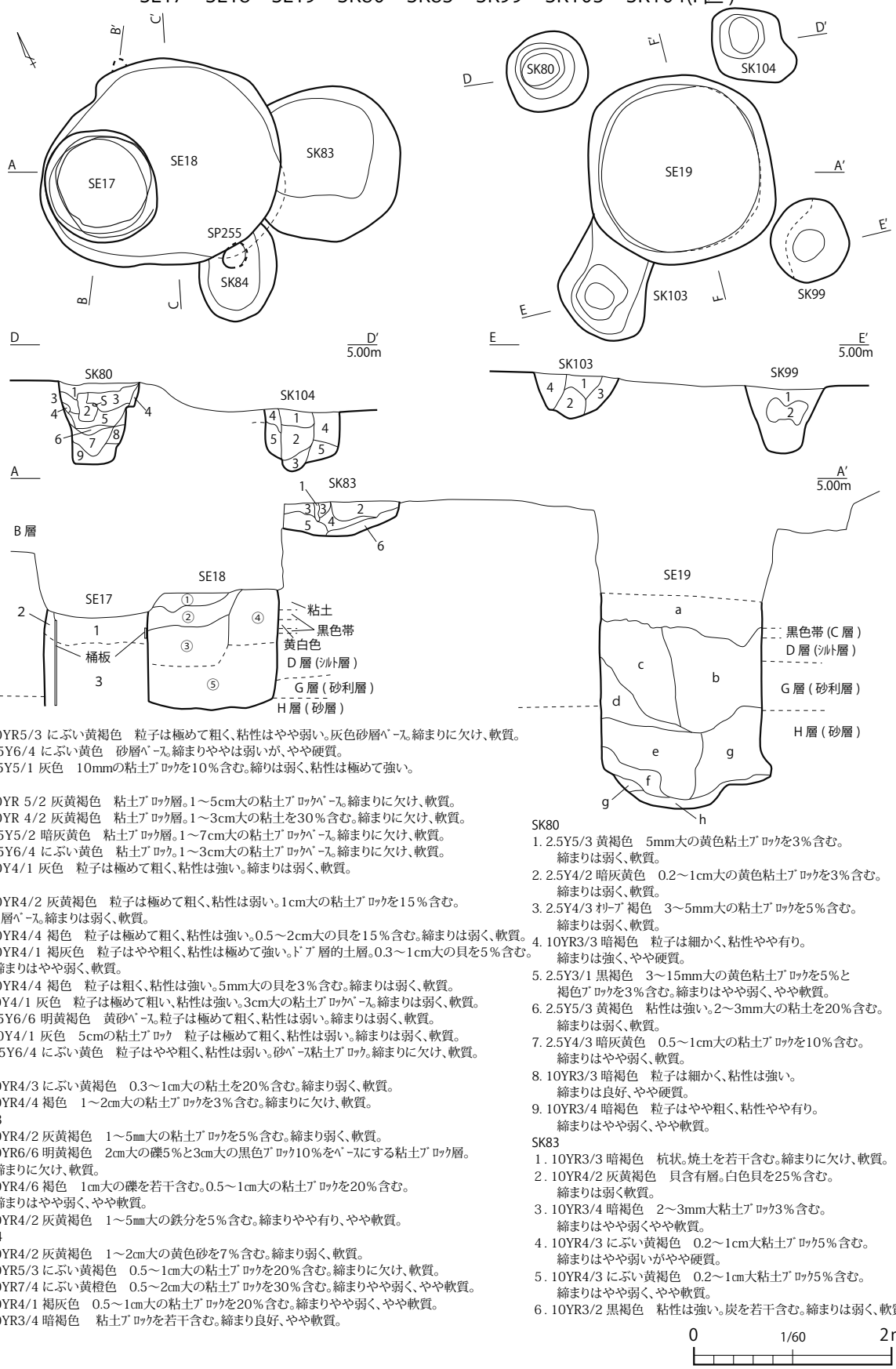


H区南壁土層断面
1．10YR6/2 灰黄褐色　瓦・陶磁器片を少量含む。
2．10YR 5 /2 灰黄褐色　上部に砂質土・下部に褐色土を含む。硬質。
3．10 YR6/1 褐灰色　粘土が混じる。硬質。
SE15
①. 5GY4/1 暗ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子はやや粗く、瓦を多量に含む。暗緑色土ﾌﾞﾛｯｸを含む。やや軟質。
②. 2.5GY7/1 明ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子はやや細かく、粘性は強い。暗褐色・灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸの混土層。
③. 7.5GY3/1 暗緑灰色　粘性は強い。

0　1/60　2m

第72図　近世以降の遺構(37)(1/60)

SE17・SE18・SE19・SK80・SK83・SK99・SK103・SK104(Ⅰ区)



SE17
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。灰色砂層ﾍﾞｰｽ。締まりに欠け、軟質。
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色　砂層ﾍﾞｰｽ。締まりややは弱いが、やや硬質。
3. 7.5Y5/1 灰色　10mmの粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締りは弱く、粘性は極めて強い。

SE18
①. 10YR 5/2 灰黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。1～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりに欠け、軟質。
②. 10YR 4/2 灰黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。1～3cm大の粘土を30％含む。締まりに欠け、軟質。
③. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。1～7cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりに欠け、軟質。
④. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりに欠け、軟質。
⑤. 10Y4/1 灰色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

SE19
a. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。
　B層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
b. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～2cm大の貝を15％含む。締まりは弱く、軟質。
c. 10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。ﾄﾞﾌﾞ層的土層。0.3～1cm大の貝を5％含む。
　締まりはやや弱く、軟質。
d. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の貝を3％含む。締まりは弱く、軟質。
e. 10Y4/1 灰色　粒子は極めて粗い、粘性は強い。3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
f. 2.5Y6/6 明黄褐色　黄砂ﾍﾞｰｽ。粒子は極めて粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。
g. 10Y4/1 灰色　5cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸ　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。
h. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂ﾍﾞｰｽ粘土ﾌﾞﾛｯｸ。締まりに欠け、軟質。

SK99
1. 10YR4/3 にぶい黄褐色　0.3～1cm大の粘土を20％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　1～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりに欠け、軟質。

SK103
1. 10YR4/2 灰黄褐色　1～5㎜大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR6/6 明黄褐色　2cm大の礫5％と3cm大の黒色ﾌﾞﾛｯｸ10％をﾍﾞｰｽにする粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。
　締まりに欠け、軟質。
3. 10YR4/6 褐色　1cm大の礫を若干含む。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。
　締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 10YR4/2 灰黄褐色　1～5㎜大の鉄分を5％含む。締まりやや有り、やや軟質。

SK104
1. 10YR4/2 灰黄褐色　1～2cm大の黄色砂を7％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりに欠け、軟質。
3. 10YR7/4 にぶい黄橙色　0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりやや弱く、やや軟質。
4. 10YR4/1 褐灰色　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりやや弱く、やや軟質。
5. 10YR3/4 暗褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まり良好、やや軟質。

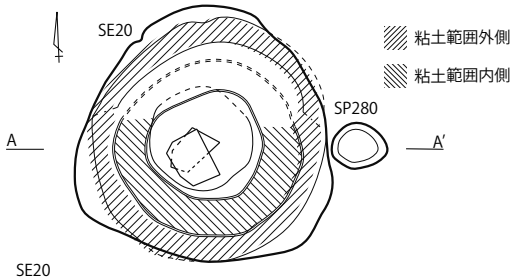
SK80
1. 2.5Y5/3 黄褐色　5mm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。
　締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y4/2 暗灰黄色　0.2～1cm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。
　締まりは弱く、軟質。
3. 2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。
　締まりは弱く、軟質。
4. 10YR3/3 暗褐色　粒子は細かく、粘性やや有り。
　締まりは強く、やや硬質。
5. 2.5Y3/1 黒褐色　3～15mm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％と
　褐色ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
6. 2.5Y5/3 黄褐色　粘性は強い。2～3mm大の粘土を20％含む。
　締まりは弱く、軟質。
7. 2.5Y4/3 暗灰黄色　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。
　締まりはやや弱く、軟質。
8. 10YR3/3 暗褐色　粒子は細かく、粘性は強い。
　締まりは良好、やや硬質。
9. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性やや有り。
　締まりはやや弱く、やや軟質。

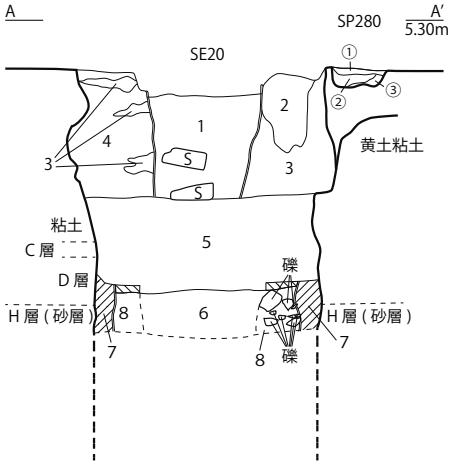
SK83
1. 10YR3/3 暗褐色　杭状。焼土を若干含む。締まりに欠け、軟質。
2. 10YR4/2 灰黄褐色　貝含有層。白色貝を25％含む。
　締まりは弱く軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　2～3mm大粘土ﾌﾞﾛｯｸ3％含む。
　締まりはやや弱くやや軟質。
4. 10YR4/3 にぶい黄褐色　0.2～1cm大粘土ﾌﾞﾛｯｸ5％含む。
　締まりはやや弱いがやや硬質。
5. 10YR4/3 にぶい黄褐色　0.2～1cm大粘土ﾌﾞﾛｯｸ5％含む。
　締まりはやや弱く、やや軟質。
6. 10YR3/2 黒褐色　粘性は強い。炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。

0　1/60　2m

第73図　近世以降の遺構(38)(1/60)

SE20(J 区)





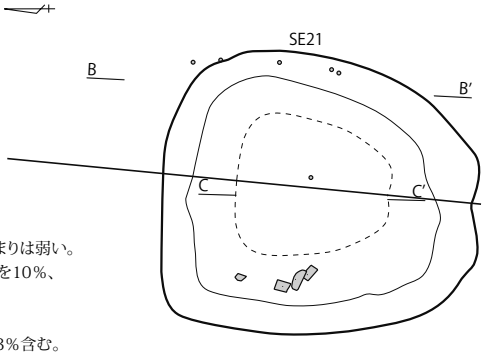
SE20

1. 10YR 4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりはやや弱く、軟質。
2. 7.5YR 4/2 灰褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～30mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりはやや強く、やや硬質。
3. 10YR 5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。0.5～20mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱いが、硬質。
4. 2.5Y 7/4 浅黄色　砂層。軟質。
5. 10YR 5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～2cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。灰褐色土。締まりに欠け、軟質。
6. 10YR 7/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを50％と酸化土20％を含む。締まりに欠け、軟質。
7. 2.5Y 8/2 灰白色　粘土を貼って、耐水させたもの。
8. 礫層　1～10cm大の溶結凝灰岩。

SP280

①. 2.5Y5 /4 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR 4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1～2mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR 3/4 暗褐色　締まりは弱く、軟質。

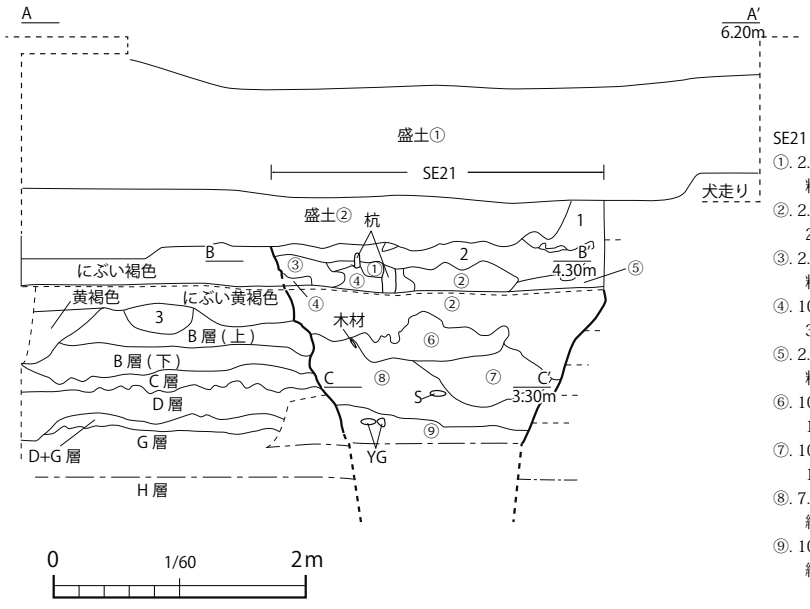
SE21(I 区)



I区東壁

盛土①. 10YR5/6 黄褐色　ﾛｰﾑを20％、礫を5％、ｺﾝｸﾘを10％等含む。締まりは弱い。
盛土②. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性強い。0.5～1cm大の焼土を10％、1～3mm大の炭5％、瓦を5％含む。
1. 焼土を含む層。
2. 2.5Y6/1 黄灰色　粒子は細かく、粘性極めて強い。1～3mm大の炭を3％含む。
3. 7.5YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。

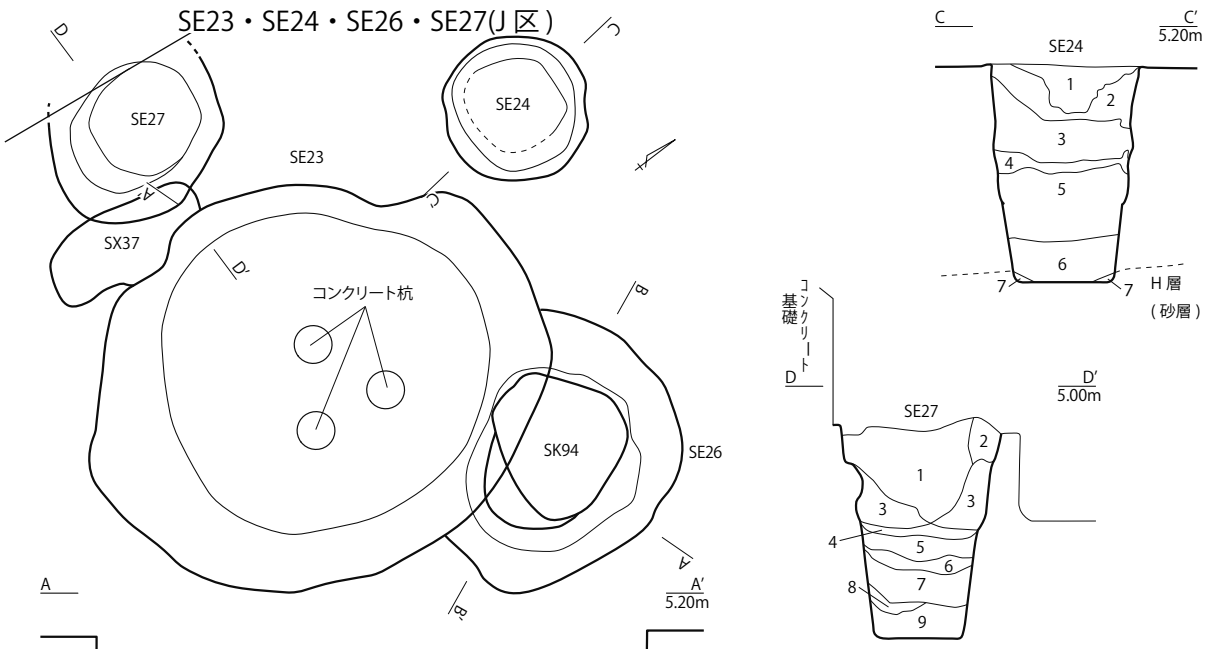
D+G層 7.5YR5/1 褐灰色　DとFの漸位層。粒子はやや細かく、粘性は強い。2～3mm大の砂利を10％含む。締まりは強く、硬質。
G層 10YR6/6 明黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。0.5～1.5cm大の砂利層。締まりは弱いが、硬質。

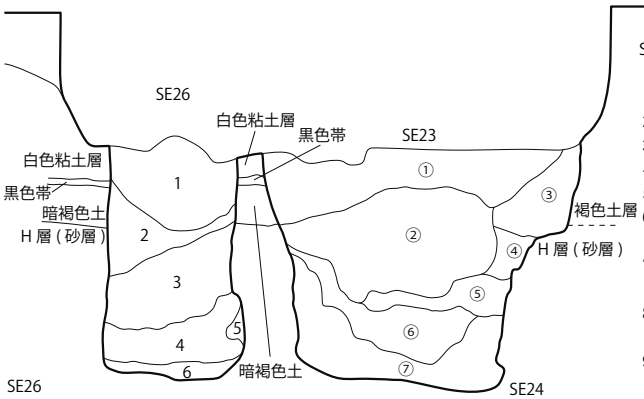


SE21

①. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子はやや細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは強く、硬質。
②. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。2～3cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱いが、硬質。
③. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは強く、やや硬質。
④. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。0.5～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや弱いが、硬質。
⑤. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子はやや細かく、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりはやや強く、やや硬質。
⑥. 10YR3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、やや軟質。
⑦. 10YR3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～5cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
⑧. 7.5Y4/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は粗く、粘性は強い。1～2cm大の緑黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを50％含む。締まりは弱く、軟質。
⑨. 10Y5/2 ｵﾘｰﾌﾞ灰色　粒子は粗く、粘性は強い。1～7cm大の緑色粘土層を70％含む。締まりは弱く、軟質。

第74図　近世以降の遺構(39) (1/60)



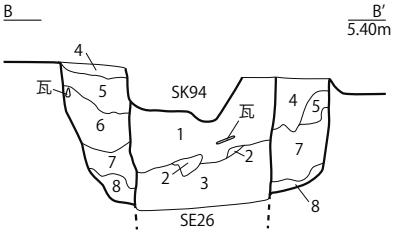


SE26
1．N4/ 灰色　粒子は粗く、粘性は強い。微細な貝を若干含む。
　締まりは弱く、軟質。
2．10YR4/4 褐灰色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、やや軟質。
3．5Y2/1 黒色　粒子はやや粗く、粘性やや強い。瓦を多量に、1～5㎜大
　の貝を3％含む。やや硬質。
4．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　小粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは良好で、硬質。
5．10YR4/6 褐灰色　褐色土ﾌﾞﾛｯｸ。
6．10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　小砂利をやや多量に含む。硬質。

SE23
①.10YR4/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は強い。1～5㎝大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。やや軟質。
②.N4/ 灰色　粒子は粗く、粘性は強い。3～7㎝大の白灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸ
　を20％含む。締まりはやや強く、やや硬質。
③.10YR5/2 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
　粘土粒を少量含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
④.7.5YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘土粒を若干含む。
　締まりは良好で、やや硬質。
⑤.7.5YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、1～3㎝大の粘土粒を少量含む。
　締まりは弱いが、硬質。
⑥.10YR3/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。3㎝大の灰色粘土
　を10％含む。締まりは良好で。硬質。
⑦.10YR3/1 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。3㎝大の白色粘土
　を少量含む。締まりは良好で。硬質。

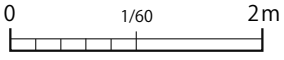
SE27
1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。1㎝大の貝を15％含む。
　締まりは弱く、軟質。
2．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性やや強い。締まりは弱く、軟質。
3．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。
4．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。締まりは弱く、軟質。
5．7.5YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。B層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
6．10YR5/4 にぶい黄褐色　粘性は極めて強い。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを
　20％含む。締まりは弱く、軟質。
7．7.5YR4/3 褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。B層ﾍﾞｰｽ。
　締まりは弱く、軟質。
8．7.5YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。ｻﾋﾞを15％含む。
　締まりは弱く、軟質。
9．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
　粘土層と暗色土の混合土。やや軟質。

SE24
1．2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを60％含む。
　締まりは弱く、軟質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性強い。最上位に粘土ﾌﾞﾛｯｸ集中。締まりは弱く、やや軟質。
4．10YR4/6 褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。水付層ﾍﾞｰｽ。締まりは良好、やや硬質。
5．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。微炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
6．10YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。筋状粘土を5％含む。締まりは弱く、軟質。
7．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。砂層と粘土層を5％ずつ含む。
　締まりは弱く、軟質。



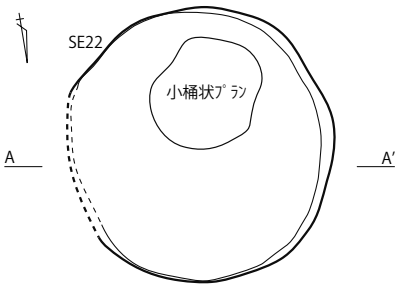
SE26
1．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は極めて粗く、
　粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽに、2㎝大の
　砂層を5％含む。締まりに欠け、軟質。
2．2.5Y6/4 にぶい黄色　粘土層ﾌﾞﾛｯｸ。
　黄白粘土ﾍﾞｰｽ。締まりは弱いが、硬質。
3．5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は極めて粗く、
　粘性は強い。粘土、砂、B層混合に1～5mm
　大の貝を15％含む。締まりに欠け、軟質。

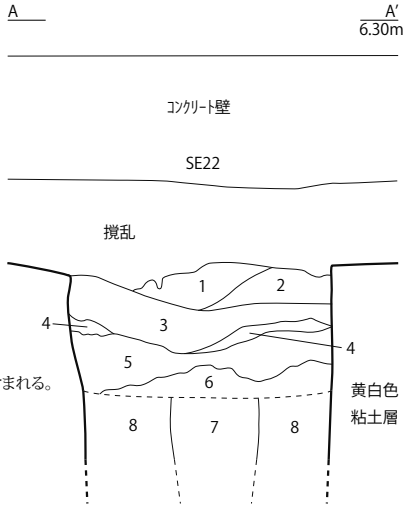
掘り方覆土
4．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2cm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
5．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。2～6mm大の貝を15％含む。締まりは弱く、軟質。
6．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
7．2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。
　締まりは弱いが、やや硬質。
8．2.5Y7/3 浅黄色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを70％含む。
　締まりやや弱いが、やや硬質。



第75図　近世以降の遺構(40)(1/60)

SE22(I 区)

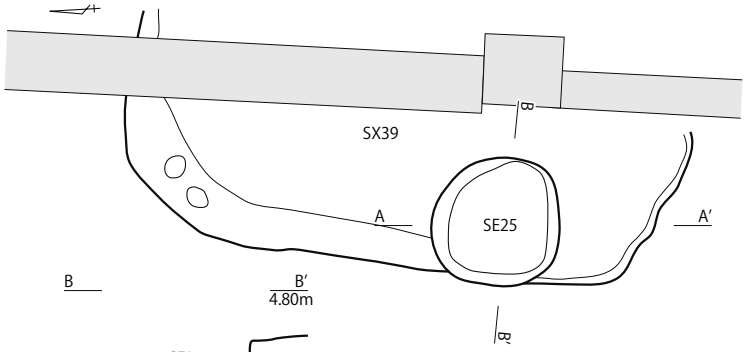


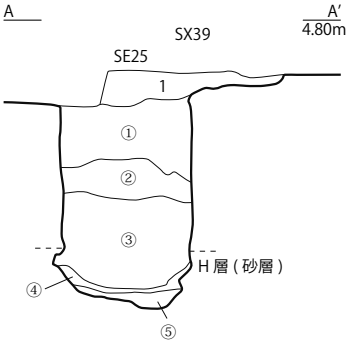


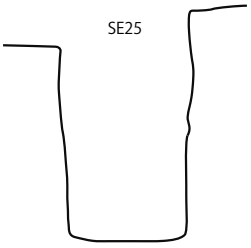
SE22

1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりは弱く、軟質。
4．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～7cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。砂分が30％含まれる。
5．2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを50％含む砂層。締まりは弱く、軟質。
6．2.5Y6/2 灰褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む砂層。締まりは弱く、軟質。
7．10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。締まりに欠け、軟質。
8．5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。締まりは弱く、軟質。

SE25(I 区)







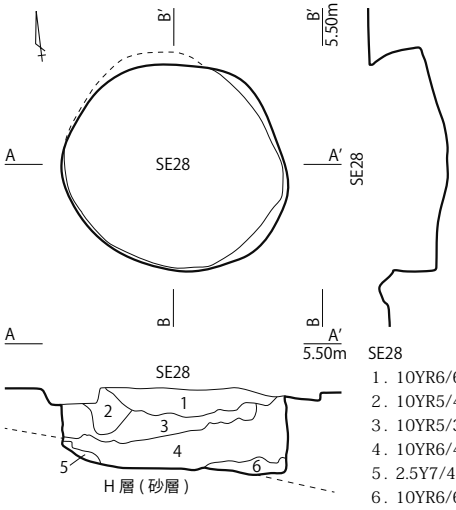
SX39

1．7.5YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1㎝大の炭を5％含む。遺物多量に出土。締まりは弱く、軟質。

SE25

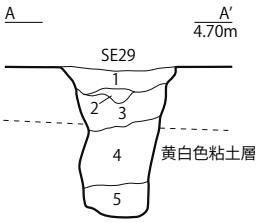
①．10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂ﾍﾞｰｽ。締まりは弱いが、硬質。
②．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
③．2.5Y5/1 黄灰色　粒子は粗く、粘性は強い。5㎝大の粘土を40％含む。
④．2.5Y6/6 明黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は極めて強い。締まりは弱く、軟質。
⑤．2.5Y6/4 にぶい黄色　砂層をﾍﾞｰｽに粘土を40％混合する。締まりはやや弱く、やや軟質。

SE28(J 区)



SE29(J 区)



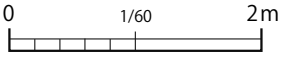


SE29

1．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。B層類似。赤ｻﾋﾞを若干含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR5/4 黄褐色　粒子は粗く、1～2cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。3mm大のﾛｰﾑﾍﾞｰｽを3％含む。締まりは弱いが、硬質。
4．10YR3/3 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。締まりは極めて弱く、極めて軟質。
5．10YR5/3 にぶい黄褐色　1～3cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは極めて弱く、極めて軟質。

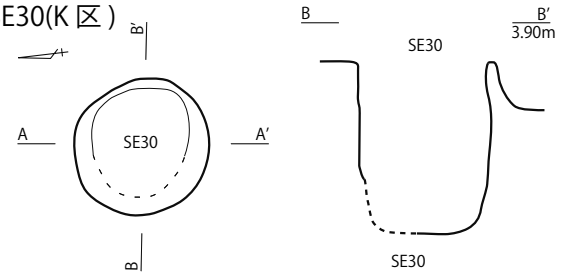
SE28

1．10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1.5㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを70％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はかなり細かく、粘性は弱い。1～3㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりは弱く、軟質。
5．2.5Y7/4 浅黄色　砂層。やや軟質。
6．10YR6/6 黄褐色　やや硬質。



第76図　近世以降の遺構(41)(1/60)

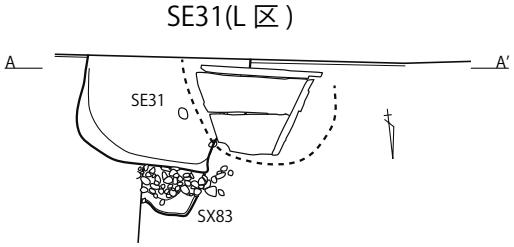
SE30(K 区)



SE30

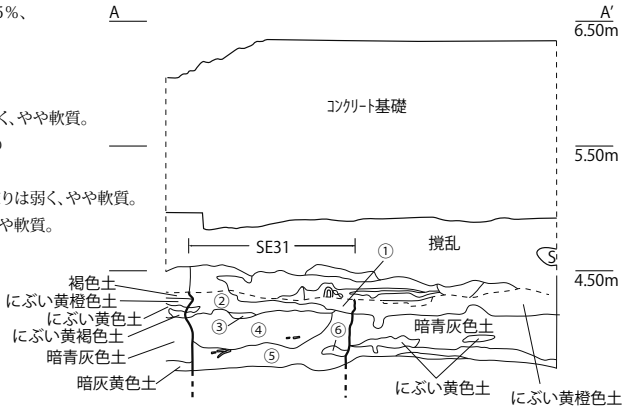
1. 5YR5/4 にぶい赤褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。最上層は黄色砂を含む。締まりは弱く、軟質。
2. 5YR4/3 にぶい赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。炭を20％と焼土を3％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。炭を20％と焼土を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱いが、硬質。
5. 2.5Y3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや硬質。
6. 2.5Y4/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。炭を20％含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。ﾛｰﾑを30％含む。締まりは弱く、軟質。
8. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は有り。ﾛｰﾑを20％含む。炭を少量含む。締まりは弱く、軟質。
9. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。箸・板材等木端を30％含む。締まりに欠け、軟質。
10. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1㎝大の砂粒を20％含む。締まりに欠け、軟質。
11. 7.5YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。酸化層20％。下位は硬化。締まりは弱く、軟質。右側は黒味が強い。
12. 12YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。砂を70％含む。締まりは弱く、軟質。
13. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽで上層の影響を受ける。やや軟質。

SE31(L 区)



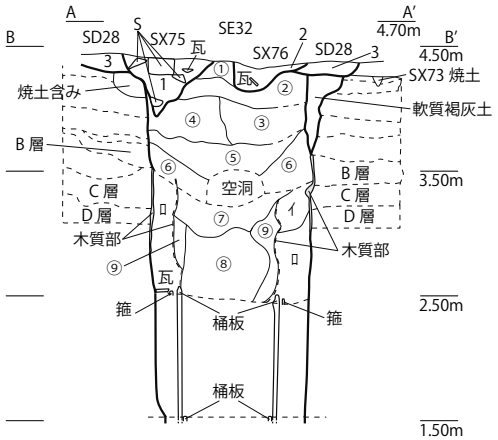
SE31

①. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。1～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％、
炭を少量含む。やや硬質。
②. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。1～5mm大の炭を3％、
焼土を2％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR3/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。微ｻﾋﾞを若干含む。締まりはやや強く、やや軟質。
④. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の炭を2％、1～5mm大の
ｻﾋﾞを5％含む。締まりは弱く、軟質。
⑤. 10YR2/3 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大の炭を2％含む。締まりは弱く、やや軟質。
⑥. 5Y4/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ色　砂層ﾍﾞｰｽ。粒子は粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。

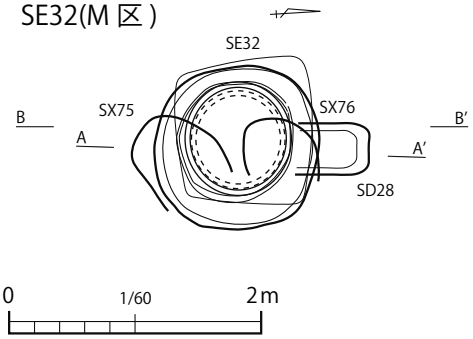


SE32

①. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1~2mm大の
炭を2％、黄色粒を2％含む。締まりは弱く、軟質。
②. 7.5YR5/2 灰褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。木端、礫等を30％、
1~3mm大の炭を3％含む。締まりに欠け、軟質。
③. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
3~5mm大の瓦を15％含む。締まりは弱く、軟質。
④. 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
3~7mm大の黄褐粘土粒を5％含む。締まりは弱く、軟質。
⑤. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗くﾌﾞﾛｯｸ的で、粘性はやや弱い。
5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％、木端を3％含む。締まりに欠け、軟質。
⑥. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。
粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは良好、やや硬質。
⑦. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。木材、瓦等を10％。締まりに欠け、軟質。
⑧. 10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。瓦を3％、木端を3％含む。締まりに欠け、軟質。
⑨. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。木端を15％含む。締まりに欠け、軟質。
イ. 10YR6/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。灰色粘土ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
ロ. 7.5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
3mm大の粘土を3％、瓦を3％含む。締まりは弱く、軟質。



SE32(M 区)



SX75

1. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。礫集中。1~2mm大の炭を2％、
1~5mm大の焼土を2％含む。締まりに欠け、軟質。

SX76

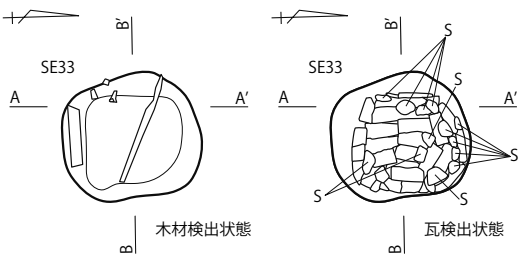
2. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。礫集中。
1~5mm大の炭を3~5％含む。締まりに欠け、軟質。

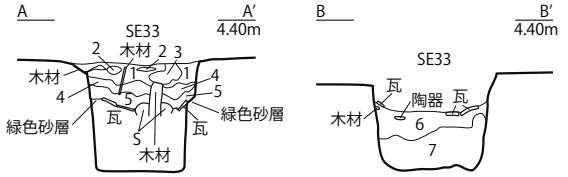
SD28

3. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性やや弱い。1~2mm大の炭を2％、
焼土を若干含む。締まりは弱いが、やや硬質。

第77図　近世以降の遺構(42)(1/60)

SE33(M 区)

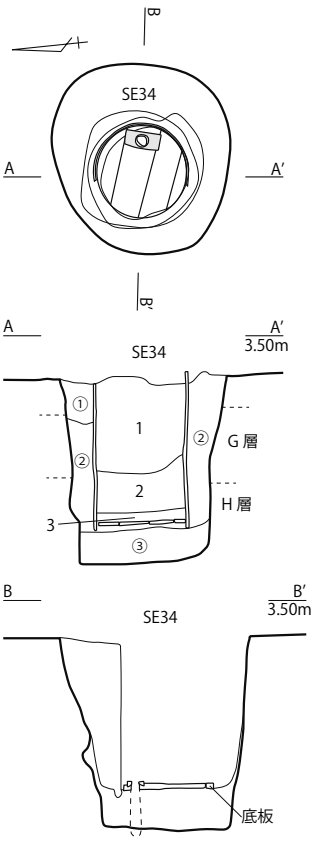




SE33

1. 7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子はやや粗く、粘性は強い。0.5~1cm大の炭を30%含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/1 褐灰色　粒子は細かく、粘性は強い。粘土層。締まりはやや弱いが、やや硬質。
3. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1~5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30%含む。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR6/1 褐灰　粒子はやや粗く、粘性は強い。炭を30%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
5. 10YR2/3 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1~5mm大の炭を3%含む。締まりは良好、やや軟質。
6. 5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は細かく、粘性はやや強い。緑色砂を15%含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10YR2/1 黒色　粒子はやや細かく、粘性は極めて強い。締まりは良好、やや軟質。

SE34(M 区)



SE34

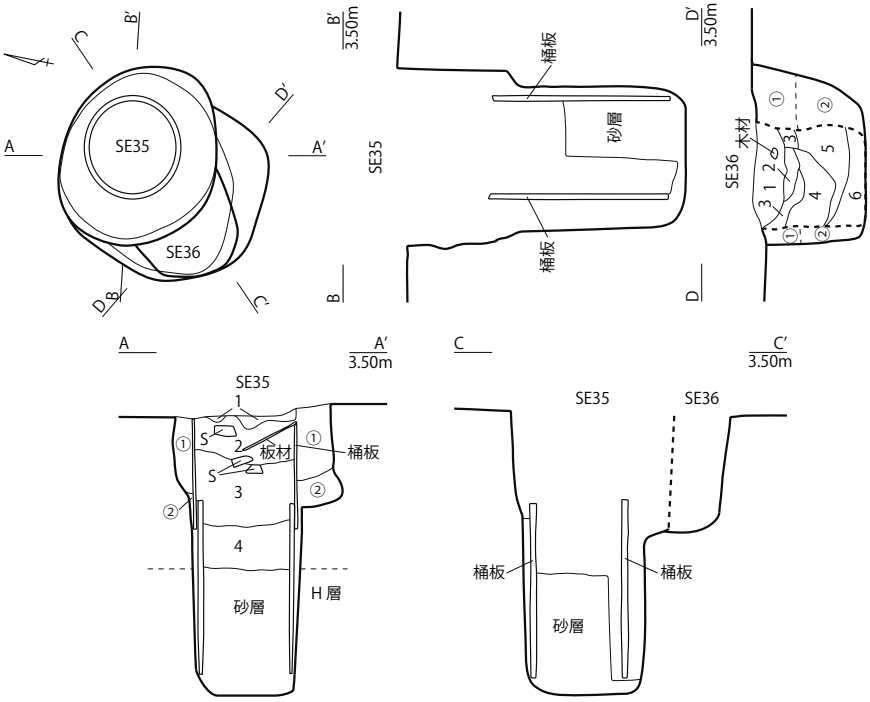
1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3~7cm大の瓦を60%以上含む。陶磁器を2%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。締まりはやや弱く、軟質。
3. 2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は細かく、粘性に欠く。砂層。締まりはやや弱く、軟質。

①. 7.5YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦ﾍﾞｰｽ。ﾌﾞﾛｯｸ的。締まりは弱いが、硬質。

②. 7.5YR4/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。瓦等を10%含む。締まりは弱いが、硬質。

③. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は細かく、粘性に欠く。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。

SE35・SE36(M 区)



SE35

1. 10YRY4/2 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～7mm 大の焼土を 5%、炭を 3%含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。締まりはやや強く、やや硬質。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。焼土を若干、0.5～1cm 大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを 20%含む。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR3/2 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。木質を 15%含む。締まりは弱く、軟質。

①. 10YR5/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性に欠く。1～3mm 大の砂利を 30%含む。締まりは弱く、やや軟質。

②. 10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性にはやや弱い。粘土ブロックを 5%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SE36

1. 10YRY3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3mm大の焼土を3%、炭を2%、2㎝大の砂を3%、木材を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。5mm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを10%含む。締まりは弱く、軟質。
4. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸをを15%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
5. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸをを10%含む。締まりは弱く、軟質。
6. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。焼土、粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、やや軟質。

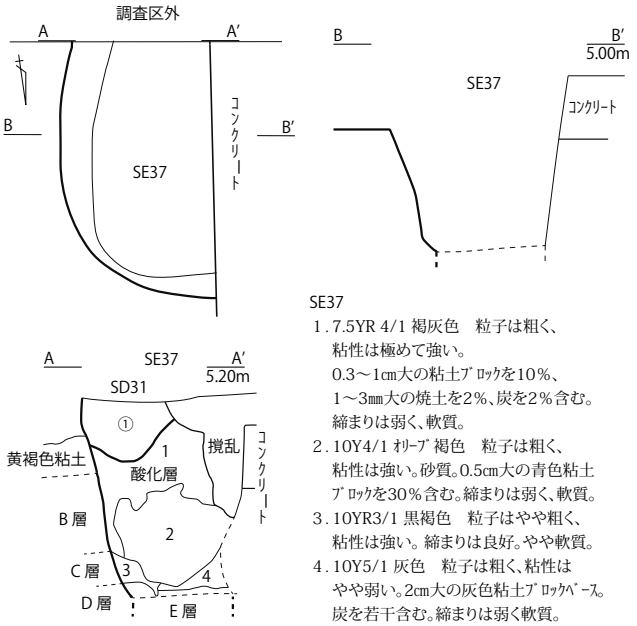
①. 10YR5/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性に欠く。1～3mm大の砂利を30%含む。締まりは弱く、やや軟質。

②. 10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性にはやや弱い。粘土ブロックを5%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

0　1/60　2m

第78図　近世以降の遺構(43)(1/60)

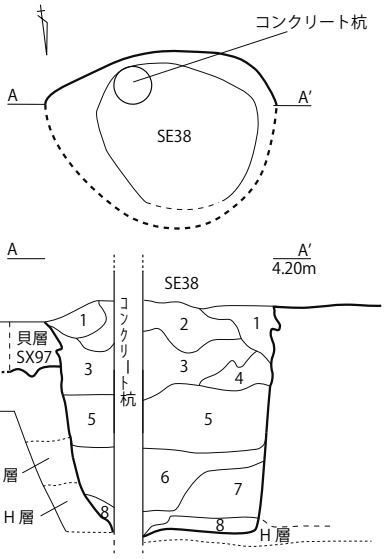
SE37(L 区)



SE37
1. 7.5YR 4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。0.3～1㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％、1～3㎜大の焼土を2％、炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10Y4/1 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。砂質。0.5㎝大の青色粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。締まりは良好。やや軟質。
4. 10Y5/1 灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。2㎝大の灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。炭を若干含む。締まりは弱く軟質。

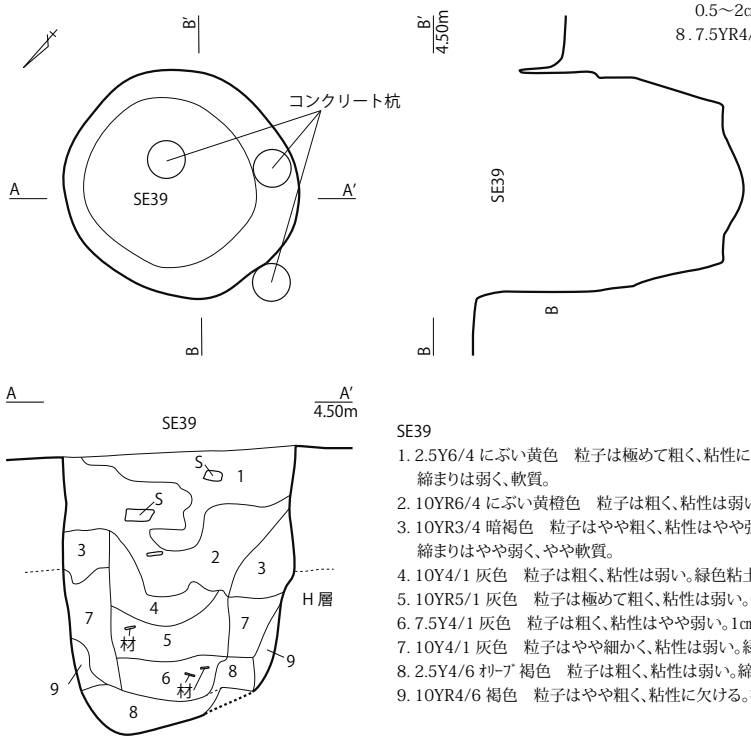
SD31
①. 7.5YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。2～5mm大の酸化層を10％、粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは弱く、軟質。

SE38(M 区)

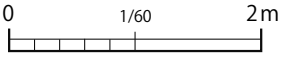


SE38
1. 2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。黄色砂層。締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5㎜大の貝を2％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 5Y5/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は粗く、粘性は弱い。青灰ブロックを30％含む。締まりは弱く、軟質。
4. 2.5Y6/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3㎝大の黄色砂層を30％含む。締まりは弱く、軟質。
5. 2.5Y3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1.5㎝大の青灰ブロックを40％含む。締まりは弱く、軟質。
6. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。暗色土をﾍﾞｰｽに0.5～5㎝大の緑色砂層を20％含む。0.5～1㎝大の貝を2％含む。締まりは弱く、軟質。
7. 2.5Y2/1 黒色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。貝は含まず、0.5～2㎝大の緑色砂層を10％含む。締まりは弱く、軟質。
8. 7.5YR4/4褐色　7層の影響を受けた砂層。

SE39(M 区)

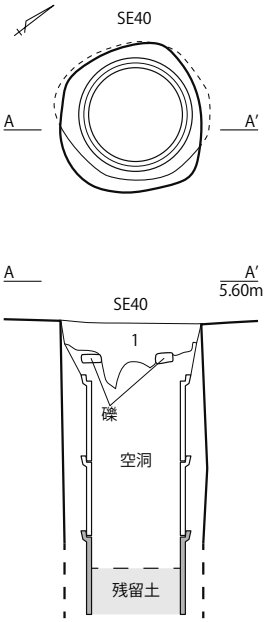


SE39
1. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は極めて粗く、粘性に欠ける。0.5～2㎝大の砂ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。5㎜大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 10Y4/1 灰色　粒子は粗く、粘性は弱い。緑色粘土層を30％含む。締まりは弱く、軟質。
5. 10YR5/1 灰色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～2㎝大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
6. 7.5Y4/1 灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1㎝大の緑色粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10Y4/1 灰色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。緑色粘土層。締まりは良好、やや軟質。
8. 2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりはやや弱いが、やや硬質。
9. 10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性に欠ける。褐色ﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽとする。締まりはやや弱く、やや軟質。



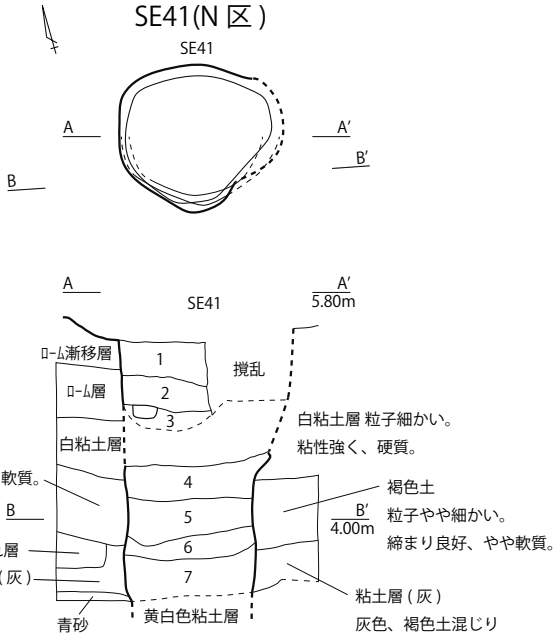
第79図　近世以降の遺構（44）（1/60）

SE40(N 区)



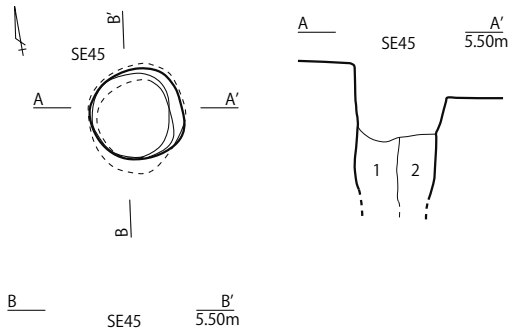
SE40
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
　1～5cm大の粘土を10％と瓦を含む。

SE41(N 区)



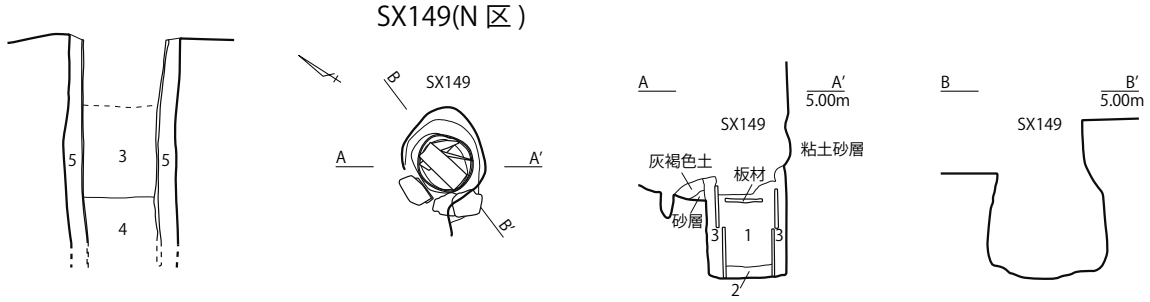
SE41
1. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～3mm大の
　粘土粒を5％と炭を1％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1cm大の
　粘土粒を40％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
　1mm大の炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりに欠け、軟質。
5. 2.5Y5/6 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。締まりに欠け、軟質。
6. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりに欠け、軟質。
7. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりに欠け、軟質。

SE45(N 区)



SE45
1. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　1～3mm大の炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は強い。
　微炭を若干含む。締まりはやや弱く、軟質。
3. 5Y7/4 浅黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。
　酸化層を含む。締まりは弱く、軟質。
5. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。

SX149(N 区)

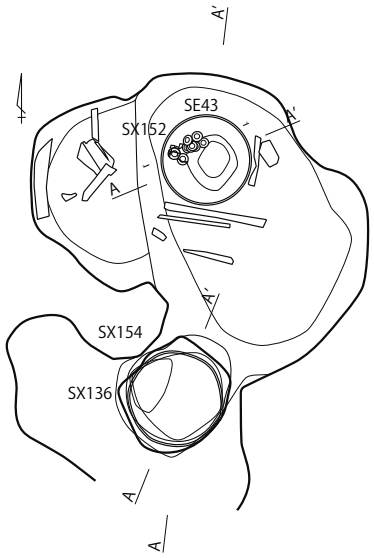


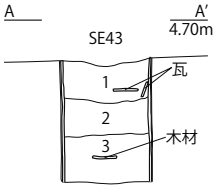
SX149
1. 7.5Y4/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。木端若干含む。ﾌｶﾌｶで軟質。
2. 5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりに欠け、軟質。
3. 7.5YR4/2 灰褐色　掘り方。粒子はやや細かく、粘性は強い。2～3mm大の粘土粒を2％含む。。締まりは弱く、軟質。

0　1/60　2m

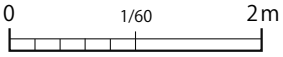
第80図　近世以降の遺構 (45) (1/60)

SE43・SX136(N 区)

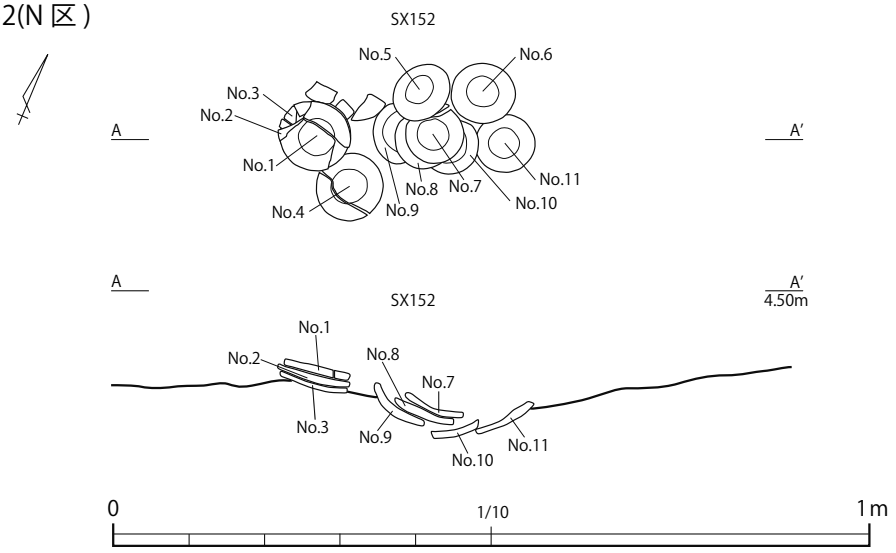




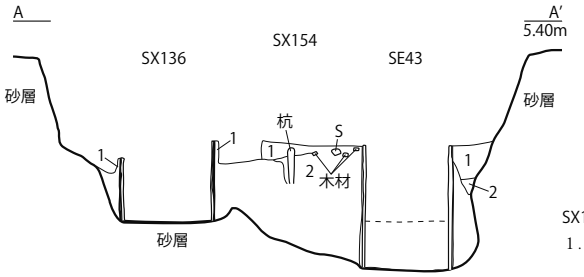
SE43
1．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　1～5mm大の炭を2%と粘土ﾌﾞﾛｯｸを2%含む。締まりに欠け、軟質。
2．10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。
　木端を30%含む。締まりは弱く、軟質。
3．5Y4/1 灰色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。
　上層より締まり有り、やや硬質。

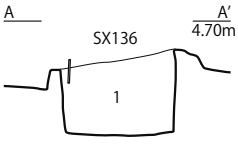


SX152(N 区)



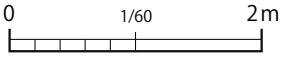
SE43・SX136・SX154(N 区)





SX136
1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。小砂利を少量含む。締まりは弱く、軟質。

SX154
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の砂層ﾌﾞﾛｯｸを3%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 7.5YR5/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



第81図　近世以降の遺構(46)(1/60)

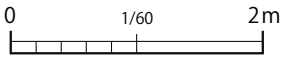
SX50(J 区)



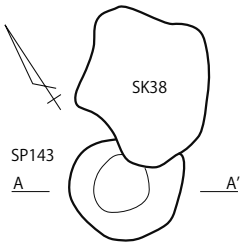
SX50

1 . 5YR5/6 明赤褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。0.5～1cm大焼土を40％含む。締まりは弱く、軟質。

2 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は強い。



SP143(E 区)

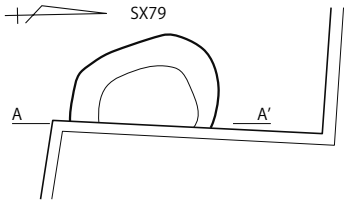


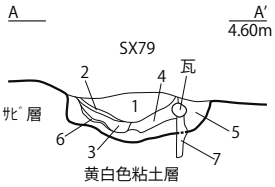


SP143

1 . 2.5YR3/4 暗赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
0.3～1cm大の焼土を15％含む。
炭、礫を含む。やや硬質。

SX79(M 区)





SX79

1 . 5YR5/6 明赤褐色　粒子は粗く、粘性に欠く。焼土層。締まりは弱いが、硬質。

2 . 5YR1.7/1 黒色　炭層。

3 . 7.5Y6/2 灰ｵﾘｰﾌﾞ色　粒子は粗く、粘性に欠く。砂層。炭を5％含む。
締まりはやや弱く、やや軟質。

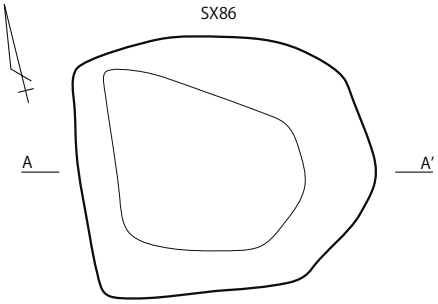
4 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1~3mm大の
焼土を5％、炭を1％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

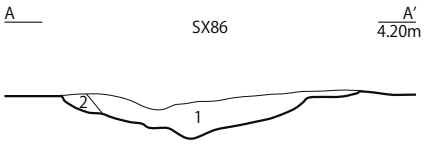
5 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はかなり粗く、粘性は弱い。1~3mm大の
焼土を3％、炭を3％含む。締まりは弱く、軟質。

6 . 2.5Y6/2 灰黄色　粒子は細かく、粘性は弱い。1~3mm大の
炭を3％含む。締まりやや強く、やや硬質。

7 . 10Y2/1 黒色　粒子はやや細かく。焼土、炭を若干含む。やや硬質。

SX86(M 区)

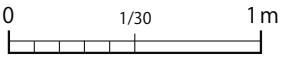




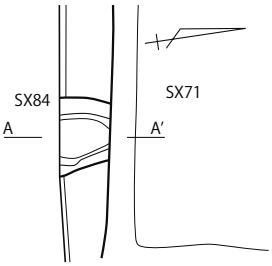
SX86

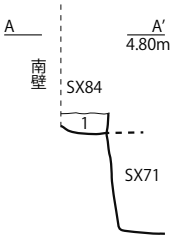
1 . 7.5YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1~2cm大の
焼土を7％、炭を3％含む。締まりに欠け、軟質。

2 . 7.5YR2/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。炭を30％含む。
締まりは弱く、軟質。



SX84(L 区)

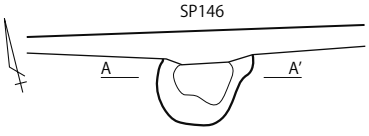




SX84

1 . 5YR5/8 明赤褐色　粒子は細かく、粘性は
弱い。純粋な焼土層。締まりは強く、硬質。

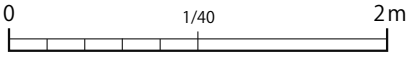
SP146(E 区)





SP146

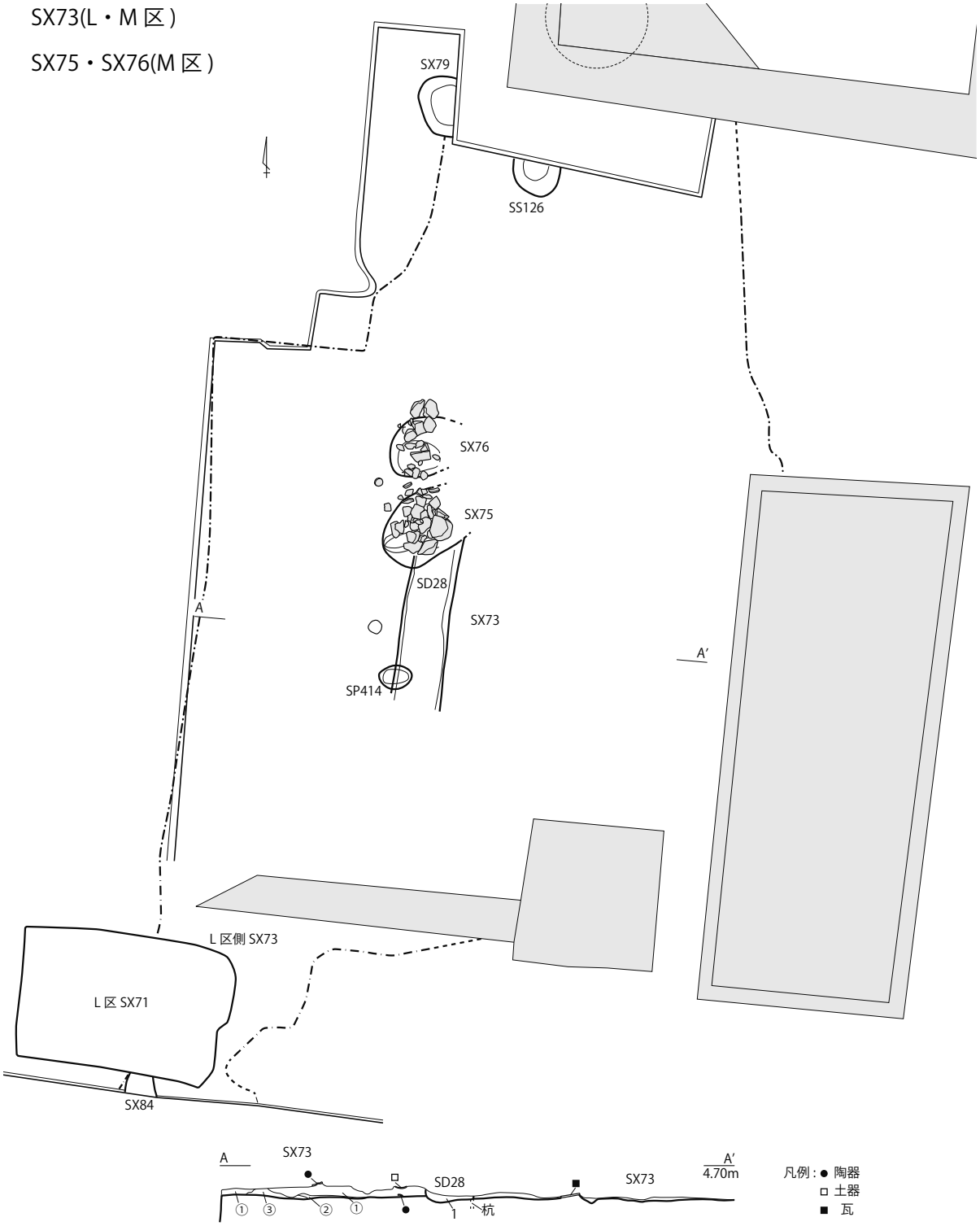
1 . 2.5YR4/4 にぶい赤褐色　焼土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。



第82図　近世以降の遺構（47）（1/30・1/40・1/60）

SX73(L・M 区)

SX75・SX76(M 区)



SD28

1 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土、炭を2％、5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

SX73

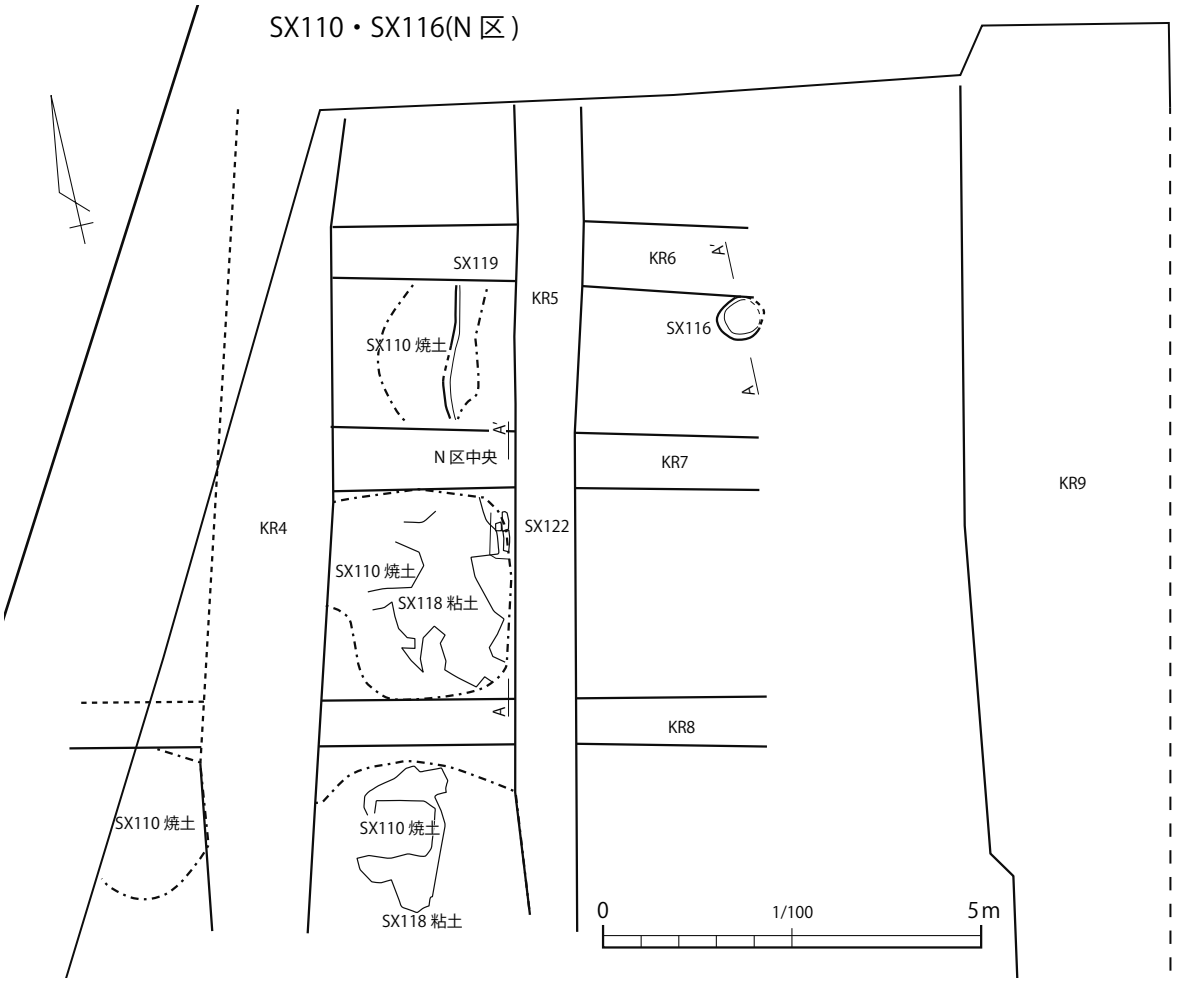
①. 2.5YR3/6 明赤褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5~3cm大の焼土ﾌﾞﾛｯｸを30％、炭を10％含む。締まりは弱く、やや軟質。

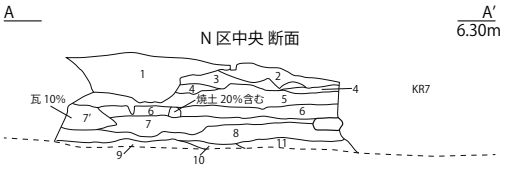
②. 5YR2/1 黒褐色　炭層。締まりは強く、硬質。

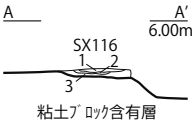
③. 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりは良好、やや硬質。

0　1/60　2m

第83図　近世以降の遺構（48）（1/60）







N区中央

1. 5YR5/4 にぶい赤褐色　軟質焼土小ﾌﾞﾛｯｸ層。2～5mm大の焼土を30％含む。締まり弱く、軟質。
2. 5YR4/8 赤褐色　焼土層。粒子はやや粗く、粘性は弱い。やや軟質。
3. 5YR4/2 灰褐色　焼成層。粒子はやや粗く、やや軟質。
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子はやや細かく、粘性は強い。やや硬質。
5. 2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。3～20mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを25％、炭を若干含む。締まりは弱いが、硬質。
6. 2.5Y6/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。3～5mm大の礫を3％含む。締まりは良好、やや硬質。
7. 2.5Y6/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1～3cm大の瓦を3％含む。締まりは良好、やや硬質。
8. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。0.3～3cmの粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりは弱いが、やや硬質。
9. 10YR4/6 褐色　ﾛｰﾑ類似層。粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。5mm大の褐色ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは良好、やや硬質。
10. 2.5Y5/4 黄褐色　褐色土をﾍﾞｰｽに0.3~1.5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは良好、やや硬質。
11. 2.5Y8/4 淡黄色　砂層。締まりは良好、やや硬質。

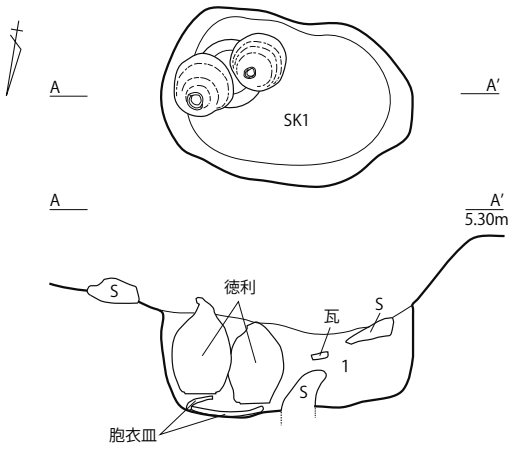
SX116

1. 2.5YR4/1 赤灰色　炭、焼土層。粒子は細かく、粘性は弱い。やや硬質。
2. 5YR4/8 赤褐色　焼土層。粒子は細かく、やや硬質。
3. 5YR4/6 にぶい赤褐色　0.3～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。やや硬質。

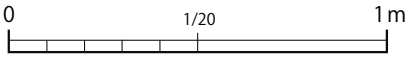
0　1/60　2m

第84図　近世以降の遺構（49）（1/60・1/100）

SK1(B 区)



SK1
1 . 10YR5/1 褐灰色　砂礫をやや多量、焼土粒・炭化物粒を少量含む。粘性はやや強く、締まりはやや強い。

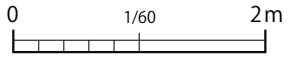


SK61(F 区)

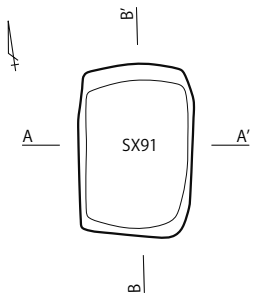


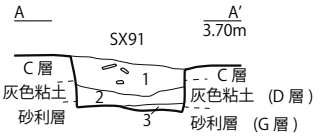


SK61
1 . 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、漆喰と瓦をやや多量、小礫、褐色粒を少量含む。締まりは弱く、軟質。

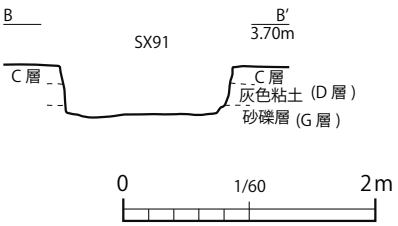


SX91(M 区)



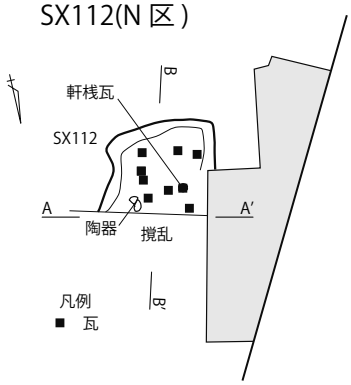


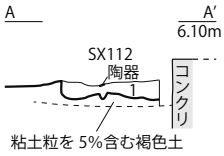
SX91
1 . 2.5Y4/4 淡黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。漆喰をﾍﾞｰｽに瓦を30％含む。締まりに欠け、軟質。
2 . 2.5Y4/1 黄灰色　粒子はやや粗く、粘性は強い。炭を10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3 . 10YR5/6 黄褐色　砂利層だが締まりはやや弱く、やや軟質。



第85図　近世以降の遺構(50)(1/20・1/60)

SX112(N 区)

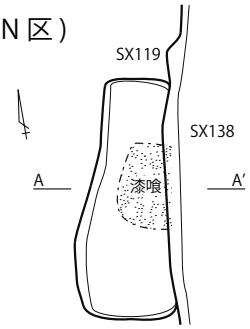


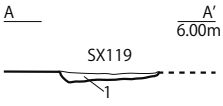




SX112
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の漆喰を10%、小石を若干含む。締まり弱く、軟質。

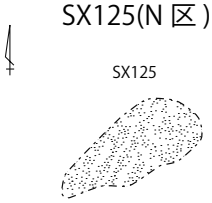
SX119(N 区)





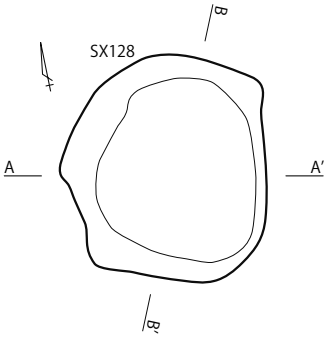
SX119
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。漆喰を20%含む。締まり弱い、軟質。

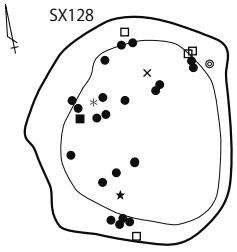
SX125(N 区)



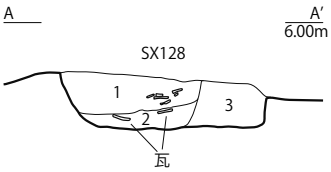
SX125
1. N8/ 灰白色　粒子は粗く、漆喰を60%含む。やや軟質。

SX128(N 区)





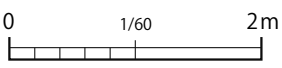
遺物分布状態





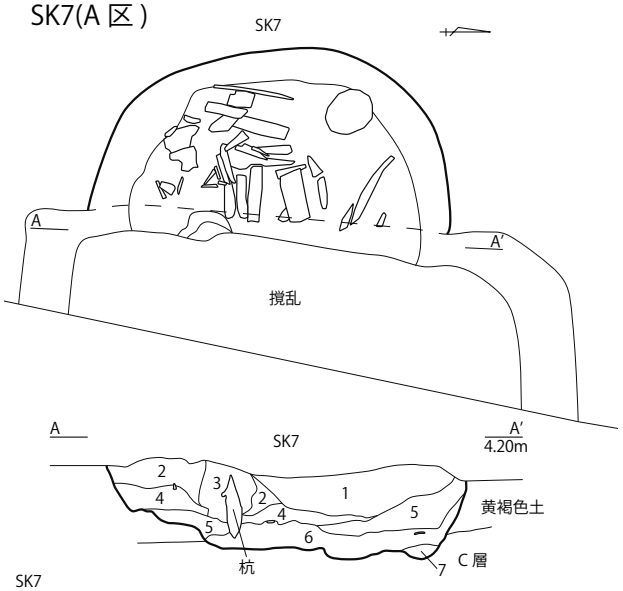
凡例
- ● 陶磁器
- □ 土器
- ■ 瓦
- ★ 金属製品
- ◎ 銭貨
- × 石
- ＊ 骨

SX128
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～10cm大の漆喰を15%含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。漆喰は若干含まれる程度。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。漆喰はほとんどなし、瓦・礫を少量含む。硬質。



第86図　近世以降の遺構(51)(1/60)

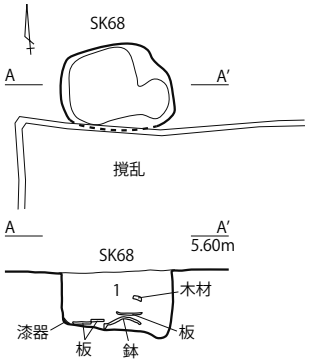
SK7(A 区)



SK7

1 . 10YR4/4 褐色　砂質混じり土、15～20㎜の炭を10％、20㎜の焼土ﾌﾞﾛｯｸを30％、5㎜のｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸを50％含む。粘性なし、締まり強い。
2 . 2.5Y3/1 黒褐色　砂質混じり土、5～10㎜の炭を30％、3㎜の焼土粒を5％未満、瓦を多量に含む。粘性なし、締まり弱い。
3 . 2.5Y3/2 黒褐色　砂質混じり土、10㎜の炭を30％、1～5㎜の焼土を10％、10～20㎜の礫を5％含む。粘性なし、締まり弱い。
4 . 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　砂質混じり土、層状に入る10～30㎜の炭を50％、10㎜の焼土を5％未満、30～50㎜の礫を5％、瓦を多量に含む。粘性なし、締まり弱い。
5 . 10YR4/6 褐色　砂質混じり土、20㎜の炭を10％、10～30㎜の礫を10％含む。粘性なし、締まり弱い。
6 . 2.5Y4/2 暗灰黄色　砂質混じり土、5～10㎜のｼﾙﾄﾌﾞﾛｯｸを10％、木材多量、土器を少量含む。粘性なし、締まり弱い。
7 . 5B3/1 暗青灰色　6層にC層が含まれる。締まりはやや強い。

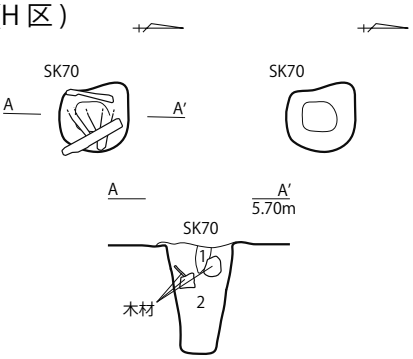
SK68(H 区)



SK68

1 . 5PB4/1 暗青灰色　粒子はやや粗く、板材等を含む。締まりは良好、やや軟質。

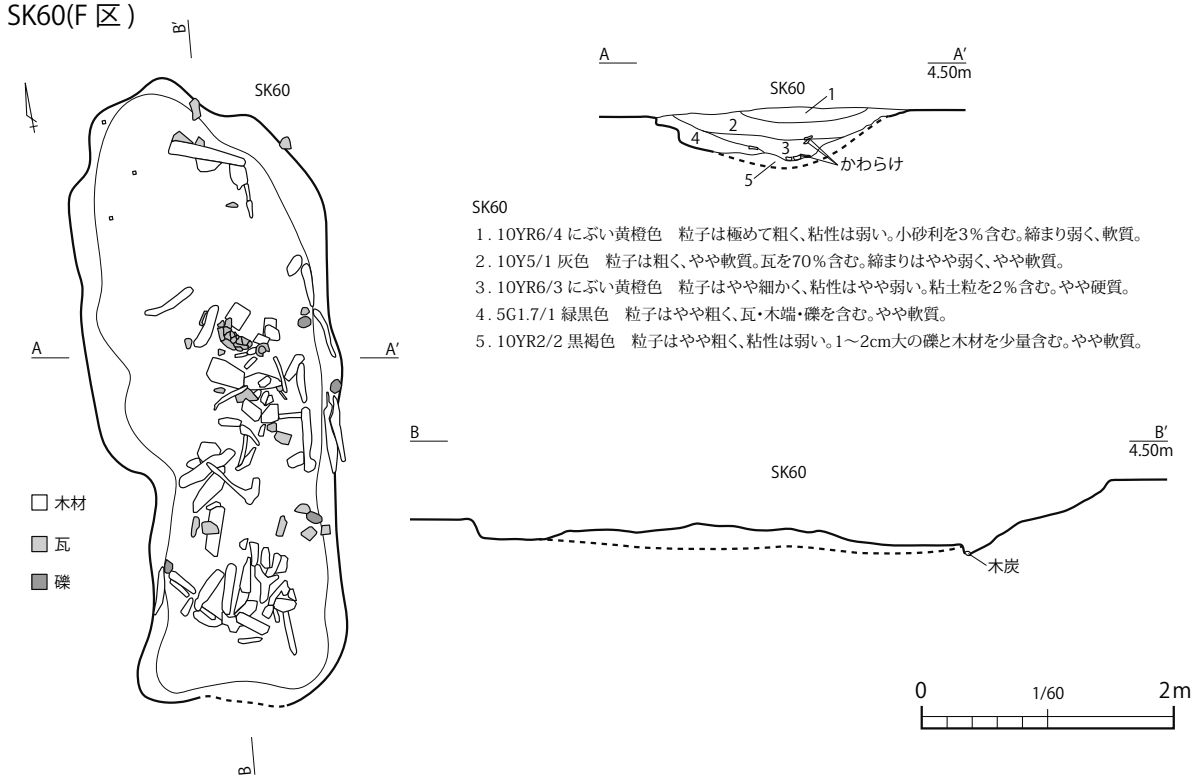
SK70(H 区)



SK70

1 . 5PB4/1 暗青灰色　粒子はやや粗く、板材等を含む。締まりは良好、やや軟質。
2 . 5Y6/1 灰色　粒子は細かい。締まりはやや強く、やや硬質。

SK60(F 区)

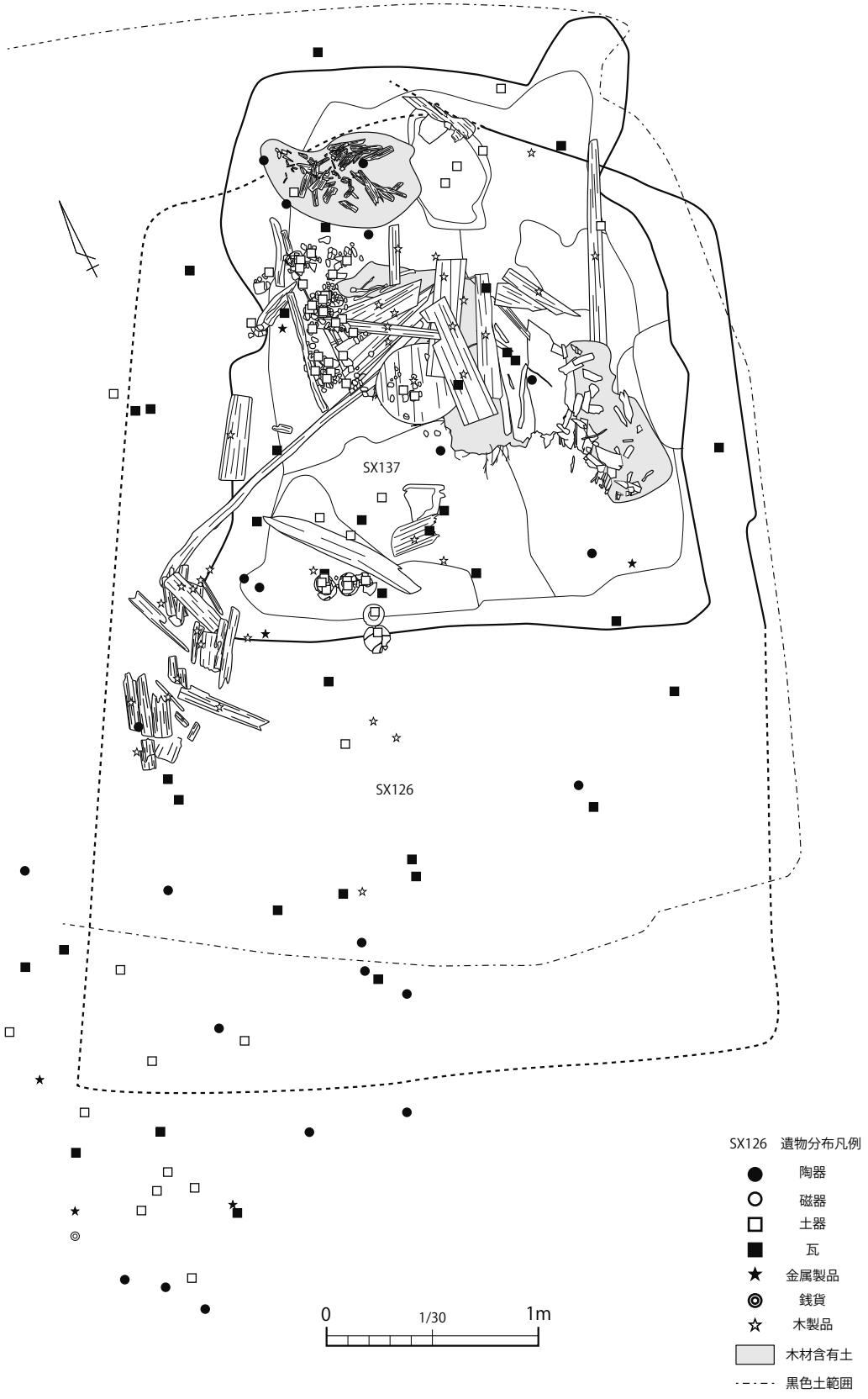


SK60

1 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。小砂利を3％含む。締まり弱く、軟質。
2 . 10Y5/1 灰色　粒子は粗く、やや軟質。瓦を70％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3 . 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。粘土粒を2％含む。やや硬質。
4 . 5G1.7/1 緑黒色　粒子はやや粗く、瓦・木端・礫を含む。やや軟質。
5 . 10YR2/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2cm大の礫と木材を少量含む。やや軟質。

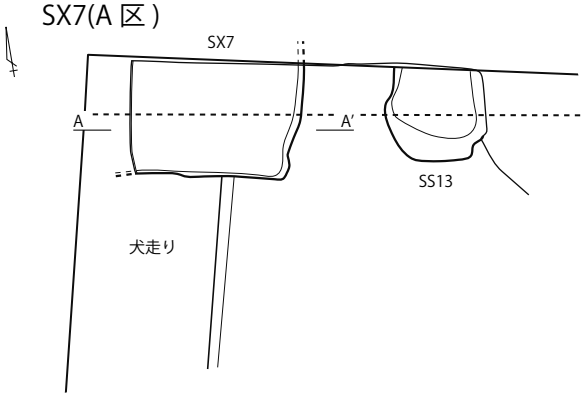
第87図　近世以降の遺構（52）（1/60）

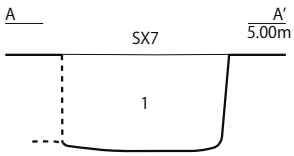
SX126・SX137(N 区)



第88図　近世以降の遺構(53)(1/30)

SX7(A 区)

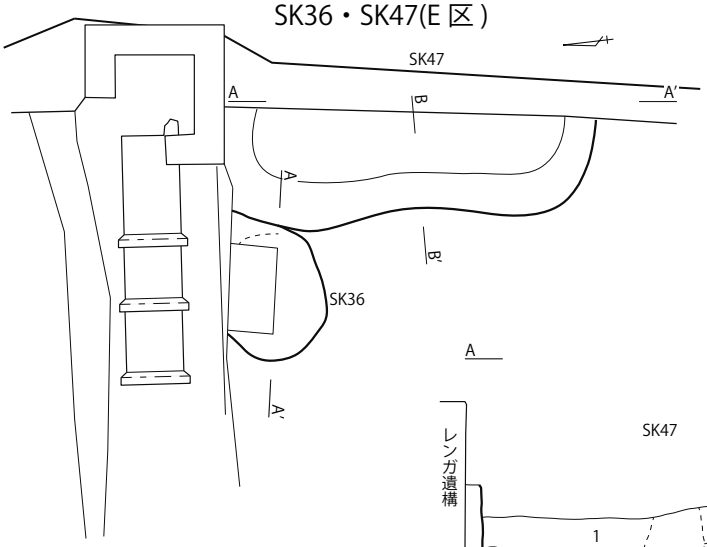


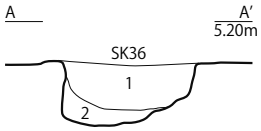


SX7

1 . 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、瓦を多量に焼土を少量含む。瓦をﾍﾞｰｽに黄褐色土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。やや軟質。

SK36・SK47(E 区)

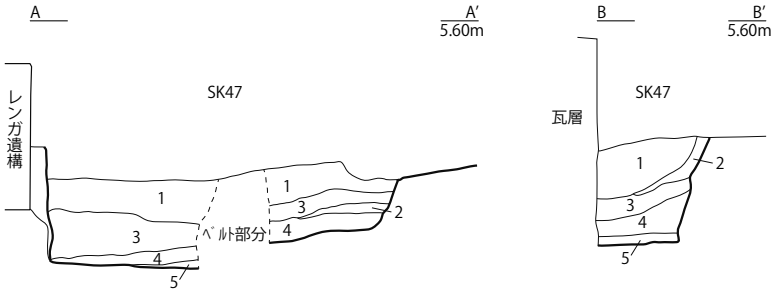




SK36

1 . 粒子は粗く、瓦が詰まった土層。

2 . 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。やや軟質。



SK47

1 . 2.5Y6/2 灰黄色　瓦をﾍﾞｰｽに炭を含む。やや軟質。

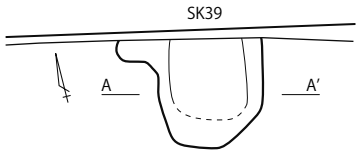
2 . 7.5Y4/4 褐色　粒子は細かく、炭を若干を含む。締まり良好。

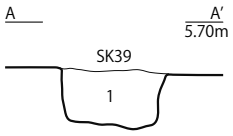
3 . 10YR4/1 褐灰色　粒子はやや細かく、粘性は強い。やや硬質。

4 . 5Y4/1 灰色　粒子は粗く、粘性は強い。やや硬質。

5 . N3/ 暗灰色　粒子は極めて粗く、褐色粒を若干含む。やや軟質。

SK39(E 区)

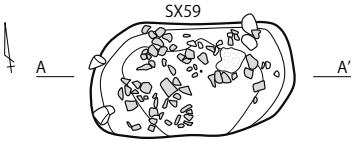


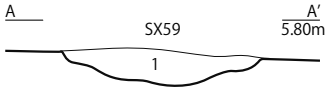


SK39

1 . 7.5YR5/4 にぶい褐色　瓦をﾍﾞｰｽに東側は焼土が多量に含まれる。締まりやや良好。

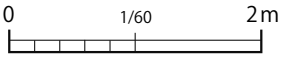
SX59(J 区)



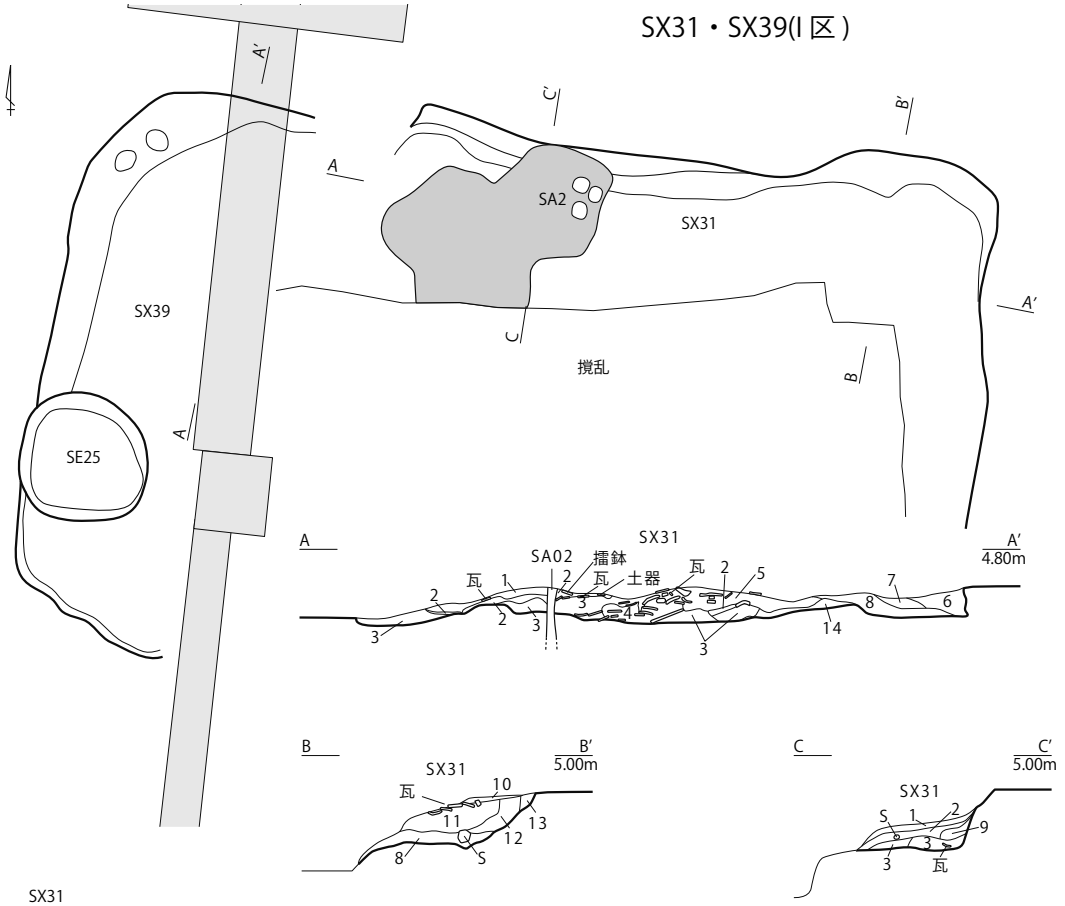


SX59

1 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　瓦をﾍﾞｰｽに焼土・炭化粒を若干含む。締まり弱く、軟質。

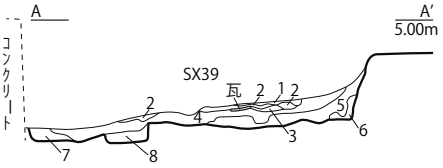


第89図　近世以降の遺構(54) (1/60)



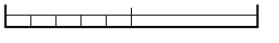
SX31

1. 10YR2/1 黒色　炭層。粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を1％含む。締まり弱く、軟質。
2. 7.6YR5/6 明褐色　粒子やや細かく、粘性やや有り。下面焼成面か。締まりやや強く、硬質。2mm大の炭を3％と2mm大の焼土を1％含む。
3. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。1～3mm大の炭を5％、1cm大の粘土を3％含む。締まり弱いが、やや硬質。
4. 7.5YR5/6 明褐色　鉄分層。粒子はやや粗く、粘性に欠ける。締まり強く、硬質。
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色　上層か。粒子は粗く、粘性は弱い。1～5mm大の炭を10％と1～3mm大の焼土を1％含む。締まり弱いが、硬質。
6. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。3～5mm大の炭を7％、5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まり弱いが、硬質。
7. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まり弱いが、硬質。
8. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～3mm大の炭を3％と粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まり弱いが、硬質。
9. 10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。5～7mm大の炭を2％含む。締まり良好で、やや硬質。
10. 10YR3/2 黒褐色　炭層。粒子粗く粘性は弱い。炭ﾍﾞｰｽ。締まり弱いが硬質。
11. 10YR4/4 褐色　粒子やや粗く、粘性はやや弱い。2～4mm大の炭を7％と5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。
12. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。1～3mm大の炭を5％と粘土を2％含む。締まりやや弱く、やや軟質。
13. 10YR4/4 褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。他遺構か。0.5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まり弱いが、やや硬質。
14. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。2～3mm大の褐色ﾌﾞﾛｯｸを20％、微砂を若干含む。締まりやや強く、やや硬質。



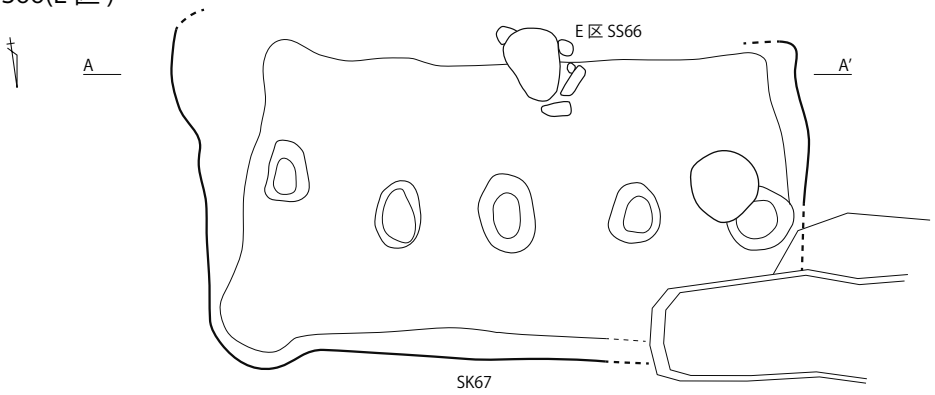
SX39

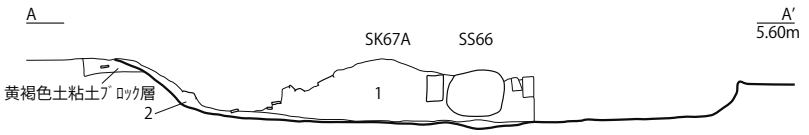
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の炭を2％含む。締まり弱いが、硬質。
2. 2.5Y5/6 黄褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。砂層。締まり強く、硬質。
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は細かく、粘性は弱い。砂層。締まり強く、硬質。
4. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まり弱いが、やや硬質。
5. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりやや強く、やや硬質。
6. 2.5Y6/8 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土層。締まり弱く、やや軟質。
7. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は細かく、やや硬質。
8. 7.5Y7/1 灰白色　D層類似層。粒子は細かく、粘性は強い。



第90図　近世以降の遺構(55)(1/60)

SK67・SS66(E 区)



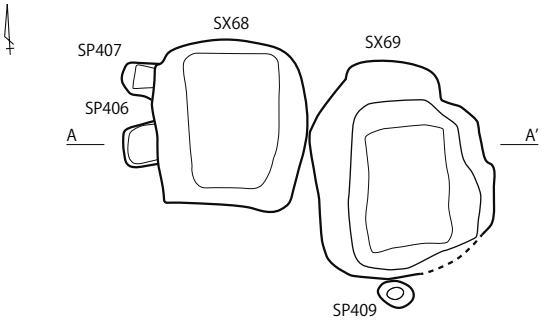


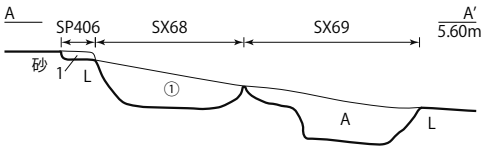
SK67A

1．N3/ 暗灰色10YR4/1　土より瓦をﾍﾞｰｽにする。1 ～ 5 mm大の焼土粒を３％含む。締まりはやや弱い。

2．5B2/ 青黒色　炭化物層。締まりはやや弱く、瓦を５％含む。

SX68・SX69(J 区)





SP406

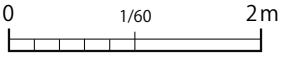
1．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。酸化土を若干含む。締まりは弱く、やや軟質。(SP407も同一土層)

SX68

①. 2.5Y2/5暗灰黄色　粒子は粗く、締りに欠け、軟質。瓦を40％含む。

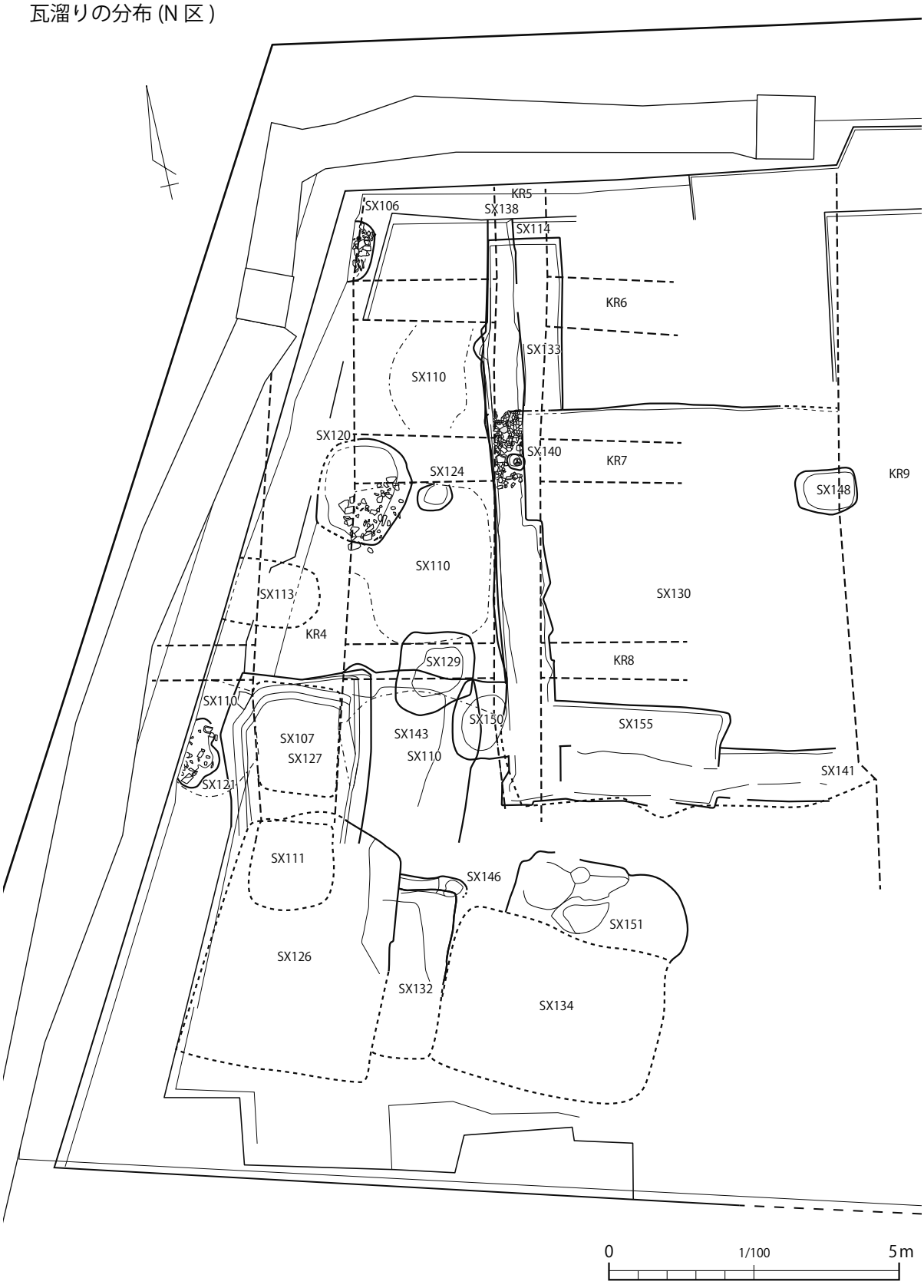
SX69

A．2.5Y2/6灰黄色　粒子は極めて粗く、締りに欠け、軟質。瓦を80％含む。



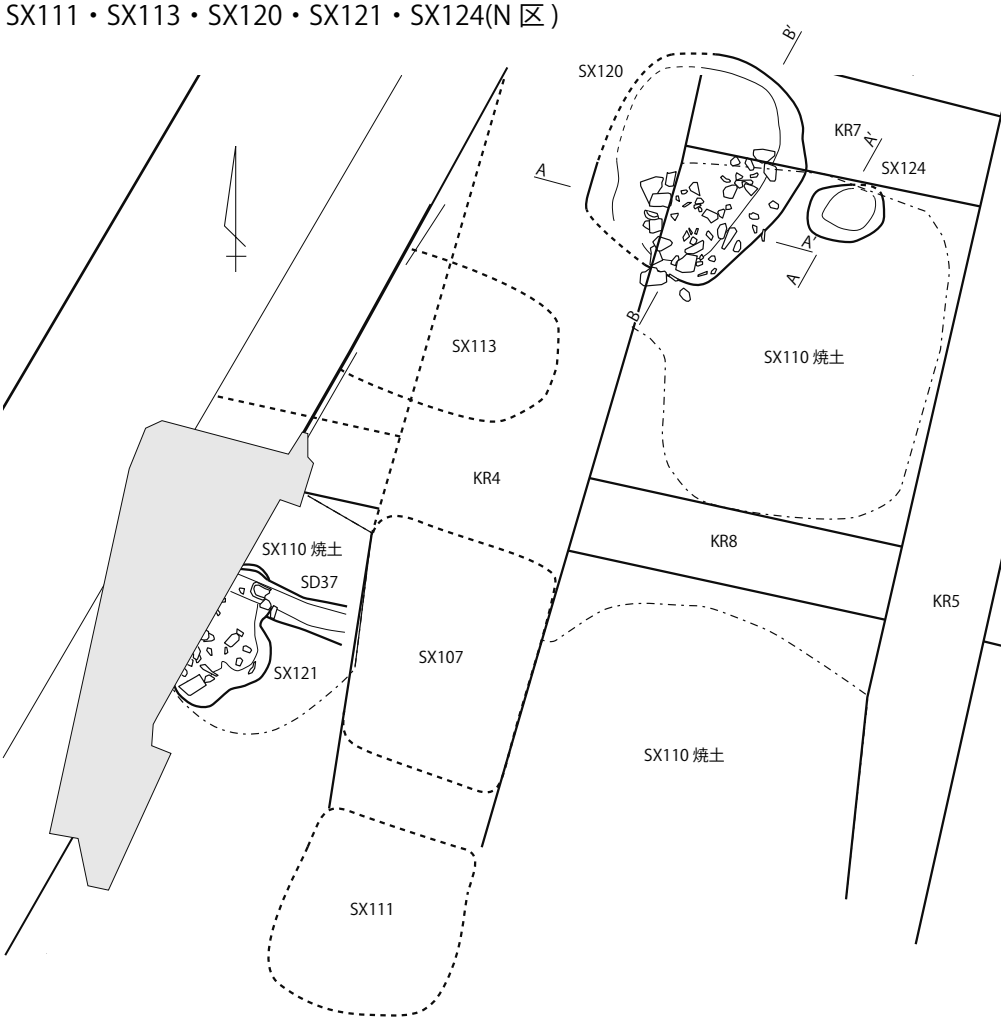
第91図　近世以降の遺構(56) (1/60)

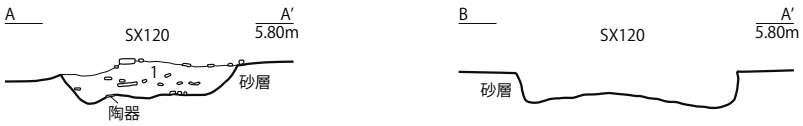
瓦溜りの分布 (N 区)



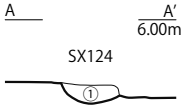
第92図　近世以降の遺構(57) (1/100)

SX107・SX111・SX113・SX120・SX121・SX124(N 区)





SX120
1. 7.5YR4/4 褐色　粒子は粗い。2～3mm大の粘土を5%、
　1～5cm大の瓦を20%含む。締まりに欠け、軟質。

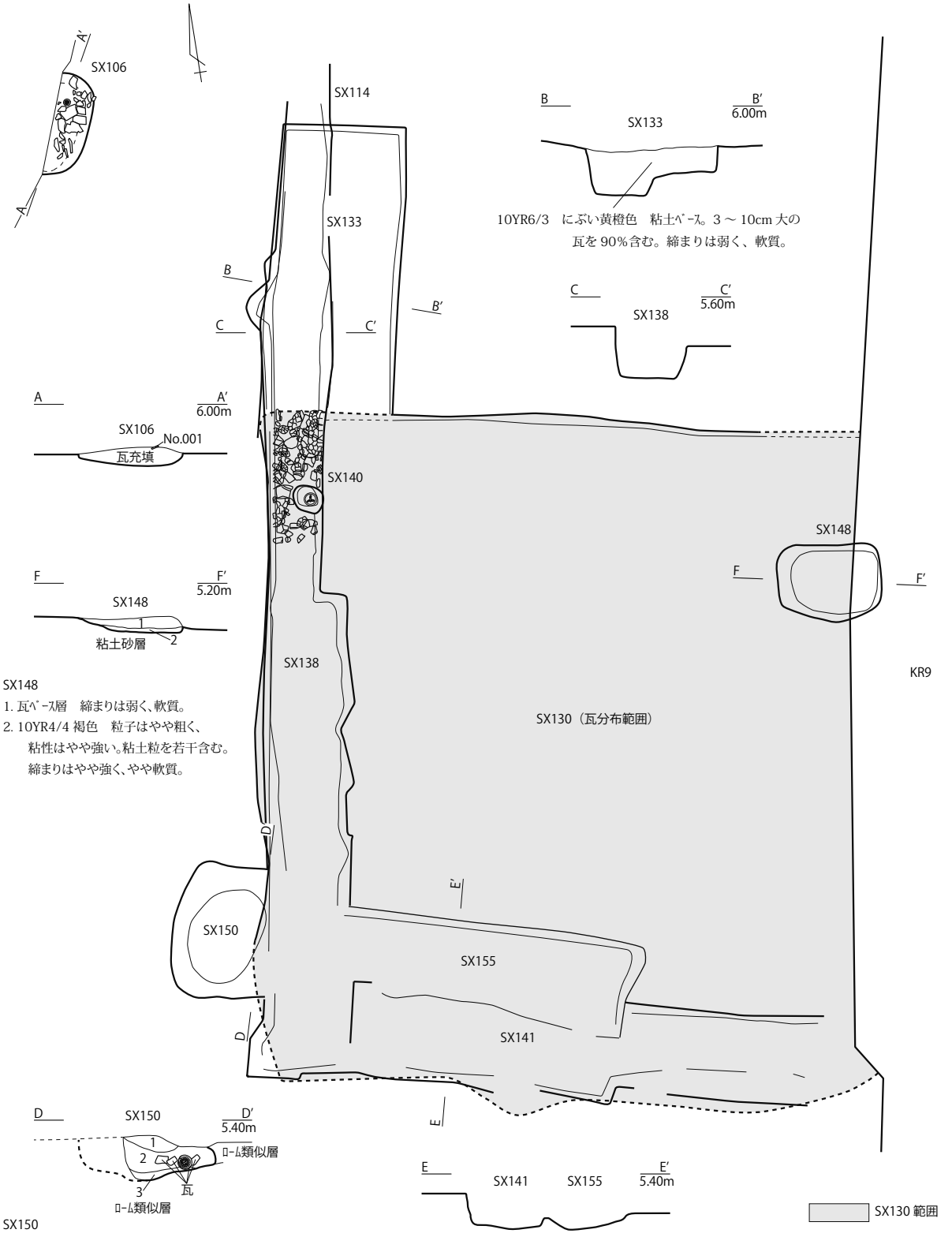


SX124
①. 10YR5/4 にぶい褐色　上層は3cmの砂利堆積。粒子は粗く、
　粘性に欠く。炭を若干と粘土を2%含む。締まりは弱く、軟質。



第93図　近世以降の遺構(58)(1/60)

SX106・SX114・SX130・SX133・SX138・SX140・SX141・SX148・SX150・SX155(N 区)

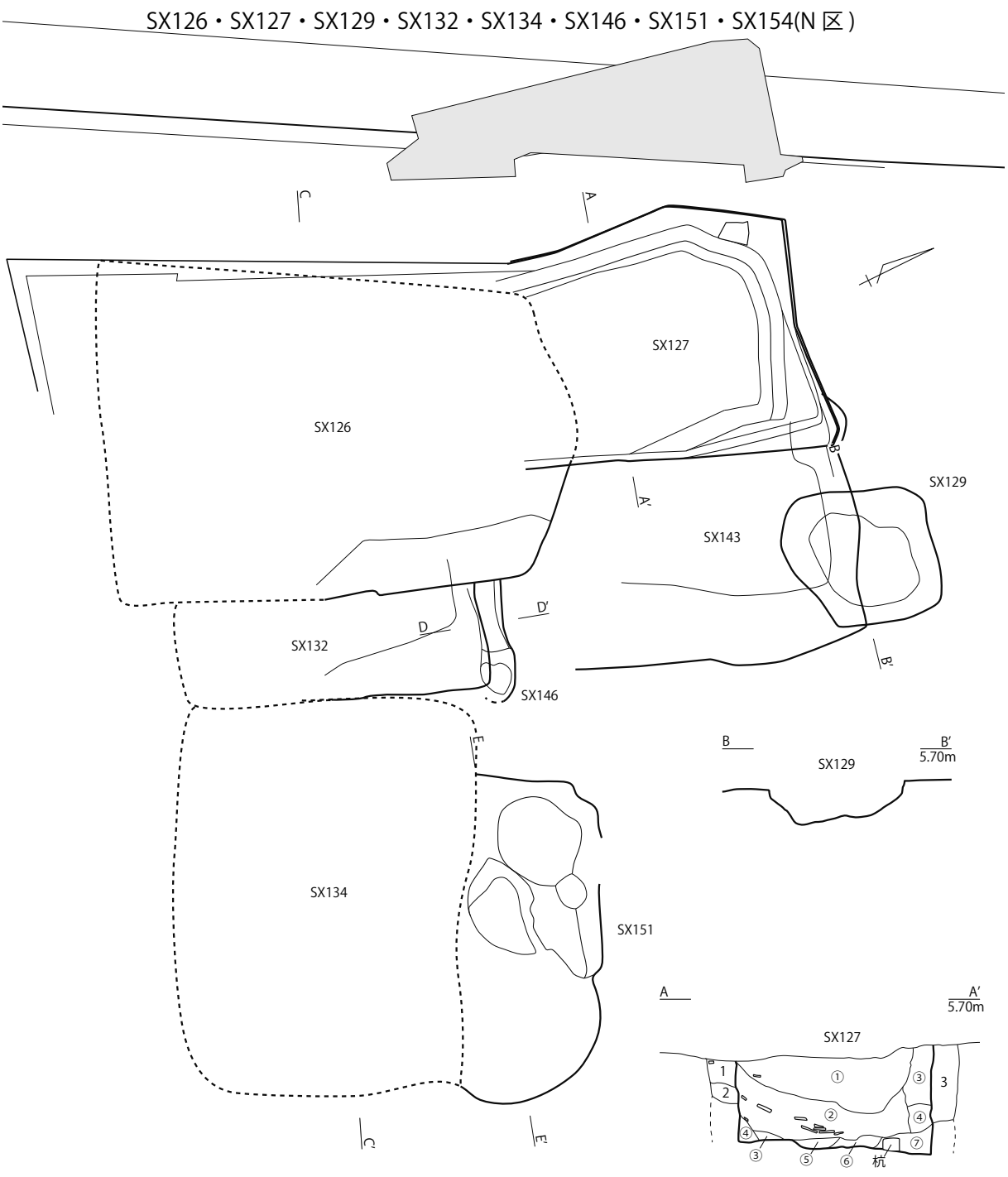


SX148
1. 瓦ﾍﾞｰｽ層　締まりは弱く、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、
粘性はやや強い。粘土粒を若干含む。
締まりはやや強く、やや軟質。

SX150
1. 2.5Y8/4 浅黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の炭を2%、0.5cm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを5%含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。1mm大の炭を1%、締まりはやや弱く、やや軟質。

0　1/60　2m

第94図　近世以降の遺構(59) (1/60)



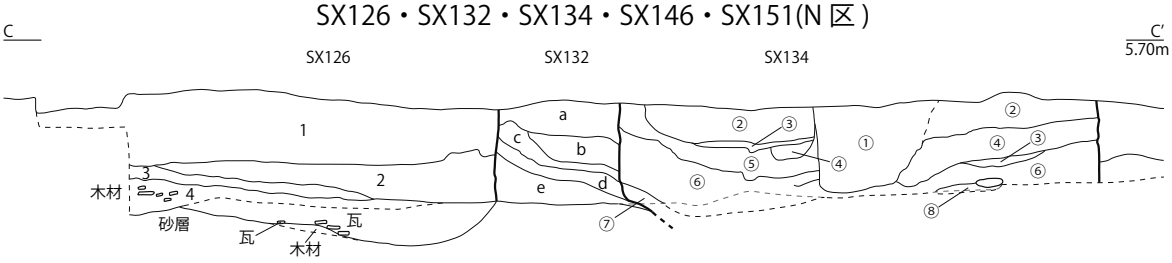
SX127

①. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の焼土を2%、2mm大の炭を1%、3～5mm大の粘土を3%含む。締まりはやや弱く、軟質。
②. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を10%、焼土を3%、炭を1%含む。締まりは弱く、軟質。
③. 5YR6/4 にぶい橙色　焼土分50%。瓦を5%含む。締まりは弱く、軟質。
④. 10YR3/4 にぶい暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15%含む。締まりは弱く、やや軟質。
⑤. 10YR4/3 にぶい暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。砂を20%含む。締まりは弱く、軟質。
⑥. 2.5Y7/4 浅黄色　軟質砂層。
⑦. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。粘土を10%含む。締まりに欠け、軟質。
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性はやや有り。やや硬質。
2. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。漆喰・瓦を少量含む。やや硬質。
3. 2.5Y6/6 明黄褐色　粒子はやや細かい。粘土層ﾍﾞｰｽ。

0　1/60　2m

第95図　近世以降の遺構(60)(1/60)

SX126・SX132・SX134・SX146・SX151(N 区)



SX126

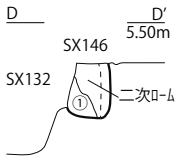
1. 2.5Y3/2 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を50％以上と高い割合で含む。1～3mm大の焼土・炭化物を1～2％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～5mm大の粘土を7％と1～3mm大の炭を1％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 7.5YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。締まりはやや強く、やや硬質。
4. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。

SX132

a. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。微ｽｺﾘｱを若干含む。締まりは弱く、軟質。
b. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。炭・粘土粒を若干、礫を2％含む。締まりは弱く、軟質。
c. 10YR5/8 黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。締まりは弱く、軟質。
d. 10YR3/4 暗褐色　瓦含有層。粒子は極めて粗い。3～7cm大の瓦を50％含む。締まりに欠け、軟質。
e. 2.5Y6/6 明黄褐色　砂層ﾍﾞｰｽ。粒子は粗く、粘性に欠く。締まりは弱く、軟質。

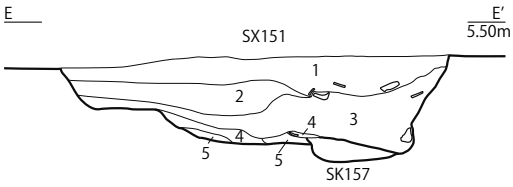
SX134

①. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。瓦を25％含む。締まりに欠け、軟質。
②. 10YR4/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。瓦を30～40％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR6/4 にぶい黄橙色　帯状に二次堆積した砂層主体土層。
④. 10YR5/1 褐灰色　粒子は細かく、塊状に堆積。締まりは強く、硬質。
⑤. 10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。瓦は若干含まれる程度。やや硬質。
⑥. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を30％と礫を5％含む。締まりは弱く、軟質。
⑦. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。瓦礫を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
⑧. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く。瓦礫を少量含む。締まりやや弱く、やや軟質。



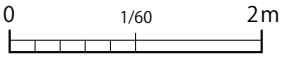
SX146

①. 10YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～3mm大の粘土を3％、炭を5％含む。締まりに欠け、軟質。



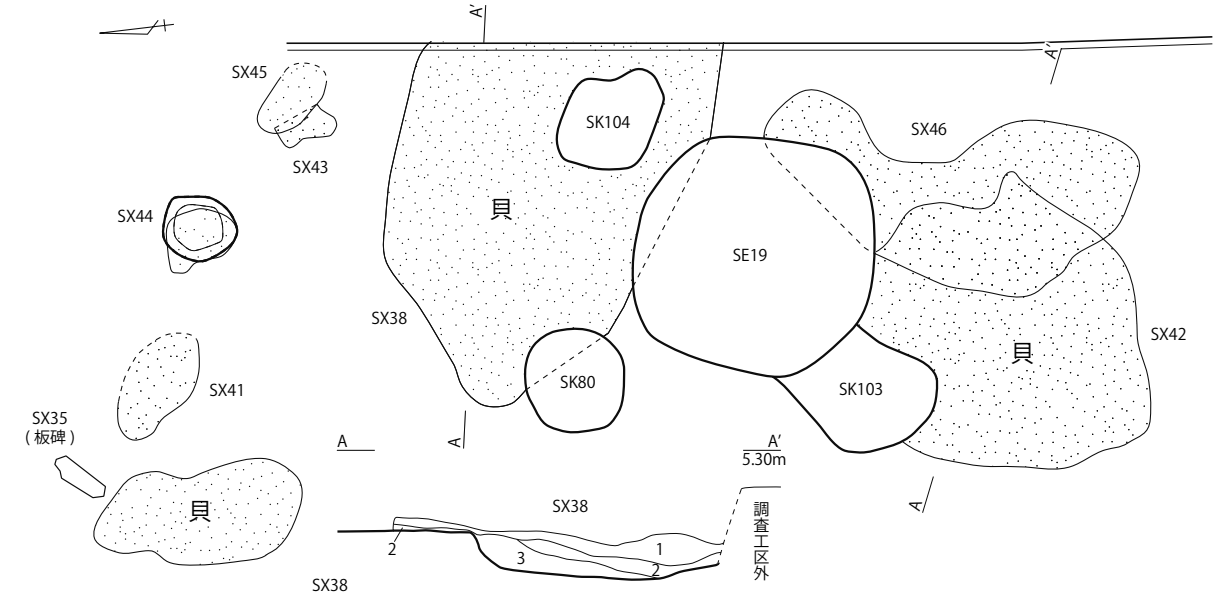
SX151

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％、1～3mm大の炭を2％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。0.5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％、1～3mm大の炭を3％、1～2mm大の焼土を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。3cm大の瓦を5％、1～5mm大の炭を5％含む。締まりに欠け、軟質。
4. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子は細かく、粘性は強い。1～2mm大の炭を2％含む。締まりは良好、やや軟質。
5. 10YR5/8 黄褐色　砂層。やや軟質。



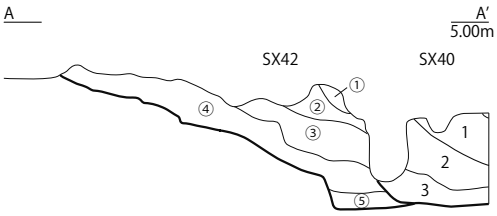
第96図　近世以降の遺構(61)(1/60)

SX38・SX41・SX42・SX43・SX44・SX45・SX46(I 区)



SX38

1．10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。貝を40％含む。締まり弱く、軟質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。3cm大の貝を5％含む。締まり弱く、軟質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。貝なし。締まり弱く、やや軟質。



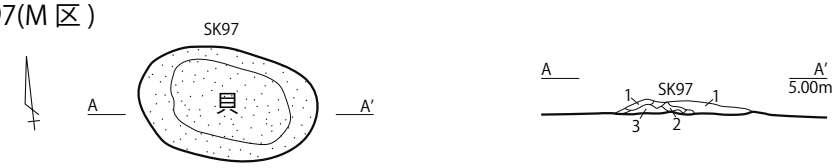
SX40

1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。2～5cm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを30%含む。
　締まり弱く、軟質。
2．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3%含む。
　締まり弱く、やや軟質。
3．10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は強い。2～5mm大のサビを5％含む。締まり弱く、軟質。

SX42

① 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3～5cm大の貝を30%含む。締まり弱く、軟質。
② 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。基本はB層。締まりやや弱く、やや軟質。
③ 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2cm大貝を25％含む。締まり弱く、やや軟質。
④ 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。主体となる貝層。貝を80％含む。締まり弱く、軟質。
⑤ 10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2cmの貝20%と砂を20％含む。締まり弱く、軟質。

SX97(M 区)



SK97

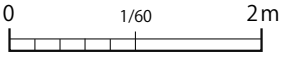
1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1.5cm大の貝を30％含む。締まり弱く、軟質。
2．10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の茶ｻﾋﾞ1を0％含む。締まり弱いが、硬質。
3．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。1～2mm大の茶ｻﾋﾞを3％含む。締まり弱いが、硬質。

SK100(J 区)



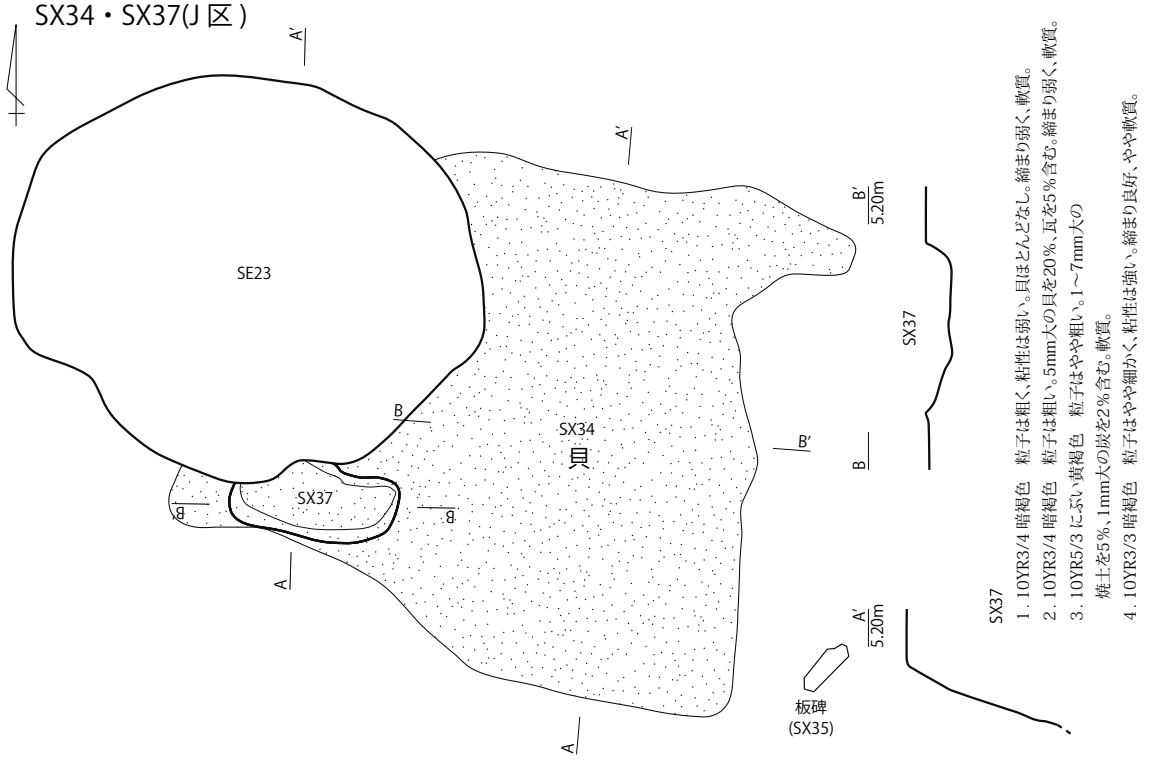
SK100

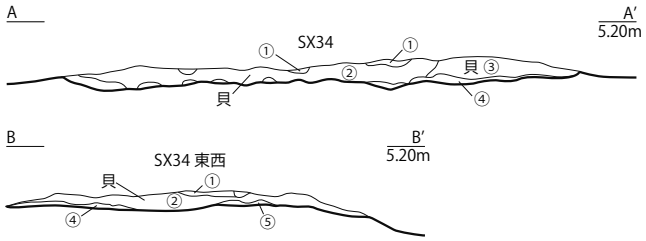
1．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.1～1.5cm大の貝を15％含む。締まり弱く、軟質。
2．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
3．10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾊﾞｰｽ。締まり強く、硬質。
4．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。貝2～3％含む　締まり弱く、軟質。
5．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2cm大の貝を20％含む。締まり弱く、軟質。

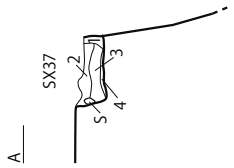


第97図　近世以降の遺構(62)(1/60)

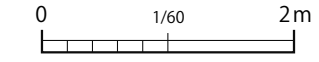
SX34・SX37(J 区)



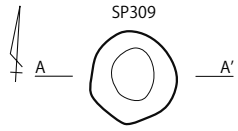


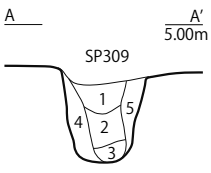


SX34
①. 10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。1mm以下の貝を若干含む。締まり強く、硬質。
②. 10YR3/4 暗褐色　二枚貝層。3cm大の貝を80%含む。締まりやや弱く、やや軟質。
③. 10YR3/4 暗褐色　細々になった貝を40%含む。締まり弱く、やや軟質。
④. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。貝は若干含まれる程度。締まりやや弱く、やや軟質。
⑤. 10YR6/6 明黄褐色　砂層ﾍﾞｰｽ。締まり弱く、軟質。



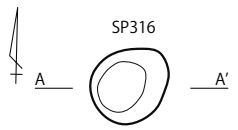
SP309(J 区)

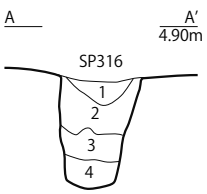




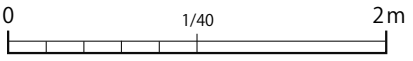
SP309
1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、3～7 mm大の貝を10%含む。軟質。
2. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、貝を若干含む。軟質。
3. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、やや軟質。
4. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、褐色粒を若干含む。やや硬質。
5. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、やや硬質。

SP316(J 区)



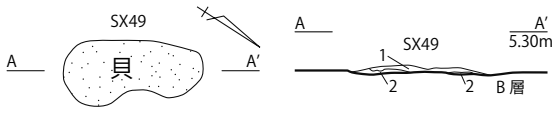


SP316
1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の貝を10%含む。
締まりは弱く、軟質。
2. 10YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを
若干含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。褐色ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5%含む。
締まりは弱く、軟質。



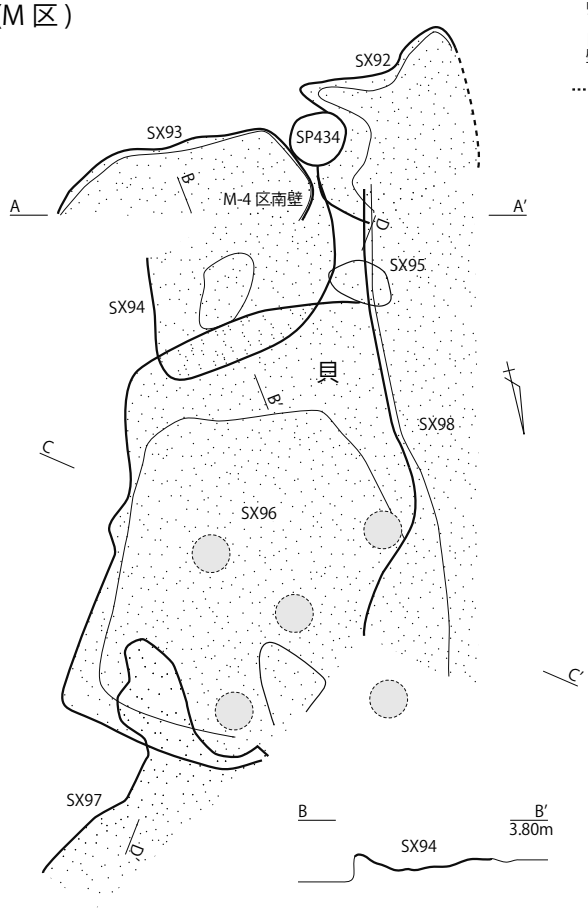
第98図　近世以降の遺構(63)(1/40・1/60)

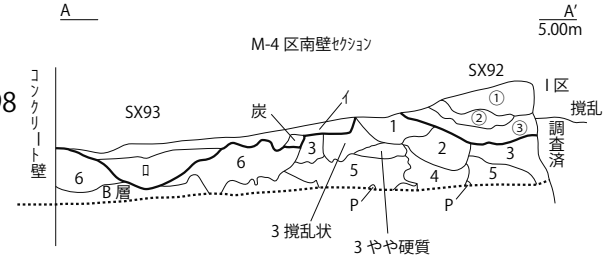
SX49(J 区)



SX49
1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。ﾔﾏﾄｼｼﾞﾐを60％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。締まりやや弱く、やや軟質。

SX92・SX93・SX94・SX95・SX96・SX97・SX98 (M 区)

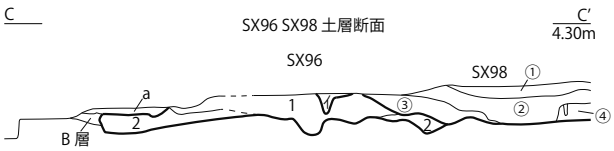




SX92
①. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大の貝を10％含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大の貝を10％、1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大の貝を25％含む。締まりは弱く、軟質。

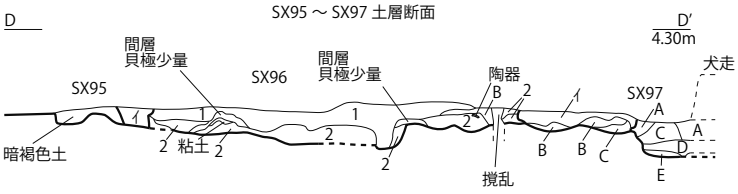
SX93
ｲ. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。0.5～1cm大の貝を20％含む。締まりは弱く、軟質。
ﾛ. 10YR4/4 褐色　基本的にB層類似。粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。

M-4区南壁
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりに欠け、軟質。
2．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりに欠け、軟質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。微炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2mm大の褐色粘土粒を1％含む。締まりは弱く、軟質。
5．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。0.5～3cm大の黄色粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりは弱く、軟質。
6．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

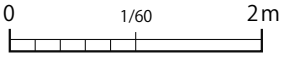


SX96
1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1.5cm大の貝を30～40％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2．10YR2/3 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。0.5～1cm大の貝を20～30％含む。締まりはやや有り。やや硬質。

SX98
①. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや有り。3～5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、やや軟質。
②. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。B層ベースで砂が混じる。締まりは弱く、やや軟質。
③. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性に欠ける。山砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、やや軟質。
④. 2.5Y7/3 浅黄色　黄白色粘土層。



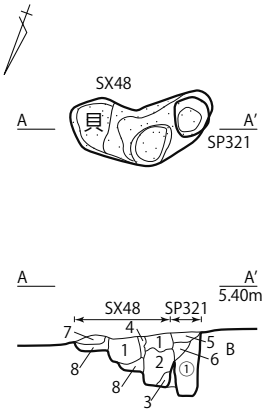
SX95
1．7.5YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
0.3～1cm大の貝を10％含む。締まりは弱く、軟質。
※SX97の土層説明は次頁参照。



第99図　近世以降の遺構(64) (1/60)

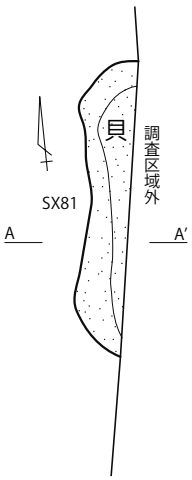
SX97(M区)
A. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、貝片を15％含む。やや硬質。
B. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、貝を1～2％含む。やや硬質。
C. 7.5Y2/1 黒色　粒子は細かく、貝はほとんど含まれない。やや硬質。
D. 5B2/1 灰黒色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。D層を若干含む。硬質。
E. 7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子はやや粗く、D層ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。硬質。
※図面は前頁参照。

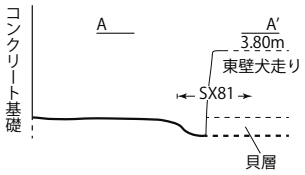
SX48・SP321(J 区)



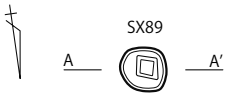
SX48
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。貝を若干含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。貝はなし。締まりに欠け、軟質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は細かく、粘性は強い。締まりはやや強く、やや硬質。
4. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。締まりはやや弱く、やや軟質。
5. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。
6. 10YR5/4 にぶい黄褐色　貝層60％。締まりは弱く、軟質。
7. 貝層
8. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりは良好。やや軟質。C層類似。
SP321
①. 10YR3/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。締まりに欠け、軟質。

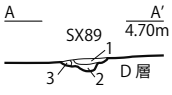
SX81(M 区)



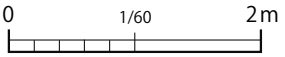


SX89(M 区)



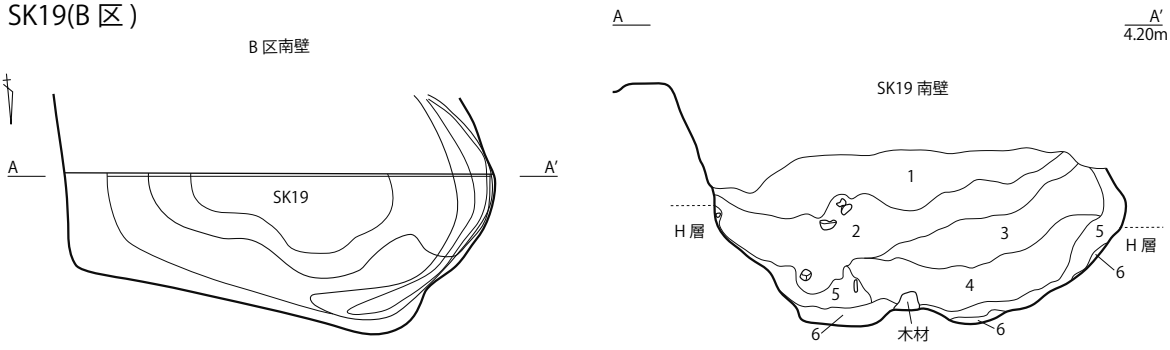


SX89
1. 10YR4/2 暗灰褐色　粒子は粗い。酸化土を2％、0.3～1.5cm大の貝を15％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR1.7/1 黒色　粒子はやや細かく、粘性は強い。締まりはやや強く、やや硬質。
3. 2.5Y3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。締まりは良好、やや軟質。



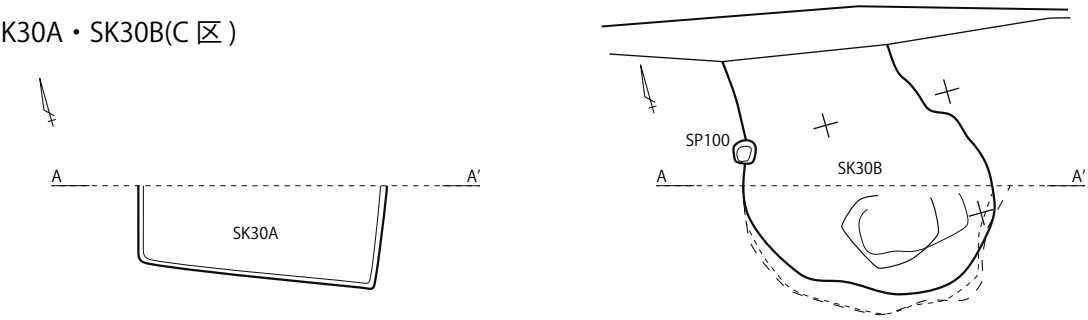
第100図　近世以降の遺構(65)（1/60）

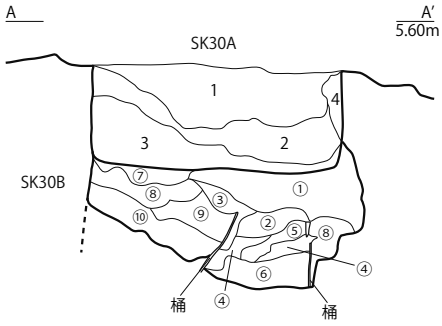
SK19(B 区)



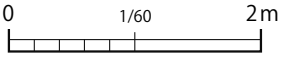
SK19
1．5B4/1暗青灰色　粒子はやや粗く、微細貝を２％含む。やや硬質。
2．N3/暗灰色　粒子はやや細かく、礫を少量含む。やや硬質。
3．2.5Y4/黄灰色　粒子は細かく、粘性は強い。白色・浅黄色粘土を10％含む。やや硬質。
4．5B3/1暗青灰色　粒子はやや細かく、青灰色粘土を20％含む。やや硬質。
5．2.5Y4/4ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、黄褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。やや硬質。
6．2.5Y5 /3黄褐色　粒子は粗く、砂利を若干含む。やや硬質。

SK30A・SK30B(C 区)



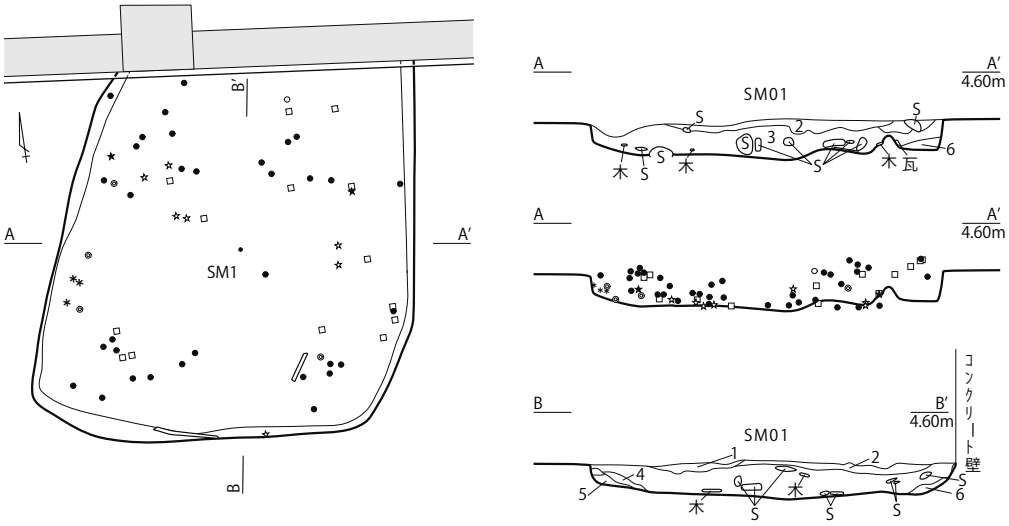


SK30A
1．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、白色粘土、褐色粘土等を20％含む。やや硬質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、白色粘土、褐色粘土等を10％含む。やや硬質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く1～５㎝大の褐色ﾌﾞﾛｯｸを15％と白色粘土を若干含む。やや硬質。
4．10YR8/2 灰白色　白色粘土ﾌﾞﾛｯｸ崩落土。
SK30B
①. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は細かく、白色粘土を若干含む。やや硬質。
②. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、③層を30％混合する。軟質。
③. 5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子はやや粗く1～５㎝大の褐色ﾌﾞﾛｯｸを15％と白色粘土を若干含む。やや硬質。
④. 5Y3/2 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、粘性は強い。締まり弱く、軟質。
⑤. 2.5Y5/6 黄褐色　褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽにする。
⑥. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、褐色粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まり弱く、軟質。
⑦. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、白色粘土を20％含む。やや硬質。
⑧. 10YR8/1 灰白色　白色粘土ﾌﾞﾛｯｸ層をﾍﾞｰｽにする。
⑨. 10YR4/6 褐色　褐色土ﾍﾞｰｽ。やや軟質。
⑩. 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は細かく、硬質。



第101図　近世以降の遺構（66）（1/60）

SM1(I 区)

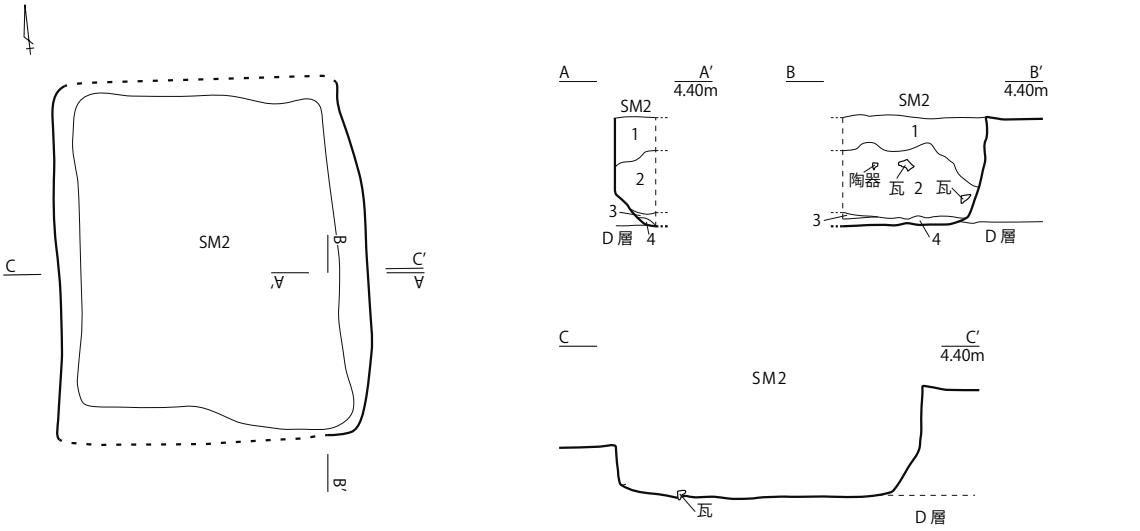


SM1

1 . 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の酸化粒を2%、1mm大の炭を1%含む。締まり弱く、軟質。
2 . 2.5Y5/1 黄灰色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。1～5mm大の筋状酸化層を7%、1～2mm大の炭を若干含む。締まり弱く、軟質。
3 . 10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。酸化粒を5%含む。締まり弱いが、やや硬質。
4 . 10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は強い。砂を20%含む。
5 . 10YR4/1 褐灰色　粒子は細かく、粘性は極めて強い。緑色粘土を3%、炭を若干含む。締まり強く、硬質。
6 . 10YR4/6 褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。締まり強く、硬質。

○ 磁器
● 陶器
□ 土器
★ 金属製品
◎ 銭貨
✲ 木製品
＊ その他

SM2(K 区)



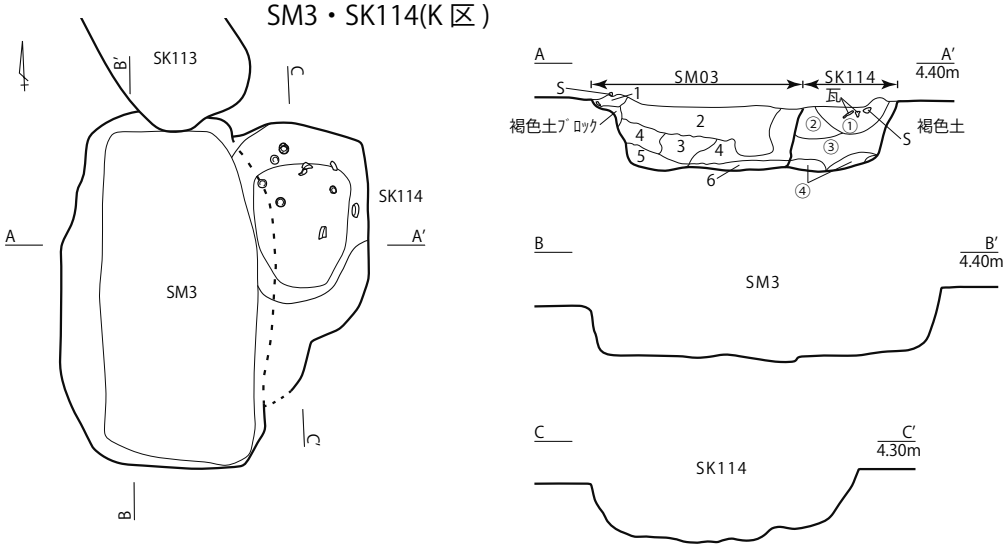
SM2

1 . 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。遺物多量。酸化粒を少量含む。締まりに欠け、軟質。
2 . 10YR4/1 褐灰色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。遺物多量。締まりに欠け、軟質。
3 . 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、砂質。締まりは弱く、軟質。砂を若干含む。
4 . 10YR4/1 褐灰色　粒子はやや細かく、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

0　1/60　2m

第102図　近世以降の遺構(67) (1/60)

SM3・SK114(K 区)



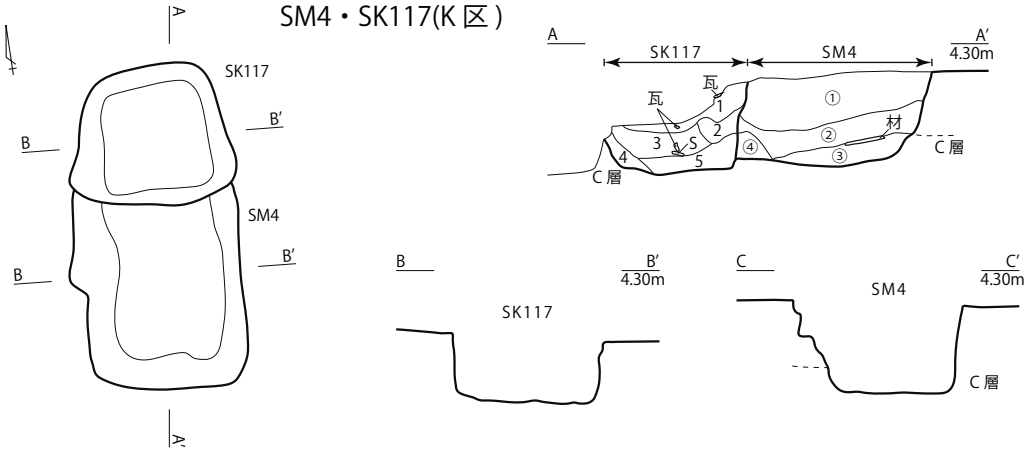
SM03

1．10YR4/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性やや有り。瓦を含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。瓦を5％、酸化粒を7％、炭を2％含む。締まりに欠け、軟質。
3．10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。1cm大の礫を3％、焼土を2％含む。締まりは弱く、軟質。
4．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2cm大の礫を2％、酸化粒を5％含む。締まりは弱く軟質
5．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。砂を5％含む。締まりは弱く、軟質。
6．10YR2/1 黒色　粒子は細かく、粘性は強い。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK114

①. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦を5％含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1cm大の礫を3％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR2/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。瓦を50％、焼土を若干含む。締まりに欠け、軟質。
④. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

SM4・SK117(K 区)

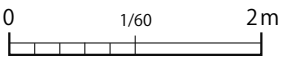


SK117

1．7.5YR6/6 橙色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。酸化粒を10％含む。締まりは弱く、軟質。
2．7.5Y4/1 黄灰色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。3mm大の礫を5％含む。締まりは弱く、軟質。
3．7.5Y4/1 黄灰色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1cm大の礫を3％、木端を2％含む。締まりは弱く、軟質。
4．7.5Y3/1 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。木端を10％、5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
5．7.5Y4/1 黄灰色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。5mm大の礫を5％含む。締まりは弱く、軟質。

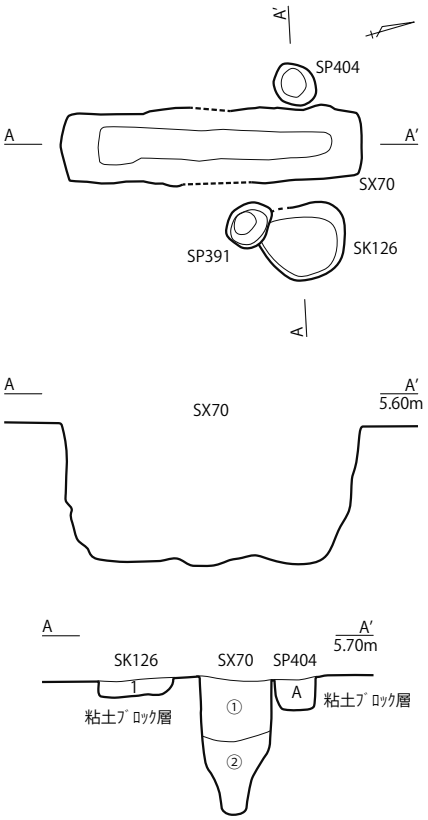
SM4

①. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～2cm大の瓦と礫を5％含む。1～3mm大の焼土を3％を含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR5/4 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや有り。1～5mm大の焼土を5％、木端を3％含む。締まりは弱く、軟質。
③. 10YR3/2 黒褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。3mm大の焼土2％木端を3％含む。締まりに欠け、軟質。
④. 10YR2/1 黒色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。C層に類似。締まりはやや強く、硬質。



第103図　近世以降の遺構(68)(1/60)

SX70・SK126・SP391・SP404(J 区)



SK126

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、やや軟質。

SX70

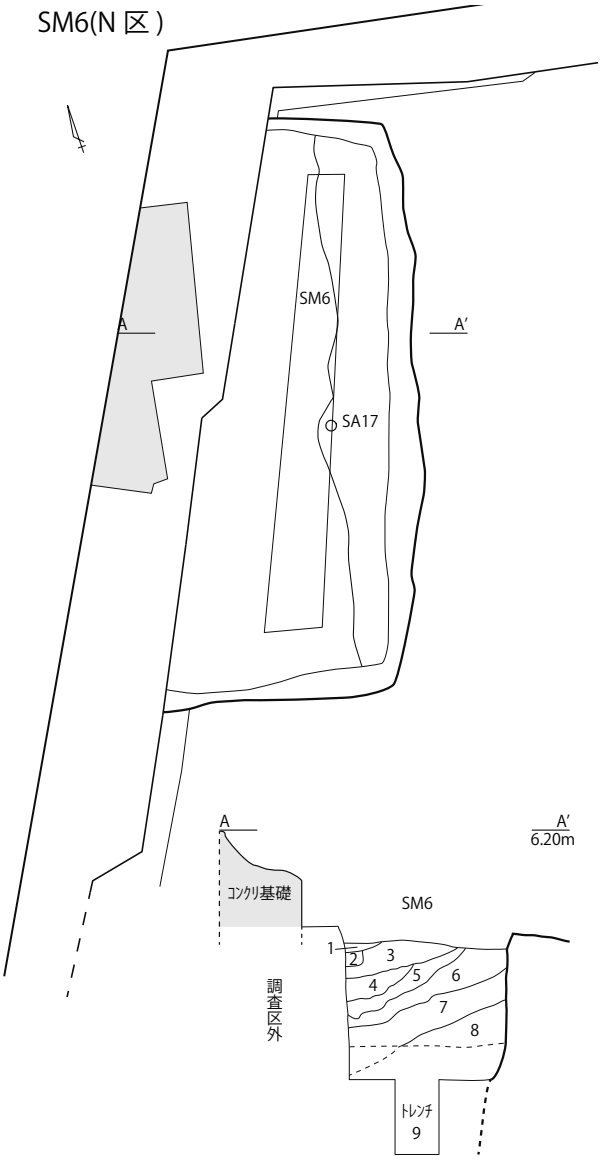
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりは弱く、軟質。両脇遺構より硬質。

②. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP404

A. 10YR6/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％と炭を5％含む。締まりに欠け、軟質。

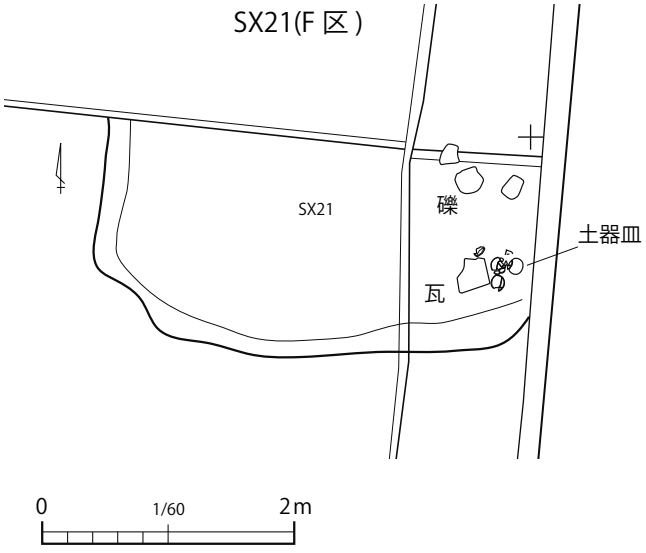
SM6(N 区)



SM6

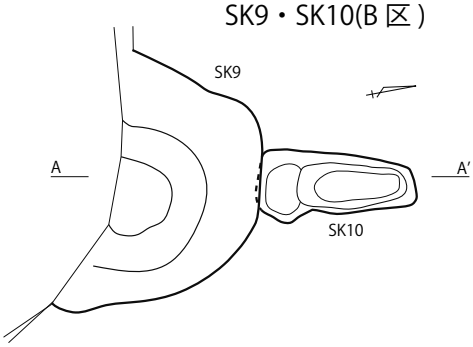
1. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の粘土を5％と炭を1％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の炭を2％と1～5mm大の粘土を3％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は粗い。1～5mm大の粘土を60％含む。締まりは弱く、軟質。
4. 10YR5/4 にぶい褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
5. 10YR5/3 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3～10mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは弱く、軟質。
6. 10YR5/4 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3～7mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
7. 10YR5/3 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。0.3～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
8. 10YR5/3 にぶい褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％と炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
9. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、褐色土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱いが、硬質。

SX21(F 区)



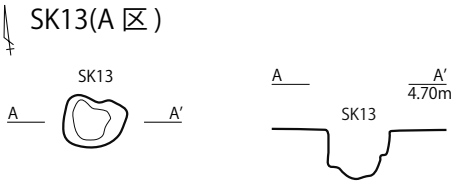
第104図　近世以降の遺構(69) (1/60)

SK9・SK10(B 区)

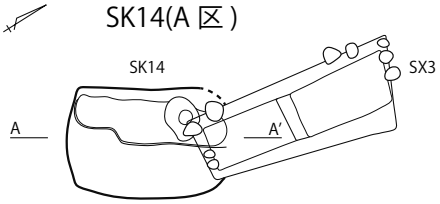


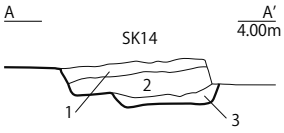


SK13(A 区)



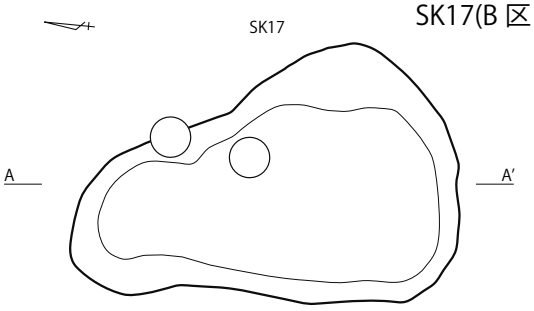
SK14(A 区)

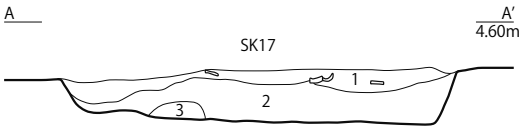




SK14
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを 10％含む。やや硬質。
2．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸをﾍﾞｰｽにする。やや硬質。
3．N4/ 灰色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。やや硬質。

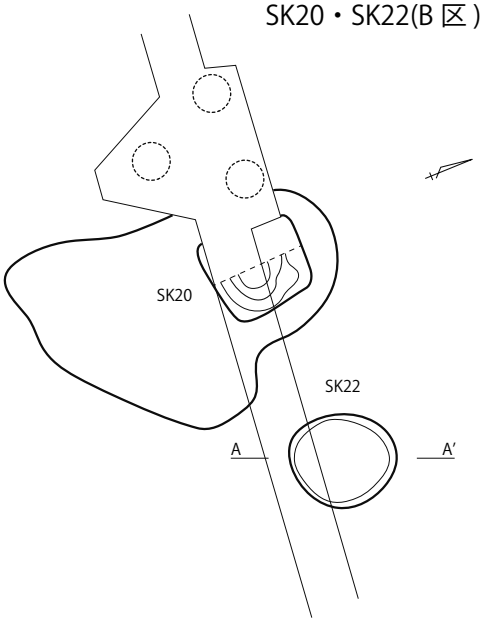
SK17(B 区)

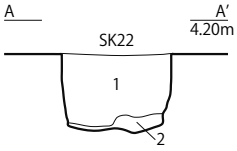




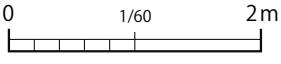
SK17
1．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを 20％含む。やや軟質。
2．10YR2/2 黒褐色　粒子は粗く、瓦を多量に、木材を少量含む。やや軟質。
3．10YR2/1 黒色　粒子は細かく。締まりは良好、硬質。

SK20・SK22(B 区)



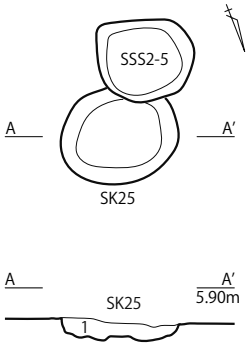


SK22
1．5B4/1 暗青灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。やや軟質。
2．N5/ 灰色　粒子は粗く、灰色粘土ﾌﾞﾛｯｸを 30％含む。やや軟質。



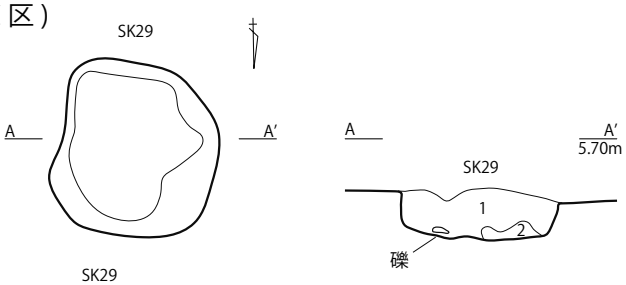
第105図　近世以降の遺構(70)(1/60)

SK25(C 区)



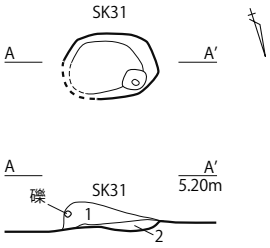
SK25
1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
粘土ﾌﾞﾛｯｸを 20%、焼土を若干含む。やや軟質。

SK29(C 区)



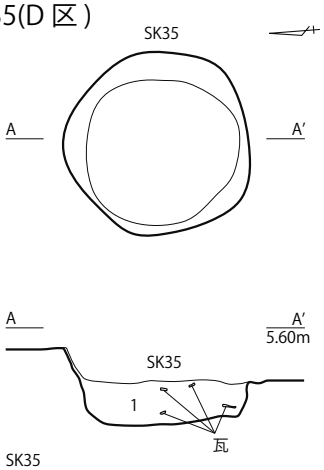
SK29
1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを 20%含む。やや軟質。
2．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。やや硬質。

SK31(D 区)



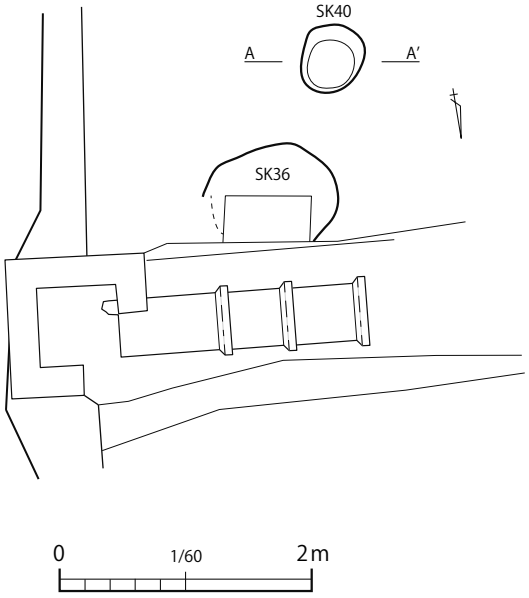
SK31
1．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを 20%含む。やや軟質。
2．10YR4/4 褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを 3%含む。やや硬質。

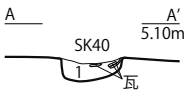
SK35(D 区)



SK35
1．7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
瓦を少量含む。やや軟質。

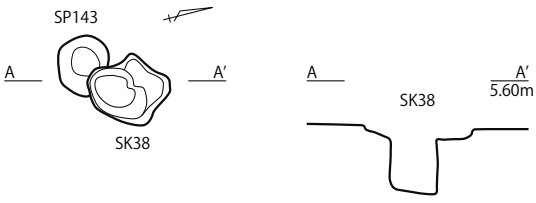
SK36・SK40(E 区)





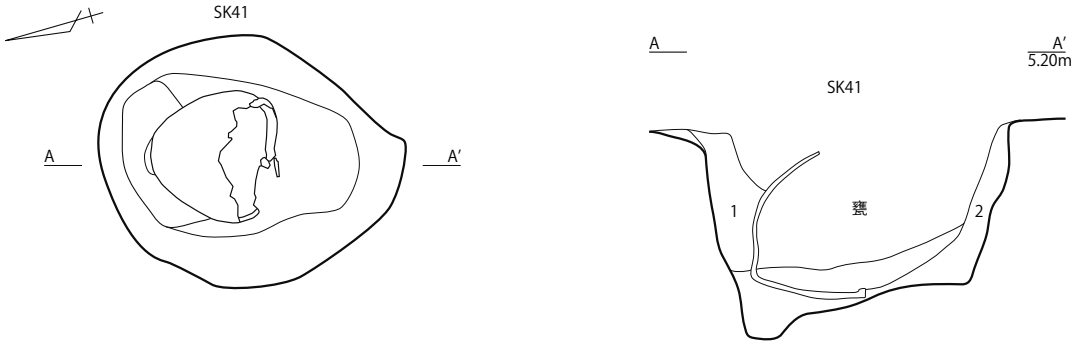
SK40
1．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。やや軟質。

SK38(E 区)



第106図　近世以降の遺構(71)(1/60)

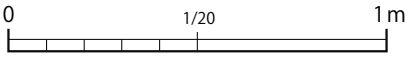
SK41(E 区)



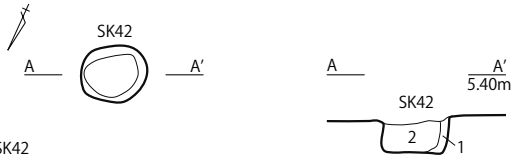
SK41

1．2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。黄色粘土粒を少量含む。軟質。

2．10YR3/3 暗褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。締まり弱く、軟質。



SK42(E 区)

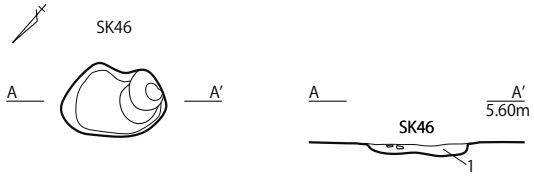


SK42

1．5Y6/1 灰色　粒子は粗く、粘性は強い。

2．10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘土小ﾌﾞﾛｯｸ、炭化物を少量含む。やや軟質。

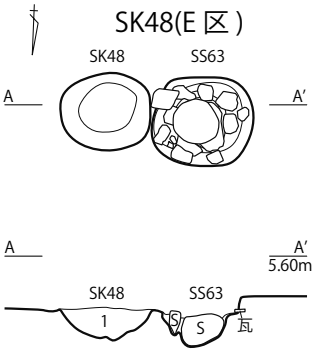
SK46(E 区)



SK46

1．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。瓦・焼土・炭を含む。やや硬質。

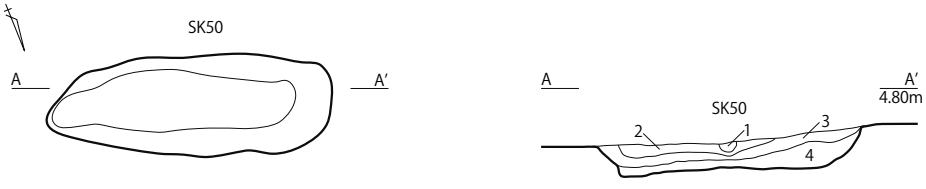
SK48(E 区)



SK48

1．5Y5/1 灰色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。小片瓦を主体とし、礫・焼土ﾌﾞﾛｯｸを少量含む。締まりは弱いが、やや硬質。

SK50(E 区)



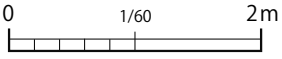
SK50

1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸ・炭を少量含む。やや軟質。

2．2.5Y6/1 黄灰色　粒子は細かく、粘性は強い。炭を若干含む。やや硬質。

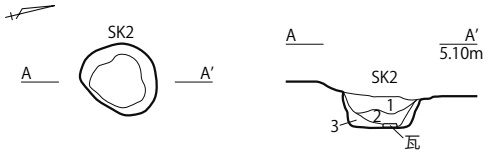
3．7.5Y4/1 灰色　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。粘土粒と炭を 3%含む。やや軟質。

4．5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　粒子は細かく、粘性は強い。硬質。

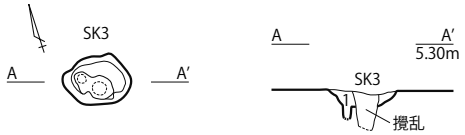


第107図　近世以降の遺構（72）（1/20・1/60）

SK2(B 区)



SK3(B 区)



SK2

1 . 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。やや軟質。

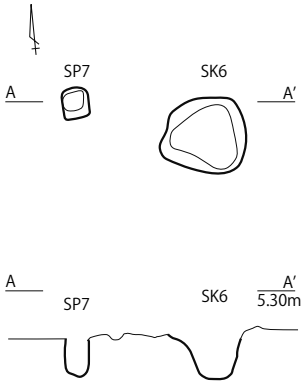
2 . 5YR6/3 ｵﾘｰﾌﾞ 黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを70％含む。締まりは弱いが、硬質。

3 . 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。焼土粒を若干含む。やや硬質。

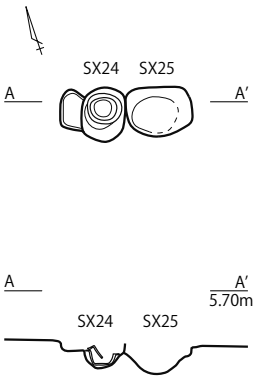
SK3

1 . 2.5Y4/1 黄灰色　粒子は細かく、粘土粒、焼土粒を3％含む。やや硬質。

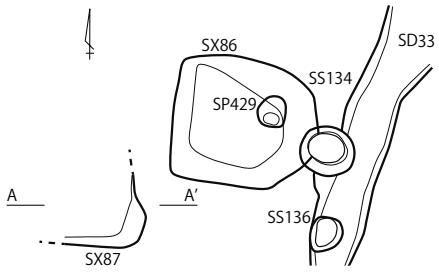
SK6・SP7(B 区)

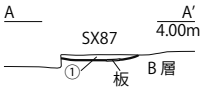


SX24・SX25(H 区)



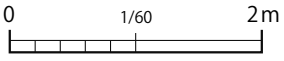
SX86・SX87(M 区)



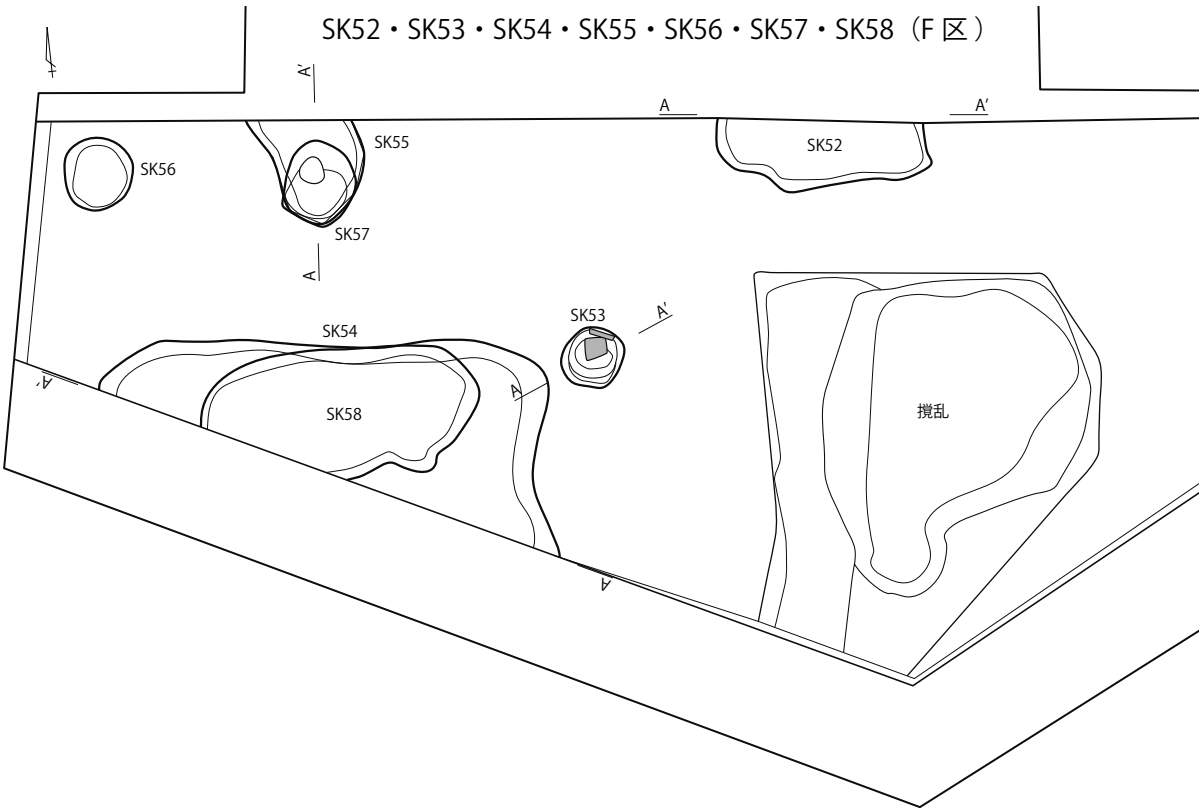


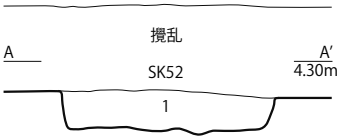
SX87

①. 7.5YR1.7/1 黒色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。
炭をﾍﾞｰｽに粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。

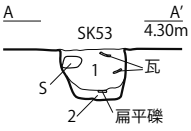


第108図　近世以降の遺構(73) (1/60)

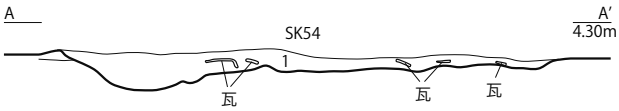




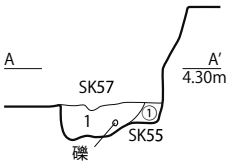
SK52
1．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性はやや有り。粘土ﾌﾞﾛｯｸ・焼土・炭を少量含む。やや軟質。



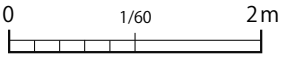
SK53
1．10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％と炭を2％含む。やや硬質。
2．5Y5/1 灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸと炭を含む。やや硬質。



SK54
1．7.5Y4/1 灰色　粒子は粗く、粘性はやや強い。瓦を多量に含む。締まりは弱く、軟質。

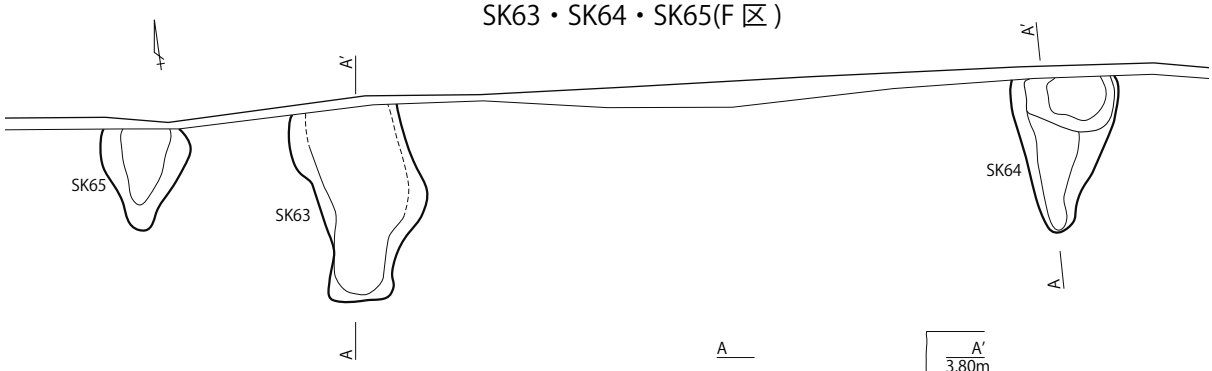


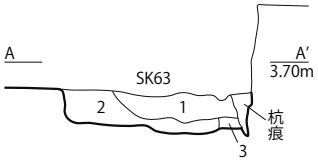
SK55
①．10YR3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。やや硬質。
SK57
1．10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　礫を含む。締まりは弱く、軟質。



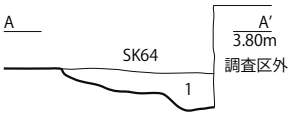
第109図　近世以降の遺構（74）（1/60）

SK63・SK64・SK65(F 区)

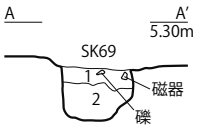




SK63
1 . 2.5Y8/3 淡黄色　黄褐色の砂質土ﾌﾞﾛｯｸ。
2 . 7.5Y3/1 ｵﾘｰﾌﾞ黒色　黒色土を主体に白色粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。
3 .5Y4/1 灰色　2層に灰色土を60％含む。

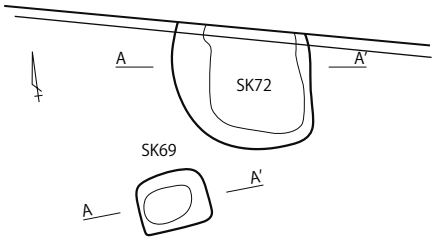


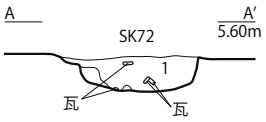
SK64
1 . 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。



SK69
1 . 2.5Y6/2 灰黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。遺物を少量含む。軟質。
2 . 2.5Y4/1 黄灰色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。やや硬質。

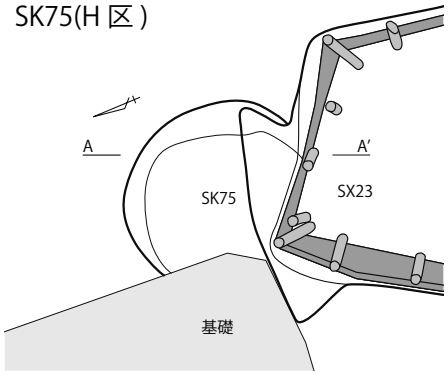
SK69・SK72(H 区)

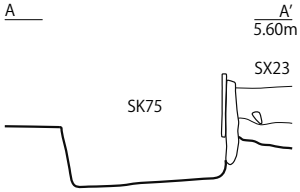




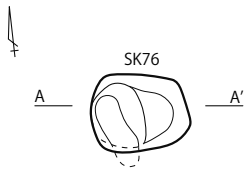
SK72
1 . 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％、瓦を10％、礫を若干含む。やや軟質。

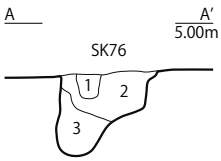
SK75(H 区)



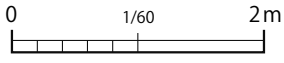


SK76(G 区)



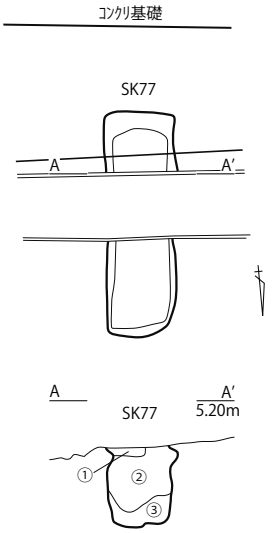


SK76
1 . 10YR4/2 暗灰黄色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。焼土粒を3％、炭を1％含む。軟質。
2 . 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを多量に含む。やや硬質。
3 . 2.5Y4/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子はやや細かく。やや硬質。



第110図　近世以降の遺構(75)(1/60)

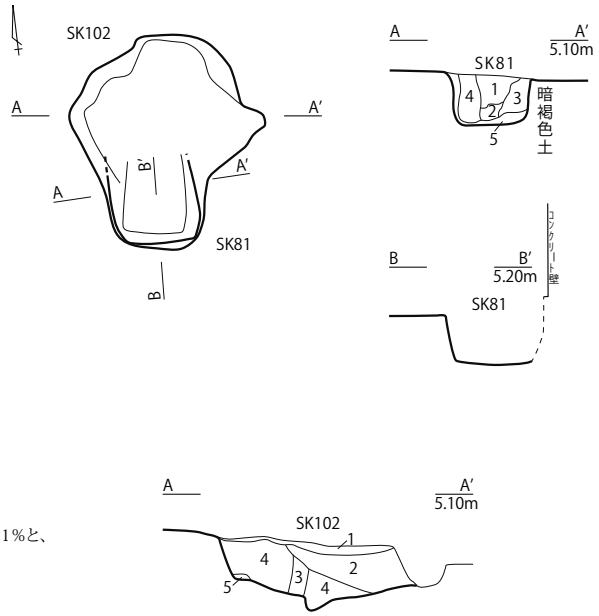
SK77(I 区)



SK77

①. 10YR4/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～3mm大の炭1％と、
　焼土を1％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. 2.5Y7/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5mm大の炭5％と、
　1～3mm大焼土2％を含む。砂ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。
③. 10YR5/4 にぶい黄褐　粒子はやや粗く、粘性が強い。1～5mm大の
　炭を3～5％と、砂層60％を含む。締まりは弱く、軟質。

SK81・SK102(I 区)



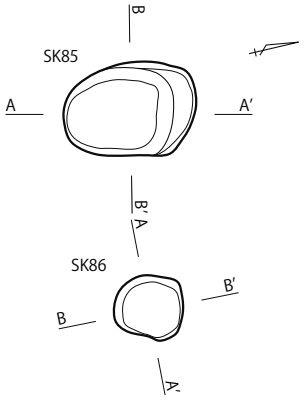
SK102

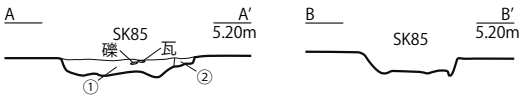
1. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
　2～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
　3～10mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まり弱く、軟質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。
　1～3mm大の粘土を3％含む。締まり弱く、極めて軟質。
4. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
　1～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりやや弱く、やや軟質。
5. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。締まり良好、やや軟質。

SK81

1. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
　2～10mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まり弱く、軟質。
2. 10YR5/6 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。
　5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まり弱いが、硬質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は極めて強い。
　3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりに欠け、軟質。
4. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は強い。
　2～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まり弱く、やや軟質。
5. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。やや硬質。

SK85・SK86(J 区)





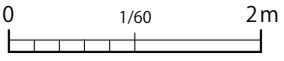
SK85

①. 7.5YR5/2 灰褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　0.3～0.5cm大の炭を1％含む。酸化粒10％を含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
　茶色粒を若干含む。締まりは弱く、軟質。



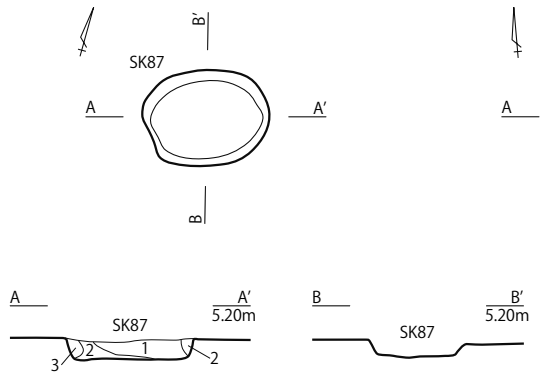
SK86

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土粒を2％と炭を1％含む。
　1～10mm大の粘土を30％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1mm大の炭を若干含む。
　締まりはやや弱く、やや軟質。



第111図　近世以降の遺構(76)(1/60)

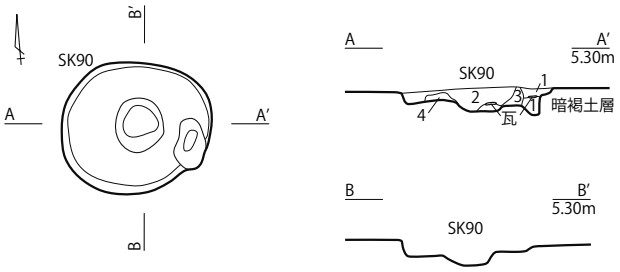
SK87(J 区)



SK87

1．2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。2mm大の焼土を若干含む。
　0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
2．2.5Y6/2 灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。1～2mm大の茶色粒を3%と
　5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、軟質。

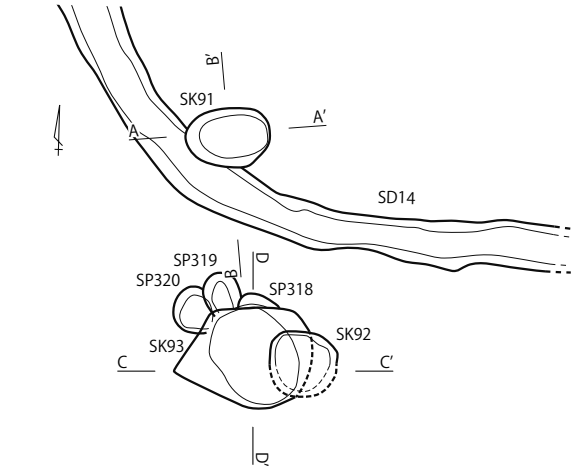
SK90(J 区)

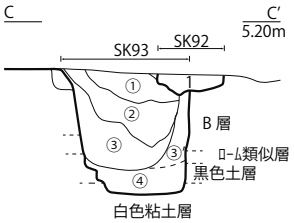


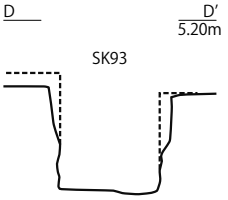
SK90

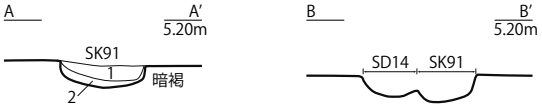
1．10YR5/2 灰黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。瓦を含む。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸﾊﾞｰｽ層。締まりに欠け、軟質。
2．10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の焼土を2%、
　炭を1%、5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5%含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを10%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　微炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK91・SK92・SK93・SP318・SP319・SP320(J 区)









SK91

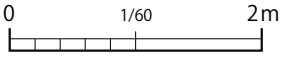
1．10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～5mm大の
　焼土を3%と炭を1%含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
　微焼土を若干含む。締まりは良好、やや軟質。

SK92

1．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。
　1～2mm大の焼土を若干含む。締まりは弱く、軟質。

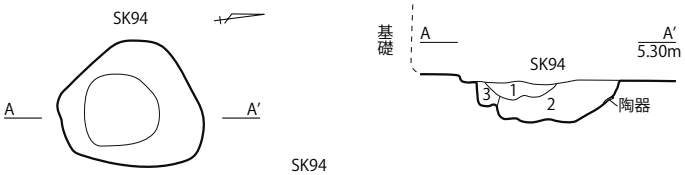
SK93

①. 2.5Y5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～10mm大の
　粘土を60%を含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。
　1～2mm大の焼土を1%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
③. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は極めて強い。
　焼土は含まれない。締まりはやや弱く、やや軟質。
③'. ③よりやや硬質。
④. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。
　酸化粒、炭を若干含む。締まりやや弱く、やや軟質。



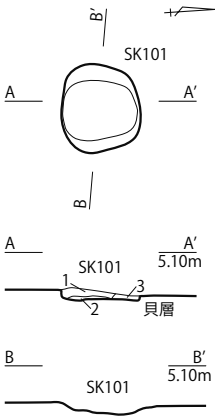
第112図　近世以降の遺構(77)(1/60)

SK94(J 区)



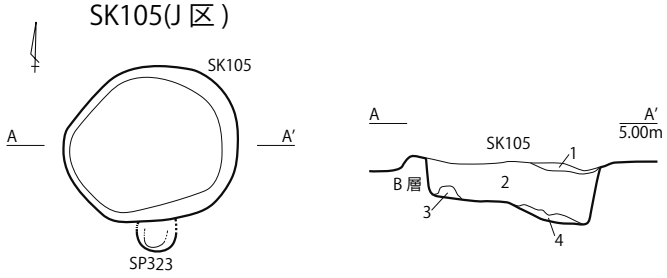
SK94
1．2.5Y6/6 明黄褐色　砂層。瓦を含む。締まりは弱いが、やや硬質。
2．2.5Y6/4 にぶい黄色　砂層。粒子は細かく、粘性に欠ける。
3．2.5Y6/6 明黄褐色　砂層。1. よりやや硬質。

SK101(J 区)



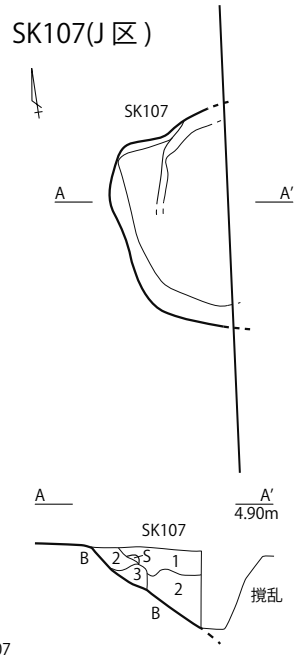
SK101
1．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
　1～3mm大の焼土を5％、炭を2％含む。締まり弱く、軟質。
2．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性やや強い。
　微焼土を若干含む。締まり弱く、軟質。
3．10YR3/3 暗褐色　粒子は細かく、粘性やや弱い。
　締まり弱く、やや軟質。

SK105(J 区)



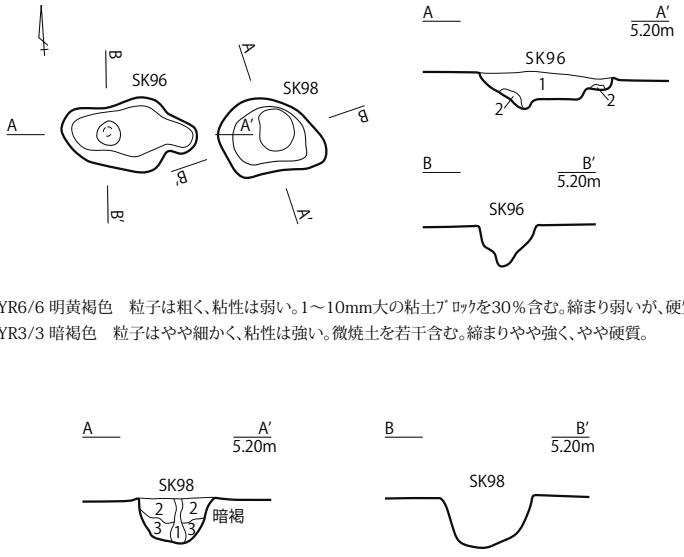
SK105
1．10YR 4/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。1cm大の貝を少量含む。締まりは強く、やや硬質。
2．10YR 3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性やや弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
3．10YR 3/3 暗褐色　C層類似。粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
4．10YR 3/6 黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。粒子はやや粗く、粘性は弱い。締まりやや弱く、やや軟質。

SK107(J 区)



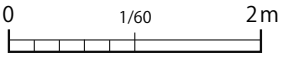
SK107
1．10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　微焼土を若干含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、やや硬質。

SK96・SK98(J 区)



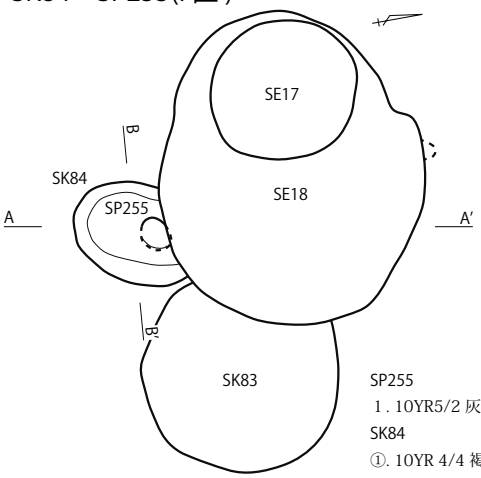
SK96
1．10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～10mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まり弱いが、硬質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。微焼土を若干含む。締まりやや強く、やや硬質。

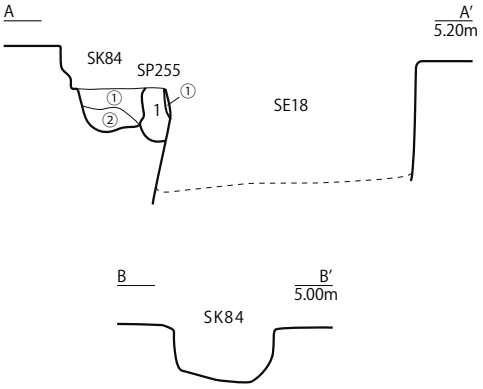
SK98
1．2.5Y4/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は強い。1～2mm大の炭を1％含む。締まりに欠け、軟質。
2．10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。2～3mm大の粘土粒を10％含む。締まりに欠け、軟質。
3．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりやや有りやや軟質



第113図　近世以降の遺構（78）（1/60）

SK84・SP255(I 区)

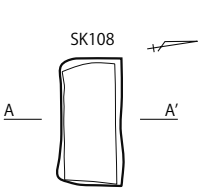


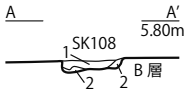


SP255
1. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まり弱く、軟質。

SK84
①. 10YR 4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.3～3cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％と1mm大の炭を1％含む。締まり弱く、軟質。
②. 10YR 3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。2～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸ3％と炭を若干含む。締まりやや弱く、やや軟質。

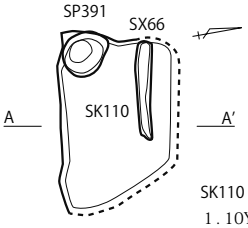
SK108(J 区)

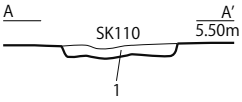




SK108
1. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
締まりは弱く、軟質。

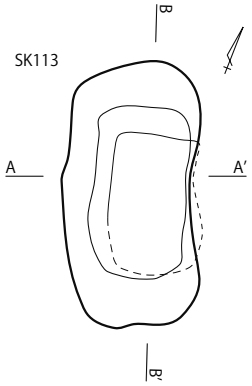
SK110(J 区)

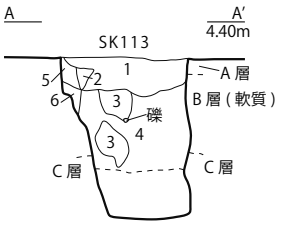


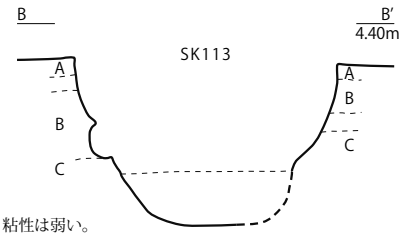


SK110
1. 10YR6/3 黄橙　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
3mm大粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。

SK113(K 区)

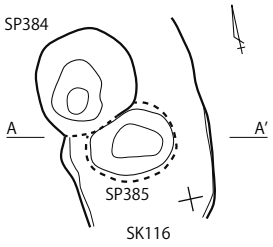


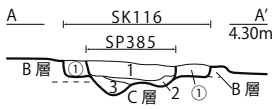




SK113
1. 5YR4/4 にぶい赤褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
0.2～2cm大の焼土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 10YR5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを
30％含む。締まり弱く、軟質。
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。
焼土はほとんど含まれない。締まり弱く、軟質。
4. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性に欠く。1～10cm大の礫を
5％、0.5～1cm大の焼土を7％含む。締まり弱く、軟質。
5. 2.5Y5/6 黄褐色　ﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸか。
6. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、やや軟質。

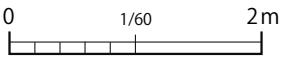
SK116・SP384・SP385(J 区)





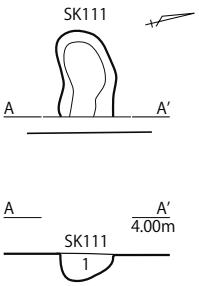
SP385
1. 10YR4/2 灰褐色　粒子は極めて、粗く粘性は弱い。
2～3mm大の酸化粒を3％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の
焼土を3％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR2/1 黒色　C層混じる。粒子は粗く、粘性は弱い。
灰褐層を含む。締まりは弱く、軟質。

SK116
①. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。B層に類似。
2～3mm大の酸化粒を5％含む。締まりは弱く、軟質。



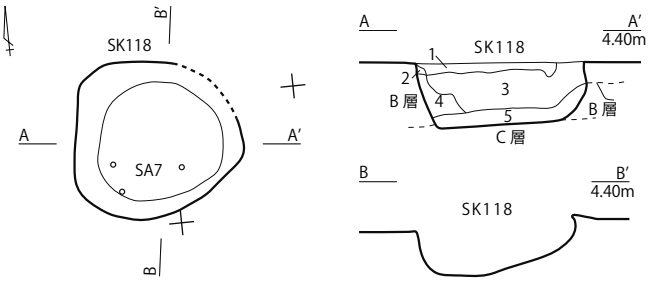
第114図　近世以降の遺構(79) (1/60)

SK111(K 区)



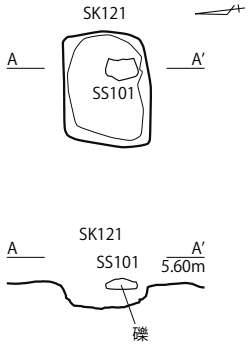
SK111
1．2.5Y4/1 黄灰色　粒子は粗く、茶色ﾌﾞﾛｯｸ・粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。やや軟質。

SK118・SA7(K 区)

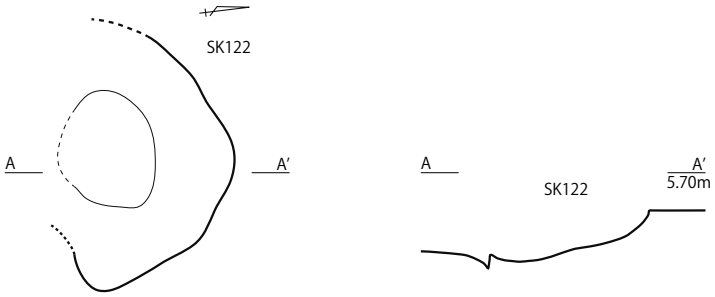


SK118
1．7.5YR5/3 にぶい褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を5％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。3mm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
3．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2cm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりは弱く、軟質
4．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。3mm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりは弱く、軟質。
5．2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、　軟質。

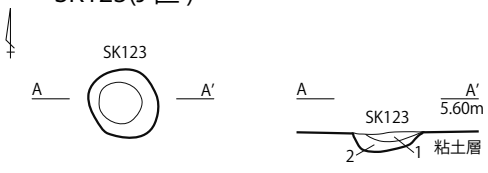
SK121(J 区)



SK122(J 区)

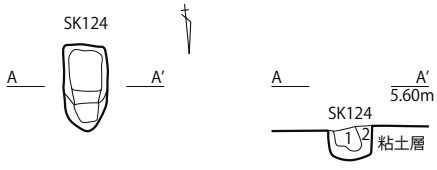


SK123(J 区)

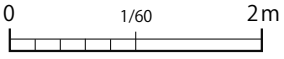


SK123
1．10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く。粘性は弱い。3～5mm大の
砂ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
2．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く。粘性は強い。
瓦を少量含む。締まりは弱く、軟質。

SK124(J 区)

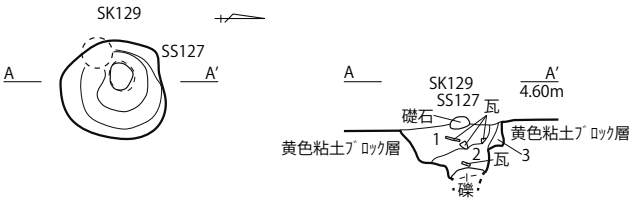


SK124
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。1～3mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりに欠け、軟質。
2．10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。1～5mm大の
砂ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは良好。やや軟質。



第115図　近世以降の遺構（80）（1/60）

SK129(M 区)



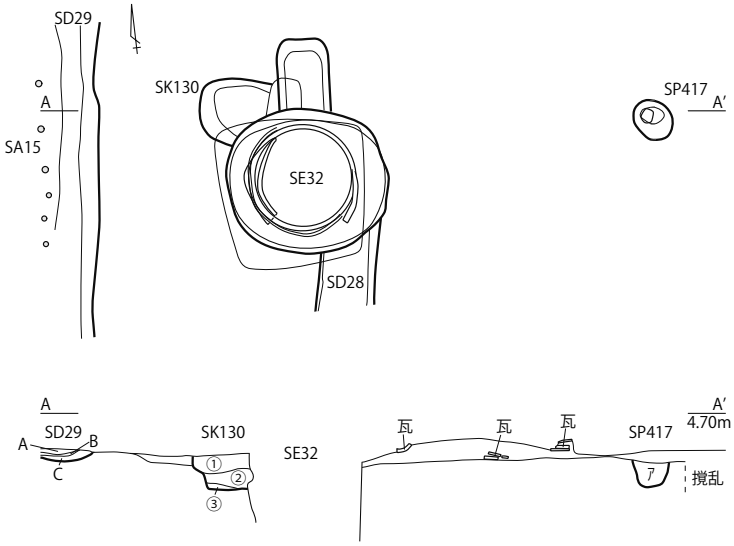
SK129

1．7.5YR4/3 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。0.2~1cm大の
焼土を7%、炭を3%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

2．5Y8/4 淡黄色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。0.2~1cm大の焼土・
炭を2%、1~2cm大の黄色粘土を30%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

3．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。
炭を若干含む。締まりは良好、やや硬質。

SK130・SB28・SD29・SP417(M 区)



SD29

A．7.5YR6/6 橙色　粒子は細かく、粘性はなし。焼土層。締まりは強く、硬質。

B．7.5YR2/1 黒色　粒子は細かく、粘性は弱い。炭層。締まりは良好、やや軟質。

C．10YR7/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1mm大の焼土、
炭を若干含む。締まりは良好、やや硬質。

SK130

①．10YR5/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1cm大の焼土を若干、1~3mm大の
炭を5%含む。締まりはやや弱く、やや硬質。

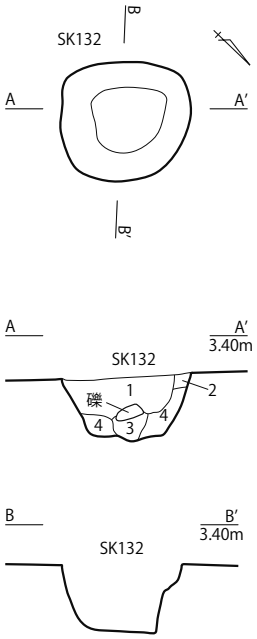
②．10YR6/3 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1~3mm大の焼土、
炭を2%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

③．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。微炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。

SP417

ｱ．5YR6/4 ｵﾘｰﾌﾞ黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5~2cm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを30%含む。締まりは弱く、軟質。

SK132(M 区)



SK132

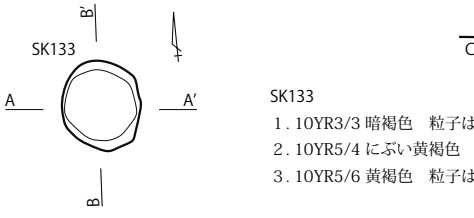
1．2.5Y6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.3～1cm大の
焼土を10%、炭を5%含む。ﾌﾞﾛｯｸ的。締まりは弱く、軟質。

2．5YR3/4 暗赤褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2mm大の
焼土、炭を1%含む。締まりは強く、やや硬質。

3．2.5Y3/1 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1cm大の
焼土を20%、炭を5%含む。締まりは弱いが、硬質。

4．7.5YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、2～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5%
含む。締まりは弱く、やや軟質。

SK133(M 区)

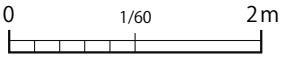


SK133

1．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりは良好、やや硬質。

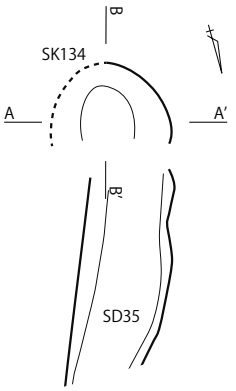
2．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を2%、炭を1%含む。締まりは弱く、やや軟質。

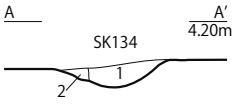
3．10YR5/6 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりは良好、やや軟質。



第116図　近世以降の遺構(81)（1/60）

SK134(M 区)

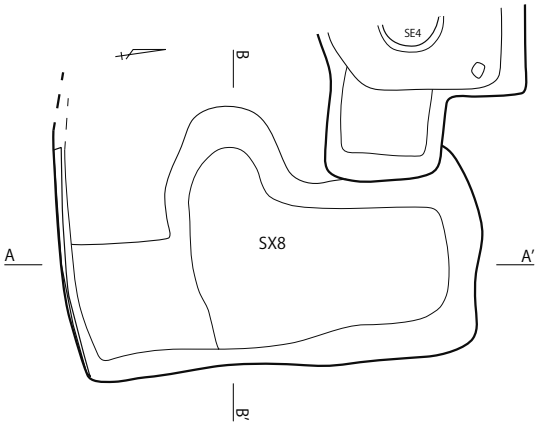






SK134
1 . 7.5YR3/3 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～3mm大の酸化土を10％と多く含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 2.5Y4/1 黄灰色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。軟質。

SX8(A 区)

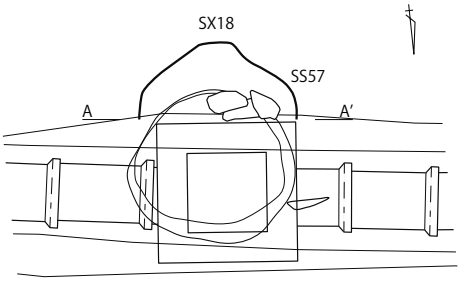


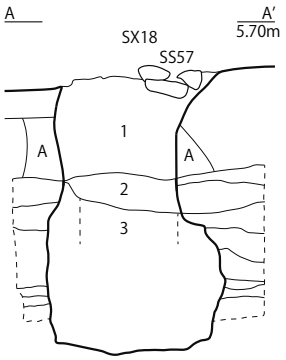




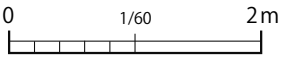
SX8
1 . N3/ 暗灰色　粒子はやや粗く、やや軟質。

SX18・SS57(E 区)



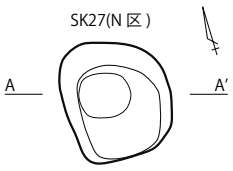


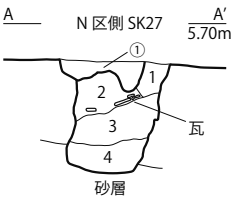
SX18
1. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを20～30％含む。硬質。
2. 5B4/1 暗青灰色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。炭化材を僅かに含む。硬質。
3. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性はやや有り。粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。やや軟質。
A. 5Y8/1 灰白色　粘土層。掘り方か。



第117図　近世以降の遺構(82)(1/60)

SK27(C・N 区)



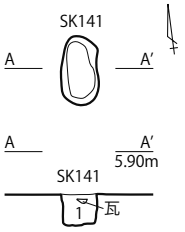


N区側SK27

①. 撹乱土　ｺﾝｸﾘを20%、瓦を10%含む。

1. 10YR4/2 灰黄褐色　混焼土層。粒子は粗く、粘性は弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗い。下位に瓦を5%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3cm大の粘土を5%、焼土を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 10YR3/4 暗褐色粒子は粗く、粘性はやや弱い。粘土を20%、礫を少量含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

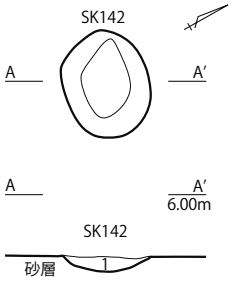
SK141(N 区)



SK141

1. 10YR4/4 褐色　1～4cm大の黄白色粘土を25%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

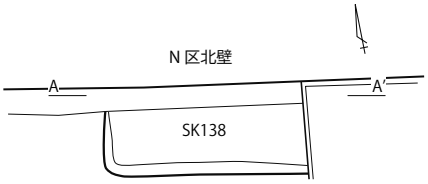
SK142(N 区)

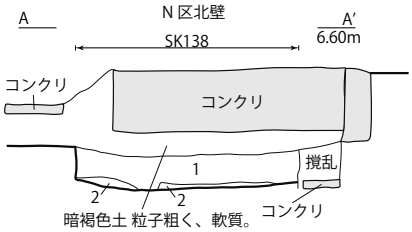


SK142

1. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2mm大の焼土を1%、炭を2%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK138(N 区)

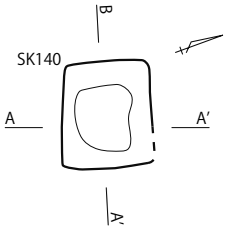


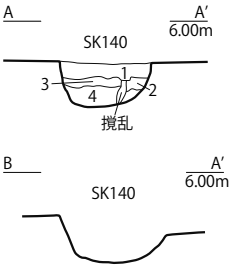


SK138

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～2㎝大の焼土ﾌﾞﾛｯｸを20%含む。締まりに欠け、軟質。
2. 5YR5/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂を20%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK140(N 区)

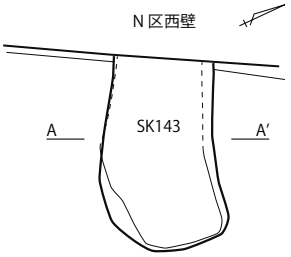


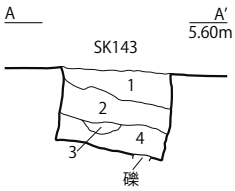


SK140

1. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。焼土粒若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 2.5Y8/4 淡黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。
3. 2.5Y5/3 黄褐色　粘土ﾌﾞﾛｯｸを10%含む褐色土。
4. 2.5Y4/2 暗灰黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK143(N 区)

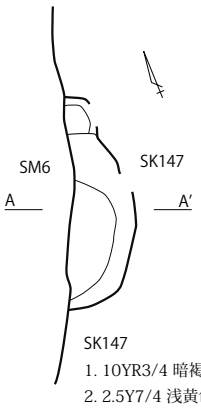


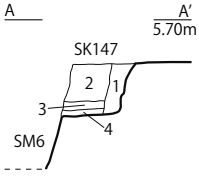


SK143

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。1～5cm大の礫を3%含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の粘土を2%、炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR3/4 暗褐色　2と4の中間層。
4. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。1～5mm大の粘土粒を3%含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK147(N 区)

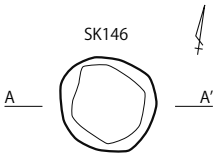




SK147

1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y7/4 浅黄色　ﾌﾞﾛｯｸ的で締まりに欠ける、やや軟質。
3. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。締まりは弱く、軟質。
4. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。ﾌﾞﾛｯｸ的、軟質。

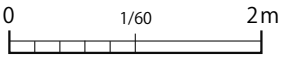
SK146(N 区)





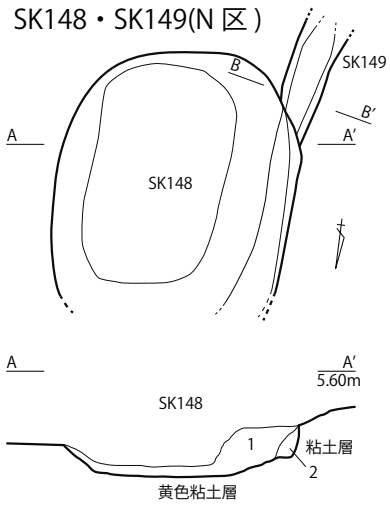
SK146

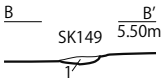
1. 10YR3/2 黒褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。締まりは弱く、軟質。



第118図　近世以降の遺構(83)(1/60)

SK148・SK149(N 区)

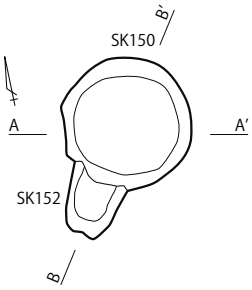


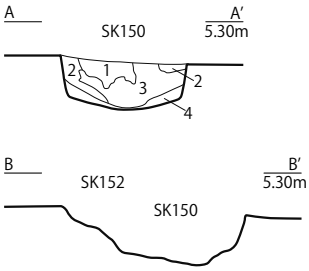


SK149
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK148
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　0.3～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
2. 1よりやや硬質。

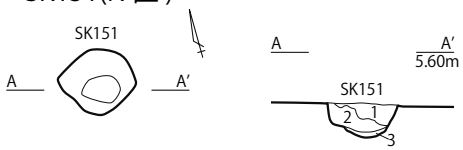
SK150・SK152(N 区)





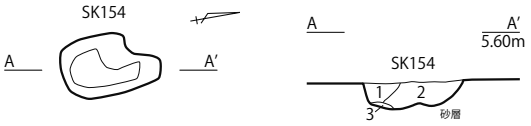
SK150
1. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子はやや粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを主体とする。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR2/1 黒色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。締まりは良好だが、やや軟質。
4. 10YR3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。粘土粒を2％含む。締まりは良好、やや軟質。

SK151(N 区)



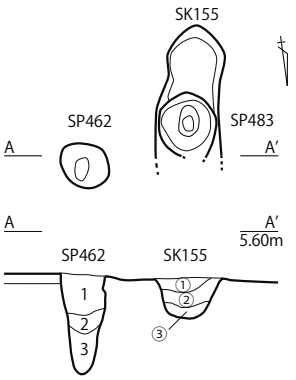
SK151
1. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR7/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.3～0.5cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK154(N 区)

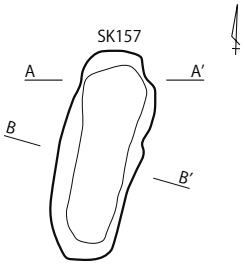


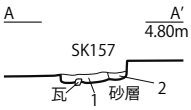
SK154
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　0.5cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。
　砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR6/6 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。

SK155・SP462・SP483(N 区)

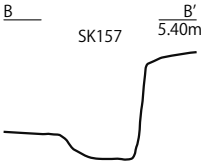


SK157(N 区)



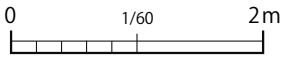


SK157
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、
　B層類似層を含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 1よりやや軟質。



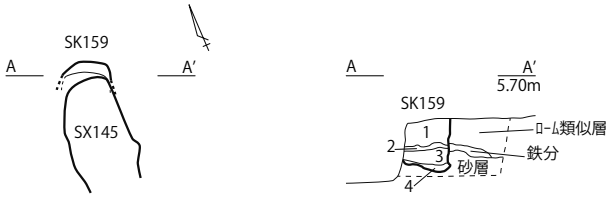
SP462
1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは良好、やや軟質。
2. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。締まりは良好、やや軟質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや強い。締まりはやや弱く、やや軟質。

SK155
①. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。
②. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。
③. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。
　締まりはやや強く、やや硬質。



第119図　近世以降の遺構(84)(1/60)

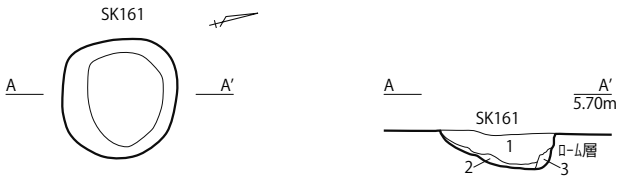
SK159(N 区)



SK159

1. 2.5Y6/3 黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりはやや弱く、やや硬質。
2. 2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　酸化層か。粒子は細かく、やや硬質。
3. 2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。砂混じり層。
4. 2.5Y2/2 灰黄色　粒子はやや細かく、粘性に欠く。砂を10％含む。締まりはやや弱く、やや硬質。

SK161(N 区)



SK161

1. 2.5Y5/3 黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 2.5Y8/4 淡黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ層。

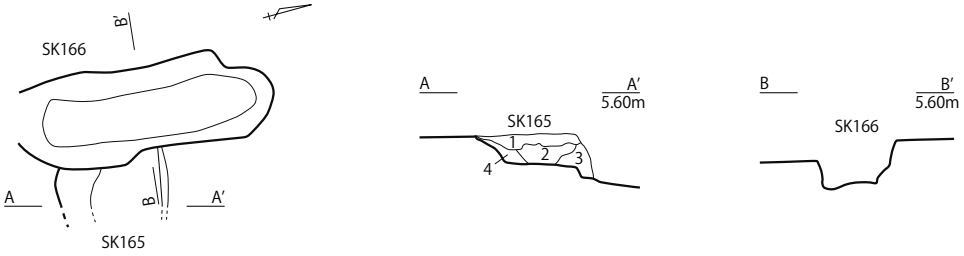
SK163(N 区)



SK163

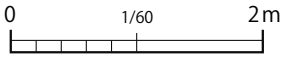
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。微炭を若干含む。締まりに欠け、やや軟質。

SK166(N 区)



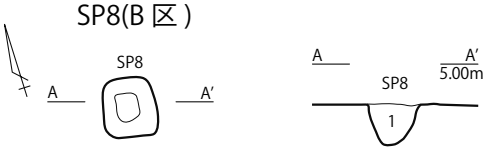
SK165

1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～3mm大の炭を3％、焼土を1％、1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR7/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや強い。0.5～2cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを40％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR4/3 にぶい黄褐色　別遺構か　粒子は粗く、粘性はやや弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 2.5Y4/7 浅黄色　砂層ベース。やや軟質。



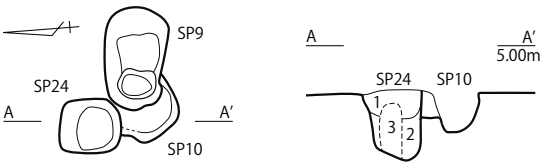
第120図　近世以降の遺構(85)（1/60）

SP8(B 区)



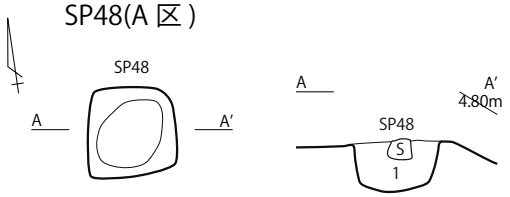
SP8
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。やや軟質。

SP9・SP10・SP24(A 区)



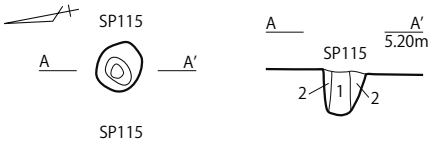
SP24
1．10YR7/4 にぶい黄橙色　粒子は粗いが、粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや有り。粘土粒を若干含む。
3．N4/ 青灰色　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。締まりに欠け、軟質。

SP48(A 区)



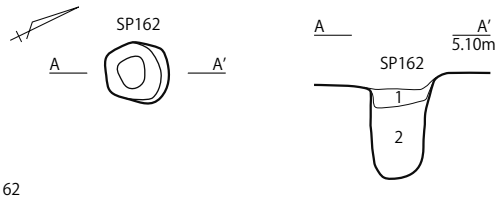
SP48
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや有り。粘土ﾌﾞﾛｯｸを含む。やや軟質。

SP115(D 区)



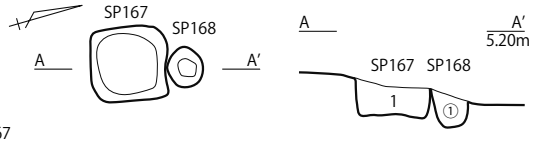
SP115
1．10YR3/2 黒褐色　粒子はやや細かく、
焼土粒を若干含む。やや硬質。
2．10YR7/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、
粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。やや軟質。

SP162(E 区)



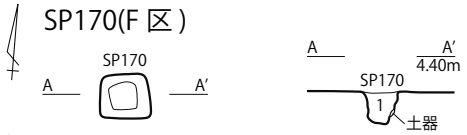
SP162
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。やや軟質。
2．10YR4/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘性は強い。粘土粒を若干含む。やや軟質。

SP167・SP168(E 区)



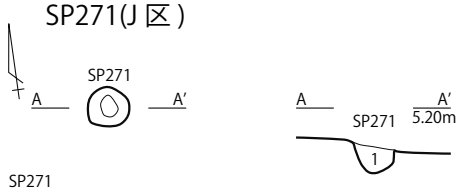
SP167
1．7.5Y5/1 灰色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。やや軟質。
SP168
①. 10YR5/1 灰色　粒子は極めて粗く、かわらけ・瓦を多量に含む。締まりは弱く、軟質。

SP170(F 区)



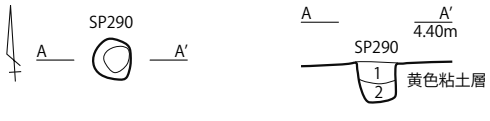
SP170
1．2.5Y5/2 暗灰黄色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％と炭を少量含む。やや軟質。

SP271(J 区)



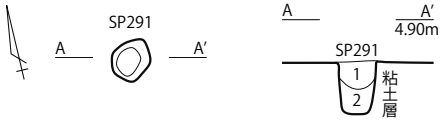
SP271
1．10YR4/2 灰黄褐　粒子は極めて粗く、粘性は強い。1～2mm大の
焼土と粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。

SP290(I 区)

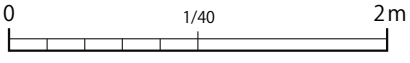


SP290
1．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の
炭を1％、酸化粒を5％含む。締まり良好、やや硬質。
2．2.5Y6/2 灰黄色　粒子は細かく、粘性は強い。1～2mm大の
炭を1％含む。締まり良好、やや硬質。

SP291(I 区)

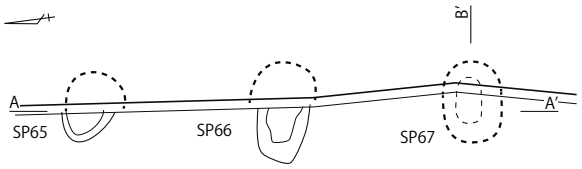


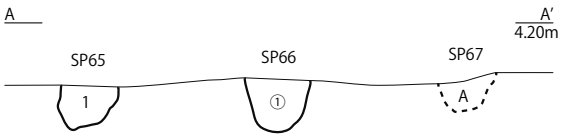
SP291
1．10YR2/1 黒色　粒子は細かく、粘性は強い。締まりやや弱く、やや軟質。
2．10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりやや弱く、やや軟質。



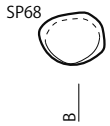
第121図　近世以降の遺構（86）（1/40）

SP65・SP66・SP67(A 区)





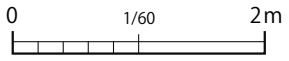




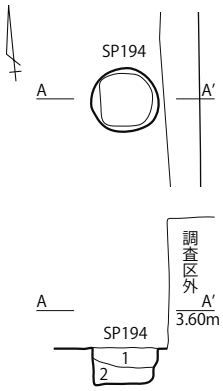
SP65
1. 10YR 4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
　粘土粒を若干含む。やや軟質。

SP66
①. 10YR 6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性はやや有り。
　粘土小ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。やや軟質。

SP67
A. 10YR 7/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。
　粘土小ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。やや硬質。

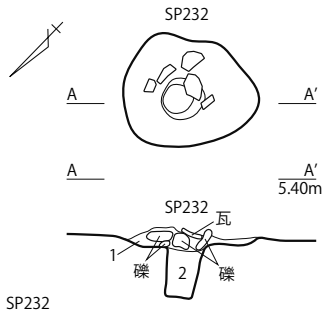


SP194(F 区)



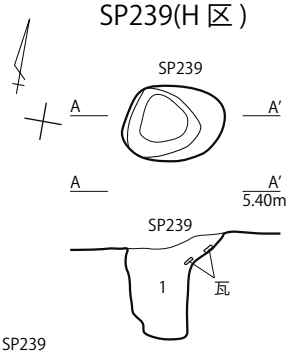
SP194
1. 10YR 5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR 3/1 黒褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　締まりはやや弱く、やや軟質。

SP232(H 区)



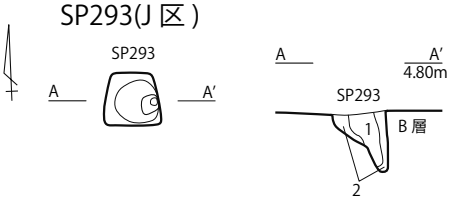
SP232
1. 10YR 3/2 黒褐色　粒子はやや粗く、やや硬質。
2. 10YR 4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、礫を若干含む。やや軟質。

SP239(H 区)



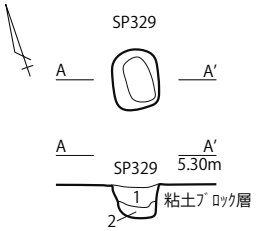
SP239
1. 10YR 4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性はやや強い。
　瓦を含む。やや軟質。

SP293(J 区)



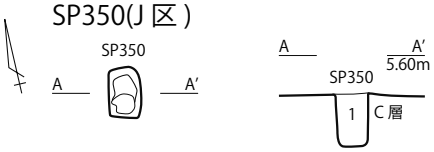
SP293
1. 10YR 4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。褐色土ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR 5/2 灰黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。酸化粒を3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP329(J 区)

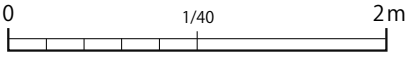


SP329
1. 10YR5/4 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1.5cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子はやや粗く、粘性は強い。3mm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

SP350(J 区)

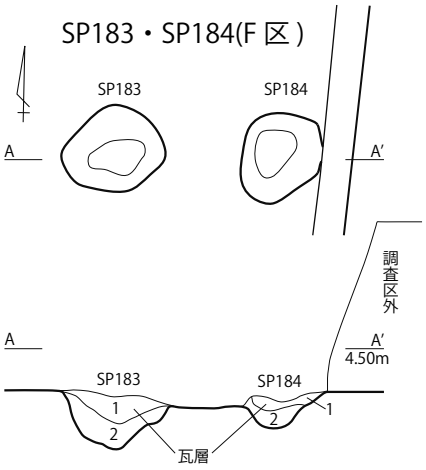


SP350
1. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。



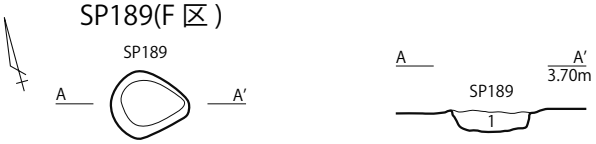
第122図　近世以降の遺構(87)(1/40・1/60)

SP183・SP184(F 区)



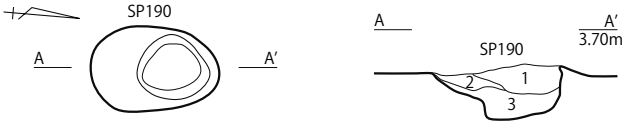
SP183・SP184
1．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、瓦を多量に含む。
2．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。
粘土粒・焼土粒を含む。やや軟質。

SP189(F 区)



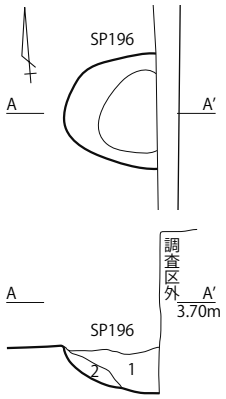
SP189
1．10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％と焼土を若干含む。やや軟質。

SP190(F 区)



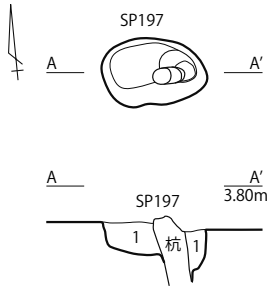
SP190
1．2.5Y4/1 黄灰色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。粘土粒を7％含む。やや軟質。
2．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土粒を20％含む。やや軟質。
3．2.5Y3/1 黒褐色　粒子は細かく、やや硬質。

SP196(F 区)



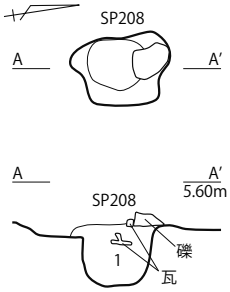
SP196
1．10YR5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。軟質。
2．5Y7/6 黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。軟質。

SP197(F 区)



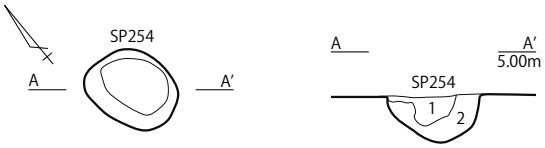
SP197
1．2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。
粘土粒を5％含む。やや軟質。

SP208(H 区)

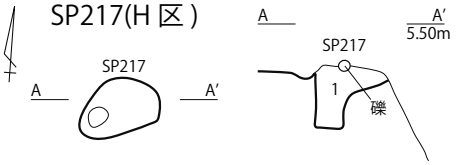


SP208
1．N4/ 灰色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％と
焼土を若干含む。やや軟質。

SP254(J 区)



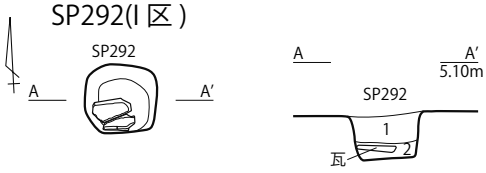
SP217(H 区)



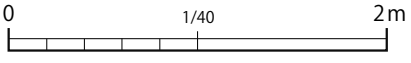
SP217
1．10YR6/1 褐灰色　粒子はやや粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％と炭を若干含む。やや硬質。

SP254
1．10YR3/4 暗褐色　柱痕状。粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の炭3％と、焼土を1％含む。締まりは弱く、軟質。
2．2.5YR3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の焼土2％と、炭を1％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP292(I 区)

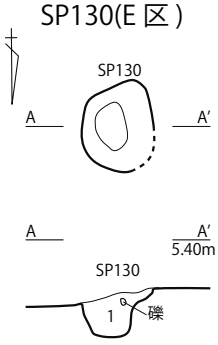


SP292
1．10YR 4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の酸化粒を15％含む。締まり弱く、軟質。
2．10YR 4/2 灰黄褐色　酸化粒ほとんどなし。締まり良好、やや硬質。



第123図　近世以降の遺構(88)(1/40)

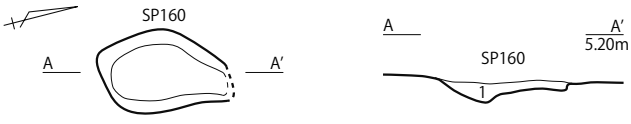
SP130(E 区)



SP130

1 . 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。
粘土粒と焼土粒を若干含む。やや軟質。

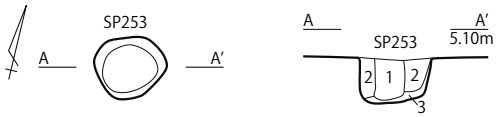
SP160(E 区)



SP160

1 . 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。やや硬質。

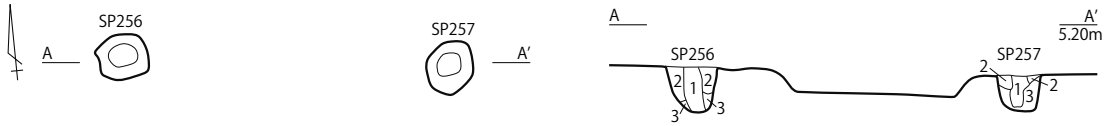
SP253(J 区)



SP253

1 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3 . 10YR3/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。締まりは強く、硬質。

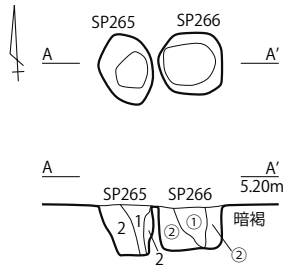
SP256・SP257(J 区)



SP256･SP257

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。焼土、炭を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
3. 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。締まりはやや有り。やや硬質。

SP265・SP266(J 区)



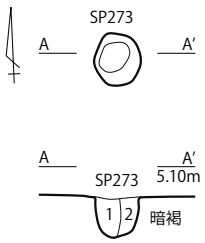
SP265

1 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽに酸化粒を5％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。酸化粒を3％含む。締まりは弱く、軟質。

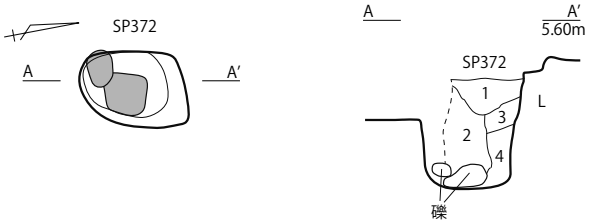
SP266

①. 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR4/1 褐灰色　粒子は粗く、粘性は強い。3～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

SP273(J 区)



SP372(J 区)

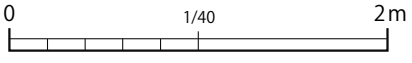


SP372

1 . 10YR4/2 黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR5/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりは弱く、軟質。
3 . 10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや強く、やや硬質。
4 . 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。締まりは良好。やや硬質。

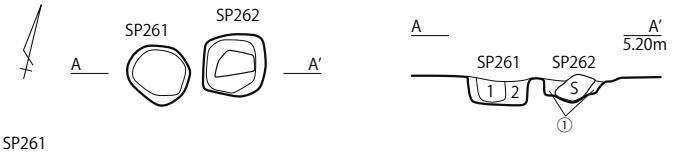
SP273

1 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。1～3mm大の
焼土粒を2％と微炭を1％含む。締まりは弱く、軟質。
2 . 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。微炭と3mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。



第124図　近世以降の遺構(89) (1/40)

SP261・SP262(J 区)



SP261

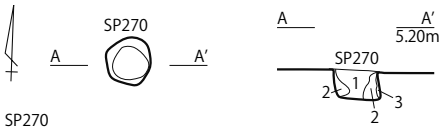
1．2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。酸化粒を若干含む。締まりに欠け、軟質。

2．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の茶色粒を5％含む。締まりに弱く、軟質。

SP262

①. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。

SP270(J 区)



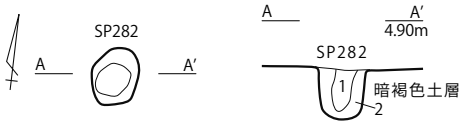
SP270

1．7.5YR4/2 灰褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

2．10YR6/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の灰色粘土を7％含む。締まりは弱く、軟質。

3. 10YR3/3暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。

SP282(J 区)

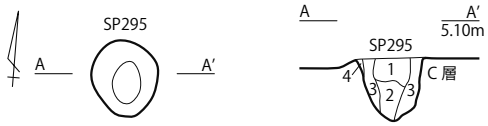


SP282

1．10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを1％含む。締まり弱く、軟質。

2．2.5Y5/3 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まり弱いが、硬質。

SP295(J 区)



SP295

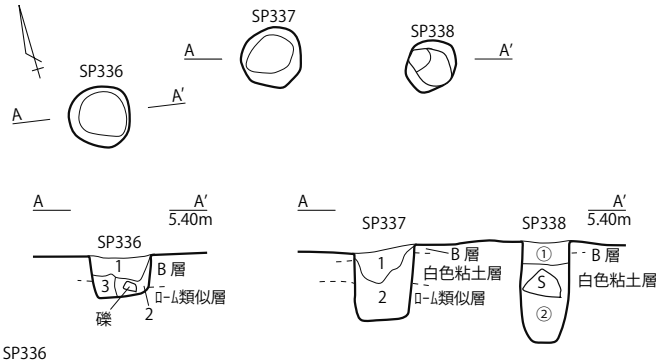
1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土と、4mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりやや弱く、軟質。

2．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。微炭を若干含む。締まり弱く、軟質。

3．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。粘粒を若干含む。締まり良好、やや軟質。

4．10YR2/2 黒褐色　粒子は細かく、粘性は強い。焼土を若干含む。締まり良好、やや硬質。

SP336・SP337・SP338(J 区)



SP336

1．10YR3/4 暗褐　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の焼土を2％、炭を1％、3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱いが、やや硬質。

2．10YR4/3 にぶい黄褐　粒子は極めて粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

3．10YR4/4 褐　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

SP337

1．10YR4/1 褐灰　粒子は粗く、粘性は強い。3mm大の焼土と炭を1％ずつ含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

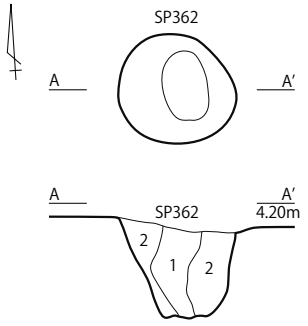
2．10YR5/3 にぶい黄褐　粒子は粗く、粘性は強い。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP338

①. 10YR4/2 灰黄褐　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。1～2mm大の炭と焼土を2％ずつ、3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、軟質。

②. 10YR5/2 灰黄褐　粒子は極めて粗く、粘性はやや強い。締まりは弱く、軟質。

SP362(K 区)

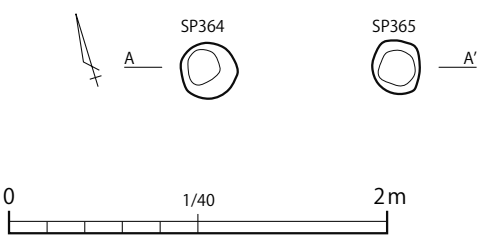


SP362

1．10YR3/4 暗褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。砂質ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりに欠け、軟質。

2．2.5Y5/3 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5cm大の砂質ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりは弱く、軟質。

SP364・SP365(J 区)



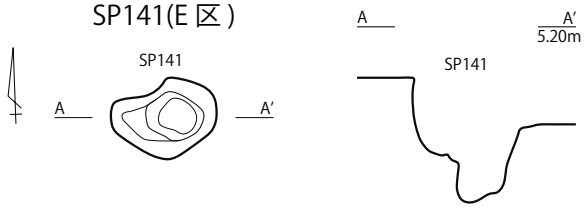
SP364・SP365

1．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。

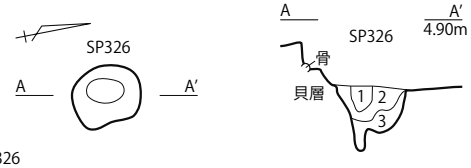
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。5mm大のﾛｰﾑ粒を5％、瓦を含む。締まりは弱く、軟質。

第125図　近世以降の遺構(90)（1/40）

SP141(E 区)



SP326(J 区)



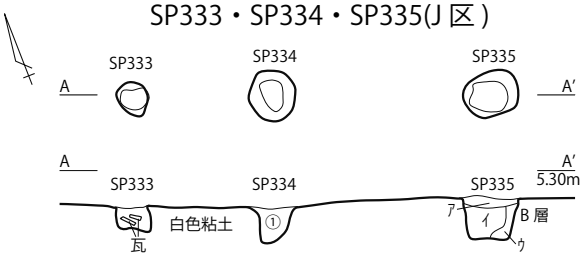
SP326

1．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや有り。1～2cm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりに欠け、軟質。

2．10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性は極めて強い。締まりは強く、硬質。

3．10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は極めて強い。締まりに欠け、軟質。

SP333・SP334・SP335(J 区)



SP333

1．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸとﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを3％、炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。

SP334

①．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。1mm大の焼土と炭、1～2mm大の粘土を1％含む。締まりは弱く、やや軟質。

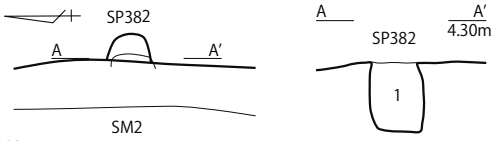
SP335

ｱ．10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5mm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりはやや強く、やや硬質。

ｲ．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。礫と3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを若干含む。締まりは弱く、軟質。

ｳ．10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。礫を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

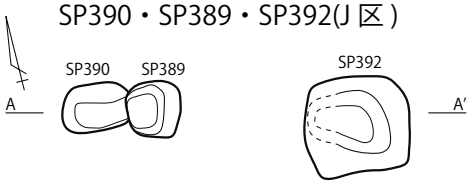
SP382(K 区)



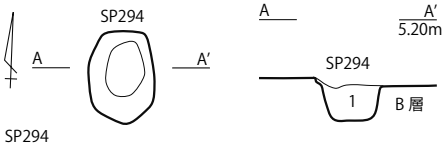
SP382

1．10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。1～3mm大の焼土を3％、炭を2％含む。締まりに欠け、軟質。

SP390・SP389・SP392(J 区)



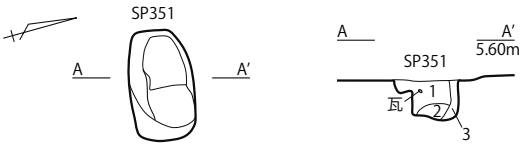
SP294(I 区)



SP294

1．10YR 3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1～3mm大の炭を1％と1～5mm大の焼土を7％含む。締まり弱く、軟質。

SP351(J 区)



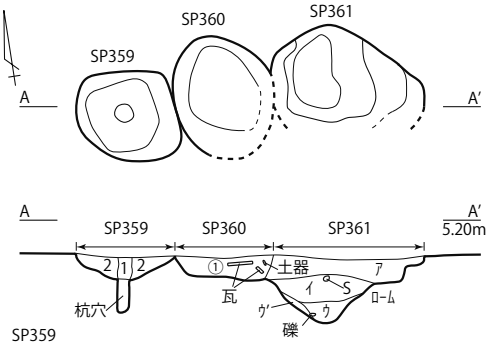
SP351

1．10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。1mm大の炭を2％含む。B層に類似。締まりは弱く、軟質。

2．10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。

3．10YR4/4 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、やや軟質。

SP359・SP360・SP361(J 区)



SP359

1．2.5Y5/1 黄灰色　粒子は粗く、粘性は弱い。1cm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。

2．2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりに欠け、軟質。

SP360

①．2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。3mm大のﾛｰﾑﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。

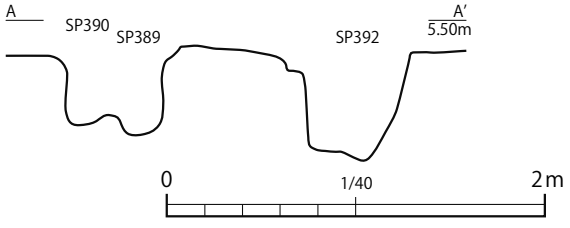
SP361

ｱ．10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2mm大のﾛｰﾑ粒を3％含む。締まりは弱く、軟質。

ｲ．10YR5/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや強い。締まりは弱く、軟質。

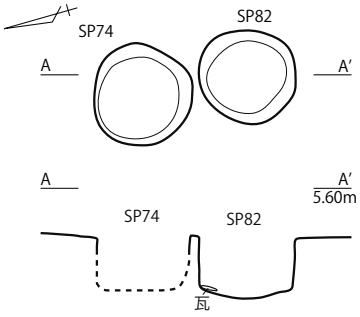
ｳ．2.5Y4/6 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は強い。軟質ﾛｰﾑか。締まりは良好。やや軟質。

ｳ'．ｳよりやや硬質。

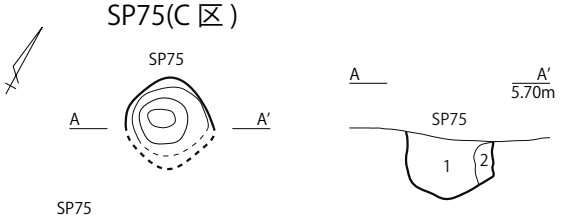


第126図　近世以降の遺構(91)(1/40)

SP74・SP82(C 区)



SP75(C 区)

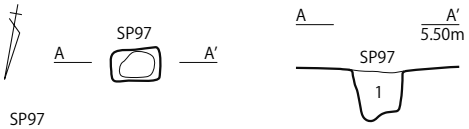


SP75

1 . 10YR5/2 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。やや軟質。

2 . 7.5Y8/3 淡黄色　粘土ﾌﾞﾛｯｸ。

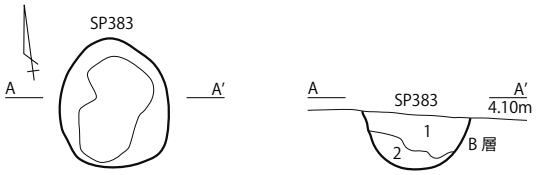
SP97(C 区)



SP97

1 . 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。やや軟質。

SP383(K 区)

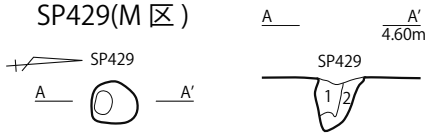


SP383

1 . 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.5～1cm大の
砂ﾌﾞﾛｯｸを15％、炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。

2 . 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～2mm大の
炭を2％、1～5mm大の砂ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりは弱く、軟質。

SP429(M 区)

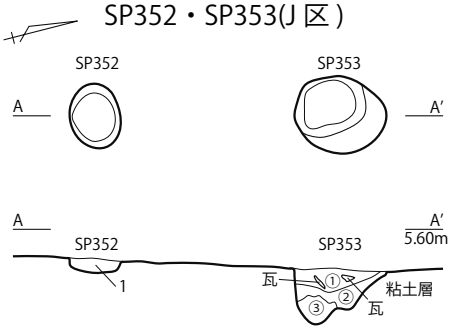


SP429

1 . 10YR4/2 灰黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1~3mm大の焼土、
炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。

2 . 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1~2mm大の
焼土を3％、炭を5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP352・SP353(J 区)



SP352

1 . 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。B層類似。5mm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを20％含む。締まりは弱く、軟質。

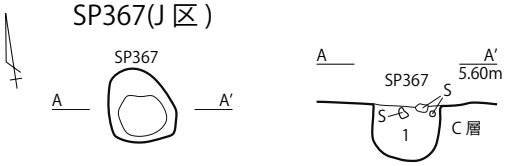
SP353

①. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の
砂ﾌﾞﾛｯｸを20％、1～3mm大の炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。

②. 10YR5/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は強い。5mm大の
砂ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりは弱く、軟質。

③. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
締まりはやや弱く、やや軟質。

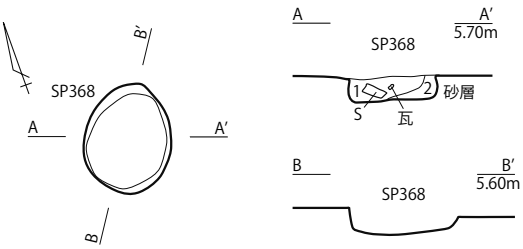
SP367(J 区)



SP367

1 . 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

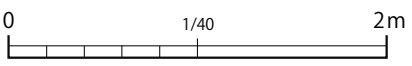
SP368(J 区)



SP368

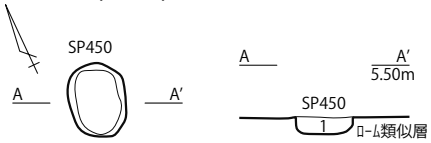
1 . 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。
遺物多量、上位に焼土粒集中。締まりは弱く、軟質。

2 . 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。
砂分を50％含む。締まりは弱く、軟質。



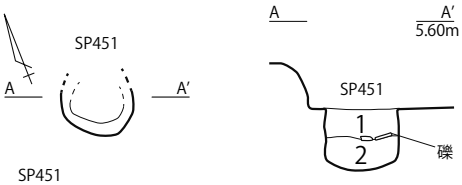
第127図　近世以降の遺構（92）（1/40）

SP450(N 区)



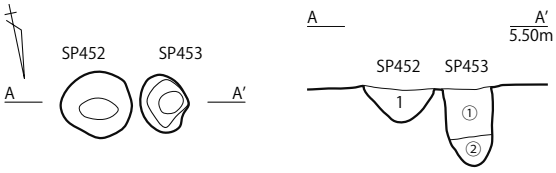
SP450
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。
　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP451(N 区)



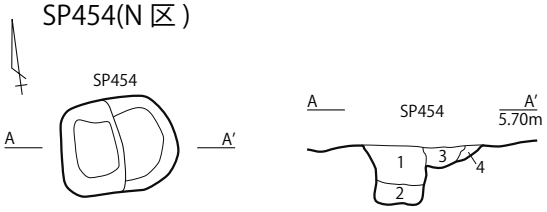
SP451
1. 2.5Y6/4 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は弱い。5mm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりは弱く、軟質。
2. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。5mm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP452・SP453(N 区)



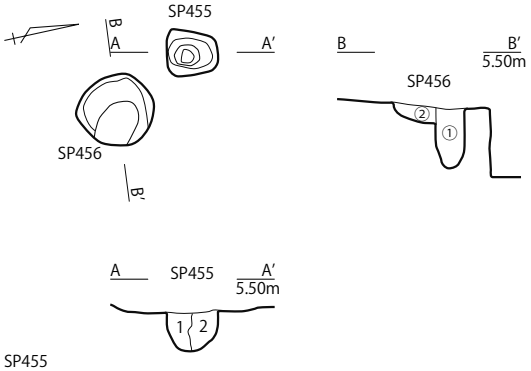
SP452
1. 2.5Y7/3 浅黄色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。
　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
SP453
①. 2.5Y4/4 ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。
　粘土ﾌﾞﾛｯｸ、焼土を若干含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性はやや弱い。
　締まりは良好、やや硬質。

SP454(N 区)



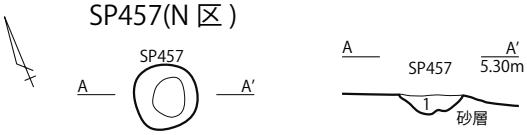
SP454
1. 10YR6/6 明黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。0.2～1cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや有り。
　締まりに欠け、軟質。
3. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。1cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
4. 2.5Y8/6 黄色　砂層ﾍﾞｰｽ。やや軟質。

SP455・SP456(N 区)



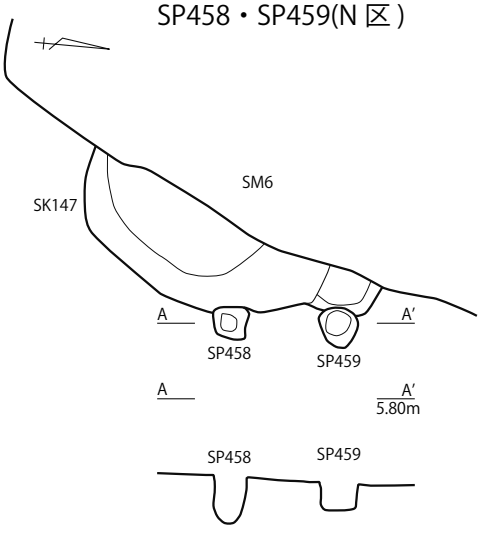
SP455
1. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。締まりに欠け、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりはやや弱く、やや軟質。
SP456
①. 10YR4/6 褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。微炭を若干含む。締まりは弱く、軟質。
②. 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性に欠く。締まりは弱く、軟質。

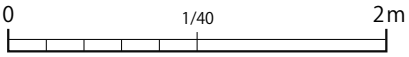
SP457(N 区)



SP457
1. 2.5Y2/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。3～5mm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを50％、茶色粒を5％含む。締まりは弱く、軟質。

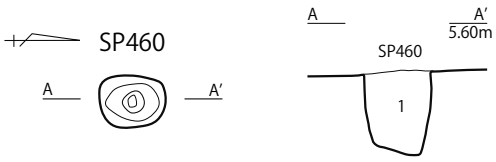
SP458・SP459(N 区)





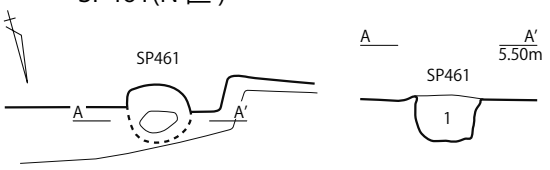
第128図　近世以降の遺構(93)(1/40)

SP460(N 区)



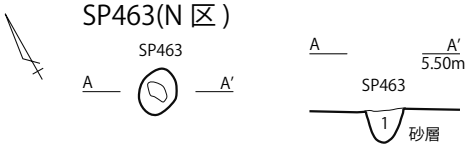
SP460
1. 2.5Y7/4 浅黄色　粒子は粗い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。

SP461(N 区)



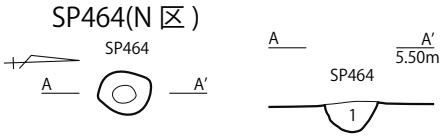
SP461
1. 2.5Y3/3 暗ｵﾘｰﾌﾞ褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。0.5～1cm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを15％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP463(N 区)



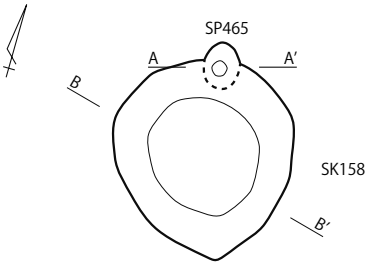
SP463
1. 2.5Y5/4 黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。砂質ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。

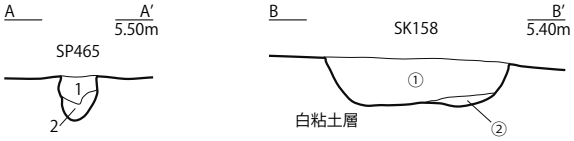
SP464(N 区)



SP464
1. 10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1cm大の
粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％、焼土を若干含む。締まりは弱く、硬質。

SK158・SP465(N 区)

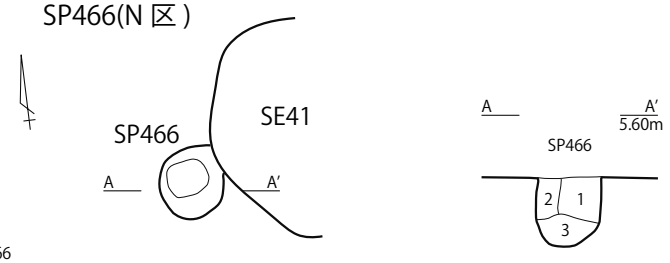




SP465
1．10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性はやや弱い。瓦を含む。締まりに欠け、軟質。
2．10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。締まりに欠け、軟質。

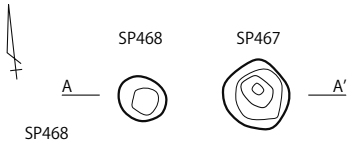
SK158
①. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～3mm大の
炭を2％、焼土を若干含む。B層に類似。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. ①に50％の砂が混ざった土層。

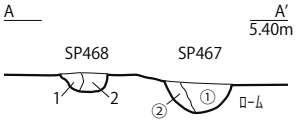
SP466(N 区)



SP466
1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。2～3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりに欠け、軟質。
2. 2.5Y7/6 黄色　粒子は粗く、粘性に欠く。砂層ﾍﾞｰｽ。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。締まりは弱く、軟質。

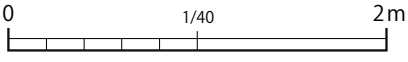
SP467・SP468(N 区)





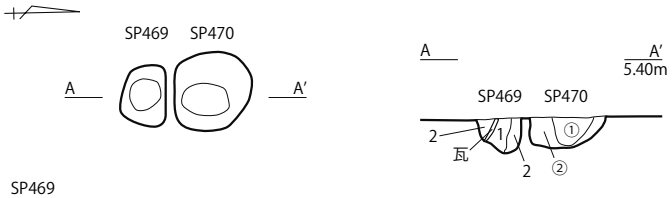
SP468
1．10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を5％、炭を2％含む。締まりは良好、やや硬質。
2．10YR3/3 暗褐色　粒子は細かく、粘性は弱い。1～2mm大の炭を2％含む。締まりは良好、やや硬質。

SP467
①. 10YR3/4 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。1～3mm大の焼土を5％、炭を2％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
②. 10YR3/3 暗褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや強い。焼土、炭を若干含む。締まりは良好、やや軟質。



第129図　近世以降の遺構(94)（1/40）

SP469・SP470(N 区)



SP469

1．10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は弱い。締まりは弱く、軟質。

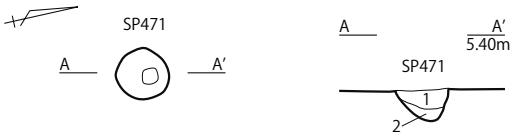
2．10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりは弱く、軟質。

SP470

①. 10YR3/4 暗褐色　粒子は細かく、粘性はやや有り。締まりは良好、やや硬質。

②. 10YR4/6 褐色　粒子は細かく、粘性はやや弱い。ﾛｰﾑ混じり、やや硬質。

SP471(N 区)

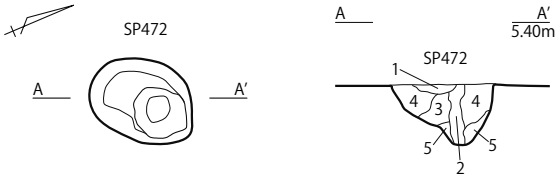


SP471

1. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。1～2mm大の焼土を2％、炭を1％含む。締まりは弱く、軟質。

2. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性はやや弱い。3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP472(N 区)



SP472

1. 10YR6/4 にぶい黄橙色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を3％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

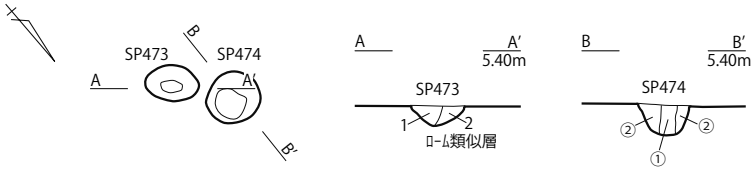
2. 10YR5/6 にぶい黄褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～5mm大の炭を2％含む。締まりは弱く、軟質。

3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを2％含む。締まりはやや強く、やや硬質。

4. 10YR4/4 褐色　粒子はやや細かく、粘性は弱い。5mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。締まりはやや強く、やや硬質。

5. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、締まりはやや強く、やや硬質。

SP473・SP474(N 区)



SP473

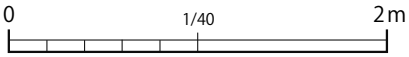
1. 5YR5/4 にぶい赤褐色　粒子は粗く、粘性は弱い。1～3mm大の焼土を5％、炭を1％含む。締まりは弱く、やや軟質。

2. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は弱い。焼土を若干含む。締まりは弱く、やや硬質。

SP474

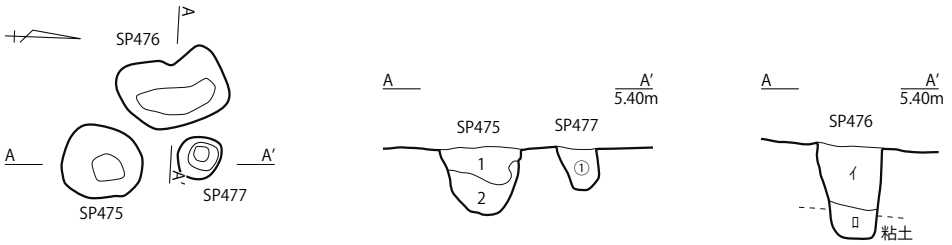
①. 10YR7/4 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。粘土ﾌﾞﾛｯｸを30％含む。締まりに欠け、軟質。

②.10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。3～5mm大の粘土粒を2％含む。締まりは良好、やや硬質。



第130図　近世以降の遺構(95)（1/40）

SP475・SP476・SP477(N 区)



SP475

1 . 2.5YR4/3 褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1～3mm大の焼土を若干含む。締まりは弱く、軟質。

2 . 10YR5/6 黄褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP477

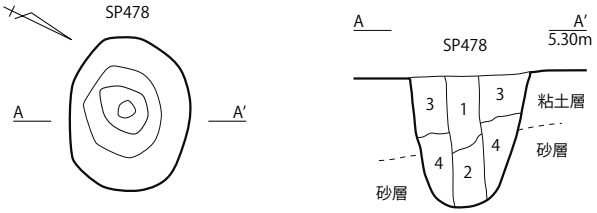
①. SP475上層と同じ　焼土・炭を含む褐色土。

SP476

ｲ. 10YR5/2 灰黄褐色　粒子はく、粘性は強い。青灰色土を40％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

ﾛ. 2.5Y6/3 にぶい黄色　粒子は粗く、粘性は強い。締まりは弱く、軟質。

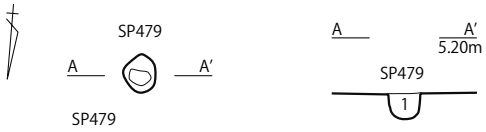
SP478(N 区)



SP478

1. 10YR4/3 にぶい黄褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　締まりに欠け、軟質。
2. 10YR4/4 褐色　粒子は極めて粗く、粘性は強い。
　1mm大の茶色粒を3％含む。締まりは弱く、軟質。
3. 10YR5/4 にぶい黄褐色　粒子はやや粗く、粘性は強い。
　0.5～1cm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを7％含む。やや硬質。
4. 10YR4/6 褐色　粒子はやや細かく、粘性は強い。
　3mm大の粘土ﾌﾞﾛｯｸを3％含む。やや硬質。

SP479(N 区)



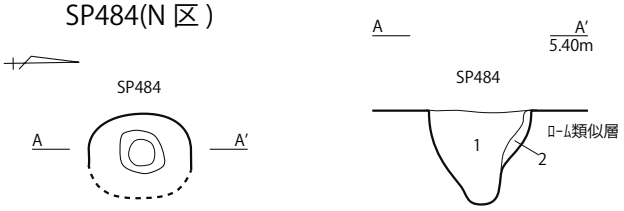
SP479

1. 10YR4/4 褐色　粒子は粗く、粘性は強い。0.5～1cm大の
　粘土ﾌﾞﾛｯｸを10％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。

SP480・SP481・SP482(N 区)

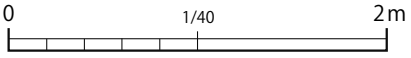


SP484(N 区)



SP484

1. 10YR3/3 暗褐色　粒子は粗く、粘性はやや有り。1～5mm大の炭を2％、焼土を2％、瓦・礫を5％含む。締まりはやや弱く、やや軟質。
2. 10YR4/6 褐色　粒子はやや粗く、粘性はやや弱い。締まりは良好、やや軟質。



第131図　近世以降の遺構(96)（1/40）

第３表　遺構一覧（１）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SA1	杭跡	I区	8・9-F	L字形	0.7×0.37	―	―	―	―	近世か	４本杭。一部木質残る	62	40
SA2	杭跡	I区	8-I	三角形	0.33×0.24	―	―	―	4.5	近世か	3本杭。SX31を切る	62	40
SA3	杭跡	I区	8-I	三角形	0.51×0.40	―	―	―	―	近世か	3本杭。木質残る	62	40
SA4	杭跡	I区	9-I	長方形	0.38×0.20	―	―	―	―	近世か	2本杭。シルト層に達する。木質残る	62	40
SA5	杭跡	I区	8・9-I	長方形	0.50×0.10	―	―	―	―	近世か	シルト層（SD16）の中に所在。木質残る	62	
SA6	杭跡	I区	9-I	円形	0.08×0.08	―	―	―	―	近世か	木質残る	62	
SA7	杭跡	K区	12-K	三角形	0.53×0.25	―	―	―	―	近世か	SK118の底面で検出。細い	115	40
SA8	杭跡	K区	11・12-M	正方形	0.80×0.60	―	―	―	―	近世か	SK117の中に多数		90
SA9	杭跡	J区	6-M	三角形	0.6×0.3	―	0.06	―	5.25	近世か	3本杭	39・41	
SA10	杭跡	J区	6-M	長方形	0.50×0.10	―	―	―	―	近世か	2本杭。1本は木質が残る		40
SA11	杭跡群	M区	12-G・H	長方形	2.80×0.90	―	―	―	―	近世以降	M区東壁際多数	21	
SA12	杭跡群	M区	9・10-F	楕円形	5.03×2.30	―	―	―	―	近世	M区SD28付近に多数	66	
SA13	杭跡	L区	9-E	三角形	0.30×0.27	―	―	―	―	近世	3本杭。1本は木質残る		40
SA14	杭跡	I区	7-I	長方形	0.48×0.20	―	―	―	―	近世	2本杭	62	
SA15	杭列	M区	9-F	長方形	1.30×0.10	―	―	N7° E	―	近世	南北に6本並ぶ	21	
SA16	杭跡	M区	12-F・G	三角形	0.50×0.35	―	―	―	―	近世	3本杭	21	
SA18	杭跡	N区	8-Q	円形	0.18×0.16	―	―	―	―	近世	SS190の南側で礎石を切って構築	52	
SA19	杭跡	N区	8-R	円形	0.05×0.05	―	―	―	―	近世	SS195の南側で礎石を切って構築	52	
SB1	礎石建物跡（新古）	J区	6・7-K～M	長方形	(6.40×7.35)	―	―	N82° W	5.5	近世	新古2段階。新は19C代か	39～41	20・21
SB2	礎石建物跡	M区	９・10-F	長方形	(6.35)×(5.1)	―	―	N5° E	4.48	近世	17C代か	42	22・47
SB3	礎石建物跡	A区	9・10-O～Q	長方形	9.70×2.5	―	―	N10° E	4.4	近世	南北に長い建物跡	43	23
SB4	礎石建物跡	E区	7～11-M.N	長方形	15×9.8	―	―	N７° E	5.18	近世	東西に長い建物跡	44・45	24～26
SB5	礎石建物跡	C区	5～7-M～O	長方形	13.8×7.2	―	―	N86° W	5.5	近世	SSS1～SSS7	46・47	27
SB6	礎石建物跡	H区	4・５-K～M	長方形	11.25×8.15	―	―	N９° E	―	近世	礎石とピットが混在	48	28
SB7	礎石建物跡	N区	6-P～R	長方形	9.5×1.8	―	―	N18° E	6.05	近世以降		49・50	
SB8	礎石建物跡	N区	6・7-P～R	長方形	9.3×5.4	―	―	N10° E	5	近世	護摩堂跡	49・51	29
SB9	礎石建物跡	N区	6・7-O・P	長方形	2.4×1.1	―	―	N77° W	5.04	近世		49・52	
SB10	礎石門跡	N区	8-Q・R	長方形	3.73×1.13	―	―	N7° E	4.63	近世		49・52	31
SD1	弥生～古代溝	B区	９-J～L.10-L	細長長方形	(8.6)×0.7	(8.6)×0.45	0.24	N22° E	4	古墳か	D層確認。南北溝。SD2を切るか	27	
SD2	弥生～古代溝	B区	9-J～M	細長長方形	(7.8)×0.7	(7.8)×0.4	0.27	N7° E	4	古墳か	D層確認。南北溝	27	
SD3	江戸溝	B区	10-K・L	細長長方形	(3.48)×0.3	(3.42)×0.24	0.2	N6° E	4.8	近世か	SK18に切られる。南北方向。SS1の下で検出	64	
SD4	弥生～古代溝	C・E区	7～9-M・7-N	L字形	(23.5)×0.9	(23.0)×0.25	0.28	N7° E N81° W	5.3	古墳か	屈曲。弥生土器・土師器出土	27・46	10
SD5	江戸溝	E区	10-M	長方形	(1.2×0.54)	(1.08)×0.42	0.3	N3° E	5.1	近世	南北溝。SS58に切られる	44・64	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SA1															
SA2															
SA3															
SA4															
SA5															
SA6															
SA7															
SA8															
SA9															
SA10															
SA11															
SA12															
SA13															
SA14															
SA15															
SA16															
SA18															
SA19															
SB1		6	19	11	139		2	3						1	2
SB2															
SB3															
SB4															
SB5															
SB6															
SB6															
SB7															
SB8															
SB9															
SB10					1										
SD2	20		2												
SD3															
SD4	75			1			1								1
SD5		11	13	12	4										

第３表　遺構一覧（２）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SD6	江戸溝	E区	10-N	長方形	(0.84)×0.54	(0.6)×0.42	0.24	N3° E	5.1	近世	SS24に切られる。焼土・粘土を含む覆土	64	43
SD7	江戸溝	E区	7-M・N	細長長方形	(6.9)×0.36	(6.9)×0.24	0.12	N6° W	5.33	近世以降	SS34,63に切られる。南北溝。幅狭	64	43
SD8	江戸溝	E区	8・9-N	細長長方形	(2.1)×0.42	(1.86)×0.3	0.12	N86° W	4.95	近世以降	東西溝。配管攪乱に切られる。陶器・瓦出土	64	43
SD9	弥生～古代溝	E区	10-M～O	細長長方形	(11.6)×1.8	(11.6)×1.0	0.24	N6° W	3.95	古墳か	SD13と並行。南北溝。多遺構と重複	27	10
SD10	古代溝	E区	9-M・N	細長長方形	(19.7)×1.6	(19.7)×1.2	0.4	N3° E	4.1	古代	SD13に連続。SX22に切られる弥生・土師器等出土	28	11
SD11	江戸溝	H区	4・5-K	細長長方形	4.14×0.9	3.84×0.54	0.36	N81° W	5.08	近世	東西溝。墨書土器皿出土。17C初～中	64	44
SD12	江戸溝	H区	3・4-H、4-G	弧状	(6.95)×1.75	(6.95)×1.26	0.96	―	5.1	近世	屈曲。SE15・SX23 に切られる。木材多量。　19C前葉	60・72	44・45
SD13	古代溝	E.G区	9-M～O	細長長方形	(12.0)×1.7	(12.0)×0.75	―	N3° E	4.1	古代	SD10に連続。SD9と並行。幅広	28	10
SD14	江戸溝	J区	8-L・M、9-L	弧状	(5.4)×0.42	(5.4)×0.24	0.24	―	4.8	近世	SK91・SK120と重複	65	44
SD15	江戸溝	I区	9-H・I	細長長方形	(1.86)×0.24	(1.74)×0.12	0.16	N9° E	4.5	近世	南北溝。幅狭。貝堆積を切る	65	46
SD16	古代溝	I・J区	8-H～K、9-H～L	細長長方形	(20.3)×3.2	(20.3)×2.3	0.6	N13° E	4.8	古代	D層確認、南北溝。多遺構と重複	28・62	2・11
SD17	古代溝	I・J区	9-I・J	細長長方形	(8.4)×1.08	(8.4)×0.6	0.36	N30° E	3.85	古代	D層確認、南北溝。多遺構と重複	29・62	2・11
SD19	江戸溝	J 区	6-L・M	細長長方形	(6.5)×0.54	(6.5)×0.36	0.18	N12° E	5.45	近世	SB1関連南北溝。SD20を切る	39・40	46
SD20	江戸溝	J 区	6-L・M	細長長方形	(6.3)×0.42	(6.3)×0.3	0.36	N12° E	5.45	近世	SB1関連南北溝。SD19に切られる。遺物SX69と接合	39・40	46
SD21	江戸溝	K区	12-L・M	細長長方形	(1.74)×0.6	(1.74)×0.48	0.09	N15° E	4	近世	南北溝、撹乱に切られる。17C初～中	65	46
SD22	江戸溝	K区	12-M	細長長方形	(0.9)×0.48	(0.78)×0.24	0.24	N81° W	3.6	近世	SK115に切られる。東西溝	65	46
SD23	江戸溝	K区	12-M	細長長方形	―	―	―	―	―	近世	東西溝。調査区東壁セクションのみ		
SD24	江戸溝	K区	12-L	細長長方形	―	―	―	―	―	近世	東西溝。調査区東壁セクションのみ		
SD25	江戸溝	K区	12-L	細長長方形	―	―	―	―	―	近世	東西溝。調査区東壁セクション(基本土層）に掲載		47
SD26	江戸溝	J区	6-L	細長長方形	3.18×0.24	2.94×0.12	0.06	N82° W	5.35	近世	東西溝	65	47
SD27	江戸溝	M区	9・10-F	細長長方形	(3.3)×0.36	(3.12)×0.24	0.12	N82° W	―	近世以降	東西溝。SX73を切る	66	
SD28	江戸溝	M区	10-F	細長長方形	(1.7)×0.48	(1.7)×0.48	―	N2° E	4.45	近世	南北溝。SE32,SX73を切る。炭化材含む	42・66・77	47
SD29	江戸溝	M区	9-F	細長長方形	(2.46)×0.36	(2.46)×0.15	0.12	N8° E	4.5	近世	SB01関連溝。南北溝。上層に焼土	42・116	47
SD30	江戸溝	M区	10-G	楕円形	(1.8)×0.6	(1.38)×0.42	0.36	N10° E	4.4	近世	南北溝。土坑状。コンクリ基礎に切られる	66	48
SD31	江戸溝	L区	8-E・F	細長長方形	(2.04)×0.72	(2.04)×0.48	0.12	N10° E	4.95	近世	SE37を切る。南北溝。土器皿多出。金箔あり。17C初～中	66・79	48
SD32	江戸溝	M区	11-G・H	細長長方形	2.88×0.66	2.7×0.48	0.15	N6° E	3	近世	南北溝。上部削平	66	
SD33	江戸溝	M区	10-F	細長長方形	(4.2)×0.42	(4.2)×0.24	0.12	N15° E	3.75	近世	南北溝。南側をコンクリ基礎に壊される	66	48
SD34	江戸溝	M区	9-H・I、10-I	細長長方形	(3.12)×0.54	(3.12)×0.48	0.18	N59° E	3.55	近世	多遺構と重複	67	
SD35	弥生～古代溝	M区	10-I・J	細長長方形	(2.58)×0.72	(2.58)×0.48	0.06	N29° E	3.38	古代	D層検出。多遺構と重複	29	12

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SD6		3	3												
SD7				1	9		1								
SD8			3		少量										
SD9	112		6	8	2									3	
SD10	147		1	7											
SD11	6	8	9	52	7		2						106	1	
SD12	8	49	62	29	5		1						1		
SD13	144		1												
SD14	2			1										1	
SD15															
SD16	146		1	1			1			1				1	24
SD17				1											
SD19	1	6	19	9	22		2								
SD20		4	19	6	77										1
SD21			2	6	1		1								31
SD22															
SD23															
SD24															
SD25															
SD26					12										
SD27															
SD28			1												
SD29															
SD30					1										
SD31	1	4	4	21	3										
SD32		4	2	1											
SD33			1	3					1			1			
SD34															
SD35					5				1			2			

第３表　遺構一覧（３）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SD36	江戸溝	N区	6-Q・R	細長長方形	(3.05)×0.22	(3.05)×0.16	0.07	N19° E	5.6	近世以降	北西部。漆喰の横で検出。18C後～	67	49
SD37	江戸溝	N区	5-P・Q	細長長方形	(0.95)×0.25	(0.95)×0.15	0.2	N72° W	5.65	近世以降	西壁際検出。SX121に切られる	67	49
SD38	江戸溝	N区	7-Q・R	細長長方形	(3.57)×0.28	(3.57)×0.15	0.1	N10° E	5.44	近世以降	北壁際で検出	67	49
SE1	井戸	A区	8-P	円形	1.32×1.2	1.08×1.02	3.42	―	4.95	近代	素掘り。コバルト磁器・一銭貨・指輪・印章等 19C中～	69	51
SE2	井戸	A区	12-P・Q	円形 掘り方 方形	2.04×1.86	0.9×0.9	2.16	―	3.3	近世	桶2段と小形桶。開元通寶・寛永通宝等9枚出土。18C前～中	69	51
SE3	井戸	B区	11-K	円形 掘り方 円形	0.96×0.96	0.78×0.72	2.04	―	4.15	近世	桶2段。銅鏡１・銭貨１・瓦多量出土	69	52
SE4	井戸	A区	11・12-N・O	円形 掘り方 方形	2.00×1.68	1.75×1.50	3.48	―	3.51	近世	上部瓦多量、下位木樋あり。陶磁器・土器出土。19C前葉	70	52
SE5	井戸	C区	5-M・N	円形 掘り方 円形	2.75 ×2.05	2.45×1.85	1.38	―	4.6	近世	桶の西側に溶結凝灰岩を配置	70	52
SE6	井戸	C区	7-N	円形	0.86×0.84	0.66×0.66	1.32	―	5.28	近世	素掘りか、桶なし。SK24・SP80と重複	70	53
SE7	井戸	D区	5-J	円形	0.81×0.78	0.48×0.48	0.9	―	5.3	近世	井戸か。SP121に切られる	70	53
SE9	井戸	F区	11-E	円形	1.30×1.14	1.14×1.02	2.43	―	4.2	近世	素掘り。SK60に切られる。上位に焼土。寛永通宝出土。17C初～中	71	53
SE10	井戸	F区	12-E	円形	2.1×1.8	1.50×1.10	1.56	―	3.5	近世	素掘り。木材多量含む。SK60に上半部を切られる。17C初～中	71	53
SE12	井戸	H区	4-K・L	円形 掘り方 円形	3.05×2.30	3.00×1.95	2.75	―	5.3	近世	桶3段有り。掘り方広い	71	53
SE13	井戸	C区	5-M	円形	1.08×0.9	0.96×0.84	2.1	―	4.77	近世	素掘りか。　SE5と隣接、底面未到達	70	52
SE14	井戸	H区	4-H	円形 掘り方 円形	0.63×0.6	0.42×0.42	1.02	―	5.25	近世	漆喰蓋か。　SD12を切る。底面到達せず	72	54
SE15	井戸	H区	4-G・H	円形	1.60×(1.0)	1.20×(0.9)	1.5	―	5.3	近世	SD12を切る。約1.5m調査するが安全上断念	72	44・54
SE16	井戸	Ⅰ区	9-H・I	円形	0.96×0.90	0.78×0.78	2.64	―	4.55	近代	2.7mで桶検出するが安全上掘れず。構築は江戸か	71	54
SE17	井戸	Ⅰ区	8-J	円形	1.2×1.08	0.98×0.96	2.2	―	4.25	近世	SE18を切る。桶有り。墨書土器出土 17C中～後	73	54
SE18	井戸	Ⅰ区	8-I・J	円形	2.5×2.2	2.3×2	2.15	―	4.88	近世	SE17の掘り方か。桶なし	73	54
SE19	井戸	Ⅰ区	9-I	円形	2.1×1.92	1.68×1.62	3	―	4.7	近世	周囲に4基の土坑。覆土に貝。17C初～中	73	55
SE20	井戸	J区	7・8-L・M	円形	2.1×2.0	1.92×1.86	2.1	―	4.95	近世	桶外側面に粘土を貼っている	74	55
SE21	井戸	I区	9-F	ほぼ円形	2.46×1.92	1.2×1.08	2.22	―	4.8	近世	素掘り。上部はSX27,木製品出土、擂鉢４点出土　17C初～中	74	56
SE22	井戸	I区	7-F	円形	2.04×1.92	1.98×1.8	1.5	―	4.5	近世	底面で小桶状のプランが出たが安全上未掘削	76	56
SE23	井戸	J区	8-K	円形	3.78×3.18	2.58×2.58	1.92	―	5.93	近世	SE26・SX34（貝堆積）を切る。多遺構と重複	75	56・57
SE24	井戸	J区	7-K	円形	1.2×1.17	0.72×0.72	1.72	―	4.9	近世		75	56・57
SE25	井戸	I区	7-H	円形	0.96×0.96	0.9×0.72	1.76	―	4.41	近世	覆土上に遺物集中(SX39)。17C初～中	76	57
SE26	井戸	J区	7・8-K	円形 掘り方 円形	2.20×(1.5)	0.90×0.88	1.86	―	3.88	近世	SE23に切られる。桶なし。寛永通宝等銭貨　17C初～中	75	58

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SD36		5	13	12											
SD37															
SD38					多量										
SE1	1	263	64	9	極多		2	7		2		2	1	1	
SE2		56	97	81	多量			9							
SE3			4	16	多量		2	1							1
SE4		32	80	19	多量										
SE5		1	1	5	多量				3						2
SE6	1			1											
SE7			1												
SE9	4	6	53	19	多量		1	5							
SE10	1	7	66	22	少量			5	2			2		1	
SE12		9	3	1	少量										
SE13		13	9	1	少量		1	1					2		1
SE14		3	13		少量										
SE15		3	1	1	多量										
SE16	1	3	6		28		11								
SE17	1	57	42	557	30		1	1	1					1	2
SE18		1	2	8	2										4
SE19	3	1	16	13	80		2	3	1		0.5kg			1	8
SE20	2	8	9	7	47		1								1
SE21			15	4	5				30		0.8kg				1
SE22				1											
SE23	4	5	10	22	9		1								7
SE24															
SE25			7	28			1	2	2						
SE26		3	17	48	45		18	29	6		若干				1

第３表　遺構一覧（４）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SE27	井戸	J区	8-J・K	円形	1.5×1.14	0.84×0.84	1.68	―	4.75	近世	覆土上層には貝が堆積。多遺構と重複	75	58
SE28	井戸	J区	5・6-L・K	円形	1.74×1.5	1.62×1.56	0.6	―	5.16	近世	浅いが、砂層まで到達。土器皿出土	76	59
SE29	井戸	J区	8-L	円形	1.02×0.84	0.42×0.36	1.08	―	4.35	近世	素掘りか。SX65を切る	76	59
SE30	井戸	K区	11-M・N	円形	1.02×1.02	0.78×0.72	1.26	―	3.6	近世	素掘り。洪武通宝他５、炭化材、金箔付木製品　17C初～中	77	59
SE31	井戸	L区	9・10-E	ほぼ円形	1.2×0.78	1.14×0.72	0.78	―	4.4	近世	コンクリ基礎の下で検出。脇に溶結凝灰岩。17C初～中	77	60
SE32	井戸	M区	10-F	円形 掘り方円形	1.3×1.3	1.08×0.9	2.7	―	4.4	近世	掘り方は方形。SB2を切る。遺物多量　18C前～中	42・77	60
SE33	井戸	M区	11-E・F	円形	1.02×0.9	0.72×0.66	0.84	―	4.1	近世	瓦敷き 17C後～18C初	78	61
SE34	井戸	M区	11-H	円形	1.44×1.32	0.9×0.9	1.44	―	3.23	近世	SS143に切られる、桶あり。19C前葉	78	61
SE35	井戸	M区	10・11-H	円形	1.44×1.14	1.26×1.14	2.16	―	3.1	近世	SE36を切る、桶あり。金属製柄杓（柄は木）	78	62
SE36	井戸	M区	10・11-H	円形	1.38×(0.42)	1.08×(0.36)	0.9	―	3.1	近世	SE35に切られる	78	62
SE37	井戸	L区	8-E・F	円形	(1.92×1.14)	(1.14×0.9)	1.26	―	4.8	近世	SD31に切られる	79	62
SE38	井戸	M区	9・10-J	円形	1.62×1.44	1.44×1.26	1.38	―	3.89	近世	風鎮杭に壊される。SX96を切る。覆土に貝　19C～	79	63
SE39	井戸	M区	10-I	円形	1.86×1.74	1.26×1.2	2.1	―	4.17	近世	風鎮杭に壊される。SX100を切る、SD34と重複　19C～	79	63
SE40	井戸	N区	7-Q	円形	1.15×1.13	1.10×1.16	2	―	5.3	近代	試掘で検出。廃棄は近代	80	64
SE41	井戸	N区	7-R	円形	1.25×1.00	1.00×0.95	2	―	5.43	近世	土器皿、銭貨　17C後半～　　上層は18C～	80	64
SE43	井戸	N区	6-O・P	円形 掘り方不整形	2.45×2.00	2.10×1.85	1	―	4.4	近世	確認面にSX152 の土器皿集中。掘り方はSX154	81	65
SE44	土坑	N区	7-R	円形	0.85×0.83	0.80×0.78	1.5	―	5	近世	当初井戸として調査、断ち割りで地崩れと判断		
SE45	井戸	N区	6・7-R	円形	0.74×0.72	0.7×0.65	1.8	―	5.3	近世	護摩堂礎石の下で検出	80	65
SK1	胞衣皿埋納遺構	B区	9-K	楕円形	0.67×0.43	0.57×0.33	0.32	N89° W	5.07	近世以降	徳利２と胞衣皿が出土。19C中～	85	69
SK2	土坑	B区	9・10-K	ほぼ円形	0.63×0.53	0.40×0.40	0.27	―	4.73	近世	覆土に焼土粒、瓦出土	108	
SK3	土坑	B区	9-K	ほぼ円形	0.55×0.41	0.42×0.25	0.22	―	4.95	近世	覆土に焼土粒、撹乱に一部壊される	108	
SK4	土坑	A区	9-Q	円形	1.44×(0.48)	1.06×(0.34)	1.14	―	4.7	縄文～古代	擂鉢状断面、全容不明	29	12
SK5	土坑	A区	9-P	円形	(0.75)×0.6	(0.66)×0.48	0.72	―	4.75	弥生～古代	弥生円形土坑か	29	12
SK6	土坑	B区	9-K・L	ほぼ円形	0.67×0.65	0.50×0.50	0.4	―	5.15	近世以降		108	
SK7	木材廃棄土坑	A区	11-P・Q	円形	2.86×(1.58)	2.30×(1.3)	0.75	―	4.05	近世	多量の板材出土　全容不明　17C初～中	87	72
SK8	土坑（礎石土坑）	A区	10-P	方形	1.74×(1.08)	1.14×0.89	0.9	N76° W	4.7	近世	門跡か。SS9とは芯真法で2.70m	43	
SK9	土坑	B区	10-L	ほぼ円形	2.10×(1.15)	1.15×(0.75)	0.25	―	4.82	近世		105	
SK10	土坑	B区	10-L	隅丸長方形	0.96×0.45	0.65×0.35	0.52	N12° E	4.81	近世	SP38と接する	105	
SK12	土坑	B区	10-L	隅丸方形	0.54×0.48	0.36×0.36	―	―	―	近世	土器、瓦出土		
SK13	土坑	A区	9-O	隅丸方形	0.49×0.40	0.37×0.30	0.4	―	4.35	近世		105	
SK14	土坑	A区	10・11-O	隅丸長方形	1.33×0.96	0.85×0.35	0.36	N76° W	3.7	近世	SX3と接する。壁に貝	105	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SE27		1	1								少量				
SE28	1		1	1	4										
SE29	7														2
SE30		4	56	63	3		6	8	88			3		1	1
SE31		6	35	19					2						
SE32		50	451	103	44			1	33					3	
SE33		30	30	46	39			2	3				1	13	
SE34		157	267	53	160				1						
SE35		50	62	24	10		2	1	38						
SE36			7	1											
SE37		4	1	1				1							
SE38		1	4	2	3		2		6		1.3			2	
SE39			15	1	3				1						
SE40		7	7	2	39										
SE41		3	3	23	47										
SE43		44	81	19	120	1	5	1	69						
SE44															
SE45			1		2		2								
SK1		1	3	4	3										
SK2					17										
SK3															
SK4	6														
SK5	3														
SK6															
SK7	6	20	40	120	48			12	多量					2	
SK8			9	2	15										
SK9	1		3	4											1
SK10		1	3	3	3										
SK12	1			3	22										
SK13															
SK14	2		2	2	5										

第３表　遺構一覧（５）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SK15	土坑	A区	10-P	円形	0.6×(0.3)	0.36×(0.24)	0.48	―	4.75	近世	門跡関連か　木材遺存	43	
SK16	土坑	B区	9-L・M	隅丸長方形	0.6×0.36	―	―	N10° E		近世			
SK17	土坑	B区	10-J・K	隅丸長方形	2.98×2.05	2.65×1.37	0.45	N7° W	4.25	近世	多量の陶磁器・土器、多量の瓦、銅製品　18C後～末	105	
SK18	土坑	B区	10・11-L	隅丸長方形	1.02×0.66	0.96×0.6	―	N6° E	―	近世	SD3を切る。黒褐色土覆土	64	
SK19	大型土坑	B区	9・10-J・k	楕円形	3.40×(1.90)	3.01×(1.70)	1.38	N86° W	4.45	近世	貝層を切る土坑　木製品、板碑破片１、銭貨1	101	
SK20	土坑	B区	9-K	不整形	2.45×1.80	0.76×0.75	―	―	―	近世以降	粘土ブロック覆土	105	
SK21	土坑	B区	9-J	円形	0.82×(0.78)	0.68×(0.60)	0.42	―	3.9	近世	SK19に切られる	10	92
SK22	土坑	B区	9-K	円形	0.85×0.75	0.81×0.65	0.61	―	3.95	近世		105	92
SK23	土坑	B区	9-L	ほぼ円形	0.62×0.62	0.59×0.58	―	―	―	近世以降	焼土を含む（締まり弱い）	10	
SK24	土坑	C区	7-N	隅丸長方形	0.84×0.24	―	―	N4° E	5.52	近世以降	平石、SE6と重複	11	
SK25	土坑	C区	6-N・O	楕円形	0.93×0.78	0.66×0.55	0.15	―	5.66	近世	SSS2-5に切られる。銭貨１出土	106	92
SK27	土坑	C・N区	5-O	隅丸長方形	0.95×0.86	0.75×0.61	0.88	N1° E	5.4	近世	C区とN区で検出、瓦等少量	118	
SK28	縄文土坑	C区	6・7-N	ほぼ円形	1.98×1.56	1.74×1.26	0.36	N2° E	5.4	縄文後期	炭化材２	24	7
SK29	土坑	C区	7-N・O	隅丸方形	1.37×1.24	1.14×1.01	0.42	―	5.3	近世	漆出土か	106	92
SK30A	大型土坑	C区	6・7-N・O	方形	1.96×(0.84)	1.89×(0.76)	0.84	N68° W	5.27	近世	地下室か、Bを切る。銭貨１出土	101	88
SK30B	大型土坑	C区	6・7-N・O	不整楕円形	(2.10)×1.8	(2.15)×1.88	1.68	N10° W	4.65	近世	SK30Aに切られる。桶有り。井戸か	101	88
SK31	土坑	D区	5-H	楕円形	0.75×0.53	0.55×0.40	0.2	N72° W	5	近世	粘ブロ覆土	106	
SK32	縄文土坑	C・N区	7-N・O	楕円形	1.62×1.26	1.56×1.08	0.48	N16° E	5.25	縄文	黒褐色土覆土	24・46	7
SK33	土坑	D区	5-J・K	隅丸方形	1.08×0.96	0.84×0.72	―	―	―	近世以降	土器１、瓦１	12	
SK34	土坑	C区	7-N	不整楕円形	0.45×0.24	0.24×0.12	―	N38° E	―	近世以降	炭化材		
SK35	土坑	D区	5-H	円形	1.5×1.44	1.2×1.14	0.6	―	5.45	近世	18C代～	106	92
SK36	瓦溜り	E区	11-L	ほぼ円形	1.20×(0.70)	0.84×(0.55)	0.5	―	4.9	近世	瓦多量	89・106	75
SK37	瓦溜り	E区	9-N	隅丸方形	0.6×(0.48)	0.42×(0.36)	0.6	―	―	近世	SS66と重複、瓦多量、焼土を含む		75
SK38	土坑	E区	9-N	隅丸方形	0.64×0.56	0.32×0.24	0.5	―	5.25	近世	焼土を若干含む。SP143 を切る。瓦１.銭貨１	44・106	
SK39	瓦溜り	E区	9-N	隅丸長方形	1.15×(0.86)	0.6×(0.65)	0.47	―	5.35	近世	瓦多量、陶磁器若干	89	
SK40	土坑	E区	10・11-M	ほぼ円形	0.54×0.48	0.39×0.36	0.18	―	4.85	近世	「天保通宝」、「文久永宝」、軒丸瓦出土　幕末か	106	92
SK41	埋甕	E区	10-N	楕円形	0.81×0.67	0.64×0.41	0.54	N24° E	5.03	近世	SP133に切られる。甕出土	68・107	45
SK42	土坑	E区	10-M	ほぼ円形	0.54×0.45	0.42×0.32	0.31	―	5.07	近世	銅製品１	107	
SK44	礫集中	E区	9-M	楕円形	1.6×0.64	―	―	N83° W	―	近世	墨書か？、硯１	44	
SK45	土坑	E区	8-N	隅丸長方形	0.6×0.3	0.3×0.18	―	―	―	近代	SS19と重複		
SK46	土坑	E区	7・8-N	楕円形	0.81×0.58	0.66×0.46	0.1	―	5.25	近世以降	焼土を含む	107	
SK47	瓦溜り	E区	11-L・M	隅丸長方形	2.94×(0.78)	2.46×(0.48)	0.84	―	4.7	近世	上層瓦多量,墨書遺物あり砥石、鉛管出土 18C後～末	89	75
SK48	土坑	E区	8-M	円形	0.72×0.64	0.4×0.32	0.28	―	5.2	近世以降	SS63と重複、砂利ピット	107	
SK50	土坑	E区	10-L・M	楕円形	2.28×0.78	1.92×0.48	0.3	N70° W	4.5	近世	覆土に粘土、鉄絵鉢出土　17C初～中	107	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SK15					2										
SK16			1		1										
SK17		78	355	168	94		4								
SK18															
SK19		4	11	9	24		2	1	有り		22.4			1	
SK20	2		1	1											
SK21			1												
SK22					多量										
SK23															
SK24															
SK25			1					1							
SK27					少量										
SK28	14														1
SK29			2						1						
SK30A	1							1							
SK30B															
SK31		2	2	2	3										
SK32	1														
SK33				1	1										
SK34															
SK35		2	7	1	30										
SK36		3	15	1	多量										
SK37					多量										
SK38		3	2		1			1							
SK39		1	2		多量			1							
SK40					1			2							
SK41		2	1											1	
SK42		1	2	1			1								
SK44	1	4	3		71								1	2	
SK45	1			1			2								1
SK46					26										
SK47	1	6	174	102	多量		1							1	
SK48		3			極多量										
SK50			1												

第３表　遺構一覧（６）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SK52	土坑	F区	11・ 12-D	隅丸長 方形	1.64×0.58	1.50×0.46	0.33	ー	4.08	近世	撹乱直下全容不明、陶磁器、土器、銅銭、鉄銭出土	109	
SK53	土坑	F区	11-D	円形	0.54×0.48	0.42×0.38	0.4	ー	4.1	近世 以降	瓦、溶結凝灰岩出土、土師器坏１	109	93
SK54	土坑	F区	10・ 11-D、 11-C	隅丸長 方形	3.56×(1.48)	3.20×(1.34)	0.3	N65° W	4.1	近世	全容不明、銭貨１、SK58を切る 19C～	109	93
SK55	土坑	F区	11-D	楕円形	0.84×0.66	0.78×0.54	0.3	ー	4	近世	SK57に切られる、イノシシ骨　18・19C	109	93
SK56	土坑	F区	10-D	円形	0.54×0.54	0.48×0.42	ー	ー	ー	近世 以降	ピット状、瓦、粘土	109	
SK57	土坑	F区	11-D	円形	0.69×0.57	0.50×0.48	26	ー	4	近世 以降	SK55を切る、ピット状、大礫、粘土	109	
SK58	土坑	F区	10・ 11-D	楕円形	2.20 ×1.05	2.02×0.85	0.3	N1° W	4.1	近世	SX54に切られる　19C	109	93
SK59	木組遺構	F区	11-C	長方形	0.70×0.65	0.68×0.58	0.1	ー	3.77	近世	SX20と重複、底面板張り、粘土、海鼠瓦	59	37
SK60	木材廃 棄遺構	F区	11-D・ E	隅丸長 方形	4.90×1.99	4.6×1.49	0.5	N4° E	4.2	近世	木材、瓦多出：砥石３、寛永通寶1、鉛管出土　18C後～末	87	72
SK61	漆喰堆 積遺構	F区	11-E・ F	隅丸長 方形	2.4×0.9	2.16×0.66	0.18	N14° E	4.35	近世	覆土に瓦、漆喰を多量に含む。瓦多量、砥石１	85	75
SK62	礎石土坑	F区	11・ 12-F	方形	1.02×0.78	0.9×0.66	0.24	ー	3.5	近世	扁平礫2点	54	
SK63	土坑	F区	11・ 12-E	不整長 方形	(1.53)×0.85	(1.49)×0.68	0.33	N2° W	3.5	近世	SX21と重複、黄色粘土覆土、土製品出土	110	93
SK64	土坑	F区	11・ 12-D	長方形	(1.2)×0.84	(0.42)×0.36	0.3	N82° W	3.52	近世	黄色粘土覆土。17C初～中	110	94
SK65	土坑	F区	12-F	楕円形	(0.78)×0.72	(0.6)×0.39	0.3	N84° W	3.5	近世	黄色粘土覆土	110	
SK66	土坑	F区	12-F	不明	(0.8×0.8)	(0.6×0.6)	ー	ー	ー	近世 以降	北東壁際、黄色粘土覆土	14	
SK67A	瓦溜り (焼土)	G区	8・9- N・O	隅丸長 方形	4.83×(2.33)	4.31×(2.08)	0.5	N81° W	5.32	近世 以降	下から礎石列、焼土、瓦極めて多量,砥石	53・ 91	75
SK67B	礎石列	G区	8・9- N・O	長方形	4.20×0.72	ー	0.25	N81° W	5	近世 以降	SK67 A焼土排除後検出、中世陶器１	53	28
SK68	木材廃 棄遺構	H区	4-K	隅丸方形	0.9×0.66	0.78×0.54	0.54	ー	5.35	近世	枡を含む木材多量出土。19C中～	48・ 87	73
SK69	土坑	H区	4-M	隅丸方形	0.54×0.48	0.42×0.24	0.6	ー	4.95	近世	磁器・瓦出土	48	
SK70	木材廃棄 遺構	H区	4-K	隅丸方形	0.54×0.48	0.3×0.24	0.9	ー	5.35	近世	木材出土	87	73
SK71	土坑	H区	4-K	隅丸方形	0.84×0.66	0.66×0.48	ー	ー	5.3	近世	浅い、瓦出土	48	
SK72	土坑	H区	4-M	隅丸方形	1.05×(0.85)	0.70×(0.73)	0.3	ー	5.33	近世	全容不明（北壁）	110	94
SK73	土坑	H区	5-L	隅丸方形	0.75×0.6	0.66×0.42	0.3	ー	ー	近世	SP229を切る	48	94
SK74	土坑 (礎石)	H区	4-L	円形	0.69×0.6	0.48×0.42	0.15	ー	-	近世	SP233と重複	48	
SK75	土坑	H区	4・5-H	ほぼ円形	1.50×-	1.30×ー	0.5	ー	4.75	近世	SX23(芥溜り)に切られる　18C	60	
SK76	土坑	G区	9-O	ほぼ円形	0.78×0.6	0.78×0.18	0.66	ー	4.61	近世 以降	SD13を切る、焼土含む,斜め堀込み	110	
SK77	土坑	Ⅰ区	8-F	長方形	1.79×0.56	1.56×0.43	0.64	N6° E	4.7	近世	土蔵基礎か	111	94
SK78	土坑	Ⅰ区	9-F	ほぼ円形	2.40×1.12	ー	0.3	N14° E	4.9	近世	SE21の上部。溶結凝灰岩多出		
SK79	土坑	Ⅰ区	9-I	円形	1.2×0.96	0.96×0.72	ー	N15° E	ー	近世 以降	多遺構と重複、A層覆土		
SK80	土坑	Ⅰ区	9-I・J	円形	0.84×0.78	0.36×0.27	0.84	ー	4.65	近世	SE19と関連か。段状壁、鉄１	73	55
SK81	土坑	Ⅰ区	8-J	隅丸長 方形	(0.66) ×0.6	(0.6)×0.48	0.42	ー	4.88	近世	SK102を切る	111	
SK82	古代土坑	G区	10-N	円形	1.08×0.9	0.54×0.48	0.36	ー	3.85	古代か	須恵器出土	29	12
SK83	土坑	I区	8・9- I・J	ほぼ円形	1.56×(1.2)	1.14×(0.9)	0.3	ー	4.75	近世	SE18に切られる、覆土に貝を含む	73	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SK52	1	5	12	17	少量		1	4							
SK53	1	1	1	1	16										
SK54		30	116	64	58			1							
SK55		26	54	4	11					1					
SK56		2													
SK57															1
SK58		1	5	2					1						
SK59		1			7										
SK60	5	329	548	368	多量		10	2	多量					5	
SK61	2	20	68	20	189									1	
SK62		2	2	1	9										1
SK63	1	2		1		1									
SK64			1												
SK65															
SK66															
SK67A	2	23	25	23	1417		2						1	2	
SK67B			1												
SK68		15	36	5					多量				11		
SK69		1			2										
SK70			2						多量						
SK71					22										
SK72	1	7	2		7										
SK73					1										
SK74															
SK75		26	22	24	2										
SK76	1	2	1	3											
SK77		2	7	14											
SK78			5	1					8						12
SK79			1	1	1										
SK80			5		7		1								2
SK81					1		7								
SK82	3														
SK83											少量				

第３表　遺構一覧（７）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SK84	土坑	I区	8-I	楕円形	(0.80)×0.80	(0.65)×0.52	0.42	N27° E	4.7	近世	SE18に切られ、SP255を切る	73・114	
SK85	土坑	J区	8-K	隅丸長方形	1.08×0.72	0.98×0.65	0.15	N11° E	4.98	近世	浅い。B層類似層覆土	111	
SK86	土坑	J区	8-K	円形	0.56×0.54	0.46×0.43	0.14	―	4.95	近世	磁器１出土	111	
SK87	土坑	J区	8-L	楕円形	0.96×0.72	0.84×0.6	0.18	―	4.95	近世	B層検出、覆土A層類似	112	
SK88	土坑	G区	10-N・O	円形	0.48×0.48	0.34×0.34	―	―	―	近世	B層検出、A層覆土類似。瓦出土		
SK89	土坑	G区	9-N	楕円形	0.6×0.48	0.48×0.36	0.07	―	―	近世	覆土黒褐色、浅い		
SK90	土坑	J区	8-K・L	楕円形	1.2×1.02	0.3×0.24	0.18	―	5	近世	中央部にピット、土器皿、砥石出土	112	95
SK91	土坑	J区	8・9-L	楕円形	0.66×0.48	0.54×0.3	0.24	N79° E	4.9	近世	SD14と重複、SK120を切る。覆土に焼土・炭	112	
SK92	土坑	J区	9-L	楕円形	0.54×0.54	0.48×0.42	0.12	―	4.79	近世	SK93を切る	112	
SK93	獣骨出土遺構	J区	8・9-L	楕円形	1.00×0.91	0.8×0.65	0.96	―	4.81	中近世	SK92に切られる。羽釜、須恵器、骨、土錘出土　14・15世紀	34・112	15
SK94	土坑	J区	7・8-K	不整形	1.14×0.6	0.96×0.54	0.42	―	5.09	近世	SE26を切る。黄褐色粘土覆土。17C初～中	75・113	
SK96	土坑	I区	8-I	不整楕円形	1.08×0.6	0.96×0.36	0.35	N82° W	4.8	近世	黄褐色粘土ブロック含む覆土。貝片若干	113	
SK97	貝堆積遺構	I区	9-J	楕円形	1.38×0.9	0.96×0.54	0.12	N73° W	5.85	近世	マウント状、SP293と重複	17	81
SK98	土坑	I区	8・9-I	不整楕円形	0.87×0.66	0.33×0.27	0.39	―	4.75	近世		113	
SK99	土坑	I区	9-I	円形	0.84×0.78	0.36×0.3	0.66	―	4.6	近世	SE19関連。貝堆積遺構をを切る	73	94
SK100	貝堆積遺構	I区	9-I	ほぼ円形	0.9×0.9	0.72×0.48	0.36	―	4.75	近世	貝は覆土の中に堆積	97	81
SK101	土坑	J区	8-J・K	ほぼ円形	0.72×0.6	0.54×0.42	0.12	―	4.85	近世	SE27と重複、覆土に焼土,炭化粒、貝堆積を切る	113	
SK102	土坑	J区	8・9-J	隅丸方形	1.34×1.2	1.08×1.03	0.54	―	4.76	近世	SK81に切られる	111	
SK103	土坑	I区	9-I	ほぼ円形	0.96×0.78	0.48×0.43	0.45	―	4.73	近世	SE19関連。貝堆積を切る、壁は段状	73	95
SK104	土坑	I区	9-I・J	円形	0.96×0.78	0.48×0.42	0.6	―	4.35	近世	SE19関連。貝堆積を切る。鉄製品出土	73	95
SK105	土坑	J区	8-K	円形	1.38×1.2	1.2×1.02	0.48	N86° E	4.75	中近世	SP323と重複、貝最上層若干含む	113	95
SK106	土坑	I区	8－I	円形	(0.9×0.52)	(0.6×0.48)	0.18	―	4.3	縄文～古代	風鎮に切られ、全容不明。黒褐色土覆土	25	7
SK107	土坑	J区	9-L	ほぼ円形	1.74×(0.9)	1.44×(0.78)	0.66	―	4.58	近世	全容不明	113	
SK108	土坑	J区	6-L	長方形	1.02×0.48	0.96×0.42	0.09	N80° W	5.5	近世	SK122、SP406 と重複	114	95
SK109	縄文土坑	J区	7-L	細長楕円形	(0.85)×0.57	(0.56)×0.48	0.19	N37° E	4.55	弥生	SP380に切られる	25	8
SK110	土坑	J区	6-M	不整長方形	(1.44)×0.96	(1.26)×0.84	0.18	N85° W	5.35	近世	多遺構と重複、南伊勢系鍋１	114	
SK111	土坑	K区	12-L	楕円形	0.69×0.42	0.6×0.28	0.22	N87° W	3.7	近世	溝状。土器皿、銅製品出土	115	
SK113	土坑	K区	11・12-L	隅丸長方形	2.1×1.02	1.08×0.72	1.32	N21° W	4.15	近世以降	焼土含む、SM3を切る。瓦多量、金属製品出土	114	96
SK114	土器皿多出土坑	K区	12-L	隅丸方形	1.43×0.9	0.99×0.75	0.53	N1° E	4.14	近世	かわらけ多量、SM3に切られる。焼土、炭化材	103	68・89
SK115	土坑	K区	12-M	円形	0.96×0.72	0.72×0.6	―	―	―	近世	SD22を切る。浅い		
SK116	土坑	K区	12-L・M	長方形	(1.52)×1.2	(1.52)×1.14	0.1	―	4	近世		114	
SK117	土坑	K区	11・12-M	隅丸方形	1.32×1.14	0.84×0.84	0.78	―	4	近世	SM4を切る。木材出土 19C	103	90・96
SK118	土坑	K区	12-K	円形	1.32×1.26	0.96×0.93	0.54	N78° W	4.15	近世	磁器・瓦 出土。19C	115	
SK119	縄文土坑	J区	8-K	ほぼ円形	(1.9×0.6)	(1.73×0.56)	0.18	N82° W	4.3	縄文	SE23,SK105 に切られる。繊維土器	24	7
SK120	弥生土坑	J区	8・9-L	円形	1.56×1.14	1.38×1.08	0.12	N84° E	4.2	弥生	SD14に切られ、SX65と重複。弥生壺口縁	25	8

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SK84															
SK85		2	1	1	9									1	
SK86		1													
SK87															
SK88					少量										
SK89															
SK90				2	41									1	
SK91															
SK92					1										
SK93	4		1	2	2	2				9					1
SK94	1	1	1	1	3										
SK96				1	1						若干				
SK97											少量				
SK98		1			1										
SK99			1	5	2		6								
SK100											10.5				
SK101		6			7										
SK102		1													
SK103			2		1		2								
SK104					2		2				少量				
SK105	3			1							若干				
SK106															
SK107															
SK108	2	12	9	2	5										
SK109															
SK110	1	2		4	9										3
SK111				1	1		2								
SK113		97	39		183		12								
SK114	1	15	10	209	79		4		4						1
SK115				2											
SK116			1		3										
SK117		40	28	6	91				9						1
SK118	1	2	1		3										
SK119	1														
SK120	10														1

第３表　遺構一覧（８）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SK121	土坑	J区	7-M	隅丸長方形	0.90×0.69	0.78×0.54	0.18	N79° W	5.4	近世		115	
SK122	土坑	J区	5・6-L	ほぼ円形	(1.90)×1.55	0.95 ×0.55	0.42	N33° E	5.43	近世	多遺構と重複	115	
SK123	土坑	J区	6・7-L	円形	0.54×0.54	0.33×0.3	0.15	―	5.35	近世	SP347と重複	115	
SK124	土坑	J区	7-L	隅丸長方形	0.66×0.36	0.6×0.24	0.24	N3° E	5.3	近世	SS87,SS88と重複	115	
SK125	土坑	J区	6-L	楕円形	0.84×0.48	0.6×0.3	0.09	N82° W	5.38	近世	SX59と重複	65	
SK126	土坑	J区	6-M	ほぼ円形	0.66×0.6	0.54×0.48	0.12	―	5.4	近世	SP391と重複	104	
SK127	弥生土坑	J区	6-L	楕円形か	(0.84)×(0.4)	(0.65)×(0.35)	0.14	―	5.15	弥生	SX69（瓦溜め）に切られる。復元個体	26	9
SK128	土坑	J区	6-M	楕円形	1.44×1.32	1.2×1.08	0.36	N19° E	―	縄文晩期以降	C層類似層を覆土とする	24	8
SK129	礎石土坑	M区	10-F・G	ほぼ円形	0.84×0.78	0.21×0.18	0.27	―	4.3	近世	風鎮下杭に壊され、全容不明。覆土に焼土含有	42・116	
SK130	土坑	M区	9・10-F	隅丸長方形	(0.53)×0.51	(0.42)×0.42	0.26	―	4.5	近世	SE32に切られる	116	
SK131	土坑	M区	9・10-F	楕円形	0.84×0.36	0.48×0.18	―	N22° E		近世	覆土に炭含有		
SK132	土坑	M区	10-G	ほぼ円形	1.02×0.96	0.6×0.51	0.54	―	3.1	近世以降	擂鉢、陶磁器、瓦出土	116	
SK133	土坑	M区	11-I	円形	0.72×0.63	0.54×0.54	0.12	―	3.6	近世	A層類似覆土	116	
SK134	土坑	M区	10-I	ほぼ円形	0.95×(0.63)	0.42×(0.42)	0.24	―	3.9	近世	壁は緩やかに立ち上がる	117	
SK135	土坑	M区	10-I	方形	1.68×0.84	1.56×0.72	―	―	―	近世以降	粘土覆土、SE39の上で検出		
SK136	弥生土坑	M区	10-I・J	隅丸方形	0.72×0.66	0.48×0.48	0.18	―	3.35	弥生	覆土はC層類似、種子１、陶器は流れ込み	26	9
SK137	土坑	M区	10-J	隅丸長方形	0.42×0.09	0.24×0.09	0.1	N16° E	3.35	弥生	覆土はC層類似	26	
SK138	土坑	N区	7-R	隅丸長方形	(1.6×0.53)	(1.54×0.43)	0.25	N83° W	5.75	近世以降	N区北壁際、全容不明 19C～	118	97
SK139	土坑	N区	7-R	長方形	―	―	―	―		近世以降	北壁際、SK138の東側で検出		
SK140	土坑	N区	6-P	方形	0.85×0.7	0.52×0.43	0.3	―	5.56	近世	焼土、礎石の下、明確掘込　19C～	118	97
SK141	土坑	N区	6-Q	隅丸長方形	0.55×0.3	0.44×0.23	0.25	N1° W	5.56	近世	粘プロ覆土坑　18C～	118	97
SK142	土坑	N区	6-Q	楕円形	0.85×0.7	0.6×0.37	0.11	N62° W	5.5	近世	漆喰含有。　18C～	118	
SK143	土坑	N区	5・6-Q	隅丸長方形	(1.53)×0.85	(1.5)×0.8	0.63	N67° W	5.23	近世	西壁際で検出、砂層底面	118	97
SK146	土坑	N区	7-P	円形	0.74×0.74	0.57×0.56	0.1	―	5	近世	覆土黒褐色土、浅い	118	
SK147	土坑	N区	6-Q	楕円形	1.67×(0.51)	0.95×(0.35)	0.4	N20° E	5.35	近世	SM6に切られる。壁擂鉢状	118	97
SK148	土坑	N区	7・8-Q・R	楕円形	(1.95)×1.85	1.74×1.05	0.35	N1° E	5.14	近世	SK149を切る	119	
SK149	土坑	N区	7-Q	細長長方形	(0.75)×0.32	(0.75)×0.23	0.06	N13° E	5.24	近世	浅い。19C～	119	
SK150	土坑	N区	7-Q	円形	1.05×1.05	0.77×0.85	0.37	―	4.99	近世	黒色土覆土。　18C～	119	98
SK151	土坑	N区	7-Q	ほぼ円形	0.57×0.5	0.28×0.18	0.25	―	5.2	近世	小形円形土坑	119	
SK152	土坑	N区	7-P・Q	隅丸長方形	(0.42)×0.42	(0.3)×0.25	0.2	N32° E	5.05	近世	SK150に連続	119	98
SK153	土坑	N区	6-P	ほぼ円形	0.6×0.45	0.4×0.36	0.33	―	5.25	近世	釘出土。SS185を切る。18C～	52	98
SK154	土坑	N区	6-Q	不整形	0.77×0.49	0.56×0.2	0.2	N3° E	0.43	近世	西側中央台上部検出	119	
SK155	土坑	N区	6-P	隅丸長方形	(1.3)×0.4	(0.93)×0.3	0.33	N15° E	5.24	近世	SP483と切り合う	119	
SK156	土坑	N区	6・7-O	楕円形	0.69×0.38	0.46×0.18	0.14	N34° E	4.55	近世	SX145と隣接。１～３㎜炭３％含有	32	14
SK157	土坑	N区	6・7-O・P	隅丸長方形	1.69×0.67	1.43×0.4	0.13	N10° E	4.45	近世	SX151の下で検出	119	
SK158	土坑	N区	7-P	ほぼ円形	1.05×0.95	0.6×0.58	0.25	―	5.2	近世	B層類似覆土、SP465と切り合う	129	98
SK159	土坑	N区	7-O	―	(0.39×0.56)	(0.3×0.03)	0.4	―	5.53	近世	SX145墓壙の北側、一部のみ遺存	120	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SK121					少量										1
SK122	1	1		2	104										
SK123		1			7										
SK124															
SK125	2			22	13			1							
SK126															
SK127	10														
SK128	8														
SK129				2	47										
SK130															
SK131															
SK132		5	3	1	20										
SK133															
SK134															
SK135	1														
SK136	2		1									1			
SK137															
SK138		22	18	8											
SK139															
SK140		7	13	5											
SK141			2	2	少量										
SK142		4	6	7	6										
SK143					43										
SK146															
SK147			1												
SK148					2										
SK149			1												
SK150		1	1	1	1										
SK151															
SK152															1
SK153			4	12				2							
SK154															
SK155					5										
SK156			1	1	9		1								1
SK157			2		1										
SK158					1										
SK159															

第３表　遺構一覧（９）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SK160	縄文土坑	N区	7-O	楕円形	―	―	―	―	―	縄文	縄文土坑、SK32の続き	24	
SK161	土坑	N区	7-Q	円形	0.93×0.9	0.75×0.6	0.25	―	5.38	近世	中央部検出。円形	120	98
SK162	土坑	N区	8-R	円形	―	―	―	―	4.8	近世	円形。SS195礎石の上部部分。小砂利・粘土ブロックで構成	52	98
SK163	土坑	N区	8-Q	円形	0.51×0.48	0.35×0.4	0.06	―	4.43	近世	小円形土坑	120	98
SK165	土坑	N区	7-P	円形	0.9×(0.32)	0.5×(0.32)	0.22	―	5.27	近世	上層暗褐、下層粘土ブロック覆土		
SK166	土坑	N区	6・7-P	隅丸長方形	(2.1)×0.65	1.7×0.36	0.25	N9° E	5.15	近世	船形状楕円形。南北方向	120	
SM1	大型土坑	I区	8・9-F・G	隅丸方形	2.88×2.82	2.76×2.7	0.3	N13° E	4.23	近世	熙寧元宝、木製品、金属出土。17C代	102	88
SM2	大型土坑	K区	11・12-M・N	隅丸方形	2.88×2.46	2.58×2.04	0.9	N4° E	4.15	近世	覆土上位に焼土含有。　18C後～末	102	89
SM3	大型土坑	K区	11・12-K・L	隅丸長方形	2.76×1.62	2.58×1.2	0.54	N2° E	4.16	近世	SK114を切り、SK113に切られる。銭貨・銅製品・獣骨出土。18C	103	89
SM4	大型土坑	K区	11・12-L・M	隅丸長方形	(1.62)×1.32	(1.26)×0.9	0.78	N4° E	4.1	近世	SK117に切られる。19C	103	90
SM6	大型土坑	N区	６-Q・R	隅丸長方形	4.61×(1.84)	4.42 ×(1.55)	(1.7)	N20° E	4.7	近世	2基重複か。上部に礫集中遺構。18C～	104	91
SP1	ピット	B区	10-K	不整形	0.36×0.3	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP2	ピット	B区	9-K	円形	0.24×0.18	0.06×0.06	―	―	―	近世			
SP3	ピット	B区	9-K	円形	0.3×0.3	0.12×0.1	―	―	―	近世	焼土含む		
SP4	ピット	B区	9-K	ほぼ円形	0.3×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP5	ピット	A区	9-P・Q	隅丸方形	0.3×(0.21)	0.12×(0.12)	0.36	―	4.6	縄文～古代	弥生か	29	99
SP6	ピット	A区	9-P	隅丸方形	0.6×(0.24)	0.12×(0.12)	0.48	―	4.69	縄文～古代	弥生か	29	99
SP7	ピット	B区	9-L	方形	0.24×0.18	0.18×0.15	0.3	―	5.07	近世		108	
SP8	ピット	A区	9-R	隅丸方形	0.32×0.28	0.16×0.12	0.2	―	4.8	近世		121	
SP9	ピット	A区	9-R	楕円形	0.54×0.32	0.14×0.10	―	―	―	近世		121	
SP10	ピット	A区	9-R	円形	0.36×0.24	0.28×0.16	0.2	―	4.75	近世		121	
SP11	ピット	A区	8-Q	隅丸方形	0.3×0.3	0.16×0.13	―	―	―	近世以降			
SP12	ピット	A区	9-Q	隅丸方形	0.4×0.32	0.32×0.24	―	―	―	近世			
SP13	ピット	A区	9-Q	円形	0.35×0.32	0.24×0.24	―	―	―	近世			
SP14	ピット	A区	9-Q	円形	0.32×0.32	0.25×0.2	―	―	―	近世			
SP15	ピット	A区	9-Q	円形	0.48×0.32	0.29×0.24	―	―	―	近世			
SP16	ピット	A区	9-Q	楕円形	0.56×0.32	0.16×0.13	―	―	―	近世			
SP17	ピット	A区	9-Q	楕円形	0.64×0.32	0.4×0.16	―	―	―	近世	SP57と重複		
SP18	ピット	A区	8-Q	円形	0.32×0.24	0.16×0.08	―	―	―	近世			
SP19	ピット	A区	8-P	円形	0.32×0.29	0.16×0.13	―	―	―	近世			
SP20	ピット	A区	8-P	円形	0.32×0.24	0.16×0.13	―	―	―	近世			
SP21	ピット	A区	8-P	円形	0.32×0.29	0.16×0.16	―	―	―	近世			
SP22	ピット	A区	8-Q	円形	0.32×0.29	0.1×0.1	―	―	―	近世			
SP23	ピット	A区	8-Q	円形	0.35×0.32	0.16×0.16	―	―	―	近世			
SP24	ピット	A区	9-R	隅丸方形	0.32×0.28	0.22×0.18	0.36	―	4.77	近世		121	
SP25	ピット	A区	8-Q	円形	0.35×0.32	0.2×0.19	―	―	―	近世			
SP26	ピット	A区	8-Q	円形	0.24×0.16	0.08×0.08	―	―	―	近世	SP39との関係不明		
SP27	ピット	A区	9-P・Q	楕円形	0.4×0.32	0.19×0.19	―	―	―	近世			
SP28	ピット	A区	9-P	円形	0.24×0.24	0.18×0.18	0.3×	―	―	近世	SP30に切られる	43	99
SP29	ピット	A区	10-Q	円形	0.15×0.15	0.19×0.19	―	―	―	近世			
SP30	ピット	A区	9-P	円形	0.3×0.3	0.24×0.15	―	―	―	近世	SP28を切る。焼塩壺出土	43	99
SP31	ピット	A区	10・11-P	円形	0.32×0.29	0.27×0.24	―	―	―	近世			

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SK160	1														
SK161															
SK162															
SK163															
SK165					2										
SK166															
SM1	3	1	108	146	56		13	9	34			8			102
SM2		98	105	13	106										
SM3		154	212	87	255		4	1	1	1				1	
SM4		76	94	20	41				1						1
SM6		2	2	2	78				3						
SP1															
SP2															
SP3															
SP4															
SP5															
SP6	2														
SP7					15										
SP8			2		2										
SP9															
SP10															
SP11			1		1										
SP12															
SP13															
SP14															
SP15															
SP16															
SP17															
SP18															
SP19															
SP20															
SP21															
SP22															
SP23					1										
SP24	1														
SP25															
SP26		2	1												
SP27															
SP28	2														
SP29															
SP30		7	7	2										1	
SP31															

第３表　遺構一覧（10）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP32	ピット	A区	9-P	円形	0.24×(0.1)	(0.1×0.1)	―	―	―	近世		43	
SP33	ピット	A区	10-P	円形	0.16×(0.08)	0.10×(0.04)	―	―	―	近世	全容不明		
SP34	ピット	B区	10-L	方形	0.16×0.16	0.08×0.08	―	―	―	近世			
SP35	ピット	B区	10-L	方形	0.48×0.45	0.29×0.24	―	―	―	近世			
SP36	ピット	B区	10-L	ほぼ円形	0.27×0.18	0.16×0.08	―	―	―	近世			
SP37	ピット	B区	10-L	不整形	0.32×0.19	0.27×0.16	―	―	―	近世			
SP38	ピット	B区	10-L	隅丸方形	0.6×0.42	0.39×0.24	0.36	―	―	近世	SK10と重複		
SP39	ピット	A区	8-Q	楕円形	0.28×0.24	0.08×0.08	―	―	―	近世	SP26との関係不明		
SP40	ピット	A区	8-Q	円形	0.29×0.24	0.13×0.13	―	―	―	近世			
SP41	ピット	A区	8-Q	円形	0.37×0.32	0.16×0.1	―	―	―	近世	SP18と重複		
SP42	ピット	A区	8-P	円形	0.16×0.16	0.12×0.12	―	―	―	近世	SP20と重複		
SP43	ピット	A区	8-P	円形	0.32×0.27	0.1×0.1	―	―	―	近世	SP44と重複		
SP44	ピット	A区	8-P	円形	0.16×0.08	―	―	―	―	近世	SP43と重複		
SP45	ピット	A区	8-P	円形	0.15×0.05	―	―	―	―	近世	西壁際、全容不明		
SP46	ピット	A区	8-P	隅丸長方形	0.64×0.19	0.58×0.16	―	―	―	近世			
SP47	ピット	A区	8-P	円形	0.19×(0.04)	0.05×(0.05)	―	―	―	近世	西壁際、全容不明		
SP48	ピット	A区	9-Q・R	隅丸方形	0.48×0.46	0.4×0.28	0.26	―	4.55	近世	陶器出土	121	
SP49	ピット	A区	8-P	円形	0.15×0.15	0.09×0.09	0.12	―	4.6	近世	陶器出土		
SP50	ピット	A区	8-P	円形	0.19×(0.16)	0.1×(0.1)	―	―	―	近世	西壁際、全容不明		
SP51	ピット	A区	9-P	円形	0.37×0.32	0.16×0.16	―	―	―	近世	SP28と隣接		
SP52	ピット	A区	9-P	円形	0.45×0.4	0.29×0.22	―	―	―	近世	SS10と重複		
SP53	ピット	A区	9-P・Q	円形	0.37×0.32	0.16×0.08	―	―	―	近世	SP54と隣接。瓦出土		
SP54	ピット	A区	9-P・Q	円形	0.16×0.16	0.05×0.05	―	―	―	近世	SP27・53 と隣接		
SP55	ピット	A区	9-P	円形	0.16×0.16	0.13×0.13	―	―	―	近世	SP61と近接		
SP56	ピット	A区	9-Q	円形	0.18×0.16	0.05×0.05	―	―	―	近世			
SP57	ピット	A区	9-Q	円形	0.19×0.16	0.05×0.05	―	―	―	近世	SP17と重複		
SP58	ピット	A区	8-Q	楕円形	(0.60) ×0.3	(0.55)×0.3	―	―	―	近世	西壁際、全容不明。瓦出土		
SP59	ピット	A区	9-Q	円形	0.19×0.16	0.13×0.13	―	―	―	近世	SP60と重複		
SP60	ピット	A区	9-Q	円形	0.19×0.16	0.13×0.13	―	―	―	近世	SP59と重複		
SP61	ピット	A区	9-P	円形	0.18×0.16	0.11×0.11	―	―	―	近世	SP55と近接		
SP62	礎石ピット	B区	9-K	隅丸方形	0.42×0.42	0.36×0.36	0.27	―	4.93	近世	磁器出土	53	99
SP63	ピット	B区	9-L	楕円形	0.28×0.24	0.13×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP64	ピット	A区	11-P	円形	0.35×0.35	0.26×0.18	―	―	―	近世			
SP65	ピット1号ピット列	A区	13-O	円形	0.42×0.24	0.27×0.15	0.36	―	3.75	近世	SP66・67 と並ぶ	122	
SP66	ピット1号ピット列	A区	12・13-N	ほぼ円形	0.42×0.42	0.27×0.24	0.42	―	3.8	近世	SP65・67 と並ぶ	122	
SP67	ピット1号ピット列	A区	12・13-N	ほぼ円形	0.48×0.36	0.21×0.18	0.3	―	4.03	近世	SP65・66と並ぶ	122	
SP68	ピット1号ピット列	A区	12-N	ほぼ円形	0.48×0.42	0.42×0.36	0.18	―	3.6	近世	SP67と並ぶ、陶器出土	122	
SP69	ピット	B区	10・11-J	ほぼ円形	0.38×0.33	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP70	ピット	C区	5-O	ほぼ円形	0.36×0.3	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP71	ピット	C区	5・6-O	ほぼ円形	0.28×0.18	0.22×0.16	―	―	―	近世	SP84と重複。陶器・瓦出土		99
SP72	ピット	C区	6-N	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP73	ピット	C区	5-N	ほぼ円形	0.48×0.36	0.24×0.18	―	―	―	近世	瓦出土		
SP74	ピット	C区	5・6-N・O	円形	0.54×0.52	0.44×0.4	0.28	―	5.38	近世	SP82と隣接。磁器出土	127	99
SP75	ピット	C区	6-N	円形	0.48×0.44	0.14×0.08	0.36	―	5.45	近世	銭貨・金属出土。覆土粘土ブロック顕著	127	
SP76	ピット	C区	6-O	円形	0.54×0.54	0.36×0.36	―	―	―	近世			
SP77	ピット	C区	6-O	ほぼ円形	0.18×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世			

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP32															
SP33															
SP34					3										
SP35															
SP36															
SP37															
SP38															
SP39															
SP40															
SP41															
SP42															
SP43															
SP44															
SP45															
SP46															
SP47															
SP48			1												1
SP49	1		1												
SP50															
SP51															
SP52															
SP53					3										
SP54															
SP55															
SP56															
SP57															
SP58					1										
SP59															
SP60															
SP61															
SP62			1											1	1
SP63					3										
SP64															
SP65															
SP66															
SP67															
SP68			1												
SP69															
SP70															
SP71			1		少量										
SP72															
SP73					2										
SP74		1													
SP75	1						1	1							
SP76															
SP77															

第３表　遺構一覧（11）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP78	ピット	C区	5-N	円形	0.42×0.42	0.24×0.12	―	―	―	近世	SE5（井戸）と重複		
SP79	ピット	C区	6-O	円形	0.3×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP80	ピット	C区	7-N	円形	0.36×0.36	0.18×0.18	―	―	―	近世	SD4を切る。SE6と重複		
SP81	ピット	C区	7-O	円形	0.48×(0.3)	0.18×(0.12)	―	―	―	近世			
SP82	ピット	C区	5・6-N	ほぼ円形	0.52×0.52	0.4×0.36	0.32	―	5.34	近世	SP86と隣接。土器皿・瓦出土	127	99
SP83	ピット	C区	6-O	不整方形	0.36×0.36	0.14×0.14	―	―	―	近世			
SP84	ピット	C区	6-O	円形	0.32×0.24	0.14×0.12	―	―	―	近世	SP71と重複		99
SP85	ピット	C区	5-O	ほぼ円形	0.42×0.36	0.26×0.26	―	―	―	近世			
SP86	ピット	C区	6-N	不明	0.42×0.24	0.24×0.12	―	―	―	近世	SP82,SSS2-5と重複。丸瓦出土		
SP87	ピット	C区	5-N	ほぼ円形	0.2×0.2	0.1×0.1	―	―	―	近世			
SP88	ピット	C区	5-O	ほぼ円形	0.25×0.24	0.14×0.12	―	―	―	近世			
SP89	ピット	D区	6-J	隅丸方形	0.14×0.14	0.04×0.04	―	―	―	近世			
SP90	ピット	D区	6-J	隅丸方形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP91	ピット	D区	7-J	ほぼ円形	0.25×0.22	0.12×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP92	ピット	D区	7-J	不整円形	0.3×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP93	ピット	D区	6-J	ほぼ円形	0.25×0.25	0.18×0.12	―	―	―	近世			
SP94	ピット	D区	7-I	ほぼ円形	0.25×0.23	0.08×0.08	―	―	―	近世			
SP95	ピット	C区	7-N	ほぼ円形	0.36×0.34	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP96	ピット	C区	7-N	ほぼ円形	0.3×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP97	ピット	C区	7-N	隅丸長方形	0.26×0.16	0.16×0.12	0.28	―	5.28	近世	土器皿・金属出土	127	
SP98	ピット	C区	6-N	ほぼ円形	0.45×0.3	0.14×0.12	―	―	―	近世	SSS2-3と重複		
SP99	ピット	C区	6-O	ほぼ円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	SK30と重複		
SP100	ピット	C区	6-O	ほぼ円形	0.18×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP101	ピット	C区	7-N	ほぼ円形	0.25×0.2	0.18×0.14	―	―	―	近世			
SP102	ピット	C区	6-N	―	―	―	―	―	―	近世	SSS5-4と重複		
SP105	ピット	C区	7-N	隅丸方形	0.24×0.24	0.12×0.06	―	―	―	近世			
SP106	ピット	C区	7-N	ほぼ円形	0.24×(0.12)	0.12×(0.06)	―	―	―	近世			
SP107	ピット	C区	7-O	隅丸方形	0.24×0.14	0.14×0.1	―	―	―	近世			
SP108	ピット	D区	5-G	隅丸方形	0.48×0.36	0.3×0.24	―	―	―	近世	磁器・瓦出土		
SP109	ピット	D区	5-G	円形	0.6×0.54	0.2×0.2	―	―	―	近世	土器・瓦出土		
SP110	ピット	D区	5-G	不整円形	0.6×0.54	0.18×0.14	―	―	―	近世	陶磁器・瓦・銭貨・金属出土		
SP111	ピット	D区	5-G	隅丸長方形	0.26×0.14	0.1×0.06	―	―	―	近世	土器・瓦出土		
SP112	ピット	D区	5-G・H	隅丸方形	0.24×0.24	0.2×0.18	―	―	―	近世	SP113と重複		
SP113	ピット	D区	5-H	隅丸方形	0.24×0.24	0.2×0.2	―	―	―	近世	SP112と重複		
SP114	ピット	D区	5-G	ほぼ円形	0.36×0.2	0.18×0.14	―	―	―	近世			
SP115	ピット	D区	5-H	円形	0.24×0.22	0.06×0.06	0.24	―	4.91	近世	柱痕状覆土。土器皿出土	121	
SP116	ピット	D区	5-H	ほぼ円形	0.24×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP117	ピット	D区	5-G	楕円形	0.54×0.36	0.36×0.24	―	―	5.4	近世	擂鉢・瓦出土		
SP118	ピット	D区	4・5-G	楕円形	0.48×0.36	0.36×0.24	―	―	―	近世	瓦出土		
SP119	ピット	D区	5-J	隅丸方形	0.18×0.12	0.12×0.08	―	―	―	近世	SP120と重複		
SP120	ピット	D区	5-J	隅丸方形	0.18×0.14	0.04×0.04	―	―	―	近世	SP119と重複		
SP121	ピット	D区	5-J	ほぼ円形	0.36×0.26	0.12×0.06	―	―	―	近世			
SP122	ピット	D区	5-J	隅丸方形	0.36×0.2	0.14×0.08	―	―	―	近世			
SP123	ピット	D区	5-J	不整楕円形	0.66×0.3	0.3×0.18	―	―	―	近世			
SP124	ピット	D区	5-K	楕円形	0.48×0.3	0.1×0.1	―	―	―	近世	SS14と重複。瓦出土		
SP125	ピット	D区	5-G	円形	0.12×0.12	0.08×0.08	―	―	―	近世	瓦出土		
SP126	ピット	D区	5-G	隅丸方形	0.14×0.12	0.07×0.07	―	―	―	近世			
SP127	ピット	D区	5-G	ほぼ円形	0.3×0.24	0.14×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP128	ピット	C区	7-N	ほぼ円形	0.18×0.12	0.07×0.07	―	―	―	近世			
SP129	ピット	C区	7-N	隅丸方形	0.2×0.14	0.1×0.07	―	―	―	近世			
SP130	ピット	E区	10-N	楕円形	0.48×0.4	0.24×0.16	0.26	―	5.15	近世以降	焼土粒含有。角釘・ガラス出土	124	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP78															
SP79															
SP80															
SP81															
SP82				1	少量										
SP83															
SP84															
SP85															
SP86					1										
SP87															
SP88															
SP89															
SP90															
SP91					1										
SP92															
SP93															
SP94															
SP95															
SP96															
SP97				1			1								
SP98															
SP99															
SP100					1										
SP101															
SP102															
SP105															
SP106															
SP107															
SP108			1		6										
SP109				5	6										
SP110		1	1		1		1	1							
SP111				3	5										
SP112															
SP113															
SP114															
SP115					1										
SP116															
SP117			1	1	1										
SP118					5										
SP119															
SP120															
SP121															
SP122															
SP123															
SP124					1										
SP125					1										
SP126															
SP127					1										
SP128															
SP129															
SP130							1	1					1		

第３表　遺構一覧（12）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP131	ピット	E区	10-N	円形	0.3×0.24	0.14×0.12	―	―	―	近世			
SP132	ピット	E区	10-N	隅丸方形	0.36×0.26	0.33×0.21	―	―	―	近世	砂利含み覆土。土器出土		
SP133	ピット	E区	10-N	―	0.34×0.24	0.08×0.08	―	―	―	近世	SK41(埋甕)を切る		
SP134	ピット	E区	10-N	隅丸方形	0.3×0.24	0.2×0.19	―	―	―	近世			
SP135	ピット	E区	10-M	隅丸方形	0.38×0.33	―	―	―	―	近世	陶磁器・金属出土		
SP136	ピット	E区	10-N	円形	0.78×0.78	0.23×0.16	0.12	―	5.1	近世	覆土に焼土を含む。陶器出土	44・45	
SP137	ピット	E区	7-N	円形	0.4×0.4	0.16×0.16	0.28	―	5.48	近世	SP138 と重複。土器、瓦出土	44	
SP138	ピット	E区	8-N	円形	0.4×0.4	0.20×0.16	0.32	―	5.48	近世	SP137 と重複	44	
SP139	ピット	E区	8-N	円形	0.3×0.18	0.96×0.96	―	―	―	近世	SP138 と関係不明		
SP140	ピット	E区	10-N	方形	0.24×0.18	0.06×0.06	―	―	―	近世			
SP141	ピット	E区	10-N	不整形	0.56×0.44	0.2×0.18	0.66	―	4.95	近世	陶磁器・土器・瓦出土	126	
SP142	ピット	E区	10-N	ほぼ円形	0.33×(0.14)	0.2×(0.12)	―	―	―	近世	北壁際、全容不明		
SP143	焼土跡	E区	9-N	円形	0.48×0.4	0.24×0.2	0.2	―	5.63	近世	SK38に切られる。陶器・石製品・礫出土	82	66
SP144	ピット	E区	11-M	楕円形	0.42×0.24	0.3×0.96	―	―	―	近世			
SP145	ピット	E区	8-M	円形	0.24×(0.10)	0.08×(0.04)	―	―	―	近世	SS19に切られる。土器・瓦出土		
SP146	焼土跡	E区	9-N	円形	0.48×(0.32)	0.33×(0.22)	0.16	―	5.22	近世	北側区境壁で全容不明。磁器・瓦出土	82	
SP147	ピット	E区	11-M・N	ほぼ円形	0.24×0.21	0.96×0.96	―	―	―	近世	瓦出土		
SP148	ピット	E区	11-M	ほぼ円形	0.24×0.24	0.14×0.14	―	―	―	近世			
SP150	ピット	E区	8-N	楕円形	0.48×0.3	0.24×0.18	―	―	―	近世			
SP151	ピット	E区	8・9-N	隅丸長方形	0.6×0.24	0.3×0.96	―	―	―	近世			
SP152	ピット	E区	8-N	円形	0.18×(0.9)	0.12×(0.06)	―	―	―	近世			
SP153	ピット	E区	8-N	―	―	―	―	―	―	近世	SS48と重複		
SP154	ピット	E区	7-N	ほぼ円形	0.24×0.24	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP155	ピット	E区	7・8-N	楕円形	0.46×(0.3)	0.14×0.14	―	―	―	中近世	陶器(被熱)出土		
SP156	ピット	E区	10-N	ほぼ円形	0.3×0.24	0.12×0.08	―	―	―	近世			
SP157	ピット	E区	10-N	楕円形	0.54×0.38	0.48×0.24	―	―	―	近世			
SP158	ピット	E区	10-N	隅丸方形	0.20×(0.10)	0.16×(0.06)	―	―	―	近世	SK41と重複。陶器出土		
SP159	ピット	E区	9・10-N	楕円形	0.6×0.33	0.36×0.15	―	―	―	近世	土器皿出土		
SP160	ピット	E区	8-N	楕円形	(0.72)×0.44	0.6×0.28	0.12	―	4.97	近世	土器皿・角釘出土	124	
SP161	ピット	E区	7・8-N	―	―	―	―	―	―	近世	SS21と重複		
SP162	ピット	E区	9-N	円形	0.32×0.28	0.16×0.12	0.56	―	4.75	中近世	陶器	121	
SP163	ピット	E区	8-N	ほぼ円形	0.42×0.24	0.24×0.12	―	―	―	近世	SS49と重複		
SP164	ピット	E区	8-N	方形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP165	ピット	E区	8-N	楕円形	0.36×0.24	0.18×0.14	―	―	―	近世			
SP166	ピット	E区	7-N	楕円形	0.38×0.28	0.06×0.06	―	―	―	近世			
SP167	ピット	E区	8-N	隅丸方形	0.4×0.4	0.32×0.32	0.2	―	4.85	近世		121	
SP168	ピット	E区	8-N	円形	0.2×0.2	0.08×0.08	0.2	―	4.75	近世	土器皿(穿孔含む)・陶器出土	121	
SP169	ピット	E区	8・9-M	円形	0.36×0.3	0.18×0.14	―	―		近世			
SP170	ピット	F区	11-D	隅丸方形	0.26×0.24	0.14×0.14	0.24	―	4.12	近世		121	100
SP171	ピット	F区	11-D	楕円形	0.44×0.28	0.24×0.12	―	―	―	近世	陶磁器・土器・瓦出土		100
SP172	ピット	E区	8-N	楕円形	0.48×0.26	0.33×0.12	―	―	―	近世	SS32と重複		
SP173	ピット	E区	8-N	ほぼ円形	0.24×0.18	0.14×0.14	―	―	―	近世			
SP174	ピット	E区	8-N	楕円形	0.36×0.3	0.24×0.12	―	―	―	近世			
SP175	ピット	E区	8-N	方形	0.2×0.18	0.09×0.09	―	―	―	近世			
SP176	ピット	E区	8-N	方形	0.24×0.18	0.19×0.13	―	―	―	近世			
SP177	ピット	E区	8-N	円形	0.18×0.14	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP178	ピット	E区	8-N	円形	0.18×0.14	0.12×0.12	―	―	―	近世	SS41と重複		
SP179	ピット	E区	8-N	―	―	―	―	―	―	近世	SS19と重複		
SP180	ピット	E区	8-M	―	―	―	―	―	―	近世	SS35と重複		

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP131															
SP132		1		1											
SP133															
SP134															
SP135	1	1	3				1								
SP136			1												
SP137				1	8										
SP138															
SP139															
SP140															
SP141		1	3	1	2										
SP142															
SP143			1											1	15
SP144															
SP145				1	少量										
SP146		1			少量										
SP147					7										
SP148															
SP150															
SP151															
SP152															
SP153															
SP154															
SP155	1		1												
SP156															
SP157															
SP158			2												
SP159				1											
SP160				40			1								
SP161															
SP162			1												
SP163															
SP164															
SP165															
SP166															
SP167															
SP168			1	51											
SP169															
SP170		2		2											
SP171		2	6	4	1										
SP172															
SP173															
SP174															
SP175															
SP176															
SP177															
SP178															
SP179															
SP180															

第３表　遺構一覧（13）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP181	ピット	E区	8-M	―	―	―	―	―	―	近世	SS19と重複		
SP182	ピット	E区	8-M	―	―	―	―	―	―	近世	SS19と重複		
SP183	瓦溜り	F区	12-E	ほぼ円形	0.56×0.46	0.3×0.18	0.32	―	4.28	近世	SK63と重複。上部瓦充填。SP184と対か。中国製青白磁出土	123	100
SP184	瓦溜り	F区	12-E	ほぼ円形	0.52×0.4	0.28×0.2	0.2	―	4.28	近世	上部瓦充填。陶器出土。SP183と対か	123	100
SP185	ピット	F区	11-F	ほぼ円形	0.45×0.34	0.24×0.19	―	―	―	近世			
SP186	ピット	F区	11-F	隅丸方形	0.3×0.24	0.1×0.1	―	―	―	近世			
SP187	ピット	F区	11-F	円形	0.36×0.33	0.24×0.24	―	―	―	近世	焼成粘土塊出土		
SP188	ピット	F区	11-F	楕円形	0.6×0.36	0.48×0.33	―	―	―	近世	SX21と重複		
SP189	ピット	F区	11-E	ほぼ円形	0.4×0.36	0.32×0.24	0.1	―	3.46	近世	焼土若干含む。陶器出土	123	
SP190	ピット	F区	11-E	楕円形	0.68×0.44	0.32×0.24	0.28	―	3.51	近世	SK60・SK61と重複。壁に段。陶器・土器・刀子出土	123	100
SP191	ピット	F区	11-E	隅丸方形	0.46×0.42	0.3×0.24	―	―	―	近世	SK60 と重複		
SP192	ピット	F区	11-E	ほぼ円形	0.6×0.6	0.3×0.14	―	―	―	近世			
SP193	ピット	F区	11-E	ほぼ円形	0.48×0.3	0.07×0.07	―	―	―	近世			
SP194	木組遺構	F区	12-E	円形	0.36×0.32	0.28×0.28	0.2	―	3.31	近世	桶か。底面板敷。土器皿・瓦出土	122	101
SP195	ピット	F区	11-E	楕円形	0.9×0.42	0.3×0.14	―	―	―	近世	SK60と重複		
SP196	ピット	F区	12-D・E	ほぼ円形	0.6×(0.48)	0.44×(0.32)	0.24	―	3.48	近世	東側区境界のため全容不明	123	
SP197	ピット（杭）	F区	11-D	ほぼ円形	0.56×0.36	0.44×0.2	0.24	―	3.64	近世	SK60と重複	123	101
SP198	ピット	F区	11-D・E	ほぼ円形	0.72×(0.36)	0.54×(0.3)	―	―	―	近世			
SP199	ピット	F区	11-E	円形	0.54×0.48	0.36×0.36	―	―	―	近世	SK60と重複		
SP200	ピットSB6	H区	4-K	円形	0.3×0.3	0.18×0.18	―	―	―	近世		48	
SP201	ピットSB6	H区	4-K	ほぼ円形	0.36×0.24	0.18×0.12	―	―	―	近世		48	
SP202	ピットSB6	H区	4-K	ほぼ円形	0.3×0.27	0.12×0.12	―	―	―	近世		48	
SP203	ピットSB6	H区	4-M	ほぼ円形	0.3×0.24	0.1×0.1	―	―	―	近世		48	
SP204	ピットSB6	H区	5-M	円形	0.27×0.21	0.12×0.12	―	―	―	近世		48	
SP205	ピットSB6関連	H区	5-L	ほぼ円形	0.24×0.18	0.06×0.06	―	―	―	近世	瓦出土	48	
SP206	ピットSB6	H区	4-L	隅丸方形	0.39×0.33	0.24×0.18	―	―	―	近世	磁器出土	48	101
SP207	ピットSB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.54×0.42	0.48×0.36	―	―	―	近世	土器・瓦出土	48	101
SP208	ピットSB6	H区	4-L	隅丸方形	0.48×0.36	0.3×0.24	0.32	―	5.45	近世以降	陶器・瓦出土	48・123	101
SP209	ピットSB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.42×0.36	0.36×0.24	―	―	―	近世		48	
SP210	ピットSB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.33×0.27	0.15×0.15	―	―	―	近世		48	
SP211	ピットSB6	H区	4-K	隅丸方形	0.48×0.3	0.3×0.18	―	―	―	近世		48	
SP212	ピットSB6	H区	4-K	隅丸方形	0.42×0.36	0.15×0.12	―	―	―	近世		48	
SP213	ピットSB6	H区	4-K	ほぼ円形	0.36×0.36	0.18×0.15	―	―	―	近世		48	
SP214	ピットSB6	H区	5-K	ほぼ円形	0.27×0.24	0.15×0.15	―	―	―	近世		48	
SP215	ピットSB6	H区	5-K	ほぼ円形	0.24×0.21	0.09×0.09	―	―	―	近世		48	
SP216	ピットSB6	H区	5-K・L	隅丸方形	0.3×0.3	0.21×0.21	―	―	―	近世		48	
SP217	ピットSB6	H区	4-K	楕円形	0.45×0.3	0.09×0.09	0.32	―	5.31	近世	土器出土	48・123	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP181															
SP182															
SP183		1			多量										
SP184			1												
SP185															
SP186															
SP187	1														
SP188															
SP189			1												
SP190			3	1			1								
SP191															
SP192															
SP193															
SP194				1	1				1						
SP195															
SP196			1												1
SP197			1												
SP198															
SP199															
SP200															
SP201															
SP202															
SP203															
SP204															
SP205					1										
SP206		1													
SP207				1	1										
SP208			4		4										1
SP209															
SP210															
SP211															
SP212															
SP213															
SP214															
SP215															
SP216															
SP217	1			1											1

第３表　遺構一覧（14）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP218	ピット SB6	H区	4-K	ほぼ円形	0.23×0.18	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世		48	
SP219	ピット SB6	H区	4・5-K	隅丸方形	0.36×0.3	0.15×0.09	ー	ー	ー	近世		48	
SP220	ピット SB6	H区	4-K	隅丸方形	0.33×0.18	0.15×0.12	ー	ー	ー	近世		48	
SP221	ピット SB6	H区	4-K・L	隅丸方形	0.24×0.18	0.06×0.06	ー	ー	ー	近世		48	
SP222	ピット	H区	4-K	不整形	0.6×0.48	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世	陶磁器・土器・瓦出土	48	
SP223	ピット SB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.39×0.36	0.09×0.09	ー	ー	ー	近世	SE12と重複	48	
SP224	ピット SB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.27×0.24	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世		48	
SP225	ピット SB6	H区	4・5-L	ほぼ円形	0.3×0.24	0.18×0.15	ー	ー	ー	近世		48	
SP226	ピット	H区	5-L	ほぼ円形	0.27×0.24	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世		48	
SP227	ピット SB6	H区	5-L	隅丸方形	0.3×0.24	0.27×0.15	ー	ー	ー	近世	磁器出土	48	
SP228	ピット SB6	H区	5-L	隅丸方形	0.24×0.24	0.15×0.15	ー	ー	ー	近世	礎石2点	48	
SP229	ピット SB6	H区	5-L	ほぼ円形	0.3×0.24	0.18×0.15	0.3	ー	ー	近世	SK73に切られる	48	94
SP230	ピット SB6関連	H区	5-L	ほぼ円形	0.54×0.42	0.48×0.24	ー	ー	ー	近世		48	
SP231	ピット SB6	H区	4-M	ほぼ円形	0.42×0.36	0.33×0.24	ー	ー	ー	近世 以降		48	
SP232	ピット SB6	H区	4-L	円形	0.72×0.6	0.18×0.18	0.32	ー	5.15	近世	上層は瓦礫含む。下層はピット	48・ 122	
SP233	ピット SB6	H区	4-L	隅丸方形	0.18×0.12	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世 以降	杭を伴う	48	
SP234	ピット SB6関連	H区	5-L	隅丸方形	0.33×0.27	0.27×0.18	ー	ー	ー	近世 以降	SP235と重複	48	
SP235	ピット SB6関連	H区	5-L	ほぼ円形	0.18×0.12	0.12×0.06	ー	ー	ー	近世 以降	SP234と重複	48	
SP236	ピット SB6関連	H区	5-L・M	円形	0.22×0.2	0.04×0.04	ー	ー	ー	近世		48	
SP237	ピット SB6	H区	4-L	円形	0.29×0.24	0.12×0.12		ー	ー	近世		48	
SP238	ピット SB6	H区	4-K・L	隅丸方形	0.48×0.42	0.12×0.1	ー	ー	5.28	近世	SE12 を切る	48・ 71	
SP239	ピット SB6	H区	4-K	楕円形	0.54×0.39	0.24×0.24	0.56	ー	5.19	近世	陶器・土器出土	48・ 122	
SP240	ピット SB6	H区	4-K	ほぼ円形	0.36×0.3	0.18×0.18	ー	ー	ー	近世		48	
SP241	ピット SB6	H区	5-K	ほぼ円形	0.36×0.27	0.12×0.06	ー	ー	ー	近世		48	
SP242	ピット	G区	10-N	楕円形	1.0×0.56	0.6×0.24	0.4	ー	5.41	近世	漆喰含有。陶磁器・土器・瓦出土	53	
SP243	ピット SB6	H区	4-L	円形	0.3×0.24	0.24×0.21	ー	ー	ー	近世	SK74と重複	48	
SP245	ピット	Ｉ区	9-F	円形	0.26×0.24	0.24×0.18	ー	ー	ー	近世	陶磁器・土器・瓦出土		
SP246	ピット	G区	8-N	円形	0.18×0.18	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世	SK67と重複		
SP247	ピット	G区	8-N	円形	0.24×0.24	0.18×0.12	ー	ー	ー	近世			
SP248	ピット	G区	8-N・O	ほぼ円形	0.42×0.3	0.14×0.12	ー	ー	ー	近世			
SP249	ピット	G区	8-O	円形	0.3×0.24	0.2×0.14	ー	ー	ー	近世	SS71と重複		
SP250	ピット	G区	8-O	ほぼ円形	0.33×0.24	0.12×0.12	ー	ー	ー	近世			
SP251	ピット	Ｉ区	9-I	円形	0.5×0.48	0.36×0.24	ー	ー		近世			
SP253	ピット	J区	8-L	ほぼ円形	0.48×0.36	0.3×0.24	ー	ー	4.95	近世	柱痕状覆土。SX65と重複	124	
SP254	ピット	Ｊ区	9-L	ほぼ円形	0.52×0.38	0.36×0.24	0.24	ー	4.78	近世	覆土に焼土若干。陶器・土器・角釘出土	123	
SP255	ピット	Ｉ区	8-I	円形	0.27×0.18	ー	0.42	ー	4.66	近世		114	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP218															
SP219															
SP220															
SP221															
SP222		1	2	2	1										
SP223															
SP224															
SP225															
SP226															
SP227		1													
SP228															
SP229															
SP230															
SP231															
SP232	1				少量										
SP233		2													
SP234															
SP235															
SP236															
SP237					1										1
SP238															
SP239			1	1	少量										
SP240															
SP241															
SP242		4	4	2	4										1
SP243															
SP245		1	1	1	5										
SP246															
SP247															
SP248															
SP249															
SP250															
SP251															
SP253															
SP254	1		2	2			2								
SP255															

第３表　遺構一覧（15）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP256	ピット	J区	7-L	円形	0.24×0.24	0.14×0.12	―	―	5.98	近世	柱痕状覆土。SP373と重複	124	102
SP257	ピット	J区	8-L	円形	0.26×0.24	0.12×0.12	―	―	5.94	近世	柱痕状覆土。瓦出土	124	102
SP258	ピット	J区	7-L	楕円形	0.57×0.26	0.96×0.96	―	―	―	近世			
SP259	ピット	J区	7-K	円形	0.36×0.3	0.24×0.21	―	―		近世	SP260と重複		
SP260	ピット	J区	7-K	円形	0.33×0.33	0.24×0.24	―	―		近世	SP259と重複		
SP261	ピット	J区	7-L	円形	0.32×0.3	0.28×0.24	0.14	―	4.99	近世	柱痕状の覆土	125	102
SP262	礎石 ピット	J区	7-L	隅丸方形	0.32×0.32	0.28×0.26	0.12	―	5	近世	礎石あり	125	102
SP263	ピット	J区	7-L	隅丸方形	0.21×0.18	0.14×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP264	ピット	J区	7-L	隅丸方形	0.21×0.21	0.12×0.12	―	―	―	近世	瓦出土		
SP265	ピット	J区	7-K	円形	0.38×0.28	0.2×0.16	0.28	―	5.05	近世		124	
SP266	ピット	J区	7-K	隅丸方形	0.32×0.32	0.28×0.22	0.24	―	5.05	近世		124	
SP267	ピット	J区	8-L	隅丸方形	0.36×0.36	0.24×0.24	―	―	―	近世	SX65を切る。陶器・瓦出土		102
SP268	ピット	J区	8-L	円形	0.3×0.3	0.18×0.14	―	―	―	近世	SX65を切る		102
SP269	ピット	J区	8-L	円形	0.42×0.3	0.12×0.06	―	―	―	近世	SX65を切る		
SP270	ピット	J区	7-L	円形	0.24×0.24	0.18×0.18	―	―	4.98	近世		125	
SP271	ピット	J区	8-L	円形	0.22×0.2	0.1×0.08	0.16	―	5.02	近世	SX65を切る。覆土に焼土粒若干	121	
SP272	ピット	J区	7-L	円形	0.26×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP273	ピット	J区	8-L	円形	0.3×0.24	0.14×0.12	―	―	4.95	近世		124	
SP274	ピット	J区	7-K	円形	0.3×0.24	0.21×0.18	―	―	―	近世	瓦出土		
SP275	ピット	J区	8-L	円形	0.21×0.21	0.18×0.12	―	―	―	近世			
SP276	ピット	J区	8-L	円形	0.28×0.28	0.24×0.14	―	―	―	近世	瓦出土		
SP277	ピット	J区	7-L	ほぼ円形	0.48×0.3	0.24×0.17	―	―	―	近世			
SP278	ピット	J区	9-L	円形	0.3×0.26	0.24×0.14	―	―	―	近世			
SP279	ピット	J区	8-M	円形	0.21×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP280	ピット	J区	8-M	円形	0.42×0.36	0.32×0.25	0.12	―	4.95	近世		74	
SP281	ピット	J区	8-L	楕円形	0.48×0.3	0.33×0.21	―	―	―	近世			
SP282	ピット	Ⅰ区	8-I	ほぼ円形	0.31×0.24	0.18×0.14	―	―	4.66	近世	SD16を切る。柱痕状覆土	125	103
SP284	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.18×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世	土器出土		
SP285	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.32×0.26	0.14×0.14	―	―	―	近世			
SP286	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	土器出土		
SP287	ピット	Ⅰ区	7-H・I	ほぼ円形	0.48×0.24	0.06×0.06	―	―	―	近世	土器出土		
SP288	ピット	Ⅰ区	7-I	ほぼ円形	0.36×0.3	0.14×0.12	―	―	―	近世			
SP289	ピット	Ⅰ区	7-I	ほぼ円形	0.3×0.24	0.24×0.12	―	―	―	近世			
SP290	ピット	Ⅰ区	7-F・G	円形	0.22×0.2	0.16×0.12	0.2	―	4.1	近世		121	
SP291	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.24×0.2	0.16×0.12	0.28	―	4.58	近世		121	103
SP292	ピット	Ⅰ区	7-I	隅丸方形	0.36×0.36	0.28×0.28	0.24	―	4.85	近世	SP301と重複。土器・丸瓦出土	123	103
SP293	ピット	J区	9-J	隅丸方形	0.3×0.28	0.04×0.04	0.32	―	4.55	近世	SK97と重複	122	
SP294	ピット	Ⅰ区	7-I	ほぼ円形	0.48×0.36	0.3×0.2	0.22	―	4.9	近世	焼土を含む。土器出土	126	103
SP295	ピット	J区	7-K	円形	0.38×0.36	0.24×0.12	―	―	4.9	近世	深い。柱痕状覆土	125	103
SP296	ピット	Ⅰ区	8-F・G	円形	0.24×0.18	0.1×0.06	―	―	―	近世	黒褐色覆土		
SP297	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.21×0.21	0.1×0.1	―	―	―	近世	暗褐色覆土		
SP298	ピット	Ⅰ区	7-I	楕円形	0.48×0.3	0.36×0.14	―	―	―	近世	暗褐色覆土		
SP299	ピット	Ⅰ区	7-I	ほぼ円形	0.42×0.35	0.14×0.12	―	―	―	近世	暗褐色覆土		
SP300	ピット	Ⅰ区	9-I	隅丸方形	0.66×0.48	0.54×0.42	0.48	―	4.3	近世	SK79と重複	65	
SP301	ピット	Ⅰ区	7-I	楕円形	0.36×0.21	0.24×0.12	―	―	―	近世	SP292と重複		
SP302	ピット	Ⅰ区	7-J	ほぼ円形	0.24×0.18	0.12×0.06	―	―	―	近世			
SP303	ピット	Ⅰ区	7-I	楕円形	0.48×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世	2基か		
SP304	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.26×0.24	0.14×0.12	―	―	―	近世			
SP305	ピット	Ⅰ区	7-I	円形	0.33×0.33	0.21×0.21	―	―	―	近世	焼土若干		
SP306	ピット	Ⅰ区	7-I	ほぼ円形	0.54×0.36	0.3×0.18	―	―	―	近世	木の根を含む		
SP307	ピット	Ⅰ区	7-J	円形	0.14×0.14	0.08×0.08	―	―	―	近世			
SP308	ピット	Ⅰ区	7-J	円形	0.26×0.24	0.12×0.08	―	―	―	近世			
SP309	ピット (貝堆積)	J区	8-K	円形	0.72×0.66	0.42×0.33	0.72	―	4.77	近世	貝は最上部に堆積	98	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP256															
SP257					少量										
SP258															
SP259															
SP260															
SP261															
SP262															1
SP263					少量										
SP264					少量										
SP265															
SP266															
SP267			1		1										
SP268															
SP269															
SP270															
SP271															
SP272				少量	1										
SP273															
SP274					3										
SP275															
SP276					2										
SP277															
SP278															
SP279															
SP280															
SP281															
SP282															
SP284				1											
SP285															
SP286				1											
SP287				2											
SP288															
SP289															
SP290															
SP291															
SP292	1			2	少量										
SP293															
SP294				2											
SP295															
SP296															
SP297															
SP298															
SP299															
SP300										1					
SP301															
SP302															
SP303															
SP304															
SP305															
SP306															
SP307															
SP308															
SP309											0.7				

第３表　遺構一覧（16）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP310	ピット	Ⅰ区	8-I	ほぼ円形	0.24×0.2	0.14×0.14	―	―	―	近世 以前			
SP311	ピット	Ⅰ区	8-I	ほぼ円形	0.24×0.18	0.14×0.12	―	―	―	近世 以前			
SP312	ピット	Ⅰ区	8-I	円形	0.3×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世 以前			
SP313	ピット	Ⅰ区	8-I	円形	0.48×0.38	0.12×0.12	―	―	―	近世 以前			
SP314	ピット	Ⅰ区	7-H	ほぼ円形	0.24×0.18	0.12×0.96	―	―	―	近世 以前			
SP315	ピット	J区	8-L	円形	0.3×0.24	0.12×0.06	―	―	―	近世	SX65切る。土器出土		
SP316	ピット (貝堆積)	J区	9-K	円形	0.66×0.57	0.42×0.33	0.9	―	4.65	近世	深い。貝は覆土最上部に堆積	98	81
SP317	ピット	J区	8-K	円形	0.48×0.38	0.33×0.3	―	―	―	近世			
SP318	ピット	J区	9-L	円形	0.6×0.12	0.12×0.03	―	―	―	近世	SK93を切る	112	
SP319	ピット	J区	8・9-L	円形	0.3×0.3	0.24×0.12	―	―	―	近世	SK93を切る。SP320と重複	112	
SP320	ピット	J区	8-L	円形	0.36×0.3	0.24×0.16	―	―	―	近世	SK93を切る。SP319と重複	112	
SP321	ピット	J区	7-K	ほぼ円形	0.3×0.3	0.18×0.18	0.54	―	5.05	中近世	SX48に切られる	100	
SP322	ピット	J区	8-K	ほぼ円形	0.24×0.24	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP323	ピット	J区	8-K	円形	0.3×0.24	0.18×0.18	―	―	―	近世	SK105と重複		
SP324	ピット	J区	7-K	円形	0.6×0.36	0.42×0.24	―	―	―	近世	SX14（貝堆積遺構）を切る。土器出土		
SP325	ピット	J区	8-K	円形	0.26×0.21	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP326	ピット	J区	7-K	円形	0.36×0.3	0.2×0.12	0.24	―	4.56	近世	SX14（貝堆積遺構）を切る。瓦出土	126	
SP327	ピット	E・J区	6-K	隅丸方形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP328	ピット	J区	6-K	円形	0.36×0.36	0.18×0.18	―	―	―	―			
SP329	ピット	J区	5・6-K	隅丸方形	0.32×0.24	0.24×0.12	0.16	―	5.15	近世	SE28を切る。磁器・土器皿・擂鉢出土	122	
SP330	ピット	J区	6-K・L	円形	0.38×0.36	0.33×0.33	―	―	―	近世			
SP331	ピット	J区	6-K	円形	0.3×0.3	0.21×0.21	―	―	―	近世			
SP332	ピット	J区	6-K	ほぼ円形	0.36×0.3	0.24×0.24	―	―	―	近世			
SP333	ピット	J区	6-K	円形	0.2×0.16	0.12×0.1	0.12	―	5.12	近世	陶器・瓦出土	126	103
SP334	ピット	J区	6-K	円形	0.26×0.25	0.16×0.1	0.18	―	5.12	近世	覆土に焼土若干含有	126	103
SP335	ピット	J区	6-K	ほぼ円形	0.28×0.22	0.18×0.16	0.22	―	5.18	近世		126	
SP336	ピット	J区	6-L	円形	0.32×0.32	0.24×0.24	0.22	―	5.16	近世	底面に小礫。覆土に焼土若干含有。土器皿出土	125	104
SP337	ピット	J区	7-L	円形	0.32×0.32	0.24×0.2	0.4	―	5.22	近世	覆土は暗褐色土。焼土若干含有	125	
SP338	ピット	J区	7-K・L	円形	0.28×0.24	0.12×0.12	0.72	―	5.23	近世	焼土若干含有。覆土中層に大礫	125	104
SP339	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.36×0.3	0.12×0.12	―	―	―	近世 以降	SX52下で検出、幕末～明治陶磁器・瓦・ガラス出土		
SP340	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.24×0.24	0.18×0.18	―	―	―	近世	SX52下で検出。SP341と重複		
SP341	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.3×0.24	0.18×0.12	―	―	―	近世	SX52下で検出。SP340と重複		
SP342	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.54×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	SX52下で検出。磁器出土		
SP343	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.42×0.24	0.3×0.18	―	―	―	近世	SX52下で検出。陶磁器・瓦・石製品出土		
SP344	ピット	J区	6-L	円形	0.36×0.26	0.24×0.24	―	―	―	近世	SX68と重複		
SP345	ピット	J区	7-L	ほぼ円形	0.18×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世	SX52下で検出		
SP346	ピット	J区	7-L	ほぼ円形	0.3×0.24	0.24×0.18	―	―	―	近世	SX52下で検出。瓦出土		
SP347	ピット	J区	6-L	円形	0.36×0.36	0.24×0.24	―	―	―	近世			
SP348	ピット	J区	5・6-L	円形	0.36×0.36	0.33×0.33	―	―	―	近世	陶磁器・瓦出土		
SP349	ピット	J区	5・6-L	円形	0..36×0.36	0.33×0.33	―	―	―	近世			
SP350	ピット	J区	7-M	隅丸長方形	0.28×0.16	0.12×0.1	0.28	―	5.4	近世	土器皿・瓦出土	122	
SP351	ピット	J区	6-M	隅丸方形	0.6×0.33	0.48×0.24	0.21	―	5.4	近世	瓦出土	63・126	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP310															
SP311															
SP312															
SP313															
SP314															
SP315				1											
SP316										少量	0.2				
SP317															
SP318															
SP319															
SP320															
SP321															
SP322															
SP323	1														
SP324				2											
SP325															
SP326					5										
SP327															
SP328															
SP329		1	1	1											
SP330															
SP331															
SP332															
SP333			1		2										
SP334															
SP335															
SP336				3	少量										1
SP337															
SP338															1
SP339		2	1		1								5		
SP340															
SP341															
SP342		1													
SP343		1	1		4									1	
SP344															
SP345															
SP346					5										
SP347															
SP348		3	2		1										1
SP349					14										
SP350	1			1	1										
SP351					少量										

第３表　遺構一覧（17）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP352	ピット	J区	6-L	円形	0.36×0.24	0.24×0.22	0.08	―	5.45	近世		127	
SP353	ピット	J区	6-L	ほぼ円形	0.48×0.39	0.27×0.16	0.6	―	5.4	近世	瓦出土	127	
SP354	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.45×0.42	0.42×0.36	―	―	―	近世	土器・瓦出土		
SP355	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.33×0.29	0.24×0.18	―	―	―	近世	SK128を切る。土器出土	39	
SP356	ピット	J区	6-M	円形	0.21×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP357	ピット	J区	6-M	楕円形	0.48×0.36	0.36×0.3	―	―	―	近世			
SP358	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.24×0.24	0.96×0.96	―	―		近世			
SP359	ピット	J区	6-M	円形	0.6×0.52	0.36×0.36	0.32	―	5.02	近世	中央に杭。土器皿・瓦出土	126	
SP360	ピット	J区	6-M	円形	0.64×0.52	0.56×0.36	0.12	―	5.02	近世	浅い	126	
SP361	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.8×0.44	0.36×0.2	0.36	―	5.02	近世	SD19・SD20と重複。陶磁器・土器・瓦出土	126	104
SP362	ピット	K区	12-K	円形	0.6×0.6	0.36×0.24	―	―	4.12	近世	柱痕状覆土。磁器・土器出土	125	
SP363	ピット	J区	6-L	円形	0.42×0.42	0.3×0.24	0.12	―	5.4	近世	立上り不明瞭。磁器・土器・瓦出土	39・40	
SP364	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.3×0.28	0.18×0.16	0.16	―	5.42	近世	SX58と重複。底面に瓦を置く	125	104
SP365	ピット	J区	6-L	円形	0.28×0.24	0.18×0.18	0.04	―	5.42	近世	SX58と重複。瓦出土	125	
SP366	ピット	J区	7-M	円形	0.36×0.3	0.24×0.21	0.12	―	5.35	近世	SS116と重複。瓦出土	39・40	
SP367	ピット	J区	7-M	ほぼ円形	0.4×0.34	0.24×0.20	0.3	―	5.4	近世	土器皿出土	127	
SP368	ピット	J区	6・7-L	円形	0.57×0.45	0.48×0.39	0.14	―	5.5	近世	磁器・瓦出土	127	104
SP369	ピット	J区	7-M	ほぼ円形	0.24×0.18	0.18×0.12	―	―	―	近世			
SP370	ピット	J区	5-L	円形	0.54×0.42	0.3×0.24	―	―	―	近世	SP410と重複。土器・瓦・骨角製品出土		104
SP371	ピット	J区	6-M	ほぼ円形	0.36×0.24	0.24×0.18	―	―	―	近世	陶器出土		
SP372	礎石	J区	6-M	隅丸方形	0.6×0.44	0.48×0.36	0.52	―	5.33	近世	掘込礎石か。土器皿・金属出土	39・124	105
SP373	ピット	J区	7-L	円形	0.3×0.3	0.18×0.12	―	―	―	近世	SP256と重複		
SP374	ピット	J区	8-L	円形	0.18×0.18	0.12×0.08	―	―	―	近世	覆土は暗褐色土		
SP375	ピット	J区	7-L	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	覆土は焼土を含む暗褐色土		
SP376	ピット	J区	8-L	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	覆土は暗褐色土		
SP377	ピット	J区	7-L	円形	0.24×0.18	0.12×0.12	―	―	―	近世	覆土は暗褐色土		
SP378	ピット	J区	7-L・M	円形	0.36×0.21	0.12×0.12	―	―	―	近世	SE20と重複		
SP379	ピット	J区	7-L	円形	0.27×0.24	0.24×0.12	―	―	―	近世	SK109を切る		
SP380	ピット	J区	7-L	円形	0.3×0.24	0.12×0.12	0.24	―	4.55	弥生	SK109を切るが時期差はないと判断	25	8
SP381	ピット	J区	8-L	円形	0.24×0.18	0.09×0.06	0.21	―	4.35	近世	E層検出、磁器出土		
SP382	ピット	K区	12-M	円形	0.24×(0.15)	0.19×(0.04)	0.37	―	4.1	近世	陶器・土器出土	126	105
SP383	ピット	K区	12-M	ほぼ円形	0.68×0.56	0.56×0.28	0.32	―	4.05	近世	陶磁器・瓦出土	127	105
SP384	ピット	K区	12-M	円形	0.84×0.78	0.18×0.12	―	―	―	近世以降	SP385と重複。覆土に焼土含有。赤瓦多量、石臼破片出土	114	
SP385	ピット	K区	12-M	円形	0.66×0.48	0.36×0.24	0.6	―	4	近世	覆土に焼土含有	114	
SP387	ピット	J区	8-K	隅丸方形	0.36×0.24	0.24×0.12	0.24	―	4.25	縄文～古代	SK119に伴うピット	24	
SP389	ピット	J区	6-L	隅丸方形	0.36×0.22	0.2×0.16	0.48	―	5.36	近世	SP390と重複。陶磁器・土器出土　19C	126	
SP390	ピット	J区	6-L	円形	0.36×0.28	0.24×0.14	0.36	―	5.31	近世	SP389と重複。瓦出土	126	105
SP391	ピット	J区	6-M	円形	0.36×0.3	0.24×0.15	0.42	―	―	近世		104	
SP392	ピット	J区	6-L	隅丸方形	0.56×0.48	0.28×0.16	0.56	―	5.33	近世	土器・瓦出土	126	105
SP393	ピット	J区	6・7-L	円形	0.26×0.26	0.18×0.18	―	―	―	近世			
SP394	ピット	J区	7-L	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	SX55に切られる		
SP395	ピット	J区	7-L	隅丸長方形	0.36×0.24	0.96×0.96	―	―	―	近世以前	覆土は暗褐色土		
SP396	ピット	J区	6-L	円形	0.24×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世			
SP397	ピット	J区	7-L	ほぼ円形	0.24×0.24	0.18×0.12	―	―	―	近世以降	瓦出土		
SP398	ピット	J区	7-L	円形	0.3×0.26	0.18×0.24	―	―	―	近世	瓦出土		
SP399	ピット	J区	6-L	円形	0.33×0.3	0.18×0.18	―	―	―	近世		39	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP352															
SP353					2										
SP354				1	4										
SP355				1											
SP356															
SP357															
SP358															
SP359				1	1										
SP360	1	1	3	8	3										
SP361	1	1	2	7	16										
SP362		3		2										1	
SP363		2		1	10										
SP364					2										
SP365					4										
SP366					1										
SP367				1											3
SP368		1			4										3
SP369															
SP370				2	6					1					1
SP371			2												1
SP372				1			4								4
SP373															
SP374															
SP375															
SP376															
SP377															
SP378															
SP379															
SP380	1														
SP381		2													
SP382			1	2											
SP383		2	5		3										
SP384		3			216									1	1
SP385															
SP387	1														
SP389		1	5	2											
SP390					1										2
SP391															
SP392				1	7										
SP393															
SP394															
SP395															
SP396															
SP397					3										
SP398					2										
SP399															

第３表　遺構一覧（18）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP400	ピット	J区	6-M	円形	0.3×0.21	0.96×0.96	―	―	―	近世	SP401と重複		
SP401	ピット	J区	6-M	円形	0.48×0.24	0.12×0.12	―	―	―	近世	SP400と重複。焼塩壺出土		
SP404	ピット	J区	6-M	円形	0.36×0.3	0.18×0.18	0.24	―	5.4	近世		104	
SP406	ピット	J区	6-L	隅丸方形	0.36×0.27	0.3×0.24	0.06	―	5.38	近世	SX68に切られる。覆土は粒子の粗い黄褐色土	91	
SP407	ピット	J区	6-L	隅丸方形	0.27×0.24	0.15×0.12	―	―	―	近世	SX68に切られる。SP406と同一覆土	91	
SP408	ピット	J区	6-L	円形	0.48×0.33	0.27×0.24	―	―	―	近世	SD26と重複	65	
SP409	ピット	J区	6-L	円形	0.6×0.21	0.12×0.09	―	―	―	近世	SX68と重複	91	
SP410	ピット	J区	5-L	円形	0.48×0.36	0.24×0.24	―	―	―	近世	SP370と重複。浅い		
SP411	ピット	J区	6-L	円形	0.36×0.36	0.24×0.24	―	―	―	近世			
SP414	ピット	M区	10-F	楕円形	0.3×0.24	0.24×0.12	0.12	―	4.4	近世	B層検出。SD28に切られる	42・83	
SP415	ピット	M区	10-F	円形	0.36×0.33	0.21×0.15	0.12	―	4.4	近世	2基切り合う。焼土覆土。SB2関連	42	
SP416	ピット	M区	10-F	円形	0.24×0.21	0.15×0.12	0.06	―	4.39	近世	炭・焼土覆土。SB2関連	42	
SP417	ピット	M区	10-F	円形	0.33×0.27	0.12×0.1	0.24	―	4.5	近世	焼土（SX73）下で検出。陶器出土	42・116	
SP418	ピット	M区	10-F	円形	0.21×0.18	0.1×0.1	―	―	―	近世	大形礫2点		
SP419	ピット	M区	9-F	ほぼ円形	0.3×0.15	0.12×0.09	0.06	―	4.3	近世	焼土若干含有。浅い	42	
SP420	ピット	M区	10-F	円形	0.24×0.18	0.21×0.12	0.06	―	4.38	近世	焼土・炭含有。浅い	42	
SP422	ピット	M区	10-F	楕円形	0.3×0.24	0.2×0.2	0.12	―	4.15	近世	焼土・炭含む。SB2関連	42	
SP423	ピット	M区	10-G	円形	0.27×0.24	0.18×0.15	0.06	―	4.35	近世	焼土・炭含む。SB2関連か	42	
SP424	ピット	M区	10-F	円形	0.21×0.18	0.12×0.12	0.1	―	4.3	近世	黒色土覆土。SB2関連	42	
SP425	ピット	M区	10-F	円形	0.21×0.12	0.12×0.06	―	―	―	近世	焼土・炭含有。		
SP426	ピット	M区	10-G	円形	0.3×0.24	0.18×0.18	―	―	4.34	近世	SX85と重複。焼土・炭含有		
SP427	ピット	M区	10-F・G	円形	0.36×0.33	0.12×0.12	―	―	―	近世	焼土・炭含有。陶器出土		
SP428	ピット	M区	10-F	ほぼ円形	0.36×0.33	0.21×0.14	―	―	―	近世	覆土最上層に焼土含有。陶器出土		
SP429	ピット	M区	10-F	隅丸方形	0.24×0.21	0.09×0.09	0.28	―	4.34	近世	覆土に焼土若干。陶器出土	66・127	
SP430	ピット	L区	9-E	方形	0.14×0.12	0.04×0.04	―	―	―	近世	陶器出土		
SP431	ピット	M区	10-F	楕円形	0.51×0.36	0.36×0.18	0.12	―	3.73	近世	SD33と重複。覆土に焼土含有	66	
SP432	ピット	M区	10-H	隅丸方形	0.42×0.26	0.18×0.1	―	―	―	近世	陶器出土		
SP433	ピット	M区	9・10-I	隅丸方形	0.42×0.38	0.24×0.24	―	―	―	古代以前か	SX100範囲内。E層検出		
SP434	ピット	M区	10-I	円形	0.64×0.56	―	―	―	―	近世	SX100範囲内。貝堆積を切る		
SP435	ピット	M区	10-J	円形	0.24×0.21	0.12×0.12	0.05	―	3.28	弥生か	D層確認	26	
SP436	ピット	M区	10-J	円形	0.42×0.36	0.06×0.06	0.06	―	3.3	弥生か	D層確認	26	
SP437	ピット	M区	10-I・J	隅丸方形	0.18×0.18	0.12×0.12	0.06	―	3.35	弥生か	D層確認	26	
SP438	ピット	M区	11-I・J	円形	0.36×0.27	0.18×0.15	0.04	―	3.3	弥生か	D層確認	26	
SP439	ピット	M区	10-J	ほぼ円形	0.24×0.18	0.1×0.1	―	―	―	縄文～古代	D層確認。SX96範囲内		
SP440	ピット	M区	10-J	楕円形	0.26×0.21	0.24×0.13	―	―	―	縄文～古代	D層確認		
SP441	ピット	M区	9-J	ほぼ円形	0.21×0.14	0.1×0.06	―	―	―	縄文～古代	D層確認		
SP442	ピット	M区	10-J	ほぼ円形	0.30×0.24	0.18×0.12	0.06	―	3.36	縄文～古代	D層確認。SX96範囲内	26	
SP443	ピット	M区	10-I	ほぼ円形	0.26×0.14	0.1×0.1	―	―	―	縄文～古代	D層確認。SX100範囲内		
SP444	ピット	M区	9・10-J	ほぼ円形	0.33×0.24	0.12×0.12	―	―	―	縄文～古代	D層確認		

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP400															
SP401				1											
SP404															
SP406															
SP407															
SP408															
SP409															
SP410															
SP411															
SP414															
SP415															
SP416															
SP417			1												
SP418															2
SP419															
SP420															
SP422															
SP423															
SP424															
SP425															
SP426															
SP427			1												
SP428			1												
SP429			1												
SP430			1												
SP431															
SP432			1												
SP433															
SP434															
SP435	1														
SP436									1						
SP437	1														
SP438															
SP439															
SP440															
SP441															
SP442															
SP443															
SP444															

第３表　遺構一覧（19）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SP445	ピット	M区	11-I	不整形	0.14×0.1	0.04×0.04	―	―	―	縄文～古代	D層確認		
SP446	ピット	M区	11-I	ほぼ円形	0.24×0.24	0.1×0.1	―	―	―	縄文～古代	D層確認		
SP447	ピット	M区	12-F・G	楕円形	0.38×0.3	0.24×0.24	―	―	―	近世			
SP449	ピット	N区	6-Q	隅丸方形	0.25×0.2	0.13×0.11	0.26	―	5.5	近世	SX122関連。瓦出土	58	106
SP450	ピット	N区	7-O・P	ほぼ円形	0.39×0.3	0.35×0.24	0.1	―	5.24	近世	SP473・SP474を切る	128	
SP451	ピット	N区	7-R	ほぼ円形	0.39×(0.2)	0.3×(0.1)	0.32	―	5.13	近世	ローム類似層検出。土器、瓦出土	128	
SP452	ピット	N区	6-Q	円形	0.35×0.34	0.14×0.12	0.16	―	5.17	近世		128	106
SP453	ピット	N区	6-Q	円形	0.3×0.25	0.23×0.22	0.36	―	5.16	近世		128	106
SP454	ピット	N区	7-R	隅丸方形	0.63×0.49	0.48×0.27	0.3	―	5.31	近世	２基か。左が深い。土器出土	128	
SP455	ピット	N区	6-R	隅丸方形	0.25×0.24	0.23×0.15	0.2	―	5.34	近世	SM6に切られる。陶器・土器・瓦出土	128	106
SP456	ピット	N区	6-R	円形	0.4×0.36	0.33×0.32	0.3	―	5.2	近世		128	106
SP457	ピット	N区	7-Q	円形	0.35×0.33	0.19×0.18	0.1	―	5.11	近世		128	
SP458	ピット	N区	6-Q	隅丸方形	0.17×0.16	0.07×0.07	0.25	―	5.39	近世		128	106
SP459	ピット	N区	6-R	円形	0.21×0.19	0.14×0.13	0.15	―	5.38	近世		128	
SP460	ピット	N区	7-Q・R	楕円形	0.35×0.28	0.28×0.2	0.43	―	5.34	近世		129	
SP461	ピット	N区	7-P	ほぼ円形	0.33×(0.3)	0.18×0.11	0.24	―	5.24	近世	全容不明	129	
SP462	ピット	N区	6-P	円形	0.4×0.34	0.1×0.17	0.8	―	5.25	近世	深い	119	106
SP463	ピット	N区	6-Q	ほぼ円形	0.25×0.2	0.07×0.07	0.15	―	5.2	近世		129	107
SP464	ピット	N区	6-Q	ほぼ円形	0.26×0.2	0.13×0.1	0.24	―	5.24	近世	覆土に焼土若干含有	129	
SP465	ピット	N区	7-P	円形	(0.25)×0.19	0.08×0.07	0.24	―	5.2	近世	SK158 と重複。瓦出土	129	
SP466	ピット	N区	7-R	円形	0.35×0.35	0.2×0.2	0.35	―	5.26	近世	SE41に切られる	129	
SP467	ピット	N区	7-O	円形	0.35×0.34	0.25×0.23	0.15	―	5.08	近世	覆土に焼土含有。中央が窪む	129	107
SP468	ピット	N区	7-O	円形	0.25×0.23	0.14×0.14	0.1	―	5.13	近世	覆土に焼土含有	129	107
SP469	ピット	N区	7-O	円形	0.32×0.23	0.16×0.16	0.17	―	5.1	近世	焼土含有。瓦出土	130	107
SP470	ピット	N区	7-O・P	円形	0.4×0.4	0.23×0.16	0.15	―	5.1	近世	瓦出土	130	107
SP471	ピット	N区	7-O	円形	0.27×0.25	0.07×0.07	0.15	―	5.11	近世	覆土に焼土若干含有	130	
SP472	ピット	N区	7-O	楕円形	0.58×0.43	0.46×0.25	0.32	N53° E	5.07	近世		130	
SP473	ピット	N区	7-O	楕円形	0.27×0.17	0.11×0.07	0.1	―	5.1	近世	SP450に切られる。覆土に焼土含有	130	
SP474	ピット	N区	7-O	円形	0.28×0.26	0.17×0.14	0.15	―	5.12	近世	SP450に切られる	130	
SP475	ピット	N区	7-P	ほぼ円形	0.43×0.39	0.16×0.1	0.35	―	5.1	近世	覆土に焼土を若干含有	131	107
SP476	ピット	N区	7-P	楕円形	0.54×0.4	0.37×0.15	0.5	―	5.1	近世		131	
SP477	ピット	N区	7-P	円形	0.23×0.23	0.15×0.13	0.2	―	5.07	近世	覆土に焼土若干含有	131	107
SP478	ピット	N区	7-P・Q	楕円形	0.83×0.57	0.46×04	0.7	―	4.94	近世	大型。柱痕状覆土	131	107
SP479	ピット	N区	7-P	円形	0.2×0.16	0.07×0.07	0.13	―	4.9	近世		131	107
SP480	ピット	N区	6-P	ほぼ円形	0.2×0.12	0.1×0.09	―	―	―	近世		131	
SP481	ピット	N区	6-P	楕円形	0.25×0.2	0.18×0.1	―	―	―	近世		131	
SP482	ピット	N区	6-P	ほぼ円形	0.3×0.25	0.1×0.15	―	―	―	近世		131	
SP483	ピット	N区	6-P	円形	(0.5)×0.47	0.4×0.39	―	―	5.24	近世		119	
SP484	ピット	N区	7-O	ほぼ円形	0.54×(0.45)	0.22×0.23	0.5	―	5	近世	SS189を切る。覆土に焼土若干含有。陶器・瓦出土	52・131	
SS1	石組遺構	B区	10-J～L	細長長方形	(9.03)×0.54	―	0.67	N6° E	5.45	近世以降	南北石組遺構。間知石を含む。構築後改造	55	32
SS2	礫集中	B区	9-K～M	細長長方形	(8.12)×1.0	(8.12)×0.80	0.3	N10° E	―	近世以降	南北敷石。陶磁器墨書土器・線香立て等出土	57	32・34
SS3	石組遺構	B区	9-K・L	長方形	2.82×0.48	―	0.2	N83° W	―	近世	東西間知石石組遺構。SX52に連続か	55・57	32
SS4-1	礎石	B区	10-K	楕円形	0.96×0.6	0.36×0.3	0.36	―	5	近世	焼土堆積。陶磁器・土器・金属出土 18世紀代	53	
SS4-2	礎石	B区	10-K	隅丸長方形	0.9×0.66	0.54×0.3	0.3	―	4.95	近世	礫2点の下から瓦出土	53	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SP445															
SP446															
SP447															
SP449					5										
SP450															
SP451				2	1										1
SP452															
SP453															
SP454				2											
SP455			1	1	1										
SP456															
SP457															
SP458															
SP459															
SP460															
SP461															
SP462				1											
SP463															
SP464															
SP465					3										
SP466															
SP467															
SP468															
SP469					4										
SP470					4										
SP471															
SP472															
SP473															
SP474															
SP475															
SP476															
SP477															
SP478															
SP479															
SP480															
SP481			1												
SP482															
SP483															
SP484			1		14										
SS1															
SS2		33	38	10	26								4	1	
SS3															
SS4-1		24	50	41	62		1								
SS4-2					10										

第３表　遺構一覧（20）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS5	礎石	B区	10-K	ほぼ円形	0.6×0.54	0.3×0.3	0.3	―	4.8	近世	中央に大形の礫。陶磁器・土器・瓦・金属出土	53	
SS6	礫集中	A区	10-O・P	楕円形	(3.75)×1.35	(3.75)×0.75	0.36	N3° E	5.26	近世	溝状の落ち込みの中に礫を配置	43・57	34
SS7	礎石(掘込)SB3	A区	10―Q	円形	0.57×0.54	0.18×0.18	0.27	―	4.5	近世	掘込単独礎石	43	23
SS8	礎石(掘込)SB3	A区	10―P	円形	0.23×0.19	―	0.11	―	4.45	近世	掘込単独礎石、扁平円礫	43	23
SS9	礎石(掘込)SB3	A区	9・10-O・P	円形	1.44×1.14	1.14×0.84	0.6	N76° W	4.4	近世	門跡か。堀込単独礎石。SK8とは芯真法で2.70m。陶器出土	43	23
SS10	礎石(掘込)SB3	A区	9-Q	楕円形	0.6×0.48	0.42×0.36	0.26	―	4.54	近世	掘込単独礎石か。近接して3箇所あり	43	23
SS11	礎石(掘込)	A区	11-Q	楕円形	0.48×0.36	0.3×0.3	―	―		近世	掘込単独礎石。池石類似	53	
SS12	礎石列	B区	10-J・K	長方形	7.80×0.80	―	―	―	5.25	近世		53	
SS13	礫集中	A区	9-R	長方形	(0.78)×0.72	(0.78)×0.42	―	―	―	近世以降	陶磁器・土器・瓦・寛永通宝・砥石出土	57	34
SS14	礎石列	D区	5-J・K	L字形	2.20×1.52	―	0.21	―	5.35	近世	方形礎石3基か。SP124と重複	54	
SS15	漆喰付礎石	E区	10・11-M・N	L字形	0.86×0.39	―	0.14	―	5.15	近世	池関連遺構　19C	68	
SS16-1	礎石SB4	E区	10-N	楕円形	0.97×0.62	0.94×0.39	0.16	N80° W	5.2	近世		44・45	
SS16-2	礫集中	E区	9-M・N	長方形	(4.65)×0.95	(4.65)×0.67	0.38	N4° E	5.35	中近世	石臼出土	44・57	34・35
SS17-1	礎石	E区	10-M・N	隅丸方形	0.7×0.62	0.55×0.47	0.16	―	5.17	近世		44・45	
SS17-2	礎石	E区	9-M・N	方形	0.96×0.90	0.48×0.42	0.24	―	―	近世		44	
SS18	礎石掘り方	E区	10-M	長方形	0.50×0.40	―	0.12	N74° W	5.08	近世	陶磁器・かわらけ出土	44・45	
SS19	石組遺構	E区	8-L～N	細長長方形	(9.50)×1.25	(9.50)×0.79	0.45	N5° E	5.75	近世以降	南北溝。幕末～明治か。近代銭貨・金属匙・骨角製品、蹴ガラス・石製品出土	44・45・55・64	32
SS20	礎石群SB4	E区	7-N・O、8-N	長方形	2.2×0.9	―	0.18	―	5.9	近世以降	3箇所、礫6点	44・54	
SS21	礎石SB4	E区	7・8-N	隅丸方形	0.8×0.72	0.4×0.4	0.16	―	5.97	近世以降	ダイヤル式。SS43と重複。鬼瓦等出土	44・45	24
SS22	礎石SB4	E区	7・8-M	ほぼ円形	1.2×0.48	0.96×0.4	0.56	―	6.05	近世	配管に切られ全容不明。２～３段礎石積み重ね	44・45	24
SS23	瓦埋設遺構SB4関連	E区	10-M・N	長方形	4×0.46	―	0.1	N8° E	5.1	近世	SB04関連,SK50と重複	44・63	41
SS24	礎石SB4	E区	10-N	楕円形	0.7×0.47	0.55×0.31	0.23	―	5.1	近世	大礫と砂利。土器皿・金属製品出土	44・45・64	
SS25	礎石SB4	E区	9・10-N	円形	0.47×0.47	0.39×0.35	0.16	―	5.2	近世	版築された瓦層	44	26
SS26-1	礎石SB4	E区	9-N	ほぼ円形	0.78×0.7	0.62×0.47	0.31	―	5.25	近世	SS16-2に隣接	44・45・57	26
SS26-2	礎石SB4	E区	9-N	隅丸方形	0.64×0.48	0.48×0.32	0.16	―	5.35	近世		44	
SS27	礎石SB4	E区	9-N	楕円形	0.86×0.74	0.66×0.39	0.23	―	5.28	近世	版築された瓦層	44	
SS28	礎石SB4	E区	9-N	隅丸方形	0.78×0.47	0.51×0.23	0.08	―	5.2	近世		44・45	
SS29	礎石SB4	E区	9-N	隅丸方形	0.78×0.7	0.23×0.23	0.39	―	5.32	近世	砂利下、礎石3点	44・45	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS5		5	8	1	6		1								
SS6															
SS7															
SS8															
SS9	2		1												1
SS10															
SS11															1
SS12															
SS13		55	112	76	69			1						1	
SS14															
SS15		1	1	6											
SS16-1															
SS16-2		4	1											1	
SS17-1															
SS17-2															
SS18		1	1	1											
SS19		8	13	4	少量		1	2		1			2		
SS20														1	4
SS21		2	1		12									1	
SS22															
SS23	1	13	47	352	682									4	
SS24	1	3	2	5	36		2								1
SS25					258										2
SS26		2		2	25										2
SS27		1	4												
SS28															1
SS29			1		3										1

第３表　遺構一覧（21）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS30	礎石 SB4	E区	9-N	ほぼ円形	0.78×0.62	0.7×0.55	0.31	―	5.2	近世	小砂利版築下大礫。瓦・鉄製品出土	44・45	26
SS31	礎石 SB4	E区	8-N	隅丸方形	1.2×1.12	―	0.16		5.52	近世	SS49 と重複	44・45	
SS32	礎石 SB4	E区	8-N	方形	0.64×0.64	0.56×0.56	0.32	―	5.61	近世	方形壁粘土貼付け。SP160・172と重複。瓦出土	44・45	25
SS33	礎石 SB4	E区	10-M	隅丸方形	0.86×0.7	0.39×0.31	0.31	―	5.2	近世	底面に大礫	44・45	
SS34	礎石 SB4	E区	7・8-M	方形	0.8×0.72	0.64×0.56	0.48	―	5.6	近世	底部に礫、瓦層、礫。陶器・瓦出土	44・45	26
SS35	礎石 SB4 B類	E区	8-M	方形	0.84×0.72	0.56×0.56	0.36		5.68	近世	SP180と重複。上から瓦、版築層、大礫。砥石出土	44・45	25
SS36	礎石 SB4	E区	8-M	方形	0.18×0.17	―	0.1	―	5.6	近世	割れた単独礎石か。配管に切られる	44・45	
SS37	礎石 SB4	E区	9-M	隅丸長方形	0.56×0.32	0.32×0.2	0.16	―	5	近世	SD4を切る。陶器出土	44	
SS38	礎石	E区	9-M	ほぼ円形	0.32×0.24	0.24×0.24	0.12	―	5.82	近世	陶器出土	44	
SS39	礎石	E区	9-M	楕円形	0.64×0.4	0.48×0.24	0.24		5.02	近世	SD10を切る	44	
SS40 SB4	礎石	E区	9-M・N	ほぼ円形	0.9×0.86	0.83×0.83	0.31	―	5.25	近世	ダイヤル式の礎石の上に砂利版築	44・45	26
SS41	礎石 SB4	E区	8-N	ほぼ円形	0.74×0.43	0.2×0.16	0.39	―	5.4	近世	SD8溝上で検出。SP178と重複。土瓶蓋・ガラス瓶出土	44・45	
SS42	礎石 SB4	E区	7-M	方形	0.56×0.32	0.4×0.24	0.16	―	5.5	近世	SB4南西端部礎石か	44・45	
SS43	礎石 SB4	E区	8-N	方形	0.72×0.64	0.32×0.32	0.4		5.55	近世 以降	SS21と重複。瓦下礫磁器出土。大型楕円形礎石下に礫	44・45	24
SS44	礎石 SB4	E区	8-N	ほぼ円形	0.8×0.68	0.4×0.4	0.32	―	5.6	近世	大型礫の下に中礫	44・45	
SS45	礎石 SB4	E区	7・8-N・O	―	0.66×0.63	―	―	―	5.58	近世	SB4北西端部礎石か	44・45	
SS46	礎石 SB4	E区	8-N	方形	0.64×0.64	0.32×0.32	0.4	―	5.65	近世	中央に大礫を周囲に小礫を配す	44・45	24
SS47	礎石	E区	8-N	方形	0.55×0.31	―	0.08		5.53	近世		44・45	
SS48	礎石 SB4	E区	8-N	隅丸方形	0.62×0.47	0.47×0.21	0.16	―	5.68	近世	SP153と重複	44・45	
SS49	礎石 SB4	E区	8-N	ほぼ円形	0.86×0.49	0.55×0.31	0.39	―	5.45	近世	SS19・SS31と重複。砂利下礫。土器皿出土	44・45	
SS50	礎石 SB4	E区	8-N	方形	0.8×0.62	0.39×0.23	0.47	―	5.42	近世	SS19・SP160 と重複。大礫の上に砂利層	44・45	
SS51	石組	E区	8-N	長方形	―	―	―	―	―	―	SS19と重複	44	
SS52	礎石 SB4	E区	10-L・M	隅丸方形	0.62×0.62	0.43×0.39	0.16	―	5.18	近世	磁器出土	44・45	
SS53	礎石 SB4	E区	9-M	隅丸方形	0.8×0.56	0.4×0.4	―	―	―	近世	SD10と重複	44	
SS54	礎石 SB4	E区	8-L・M、9-M	隅丸方形	0.96×0.8	0.48×0.48	―			近世		44	
SS55	礎石 SB4	E区	8-M	楕円形	0.58×0.4	0.32×0.32	0.2	―	5.22	近世		44	
SS56	礎石 SB4	E区	8-M	楕円形	0.96×0.88	0.8×0.72	0.24	―	5.25	近世		44	
SS57	礎石 SB4	E区	8-M	不明	0.96×0.64	0.72×0.48	0.04	―	5.35	近世	SS19（石組溝）と重複。SX18の最上層で検出	44・117	
SS58	礎石 SB4	E区	10-N	方形	1.44×0.8	1.36×0.64	0.4	―	5.11	近世	SS23(瓦遺構)と同一面検出。ダイヤル式	44・45	
SS59	礎石 SB4	E区	9-M	隅丸方形	0.4×0.28	0.32×0.24	0.08	―	5.05	近世	SD10を切る	44	
SS60	礎石	E区	9-M	方形	0.56×0.56	0.4×0.24	0.16	―	5.12	近世		44	
SS61	礎石 SB4	E区	9-N	隅丸方形	0.36×0.27	0.27×0.21	0.06	―	5.31	近世		44	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS30	1		2	1			1	1							2
SS31															
SS32					155										
SS33															1
SS34		1	1		102										
SS35		1	13		多量									1	1
SS36															
SS37			2												1
SS38			1												
SS39															1
SS40					2										
SS41		1	2										1		1
SS42															
SS43		2													
SS44	1														
SS45	1														
SS46		1			3										1
SS47															
SS48					95										
SS49	2	24	1	2	6										3
SS50		2			1										1
SS51															1
SS52		1													
SS53															
SS54															
SS55															2
SS56															4
SS57															
SS58		5	1	13	132										
SS59															
SS60															
SS61															

第３表　遺構一覧（22）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS62	礎石 SB4	E区	8-M	方形	0.72×0.56	0.48×0.48	0.16	―	5.45	近世	10点程度の方形礫を配置。土器出土	44	25
SS63	礎石 SB4	E区	7・8-M	隅丸方形	0.8×0.72	0.62×0.48	0.4	―	5.5	近世	SD６を切る。単独礫（墨書）下にダイヤル礫	44・45	24
SS64	礎石 SB4	E区	8-M	隅丸方形	0.8×0.56	0.48×0.4	0.32	―	5.29	近世	SS19,67と重複	44	
SS65	礎石 SB4	E区	9-N	ほぼ円形	0.78×0.78	0.55×0.31	0.31	―	5.2	近世	砂利下に大礫	44・45	
SS66	礎石 SB4	E・G区	9-N	ほぼ円形	0.84×0.48	―	0.36	―	5.3	近世	SK67と重複、プラン不明瞭	44・45・53・91	
SS67	礎石 SB4	E区	8-M	不明	0.8×0.4	0.48×0.32	0.24	―	5.29	近世		44	28
SS68	礎石	E区	8-N	―	―	―	―	―	―	近世	磁器、瓦出土		
SS70	礎石	G区	8-N	ほぼ円形	0.65×0.50	―	―	―	―	近世			
SS71	礎石	G区	8-N・O	ほぼ円形	0.69×0.68	―	―	―	―	近世	SP249と重複		28
SS72	礎石	G区	8-O	円形	0.58×0.55	―	―	―	―	近世			28
SS73	礎石	G区	9-O	長方形	0.31×0.14	―	―	―	―	近世	SK67と重複		
SS74	礎石	G区	9-O	長方形	0.52×0.16	―	―	―	―	近世	SD13を切る		
SS75	礎石	G区	10-N	楕円形	1.12×0.75	0.98×0.47	―	―	―	近世	SD9と重複。ダイヤル式		28
SS76	礎石 SB6	H区	5-K	ほぼ円形	0.6×0.54	0.36×0.3	―	―	―	近世		48	
SS77	礎石 SB6	H区	5-L	円形	0.42×0.3	―	―	―	―	近世		48	
SS78	礎石 SB6	H区	5-L	隅丸方形	0.48×0.42	0.3×0.24	―	―	―	近世		48	
SS79	礎石 SB6	H区	4-L	隅丸方形	0.54×0.42	0.36×0.18	0.48	―	5.4	近世	覆土に焼土若干含有	48・54	
SS80	礎石 SB6	H区	4-L	隅丸方形	0.45×0.42	0.18×0.18	0.5	―	―	近世		48	28
SS81	礎石 SB6	H区	4-L	ほぼ円形	0.42×0.36	0.18×0.18	―	―	―	近世		48	
SS82	礎石	G区	9-N	円形	0.53×0.47	0.44×0.34	―	―	―	近世	SD13を切る		
SS83	礎石	G区	9-O	円形	0.53×0.52	0.40×0.40	―	―	―	近世	SD13を切る		
SS84	礎石	G区	9-N	円形	0.24×0.22	―	―	―	―	近世	SD13を切る		
SS85	礎石	J区	7-L	円形	0.35×0.32	0.25×0.23	0.2	―	―	近世	掘込単独間知石礎石（長径30cm）		
SS86	礎石	J区	7-L	円形	0.64×0.55	0.30×0.32	―	N30° W	―	近世以降	SX50焼土の上で検出礎石は単独	39	
SS87	礎石	J区	7-L	楕円形	0.51×0.34	0.44×0.27	―	N5° E	―	近世以降	SX50焼土の上で検出礎石は単独		
SS88	礎石	J区	7-L	ほぼ円形	0.42×0.38	0.18×0.17	―	N65° W	―	近世以降	SX50焼土の上で検出礎石は単独		
SS89	礎石	J区	6・7-L	長方形	0.43×0.32	―	―	―	―	近世以降	SX50焼土の上で検出板石2枚		
SS91	礎石SB1 (古段階)	J区	7-M	円形	0.84×0.81	0.54×0.54	0.24	N57° E	5.4	近世	版築顕著。陶磁器・土器・瓦出土	39・40	
SS92	礎石SB1 (新段階)	J区	7-L	方形	0.6×0.6	0.54×0.54	0.2	N73° W	5.35	近世	SX57（瓦埋設）を切る、大谷石含む。幕末・明治か	39・40・63	20
SS93	礎石SB1 (古段階)	J区	6・7-M	ほぼ円形	0.84×0.66	0.6×0.42	0.24	N52° W	5.55	近世	中間的な段階か	39・40	
SS94	礎石SB1 (新段階)	J区	6・7-L・M	方形	0.6×0.6	0.48×0.48	0.12	N80° W	5.4	近世	SS118を切る。　幕末・明治か	39・40	
SS95	礎石SB1 (新段階)	J区	6・7-L	方形	0.6×0.57	0.54×0.48	0.18	―	5.4	近世	SX57（瓦埋設）を切る　幕末・明治か	39・40・63	20
SS96	礎石SB1 (新段階)	J区	6-M	方形	0.72×0.66	0.57×0.54	0.18	―	5.5	近世	幕末・明治か	39・40	20

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS62				5											
SS63	1														1
SS64															
SS65	2	2	1												3
SS66															
SS67	2		1												1
SS68		2			20										1
SS70															
SS71	1		1												
SS72															
SS73															
SS74															
SS75				1	3										
SS76		1			5										
SS77			3	1											
SS78															
SS79															
SS80		1	1												
SS81															
SS82															
SS83															
SS84															
SS85															1
SS86															1
SS87															1
SS88															1
SS89															1
SS91		1	3	1	94									2	6
SS92															8
SS93		1			6										13
SS94					1										8
SS95					1										12
SS96			1		1										9

第３表　遺構一覧（23）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS97	礎石SB1(新段階)	J区	6-M	方形	0.66×0.66	0.54×0.54	0.18	N80° W	5.54	近世	SS120を切る。陶器・銅製品出土。　幕末・明治か	39・40・63	20
SS98	礎石SB1(新段階)	J区	6-L	方形	0.6×0.57	0.48×0.42	0.18	―	5.48	近世	幕末・明治か	39・40・63	20
SS99	礎石SB1(古段階)	J区	6-M	円形	1.38×(0.65)	0.78×(0.48)	0.54	―	5.48	近世	大礫・砂利。永楽通宝出土。近世前期か	39・41	21
SS100	礎石SB1(古段階)	J区	6-M	ほぼ円形	1.08×0.96	0.48×0.42	0.24	N71° W	5.4	近世	大礫・砂利・硬化面	39・40	21
SS101	単独礎石	J区	7-L・M	長方形	0.25×0.15	―	0.1	―	5.4	近世	SK121を切る。扁平方形安山岩。斫あり	39・40・115	
SS102	単独礎石	K区	12-J	三角形	0.30×0.22	―	―	―	―	近世以降	礫の下に瓦		
SS103	単独礎石	K区	12-J	方形	0.27×0.25	―	―	―	―	近世以降	方形凝灰岩		
SS104	単独礎石	K区	12-J・K	ほぼ円形	(0.17)×0.16	―	―	―	―	近世以降	東壁際、全容不明		
SS106	単独礎石	K区	12-K	楕円形	0.41×0.35	―	―	―	―	近世以降	礎石には斫あり		
SS107	単独礎石	K区	12-K	方形	0.26×0.25	―	―	―	―	近世以降	黒色安山岩		
SS108	単独礎石	K区	12-K	円形	0.38×0.36	―	―	―	―	近世以降	SS107の掘り方か		
SS109	単独礎石	K区	12-K	円形	0.33×0.25	―	―	―	―	近世以降	青安山岩、斫あり		
SS110	礎石	K区	12-K・L	円形	0.78×0.66	0.42×0.39	0.3	N7° E	4.15	近世	堀込単独礎石。SX64に切られる。覆土に焼土若干含有	54	
SS112	礎石SB1(古段階)	J区	6-M	円形	1.10×0.95	―	―	―	5.35	近世	SS123の上部か。SS97に切られる。鬼瓦出土	40	
SS113	礎石SB1(古段階)	J区	6-L	円形	0.96×(0.54)	0.78×(0.36)	0.24	―	5.4	近世	多遺構と重複。大礫・砂利・かわらけ・角釘出土	39・40	
SS114	礎石	J区	6-L	円形	0.66×0.6	0.42×0.24	0.18	N40° W	5.45	近世	SS115を切る。多遺構と重複	39・41	
SS115	礎石	J区	6-L	円形	0.70×(0.55)	0.54×(0.45)	0.24	―	5.45	近世	SS114に切られる。瓦・砂利・版築	39・41	
SS116	礎石SB1(古段階)	J区	7-M	円形	0.87×0.78	0.54×0.48	0.36	―	5.35	近世	瓦出土	39・40	21
SS117	礎石SB1(古段階)	J区	6-M	円形	0.84×(0.42)	0.70×(0.24)	0.3	―	5.38	近世	瓦出土	39・40	21
SS118	礎石(散石状)	J区	6・7-L	不整形	0.55×(0.35)	―	―	―	5.05	近世	SS94に切られる	39・40・54	20
SS119	礎石(散石状)	J区	6-M	不整形	1.02×0.35	―	―	―	5.4	近世		39・40	
SS120	礎石(瓦礫)	J区	6-M	方形	0.84×(0.50)	―	0.12	―	5.54	近世	SS97に切られる	39・40	
SS121	礎石(散石状)	J区	7-M	円形	(0.78)×(0.66)	(0.48) ×0.4	0.12	―	5.4	近世	礫散布。瓦出土	39・54	
SS123	礎石SB1(古段階)	J区	6-M	ほぼ円形	1.08×0.9	0.4×0.4	0.36	―	5.35	近世	鬼瓦出土	39・41	
SS124	単独礎石	J区	6-M	不整形	0.54×036	0.42×0.30	0.24	―	―	近世	土器皿出土	39	
SS125	礎石	J区	6-M	円形	0.61×(0.42)	0.42×(0.27)	0.3	―	5.35	近世	掘込単独礎石	39・41	
SS126	礎石	M区	10-G	円形	0.48×0.3	0.24×0.18	―	―	―	近世	コンクリ基礎に切られ、全容不明。19C	83	
SS127	礎石	M区	10-G	円形	0.21×0.16	―	0.11	―	4.35	近世	掘込単独礎石。円形扁平礫。　19C	42	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS97			1				1								15
SS98															10
SS99				2	1		2	2							687
SS100			3	15	5										333
SS101															1
SS102															
SS103															
SS104															
SS106															
SS107															
SS108															
SS109															
SS110		1	1	7	13	1									
SS112			1	1	6										114
SS113	1			3	4		2								272
SS114															1
SS115					8										1
SS116					2										1006
SS117					10										309
SS118															23
SS119															
SS120															
SS121					6										1
SS123					1										418
SS124				1											8
SS125															2
SS126															1
SS127															1

第３表　遺構一覧（24）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS128	礎石 SB2	M区	9-F	円形	0.24×0.21	0.12×0.12	0.05	―	4.45	近世	掘込複数礎石。 円形扁平礫、方形礫	42	
SS129	礎石 SB2	M区	10-F	円形	0.36×0.3	0.24×0.18	0.12	―	4.4	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫	42	
SS130	礎石 SB2	M区	9-F	円形	0.48×0.45	0.24×0.18	0.18	―	4.4	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫	42	
SS131	礎石 SB2	M区	9-F	円形	0.33×0.33	0.18×0.18	0.18	―	4.45	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫	42	22
SS132	礎石 SB2	M区	10-F	楕円形	0.48×0.42	0.36×0.24	0.18	―	4.5	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫	42	22
SS133	礎石 SB2	M区	9-F	円形	0.39×0.33	0.24×0.18	0.24	―	4.49	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫	42	22
SS134	礎石 SB2関連	M区	10-F	円形	0.42×0.36	0.3×0.3	0.1	―	3.75	近世	掘込単独礎石 円形扁平礫、被熱磁器出土	42・ 108	
SS135	礎石 SB2	M区	10-E	円形	0.54×0.36	0.24×0.24	0.12	―	4.45	近世	掘込単独礎石 青磁出土	42	22
SS136	礎石 SB2関連	M区	10-F	円形	0.3×0.24	0.24×0.15	0.12	―	4.45	近世	掘込単独礎石円形扁平礫、柱跡黒化か直径10.5cm	42・ 108	
SS137	礎石	M区	10-G	隅丸方形	0.4×0.4	0.16×0.16	0.16	―	4.3	近世	台石出土	66	
SS139	礎石	M区	11-G	円形	0.15×0.10	―	―	―	―	近世	掘込単独礎石 割れ石		
SS140	礎石	M区	11-G	円形	0.13×0.10	―	―	―	―	近世	掘込単独礎石 割れ石		
SS141	礎石	M区	11-H	円形	0.35×0.31	―	―	―	―	近世	割れ石		
SS142	礎石	M区	11-H	円形	0.17×0.15	―	―	―	―	近世	掘込単独礎石 割れ石		
SS143	礎石	M区	11-H	円形	0.38×0.33	―	―	―	―	近世			
SS144	礎石 SB2	M区	9-E	楕円形	0.48×0.33	0.24×0.18	0.18	―	4.5	近世	掘込単独礎石	42	
SS145	礎石	N区	7-R	三角形	0.30×0.22	―	―	―	―	近世 以降	安山岩（青）	49	
SS146	礎石 SB7	N区	6-Q	―	0.9×0.5	―	0.11	―	5.89	近世 以降	近世以降。SX109とSX168の間に位置	49・ 50・ 58	
SS147	礎石 SB7	N区	6-Q	ほぼ円形	0.74×0.67	―	0.37	―	6.01	近世 以降	近代以降。煉瓦を伴う。2段目あり。19C～	49・ 50	
SS148	礎石 SB7	N区	6-Q	円形	0.73×0.75	―	0.33	―	6.04	近世 以降	近代以降。煉瓦を伴う。2段目有。19C～	49・ 50	
SS149	礎石 SB7	N区	6-P	ほぼ円形	0.52×0.45	―	0.13	―	6.01	近世 以降	大礫１。安山岩（白）、19C～	49・ 50	
SS150	礎石	N区	6-P	長方形	0.93×0.31	―	0.28	―	6	近世 以降	東西礫分布。礫下から瓦出土	49・ 50	
SS151	礎石 SB7	N区	6-Q	円形	0.63×0.54	―	0.41	―	5.96	近世 以降	焼け。安山岩。タール付着。焼土を切る。19C～	49・ 50	
SS152	礎石 SB7	N区	6-Q・R	長方形	0.28×0.21	―	0.1	―	5.78	近世 以降	長方形。安山岩（紫）	49・ 50	
SS153	礎石 SB7	N区	6-P	隅丸方形	0.65×(0.54)	―	0.21	―	5.96	近世 以降	6点。凝灰岩含む下3段まで礫。19C後～	49・ 50	
SS154	礎石 SB7	N区	6-P・Q	ほぼ円形	(0.79)×(0.43)	―	0.2	―	5.96	近世 以降	礫2点。下につながる。掘り方方形	49・ 50	
SS155	礎石	N区	7-R	方形		―		―		近世 以降	安山岩（紫）、方形、瓦層直上		
SS156	礎石 SB7	N区	6-Q	ほぼ円形	0.59×0.59	―	0.19	―	5.71	近世 以降	安山岩他7点。方形。粘土面掘り込み。19C～	49・ 50	
SS157	礎石	N区	6-P	楕円形	(0.6)×(0.35)	―	0.22	―	5.95	近世 以降	四角安山岩、方形凝灰岩	49	
SS158	礎石	N区	5-P	方形	0.12×0.11	―	―	―	―	近世	単独礎石。溶結凝灰岩。砂層到達	49	
SS159	礎石	N区	5-P	不整方形	(0.53)×0.43	―	0.21	―	5.7	近世	西壁中央際。大礫3点。18C後～	49	
SS160	礎石 SB7	N区	6-P	楕円形	(0.45)×(0.29)	―	0.16	―	5.69	近世 以降	単独礫か、安山岩（白）	49	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS128															
SS129															
SS130															
SS131															
SS132															
SS133															
SS134		1													
SS135		1	2	4											
SS136															
SS137														1	
SS139														1	
SS140														1	
SS141															
SS142															
SS143															
SS144															
SS145															
SS146															
SS147				1											
SS148		1	4	1	2										
SS149		8	5	5	1										
SS150		2		3	5										
SS151		1													
SS152															
SS153		1	6												
SS154															
SS155															
SS156		3	5	3											
SS157															
SS158															
SS159		1	2	2	1										
SS160															

第３表　遺構一覧（25）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS161	礎石 SB7	N区	6-R	隅丸方形	0.27×0.26	―	0.1	―	5.62	近世以降	四角の大石と周囲に礎石・瓦。17C～	49・50	
SS162	礎石 SB7	N区	6-P	円形	0.73×0.6	―	0.16	―	5.24	近世以降	凝灰岩割石2段、下から瓦出土	49・50	
SS163	礎石	N区	8-Q	円形	0.64×0.33	―	0.24	―	5.4	近世以降	東側、SX130 の上で検出。礎石3点	49	
SS164	礎石 SB7	N区	6-R	長方形	0.3×0.2	―	0.1	―	5.35	近世以降	長方形、凝灰岩、粘土層直上	49・50	
SS165	礎石	N区	6-O・P	長方形	0.35×0.24	―	0.15	―	4.67	近世	SX126下、溶結凝灰岩	49	
SS166	礎石 SB8	N区	6・7-Q・R	2点礎石	0.43×0.34	―	0.15	―	4.85	近世	護摩堂礎石（瓦溜りの下で検出）	49・51	29
SS167	礎石	N区	5-P	―	0.36×0.22	―	―	―	―	近世	単独礫杭列有り	49	
SS168	礫集中遺構	N区	7-Q	長方形	(3.40)×0.85			N78° W		近世以降	礫30点、19C中葉～	49・58	36
SS169	礎石 SB8関連	N区	6-Q	長方形	0.3×0.25	―	0.15	―	―	近世	単独、方形、安山岩	49・51	
SS171	礎石 SB8	N区	7-R	長方形	0.29×0.27	―	0.15	―	4.86	近世	方形、単独。SX138内角石。護摩堂礎石	49・51	29
SS172	礎石 SB8	N区	6・7-R	2点礎石	0.52×0.33	―	0.23	―	4.85	近世	2点。SX138 内。 護摩堂礎石	49・51	29
SS173	礎石 SB8	N区	6-Q	2点礎石	0.4×0.25	―	0.1	―	4.85	近世	2点。SX138 内。 護摩堂礎石	49・51	
SS174	礎石 SB8	N区	6-Q	長方形	0.74×0.42	―	0.14	―	4.95	近世	多数。SX138 内。護摩堂礎石	49・51	30
SS175	礎石 SB8	N区	6-Q	長方形	0.64×0.51	―	0.23	―	4.97	近世	多数。SX138 内。護摩堂礎石	49・51	30
SS176	礎石 SB8	N区	6・7-P・Q	2点礎石（割れ）	0.65×0.49	―	0.2	―	4.94	近世	割れ2点。SX138 内。大形。 護摩堂礎石	49・51	30
SS177	礎石 SB8	N区	6-P	2点礎石	0.47×0.40	―	0.17	―	4.94	近世	2点。SX141内。 護摩堂礎石	49・51	
SS178	礎石 SB8	N区	7-P	2点礎石	0.57×0.34	―	0.16	―	5	近世	2点。SX141内。護摩堂礎石	49・51	30
SS179	礎石 SB8	N区	7-P	2点礎石	0.63×0.37	―	0.16	―	4.94	近世	2点。SX141内。護摩堂礎石	49・51	30
SS180	礎石 SB8関連	N区	6-P	楕円形	1.46×1.20	―	―	―	―	近世	多数。溶結凝灰岩含む	49・51	
SS181	礎石 SB8関連	N区	7-P	三角形	0.24×0.2	―	0.15	―	4.95	近世	単独礎石 白安山岩	49・51	
SS182	礎石 SB8	N区	7-P	2点礎石	0.59×0.39	―	0.23	―	4.95	近世	2点。SX141内。白安山岩か。護摩堂礎石	49・51	30
SS183	礎石	N区	7-P	長方形	(0.57)×(0.47)	―	0.26	―	5.17	近世	上面の礎石。安山岩（紫）。SS188より新しい	49	
SS184	礎石 SB9	N区	7-P	円形	0.41×0.36	0.25×0.25	0.43	―	5.2	近世	覆土柱痕状、掘込単独礎石。根石型	49・52	31
SS185	礎石 SB9	N区	6-P	円形	0.5×0.28	0.25×0.2	0.45	―	5.25	近世	根石型。2段目溶結凝灰岩。 SK153に切られる	49・52	31
SS186	礎石 SB8	N区	6-P	長方形	0.56×0.47	―	0.26	―	4.9	近世	角大石、方形。SX138・141内。護摩堂礎石	49・51	30
SS187	礎石 SB8	N区	6・7-P	2点礎石	0.55×0.3	―	0.2	―	4.96	近世	2点。SX141 内。護摩堂礎石	49・51	30
SS188	礎石 SB8	N区	7-P	2点礎石	0.63×0.4	―	0.21	―	4.98	近世	2点。SX141 内。護摩堂礎石	49・51	30
SS189	礎石 SB9	N区	7-O	長方形	(0.5)×0.49	(0.27)×0.26	0.33	―	5.03	近世	SP484に切られる。覆土に焼土含有。凝灰岩	49・52	
SS190	礎石 SB10	N区	7・８-Q	ほぼ円形	1.15×0.9	0.7×0.55	0.8	―	4.6	近世	門か。掘込大形礎石。SS195 と対	49・52	31
SS191	礎石 SB9	N区	7-O	円形	0.25×0.22	0.17×0.14	0.21	―	5.13	近世	焼土覆土	49・52	
SS192	礎石 SB9	N区	7-P	円形	0.39×0.39	0.25×0.25	0.16	―	5.04	近世	掘込礎石。溶結凝灰岩2段	49・52	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS161				2											
SS162															
SS163					12										
SS164															
SS165					3										
SS166															
SS167															
SS168		41	33	3	2								1		
SS169															
SS171															
SS172															
SS173															
SS174															
SS175															
SS176															
SS177															
SS178			1		1										
SS179															
SS180															
SS181															
SS182															
SS183					5										
SS184															
SS185					2										
SS186															
SS187															
SS188															
SS189				6	19										
SS190					1										
SS191					1										
SS192															

第３表　遺構一覧（26）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SS193	礎石 SB8	N区	6-Q	2点礎石 (割れ)	0.43×0.35	―	0.2	―	4.9	近世	2点。安山岩、SX138内。SX140 の北で検出。護摩堂礎石	49・51	30
SS194	礎石	N区	8-Q	ほぼ円形	0.51×0.40	0.39×0.30	0.58	―	4.93	近世	根石か。 SS190を切る	49・52	31
SS195	礎石 SB10	N区	8-R	円形	0.85×0.75	0.55×0.5	0.85	N22° E	4.8	近世	門か。掘り込み大型礎石。SS190と対	49・52	31
SSS1-1	礎石 SB5	C区	6-O	方形	0.56×0.56	0.4×0.4	0.16	―	5.45	近世	SK30と重複	46・47	
SSS1-2	礎石 SB5	C区	5-O	不整楕円形	0.8×0.72	0.64×0.56	0.32	―	5.5	近世		46・47	
SSS1-3	礎石 SB5	C区	5-O	楕円形	0.88×0.72	0.72×0.4	0.32	―	5.55	近世		46・47	
SSS1-4	礎石 SB5	C区	5-O	楕円形	0.88×0.8	0.56×0.4	0.32	―	5.5	近世	SSS1-5と重複	46・47	
SSS1-5	礎石 SB5	C区	4・5-O	隅丸長方形	1.52×0.56	1.12×0.32	0.32	―	5.45	近世	SSS1-4と重複	46・47	
SSS2-1	礎石 SB5	C区	7-N	楕円形	1.36×0.72	0.8×0.64	0.32	―	5.48	近世	SD4・SK21と重複	46・47	
SSS2-2	礎石 SB5	C区	6・7-N	隅丸方形	0.64×0.72	0.56×0.56	0.16	―	5.5	近世		46・47	
SSS2-3	礎石	C区	6-N・O	方形	0.64×0.6	0.56×0.48	0.16	―	5.48	近世	SK30・SP98と重複。東西ラインからずれた位置で検出	46・47	
SSS2-4	礎石 SB5	C区	6-N	隅丸長方形	0.8×0.56	0.64×0.32	0.16	―	5.49	近世		46・47	
SSS2-5	礎石 SB5	C区	6-N・O	隅丸方形	0.88×0.72	0.64×0.56	0.16	―	5.5	近世	SK25・SP86と重複	46・47	
SSS2-6	礎石 SB5	C区	5-N・O	方形	0.52×0.48	0.4×0.4	0.18	―	5.5	近世		46・47	
SSS2-7	礎石 SB5	C区	5-N・O	方形	0.88×0.8	0.72×0.56	0.32	―	5.5	近世		46・47	
SSS3-1	掘込み礎石	C区	6-N	ほぼ円形	0.76×0.68	0.4×0.32	0.08	―	5.4	近世		46・47	
SSS3-2	礎石 SB5	C区	6-N	ほぼ円形	0.76×0.76	0.32×0.24	0.24	―	5.42	近世		46・47	
SSS3-3	礎石 SB5	C区	5・6-N	ほぼ円形	0.72×0.7	0.4×0.32	0.24	―	5.49	近世		46・47	
SSS4-1	礎石 SB5	C区	5-N	隅丸方形	0.78×0.62	―	0.14	―	5.5	近世		46・47	
SSS4-2	礎石 SB5	C区	5-N	隅丸方形	0.70×0.70	―	0.38	―	5.52	近世		46・47	
SSS4-3	礎石 SB5	C区	5-N	隅丸方形	0.62×0.62	―	0.1	―	5.5	近世		46・47	
SSS4-4	礎石 SB5	C区	5-N	円形か	0.63×0.60	―	0.2	―	5.41	近世		46・47	
SSS5-1	礎石 SB5	C区	7-M・N	隅丸方形	0.64×―	―	0.1	―	5.49	近世		46・47	
SSS5-2	礎石 SB5	C区	7-N	隅丸方形	0.72×0.64	0.48×0.48	0.16	―	5.52	近世		46・47	
SSS5-3	礎石 SB5	C区	6・7-N	隅丸長方形	0.88×0.52	0.64×0.4	0.08	―	5.6	近世		46・47	
SSS5-4	礎石 SB5	C区	6-N	方形	0.76×0.64	0.56×0.56	0.4	―	5.52	近世	SP102 と重複	46・47	27
SSS5-5	礎石 SB5	C区	6-N	隅丸方形	0.72×0.64	0.52×0.4	0.16	―	5.51	近世		46・47	27
SSS5-6	礎石 SB5	C区	5・6-N	隅丸方形	0.72×0.72	0.4×0.48	0.16	―	5.56	近世		46・47	
SSS5-7	礎石 SB5	C区	5-N	隅丸方形	0.64×0.56	0.24×0.24	0.16	―	5.4	近世	SE5（井戸）を切る	46・47	
SSS6-1	礎石 SB5	C区	7-M	ほぼ円形	0.56×0.48	0.32×0.32	―	―	5.3	近世		46・47	
SSS6-2	礎石 SB5	C区	6-M	隅丸方形	0.48×―	―	―	―	5.4	近世		46・47	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SS193															
SS194															
SS195															
SSS1-1					26										
SSS1-2															
SSS1-3															
SSS1-4															
SSS1-5															
SSS2-1															
SSS2-2			1		2										
SSS2-3															
SSS2-4															
SSS2-5															
SSS2-6		3	2												
SSS2-7															
SSS3-1															
SSS3-2															
SSS3-3															
SSS4-1			14		77			1							
SSS4-2															
SSS4-3															
SSS4-4															
SSS5-1															
SSS5-2															
SSS5-3															
SSS5-4															
SSS5-5															
SSS5-6															
SSS5-7															
SSS6-1															
SSS6-2															

第３表　遺構一覧（27）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SSS6-3	礎石SB5	C区	6-M	方形	0.72×0.64	0.56×0.56	0.16	―	5.4	近世		46・47	
SSS6-4	礎石SB5	C区	5・6-M	方形	0.64×0.64	0.48×0.48	0.16	―	5.4	近世		46・47	
SSS6-5	礎石SB5	C区	5-M	ほぼ円形	0.42×0.36	0.4×0.32	0.16	―	5.39	近世		46・47	
SSS6-6	礎石SB5	C区	5-M	ほぼ円形	0.72×0.68	0.56×0.48	0.24	―	5.39	近世		46・47	
SSS7	礎石SB5関連	C区	5・6-O	楕円形	0.97×0.62	0.78×0.43	0.18	―	5.43	近世		46・47	
SX1	便所甕	B区	9-K	ほぼ円形	0.54×0.48	―	―	―	―	近代	獣骨出土		
SX2	便所甕	B区	9・10-K	楕円形	1.14×0.72	0.84×0.54	―	―	―	近代			
SX3	杭列（貝堆積）	A区	10-O、11-O・P	長方形	4.70×0.40	―	1.25	―	4.35	近世	杭下に貝層。ウマか。須恵器・陶器・瓦出土	62	40・81
SX5	木組遺構（土蔵跡）	A区	12・13-O・P	長方形	6.95×(3.5)	―	1.35	N7° E	3.35	近世	東側は調査区外のため、全容不明	59	37
SX6	硬化面	B区	9-K	不整長方形	0.97×0.90	―	―	N70° E	―	近世	SD1・2の上方で検出。		
SX7	瓦溜り	A区	11-P・Q	方形	1.38×(0.9)	1.26×(0.84)	0.78	―	4.75	近世	上部は礫集中、下は瓦溜り。北側調査範囲外全容不明。瓦多量出土	57・89	76
SX8	土坑	A区	12-N・O	不整隅丸長方形	3.36×(2.1)	2.04×(1.56)	0.24	N3° E	3.68	近世	SE4と重複、全容は不明。永楽通宝出土	117	
SX9	便所甕	C区	7-O	円形か	0.6×0.6	0.42×0.3	0.72	―	5.83	近代	陶磁器・瓦・銭貨・銅製品・鉛管・ガラス出土		
SX10	便所甕	C区	7-O	円形か	0.48×0.48	―	0.36	―	5.8	近代	陶器・ビール瓶出土		
SX12	便所甕	C区	4-O	楕円形	(1.15×0.85)	(1.14×0.40)	0.54	N38° E	5.5	近代	遺構上から完形品多量出土。瓦・染付便器・銭貨・銅製品・ガラス瓶出土		
SX13	便所甕	E区	8-M	円形	0.6×0.54	0.24×0.24	0.42	N11° E	5.75	近代	SS19と重複。陶器・鉄片出土		
SX14	獣骨・貝堆積	D・J区	6・7-K	円形	2.58×2.22	1.02×0.78	1.8	―	5.07	中近世	大型円形土坑。SX62と重複。骨・貝、陶磁器、土器、瓦・銭貨等出土	34	82
SX15	池跡内埋甕	E区	10-M	隅丸長方形	0.6×0.3	0.36×0.24	0.48	―	5.15	近世	伴出甕（江戸丹波）。覆土は灰色土。17C代後半	68	50
SX16	池跡	E区	9・10-M・N	長方形	5.50×(2.7)	5.0×(2.2)	0.32	N73° W	4.95	近世	土器皿出土。17C代後半	68	50
SX17	池跡	E区	9・10-N	不整形	(3.36×1.72)	―	―	―	―	近世	漆喰。漆喰下整地層下層から陶磁器。17C中～後	68	
SX18	土坑（井戸状）	E区	8-M	円形	1.36×1.2	1.2×1.04	2.16	―	5.35	近世	大型配管の下で検出。SS57に切られる。土器皿・金属製品出土	117	96
SX19	獣骨・貝堆積	E区	9・10-L・M	楕円形	3.48×1.75	―	―	N14° E	―	中近世	SX22の上方で検出。獣骨と貝がほぼ水平に堆積。ウマ2個体か	31	13
SX20	木組遺構	F区	11-C	正方形	0.36×0.36	0.24×0.24	0.18	―	3.45	近世	木箱か。木組遺構のSK59を切る	59	
SX21	大型土坑	F区	11・12-E・F	隅丸長方形	(3.48×1.74)	(3.24×1.56)	―	―	―	近世	全容不明。土器皿・熙寧元宝出土。17C後～18C初	104	90
SX22	中世土坑	E区	9・10-L・M	細長楕円形	3.94×1.18	3.63×0.73	1	N5° E	4.26	中世	明確堅牢な土坑。南伊勢系鍋・石器等出土　墓壙か	33	15
SX23	木組遺構	H区	4-G・H、5-H	不整長方形	4.8×2.7	4.5×2.5	0.9	N27° E	5.33	近世	芥溜りか。SD12・SK75を切る。ピットあり。瓦多量、たんころ、硯等出土　19C中～	60	38・44

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SSS6-3															
SSS6-4															
SSS6-5															
SSS6-6															
SSS7															
SX1		1	5		23		2			少量			1		
SX2			3		4										
SX3	2		5	15	1					少量	26.1				
SX5															
SX6															
SX7					多量										少量
SX8		3	56	13	12			1						1	
SX9		7	2		8		4	7	1				1		
SX10				1									1		
SX12		50	25	13	18		2	2	1				10		
SX13			1				3								
SX14	22	7	4	16	1		1	1		4	23			3	1
SX15			1												
SX16	2			1											
SX17	27		2	17											
SX18	1			2			2								
SX19										多量	多量				
SX20											8				
SX21	5	27	50	43	32			1							
SX22	3			3										1	1
SX23		34	50	15	多量		1		多量				1	1	

第３表　遺構一覧（28）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SX24	土坑	H区	3-H	円形	0.43×0.29	0.35×0.28	0.21	―	5.3	近世	SX25と隣接。ピット状。寛永通宝出土	72・108	
SX25	土坑	H区	3-H	楕円形	0.52×0.35	0.40×0.28	0.23	―	5.3	近世	SX24と隣接	72・108	
SX26	埋甕	H区	4-H	ほぼ円形	3.18×1.74	―	―	―	4.35	近世	陶磁器・土器・瓦・硯出土	60・72	2・45
SX27	土坑	Ⅰ区	9-F	ほぼ円形	―	―	―	―	4.77	近世	溶結凝灰岩多出。SE21に統合		
SX28	大型土坑上部	Ⅰ区	８-F・G	隅丸長方形	2.80×0.98	2.80×0.60	―	N28° E	4.28	近世	SM1上部、統合。金箔土器皿・鉄製釣針等出土。　17C代		
SX29	土坑	G区	9-N・O	円形	1.2×1.1	0.5×0.5	1.44	―	4.31	近世	井戸状。SX30を切る。下層から木製品	57	
SX30	礫集中（敷石遺構）	G区	9・10-N	不整三角形	3.0×1.4	3.0×1.2	0.18	―	4.3	中近世	粘土ブロック覆土。礫範囲は1.3×１ｍの方形。板碑片出土	57	35
SX31	瓦溜り	I区	8・９-H・I	隅丸長方形	4.68×2.82	4.68×2.7	0.42	―	4.7	近世	SX39と連続か。SA2に切られる。銭貨・銅製品・瓦多量・漆製品出土　17C中～後	62・90	76
SX32	地鎮遺構	J区	8・9-K	方形	0.85×0.82	0.74×0.72	0.3	―	4.79	近世	中心に宝瓶。土器皿1連（20枚）。五色玉。銅製品8セット（独鈷＋法輪）17C後	36・37	17・18
SX33	便所甕	J区	7-L	楕円形	0.78×0.6	0.36×0.3	0.32	N77° W	5.05	近代	明治便所甕。近代銭貨（一銭、二銭、五銭、二十銭等）銅製品出土		
SX34	貝堆積遺構	J区	8・9-J・K	隅丸方形	4.5×4.1	―	0.24	―	4.94	近世	SE23に切られ、SX37と重複。SX35の板碑と併行かやや新しい。土製品以外遺物ほとんどなし	98	83
SX35	中世土坑	J区	9-J	楕円形	1.2×1.02	0.9×0.78	0.77	―	4.5	中近世	土坑の覆土最上部から板碑と石製品出土	35	16
SX36	自然木	I区	9-F	円形	0.48×0.42	0.36×0.3	0.18	―	4	古代以前	D層で検出、珪化木か		
SX37	貝堆積遺構	J区	8-K	楕円形	1.32×0.6	1.2×0.54	0.18	N83° W	4.8	近世	SE23（井戸）に切られ、SX34と重複。焼土・炭・貝・寛永通宝等出土	98	83
SX38	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-I・J	楕円形	2.86×2.37	―	0.36	―	4.78	近世	東壁際、全容は不明。SE19・SK80・SK104に切られる	97	83
SX39	瓦溜り	Ⅰ区	７-H・I、8-I	楕円形	4.2×1.2	4.08×0.9	0.6	―	4.65	近世	SE25を切る。SX31と連続。陶磁器・土器皿・銭貨出土　17C中～後	62・76・90	76
SX40	盛土層	Ⅰ区	9-H・I	方形	―	―	1.62	―	4.5	近世	陶器・銭貨出土	65	
SX41	貝堆積遺構	I・J区		楕円形	0.84×0.48	―	0.12	―	4.55	近世	板碑近接出土。貝2ヶ所に分離して集積	97	16・83
SX42	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-I	ほぼ円形	3.0×0.9	―	0.93	―	4.68	近世	SD15・SK103・SX40に切られる。斜面堆積	97	83
SX43	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-J	不整形	0.48×0.12	―	―	―	―	近世	貝種等分析	97	84
SX44	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-J	ほぼ円形	0.6×0.42	―	―	―	―	近世	掘り方はほぼ円形	97	84
SX45	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-J	隅丸方形	(0.6)×0.6	―	―	―	―	中近世	壁際で検出。骨出土南伊勢系羽釜出土	97	84
SX46	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-I	三ケ月形	3×0.9	―	0.72	―	―	中近世	SX42の下方、2段目壁際で検出	97	84
SX47	貝堆積遺構	Ⅰ区	9-I	―	―	―	―	―	―	中近世	東側壁面内検出。獣骨（イヌ）出土		
SX48	貝堆積遺構	J区	７・８-K	楕円形	1.14×0.42	0.3×0.24	0.42	N51° E	5.05	近世	SP321 を切る。銭貨２点出土	100	84

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SX24				24	3			1							
SX25														1	
SX26	1	1	11	4	4									1	
SX27					1										59
SX28			30	70	11		4							1	
SX29					5		1		1						
SX30			1	1		1								1	
SX31		5	63	321	377		23	9	1					1	3
SX32	5			21			17							5	60
SX33		16	1	23			4	13					16	1	
SX34	1					1					1,075.5				
SX35	2			2						1				3	
SX36															
SX37		4	3		4			2			0.1				
SX38											17.1				11
SX39			8	51	14			5		1					
SX40			1					1							
SX41											0.9				
SX42			9								48.3				
SX43											4.8				
SX44											9.5			1	1
SX45			1	2						1	2.1				
SX46			3								16.5				
SX47										1	若干				
SX48								2			0.94				

第３表　遺構一覧（29）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SX49	貝堆積遺構	J区	8-L	楕円形	1.08×0.42	―	0.06	N37° W	5.05	近世	土器出土	99	84
SX50	広域焼土跡	J区	5～7-L・M	方形	7.00×6.00	―	0.12	N81° W	5.6	近代	洋皿・統制陶器・焙烙・植木鉢・瓦・ガラス・貝等出土	82	66
SX51	便所甕	J区	7-L	円形	0.9×0.66	0.54×0.54	0.42	N43° W	5.4	近代	ミニチュア・石製品・ビー玉等出土	39・40	66
SX52	石組遺構	J区	5～7-L	細長長方形	7.68×0.66	7.68×0.6	0.1	N86° W	5.7	近世	SB2に関連。B区に継続？　幕末・明治	39・40・41・56	33
SX53	石組遺構	J区	6・7-L	長方形	1.02×0.22	―	0.16	N64° W	5.2	近世以降	間知石3点。卍瓦出土	56	33
SX55	瓦埋設遺構	J区	7-L	細長長方形	2.13×0.24	―	0.1	N7° E	5.48	近世	平瓦破片敷設。SB1関連（同方位）。雨落関連か	39・41・63	41・42
SX56	瓦埋設遺構	J区	7-L	細長長方形	2.13×0.12	―	0.15	N7° E	5.48	近世	配管状。SB1関連（同方位）	39・41・63	41・42
SX57	瓦埋設遺構	J区	6・7-L	細長長方形	3.0×0.24	2.96×0.12	0.12	N82° W	5.5	近世	配管状。SB1関連。丸瓦を縦列配置。SX58と溝を挟んで連続する。方形礎石群に切られる	39・41・63	41・42
SX58	瓦埋設遺構	J区	6-L	細長長方形	3.6×0.4	3.6×0.24	0.16	N82° W	5.52	近世	配管状。SB1関連。丸瓦を縦列配置。SX57と溝を挟んで連続する。方形礎石群に切られる	39・40・41・63	42
SX59	獣骨集中	J区	6-L	楕円形	1.62×0.9	1.02×0.66	0.3	N88° W	5.6	近代	SX50上で検出。獣骨集中、瓦多出	89	
SX60	版築層	K区	11・12-J・K	方形	4.98×3.95	4.65×3.8	0.8	N7° E	4.25	近世	SP362と重複　19C		
SX61	木組遺構	K区	12-K	長方形	0.39×0.21	0.33×0.18	0.06	N85° W	3.85	近世	土坑底面で敷き板検出	59	37
SX62	貝堆積遺構	J区	7-K	楕円形	(0.55)×0.50	(0.40)×0.33	0.7	―	4.63	中近世	SX14に連続。貝出土	34	82
SX64	石組遺構	K区	12-K・L	細長長方形	2.49×0.25	―	―	N6° E	―	近代	SS110を切る	56	
SX65	遺物集中地点	J区	8・9-K・L	楕円形	5.65×3.86	5.25×3.86	0.2	N6° E	4.4	弥生時代	SE29に切られ、SK120と重複。覆土はC層類似。縄文土器と弥生土器が混在	25	8
SX66	土坑	J区	6-M	細長長方形	0.78×0.12	0.72×0.06	0.03	N80° W	5.45	近世	小溝状。覆土に焼土・炭化物含む	39・40	
SX67	焼土跡	J区	6-L	円形	0.52×0.52	0.4×0.52	―	―	―	縄文	SD20下、F層で検出。底面被熱顕著	23	7
SX68	瓦溜り	J区	6-L	隅丸方形	1.32×1.2	1.08×0.72	0.36	N3° E	5.36	近世	瓦多量出土	91	77
SX69	瓦溜り	J区	6-L	隅丸方形	1.74×1.32	0.9×0.6	0.48	N5° E	5.25	近世	SK127弥生土坑)を切る。瓦多量出土、陶器がSD20と遺構間接合	91	9・77
SX70	大型土坑	J区	6-M	細長長方形	2.4×0.6	1.8×0.24	1.08	N15° E	5.4	近世	SB1に伴う特殊遺構	104	90
SX71	礫集中	L区	9-E	隅丸長方形	2.05×1.32	1.55×1.14	0.78	N83° W	4.42	近世	SX84を切る。礫下に杭多出、覆土に焼土含有。土器皿出土	20・82	35
SX72	火力施設	L区	8・9-E	長方形	2.36×(1.00)	2.29×（0.93)		N83° W	4.65	近代	南壁際、全容不明。コンクリ・煉瓦で構築。瓦・銭貨・ガラス出土	20	
SX73	広範囲焼土跡	L・M区	9・10-E・F、10-G	不整形	9.5×5.6	―	0.15	―	4.53	近世	多遺構に切られる。舶載磁器・朝鮮通寶・寛永通寶・銅製品・砥石出土。17C中～後	83	60・66
SX74	礫集中	M区	10-F	ほぼ円形	0.72×0.6	―	―	―	4.45	近世以降	SD28を切る	66	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SX49	1										1.6				
SX50	1	239	195	33	457		5		1		0.2		6	1	8
SX51		7	12	11	16	1							1	1	
SX52	1	18	31		423										38
SX53			7		13										4
SX55					244					1					
SX56					56										
SX57					44										
SX58				1	56										1
SX59	1	9	29	3	282					1			8		3
SX60	1	2		1											
SX61															
SX62	1										0.2				
SX64															
SX65	105														10
SX66															
SX67															
SX68	1	2	3	1	164										
SX69		6	5	7	751										
SX70		1		1											
SX71		1	3	3											
SX72					16			2					9		
SX73		121	70	48	95		2	28						1	
SX74		2	4		11										

第３表　遺構一覧（30）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SX75	礫集中	M区	10-F	ほぼ円形	(0.68)×0.65	0.40×0.31	0.45	―	4.38	近世以降	SE32を切る	77・83	
SX76	礫集中	M区	10-F	ほぼ円形	0.6×0.48	0.48×0.16	0.22	―	4.38	近世以降	SE32を切る	77・83	
SX78	貝堆積遺構	M区	10-F	三角形	0.55×0.13	―	―	―	―	近世	貝は少量含有	66	
SX79	焼土跡	M区	10-G	円形	0.6×(0.36)	(0.31×0.24)	0.21	―	4.32	近世	コンクリに切られる。焼土下に炭化面。瓦出土	82・83	66
SX81	貝堆積遺構	M区	12-H	楕円形	2.34×(0.3)	1.92×(0.24)	0.12	―	3.1	中近世	東壁際、全容不明。土器皿出土。貝分析	100	85
SX83	礫集中遺構	L区	10-E	不整形	0.80×0.30	―	0.1	―	4	近世	SE31関連遺構。擂鉢出土	77	
SX84	焼土跡	L区	9-E	円形	(0.31×0.21)	(0.21×0.21)	0.8	―	4.5	近世	L区南壁際、全容不明。SX71に切られる	82・83	66
SX85	獣骨出土遺構	M区	10-F・G	隅丸長方形	0.87×0.47	0.83×0.36	0.1	N67° W	3.56	中近世	骨はウマの下顎骨	33	13
SX86	焼土跡	M区	10-F	隅丸方形	1.2×1.02	0.9×0.66	0.15	―	3.94	近世	SS134と重複。焼土・炭覆土。小形硯出土	66・82・108	
SX87	土坑	M区	10-F	長方形	0.80×(0.42)	0.70×(0.27)	0.06	―	3.75	中近世	SX75に切られ、全容不明	108	
SX88	黒色土	M区	9-F	―	0.95×―	―	―	―	―	中近世	C層上。陶器・金属・銀箔、種子等出土		
SX89	貝堆積遺構	M区	9-E	ほぼ円形	0.39×0.36	0.24×0.18	0.09	―	4.43	中近世	D層で検出。円形の中に方形の落込み	100	85
SX90	溝状遺構	M区	10-F	細長い長方形	2.1×0.24	―	0.03	N40° W	―	古代以前	D層で検出	29	12
SX91	漆喰含有土坑	M区	11-J	長方形	1.37×0.9	1.14×0.78	0.4	N11° E	3.45	近世	土製品出土　19C	85	70
SX92	貝堆積遺構	M区	9・10-I	長方形	1.62×1.32	1.5×0.9	0.48	―	4.5	中近世	SP434 に切られ、SX98と重複する	99	85
SX93	貝堆積遺構	M区	10-I	楕円形	1.98×(0.6)	1.92×(0.54)	0.54	―	4.25	中近世	段の上で検出。西側にSX92が隣接	99	85
SX94	貝堆積遺構	M区	10-I	楕円形	(1.33×1.30)	0.70×0.38	0.15	―	3.55	中近世	双魚文青磁鉢・多量の貝土・種子出土	99	86
SX95	貝堆積遺構	M区	10-I	楕円形	0.48×0.3	―	0.2	―	3.7	中近世	ピット状。壁は緩やかに立ち上がる	99	86
SX96	貝堆積遺構	M区	10-J	不整楕円形	3.9×2.4	2.7×2.1	0.36	―	3.75	中近世	SE38に切られる。貝サンプリング実施。土器・骨・木製品・種子出土	99	86・87
SX97	貝堆積遺構	M区	10-J	不整形	(1.2×0.6)	―	0.3	―	3.68	中近世	SE38に切られる。覆土は黒色土基調。鉄製品出土	97・99・100	87
SX98	溝状遺構	M区	9・10-I・J	細長長方形	(3.48)×0.78	(3.48)×0.72	0.3	N7° E	3.85	中近世	SX96・SX97を切る、管状土錘１(円筒形)、土器出土	99	48
SX100	遺物集中地点	M区	9～11-I・J	不整楕円形	10.9×5.4	―	0.27	N68° E	3.61	中近世	D層検出、黒色土堆積遺構。SX94に切られ、SX101 を切る。石錘・種子・土器出土。貝分析	35	16
SX101	大形木材出土遺構	M区	11-I・J	楕円形	4,10×1.03	3.36×0.79	0.3	N51° E	3.5	縄文晩期か	D層検出。大形木材、縄文晩期土器１・軽石１出土	23	6
SX103	ピット	M区	10-J	楕円形	0.26×0.21	―	―	N30° E	―	縄文～古代	SX96の下で検出。他に長径0.41mのピット1		
SX104	自然木	M区	10・11-I	細長長方形	0.9×0.2	―	―	N31° W	―	―	砂利層直上、自然木１ 年代測定		
SX105	自然木	M区	11-J	細長長方形	2.1×0.12	―	―	N48° W	―	―	砂利層直上、自然木１		
SX106	瓦溜り	N区	6-R	円形か	1.0×(0.37)	0.9×(0.26)	0.2	N20° E	―	近世	北西端、全容不明。18C～	92・94	78
SX107	瓦溜り	N区	5・6-P・Q	隅丸方形	1.87×1.42	―	0.3	―	―	近世	中央部SX110 焼土跡の下位、SX127の上位で検出。18C後～	92・93	

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SX75		3	1	6	84										
SX76				1	多量										
SX78											少量				
SX79					1										
SX81		3	2	1					1		0.48				
SX83			1												
SX84															
SX85										1					
SX86			1	1					2			2		1	
SX87									1						
SX88			9				1		3			2			
SX89											2				
SX90															
SX91		11	15	11	55	1									
SX92			3								148				
SX93											92.7				
SX94	1		1								79	1			
SX95											少量				
SX96	5		7	6					5	有り	283	3			
SX97							2		2		96.3				
SX98	2			11		1					少量			1	
SX100	18			16		1						8		1	
SX101	1					1			1						
SX103															
SX104															
SX105															
SX106		1		1	147								3		
SX107		5	7	5	169										

第３表　遺構一覧（31）

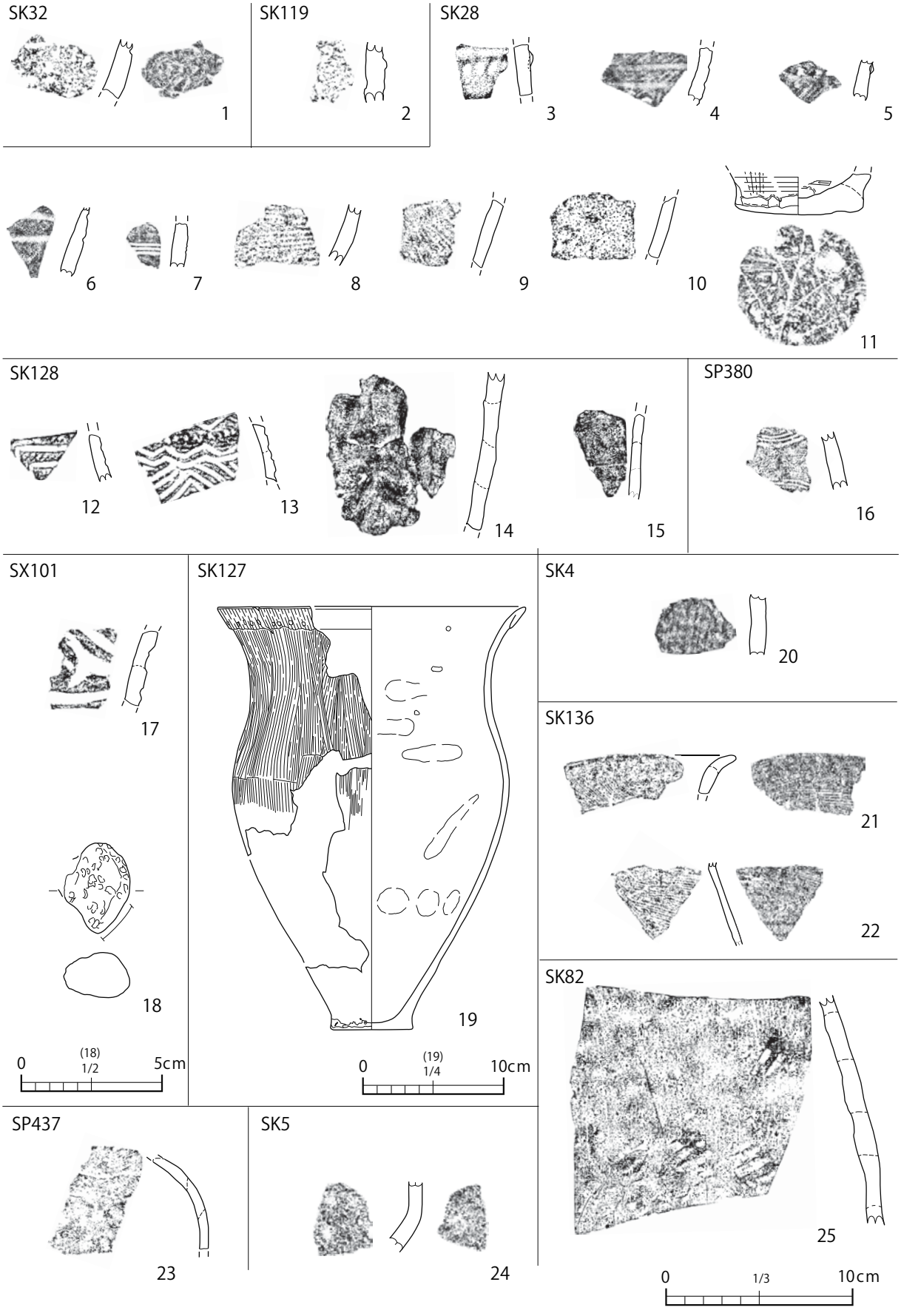
遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ (m)	主軸 方向	確認 高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SX108	煉瓦遺構	N区	6-Q	方形	0.6×0.4	―	―	―	―	近代	煉瓦積み遺構		
SX109	礫集中遺構	N区	6-Q・R	方形か	1.51×1.01	―	0.3	N25° E	―	近世以降	西側調査区外のため全容不明	49・58	36
SX110	広域焼土跡	N区	5・6-P・Q、6-R	方形か	8.10×（5.7）	―	0.4	―	6.05	近代	西側は調査区外。KR4～8に切られ、全容不明	84・92	67
SX111	瓦溜り	N区	5・6-P	方形か	1.53×1.45	―	―	―	―	近世	KR4の南、SX126の上で検出　18C後～	92・93	
SX112	漆喰含有土坑	N区	6-R	方形	(1.3)×(1.26)	(0.81)×(0.63)	0.2	―	5.62	近世	コンクリに切られ全容不明。灯明受皿出土　19C前～	86	71
SX113	瓦溜り	N区	5・6-Q	楕円形	(1.55)×1.13	―	―	―	―	近世	西側は調査区外のため全容不明	92・93	
SX114	瓦溜り	N区	7-R	方形	(0.95×0.9)	―	―	―	―	近世	北側は調査区外のため全容不明。卍瓦・滴水瓦出土　18C後～	92	78
SX115	煉瓦遺構	N区	7-O	方形	0.8×0.7	―	―	N20° W	―	近代			
SX116	焼土層	N区	7-Q・R	円形	0.4×0.35	0.26×0.25	0.05	―	―	近世		84	67
SX117	木組遺構	N区	7-P	円形	0.76×0.7	0.58×0.58	1.2	―	5.46	近世	B層検出の埋桶。銭貨出土。SP470と重複	61	39
SX118	広域粘土層	N区	6-P・Q	不整形	3.25×1.2	―	―	―	―	近世以降		84	
SX119	漆喰含有土坑	N区	6-R	方形	1.92×(0.6)	1.85×(0.5)	0.08	―	5.6	近世	東側をSX138に切られるため、全容不明	86	71
SX120	瓦集中	N区	6－Q	円形	1.8×(1.5)	1.5×(1.15)	0.28	N32° E	5.5	近世	KR4に切られ、全容不明。18C後～	93	78
SX121	瓦溜り	N区	5-P・Q	円形か	1.12×(0.56)	0.96×(0.4)	0.35	―	5.75	近世	北側コンクリ基礎、全容不明。SD27を切る	67・93	49・78
SX122	石組遺構	N区	6-Q	長方形	0.52×0.16	―	0.15	N11° E	5.55	近世	溶結凝灰岩3点	58	36
SX123	礫集中遺構	N区	6-P・Q	方形	1.35×1.25	1.20×1.10	0.19	N13° E	5.4	近世以降	SX129と接する。45点程度か。19C～	58	36
SX124	土坑	N区	6-Q	楕円形	0.6×0.45	0.41×0.32	0.15	N86° E	5.5	近世	円形砂利含有。18C後～	93	79
SX125	漆喰含有土坑	N区	6-P	楕円形	1.25×0.55	―	―	―	―	近世	上部削平の可能性。遺物なし	86	71
SX126	瓦溜り・土器皿多出	N区	5・6-O・P	長方形	4.57×(3.18)	4.2×(2.7)	1.1	N65° E	5.3	近世	西側は調査区外全容不明。瓦極めて多量SX127を切る。18C中～	88・92・95・96	68・69・74・79
SX127	瓦溜り・大型土坑	N区	5・6-P	方形	2.35×2.18	2.23×1.95	1.05	N10° E	5.25	近世	西側は調査区外全容不明。SX126に切られる。地下室か。17C末	95	91
SX128	漆喰含有土坑	N区	6-R	ほぼ円形	1.78×1.65	1.4×1.25	0.4	―	5.6	近世	銭貨・石製品・マグロ骨等出土　19C～	86	71
SX129	瓦溜り	N区	6-P・Q	隅丸方形	1.32×1.30	0.8×0.8	0.3	N57° E	5.4	近世	SX123と同時検出され、SX143 を切る。焼土・漆喰含む。瓦多量。18C後～	58・95	80
SX130	瓦溜り	N区	6・7-P・Q	方形	7.00×(5.30)	6.70×(5.20)	0.3	―	5	近世	広範囲瓦溜り、SE40・KR9 に切られる。18C後～	94	80
SX131	木組遺構	N区	6-R	円形	0.45×0.46	0.36×0.34	0.19	―	5.3	近世	覆土は粘性の強い灰色土。桶抜きと判断	61	39
SX132	瓦溜り	N区	6-O・P	方形か	2.98×1.0	―	0.84	―	5.23	近世	SX126の東側、SX134の西側に位置する。18C後～	95・96	80
SX133	瓦溜り	N区	7-R	長方形	3×1.6	―	0.26	N6° E	5.6	近世	南北布掘状瓦溜り。19C～	92・94	
SX134	瓦溜り	N区	6-O・P	方形か	3.8×2.75	―	0.85	N12° E	5.3	近世	SX132の東側で検出。18C後～	95・96	80
SX135	木組遺構	N区	6・7-O	長方形	2.02×1.22	1.9×1.12	0.9	N79° W	5.16	近世以降	SX145を切る。掘り方有り、遺物多種類。19C後～	61	39
SX136	井戸	N区	6-O	楕円形	2.27×1.42	―	0.63	―	4.48	近世	掘り方有り、仏具出土、桶有り、19C～	81	65

遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SX108			3		12										
SX109															
SX110		244	285	183	極多量	4				1			4	1	
SX111		1	4	2	少量										
SX112			1		少量										
SX113					少量										
SX114			1	1	152										
SX115			1	2	6										
SX116					微量										
SX117								1	1						
SX118															
SX119		4	8	3	23										
SX120	2	42	30	31	35										
SX121		1		8	34										
SX122				5	8										
SX123		8	16	9	58								1		
SX124		1	5	6	1										
SX125															
SX126	1	124	195	495	3360		4	1	20			2	1		
SX127		55	29	375	775									1	
SX128		52	98	43	336	1		1		1			1	1	
SX129	1	7	16	42	599										
SX130	1	42	32	16	713		1							1	
SX131															
SX132		200	320	129	1163		2								
SX133		1	3		125										
SX134	1	82	95	37	223		1								
SX135		41	20	15	136	34	23	1				1	19		
SX136		39	68	32	140		1		5				1		

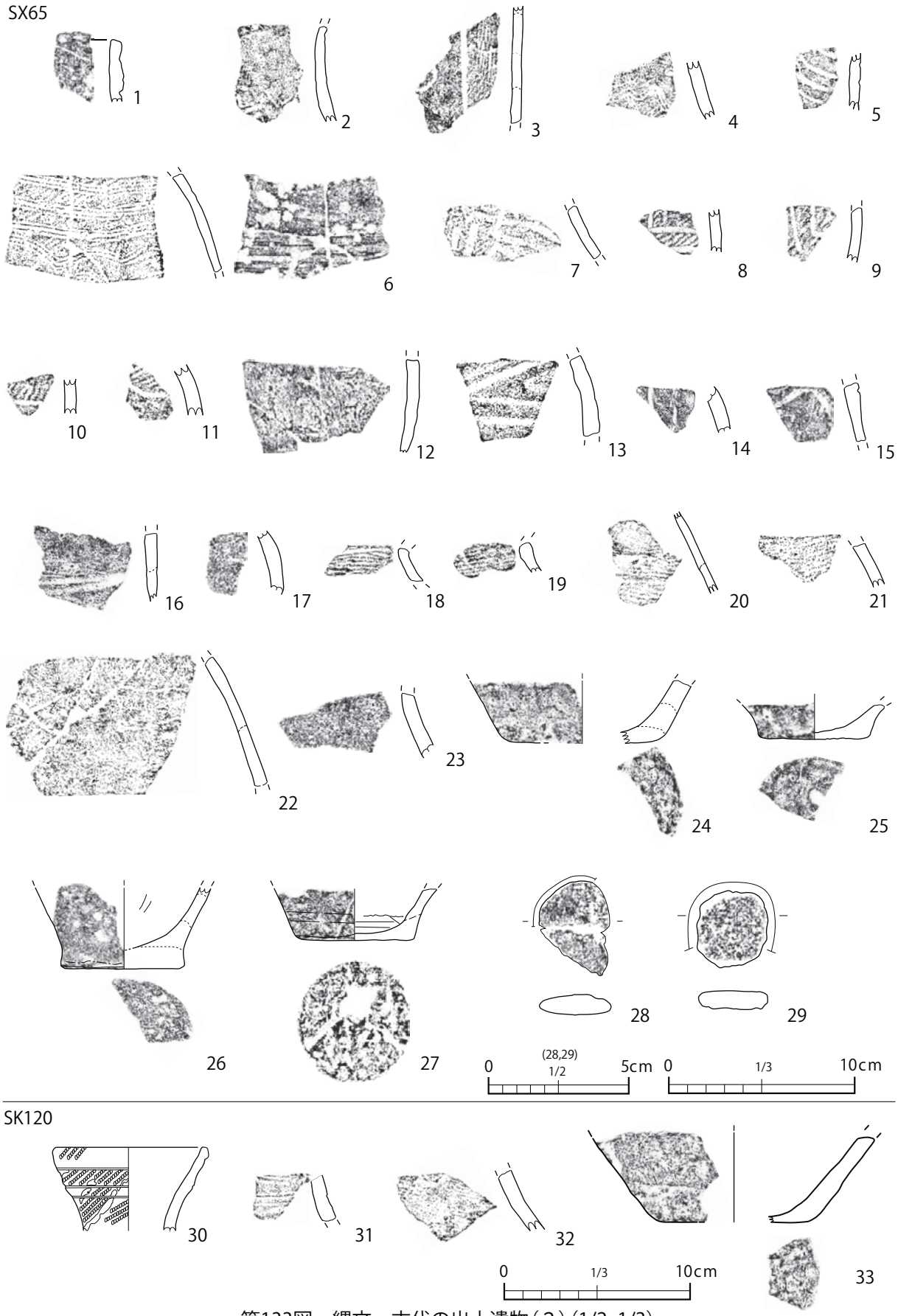
第３表　遺構一覧（32）

遺構名	遺構種類	区名	グリッド	平面形態	上端(m) 長径×短径	下端(m) 長径×短径	深さ(m)	主軸方向	確認高(m)	遺構時期	備考	挿図	写真
SX137	木材廃棄遺構（土器皿集中）	N区	5・6-P	方形	2.62×2.50	2.34×1.97	0.5	―	―	近世	方形大型土坑、黒色土覆土。SX149に切られる。土器皿・木材・種子等出土　18C～	88	68・69・74
SX138	瓦溜り（布掘状）	N区	6-P～R、７-Q・R	長方形	(9.84)　×0.7	(9.80)×0.58	0.5	N9° E		近世	護摩堂礎石関連。小瓦充填、幅南半は、0.90m。　19C～	51・94	4・19
SX139	土器皿多出遺構	N区	6-P	長方形	0.18×0.15	―	―	―	―	近世	土器皿20枚が横倒しで出土。18C中～		68・69
SX140	地鎮遺構	N区	6-Q	ほぼ円形	0.31×0.28	0.23×0.21	0.19	―	4.68	近世以降	儀式用甕（蓋裏に墨書）。五重塔ミニチュア・銅棒・金糸等出土。19C中～	38・51・94	19
SX141	瓦溜り（布掘状）	N区	6-P・Q	長方形	(5.45)×0.9	(5.35)×0.8	0.36	N75° W	5.21	近世	護摩堂礎石関連。SX155と隣接。小瓦充填。　19C～	51・94	4
SX143	瓦溜り	N区	6-P	方形	(2.25)×2.10	(1.95)×0.92	0.6	N66° W	―	近世	SX129に切られる。SX127 のすぐ東。18C～	95	
SX145	獣骨出土遺構	N区	6・7-O	楕円形	(0.91)×0.56	(0.8)×0.36	(0.22)	N5° E	4.99	中近世	SX135木製地下室に切られる。SK156と接する	32	14
SX146	瓦溜り	N区	6-P	楕円形	(0.25×1.15)	(0.25×1.05)	0.4	―	5.17	近世	SX132に切られる。18C後～	95・96	
SX148	瓦溜り	N区	7・8-Q	ほぼ円形	1.05×0.8	0.9×0.6	0.15	―	4.85	近世	円形、小瓦溜り。浅い	94	
SX149	井戸	N区	6-P	円形 掘り方円形	0.95×0.85	0.83×0.66	1.2	―	4.75	近世	桶有り、掘り方有り。SX137を切る。19C～	80	65
SX150	瓦溜り	N区	6-P	隅丸方形	1.30×(0.95)	0.94×0.67	0.45	―	5.25	近世	SX138布掘状瓦溜りに切られる	94	
SX151	瓦溜り	N区	6・7-O・P	隅丸長方形	3.10×(1.41)	2.71×(1.19)	0.85	N60° W	5.24	近世	SX134に切られた可能性。18C中～	95・96	
SX152	土器皿集中	N区	6-P	楕円形	0.34×0.21	―	0.1	N20° W	4.41	近世	SE43覆土最上層 18C～	81	69
SX153	礎石柱痕	N区	8-Q	ほぼ円形	0.30×0.30	―	0.3	―	4.6	近世	SS190の柱痕部。瓦出土	52	
SX154	SE43・SX136掘り方	N区	6-O・P	不整形	2.45×2.00	2.0×1.85	1	N28° W	4.4	近世	井戸掘り方。18C後	81	65
SX155	瓦溜り（布掘状）	N区	6・7-P	長方形	(2.95)×0.70	(2.81)×0.60	0.2	N75° W	4.96	近世	AX138・SX141に切られる	51・92・94	
SX156	土坑	N区	7-O	楕円形	(2.40)×2.40	(1.75)×1.60	0.5	N61° E	―	縄文	縄文落込み。覆土C層類似。遺物無し		
KR1	土坑状	M区	10・11-F・G	楕円形	1.40×0.90	0.70×0.44	―	N57° W	―	近代			
KR2	土坑状	M区	11・12-F・G	長方形	1.78×0.90	1.60×0.73	―	N87° W	―	近代			
KR3	土坑状	M区	12―G	長方形	1.96×(0.89)	―	―	N6° E	―	近代			
KR4	建物基礎布掘り	N区	5・6-P・Q、6-R	細長長方形	10.07×1.5	―	―	N14° E	―	近代	西側、南北溝状。19C中～	84	
KR5	建物基礎布掘り	N区	6・7-P～R	細長長方形	10.09×0.8	―	―	N14° E	―	近代	南北溝状。19C中～	84	
KR6	建物基礎布掘り	N区	6・7-R	細長長方形	5.7×0.8	―	―	N76° W	―	近代	東西溝状。19C中～	84	
KR7	建物基礎布掘り	N区	6・7-Q	細長長方形	6.2×0.7	―	―	N76° W	―	近代	東西溝状。19C中～	84	
KR8	建物基礎布掘り	N区	5～7-Q、7-P	細長長方形	8.2×0.7	―	―	N76° W	―	近代	東西溝状。19C中～	84	
KR9	大型攪乱	N区	7-O・P、8-O・R	細長長方形	17×2.5	―	―	N12° E	―	近代	調査区東側。19C中～	84	

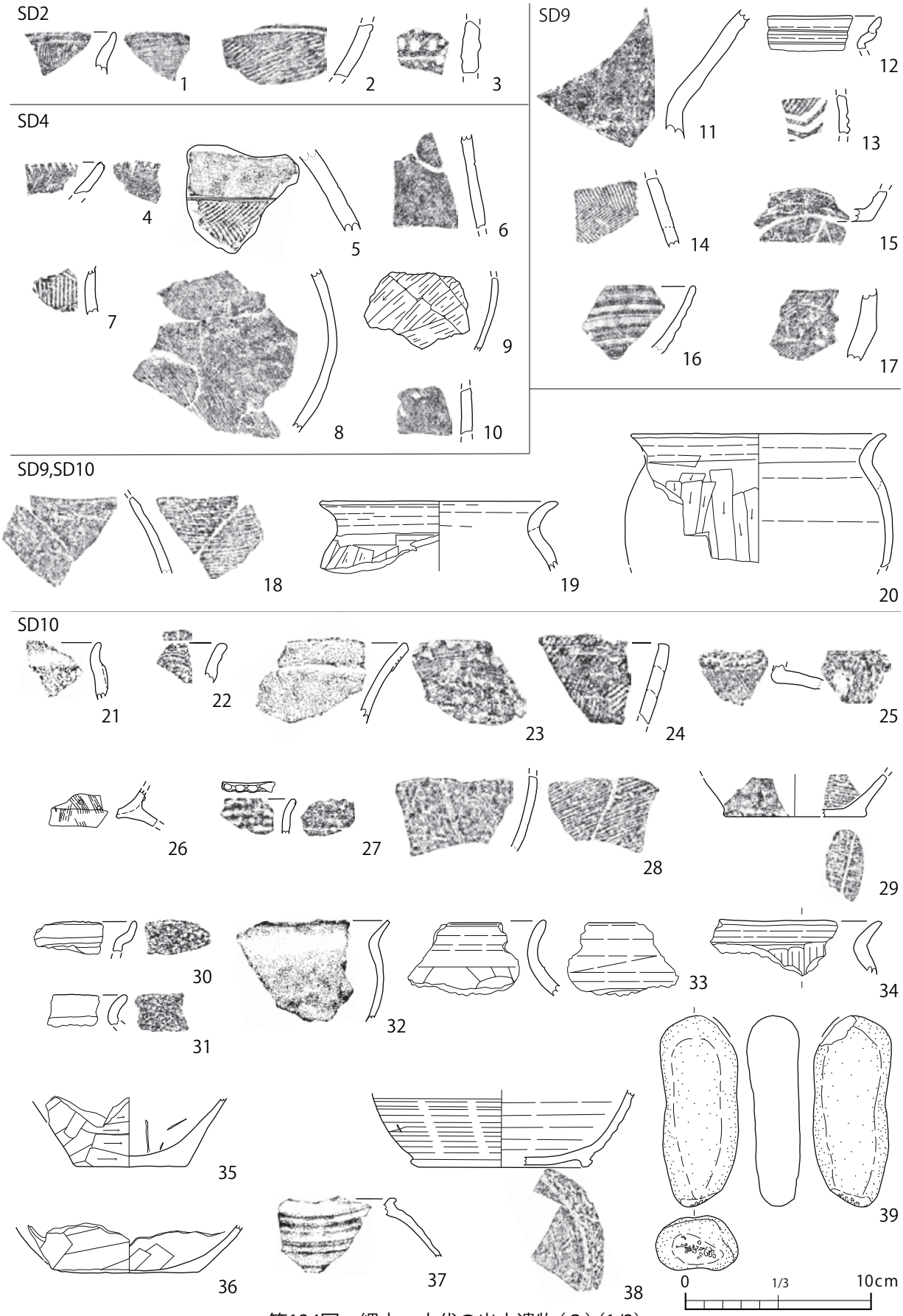
遺構名	古代以前遺物類	磁器（点）	陶器（点）	土器（点）	瓦（点）	土製品（点）	金属（点）	銭貨（点）	木製品（点）	骨角（点）	混土貝（kg）	種子（点）	ガラス（点）	石製品（点）	礫（点）
SX137	2	21	19	556	182				126			8	1		
SX138		28	59	18	1126		1								
SX139				659	1										
SX140	1		1				1								
SX141		42	69	11	329								1		
SX143		8	2	24	92										
SX145	1									30					
SX146		1	2		13										
SX148					46										
SX149		15	8	11	78		16	2	13						
SX150	1				21										
SX151		20	53	20	42										
SX152				26											
SX153					16										
SX154		19	25	47	30		1		4						
SX155															
SX156															
KR1															
KR2															
KR3															
KR4															
KR5		59	108	10	647										
KR6	1	4	4	1	10										
KR7		42	22	5	7										
KR8				9	2	1								1	
KR9	1		1												



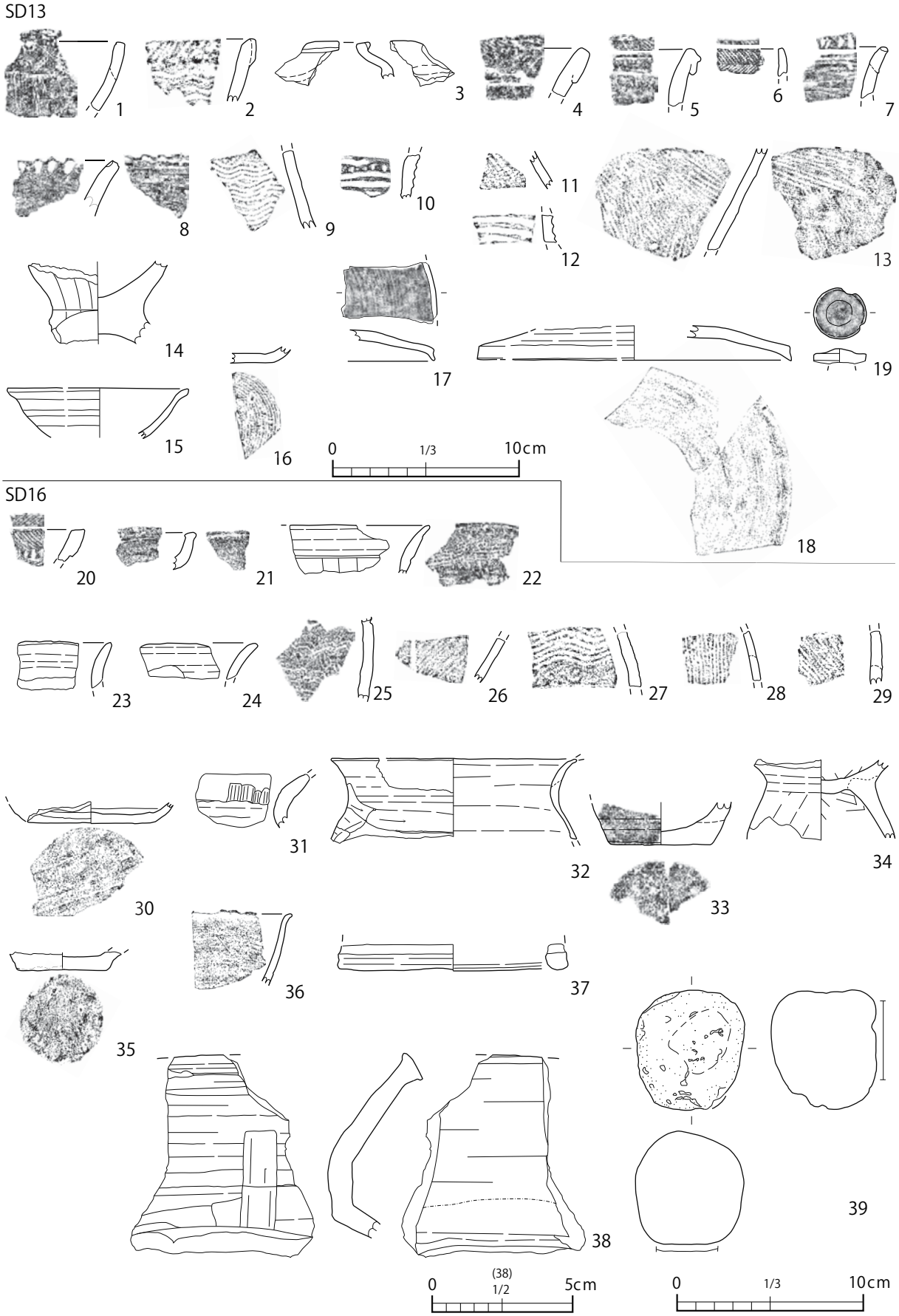
第132図　縄文～古代の出土遺物（1）（1/2・1/3・1/4）



第133図　縄文～古代の出土遺物（２）（1/2・1/3）

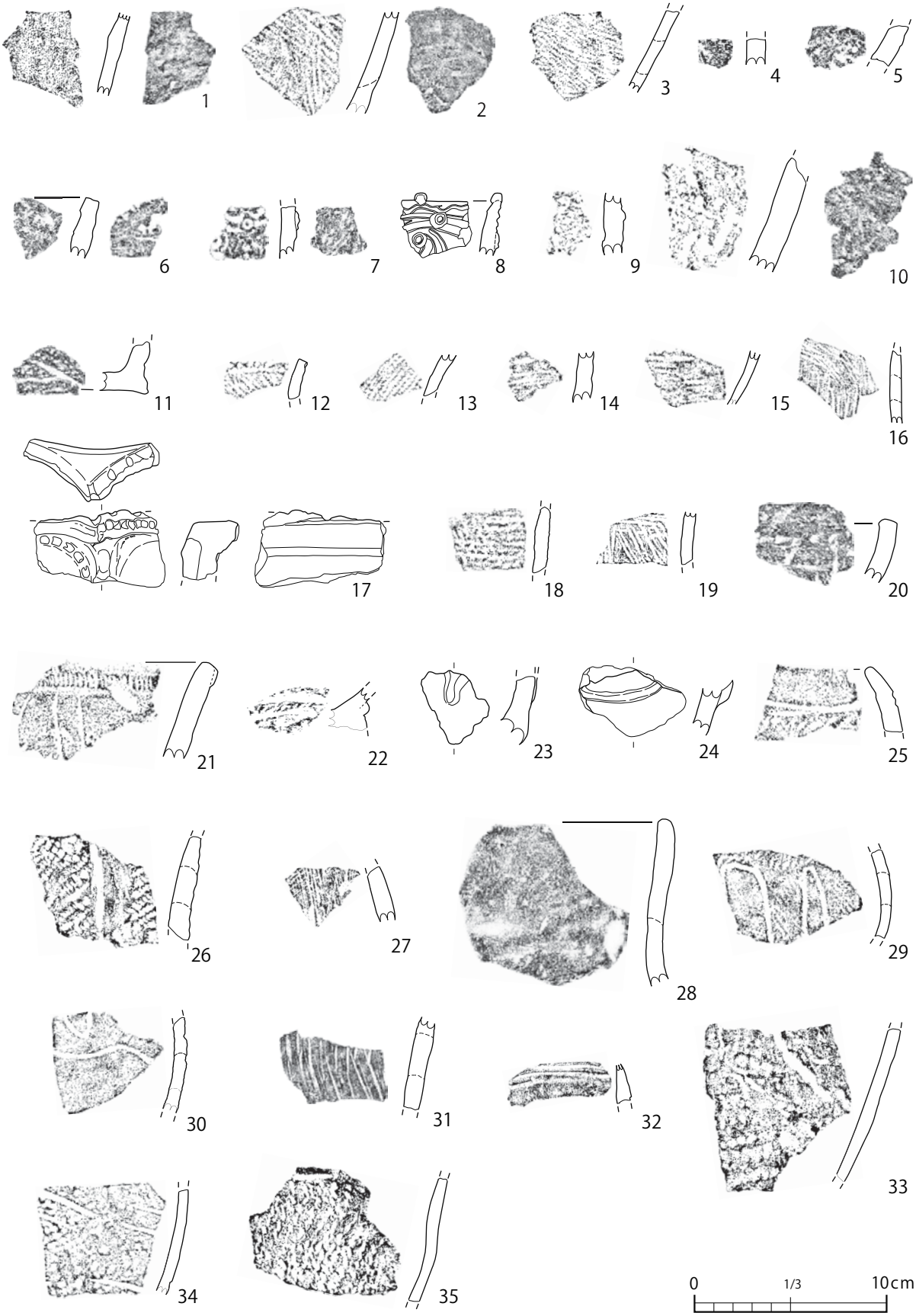


第134図　縄文～古代の出土遺物（3）(1/3)



第135図　縄文～古代の出土遺物（4）（1/2・1/3）

遺構外



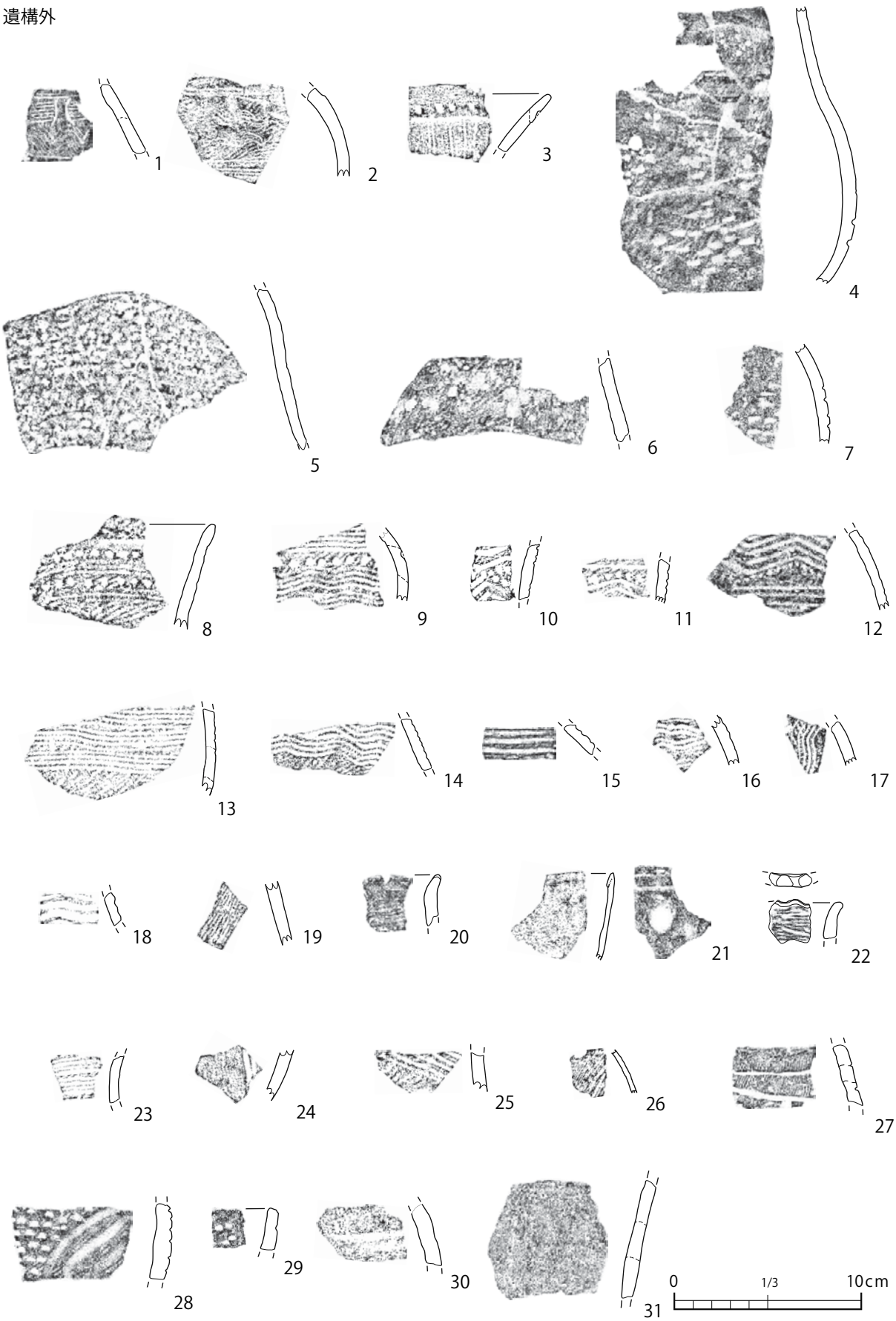
第136図　縄文～古代の出土遺物（５）（1/3）

遺構外

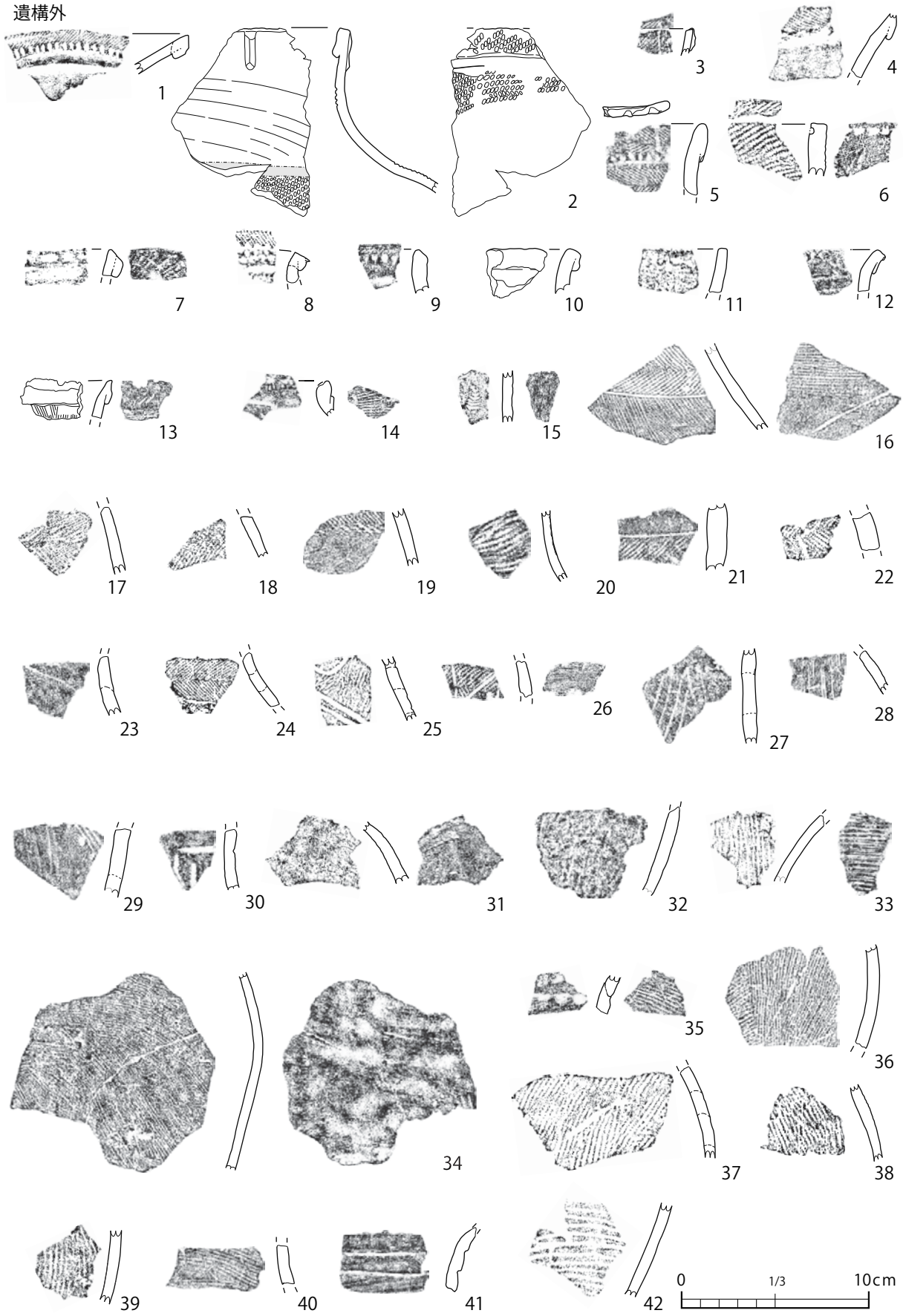


第137図　縄文～古代の出土遺物（６）（1/3）

遺構外

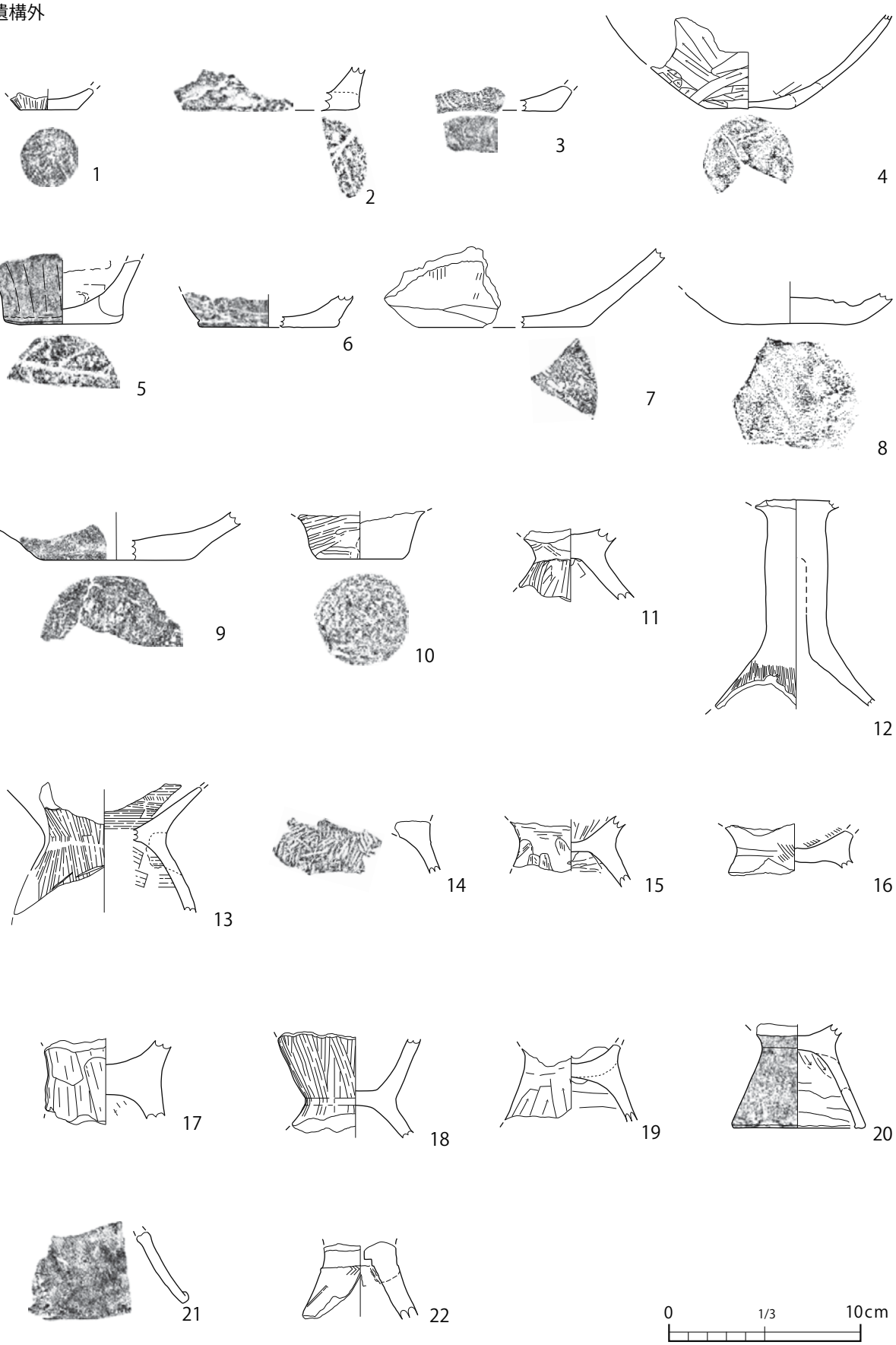


第138図　縄文～古代の出土遺物（7）（1/3）



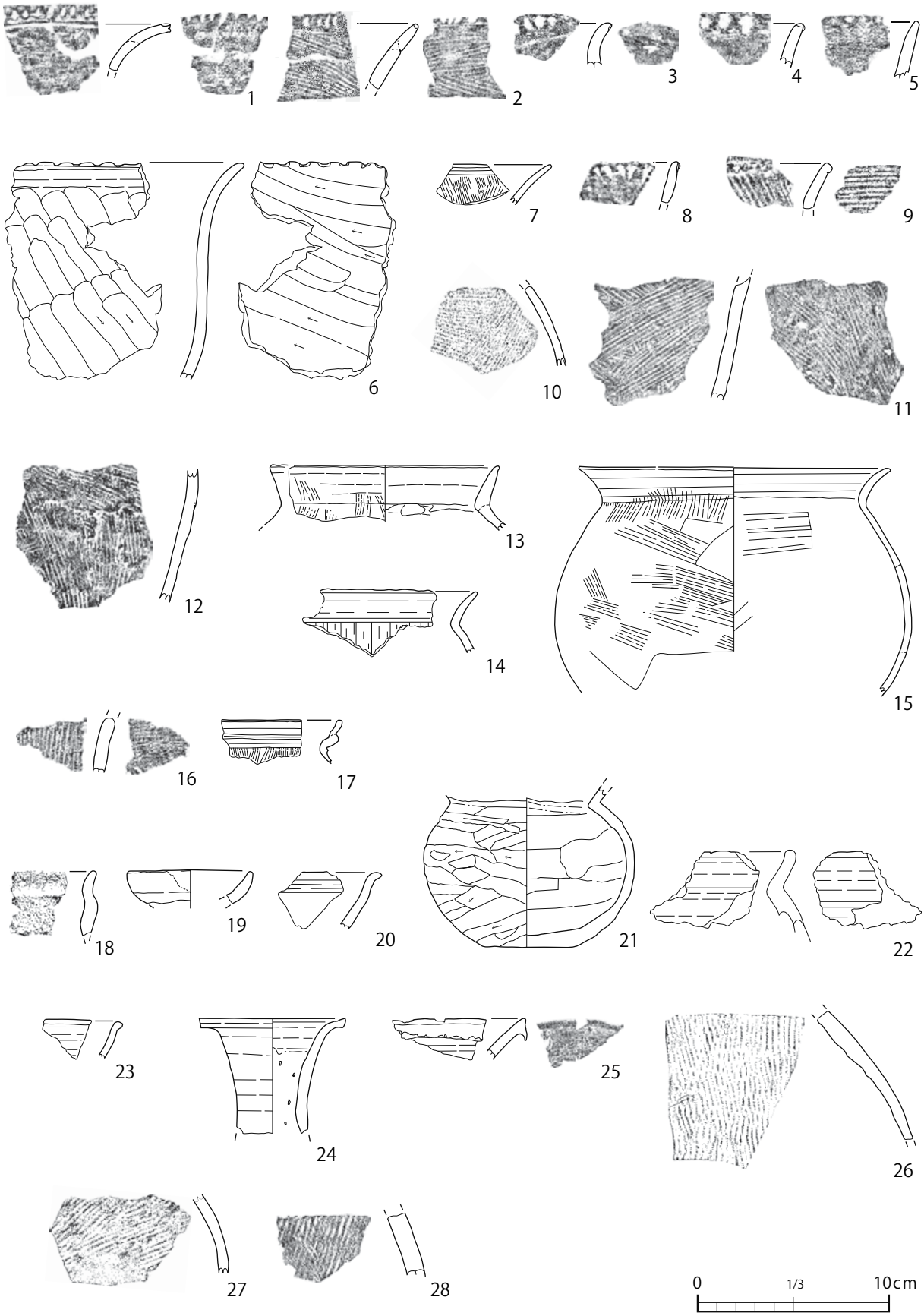
第139図　縄文～古代の出土遺物（８）(1/3)

遺構外

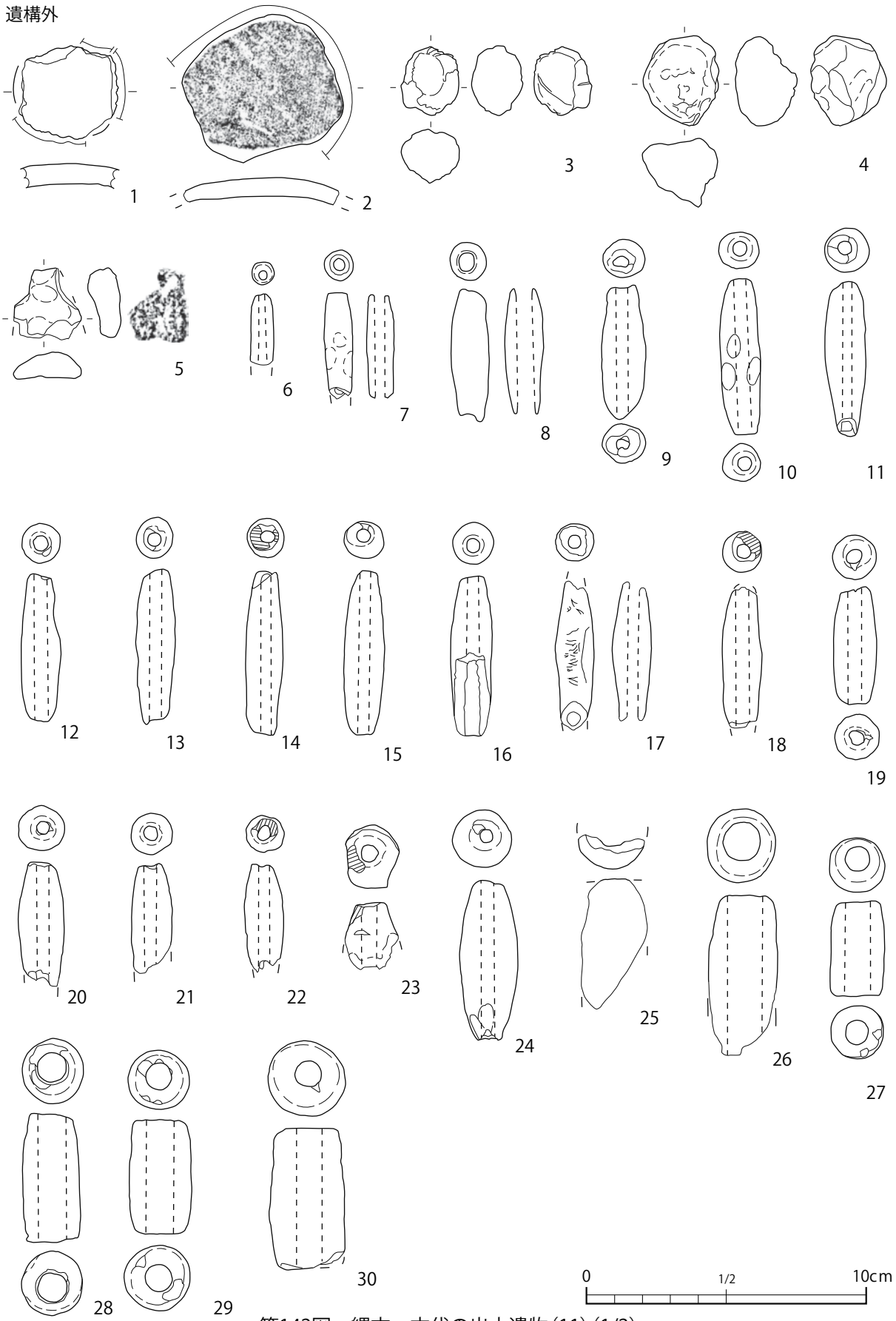


第140図　縄文～古代の出土遺物（9）(1/2・1/3)

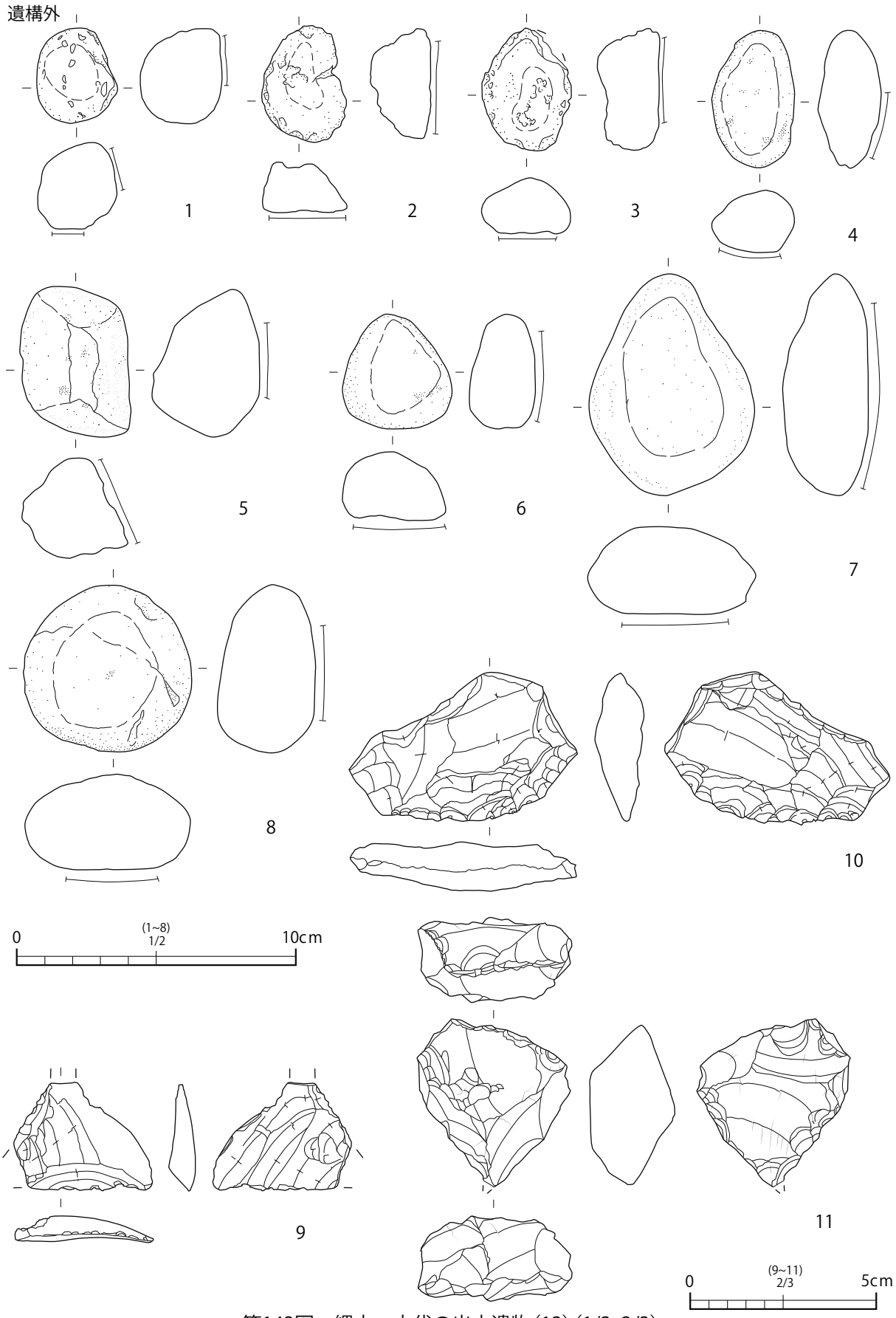
遺構外



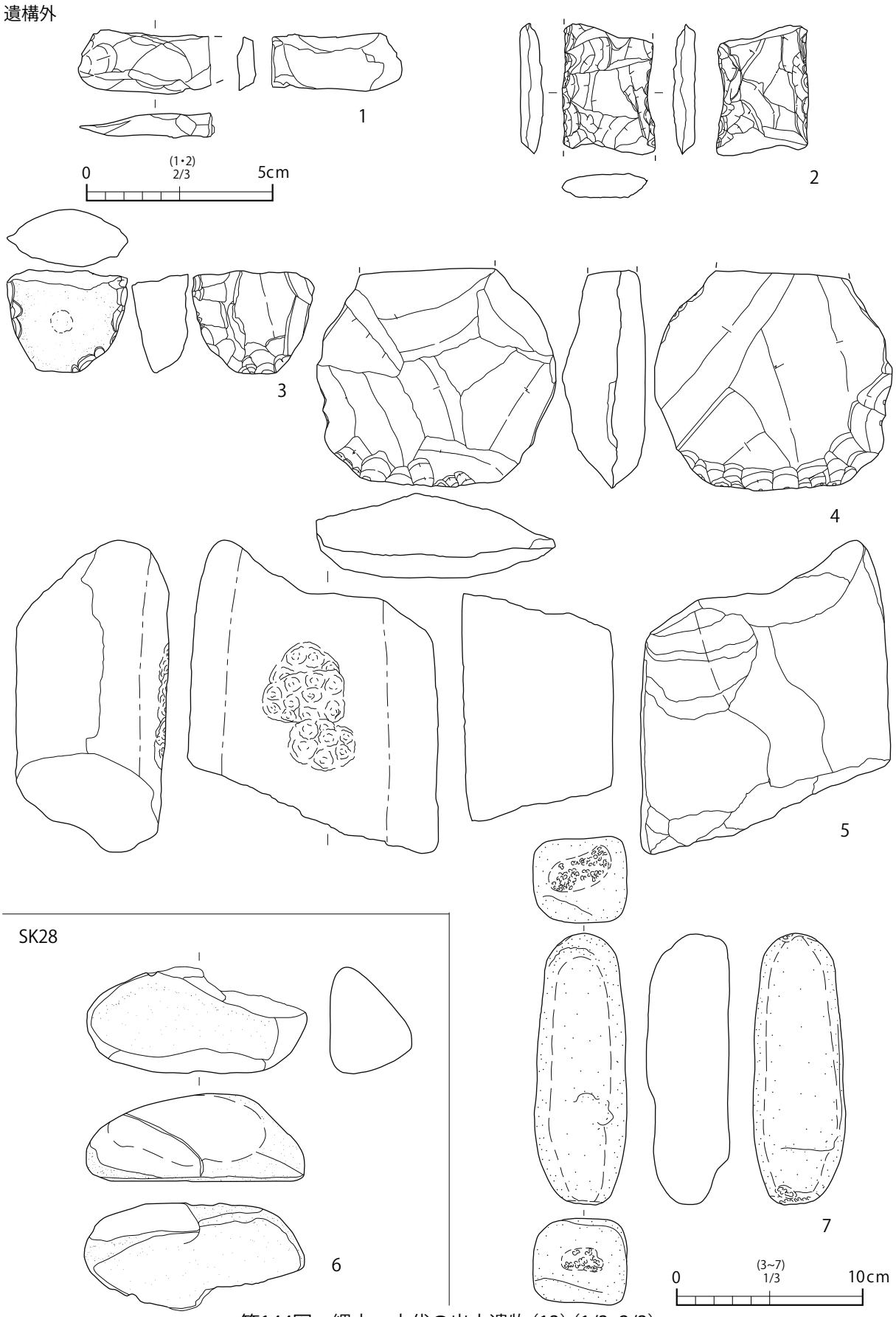
第141図　縄文～古代の出土遺物（10）（1/3）



第142図　縄文～古代の出土遺物（11）（1/2）



第143図　縄文～古代の出土遺物（12）（1/2・2/3）



第144図　縄文～古代の出土遺物（13）（1/3・2/3）

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（1）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
132	1	SK32 土坑	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。外面に不明瞭な横位沈線文	繊維やや多量。砂礫・白色粒少量	やや不良	にぶい橙7.5YR6/4 明赤褐5YR5/6	縄文前期前半
132	2	SK119 土坑	J区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。沈線あるいは擦痕か、脆弱	繊維多量。白色粒微量	不良	明黄褐10YR6/6 黒褐10YR3/1	縄文前期前半
132	3	SK28 土坑	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。横位隆帯脇に刺突文	白色粒・黒色粒微量	通有	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/4	縄文時代
132	4	SK28 土坑	C区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。横位沈線文。縄文地文	茶色粒・黒色粒・白色粒・角閃石少量	やや良好	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/3	縄文後期
132	5	SK28 土坑	C区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。竹管による押引きか。縄文地文か	黒色粒・茶色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/4 浅黄橙10YR8/3	縄文後期
132	6	SK28 土坑	C区	縄文土器	深鉢	胴部	横位沈線文。縄文地文	茶色粒・白色粒やや多量	やや不良	灰黄褐10YR4/2 灰白10YR8/1	縄文後期
132	7	SK28 土坑	C区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。地文不明。3本太沈線	白色粒微量	通有	にぶい黄褐10YR4/3 にぶい黄褐10YR5/3	縄文時代
132	8	SK28 土坑	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。３本1単位の沈線文	白色粒・角閃石微量	やや不良	黒褐5YR3/1 にぶい橙7.5YR7/4	縄文後期
132	9	SK28 土坑	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。擦痕か。内面黒化	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 黒褐10YR3/1	縄文後期
132	10	SK28 土坑	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩滅顕著。文様不明	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	橙5YR6/8 褐灰10YR6/1	縄文後期
132	11	SK28 土坑	E区	縄文土器	深鉢	底部	底部に木葉痕と擦痕。外面は縦位擦痕、底部見込中央部はやや窪む。直径6.8cm	砂礫・黒色粒・白色粒・角閃石微量	通有	褐灰10YR5/1 にぶい黄橙10YR6/3	縄文後期
132	12	SK128 土坑	J区	縄文土器	深鉢	胴部	区画沈線文、縄文地文	白色粒・角閃石微量	やや不良	暗褐7.5YR3/3 にぶい黄橙10YR６/4	縄文晩期以降
132	13	SK128 土坑	J区	縄文土器	深鉢	胴部	横位波状沈線文、列点文、３本１単位の鋸歯状のヘラ描文	白色粒子多量、角閃石微量	通有	褐灰5YR3/1 灰黄褐10YR4/2	縄文晩期以降
132	14	SK128 土坑	J区	縄文土器	深鉢	深鉢	粗製、器面凹凸顕著、外面無文、内面擦痕、粗製か	白色粒子少量､角閃石微量	良好、堅緻	にぶい褐7.5YR5/4 灰褐7.5YR6/2	縄文晩期
132	15	SK128 土坑	J区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。無文か	精選。黒色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	縄文晩期
132	16	SP380 ピット	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	摩耗顕著。 ３本波状沈線文２段	白色粒子多量、角閃石若干。灰褐色断面	通有	褐7.5YR4/4 褐7.5YR4/4	弥生時代
132	17	SX101 大型木材	M区	縄文土器	深鉢	胴部上半	平縁深鉢の口縁部付近。ヘラ描き沈線による三叉状入組文　安行３式	精選。白色粒子微量。灰褐色断面	良好、堅緻	橙5YR6/6 にぶい橙5YR6/4	縄文晩期中葉
132	19	SK127 土坑	J区	弥生土器	甕形土器	口縁～底部	小さめの底部から小さく屈曲、胴部中位まで立ち上がり、一度内傾し外反する口縁部に至る。口縁部は折返し状で、斜位のハケメの上に刺突文。以下縦位のハケメ。薄手	精選。白色粒・角閃石微量	通有	褐10YR4/4 褐10YR4/4	弥生中期後葉
132	20	SK4 土坑	A区	弥生土器	壺形土器	胴部	無文	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい橙5YR6/4	弥生時代
132	21	SK136 土坑	M区	弥生土器	甕形土器	口縁部	頸部から口縁部は外反、外面斜位のハケメ　内面斜位・横位ハケメ	砂礫・角閃石少量	やや良好	黒10YR1.7/1 灰黄褐10YR4/2	弥生時代
132	22	SK136 土坑	M区	弥生土器	甕形土器	頸部～胴部	内湾する胴部､頸部で外反。薄手。内外面にハケメ	砂礫・白色粒・角閃石微量	良好、堅緻	黒10YR2/1 灰5Y5/1	弥生時代
132	23	SP437 ピット	M区	弥生土器	壺形土器	肩部	強く丸みを持つ。S字状結節と羽状縄文	精選。砂礫微量	良好、堅緻	にぶい褐7.5YR5/3 にぶい褐7.5YR5/3	弥生後期
132	24	SK5 土坑	B区	土師器	坏	体部	無文、一部黒化	砂礫・黒色粒少量。角閃石微量	やや不良	橙7.5YR6/6 明黄褐10YR7/6	古墳時代
132	25	SK82 土坑	G区	須恵器	甕	胴部	外面タタキ目。内面輪積痕上の押さえ痕顕著	３mm大の砂礫・白色粒少量	通有	褐灰7.5Y5/1 褐灰7.5Y5/1	古代
133	1	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	外面横位ハケメ	砂礫・茶色粒微量	やや不良	10YR3/2黒褐 にぶい黄褐10YR5/4	弥生中期
133	2	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部付近	口唇先端欠損。口唇部付近肥厚、頸部下端に鋸歯文	精選。茶色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 浅黄橙10YR8/4	弥生中期
133	3	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	垂下沈線文と曲沈線文が施文される。地文はハケメ	精選。砂礫微量	通有	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10YR5/1	弥生時代
133	4	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	櫛描き波状沈線文か。器面凹凸顕著	白色粒多量、角閃石微量	やや不良	黒褐10YR3/2 灰褐7.5YR5/2	弥生中期
133	5	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	曲線的な沈線文、内外面赤彩か	精選。白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR4/2	弥生時代

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（2）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
133	6	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	3本1単位の波状沈線文、沈線文。内面赤彩か	砂礫・黒色粒・白色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR7/4 橙2.5YR6/8	弥生時代
133	7	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	三角形状の沈線文	白色粒多量、角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
133	8	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	方形区画沈線文、縄文地。赤彩か	精選。白色粒・角閃石微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 灰褐7.5YR5/2	弥生時代
133	9	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	摩耗顕著。斜位の沈線文、縄文地。やや薄手	精選。白色粒微量	通有	にぶい黄褐10YR5/3 褐灰10YR6/1	弥生時代
133	10	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文、地文縄文か。内面赤彩か	精選。白色粒微量	通有	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/2	弥生時代
133	11	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	摩耗顕著。曲線的な沈線文と縄文	精選。白色粒・茶色粒微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
133	12	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	摩耗顕著。内面赤彩か	精選。角閃石微量。灰褐色断面	通有	にぶい黄橙10YR7/4 浅黄橙10YR8/4	弥生時代
133	13	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	横位・斜位沈線文（菱形か）	精選。砂礫・白色粒・褐色粒・角閃石微量。灰褐色断面	やや不良	浅黄橙10YR8/3 褐灰10YR5/1	弥生中期
133	14	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文。内面赤彩か	精選。白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	通有	橙7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
133	15	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	斜位沈線文	茶色粒・白色粒・角閃石少量。灰褐色断面	やや不良	明黄褐10YR6/6 にぶい黄橙10YR7/4	弥生土器
133	16	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	横位沈線文、横位ナデ	砂礫・白色粒多量	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/2	弥生時代
133	17	SX65 遺物集中	J区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。文様不明瞭	白色粒多量	やや不良	7.5YR2/2 黒褐 7.5YR2/2 黒褐	縄文後期
133	18	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位隆帯、横位ハケメ。内面赤彩か	精選。砂礫・白色粒微量	やや不良	にぶい褐7.5YR6/3 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
133	19	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位ハケメ	精選。白色粒微量	やや不良	にぶい橙7.5YR7/3 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
133	20	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	外面ハケメ	精選。白色粒微量	やや不良	にぶい黄褐10YR5/4 明黄褐10YR6/6	弥生時代
133	21	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	外面ハケメ	精選。白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/4 淡黄2.5Y8/3	弥生時代
133	22	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	胴部は内湾する、やや薄手、摩耗顕著、内面赤彩か	精選。白色粒微量	やや不良	にぶい黄橙10YR7/3 灰白10YR8/2	弥生時代
133	23	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	胴部	摩耗顕著。文様不明瞭	白色粒多量	やや不良	黒褐7.5YR2/2 黒褐7.5YR3/1	弥生時代
133	24	SX65 遺物集中	J区	縄文土器	深鉢	底部	底部から直線的に立ち上がる。摩耗顕著。文様不明	砂礫・白色粒多量、角閃石微量	やや不良	にぶい赤褐5YR5/4 灰黄褐10YR4/2	縄文時代
133	25	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	底部	底部から小さく屈曲した後立ち上がる。やや薄手。器面摩耗顕著。底部約1/6残存　推定底径6cm	精選。白色粒微量	やや不良	橙5YR6 /6 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
133	26	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺形土器	底部	小さく屈曲し、さほど開かず立ち上がる。底部文様不明。底径6.7cmを推定	砂礫・白色粒少量	やや不良	褐7.5YR4/4 にぶい橙5YR7/3	弥生時代
133	27	SX65 遺物集中	J区	弥生土器	壺	底部	小さく内湾した後、やや開いて立ち上がる。内外ともナデが残る。内面には輪積痕が残る。木葉痕。底径6.4cm	1mm程度の粗砂・白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	やや不良	橙5YR6/6 褐灰10YR5/1	弥生時代
133	28	SX65 遺物集中	J区	土製品	土製円板	一	周辺研磨。文様不明	黒色粒微量	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4 明黄褐10YR6/6	弥生時代か
133	29	SX65 遺物集中	J区	土製品	土製円板	一	周辺一部を除き、研磨。文様不明	精選。白色粒微量	やや不良	褐7.5YR4/3 黒褐7.5YR3/1	弥生時代か
133	30	SK120 土坑	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	細頸壺か。器面摩滅顕著。口唇部肥厚。外面は単節縄文、横位沈線文。内面は横位ナデ	褐色粒・白色粒少量、角閃石微量。灰褐色断面	やや不良	橙7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR7/3	弥生中期
133	31	SK120 土坑	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文	1mm以下の粗砂微量	やや不良	褐7.5YR4/3 にぶい黄褐10YR5/4	弥生時代
133	32	SK120 土坑	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	器面摩耗顕著。波状沈線文か	白色粒やや多量、角閃石微量	やや不良	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
133	33	SK120 土坑	I区	縄文土器	深鉢	底部	摩耗顕著。文様不明。底部1/8程度遺存。	砂礫多量、白色粒・角閃石少量	やや不良	黄褐10YR5/6 にぶい黄褐10YR4/3	縄文時代
134	1	SD2 溝	B区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部肥厚、頸部屈曲、外面縦位、内面横位ハケメ	精選	通有	褐7.5YR6/4 褐7.5YR6/4	弥生時代

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（3）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
134	2	SD2 溝	B区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文、縄文	精選。白色粒・角閃石微量。褐灰色断面	通有	にぶい橙7.5YR6/4 褐灰7.5YR5/1	弥生時代
134	3	SD2 溝	B区	弥生土器	壺形土器	頸部	頸部と胴部に段差、頸部に刺突	精選。黒色粒少量。灰褐色断面	通有	灰白%Y8/1灰白 灰白%Y8/1灰白	縄文晩期以降
134	4	SD4 溝	E区	弥生土器	甕形土器	口縁部	口唇部平坦、内外面平坦角にキザミ。外面キザミの中に板痕、内面横位ハケメ	精選。黒色粒若干	良好	にぶい橙5YR6/4 にぶい橙5YR6/4	弥生時代
134	5	SD4 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	羽状縄文と赤彩無文部の境に沈線。　久ヶ原式	1mm以下の粗砂・白色粒微量	良好堅緻	淡黄2.5Y8/4 浅黄2.5Y7/3	弥生後期
134	6	SD4 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	沈線。縦位ハケメ	精選。黒色粒微量	良好	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
134	7	SD4 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	筒状。刺突状の曲沈線文。内面赤彩か	精選。白色粒少量、角閃石微量。灰褐色断面	通有	にぶい橙5Y６/3 にぶい橙7.5YR7/6	弥生時代
134	8	SD4 溝	E区	土師器	甕形土器	胴部	胴部は球銅形、内外面ハケメ、一部黒化	白色粒やや多量、角閃石微量	通有	赤褐5R4/6 赤褐5R4/6	弥生～古墳
134	9	SD4 溝	E区	土師器	甕	胴部	外面ヘラケズリか	白色粒多量	やや不良	赤黒2.5YR2/1 赤褐10R4/4	古墳～古代
134	10	SD4 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	無文。外面赤彩・ミガキ	白色粒多量	良好	橙5YR6/6 橙7.5YR6/6	弥生時代
134	11	SD9 溝	E区	須恵器	甕	頸部	頸部で屈曲し、口縁部に至る。内外面自然釉若干、ロクロ成形	精選。白色粒微量	良好	灰黄褐10YR6/2 褐灰10YR5/8	古代
134	12	SD9 溝	E区	土師器	台付甕	口縁部	S字状口縁台付甕、口縁部小破片	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい黄褐10YR7/3 にぶい黄褐10YR7/3	古墳時代前期
134	13	SD9 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	3本単位の鋸歯状沈線文。薄手	精選。砂礫微量	通有	灰黄褐10YR6/2 にぶい黄橙10YR7/2	弥生時代
134	14	SD9 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	羽状細縄文	砂礫・黒色粒やや多量	通有	褐灰10YR4/1 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
134	15	SD9 溝	E区	弥生土器	壺形土器	底部	底部は木葉痕、胴部下端は横位のナデ	精選。白色粒少量、角閃石微量。褐灰色断面	通有	褐灰10YR6/1 褐灰10YR4/1	弥生時代
134	16	SD9 溝	E区	須恵器	杯	口縁部	内外面ロクロ目、外面は段状。	精選。砂礫微量	良好	灰白2.5Y8/1 灰白2.5Y8/1	古墳～古代
134	17	SD9 溝	E区	弥生土器	壺形土器	胴部	摩耗顕著。 屈曲する。ハケメか	精選。白色粒微量	やや良好	橙5YR7/8 にぶい橙5YR7/4	弥生時代
134	18	SD９・10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	肩部	外面縦位、内面横位ハケメ	精選。白色粒微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 橙5YR6/6	弥生時代
134	19	SD９・10 溝	E区	土師器	甕	口縁部	口縁部「く」の字。ヨコナデ、胴部上位は縦位のヘラケズリ。武蔵型甕か	褐色粒・砂礫・白色粒微量	通有	にぶい橙7.5YR5/4 橙7.5YR6/6	古墳～古代
134	20	SD９・10 溝	E区	土師器	甕	口縁部 ～胴部 上位	口縁部「く」の字。ヨコナデ、胴部上位は縦位のヘラケズリ。武蔵型甕か	白色粒・角閃石微量	通有	灰褐5YR6/2 橙5YR6/6	古墳～古代
134	21	SD10 溝	E区	縄文土器	深鉢	口縁部	口縁直下太沈線文、以下縄文施文	砂礫・白色粒やや多量	通有	にぶい橙7.5YR6/4	縄文後期
134	22	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口縁直下鋸歯状沈線文	精選。黒色粒微量	やや不良	浅黄橙7.5YR8/3 橙5YR7/6	弥生時代
134	23	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	口縁部	外反する折返し口縁。口唇上に刻み目。縦位ハケメ、内面は横位に曲線的なハケメ	砂礫・白色粒微量	通有	浅黄橙7.5YR8/4 浅黄橙10YR8/4	弥生末
134	24	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部平坦で内面肥厚、口唇部に縄文施文。胴部は斜位に縄文	精選。茶色・白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	通有	橙7.5YR7/6 にぶい橙7.5YR7/4	弥生時代
134	25	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	肩部	胴部上位、外面縦位のハケメ	白色粒・茶色粒多量	通有	暗褐7.5YR3/3 褐7.5YR4/3	弥生時代
134	26	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	外反する頸部、ハケメ、小ボタン状突起	精選。白色粒・角閃石少量	通有	橙5YR7/6 灰白10YR8/2	弥生時代
134	27	SD10 溝	E区	弥生土器	甕形土器	口縁部	口縁部は外反、口唇上に刻み、外面横位にハケメか	精選。茶色粒微量	やや不良	にぶい橙7.5YR7/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
134	28	SD10 溝	E区	弥生土器	甕形土器	胴部	内外面ハケメ	精選。白色粒微量	通有	褐7.5YR4/4 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
134	29	SD10 溝	E区	弥生土器	壺形土器	底部	底部に木葉痕、小さく括れて開きながら立ち上がる。胴部ハケメ	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい褐7.5YR5/3 橙7.5YR6/6	弥生時代
134	30	SD10 溝	E区	土師器	甕	口縁部	口縁部はS字状に屈曲する。口縁部小破片	白色粒やや多量	通有	にぶい褐10YR5/4 にぶい褐10YR5/4	古墳時代前期
134	31	SD10 溝	E区	土師器	甕	口縁部	小形、ヨコナデ	白色粒、茶色粒やや多量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい褐7.5YR5/4	古墳以降

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（4）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
134	32	SD10 溝	E区	弥生土器	鉢形土器	口縁部	短く、外反する口縁部、胴部は丸味を持つ。口縁部は内外面ヨコナデ、薄手。外面赤彩か	精選。黒色粒・白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4	弥生末
134	33	SD10 溝	E区	土師器	甕	口縁部	外反する口縁部、口唇部はやや肥厚、肩は張らない。口縁部外面ヨコナデ、内面ヨコナデ	精選。白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい黄褐10YR7/3 にぶい黄褐10YR7/3	古墳前期
134	34	SD10 溝	E区	土師器	甕	口縁部	短い口縁部。頸部は「く」の字状に屈曲。内外面ヨコナデ。	白色粒・茶色粒・角閃石微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 橙5YR6/6	古墳以降
134	35	SD10 溝	E区	土師器	甕	底部	平底、ケズリ、胴部外面横位・斜位のケズリ。内外一部黒化。底径6cm	白色粒微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙5YR7/4	古墳以降
134	36	SD10 溝	E区	土師器	甕	底部	薄手。胴部下端は縦位ヘラケズリの横位ナデ、内面は横位のヘラケズリ。底部もナデ。底径7.8cmか	白色粒多量、角閃石微量	通有	灰褐5YR4/2 にぶい褐7.5YR5/3	古代
134	37	SD10 溝	E区	須恵器	広口壺	口縁部、肩部	口縁部は短い、肩は丸味を持つ。外面ロクロ目。	精選。黒色粒微量	通有	灰白10YR8/1 灰白10YR8/1	古代
134	38	SD10 溝	E区	須恵器	坏	体部～底部	高台から強く抉れた後、開き気味に立ち上がる。体部はロクロ目が顕著。底部は丸みがある。	精選	良好	灰白10YR8/2 灰白10YR8/2	古代
135	1	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	平坦な口縁部に櫛描き斜位沈線、胴部縦位沈線	砂礫やや多量、白色粒少量、角閃石・黒色粒微量	やや良好	明赤褐2.5YR5/6 明赤褐2.5YR5/6	弥生中期
135	2	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口縁部折返し口縁状、肥厚。穿孔２カ所か。波状沈線文と刺突文	角閃石・白色粒・褐色粒微量	通有	褐灰7.5YR5/1 褐灰7.5YR5/1	弥生時代
135	3	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	頸部は内傾し、三角形状に尖る口唇部に至る。	白色粒やや多量	やや不良	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	弥生時代
135	4	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折返し口縁、口唇部平坦口唇部、折返部に縄文か沈線。摩耗顕著	精選。砂礫・白色粒微量	やや不良	橙7.5YR86/6 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
135	5	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折返し口縁、平坦に近い口唇上に縄文	精選。白色粒微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
135	6	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇上に細縄文、口縁部外面に羽状細縄文	精選。白色粒微量	良好	にぶい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	弥生時代
135	7	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	外反する口縁部、口唇上にキザミ、内外面横位の条痕文・赤彩	白色粒・角閃石少量	やや良好	橙5YR6/6 明褐7.5YR5/6	弥生時代
135	8	SD13 溝	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	外反する口縁部、口唇部内側に交互刺突。内外面横位ハケメ	砂礫・角閃石少量	やや不良	にぶい褐7.5YR6/3 橙7.5YR6/6	弥生時代
135	9	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	４本１単位の波状沈線文を３段	精選。茶色粒・白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	通有	灰褐7.5YR6/2 にぶい褐7.5Y6/3	弥生時代
135	10	SD13 溝	G区	縄文土器	深鉢	胴部上位	ヘラ描き沈線文、列点文	精選。白色粒微量	やや不良	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR6/3	縄文晩期
135	11	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	単節縄文	精選。白色粒微量	やや不良	にぶい橙5YR7/4 浅黄橙10YR8/3	弥生時代
135	12	SD13 溝	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面に縄文施文の後に横位沈線、外面赤彩か	精選。白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	やや良好	にぶい橙7.5YR7/6 褐灰10YR5/1	弥生時代
135	13	SD13 溝	G区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。表裏条痕か、S字状結節か。繊維不明	精選。白色粒微量	良好	にぶい黄褐10YR7/3 にぶい黄褐10YR7/3	縄文早期後半
135	14	SD13 溝	G区	土師器	台付甕	脚台部	底部下位、脚部の一部、表面剥落外面はケズリか	砂礫多量、角閃石微量	通有	にぶい褐10YR5/4 明赤褐5YR5/6	弥生以降
135	15	SD13 溝	G区	土師器	坏	口縁部～体部	内外とも口縁部にヨコナデ	細砂・白色粒・角閃石微量	良好	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	古墳以降
135	16	SD13 溝	G区	須恵器	坏	底部	ロクロ成形、底部糸切り痕	白色粒・角閃石微量	やや不良	灰5Y5/1 暗灰黄2.5Y5/2	古代
135	17	SD13 溝	G区	須恵器	蓋	口縁部	ロクロ成形。端部折返し	精選	良好、堅緻	灰N6/ 灰白N7/	古代
135	18	SD13 溝	G区	須恵器	蓋	口縁部	ロクロ成形、端部弱い折返し。	精選	良好	灰白10YR7/1 灰白10YR7/1	古代
135	19	SD13 溝	G区	須恵器	蓋	摘部	ロクロ成形、頂部やや突出	精選	良好、堅緻	灰N6/ 灰N6/	古代
135	20	SD16 溝	I区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折返し口縁、平坦な口唇上細縄文、折返し端部に刺突文、内外面赤彩	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい橙7.5YR7/3 にぶい橙7.5YR7/3	弥生時代
135	21	SD16 溝	I区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部内側肥厚、内外面ヨコナデ	白色粒多量	やや不良	褐10YR4/4 灰黄褐10YR4/4	弥生以降

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（5）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
135	22	SD16 溝	J区	土師器	甕	口縁部	頸部から口縁部にかけて段を有する、外反する口縁部、内面横位ナデ	砂礫・白色粒・褐色粒少量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 灰褐5YR6/2	古代か
135	23	SD16 溝	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	外反する、内外面ヨコナデ、内面赤彩か	精選、白色粒・角閃石微量	やや不良	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR7/4	弥生以降
135	24	SD16 溝	J区	土師器	甕	口縁部	口縁部は外反	白色粒微量	通有	黄褐10YR5/6 にぶい黄橙10YR7/4	古代
135	25	SD16 溝	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	薄手。櫛書き細波状沈線	砂礫・白色粒多量	良好堅緻	褐灰10YR4/1 褐灰10YR6/1	弥生中期
135	26	SD16 溝	J区	縄文土器	深鉢	胴部	薄手、磨消縄文、垂下沈線文	褐色粒・白色粒少量、角閃石微量	通有	灰白2.5Y7/1 にぶい黄橙10YR7/2	縄文時代
135	27	SD16 溝	J区	弥生土器	壺形土器	肩部	３本１単位の波状沈線文が２段	茶色・白色粒・角閃石微量。褐灰色断面	通有	明黄褐10YR7/6 褐灰10YR5/1	弥生時代
135	28	SD16 溝	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面ハケメ	白色粒子少量、角閃石微量	やや不良	にぶい黄橙10YR6/4 灰黄褐10YR5/2	弥生時代
135	29	SD16 溝	I区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面ハケメか	砂礫多量	通有	灰褐7.5YR5/2 にぶい橙7.5YR7/3	弥生時代
135	30	SD16 溝	I区	土師器	坏	底部	手持ちヘラケズリが胴部及び底部外面、内外面赤彩か。　底径6.8㎝	白色粒若干	通有	褐7.5YR4/4 褐7.5YR4/4	古代
135	31	SD16 溝	I区	土師器	甕	口縁部付近	摩耗顕著。頸部「く」の字状、内外面ナデ	白色粒多量	やや不良	褐7.5YR4/6 黒褐7.5YR3/1	古代
135	32	SD16 溝	I・J区	土師器	甕	口縁部	口縁部は小さく外反し、頸部境に段差。胴部横位のケズリ、内面横位のナデ　口径13.2㎝	角閃石・白色粒微量。灰褐色断面	通有	にぶい橙7.5YR6/4 灰黄褐10YR6/2	古代
135	33	SD16 溝	J区	縄文土器	深鉢	底部	底部から若干内湾して立ち上がる。無文か、内面黒化。	砂礫・白色粒少量	やや不良	赤褐5YR4/6 黒褐5YR3/1	縄文
135	34	SD16 溝	I区	弥生土器	台付甕	脚台部	脚台部、外面調整痕不明瞭、内面見込部ヘラケズリ	砂礫多量、白色粒少量、角閃石微量	通有	明赤褐2.5YR5/6 明赤褐2.5YR5/6	弥生以降
135	35	SD16 溝	J区	弥生土器	壺形土器	底部	平底、大きく開く。底部ヘラナデ内面ナデ。底径５㎝	砂礫多量、白色粒・黒色粒少量	通有	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/4	弥生時代
135	36	SD16 溝	J区	須恵器	坏	口縁部	ロクロ成形、口唇部は外反、薄手、内面自然釉。小片	精選。白色粒・黒色粒微量	良好	褐灰10YR6/1 灰白5Y7/1	古代
135	37	SD16 溝	J区	須恵器	壺	高台部	高台部のみの小破片。横位ナデ	精選。白色粒・黒色粒微量	やや良好	灰N5/ 灰N5/	古代
135	38	SD16 溝	I区	須恵器	壺	口縁部	口縁部は外反し、肩を持つ。口唇部はＴ字状。自然釉。	砂礫・白色粒微量	通有	黒7.5YR2/1 褐灰10YR5/1	古代
136	1	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	外面無文、内面条痕文	繊維・白色粒微量	通有	褐灰7.5YR5/1 褐灰10YR4/1	縄文早期後半
136	2	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	外面条痕文、内面条痕文は不明瞭	砂礫多量、角閃石微量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 褐灰7.5YR4/1	縄文早期後半
136	3	遺構外	H区	縄文土器	深鉢	胴部	表裏条痕文（外面縦位、内面縦位・横位）	繊維微量。砂礫・白色粒少量	やや良好	にぶい橙7.5YR6/4 灰褐5YR4/2	縄文早期後半
136	4	遺構外	I区	縄文土器	深鉢	胴部	外面凹凸顕著	繊維、海綿骨針微量。白色粒・角閃石微量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい褐7.5YR5/4	縄文早期末葉
136	5	遺構外	I区	縄文土器	深鉢	胴部	外面に条痕、内外面凹凸顕著	繊維、海綿骨針微量。砂礫、白色粒、角閃石微量	不良	橙7.5YR6/6 橙7.5YR6/6	縄文早期末葉
136	6	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	口縁部	波状口縁か、内外面凹凸顕著	海綿骨針多量	不良	にぶい黄褐10YR6/4 にぶい黄褐10YR6/4	縄文早期末葉
136	7	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	斜位の沈線文上に円形の粘土粒を貼付け	繊維多量。砂礫少量。脆弱	不良	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	縄文前期前半
136	8	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	口縁部	口唇上及び平行沈線文上にボタン状貼付け文。貼付け文上には竹管状工具による押捺	繊維多量。白色粒微量	やや不良	明褐7.5YR5/6 明褐7.5YR5/6	縄文前期前半
136	9	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	口縁部	半截竹管による、押引文沈線文、内面ミガキ	繊維少量。白色粒微量	やや不良	浅黄橙10YR8/4 にぶい黄橙10YR7/4	縄文前期前半
136	10	遺構外	B区	縄文土器	深鉢	深鉢	外面無文、内面無文か	繊維多量。砂礫・白色粒微量	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4 黒褐10YR3/1	縄文前期前半
136	11	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	底部	やや上げ底状の底部から一度屈曲して立ち上がる。貝殻背圧痕か	繊維多量	通有	明褐7.5Y6/8 黄橙7.5YR7/8	縄文前期前半
136	12	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	胴部	縄文地、横位隆帯上に刻み	精選。白色粒若干。断面同色	良好、堅緻	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/3	縄文前期後半
136	13	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	胴部	外面に単節縄文	精選。白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい黄橙5YR6/6 にぶい黄橙5YR6/6	縄文前期後半

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（6）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
136	14	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	横位平行沈線文	砂礫・白色粒少量	通有	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい橙5YR6/4	縄文前期後半
136	15	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。縄文施文か	精選。白色粒若干	通有	橙5YR6/6 にぶい橙5YR6/4	縄文前期後半
136	16	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	半截竹管文による平行沈線文。諸磯ｂ式	精選。角閃石微量	やや良好	にぶい褐7.5YR5/3 にぶい橙7.5YR6/4	縄文前期後半
136	17	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	口縁部	外面は口唇直下、縦位隆帯上に刺突文。楕円形隆帯に沿って刺突文。内面は口唇部に沿って隆帯添付。阿玉台式	金雲母多量。砂礫・白色粒少量	やや不良	明黄褐10YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	縄文中期初頭
136	18	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	撚糸文（潰れ）	金雲母・砂礫・白色粒少量	通有	にぶい赤褐2.5YR4/4 赤褐10R4/4	縄文中期前半
136	19	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	やや薄手、沈線による方形区画内を斜位沈線で充填	砂礫・白色粒・角閃石少量	通有	褐7.5YR4/3 褐7.5YR4/3	縄文中期前半
136	20	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	口縁部	口唇部は平坦、内側肥厚。摩耗顕著。横位押引状沈線文	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 橙7.5YR6/6	縄文中期前半
136	21	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	口縁部	肥厚した口唇部に刻み目、胴部には縦位の沈線文、摩耗顕著	小礫・粗砂・白色粒微量	やや不良	赤褐5YR4/8 橙5YR6/8	縄文中期前半
136	22	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	胴部	横位隆帯上に刻み目、内面磨き顕著	精選。砂礫微量	良好、堅緻	赤褐5YR4/6 赤褐5YR4/6	縄文中期後半
136	23	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。垂下隆帯と脇刺突	砂礫・白色粒少量	やや不良	赤褐5YR4/8 赤褐5YR4/8	縄文中期後半
136	24	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。隆帯	砂礫・白色粒多量	やや不良	橙5YR7/6 褐灰10YR4/1	縄文中期後半
136	25	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	口縁部	内湾する口縁部、無文下に横位沈線、単節縄文加曽利E3～4	茶色粒・白色粒微量	やや不良	橙7.5YR6/6 橙7.5YR7/6	縄文中期後半
136	26	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	単節磨消縄文。垂下沈線文。加曽利E式	精選。褐色粒、白色粒若干	通有	橙7.5ＹＲ7/6 橙7.5ＹＲ7/6	縄文中期後半
136	27	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	外面縦位、斜位櫛目	精選。白色粒・角閃石若干	やや良好	灰褐5YR6/2 赤灰2.5YR6/1	縄文後期
136	28	遺構外	M区	縄文土器	深鉢	口縁部	ローリング摩耗顕著、区画沈線文と縄文か、キャリパー形	粗砂・白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	縄文中期
136	29	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	胴部は丸味。磨消縄文、曲線的な沈線。称名寺式	砂礫・茶色粒やや多量、白色粒・角閃石微量	良好、堅緻	明褐7.5YR5/6 橙7.5YR6/6	縄文後期初頭
136	30	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	曲線的な沈線文、縄文地文か	砂礫・白色粒やや多量、角閃石微量	やや不良	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい黄橙10YR7/2	縄文後期初頭
136	31	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	沈線文、外面一部黒化。堀之内式	砂礫・白色粒・角閃石少量	良好	にぶい黄橙10YR6/4 明褐7.5YR5/6	縄文後期前葉
136	32	遺構外	G区	縄文土器	壺	胴部	擬口縁、横位沈線、輪積み痕明瞭。ミガキ	褐色粒・白色粒・角閃石少量	やや良好	褐灰7.5YR5/1 にぶい黄橙10YR7/2	縄文後期
136	33	遺構外	F区	縄文土器	深鉢	胴部	外面に粗く沈線文（圧痕か）、大きめの縄文が施される。内面ミガキ	精選、白色粒・角閃石微量	良好、堅緻	褐灰7.5YR5/1 褐灰7.5YR6/1	縄文後期
136	34	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	平行沈線文、縄文地文、外面煤付着	白色粒やや多量	良好、堅緻	にぶい黄橙10YR5/3 にぶい黄橙10YR7/4	縄文後期
136	35	遺構外	F区	縄文土器	深鉢	胴部	上位に横位沈線、以下斜位に縄文	精選。角閃石微量。重い	通有	黒褐2.5Y3/1 黒褐2.5Y3/1	縄文後期
137	1	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	曲線的な沈線文、外面磨き	精選。白色粒・角閃石微量	良好	暗褐10YR3/4 にぶい黄褐10YR5/3	縄文後期中葉
137	2	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	胴部内湾、磨消縄文。区画沈線文	1㎜以下の白色粒・角閃石微量	やや不良	褐灰10YR4/1 灰白10YR8/2	縄文後期
137	3	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	鋸歯文、波状沈線文	砂礫・白色粒多量	やや不良	明赤褐5YR5/6 明赤褐5YR5/6	縄文晩期
137	4	遺構外	C区	縄文土器	深鉢	胴部	沈線文、縄文	精選。砂礫微量	良好、堅緻	黒褐10YR3/2 橙7.5YR6/6	縄文晩期
137	5	遺構外	N区	縄文土器	深鉢	胴部	縦位・斜位沈線文	精選。砂礫若干	良好	にぶい褐灰5YR4/1 灰黄2.5Y6/2	縄文後期
137	6	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	頸部	輪積痕明瞭、横位沈線文、細縄文	精選。砂礫・白色粒・角閃石微量	やや良好	明赤褐5YR5/6 明褐7.5YR5/8	縄文晩期
137	7	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	縄文地、区画太沈線文	白色粒・角閃石少量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい橙7.5YR7/4	縄文後期
137	8	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	曲太沈線文、縄文地文、薄手	白色粒・角閃石微量。褐灰色断面	通有	にぶい黄橙10YR6/4 黒褐10YR3/2	縄文後晩期
137	9	遺構外	N区	縄文土器	深鉢	胴部	同心円文	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	褐7.5YR4/4 褐7.5YR4/4	縄文後期

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（7）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
137	10	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	横位沈線文、刺突文	砂礫・白色粒・角閃石やや多量	やや不良	橙7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR7/4	縄文後期
137	11	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	横位太沈線文	砂礫・角閃石・白色粒微量	通有	橙7.5YR6/6 にぶい黄橙10YR6/3	縄文後期
137	12	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	刺突、縄文地文	砂礫・白色粒多量、角閃石微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 浅黄2.5Y7/4	縄文晩期
137	13	遺構外	M区	縄文土器	甕	胴部	横位沈線、地文不明	砂礫・白色粒微量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 橙7.5YR4/4	縄文後期
137	14	遺構外	C区	縄文土器	甕	胴部	刺突文、横位沈線、	砂礫・白色粒多量	不良	黒褐7.5YR3/1 褐7.5YR4/4	縄文後期
137	15	遺構外	J区	縄文土器	壺	胴部	帯状列点文　安行３式か	白色粒・角閃石多量	やや不良	にぶい黄褐5/3 にぶい黄橙10YR7/2	縄文晩期
137	16	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	横位沈線文、波状沈線文、外面一部黒化	白色粒少量、角閃石微量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/3 橙7.5YR6/8	縄文後晩期
137	17	遺構外	I区	縄文土器	深鉢	胴部	横位、斜位沈線文	精選。白色粒微量	通有	灰褐7.5YR6/2 にぶい橙5YR6/4	縄文晩期
137	18	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	沈線文	砂礫・白色粒・角閃石少量	通有	橙7.5YR7/6 にぶい橙7.5YR6/4	縄文後晩期
137	19	遺構外	E区	縄文土器	壺	頸部	外面横位太沈線文	砂礫やや多量	やや不良	にぶい黄褐10YR5/4 にぶい黄褐10YR5/4	縄文後晩期
137	20	遺構外	M区	縄文土器	深鉢	胴部	ヘラ描き区画沈線文。列点文。安行３式	精選。白色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄褐10YR5/4	縄文晩期
137	21	遺構外	E区	縄文土器	壺	胴部	ヘラ描き区画沈線文。列点文。安行３式	精選。茶色粒微量	通有	にぶい黄橙7.5YR7/4 にぶい黄橙7.5YR6/4	縄文晩期
137	22	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。横位沈線文	白色粒・角閃石少量	やや不良	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄褐10YR5/3	縄文後晩期
137	23	遺構外	E区	縄文土器	深鉢	胴部	ヘラ描き横位沈線文	褐色粒多量、白色粒微量	やや良好	灰白2.5YR8/2 灰白2.5YR8/2	縄文晩期
137	24	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	胴部	太短沈線文斜に施文	2mm程度の小礫・砂・角閃石微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 浅黄橙10YR8/3	縄文後晩期
137	25	遺構外	N区	縄文土器	深鉢	胴部	内面に横位沈線、輪積み痕明瞭、厚手。	砂礫・白色粒多量、金雲母若干	通有	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい黄橙10R6/4	縄文後晩期
137	26	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	内湾する胴部、縄文地、６本横位沈線	砂礫多量、白色粒・結晶片岩・角閃石微量	通有	にぶい褐7.5YR5/3 にぶい黄橙10YR6/4	縄文晩期
137	27	遺構外	A区	縄文土器	深鉢	胴部	凹凸・輪積み痕顕著、外面縦位擦痕	角閃石やや多量、砂礫微量	通有	にぶい褐7.5YR5/3 にぶい褐7.5YR5/3	縄文晩期
137	28	遺構外	I区	縄文土器	深鉢	胴部	摩耗顕著。擦痕か	砂礫・白色粒・角閃石少量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい黄褐10YR4/3	縄文時代
137	29	遺構外	G区	縄文土器	深鉢	胴部	外面無文、内面擦痕か	白色粒微量	やや不良	暗赤褐2.5YR3/3 明赤褐5YR5/6	縄文時代
137	30	遺構外	I区	縄文土器	深鉢	底部付近	無文	砂礫・白色粒微量	やや不良	褐7.5YR4/4 褐7.5YR4/4	縄文時代
137	31	遺構外	J区	縄文土器	深鉢	底部	算玉上の底部から立ち上がる。底径10.2cmを推定	砂礫・白色粒子微量	やや不良	にぶい橙5YR6/4 にぶい橙7.5YR7/3	縄文前期
137	32	遺構外	B区	縄文土器	深鉢	胴部	縄文地。横位・鋸歯のヘラ描き沈線文	精選。1mm以下の粗砂・白色粒若干	良好	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR7/4	縄文晩期以降
137	33	遺構外	A、G区	縄文土器	深鉢	胴部	平縁。帯状列点文、弧線文。安行３式	砂礫・角閃石・茶色粒少量	通有	にぶい黄橙10YR6/4 橙5YR6/6	縄文晩期
137	34	遺構外	J、B区	弥生土器	壺形土器	胴上部	丸みを持つ胴部に、3本単位の波状沈線文、沈線文、波状沈線文、以下無文	白色粒多量。褐灰色断面	通有	にぶい黄橙10YR6/4 褐灰10Y5/1	弥生中期
138	1	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	肩部	擬流水文、浅細波状櫛描文	精選。白色粒・角閃石微量	通有	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4	弥生中期
138	2	遺構外	D区	弥生土器	壺形土器	頸部	内湾する胴部。櫛描き横位沈線文、波状沈線文、地文は斜縄文	精選。褐色粒・白色粒、角閃石微量	通有	橙7.5YR7/6 橙5YR7/6	弥生中期
138	3	遺構外	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	長い折返し口縁、口唇尖り気味。ハケメ地に刺突文、胴部は縦位沈線文、薄手。	砂礫・白色粒やや多量、角閃石微量	通有	明褐7.5YR5/6 橙7.5YR6/6	弥生中期
138	4	遺構外	E区	縄文土器	壺形土器	頸部～胴部	頸部から丸味を持って広がる胴部。縄文地に刺突文施文、補修孔が一か所見られる	砂礫・褐色粒・白色粒やや多量。灰褐色断面	やや不良	明赤褐5YR5/8 にぶい橙5YR6/4	縄文晩期～弥生
138	5	遺構外	E区	縄文土器	壺形土器	頸部～胴部	底部に向かいすぼまる。器面凹凸顕著。	茶色粒・白色粒微量。灰褐色断面	やや不良	明赤褐5YR5/8 にぶい橙5YR6/4	縄文晩期～弥生
138	6	遺構外	E区	縄文土器	壺形土器	頸部～胴部	外面凹凸顕著、文様不明瞭	茶色粒多量、白色粒微量。灰褐色断面	通有	明赤褐5YR5/8 にぶい橙5YR6/4	縄文晩期～弥生
138	7	遺構外	J区	縄文土器	壺形土器	頸部～胴部	刺突文	精選。茶色粒・角閃石微量。褐灰色断面	やや不良	7.5YR6/8 にぶい褐7.5YR5/3	縄文晩期～弥生
138	8	遺構外	J区	縄文土器	壺形土器	口縁部	口唇部は肥厚し、横位沈線文上に刺突文、単沈線文以下に縄文	精選。白色粒微量。灰褐色断面	通有	にぶい褐7.5YR5/4 にぶい黄橙10YR7/3	縄文晩期～弥生

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（8）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
138	9	遺構外	D区	縄文土器	壺形土器	頸部	曲線的に屈曲する3本横位沈線文、3本緩い波状沈線文の間に刺突文	褐色粒多量、白色粒微量。灰褐色断面	通有	橙7.5YR6/6 灰褐5YR5/2	縄文晩期～弥生
138	10	遺構外	G区	縄文土器	壺形土器	頸部	鋸歯状沈線文、刺突文	白色粒・角閃石微量。灰褐色断面	やや良好	橙2.5YR6/8 にぶい黄褐10YR5/3	縄文晩期～弥生
138	11	遺構外	E区	縄文土器	壺形土器	頸部	縄文施文のち刺突文､横位沈線文、鋸歯状沈線文を施す	精選。褐色粒・角閃石微量	やや不良	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR6/4	縄文晩期～弥生
138	12	遺構外	G区	縄文土器	壺形土器	頸部	横位沈線文、鋸歯状沈線文、刺突文	金雲母・白色粒・鉱物粒微量。灰褐色断面	通有	明赤褐5YR5/6 にぶい黄橙10YR5/3	縄文晩期～弥生
138	13	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	緩やかな3本波状沈線文３段以上	褐色粒少量、白色粒微量。褐灰色断面	通有	橙2.5YR6/8 橙5YR7/6	弥生時代
138	14	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	３本１単位の緩い波状沈線文が２段	白色粒・褐色粒少量、角閃石微量。灰褐色断面	通有	橙5YR6/6 褐灰10YR5/1	弥生時代
138	15	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文	精選。白色粒少量、角閃石微量。灰褐色断面	通有	橙5YR6/6 褐灰5YR4/1	弥生時代
138	16	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	緩い波状沈線文	精選。白色粒微量。灰褐色断面	やや不良	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR7/4	弥生時代
138	17	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	地文に縄文。波状沈線文	精選。白色粒微量	良好	にぶい黄橙10YR6/4 橙7.5YR7/6	弥生時代
138	18	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	３本１単位の波状沈線文	白色粒・褐色粒・角閃石微量。灰褐色断面	通有	橙5YR6/6 灰黄褐10YR5/2	弥生時代
138	19	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	ハケメか	精選。白色粒子・角閃石微量。褐灰色断面	通有	橙7.5YR6/6 灰黄褐10YR5/2	弥生時代
138	20	遺構外	B区	弥生土器	壺形土器	口縁部	やや外反、外面無文、内面横位ハケメ	白色粒・茶色粒多量	通有	にぶい赤褐5YR5/3 赤褐2.5YR4/8	弥生時代
138	21	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	薄手、口唇部内側折返し内面指頭痕か、薄手	砂礫・白色粒少量	良好	にぶい褐7.5YR5/4 明赤褐5YR5/8	弥生時代
138	22	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇上に刻み目、口縁部外側に若干肥厚、横位ハケメ	精選。白色粒・角閃石微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 黒褐7.5YR3/2	弥生時代
138	23	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面横位沈線文	精選。白色粒子微量	通有	橙7.5YR6/6 灰黄褐10YR4/2	弥生時代
138	24	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	沈線文、ハケメ	精選。白色粒子微量。灰褐色断面	通有	にぶい黄橙10YR7/4 褐灰10YR4/1	弥生時代
138	25	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位沈線文、縦位沈線文	精選。白色粒・角閃石を少量	やや不良	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
138	26	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	薄手、ハケメ	精選	良好	浅黄橙10YR8/3 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
138	27	遺構外	M区	弥生土器	壺形土器	頸部	太沈線文、ハケメ	精選。灰褐色断面	良好	にぶい黄橙10YR7/2 10YR4/1褐灰	弥生時代
138	28	遺構外	I区	縄文土器	壺形土器	口縁付近	刺突文、太沈線文、内外面赤彩か	精選。角閃石微量	通有	灰白10YR8/2 灰白10YR8/2	縄文晩期～弥生
138	29	遺構外	G区	縄文土器	壺形土器	口縁付近	刺突、内面赤彩か	精選。黒色粒微量。灰褐色断面	通有	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	縄文晩期～弥生
138	30	遺構外	B区	弥生土器	壺形土器	肩部	摩滅顕著。横位太沈線文	精選。角閃石・白色粒微量。灰褐色断面	やや不良	浅黄橙10YR8/3 黄灰2.5Y5/1	縄文晩期～弥生
138	31	遺構外	C区	弥生土器	壺形土器	胴部	摩滅顕著。横位沈線文	白色粒やや多量、角閃石微量。灰褐色断面	やや不良	にぶい黄橙10YR7/3 褐灰10YR5/1	縄文晩期～弥生
139	1	遺構外	L区	弥生土器	壺形土器	口縁部	大きく開く折返し口縁、口唇部貼付文、内外面赤彩、単節細縄文の上に刺突文、内面は横位のナデ、ミガキ顕著	精選。白色粒・角閃石微量	良好	浅黄2.5Y7/4 浅黄2.5Y7/4	弥生後期
139	2	遺構外	G・E区	弥生土器	壺形土器	口縁～肩部	内側折返し状口縁、口唇平坦赤彩、外面は浮文、横位の調整痕下赤彩。内面頸部中位まで縄文施文	精選。白色粒微量	良好	にぶい橙7.5YR7/4 にぶい橙7.5YR7/4	弥生中期
139	3	遺構外	N区	弥生土器	壺形土器	口縁	口唇部平坦、縦位小隆帯、口唇上・胴部に細縄文	精選。白色粒微量	通有	赤褐2.5YR4/8 赤褐2.5YR4/8	弥生時代
139	4	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	口縁部付近	折り返し口縁部に単節縄文。内外ミガキ	精選。角閃石微量	良好	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい褐7.5YR5/6	弥生時代
139	5	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	刻みのある波状口縁か、折り返し部にも刺突、羽状縄文地文、内面赤彩	精選	良好、堅緻	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
139	6	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部は平坦、斜位の単節縄文。口唇部内側に沿って竹管による斜線文	精選。白色粒微量	良好	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
139	7	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口縁部折り返し口縁、内面に列点文	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
139	8	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部平坦、折返し状の口唇上に細縄文、外面に刺突	精選。白色粒微量	やや良好	にぶい黄橙10YR5/3 灰黄褐10YR5/2	弥生時代

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（9）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
139	9	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口縁部折返し状、刻み、内面赤彩	精選。黒色粒微量	良好	明黄褐10YR7/6 明黄褐10YR7/6	弥生時代
139	10	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折り返し口縁、口唇部平坦、ミガキ？	精選。砂礫・黒色粒・白色粒微量	やや良好	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
139	11	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇部平坦、文様不明瞭、内面赤彩	精選。砂礫微量	良好、堅緻	橙7.5YR6/6 明褐7.5YR5/6	弥生時代
139	12	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折返し口縁口唇部に刻み目、内面赤彩	精選	やや良好	にぶい橙7.5YR7/4 浅黄橙10YR8/4	弥生時代
139	13	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部	折返し口縁、外面縦位ハケメ、内面横位ナデ	精選。砂礫微量	やや良好	灰黄褐10YR5/2 明黄褐10YR6/6	弥生時代
139	14	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	口縁部	口唇上に細い刻み、胴部肥厚、内面横位ハケメ	精選。白色粒微量	やや良好	橙7.5YR6/6 橙7.5YR6/6	弥生時代
139	15	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	同心円文。外面一部赤彩	精選。白色粒微量	良好	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
139	16	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面羽状細縄文、ハケメ、区画沈線文、内面横位のハケメ	精選。白色粒・角閃石若干	良好堅緻	にぶい橙7.5YR7/4 橙7.5YR6/6	弥生後期
139	17	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面斜位ハケメ、内面一部黒化	精選。白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
139	18	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	羽状細縄文、外面赤彩	精選。砂礫微量	良好	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	弥生後期
139	19	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面は縄文とS字状結節と無文、無文部は赤彩、内面も赤彩か	精選。白色粒微量	良好	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	弥生後期
139	20	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	摩耗顕著、外面縄文	精選。黒色粒多量	通有	にぶい黄褐10YR7/4 にぶい黄褐10YR7/4	弥生時代
139	21	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	頸部	擦消縄文、沈線文	精選。黒色粒・角閃石微量	良好	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙10YR8/3	弥生後期
139	22	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	羽状縄文、内面赤彩、やや厚手、赤彩か	精選。白色粒微量	良好	灰白10YR8/2	弥生後期
139	23	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	頸部	細羽状縄文、内面赤彩	精選、断面同色	良好、堅緻	浅黄橙7.5YR8/4 浅黄橙10YR8/3	弥生後期
139	24	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	肩部	外反する頸部、羽状細縄文	精選。白色粒微量	良好・堅緻	橙7.5YR6/6 橙7.5YR6/6	弥生後期
139	25	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	縄文地文、円形沈線区画、斜位の平行沈線文、輪積痕	精選。白色粒微量。断面同色	良好	にぶい黄褐10YR7/4 にぶい黄褐10YR7/4	弥生時代
139	26	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	沈線、羽状縄文、内面ナデ	精選	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代
139	27	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	横位刺突文、縦位に沈線文	精選。角閃石微量	通有	にぶい橙7.5YR7/4 浅黄橙7.5YR8/4	弥生土器
139	28	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	胴部	疎らなハケメ	精選。白色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄褐10YR5/3 橙7.5YR6/6	弥生時代
139	29	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面縦位・斜位沈線文、内面無文	精選。茶色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 橙7.5YR7/6	弥生土器
139	30	調査区	E区	弥生土器	壺形土器	頸部	筒状、横位沈線文	精選。茶色粒少量、角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
139	31	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面赤彩、内面ナデ	黒色粒・白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	弥生時代
139	32	遺構外	J区	弥生土器	甕形土器	胴部	外面ハケメ	白色粒・角閃石少量	通有	にぶい橙5YR7/4 灰褐5YR6/2	弥生時代
139	33	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	頸部	外面縦位、内面横位のハケメ	砂礫・白色粒少量	やや良好	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR6/4	弥生時代
139	34	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	胴部	内外面ハケメ、外面一部黒化	白色粒・茶色粒やや多量、角閃石若干	通有	橙7.5YR6/6 明赤褐2.5YR5/8	弥生時代
139	35	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	口縁部付近	折返し口縁、内面ハケメ、内面赤彩	粗砂・白色粒微量	良好	にぶい褐7.5YR5/4 明赤褐5YR5/6	弥生時代
139	36	遺構外	C区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面ハケメ	白色粒少量、角閃石微量	通有	明赤褐5YR5/6 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
139	37	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	胴部	斜位ハケメ	金雲母少量、砂礫微量	通有	にぶい黄褐10YR5/4 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
139	38	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	胴部	横位ハケメ	精選、白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 橙7.5YR6/6	弥生時代
139	39	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面ハケメ	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	にぶい褐7.5YR5/4 灰褐5YR5/2	弥生時代
139	40	遺構外	I区	弥生土器	壺形土器	胴部	外面に折返し痕跡、横位ナデ、内面ハケメ	砂礫・白色粒少量。断面同色	やや良好	にぶい黄褐10YR4/3 にぶい褐7.5YR5/4	弥生時代
139	41	遺構外	C区	弥生土器	甕形土器	口縁部付近	深い横位沈線	精選	通有	灰黄褐10YR4/2 明赤褐2.5YR5/6	弥生後期
139	42	遺構外	C区	弥生土器	甕形土器	胴部	横位の沈線文が連続して施文される。	砂粒多量、角閃石微量	通有	にぶい褐7.5YR5/3 褐灰7.5YR4/1	弥生時代
140	1	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	底部	平底。内外面赤彩。外面胴下端縦位のミガキ、底部はケズリ、内面ナデ 底径2.9㎝	精選。黒色粒・白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい橙7.5YR7/4	弥生時代
140	2	遺構外	G区	弥生土器	壺形土器	底部	小さく屈曲、底部に木葉痕	砂礫・白色粒微量	やや不良	橙5YR6/6 灰黄褐10YR6/2	弥生時代
140	3	遺構外	C区	弥生土器	壺形土器	底部	縦位ハケメ、外面赤彩か	精選。白色粒微量	通有	にぶい赤褐5YR5/4 にぶい橙7.5YR7/3	弥生時代

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（10）

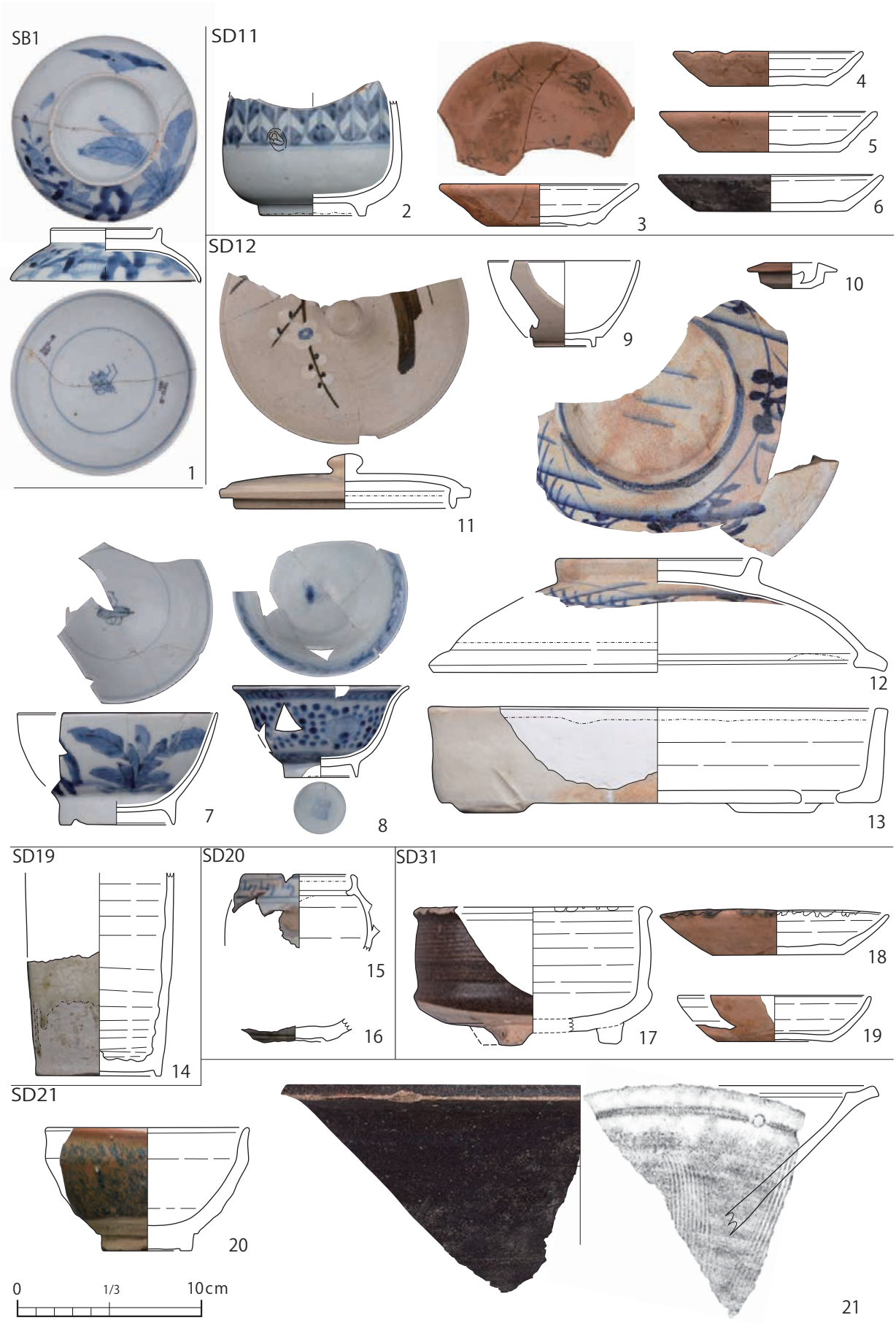
挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
140	4	遺構外	E区 G区	土師器	甕	底部	小さめの底部より大きく開く。胴部は縦位の、底部付近は横位のヘラケズリ、内面はナデ	白色粒・角閃石微量	やや良好	橙7.5YR6/6 にぶい黄橙10YR6/3	古墳時代以降
140	5	遺構外	J区	弥生土器	壺形土器	底部	内湾した後、あまり開かず立ち上がる。胴部は縦位ハケメ、底部に木葉痕。	砂礫・白色粒・角閃石微量	通有	明赤褐5YR5/6 にぶい赤褐5YR5/4	弥生時代
140	6	遺構外	C区	弥生土器	壺形土器	底部	底部が一回り大きい。斜位のハケメ、底部は木葉痕か	砂礫・白色粒やや多量	やや不良	明赤褐2.5YR5/4 褐7.5YR4/3	弥生時代
140	7	遺構外	N区	土師器	壺形土器	底部	底部より大きく開く。胴部ナデか、底面網代か、全体にミガキ	精選。砂礫・白色粒・角閃石微量	良好	にぶい黄橙10YR6/4 にぶい黄橙10YR7/4	古墳時代以降
140	8	遺構外	E区	弥生土器	壺形土器	底部	大きく開いて立ち上がる。外面赤彩か。底部内面凹凸顕著	精選。砂礫・白色粒微量	やや良好	橙7.5YR7/6 橙7.5YR7/6	弥生時代
140	9	遺構外	A区	弥生土器	壺形土器	底部	弱く括れて大きく開きながら立ち上がる。底面は不明瞭な凹凸、一部黒化	精選。茶色粒若干	良好	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	弥生時代
140	10	遺構外	N区	弥生土器	甕形土器	底部	極めて厚い底。若干屈曲後、やや外反、胴部横方向のナデ、底部文様不明	精選。茶色粒・白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
140	11	遺構外	A区	弥生土器	台付甕	脚台部	脚部縦位のミガキ、坏部横位のミガキ。脚部内面に掘削調整痕、厚手	精選。白色粒・角閃石微量	良好、堅緻	橙5YR6/6 橙5YR6/6	弥生～古墳
140	12	遺構外	B区	弥生土器	高杯	脚部	円筒状の柱状部を持つ長脚形、内外面赤彩。外面柱状部はミガキ、裾部では縦位のハケメ、内面裾部横位ヘラナデ	精選・砂礫・白色粒・角閃石微量	良好	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/4	弥生～古墳
140	13	遺構外	E区	弥生土器	台付甕	脚台部	外面縦位のハケメ、内面胴部斜位のハケメ、底部内面横位のハケメ	白色粒、角閃石微量	通有	にぶい黄褐10YR5/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生～古墳
140	14	遺構外	A区	弥生土器	台付甕	脚台部	外面縦位ハケメ	砂礫少量、白色粒微量	通有	橙7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	弥生～古墳
140	15	遺構外	N区	弥生土器 土師器	台付甕	脚台部	屈曲は「く」の字状、外面は縦位のハケメ、中間部は横位のナデ、底部内面は縦位ハケメ、脚部内面は掘削調整痕	砂礫、白色粒微量	通有	褐7.5YR4/3 にぶい橙7.5YR6/4	弥生～古墳
140	16	遺構外	I区	弥生土器 土師器	台付甕	脚台部	外面縦位ハケメ、剥落顕著文様不明瞭	砂礫・白色粒少量	不良	橙5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/4	弥生～古墳
140	17	遺構外	E区	弥生土器	台付甕	脚台部	外面ナデ、内面に工具痕	砂礫多量	通有	褐7.5YR4/4 明赤褐2.5YR5/8	弥生～古墳
140	18	遺構外	B区	弥生土器 土師器	台付甕	脚台部	外面縦位ハケメ、脚部内面黒化	精選。白色粒微量	良好	灰褐7.5YR6/2 明赤褐2.5YR5/6	弥生～古墳
140	19	遺構外	G区	弥生土器	台付甕	脚台部	脚部縦位ハケメ、脚部内面掘削調整痕	砂礫。白色粒微量	やや良好	にぶい黄橙5YR6/4 にぶい黄橙5YR6/4	弥生～古墳
140	20	遺構外	B区	弥生土器	台付甕	脚台部	脚部畳付は内側に肥厚。外面は縦位の内面は横位の調整痕	砂礫少量	通有	橙5YR6/6 橙5YR6/6	弥生～古墳
140	21	遺構外	E区	弥生土器	台付甕	脚部	脚部端粘土内側にはみ出し、内面横位ハケメ	砂礫・白色粒少量	通有	にぶい褐7.5YR5/4 明赤褐5YR5/8	弥生～古墳
140	22	遺構外	E区	弥生土器 土師器	台付甕	脚部	八の字状の立ち上がりを持つ、脚部と体部の接合部には中央に穴、斜位に沈線文	精選。白色粒微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生～古墳
141	1	遺構外	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	広く外反する口縁部、口唇部内面に刻み	小礫・白色粒・黒色粒少量	不良	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR6/3	弥生時代
141	2	遺構外	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	外反する折返し口縁部、口唇上にキザミ、内外面にハケメ	粗砂・白色粒・角閃石微量	やや不良	黒褐10YR3/1	弥生時代
141	3	遺構外	J区	弥生土器	甕形土器	口縁部	口唇上に刻み、内面横位ミガキ、内面一部剥落	精選	良好	灰黄褐10YR5/2	弥生時代
141	4	遺構外	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	外反する口唇上に大きめの刻み	白色粒・角閃石少量	通有	暗褐10YR3/4 にぶい黄褐10YR5/4	弥生時代
141	5	遺構外	E区	弥生土器	甕形土器	口縁部	口唇上刺突、横位ハケメ	砂礫・白色粒・角閃石少量	やや不良	黒褐7.5YR3/2	弥生時代
141	6	遺構外	E区	弥生土器	甕形土器	口縁部～胴部上位	頸部から外反する内側に刻みを持つ口唇部に至る。外面は斜位のケズリ、内面は横位のナデ	砂礫・白色粒多量、角閃石微量	やや不良	褐7.5YR4/4 にぶい黄褐10YR5/4	弥生～古墳
141	7	遺構外	B区	弥生土器	甕形土器	口縁部	外反する口縁部、極めて薄手、口唇無文下、縦位細く浅いハケメ	精選。白色粒子若干	良好、堅緻	黒5Y2/1 にぶい黄橙10YR7/3	弥生時代
141	8	遺構外	G区	弥生土器	甕形土器	口縁部	口唇部にキザミ、刻み内は無文、内面は横位の調整痕	精選。褐色粒少量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	弥生時代

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（11）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
141	9	遺構外	H区	弥生土器	甕形土器	口縁部	外反する口縁部、口唇上刻み 外面縦位のハケメ、内面横位ハケメ	砂礫少量	やや不良	にぶい橙5YR7/4 灰黄褐10YR5/2	弥生時代
141	10	遺構外	J区	弥生土器	甕形土器	胴部	外面縦位・横位ハケメ	精選。角閃石・白色粒微量	通有	灰褐7.5YR4/2 にぶい橙7.5YR7/4	弥生時代
141	11	遺構外	C区	弥生土器	甕形土器	胴部	内外面ハケメ、内面黒化	砂礫・白色粒多量	通有	明赤褐2.5YR5/6 黒10YR1.7/	弥生時代
141	12	遺構外	N区	弥生土器	甕形土器	胴部	外面縦位・斜位ハケメ、粘土重なり、内面煤付着	褐色粒多量、白色粒少量	良好	にぶい赤褐 2.5YR4/4 褐灰5YR4/1	弥生時代
141	13	遺構外	E区	土師器	甕	口縁部	頸部は「く」の字に屈曲。頸部下に縦位のヘラケズリ。口縁部内外面はヨコナデ。推定口径12cm。武蔵型甕	褐色粒多量、白色粒少量	通有	にぶい褐7.5YR4/6 にぶい橙7.5YR6/4	古墳～古代
141	14	遺構外	G区	土師器	甕	口縁部	頸部は「く」の字状に屈曲。薄手。口縁部ヨコナデ、胴部縦位ケズリ。武蔵型甕	精選。白色粒・茶色粒微量	良好	橙5YR6/6 橙7.5YR6/6	古墳～古代
141	15	遺構外	G区	土師器	台付甕	口縁部～胴部上位	薄手、外反する口縁部、丸味を持つ胴部、縦位ケズリ、横位ハケメ、内面ナデ	白色粒・角閃石微量	やや良好	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい赤褐5YR5/3	古墳時代
141	16	遺構外	E区	弥生土器	甕形土器	胴部	内外面ハケメ	白色粒多量、角閃石少量。脆弱	不良	黒褐7.5YR3/1 褐7.5YR4/3	弥生時代
141	17	遺構外	E区	土師器	台付甕	口縁部	口縁部はS字状で、ヨコナデ。口縁部直下は縦位ハケメ。薄手。	精選。白色粒子微量	良好堅緻	灰黄褐10YR5/2 にぶい黄橙10YR6/4	古墳時代前期
141	18	遺構外	E区	弥生土器	壺	口縁部	丸味を持つ体部から大きく外反する口縁部に。口縁直下ヨコナデ、以下斜位のハケメ	白色粒・角閃石微量	良好	橙7.5YR6/6 橙7.5YR6/6	弥生～古墳
141	19	遺構外	J区	土師器	坏	口縁部	内湾する 内面底部上半に横位のナデが見られる。	精選。白色粒微量	やや良好	橙5YR6/6 橙5YR6/6	古墳時代
141	20	遺構外	B区	弥生土器	広口壺	口縁部	短い口縁部が外反、横位ナデ、曲線的な太沈線？	精選。白色粒微量。褐灰色断面	通有	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/3	弥生～古墳
141	21	遺構外	E区	土師器	広口壺	頸部～底部	口縁部は頸部から「く」字状に開く。小形、平底。外面；凹凸顕著、外面粗いナデ・指頭痕。内面に輪積み痕が残る。	大形砂礫・白色粒多量、角閃石微量、全体に粗い胎土が際立つ	やや不良	赤褐2.5YR4/6 明赤褐2.5YR5/8	古墳時代前期
141	22	遺構外	I区	須恵器	甕	口縁部	外反する頸部～口縁部、頸部は「く」字に屈曲し、丸胴形の胴部に至る。内外面ヨコナデ	白色粒微量	通有	灰N4/ 灰N4/	古代
141	23	遺構外	E区	須恵器？	坏	口縁部	口唇部肥厚、その下溝状にやや窪む。ロクロ目	精選	通有	灰白2.5Y7/1 灰白2.5Y7/1	古代
141	24	遺構外	B区	須恵器	長頸壺	口縁部	口唇部端部を一部欠く。ロクロ成形。内面は一部自然釉	1㎜大白色粒・黒色粒微量	通有	黄灰2.5Y6/1 黄灰2.5Y6/1	古代
141	25	遺構外	B区	須恵器	瓶	口縁部	ロクロ成形、内面に自然釉	精選	良好、堅緻	灰白2.5Y7/1 灰白2.5Y7/1	古代
141	26	遺構外	B区	須恵器	甕	胴部	丸みを持つ胴部、外面にタタキ目、内面にオサエ痕	精選	良好	灰白10YR7/1 灰白10YR7/1	古代
141	27	遺構外	J区	須恵器	甕	胴部	内湾し、丸みを持つ胴部、タタキ目か	精選。白色粒微量	通有	灰白5YR7/1 灰白5YR7/1	古代
141	28	遺構外	I区	須恵器	甕	胴部	外面タタキ目	精選。白色粒微量	良好	灰白2.5Y7/1 黄白2.5Y5/1	古代
142	1	遺構外	G区	土製品	土製円板	―	赤彩のある弥生土器を加工し、土製円板として使用、縁辺部一部使用 長径3.4cm、厚さ0.75cm	精選	良好	にぶい橙7.5YR6/4 橙5YR6/6	弥生時代
142	2	遺構外	J区	土製品	土製円板	―	一部欠損、残り全周研磨、褐灰色断面　長径5.9cm、厚さ0.7cm	精選。白色粒・角閃石微量	通有	明黄褐10YR6/6 にぶい黄橙10YR6/3	縄文時代
142	3	遺構外	K区	土製品	焼成粘土塊	―	球状 長径2.5cm、短径2.1cm、厚さ2.9cm	精選。白色粒微量	良好	7.5YR6/4にぶい橙 7.5YR6/4にぶい橙	縄文・弥生
142	4	遺構外	J区	土製品	焼成粘土塊	―	表面凹凸顕著 長径3.2cm、短径2.7cm、厚さ2.4cm	精選。白色粒微量	通有	橙5YR6/6 橙5YR6/6	縄文・弥生
142	5	遺構外	A区	土製品	不明土製品	―	外面凹凸顕著、内面平坦、破片 長径2.5cm、短径2.4cm、厚さ0.9cm	精選	通有	橙7.5YR6/6 にぶい橙7.5YR6/6	縄文・弥生

第４表　縄文時代～古代の土器・土製品一覧（12）

挿図番号	No.	出土地点	区名	種別	器種	部位	器形・文様	胎土	焼成	色調 外 内	推定時期
142	6	遺構外	E区	土製品	管状土錘	破片	紡錘形。小形、片側端部欠損。現存最大長5.1cm、幅0.8cm、重さ2.1ｇ	精選	やや不良	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	古墳～古代
142	7	遺構外	B区	土製品	管状土錘	片側端部一部欠損	紡錘形。無文。現存最大長3.8cm、幅1.1cm	精選	通有	橙2.5YR6/6 橙2.5YR6/6	古墳～古代
142	8	遺構外	J区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	紡錘形。片側端部若干欠損、薄手。最大長4.8cm、幅1.3cm	精選。砂礫微量	通有	橙5YR7/6 橙5YR7/6	古墳～古代
142	9	遺構外	M区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	紡錘形。片側端部若干欠損。　最大長4.7cm、幅1.6cm、重さ8.2ｇ	精選。白色粒微量	通有	橙5YR6/6 橙5YR6/6	古墳～古代
142	10	遺構外	A区	土製品	管状土錘	完形	紡錘形。赤彩か。最大長5.6cm、幅1.4cm、重さ8.8ｇ	精選	通有	橙7.5YR7/6 橙7.5YR7/6	古墳～古代
142	11	遺構外	A区	土製品	管状土錘	両端部若干欠損	紡錘形。赤彩か。最大長5.6cm、幅1.5cm、9.9ｇ	精選。角閃石微量	通有	橙5YR7/6 橙5YR7/6	古墳～古代
142	12	遺構外	A区	土製品	管状土錘	片側端部等一部欠損	紡錘形。縦位のケズリ、赤彩か。最大長5.2cm、幅1.4cm、重さ8ｇ	1mm以下の白色粒子微量	通有	にぶい黄橙10YR7/2 にぶい黄橙10YR7/2	古墳～古代
142	13	遺構外	A区	土製品	管状土錘	両端部一部欠損	紡錘形。最大長5.4cm、幅1.4cm、重さ8.4ｇ	1mm以下の粗砂・雲母微量	やや良区	浅黄橙10YR8/4 浅黄橙10YR8/4	古墳～古代
142	14	遺構外	A区	土製品	管状土錘	両端部等一部欠損	紡錘形。縦位のケズリ、赤彩か。最大長5.8cm、幅1.3cm、重さ9.2ｇ	精選	通有	にぶい黄橙10YR7/4 にぶい黄橙10YR7/4	古墳～古代
142	15	遺構外	A区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	紡錘形。縦位のケズリ。最大長5.9cm、幅1.4cm、重さ9.5ｇ	1mm以下の白色粒・角閃石微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/3	古墳～古代
142	16	遺構外	A区	土製品	管状土錘	一部欠損	紡錘形。縦位のケズリ、赤彩か。現存最大長5.7cm、幅1.5cm、8.4ｇ	白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/3	古墳～古代
142	17	遺構外	A区	土製品	管状土錘	両端部一部欠損	紡錘形。外面に集合短沈線、赤彩か。現存最大長5.4cm、幅1.4cm	精選	良好	明赤褐5YR5/6 明赤褐5YR5/6	古墳～古代
142	18	遺構外	A区	土製品	管状土錘	両端部一部欠損	紡錘形。縦位のケズリ、赤彩か。現存最大長5cm、幅1.4cm、重さ8.1ｇ	白色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR6/3 にぶい黄橙10YR6/3	古墳～古代
142	19	遺構外	B区	土製品	管状土錘	完形	紡錘形。最大長4.2cm、幅1.5cm、重さ10ｇ	精選。砂礫・白色粒微量	通有	灰黄2.5Y7/2 灰黄2.5Y7/2	古墳～古代
142	20	遺構外	G区	土製品	管状土錘	片側端部一部欠損	紡錘形。　現存最大長4.4cm、幅1.7cm、重さ10ｇ	精選。黒色粒微量	通有	にぶい黄橙10YR7/3 にぶい黄橙10YR7/3	古墳～古代
142	21	遺構外	G区	土製品	管状土錘	片側一部欠損	紡錘形。現存最大長3.4cm、幅1.4cm、重さ6.6ｇ	精選。白色粒・黒色粒微量	通有	にぶい橙5YR6/4 にぶい橙5YR6/4	古墳～古代
142	22	遺構外	E区	土製品	管状土錘	片側端部欠損	紡錘形。現存最大長4.8cm、幅1.4cm	精選。砂礫微量	通有	橙5YR6/6 橙5YR6/6	古墳～古代
142	23	遺構外	E区	土製品	管状土錘	破片	紡錘形。現存最大長2.4cm、現存最大幅1.9cm、重さ5.7ｇ	精選。黒色粒微量	通有	橙5YR6/6 橙5YR6/6	古墳～古代
142	24	遺構外	E区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	紡錘形。両端部若干欠損、焼けか。最大長5.7cm、幅2.1cm、19.3ｇ	精選	通有	橙5YR7/6 橙5YR7/6	古墳～古代
142	25	遺構外	E区	土製品	管状土錘	破片	破片。現存最大長4.7cm、現存最大幅2.3cm、重さ8.4ｇ	精選。砂礫少量	通有	橙5YR6/8 橙5YR6/8	古墳～古代
142	26	遺構外	G区	土製品	管状土錘	片側端部欠損	円筒形。2/3遺存　現存最大長5.7cm、幅2.5cm、重さ15.7ｇ	精選。砂礫微量	通有	明赤褐2.5YR5/6 赤灰2.5YR5/1	古墳～古代
142	27	遺構外	A区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	円筒形。最大長3.3cm、幅1.9cm、重さ11.9ｇ	精選。砂礫微量	通有	橙5YR7/6 橙5YR7/6	古墳～古代
142	28	遺構外	I区	土製品	管状土錘	完形	円筒形。最大長4.7cm、幅2.2cm、重さ15.4ｇ	精選	通有	橙5YR7/6 橙5YR7/6	古墳～古代
142	29	遺構外	M区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	円筒形。最大長4.1cm、幅2.2cm、重さ18.4ｇ	精選。褐色粒・角閃石微量	通有	にぶい橙7.5YR6/4 にぶい橙7.5YR6/4	古墳～古代
142	30	遺構外	I区	土製品	管状土錘	ほぼ完形	円筒形。片側端部若干欠損。最大長5.1cm、幅2.7cm、重さ35.4ｇ	精選。砂礫微量	通有	にぶい褐7.5YR5/4	古墳～古代



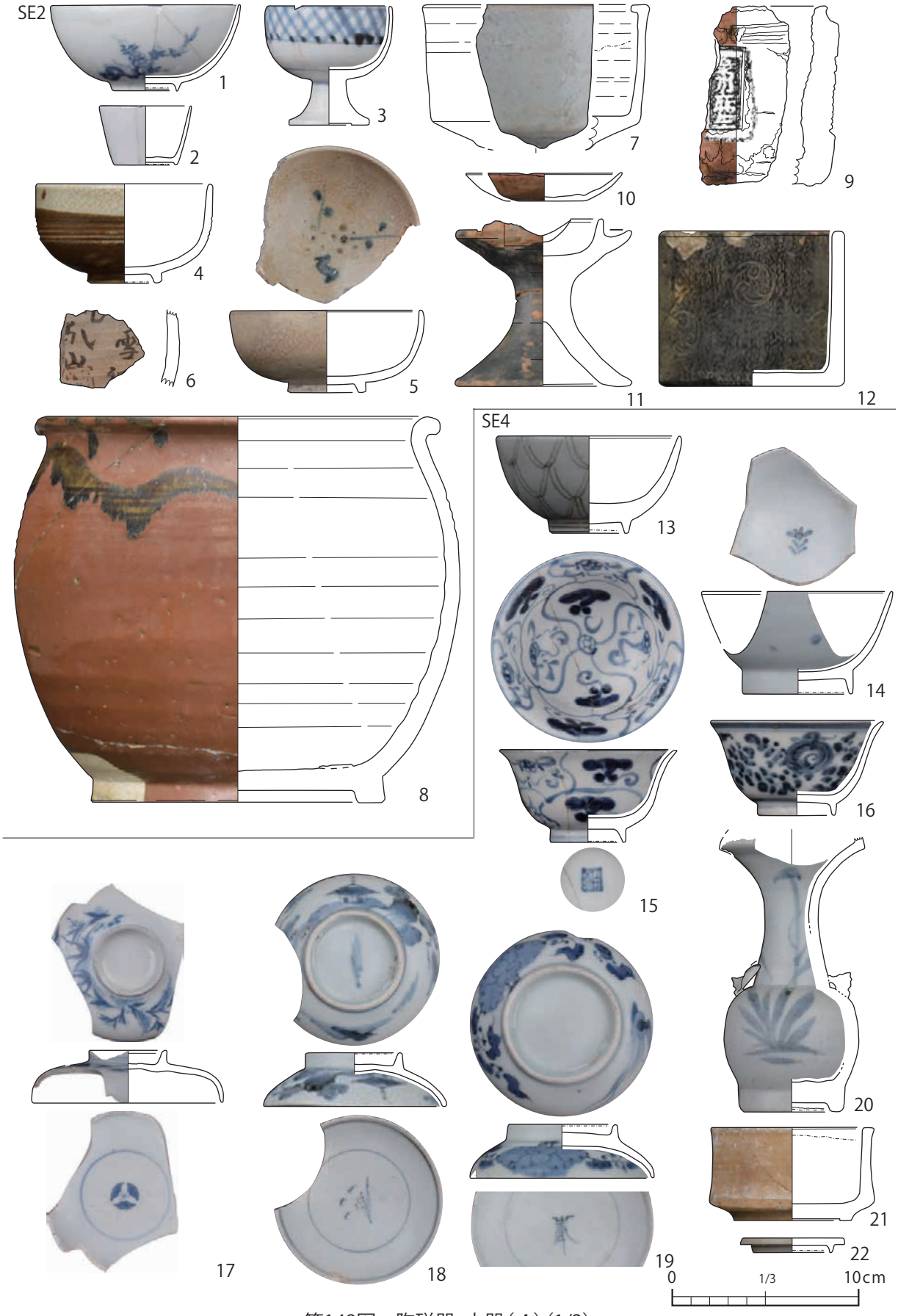
第145図　陶磁器・土器（1）（1/3）



第146図　陶磁器・土器（2）(1/3)



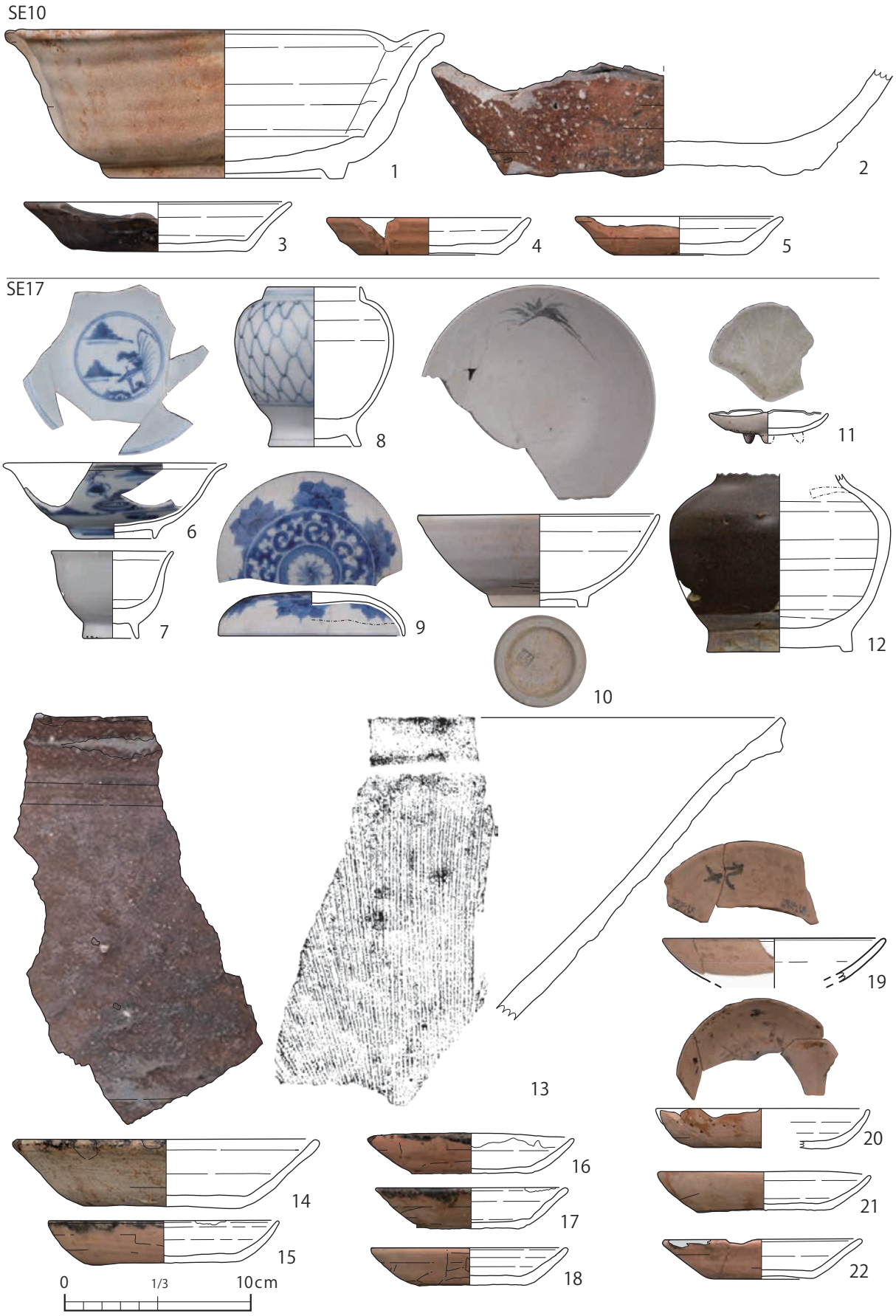
第147図　陶磁器・土器（3）（1/3）



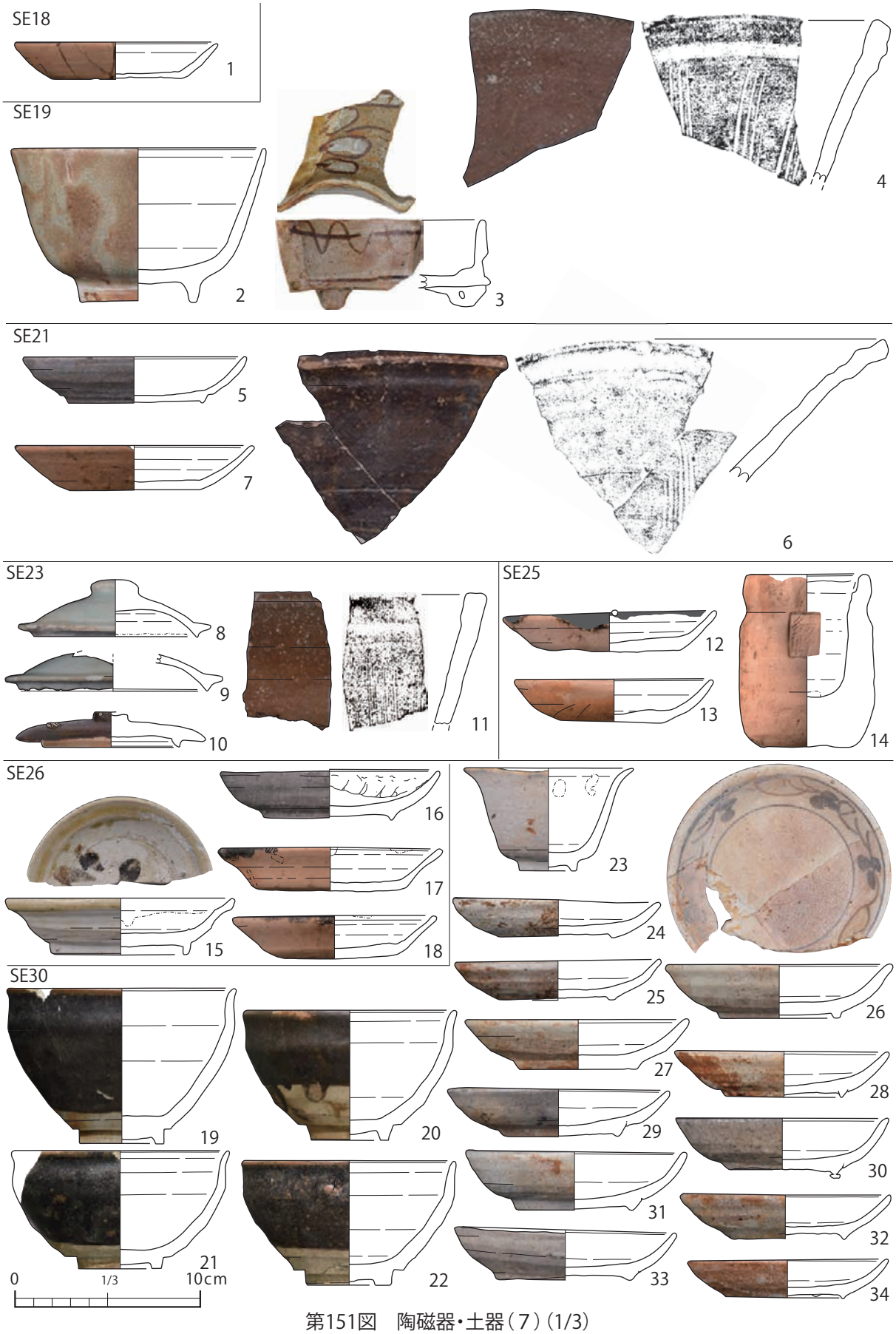
第148図　陶磁器・土器（4）（1/3）



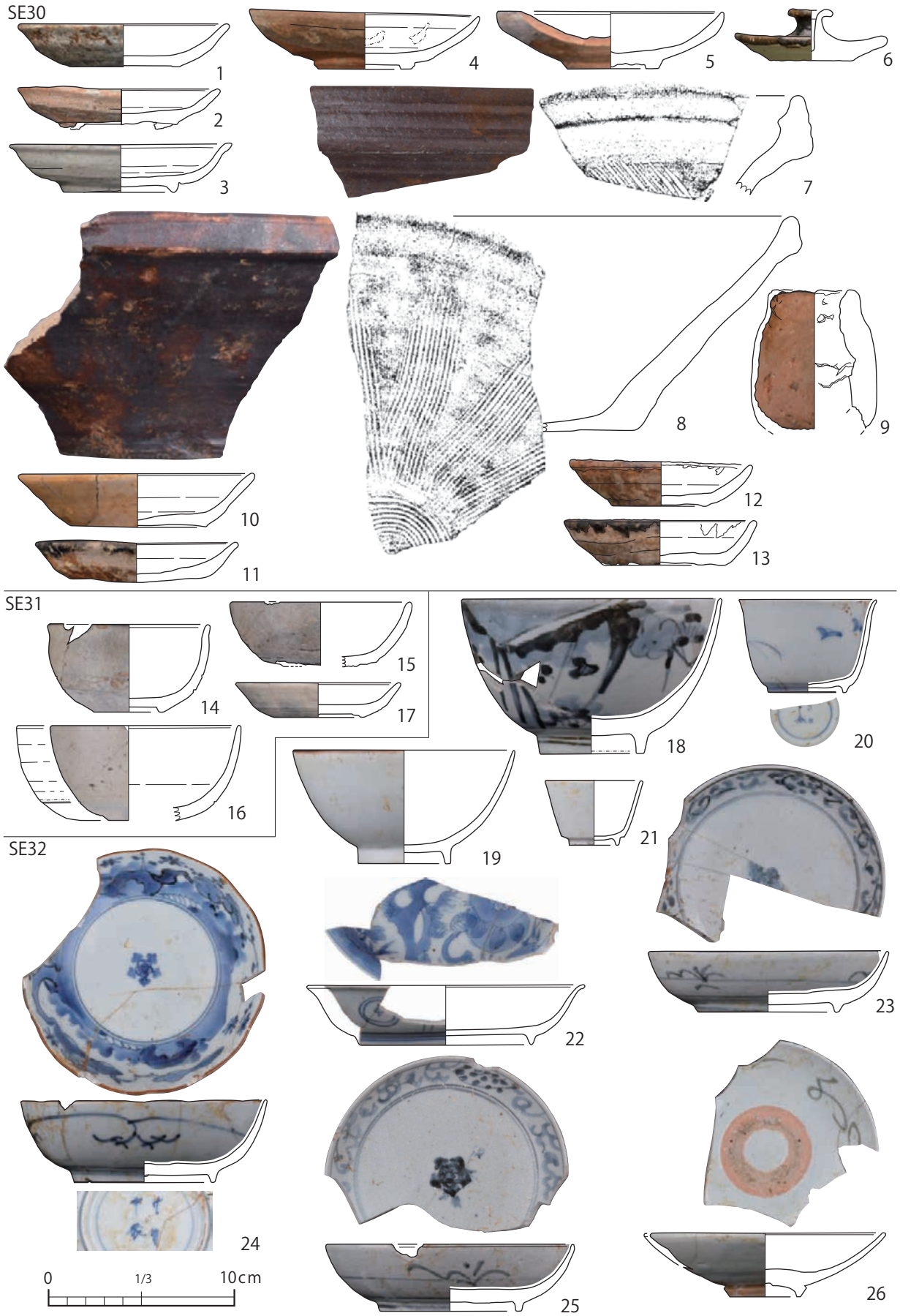
第149図　陶磁器・土器（５）（1/3）



第150図　陶磁器・土器（6）（1/3）



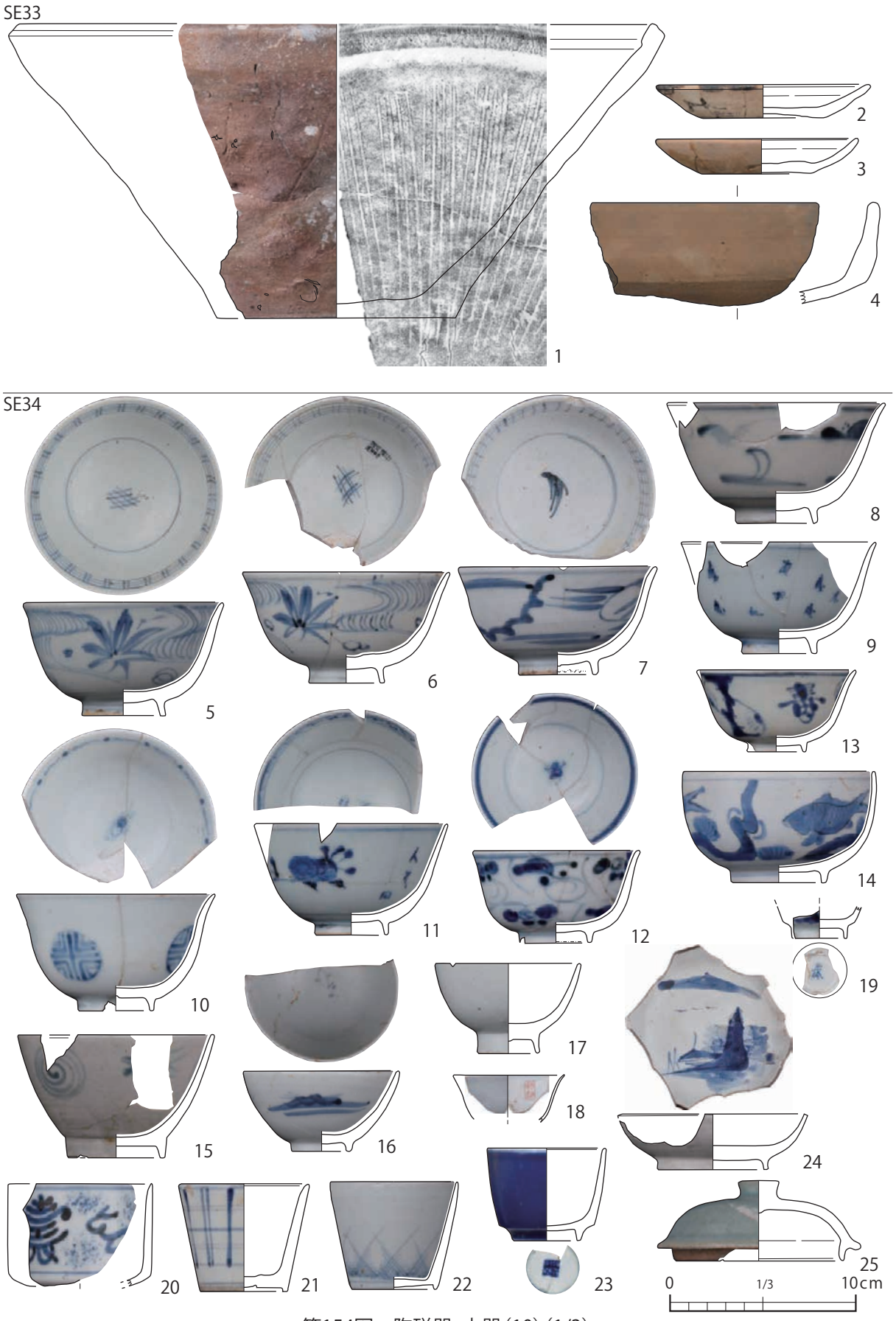
第151図　陶磁器・土器（7）（1/3）



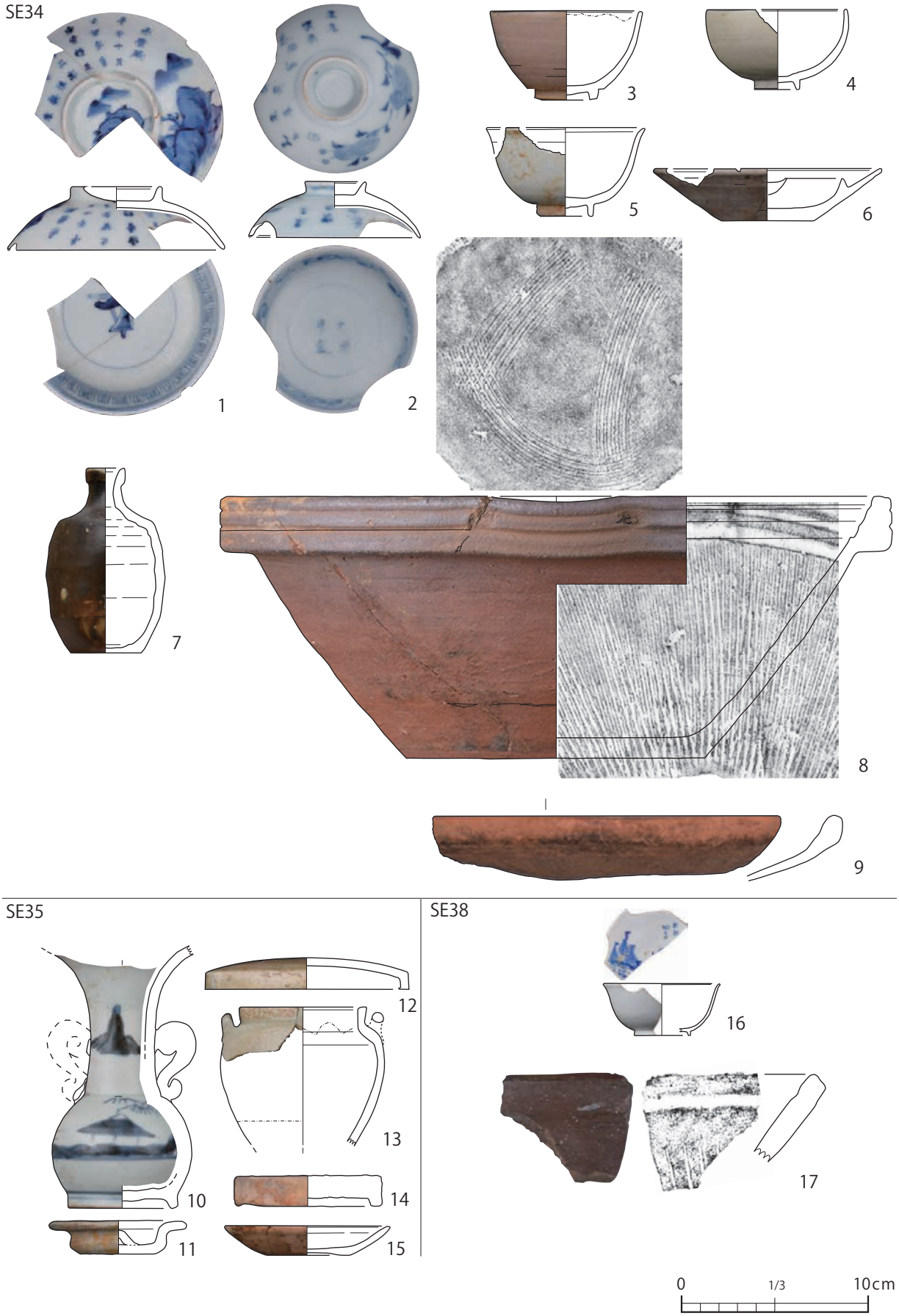
第152図　陶磁器・土器（8）（1/3）



第153図　陶磁器・土器（9）（1/3）



第154図　陶磁器・土器(10) (1/3)

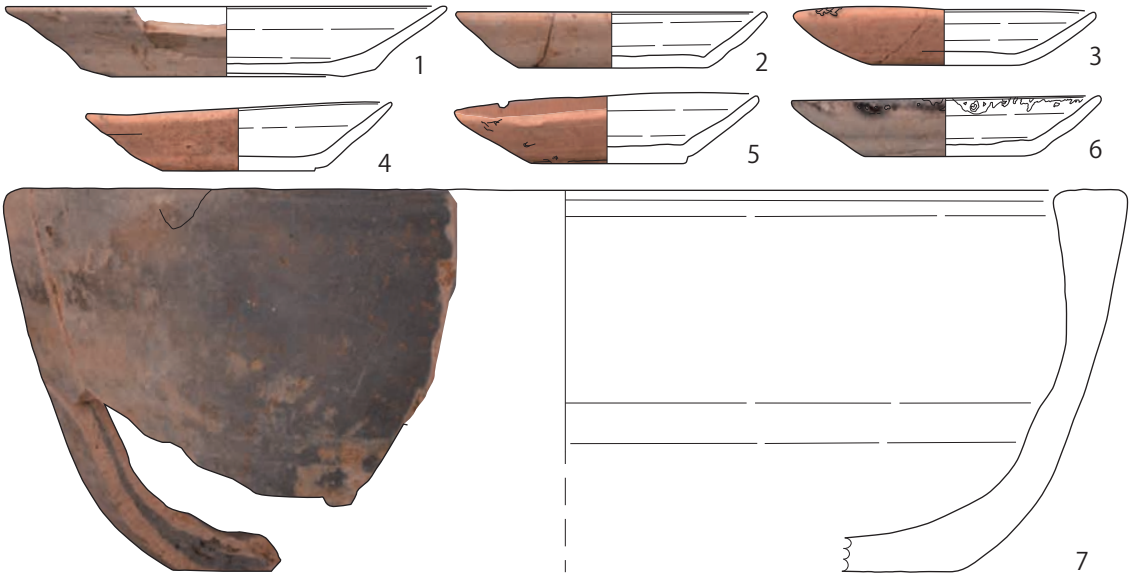


第155図　陶磁器・土器（11）（1/3）

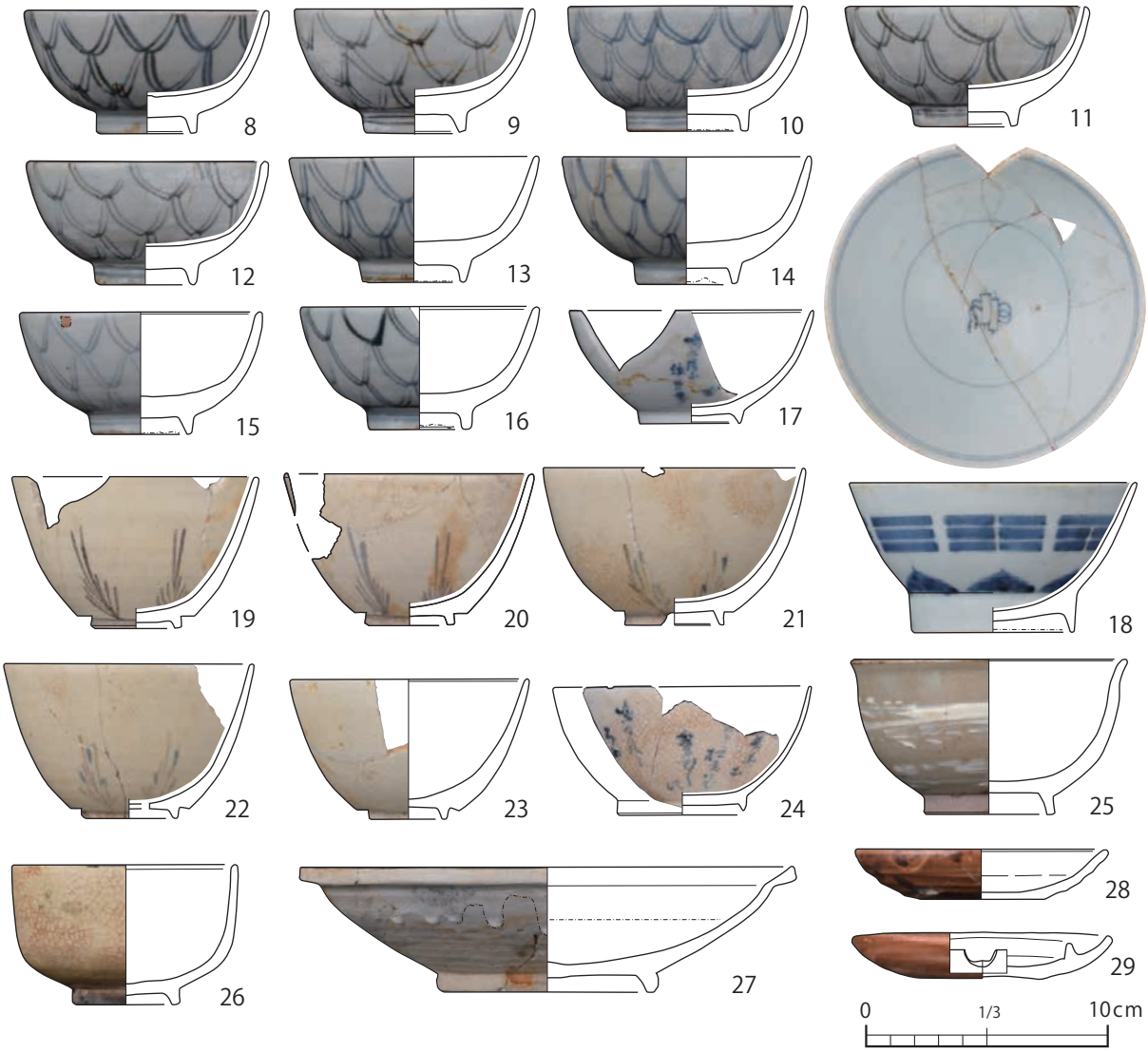


第156図　陶磁器・土器(12) (1/3)

SK7



SK17



第157図　陶磁器・土器（13）（1/3）



第158図　陶磁器・土器（14）（1/3）



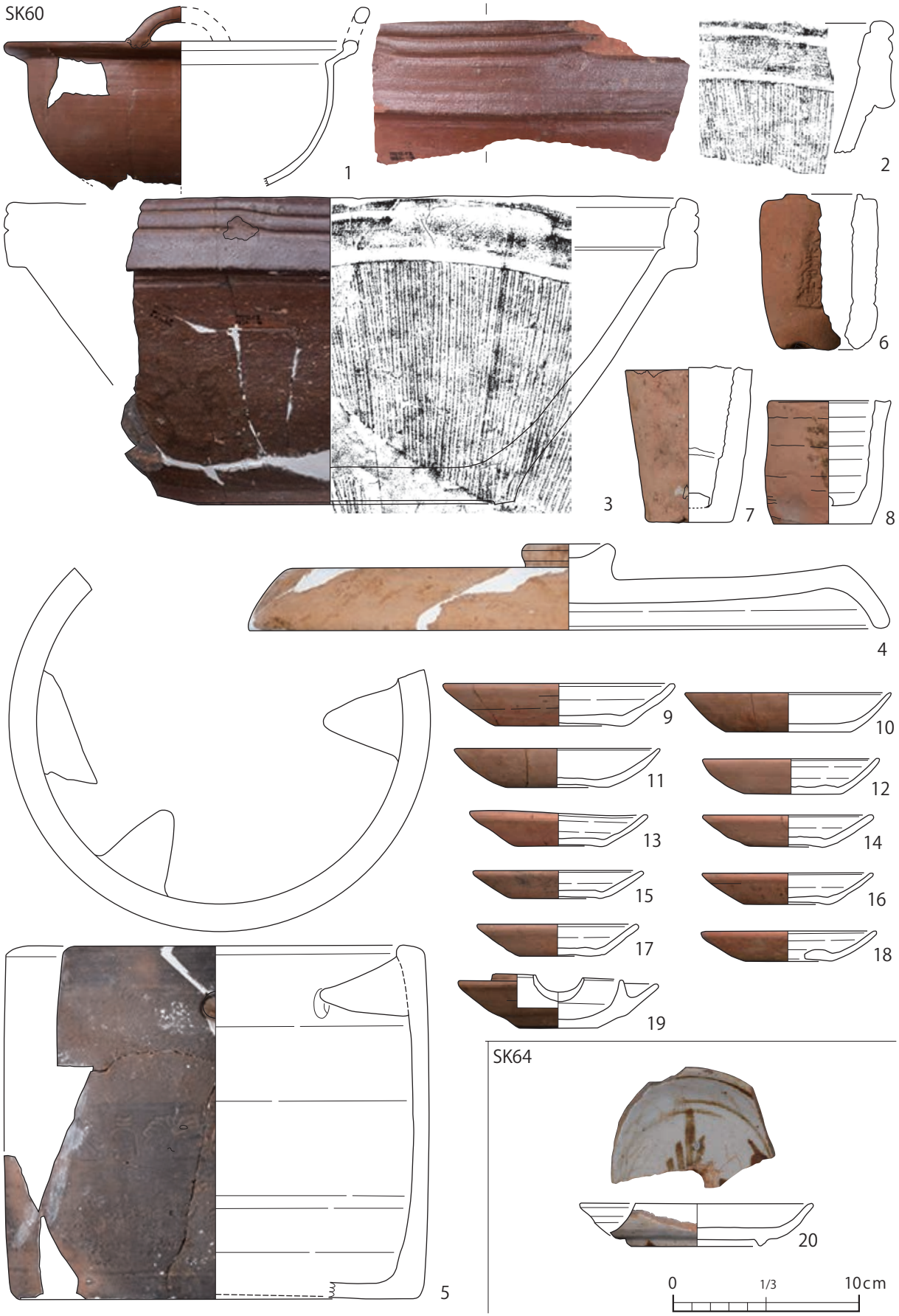
第159図　陶磁器・土器（15）（1/3）



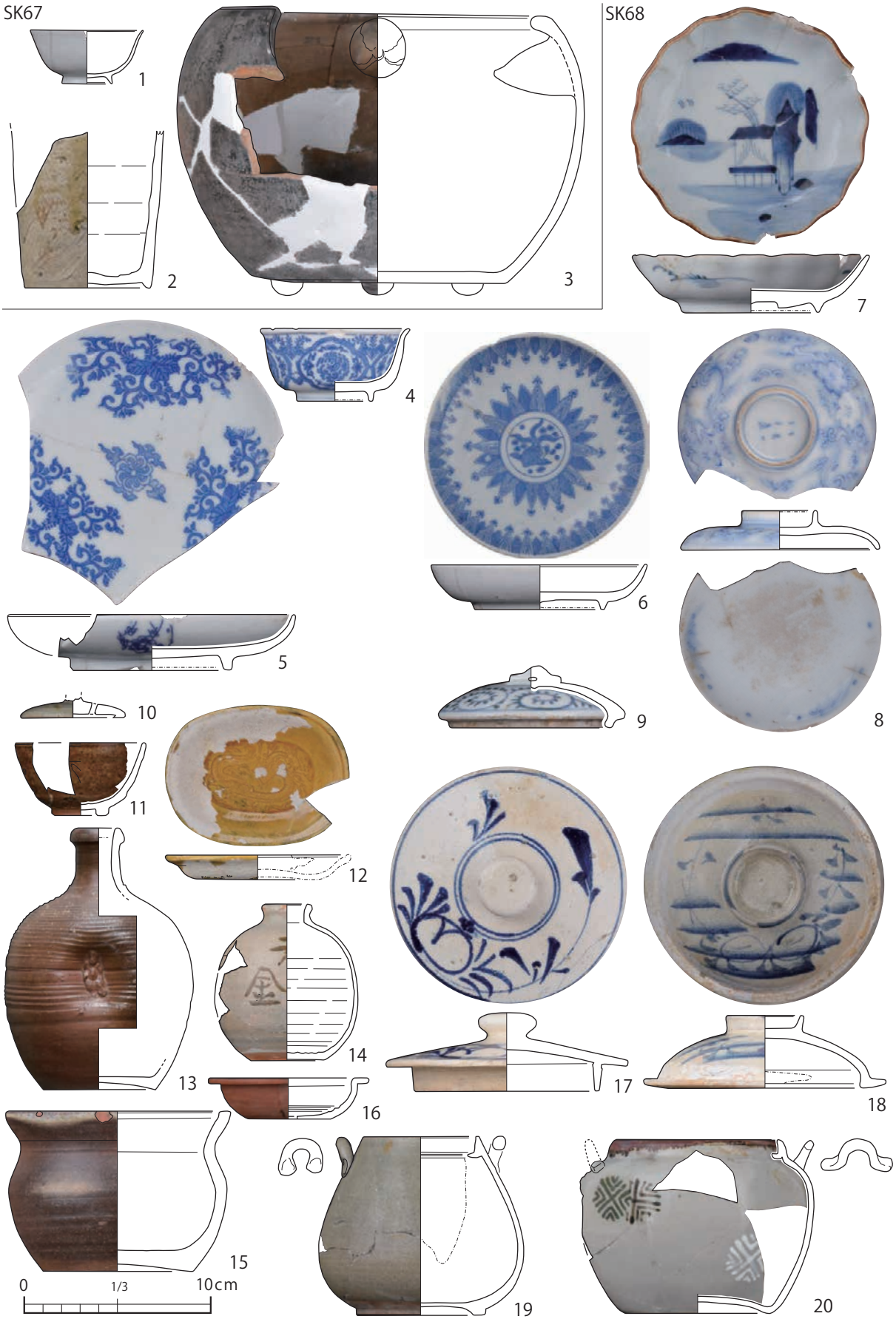
第160図　陶磁器・土器（16）（1/3・1/6）



第161図　陶磁器・土器（17）（1/3）



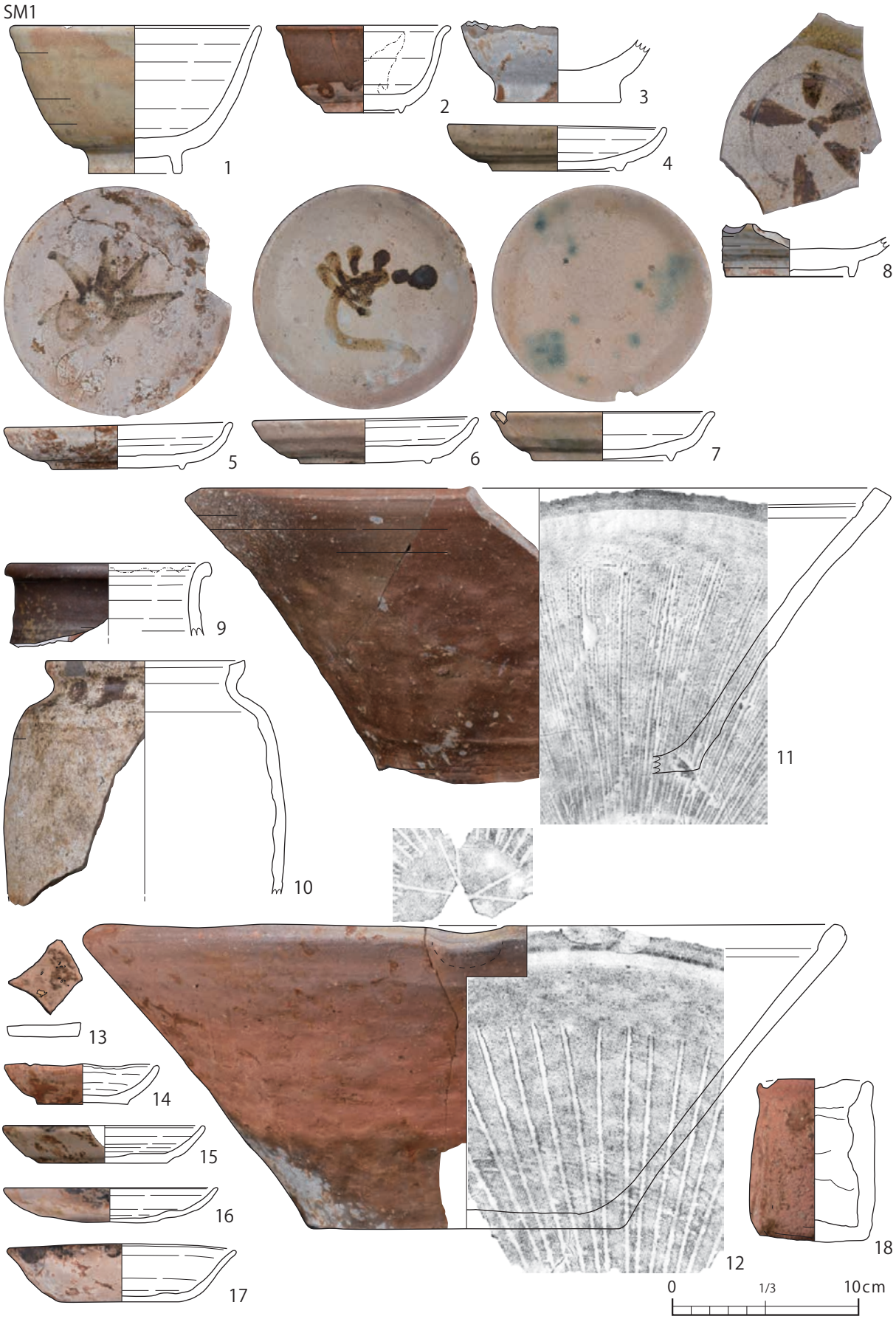
第162図　陶磁器・土器（18）（1/3）



第163図　陶磁器・土器（19）（1/3）



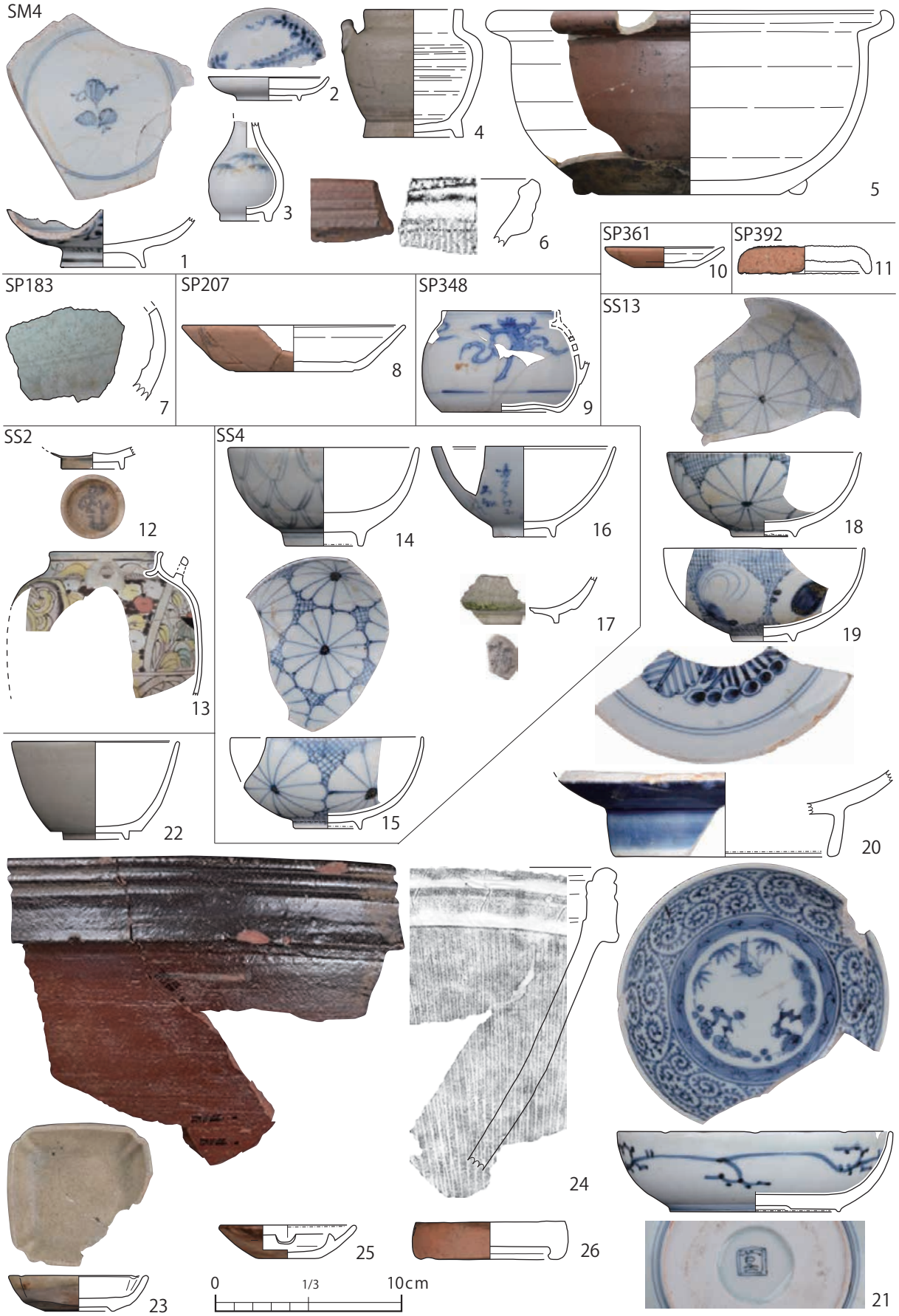
第164図　陶磁器・土器(20)(1/3)



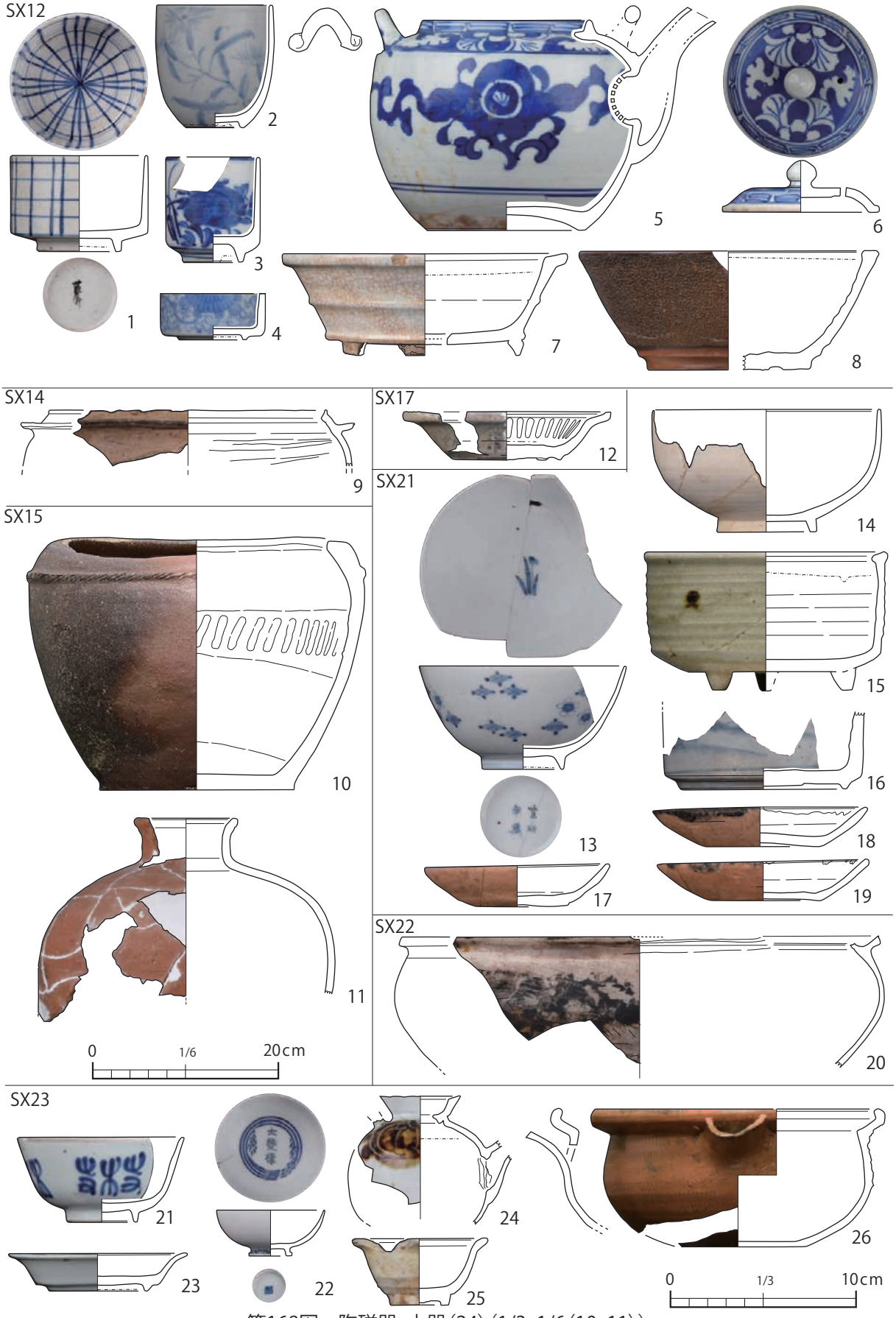
第165図　陶磁器・土器（21）（1/3）



第166図　陶磁器・土器(22)(1/3)



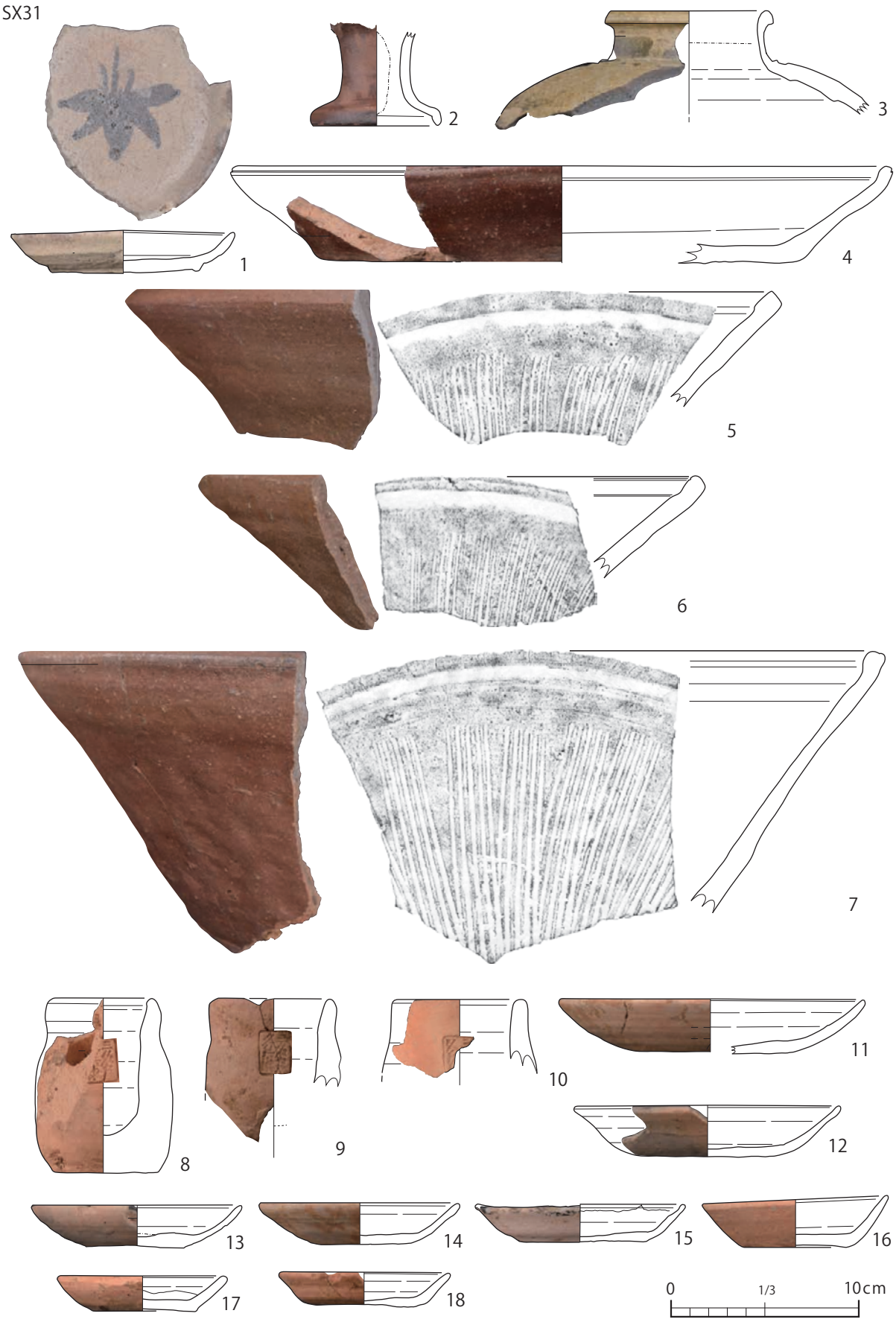
第167図　陶磁器・土器(23)(1/3)



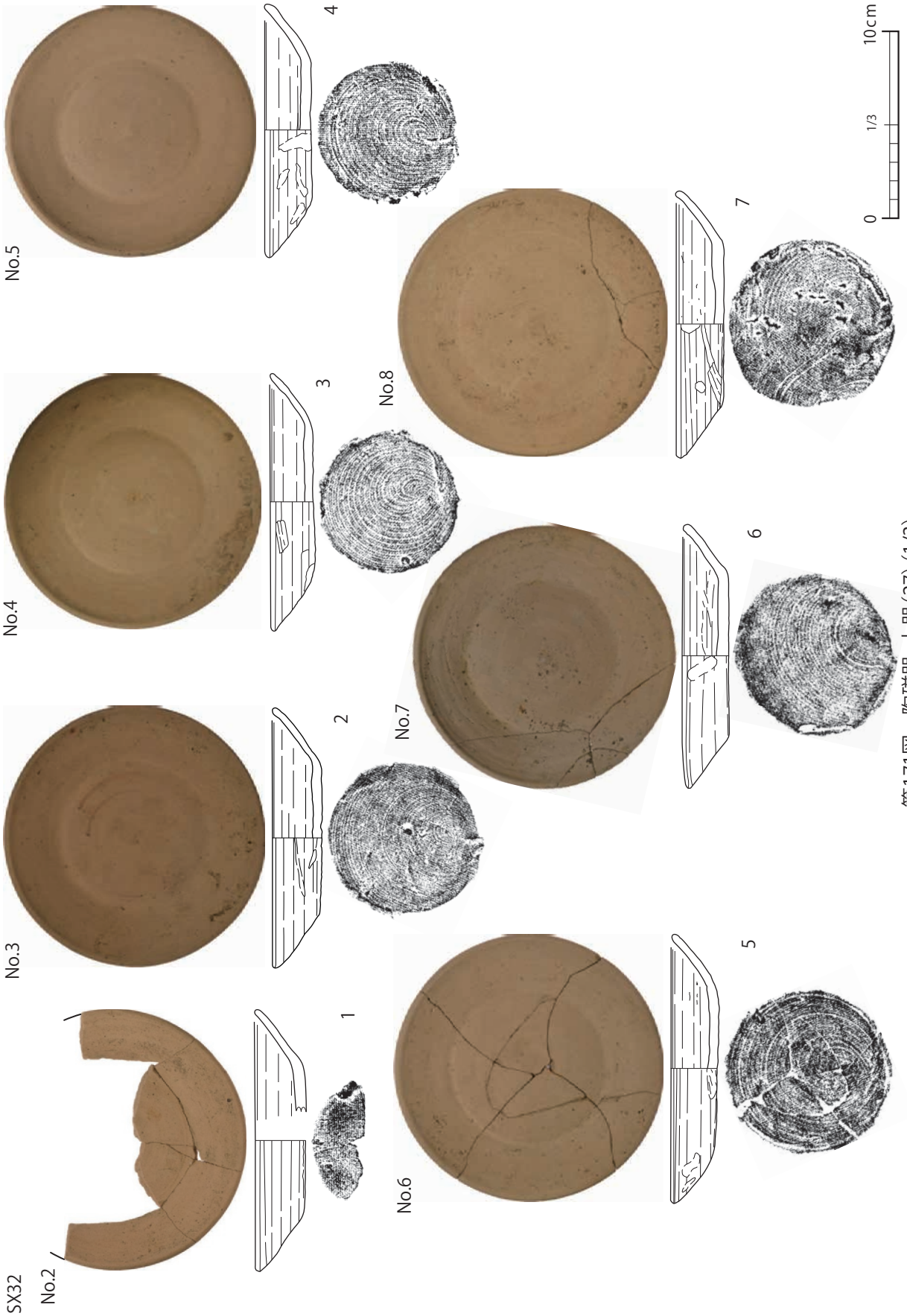
第168図　陶磁器・土器(24)（1/3・1/6〈10・11〉）



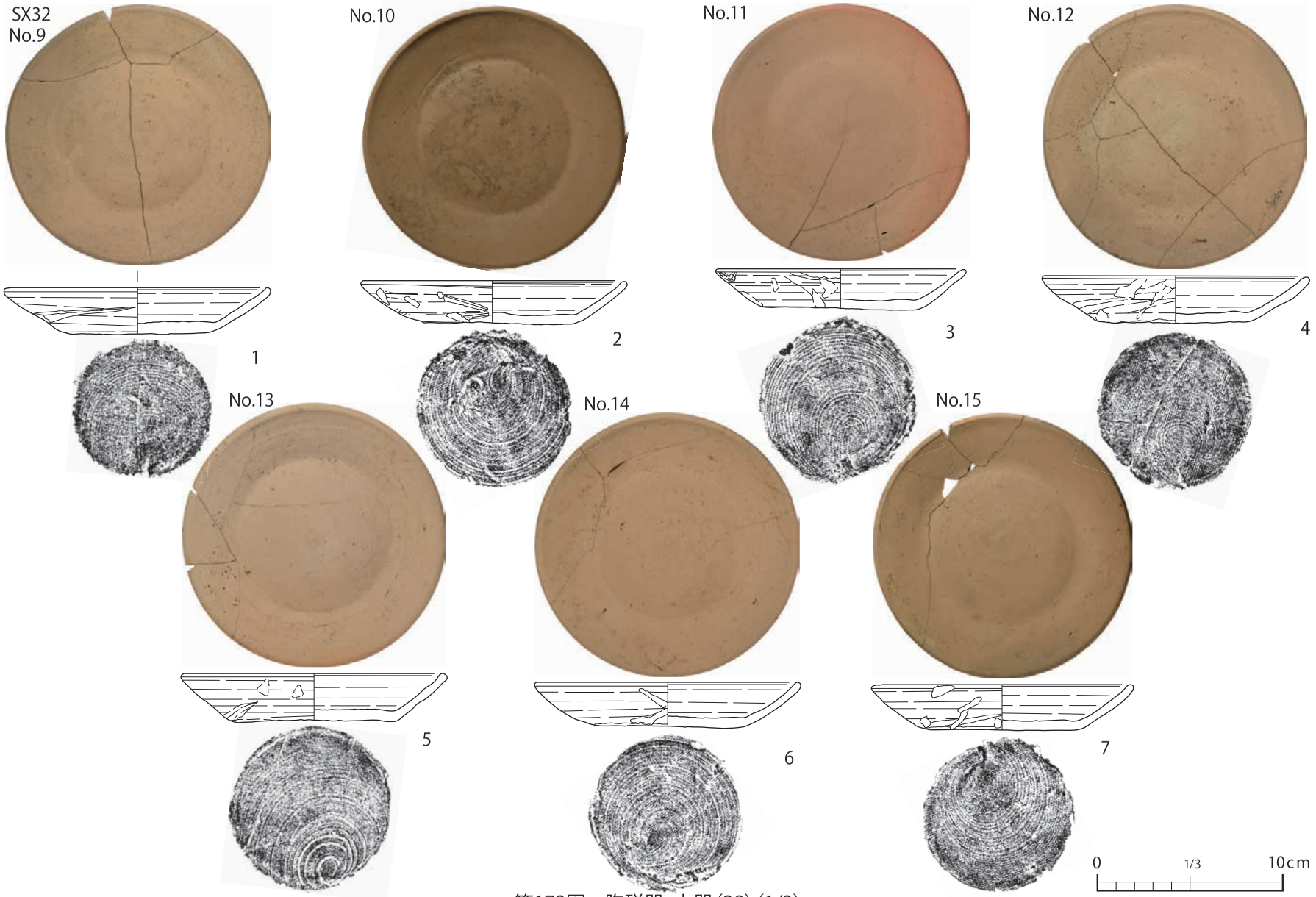
第169図　陶磁器・土器（25）（1/3・1/6〈8〉）



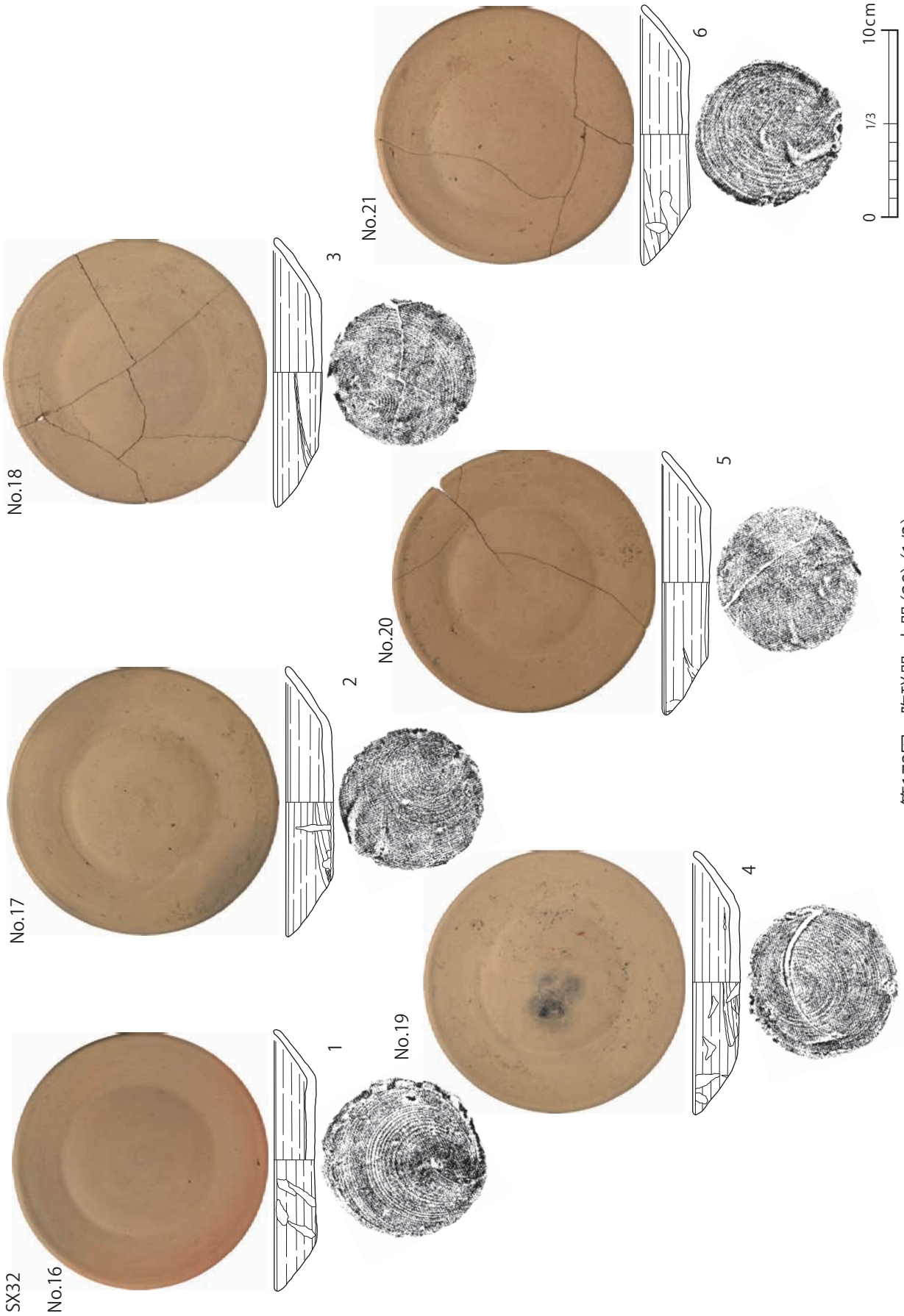
第170図　陶磁器・土器(26)(1/3)



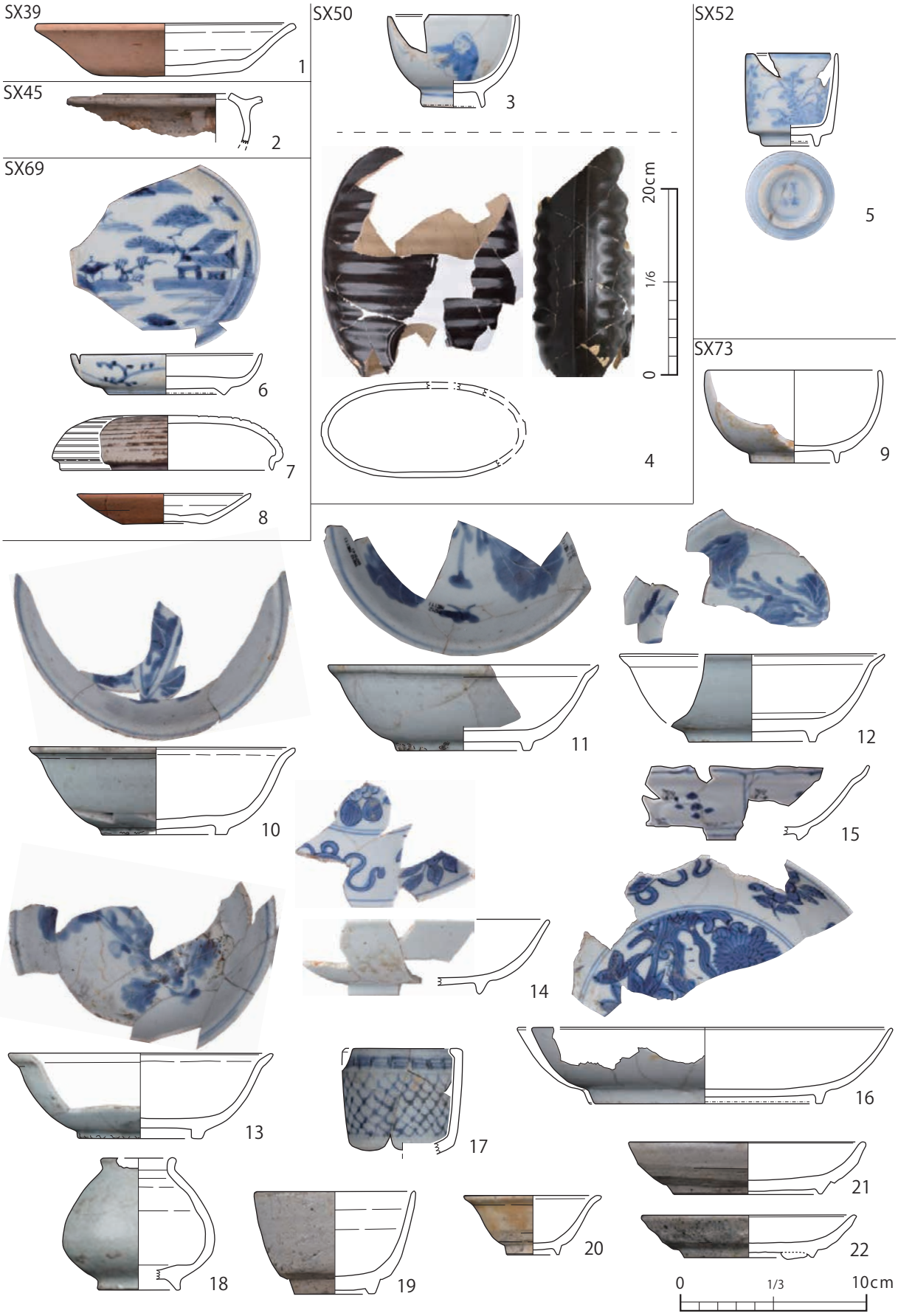
第171図　陶磁器・土器(27)(1/3)



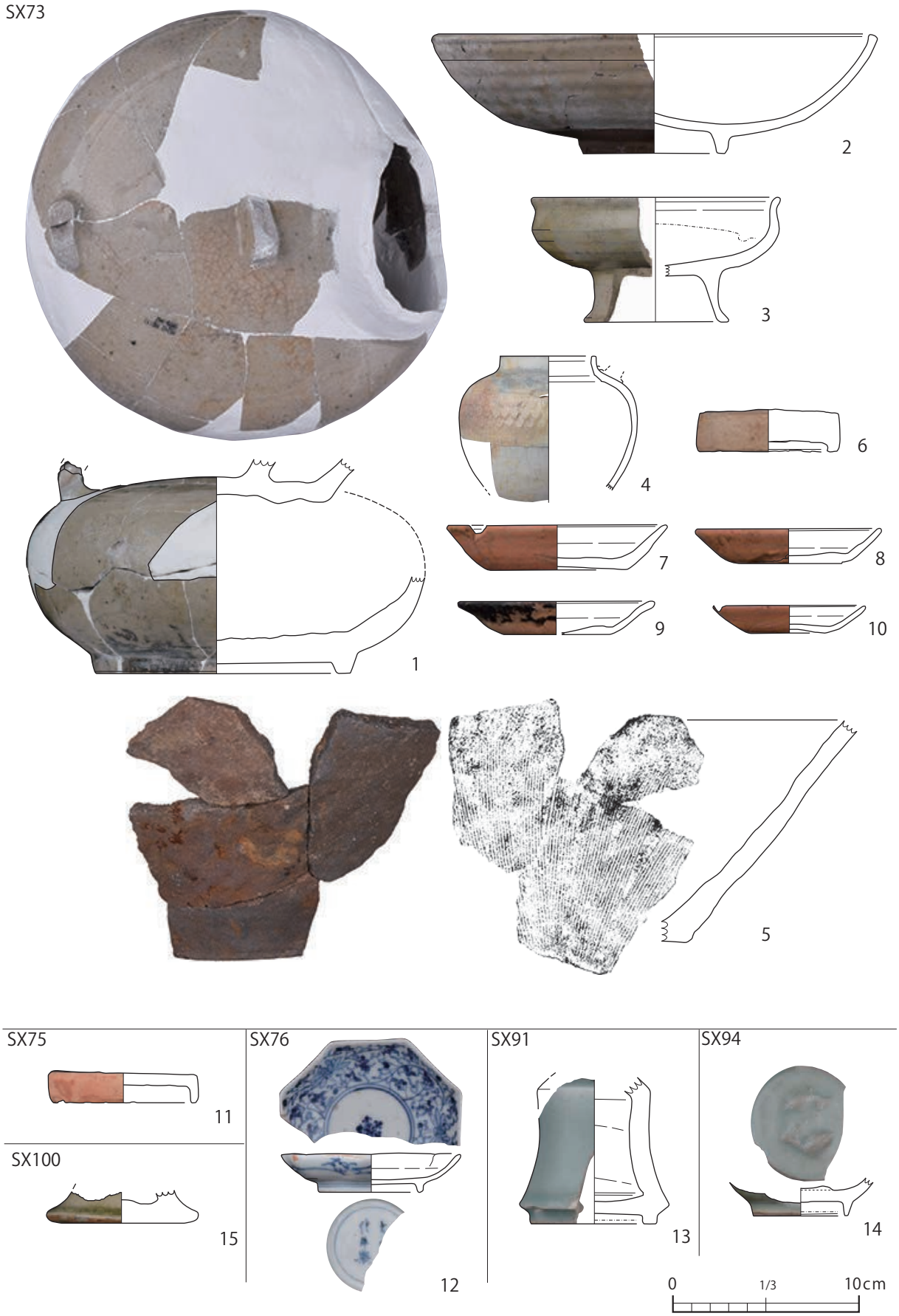
第172図　陶磁器・土器(28) (1/3)



第173図　陶磁器・土器(29)(1/3)



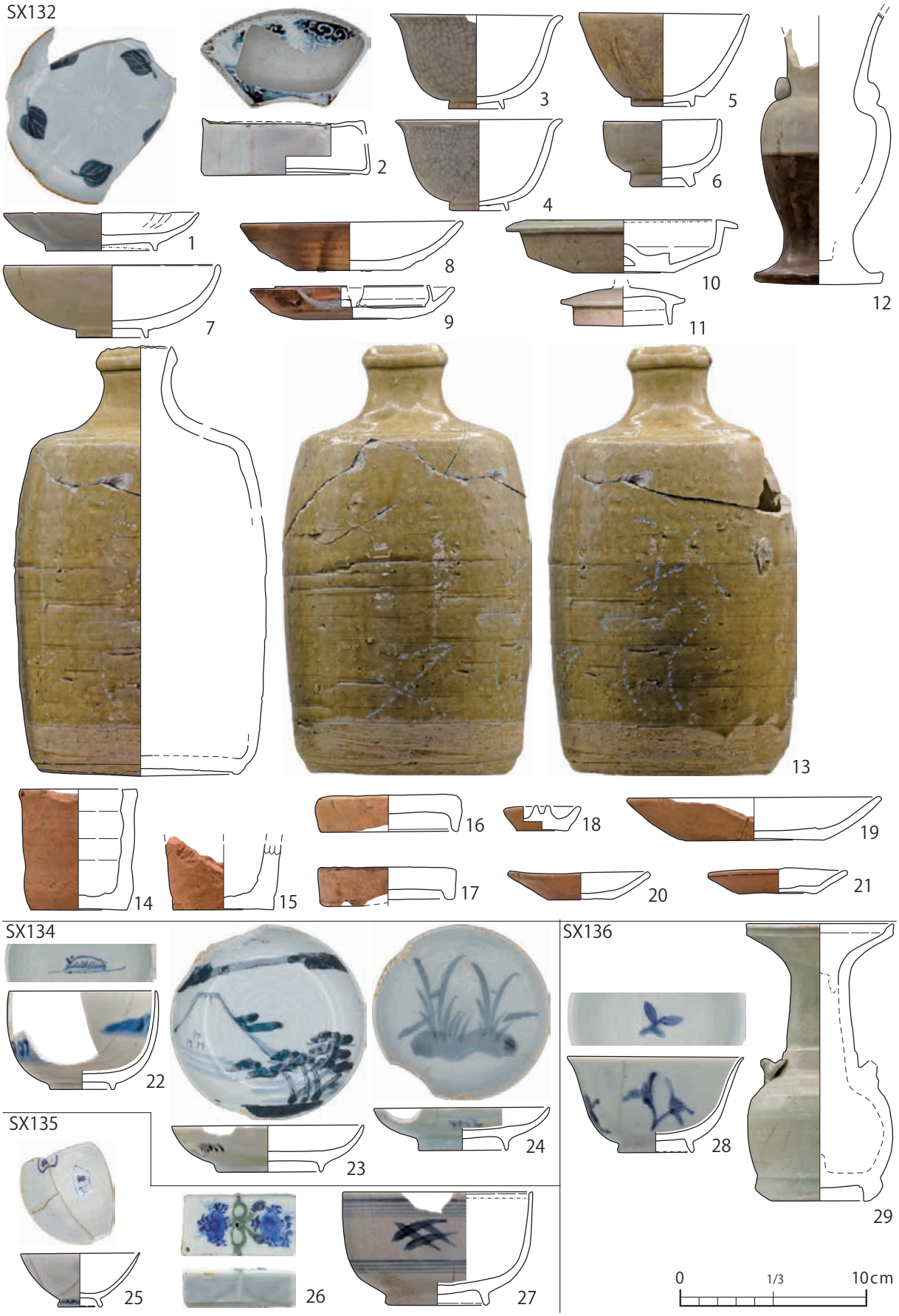
第174図　陶磁器・土器(30) (1/3・1/6〈4〉)



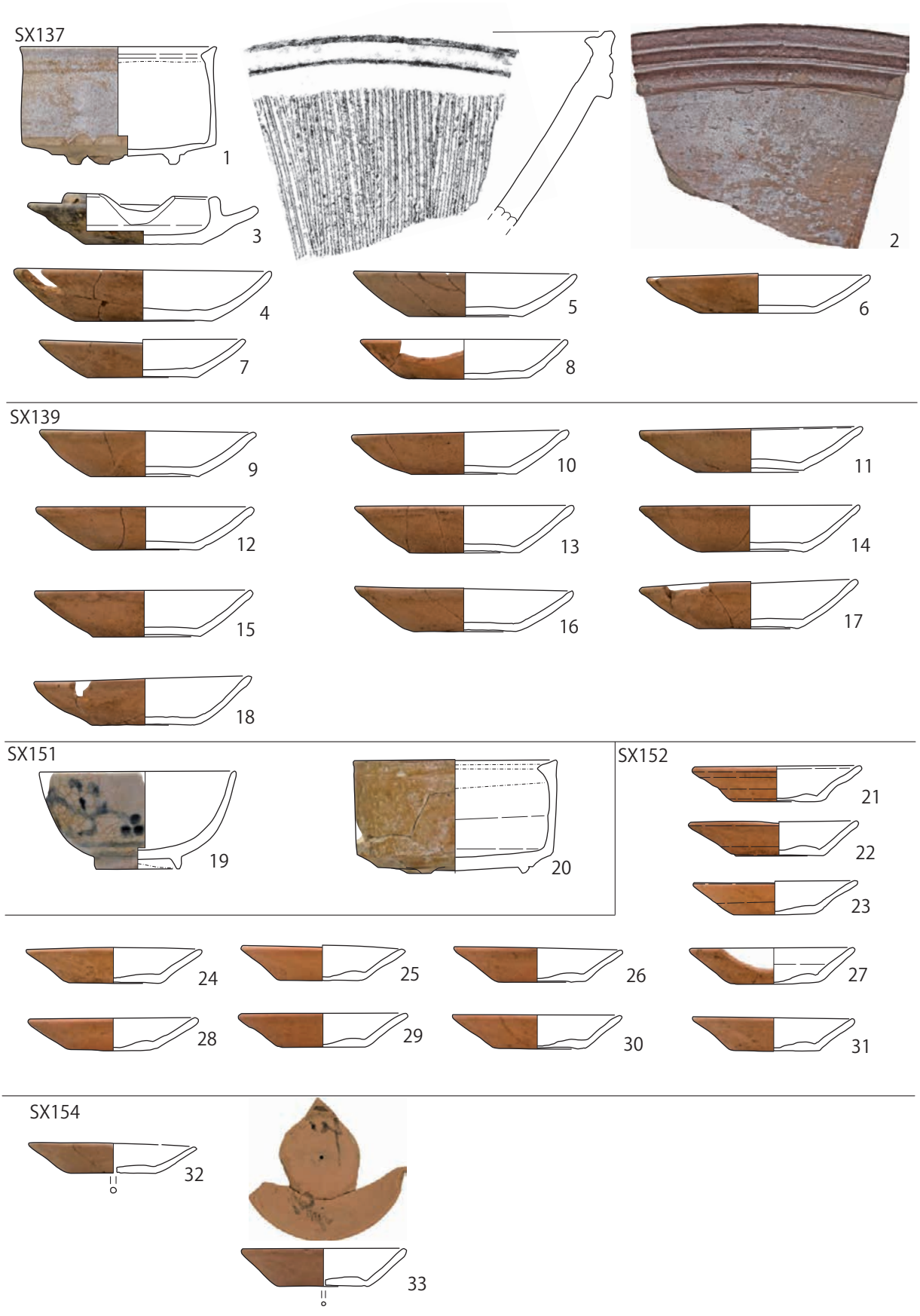
第175図　陶磁器・土器（31）（1/3）



第176図　陶磁器・土器(32)(1/3)



第177図　陶磁器・土器(33)(1/3)



第178図　陶磁器・土器(34)(1/3)

SX140



甕蓋表面



甕内部最上面



甕内部最上層泥除去後



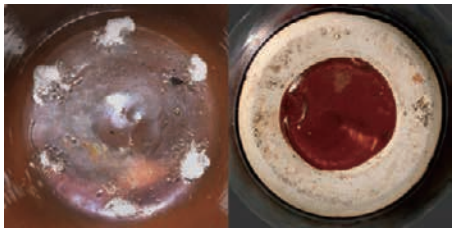
甕蓋裏面



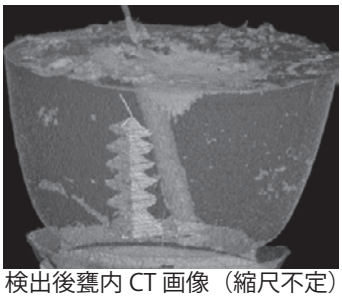
1

2

0　1/3　10cm



甕内底面（左）と外底面（右）の目跡（縮尺不定）



検出後甕内 CT 画像（縮尺不定）



金糸検出状況（縮尺不定）

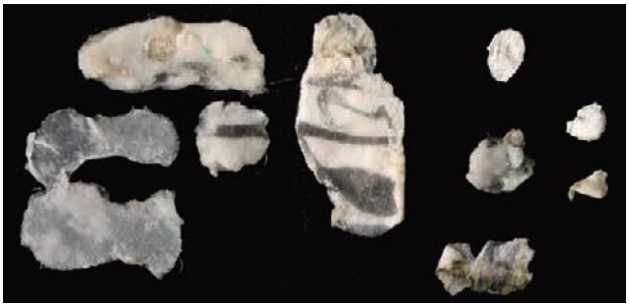


金属棒



土製五重塔

0　1/2　10cm



墨書紙（1/1）

第179図　陶磁器・土器（35）（1/3・1/2・1/1）

第５表　陶磁器・土器一覧（1）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
145-1	SB1	磁器	蓋	1/1	10.4	2.9	6.0	T:白色精良Y:染付	肥前
145-2	SD11	磁器	瓶	1/3	-	-	5.8	T:白色精良Y:染付	肥前
145-3	SD11	土器	皿	1/2	(10.8)	2.3	5.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロB:内面墨書あり	在地
145-4	SD11	土器	皿	1/2	10.3	1.9	6.6	T:赤褐色やや砂質S:ロクロ	在地
145-5	SD11	土器	皿	1/2	11.8	2.2	8.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロ	在地
145-6	SD11	土器	皿	1/2	12.2	2.0	8.0	T:褐色やや砂質S:ロクロE:表面煤付着	在地
145-7	SD12	磁器	碗	1/2	(10.9)	(6.1)	3.3	T:白色精良Y:染付E:広東碗	肥前
145-8	SD12	磁器	碗	1/2	9.6	5.0	(4.0)	T:白色精良Y:染付E:端反碗	瀬戸・美濃
145-9	SD12	陶器	碗	1/3	(8.2)	4.7	(3.8)	T:灰白色精良Y:灰釉E:小杉碗	京都・信楽
145-10	SD12	陶器	蓋	一部欠	4.8	1.4	2.0	T:暗褐色精良Y:鉄釉	
145-11	SD12	陶器	蓋	1/2	13.7	3.0	12.2	T:黄白色精良Y:灰釉・鉄絵他E:鍋蓋	
145-12	SD12	陶器	蓋	1/4	(24.7)	6.2	11.2	T:黄褐色やや砂質Y:灰釉・呉須絵E:土鍋蓋	
145-13	SD12	陶器	鉢	1/3	25.0	5.7	-	T:灰白色精良Y:灰釉E:三足か	
145-14	SD19	陶器	徳利	破片	-	-	6.9	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
145-15	SD20	陶器	急須	破片	6.2	-	-	T:灰色やや砂質Y:白釉・呉須絵	
145-16	SD20	陶器	皿か	破片	-	-	4.8	T:暗褐色精良Y:銅緑釉か	
145-17	SD31	陶器	香炉	破片	(13.0)	7.0	-	T:黄白色やや砂質Y:鉄釉E:三足	瀬戸・美濃
145-18	SD31	土器	皿	2/3	12.5	2.4	7.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
145-19	SD31	土器	皿	1/4	(10.6)	2.5	6.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
145-20	SD21	陶器	天目茶碗	1/3	(11.2)	6.7	(4.8)	T:灰色やや砂質S:ロクロY:鉄釉	瀬戸・美濃
145-21	SD21	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:黄褐色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
146-1	SE1	磁器	碗	一部欠	11.4	9.1	7.8	T:白色精良Y:コバルト印判手	
146-2	SE1	磁器	碗	一部欠	11.5	6.2	5.0	T:白色精良Y:染付	肥前
146-3	SE1	磁器	碗	1/2	8.4	3.8	3.3	T:灰白色精良Y:青磁E:外面刻線	
146-4	SE1	磁器	碗	1/1	7.0	4.7	4.0	T:白色精良Y:染付E:猪口	肥前
146-5	SE1	磁器	碗	一部欠	6.2	5.3	4.3	T:白色精良Y:コバルト印判手	
146-6	SE1	磁器	蓋か	破片	(7.2)	-	-	T:白色精良Y:白磁	
146-7	SE1	磁器	碗	1/1	10.9	4.0	5.1	T:白色精良Y:白磁上絵付	
146-8	SE1	磁器	皿	2/3	(37.5)	6.0	19.5	T:白色精良S:型作りY:染付M:高台内有りE:平面方形・高台内釘書	肥前
146-9	SE1	磁器	皿	一部欠	20.0×14.2	1.7	1.5	T:白色精良S:型作りY:染付E:平面楕円形	肥前か
146-10	SE1	磁器	皿	一部欠	15.4	2.8	8.2	T:灰色精良Y:青磁	
146-11	SE1	磁器	皿	一部欠	9.0	1.5	5.4	T:白色精良Y:白磁I:見込み押印	瀬戸・美濃
146-12	SE1	磁器	皿	一部欠	10.4	1.8	6.4	T:白色精良Y:コバルト印判手M:高台内「大化年製」	
146-13	SE1	磁器	皿	一部欠	10.8	1.9	6.4	T:白色精良Y:コバルト印判手・口縁部鉄錆	
147-1	SE1	磁器	蓋	一部欠	12.5	2.7	5.0	T:白色精良Y:染付M:つまみ内に銘款あり	
147-2	SE1	磁器	蓋	1/1	9.7	2.6	4.0	T:白色精良Y:コバルト印判手	
147-3	SE1	磁器	蓋	一部欠	9.4	2.4	3.8	T:白色精良Y:染付	
147-4	SE1	磁器	蓋	一部欠	9.2	2.0	3.5	T:白色精良Y:コバルト印判手	
147-5	SE1	磁器	蓋	一部欠	6.4	-	-	T:白色精良Y:染付印判手か	
147-6	SE1	磁器	蓋	1/1	8.4	1.7	-	T:白色精良Y:コバルト印判手	
147-7	SE1	磁器	蓋	3/4	4.2	2.0	-	T:白色精良Y:染付印判手か	

第５表　陶磁器・土器一覧（2）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
147-8	SE1	磁器	徳利	一部欠	3.1	19.5	7.0	T:白色精良Y:コバルト印判手	
147-9	SE1	磁器	香炉	一部欠	5.2	4.0	3.4	T:白色精良Y:コバルトE:三足	
147-10	SE1	磁器	急須	破片	6.8	－	－	T:白色精良Y:染付印判手か	
147-11	SE1	陶器	小杯	1/1	7.1	2.8	2.7	T:褐色やや砂質Y:灰釉・白泥	
147-12	SE1	陶器	皿	1/1	10.1	1.7	5.3	T:褐色やや砂質Y:灰釉・白泥	
147-13	SE1	陶器	蓋	一部欠	16.9	3.9	6.5	T:黄褐色精良Y:灰釉・鉄釉・白釉	
147-14	SE1	陶器	香炉	1/2	10.5	4.9	9.1	T:灰褐色精良Y:青白釉E:三足	
147-15	SE1	陶器	徳利	一部欠	2.2	15.3	6.4	T:灰白色精良Y:灰釉E:ペコカン型・胴部外面焼成後穿孔有り	瀬戸・美濃
147-16	SE1	陶器	徳利	2/3	－	－	11.6	T:灰白色精良Y:灰釉E:外面鉄釉文字「芝〇〇」・高田徳利	美濃
147-17	SE1	陶器	徳利	3/4	3.0	24.0	11.2	T:胎土S:灰白色精良Y:灰釉I:釘彫り有り	瀬戸・美濃
147-18	SE1	陶器	徳利	1/3	－	－	13.4	T:灰白色精良Y:灰釉M:体部外面鉄釉文字有り	瀬戸・美濃
148-1	SE2	磁器	碗	一部欠	10.2	4.6	3.6	T:白色精良Y:染付E:半球碗	肥前
148-2	SE2	磁器	碗	一部欠	4.8	3.2	3.4	T:白色精良Y:白磁	肥前
148-3	SE2	磁器	仏飯器	2/3	6.7	6.4	4.3	T:灰白色精良Y:染付	肥前
148-4	SE2	陶器	碗	一部欠	9.2	5.3	3.2	T:灰色やや砂質Y:灰釉・鉄釉E:腰錆	瀬戸・美濃
148-5	SE2	陶器	碗	1/2	10.6	4.4	4.2	T:灰白色やや砂質Y:灰釉・鉄釉・呉須による擦り絵	瀬戸・美濃
148-6	SE2	陶器	碗か	破片	－	－	－	T:黄白色精良M:鉄釉による「乾山」他	京都・信楽
148-7	SE2	陶器	香炉	破片	(12.2)	－	－	T:灰白色精良Y:長石釉	瀬戸・美濃
148-8	SE2	陶器	甕	4/5	20.0	20.6	13.0	T:灰白色精良Y:鉄釉・灰釉流し	瀬戸・美濃
148-9	SE2	土器	焼塩壺	1/4	－	9.0	－	T:褐色砂質S:板作りY:無釉I:「泉州麻生」	和泉
148-10	SE2	土器	皿	1/4	(8.0)	1.5	4.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉B:墨書外面に有り	在地
148-11	SE2	土器	台付灯明受皿	一部欠	9.6	9.0	7.4	T:赤褐色やや砂質Y:鉛釉	在地
148-12	SE2	土器	火鉢	一部欠	10.0	8.3	9.6	T:黄褐色やや砂質Y:無釉・外面破線彫り・スタンプE:瓦質	在地
148-13	SE4	磁器	碗	1/1	10.0	5.2	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
148-14	SE4	磁器	碗	1/3	10.3	5.5	5.9	T:白色精良Y:染付E:広東碗	肥前
148-15	SE4	磁器	碗	1/1	9.5	5.0	4.1	T:白色精良Y:染付M:高台内有りE:端反碗	瀬戸・美濃
148-16	SE4	磁器	碗	1/2	9.4	5.1	4.2	T:白色精良Y:染付E:端反碗	瀬戸・美濃
148-17	SE4	磁器	蓋	1/2	(10.2)	2.8	4.2	T:灰白色精良Y:染付	肥前
148-18	SE4	磁器	蓋	一部欠	9.8	2.9	5.2	T:灰白色精良Y:染付	肥前
148-19	SE4	磁器	蓋	一部欠	9.9	2.9	5.8	T白色精良Y:染付	肥前
148-20	SE4	磁器	花瓶	一部欠	－	－	5.6	T:灰白色精良Y:染付	肥前
148-21	SE4	陶器	香炉	一部欠	7.6	5.0	6.4	T:黄白色やや砂質Y:黄釉	瀬戸・美濃
148-22	SE4	陶器	蓋	1/1	4.2	0.8	－	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽か
149-1	SE4	陶器	徳利	1/1	3.0	20.6	6.9	T:灰色やや砂質Y:灰釉E:胴部釘書	瀬戸・美濃
149-2	SE4	陶器	徳利	1/1	4.1	19.8	7.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉E:胴部釘書	瀬戸・美濃
149-3	SE9	陶器	皿	一部欠	12.0	2.5	6.7	T:灰褐色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
149-4	SE9	陶器	皿	2/3	11.3	2.4	6.5	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
149-5	SE9	陶器	甕	破片	－	－	－	T:灰色砂質Y:鉄釉	信楽
149-6	SE9	陶器	甕	破片	－	－	－	T:灰色砂質Y:鉄釉	信楽

第５表　陶磁器・土器一覧（3）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
149-7	SE9	土器	火鉢	1/2	31.0	16.0	25.0	T:赤褐色やや砂質Y:無釉・外面ミガキE:三足	在地
149-8	SE10	磁器	皿	破片	-	-	-	T:灰色精良Y:青花	中国
149-9	SE10	磁器	皿	破片	-	-	-	T:灰色精良Y:青花	中国
149-10	SE10	磁器	皿	破片	-	-	-	T:灰色精良Y:青花	中国
149-11	SE10	磁器	皿	破片	-	-	-	T:灰色精良Y:青花	中国
149-12	SE10	陶器	碗	破片	-	-	-	T:黄褐色やや砂質Y:長石釉E:志野織部	瀬戸・美濃
149-13	SE10	陶器	皿	破片	(13.2)	2.4	(6.8)	T:黄白色やや砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
149-14	SE10	陶器	皿	一部欠	(13.6)	2.9	(8.4)	T:灰白色やや砂質Y:長石釉E:折縁皿	瀬戸・美濃
149-15	SE10	陶器	皿	2/3	14.4	3.2	8.9	T:灰色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
149-16	SE10	陶器	鉢	破片	-	-	(13.0)	T:灰色精良Y:灰色釉	肥前
149-17	SE10	陶器	皿	1/2	8.2	2.1	4.0	T:黄白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
150-1	SE10	陶器	鉢	一部欠	23.6	8.0	12.8	T:黄白色精良Y:灰釉E:口縁輪花	瀬戸・美濃
150-2	SE10	陶器	甕	破片	-	-	-	T:灰色砂質Y:鉄釉	信楽
150-3	SE10	土器	皿	2/3	14.4	2.7	9.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:外面煤付着	在地
150-4	SE10	土器	皿	1/4	11.0	2.0	7.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
150-5	SE10	土器	皿	1/2	11.2	2.1	7.3	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:一部煤付着	在地
150-6	SE17	磁器	皿	1/2	(10.0)	4.1	4.4	T:白色精良Y:青花	中国
150-7	SE17	磁器	小杯	1/1	6.6	4.7	3.2	T:白色精良Y:白磁	肥前
150-8	SE17	磁器	壺	1/1	5.0	8.6	4.7	T:白色精良Y:染付	肥前
150-9	SE17	磁器	蓋	2/3	9.6	2.4	-	T:白色精良Y:染付	肥前
150-10	SE17	陶器	碗	2/3	13.0	5.0	5.2	T:灰白色精良Y:灰釉・鉄絵・呉須絵I:刻印二重枠に「清」	京都・信楽
150-11	SE17	陶器	皿	2/3	6.4	1.6	-	T:灰色やや砂質S:型作りY:灰釉E:三足	瀬戸・美濃
150-12	SE17	陶器	壺	1/2	-	-	7.7	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
150-13	SE17	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:灰色砂質Y:無釉	丹波
150-14	SE17	土器	皿	1/1	11.8	2.7	6.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
150-15	SE17	土器	皿	1/1	12.5	2.4	8.1	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
150-16	SE17	土器	皿	1/1	11.0	2.2	6.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
150-17	SE17	土器	皿	1/1	10.4	2.2	5.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
150-18	SE17	土器	皿	1/1	10.5	2.0	6.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
150-19	SE17	土器	皿	破片	(12.0)	-	-	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉B:内面墨書「九十」	在地
150-20	SE17	土器	皿	1/3	11.5	2.2	7.3	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉B:見込み墨書有り	在地
150-21	SE17	土器	皿	1/1	11.5	2.2	7.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
150-22	SE17	土器	皿	2/3	10.8	2.2	6.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
151-1	SE18	土器	皿	1/2	11.0	2.0	7.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
151-2	SE19	陶器	碗	一部欠	13.8	8.3	6.3	T:黄白色やや砂質Y:灰釉・白泥E:その他	肥前か
151-3	SE19	陶器	鉢	破片	-	-	4.7	T:黄白色やや砂質Y:灰釉・鉄絵・白釉E:織部鉢・向付	瀬戸・美濃
151-4	SE19	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:灰色砂質Y:無釉	丹波
151-5	SE21	陶器	皿	一部欠	12.1	2.5	7.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃

第５表　陶磁器・土器一覧（4）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
151-6	SE21	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:褐色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-7	SE21	土器	皿	1/2	12.9	2.4	7.1	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
151-8	SE23	磁器	蓋	1/4	9.0	2.2	-	T:灰白色精良Y:青磁	肥前
151-9	SE23	磁器	蓋	破片	10.2	-	-	T:灰白色精良Y:青磁	肥前
151-10	SE23	陶器	蓋	1/3	7.4	1.8	-	T:黄褐色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-11	SE23	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:灰色砂質Y:鉄釉	丹波
151-12	SE25	土器	皿		11.6	2.3	7.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
151-13	SE25	土器	皿	1/1	10.7	2.4	5.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
151-14	SE25	土器	焼塩壺	一部欠	6.1	9.2	5.0	T:褐色砂質S:ロクロY:無釉I:刻印「三名戸久兵衛」	畿内
151-15	SE26	陶器	皿	1/2	12.4	3.1	7.4	T:灰白色精良Y:灰釉・見込み鉄絵	瀬戸・美濃
151-16	SE26	陶器	皿	1/1	11.9	2.8	7.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
151-17	SE26	土器	皿	1/1	12.1	2.4	7.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
151-18	SE26	土器	皿	1/1	11.0	2.3	5.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
151-19	SE30	陶器	天目茶碗	1/2	12.4	8.4	4.5	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-20	SE30	陶器	天目茶碗	1/2	11.6	7.0	42.0	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-21	SE30	陶器	天目茶碗	1/3	11.8	6.4	4.5	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-22	SE30	陶器	天目茶碗	3/4	11.6	6.7	44.5	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
151-23	SE30	陶器	碗	2/3	9.2	5.5	3.2	T黄白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-24	SE30	陶器	皿	1/1	10.9	2.0	6.0	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-25	SE30	陶器	皿	1/1	10.9	2.1	6.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-26	SE30	陶器	皿	3/4	12.3	2.9	6.5	T:灰白色やや砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
151-27	SE30	陶器	皿	2/3	12.2	2.6	6.4	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-28	SE30	陶器	皿	1/1	11.3	2.5	6.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-29	SE30	陶器	皿	1/1	11.8	2.6	5.9	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-30	SE30	陶器	皿	1/1	11.2	3.0	5.4	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-31	SE30	陶器	皿	1/1	11.8	3.2	6.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-32	SE30	陶器	皿	1/1	11.2	3.5	5.9	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-33	SE30	陶器	皿	1/1	11.8	2.7	7.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
151-34	SE30	陶器	皿	一部欠	10.6	2.1	6.2	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-1	SE30	陶器	皿	4/5	11.5	2.3	6.1	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-2	SE30	陶器	皿	1/1	10.7	2.2	5.8	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-3	SE30	陶器	皿	1/1	11.6	2.5	5.6	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-4	SE30	陶器	皿	2/3	12.4	3.0	5.0	T:赤褐色やや砂質Y:褐色釉	肥前
152-5	SE30	陶器	皿	1/2	12.2	3.0	5.2	T:赤褐色やや砂質Y:褐色釉	肥前
152-6	SE30	陶器	蓋	1/1	8.2	2.7	-	T:灰色精良Y:鉄釉	瀬戸・美濃
152-7	SE30	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:暗褐色やや砂質Y:無釉	堺
152-8	SE30	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:黄白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
152-9	SE30	土器	焼塩壺	1/3	4.8	-	-	T:褐色砂質S:輪積みY:無釉	畿内
152-10	SE30	土器	皿	一部欠	12.7	2.9	7.4	T:黄白色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
152-11	SE30	土器	皿	1/1	10.9	2.2	7.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
152-12	SE30	土器	皿	一部欠	9.9	2.5	5.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
152-13	SE30	土器	皿	破片	10.4	2.4	6.5	T:灰褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地

第５表　陶磁器・土器一覧（5）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
152-14	SE31	陶器	碗	1/2	8.7	4.7	3.7	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-15	SE31	陶器	碗	破片	(9.8)	－	－	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-16	SE31	陶器	碗	破片	(12.1)	－	－	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-17	SE31	陶器	皿	3/4	8.9	1.8	4.8	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
152-18	SE32	磁器	碗	1/2	14.0	8.3	5.7	T灰白色精良Y:染付	肥前
152-19	SE32	磁器	碗	1/1	12.0	6.1	5.0	T:白色精良Y:白磁・口錆	肥前
152-20	SE32	磁器	小杯	1/2	7.4	5.0	4.0	T:白色精良Y:染付M:高台内銘款	肥前
152-21	SE32	磁器	小杯	一部欠	5.4	3.5	2.6	T:白色精良Y:白磁	肥前
152-22	SE32	磁器	皿	破片	(15.0)	3.2	(9.2)	T:灰白色精良Y:染付	肥前
152-23	SE32	磁器	皿	1/2	(13.0)	3.3	7.6	T:灰白色精良Y:染付・見込みコンニャク判	肥前
152-24	SE32	磁器	皿	一部欠	13.3	4.4	7.5	T:白色精良S:輪花Y:染付・口錆・見込みコンニャク判M:高台内銘款有り	肥前
152-25	SE32	磁器	皿	2/3	13.4	3.6	7.6	T:灰白色精良Y:染付・見込みコンニャク判	肥前
152-26	SE32	磁器	皿	2/3	13.0	3.4	3.9	T:灰白色精良Y:染付・見込み蛇の目釉剥ぎ	肥前
153-1	SE32	陶器	碗	2/3	12.4	7.9	4.6	T:黄白色精良Y:灰釉E:京焼風陶器	肥前
153-2	SE32	陶器	碗	1/3	11.2	6.9	4.9	T:灰色やや砂質Y:灰釉・白泥回転刷毛目	肥前
153-3	SE32	陶器	皿	1/4	(12.4)	3.2	(7.2)	T:暗灰色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
153-4	SE32	陶器	鉢	1/2	(19.2)	5.4	6.0	T:灰色やや砂質S:見込み蛇の目釉剥ぎY:灰釉・銅緑釉	肥前
153-5	SE32	陶器	灯明受皿	一部欠	10.9	2.5	5.7	T:褐色精良Y:鉄釉E:煤付着	瀬戸・美濃
153-6	SE32	陶器	灯明受皿	2/3	11.5	2.8	4.8	T:赤褐色精良Y:鉄釉	志戸呂
153-7	SE32	陶器	香炉	3/4	17.0	8.7	14.0	T黄白色やや砂質Y:黄釉	瀬戸・美濃
153-8	SE32	陶器	土瓶	1/3	11.5	－	－	T:灰色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃か
153-9	SE32	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質Y:無釉	堺
153-10	SE32	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:黄褐色砂質Y:鉄釉	丹波
153-11	SE32	土器	焼塩壺	一部欠	6.8	9.9	5.8	T:褐色砂質S:板作りY:無釉I:「泉州麻生」	畿内
153-12	SE33	陶器	碗	破片	(12.6)	－	－	T:灰色やや砂質Y:灰釉・呉須絵E:陶胎染付	肥前
153-13	SE33	磁器	小杯	1/3	(9.1)	5.9	4.9	T:白色精良Y:染付	肥前
153-14	SE33	陶器	皿	3/4	12.1	2.8	7.3	T:黄白色やや砂質Y:灰釉E:黄瀬戸か	瀬戸・美濃
153-15	SE33	陶器	皿	1/2	12.0	2.7	7.2	T:黄白色やや砂質Y:灰釉E:黄瀬戸か	瀬戸・美濃
153-16	SE33	陶器	土瓶	破片	－	－	7.0	T:黄褐色精良Y:鉄釉B:底部に「荒川」	
153-17	SE33	陶器	擂鉢	破片	－	12.2	8.4	T:灰白色砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
153-18	SE33	陶器	行燈	1/2	－	－	－	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
154-1	SE33	陶器	擂鉢	1/4	－	15.8	13.0	T:灰色砂質Y:鉄釉	丹波
154-2	SE33	土器	皿	1/4	(11.6)	1.8	(6.4)	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
154-3	SE33	土器	皿	1/2	(11.4)	1.9	(5.9)	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
154-4	SE33	土器	焙烙	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質Y:無釉	在地
154-5	SE34	磁器	碗	1/1	10.8	6.1	4.5	T:灰白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-6	SE34	磁器	碗	2/3	(11.2)	6.0	4.1	T:灰白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-7	SE34	磁器	碗	2/3	10.7	5.8	4.3	T:灰白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-8	SE34	磁器	碗	2/3	(11.6)	6.5	4.0	T:灰白色精良Y:染付	瀬戸・美濃

第５表　陶磁器・土器一覧（6）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
154-9	SE34	磁器	碗	1/2	10.5	6.0	4.1	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-10	SE34	磁器	碗	2/3	10.7	6.3	4.1	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-11	SE34	磁器	碗	2/5	10.4	6.0	4.0	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-12	SE34	磁器	碗	3/4	8.8	5.0	3.6	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-13	SE34	磁器	碗	2/5	8.6	4.4	3.1	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
154-14	SE34	磁器	碗	1/2	10.4	6.0	5.2	T:白色精良Y:染付	肥前
154-15	SE34	陶器	碗	2/3	10.6	6.6	5.2	T:灰白色やや砂質Y:灰釉・呉須絵	瀬戸・美濃
154-16	SE34	磁器	碗	1/2	8.2	4.3	3.0	T:白色精良Y:染付	肥前
154-17	SE34	磁器	碗	1/3	(7.6)	4.8	(3.0)	T:白色精良Y:白磁	肥前
154-18	SE34	磁器	小杯	破片	6.0	－	－	T:白色精良Y:白磁・内面上絵付	肥前
154-19	SE34	磁器	小杯	破片	－	－	3.0	T:白色精良Y:染付M:高台内「玉珍」	肥前
154-20	SE34	磁器	碗	破片	(7.8)	－	－	T:白色精良Y:染付E:筒形	肥前
154-21	SE34	磁器	猪口	1/2	7.1	5.8	4.7	T:白色精良Y:染付	肥前
154-22	SE34	磁器	猪口	1/2	(7.0)	5.8	(4.6)	T:白色精良Y:染付	肥前
154-23	SE34	磁器	小杯	2/3	6.4	5.0	3.6	T:白色精良Y:染付M:高台内有り	肥前
154-24	SE34	磁器	皿	3/4	10.2	3.0	6.0	T:灰白色精良S:型作り・輪花Y:染付・口錆	肥前
154-25	SE34	磁器	蓋	1/4	(9.0)	4.4	－	T:灰白色精良Y:青磁	肥前
155-1	SE34	磁器	蓋	1/2	(11.6)	3.4	－	T:白色精良Y:染付	肥前
155-2	SE34	磁器	蓋	一部欠	9.2	3.0	－	T:白色精良Y:染付M:内面「大明年製」	肥前
155-3	SE34	陶器	碗	一部欠	8.0	4.8	4.4	T:褐色精良Y:灰釉	京都・信楽か
155-4	SE34	陶器	碗	1/2	(7.8)	4.8	2.4	T:灰白色精良Y:灰釉E:半球碗	京都・信楽
155-5	SE34	陶器	碗	1/2	(8.6)	4.8	3.0	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
155-6	SE34	陶器	灯明受皿	一部欠	12.3	2.0	5.0	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
155-7	SE34	陶器	徳利	1/2	2.1	9.9	3.8	T:灰色やや砂質S:胴部凹みY:鉄釉E:ペコカン徳利	瀬戸・美濃
155-8	SE34	陶器	擂鉢	2/3	(36.1)	14.0	16.0	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	堺
155-9	SE34	土器	焙烙	破片	－	－	－	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	在地
155-10	SE35	磁器	花瓶	一部欠	－	－	5.9	T:白色精良Y:染付	肥前
155-11	SE35	陶器	蓋	1/1	7.3	1.8	－	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
155-12	SE35	陶器	蓋	一部欠	10.9	1.7	－	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
155-13	SE35	陶器	双耳壺	1/3	6.8	－	－	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
155-14	SE35	土器	焼塩壺蓋	1/1	7.9	1.6	－	T:褐色砂質Y:無釉	畿内
155-15	SE35	土器	皿	1/2	8.9	1.6	4.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
155-16	SE38	磁器	小杯	破片	(6.3)	2.8	(3.0)	T:白色精良Y:白磁・内面上絵付	
155-17	SE38	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:暗灰色砂質Y:無釉	丹波
156-1	SK1	土器	皿	1/1	19.0	3.5	13.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
156-2	SK1	土器	皿	1/1	19.0	3.4	13.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
156-3	SK1	陶器	徳利	一部欠	4.0	25.4	9.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉B:外面墨書「小西」・「芝」	
156-4	SK1	陶器	徳利	一部欠	－	－	7.8	T:灰色やや砂質Y:灰釉B:外面墨書「小西」	
156-5	SK7	陶器	皿	破片	－	－	－	T:灰白色精良Y:上絵付	中国
156-6	SK7	陶器	皿	破片	－	－	－	T:灰白色精良Y:上絵付	中国
156-7	SK7	磁器	碗	破片	－	－	3.8	T:白色精良Y:染付M:高台内「大明成化年製」	肥前
156-8	SK7	陶器	香炉	1/2	14.6	9.1	15.4	T:褐色やや砂質Y:鉄釉・灰釉流しE:三足	瀬戸・美濃

第５表　陶磁器・土器一覧（7）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
156-9	SK7	陶器	花瓶	一部欠	6.2	15.8	6.0	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
156-10	SK7	陶器	擂鉢	破片	-	-	14.0	T:暗褐色Y:無釉	丹波
156-11	SK7	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:赤褐色砂質Y:無釉	丹波
157-1	SK7	土器	皿	2/3	17.4	2.8	9.2	T:淡褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
157-2	SK7	土器	皿	一部欠	12.2	2.2	7.5	T:淡褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
157-3	SK7	土器	皿	一部欠	11.9	2.3	5.9	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
157-4	SK7	土器	皿	2/3	12.0	2.5	6.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
157-5	SK7	土器	皿	1/1	12.1	2.2	6.1	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
157-6	SK7	土器	皿	一部欠	12.0	2.3	6.4	T:淡褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
157-7	SK7	土器	火鉢	破片	-	-	-	T:褐色やや砂質Y無釉	在地
157-8	SK17	磁器	碗	一部欠	10.1	5.1	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-9	SK17	磁器	碗	2/3	10.0	5.2	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-10	SK17	磁器	碗	一部欠	9.6	5.2	4.8	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-11	SK17	磁器	碗	一部欠	10.3	5.0	4.3	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-12	SK17	磁器	碗	1/2	10.1	5.1	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-13	SK17	磁器	碗	1/2	10.4	5.2	4.3	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-14	SK17	磁器	碗	2/3	10.4	5.2	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-15	SK17	磁器	碗	2/3	10.2	5.1	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-16	SK17	磁器	碗	2/3	9.6	5.1	4.0	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
157-17	SK17	磁器	碗	1/2	10.0	4.7	4.0	T:白色精良Y:染付E:外面に染付による文字有り	肥前
157-18	SK17	磁器	碗	一部欠	11.9	6.2	6.7	T:白色精良Y:染付E:広東碗	肥前
157-19	SK17	陶器	碗	一部欠	10.3	6.4	3.7	T:黄白色精良Y:灰釉・鉄絵E:小杉碗	京都・信楽
157-20	SK17	陶器	碗	一部欠	10.3	6.3	3.7	T:黄白色精良Y:灰釉・鉄絵E:小杉碗	京都・信楽
157-21	SK17	陶器	碗	一部欠	10.8	6.5	4.0	T:黄白色精良Y:灰釉・鉄・呉須絵E:小杉碗	京都・信楽
157-22	SK17	陶器	碗	一部欠	10.3	6.4	4.0	T:黄白色精良Y:灰釉・鉄・呉須絵E:小杉碗	京都・信楽
157-23	SK17	陶器	碗	1/2	(10.0)	5.8	3.3	T:黄白色精良Y:灰釉E:小杉碗	京都・信楽
157-24	SK17	陶器	碗	1/2	(10.8)	5.3	(5.4)	T:灰白色精良Y:灰釉・呉須絵M:外面に呉須による文字有り	京都・信楽
157-25	SK17	陶器	碗	一部欠	11.4	6.4	5.4	T:灰色精良Y:灰釉・白泥	瀬戸・美濃か
157-26	SK17	陶器	碗	1/2	(9.4)	5.8	4.4	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
157-27	SK17	陶器	鉢	2/3	20.5	5.2	9.2	T:灰色やや砂質Y:灰釉(白濁釉)	瀬戸・美濃
157-28	SK17	陶器	灯明皿	一部欠	10.5	2.1	5.1	T:灰色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
157-29	SK17	陶器	灯明受皿	1/1	10.4	1.9	4.9	T:灰色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
158-1	SK17	陶器	皿	2/3	19.5	4.0	8.0	T:灰色精良Y:灰釉・鉄釉擦り絵	瀬戸・美濃
158-2	SK17	陶器	皿	1/3	(31.4)	8.3	(14.2)	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-3	SK17	陶器	水注	1/2	8.4	9.2	(5.2)	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-4	SK17	陶器	蓋物容器	1/2	6.2	3.4	5.0	T:黄白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-5	SK17	陶器	蓋	1/1	5.4	1.0	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-6	SK17	陶器	蓋	1/1	14.0	3.1	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃

第５表　陶磁器・土器一覧（8）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
158-7	SK17	陶器	蓋	1/1	9.6	2.5	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-8	SK17	陶器	蓋	1/1	7.4	1.7	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-9	SK17	陶器	蓋	1/1	7.2	2.2	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-10	SK17	陶器	蓋	1/1	9.6	2.3	-	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-11	SK17	陶器	蓋	一部欠	9.1	1.6	-	T:黄白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-12	SK17	陶器	蓋	1/1	7.4	1.7	-	T:灰白色精良Y:鉄釉	瀬戸・美濃
158-13	SK17	陶器	鉢	1/2	19.5	12.4	11.0	T:黄白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-14	SK17	陶器	甕	破片	-	-	-	T:黄白色やや砂質Y:灰釉・鉄釉	瀬戸・美濃
158-15	SK17	陶器	徳利	1/1	3.8	19.1	6.3	T:灰白色やや砂質Y:灰釉M:胴部釘書	瀬戸・美濃
158-16	SK17	陶器	徳利	一部欠	4.4	19.3	6.4	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-17	SK17	陶器	徳利	2/3	4.3	20.7	6.7	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-18	SK17	陶器	徳利	一部欠	4.3	19.7	6.2	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
158-19	SK17	陶器	徳利	1/2	4.4	19.3	6.5	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
159-1	SK17	陶器	徳利	2/3	4.6	19.8	6.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
159-2	SK17	陶器	徳利	1/3	4.2	21.7	6.0	T:黄白色やや砂質Y:灰（黄）釉M:胴部釘書○に「万」	瀬戸・美濃
159-3	SK17	陶器	徳利	1/1	4.2	21.3	7.9	T:黄白色やや砂質Y:灰（黄）釉M:胴部釘書	瀬戸・美濃
159-4	SK17	陶器	徳利	一部欠	-	-	7.4	T:灰白色やや砂質Y:灰（黄）釉	瀬戸・美濃
159-5	SK17	陶器	徳利	2/3	4.5	22.5	10.0	T:灰色やや砂質Y:灰（黄）釉	瀬戸・美濃
159-6	SK17	陶器	徳利	2/3	4.7	24.6	10.8	T:灰色やや砂質Y:灰（黄）釉	瀬戸・美濃
159-7	SK17	陶器	徳利	3/4	5.4	26.2	10.4	T:黄白色やや砂質Y:灰（黄）釉	瀬戸・美濃
159-8	SK17	土器	皿	2/3	11.4	2.2	5.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
159-9	SK17	土器	皿	一部欠	9.1	1.7	5.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
159-10	SK17	土器	皿	一部欠	9.0	1.8	5.1	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
159-11	SK17	土器	皿	1/1	8.7	1.7	4.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
159-12	SK17	土器	皿	1/2	7.4	1.4	3.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:底部穿孔	在地
159-13	SK17	土器	皿	1/2	7.9	1.5	3.6	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:底部穿孔	在地
159-14	SK17	土器	皿	1/2	7.4	1.6	4.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉B:底部外面墨書有り	在地
159-15	SK17	土器	台付灯明受皿	破片	8.0	-	-	T:赤褐色精良S:ロクロY:鉛釉	在地
159-16	SK17	土器	たんころ	一部欠	5.6	1.6	3.4	T:赤褐色精良S:ロクロY:鉛釉	在地
159-17	SK17	土器	たんころ	2/3	7.6	3.0	4.0	T:赤褐色精良S:ロクロY:鉛釉	在地
159-18	SK17	土器	油差しか	破片	-	-	-	T:赤褐色精良Y:鉛釉	在地
160-1	SK17	土器	火鉢	1/3	(25.2)	13.0	(17.2)	T:褐色やや砂質Y:無釉E:三足	在地
160-2	SK17	土器	火消壺	1/3	(18.0)	19.5	(17.2)	T:褐色やや砂質Y:無釉	在地
160-3	SK17	土器	焙烙	破片	33.0	-	-	T:褐色やや砂質Y:無釉	在地
160-4	SK17	土器	焙烙	破片	34.0	-	-	T:褐色やや砂質Y:無釉	在地
160-5	SK19	陶器	皿	2/3	(11.6)	2.3	(6.5)	T:灰色やや砂質Y:灰釉E:折縁皿	瀬戸・美濃
160-6	SK35	陶器	徳利	1/3	-	-	8.5	T:暗褐色やや砂質Y:鉄釉	志戸呂
160-7	SK41	陶器	甕	一部欠	42.0	38.0	21.2	T:灰色やや砂質Y:鉄釉	丹波
160-8	SK47	磁器	皿	1/3	10.9	2.8	6.5	T:白色精良S:型作りY:染付・口錆M:高台内有りE:輪花	肥前
160-9	SK47	磁器	花瓶	破片	-	-	6.4	T:灰白色精良Y:染付	肥前

第５表　陶磁器・土器一覧（9）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
160-10	SK47	陶器	甕	破片	-	-	21.2	T:黄白色やや砂質Y:灰釉B:高台内墨書有りE:外面沈線文	瀬戸・美濃
160-11	SK47	磁器	蓋	1/1	8.2	2.4	-	T:灰色やや砂質Y:無釉	瀬戸・美濃
160-12	SK47	土器	焼塩壺	一部欠	6.5	6.6	5.6	T:褐色やや砂質S:ロクロ・底部外面回転糸切り痕Y:無釉	在地
160-13	SK47	土器	皿	1/1	9.4	1.7	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
160-14	SK47	土器	皿	1/2	9.4	1.7	5.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
161-1	SK50	陶器	鉢	破片	-	-	4.3	T:暗灰色砂質Y:灰釉・鉄絵E:唐津	肥前
161-2	SK54	土器	皿	1/3	7.8	1.3	4.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:底部穿孔	在地
161-3	SK54	土器	皿	1/2	8.6	1.9	3.8	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
161-4	SK55	陶器	蓮華	破片	-	-	-	T:灰色精良S:型作りY:灰釉か	肥前か
161-5	SK60	磁器	碗	1/4	(10.4)	4.6	(3.6)	T:白色精良Y:染付	肥前
161-6	SK60	磁器	碗	1/3	(8.1)	3.9	(3.7)	T:白色精良Y:染付	肥前
161-7	SK60	磁器	碗	1/2	11.3	63.5	4.8	T:白色精良Y:染付	肥前
161-8	SK60	磁器	碗	1/2	8.8	6.8	7.2	T:白色精良Y:染付	肥前
161-9	SK60	磁器	皿	1/2	(14.8)	4.0	8.5	T:白色精良Y:染付M:高台内有りE:蛇の目高台	肥前
161-10	SK60	磁器	皿	1/1	15.0	4.9	9.4	T:白色精良Y:染付M:高台内「大明年製」E:蛇の目高台	肥前
161-11	SK60	磁器	皿	2/3	14.8	5.0	8.6	T:白色精良Y:染付M:高台内有りE:蛇の目高台	肥前
161-12	SK60	磁器	蓋	1/2	10.0	3.1	-	T:白色精良Y:染付・コンニャク伴E:被熱	肥前
161-13	SK60	陶器	碗	一部欠	9.6	5.4	4.4	T:黄白色やや砂質Y:鉄釉・灰釉E:腰錆碗	瀬戸・美濃
161-14	SK60	陶器	碗	2/3	(9.6)	5.7	3.2	T:黄白色精良Y:灰釉	京都・信楽
161-15	SK60	陶器	碗	一部欠	9.1	5.5	2.9	T:黄白色精良Y:灰釉・上絵付	京都・信楽
161-16	SK60	陶器	土瓶	1/4	(7.6)	-	-	T:褐色精良Y:鉄釉・灰釉流し	瀬戸・美濃か
161-17	SK60	陶器	土瓶	一部欠	6.4	8.3	4.4	T:灰白色精良Y:灰釉・呉須・鉄絵	京都・信楽
161-18	SK60	陶器	土瓶？	1/3	-	-	9.4	T:黄白色精良Y:鉄釉・灰釉流し	
161-19	SK60	陶器	蓋	1/4	(6.6)	-		T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
161-20	SK60	陶器	蓋	一部欠	6.5	1.5	-	T:黄白色精良Y:灰釉	京都・信楽
161-21	SK60	陶器	蓋	一部欠	9.2	2.3	-	T:黄白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
162-1	SK60	陶器	土鍋	1/3	(19.0)	-	-	T:褐色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
162-2	SK60	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	堺
162-3	SK60	陶器	擂鉢	破片	(39.4)	16.5	(19.7)	T:暗灰色砂質Y:無釉	堺
162-4	SK60	土器	火消壺蓋	一部欠	34.5	4.7	-	T:淡褐色やや砂質Y:無釉	在地
162-5	SK60	土器	七輪	破片	-	19.0	-	T:灰色やや砂質Y:無釉E:外面スタンプ文・瓦質	在地
162-6	SK60	土器	焼塩壺	1/4	-	8.4	-	T:褐色砂質S:板作りY:無釉I:「泉州麻生」	畿内
162-7	SK60	土器	焼塩壺	1/1	6.9	8.3	4.6	T:褐色砂質S:板作りY:無釉	畿内
162-8	SK60	土器	焼塩壺	1/1	6.7	6.6	5.1	T:褐色やや砂質S:ロクロ・底部外面回転糸切り痕Y:無釉	在地
162-9	SK60	土器	皿	1/2	12.4	2.3	6.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-10	SK60	土器	皿	一部欠	11.1	2.1	6.8	T:褐色精良S:ロクロY:無釉	在地
162-11	SK60	土器	皿	1/3	(11.0)	2.1	5.4	T:褐色精良S:ロクロY:無釉	在地
162-12	SK60	土器	皿	一部欠	9.5	1.9	5.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-13	SK60	土器	皿	3/4	9.5	2.0	4.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-14	SK60	土器	皿	1/2	9.2	1.7	4.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地

第５表　陶磁器・土器一覧（10）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
162-15	SK60	土器	皿	1/1	9.3	1.5	4.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-16	SK60	土器	皿	一部欠	9.4	1.7	4.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-17	SK60	土器	皿	2/3	8.7	1.7	4.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
162-18	SK60	土器	皿	一部欠	9.5	1.7	4.8	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:底部穿孔	在地
162-19	SK60	土器	灯明受皿	一部欠	10.9	3.0	4.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:その他	在地
162-20	SK64	陶器	皿	1/3	(12.6)	2.3	7.0	T:灰褐色砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
163-1	SK67	磁器	小杯	1/2	(6.0)	2.9	2.7	T:白色精良Y:白磁	肥前
163-2	SK67	陶器	徳利	破片	－	－	6.8	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
163-3	SK67	土器	七輪		21.2	19.5	18.0	T:褐色やや砂質Y:無釉E:瓦質・表面光沢	在地
163-4	SK68	磁器	碗	一部欠	8.0	3.9	4.1	T:白色精良Y:呉須・印判手	瀬戸・美濃か
163-5	SK68	磁器	皿	2/3	15.4	3.0	8.6	T:白色精良Y:コバルト・印判手	瀬戸・美濃か
163-6	SK68	磁器	皿	1/1	11.6	2.4	6.9	T:白色精良Y:白磁	
163-7	SK68	磁器	皿	一部欠	12.8	3.1	7.3	T:白色精良S:型作りY:染付・口錆	肥前
163-8	SK68	磁器	蓋	3/4	10.6	2.1	－	T:白色精良Y:コバルト・印判手	
163-9	SK68	磁器	蓋	1/1	8.0	3.3	－	T:白色精良Y:染付	肥前
163-10	SK68	陶器	蓋	一部欠	5.5	－	－	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃か
163-11	SK68	陶器	碗	1/3	7.0	3.9	3.0	T:灰白色砂質Y:鉄（黄）釉	瀬戸・美濃
163-12	SK68	陶器	皿	一部欠	9.9	1.3	6.6	T:黄白色精良S:型作りY:黄色釉E:内面押型文	京都か
163-13	SK68	陶器	徳利	一部欠	2.9	13.9	6.1	T:灰色やや砂質Y:鉄釉E:ペコカン徳利	瀬戸・美濃
163-14	SK68	陶器	徳利	2/3	2.8	8.4	4.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉M:胴部に鉄釉文字「天金」・「銀四」	
163-15	SK68	陶器	甕	一部欠	12.0	8.6	8.0	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	
163-16	SK68	陶器	蓋	2/3	8.6	2.2	－	T:暗赤褐色精良Y:無釉E:底部焼成前穿孔	
163-17	SK68	陶器	蓋	1/1	10.0	4.2	－	T:黄白色やや砂質Y:白釉・呉須絵	
163-18	SK68	陶器	蓋	1/1	13.0	3.9	－	T:灰色精良Y:白釉・呉須絵	瀬戸・美濃か
163-19	SK68	陶器	土瓶	1/2	6.3	9.6	7.0	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃か
163-20	SK68	陶器	土瓶	1/2	9.0	9.3	8.0	T:灰色精良Y:灰釉/白釉・鉄釉・銅緑釉文様	
164-1	SK68	陶器	急須	2/3	(7.1)	7.6	(6.8)	T:赤褐色精良Y:無釉	
164-2	SK68	陶器	急須	1/3	(7.2)	8.7	(7.0)	T:暗灰色精良Y:無釉E:器面押型文E:万古焼系	
164-3	SK68	陶器	土瓶	2/3	6.8	9.1	6.8	T:暗褐色精良Y:無釉	
164-4	SK68	陶器	擂鉢	一部欠	36.8	13.0	16.5	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	泉州堺
164-5	SK68	土器	火鉢	一部欠	20.5	17.6	20.9	T:暗灰色砂質Y:無釉E:外面押型文・瓦質	在地
164-6	SK68	土器	火鉢	一部欠	11.8	9.1	17.2	T:灰色やや砂質Y:無釉E:外面押型文・瓦質	在地
164-7	SK72	磁器	碗	破片	－	－	－	T:白色精良Y:染付	肥前
164-8	SK75	陶器	鉢	1/2	23.8	5.4	11.4	T:灰色やや砂質S:型作りY:灰釉E:輪花	瀬戸・美濃
164-9	SK75	土器	台付灯明受皿	一部欠	8.3	7.3	8.0	T:褐色やや砂質Y:鉛釉E:受部煤付着	在地
164-10	SK93	土器	土鍋	破片	－	－	－	T:黄灰色やや砂質Y:無釉	伊勢系
164-11	SK94	陶器	皿	1/2	(12.6)	2.3	(7.6)	T:灰白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
164-12	SK138	磁器	小杯	3/4	5.4	3.0	2.1	T:白色精良Y:白磁	
164-13	SK138	磁器	小杯	一部欠	5.7	3.1	2.1	T:白色精良Y:染付	
164-14	SK142	土器	皿	1/1	7.2	1.1	4.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地

第５表　陶磁器・土器一覧（11）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
165-1	SM1	陶器	碗	1/3	(13.6)	8.0	(5.0)	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
165-2	SM1	陶器	碗	2/3	9.4	4.7	4.2	T:黄白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
165-3	SM1	陶器	碗	破片	－	－	6.9	T:灰色砂質Y:灰釉か	肥前か
165-4	SM1	陶器	皿	2/3	11.8	2.5	7.0	T:黄白色やや砂質Y:長石釉(黄釉)	瀬戸・美濃
165-5	SM1	陶器	皿	一部欠	12.4	2.4	7.1	T:黄白色やや砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
165-6	SM1	陶器	皿	一部欠	12.2	2.4	7.0	T:黄白色やや砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
165-7	SM1	陶器	皿	一部欠	12.1	2.6	7.5	T:黄白色やや砂質Y:長石釉（黄釉）・内面銅緑釉掛け	瀬戸・美濃
165-8	SM1	陶器	皿	1/3	－	－	－	T:灰白色やや砂質Y:灰釉（銅緑釉か）・鉄絵	瀬戸・美濃
165-9	SM1	陶器	壺	破片	11.2	－	－	T:黒褐色精良Y:鉄釉か	
165-10	SM1	陶器	壺	1/4	10.8	－	－	T:灰色砂質Y:鉄釉か（白濁）	
165-11	SM1	陶器	擂鉢	1/3	－	15.0	－	T:灰色やや砂質Y:鉄釉	丹波
165-12	SM1	陶器	擂鉢	1/3	(36.6)	15.0	(15.4)	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	丹波
165-13	SM1	土器	皿	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:一部金箔付着	在地
165-14	SM1	土器	皿	2/3	8.3	2.2	4.8	T:褐色砂質S:ロクロY:無釉	在地
165-15	SM1	土器	皿	3/4	10.9	2.0	7.1	T:灰褐色精良S:ロクロY:無釉	在地
165-16	SM1	土器	皿	3/4	11.6	1.9	7.4	T:灰白色精良S:手づくねY:無釉	畿内か
165-17	SM1	土器	皿	3/4	12.2	3.1	6.7	T:灰白色精良S:手づくねY:無釉	畿内か
165-18	SM1	土器	焼塩壺	一部け	6.2	8.8	5.0	T:褐色砂質S:輪積みY:無釉	畿内
166-1	SM2	磁器	碗	1/2	10.3	5.5	4.4	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
166-2	SM2	磁器	碗	2/3	9.8	5.2	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
166-3	SM2	磁器	碗	1/2	9.6	5.0	3.6	T:灰白色精良Y:染付・見込みコンニャク判E:くらわんか碗	肥前
166-4	SM2	磁器	碗	一部欠	10.4	4.8	3.6	T:白色精良Y:染付	肥前
166-5	SM2	磁器	碗	1/3	(7.3)	5.5	4.1	T:白色精良Y:染付・見込みコンニャク判E:筒形碗	肥前
166-6	SM2	磁器	小杯	2/3	(6.8)	4.7	3.3	T:白色精良Y:染付M:高台内「五良○呉祥瑞造」	
166-7	SM2	磁器	小杯	1/4	(7.0)	3.1	(2.7)	T:白色精良Y:染付	肥前
166-8	SM2	磁器	皿	2/3	24.2	3.8	12.2	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃か
166-9	SM2	磁器	瓶	3/5	－	－	9.3	T:白色精良Y:染付	肥前
166-10	SM2	磁器	瓶	2/3	－	－	5.1	T:白色精良Y:染付	肥前
166-11	SM2	陶器	碗	1/2	10.0	6.0	3.5	T:灰白色精良Y:灰釉E:小杉碗	京都・信楽
166-12	SM2	陶器	碗	2/3	9.2	5.1	3.6	T:灰白色精良Y:灰釉・鉄絵・呉須絵E:小杉碗	京都・信楽
166-13	SM2	陶器	鉢	1/2	27.4	11.0	19.2	T:黄白色やや砂質Y:灰釉・銅緑釉E:三足	瀬戸・美濃
166-14	SM2	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:暗赤褐色やや砂質Y:無釉	泉州堺
166-15	SM2	土器	皿	1/1	10.0	2.2	6.0	T:褐色砂質S:ロクロY:無釉	在地
166-16	SM3	磁器	碗	1/3	(11.2)	5.6	4.4	T:白色精良Y:染付・印判手	肥前
166-17	SM3	磁器	碗	1/2	10.2	5.4	3.6	T:白色精良Y:染付	肥前
166-18	SM3	磁器	小杯	1/3	(7.8)	3.1	2.9	T:白色精良Y:白磁	肥前
166-19	SM3	磁器	香炉	破片	－	－	－	T:白色精良Y:青磁	肥前
166-20	SM3	陶器	碗	破片	(9.0)	5.7	3.0	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
166-21	SM3	陶器	灯明受皿	一部欠	11.2	2.9	4.9	T:褐色精良Y:鉄錆釉	瀬戸・美濃
166-22	SM3	陶器	鬢水入	2/3	10.6（長径）	4.0	9.9	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
166-23	SM3	陶器	土鍋か	破片	－	－	5.8	T:灰色精良B:底部墨書有り	

第５表　陶磁器・土器一覧（12）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
166-24	SM3	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:暗赤褐色やや砂質Y:無釉	泉州堺
167-1	SM4	磁器	碗	破片	－	－	4.5	T:白色精良Y:染付	肥前
167-2	SM4	陶器	皿	1/2	(6.5)	1.3	(3.5)	T:白色精良Y:染付	肥前
167-3	SM4	磁器	小瓶	一部欠	－	－	2.8	T:白色精良Y:染付	肥前
167-4	SM4	陶器	双耳壺	1/1	5.2	6.9	5.4	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
167-5	SM4	陶器	鍋	1/3	22.0	9.9	9.5	T:灰白色精良Y:鉄釉E:三足	瀬戸・美濃
167-6	SM4	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:暗赤褐色砂質Y:無釉	泉州堺
167-7	SP183	磁器	梅瓶か	破片	－	－	－	T:灰白色精良Y:青白磁かE:被熱	中国か
167-8	SP207	土器	皿	1/2	12.1	2.5	6.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
167-9	SP348	磁器	急須	1/2	(6.4)	5.5	(6.5)	T:白色精良Y:染付	
167-10	SP361	土器	皿	1/2	6.5	1.1	3.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
167-11	SP392	土器	焼塩壺蓋	破片	(7.2)	1.5	－	T:褐色砂質Y:無釉	畿内
167-12	SS2	陶器	碗か	破片	－	－	3.4	T:灰白色やや砂質Y:灰釉B:高台内墨書	京都・信楽
167-13	SS2	陶器	土瓶	破片	6.0	－	－	T:灰色やや砂質Y:上絵付	
167-14	SS4	磁器	碗	一部欠	10.3	5.3	4.2	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
167-15	SS4	磁器	碗	1/2	(10.2)	4.9	3.6	T:白色精良Y:染付E:半球碗	肥前
167-16	SS4	磁器	碗	1/2	9.9	4.9	3.3	T:白色精良Y:染付（文字）	肥前
167-17	SS4	陶器	碗	破片	－	－	－	T:黄白色やや砂質Y:灰釉B:墨書高台内に有り	瀬戸・美濃
167-18	SS13	磁器	碗	1/2	(10.4)	4.5	3.5	T:白色精良Y:染付	肥前
167-19	SS13	磁器	碗	2/3	10.8	5.0	3.4	T:白色精良Y:染付	肥前
167-20	SS13	磁器	鉢	破片	12.0	－	－	T:白色精良Y:染付E:高高台	肥前
167-21	SS13	磁器	皿	3/4	14.7	4.3	9.2	T:白色精良Y:染付M:高台内有りE:蛇の目高台	肥前
167-22	SS13	陶器	碗	1/4	(8.8)	5.3	3.6	T:灰白色精良Y:灰釉E:小杉碗	京都・信楽
167-23	SS13	陶器	皿	一部欠	7.6	1.9	3.6	T:灰白色やや砂質S:型作りY:灰釉	瀬戸・美濃
167-24	SS13	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:暗赤褐色Y:無釉	泉州堺
167-25	SS13	陶器	灯明受皿	1/1	7.4	1.8	3.2	T:灰白色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
167-26	SS13	土器	焼塩壺蓋	1/1	8.4	2.1	－	T:褐色砂質Y:無釉	畿内
168-1	SX12	磁器	碗	一部欠	7.4	5.2	4.6	T:灰白色精良Y:染付M:口台内有り（鉄釉か）E:筒形碗	肥前
168-2	SX12	磁器	碗	一部欠	6.3	6.6	3.2	T:灰白色精良Y:染付	肥前か
168-3	SX12	磁器	碗	3/4	5.1	5.7	3.2	T:白色精良Y:コバルト釉	瀬戸・美濃か
168-4	SX12	磁器	合子	1/1	5.6	2.5	3.6	T:白色精良Y:コバルト釉・印判手	
168-5	SX12	磁器	土瓶	1/1	8.8	11.3	8.4	T:白色精良Y:コバルト釉	
168-6	SX12	磁器	土瓶蓋	1/1	8.4	2.8	－	T:白色精良Y:コバルト釉	
168-7	SX12	陶器	植木鉢	1/4	15.4	5.5	10.8	T:褐色砂質Y:長石釉かE:三足	
168-8	SX12	陶器	植木鉢	1/4	14.6	6.3	8.6	T:暗赤褐色精良Y:鉄釉	
168-9	SX14	土器	土鍋	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質S:外面ヘラ削りY:無釉	伊勢系
168-10	SX15	陶器	甕	1/1	27.0	27.0	21.0	T:褐色やや砂質Y:無釉	丹波か
168-11	SX15	土器	壺	破片	(10.0)	－	－	T:赤褐色砂質Y:無釉E:三筋壺	
168-12	SX17	陶器	皿	2/3	11.2	2.6	5.8	T:灰色やや砂質S:内面菊削ぎY:灰釉E:折縁菊皿	瀬戸・美濃
168-13	SX21	磁器	碗	4/5	11.2	5.6	4.4	T:白色精良Y:染付M:高台内「宣明年製」	肥前
168-14	SX21	陶器	碗	1/4	(12.2)	6.6	5.4	T:黄白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃か

第５表　陶磁器・土器一覧（13）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
168-15	SX21	陶器	香炉	4/5	13.1	8.5	8.4	T:黄白色やや砂質Y:灰釉・一部鉄釉流しE:三足	瀬戸・美濃
168-16	SX21	陶器	香炉	破片	－	－	(9.0)	T:暗赤褐色やや砂質Y:染付E:陶胎染付	肥前
168-17	SX21	土器	皿	一部欠	10.0	2.3	4.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
168-18	SX21	土器	皿	一部欠	11.6	2.1	6.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
168-19	SX21	土器	皿	一部欠	11.4	2.2	5.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
168-20	SX22	土器	土鍋	破片	(26.0)	－	－	T:褐色やや砂質S:外面ヘラ削りY:無釉E:外面煤付着	伊勢系
168-21	SX23	磁器	碗	1/3	(9.0)	4.5	3.8	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃か
168-22	SX23	磁器	小杯	1/1	5.8	2.5	2.3	T:白色精良Y:染付・印判手かM:高台内「大豊楼」	
168-23	SX23	磁器	皿	1/1	9.7	2.0	5.3	T:白色精良Y:白磁	瀬戸・美濃か
168-24	SX23	磁器	急須	1/2	4.2	－	－	T:白色精良Y:白磁・鉄絵	肥前か
168-25	SX23	陶器	小杯	1/2	7.4	3.6	3.2	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
168-26	SX23	陶器	土鍋	一部欠	15.9	6.9	7.4	T:褐色精良Y:鉄釉	
169-1	SX23	陶器	土瓶	一部欠	7.4	5.9	7.5	T:褐色精良Y:無釉	万古焼系
169-2	SX23	土器	植木鉢	3/4	13.5	8.1	8.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:底部焼成前穿孔・瓦質	在地
169-3	SX28	陶器	碗	2/5	(9.0)	4.6	4.0	T:灰色やや砂質Y:鉄釉・灰釉流し	瀬戸・美濃
169-4	SX28	陶器	皿	一部欠	11.3	2.3	7.1	T:灰色やや砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
169-5	SX28	陶器	香炉	破片	(13.6)	4.2	(12.0)	T:灰白色やや砂質Y:灰釉・一部銅緑釉流しか	瀬戸・美濃
169-6	SX28	土器	焼塩壺	一部欠	5.2	7.9	4.2	T:褐色砂質S:輪積みY:無釉	畿内
169-7	SX26	磁器	香炉	1/2	12.4	7.2	12.6	T:白色精良S:Y:染付E:焼継有り	肥前
169-8	SX26	陶器	壺	一部欠	30.0	88.4	25.2	T:褐色砂質Y:無釉	信楽
169-9	SX30	陶器	仏花瓶	破片	－	－	10.0	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
169-10	SX33	磁器	小杯	1/3	(5.4)	4.0	(2.5)	T:白色精良Y:コバルト釉	
169-11	SX33	磁器	皿	一部欠	11.8	2.3	6.2	T:白色精良S:型作りY:外青磁・内面コバルト釉・印判手	
169-12	SX37	磁器	碗	2/3	10.4	5.5	4.2	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃
170-1	SX31	陶器	皿	1/2	(11.8)	2.4	7.9	T:黄白色砂質Y:長石釉・鉄絵	瀬戸・美濃
170-2	SX31	陶器	瓶か	破片	－	－	6.6	T:褐色やや砂質Y:鉄釉	瀬戸・美濃
170-3	SX31	陶器	壺	破片	(8.0)	－	－	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃か
170-4	SX31	陶器	盤	破片	－	－	－	T:褐色砂質Y:鉄釉	丹波か
170-5	SX31	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:灰色やや砂質Y:無釉	丹波
170-6	SX31	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:灰色やや砂質Y:無釉	丹波
170-7	SX31	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質Y:無釉	丹波
170-8	SX31	土器	焼塩壺	一部欠	(5.2)	9.3	5.7	T:赤褐色やや砂質S:手づくねY:無釉I:「三名戸〇〇〇」	畿内
170-9	SX31	土器	焼塩壺	1/2	6.0	－	－	T:赤褐色やや砂質S:手づくねY:無釉I:「三名戸久兵衛」	畿内
170-10	SX31	土器	焼塩壺	破片	(7.2)	－	－	T:赤褐色やや砂質S:手づくねY:無釉I:「三〇〇久兵衛」	畿内
170-11	SX31	土器	皿	1/1	16.3	2.9	8.5	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
170-12	SX31	土器	皿	1/3	(14.2)	2.7	7.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
170-13	SX31	土器	皿	1/3	(11.3)	2.3	(5.2)	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
170-14	SX31	土器	皿	1/2	12.2	2.5	6.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
170-15	SX31	土器	皿	2/3	11.5	2.1	7.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地

第５表　陶磁器・土器一覧（14）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
170-16	SX31	土器	皿	2/3	9.9	2.8	6.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
170-17	SX31	土器	皿	1/1	9.0	2.0	5.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
170-18	SX31	土器	皿	一部欠	9.2	1.9	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-1	SX32	土器	皿	1/2	13.6	2.7	(7.2)	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-2	SX32	土器	皿	1/1	13.5	2.7	7.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-3	SX32	土器	皿	1/1	13.3	2.4	6.9	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-4	SX32	土器	皿	1/1	13.0	2.5	7.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-5	SX32	土器	皿	1/1	13.9	2.6	8.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-6	SX32	土器	皿	1/1	13.6	2.5	8.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
171-7	SX32	土器	皿	1/1	13.9	2.7	8.1	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-1	SX32	土器	皿	1/1	13.9	2.3	8.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-2	SX32	土器	皿	1/1	14.0	2.6	7.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-3	SX32	土器	皿	1/1	13.6	2.3	8.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-4	SX32	土器	皿	1/1	14.0	2.5	8.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-5	SX32	土器	皿	1/1	13.8	2.6	8.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-6	SX32	土器	皿	1/1	14.0	2.5	8.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
172-7	SX32	土器	皿	一部欠	13.8	2.5	8.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-1	SX32	土器	皿	1/1	13.6	2.3	8.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-2	SX32	土器	皿	1/1	13.8	2.5	7.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-3	SX32	土器	皿	1/1	13.8	2.6	7.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-4	SX32	土器	皿	1/1	13.7	2.5	8.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-5	SX32	土器	皿	1/1	13.6	2.6	8.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
173-6	SX32	土器	皿	1/1	13.4	2.7	7.9	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
174-1	SX39	土器	皿	一部欠	14.0	2.8	8.0	T褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
174-2	SX45	土器	土鍋	破片	－	－	－	T:褐色やや砂質Y:無釉E:外面煤付着	伊勢系
174-3	SX50	磁器	小杯	1/2	7.0	5.0	3.4	T:白色精良Y:染付	
174-4	SX50	陶器	湯たんぽ	1/2	2.1（短軸）	10.0	－	T:黄白色精良S:型作りかY:鉄釉	
174-5	SX52	磁器	小杯	2/3	(5.0)	4.0	3.1	T:白色精良Y:コバルト釉・印判手M:高台内「美園製造」	
174-6	SX69	磁器	皿	2/3	(10.4)	2.2	6.3	T:白色精良Y:染付	肥前
174-7	SX69	陶器	蓋	1/4	(11.4)	3.0	－	T:灰色やや砂質Y:鉄釉かE:外面渦巻状沈線文	瀬戸・美濃か
174-8	SX69	土器	皿	一部欠	9.3	1.6	4.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
174-9	SX73	磁器	碗	1/3	(9.6)	5.0	4.7	T:白色精良Y:白磁	肥前
174-10	SX73	磁器	鉢	破片	14.9	4.7	(7.6)	T:灰白色精良Y:染付（青花）	中国
174-11	SX73	磁器	鉢	1/3	(14.6)	4.6	(7.2)	T:白色精良Y:染付（青花）E:被熱	中国
174-12	SX73	磁器	鉢	破片	(14.2)	4.7	(6.9)	T:白色精良Y:染付（青花）E:被熱	中国
174-13	SX73	磁器	皿	破片	14.3	4.6	6.8	T:白色精良Y:染付（青花）E:被熱	中国
174-14	SX73	磁器	皿	破片	－	－	－	T:白色精良Y:染付（青花）	中国
174-15	SX73	磁器	皿	破片	－	－	－	T:白色精良Y:染付（青花）E:輪花	中国
174-16	SX73	磁器	皿	破片	(20.2)	4.1	(12.6)	T:白色精良Y:染付（青花）	中国
174-17	SX73	磁器	香炉	1/3	(5.0)	－	－	T:白色精良Y:染付E:被熱	肥前か
174-18	SX73	磁器	壺	1/2	4.0	7.1	4.5	T:白色精良Y:白磁E:被熱	肥前か
174-19	SX73	陶器	碗	一部欠	8.4	5.5	4.4	T:黄白色やや砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
174-20	SX73	陶器	小杯	3/4	7.0	3.2	2.8	T:黄白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
174-21	SX73	陶器	皿	1/3	(12.8)	2.8	8.0	T:灰色砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃

第５表　陶磁器・土器一覧（15）

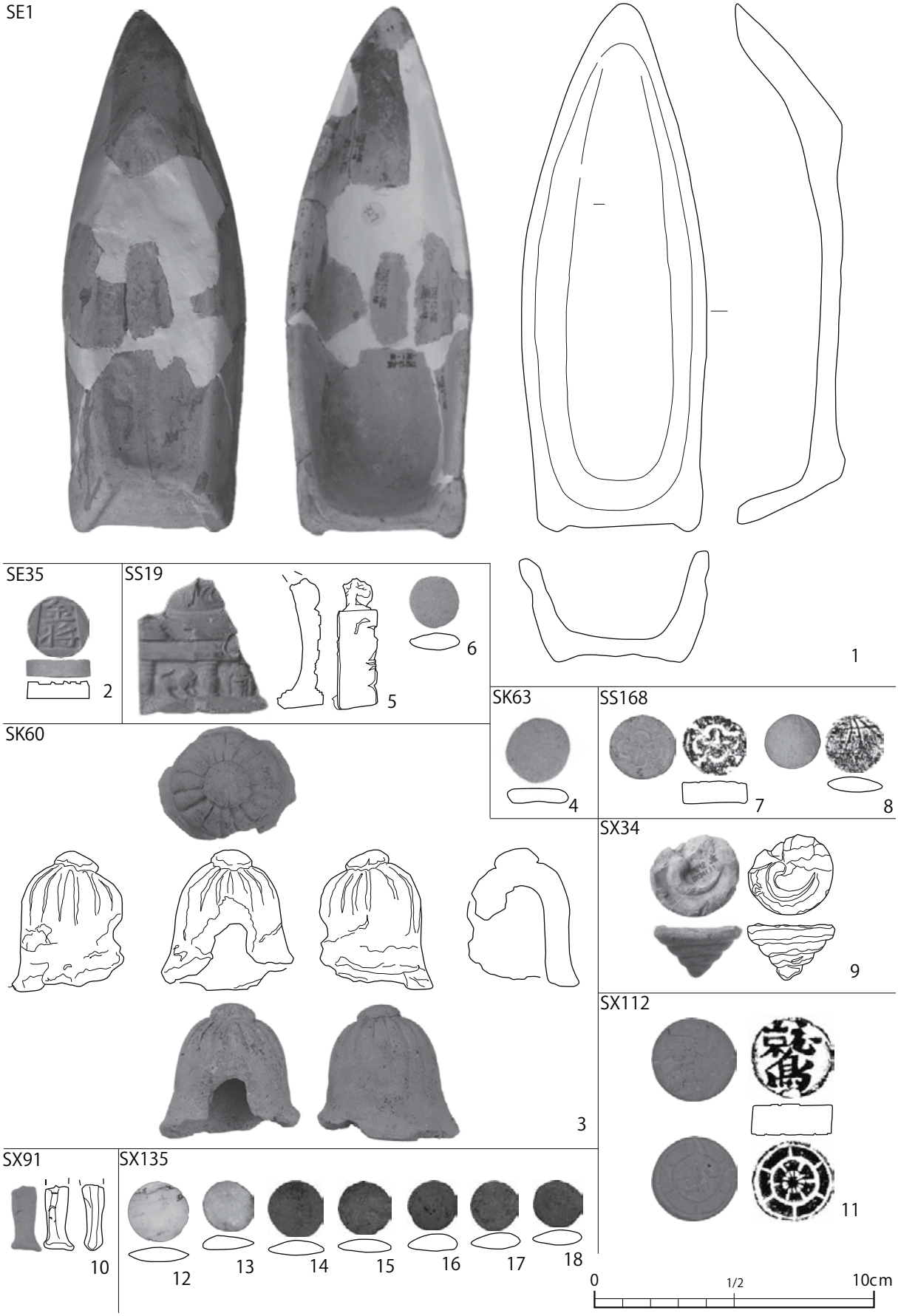
挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
174-22	SX73	陶器	皿	1/3	(11.2)	2.3	(7.0)	T:灰色砂質Y:長石釉	瀬戸・美濃
175-1	SX73	陶器	尿瓶	1/2	-	-	14.3	T:灰色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃か
175-2	SX73	陶器	鉢	1/4	23.0	6.4	7.6	T:暗灰色やや砂質Y:灰釉	肥前
175-3	SX73	陶器	香炉	1/5	13.8	6.7	7.8	T:灰色精良Y:灰釉E:三足	瀬戸・美濃か
175-4	SX73	陶器	壺	1/3	(5.1)	-	-	T:白色精良Y:白磁E:被熱	
175-5	SX73	陶器	擂鉢	破片	-	-	-	T:黒褐色砂質Y:無釉	丹波か
175-6	SX73	土器	焼塩壺蓋	1/1	7.5	2.4	-	T:黄褐色砂質Y:無釉	畿内
175-7	SX73	土器	皿	一部欠	11.9	2.4	7.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
175-8	SX73	土器	皿	2/3	10.0	1.9	5.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
175-9	SX73	土器	皿	1/3	(10.6)	1.8	(5.8)	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:口縁部煤付着	在地
175-10	SX73	土器	皿	一部欠	8.2	1.5	4.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
175-11	SX75	土器	焼塩壺蓋	一部欠	8.1	1.7	-	T:褐色砂質Y:無釉	畿内
175-12	SX76	磁器	皿	1/2	9.6	2.1	5.6	T:白色精良S:型作りY:染付M:高台内有り	肥前
175-13	SX91	磁器	花瓶	破片	-	-	(6.9)	T:白色精良Y:青磁	肥前
175-14	SX94	磁器	鉢	破片	-	-	5.2	T:灰白色精良Y:青磁E:見込みに型押し双魚文	中国か
175-15	SX100	陶器	仏花瓶	破片	-	-	(8.2)	T:灰白色やや砂質Y:灰釉	瀬戸・美濃
176-1	SX110	磁器	小杯	1/2	(7.6)	3.2	2.9	T:白色精良Y:染付	瀬戸・美濃か
176-2	SX110	磁器	小杯	1/2	6.8	5.0	3.3	T:白色精良Y:白磁	
176-3	SX110	磁器	皿	3/4	9.2	1.6	4.0	T:白色精良Y:白磁	
176-4	SX110	陶器	植木鉢か	1/1	13.5	3.0	13.0	T:黄白色精良Y:灰釉か	
176-5	SX112	陶器	灯明受皿	3/4	10.9	1.7	4.4	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
176-6	SX120	磁器	碗	2/3	10.6	4.8	3.9	T:灰白色精良Y:染付	肥前
176-7	SX126	磁器	碗	2/3	(10.2)	(4.6)	4.0	T:灰白色精良Y:染付	肥前
176-8	SX126	磁器	碗	3/4	8.3	3.8	3.0	T:灰白色精良Y:染付	肥前
176-9	SX126	磁器	合子	一部欠	5.6	2.0	5.5	T:灰白色精良Y:染付	肥前
176-10	SX126	陶器	碗	1/4	(8.3)	5.2	(3.6)	T:灰白色精良Y:灰釉E:小杉碗	京都・信楽
176-11	SX126	陶器	灰落とし	1/1	5.0	6.5	5.4	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
176-12	SX126	土器	灯明受皿	2/3	11.4	3.0	5.7	T:褐色やや砂質Y:無釉	在地
176-13	SX126	土器	皿	一部欠	13.1	2.4	6.8	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-14	SX126	土器	皿	一部欠	11.6	2.0	6.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-15	SX126	土器	皿	2/3	11.4	2.0	6.1	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-16	SX126	土器	皿	一部欠	9.7	1.6	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-17	SX126	土器	皿	一部欠	9.7	1.6	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-18	SX126	土器	皿	3/4	9.8	1.6	4.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-19	SX126	土器	皿	一部欠	9.5	1.6	4.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-20	SX126	土器	皿	3/4	8.4	1.8	3.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-21	SX126	土器	皿	3/4	9.3	1.8	4.8	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-22	SX126	土器	皿	一部欠	9.7	1.8	4.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-23	SX126	土器	皿	2/3	9.4	1.8	5.3	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-24	SX126	土器	皿	3/4	8.0	1.3	4.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-25	SX126	土器	皿	1/1	7.6	1.4	3.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-26	SX127	磁器	香炉	1/2	10.2	7.8	7.0	T:灰色精良Y:青磁	肥前
176-27	SX127	陶器	碗	破片	-	-	5.1	T:黄白色精良Y:灰釉	肥前

第５表　陶磁器・土器一覧（16）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
176-28	SX127	陶器	香炉	2/3	10.2	6.9	7.5	T:黄褐色やや砂質Y:鉄釉・白濁釉E:三足	瀬戸・美濃
176-29	SX127	土器	皿	一部欠	11.3	1.4	5.9	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-30	SX127	土器	皿	1/1	10.0	1.7	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-31	SX128	磁器	鉢	1/3	9.4	5.3	4.8	T:白色精良Y:染付・上絵付E:口縁部無釉	肥前
176-32	SX128	磁器	碗	1/3	7.9	5.8	4.2	T:白色精良Y:染付	肥前
176-33	SX128	磁器	小杯	2/5	6.9	5.1	3.2	T:白色精良Y:染付	肥前
176-34	SX128	磁器	碗	3/4	7.2	5.5	3.6	T:白色精良Y:染付・内底面コンニャク版E:筒形碗	肥前
176-35	SX128	磁器	蓋	3/4	9.6	2.4	－	T:白色精良Y:染付	肥前
176-36	SX128	土器	灯明受皿	一部欠	7.5	1.7	3.4	T:赤褐色精良Y:鉛釉	在地
176-37	SX128	土器	灯明台付受皿	一部欠	6.8	6.7	6.8	T:赤褐色精良Y:鉛釉	在地
176-38	SX129	土器	皿	1/1	9.4	1.8	5.0	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
176-39	SX130	磁器	小杯	1/3	7.0	5.7	3.6	T:白色精良Y:染付	
176-40	SX132	磁器	碗	1/1	9.8	5.5	4.1	T:灰白色精良Y:染付E:くらわんか碗	肥前
176-41	SX132	磁器	碗	3/5	9.4	4.7	3.7	T:白色精良Y:上絵付E:端反碗	肥前
176-42	SX132	磁器	碗	2/3	9.2	5.1	4.8	T:白色精良Y:染付E:広東碗	肥前
176-43	SX132	磁器	碗	3/5	11.0	5.7	4.6	T:灰白色精良Y:染付E:腰張碗	肥前
176-44	SX132	磁器	皿	一部欠	10.5	2.1	5.7	T:灰白色精良Y:染付・口錆	肥前
177-1	SX132	磁器	皿	3/5	10.5	2.1	6.0	T:白色精良S:型作りY:染付E:輪花	肥前
177-2	SX132	磁器	水滴	3/4	9.1	3.1	－	T:白色精良S:型作りY:染付	肥前
177-3	SX132	陶器	碗	4/5	9.3	5.1	3.0	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
177-4	SX132	陶器	碗	3/5	9.0	4.9	3.2	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
177-5	SX132	陶器	碗	4/5	9.2	5.0	3.4	T:灰白色精良Y:灰釉	京都・信楽
177-6	SX132	陶器	碗	1/1	6.2	3.6	3.0	T:灰色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃
177-7	SX132	陶器	碗	1/2	11.7	3.9	3.9	T:黄白色精良Y:灰釉	京都・信楽
177-8	SX132	陶器	灯明皿	3/5	12.0	2.7	5.6	T:灰色精良Y:鉄釉	瀬戸・美濃
177-9	SX132	陶器	灯明受皿	一部欠	11.0	1.8	5.0	T:灰色精良Y:鉄釉	瀬戸・美濃
177-10	SX132	陶器	蓋	一部欠	12.4	2.9	5.5	T:灰白色精良Y:灰釉	
177-11	SX132	陶器	蓋	一部欠	6.7	2.1	－	T:灰白色精良Y:灰釉	
177-12	SX132	陶器	仏花瓶	3/4	－	－	6.9	T:灰白色精良Y:灰釉・鉄釉	瀬戸・美濃
177-13	SX132	陶器	徳利	4/5	3.9	23.2	10.6	T:灰白色やや砂質Y:灰釉（黄釉）E:外面釘書有り	瀬戸・美濃
177-14	SX132	土器	焼塩壺	2/3	6.4	6.5	5.2	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-15	SX132	土器	焼塩壺	1/3	－	－	5.4	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-16	SX132	土器	焼塩壺蓋	4/5	－	2.0	7.5	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	
177-17	SX132	土器	焼塩壺蓋	4/5	－	2.1	7.2	T:赤褐色やや砂質Y:無釉	
177-18	SX132	土器	平仄	1/1	4.2	1.4	2.7	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-19	SX132	土器	皿	1/3	(13.8)	2.3	7.5	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-20	SX132	土器	皿	1/1	7.7	1.6	3.6	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-21	SX132	土器	皿	1/1	7.6	1.4	4.1	T:赤褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
177-22	SX134	磁器	碗	2/3	8.2	5.3	3.5	T:灰白色精良Y:染付	肥前
177-23	SX134	磁器	皿	一部欠	9.5	2.3	4.8	T:灰白色精良Y:染付	肥前
177-24	SX134	磁器	皿	一部欠	10.4	2.5	5.5	T:灰白色精良Y:染付	肥前
177-25	SX135	磁器	小杯	1/2	(6.4)	2.9	2.3	T:白色精良Y:上絵付M:内面に「川吉」・「銀一」	
177-26	SX135	磁器	水滴	1/1	6.1	2.2	－	T:白色精良S:型作りかY:染付・緑色釉	

第５表　陶磁器・土器一覧（17）

挿図番号	出土遺構・層	胎質	器種	残存度	法量（単位:cm）			特徴	生産地
					a	b	c	T:胎土S:成形・調整Y:釉薬他I:刻印M:銘款B:墨書E:その他	
177-27	SX135	陶器	碗	4/5	10.2	6.1	5.2	T:灰白色精良Y:染付	肥前か
177-28	SX136	磁器	碗	一部欠	9.5	5.2	4.0	T:白色精良Y:染付	肥前
177-29	SX136	陶器	花瓶	一部欠	8.0	14.9	5.2	T:灰白色精良Y:灰釉	瀬戸・美濃か
178-1	SX137	陶器	香炉	1/2	10.4	6.2	7.0	T:灰白色精良Y:黄釉E:三足	瀬戸・美濃
178-2	SX137	陶器	擂鉢	破片	－	－	－	T:灰色砂質	丹波か
178-3	SX137	土器	灯明受皿	一部欠	12.2	2.7	6.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉E:一部煤付着	在地
178-4	SX137	土器	皿	3/4	13.6	2.8	7.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-5	SX137	土器	皿	2/3	11.8	2.4	6.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-6	SX137	土器	皿	4/5	11.8	2.1	6.2	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-7	SX137	土器	皿	2/3	11.0	2.1	6.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-8	SX137	土器	皿	2/3	11.0	2.1	6.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-9	SX139	土器	皿	4/5	11.5	2.5	5.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-10	SX139	土器	皿	3/5	11.5	2.3	5.5	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-11	SX139	土器	皿	4/5	11.9	2.4	5.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-12	SX139	土器	皿	3/4	11.6	2.3	5.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-13	SX139	土器	皿	2/3	11.6	2.5	5.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-14	SX139	土器	皿	2/3	11.7	2.5	5.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-15	SX139	土器	皿	3/4	11.5	2.5	5.7	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-16	SX139	土器	皿	2/3	11.5	2.4	5.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-17	SX139	土器	皿	2/3	11.5	2.6	5.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-18	SX139	土器	皿	1/3	11.5	2.6	5.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-19	SX151	陶器	碗	2/5	10.4	5.2	4.4	T:灰白色やや砂質Y:灰釉・呉須絵	瀬戸・美濃
178-20	SX151	陶器	香炉	3/4	10.8	6.0	8.2	T:黄白色やや砂質Y:黄釉E:半菊文	瀬戸・美濃
178-21	SX152	土器	皿	1/1	9.0	1.9	4.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-22	SX152	土器	皿	1/1	9.0	1.9	4.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-23	SX152	土器	皿	3/4	8.6	1.8	4.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-24	SX152	土器	皿	1/1	9.3	1.8	4.9	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-25	SX152	土器	皿	1/1	8.7	1.9	4.3	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-26	SX152	土器	皿	1/1	8.9	1.9	4.0	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-27	SX152	土器	皿	1/1	8.8	1.9	4.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-28	SX152	土器	皿	1/1	9.0	1.8	4.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-29	SX152	土器	皿	1/1	9.0	1.8	4.6	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-30	SX152	土器	皿	1/1	9.0	1.8	4.9	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-31	SX152	土器	皿	1/1	8.6	1.9	4.8	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-32	SX154	土器	皿	2/3	8.9	1.6	7.5	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
178-33	SX154	土器	皿	1/2	(8.8)	2.0	4.4	T:褐色やや砂質S:ロクロY:無釉	在地
179-1	SX140	陶器	甕蓋	1/1	16.2	5.1	11.0	T:灰白色精良Y:鉄釉・一部藁灰釉を三葉状に流し掛けE:内側に文字「一升　100（〃）」か	
179-2	SX140	陶器	甕	1/1	15.2	17.6	9.6	T:灰白色精良Y:鉄釉・外面藁灰釉流し掛けE:内底面目跡６ヶ所	



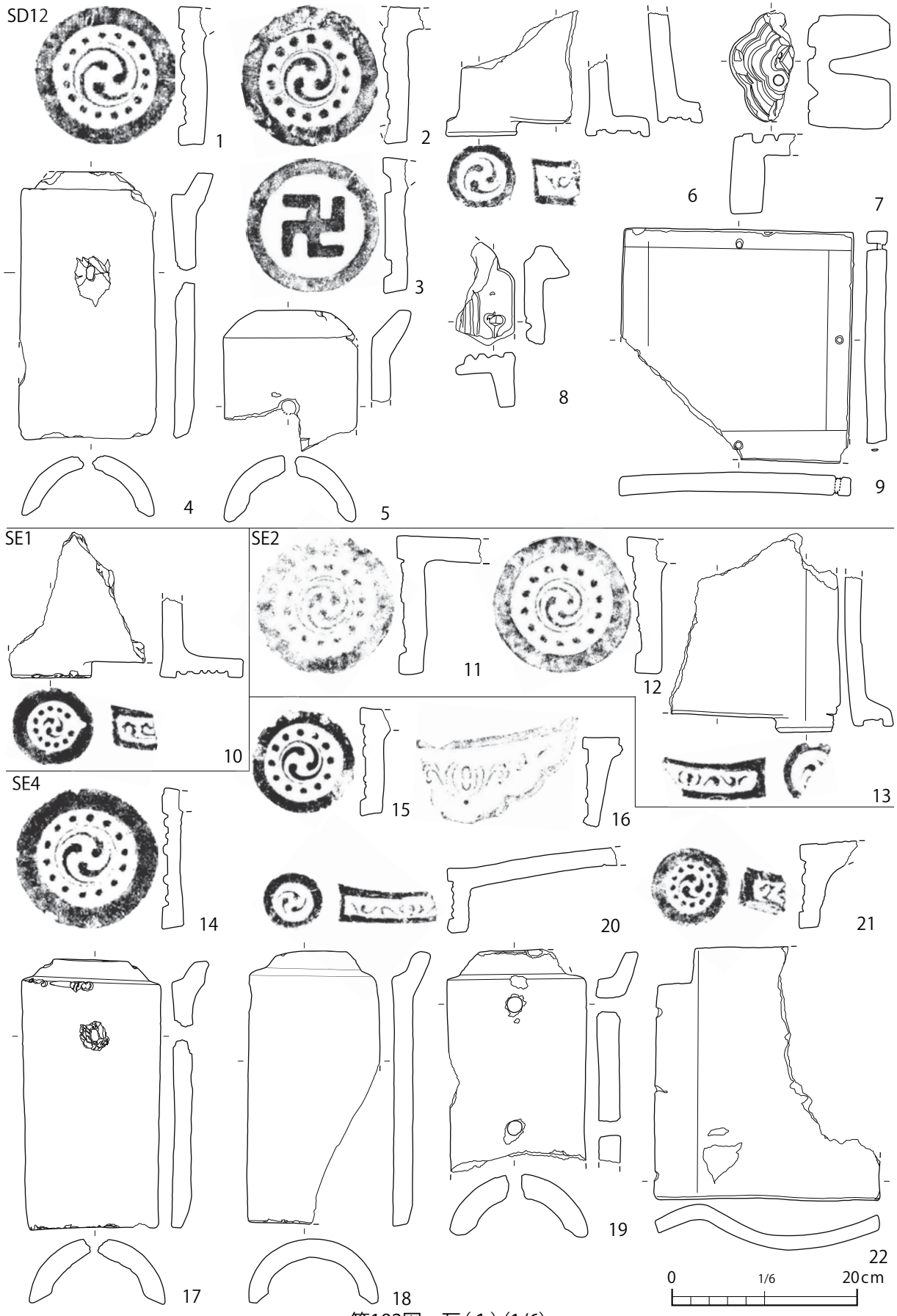
第180図　ミニチュア・土製品（1）（1/2）



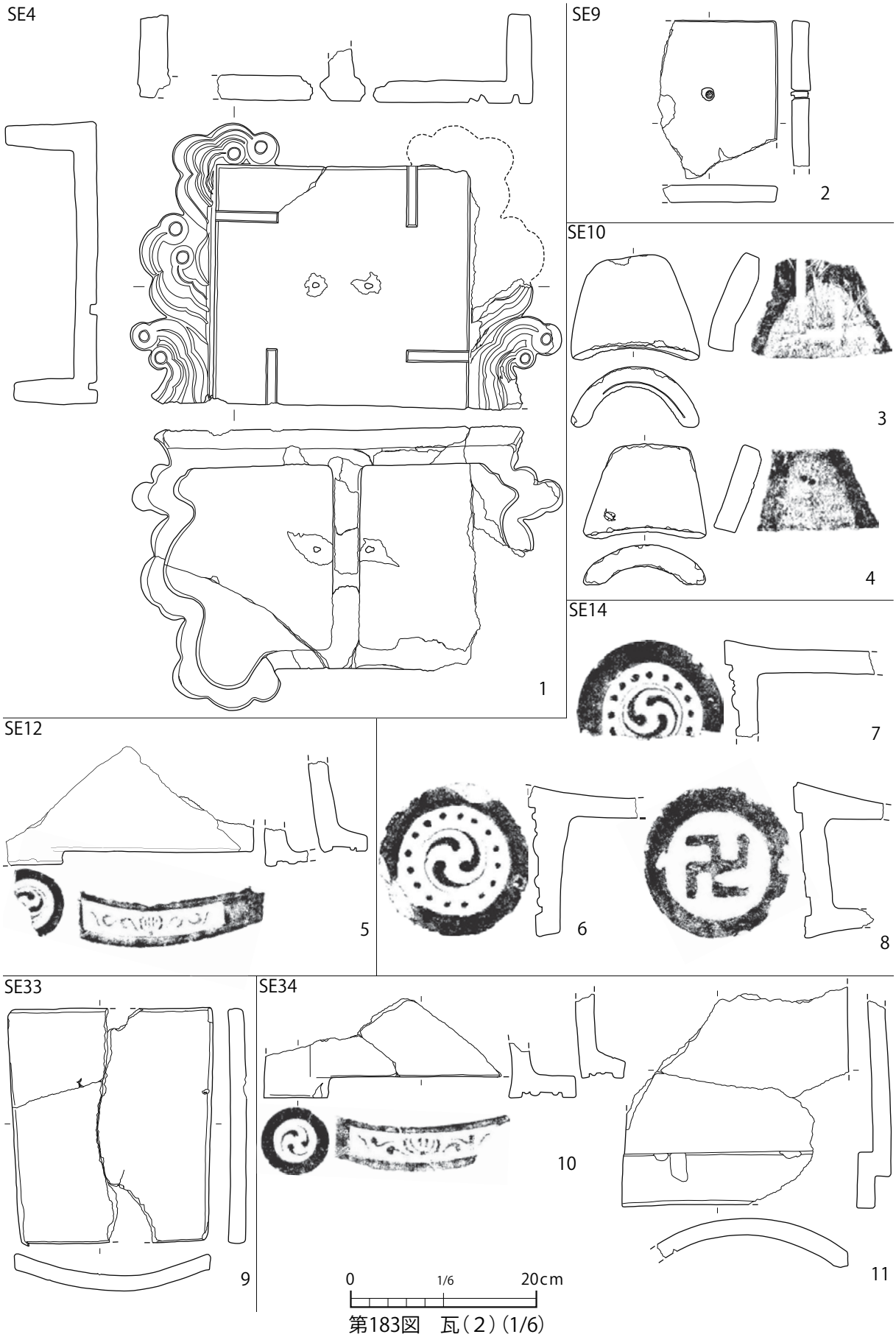
第181図　ミニチュア・土製品（2）(1/2)

第６表　ミニチュア・土製品一覧

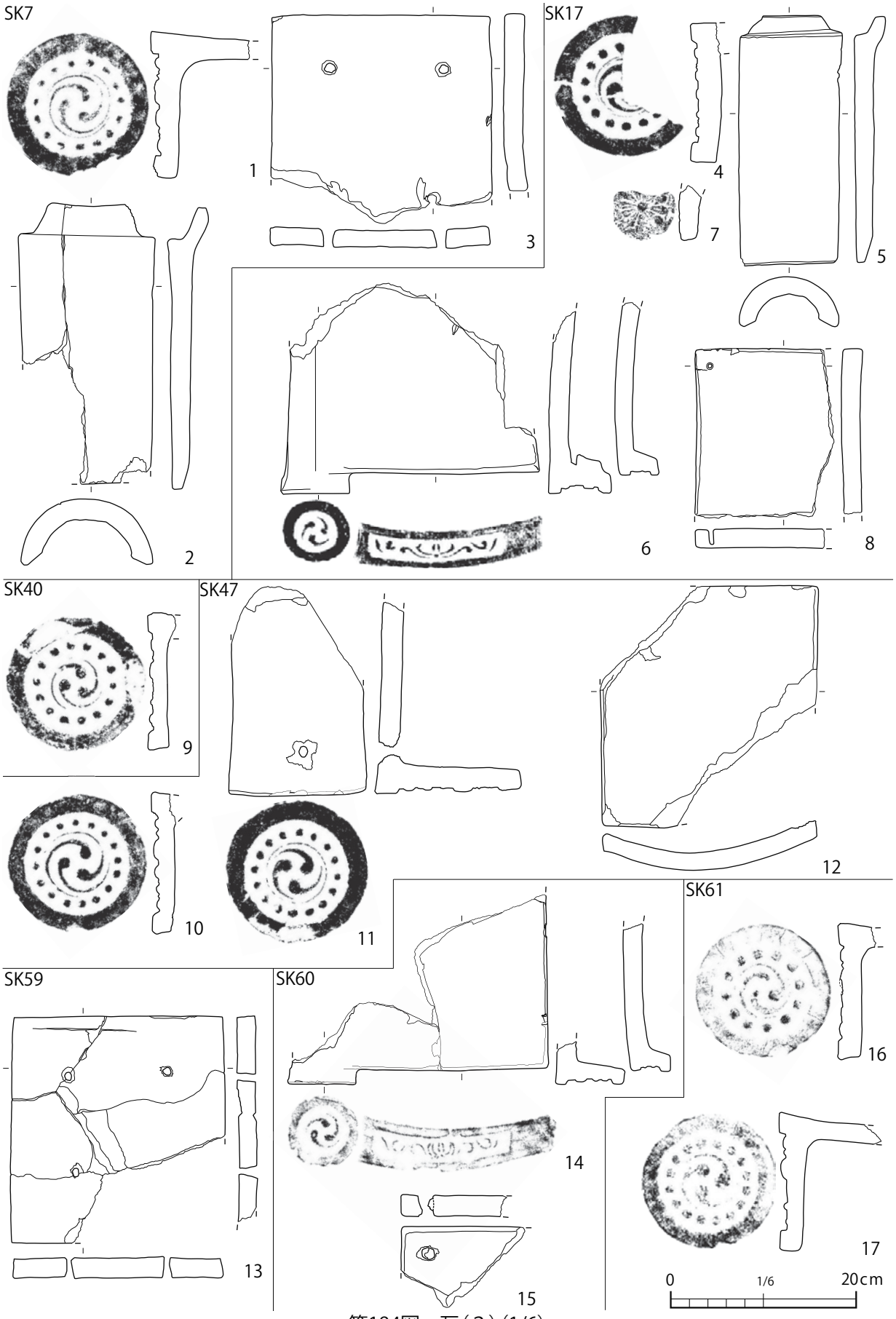
挿図番号	種別	出土遺構	性質	形態	胎土	大きさ・文様等特徴（単位:cm）
180-1	ミニチュア	SE1	土器	舟形	灰白色精良	長さ:18.8　幅:6.4/部分的に褐色施釉残存。
180-2	土製品	SE35	土器	泥めんこ	褐色やや砂質	径:2.2 厚さ:0.6/無釉。表面に将棋の「金将」駒文様刻印。
180-3	ミニチュア	SK60	土器	兜	褐色やや砂質	高さ:4.9 幅:5.1/無釉。
180-4	土製品	SK63	土器	おはじき	褐色やや砂質	幅:2.2 厚さ:0.4/無釉。
180-5	ミニチュア	SS19	土器	建物	灰色やや砂質	破片。ライオンの側面・正面表現。褐色施釉か。
180-6	土製品	SS19	土器	碁石	褐色やや砂質	幅:1.8 厚さ:0.5/無釉。
180-7	土製品	SS168	土器	泥めんこ	褐色やや砂質	径:2.4 厚さ:0.8/無釉。表面に刻印文様。
180-8	土製品	SS168	土器	泥めんこ	褐色やや砂質	径:2.0 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
180-9	ミニチュア	SX34	土器	巻貝	黄橙色精良	径:3.0 高さ:2.0/無釉か。
180-10	ミニチュア	SX91	土器	足か	褐色やや砂質	幅：1.0 高さ:-/無釉。
180-11	土製品	SX112	土器	泥めんこ	明褐色やや砂質	径:3.0 厚さ:1.1/無釉。表・裏面に刻印文様。
180-12	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:1.8 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
180-13	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:2.2 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
180-14	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:2.0 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
180-15	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:1.9 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
180-16	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:1.8 厚さ:0.6/無釉。表面布目痕有り。
180-17	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:1.8 厚さ:0.6/無釉。表面布目痕有り。
180-18	土製品	SX135	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:1.7 厚さ:0.5/無釉。表面布目痕有り。
181-1	ミニチュア	B区	土器	鳥	明褐色精良	残存長:6.8 高さ:2.8/無釉。
181-2	ミニチュア	C区	土器	方形小鉢	明褐色精良	口径:1.8 器高:0.8/白色釉の上に緑色釉を部分掛け。美濃焼織部焼写しか。
181-3	ミニチュア	C区	土器	皿	黄橙色やや砂質	口径:3.0 器高:0.6/型作り成形か。黄色釉掛け。
181-4	土製品	C区	土器	泥めんこ	黄褐色精良	径:2.2 厚さ:1.0/無釉。表面に刻印文様。
181-5	ミニチュア	E区	土器	擂鉢	赤褐色精良	口径:（4.4）器高:1.5 底径:1.8/内外面に赤褐色釉掛け。瀬戸・美濃産擂鉢写しか。
181-6	ミニチュア	E区	土器	祠	灰白色やや砂質	幅:1.9 高さ:2.4 奥行:1.5/表面に白濁色釉掛け。
181-7	ミニチュア	G区	土器	鬼面	明褐色やや砂質	幅:3.3 高さ:3.3 奥行:1.5/型作り成形か。無釉。
181-8	土製品	N区KR7層	土器	泥めんこ	明褐色やや砂質	径:2.3 厚さ:0.9/無釉。表面に刻印文様か。
181-9	土製品	N区	土器	泥めんこ	明褐色やや砂質	径:2.4 厚さ:0.7/無釉。表面に猿の刻印文様。
181-10	ミニチュア	N区	土器	動物	黄橙色やや砂質	幅:5.0 高さ:1.5/牛を模した、型作りか。表面に一部彩色の痕跡有り。
181-11	ミニチュア	N区	磁器	小鉢	灰白色精良	口径:3.0 器高:2.0 底径:1.3/内面は全面、外面は間隔を空けて、白濁釉が掛かる。
181-12	土製品	N区	土器	泥めんこ	明褐色やや砂質	径:2.3 厚さ:0.8/無釉。表面に刻印文様（植物か）。
181-13	土製品	N区	土器	おはじき	明褐色やや砂質	幅:2.0 厚さ:0.5/無釉。
181-14	土製品	E区	土器	鞴羽口	灰褐色・橙砂質	径:4.6 残存長17.6/両端欠損。内部に通し穴有り。被熱により赤色化。
181-15	土製品	SK30	土器	脚か	灰色精良	残存長:6.8 高さ:2.8/瓦質。表面は面取り後の磨き調整による光沢有り。内部に通し穴有り。


SD12
1
2
3
4
5
6
7
8
9
SE1
10
SE2
11
12
13
15
16
SE4
14
20
21
17
18
19
22
0
1/6
20cm

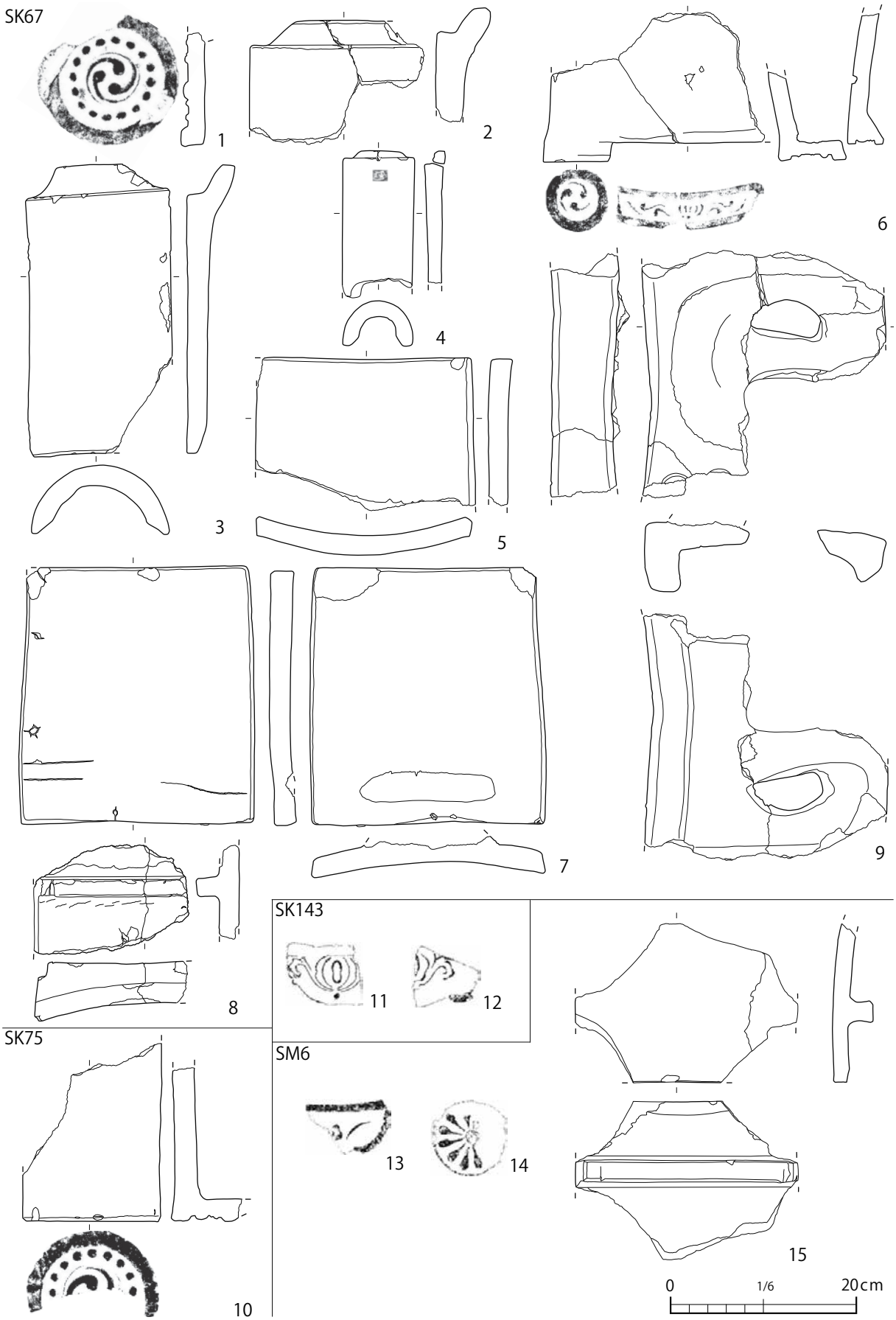
第182図　瓦（1）(1/6)



第183図　瓦（2）(1/6)

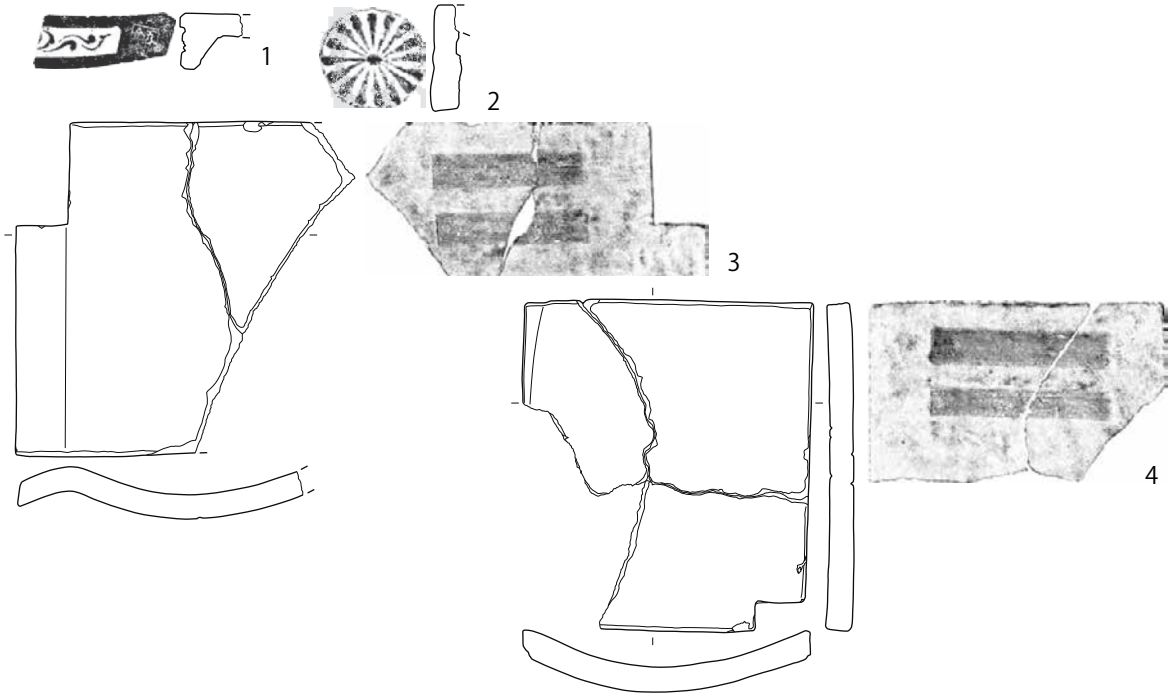

SK7
SK17
SK40
SK47
SK61
SK59
SK60
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
0
1/6
20cm

第184図　瓦（3）(1/6)

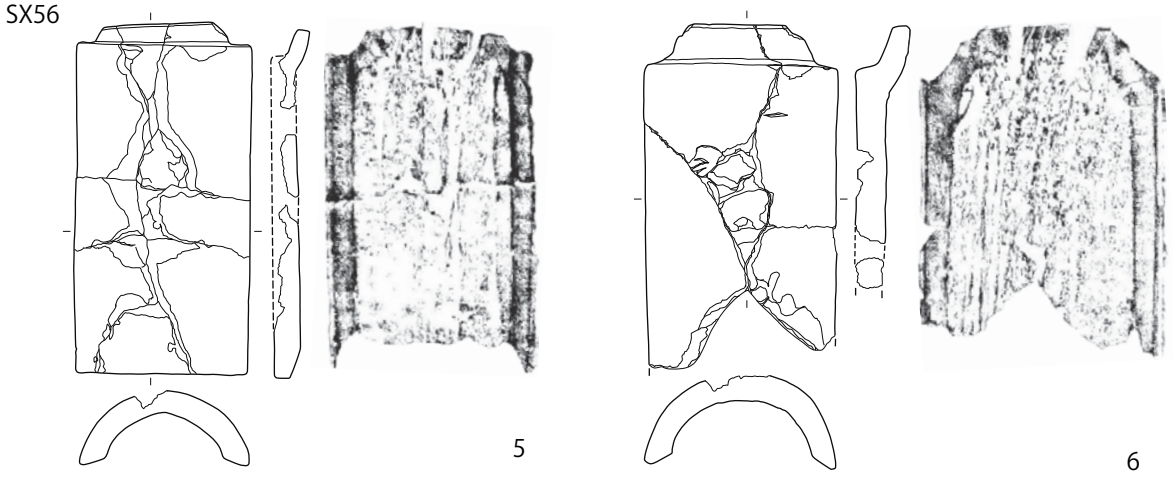


第185図　瓦（4）(1/6)

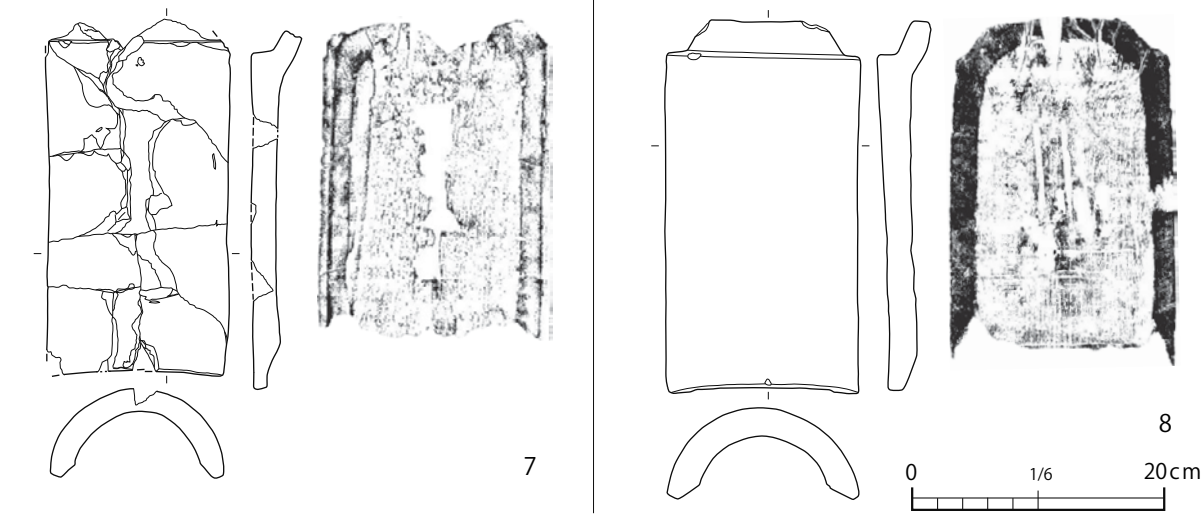
SX23



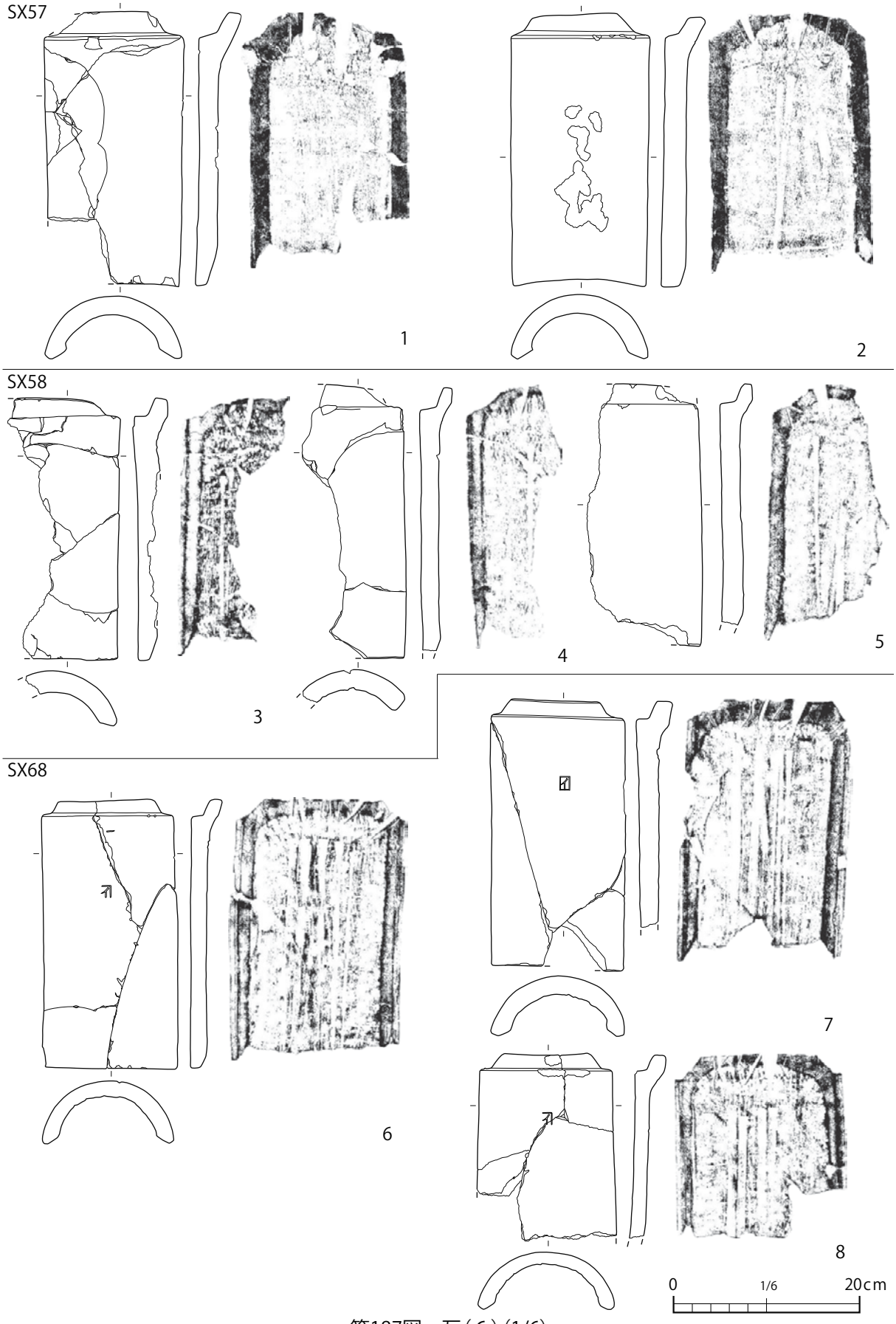
SX56



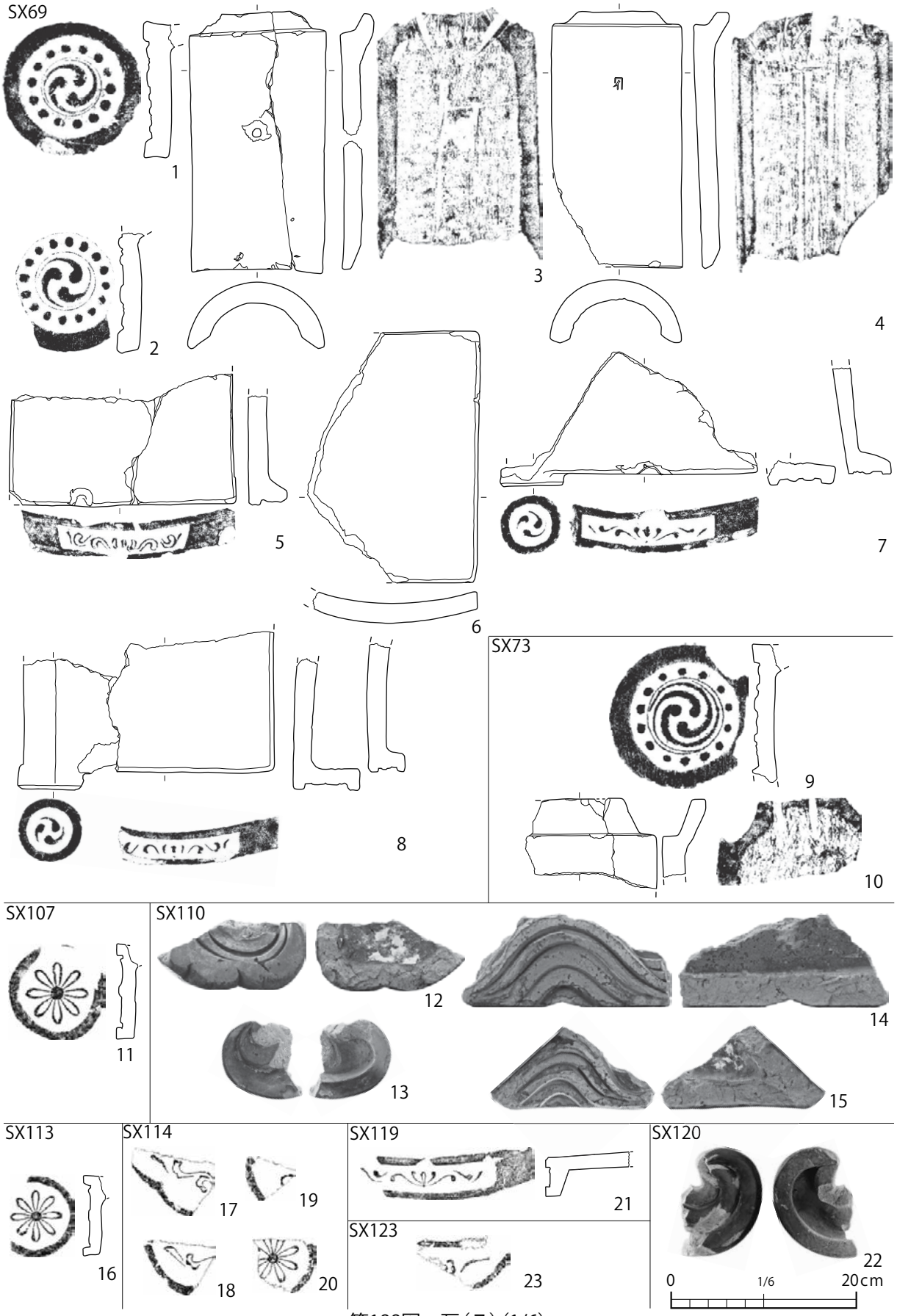
SX57



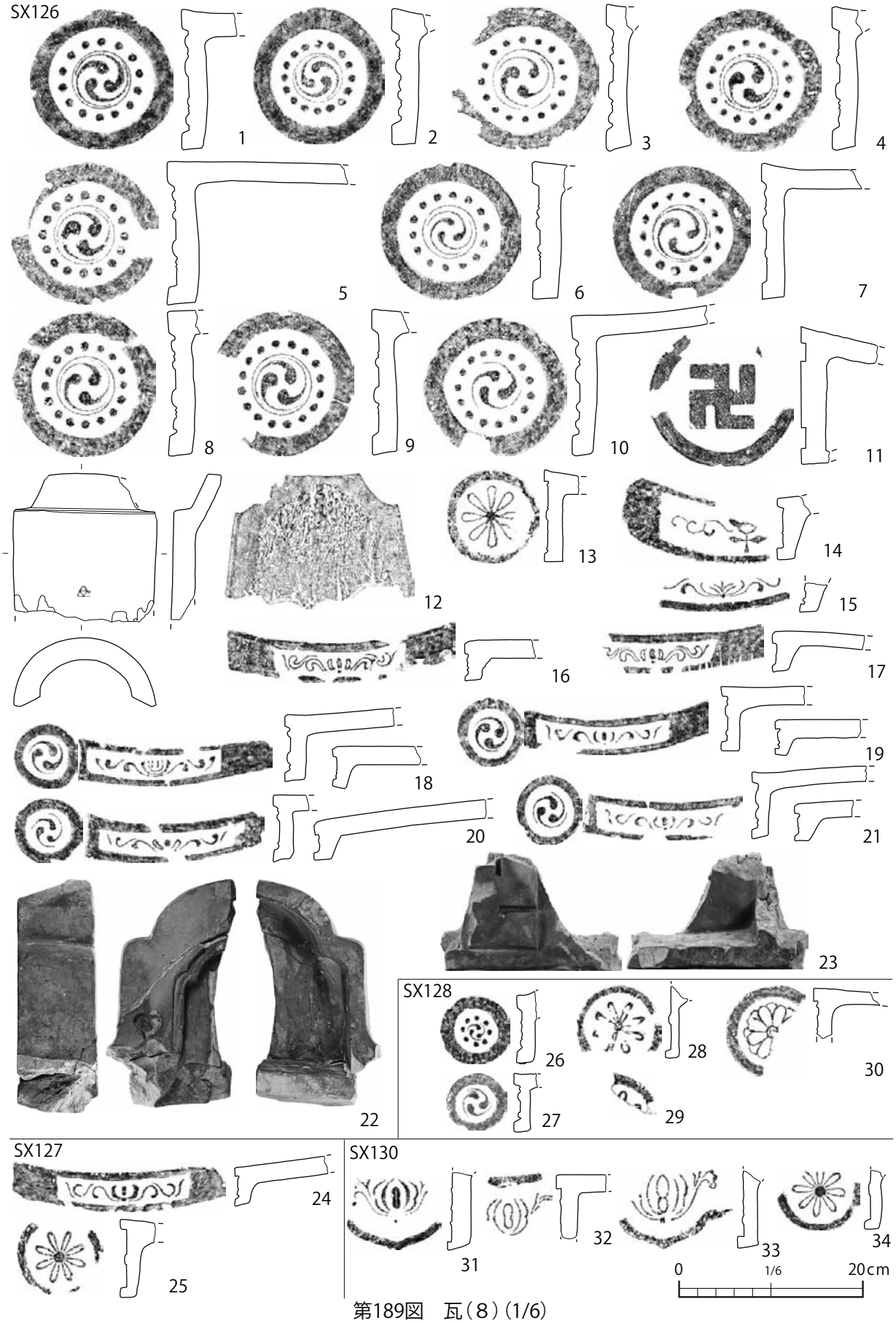
第186図　瓦（5）(1/6)



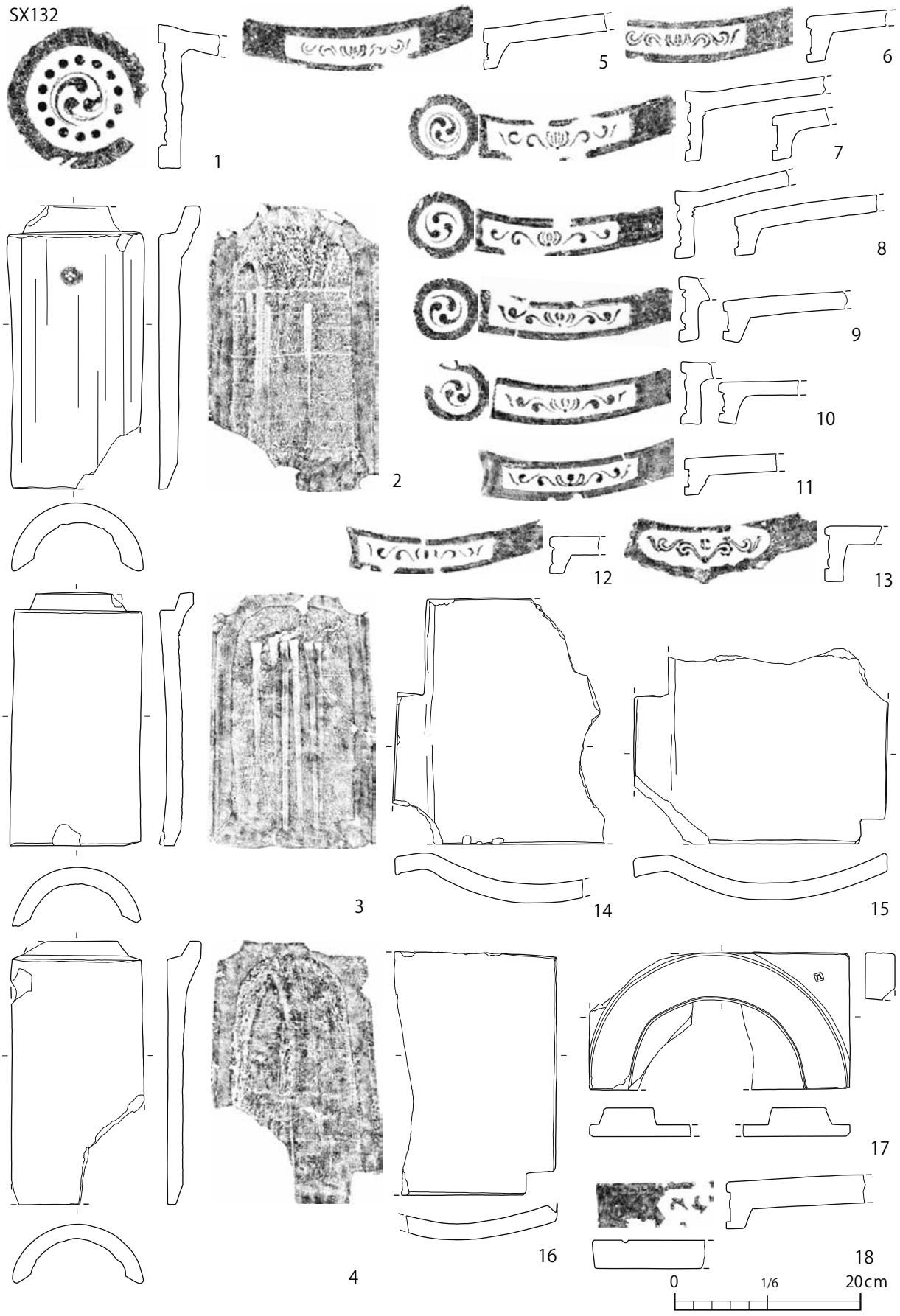
第187図　瓦（6）(1/6)


SX69
1
2
3
4
5
6
7
8
SX73
9
10
SX107
11
SX110
12
13
14
15
SX113
16
SX114
17
18
19
20
SX119
21
SX123
23
SX120
22
0
1/6
20cm

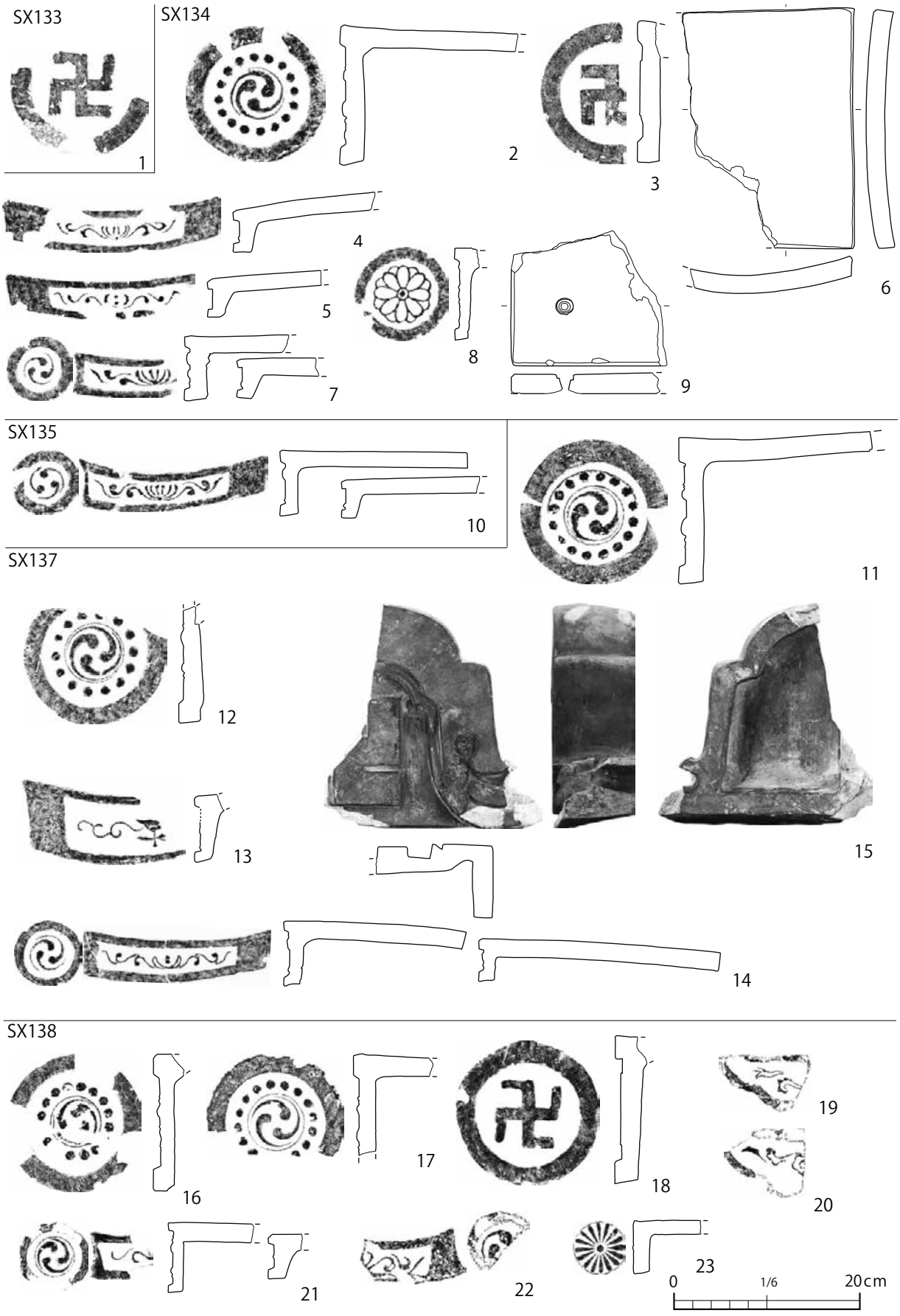
第188図　瓦（7）(1/6)


SX126
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
SX128
26
27
28
29
30
SX127
24
25
SX130
31
32
33
34
0
1/6
20cm

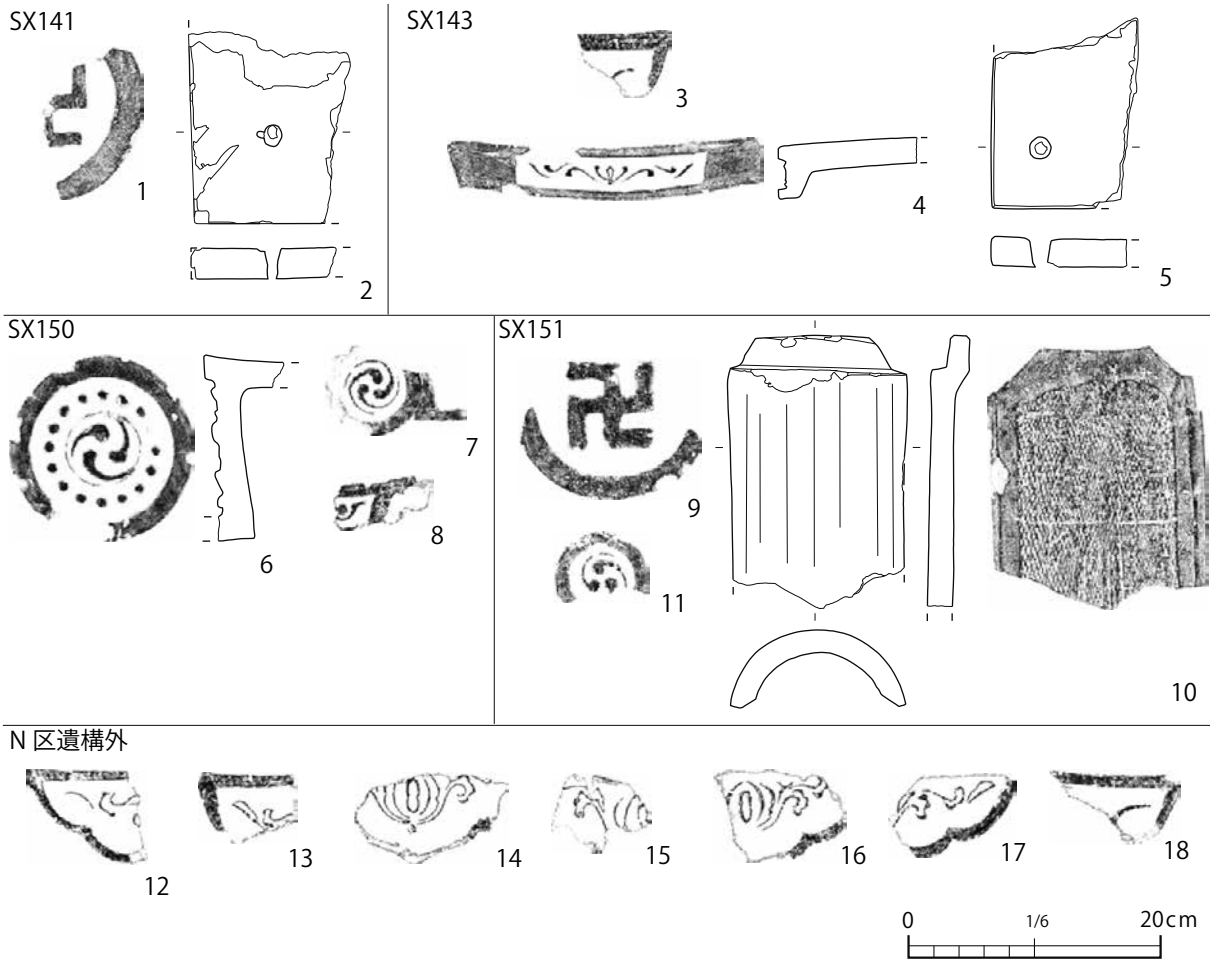
第189図　瓦（8）(1/6)



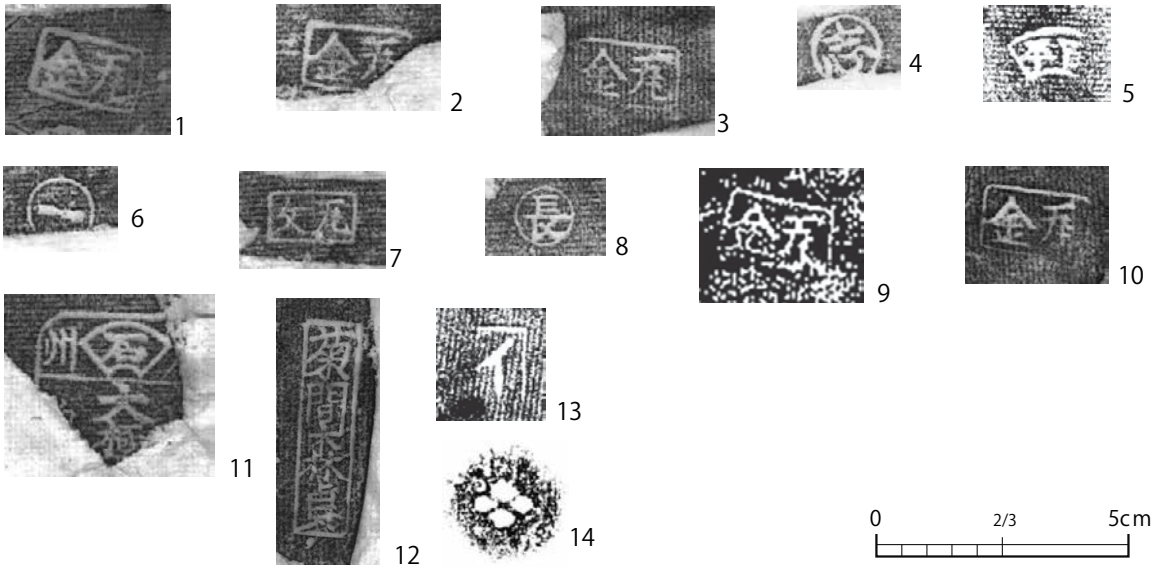
第190図　瓦（9）(1/6)


SX133
SX134
1
2
3
4
5
6
7
8
9
SX135
10
11
SX137
12
13
14
15
SX138
16
17
18
19
20
21
22
23
0
1/6
20cm

第191図　瓦(10)(1/6)



第192図　瓦(11)(1/6)



第193図　瓦刻印(2/3)

第７表　瓦一覧（1）

挿図番号	出土遺構	種類	胎土色調		大きさ・厚み・文様・形態等（単位:cm）
			表面	胎土	
182-1	SD12	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.1/瓦当文様:C種右巻16種
182-2	SD12	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.8/瓦当文様:B種右巻14珠
182-3	SD12	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.7/瓦当文様:卍文
182-4	SD12	丸瓦	黒	灰	全長:28.8 幅:14.8 高さ:6.6 玉縁長:2.4/体部穿孔有り
182-5	SD12	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:14.5 高さ:7.3 玉縁長:2.9
182-6	SD12	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.7 平部幅:-/瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
182-7	SD12	鬼瓦	黒	灰	胴部片
182-8	SD12	鬼瓦	黒	灰	頭部片
182-9	SD12	海鼠瓦	黒	灰	全長:25.3 全幅:25.2 厚さ:2.1/平面形は正方形で、各辺の中央付近に穿孔有り。
182-10	SE1	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.5 平部幅:-/瓦当文様:丸部巴文右巻12珠・平部東海式
182-11	SE2	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:A種右巻14珠
182-12	SE2	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.7/瓦当文様:A種右巻14珠
182-13	SE2	軒桟瓦	黒	灰	左桟瓦/丸部径:6.0 平部幅:-/瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
182-14	SE4	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.2/瓦当文様:A種右巻14珠
182-15	SE4	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:11.6/瓦当文様:C種右巻12珠
182-16	SE4	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦/平部幅:/瓦当文様:江戸式か
182-17	SE4	丸瓦	黒	灰	全長:29.0 幅:15.1 高さ:7.2 玉縁長:2.0/体部穿孔有り
182-18	SE4	丸瓦	黒	灰	全長:29.7 幅:14.1 高さ:7.0 玉縁長:2.1
182-19	SE4	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:15.1 高さ:6.7 玉縁長:2.6/体部穿孔有り
182-20	SE4	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.5 平部幅:-/瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
182-21	SE4	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:8.9 平部幅:-/瓦当文様:丸部巴文右巻12珠・平部東海式
182-22	SE4	桟瓦	黒	灰	全長:27.6 全幅:24.5/後方右隅に切込み有り
183-1	SE4	鬼瓦の一部か	黒	灰	全幅:46.2 高さ:30.6/表面は正方形の平坦面を呈し、2ヶ所穿孔有り。鬼面部が欠失か。
183-2	SE9	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.1/全体の4分の1程の残存。1ヶ所穿孔有り。
183-3	SE10	輪違瓦	黒	灰	全長:11.3 全幅:13.8 高さ:6.5
183-4	SE10	輪違瓦	黒	灰	全長:10.2 全幅:13.3 高さ:4.3
183-5	SE12	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.7 平部幅:20.4 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
183-6	SE14	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:11.6/瓦当文様:C種右巻16珠
183-7	SE14	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.6/瓦当文様:A種右巻
183-8	SE14	軒丸瓦	黒～赤	灰	瓦当径:16.6/瓦当文様:卍文
183-9	SE33	平瓦	黒	灰	全長:25.6 前端幅:20.0 後端幅:22.1
183-10	SE34	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.1 平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
183-11	SE34	伏間瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:1.8
184-1	SK7	軒丸瓦	灰	灰	瓦当径:15.7/瓦当文様:B種右巻15珠
184-2	SK7	丸瓦	黒	灰	全長:30.3 幅:14.8 高さ:7.1 玉縁長:3.5
184-3	SK7	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:23.9 厚さ:2.1/3ヶ所穿孔有り。
184-4	SK17	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.7/瓦当文様:A種右巻
184-5	SK17	丸瓦	黒	灰	全長:26.8 幅:10.8 高さ:5.4 玉縁長:1.8
184-6	SK17	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.5 平部幅:20.2 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
184-7	SK17	菊瓦	黒	灰	幅:6.6
184-8	SK17	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.0/1ヶ所未貫通の穴有り。
184-9	SK40	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.3/瓦当文様:C種右巻14珠
184-10	SK47	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.2/瓦当文様:B種右巻16珠
184-11	SK47	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.8/瓦当文様:A種右巻16珠
184-12	SK47	平瓦	灰	灰	全長:26.1 前端幅:- 後端幅:-
184-13	SK59	海鼠瓦	黒	灰	全長:24.3 全幅:23.2 厚さ:1.9/3ヶ所穿孔有り。
184-14	SK60	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.0 平部幅:20.3 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
184-15	SK60	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.2/細片、1ヶ所穿孔有り。
184-16	SK61	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.7/瓦当文様:C種右巻12珠
184-17	SK61	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.6/瓦当文様:C種右巻16珠
185-1	SK67	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.4/瓦当文様:B種右巻16珠
185-2	SK67	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:- 高さ:- 玉縁長:2.6
185-3	SK67	丸瓦	黒	灰	全長:31.5 幅:15.2 高さ:7.5 玉縁長:2.6
185-4	SK67	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:7.7 高さ:4.8 玉縁長:0.7/体部表面刻印有り
185-5	SK67	軒平瓦又は平瓦	黒	灰	全長:- 前端幅:- 後端幅:23.1（軒平瓦の場合）

第7表　瓦一覧（2）

挿図番号	出土遺構	種類	胎土色調		大きさ・厚み・文様・形態等（単位:cm）
			表面	胎土	
185-6	SK67	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.1 平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
185-7	SK67	不明	黒	灰	全長:27.8 前端幅:25.1 後端幅:23.4/突帯痕跡有り
185-8	SK67	不明	赤	赤	全長:- 前端幅:- 後端幅:-/突帯有り
185-9	SK67	鬼瓦	黒	灰	鬼瓦背面の輪部
185-10	SK75	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.4/瓦当文様:A種右巻
185-11	SK143	軒平瓦	灰	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
185-12	SK143	軒平瓦	灰	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
185-13	SM6	軒平瓦か	灰	灰	滴水瓦の瓦当片か。
185-14	SM6	菊瓦	灰	灰	瓦当径:7.8
185-15	SM6	不明	黒	灰	全長:- 前端幅:- 後端幅:-/突帯有り
186-1	SX23	軒桟瓦か	黒	灰	丸部径:- 平部幅:- /瓦当文様:平部江戸式
186-2	SX23	菊瓦	黒	灰	径:8.5
186-3	SX23	桟瓦	黒	灰	全長:26.3 全幅:-/後方右隅、前方左隅に切込み有り。裏面後方に部分的に条線が施されている。
186-4	SX23	桟瓦	黒	灰	全長:26.7 全幅:-/後方右隅に切込み有り。裏面後方に部分的に条線が施されている。
186-5	SX56	丸瓦	黒	灰	全長:28.2 幅:7.7 高さ:5.9 玉縁長:1.8
186-6	SX56	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:15.0 高さ:7.0 玉縁長:2.9
186-7	SX56	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:14.5 高さ:7.1 玉縁長:-
186-8	SX57	丸瓦	灰	灰	全長:28.2 幅:15.1 高さ:7.2 玉縁長:2.5
187-1	SX57	丸瓦	灰	灰	全長:29.8 幅:14.8 高さ:6.7 玉縁長:2.3
187-2	SX57	丸瓦	灰	灰	全長:29.3 幅:14.7 高さ:6.9 玉縁長:1.9
187-3	SX58	丸瓦	黒	灰	全長:28.2 幅:- 高さ:- 玉縁長:2.1
187-4	SX58	丸瓦	黒	灰	全長:29.4 幅:- 高さ:- 玉縁長:2.4
187-5	SX58	丸瓦	黒	灰	全長:28.2 幅:- 高さ:- 玉縁長:2.2
187-6	SX68	丸瓦	灰	灰	全長:28.8 幅:14.2 高さ:6.8 玉縁長:1.4/体部表面刻印有り
187-7	SX68	丸瓦	黒	灰	全長:29.2 幅:14.4 高さ:6.5 玉縁長:1.6/体部表面刻印有り
187-8	SX68	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:14.6 高さ:6.2 玉縁長:1.7/体部表面刻印有り
188-1	SX69	軒丸瓦	灰	灰	瓦当径:14.6/瓦当文様:A種右巻14珠
188-2	SX69	軒丸瓦	黒	灰	瓦当文様:A種右巻16珠
188-3	SX69	丸瓦	黒	灰	全長:28.4 幅:14.3 高さ7.2 玉縁長:1.8/体部穿孔有り
188-4	SX69	丸瓦	黒	灰	全長:27.8 幅:14.3 高さ:6.8 玉縁長:1.4/体部表面刻印有り
188-5	SX69	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:24.6 瓦当高さ:4.1/瓦当文様:江戸式
188-6	SX69	平瓦	灰	灰	全長:27.1 前端幅:- 後端幅:-
188-7	SX69	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.3 平部幅:20.7 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
188-8	SX69	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.9 平部幅:20.0 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
188-9	SX73	軒丸瓦	橙	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:A種右巻16珠/表面被熱
188-10	SX73	丸瓦	橙	灰	全長:- 幅:- 高さ:- 玉縁長:3.8/表面被熱
188-11	SX107	菊瓦	黒	灰	瓦当径:10.3
188-12	SX110	鬼瓦	黒	灰	胴部片。
188-13	SX110	鬼瓦	黒	灰	胴部片。
188-14	SX110	鬼瓦	黒	灰	胴部片。
188-15	SX110	鬼瓦	黒	灰	胴部片。
188-16	SX113	菊瓦	黒	灰	瓦当径:8.7
188-17	SX114	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
188-18	SX114	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
188-19	SX114	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。
188-20	SX114	菊瓦	黒	灰	瓦当径:-
188-21	SX119	軒平瓦・軒桟瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:- /瓦当文様:江戸式
188-22	SX120	鬼瓦	黒	灰	胴部片。
188-23	SX123	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。
189-1	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.3/瓦当文様:A種右巻14珠
189-2	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.9/瓦当文様:A種左巻16珠
189-3	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:16.1/瓦当文様:A種右巻16珠
189-4	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.6/瓦当文様:A種右巻16珠
189-5	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.6/瓦当文様:A種右巻16珠
189-6	SX126	軒丸瓦	灰	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:A種右巻14珠

第7表　瓦一覧（3）

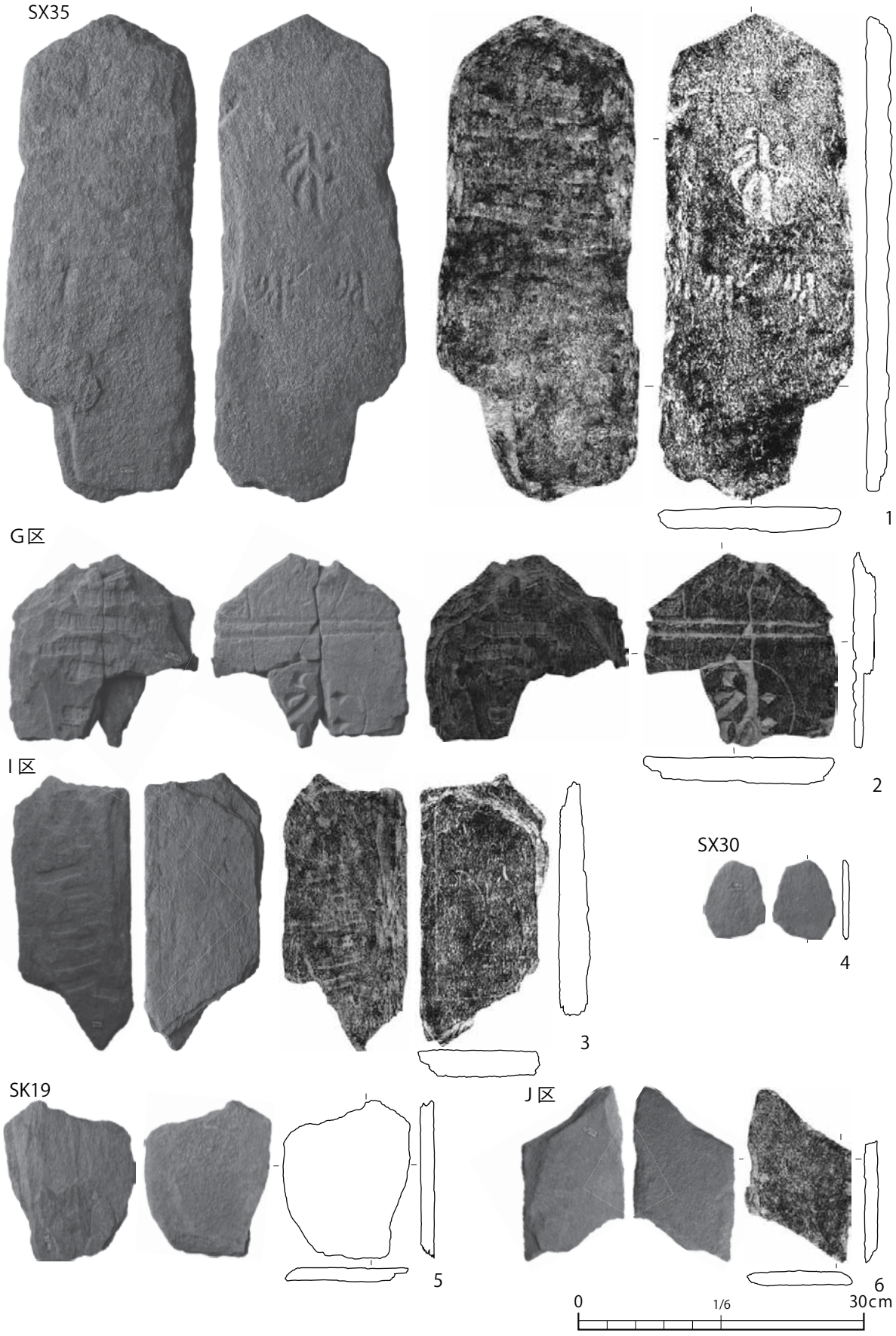
挿図番号	出土遺構	種類	胎土色調		大きさ・厚み・文様・形態等（単位:cm）
			表面	胎土	
189-7	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.5/瓦当文様:A種右巻14珠
189-8	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.7/瓦当文様:A種右巻16珠
189-9	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.8/瓦当文様:A種右巻16珠
189-10	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.3/瓦当文様:C種右巻15珠
189-11	SX126	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:卍文
189-12	SX126	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:15.7 高さ7.6 玉縁長:3.8/体部穿孔有り
189-13	SX126	菊瓦	灰	灰	瓦当径:10.0
189-14	SX126	軒平瓦	灰	灰	全長:-瓦当幅:-/通常より大きい規格。
189-15	SX126	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:-/瓦当文様:江戸式か
189-16	SX126	軒平瓦	灰	灰	全長:-瓦当幅:-/瓦当文様:江戸式
189-17	SX126	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:24.6/瓦当文様:江戸式
189-18	SX126	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.2 平部幅:21.0 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
189-19	SX126	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.0平部幅:19.8 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
189-20	SX126	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.3平部幅:19.2 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
189-21	SX126	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.2平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
189-22	SX126	鬼瓦	黒	灰	頭部右側片。
189-23	SX126	鬼瓦	黒	灰	胴部片。表面卍文有り。
189-24	SX127	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:22.8/瓦当文様:江戸式
189-25	SX127	菊瓦	黒	灰	瓦当径:8.5
189-26	SX128	軒桟瓦か	黒	灰	丸部径:7.3平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻8珠
189-27	SX128	軒桟瓦か	黒	灰	丸部径:6.4平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠
189-28	SX128	菊瓦	黒	灰	瓦当径:9.0
189-29	SX128	菊瓦	黒	灰	瓦当径:-
189-30	SX128	菊瓦	黒	灰	瓦当径:10.2
189-31	SX130	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
189-32	SX130	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
189-33	SX130	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
189-34	SX130	菊瓦	黒	灰	瓦当径:9.0
190-1	SX132	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.5/瓦当文様:A種右巻16珠
190-2	SX132	丸瓦	黒	灰	全長:30.6 幅:14.8 高さ:7.3 玉縁長:2.8/体部表面刻印有り
190-3	SX132	丸瓦	黒	灰	全長:27.4 幅:14.0 高さ:6.4 玉縁長:2.0
190-4	SX132	丸瓦	黒	灰	全長:28.4 幅:14.2 高さ:6.4 玉縁長:1.5
190-5	SX132	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:24.6/瓦当文様:江戸式
190-6	SX132	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:-/瓦当文様:江戸式
190-7	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.7平部幅:21.0 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
190-8	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.2平部幅:20.4 /瓦当文様:丸部巴文左巻無珠・平部江戸式
190-9	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.8平部幅:20.7 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
190-10	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.7平部幅:19.5 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
190-11	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:-平部幅:19.1 /瓦当文様:平部江戸式
190-12	SX132	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:-平部幅:20.4 /瓦当文様:平部江戸式
190-13	SX132	軒桟瓦	黒	灰	滴水瓦/丸部径:-平部幅:20.6 /瓦当文様:平部江戸式
190-14	SX132	桟瓦	黒	灰	全長:26.6 全幅:-/後方右隅に切込み有り。
190-15	SX132	桟瓦	黒	灰	全長:- 全幅:27.5/後方右隅、前方左隅に切込み有り。
190-16	SX132	桟瓦	黒	灰	全長:26.3 全幅:-/前方左隅に切込み有り。
190-17	SX132	海鼠瓦か	黒	灰	全長:14.9 全幅:28.1 厚さ:基板部1.3 突帯付部3.1/長方形の基板部に半円形の突帯が付く。1ヶ所穿孔有り。
190-18	SX132	海鼠瓦か	黒	灰	瓦当幅:- 厚さ:3.1/側面に瓦当文様が施されている。
191-1	SX133	軒丸瓦	黒	灰	瓦当文様:卍文
191-2	SX134	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:B種右巻16珠
191-3	SX134	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.3/瓦当文様:卍文
191-4	SX134	軒平瓦	灰	灰	全長:-瓦当幅:23.4/瓦当文様:江戸式
191-5	SX134	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:-/瓦当文様:江戸式
191-6	SX134	平瓦か	黒	灰	全長:26.0 前端幅:- 後端幅:-
191-7	SX134	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.9平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
191-8	SX134	菊瓦	黒	灰	瓦当径:9.9
191-9	SX134	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.3/1ヶ所穿孔有り。
191-10	SX135	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.0平部幅:20.2 /瓦当文様:丸部巴文左巻無珠・平部江戸式

第７表　瓦一覧（4）

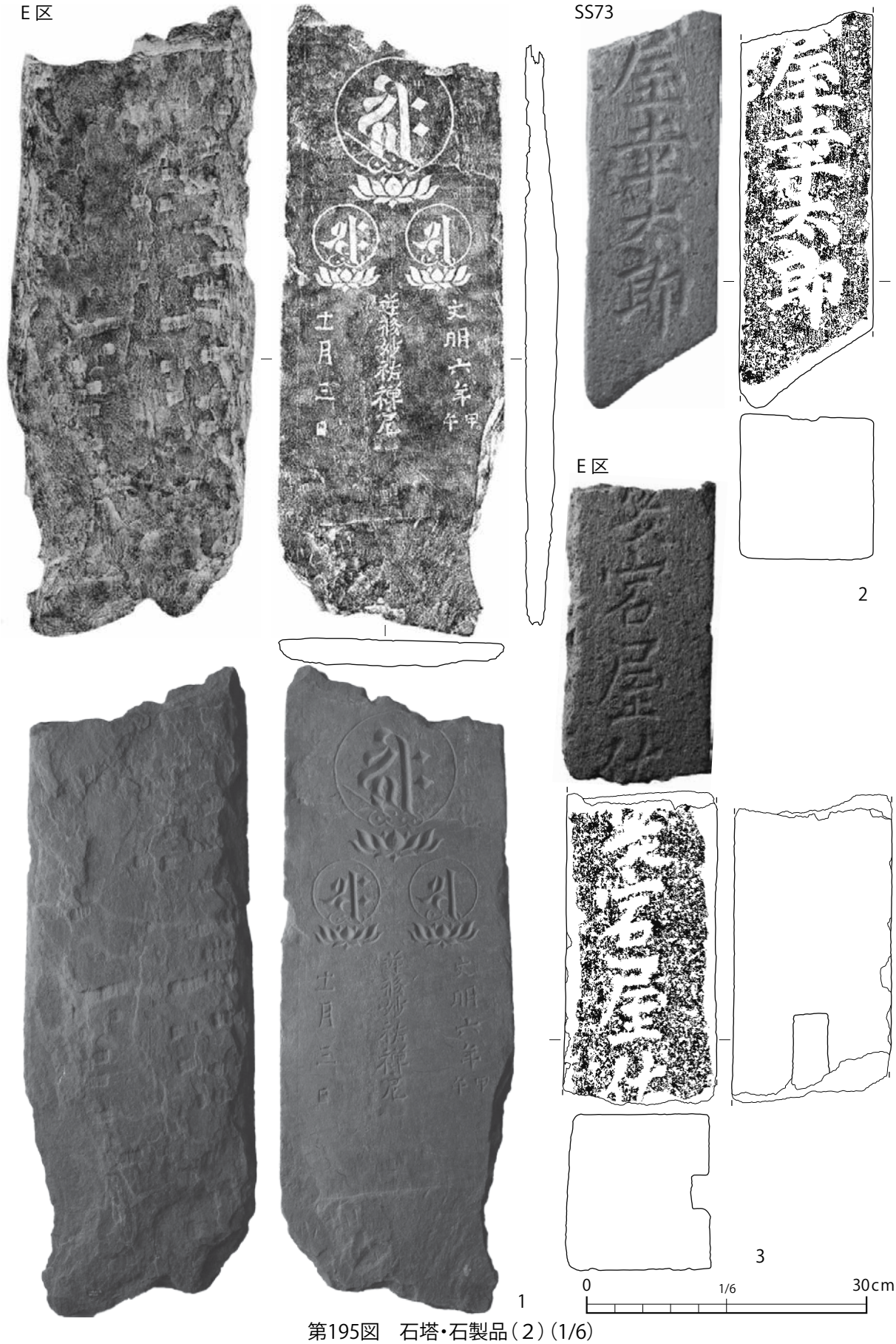
挿図番号	出土遺構	種類	胎土色調		大きさ・厚み・文様・形態等（単位:cm）
			表面	胎土	
191-11	SX137	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.8/瓦当文様:A種右巻16珠
191-12	SX137	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:15.0/瓦当文様:A種右巻14珠
191-13	SX137	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:-/通常より大きい規格。
191-14	SX137	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:6.8平部幅:20.5 /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
191-15	SX137	鬼瓦	黒	灰	胴部片。表面卍文有り。
191-16	SX138	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.8/瓦当文様:A種右巻16珠か
191-17	SX138	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.4/瓦当文様:A種右巻16珠か
191-18	SX138	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:16.0/瓦当文様:卍文
191-19	SX138	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
191-20	SX138	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
191-21	SX138	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.5平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・巴文周囲に圏線有り・平部江戸式
191-22	SX138	軒桟瓦	黒	灰	左桟瓦/丸部径:-平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠・平部江戸式
191-23	SX138	菊瓦	灰	灰	瓦当径:5.8
192-1	SX141	軒丸瓦	黒	灰	瓦当文様:卍文
192-2	SX141	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.5/1ヶ所穿孔有り。
192-3	SX143	軒平瓦か	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。
192-4	SX143	軒平瓦	黒	灰	全長:-瓦当幅:25.2/瓦当文様:江戸式
192-5	SX143	海鼠瓦	黒	灰	全長:- 全幅:- 厚さ:2.3/1ヶ所穿孔有り。
192-6	SX150	軒丸瓦	黒	灰	瓦当径:14.8/瓦当文様:C種右巻16珠
192-7	SX150	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:-平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文右巻無珠
192-8	SX150	軒桟瓦	黒	灰	左桟瓦/丸部径:-平部幅:- /瓦当文様:平部江戸式か
192-9	SX151	軒丸瓦	黒	灰	瓦当文様:卍文
192-10	SX151	丸瓦	黒	灰	全長:- 幅:13.9 高さ:6.1 玉縁長:2.5
192-11	SX151	軒桟瓦	黒	灰	丸部径:7.2 平部幅:- /瓦当文様:丸部巴文左巻無珠
192-12	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-13	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-14	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-15	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-16	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-17	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。瓦当文様は江戸式か。
192-18	N区遺構外	軒平瓦	黒	灰	滴水瓦の瓦当片。

第８表　瓦刻印一覧

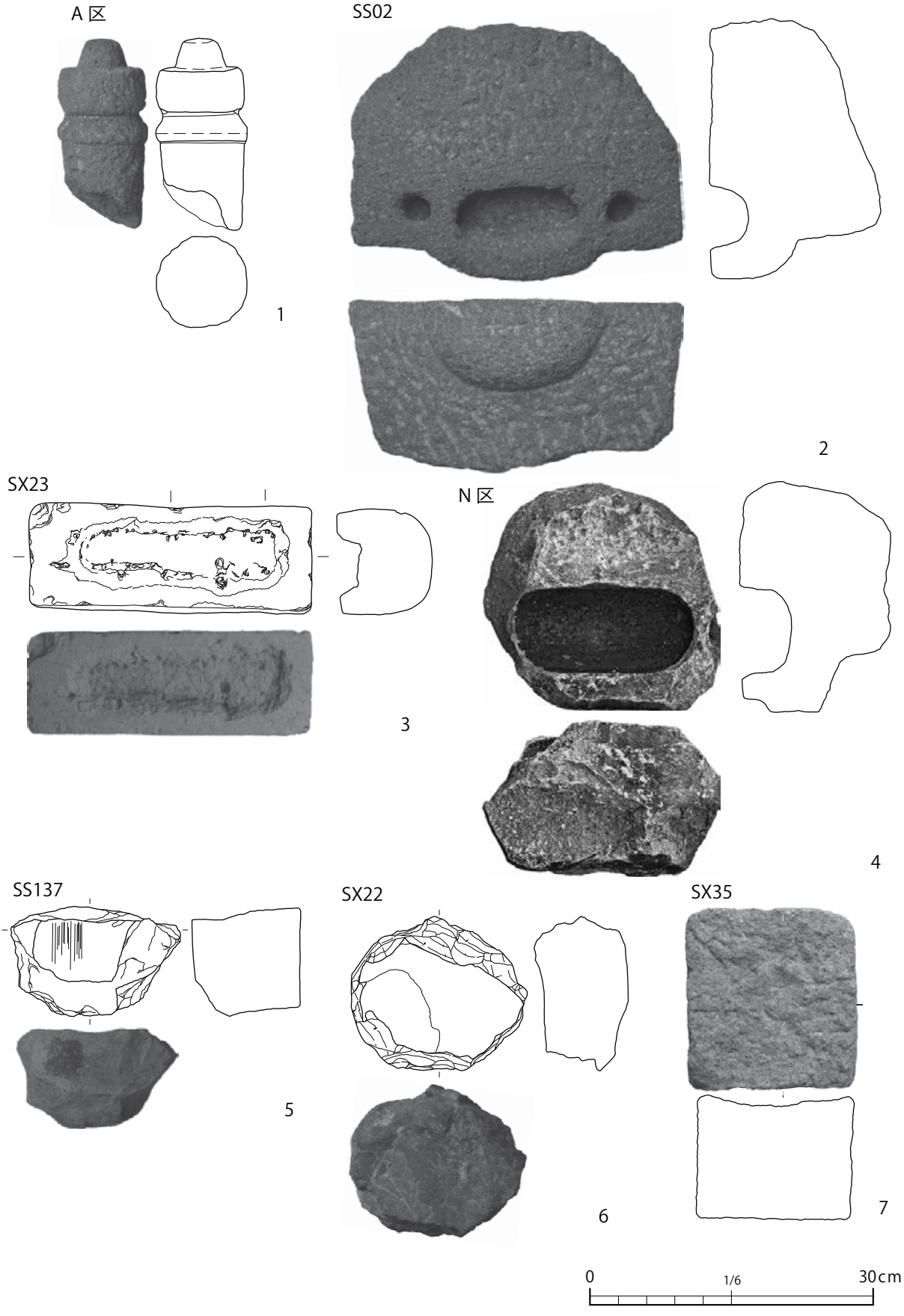
挿図番号	出土遺構・地区	本体瓦種類	刻印特徴
193-1	B区表土	軒平瓦か軒桟瓦。瓦当文様は江戸式。	□枠に「瓦金」か
193-2	C区西側盛土	軒平瓦か軒桟瓦。瓦当文様は江戸式。	□枠に「瓦金」か
193-3	SE20	軒平瓦か軒桟瓦。瓦当文様は江戸式。	□枠に「瓦金」か
193-4	SE1	平瓦か桟瓦。	○枠に「志」
193-5	SK67	丸瓦（第185図4）	扇形枠に「瓦本」か
193-6	SK113	平瓦か桟瓦。	○枠に「一」
193-7	SS48	平瓦か桟瓦。	□枠に「瓦文」か
193-8	SS48	平瓦か桟瓦。	○枠に「長」
193-9	SX23	平瓦か桟瓦。	□枠に「瓦金」か
193-10	SX59	軒平瓦か軒桟瓦。瓦当文様は江戸式。	□枠に「瓦金」か
193-11	SX59	平瓦か桟瓦。	「（不明-尾か）州」・扇形枠に「石」・「大極（不明）」
193-12	SX59	平瓦か桟瓦。	□枠に「菊間森貞」
193-13	SX68	丸瓦（第187図6）	□枠に「イ」
193-14	SX132	丸瓦（第190図2）	四目菱文



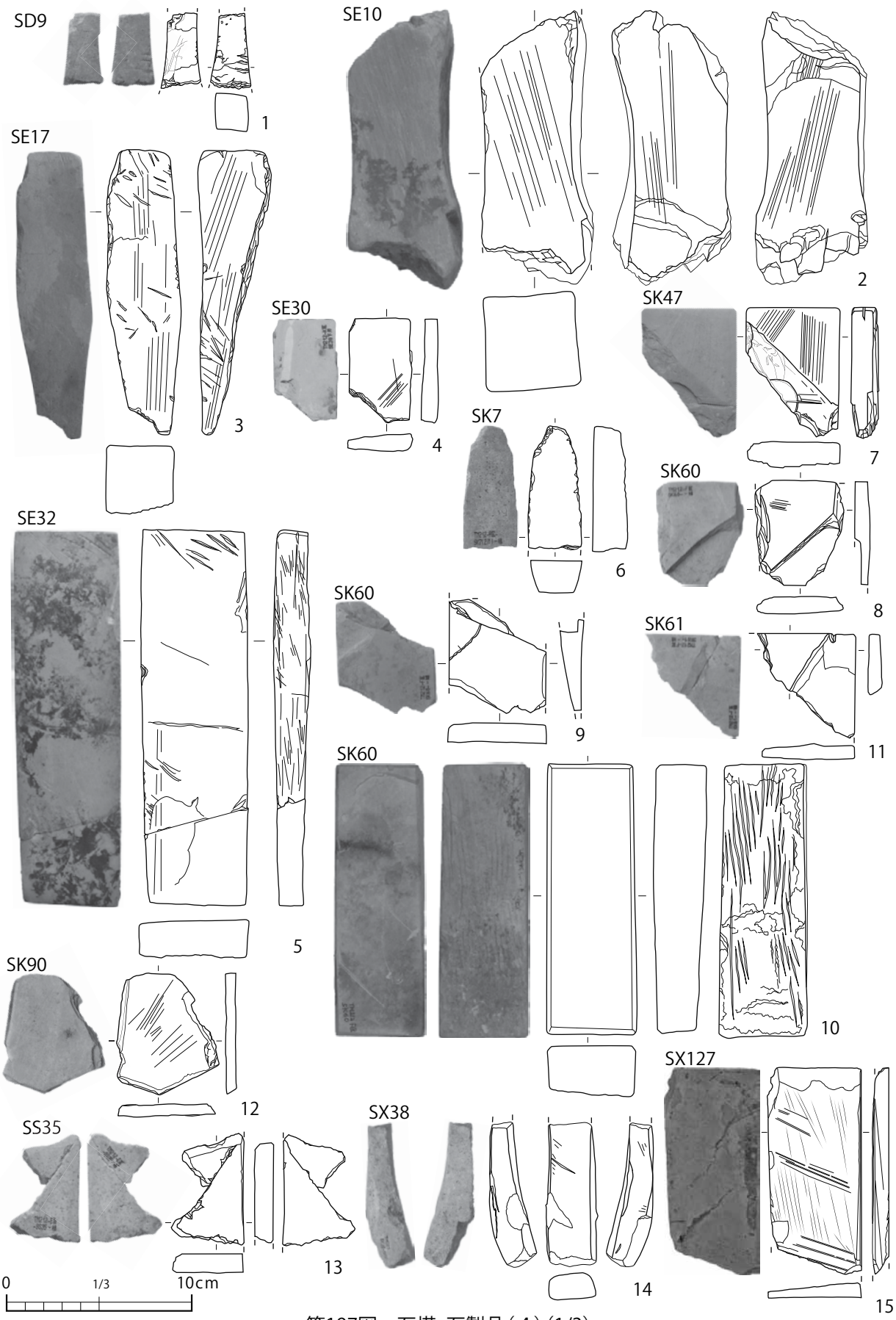
第194図　石塔・石製品（1）（1/6）



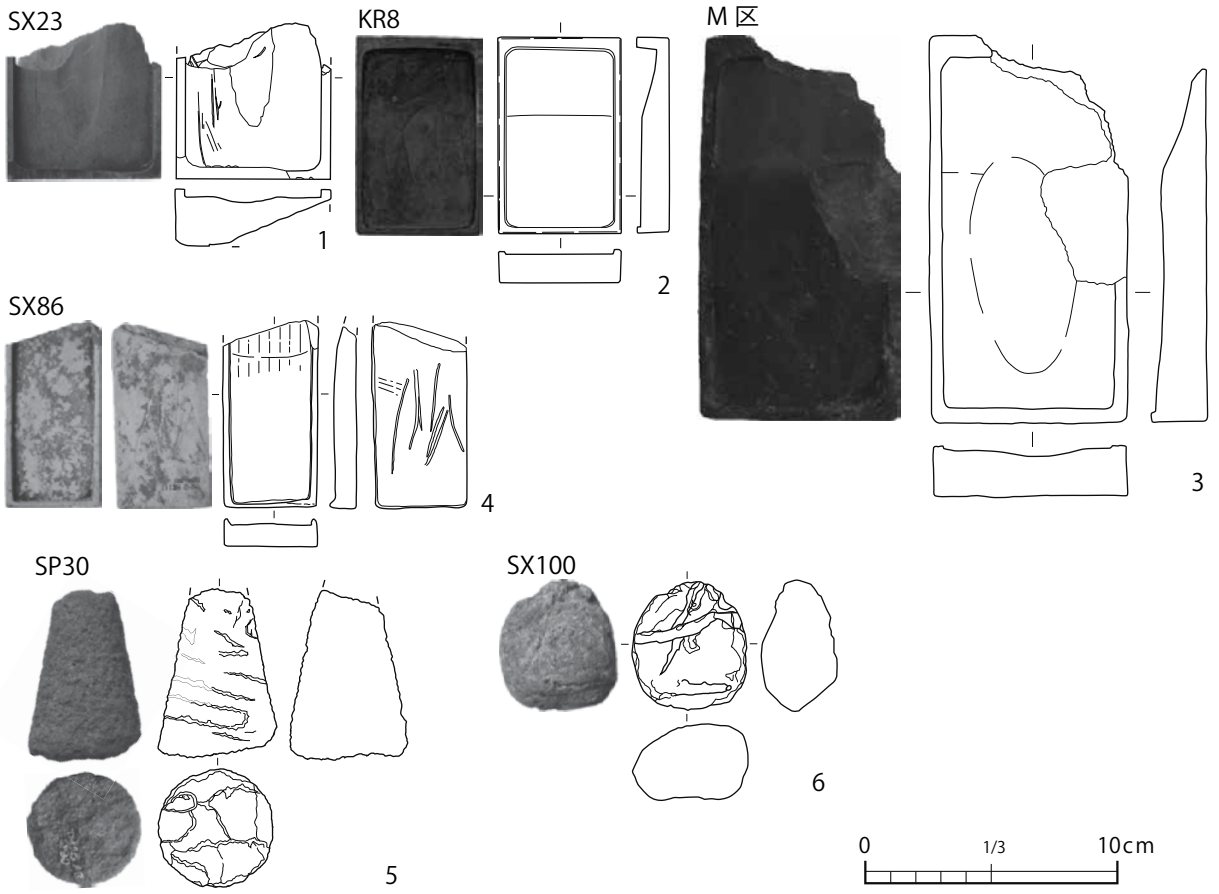
第195図　石塔・石製品（2）（1/6）

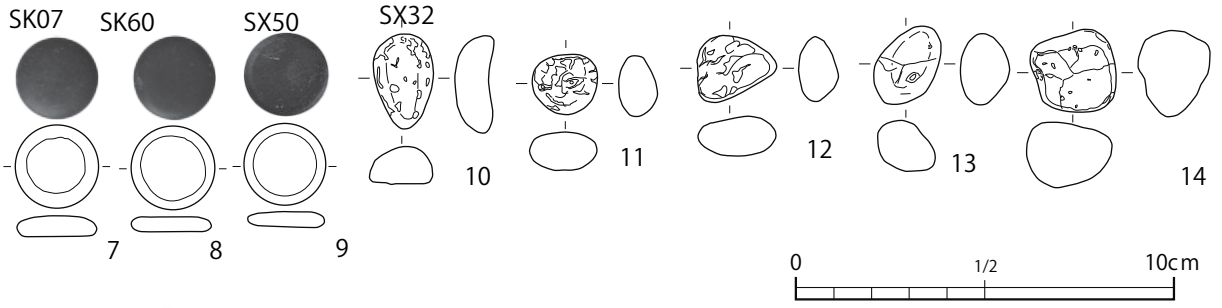


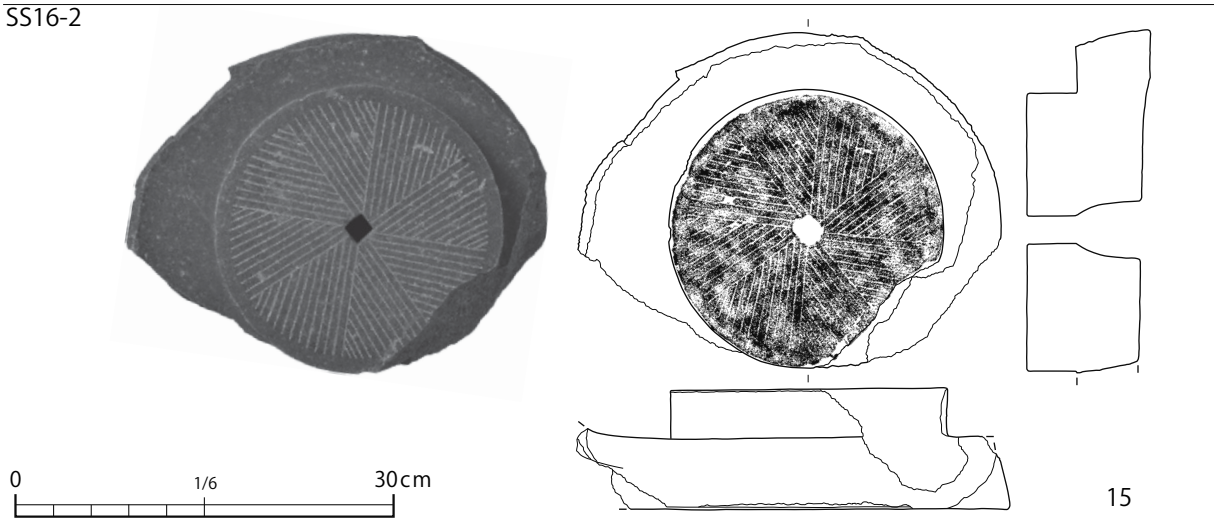
第196図　石塔・石製品（3）（1/6）



第197図　石塔・石製品（4）（1/3）







第198図　石塔・石製品（5）（1/2・1/3・1/6）

第９表　石塔・石製品一覧

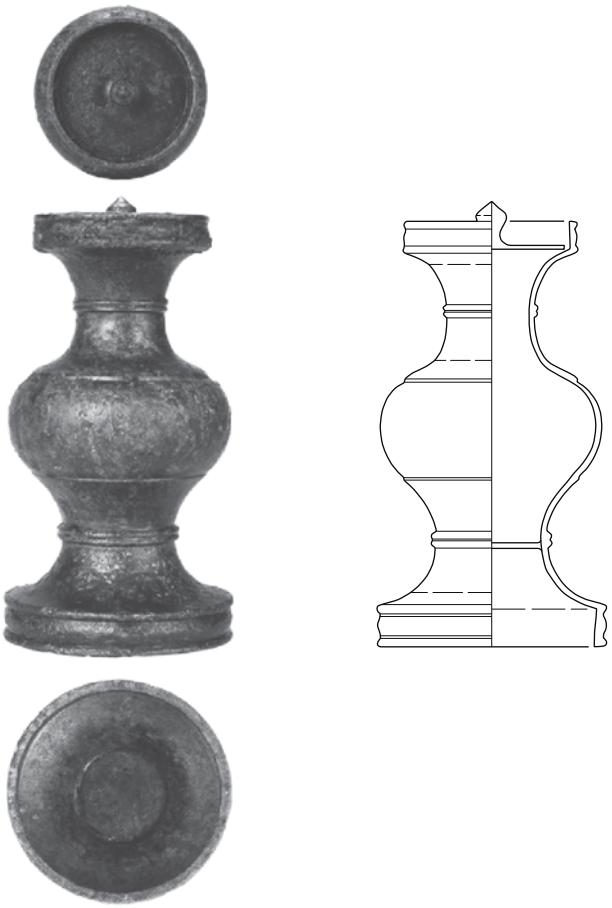
石塔類

挿図番号	出土遺構・地区	種類	石材種類	大きさ（単位:cm）			備考
				高さ	幅	厚さ・奥行	
194-1	SX35	板碑	緑泥片岩	(50.5)	19.8	2.3	基部欠損。表面:主尊種子、蓮座、脇侍種子の刻み。背面:幅1.1～1.2cmの削痕。
194-2	G区	板碑	緑泥片岩	(20.2)	20.0	2.9	頭部破片。表面:二条線、月輪、主尊種子の刻み。背面:幅1.1cmの削痕有り。
194-3	I区	板碑	緑泥片岩	(29.1)	12.5	2.7	表面:枠線、花瓶の刻み。背面:幅1.0cmの削痕有り。
194-4	SX30	板碑	緑泥片岩	(8.4)	(6.6)	(0.6)	剥片。
194-5	SK19	板碑	緑泥片岩	(16.8)	(13.2)	(1.2)	剥片。
194-6	J区	板碑	緑泥片岩	(17.5)	(9.9)	(1.5)	破片。表面:主尊種子の刻み。背面剥落。
195-1	E区	板碑	緑泥片岩	(68.2)	(25.2)	3.6	表面:割付線、二条線、主尊種子、月輪、連座、脇侍種子、「文明六年 甲午 逆修妙祐禅尼」銘の刻み。背面:幅1.0～1.1cmの削痕。
195-2	SS73	石碑	安山岩	(42.6)	14.4	15.6	上部・下部欠損。表面:「（不明）屋幸太郎」銘の刻み。
195-3	E区	石碑	安山岩	(34.8)	16.8	16.8	上部・下部欠損。表面:「愛宕屋佐（不明）」銘の刻み。
196-1	A区	宝篋印塔	安山岩	(20.4)	9.6	－	相輪の宝珠部。
196-2	SS2	墓石	多孔質安山岩	18.0	34.8	28.2	水鉢・花立
196-3	SX23	墓石か	軟質砂質緑色凝灰岩	10.2	30.0	11.4	水鉢か
196-4	N区	墓石	変質安山岩	16.2	25.2	24.6	水鉢
196-5	SS137	台石か	安山岩	12.0	18.0	11.7	加工、削痕面有り。何らかの台石か。
196-6	SX22	石器か	玄武岩か	10.2	18.9	16.5	加工、使用された痕跡有り。
196-7	SX35	五輪塔地輪か	安山岩	13.2	16.8	17.7	一面窪み有り。

石製品類

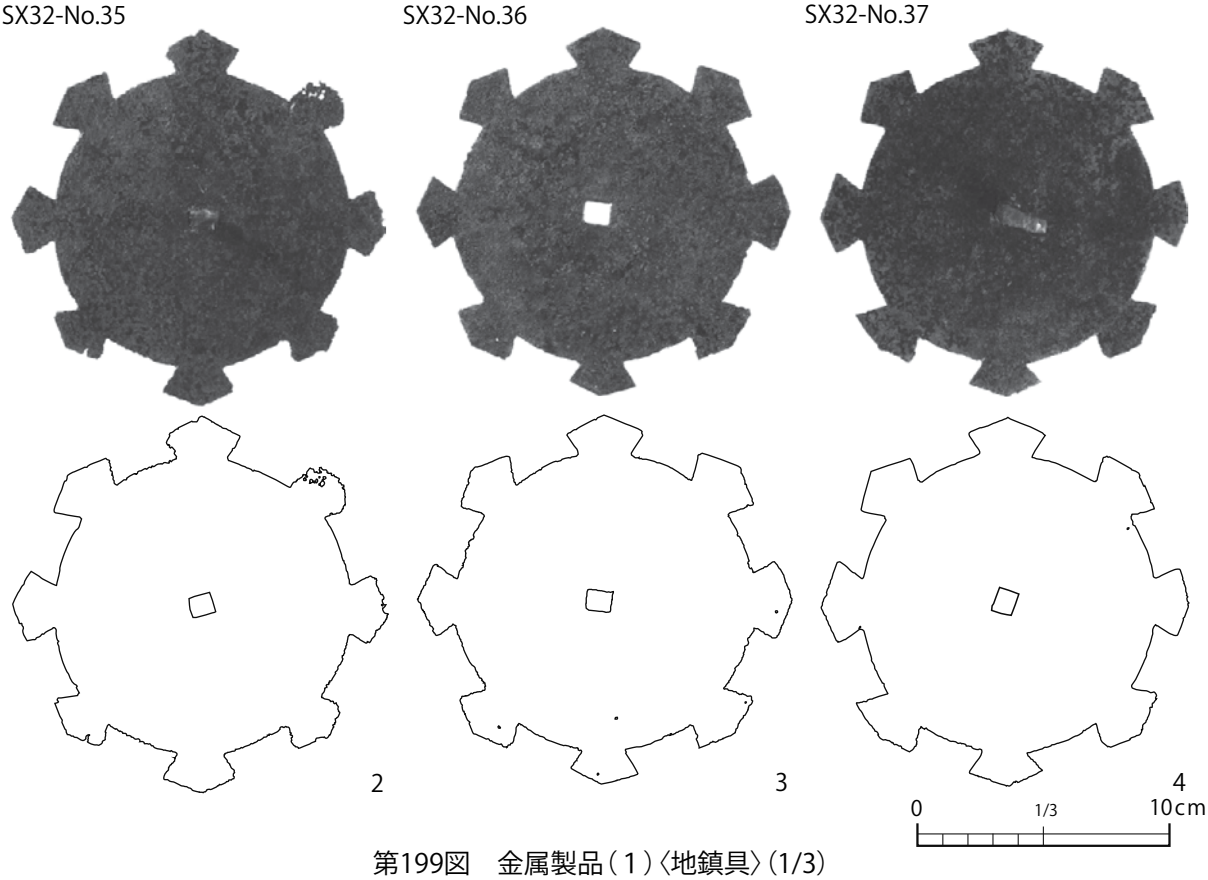
挿図番号	出土遺構・地区	種類	石材種類	大きさ（単位:cm）			備考
				長さ	幅	厚さ	
197-1	SD9	砥石	凝灰岩	(4.2)	(2.2)	(2.2)	両端欠損。灰白色。
197-2	SE10	砥石	凝灰岩	(15.0)	(6.3)	(5.1)	両端欠損。青灰色。
197-3	SE17	砥石	凝灰岩	(15.6)	4.2	3.6	片端、片側面欠損。青灰色。
197-4	SE30	砥石	凝灰岩	(5.7)	3.3	0.9	片端欠損。灰白色。
197-5	SE32	砥石	珪質粘土岩	20.4	5.7	2.1	青灰色。鳴滝石か。
197-6	SK7	砥石	凝灰岩	(6.6)	3.0	1.8	片端欠損。灰白色。
197-7	SK47	砥石	凝灰岩	(6.9)	5.1	1.5	片端欠損。浅黄色。
197-8	SK60	砥石	凝灰岩	(5.7)	(4.8)	1.1	片端、両側面欠損。にぶい黄橙色。
197-9	SK60	砥石	凝灰岩	(6.3)	5.4	1.2	両端欠損。にぶい黄橙色。
197-10	SK60	砥石	凝灰岩	14.7	5.1	2.7	橙色。
197-11	SK61	砥石	凝灰岩	(5.7)	(5.4)	0.9	片端、片側面欠損。にぶい黄橙色。
197-12	SK90	砥石	凝灰岩	(6.6)	(5.7)	0.6	片端、両側面欠損。にぶい黄橙色。
197-13	SS35	砥石	凝灰岩	(6.0)	(3.9)	1.2	両端、片側面欠損。灰白色。
197-14	SX38	砥石	凝灰岩	(7.8)	3.0	1.5	両端欠損。灰白色。
197-15	SX127	砥石	凝灰岩	(11.1)	5.1	0.9	片端欠損。にぶい黄橙色。
198-1	SX23	硯	結晶片岩	(6.3)	6.3	2.4	海部欠損。灰色。表面黒色塗料塗布か。
198-2	N区KR8	硯	粘板岩	7.8	5.1	1.4	黒色。
198-3	M区	硯	粘板岩	15.3	8.1	2.1	海部一部欠損。灰色。
198-4	SX86	硯	頁岩	(7.5)	3.9	1.2	海部欠損。灰白色。
198-5	SP30	磨石か	安山岩	(6.6)	4.8	4.8	上端部欠損。
198-6	SX100	磨石か	軽石	5.1	4.5	3.3	一部擦痕有り。
198-7	SK7	碁石	粘板岩	2.2	2.2	0.6	黒色。
198-8	SK60	碁石	粘板岩	2.2	2.2	0.4	黒色。
198-9	SX50	碁石	粘板岩	2.1	2.1	0.4	黒色。
198-10	SX32 (No.22)	五色玉	流紋岩	2.6	1.6	1.0	淡黄色。SX32のNo.5（土器皿:第171図4）に伴う。
198-11	SX32 (No.24)	五色玉	緑色凝灰岩	1.6	1.7	1.0	薄緑色。相模川産か。SX32のNo.6（土器皿:第171図5）に伴う。
198-12	SX32 (No.27)	五色玉	チャート	1.8	2.2	1.0	暗赤褐色。SX32のNo.10（土器皿:第172図2）に伴う。
198-13	SX32 (No.28)	五色玉	石英	2.3	1.5	1.3	灰白色。SX32のNo.14（土器皿:第172図6）に伴う。
198-14	SX32 (No.30)	五色玉	細粒安山岩	2.2	2.3	2.0	黒色。SX32のNo.19（土器皿:第173図4）に伴う。
198-15	SS16-2	茶臼	閃緑岩	(27.0)	(34.2)	9.6	本鞍馬石（京都）か。

SX32-No.1



1

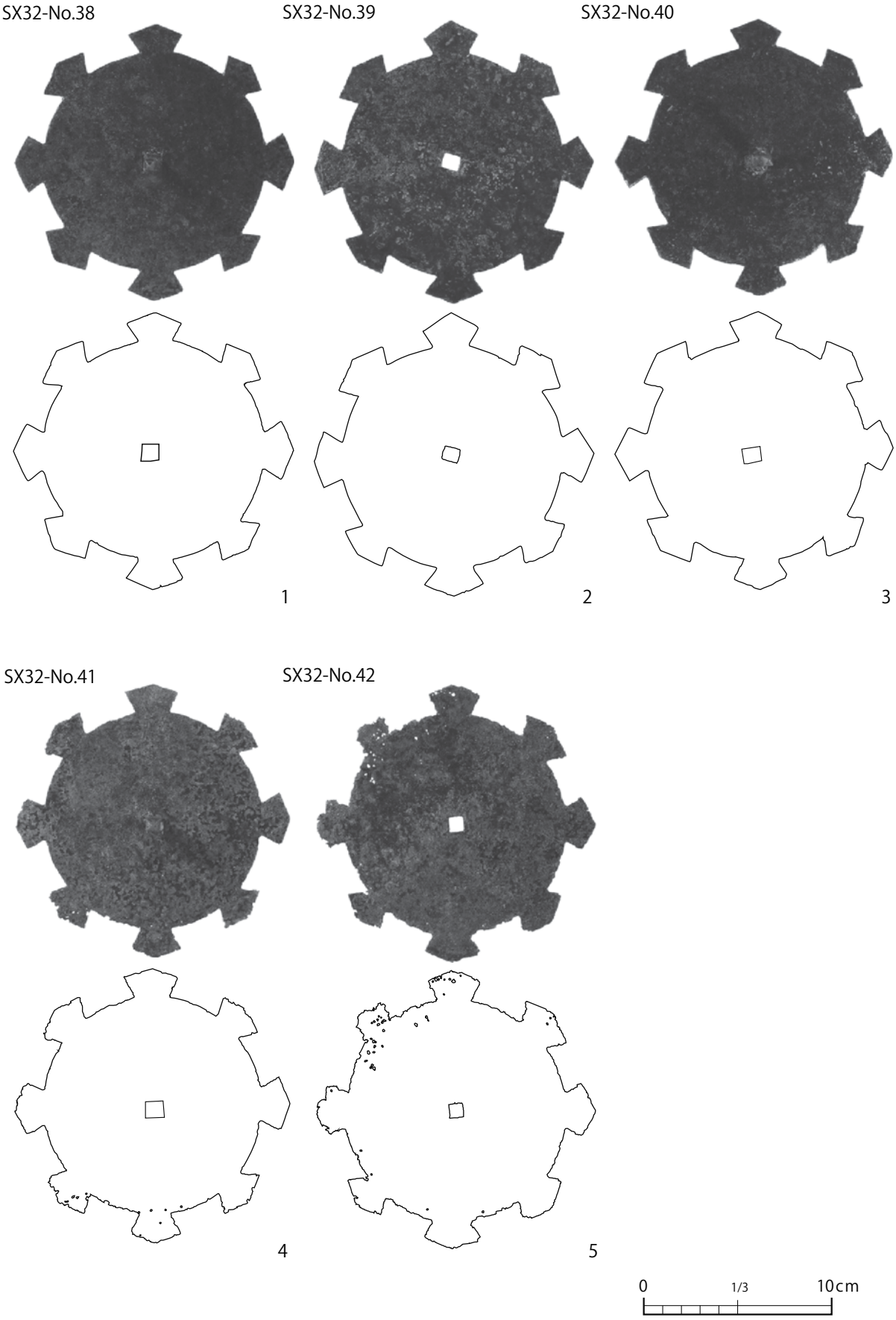
SX32-No.35　SX32-No.36　SX32-No.37



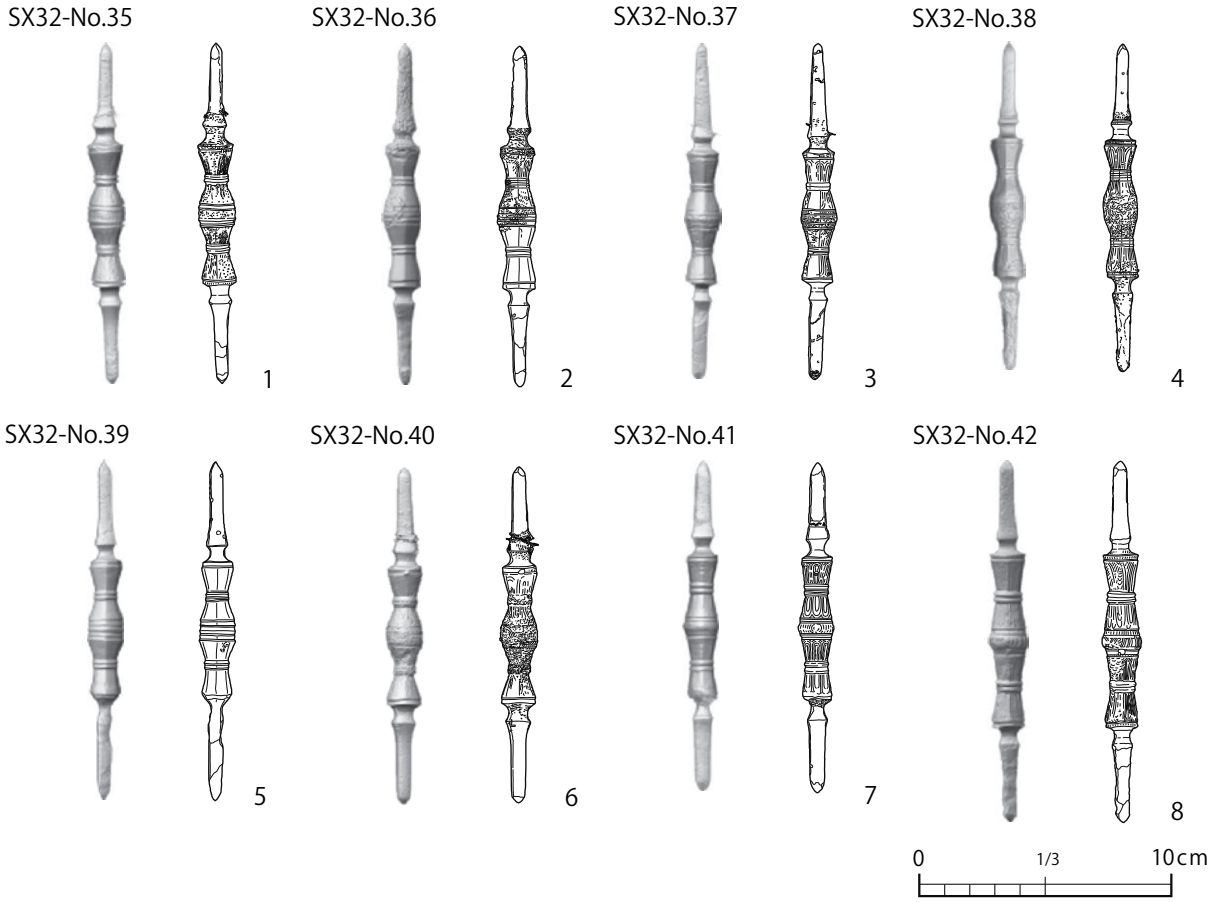
2　3　4

0　1/3　10cm

第199図　金属製品（1）〈地鎮具〉（1/3）



第200図　金属製品（２）〈地鎮具〉(1/3)



第201図　金属製品（３）〈地鎮具〉(1/3)

第10表　SX32（地鎮遺構）金属製品法量・諸元素分析表（1）

宝瓶法量

挿図番号	資料No.	法量					備考
		器高	口径	底径	胴部径	重量	
		mm	mm	mm	mm	g	
199-1	SX32No.1	177	70	92	89	1065	重量は内容物を含む

宝瓶合金組成

挿図番号	資料No.	部位	合金組成					
			評価	銅/Cu	錫/Sn	鉛/Pb	ヒ素/As	アンチモン/Sb
				%	%	%	%	%
199-1	SX32No.1	口縁	(鉛)青銅	93.9	7.5	8.6	N.D.	N.D.
		胴	(鉛)青銅	62.6	19.9	17.5	N.D.	N.D.
		台	(鉛)青銅	75.1	15.6	9.3	N.D.	N.D.
		平均	(鉛)青銅	77.2	14.3	11.8		

第10表　SX32（地鎮遺構）金属製品法量・諸元素分析表（2）

独鈷・輪宝法量

挿図番号	資料No.	法量						
		輪宝最大径	輪宝平均厚	輪宝重量	独鈷全長	独鈷最大径	独鈷重量	独鈷・輪宝重量
		mm	mm	g	mm	mm	g	g
199-2 201-1	SX32No.35	150	1.1		135	14		198
199-3 201-2	SX32No.36	149	1.0	94	135	16	78	172
199-4 201-3	SX32No.37	147	0.6	86	133	15	94	180
200-1 201-4	SX32No.38	149	1.0		130	14		172
200-2 201-5	SX32No.39	151	0.8	120	135	15	73	193
200-3 201-6	SX32No.40	148	1.2		134	14		209
200-4 201-7	SX32No.41	146	0.8		131	15		178
200-5 201-8	SX32No.42	148	0.6	78	144	16	89	167
平均		148.5	0.9	94.5	134.6	14.9	83.5	183.6

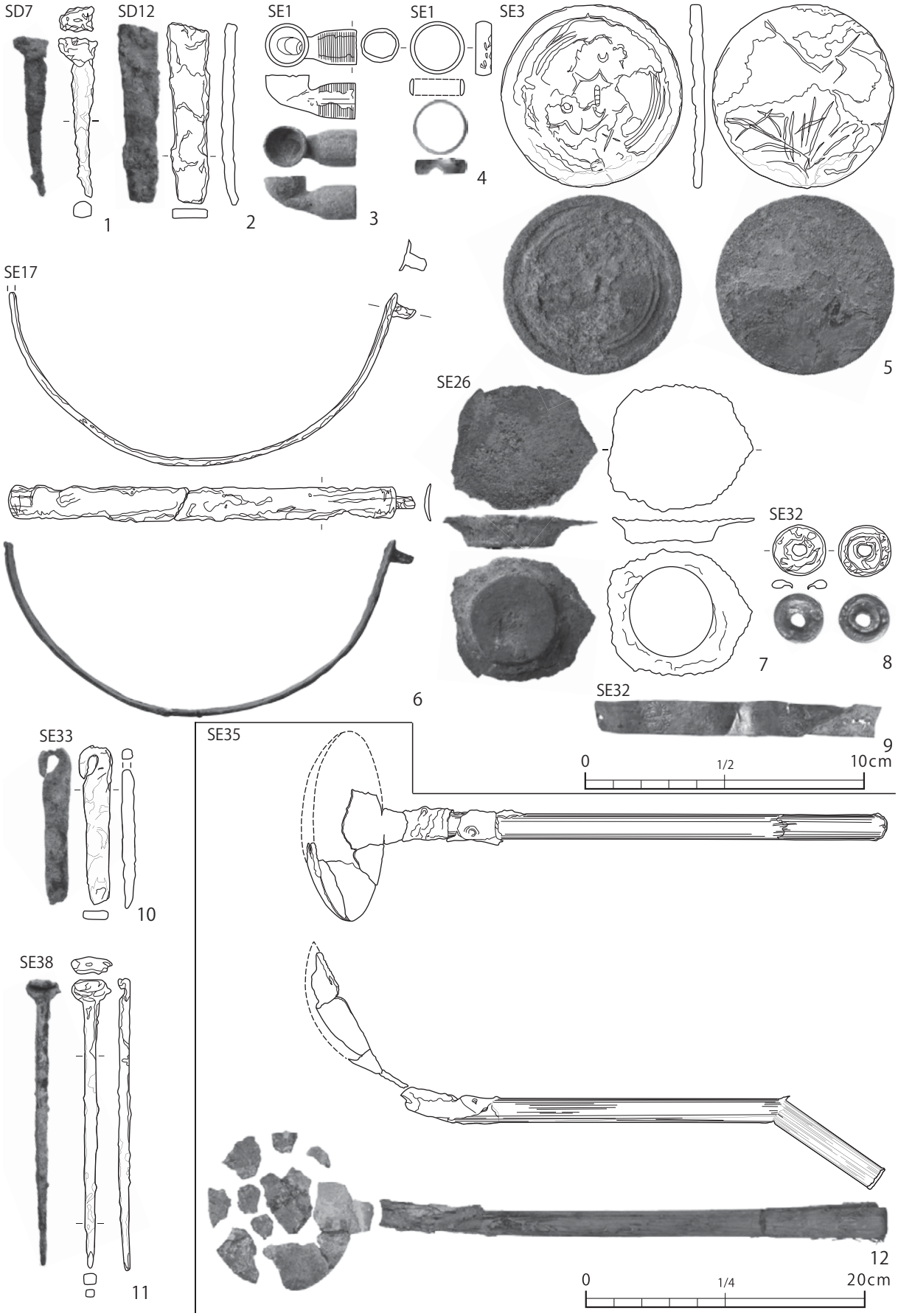
独鈷と輪宝を個別に重量計測し、合計した値。

輪宝合金組成

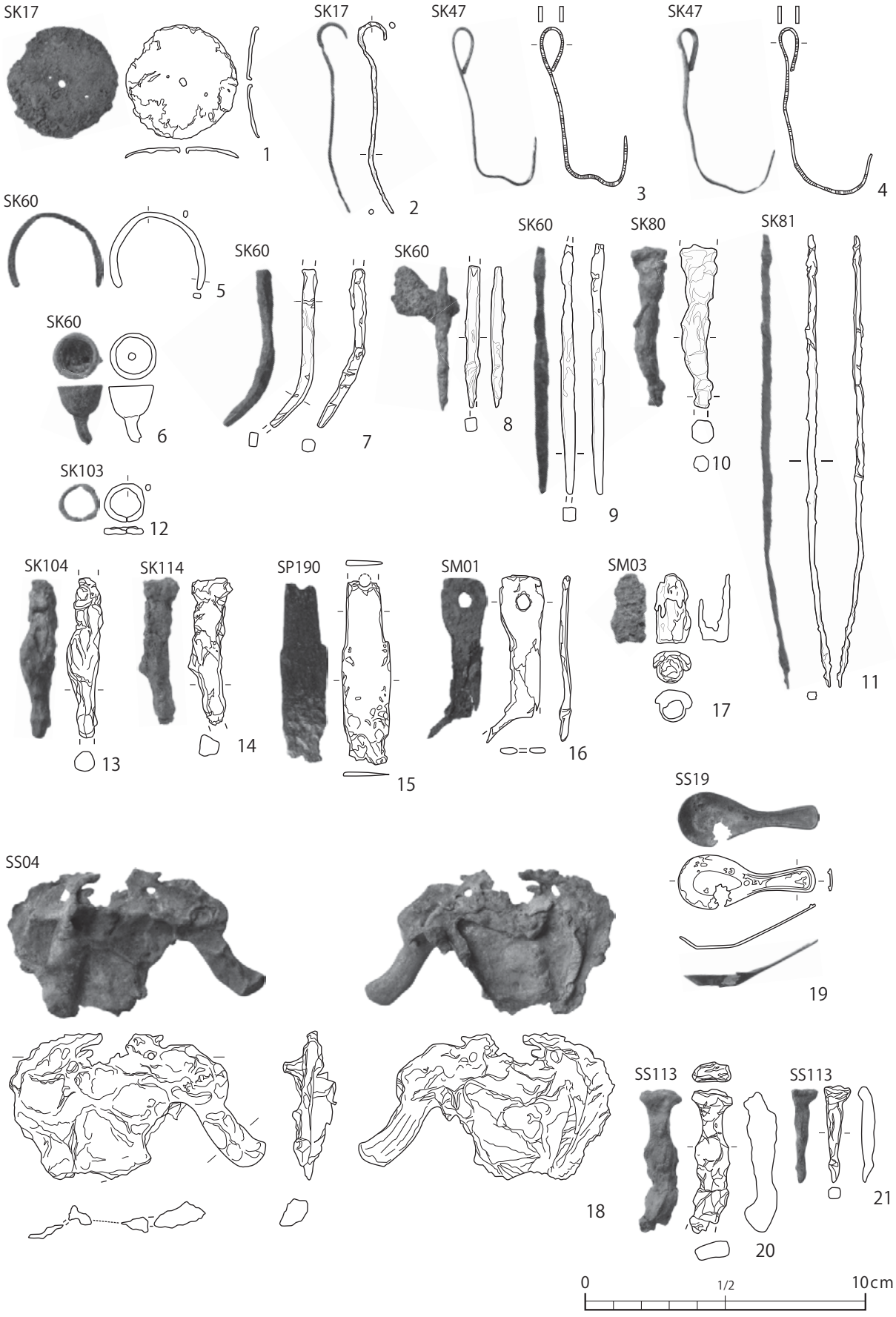
挿図番号	資料No.	合金組成						
		評価	銅/Cu	錫/Sn	鉛/Pb	ヒ素/As	アンチモン/Sb	銀/Ag
			%	%	%	%	%	%
199-2	SX32No.35	純銅	99.3	N.D.	0.2	0.3	N.D.	0.1
199-3	SX32No.36	純銅	99.5	N.D.	0.0	0.3	N.D.	0.1
199-4	SX32No.37	純銅	99.6	N.D.	0.1	0.2	N.D.	0.1
200-1	SX32No.38	純銅	99.6	N.D.	N.D.	0.2	N.D.	0.1
200-2	SX32No.39	純銅	99.7	N.D.	0.0	0.3	N.D.	N.D.
200-3	SX32No.40	純銅	99.8	N.D.	0.1	0.1	N.D.	N.D.
200-4	SX32No.41	純銅	99.3	N.D.	0.2	0.3	N.D.	0.2
200-5	SX32No.42	純銅	99.6	N.D.	0.2	0.2	N.D.	0.0
平均			99.6	0.0	0.1	0.2		0.1

独鈷合金組成

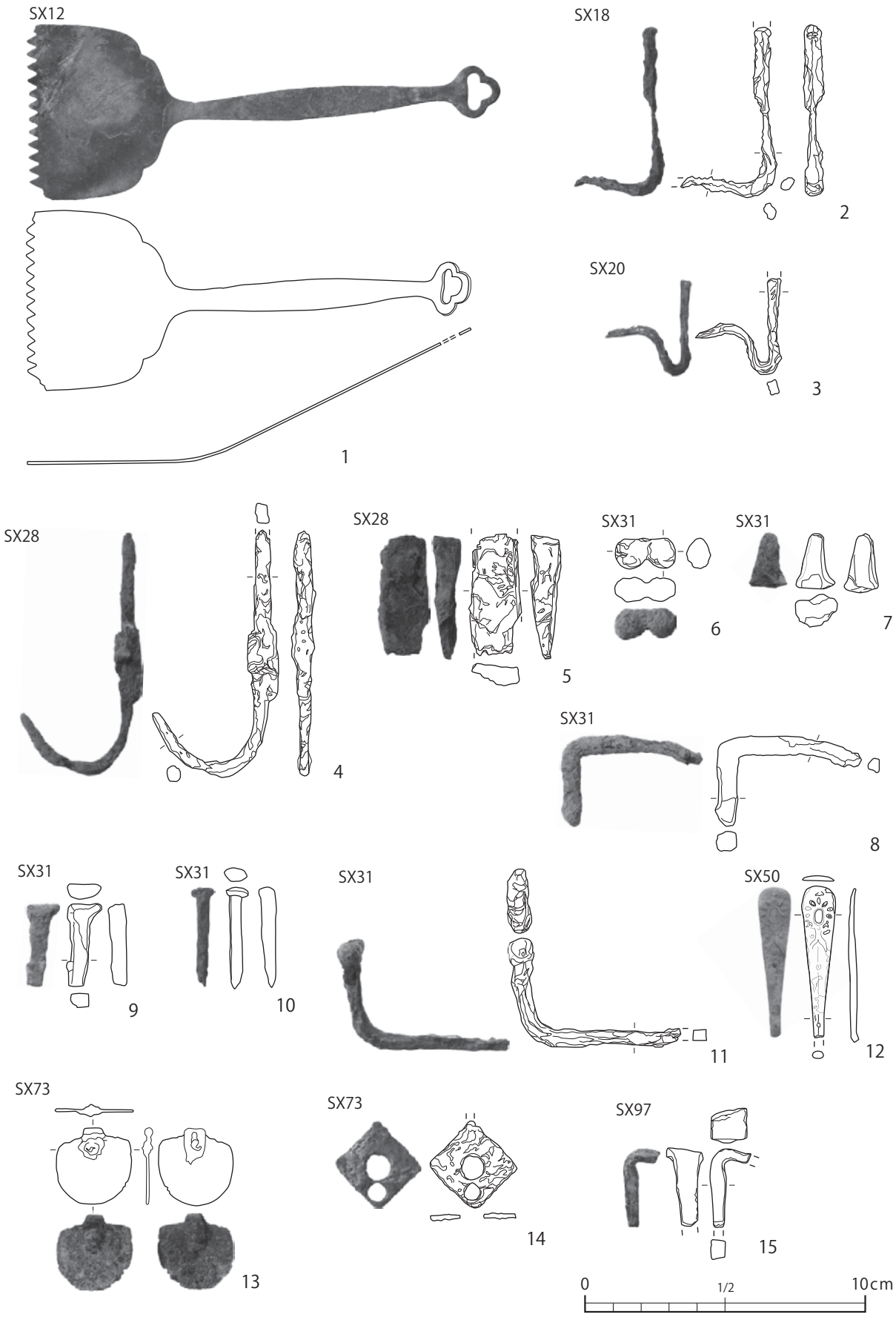
挿図番号	資料No.	合金組成				
		銅/Cu	錫/Sn	鉛/Pb	ヒ素/As	アンチモン/Sb
		%	%	%	%	%
201-1	SX32No.35	44.4	10.9	44.8	N.D.	N.D.
201-2	SX32No.36	61.3	30.0	8.2	N.D.	0.4
201-3	SX32No.37	65.2	18.5	N.D.	N.D.	N.D.
201-4	SX32No.38	68.2	15.8	15.7	N.D.	0.3
201-5	SX32No.39	77.2	19.4	3.5	N.D.	N.D.
201-6	SX32No.40	57.4	8.8	32.4	1.0	0.3
201-7	SX32No.41	43.0	19.3	35.6	1.4	0.7
201-8	SX32No.42	86.9	8.5	4.6	N.D.	N.D.
平均		63.0	16.4	18.1	0.3	0.2



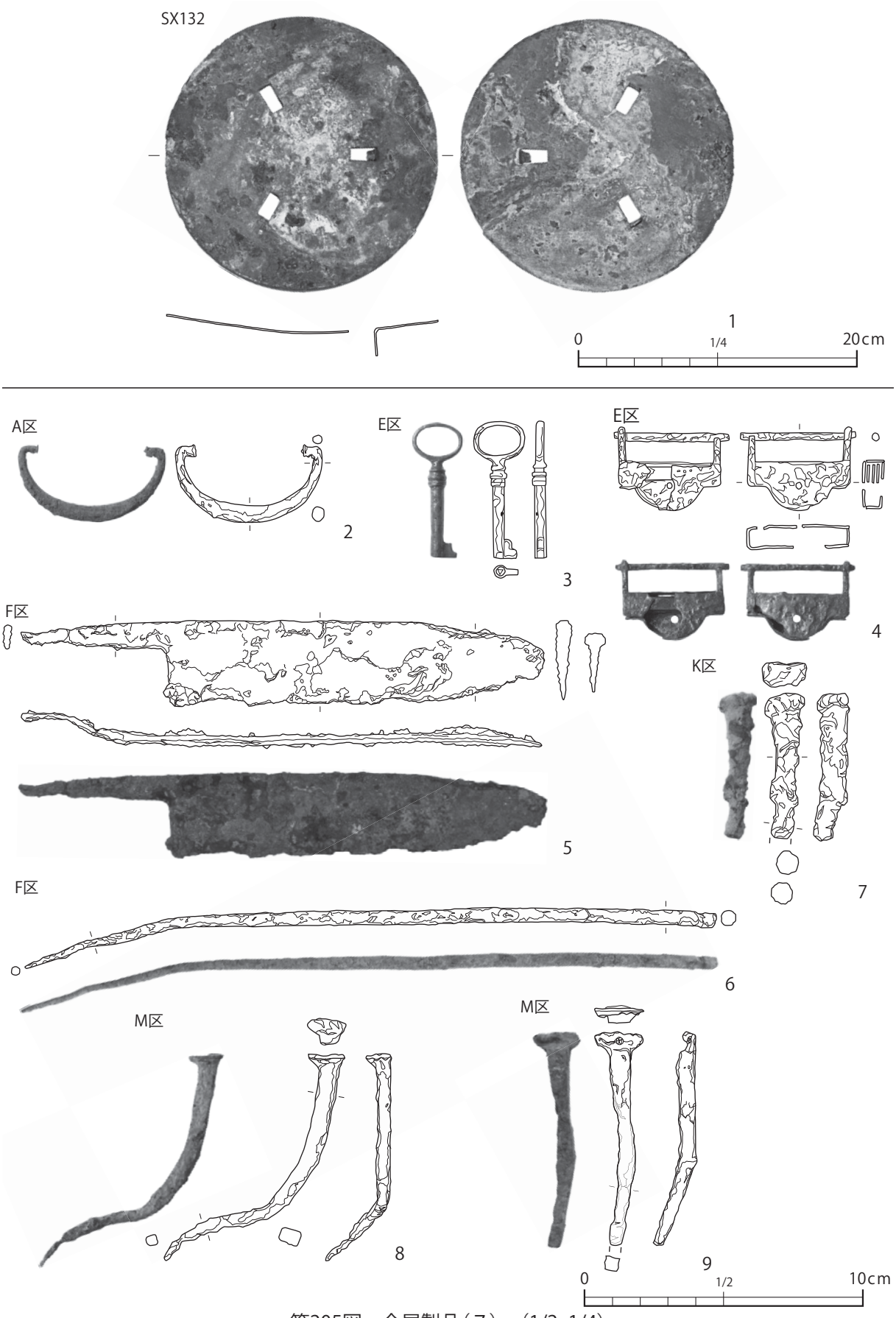
第202図　金属製品（4）　（1/2・1/4）



第203図　金属製品（5）　(1/2)



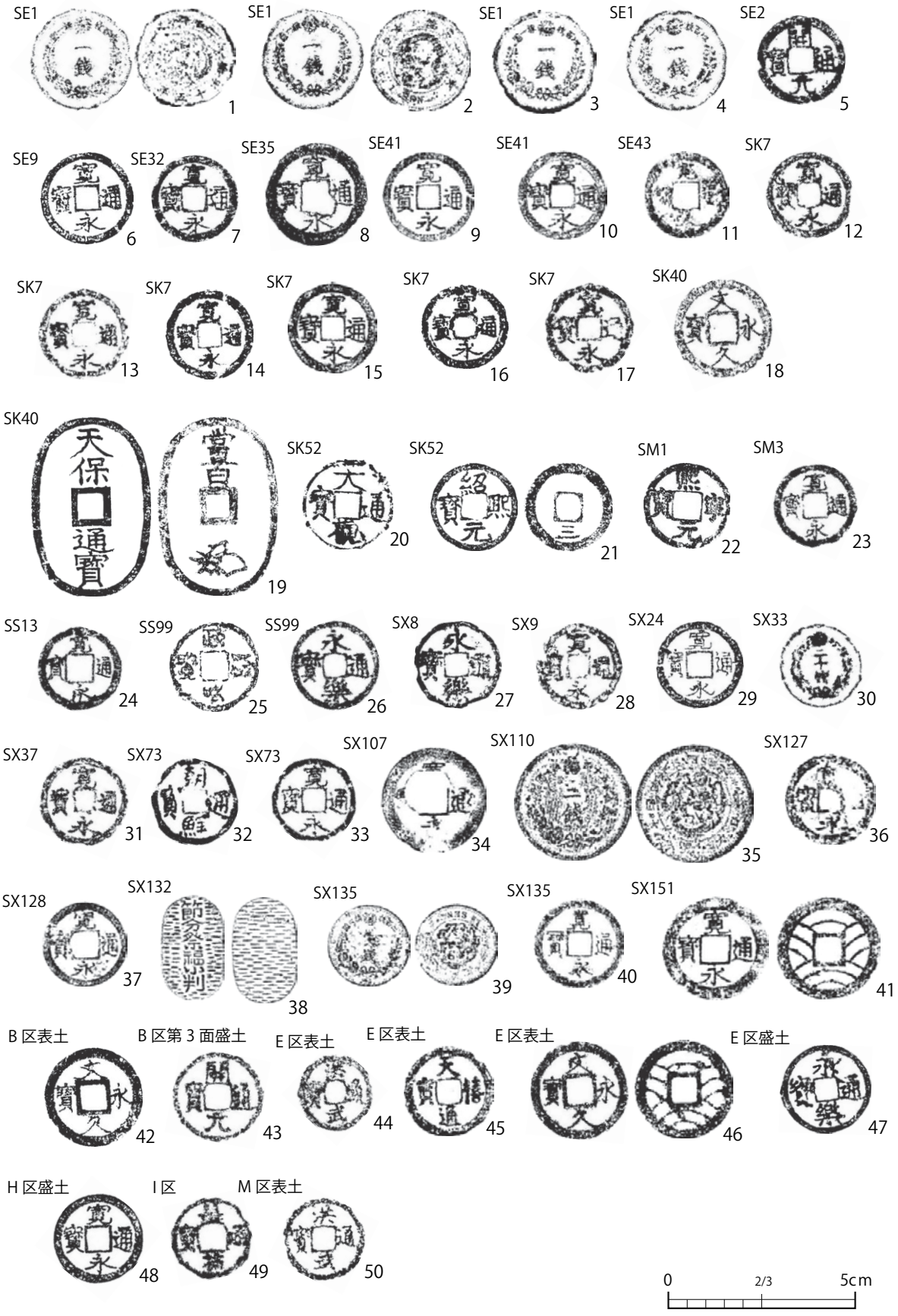
第204図　金属製品（6）　(1/2)



第205図　金属製品（7）　（1/2・1/4）

第11表　金属製品一覧

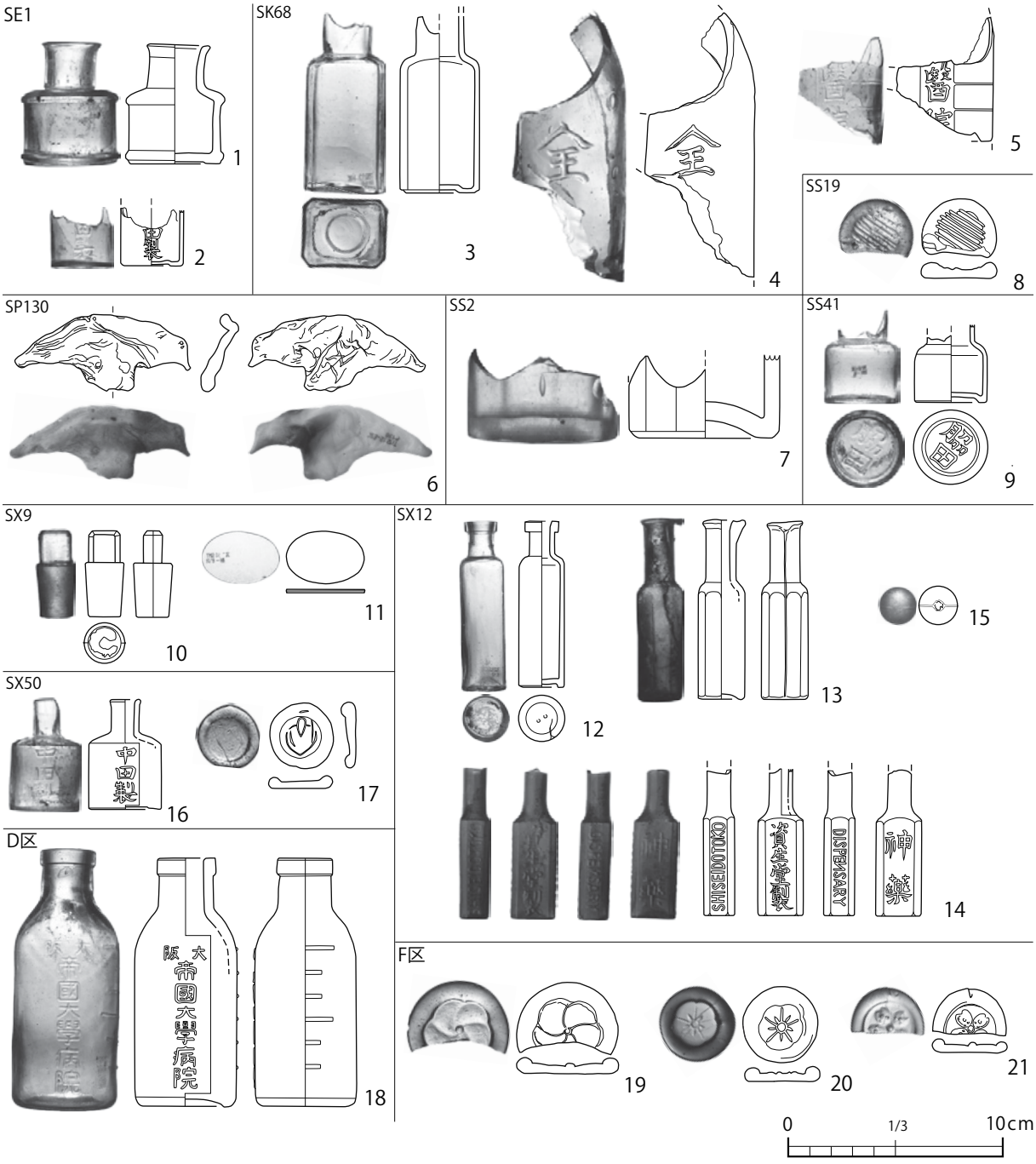
挿図番号	種類	出土　遺構	材質	大きさ・文様等特徴（単位cm）
202-1	釘	SD7	鉄	長さ:5.5 頂部幅:1.2 /断面方形。
202-2	不明	SD12	鉄	長さ:（6.4）幅：1.1 厚さ0.3
202-3	煙管雁首	SE1	銅	長さ:3.2 高さ:1.6 火皿径:1.5
202-4	指輪	SE1	真鍮	径:1.8 幅:0.6
202-5	鏡	SE3	銅	径6.4 厚さ:0.4/上面文様、中央部僅かな突起有り。
202-6	容器把手か	SE17	銅	長さ:2.1 幅:1.2/片方の端部に突起有り。
202-7	容器台か	SE26	銅	円形部径:3.1 高さ1.2/周囲破損。
202-8	飾り金具か	SE32	銅	径:1.8 厚さ:0.2/中央に穴があり、潰れた状態。
202-9	飾り金具か	SE32	真鍮か	長さ:10.3 幅1.2/薄い板状の金具。両端に小さな穿孔があり、植物文様が押されている。
202-10	吊り金具か	SE33	鉄	長さ:（5.6）　幅:1.2 厚さ:0.3/頂部が曲げられている。
202-11	釘	SE38	鉄	長さ:10.0 頂部幅:1.2/断面方形。頂部は丸く巻かれている状態。
202-12	杓子	SE35	銅	径:（10.0）/柄の部分は木製。
203-1	飾り金具か	SK17	銅	径:3.9 厚さ:0.1/中央に計2㎜程の穿孔有り。
203-2	吊り金具か	SK17	銅	太さ約1㎜の針金状を呈し、片端が輪状に曲げられている。
203-3	吊り金具か	SK47	銅	断面長方形（幅最大4㎜、厚さ1㎜）の針金状を呈し、頂部は輪状に曲げられている。下端に向って細くなし、端部は尖っている。
203-4	吊り金具か	SK47	銅	断面長方形（幅最大4㎜、厚さ1㎜）の針金状を呈し、頂部は輪状に曲げられている。下端に向って細くなし、端部は尖っている。
203-5	不明	SK60	銅	形は輪状で、断面は長方形（幅2.5㎜、厚さ1㎜）を呈する。
203-6	煙管雁首	SK60	銅	火皿径:1.6
203-7	釘	SK60	鉄	長さ:（6.0）/断面方形で、頂部は欠失。
203-8	釘	SK60	鉄	長さ:（5.0）/断面方形で、頂部、先端部は欠失。錆により、砂粒付着。
203-9	釘	SK60	鉄	長さ:（8.8）/断面方形で、頂部、先端部は欠失。
203-10	釘	SK80	鉄	長さ:（5.7）/錆により断面形状詳細不明。頂部、先端部は欠失か。
203-11	針状金具	SK81	銅か	長さ:15.8 太さ:2.0/断面方形で、先端は尖る。
203-12	輪状金具	SK103	銅	径:1.5/断面円形の針金を輪状に変形。
203-13	釘か	SK104	鉄	長さ:（5.6）/両端部を欠失。
203-14	釘	SK114	鉄	長さ:（5.1）頂部幅:1.4 /断面方形。先端部を欠失。
203-15	不明	SP190	鉄	長さ:（6.5）幅:1.7
203-16	吊り金具か	SM1	鉄	長さ:（6.0）　幅:1.6 厚さ:0.2/先端部を欠失。頂部が曲げられている。
203-17	不明	SM3	銅	高さ:（2.4）　幅1.2/筒状を呈する。
203-18	不明	SS4	銅か	長さ:9.0 幅:5.2 厚さ1.8 /熔解した金属片で、火災によるものか。
203-19	匙	SS19	銅	長さ:5.0　幅:5.3/熔解した金属片で、火災によるものか。
203-20	釘	SS113	鉄	長さ:（5.2）　頂部幅:1.5/断面方形。先端部は欠失。
203-21	釘	SS113	鉄	長さ:（3.5）　頂部幅:1.0/断面方形。先端部は欠失。
204-1	灰ならし	SX12	銅	長さ:8.4 幅6.2 厚さ:0.1
204-2	釘か	SX18	鉄	長さ:8.0 /断面方形。頂部欠失か。大きく曲がっている。
204-3	釘か	SX20	鉄	長さ:7.0 /断面方形。頂部欠失か。大きく曲がっている。
204-4	釘か	SX28	鉄	長さ:（12.0）/断面方形。頂部欠失か。大きく曲がり、先端部は細くなる。
204-5	不明	SX28	鉄か	長さ;（4.3）　幅:1.7 厚さ:0.4～1.0/両端部欠失か。
204-6	不明	SX31	銅か	幅:2.1 厚さ:0.8/形態は双円状を呈する。
204-7	不明	SX31	銅か	長さ:1.9 幅:1.3 厚さ:1.2/
204-8	釘か	SX31	鉄	長さ:（7.5）　/断面方形。屈曲し、頂部・端部欠失か。
204-9	釘	SX31	鉄	長さ:（1.9）　頂部幅:1.1 /断面方形。先端部欠失。
204-10	釘	SX31	鉄	長さ:（3.5）　頂部幅:0.8 /断面方形。先端部欠失。
204-11	釘	SX31	鉄	長さ:（9.0）　頂部幅:2.3/断面方形。屈曲し、先端部は欠失。
204-12	匙か	SX50	銅	長さ:（5.3）　幅:0.4～1.2 厚さ1.0/把手部先端欠失か。片面に文様有り。
204-13	飾り金具か	SX73	銅	幅:縦・横2.6/一端に部品取り付けか。
204-14	飾り金具か	SX73	銅	幅:縦・横2.2 厚さ:0.1/正方形を呈するが、一角に欠失部分有りか。円形の穴２ヶ所有り。
204-15	釘	SX97	鉄	長さ:（2.8）　頂部幅:1.2/断面方形。先端部欠失。
205-1	不明	SX132	鉄	直径:19.6 厚さ:0.1/円形の盤で、３か所、切込みによる折り曲げ有り。
205-2	把手	A区	銅	幅:縦2.6 横3.2/引き出し等の把手か。
205-3	鍵	E区	真鍮	長さ: 4.7 頭部幅:1.8
205-4	錠	E区	銅	高さ:2.7 幅:4.0
205-5	包丁	F区	鉄	長さ:28.2 幅4.5
205-6	火箸	F区	銅	長さ:28.0
205-7	釘	F区	鉄	長さ:（5.2）　頂部幅:1.6/先端部欠失。
205-8	釘	M区	鉄	長さ:11.0 頂部幅:1.4/断面方形。
205-9	釘	M区	鉄	長さ:（7.6）　頂部幅:1.8/断面方形。先端部欠失。


SE1
1
SE1
2
SE1
3
SE1
4
SE2
5
SE9
6
SE32
7
SE35
8
SE41
9
SE41
10
SE43
11
SK7
12
SK7
13
SK7
14
SK7
15
SK7
16
SK7
17
SK40
18
SK40
19
SK52
20
SK52
21
SM1
22
SM3
23
SS13
24
SS99
25
SS99
26
SX8
27
SX9
28
SX24
29
SX33
30
SX37
31
SX73
32
SX73
33
SX107
34
SX110
35
SX127
36
SX128
37
SX132
38
SX135
39
SX135
40
SX151
41
B 区表土
42
B 区第 3 面盛土
43
E 区表土
44
E 区表土
45
E 区表土
46
E 区盛土
47
H 区盛土
48
I 区
49
M 区表土
50
0
2/3
5cm

第206図　銭貨（2/3）

第12表　銭貨一覧

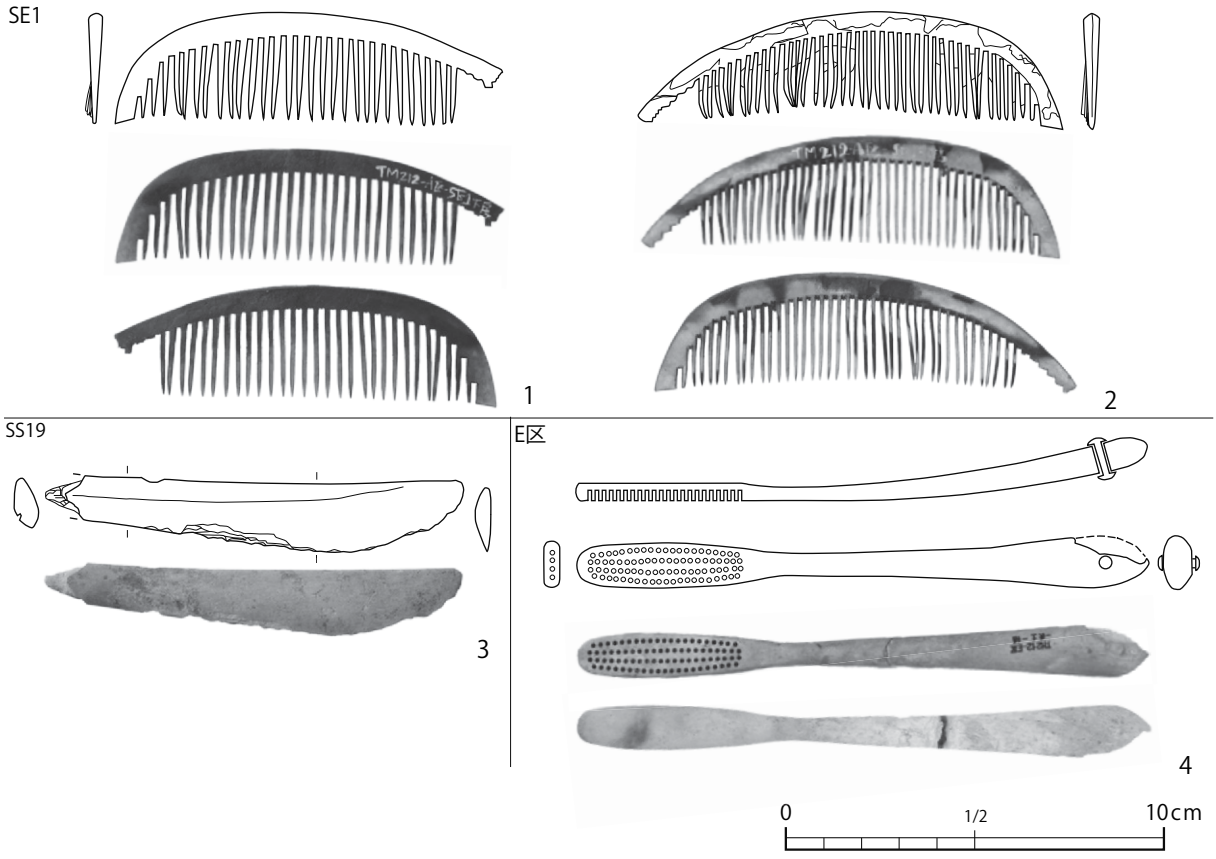
挿図番号	出土遺構・地区		銭貨名	材質	大きさ（単位mm）		備考
					外径	穿径	
206-1	A区	SE1	一銭	銅	28	－	銭文に「明治15年」（1882）と有り。
206-2	A区	SE1	一銭	銅	28	－	錆により、鋳造年不明。初鋳は明治6年（1873）。
206-3	A区	SE1	一銭	銅	28	－	錆により、鋳造年不明。初鋳は明治6年（1873）。
206-4	A区	SE1	一銭	銅	28	－	錆により、鋳造年不明。初鋳は明治6年（1873）。
206-5	A区	SE2	開元通宝	銅	24	6	渡来銭。中国銭で初鋳は621年。
206-6	F区	SE9	寛永通宝	銅	25	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-7	K区	SE32	寛永通宝	銅	23	6	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-8	M区	SE35	寛永通宝	銅	28	6	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-9	N区	SE41	寛永通宝	銅	24	5	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-10	N区	SE41	寛永通宝	銅	23	5	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-11	N区	SE43	寛永通宝	銅	23	6	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-12	A区	SK7（5層）	寛永通宝	銅	23	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-13	A区	SK7（6層）	寛永通宝	銅	24	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-14	A区	SK7（6層）	寛永通宝	銅	24	6	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-15	A区	SK7（6層）	寛永通宝	銅	24	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-16	A区	SK7（6層）	寛永通宝	銅	24	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-17	A区	SK7（6層）	寛永通宝	銅	25	5	古寛永。初鋳は寛永13年（1636）。
206-18	E区	SK40	文久永宝	銅	27	7	初鋳は文久3年（1863）。
206-19	E区	SK40	天保通宝	銅	長さ48×幅32	7	初鋳は天保6年（1835）。
206-20	F区	SK52	大観通宝	銅	25	6	北宋銭。初鋳は1107年。
206-21	F区	SK52	紹熙元宝	銅	24	6	南宋銭。初鋳は1190年。
206-22	I区	SM1	熙寧元宝	銅	24	7	北宋銭。初鋳は1068年。
206-23	K区	SM3	寛永通宝	銅	23	6	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-24	A区	SS13	寛永通宝	銅	23	7	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-25	J区	SS99	政和通宝	銅	24	6	北宋銭。初鋳は1111年。
206-26	J区	SS99	永楽通宝	銅	24	6	明銭。初鋳は1408年。
206-27	A区	SX8	永楽通宝	銅	24	5	明銭。初鋳は1408年。
206-28	C区	SX9	寛永通宝	銅	23	5	新寛永か。
206-29	H区	SX24	寛永通宝	銅	23	6	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-30	J区	SX33	二十銭	銀か	23	－	銭文詳細不明。
206-31	I区	SX37	寛永通宝	銅	24	5	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-32	M区	SX73	朝鮮通宝	銅	23	6	李氏朝鮮の銭貨。初鋳は1423年。
206-33	M区	SX73	寛永通宝	銅	23	6	古寛永か。
206-34	N区	SX107	寛永通宝	銅	28	－	新寛永か。
206-35	N区	SX110	二銭	銅	31	－	銭文詳細不明。
206-36	N区	SX127	寛永通宝	銅	24	6	
206-37	N区	SX128	寛永通宝	銅	23	6	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-38	N区	SX132	節分祭福小判	銅	長さ28×幅17	－	節分の日に神社仏閣で豆と共にまかれる。
206-39	N区	SX135	一銭か	銅	22	－	銭文詳細不明。
206-40	N区	SX135	寛永通宝	銅	24	5	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-41	N区	SX151	寛永通宝	銅	28	6	新寛永。背面に波文。
206-42	B区	表土	文久永宝	銅	27	7	初鋳は文久3年（1863）。
206-43	B区	第3面盛土	開元通宝	銅	25	6	渡来銭。中国銭で初鋳は621年。
206-44	E区	表土	洪武通宝	銅	20	5	明銭。初鋳は1368年。
206-45	E区	表土	天禧通宝	銅	24	6	北宋銭。初鋳は1017年。
206-46	E区	表土	文久永宝	銅	26	6	初鋳は文久3年（1863）。
206-47	E区	盛土	永楽通宝	銅	24	5	明銭。初鋳は1408年。
206-48	H区	盛土	寛永通宝	銅	24	5	新寛永。初鋳は寛文8年（1668）。
206-49	I区	遺構外	嘉祐通宝か	銅	22	6	北宋銭。初鋳は1056年。
206-50	M区	表土	洪武通宝	銅	23	6	明銭。初鋳は1368年。



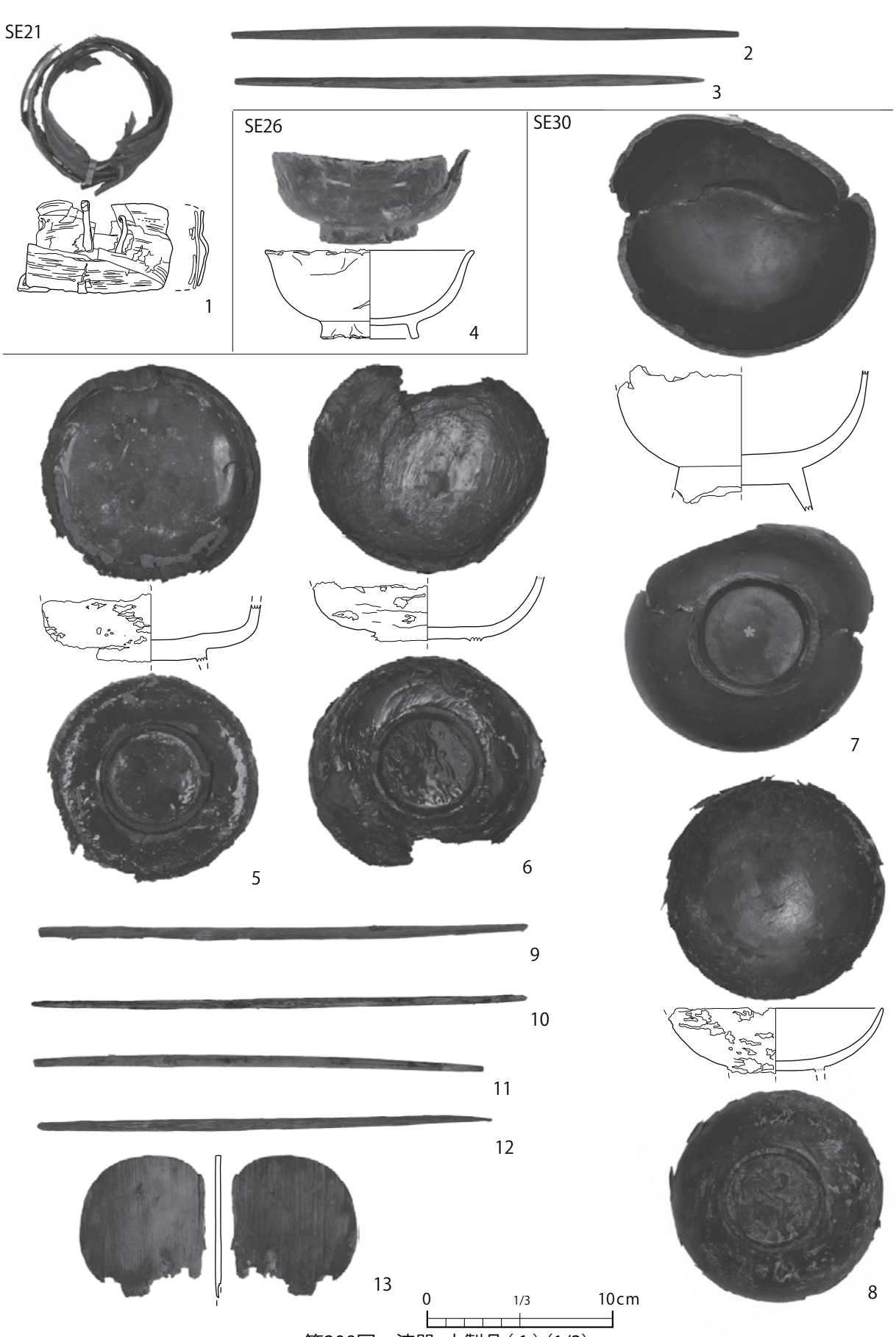
第207図　ガラス製品（1/3）

第13表　ガラス製品一覧

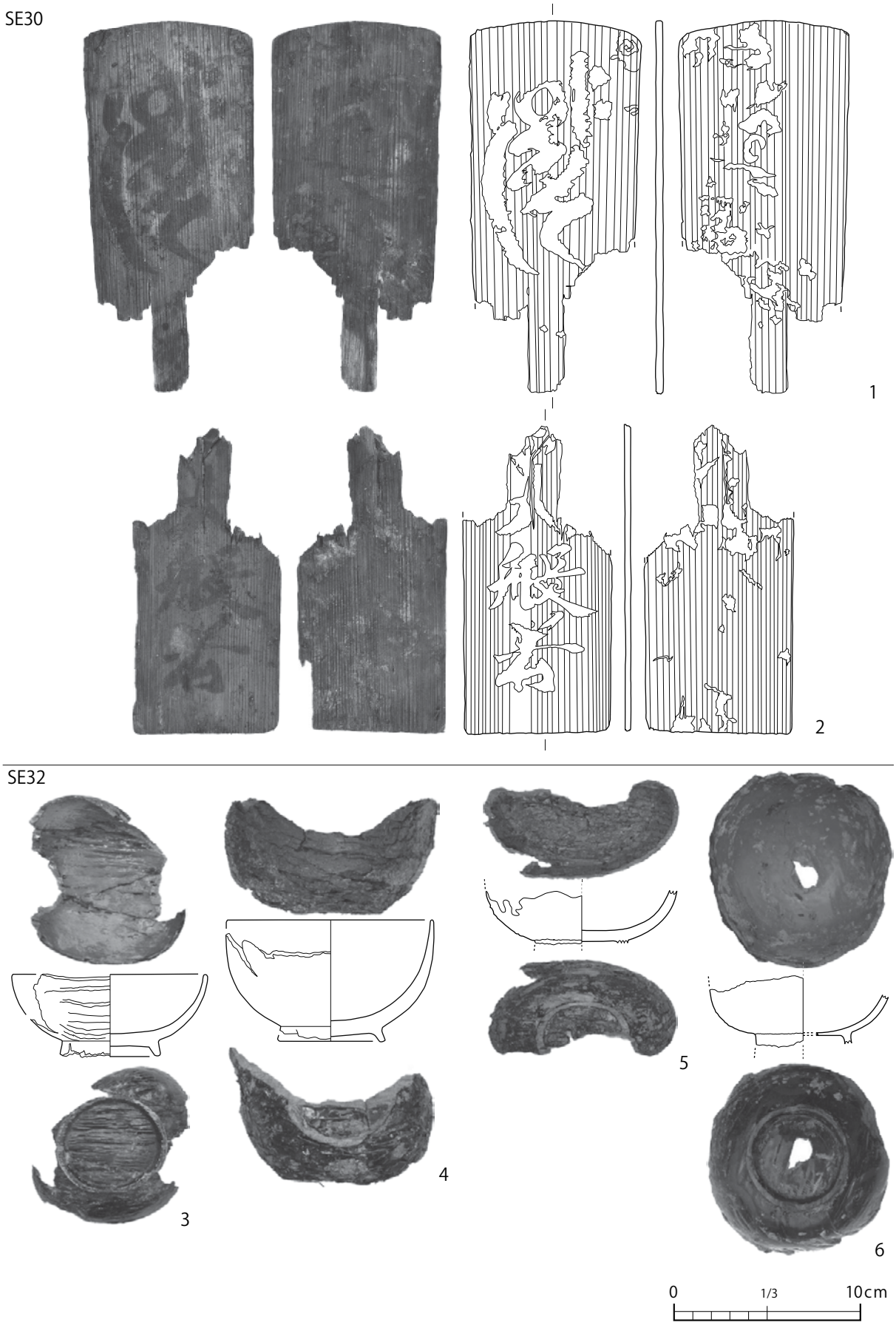
挿図番号	出土遺構・層	器種	残存部位	法量（単位:cm）			特徴
				口径・幅	器高・厚さ	底径	
207-1	SE1	小瓶	完形	2.4	5.7	4.2	無色透明。
207-2	SE1	小瓶	底部片	－	－	2.7	無色透明。胴部に「（不明）田製」。
207-3	SK68	小瓶	口縁部欠	－	－	3.3×3.0	薄緑色透明。胴部は角が丸みを持つ直方体。
207-4	SK68	瓶	胴部片	－	－	－	無色透明。胴部に「（山）王」。
207-5	SK68	瓶	胴部片	－	－	－	無色透明。胴部に「（不明）醫院（か）」。薬瓶か。
207-6	SP130	不明	破片	8.4	3.6	－	白色不透明で、部分的に赤褐色を呈する。高熱により溶け、変形か。
207-7	SS2	瓶	底部片	－	－	6.3	薄緑色透明。胴部は縦方向の稜線が入り、平面形は10角形になるか。
207-8	SS19	おはじき	2/3	3.6	0.9	－	薄緑色透明。凹面に条線文か。
207-9	SS41	小瓶	口縁部欠	－	－	3.6	無色透明。底面に「脇田」。
207-10	SX9	栓か	完形	1.8	4.2	1.5	青緑色透明。直方形の摘み付。
207-11	SX9	不明	完形	3.6×2.4	0.1	－	無色透明。楕円形を呈する。
207-12	SX12	小瓶	完形	1.8	7.8	2.1	無色透明。
207-13	SX12	小瓶	完形	1.8～2.1	8.4	1.8	濃藍色透明。口縁部の一部が外側へ広がっている。
207-14	SX12	小瓶	口縁部欠	－	－	2.1×1.2	濃藍色透明。胴部平面長八角形。側面に「神薬」・「資生堂製」・「DISPENSARY」・「SHISEIDOTOKO」。薬瓶か。
207-15	SX12	ビー玉か	完形	1.8	1.8	－	薄緑色透明。型枠と思われる痕跡有り。
207-16	SX50	小瓶	完形	1.2	5.1	3.3	無色透明。胴部に「中田製」。
207-17	SX50	おはじき	完形	3.0	0.6	－	薄藍色透明。凹面に文様か。
207-18	D区	瓶	完形	2.7	11.7	4.2	無色透明。胴部に「大阪　帝國大學病院」。胴部に約1cm間隔で、横線状の突起6本有り。目盛りか。
207-19	F区	おはじき	2/3	4.8	0.9	－	濃緑色透明。凹面に花文様。
207-20	F区	おはじき	完形	3.6	0.8	－	濃茶色透明。凹面に花文様か。
207-21	F区	おはじき	2/3	3.6	0.8	－	濃緑色透明。凹面に花文様。



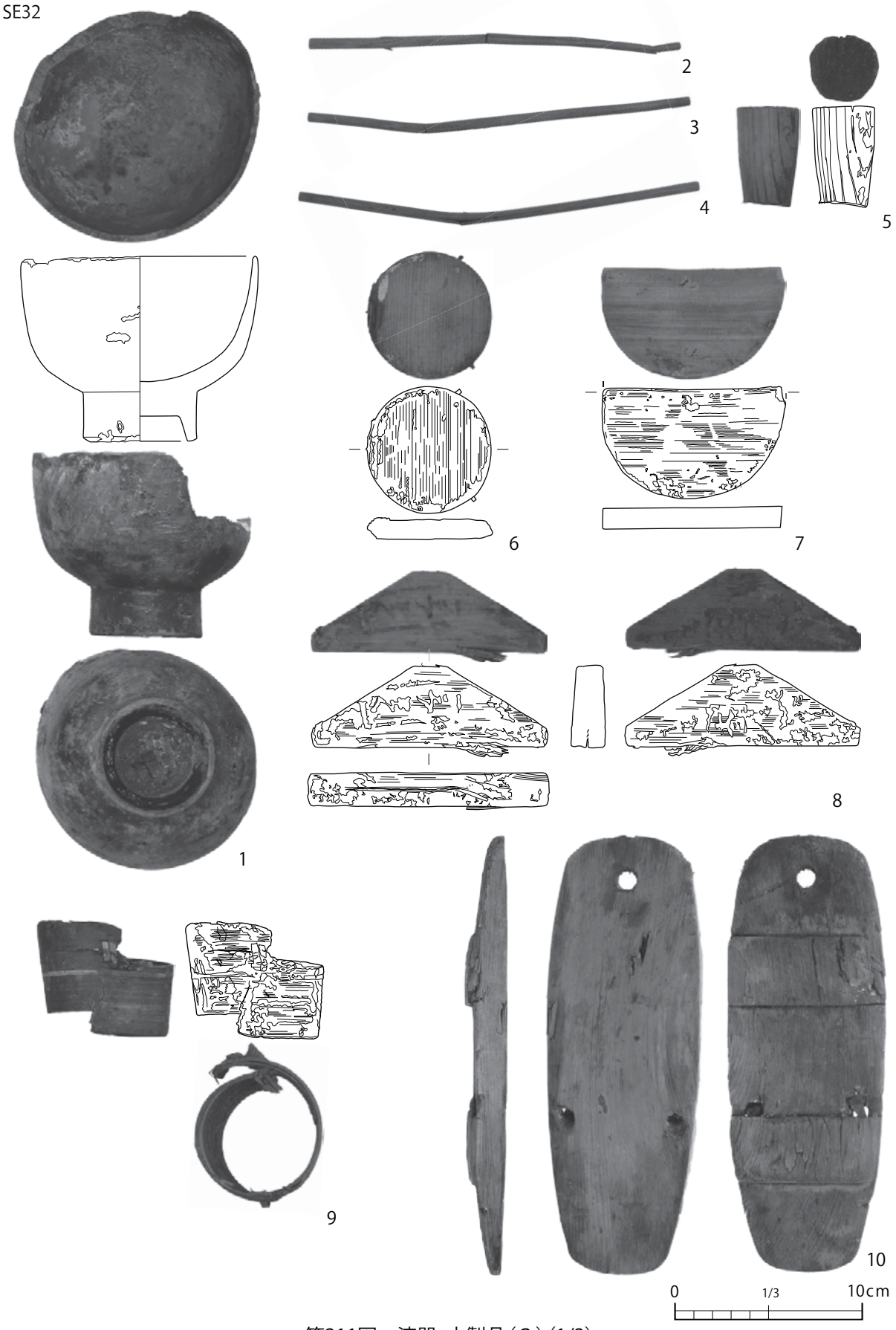
第208図　骨角製品（1/2）



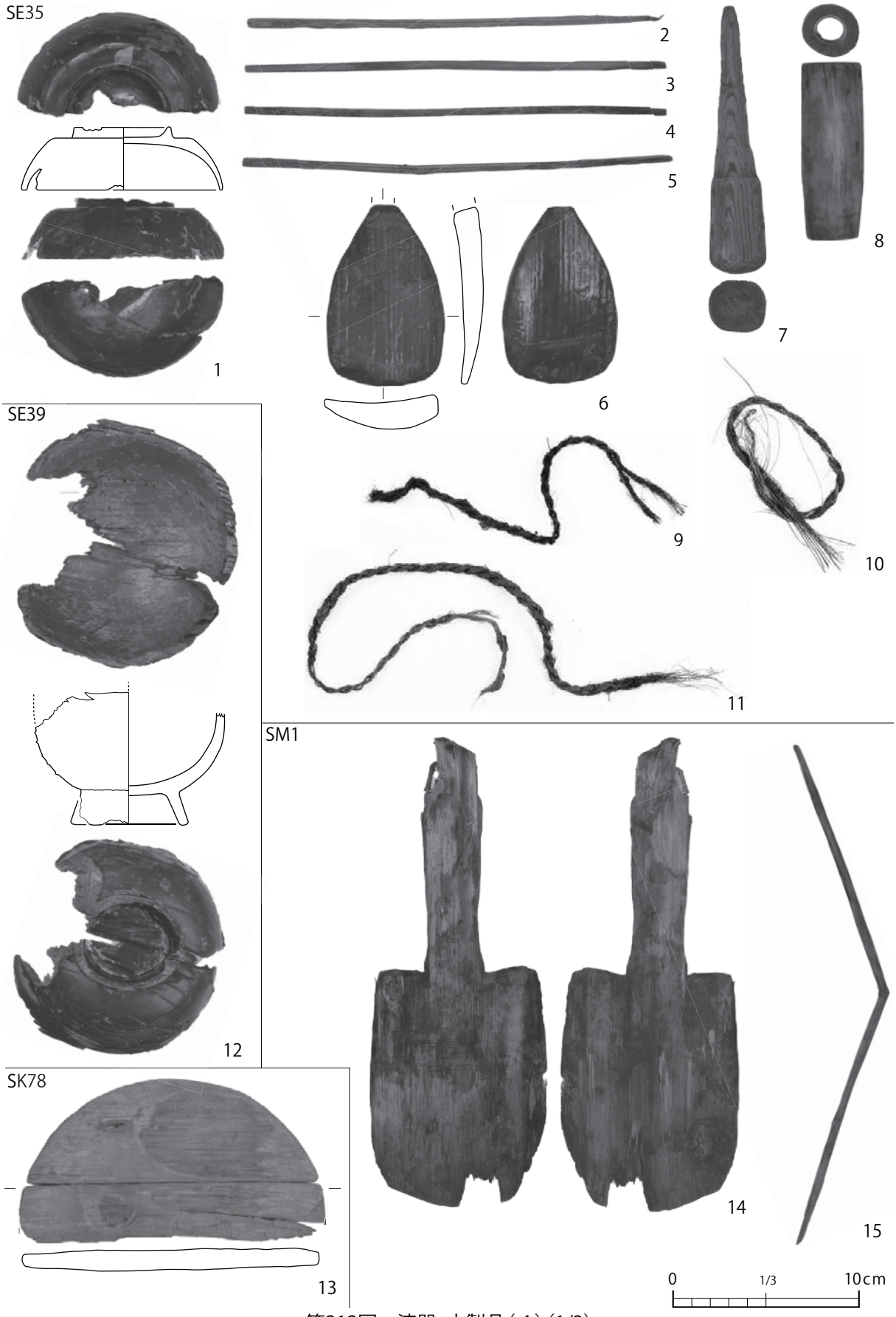
第209図　漆器・木製品（1）(1/3)



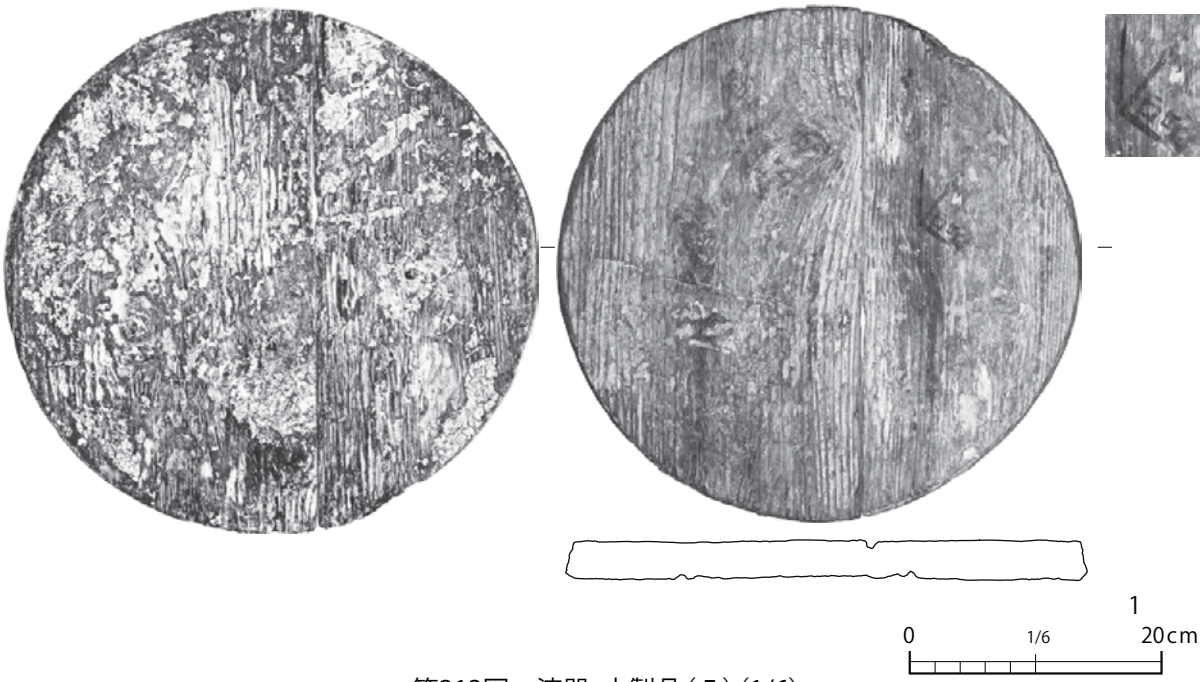
第210図　漆器・木製品（２）（1/3）



第211図　漆器・木製品（３）(1/3)



第212図　漆器・木製品（4）（1/3）



第213図　漆器・木製品（5）(1/6)

第14表　漆器・木製品一覧(1)

挿図番号	出土遺構・層	器種	残存部位	特徴（単位:cm）
209-1	SE21	曲物（柄杓）	側板	口径・底径:（約7.5）/底板欠失。側板の歪み著しい。
209-2	SE21	箸	箸頭～箸先	長さ:27.3 太さ:0.3～0.6。
209-3	SE21	箸	箸頭～箸先	長さ:25.2 太さ0.3～0.6。
209-4	SE26	漆碗	口縁部～高台	口径:10.8 器高:46.7 底径4.8/内面赤漆（赤褐色）、外面赤漆（赤褐色）。
209-5	SE30	漆碗	胴部～高台	口縁部・高台端部欠失。内面黒漆、外面黒漆。
209-6	SE30	漆碗	胴部～高台	口縁部・高台端部欠失。内面黒漆、外面黒漆。
209-7	SE30	漆碗	胴部～高台	口縁部・高台端部欠失。内面黒漆、外面黒漆。
209-8	SE30	漆碗	口縁部～高台	口径:（11.7）/高台端部欠失。内面黒漆、外面黒漆。
209-9	SE30	箸	箸頭～箸先	長さ:26.3 太さ:0.3～0.6
209-10	SE30	箸	箸頭～箸先	長さ:26.7 太さ:0.3～0.6
209-11	SE30	箸	箸頭～箸先	長さ:24.2 太さ:0.3～0.6
209-12	SE30	箸	箸頭～箸先	長さ:24.5 太さ:0.3～0.6
209-13	SE30	曲物（柄杓）	底板	径:（7.8） 厚さ:0.3
210-1	SE30	板材	不明	残存長:20.0 厚さ:0.3/両面に墨書有り。左面:般若心経の梵字「ヂクマン」か。右面:判読不能
210-2	SE30	板材	不明	残存長:16.5 厚さ:0.3/両面に墨書有り。左面:「大般若」右面:判読不能
210-3	SE32	漆碗	口縁部～高台	口径:（10.0） 器高:4.5 底径:4.8/内面赤漆、外面黒漆。
210-4	SE32	漆碗	口縁部～高台	口径:（10.8） 器高:6.5 底径:4.8/内面赤漆、外面黒漆。
210-5	SE32	漆碗	胴部	口縁部・高台端部欠失。内面赤漆、外面黒漆。
210-6	SE32	漆碗	胴部～高台	口縁部・高台端部欠失。内面赤漆、外面黒漆。外面に赤の文様有り。
211-1	SE32	漆碗	口縁部～高台	口径:（12.3）器高:9.9 底径:5.1/内面赤漆、外面黒漆。
211-2	SE32	箸	箸頭～箸先	長さ:19.5 太さ:0.3～0.6
211-3	SE32	箸	箸頭～箸先	長さ:20.1 太さ:0.6
211-4	SE32	箸	箸頭～箸先	長さ:21.3 太さ:0.6

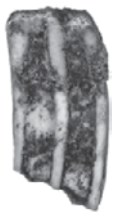
第14表　漆器・木製品一覧(2)

挿図番号	出土遺構・層	器種	残存部位	特徴（単位:cm）
211-5	SE32	栓	頂部～先端部	頂部径:3.6 高さ:1.7 先端径:2.4
211-6	SE32	曲物（柄杓）か	底板	径:6.6 厚さ:0.9
211-7	SE32	曲物（柄杓）か	底板	径:9.6 厚さ:1.1
211-8	SE32	不明	不明	幅:12.6 高さ:4.5 厚さ:1.8/三角形状を呈し、両面に墨書有り。
211-9	SE32	曲物（柄杓）	側板	推定口径・底径:約7.2 高さ:3.9/底板欠失。
211-10	SE32	下駄	連歯下駄	長さ:23.4 幅:8.1 高さ:2.4/歯の磨滅顕著。
212-1	SE35	漆蓋	蓋摘み～口縁部	摘み径:（5.1）器高:3.3 口径10.5/内面、外面とも黒漆。
212-2	SE35	箸	箸頭～箸先	長さ:22.2 太さ:0.3～0.6
212-3	SE35	箸	箸頭～箸先	長さ:22.5 太さ:0.4～0.6
212-4	SE35	箸	箸頭～箸先	長さ:22.6 太さ:0.4～0.6
212-5	SE35	箸	箸頭～箸先	長さ:23.1 太さ:0.3～0.6
212-6	SE35	杓子	玉部	長さ:3.3 幅:6.3 厚さ:0.3～1.5/黒漆。
212-7	SE35	すりこぎ	柄部～先端部	長さ:14.4 太さ:0.6～3.0
212-8	SE35	筒状部品	端部～胴部	長さ:9.6 太さ:3.3 穿孔幅:1.4
212-9	SE35	紐		長さ:約26.0
212-10	SE35	紐		長さ:約33.0
212-11	SE35	紐		長さ:約48.0
212-12	SE39	漆碗	胴部～高台	口径:- 器高- 底径（6.0）/内面赤漆、外面黒漆。外面に赤漆による文様有り。
212-13	SK78	曲物底	底板	径:16.5 厚さ:1.0
212-14	SM1	杓子か	一部欠	長さ:25.2 幅9.3
212-15	SM1	箸又は柄か	完存	長さ:28.5 太さ:0.3～0.6
213-1	SX137	桶樽	底板か	長さ:41.4 厚さ:3.0/焼印有り。

第15表　動物遺体一覧

遺構	区	遺構特徴	遺構の時期	検出された動物遺体
SK55	F区	土坑	近世	イノシシ類　右上顎第2後臼歯
SK93	J区	土坑	中世	種不明哺乳類破片
SM3	K区	大形土坑	近世	シカ　左下顎第3後臼歯
SP300	I区	ピット	近世	ウマ　左下顎第1切歯
SX1	B区	便所甕	近代	ウマ　左肩甲骨
SX3	A区	杭列（貝堆積）	近世	ウマ　左上顎第4前臼歯 ウマ　右下顎骨破片
SX14	J区	貝堆積遺構	中近世	ウマ　右上顎第1切歯 ウマ　左中足骨 ヒト　右大腿骨
SX19	E区	獣骨出土遺構	中近世	ウマ　臼歯、上腕骨、寛骨、大腿骨、脛骨等（寛骨は2個体分を確認）
SX34	I区	貝堆積遺構	近世	ウマ　右下顎第1切歯
SX35	I区	土坑	中近世	種不明哺乳類破片
SX47	I区	貝堆積遺構	中近世	イヌ　左上顎犬歯
SX59	J区	瓦溜り	近代	ネコ　頭蓋骨、下顎骨、肩甲骨、上腕骨、尺骨、中手骨、大腿骨、脛骨等（ほぼ1個体分） イヌ　中手ｏｒ中足骨
SX85	M区	土坑	中近世	ウマ　左下顎第1切歯・第2切歯 ウマ　右下顎骨
SX128	N区	漆喰含有土坑	近世	マグロ類　椎骨
SX145	N区	土坑	中近世	ウマ　上顎切歯・臼歯、下顎切歯・臼歯、左手根骨、左中足骨、左距骨、四肢骨等破片

	前⇔奥					
	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯
左 上顎						
左 下顎						
	第2前臼歯	第3前臼歯	第4前臼歯	第1後臼歯	第2後臼歯	第3後臼歯

	奥⇔前					
	第3後臼歯	第2後臼歯	第1後臼歯	第4前臼歯	第3前臼歯	第2前臼歯
右 上顎						
右 下顎						
	第3後臼歯	第2後臼歯	第1後臼歯	第4前臼歯	第3前臼歯	第2前臼歯

第214図　SX145出土のウマの歯（1/2）

Ⅴ　自然科学分析

1　港区圓福寺跡遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

港区圓福寺跡遺跡（港区愛宕山一丁目地内）は、武蔵野台地東縁を構成する台地の東端部（愛宕山）の東側崖下に立地する。なお、愛宕山（標高 26 m）は、淀橋台から続く台地であるが、淀橋台よりも標高が低いことから、貝塚（1990）は武蔵面の M1 面としている。また、本遺跡が立地する台地崖下は、縄文海進時の波食台に由来する砂質微高地の分布範囲内にあり、江戸時代には盛土等による地形改変が行われている。

圓福寺跡遺跡の発掘調査では、縄文時代から近世以降の遺構や遺物が確認されており、とくに近世以降は 17 世紀初頭創建の圓福寺に関連するものが主体となっている。

今回の分析では、発掘調査成果から課題とされた、いわゆる日比谷入江の周辺における調査地内の環境変遷の検討を目的として、自然科学分析を実施した。とくに、本分析では、中世以前と想定される盛土を含む堆積層を対象として、放射性炭素年代測定、テフラ分析（テフラの検出同定、重鉱物組成＋火山ガラス比分析）、微化石分析（珪藻分析、花粉分析）を実施し、遺跡内の層序や堆積環境および古植生に関わる資料の作成を行った。

1. 試料

分析に供された試料は、D 区、M1 区、M3 区の壁面（Ⅲ章第 5 図参照）および M3 区 SX101 覆土より採取された土壌試料 15 点と M3 区より出土した木材 2 点である。試料の一覧および分析項目の一覧を表 1 に示す。また、表 1 には、各試料の分析項目の内訳を並記したので参照されたい。以下に試料の概要を記す。

（1）土壌試料

調査地内における堆積層は、これまでの調査所見より、上位より A ～ H 層までの基本土層が設定されている。A 層は、江戸時代の整地層とされ、基本的に黄褐色土から構成され、水平堆積を為す状況が確認されている。B 層は主に江戸時代の遺物包含層および遺構確認面となる層であり、筋状、粒状を為す茶色土が混じる土層とされている。C 層は黒色を呈する泥炭層であり、その特徴から C-1 層と C-2 層に細分されている。C-1 層は黒味が弱く、暗褐色を呈する場合もあり、中近世の遺物が包含される層であり、C-2 層は縄文土器を包含する層であり、縄文時代の土坑覆土も当該層に類似した堆積物とされている。D 層は灰色を呈するシルトからなり、古代の溝の検出面とされる。E 層は D 層を基質とするが、根状の褐色筋状が確認される土層である。F 層はみかけローム層に似る黄褐色土からなる。本層は調査区内の一部にのみ分布が確認されている。G 層は 1 ～ 2cm 大の砂利を主体とする層とされ、摩滅した土器などが確認されている。H 層は砂層であり、本遺跡で検出された井戸の一部は本層まで掘り込まれていることが確認されている。D 区、M1 区および M3 区の土層図（抜粋）お

よび試料採取位置を図 1 に示す。なお、図 1 では、上述の基本土層のうち、泥炭層に相当する C 層および C 層類似層について、網掛として示している。

1）D 区北壁

本地点では、壁面の上位より厚さ 5cm 連続で土壌試料が採取されており、分析試料は試料番号 5,10,13,16,19,21 の 6 点が選択されている。これらの試料のうち、試料番号 10 が泥炭堆積土とされている。

2）M1 区南壁

本地点では、層位毎に土壌試料が採取されており、分析試料は試料番号 7,8,9 の 3 点が選択されている。これらの試料のうち、試料番号 7 が泥炭層の C 層下層に類似する層、試料番号 8 が古墳時代～古代の溝が検出される層とされ、D 層上層に類似するとされている。

3）M3 区北壁

本地点では、M1 区南壁と同様に層位毎に土壌試料が採取されており、分析試料は試料番号 1 ～ 5 の 5 点が選択されている。これらの試料のうち、試料番号 1 が C-1 層類似土、試料番号 2 が C-2 層類似土、試料番号 3 が D 層、試料番号 4 が E 層類似土、試料番号 5 が G 層とされている。

4）M3 区 SX101・SX104 木材

いずれも自然木と考えられる木材であり、出土地点より取り上げられ、水浸保管されていた試料である。2 試料は、放射性炭素年代測定対象とされたことから、取り上げの際の切断面等の観察を行い、残存する年輪の外側（最外側年輪を含む）より木片を採取している。

なお、調査所見や土壌試料の観察所見を参考とすると、M3 区 SX101 の木材は C 層下部～ D 層上部出土、M3 区 SX104 の木材は試料番号 9 相当層（G 層）出土と判断される。

2. 分析方法

（1）放射性炭素年代測定

試料の表面に付着した泥などの不純物を削り落として湿重で 0.2g 程度に調整する。塩酸（HCl）により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム（NaOH）により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する（酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid）。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L である。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化（鉄を触媒とし水素で還元する）は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の Age3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置（NEC 社製）を用いて、14C の計数、13C 濃度（13C/12C）、14C 濃度（14C/12C）を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局（NIST）から提供される標準試料（HOX- Ⅱ）、国際原子力機関から提供される標準試料（IAEA-C6 等）、バックグラウンド試料（IAEA-C1）の測定も行う。δ 13C は試料炭素の 13C 濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表したものである。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代（BP）であり、誤差は標準偏差（One Sigma;68%）に相当する年代である。測定年代の表

示方法は、国際学会での勧告に従う（Stuiver and Polach,1977）。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正に用いるソフトウエアは、OxCal4.4（Bronk,2009）、較正曲線は IntCal20（Reimer et al.,2020）である。なお、暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期（14C の半減期 5730 ± 40 年）を較正することによって、暦年代に近づける手法である。

(2) テフラの検出同定

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

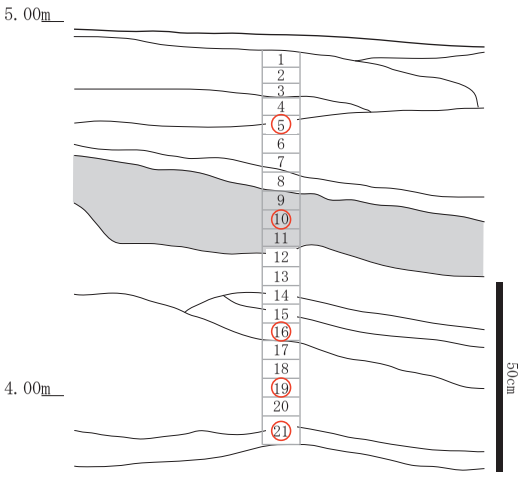
火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

(3) 重鉱物組成・火山ガラス比分析

表1.分析試料および分析項目一覧

調査区	地点名 遺構名	試料 番号	試料名 （ラベル記載）	取上日	性状	分析項目＊					試料の観察所見等
						AMS	D	P	T	HM＋VG	
D区	北壁	5	土壌サンプル №⑤	2021.08.05	土壌		1	1			褐色土(7.5YR4/3).径1mm前後の白色粒子含む
D区	北壁	10	土壌サンプル №⑩	2021.08.05	土壌		1	1			暗褐色土(7.5YR3/3).やや泥質.径1~2mm前後の白色粒子含む
D区	北壁	13	土壌サンプル №⑬	2021.08.05	土壌		1	1			暗褐色土(7.5YR3/3).泥分多い。
D区	北壁	16	土壌サンプル №⑯	2021.08.05	土壌		1	1			暗褐色土(10YR3/3).泥分多い。
D区	北壁	19	土壌サンプル №⑲	2021.08.05	土壌		1	1			褐色土(10YR4/6)泥質。灰～灰黄褐色シルト～粘土の偽礫混じる。
D区	北壁	20	土壌サンプル №㉑	2021.08.05	土壌		1	1			灰オリーブ(5Y5/2).泥質(～粘土)。微細な炭化物微量混じる。
M1区	南壁	7	土壌サンプル⑦	2023.1.31	土壌			1	1	1	黒色(10YR2/1)泥(シルト質)
M1区	南壁	8	土壌サンプル⑧	2023.1.31	土壌			1	1	1	黒褐色～黒色(10YR3/1～2/1)。粘土質。植物片混じる。
M1区	南壁	9	土壌サンプル⑨	2023.1.31	土壌			1	1	1	灰オリーブ(5Y5/2).極細砂.粗粒砂～極粗粒砂混じる。
M3区	北壁	1	北壁セク サンプル①	2023.2.27	土壌			1	1	1	暗褐色(10YR3/3).やや泥質。貝片混じる。
M3区	北壁	2	北壁セク サンプル②	2023.2.27	土壌			1	1	1	黒色(10YR2/1)泥(粘土質).植物片混じる。
M3区	北壁	3	北壁セク サンプル③	2023.2.27	土壌			1	1	1	灰色(5Y4/1)粘土.植物片混じる。
M3区	北壁	4	北壁セク サンプル④	2023.2.27	土壌			1	1	1	灰黄色(2.5Y6/2)極細粒砂
M3区	北壁	5	北壁セク サンプル⑤	2023.2.27	土壌			1	1	1	オリーブ褐色(2.5Y4/3)極細粒砂基質、灰色泥偽礫、φ～最大1cm礫(～亜角礫)が微量混じる
M3区	SX101			2023.3.7	木材	1					木材試料の残存する最外年輪含む外側年輪より採取した木片
M3区	SX101		黒色土サンプル	2023.3.8	土壌		1	1			ブロック状。黒色(10YR2/2)泥、植物片混じる。黒色泥の下位に褐灰～灰色泥、黄灰色極細粒～細粒砂あり。分析対象は植物片混じりの黒色泥。
M3区	SX104			2023.3.7	木材	1					木材試料の残存する最外年輪含む外側年輪より採取した木片
					合計	2	7	15	8	8	

＊分析項目
AMS：放射性炭素年代測定(AMS法)、D:珪藻分析、P:花粉分析、T:テフラの検出同定、HM+VG：重鉱物組成＋火山ガラス比



D区北壁

＜分析対象試料及び分析項目＞

(1)D区北壁

分析試料：試料番号5, 10, 13, 16, 19, 21

分析項目：珪藻分析・花粉分析

(2)M1区南壁

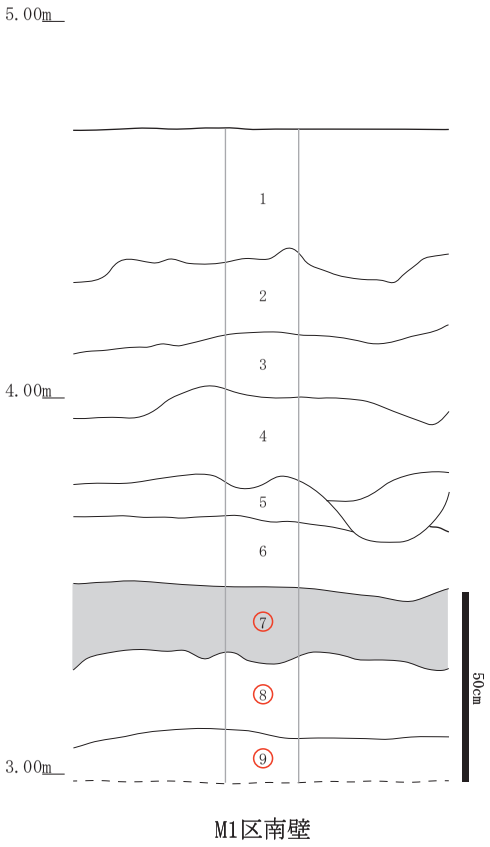
分析試料：試料番号7, 8, 9

分析項目：テフラ分析、花粉分析

(3)M3区北壁

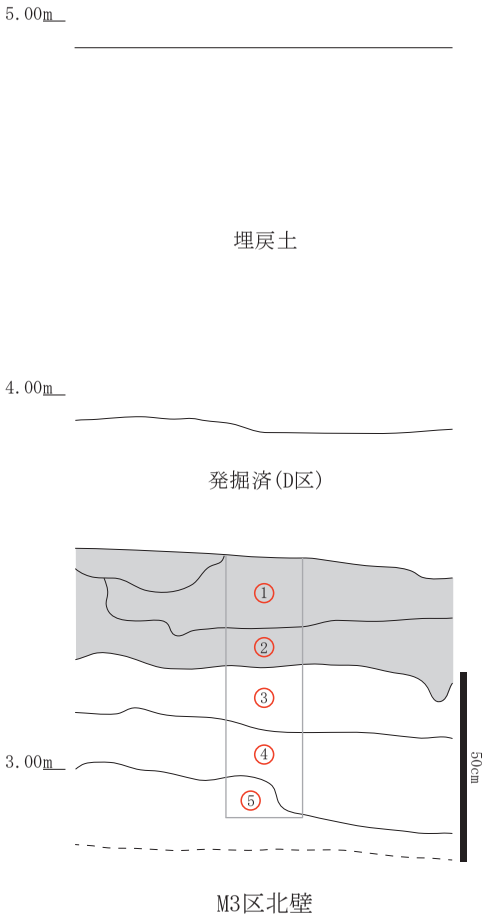
分析試料：試料番号1, 2, 3, 4, 5

分析項目：テフラ分析, 花粉分析



M1区南壁

図1. 各壁面の試料採取位置及び分析項目



M3区北壁

(各地点の土層図は仕様書資料より引用・トレース)

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250 メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム（比重約 2.96 に調整）により重液分離、重鉱物を偏光顕微鏡下にて 250 粒に達するまで同定する。重鉱物同定の際、不透明な粒については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は「その他」とする。火山ガラス比は、重液分離した軽鉱物分における砂粒を 250 粒数え、その中の火山ガラスの量比を求める。火山ガラスの形態分類は、上述のテフラ分析におけるそれと同様である。また、火山ガラスにおける「その他」とは、軽鉱物分における火山ガラス以外の粒子（石英や長石類などの鉱物粒子および風化変質粒など）である。

(4）珪藻分析

湿重約 5g をビーカーに計り取り、過酸化水素水と塩酸を加えて試料の泥化と有機物の分解・漂白を行う。次に、分散剤を加えた後、蒸留水を満たし放置する。その後、上澄み液中に浮遊した粘土分を除去し、珪藻殻の濃縮を行う。この操作を 4 ～ 5 回繰り返す。次に、自然沈降法による砂質分の除去を行い、検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下して乾燥させる。乾燥した試料上に封入剤のプリュウラックスを滴下し、スライドガラスに貼り付け永久プレパラートを作製する。

検鏡は、油浸 600 倍または 1000 倍で行い、メカニカルステージを用い任意に出現する珪藻化石が 200 個体以上になるまで同定・計数した。なお、原則として、珪藻殻が半分以上破損したものについては、誤同定を避けるため同定・計数は行わない。200 個体が産出した後は、示準種等の重要な種類の見落としがないように、全体を精査し、含まれる種群すべてが把握できるように努める。

珪藻の同定と種の生態性については、Horst Lange-Bertalot et al.（2000）、Hustedt（1930-1966）、Krammer and Lange-Bertalot（1985-1991）、Desikachary（1987）などを参考にする。群集解析にあたり個々の産出化石は、まず塩分濃度に対する適応性により、海水生、海水～汽水生、汽水生、淡水生に生態分類し、さらにその中の淡水生種は、塩分、pH、水の流動性の 3 適応性についても生態分類し表に示す。なお、淡水生種の中には、水中から出て陸域の乾いた環境下でも生育する種群が存在し、これらを陸生珪藻と呼んで、水中で生育する種群と区分している。陸生珪藻は、陸域の乾いた環境を指標することから、古環境を推定する上で極めて重要な種群であめ、これも図表に示す。

（5）花粉分析

試料約 10g について、水酸化カリウムによる泥化と腐植酸の除去、0.25mm の篩による篩別、傾斜法による粘土分の除去、重液（臭化亜鉛，比重 2.2）による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス（無水酢酸 9：濃硫酸 1 の混合液）処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、400 倍の光学顕微鏡下で、同定・計数する。同定は、当社保有の現生標本はじめ、Erdtman（1952,1957）、Faegri and Iversen（1989）などの花粉形態に関する文献や、島倉（1973）、中村（1980）、藤木・小澤（2007）、三好ほか（2011）等邦産植物の花粉写真集などを参考にする。

結果は同定・計数結果の一覧表、及び花粉化石群集の層位分布図として表示する。また、残渣量や花粉化石の保存状態等の情報についても記録する。図表中で複数の種類を－（ハイフォン）で結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞

子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

3. 結果

（1）放射性炭素年代測定

結果を表 2、図 2 に示す。同位体補正を行った測定結果は、M3 区 SX101 木材が 2920 ± 20BP、M3 区 SX104 木材が 3395 ± 20BP である。暦年較正結果（2 σ）は、M3 区 SX101 木材が 3158 ～ 2968calBP、M3 区 SX104 木材が 3693 ～ 3571calBP である。

（2）テフラの検出同定

結果を表 3 に示す。M1 区南壁では、試料番号 7 に少量のスコリアと極めて微量の火山ガラスおよび極めて微量の軽石が認められ、試料番号 8 には極めて微量のスコリアが認められた。試料番号 7 のスコリアは、最大径約 1.5mm、黒色で発泡やや不良のスコリアが多く、それよりも少量の暗灰褐色で発泡やや不良のスコリアや黒色で発泡不良および赤色で発泡不良のスコリアなどが混在する。試料番号 8 のスコリアは径 1.5mm ほどの褐色で発泡不良のスコリアである。試料番号 7 の火山ガラスは無色透明のバブル型であり、同試料の軽石は径 0.5mm ほどの灰褐色を呈する発泡やや不良の軽石である。No.9 にはスコリア、火山ガラス、軽石のいずれも認められなかった。

M3 区北壁では、試料番号 1 に極めて微量のスコリアと火山ガラスが認められた。スコリアは径 2mm ほどであり、黒色で発泡はやや不良である。火山ガラスは無色透明のバブル型である。試料番号 1 以外の試料には、スコリア、火山ガラス、軽石のいずれも認められなかった。

（3）重鉱物組成 + 火山ガラス比分析

結果を表 4、図 3 に示す。重鉱物組成は、M1 区南壁、M3 区北壁ともにほぼ同様の組成を示す。いずれも斜方輝石が多く、60 ～ 70% 程度を占め、他に 10% 前後の単斜輝石と角閃石および不透明鉱物が含まれるという組成である。詳細にみれば、M1 区南壁の試料番号 7 と M3 区北壁試料番号 1 の両試料において、ともに不透明鉱物の量比が他の試料に比べて若干高いことが窺える。

火山ガラス比では、いずれの試料にも火山ガラスはほとんど含まれていない。

（4）珪藻分析

結果を表 5、図 4 に示す。分析を行った 7 試料のうち、M3 区 SX101 黒色土は珪藻化石が産出したが、D 区北壁の 6 試料は無化石であった。以下に珪藻化石が産出した M3 区 SX101 黒色土の産状を記す。M3 区 SX101 黒色土からは珪藻化石が 200 個体産出した。保存状態は、壊れた殻が多く、不良である。産出した分類群は、淡水生種を主として、淡水～汽水生種、汽水生種、低率に海水～汽水生種、海水生種で構成される。特徴的に産出した種は、淡水～汽水生種の Rhopalodia gibberula、淡水生種で流水性種の Planothidium lanceolatum、淡水生種で流水不定性種の Nitzschia amphibia、Placoneis elginensis、陸生珪藻の Hantzschia amphioxys、Navicula placenta 等である。

（5）花粉分析

結果を表 6、図 5 に示す。以下に検出された花粉化石群集の状況を示す。

M1 区南壁の試料番号 7,8,9 の 3 試料は、花粉化石が検出される。分析残渣は少ないが化石の保存状態は比較的良い。試料番号 9,8 の 2 試料は、モミ属、ツガ属、スギ属、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、クリ属、シイ属、ニレ属－ケヤキ属等の木本花粉がみ

表2. 放射性炭素年代測定結果

試料名	性状	方法	補正年代 BP (暦年較正用)	δ 13C (‰)	暦年較正年代				Code No.	
					年代値			確率%		
M3区 SX101 木材	木材	AAA (1M)	2920±20 (2919±21)	-28.97 ±0.47	σ	cal BC 1189 - cal BC 1180	3138 - 3129 calBP	6.0	pal-14888	YU-18828
						cal BC 1158 - cal BC 1146	3107 - 3095 calBP	7.9		
						cal BC 1128 - cal BC 1054	3077 - 3003 calBP	54.3		
					2σ	cal BC 1209 - cal BC 1045	3158 - 2994 calBP	92.3		
						cal BC 1031 - cal BC 1019	2980 - 2968 calBP	3.1		
M3区 SX104 木材	木材	AAA (1M)	3395±20 (3396±22)	-28.75 ±0.44	σ	cal BC 1737 - cal BC 1716	3686 - 3665 calBP	19.8	pal-14889	YU-18829
						cal BC 1694 - cal BC 1668	3643 - 3617 calBP	25.6		
						cal BC 1657 - cal BC 1634	3606 - 3583 calBP	22.9		
					2σ	cal BC 1744 - cal BC 1622	3693 - 3571 calBP	95.4		

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5,568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ(測定値の68%が入る範囲)を年代値に換算した値。
4)AAAは酸―アルカリ―酸処理を示す。
5)暦年の計算には、Oxcal4.4を使用、較正曲線はIntCal20を使用
6)暦年の計算には表に示した丸める前の値を使用している。
7)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
8)統計的に真の値が入る確率はσは68.2%、2σは95.4%である。

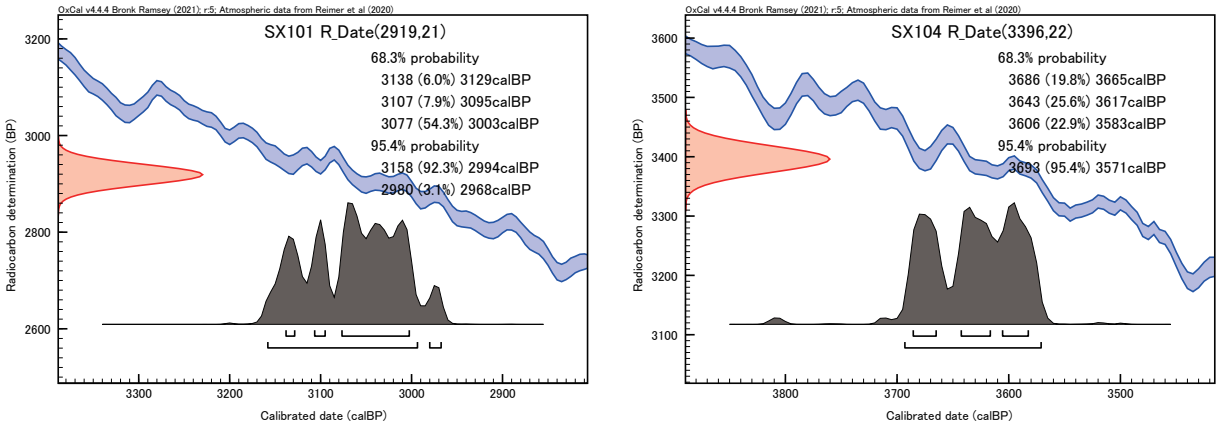


図2. 暦年較正結果

表3. テフラ分析結果

調査区	地点名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石		
			量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
M1区	南壁	7	＋＋	B・sb>DGBr・sb>B・b>R・b	1.5	(+)	cl・bw	(+)	GBr・sb	0.5
		8	(+)	Br・b	1.5	―		―		
		9	―			―		―		
M3区	北壁	1	(+)	B・sb	2.0	(+)	cl・bw	―		
		2	―			―		―		
		3	―			―		―		
		4	―			―		―		
		5	―			―		―		

＜凡例＞
―:含まれない．(+):きわめて微量．＋:微量．＋＋:少量．＋＋＋:中量．＋＋＋＋:多量．
B:黒色．Br:褐色．DGBr:暗灰褐色．R:赤色．GBr:灰褐色．
g:良好．sg:やや良好．sb:やや不良．b:不良．最大粒径はmm．
cl:無色透明．bw:バブル型．

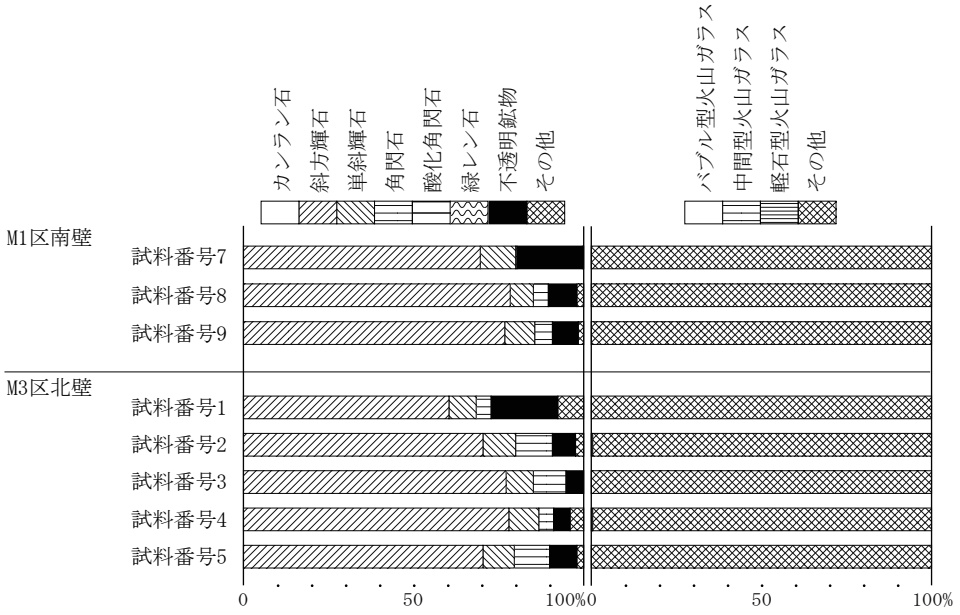


図3. 重鉱物組成および火山ガラス比

表4. 重鉱物・火山ガラス比分析結果

調査区	地点名	試料番号	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	緑レン石	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	その他	合計
M1区	南壁	7	0	174	26	1	0	0	48	1	250	0	0	0	250	250
		8	0	196	17	11	0	0	21	5	250	0	0	0	250	250
		9	0	192	22	13	0	0	19	4	250	0	0	0	250	250
M3区	北壁	1	0	151	20	11	0	0	49	19	250	0	0	0	250	250
		2	0	176	24	27	0	0	17	6	250	1	0	0	249	250
		3	0	193	20	24	0	0	13	0	250	0	0	0	250	250
		4	0	195	22	11	0	0	12	10	250	1	0	0	249	250
		5	0	176	23	26	0	0	20	5	250	0	0	0	250	250

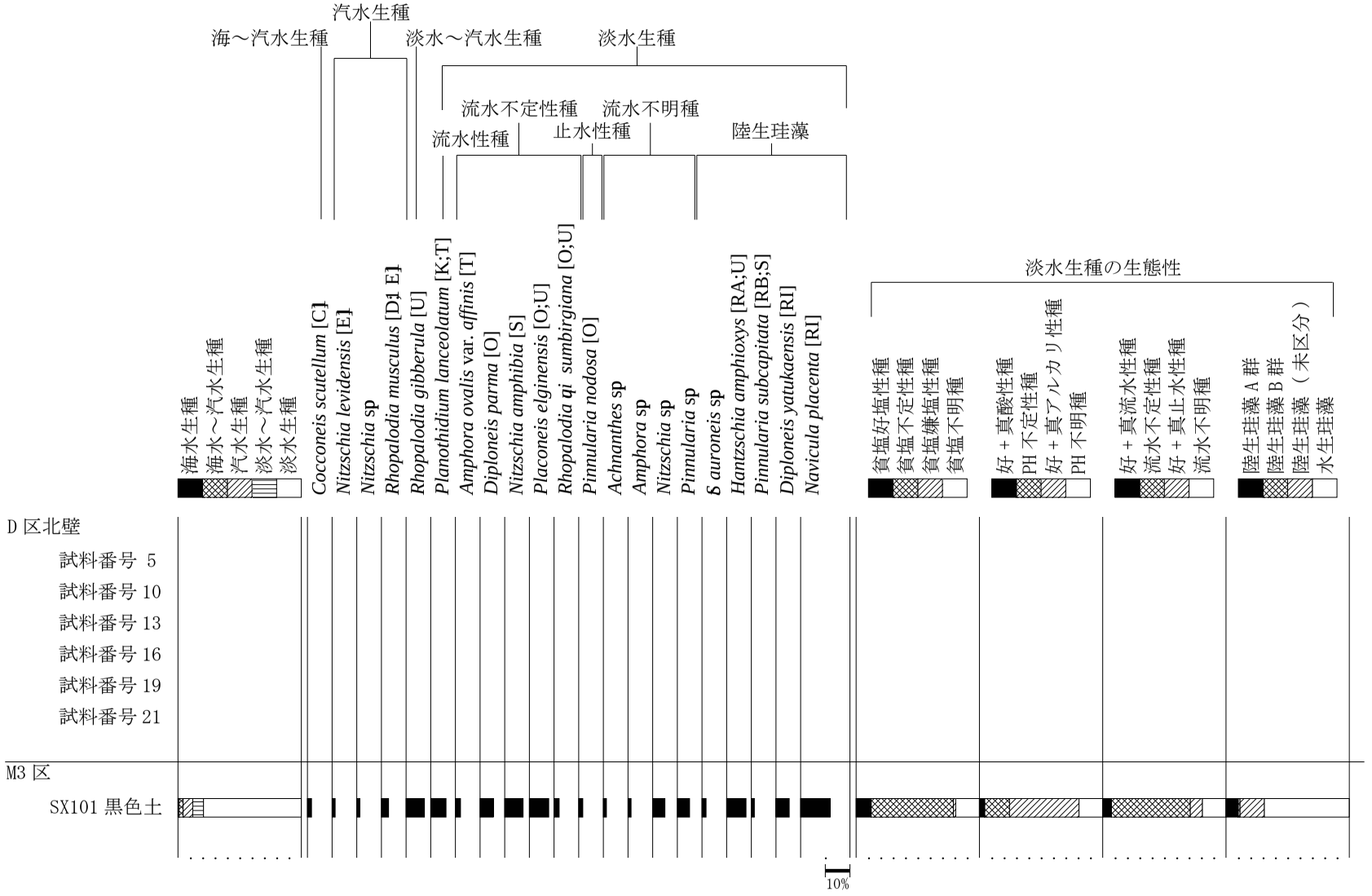
表5. 珪藻分析結果

種　　類	生態性			環境指標種	D区北壁						M3区 SX101
	塩分	pH	流水		5	10	13	16	19	21	黒色土
Grammatophora macilenta W.Smith	Euh			A,B	−	−	−	−	−	−	1
Paralia sulcata (Ehr.) Cleve	Euh			A,B	−	−	−	−	−	−	1
Cocconeiopsis spp.	Euh-Meh			B	−	−	−	−	−	−	1
Cocconeis scutellum Ehrenberg	Euh-Meh			C1	−	−	−	−	−	−	4
Cyclotella striata (Kuetz.) Grunow	Euh-Meh			B	−	−	−	−	−	−	2
Cyclotella spp.	Euh-Meh			B	−	−	−	−	−	−	1
Achnanthes delicatula (Kuetz.) Grunow	Meh			D1	−	−	−	−	−	−	1
Nitzschia granulata Grunow	Meh			E1	−	−	−	−	−	−	2
Nitzschia levidensis (W.Smith) Grunow	Meh			E1	−	−	−	−	−	−	3
Nitzschia littoralis Grunow	Meh			E1	−	−	−	−	−	−	1
Nitzschia plana W.Smith	Meh			D1,E1	−	−	−	−	−	−	1
Nitzschia spp.	Meh				−	−	−	−	−	−	3
Pseudopodosira kosugii Tanimura et Sato	Meh			D1,E1	−	−	−	−	−	−	1
Rhopalodia musculus (Kuetz.) Mueller	Meh			D1,E1	−	−	−	−	−	−	7
Bacillaria paradoxa Gmelin	Ogh-Meh	al-bi	l-ph	U	−	−	−	−	−	−	2
Navicula cincta (Ehr.) Ralfs	Ogh-Meh	al-il	ind	U,D,E	−	−	−	−	−	−	1
Rhopalodia gibberula (Ehr.) Mueller	Ogh-Meh	al-il	ind	U	−	−	−	−	−	−	18
Achnanthes spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	3
Amphora ovalis var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck	Ogh-ind	al-il	ind	T	−	−	−	−	−	−	5
Amphora spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	3
Diploneis parma Cleve	Ogh-ind	ind	ind	O	−	−	−	−	−	−	13
Diploneis yatukaensis Horikawa et Okuno	Ogh-ind	ind	l-ph	RI	−	−	−	−	−	−	13
Diploneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	2
Eunotia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	1
Gomphonema parvulum (Kuetz.) Kuetzing	Ogh-ind	ind	ind	U	−	−	−	−	−	−	1
Gomphonema spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	2
Hantzschia amphioxys (Ehr.) Grunow	Ogh-ind	al-il	ind	RA,U	−	−	−	−	−	−	19
Luticola mutica (Kuetz.)D.G.Mann	Ogh-ind	al-il	ind	RA,S	−	−	−	−	−	−	2
Navicula placenta Ehrenberg	Ogh-ind	al-il	ind	RI	−	−	−	−	−	−	29
Navicula spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	2
Nitzschia amphibia Grunow	Ogh-ind	al-bi	ind	S	−	−	−	−	−	−	18
Nitzschia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	12
Pinnularia brevicostata Cleve	Ogh-ind	ac-il	ind	O	−	−	−	−	−	−	2
Pinnularia nodosa Ehrenberg	Ogh-hob	ac-il	l-ph	O	−	−	−	−	−	−	4
Pinnularia subcapitata Gregory	Ogh-ind	ac-il	ind	RB,S	−	−	−	−	−	−	3
Pinnularia viridis (Nitz.) Ehrenberg	Ogh-ind	ind	ind	O	−	−	−	−	−	−	1
Pinnularia spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	12
Placoneis elginensis (Greg.) Cox	Ogh-ind	al-il	ind	O,U	−	−	−	−	−	−	19
Planothidium lanceolatum (Breb. ex Kuetz.) Lange-Bertalot	Ogh-ind	ind	r-ph	K,T	−	−	−	−	−	−	15
Rhopalodia quisumbirgiana Skvortzow	Ogh-hil	al-il	ind	O,U	−	−	−	−	−	−	5
Stauroneis acuta W.Smith	Ogh-ind	al-il	l-ph	O	−	−	−	−	−	−	2
Stauroneis spp.	Ogh-unk	unk	unk		−	−	−	−	−	−	4
海水生種					0	0	0	0	0	0	2
海水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	8
汽水生種					0	0	0	0	0	0	19
淡水～汽水生種					0	0	0	0	0	0	21
淡水生種					0	0	0	0	0	0	192
珪藻化石総数					0	0	0	0	0	0	242

凡例

塩分:塩分濃度に対する適応性	pH:水素イオン濃度に対する適応性	流水:流水に対する適応性
Euh ： 海水生種	al-bi ： 真アルカリ性種	l-bi ： 真止水性種
Euh-Meh ： 海水生種-汽水生種	al-il ： 好アルカリ性種	l-ph ： 好止水性種
Meh ： 汽水生種	ind ： pH不定性種	ind ： 流水不定性種
Ogh-Meh ： 淡水生種-汽水生種	ac-il ： 好酸性種	r-ph ： 好流水性種
Ogh-hil ： 貧塩好塩性種	ac-bi ： 真酸性種	r-bi ： 真流水性種
Ogh-ind ： 貧塩不定性種	unk ： pH不明種	unk ： 流水不明種
Ogh-hob ： 貧塩嫌塩性種		
Ogh-unk ： 貧塩不明種		

環境指標種
A:外洋指標種、B:内湾指標種、C1:海水藻場指標種、C2:汽水藻場指標種、D1:海水砂質干潟指標種、D2:汽水砂質干潟指標種、E1:海水泥質干潟指標種、E2:汽水泥質干潟指標種、F:淡水底生種群(以上、小杉,1988)
G:淡水浮遊生種群、H:河口浮遊性種群、J:上流性河川指標種、K:中～下流性河川指標種、L:最下流性河川指標種群、M:湖沼浮遊性種、N:湖沼沼沢湿地指標種、O:沼沢湿地付着生種、P:高層湿原指標種群、Q:陸域指標種群（以上、安藤,1990)
S:好汚濁性種、U:広適応性種、T:好清水性種（以上、Asai and Watanabe,1995)
R:陸生珪藻（RA:A群, RB:B群, RI:未区分、伊藤・堀内,1991)

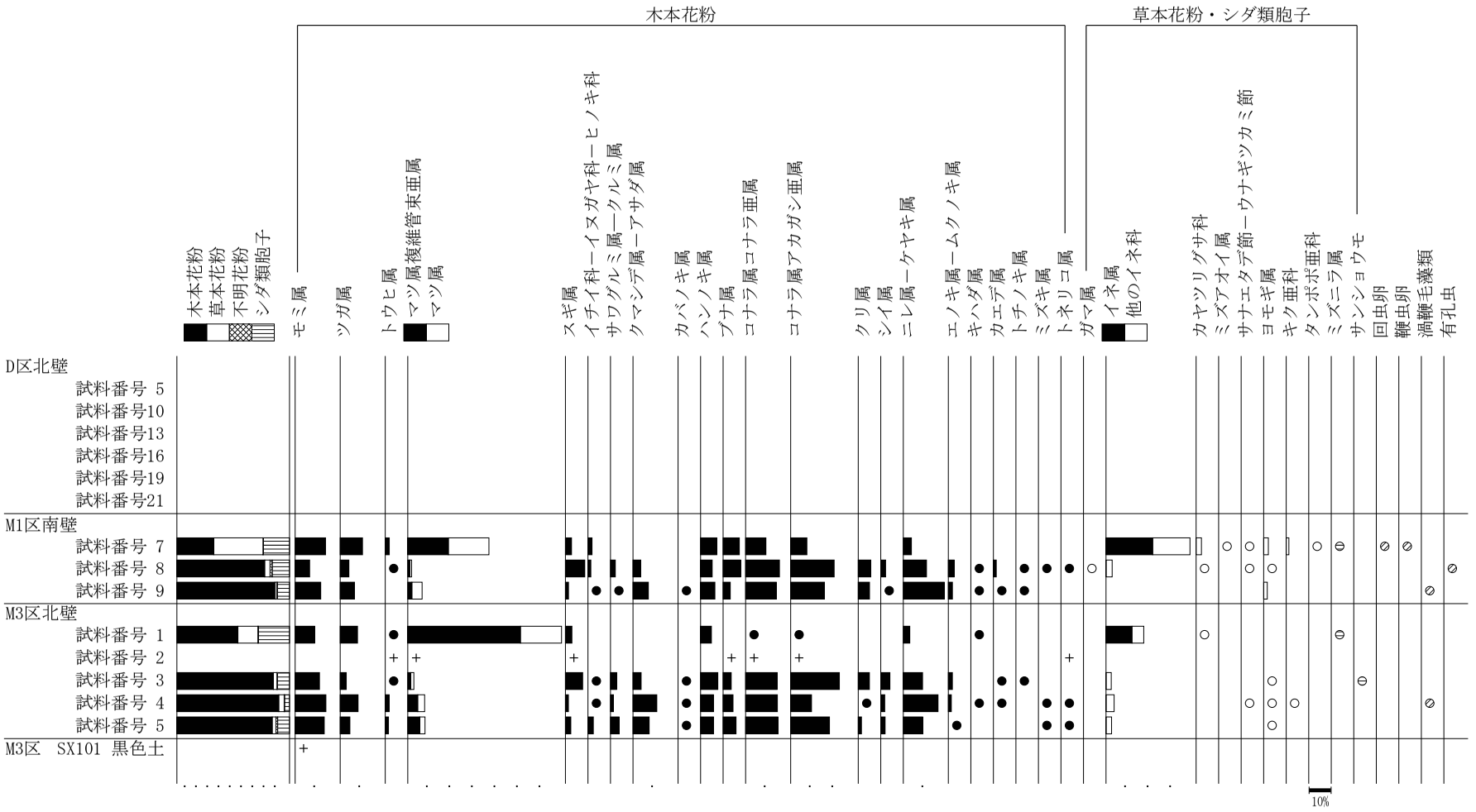


海水－汽水－淡水生種産出率・各種産出率・完形殻産出率は全体基数、淡水生種の生態性の比率は淡水生種の合計を基数として百分率で算出した。
いずれも100個体以上検出された試料について示す。なお、●は1%未満、＋は100個体未満の試料について検出した種類を示す。
［環境指標種］
C1:海洋藻場指標種 D1:海水砂質干潟指標種 E1:海水泥質干潟指標種（以上、小杉,1988）
K:中～下流性河川指標種 O:沼沢湿地付着生種（以上、安藤,1990）
S:好汚濁性種 T:好清水性種 U:広適応性種（以上、Asai & Watanabe,1995）、RI:陸生珪藻（RA:A群,RB:B群;伊藤・堀内,1991）

図4. 珪藻化石群集

表6. 花粉分析結果

種　類	D区 北壁						M1区 南壁			M3区 北壁					SX101
	5	10	13	16	19	21	7	8	9	1	2	3	4	5	黒色土
木本花粉															
マキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－
モミ属	－	－	－	－	－	－	15	15	25	9	－	24	31	27	3
ツガ属	－	－	－	－	－	－	11	9	14	8	－	6	18	9	－
トウヒ属	－	－	－	－	－	－	2	1	－	1	1	2	4	3	－
マツ属複維管束亜属	－	－	－	－	－	－	20	2	4	52	－	3	10	11	－
マツ属	－	－	－	－	－	－	20	2	10	19	3	3	7	5	－
スギ属	－	－	－	－	－	－	3	20	3	3	1	17	3	5	－
イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科	－	－	－	－	－	－	2	3	1	－	－	1	1	5	－
サワグルミ属―クルミ属	－	－	－	－	－	－	－	5	1	－	－	6	3	8	－
クマシデ属－アサダ属	－	－	－	－	－	－	－	8	15	－	－	8	24	15	－
ハシバミ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
カバノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	2	2	－
ハンノキ属	－	－	－	－	－	－	8	12	14	5	－	17	13	12	－
ブナ属	－	－	－	－	－	－	8	18	7	－	1	8	10	12	－
コナラ属コナラ亜属	－	－	－	－	－	－	10	35	30	1	6	31	32	30	－
コナラ属アカガシ亜属	－	－	－	－	－	－	8	45	33	1	1	48	21	36	－
クリ属	－	－	－	－	－	－	－	13	11	－	－	11	1	3	－
シイ属	－	－	－	－	－	－	－	5	2	－	－	9	4	4	－
ニレ属－ケヤキ属	－	－	－	－	－	－	4	24	40	3	－	19	35	18	－
エノキ属－ムクノキ属	－	－	－	－	－	－	－	6	4	－	－	4	3	2	－
キハダ属	－	－	－	－	－	－	－	1	1	1	－	－	1	－	－
モチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－
カエデ属	－	－	－	－	－	－	－	3	2	－	－	1	1	－	－
トチノキ属	－	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	1	－	－	－
ウコギ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
ミズキ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	1	1	－
エゴノキ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
トネリコ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	1	1	－
テイカカズラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
ガマズミ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
スイカズラ属	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
草本花粉															
ガマ属	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－
イネ属	－	－	－	－	－	－	70	－	－	22	－	－	－	－	－
他のイネ科	－	－	－	－	－	－	56	8	－	10	－	6	9	6	－
カヤツリグサ科	－	－	－	－	－	－	8	2	－	1	－	－	－	－	－
ミズアオイ属	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
サナエタデ節－ウナギツカミ節	－	－	－	－	－	－	1	1	－	－	－	－	1	－	－
ナデシコ科	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－
ヨモギ属	－	－	－	－	－	－	7	2	4	－	－	2	1	2	－
キク亜科	－	－	－	－	－	－	4	－	－	－	－	－	1	－	－
タンポポ亜科	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
不明花粉															
不明花粉	－	－	－	－	－	－	1	6	2	1	1	1	1	4	－
シダ類胞子															
イノモトソウ属	1	1	－	9	2	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－
ミズニラ属	－	－	－	－	－	－	1	－	－	1	－	－	－	－	－
サンショウモ	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－
他のシダ類胞子	－	－	－	7	6	2	78	46	27	52	99	27	11	26	－
合　計															
木本花粉	0	0	0	0	0	0	111	233	220	104	14	222	227	209	3
草本花粉	0	0	0	0	0	0	148	14	4	34	0	8	12	8	0
不明花粉	0	0	0	0	0	0	1	6	2	1	1	1	1	4	0
シダ類胞子	1	1	0	16	8	2	79	46	27	53	100	28	11	26	0
合計(不明を除く)	1	1	0	16	8	2	338	293	251	191	114	258	250	243	3
パリノモルフ															
回虫卵	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
鞭虫卵	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－	－
渦鞭毛藻類	－	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	1	－	－
有孔虫	－	－	－	－	－	－	－	1	－	－	－	－	－	－	－



出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉などは総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1%未満、＋は木本花粉が100個体未満の試料について検出した種類を示す。

図5. 花粉化石群集

られるが、際立って多い種類はない。草本花粉は少なく、ヨモギ属等がみられる程度である。渦鞭毛藻類や有孔虫などの海棲微化石を含む。試料番号７は木本花粉ではマツ属（特に複維管束亜属）が多い。草本花粉はイネ科が多くその中の半数以上がイネ属である。その他、ミズアオイ属、ミズニラ属、サンショウモなどの水生植物を含む。さらに寄生虫卵（回虫、鞭虫）を含む。

M3 区北壁は、分析残渣はいずれも少ないが、化石の保存状態は試料番号 2 を除いて比較的良い。試料番号 5 ～ 3 の 3 点は、M1 区南壁の試料番号 9,8 に組成が似る。試料番号 2 は保存状態が悪く、花粉化石も少ない。試料番号 1 は M1 区南壁の試料番号 7 に組成が似るが、マツ属の割合がより高い。M3 区 SX101 黒色土および D 区北壁の 6 試料は、花粉化石がほとんど検出されない。M3 区 SX101 黒色土の分析残渣には、微粒炭や植物遺体などの残渣が混入するが、D 区北壁の 6 試料は分析残渣がほとんどみられない。

4. 考察

（1）層序と年代観

1）出土木材の年代観と層序の年代観

基本土層下部より出土した木材の放射性炭素年代測定結果に基づく暦年較正年代は、M3 区 SX101 が 3158 ～ 2968calBP、同区 SX104 が 3693 ～ 3571calBP であった。この結果は、小林（2008,2017）などを参考とすると、M3 区 SX101 木材は縄文時代晩期の大洞 B 式～ C 式期、同区 SX104 木材は縄文時代後期の加曽利 B 式期に相当する。前述した木材の出土状況から、基本土層の G 層～ C 層下部（D 層上位）を構成する堆積層は、縄文時代後期～晩期に形成された可能性がある。

なお、隣接する遺跡の発掘調査に伴って実施された自然科学分析では、本遺跡の C 層に対応すると思われる黒色の粘土質シルトからなる自然堆積層（Ⅳ層）より下位の砂層を含む灰色粘土からなる自然堆積層（Ⅴ層）から出土した微細炭化物を対象とした放射性炭素年代測定が行われており、5732 ～ 5610calBP という値が得られている。

2）テフラの産状および花粉化石群集からみた層序の年代観

・M1 区南壁

基本土層の D 層上層および以深の層に対比される試料番号 9,8 からはテフラが検出されなかったが、花粉化石が検出された。詳細は後述するが、今回の試料に認められた花粉化石群集は、縄文時代後晩期～古墳時代頃の東京都低地部に近いことから、これらの堆積物は当該期に相当する可能性がある。

基本土層の C 層下層に類似するとされる層（試料番号 7）から少量検出されたスコリアは、遺跡の地理的位置とスコリアの特徴とから、完新世に富士山より噴出したテフラである新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉（1990）による記載では、富士黒土層中の S-0 から宝永スコリアの S-25 まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては、細分されているものもあることから、50 枚近くのテフラにより構成されている。ただし、東京都の低地では、縄文時代後期から晩期のテフラである S-10・11（湯船第一スコリア（Yu-1））、S-13（砂沢スコリア（Zu））、弥生時代中期頃の S-22（湯船第二スコリア（Yu-2））、平安時代延暦年間の西暦 800 ～ 802 年の噴火で多量のスコリアを噴出したとされている S-24-7、さらには江戸時代の宝永 4 年（1707 年）に噴出

した宝永スコリア（F-Ho）などにほぼ限定される。今回検出されたスコリアの粒径や色調、および発泡度や斑晶の包有状況などの状況、また、下位の花粉化石群集を考慮すると試料番号７より検出されたスコリアは、平安時代に噴火したS-24-7に由来する可能性がある。さらに、同試料から検出された軽石は、これまでの低地における検出事例により、平安時代の天仁元年（AD1108年）に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B: 新井,1979）に由来する可能性がある。このことは、試料番号７のスコリアがS-24-7に由来することを支持しており、テフラからみた試料番号７の時代観は、古代頃に当たるとみられる。一方、花粉化石では、マツ属が多くイネ属が多産するなど近世以降の組成を示す（詳細は後述する）。直上に近世の盛土があることから、近世以降に擾乱を受け、花粉化石が混入したと考えられる。

・M3区北壁

基本土層のC層～G層に対比されると考えられる試料番号１～５の重鉱物組成は、斜方輝石が多量を占め、単斜輝石と角閃石および不透明鉱物を少量ずつ伴うという特徴を示した。このような重鉱物組成は、これまでに都内の遺跡の発掘調査現場などで露出した東京層とされる堆積層の分析事例に認めることができる（例えばパリノ・サーヴェイ株式会社（1996）など）。東京層は調査区背後に広がる武蔵野台地である淀橋台の基盤を構成する堆積層であることから、東京層に由来する砕屑物の再堆積物を主体とした低地堆積層であると考えられる。火山ガラスがほとんど含まれない分析結果もこのことと整合する。

また、花粉化石群集についてみると、M1区南壁と組成が類似し、試料番号３より下位は縄文時代後晩期～古墳時代頃に相当する可能性がある。試料番号２は花粉化石の保存状態が悪いためはっきりしたことは不明であるが、試料番号１の花粉化石群集は、近世以降にみられる組成であることから、江戸時代の堆積層、もしくは江戸時代に擾乱を受けていると考えられる。

（2）古環境

1）堆積環境

M3区SX101黒色土からは珪藻化石が産出した。産出した種の生態性について述べると、淡水～汽水生種のRhopalodia gibberulaは、好塩性種であり、田中（1987）によると、群馬県で発掘された古代水田からも本種が多産しており、当時の水田土壌に、多量に出現したことは、水田の水が塩類を豊富に含んでいたことを示しているとしている。さらに、奥平温泉（田中・中島,1985）、四万温泉（福島,1950）など塩類を多く含んだ温泉からの報告も多い。また、Cholnoky（1968）によれば、本種は高pHの水域を好むとしている。本種は、基本的には淡水生種と考えられるため、海域には生育できないと思われるが、前述のように塩分に対しては、他の種群にくらべて耐性が高いため、沿岸部の海水の影響がおよんで、塩分濃度が高くなる後背湿地をはじめ、湿地や河岸などで比較的、水が停滞することの多い場所（淀み）などの水中の塩類濃度が高い水域に特徴的に認められる。流水性種のPlanothidium lanceolatumは、安藤（1990）によれば、中～下流河川指標種群とされている。淡水生種で流水不定性種のNitzschia amphibiaは、淡水域でも水の出入りが少なく淀んだ水域に生育していることが多く、Asai & Watanabe（1995）は、好汚濁性種としている。Placoneis elginensisは、安藤（1990）によれば、水深が１m内外で、一面に植物が繁殖しているところ、および湿地に特徴的に生育することから、沼沢湿地の指標種群と言われている種である。Hantzschia amphioxys、

Navicula placenta 等の陸生珪藻は、水中や水底の環境以外のたとえばコケを含めた陸上植物の表面や岩石の表面、土壌の表層部など大気に接触した環境に生活する一群（小杉 ,1986）である。

以上の産出した種の生態性と群集の特徴から堆積時の環境を推定すると、潮間帯に存在する沼沢湿地のような、海水の影響を若干受ける湿地的環境が示唆される。また、花粉化石が検出されないことから、好気的な環境下になったことも推測され、乾湿を繰り返すような環境であったと思われる。

石川ほか（2009）によれば、調査地周辺の沿岸域の堆積環境は、7,600calBP ～ 4,800calBP が縄文海進による海域の拡大期、4,800calBP ～ 800calBP が海退による入江の形成期、800calBP ～ 600calBP が干潟、600calBP ～ 400calBP が湿地という変遷が推定されている。

M3 区の出土木材の年代や基本土層の調査所見などを参考とすると、M3 区 SX101 黒色土に認められた珪藻化石群集の年代は入江の形成期に相当すると思われる。本遺跡はボーリング調査地点より陸側に位置するため、湿地化が進行していたことが推定される。

2）D 区北壁

D 区北壁の 6 試料は、花粉化石、珪藻化石ともにほぼ無化石であった。そのため、産出した種類から環境を推定することは難しい。なお、珪藻化石を構成するシリカ鉱物は、温度が高いほど、流速が早いほど、水素イオン濃度指数が高いほど溶解度が大きくなり溶けやすいことが実験により推定されている（千木良 ,1995）。また、花粉化石は好気的環境下による風化に弱い（中村 ,1967 など）。以上のことから、取り込まれた珪藻化石は、堆積後に好気的環境下に置かれたため分解が進んで消失した可能性が高い。

3）M1 区南壁・M3 区北壁

基本土層のＤ層および以深に対比される M1 区南壁の試料番号 9,8、M3 区北壁の試料番号５～３は、モミ属、ツガ属、スギ属、クマシデ属－アサダ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ亜属、アカガシ亜属、クリ属、シイ属、ニレ属－ケヤキ属等の木本花粉がみられるが、際立って多い種類は認められなかった。これは集水域が広く、様々な植生の場所から花粉化石が運ばれてくるためで、東京の低地遺跡ではよくみられる傾向である（パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1989 など）。また、草本花粉が少なく、渦鞭毛藻類や有孔虫などの海棲微化石が検出されるのは、海水の影響を受けて、草本植生が貧弱になっていたためと考えられる。このことは、遺跡の立地が海岸近くであることや、M3 区 SX101 の珪藻化石の結果からみても調和的と言える。今回の花粉化石群集では、モミ属、ツガ属、スギ属、アカガシ亜属がみられるが、縄文時代後晩期～古墳時代の関東地方南部でみられる傾向である。その理由として、いわゆる「弥生の小海退」の時期を中心とした、気候変化（冷涼、多雨化）が影響しているといわれている（辻ほか ,1983 など）。基本的に台地周辺は、これら豊富な種類構成から成る開けた林地で、低地は海水や洪水の影響を受け、貧弱な植生であったと思われる。

基本土層のＣ層（相当）に対比される M1 区南壁の試料番号 7 や M3 区北壁の試料番号 1 は、木本花粉ではマツ属（特に複維管束亜属）が多く、草本花粉はイネ科が多くその中の半数以上がイネ属が占めるという傾向が認められた。さらに、水田雑草とされるミズアオイ属、ミズニラ属、サンショウモなどや、寄生虫卵（回虫、鞭虫）が検出された。

上述したマツ属花粉の増加は、開発による周辺のマツ二次林や植林の増加が原因とされ、関東地方では、江戸時代以降の花粉分析結果において普遍的にみられる。また、イネ属花粉が多量に検出され

ることから、当時の低地では稲作も示唆される。調査地周辺は、江戸時代になると低地が徐々に埋め立てられ開発が進んでいくが、開発以前は水田として利用されていた可能性がある。なお、マツは樹形が美しく、成長も早いことから庭園などに植栽されるほか、護岸を目的として堀や岸などに植えられることも多い。一方、マツは風媒花で花粉生産量が膨大で飛散能力にも優れることから、マツ属花粉は周辺植生の割合よりも、増加が顕著に現れる（Faegri & Iversen,1989）。そのため、実際の周辺植生においては、耕地化は進行したが、マツ林の増加は花粉化石でみられるほど顕著ではなかった可能性がある。

＜引用文献＞

安藤一男 ,1990, 淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復元への応用 . 東北地理 ,42,73-88.

新井房夫 ,1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層 . 考古学ジャーナル ,157,41-52.

Asai, K. and Watanabe, T., 1995, Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, 35-47.

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon, 51, 337-360.

Cholnoky, B. J., 1968, Die Oekologie der Diatomeen in Binnengewassern. p. 699. Lehre(Cramer).

千木良雅弘 ,1995, 風化と崩壊 . 近未来社 ,204p.

Desikachary, T. V., 1987, Atlas of Diatoms. Marine Diatoms of the Indian Ocean. Madras science foundation, 1-13, Plates, 401-621.

Erdtman G., 1952, Pollen morphology and plant taxonomy: Angiosperms (An introduction to palynology. I). Almqvist & Wiksells, 539p.

Erdtman G., 1957, Pollen and Spore Morphology/Plant Taxonomy: Gymnospermae, Pteriodophyta, Bryophyta (Illustrations) (An Introduction to Palynology. II), 147p.

Faegri K. and Iversen J., 1989, Textbook of Pollen Analysis. The Blackburn Press, 328p.

藤木利之・小澤智生 ,2007, 琉球列島産植物花粉図鑑 . アクアコーラル企画 ,155p.

Hustedt, F., 1930, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 1, 920p.

Hustedt, F., 1937-1938, Systematische unt okologische Untersuchungen mit die Diatomeen-Flora von Java, Bali und Sumatra. Ⅰ～Ⅲ . Arch. Hydrobiol. Suppl., 15, 131-809p, 1-155p, 274-349p.

Hustedt, F., 1959, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeresgebiete. in Dr. Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 2, 845p.

Hustedt, F., 1961-1966, Die Kieselalgen Deutschlands, Oesterreichs und der Schweiz. under Berucksichtigung der ubrigen Lander Europas Sowie der angrenzenden Meeres-gebiete. in Dr.

Rabenhorsts Kryptogamen Flora von Deutschland, Oesterreichs unt der Schweiz, 7, Leipzig, Part 3, 816p.
伊藤良永・堀内誠示 ,1989, 古環境解析からみた陸生珪藻の検討　－陸生珪藻の細分－ . 日本珪藻学会第 10 回大会講演要旨集 ,17.
伊藤良永・堀内誠示 ,1991, 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用 . 日本珪藻学誌 ,6,23-44.
石川　智・鈴木毅彦・中山俊雄・鹿島　薫 ,2009, 東京都千代田区日比谷公園と江東区新砂における珪藻化石による完新世の古環境復元 . 地学雑誌 ,118(2),245-260.
貝塚爽平 ,1990, 富士山はなぜそこにあるのか . 丸善 ,174p.
小林謙一 ,2008, 縄文土器の年代（東日本）. 小林達雄編　小林達雄先生古希記念企画　総覧　縄文土器 , 株式会社アム・プロモーション ,896-903
小林謙一 ,2017, 縄文時代の実年代－土器型式編年と炭素 14 年代－ . 同成社 ,263p.
小杉正人 ,1986, 陸生珪藻による古環境の解析とその意義－わが国への導入とその展望－ . 植生史研究 ,1,9-44.
小杉正人 ,1988, 珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用 . 第四紀研究 ,27,1-20.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1985, Naviculaceae. Bibliothyca Diatomologica, 9, 250p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1986, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(1), 876p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1988, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(2), 596p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1990, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(3), 576p.
Krammer, K. and H. Lange-Bertalot, 1991, Bacillariophyceae, Susswasser flora von Mitteleuropa, 2(4), 437p.
Lange-Bertalot, H., Witowski, A., and Metzeltin, D., 2000, ICONOGRAPHIA DIATOMOLOGICA Annotated　diatom micrographs. Diatom Flora of Marine Coasts, 1, 925p.
三好教夫・藤木利之・木村裕子 ,2011, 日本産花粉図鑑 . 北海道大学出版会 ,824p.
中村　純 ,1967, 花粉分析 . 古今書院 ,232p.
中村　純 ,1980, 日本産花粉の標徴　Ⅰ Ⅱ (図版）. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録　第 12,13 集 ,91p.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1989, 自然科学分析 . 葛飾区遺跡調査会調査報告第 10 集　柴又河川敷遺跡Ⅱ , 葛飾区遺跡調査会 ,62-126.
パリノ・サーヴェイ株式会社 ,1996, 第 6 章自然科学分析 . 汐留遺跡 - 汐留遺跡埋蔵文化財発掘調査報告書 -(第 3 分冊）, 汐留地区遺跡調査会 ,103-278.
Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk R. C., Butzin M., Cheng H., Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K., Kromer B., Manning S.,

Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R., Richards D., Scott E., Southon J., Turney C.,
Wacker L., Adolphi F., Büntgen U., Capano M., Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Köhler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F., Sakamoto M., Sookdeo A. and Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), p.725-757.

島倉巳三郎 ,1973, 日本植物の花粉形態 . 大阪市立自然科学博物館収蔵目録　第 5 集 ,60p.

Stuiver M., and Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-　363.

上杉　陽 ,1990, 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図－その 1:S-25 ～ Y-114 －. 関東の四紀 ,16,3-28.

田中宏之・中島啓治 ,1985, 群馬県老神・奥平・梨木・嶺・赤久縄温泉及び福島県元温泉小屋温泉のケイソウ . 群馬県立博物館紀要 , 1985(6）, 1-22.

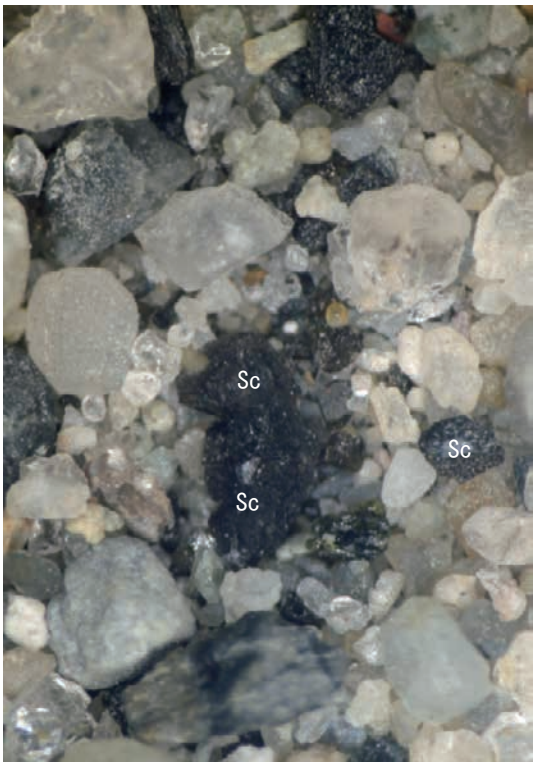
田中宏之 ,1987, 群馬県高崎市北部から発掘された古代水田の珪藻 . 群馬県立歴史博物館紀要 ,8, 1-20.

辻　誠一郎・南木睦彦・小池裕子 ,1983, 縄文時代以降の植生変化と農耕－村田川流域を例として－ , 第四紀研究 ,22,251-266.

図版1　テフラ・砂分の状況



1.スコリア(M1区南壁;7)



2.スコリア(M1区南壁;8)



3.スコリア(M3区北壁;1)



4.砂分の状況(M3区北壁;2)

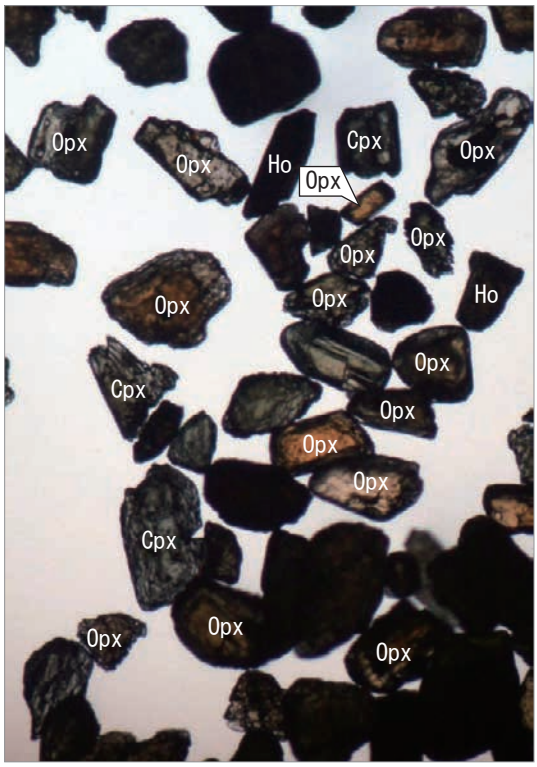
Sc:スコリア

1.0mm

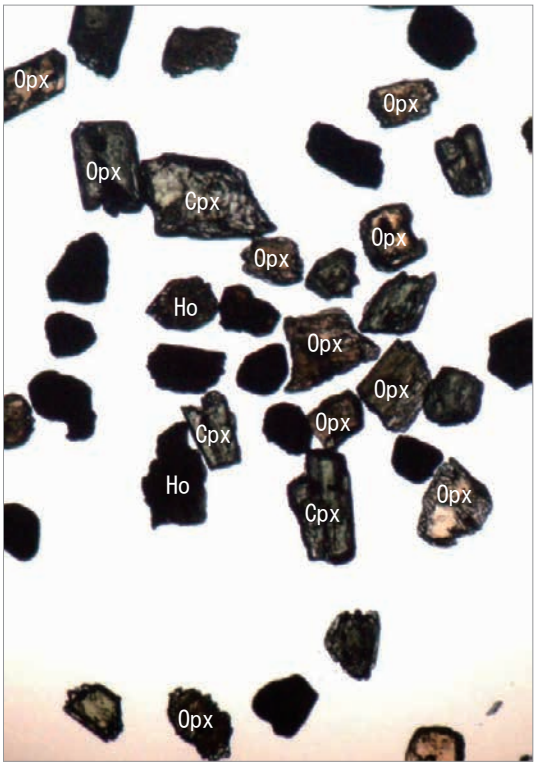
図版2 重鉱物



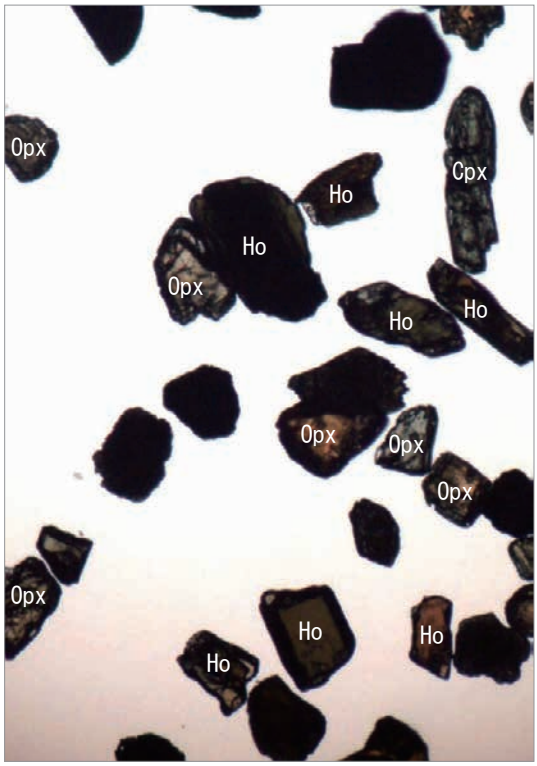
1. 重鉱物(M1区南壁;7)



2. 重鉱物(M1区南壁;9)



3. 重鉱物(M3区北壁;1)

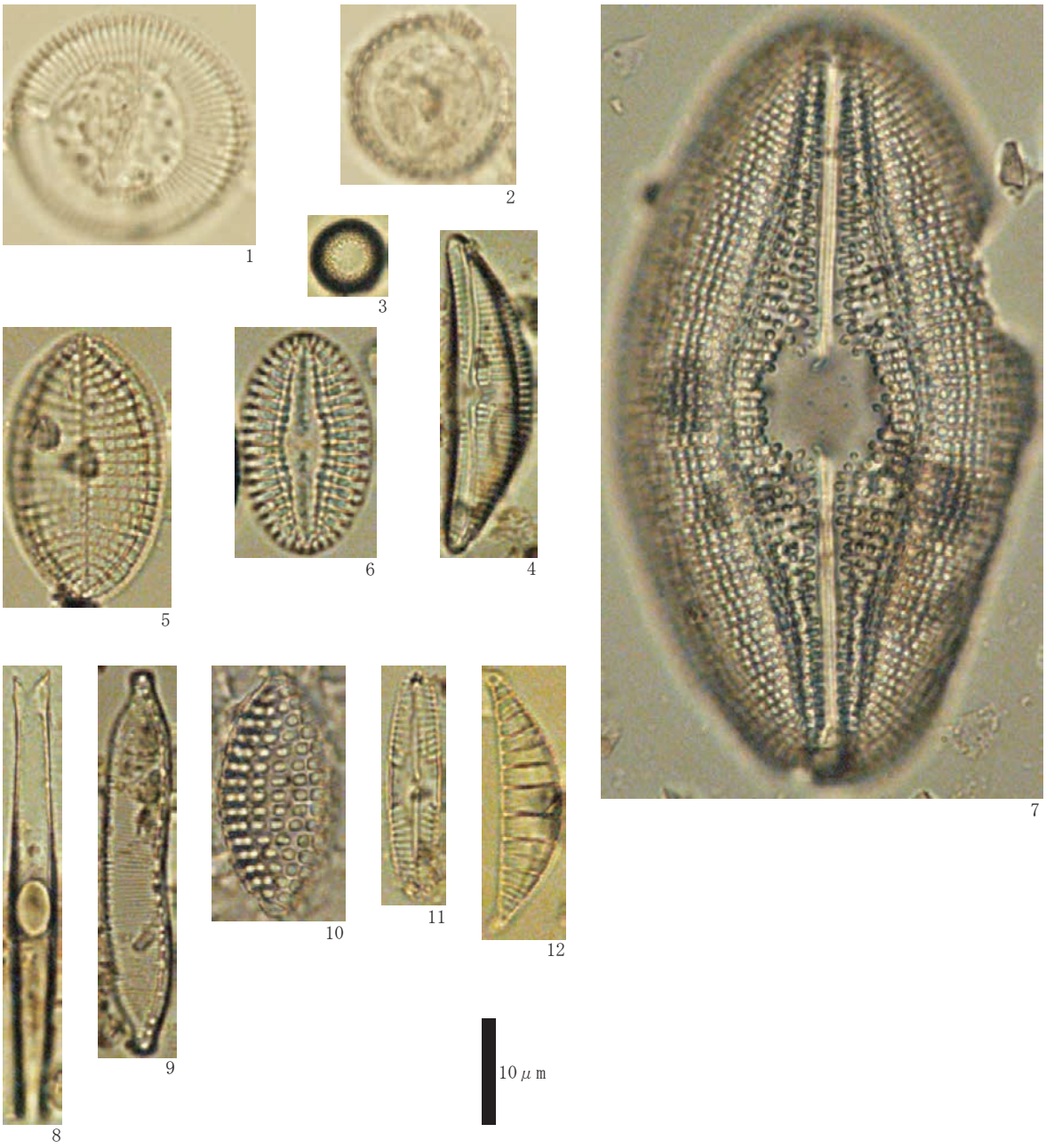


4. 重鉱物(M3区北壁;3)

Opx:直方輝石. Cpx:単斜輝石. Ho:角閃石.

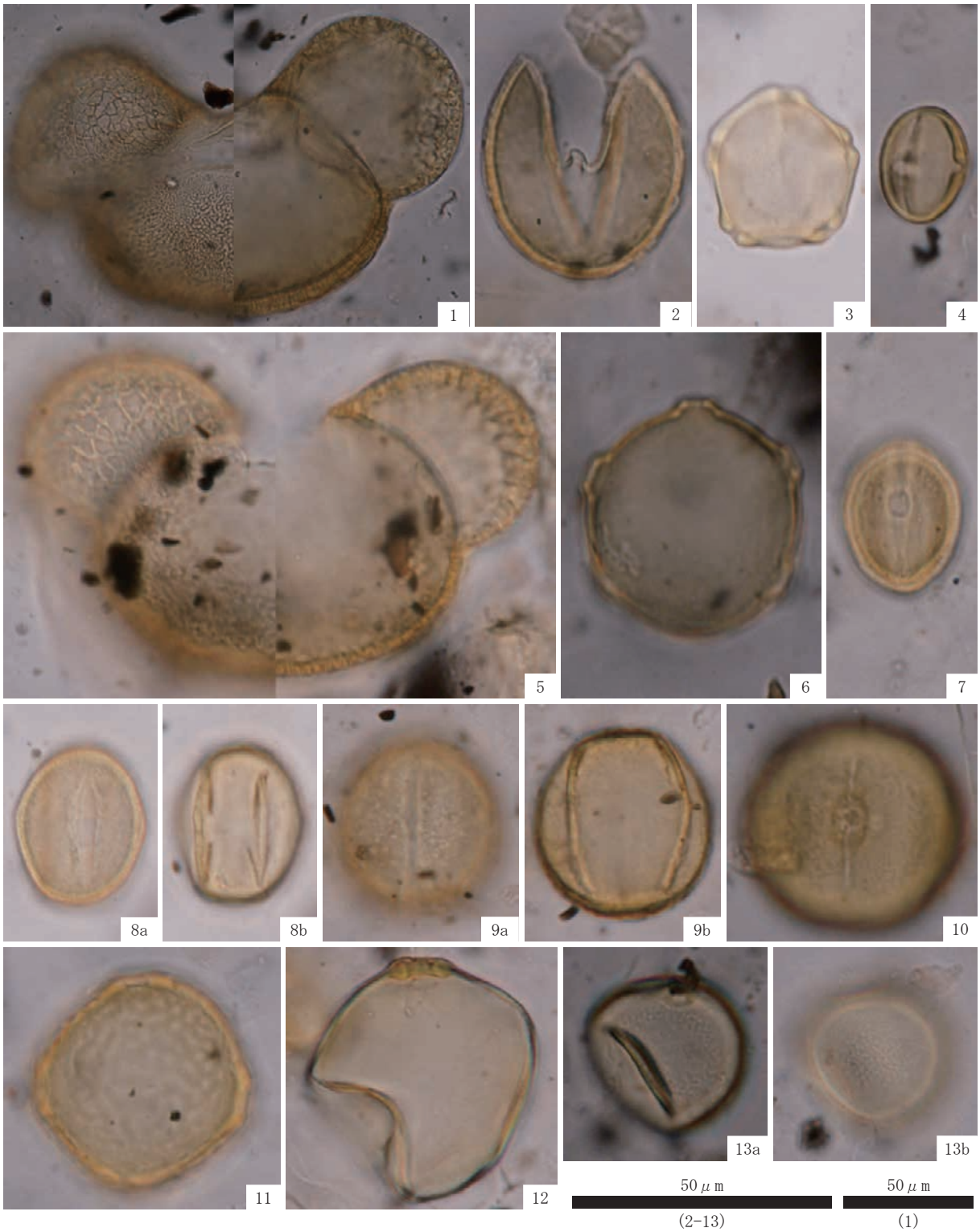
0.5mm

図版3 珪藻化石



1. *Cyclotella striata* (Kuetz.) Grunow（M3区 SX101；黒色土）
2. *Paralia sulcata* (Ehr.) Cleve（M3区 SX101；黒色土）
3. *Pseudopodosira kosugii* Tanimura et Sato（M3区 SX101；黒色土）
4. *Amphora ovalis* var. *affinis* (Kuetz.) Van Heurck（M3区 SX101；黒色土）
5. *Cocconeis scutellum* Ehrenberg（M3区 SX101；黒色土）
6. *Diploneis parma* Cleve（M3区 SX101；黒色土）
7. *Diploneis yatukaensis* Horikawa et Okuno（M3区 SX101；黒色土）
8. *Grammatophora macilenta* W.Smith（M3区 SX101；黒色土）
9. *Hantzschia amphioxys* (Ehr.) Grunow（M3区 SX101；黒色土）
10. *Nitzschia granulata* Grunow（M3区 SX101；黒色土）
11. *Pinnularia subcapitata* Gregory（M3区 SX101；黒色土）
12. *Rhopalodia gibberula* (Ehr.) Mueller（M3区 SX101；黒色土）

図版4 花粉化石



1. モミ属(M3区北壁;3)
2. スギ属(M3区北壁;3)
3. ハンノキ属(M3区北壁;3)
4. クリ属(M3区北壁;3)
5. マツ属複維管束亜属(M1区南壁;7)
6. クマシデ属－アサダ属(M3区北壁;3)
7. カエデ属(M3区北壁;3)
8. アカガシ亜属(M3区北壁;3)
9. コナラ亜属(M1区南壁;7)
10. ブナ属(M3区北壁;3)
11. ニレ属－ケヤキ属(M3区北壁;3)
12. イネ属(M1区南壁;7)
13. 他のイネ科(M1区南壁;7)

2　港区・圓福寺跡遺跡出土の貝類遺体

宮本由子（東京都埋蔵文化財センター）
黒住耐二（ウルマ自然史研究所・元千葉県立中央博物館）

この遺跡は、東京都港区愛宕一丁目の愛宕神社の海側の低地に位置しており、中世の板碑や近世陶磁器等が出土している。調査所見によると、調査区内には広い範囲に貝集積が分布していたが、令和2・3年度の調査では、土坑等の覆土に含まれたもの以外は貝集積を遺構に認定していない。貝集積を遺構として記録しているのは、主に令和4年度以降に調査されたB、D、I、J、M区にまたがる調査区中央部である。大部分の貝類が出土しているのはマウンド状の貝集積（SX34、SX42）と大形土坑内の貝集積（SX96）、堆積状況不明の貝集積（SX38、SX43、SX44、SX46、SK100、SX49、SX81、SX92、SX93、SX94、SX97、SX98、I区貝集積）で、それらの間を縫うように検出されている井戸状遺構（SE19、SE38、SX14）やピット（SP309）、土坑状遺構（SX45）からも少量の貝類遺体が得られている。また、令和2・3年度の調査地点においても、詳細な採集位置は不明であるものの、A区第3面、A区SX3、E区SX19、M区SX89において貝類遺体を含む土壌が採集されている。

調査現場における堆積状況の実見と、試みに行った少量の水洗選別結果から、貝集積にはほとんど貝類以外の動物遺体や人工遺物が含まれないことが明らかであった。また、貝種組成はほとんどの遺構がヤマトシジミを主体としており、地点によってマガキ主体の集積が散見されることが確認された。そのため、貝類以外の遺物の検出と、各貝集積における貝種組成の詳細な把握、微小貝類による堆積環境の調査を分析の目的とした。

1．資料と方法

令和4年度に調査された遺構の出土貝類は、基本的に全量が土壌ごと取り上げられた。ここではそれらを、以下に示す詳細分析資料及び現場分析資料に分けて分析した。

いずれの資料も種同定は現生標本との比較によって行い、最小個体数の算出には二枚貝では殻頂、巻貝では各遺構で最も大きな数を見積もれる部位を用いた。ただし、今回の資料のうち、特にヤマトシジミ、ハマグリ、シオフキ、オキシジミには完形の現生標本との比較では同定の難しい破片資料も多かった。そこで、殻頂部が残っていない二枚貝の細片や、殻の表面が剝がれている破片については、殻頂が残っている破片資料との比較によって同定を行った。殻表面が残っている場合、ハマグリは肋がなく滑らかであること（図1-12～13）、オキシジミは布目状の肋があること（図2-24・25）を同定の根拠とした。輪肋のあるヤマトシジミ（図1-6～8）とシオフキ（図1-15~18）は、殻質の違い、輪肋の形状の違い、殻の湾曲の程度を標本と比較して区別したが、細片でどちらか判断の難しいものがあった場合はヤマトシジミとして計上した。殻頂の残存している資料を見る限り、ヤマトシジミがシオフキに比べ圧倒的に数が多いため、以上の操作は種組成を見る上では問題ないと判断している。

＜詳細分析資料＞

詳細分析資料とは、微小貝類を含む分析を企図し、黒住（1997）の方法に基づいて、目開き

9.5mm・4.0mm・2.5mm・1.0mm の篩で水洗選別し、浮遊部分（ＬＦ）も目開き 0.5mm 未満のネットで回収したものを指す。分析内容は、土壌の乾燥重量の計量、種同定、計数（破片数と最小個体数）、確認部位・成／幼貝・生死・焼けているかどうか等の記録、ハマグリとヤマトシジミの殻サイズの計測である。各目開きでの水洗選別で得られた残渣から、完形のみならず、破損した破片もすべて抽出・計数した。ハマグリについては目開き 9.5mm の篩による水洗選別で得られた資料のうち計測部位が残っているものについて後側歯長と殻長（図 5）を計測し、殻頂のみが残る破片資料については後側歯長から推定値を算出することとした（図 6）[※1]。

詳細分析資料としたのは後述の表 2 に挙げた 18 サンプル（＃ 1 ～ 18）である。本遺跡の貝集積の中でも大規模なものを中心に、Ａ区、Ｅ区、Ｉ区、Ｊ区、Ｍ区と様々な地点のものを比較できるようにサンプルを選定し、明らかにヤマトシジミの多い SX34（＃ 1）とマガキの目立つ SX42（＃ 5 ～ 8）など、より広く貝種組成のバリエーションが観察できるようにも気を付けた。また、大規模な集積ではないものの、微小遺物の分析を行うべき遺構として選定したものに、次の 3 サンプルがある。＃ 3 はホタテガイのみが取り上げられていたもので、ホタテガイに付着していた 300cc の土壌の篩がけを行ったものである。ここでは江戸遺跡には珍しいホタテガイの出土時期の参考となる微小貝類の抽出を目論んだ。＃ 4 は土坑（SP309）内にあった貝堆積で、他の大規模な貝集積とは性格の異なる貝類廃棄の様相が分かる可能性があったため選定した。＃ 17 は SX15 から出土した甕の中に堆積していた土壌である。微細な遺物が含まれていた場合、微小貝類の有無と合わせて検討することでその土壌の由来が明らかになる可能性があったため選定した。

大規模な貝集積で採集された土壌は、例えば SX34 では 1,075.5kg、SX96 では 283.0kg もの膨大な量であった。このうち、事前によく攪拌することで貝殻の大きさによる偏りがないようにした上で各遺構最大２Ｌを取り分けたものを詳細分析資料とし、分析対象としなかった土壌についても、全量を対象として目開き 5mm・3mm・1mm の篩で水洗選別を行い、浮遊物もできる限り回収して、貝類遺体以外の遺物がほぼ皆無であることを確かめた。分析対象外の貝類の種組成は記録していないが、概観したところ分析対象とした資料と同じ傾向であると判断した。なお、#9 は元々土があまり付着しておらず、すでに水洗済みであった可能性があるが、それ以外の 16 サンプルは未処理の土壌を水洗選別したものである。

9.5mm と 4.0mm の資料については宮本が、2.0mm、1.0mm、浮遊部分（LF）の資料については黒住が分析を行い、考察の記述は黒住が行った。

＜現場分析資料＞

現場分析資料とは、詳細分析資料で取り扱わなかった遺構のうち、貝類が堆積している範囲をカバーするように 17 遺構を選び、5mm の水洗選別で得られた試料から無作為に各最大 1 L を取り出して貝種の同定を行ったものを指す。すべての破片を同定対象としたが、二枚貝の計数は殻頂が残っているもののみを対象とし、それ以外の破片の数は記録していない。その一方で、巻貝は出土数が少なかったため、すべての部位を計数した。ただし、計数対象部位の残っていない破片でしか検出されていない種があった場合は「破片あり」として最小個体数を 1 と計上した。分析は現場作業員の行ったものを宮本が確認、修正し、分析結果を宮本と黒住が記述した。

２．分析結果

抽出された貝類の分類リストと各種の生息場所を表１に、抽出資料の写真図版を図１～４に示した。巻貝（腹足綱）11 種、二枚貝 11 種が確認された。このうち、淡水産種は巻貝２種、二枚貝１種であり、陸産種は５種の微小種であった。

以下では、篩の目開きごとに 9.5mm・4.0mm で得られた資料を「食用貝類遺体」、2.0mm 以下で得られた資料を「微小貝類遺体」として分析結果を示す。

2-1．食用貝類遺体

＜詳細分析資料＞

詳細分析資料の結果を表２に示した。総計 12,116 点を同定したが、３点の哺乳類を除きすべて貝類であり、魚類や鳥類の骨は検出されなかった。貝種にはかなり偏りがあり、ヤマトシジミが 5,509 点（全体の 45%）、ハマグリが 3,388 点（同 28%）、マガキが 2,828 点（同 23％）で、この３種が全体の 97% を占めている。その他の内訳は、タニシ類が 178 点（ただし最小個体数は９個体）、オキシジミが 98 点、シオフキが 77 点、アカガイ属が 14 点（うち２点はサルボオ）、ホタテガイが 10 点（最小個体数は２個体）、ウネナシトマヤが３点、アサリが２点、マツカサガイ類が２点、オオヘビガイが１点、カワニナが１点、アカニシ？が２点、哺乳類四肢骨片が３点であった。哺乳類の四肢骨片はどれも片面に海綿体が観察でき、平らな面を持つ形状で（図 4-61・62）、長辺 10 ～ 20mm 程度の小破片となっており、加工痕は認められなかった。その他に、河原石かと思われる角の取れた円礫（図 4-64）や鋭い角の残る角礫（図 4-65）、高師小僧を含む土塊も検出された。また、#15 には、他の遺構には見られない黒色の土器片？が多量に含まれていた（図 4-63）[※2]。今回は詳細な分析を行っていないが、貝類以外の遺物に乏しい本遺構の貴重な遺物である可能性もある。

以上のように貝種数は少ない一方で、各サンプルの貝種組成には違いが見られた。最小個体数が 20 個体以上のサンプルについて、調査区をまたぎ、優占種のヤマトシジミ、マガキ、ハマグリ、オキシジミ、シオフキ、マツカサガイ類、淡水貝（マツカサガイ類以外）の順に貝種組成比を示したのが図７である。これらの優占種の割合により、３つにグルーピングが可能であるように捉えられた（以下、サンプル No. はヤマトシジミの組成比の低い順に表記）。

Ａ群：#11・８の２サンプルで、ヤマトシジミがおよそ 10％以下に留まるのに対し、マガキが 30 ～ 40％、ハマグリが 40 ～ 50% 認められ、オキシジミ・シオフキ・淡水貝は 10％程度となっている。

Ｂ群：#7・9・18 の３サンプルで、ヤマトシジミが 40 ～ 60％、ハマグリが 20 ～ 40％、マガキが 20％程度となる（ただし #18 はマガキの出土なし）。

Ｃ群：#12・5・2・1・14・16・15 の７サンプルで、ヤマトシジミがおおよそ 80％以上を占める。

さらに、層別にサンプルを採取した遺構では、層ごとに貝種組成に違いが認められた。マウンド状貝集積の SX42 では１層（#5）はＣ群、３層（#7）はＢ群、４層（#8）はＡ群となっている。その一方で、大型土坑の SX96 では１層上半（#11）ではＡ群、１層下半（#12）、２層上半（#14）と２層下半（#15）ではＣ群であった。この３つのグルーピングは廃棄の単位を示していると言えるであろう。

本遺跡で出土している資料は、いずれのサンプルにおいても割れている資料が多いという特徴があった。例えば表２において、#1（SX34）で得られたヤマトシジミのうち、殻頂部のある資料は 556 点あるが、そのうち 70% にあたる 393 点は殻頂部のみの破片となっていた。その他にヤマトシジミが 20 点以上検出されたサンプルについて、同じように殻頂部のみの破片の割合を見ていくと、順に #2（SX14）では 252 点中 103 点（41%）、#4（SP309）では 29 点中 9 点 (31%)、#5（SX42, 1 層）では 30 点中 14 点（47%）、#7（SX42, 4 層）では 63 点中 32 点（51%）、#9（SX45）では 246 点中 93 点（38%）、#12（SX96, 1 層下半）では 134 点中 124 点（93%）、#14（SX96, 2 層上半）では 177 点中 158 点（89％）、#15（SX96, 2 層下半）では 115 点中 105 点（92%）、＃ 16（SX3）では 269 点中 162 点（60％）、#18（SX19）では 153 点中 88 点（58％）であった。このうちハマグリが出土している遺構について、ハマグリの破損状態を見ていくと、#1 では 44 点中 39 点（87％）、#2 では 19 点中 16 点（84%）、#5 では 3 点全点（100％）、＃ 7 では 43 点中 35 点（81%）、＃ 9 では 44 点中 40 点（91%）、＃ 12 では 17 点全点（100%）、＃ 14 では 5 点全点（100％）、＃ 15 では 1 点（100％）、#16 では 12 点全点（100％）、#18 では 69 点中 64 点（93%）であり、ヤマトシジミ以上に破損率が高かった。その他の貝種についてもハマグリと同様にヤマトシジミ以上の破損率であった。貝種を問わず破損率が高いこと、観察した限り割れ方に規則性はないことから、これは貝類が堆積した上を人が歩く等の堆積環境があったことを示していると考えられる。また、層別にサンプルを採取した遺構におけるヤマトシジミの破損率に注目すると、SX42 から採取したサンプル（#5、7）では 50% 前後、同じく SX96（#12、14、15）では 90% 前後に数値が揃っており、堆積環境は遺構ごとに異なっていたことが窺える。層ごとの破損率に有意な差が認められないことから、これらの貝層が一度に堆積したのではなく漸次的に堆積したもので、その間に上を歩くような行為があったか、別の場所で一様に割れたものが持ち込まれた可能性が考えられる。

次に、殻サイズの計測結果について述べる。ハマグリの殻長計測結果を表６・７に、計測できた最小個体数が 15 個体を超えるサンプルの殻長分布を図９に示した。総計 296 点を計測したが、全体の 87.8％にあたる 260 点は殻頂部分のみの破片であったため、推定殻長を利用した。以下では完形個体の殻長と推定殻長を合わせて扱う。図９に示したように、出土点数が 15 点程度の #1 と #7 では殻長分布のばらつきが大きく、明瞭なピークは認められない一方で、出土点数が 20 点以上の＃ 8、9、18 では殻長 40 ～ 55mm に各サンプルの点数の約 80％が集中しており、このサイズのハマグリを選択的に利用していたことが窺えた。今回は目開き 4.0mm 以下の篩がけで得られた資料の計測は行っていないが、殻頂が残存している資料は数が少ないため、以上で示した傾向は変わらないと判断している。

ヤマトシジミの殻長計測結果を表８に、最小個体数が 80 個体を超えるサンプルの殻長分布を図 10 に示した。最小 14mm、最大 35mm を測ったが、計測を行った 1,284 点中 83% にあたる 1,116 点が 19.0 ～ 27.9mm に集中した。目開き 4.0mm 以下の篩がけで得られた資料を合わせて見ても、自然堆積層では普通に見られる 13mm 以下の小さな個体がなく大きなサイズに偏っていることから、これらは人為的な選択によるものと考えられる。

＜現場分析資料＞

現場分析資料の抽出詳細を表５に示した。詳細分析資料と同じく、どの資料も内容物はほとんど貝類のみで構成されており、人工遺物やその他の動物遺存体は土器片や哺乳類の四肢骨片が数点あるのみで、魚類や鳥類の骨は皆無だった。分析対象外のその他の貝類出土遺構についても、膨大な量の土壌を水洗選別したにも関わらず同様の傾向であり、今回の調査区では広い範囲にわたって貝類だけを選択的に廃棄している様相が認められた。

すべての資料にヤマトシジミが含まれており、同定した 4,026 点のうち 80% にあたる 3,207 点がヤマトシジミであった。最小個体数が 30 個体以上の 12 遺構中、貝種組成でヤマトシジミが半数以上を占めるものは８つあり、９割を超えるものも４つある（図８）。

ヤマトシジミ以外ではハマグリとマガキが多く、次いでシオフキとオキシジミ、稀にサルボオ、カワニナ、そしてマツカサガイ類が限られた遺構で認められた。江戸遺跡から出土することの多いアサリ、サザエ、アカニシといった貝種は、アサリが SX46 に 1 点あるのみで、計数対象外とした破片にも含まれなかった。「マツカサガイ類」と表記したのは、鋏歯部程度が残存していた個体のみで、マツカサガイ（マツカサガイ北東本州固有種 *japanensis* ３とされるもの）かヨコハマシジラのどちらか判断できなかったものである。なお、確実にイシガイに同定できるものはなく、今回のサンプルにはイシガイは含まれていないと思われる。マツガサガイ類はほとんどが I 区 SX46 から出土している。ナミマガシワとタニシ類も 1 点ずつ検出した。

貝種組成は、詳細分析資料と同様、A ～ C 群の３つに分けることができた（図８）。すなわち、上から順に SK100・SX46・SX38 は A 群、SX94・SX43・SX98 は B 群、SX81・SX93・SX44・A 区第３面・SX97・I 区貝集積は C 群である。ただし、詳細分析資料とは異なり、A 群の中にマツカサガイ類がまとまって出土しているものがある。この種の有無は時期差を示す可能性がある。

2-2.　微小貝類遺体

微小貝類等の詳細を表３に示した。ハマグリ等の食用貝類の殻頂部片も検出されたが、ハマグリは殻頂部の鋏歯だけが残っているものばかりであり、完形や一部破損した幼貝は認められなかった。正確な鋏歯からの殻長復元を行っていないが、抽出された鋏歯サイズから、いずれも 30mm 以上の個体だと推測された。同様に、シジミ類でも（殻頂部片なのでマシジミとの識別は不可能だが、表２に示したように、目開き 4.0mm 以上の篩がけによる資料ではマシジミは確認できていないので、全てヤマトシジミと判断できよう）完形や破損した幼貝は含まれていなかった。また、多数の破片をチェックしたが、明らかに焼けているものは、ほぼ含まれていなかった。また、1.0mm メッシュ残渣まで実体顕微鏡下で詳細に確認したが、肋骨の破片も含めてイワシ類等の小魚の骨も全く認められなかった。

表４は、一部に食用貝類遺体や穀類等の植物を含めて、微小種の同定標本数を生息環境区分ごとに示したものである。淡水産のカワニナが表４の左側に示した SX42（#5 ～ 8）・SX3（#16）・SX96（#10 ～ 15）から抽出されている。胎児殻程度のサイズのごく小さな幼貝も抽出されていることから（図 4-43・44）、遺跡内の小川[※3]に生息していたことは確実である。小川の存在は、SX96 の２層下半（#15）から、湿地に生育するカヤツリグサ科のフトイ？の種子が抽出されたことからも示唆される。そして、表２・表３で示したように、大形の個体はまとまって得られなかったことから、この遺跡ではカワニ

ナは食用とはされなかったことも分かる。その一方で、同じく淡水産のマツカサガイ類とオオタニシを含むタニシ類については食用であると考えている。前者ではかなり小さな鋏歯が抽出され、1.5cm程度と推測される幼貝の存在も想定されることから、この小川に生息していた“自然遺体”の可能性もないわけではないが、出土遺構が偏っていることから、食用の持込と考えてよいであろう。同様に、タニシ類はカワニナの抽出されていない遺構からも得られているため、やはり食用だったのであろう。

カワニナが出土している SX42(#7)、SX3(#16)、SX96(#10) からは、内湾泥底に高密度で生息する微小種のウミゴマツボとカワグチツボも少数抽出されている。これらは本遺跡に近接した近世のバカガイ貝剥き廃棄層からなる港区の雑魚場跡遺跡からも確認されており、薄質な殻を持つことから、海域や河口部に生息していたものが打上げられたものと考えている（黒住ら 2007）。本遺跡においても同様に、ときに高潮などが起こった折に、干潟につながる小川を遡って運ばれてきたものと想定できる。なお、雑魚場跡遺跡では河口汽水域のアシ原に高密度で生息しているカワザンショウガイ類が抽出されているが、今回の圓福寺跡遺跡では全く抽出されていない。カワザンショウガイ類はカワグチツボ等よりも厚質の殻を持ち溶解しづらいと推測されるため、圓福寺跡遺跡前面にアシ原が広く広がっていたことはなかったようである。

少数ではあったが、ホソオカチョウジガイ等の陸産貝類も、18 サンプル中 9 サンプルから抽出されている。林縁性としたヒメベッコウ以外は、草原のような開けた環境に生息する開放地生息種であることから、本遺跡は、かなり開けた木立の少ない景観であったことも示された。そして、ホタテガイに付着していた土壌を分析した #3 については、微小陸産貝類は抽出されず、外来陸産貝類の確認で時代を特定することはできなかった。それ以外のサンプルから抽出された陸産貝類にも、同定できなかった微小幼貝を含め、明治期以降に国外から持ち込まれた外来種は含まれていなかった。全体の抽出数がかなり少ないものの、今回処理した堆積物中に、混入を含め後代の微細遺物はほとんど含まれていないことの証左ともなろう。

３．考察　圓福寺跡遺跡の貝層の形成

図７・８に示したように、本遺跡の貝層を形成していた貝類の種数はかなり少なく、特にＣ群ではほぼヤマトシジミのみといえる状況であった。類似した貝類の優占種組成としては、中世末から近世初頭にヤマトシジミとハマグリに著しく偏向する大規模な貝層が堆積していた東京都千代田区の有楽町一丁目遺跡の例がある（樋泉 2015）。

有楽町一丁目遺跡における貝層サンプルには、例えば 1629 点中 92％にあたる 1503 点がヤマトシジミであったサンプル A（190 号遺構）をはじめヤマトシジミが卓越するものがほとんどであり、一部のサンプルではハマグリやオキシジミも集中的に含まれている。貝種組成が偏向することや、魚骨の出土量がごく少量であり、自家消費の残滓とは考えにくいことから、これらの貝層は剥き身や干物などの水産加工の残滓である可能性や、そうした残滓が海岸湿地の埋め立てに再利用された可能性が示されている（樋泉 2015）。

貝類以外の遺物がほとんど含まれず、貝種が偏向する点が類似している本遺跡においても上記と同様の可能性が考えられるが、サンプルを概観した限り、ほとんどが破損資料であるため十分な観察ができていない可能性はあるものの、マガキの剥き身痕跡（阿部 2010）や前述のような焼けた貝殻は

ほぼ皆無であった。このことから、本遺跡で出土した貝類は“大釜で茹でるなどして、身を貝殻から外し、その後に干貝等として出荷された”後の廃棄である可能性が指摘できる。本遺跡の貝層の考古年代は明確になっていないが、有楽町一丁目遺跡との組成の高い類似や、後述する限られた時代の厚質イシガイ科利用を考え合わせると、近代と思われる #3 のホタテガイを除くサンプルは中世末～近世初頭の貝類廃棄と考えるのが妥当だと思われる。ただ、筆者らの知る限り、シジミを干貝に加工して販売した例を知らない。その他の可能性としては、中世末～近世初頭という時代と、江戸の街づくりに関連のある“日比谷入江の埋立”と関連させるならば、日比谷入江埋立の“人足”の食料としてシジミが利用されたという想定もできるが、本遺跡の出土貝類の種類が極めて限定されていること、細片でも焼き物がほとんど出土しないこと、低湿地遺跡でありながらウリ類等の植物遺体も抽出できなかったことから、やはり加工場のような特殊な貝類廃棄と捉えるほうが自然であろう。有楽町一丁目遺跡の時期と位置も同様に理解でき、今後の調査によっては、さらに他にも類似した貝類加工の場が発見されることも期待される。

さらに本遺跡において特筆されるのは、有楽町一丁目遺跡における中世のサンプルからは全く得られていないマツカサガイ類が出土していることである。関東地方では中世にはマツカサガイ類等の厚質イシガイ類（イシガイを含む）のまとまった出土が報告されており（栃木：金子 2002；千葉：西野 2010）、同時期の千葉県柏市の須賀井遺跡での厚質イシガイ類の分析から、“戦国期の干貝としての利用”が想定されている（黒住 2017）。さらにその後、京都市南部の富ノ森遺跡で室町時代後期のタニシ類、安土桃山時代の厚質イシガイ類の地点貝塚を報告し、より時代を特定できるようになってきている（黒住・宮本 2022）。これらの厚質イシガイ類の出土年代から、今回分析した資料のうち、まとまった量のマツカサガイ類が含まれていたサンプル（現場分析資料の SX38、SX46）は中世後半から末という年代を想定できるように思われる。マツカサガイ類が出土しないその他のサンプルはこれよりも新しい時期に廃棄されたものである可能性が高いと考えており、本遺跡では戦国期の厚質イシガイ類の干貝から連続して近世のヤマトシジミの干貝生産が行われていたとも考えられるが、各サンプルの時期の調査は今後の課題である。

また、マツカサガイ類と共伴する貝類が、ハマグリ・カキ・シジミ・オキシジミといった特定の貝種で組成されていることからは、江戸城の形成以前に、魚介類の流通体制が成立していたということも想定できる。類似した例として、沖縄の首里城確立前後の出土貝類の組成比較から、従来あった選択的な種の流通を、権力者が踏襲したと考えたものがある（黒住 2013）。中世期には、同様の状況が日本各地に存在していたのかもしれない。なお、有楽町一丁目遺跡の中世に属するサンプルからは、オキシジミが 160 点中 79 点、50 点中 28 点というように全体の半数程度を占める遺構があったのに対し、本遺跡では各サンプルから 1 ～ 2 点出土する程度でまとまった出土は認められず、オキシジミを積極的に利用した様子は認められなかった。本遺跡において少量だけオキシジミが出土しているのは、生息域を同じくするマガキを採集した際に混じった等の理由なのではないかと推察する。

微小貝類の組成からは、貝層は海岸か河口の草地のような開けた場所に形成されたことが示されたが、この点も有楽町一丁目遺跡（黒住 2015）と同様であった。海域に生息する貝類としては、焼けていないウミゴマツボとカワグチツボが僅かに抽出されたのみで、本遺跡に近接した雑魚場跡遺跡（黒住ら 2007）から比較的多く得られているホトトギスガイとアサリは見られなかった。このことは、

富栄養化した海域で大量発生することのあるホトトギスガイやアサリが多くない程度の海域環境であったことや、江戸の人口が増加することにより、富栄養化が進んだことと関係する可能性もある（黒住 2024）。また、先述のとおり、サンプルからカワニナ幼貝が得られたことからは、遺跡内の A 区（SX3）から I 区（SX42）、M 区（SX96）にかけて淡水の小川が流れていたことが想定された。そして、干潟に棲むウミゴマツボ・カワグチツボが同遺構から検出されていることからはその小川が干潟に繋がっていたことを、アシ原に棲むカワザンショウガイが皆無であったことからは河口に広いアシ原は広がっていなかった可能性を指摘できる。

次に江戸時代における貝灰生産との関わりについて触れておきたい。江戸の街を形作っていくためには家屋の壁に漆喰が多用されたと想定できるが、今回の貝層中には漆喰の原材料となる貝殻を焼いて作る貝灰（黒住 2023）を制作したと想定できるような焼けた貝殻はほとんど含まれていなかったため、この場所では貝灰生産は行われなかったようである。また、現在では各所で行われる“ゴミ焼き”のような行為もなかったと思われる。漆喰には江戸近郊のカキ殻や関東山地の石灰岩が使われていたのかもしれない（川勝 2007 も参照）。

#3 のホタテガイについては、周知のように北海道周辺に生息する貝で、近世の江戸遺跡からの確実な出土は極めて稀なようである。軟体部（＝身）の腐敗を考えると当然であるが、この時期まで殻付きの生きたホタテガイの流通はほとんどなかったと考えられ、貝殻の利用もかなり限定されていたものと推定できる。このような状況から、このホタテガイは、近世末から近代のものと考えるのが妥当だと判断している。同遺構からは近代の出土品も得られている。

最後に、炭化穀類の抽出を念頭に、壺内部の堆積物等（例えばサンプル＃ 17）、様々な堆積物の水洗処理を行ったが、ごく少数の穀類が抽出されただけであった（表３）。貝層を加工場ではないかと考えた遺構の性格にも起因するのであろうが、本遺跡の場合少なくとも大量の炭化穀類が存在していたということはなかったといえよう。今後も、着実に、幅広い時代と遺構・位置等に注意を払いながら、堆積物の水洗処理を行うことによって、文献史学とは異なったデータとして穀類利用が明らかになることに期待したい。

謝辞：令和５年度の本報告は、東京都埋蔵文化財調査センターと千葉県立中央博物館との共同研究の成果であり、黒住は本報告に JSPS 科研費 20H05811 の支援を受けた。また、カヤツリグサ科種子の同定に関しては千葉県立中央博物館の天野　誠博士、イネ・コムギ・オオムギの同定に関しては東京都埋蔵文化財センターの守屋　亮調査研究員にご協力いただいた。記して感謝申し上げる。

※１　ハマグリの完形個体（少し端が割れているものも含む）の殻長と後側歯長を計測し、その相関関係を調べたものが図６である。これを元に推定殻長を算出した。

※２　見た目は土塊のようだが、手で押しても崩れず、砂粒の混ざり方が均一で、平らな表面を持つものが含まれている。

※３　調査区内の近世の遺構は、古代以前の溝の上に構築されているものもあるという所見を得た。遺構内に流れていたと想定される小川の流路との関係は今後検証したい。

引用・参考文献

阿部常樹　2010 「近世江戸におけるマガキの流通」『芙蓉峰の考古学』. 六一書店 , 東京 .

川勝守生　2007 『近世日本における石灰の生産流通構造』xiv+524+31 pp. 岩田書店 , 東京 .

金子浩昌　2002 「北の前遺跡出土の貝類・獣骨」『北の前遺跡 , 栃木県埋蔵文化財調査報告』第 252 集，pp.460-462.

黒住耐二 1997「1996 年の用見崎遺跡調査でコラムサンプルから得られた貝類遺存体」『用見崎遺跡Ⅲ , 考古学研究室報告』第 32 集 , pp.35-41. 熊本大学考古学研究室 .

黒住耐二・樋泉岳二・山根洋子・西野雅人・鶴岡英一　2007 「港区芝の雑魚場跡鹿島神社境内地点から得られた動物遺体－近世のバカガイ貝剥きの検証」『港区立港郷土資料館研究紀要』第 9 号，pp.11-26.

黒住耐二　2013 「首里城淑順門西地区および奉神門地区の発掘調査で得られた貝類遺体」『首里城跡　, 淑順門・奉神門埋甕地区発掘調査報告書 , 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書』第 68 集，pp.186-200.

黒住耐二　2015 「有楽町一丁目遺跡から得られた微小貝類遺体と貝製品に関するコメント」『有楽町一丁目遺跡』，pp.347-351. 三井不動産 (株) ・ (株) 武蔵文化財研究所，東京 .

黒住耐二　2017 「須賀井遺跡から得られた貝類遺体」『須賀井遺跡 , 縄文時代以降編 , ［柏北部中央地区埋蔵文化財調査報告書 7 ―柏市須賀井遺跡―縄文時代以降編］，千葉県教育委員会埋蔵文化財調査報告』第 18 集，pp.102-109.

黒住耐二・宮本由子　2022 「富ノ森城跡の地点貝塚から得られた貝類遺体」『富ノ森城跡 , 京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告書』2021-8，pp.53-64.

黒住耐二　2023 「漆喰の原料となる貝灰－その歴史」『千葉いまむかし』第 36 号，pp.33-48.

黒住耐二　2024 「東京湾東岸における江戸時代の水田肥料，貝肥堆積層の分析」『千葉県立中央博物館研究報告』第 17 巻第 1 号，pp.49-62.

樋泉岳二　2015 「有楽町一丁目遺跡から採集された貝類（微小貝類を除く）および魚類遺体」『有楽町一丁目遺跡』，pp.340-346. 三井不動産 (株) ・ (株) 武蔵文化財研究所，東京 .

西野雅人　2010 「貝類」『印旛村松虫陣屋跡 , 千葉県教育振興財団調査報告書』第 636 集，pp.123-124, pl.40.

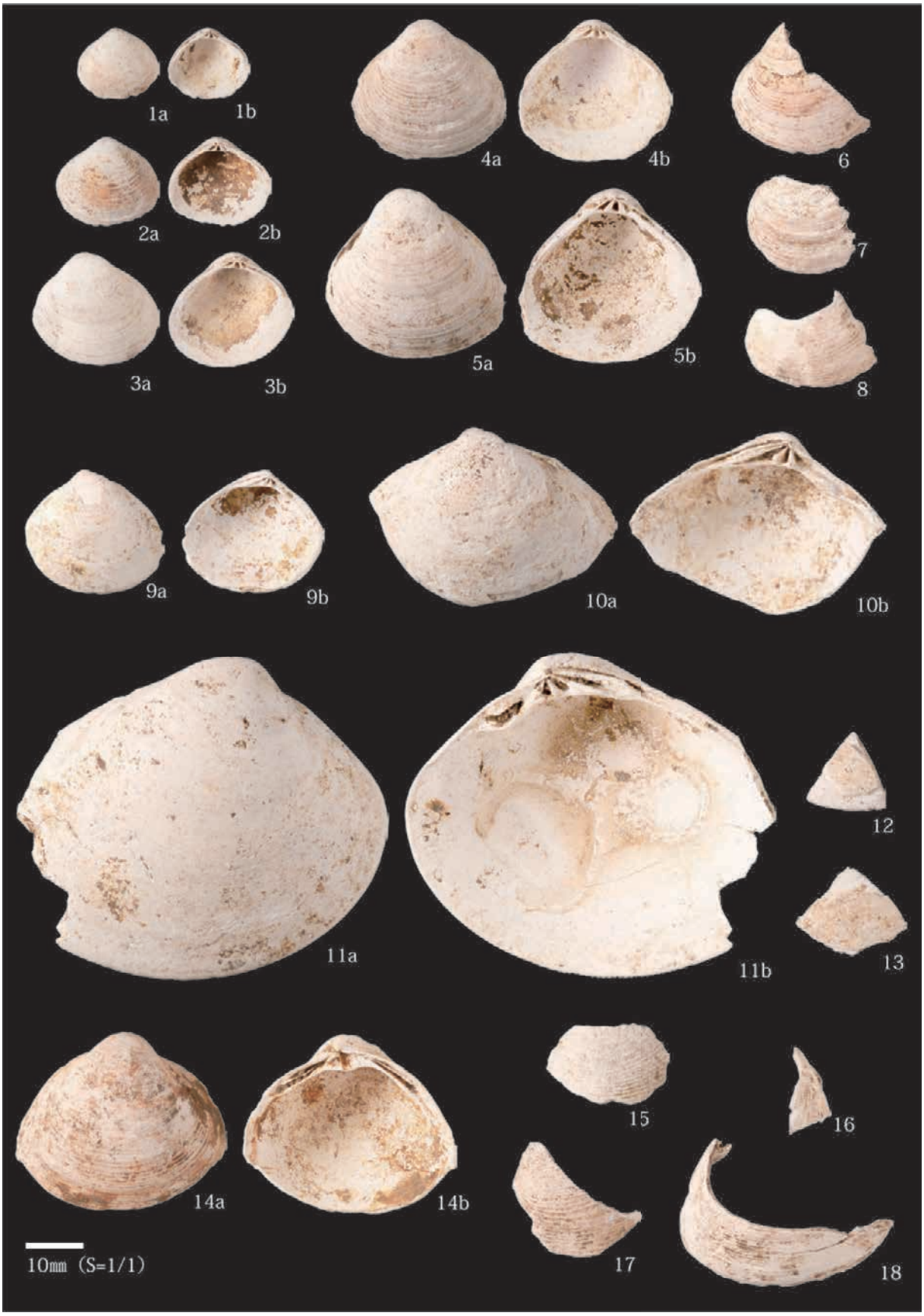
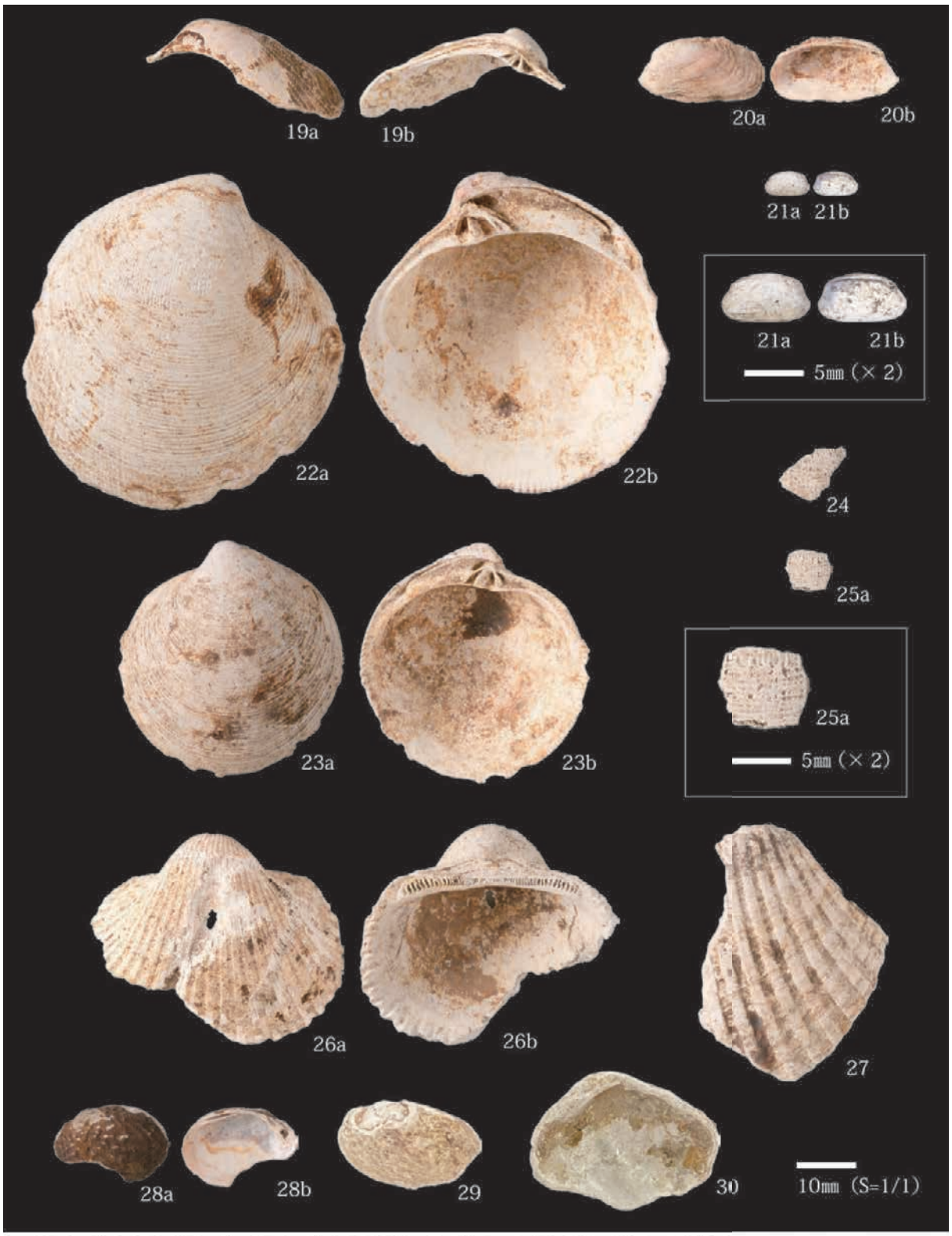


図１　水洗選別で得られた資料（１）



1～5：ヤマトシジミ（左）、6～8：ヤマトシジミ破片、9・10：ハマグリ（左）、11：ハマグリ（右）、12・13：ハマグリ破片、14：シオフキ（右）、15～18：シオフキ破片、19：アサリ（左）、20・21：ウネナシトマヤ（左）、22：オキシジミ（右）、23：オキシジミ（左）、24・25 オキシジミ破片、26：サルボオ（右）、27：アカガイ属破片、28：マツカサガイ（左）、29・30：マツカサガイ類　※ 1～13・15～18 は #1、14 は #7、19 は #8、20 は #7、21 は #9、22・23 は #8、24・25 は #9、26 は #18、27 は #7、28 は #16、29・39 は SX46 から検出された資料

図２　水洗選別で得られた資料（２）



図３　水洗選別で得られた資料（３）



31：オオヘビガイ、32：オオタニシ、33・34：タニシ類、35：アカニシ、36・37：ホタテガイ（右）、38 ～ 40：マガキ（左）38 は、41・42：マガキ（右）、43・44：カワニナ（sj）、45：カワグチツボ（mj）、46 ウミゴマツボ、47：オカチョウジガイ（sj）、48：オカチョウジガイ（mj）、49：ホソオカチョウジガイ（lj）#、50：ヒメベッコウ、51：ヒメベッコウ類似属、52：ヒメベッコウ類似属（mj）、53：ヒメベッコウ類似属（sj）、54：カワニナ（mj）、55：カヤツリグサ科（コトイ？）種子、56：イネ有ふ果（未炭化）、57：オオムギ穎果（炭化）、58：コムギ穎果（炭化）、59・60：不明、61・62：哺乳類四肢骨片、63：土器片？、64：円礫、65：角礫　　詳細　sj：小形幼貝（成貝の 1/4 未満）、mj：中形幼貝（成貝の 1/2 ～ 1/4）、lj：大形幼貝（成貝の 1/2 まで）

※ 31 は #2、32 ～ 35 は #9、36・37 は #3、38 は #1、39 ～ 42 は #9、43 は #14、44・45 は #16、46 は #7、47・48 は #8、49 は #12、50 は #2、51 は #18、52・53 は #8、54 は #16、55・56 は #15、57 は #16、58 は #15、59 は #12、60 は #6、61 は #18、62 は #15、64・65 は #1 から検出された資料

図４　水洗選別で得られた資料（４）

表１　出土貝類種名表

種名	生息場所
腹足綱　Gastropoda	
オオタニシ　*Cipangopaludina ussuriensis japonica*	淡水域/止水/池沼
＊カワニナ　*Semisulcospira libertina*	淡水域/止水・流水
＊カワグチツボ　*Iravadia elegantula*	内湾/泥底/潮間帯ー潮下帯
＊ウミゴマツボ　*Stenothyra edogawensis*	内湾/泥底/潮間帯ー潮下帯
オオヘビガイ　*Thylacodes adamsii*	内湾・外海/岩礁/潮間帯
アカニシ　*Rapana venosa*	内湾/砂泥底/潮間帯ー潮下帯
＊ホソオカチョウジガイ　*Allopeas pyrgula*	陸域/開放地生息種
＊オカチョウジガイ　*Allopeas kyotoense*	陸域/林縁生息種
＊ヒメベッコウ　*Discoconulus sinapidium*	陸域/林縁生息種
＊ヒメベッコウ類似属　*Discoconulus?* sp.	陸域/開放地生息種
＊ヒメコハクガイ類似種　*Hawaiia* sp. cf. *minuscula*	陸域/開放地生息種
二枚貝綱　Bivalvia	
サルボオ　*Anadara kagoshimensis*	内湾/砂泥底/潮間帯
アカガイ類（アカガイ／サトウガイ）　*Anadara broughtonii* / *Anadara satowi*	内湾/砂泥底/上部浅海帯・外海/砂底/潮下帯
マガキ　*Magallana gigas*	内湾/潮間帯
ホタテガイ　*Patinopecten yessoensis*	[蝦夷/北海道からの搬入]
ナミマガシワ　*Anomia cytaeum*	内湾/岩礁/潮間帯ー潮下帯
マツカサガイ類（マツカサガイ／ヨコハマシジラ）　*Pronodularia japanensis* / *Inversiunio yokohamensis*	淡水域/止水・流水
シオフキ　*Mactra veneriformis*	内湾/砂泥底/潮間帯
ヤマトシジミ　*Corbicula japonica*	汽水域
アサリ　*Ruditapes philippinarum*	内湾/砂泥底/潮間帯
ハマグリ　*Meretrix lusoria*	内湾/砂泥底/潮間帯
オキシジミ　*Cyclina sinensis*	内湾/泥底/潮間帯

＊微小種（およそ５mm未満）

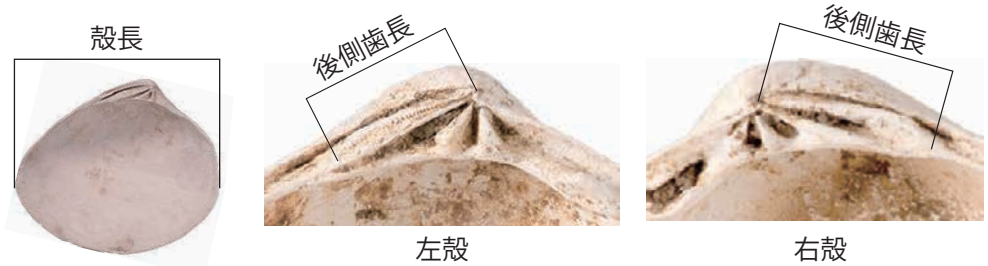


図５　ハマグリ計測部位

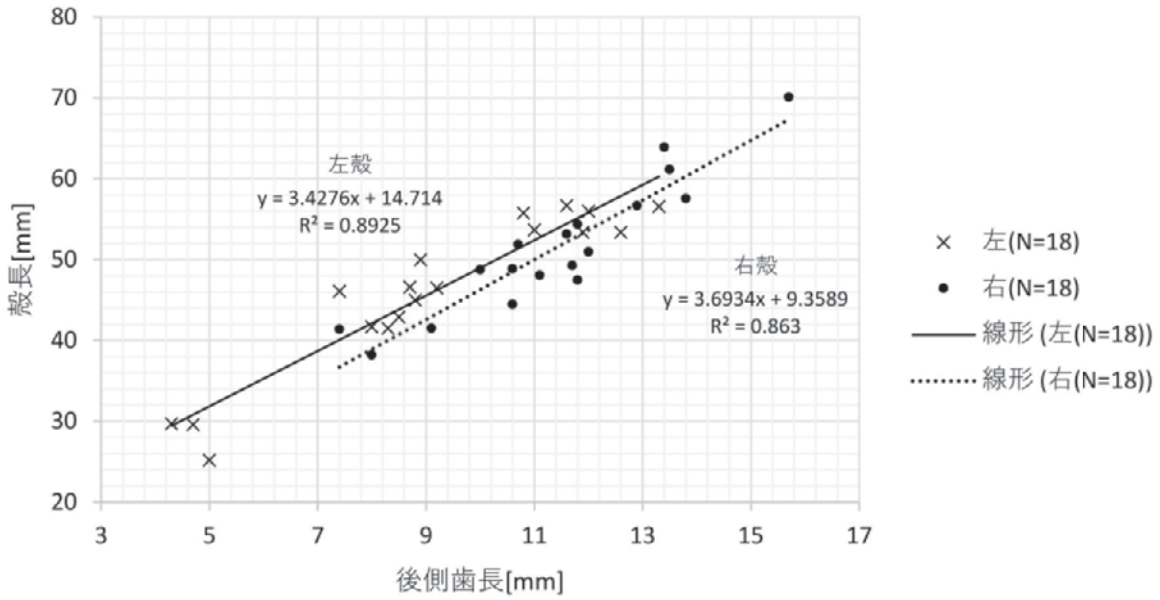


図６　ハマグリの後側歯長と殻長相関図

表２　詳細分析資料　水洗選別結果（9.5mm・4.0mm）

地区	遺構名	推定廃絶時期	遺構詳細	遺構一括 貝類を含む土壌の重量（サンプル外）	#	処理堆積物量	篩の目開き[mm]	ヤマトシジミ（ハはシオフキ含む可能性有）	マガキ	ハマグリ	オキシジミ	シオフキ	アカガイ属	淡水貝	その他の動物遺体	動物遺体以外の内容物
J区	SX34	近世	マウンド状貝堆積。土製品1点以外人工遺物ほとんどなし。	1,075.5kg	1	2700cc 1,714g	9.5	95a, 71u/129a, 71u ;10u,21f	1u/0 ;5f	2a, 13u,3f/3a,12u,1f ;48f		2u/3u				円礫φ30mm 2
							4.0	91u/89u ;1039f	46f	5u/9u ;115f	1f	11u, 6f/8u, 6f		タニシ類4b, ?1f, マツカサガイ類1f		円礫φ15mm 4, φ10mm 6, 角礫φ15mm 5, φ10mm 4, 土塊φ5mm 276
	SX14	中近世	大形円形土坑。古代以前の遺物18点、中近世遺物38点。	23.1kg	2	1500cc 1,004g	9.5	79a, 24u/70a,45u,1f ;48f	1u, 1f/3a	2a, 12u/1a, 4u ;9f	1a, 8u/5a, 4u ;15f	3u/1u			オオヘビガイ1a	
							4.0	19u/15u ;257f	5f	1f/0 ;1f	17f	1f/2f				円礫φ5mm 7
	SX50 （ホタテガイに付着していた土）	近代	広域焼土跡、洋皿、ガラス等が出土。	0.2kg	3	300cc 272g	9.5								ホタテガイ0/2u;4f	
							4.0								ホタテガイ4f	割れた円礫φ10mm 2
	SP309	近世	円形土坑。貝類は上部に堆積。	0.7kg	4	80cc 56g	9.5	10a, 4u/10a, 2u		0/1u						
							4.0	1u/1u ;1u, 16f		2f						
I区	SX42（1層）	近世	斜面に形成されたほぼ円形の貝堆積。陶器9点が出土。 層ごとに取り上げられていた土壌から貝類分析用サンプルを抽出した。	48.3kg	5	300cc 168g	9.5	8a, 4u/8a, 2u ;9f	3f	3u/0 ;12f						
							4.0	5u/3u ;45f	1f	5f						円礫φ5mm 2
	SX42（2層）				6	250cc 183g	9.5	1a/0	2f	1u/0						
							4.0	8f	3f							高師小僧1
	SX42（3層）				7	3,200cc 2,458g	9.5	19a, 4u/12a, 6u ;11f	8a, 3u/3a, 5u ;30f	3a, 14u/5a, 19u ;57f	1u, 1f/1a, 1u, 2f	0/1a, 1u ;1f	アカガイ1f	タニシ類1殻口	ウネナシトマヤ1a/1a	
							4.0	3u/6u ;13u, 36f	91f	0/2u ;168f	3f	1u/0 ;7f		タニシ類7f		円礫φ10mm 7, 土塊φ5mm 8（含高師小僧）
	SX42（4層）				8	3,000cc 1,978g	9.5	1u/3a	16a, 7u/27a, 11u ;52f	7a,45u/5a,52u ;6u,122f	2a/1a, 1u ;4f	2u/2u ;2f	アカガイ？1f		アサリ2u/0	
							4.0	8u, 35f	4u/2u ;191f	5u/1u ;448f	9f	1u/8u		タニシ類1b,1殻口		円礫φ15mm 1,土塊7
	SX45（水洗済？）	中世近	貝堆積。人工遺物4点と獣骨が出土。	2.1kg	9	3,000cc 904g	9.5	83a, 34u/80a, 40u ;10u, 29f	18a, 27u/28a, 24u ;245f	2a, 21u/2a,17u ;69f	1a, 2u/1a ;8f	2u/1u	アカガイ属0/1u	タニシ類5b,3殻口	アカニシ1(体層割れ)	
							4.0	2u/2u ;5u, 71f	7u/0 ;703f	2u/0 ;268f	4f			タニシ類4軸, 3殻口, 148b	ウネナシトマヤ1a/0	円礫φ5mm 4
M区	SX96貝 （1層内ブロック）	中近世	貝堆積。古代以前遺物4点、中近世の遺物14点が出土。 第99図D-D'断面において上から1層、B層、2層の順に堆積している部分から1辺25cmの柱状サンプルを採取し、貝類分析用サンプルとした。1層内ブロックは1層上部に含まれていた粘土質のブロックである。	283.0kg	10	2,000cc 2,014g	9.5	0/1u	0/1a ;19f	2u/1u ;2f						円礫φ10mm 1
							4.0	7u, 10f	3u/0 ;91f	1u/0 ;54f			アカガイ属1f			円礫φ10mm 8, φ5mm 14, 土塊φ5mm 43
	SX96 （1層上半）				11	2,000cc 2,104g	9.5	2u/1u ;2f	1a, 17u/3a, 7u ;85f	12u/13u ;90f			アカガイ属1f			円礫φ25mm 2
							4.0		6u/0 ;597f	5u/8u ;409f	1f		アカガイ属1f			円礫φ10mm 5, φ5mm 37
	SX96 （1層下半）				12	2,000cc 1,734g	9.5	6a, 4u/4a, 13u ;2u, 13f	7u/4u ;54f	5u/4u, 1f ;57f				カワニナ1殻口		円礫φ15mm 4
							4.0	105u, 234f	3u/0 ;313f	5u/3u ;309f		1f	アカガイ属3f			円礫φ15mm 1, 10mm 8, 5mm 50, 土塊φ10mm 4, 土器片？5mm 1
	SX96 （B層）				13	140cc 110g	9.5	1u/1a, 5u	1f	2f						
							4.0	3u/1u ;47f	2f							円礫φ10mm 9
	SX96 （2層上半）				14	2,000cc 1,684g	9.5	9a, 19u/10a, 7u,1f ;3u, 6f	1f/0	2u/1u ;16f						円礫φ25mm 1, φ15mm 4
							4.0	129u, 442f	16f	2u/0 ;40f	1f	2f/2u	アカガイ属1f		アカニシ？1f	円礫φ10mm 16, φ5mm 135, 土塊φ5mm 7（含 高師小僧）
	SX96 （2層下半）				15	2,000cc 1,764g	9.5	3a, 8u/7a, 13u ;9f	3f	2f						円礫φ15mm 6, 土器片？Φ15mm 1
							4.0	84u, 255f	1u/0 ;10f	1u/0 ;13f		0/1u			哺乳類四肢骨片15mm 1	円礫φ10mm 4, 5mm 37, 土塊φ10mm 6（含 高師小僧）, 土器片？Φ20mm 23, φ10mm 30, φ5mm 493
A区	SX3東壁 （B1-2第2面）	近世	表土直下で検出された貝層。土器等22点が出土。	26.1kg	16	2,000cc 1,954g	9.5	57a, 30u,/50a, 22u ;1u, 12f		3u/3u ;18f				マツカサガイ類1a/0		円礫φ40mm 1, φ25mm 2, φ20mm 5、角礫φ30mm 1
							4.0	109u, 594f	10f	3u/3u ;79f	1f	1u/0				円礫φ15mm 13, φ5mm 114, 土塊φ5mm 8（含 高師小僧）
E区	SX15 寝の中の土	近世	寝（江戸丹波）覆土は16,000g	貝類なし	17	2,200cc 2,254g	9.5								※貝類出土なし	礫
							4.0								※貝類出土なし	礫
	SX19	中近世	土坑。土器等8点出土。	8.0kg	18	1,600cc 1,224g	9.5	28a, 33u/37a, 22u,5f ;26f		3a, 20u,/2a, 34u ;55f	1u/1u		サルボオ0/2u			
							4.0	17u/12u ;4u ,158f		3u/6u ;1u, 483f			アカガイ属2f		哺乳類四肢骨片10mm以下2	円礫φ10mm 6, φ5mm 7, 土塊φ5mm 9

a:成貝完形, b:体層, f:破片, u:殻頂, 二枚貝は「左殻/右殻 ;左右不明」の形で表記した。単に「○f」としたものは左右不明の破片を示す。

表３　詳細分析資料　水洗選別結果（2.0mm・1.0mm・LF）

調査区	J区												I区														
遺構名	SX34			SX14			SX50			SP309			SX42												SX45		
付記							ﾎﾀﾃｶﾞｲ殻付着土			ﾋﾟｯﾄ内			1層			2層			3層			4層			中世陶磁器/水洗済み?		
処理堆積物量cc	2700cc			1500cc			300cc			80cc			300cc			250cc			2000cc			3000cc			3000cc		
処理番号	#1			#2			#3			#4			#5			#6			#7			#8			#9		
メッシュサイズ等	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF
食用遺存体（海産）																											
シジミ類																						1u/0					
ハマグリ	1u/0			1u/1u												1u/0			1u/2u			1u/1u					
マガキ																			0/1j			2ju/0					
ナミマガシワ	1f																										
シオフキ	2u/0			1u/1u																							
食用遺存体（淡水産）																											
オオタニシ																									?3u		
タニシ類	2il,2u			1u																		2u					
マツカサガイ類																			1fd								
内湾泥底潮間帯群（非食用微小貝）																											
ウミゴマツボ																				1a							
淡水産種（非食用微小貝等）																											
カワニナ																							?1sjb				
陸産種（非食用微小貝）																											
ホソオカチョウジガイ			2sj																	1sj							1mjb,1sj
ヒメベッコウ類似																				1ljb,1u			1mj,1sj				2mj
ヒメコハクガイ類																							1sj				
オカチョウジガイ																							2mj,4sj				
ヒメベッコウ				1ljb																							
その他																											
骨																?2f											
昆虫												1f/翅															
炭化物>3mm			2			1			2									3			2			8			
根>1mm			1			3			2												3			1			

調査区	M区																		A区			E区					
遺構名	SX96																		SX3東壁			SX15			SX19		
付記	1層内ブロック			1層上半			1層下半			1層下半			2層上半			2層下半			R2・3年度,B1-2第2面			R2・3年度,2面,裏内			R2・3年度,獣骨の横		
処理堆積物量cc	2000cc			2000cc			2000cc			140cc			2000cc			2000cc			2000cc			2200cc			1600cc		
処理番号	#10			#11			#12			#13			#14			#15			#16			#17			#18		
メッシュサイズ等	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF	2.0	1.0	LF
食用遺存体（海産）																											
シジミ類							2u/2u						3u/3u						0/3u						0/1u		
ハマグリ				1u/0			1u/1u			0/1u									6u/3u						1u/0		
マガキ																						?1f	?2f				
食用遺存体（淡水産）																											
タニシ類				1u			1u									1u											
マツカサガイ類				?2fp												2fp											
内湾泥底潮間帯群（非食用微小貝）																											
カワグチツボ			1u																	2mj							
淡水産種（非食用微小貝等）																											
カワニナ								?1sj						2si,1u					1mj		2sj						
陸産種（非食用微小貝）																											
ホソオカチョウジガイ								1lj,1mj						4lj,1mj			2mj										
ヒメベッコウ類似								1sj						1ab			1u										3lj
陸産貝類/不明														1j													
その他																											
バミス/漆喰																							?1f				
オオムギ/頴果（炭化）																				1							
コムギ/頴果（炭化）																	1										
イネ/有ふ果																	1										
不明（図6-64）								?1									?3										
フトイ？(ｶﾔﾂﾘｸﾞｻ科)/種子												1					16										
昆虫														甲虫/翅1f									3f				
炭化物>3mm			3			2		2						6			2			3			17			3	
根>1mm			ca.30			2		3						10			ca.50			5			30			5	

詳細　a：成貝，b：体層，f：破片，j：幼貝（成貝の1/2未満），LF：浮遊部分，lj：大形幼貝（成貝の1/2まで），mj：中形幼貝（成貝の1/2−1/4），p：殻皮残存，sj：小形幼貝（成貝の1/4未満），u：殻頂，二枚貝は左／右。

表４　詳細分析資料　水洗選別結果（2.0mm・1.0mm・LF）

調査区／遺構名	I区：SX42				A区	M区：SX96貝サンプル						J区	I区	E区		J区		
遺構名／層序等	4層	3層	2層	1層	SX3東壁B1-2	1層内ﾌﾞﾛｯｸ	2層下半	2層上半	B層	1層下半	1層上半	SX14獣骨あり	SX45	SX15	SX19	SP309ピット内	SX34	SX50ﾎﾀﾃｶﾞｲ殻
作業番号	#8	#7	#6	#5	#16	#10	#15	#14	#13	#12	#11	#2	#9	#17	#18	#4	#1	#3
食用遺存体の貝種組成	A	B	-	C	C	A?	C	C	B?	C	A	C	B	-	B	C?	C	-
食用遺存体																		
マツカサガイ類：A群		1f					2f				?2f							
オキシジミ：A群												P						
シオフキ：B群												2					2	
ナミマガシワ：B群																	1	
タニシ類（ｵｵﾀﾆｼ含む）										1	1		?3		2		4	
内湾泥底潮間帯群（非食用微小貝）																		
ウミゴマツボ		1																
カワグチツボ					2	1												
淡水産種（非食用微小貝等）																		
カワニナ	?1				3			3		?1								
フトイ？/種子							16		1									
陸産種（非食用微小貝）																		
オカチョウジガイ	6																	
ヒメベッコウ類似属	2	2					1	1		2			2		3			
ヒメコハクガイ類	1																	
ヒメベッコウ												1						
ホソオカチョウジガイ		1					2	5		2			2				2	
陸産貝類/不明								1										
穀類関連																		
イネ							1											
オオムギ					1													
コムギ							1											
不明							?3			1								

表５　現場分析資料　水洗選別結果（5mm）

遺構名	推定廃絶時期	備考	分析対象外貝類を含む土壌の重量	調査区	ヤマトシジミ 左	ヤマトシジミ 右	ヤマトシジミ 左右不明	ハマグリ 左	ハマグリ 右	ハマグリ 左右不明	マガキ 左	マガキ 右	マガキ 左右不明	シオフキ 左	シオフキ 右	オキシジミ 左	オキシジミ 右	オキシジミ 左右不明	マツカサガイ類 左	マツカサガイ類 右	マツカサガイ類 左右不明	その他の動物遺存体	動物遺存体総計	動物遺存体以外の内容物
A区第3面				A区	293	292	210	12	15	3			+	1	1		1			1	75	カワニナ(殻頂1、殻口5)	835	円礫(φ30mm)12、円礫(φ10mm)70、木片12、炭化物68、土器片1、土錘1
SE19 中層	近世	井戸。多遺構と重複。陶磁器や瓦が出土。	0.5kg	I区	1	1		7	2														11	礫なし（肉眼採集のため）
I区貝集積	近世	位置不明だがひとつの貝集中部から採集。人工遺物なし。	21.9kg	I区	237	248	70	1	3					1				+				哺乳類四肢骨片1	561	焼土粒(φ10mm)9、炭化物2
SX38	近世	全容不明。人工遺物なし。	17.1kg	I区	37	28	8	54	65	3	18	27		12	8	5	4		6	2	1		278	円礫(φ10mm)11
SX43	近世	貝堆積。人工遺物なし。	4.8kg	I区	19	21	12	12	6		2	2										哺乳類四肢骨片1	75	円礫(φ3mm)40、土器片1
SX44	近世	貝堆積。人工遺物なし。	9.5kg	I区	144	164	46	5	1		1	2		4	3	5	3					サルボオ(左右不明1)	379	円礫(φ10mm)38
SX46	中近世	貝堆積。磁器3点。	16.5kg	I区	15	11	7	56	48	3	16	27		4	9	4	8		17	7		アサリ(右1)、サルボオ(左1、右2)	236	礫なし
SK100	近世	貝堆積。人工遺物なし。	10.5kg	I区	2	5		23	12		18	24			2	1	8					タニシ類(殻口1)	96	礫なし
SE38 一括	近世	井戸。陶磁器類等20点出土。	1.3kg	M4区	8	9	1	1					+									サルボオ(左1)	20	円礫(φ40mm)1
SX81	中近世	貝堆積。陶磁器類等7点出土。	0.48kg	M2区	32	45	6	2	9	2													96	円礫(φ5mm)10
SX93	中近世	貝堆積。人工遺物なし。	92.7kg	M4区	110	91	18	11	9			3			2	1							245	円礫(φ30mm)5、円礫(φ10mm)27
SX94	中近世	貝堆積。青磁1点出土。	79kg	M4区	18	23	16	15	22		7	13											114	円礫(φ40mm)3、円礫(φ10mm)16
SX97	中近世	貝堆積。金属製品・木製品が4点出土。	96.3kg	M4区	278	239	172	4	6	3	4	1					1					アカガイ属1、ナミマガシワ1（左右不明）、哺乳類四肢骨片3	713	円礫(φ10mm)45、高師小僧8、木片2
SX98	中近世	溝状遺構。土器等が14点出土。	データなし	M4区	115	90	65	27	30		20	13		1		2	1					サルボオ(右1)、カワニナ(軸2)	367	円礫(φ10mm)53、種子1、木片3、土器片1
総計					1309	1267	631	230	228	14	86	112		23	25	18	26		23	10	1	23	4026	

+：破片あり、?：同定に不安あり

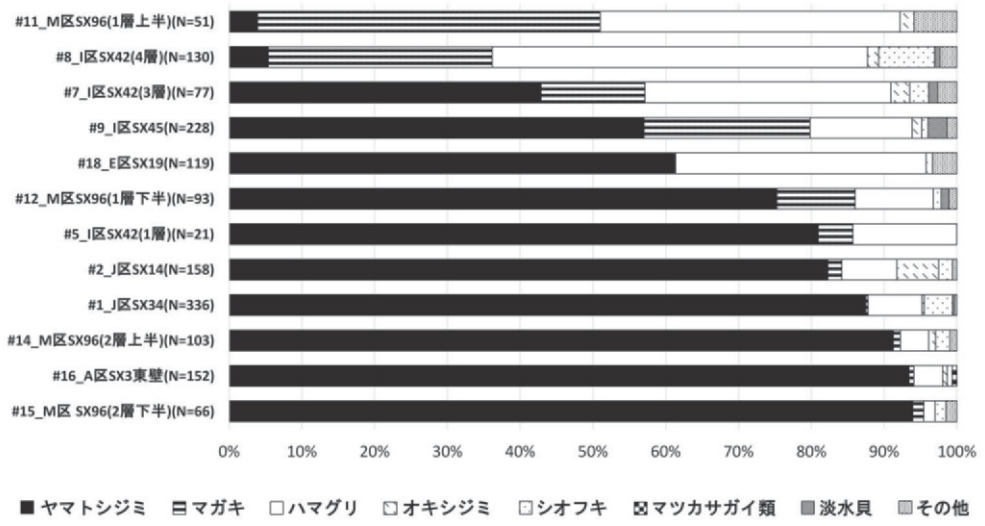


図７　最小個体数による詳細分析資料の貝種組成（9.5mm・4.0mm）

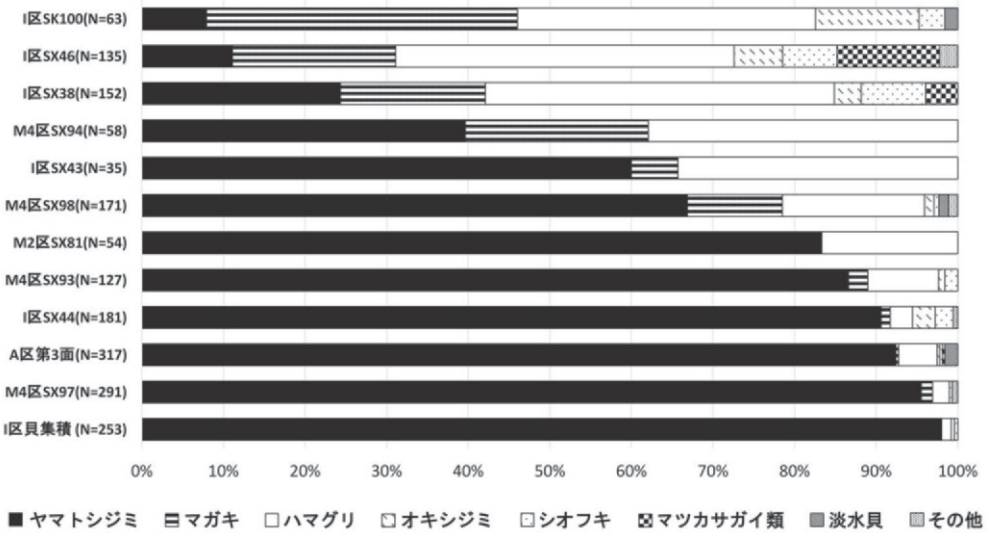


図８　最小個体数による現場分析資料の貝種組成（5mm）

表６　詳細分析資料（9.5mm）ハマグリ殻長計測結果

	#1				#2				#4	#5	#7				#8				#9				#10		#11		#12		#14		#16		#18				推定計	完形計	総計
	完形		推定		完形		推定		推定	推定	完形		推定		完形		推定		完形		推定		推定		推定		推定		推定		推定		完形		推定				
殻長mm	左	右	左	右	左	右	左	右	右	左	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右			
25.0-25.9	1																																		0	1	1
29.0-29.9	1																		1																0	2	2
30.0-30.9																					1														1	0	1
33.0-33.9			2	1													1																		4	0	4
34.0-34.9			1																																1	0	1
35.0-35.9			1	2			1																												4	0	4
36.0-36.9							1						1	1																					3	0	3
37.0-37.9			2				1												1		1				1										6	0	6
38.0-38.9		1	2	1					1								1	1							1								1	2	10	1	11
39.0-39.9			1	1									1				1								1										5	0	5
40.0-40.9							1										1	3																	5	0	5
41.0-41.9		1	1	2							1	1	1	1				1	1		4														10	4	14
42.0-42.9							1								1		1	1			1												2	1	7	1	8
43.0-43.9				1						1							1	1			1						1							1	7	0	7
44.0-44.9																				1	1	1			1								2	3	8	1	9
45.0-45.9							1						1	1			7	3			3	1			1						1		2	2	22	1	23
46.0-46.9											1				1		4	3			3	1									1			1	12	3	15
47.0-47.9												1					3	3			1	3			1								1	4	16	1	17
48.0-48.9			1				1					1				1	1	4			1				1		1		1	1			1	1	5	18	3	21
49.0-49.9					1									2			2	1				1			1								1	1	9	1	10
50.0-50.9			1				1								1		3	3							1								2	2	13	1	14
51.0-51.9				1			1					1				1	2	3																1	8	2	10
52.0-52.9			1	1													4	2				1			1		1						1	2	14	0	14
53.0-53.9					1										1	1	1	3			1	1						1			1				7	4	11
54.0-54.9										1				1				3							1								1	1	2	9	1	10
55.0-55.9								1			1						1										2				1			2	7	1	8
56.0-56.9				1											3			1		1					1	1									4	4	8
57.0-57.9													1			1	1																		2	1	3
58.0-58.9														1											2										1	4	0	4
59.0-59.9													1					1				1				2		1		1					7	0	7
60.0-60.9														1			1	1																	3	0	3
61.0-61.9												1						1																	1	1	2
62.0-62.9								1									1	1																1	4	0	4
63.0-63.9							1									1	1				1														3	1	4
64.0-64.9																					2	1			1										4	0	4
65.0-65.9				1										1																			1		3	0	3
66.0-66.9													3	1									1	1					1	1					8	0	8
67.0-67.9																									1			1							2	0	2
69.0-69.9																						1				1									2	0	2
70.0-70.9		1																																	0	1	1
71.0-71.9														1																					1	0	1
72.0-72.9													1															1							2	0	2
73.0-73.9																																		1	1	0	1
79.0-79.9																					1									1					2	0	2
81.0-81.9																					1														1	0	1
総計	2	3	13	12	1	1	10	2	1	2	3	5	10	11	7	5	38	41	2	2	21	14	1	1	10	10	4	4	2	1	3	2	3	2	15	32	260	36	296

表７　詳細分析資料（9.5mm）ハマグリ後側歯長計測結果

後側歯長	#1		#2		#4	#5	#7		#8		#9		#10		#11		#12		#14		#16		#18		総計
[mm]	左	右	左	右	右	左	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	
4.0-4.9	1										1	1													3
5.0-5.9	4	1							1																6
6.0-6.9	3	3	3				1	1	1	2	1					1							1	1	18
7.0-7.9	4	3	1		1		3	2	2	4	4				1	1								1	27
8.0-8.9		2	2			1	1		6	3	5	1				2		1					6	7	37
9.0-9.9	1	1					1	1	13	11	7	5			2								3	9	54
10.0-10.9	1	2	3				1	3	10	10		2			1	2	1		1	1			5	6	49
11.0-11.9	1		1	1		1		2	4	9	1	2			1		3	1					2	7	36
12.0-12.9		1		1			1	2	4	1		1			3	1						1		1	17
13.0-13.9				1			1	2	2	6		1				2			1		1				17
14.0-14.9		1	1					1	2		3	1			1								1	1	12
15.0-15.9		1					3	1					1	1	1	1		1			1	1			12
16.0-16.9							1	1				1						1							4
17.0-17.9																								1	1
18.0-18.9											1														1
19.0-19.9												1									1				2
総計	15	15	11	3	1	2	13	16	45	46	23	16	1	1	10	10	4	4	2	1	3	2	18	34	296

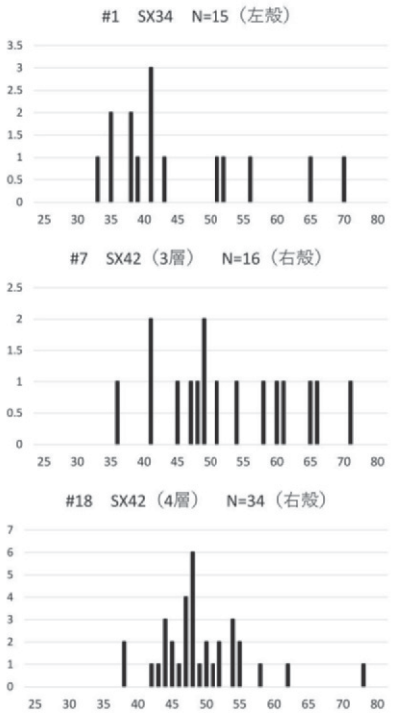


図９　最小個体数（右殻）によるハマグリ推定殻長分布（N=15 以上）横軸：殻長 [mm]、縦軸：個体数

表８　ヤマトシジミ殻長計測結果

#	#1				#2				#4				#5				#6	#7				#8		#9				#10	#11		#12				#14				#15				#16				#18				総計
	完形		推定		完形		推定		完形		推定		完形		推定		完形	完形		推定		完形	推定	完形		推定		推定	推定		完形		推定		完形		推定		完形		推定		完形		推定		完形		推定		
殻長mm	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	左	右	左	右	右	左	左	右	左	右	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	
14.0-14.9	1																																								1								2
15.0-15.9																		1				1																												2
16.0-16.9	1																																								2	2							5
17.0-17.9	3	6																				1		1	1				1														1	1	4						19
18.0-18.9	5	7	2	15		1		3														1		3		1																2	4					2	46
19.0-19.9	11	11	16	1	2	1	3	3					1											4	3						1		3		1							7	3			1		1	74
20.0-20.9	10	16		7	10	4	6	3		1			2	3				1	1		3		1	8	5	1			1							3				2	1	5	2	5	9	5	1	2	6	4	1	129
21.0-21.9	13	22	4	11	8	11	2	4	1	2				1			1	1	2					5	7	2	3									1	1	4	2			3		13	4	1	4	3	4	2	3	145
22.0-22.9	12	17	3	5	7	5	4	3	1	2	1	2		1		1		4	2	2				12	12	4	7	1			2					2			2	1	2	1	6	8	4	8	2	5	4	2	157
23.0-23.9	8	16	17	6	8	4	2	3		1			2		1			2	2					8	9	3	4					1		5		1						6	4	4	3	3	1	3	2	129
24.0-24.9	8	9	7	4	5	3	2	4	2	1								1	2	1				7	8		2				1		3		2	1	3					5	4			2	7	3	2	99
25.0-25.9	6	8	1	6	9	10	3	10	3	1	3			1				2						10	11	2	6		1			1		3		2		2				4	3	4	3	9	2	7	5	138
26.0-26.9	5	6	1	5	8	7	2	5	1					1				1	1					4	6	2	5				2	1		2	1		5		1		2	2	1	1	7	3	4	5	2	2	101
27.0-27.9	2	2		1	11	12		2	1	2			2		3			4	2		2			11	8	7	4									1	1	5	1			1	1	3	1	2		1		5		98
28.0-28.9	2		2		4	6		1						1		1								4	4	1	2												1			1				2	1	2	1	36
29.0-29.9	5	3	11	4	2	5												1						3	2	1										1	1	1	2	1			2			4			49
30.0-30.9	1	2	4		3	1		1					1					1	1	1	1			1	1	1	3				1														1	1	1	27
31.0-31.9									1															1	2	2	2																						8
32.0-32.9	2	1	3																						1		1																1		1					10
33.0-33.9		1			1																			1																									3
34.0-34.9																										1	1																							2
35.0-35.9		1			1			1																		1																				1				5
総計	95	128	71	65	79	70	24	43	10	10	4	2	8	8	4	2	1	19	13	4	6	3	1	83	80	29	40	1	2	1	6	4	3	13	9	10	18	7	7	3	13	8	57	50	28	22	28	37	33	22	1284

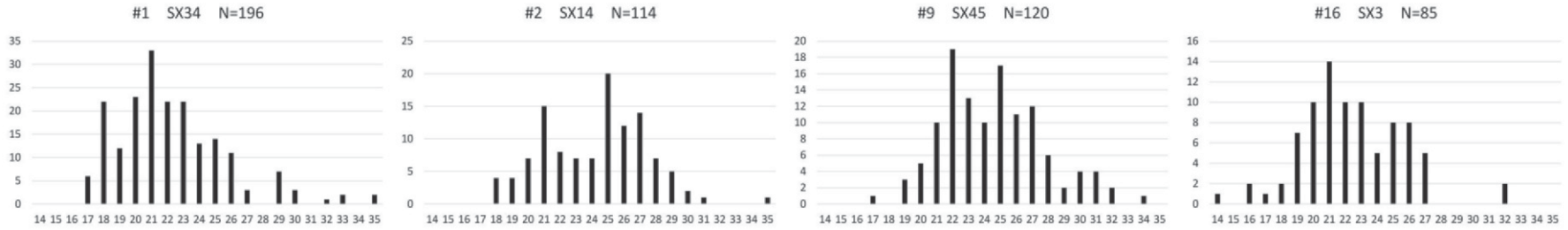


図 10　ヤマトシジミの殻長計測結果　横軸：殻長 [mm]、縦軸：個体数

3　港区圓福寺跡遺跡から出土した木材の樹種

鈴木伸哉（昭和女子大学准教授）

はじめに

港区圓福寺跡遺跡 M 区の調査において、縄文時代晩期のものに比定される木材（SX101）が出土した。ここではこの樹種を同定した結果を報告する。

資料と方法

樹種同定は木材切片のプレパラート観察によりおこなった。出土資料から、片刃カミソリによって木材の横断面・接線断面・放射断面の切片を採取し、これをガムクロラールで封入して同定用プレパラートとした。プレパラートには ATAGO1 の番号を付した。

結果

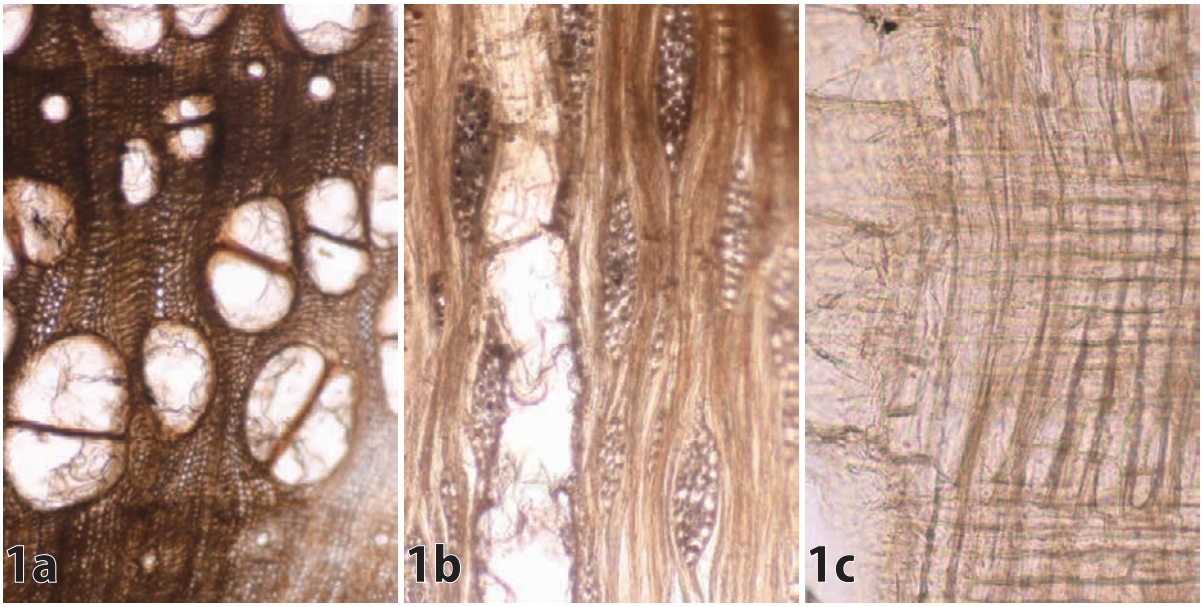
木材はトネリコ属シオジ節に同定された。以下に同定の根拠となった木材の解剖学的記載と木材組織の顕微鏡写真を示す。

トネリコ属シオジ節 Fraxinus sect. Fraxinaster　モクセイ科（写真 : ATAGO1）

大型で丸い厚壁の道管が年輪のはじめに 1 ～ 2 列ほど密に並んで孔圏をなし、晩材では小型で厚壁の道管が単独あるいは放射方向に 2 ～ 3 個複合してまばらに散在する環孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は同性で 1 ～ 4 細胞幅。

考察

シオジ節にはシオジ F. spaethiana Lingelsh. や F. mandshurica Rupr. が含まれる。いずれも落葉高木で、沢沿いや湿地のまわりなどの湿潤地に多く分布する。樹幹はまっすぐに伸び、断面も円形に近い。



港区圓福寺跡遺跡 M 区から出土した木材の顕微鏡写真

1: トネリコ属シオジ節（写真 : ATAGO1）. a: 横断面 × 40, b: 接線断面 × 100, c: 放射断面 × 200.

Ⅵ　調査の成果と課題

今回の港区圓福寺跡遺跡の発掘調査の結果、縄文時代から近代にかけての多数の遺構・遺物が検出され、当遺跡及びその周辺地域の土地利用が近世はもとより、それ以前から盛んになされていたことが明らかとなった。このことは、かつて海が近隣に存在したという地勢的な特徴もその背景にあると考えられる。検出された遺構の中には、海が近場に存在したことに起因する特色を有するものも認められるため、今回の発掘調査の成果と課題についてはその点も併せて評価・検討する必要がある。以下、時代ごとの要点を記す。

１　縄文時代～古代について

縄文時代の遺構としては大形木材出土遺構、土坑、遺物集中地点等が検出された。遺物は、縄文時代早期から晩期までの土器が出土した。早期後半の条痕文系土器、早期末葉の海綿骨針の混入した土器、前期前半の繊維が混入された土器（遺構からも出土）、後半の平行沈線文を用いた土器、中期前半の阿玉台式、後半の加曽利Ｅ式土器、後期については堀之内式土器、加曽利Ｂ式土器、晩期については安行３式土器等が確認されている。比較的後期・晩期の土器が多いことは、本遺跡の特徴ということができよう。特に晩期の安行式土器では大形木材出土遺構（M区 SX101）に伴う可能性の高い土器も１点あり、港区の晩期資料に新たな資料が追加できたものと考えられる。縄文時代と弥生土器も含め約 1,350 点の土器が出土しているが、小片が多く、摩滅が著しく文様が読み取れない土器が多いという特徴を持っている。

遺存状態の良い弥生土器が、土坑から出土した（J 区 SK127）。江戸時代の瓦溜りに切られており、破片数は少なかったが復元した。結果、弥生時代中期後葉、宮ノ台式土器に類似した形態となった。宮ノ台式土器は東海地方の土器の影響を強く受けた土器群で、今から約２千年前、東海地方から伝わった稲作農耕文化が定着した時期に使用されたと考えられている。出土した土器の甕形土器は薄く、折返し口縁端部に刺突を巡らせており、特殊性が高い。これが時期的な相違によるものか、地域的な相違によるものかのかは不明である。中期の櫛描文系土器や後期の土器も出土しており、赤彩や羽状縄文、波状沈線文等が多用されている。また宮ノ台式より古い可能性のある土器も出土しており、縄文晩期との関連性については今後の課題としたい。

古墳時代から古代の遺構としては、南北方向に走る幅広の溝（SD16、SD13、SD10）をシルト層面で検出できたことも成果として挙げられよう。この溝は全体で長さ約 33 m、最大幅 3.2 mが確認され、覆土からは古墳時代～古代の土師器・須恵器等が出土している。また、E 区検出の SD ９等 からは古墳時代前期の S 字状口縁を持つ台付甕破片や武蔵型土師器甕が出土している。B 区 SD ２、C・E 区 SD4 からは弥生土器が主体的に出土した。また古墳時代～古代の遺構の分布域からは管状土錘が約 40 点、軽石約 10 点が出土している。これらは海との関わりを示す遺物であり、当遺跡を取り巻く自然環境、歴史的環境を考察する上で重要である。

２　中世について

中世の遺構については、その検出面が近世初頭とほぼ同レベルで、さらに近世以降の遺構や撹乱により激しく切られている場合が多いため、検出の際、厳密に近世の遺構と分別することは難しかった。

しかしながら、SX14（土坑）、SX22（土坑）、SX30（礫集中）、SK93（土坑）等、その規模・形状等に特殊性が認められ、検出レベル、共伴遺物等も含めて観ると、江戸時代の遺構とは一線を画すのではないかと推察される遺構も多く検出されている。J区のSX14は深い円形を呈する土坑であるが、江戸時代の井戸とは壁の状態が大きく異なっていた。覆土からは、南伊勢系羽釜、貝とウマ、人骨が出土している。J区のSK93は楕円形を呈する土坑で、南伊勢系羽釜とウシあるいはウマの骨が出土しており、14・15世紀に廃棄された可能性が高い。この南伊勢系羽釜と貝との組み合わせは、I区のSX45とも共通している。また、骨は出土していないが、E区のSX22は長径3.94 mの楕円形の土坑で、明確で堅牢な掘り込みがあり、南伊勢系羽釜と大形の石器が出土している。板碑の出土したG区のS X30も円礫主体の敷石状の遺構で特殊性が認められる。J区のSX35は覆土最上層から板碑と石製品が出土した土坑で、中世に廃棄された遺構と考えられる。M区のSX94は貝堆積遺構で、中国龍泉窯系の双魚文青磁鉢が出土している。この他、特筆すべき中世の遺物が出土した遺構としては、F区のSP183（瓦溜り）があり、中国の青白磁梅瓶の破片と考えられる磁器が出土している。また調査区からはモモと思われる種子が出土しているが、弥生時代～近世17世紀代と考えられる遺構から出土する場合が多かった。中世では貝堆積遺構であるM区のSX96からは3点、遺物集中地点であるM区のSX100からは8点出土している。

以上、本遺跡における中世の遺構の存在は明らかであり、このことから、古代から中世の段階において、既に近世圓福寺が建立される下地が出来上がっていたことが窺われる。ただ、中世の遺構の分布は調査地の中央付近にやや偏在しており、土地利用の範囲については検討を要すると思われる。

3　近世以降について

近世以降については、当初の想定に違わず、多数の遺構・遺物が検出された。近世から近代初頭の遺構・遺物については、概ね、当時、愛宕神社の別当寺であった圓福寺に関連するものが多いと考えられる。検出された遺構の帰属年代については、今後、分布・配置状況、重複関係、共伴遺物等の情報、さらに文献史料、絵図史料等の情報も踏まえた検討が必要であるが、今回は現時点で想定したおおよその時代ごとに発掘調査成果の要点と今後の課題を指摘したい。

ⅰ　17世紀代初頭から中葉

この時期の主な遺構としては溝、井戸、土坑等がある。溝ではSD11 、SD21、SD31があるが、いずれも検出時の長さは短く、遺存度は低い。井戸ではSE9、SE10、SE19、SE21、SE25、SE26、SE30、SE31があり、他の時期と比較して、この時期の井戸の出現頻度は高い。この時期に限らず、本遺跡では井戸が多出している。出土遺物から考えると17世紀に廃棄されたものから19世紀中葉以降に廃棄されたものまで様々であるが、海が近いため、真水を得る必要があり、井戸が多く作られたのではないかと推定される。井戸は素掘りあるいは掘り方はあっても桶を持たないものが多く、覆土に貝が含まれている場合が多い。また、溶結凝灰岩が上面、あるいは横に配置されている井戸も複数存在した。なお、SE25からは土器皿数枚が置かれたような状況で出土しており、井戸を埋める際の祭祀に関わる可能性があることを指摘しておきたい。同様の井戸最上部からの土器皿の出土はSE43でも確認されているが、これについては後述する。土坑ではSK7（木材廃棄）、SK50 、SK64、SK94が挙げられる。SM1（大型土坑）は長径2.88 mを測る方形を呈し、板材が壁の一部に使われていた。磁器は1点のみで、陶器、土器、木製品、銭貨、種子などの遺物が多量に出土した遺構である。

この時期の遺構からは瀬戸・美濃の皿、中国製の皿、折縁の鉢、瀬戸・美濃陶器香炉・花瓶、肥前鉄絵鉢、在地の土器皿、丹波擂鉢、「三名戸久兵衛」焼塩壺が出土している。この時期の遺構の分布は、調査区中央部から特に南東側にかけての範囲に目立つ傾向にあると言えよう。

ⅱ　17 世紀中葉から後葉

この時期の主な遺構としては SE17（井戸）、SX17（池）、SX31・SX39（瓦溜り）、SX32（地鎮遺構）、SX73（焼土跡）等が挙げられる。SE17 は桶を持つ井戸で、SX17 は池（SX16）の古段階の可能性が高い。SX73 は長径 9.5m、短径 5.6m に拡がる焼土跡である。明暦の大火（1657 年）に伴う焼土の可能性がある。この焼土跡の直下に SB2 が検出されているため、この建物は 17 世紀中葉から後葉まで存在し、この火事で焼失した可能性がある。SX32 は地鎮遺構である。遺存状態が良く、当時の地鎮に関わる祭礼の形態が判る良好な遺構である。先ず、中央に賢瓶と 1 連（20 枚）の土器皿が、その下には宝輪と独鈷を組み合わせた法具が配置されていた。また、土器皿上には、陰陽五行説に基づいた五色玉が配置されていた。検出地点は調査区中央で、特定の掘立柱建物跡や礎石建物跡の端や隅に位置している様相も窺われないので、圓福寺跡全体に関わる地鎮と考える方が妥当かもしれない。一つの考えとして大火の後のお寺の再興としての地鎮祭を考えられないだろうか。但し、SX32 の土器皿の位置付けは 17 世紀後半以降まで下る可能性もあり、その場合、大火との関係性では想定し辛い。今後、SX32 に関わる地鎮祭の要因については、文献史料、絵図史料等からの情報も踏まえ検討する必要がある。

ⅲ　17 世紀後葉から 18 世紀初頭

この時期に限定できる遺構は他の時期に比較して少ないようである。主な遺構としては、SE33（井戸）、SX21（大形土坑）が挙げられる。

ⅳ　18 世紀前葉から中葉

前時代に引き続き、この時期に限定できる遺構の数は少なく、主な遺構としては、SE 2（井戸）、SE32（井戸）、SS4（礎石）が挙げられる。SE2 は方形の掘り方内に円形の桶が検出されている。

ⅴ　18 世紀後葉から末葉

この時期の主な遺構としては、SK17（土坑）、SK47（土坑）、SK60（木材廃棄遺構）、SM2（大形土坑）が挙げられる。遺構の分布は、調査区中央及び東側が顕著になる時期である。B 区の SK17 及び E 区の SK47 は楕円形の土坑で、陶磁器が出土しているが、陶器の比率が高く、共通する。F 区の SK60 も同様に陶器の比率が高く、加えて多量の木材と瓦の廃棄が行われている。K 区の SM2 は陶器の数量が多いのは多遺構と同様であるが、磁器の数量も多い。前時代に比較して、全体的に廃棄された遺物の数量が多く、生活物資が豊富になってきた様相が窺える。

ⅵ　19 世紀前葉

この時期の主な遺構としては、SD12（溝）、SE4（井戸）、SE34（井戸）が挙げられる。H 区の SD12 は調査区南西端に位置する屈曲する溝である。A 区の SE4 は桶を持ち、砂層下に木樋が伸びていた井戸である。M 区の SE34 も桶と底板を持ち、砂層下にピット状の落ち込みが伸びており、SE4 と類似する。この時期の遺構の分布は調査区の外縁部に多いという傾向が認められた。また伴出遺物からは判断できなかったが、調査区北西端部の SB8（護摩堂礎石）もこの時期以前に構築された可能性が高いものと考えられる。

vii　19 世紀中葉以降

この時期の主な遺構としては、SE1（井戸）、SK1（胞衣皿埋納遺構）、SK68（木材廃棄遺構）、SX23（木組遺構）、SX140（地鎮遺構）が挙げられる。この時期の遺構は、江戸時代に使用されていたものが明治時代になって廃絶したものの他、明治時代以降に構築・廃棄されたものも存在する。

A 区の SE1 は素掘りで、覆土下層に多量の瓦が充填されていた。B 区の SK1 は胞衣皿埋納遺構で、胞衣皿（上下）と徳利２点の埋納された遺構である。徳利の形態から明治時代以降の所産と考えられる。H 区の SK68 は陶磁器・土器若干とともに木材が多量に出土している。H 区の SX23 は芥溜まりで、19 世紀初頭に廃棄されたと考えられる SD12 の上に構築されていた。SX140 は小甕埋納による地鎮遺構で、小甕の中からは「五重塔」のミニチュア、銅製の棒、金糸、墨書紙片等が出土した。甕の形態から、埋納の時期は明らかに近代以降であり、その明確な目的は不明であるが、埋納された場所が圓福寺の護摩堂と推定される礎石の配置された布堀の中であることから、やはり護摩堂あるいは寺そのものの「寺じまい」に関わる遺構ではないかとの推定もできる。

viii　近世土器皿の出土状態について

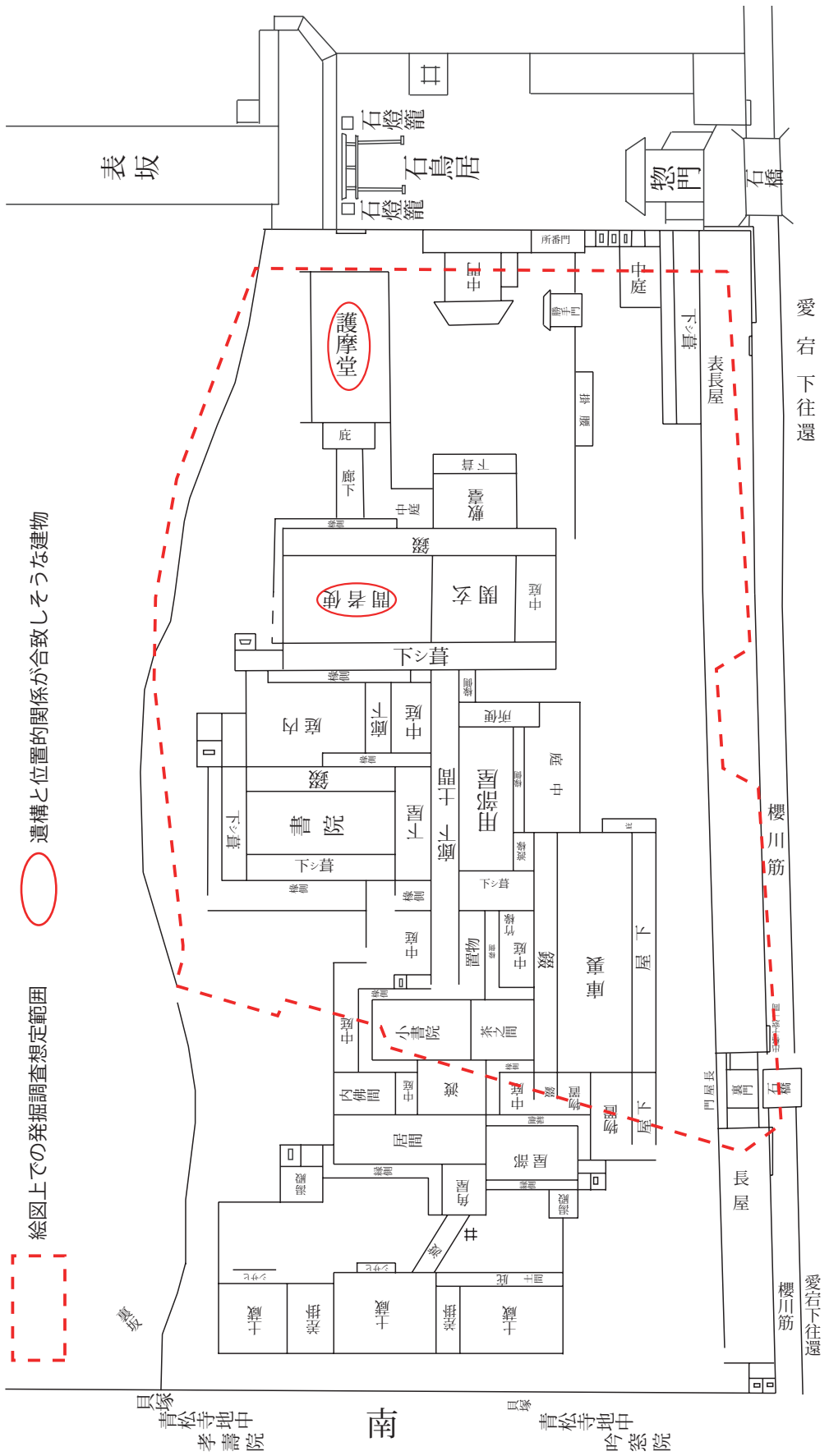
本遺跡の出土遺物については土器皿が目立つことが特徴の一つである。土器皿は前述した SX32 地鎮遺構でも一連（20 枚）が出土しているが、他の遺構でも祭祀に関わる出土状態が想定される場合がいくつか認められた。井戸の上で土器皿がまとまって出土した状態は 2 例認められた。I 区の SE25 の上には土器皿と焼塩壺が置かれたような状況で出土した。先述した通り、これは 17 世紀代の廃棄と考えられる。N 区の SX152 は SE43（井戸）の上で検出された土器皿群で、土器皿は 11 枚出土している。18 世紀中頃の廃棄であろうか。SX139 は 1 連のかわらけが横倒しで検出されたもので、やはり 18 世紀の中頃の廃棄と考えられる。周辺には多量の木材廃棄があり、これと関連する可能性もある。SX126 は瓦溜りで、極めて多量の瓦が埋められていた。その瓦の下で土器皿がまとまって出土している。この土器皿に関しても 18 世紀中頃の廃棄と考えられ、多量の瓦を捨てる前に、土器皿を置いた可能性があるのではないかと考えている。

ix　圓福寺の建物配置と検出遺構との関連について

『愛宕下寺社書上』（国立国会図書館所蔵）の圓福寺の明細書（文政 10 年〈1827〉）によれば、愛宕権現社は徳川家康により、慶長８年（1603）に創建されるが、同時に同社の別当寺として圓福寺も創建されている。愛宕権現社も圓福寺も創建当初は仮設建物であったが、２代将軍秀忠の時代、慶長 15 年（1610）には全て完成し、以降、歴代の将軍が崇敬し、火災により類焼した場合は再興、修復がされてきたとされる。

今回の圓福寺跡遺跡の発掘調査によって検出された遺構の内、近世以降の圓福寺に関わる遺構が多いことは、前述したとおりであるが、それらの遺構の上部にかつて存在した建物の性格や構造・規模については、今後、文献史料、絵図史料等の情報を活用し、検討する必要がある。

『愛宕下寺社書上』には、圓福寺境内の面積は六千八百五坪余りで、寺が所有する宝物や境内内の建造物の名称が記載されている。一方、圓福寺の境内内の建物配置については、天保 13 年（1842）から明治８年（1975）までに編纂されたとされる『諸宗作事図帳』中の「新義真言宗圓福寺」の境内を描いた絵図が参考になる。今回、同図から建物部分を写し、調査範囲及び検出された遺構との照合を行ったところ、N 区で検出された西礎石列と南礎石列（Ⅳ - 第 51 図）が「護摩堂」の西・南辺



付図　圓福寺境内の建物配置図と発掘調査範囲（推定）

＊建物配置図は「諸宗作事図帳［115］百七十四（新義真言宗）」（国立国会図書館デジタルコレクション）中の圓福寺の境内絵図面からトレースし、境内の建物名称・部屋名及び周囲の寺院名、往還名、地名を引用。

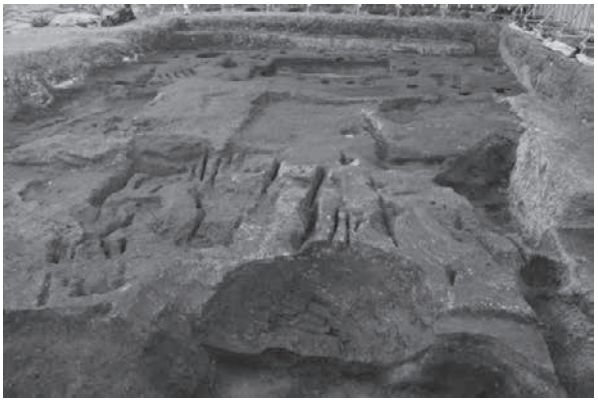
にほぼ合致し、C 区及び E 区西側で検出された SB5 礎石建物跡（Ⅳ - 第 46 図）も明確ではないが、「使者間」付近に相当することが判った（付図参照）。

今回検出された近世以降の遺構については、『諸宗作事図帳』中の圓福寺の境内絵図との照合を行うことにより、合致する遺構としない遺構を区分し、さらに遺構間の時期差も踏まえた上で、時期的な変遷過程を追うことが今後の課題となるであろう。（内野・金持）

参考文献

愛知県　2007 『愛知県史 別編 窯業 2 中世・近世 瀬戸系』
江戸遺跡研究会編　2001 『図説 江戸考古学研究事典 』柏書房
江戸陶磁土器研究グループ　1996 『シンポジウム江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ　発表要旨資料集』
大阪府埋蔵文化財センター　2002 『摂河泉　発掘調査精選Ⅱ』
小川　望　2008 『焼塩壺と近世の考古学』同成社
大成エンジニアリング株式会社他　2017 『愛宕下武家屋敷群』
大成エンジニアリング株式会社他　2018 『神谷町町屋遺跡』
大成エンジニアリング株式会社他　2022 『愛宕下武家屋敷群 陸奥一関藩田村家屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
大成エンジニアリング株式会社他　2022 『越後長岡藩牧野家屋敷跡第 4 遺跡発掘調査報告書』
金子　智　1993 「近世瓦の基本分類－江戸遺跡出土品を中心に－」『文学研究科紀要別冊第 20 号』早稲田大学大学院文学研究科
金子　智　1994 「尾張藩麹町邸跡出土瓦の検討－軒平･軒桟瓦当文様の変遷を中心として－」『尾張藩麹町邸跡』新日本製鐵・紀尾井町 6-18 遺跡調査会
株式会社パスコ他　2012 『陸奥八戸藩南部家屋敷跡遺跡 陸奥八戸藩南部家屋敷跡下層遺跡発掘調査報告書』
株式会社パスコ他　2019 『愛宕下武家屋敷群 － 鎧小路南地区遺跡』
九州近世陶磁学会　2000 『九州陶磁の編年』
近世貿易陶磁器調査・研究グループ　2013 『近世都市江戸の貿易陶磁器調査・研究報告書』
近世貿易陶磁器調査・研究グループ　2013 『近世都市江戸の貿易陶磁器調査　資料集（1）』
慶応義塾大学文学部民族学考古学研究室他　2021 『三田二丁目町屋跡遺跡』
瀬戸市史編纂委員会　1993 『瀬戸市史　陶磁史篇五』
瀬戸市史編纂委員会　1998 『瀬戸市史　陶磁史篇六』
高橋　健　2024 『南関東・弥生時代のムラの姿　大塚・歳勝土遺跡』（シリーズ「遺跡を学ぶ」166）新泉社
谷川章雄　2005 『近世火葬墓の考古学的研究』六一書房
中央区教育委員会　2023 『日本橋兜町遺跡』
徳山暉純　1976 『梵字手帖』木耳社
東京大学埋蔵文化財調査室　1999 『東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（1）1997 年度』東京大学構内遺跡調査研究年報 2 別冊
東京都埋蔵文化財センター　2005 『萩藩毛利家屋敷跡遺跡』（調査報告第 162 集）
東北新幹線赤羽地区遺跡調査会他　1992 『赤羽台遺跡』
町田都市計画道路 2・1・5 号線用地内遺跡調査会　2010 『東京都町田市田端東遺跡』
港区　2020 『図説 港区の歴史』
港区　2021 『港区史 第 1 巻 通史編 原始・古代・中世』
港区　2021 『港区史 第 2 巻 通史編 近世 上』
港区伊皿子貝塚遺跡調査会他　1981 『伊皿子貝塚遺跡』
港区教育委員会・港区遺跡調査事務局他　1997 『雁木坂上遺跡発掘調査報告書』
港区教育委員会・盤古堂　2006 『上行寺跡・上行寺門前町屋跡遺跡発掘調査報告書』
港区教育委員会・株式会社四門他　2024 『増上寺子院群―天陽院跡遺跡発掘調査報告書』
村瀬勝樹　1998 「地鎮・鎮壇の考古学的研究」『奈良大学大学院研究年報（3）』
『愛宕下寺社書上』（国立国会図書館デジタルコレクション）

図版1



1. A区 第2面全景（東から）



2. B区 全景（東から）



3. C区 全景（東から）



4. D区 全景（南東から）



5. E区 全景（南から）

図版 2



1. F区 全景（北から）



2. G区 全景 （東から）



3. H区 北半部全景（北から）



4. H区 南半部 SX26・SD12 全景（東から）



5. I区・J区 全景 （北から）



6. I区 SD16・SD17 完掘（南から）



7. I区 南端部全景（東から）

図版3


1. I区・J区 全景（東から）


2. J区 第2面 全景（東から）


3. J区 北西端部全景（北から）


4. J区 東半部全景（東から）


5. K区 全景（北から）


6. L区 全景（西から）


7. M区 南西部 全景（北から）


8. M区 北端部江戸以前全景（北東から）

図版4



1. N区 全景 （南から）



2. N区 全景（東から）

図版5



1. A区 北壁土層断面（南から）



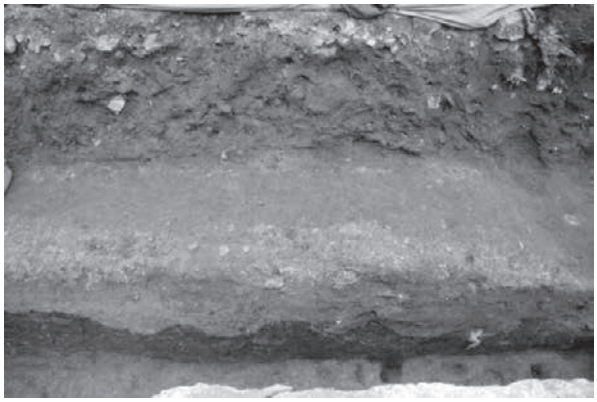
2. E区 北壁土層断面（南から）



3. I区 東壁土層断面（西から）



4. K区 北壁土層断面（南から）



5. M区 東壁土層断面（西から）

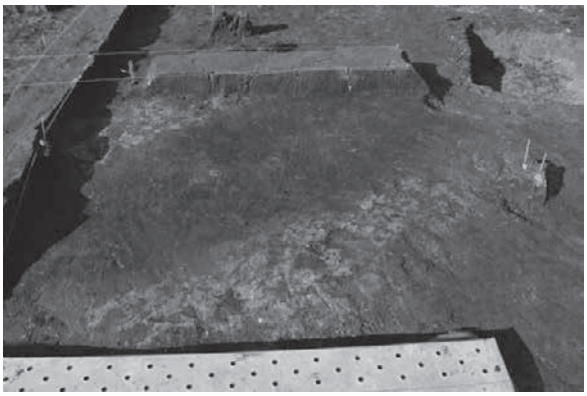


6. N区 西壁土層断面（東から）

図版6



1. M区 SX101 木材検出状態（南東から）



2. M区 SX101 検出状態（南から）



3. M区 SX101 調査状況（北東から）

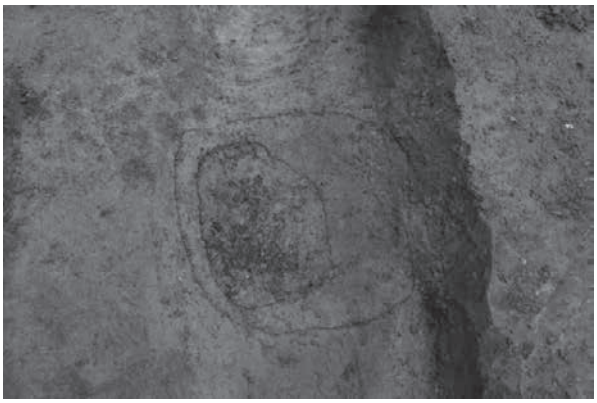


4. M区 SX101 土層断面（北西から）



5. M区 SX101 覆土上層縄文土器出土状態（北東から）

図版7



1. J区 SX67 検出状態（南から）



2. C区 SK28 土層断面（東から）



3. C区 SK28 遺物出土状態（南から）



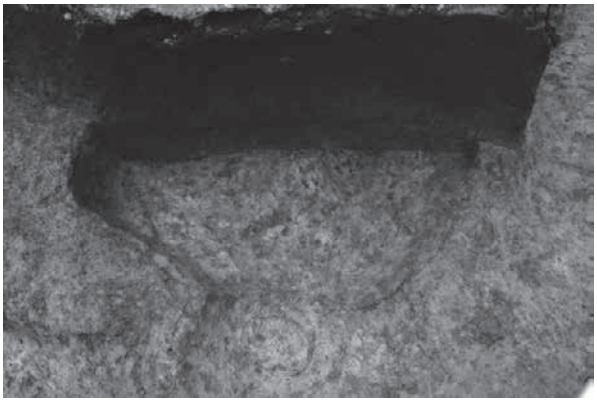
4. C区 SK28 完掘（南から）



5. D区 SK32 土層断面（南から）



6. D区 SK32 完掘（南から）



7. I区 SK106 土層断面（南から）



8. J区 SK119 完掘（南から）

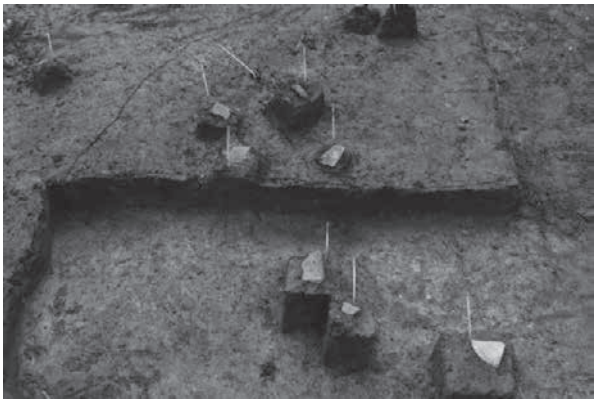
図版8



1. J区 SK109・SP380 土層断面（南西から）



2. J区 SK109 完掘（北から）



3. J区 SK120 遺物出土状態（南から）



4. J区 SK120 完掘（北から）



5. J区 SK128 土層断面（東から）



6. J区 SK128 土器出土状態（東から）

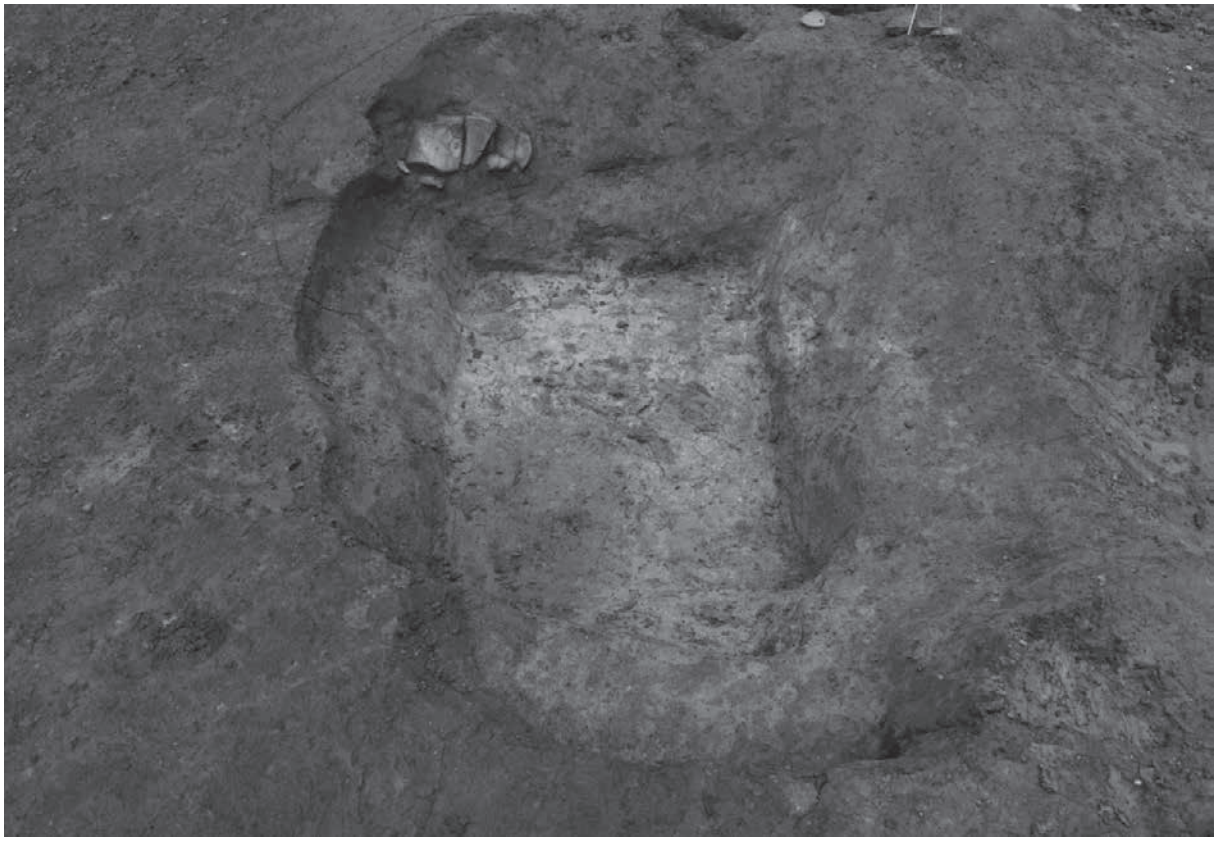


7. J区 SX65 調査状況（南から）

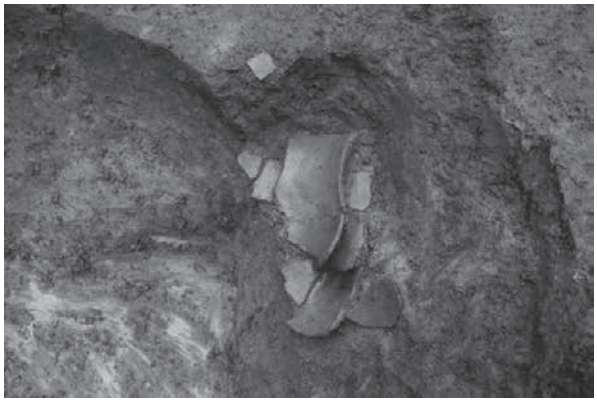


8. J区 SK120・SX65・SK109 全景（北から）

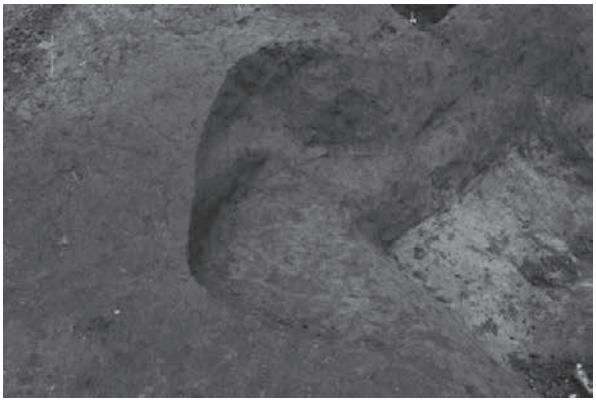
図版 9



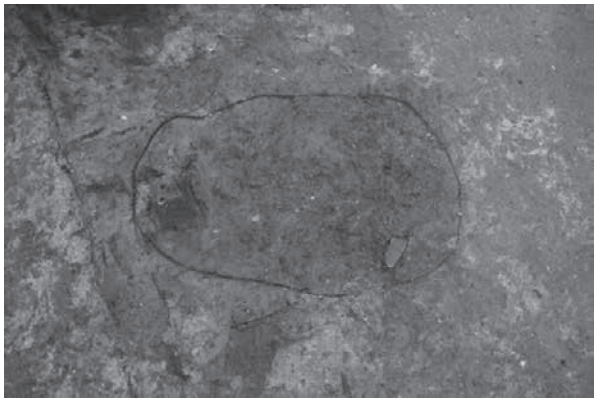
1. J区 SX69・SK127 全景（北から）



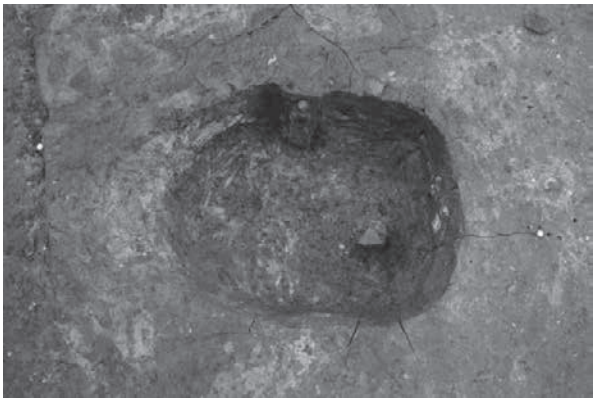
2. J区 SK127 弥生土器出土状態（北西から）



3. J区 SK127 完掘（東から）

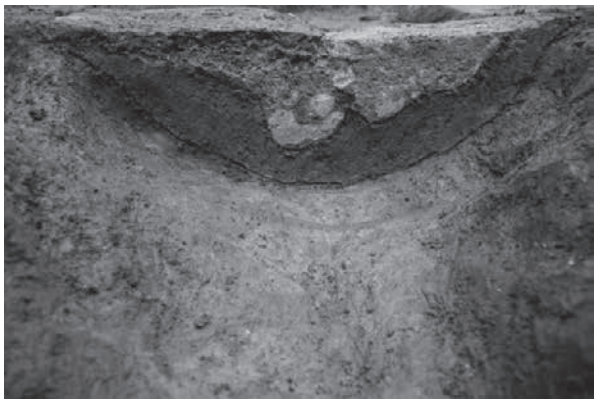


4. M区 SK136 遺構検出状態（東から）



5. M区 SK136 遺物出土状態（東から）

図版10



1. C区 SD4 土層断面（南東から）



2. C区 SD4 全景（南から）



3. E区 SD4 全景（西から）



4. E区 SD9 土層断面（南から）



5. G区 SD9・SD13 遺物出土状態（南から）

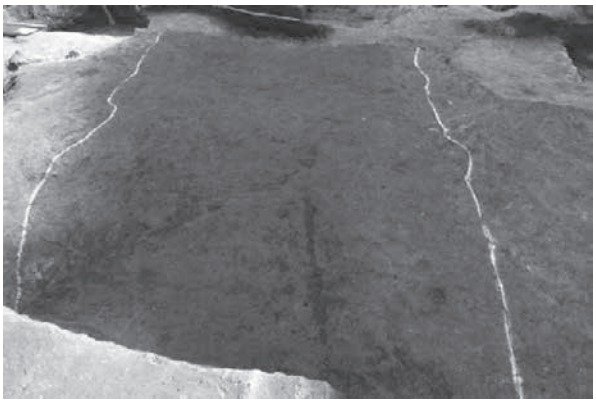


6. G区 SD13 検出状態（南西から）

図版11



1. E区 SD10 遺物出土状態（南から）



2. I区 SD16 検出状態（北から）

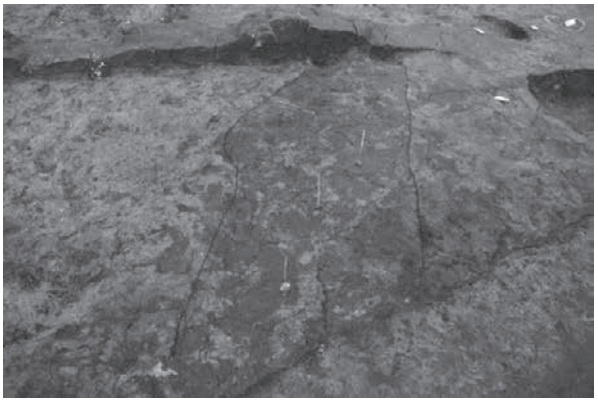


3. J区 SD16 全景（北から）

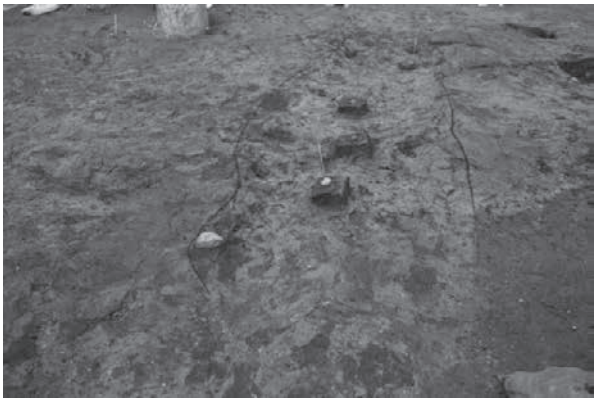


4. I区・J区 SD16・SD17 全景（南から）

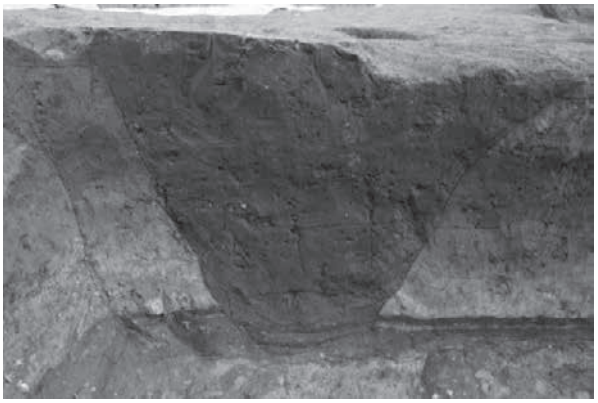
図版 12



1. M区 SD35 検出状態（南から）



2. M区 SD35 遺物検出状態（北から）



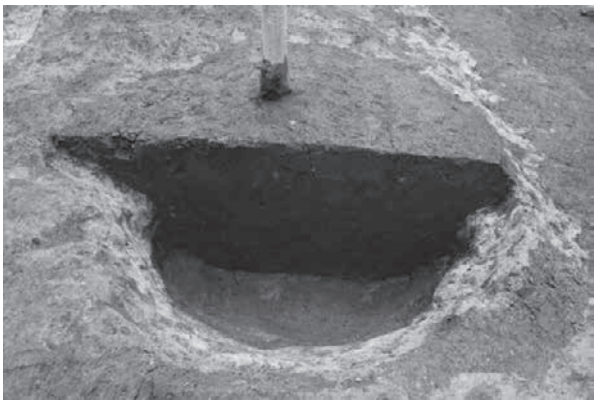
3. A区 SK4 土層断面（西から）



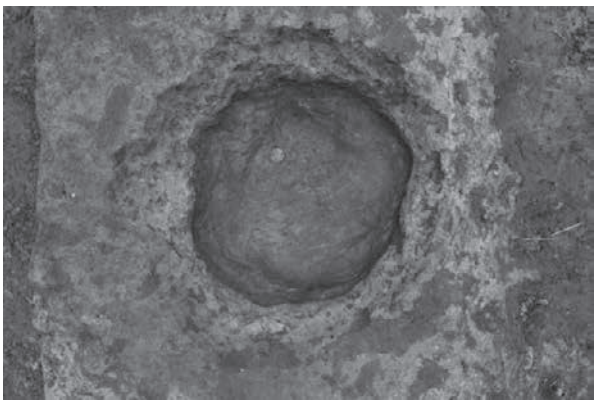
4. A区 SK4 完掘（西から）



5. A区 SK5 完掘（西から）



6. G区 SK82 土層断面（南から）



7. G区 SK82 完掘（南から）

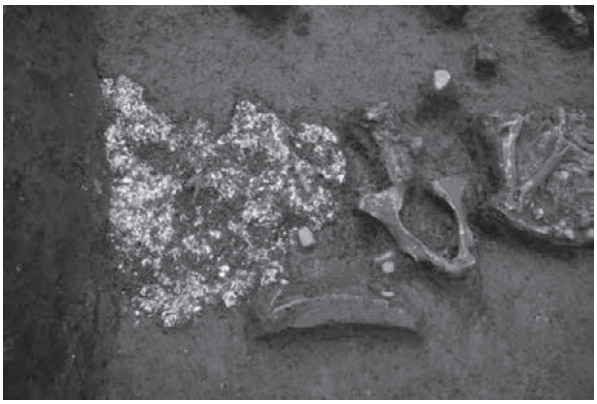


8. M区 SX90 検出状態（北西から）

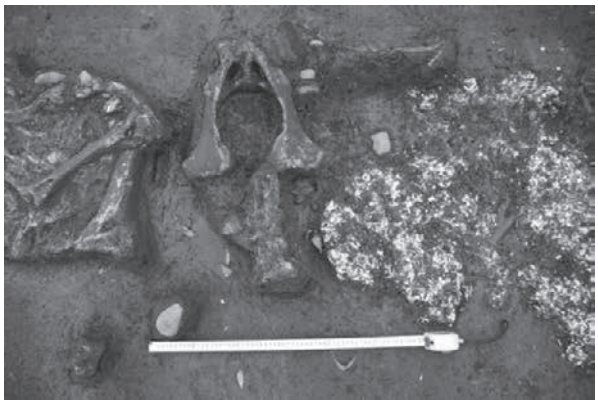
図版13



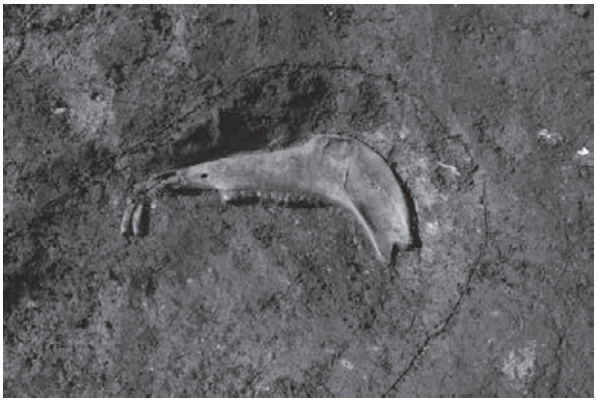
1. E区 SX19 獣骨出土状態（北から）



2. E区 SX19 獣骨・貝出土状態（東から）



3. E区 SX19 獣骨・貝出土状態（西から）



4. M区 SX85 獣骨出土状態（東から）



5. M区 SX85 完掘（東から）

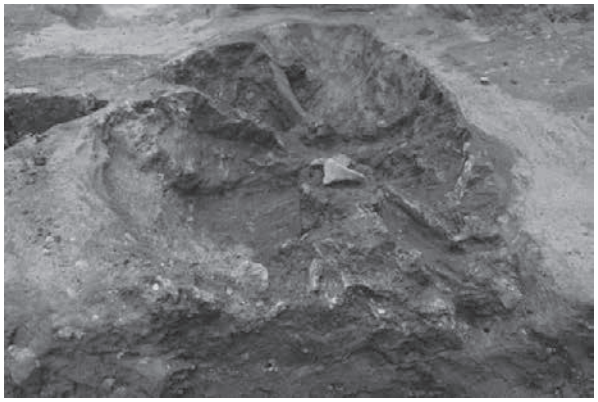
図版14



1. N区 SK156・SX145 土層断面（南から）



2. N区 SX145 獣骨出土状態（南から）



3. N区 SX145南半部 獣骨出土状態（南から）



4. N区 SX145 下部土層断面（南から）



5. N区 SX145 獣骨出土状態（西から）

図版 15



1. E区 SX22 遺物出土状態（南から）



2. E区 SX22 完掘（北西から）



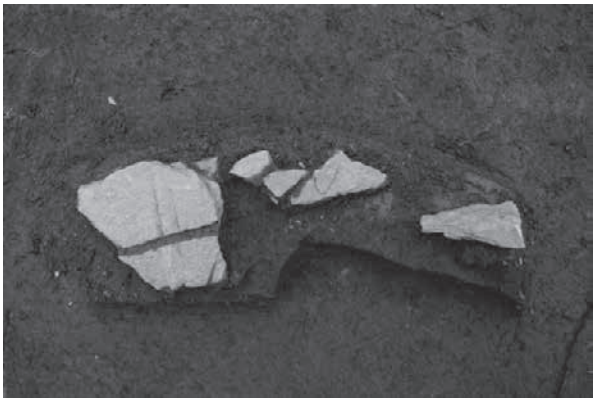
3. E区 SX22 周辺全景（北から）



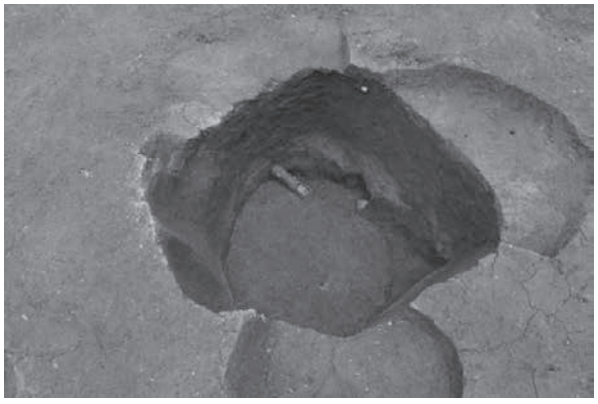
4. E区 北壁東側下層 土層断面（南から）



5. G区 板碑出土状態（北から）



6. G区 板碑出土状態（西から）



7. J区 SK93 遺物出土状態（北から）



8. J区 SK93 土器・骨出土状態（北西から）

図版 16



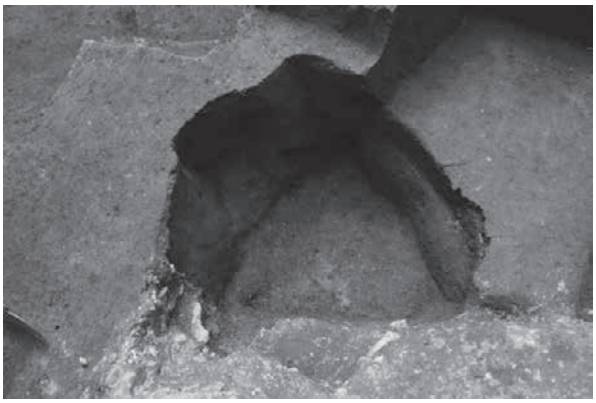
1. J区 SX35・SX41 検出状態（北東から）



2. J区 SX35 板碑出土状態（南東から）



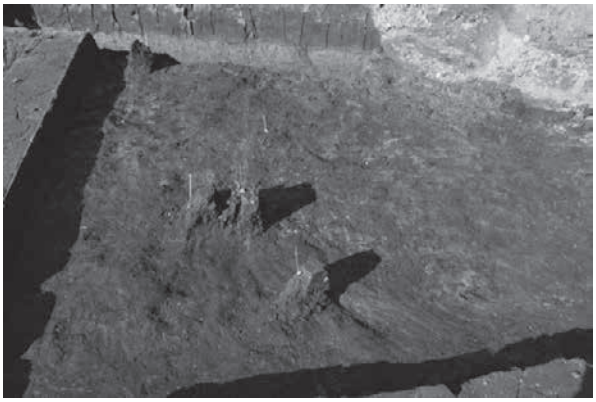
3. J区 SX35 土層断面（東から）



4. J区 SX35 完掘（南から）



5. M区 SX100 遺物出土状態（南から）



6. M区 SX100 遺物出土状態（南から）

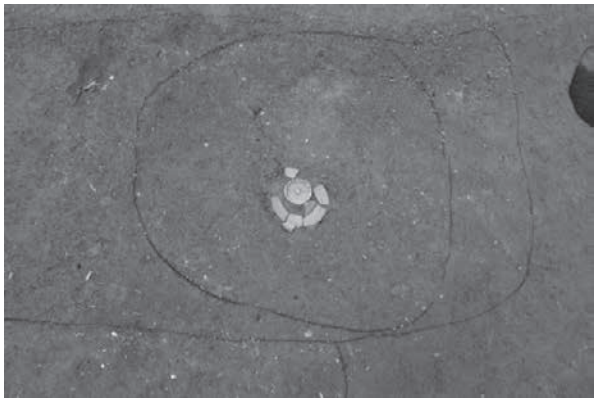


7. M区 SX100 土層断面（東から）



8. M区 SX100 遺物出土状態（東から）

図版17



1. J区 SX32 検出状態最上層（南から）



2. J区 SX32 土器皿検出状態（南から）



3. J区 SX32 第1面検出状態（南から）



4. J区 SX32 土器皿と玉石等出土状態（南から）



5. J区 SX32 土器皿取り上げ後（南から）

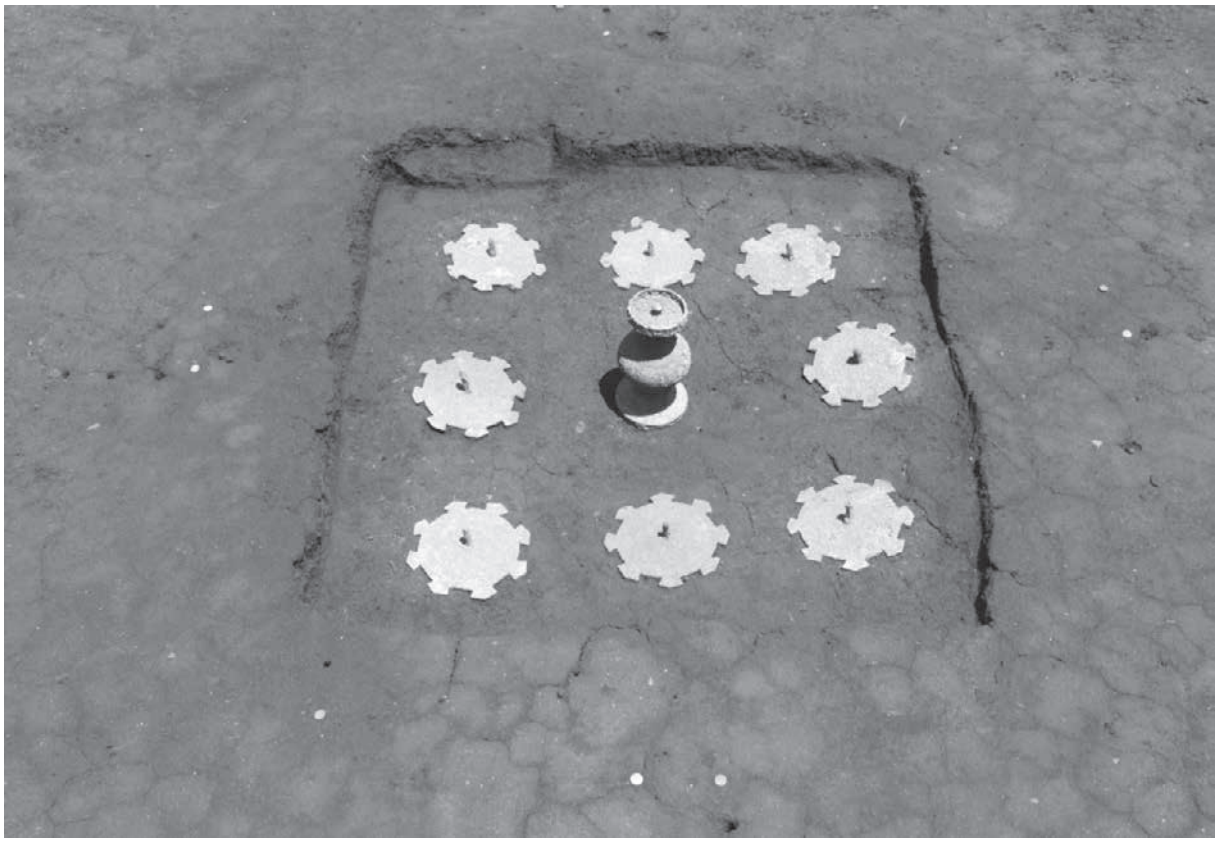
図版 18



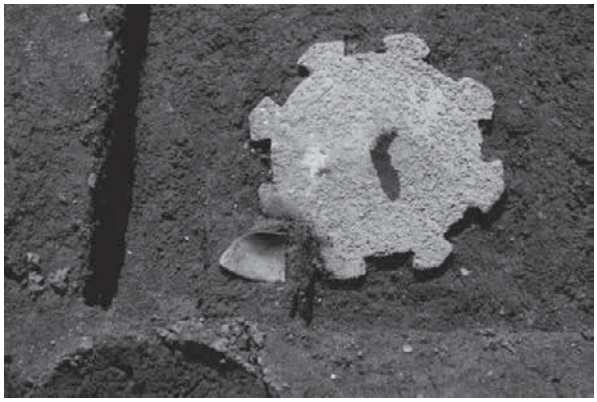
1. J区 SX32 土層断面（南から）



2. J区 SX32 銅製品出土状態（南から）



3. J区 SX32 第2面検出状態（東から）



4. J区 SX32 銅製品出土状態（東から）



5. J区 SX32 完掘（南から）

図版19



1. N区 SX140 検出状態（南から）



2. N区 SX140 陶器蓋取外し（南から）



3. N区 SX140 陶器蓋裏（南から）



4. N区 SX138・SX140 土層断面（南から）



5. N区 SX140 土層断面（南から）

図版 20



1. J区 SB1 新段階礎石群 全景（西から）



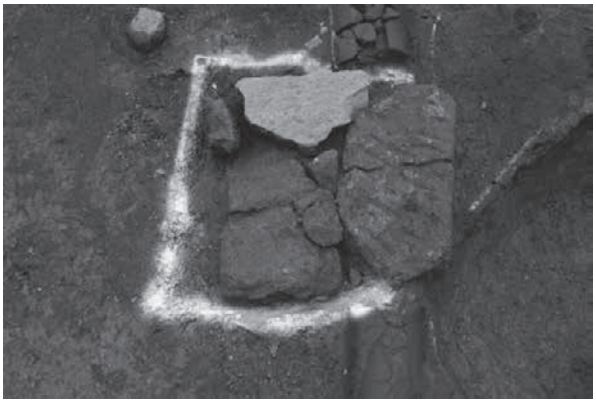
2. J区SS94・SS118・SS95 検出状態（西から）



3. J区 SS97・SS98 検出状態（西から）



4. J区 SS96 検出状態（西から）

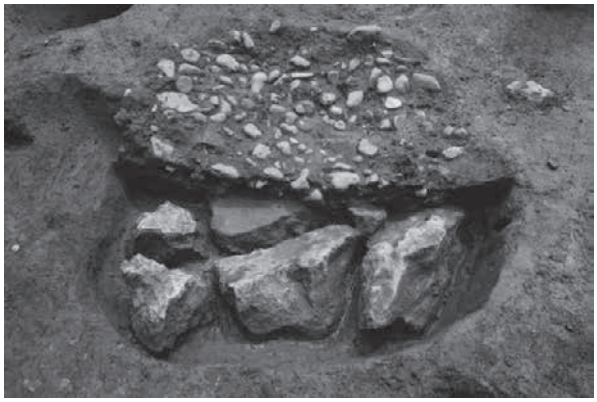


5. J区 SS92 検出状態（西から）

図版 21



1. J区 SB1 古段階礎石群 全景（北から）



2. J区 SS116 土層断面（西から）



3. J区 SS99 底石出土状態（西から）



4. J区 SS100 土層断面（西から）



5. J区 SS117 土層断面（西から）

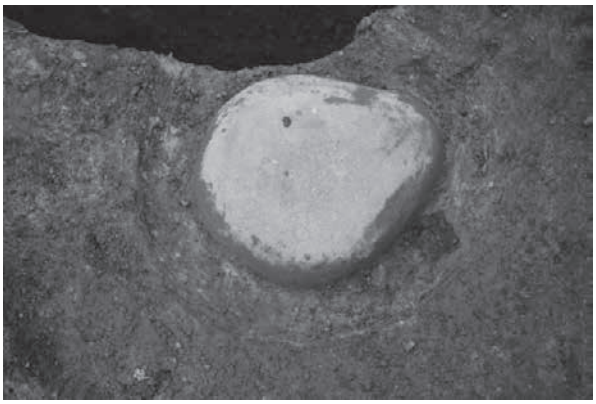
図版 22



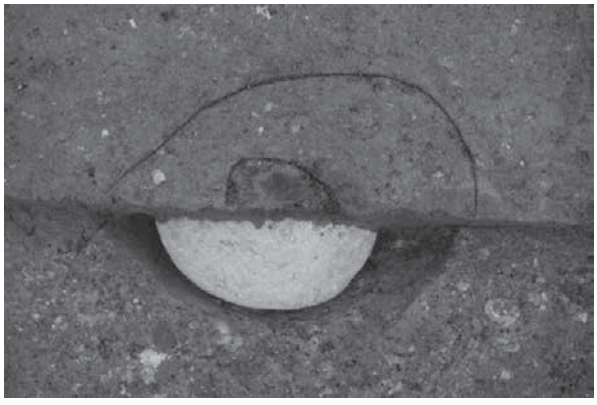
1. M区 SB2 全景（北から）



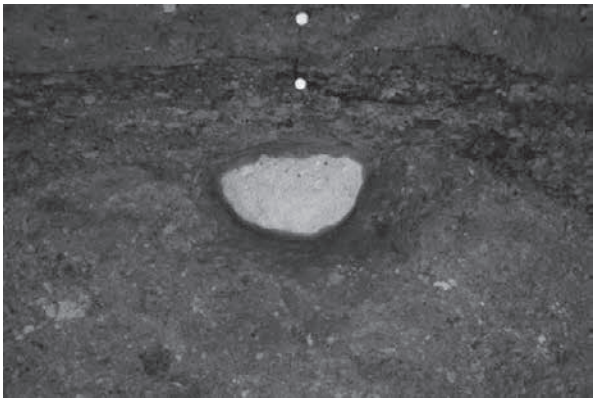
2. M区 SS131 土層断面（東から）



3. M区 SS132 検出状態（南から）

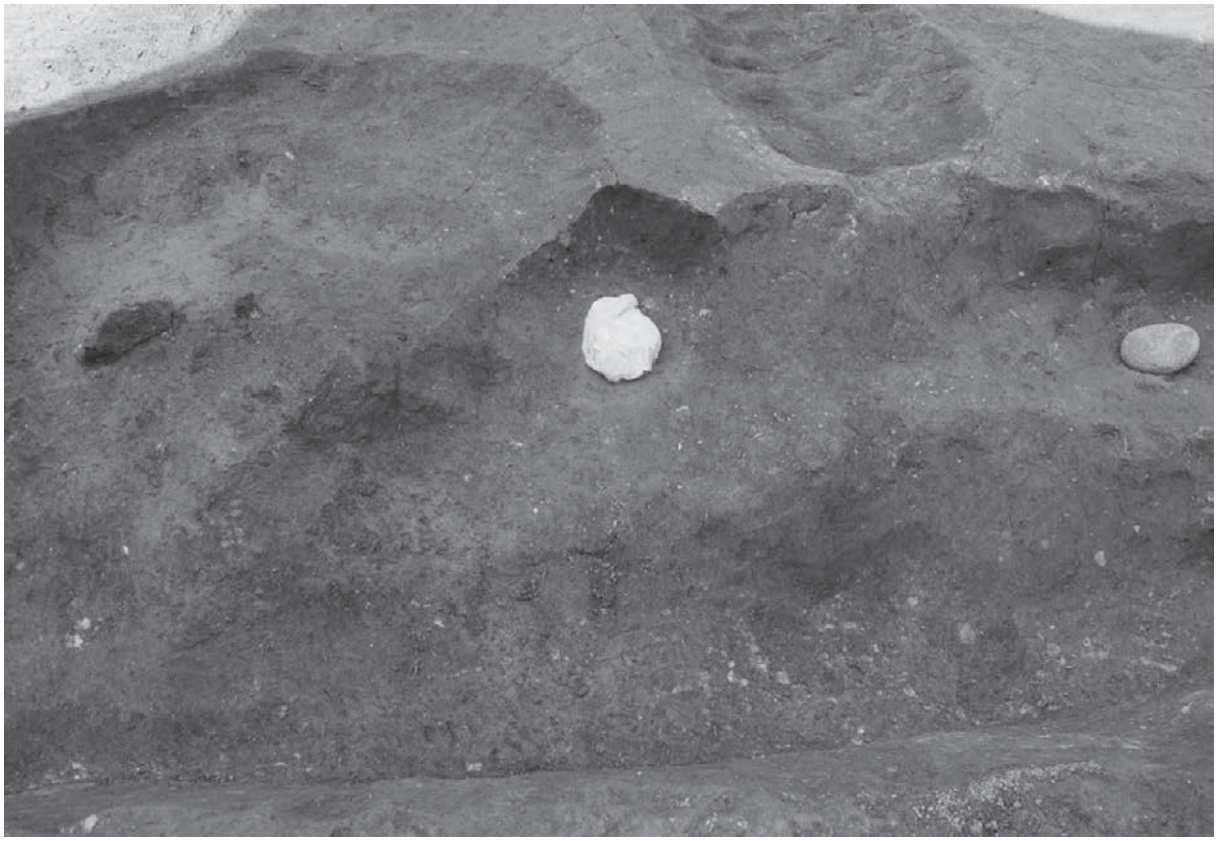


4. M区 SS133 柱痕検出状態（東から）



5. M区 SS135 土層断面（北から）

図版 23



1. A区 SS10A・SS10B・SS10C 検出状態（東から）



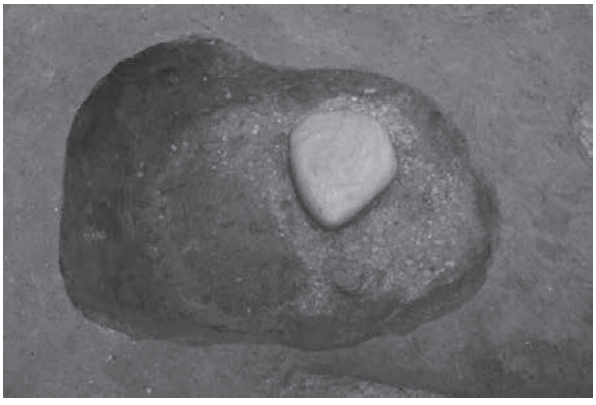
2. A区 SS7 検出状態（西から）



3. A区 SS8 検出状態（西から）



4. A区 SS9 土層断面（東から）



5. A区 SS9 完掘（南から）

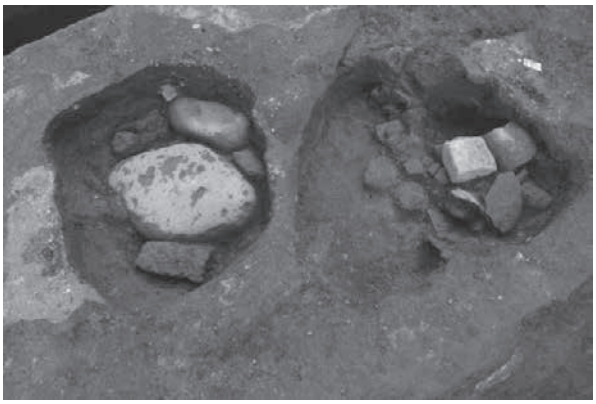
図版 24



1. E区 SB4 全景（南から）



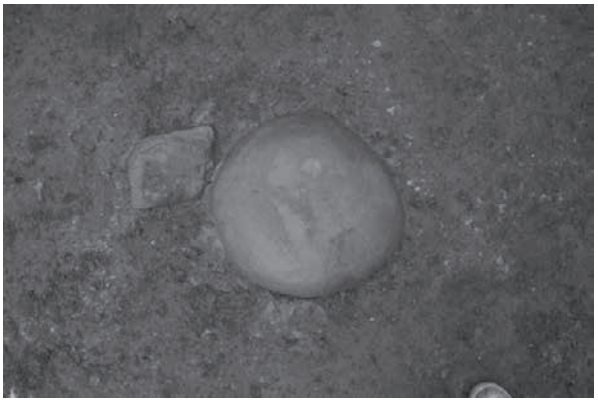
2. E区 SS46 検出状態（南から）



3. E区 SS21・SS43 検出状態（東から）

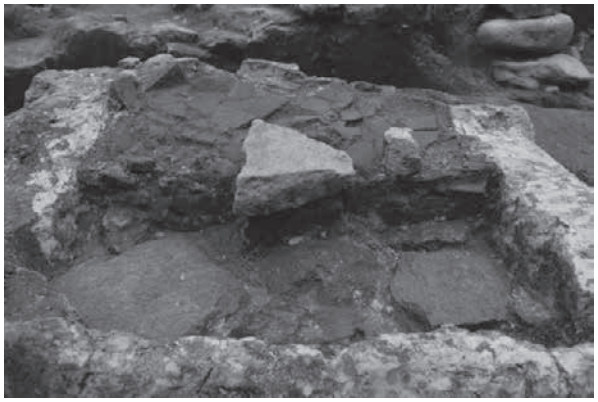


4. E区 SS22 検出状態（南から）



5. E区 SS63 検出状態（北から）

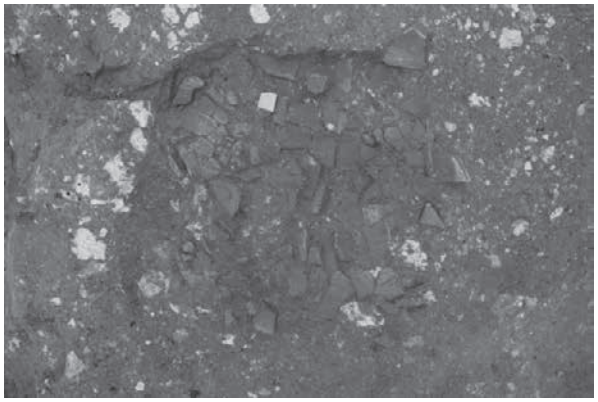
図版25



1. E区 SS32 土層断面（西から）



2. E区 SS32 検出状態（西から）



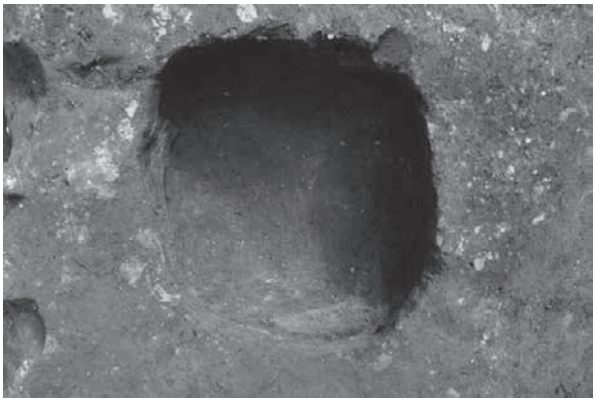
3. E区 SS35 検出状態（西から）



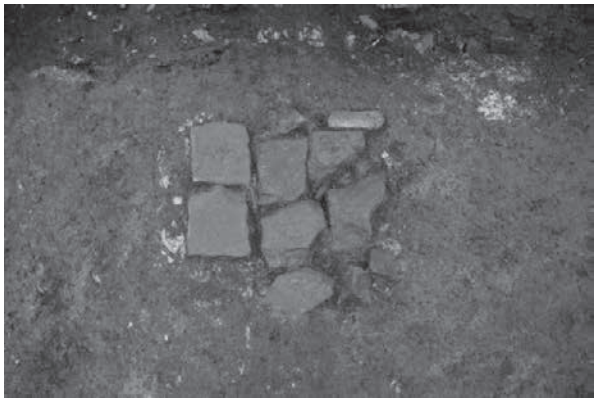
4. E区 SS35 土層断面（西から）



5. E区 SS35 底石検出状態（西から）



6. E区 SS35 掘り方完掘（西から）



7. E区 SS62 検出状態（東から）

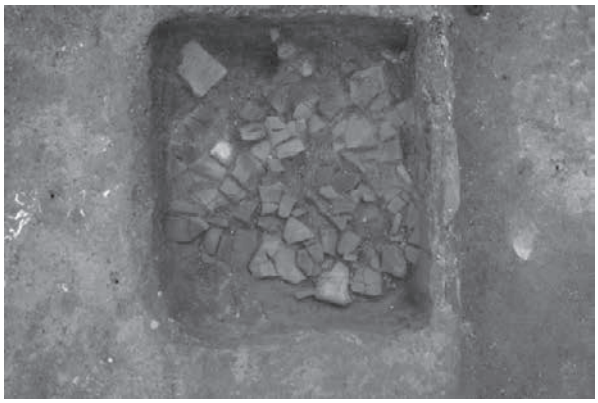


8. E区 SS62 掘り方完掘（北から）

図版26



1. E区 SS34 土層断面（東から）



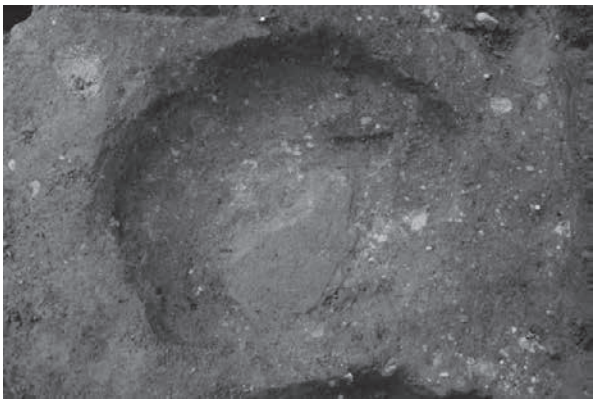
2. E区 SS34 瓦検出状態（南から）



3. E区 SS34 土層断面（東から）



4. E区 SS34 瓦下礎石検出状態（東から）



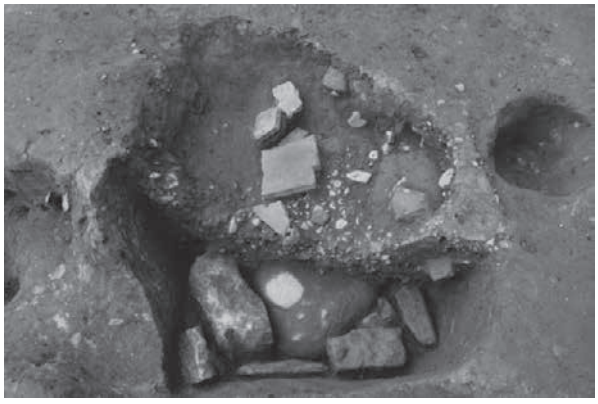
5. E区 SS26-1 礎石検出状態（南から）



6. E区 SS40 土層断面（西から）



7. E区 SS25 土層断面（南から）



8. E区 SS30 土層断面（東から）

図版27



1. C区 SB5 全景（東から）



2. C区 礎石列 土層断面（北から）



3. C区 礎石列 土層断面（北から）



4. C区 礎石列 土層断面（北から）



5. C区 礎石列 土層断面（北から）



6. C区 礎石列 土層断面（北から）



7. C区 SSS5-4・SSS5-5 土層断面（北から）



8. C区 礎石列 礫検出状態（北から）

図版28



1. H区 全景（南西から）



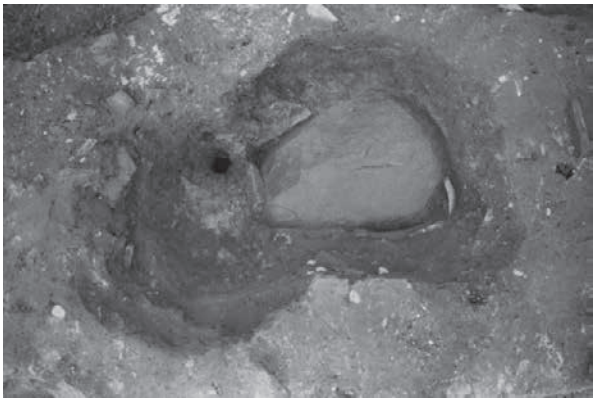
2. H区 SS80 土層断面（南から）



3. G区 SK67B 検出状態（南西から）



4. G区 SS71・SS72 土層断面（北から）



5. G区 SS75 礎石検出状態（東から）

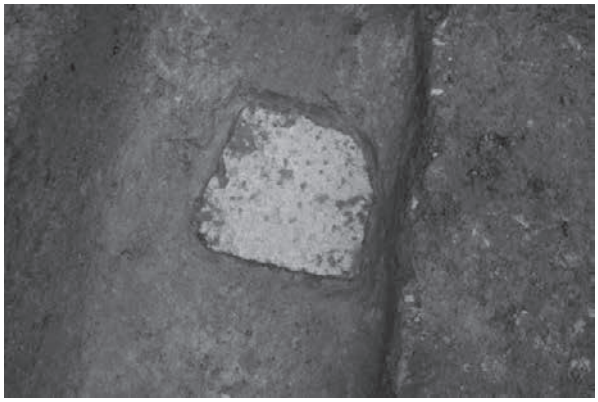
図版29



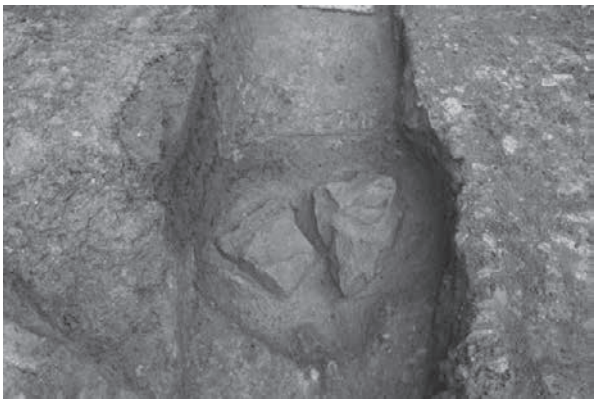
1. N区 SB8 全景（東から）



2. N区 SB8 全景（北から）



3. N区 SS171（南から）

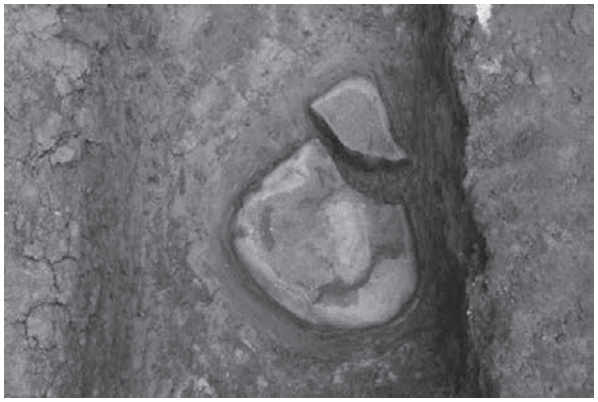


4. N区 SS172（南から）



5. N区 SS166（東から）

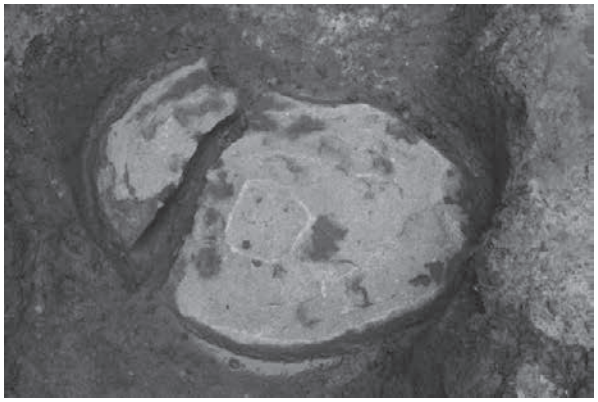
図版30



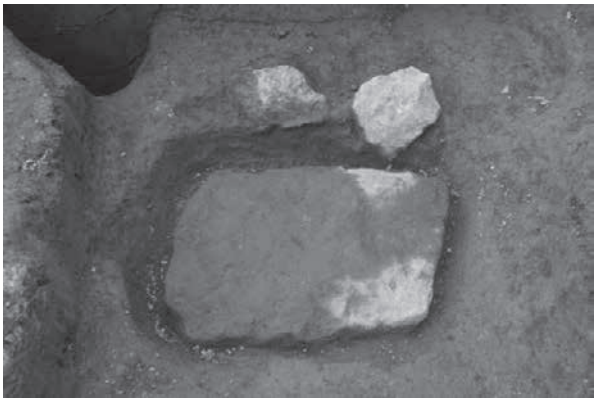
1. N区 SS193（南から）



2. N区 SS174・SS175（東から）



3. N区 SS176（南から）



4. N区 SS186（北から）



5. N区 SS187（東から）



6. N区 SS188（東から）



7. N区 SS182（北から）

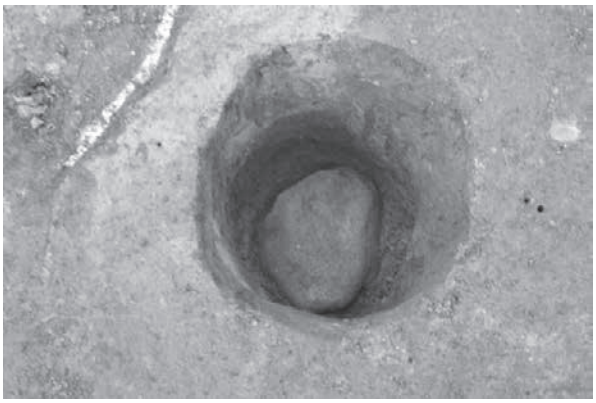


8. N区 SS179（左）・SS178（右）（北から）

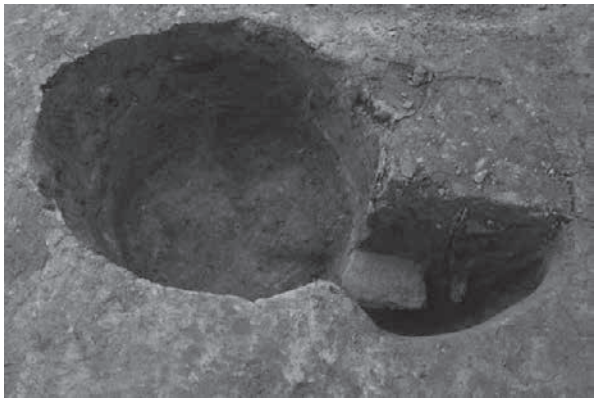
図版31



1. N区 SS184 土層断面（東から）



2. N区 SS184 完掘（東から）



3. N区 SS185 土層断面（東から）



4. N区 SS194 完掘（南東から）



5. N区 SS190 土層断面（南から）



6. N区 SS190 完掘（西から）



7. N区 SS195 完掘（南から）



8. N区 SB10 全景（東から）

図版32



1. B区 SS1 土層断面（西から）



2. B区 SS1 検出状態（北から）



3. B区 SS2・SS3 検出状態（南から）



4. B区 SS2・SS3・SK1 検出状態（西から）



5. E区 SS19 全景（北から）



6. C区 SS19 南側石組検出状態 （南から）



7. E区 SS19 掘り方完掘（南側）（南から）

図版33



1. J区 SX52 石組検出状態と土層断面（南から）



2. J区 SX52 検出状態（南から）



3. J区 SX52 検出状態（南から）



4. J区 SX52 全景（西から）



5. J区 SX53 検出状態（南から）

図版34



1. B区 SS2 検出状態（北から）



2. B区 SS2 検出状態（東から）



3. A区 SS6 検出状態（西から）



4. A区 SS6 完掘（南から）



5. A区 SS13 検出状態（南から）



6. E区 SS16-2 検出状態（南から）



7. E区 SS16-2 検出状態（北から）

図版35



1. E区 SS16-2 掘り方完掘（南から）



2. L区 SX71 土層断面（北から）



3. L区 SX71 完掘（南から）



4. G区 SX30 敷石検出状態（西から）

図版36



1. N区 SX122 全景（南から）



2. N区 SX109 検出状態（東から）



3. N区 SS168 検出状態（西から）



4. N区 SX123 土層断面（南から）



5. N区 SX123 石組検出状態（東から）

図版37



1. F区 SK59 土層断面（北から）



2. F区 SK59 底部板材検出状態（北から）



3. K区 SX61 底部板材検出状態（南から）



4. A区 SX5 木杭建物基礎検出状態（東から）



5. A区 SX5 木杭建物基礎検出状態（西から）

図版38



1. H区 SX23 検出状態（北西から）



2. H区 SX23 土層断面（西から）



3. H区 SX23 木製品出土状態（西から）



4. H区 SX23 杭と板材検出状態（東から）



5. H区 SX23 掘り方完掘（南西から）

図版39



1. N区 SX117（桶） 検出状態（南から）



2. N区 SX117 土層断面（東から）



3. N区 SX131 土層断面（南から）



4. N区 SX135 土層断面（東から）



5. N区 SX135 南端部土層断面（北から）



6. N区 SX135 西半部遺物出土状態（東から）

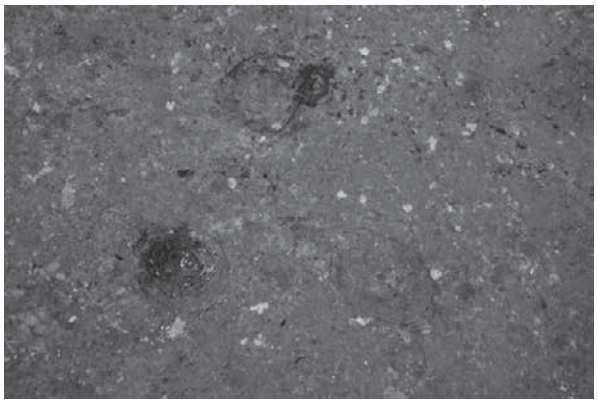


7. N区 SX135 完掘（東から）

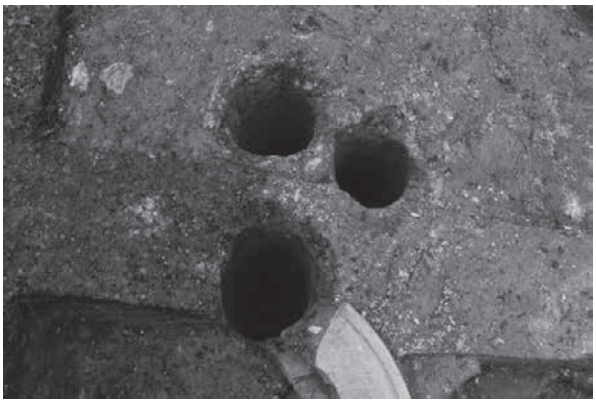


8. N区 SX135 掘り方 完掘（東から）

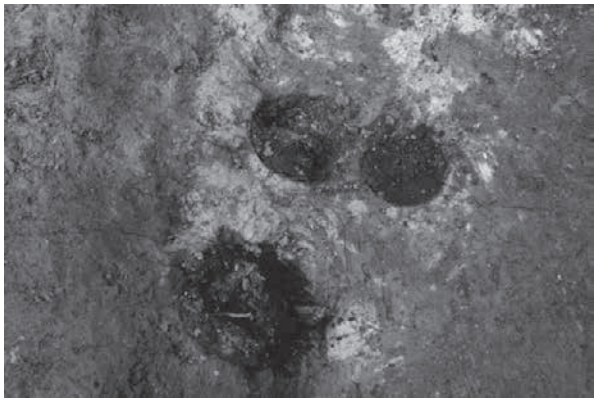
図版40



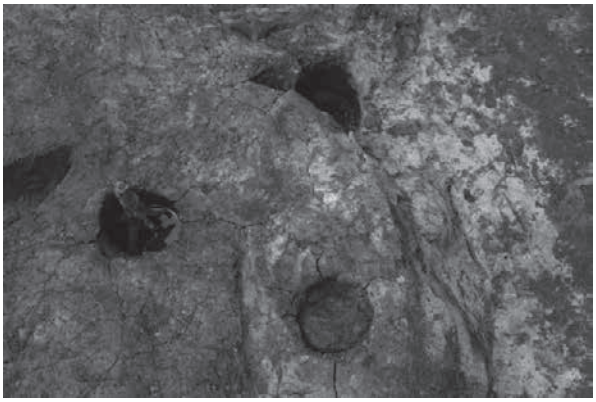
1. I区 SA1 検出状態（南から）



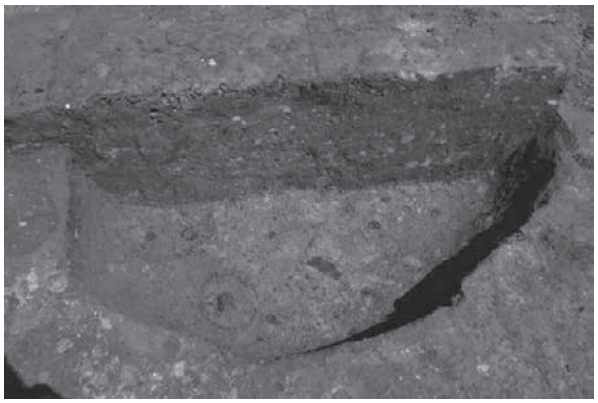
2. I区 SA2 完掘（南から）



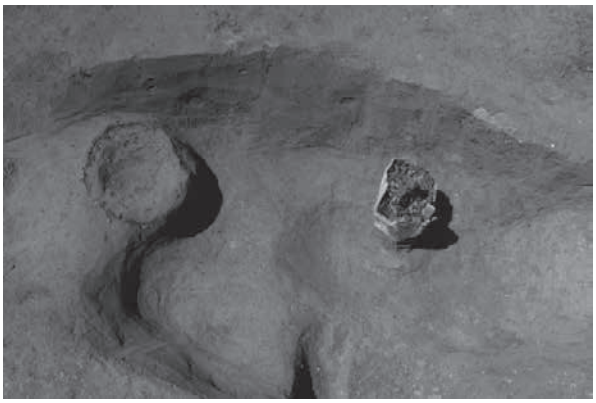
3. I区 SA3 検出状態（南から）



4. I区 SA4 検出状態（南から）



5. K区 SA7 土坑下杭検出状態（南から）



6. J区 SA10 検出状態（東から）



7. L区 SA13 検出状態（北から）



8. A区 SX3 杭列検出状態（東から）

図版41

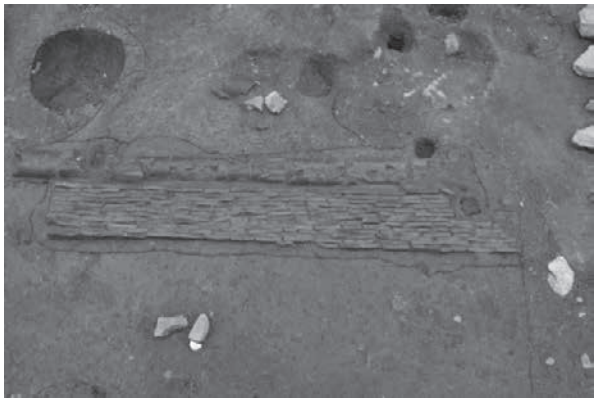


1. E区 SS23 全景（北から）



2. J区 SX55・SX56・SX57 全景（西から）

図版42



1. J区 SX55・SX56検出状態（西から）



2. J区 SX55・SX56 土層断面（南から）



3. J区 SX57 検出状態（西から）



4. J区 SX57 土層断面（東から）



5. J区 SX57 掘り方完掘（西から）



6. J区 SX58 検出状態 （西から）



7. J区 SX58 瓦出土状態（北から）

図版43



1. E区 SD6 土層断面（南から）



2. E区 SD6 全景（南から）



3. E区 SD7 土層断面（北から）



4. E区 SD7 全景（北から）



5. E区 SD8 掘り方完掘 全景（西から）



6. E区 SD8 土層断面（西から）

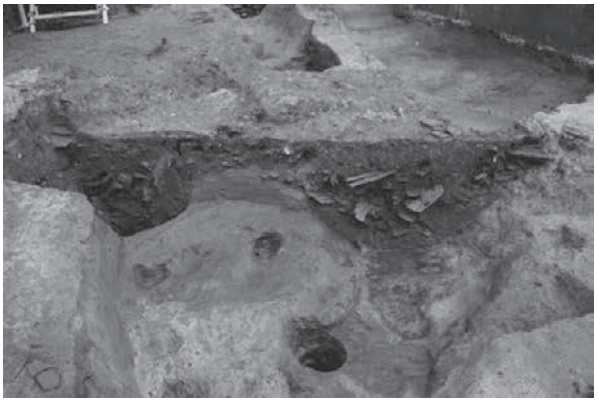
図版44



1. H区 SD11 土層断面（西から）



2. H区 SD11 全景（西から）



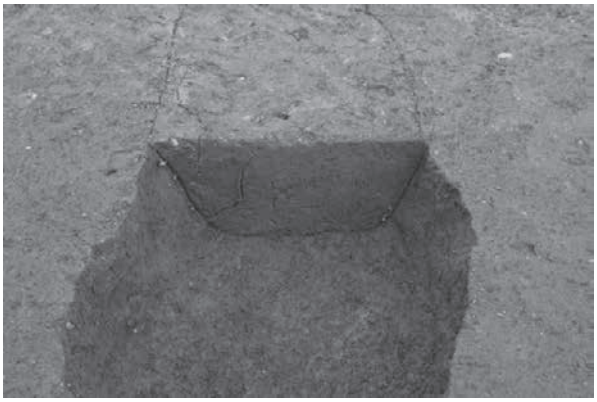
3. H区 SD12・SE15・SX23 土層断面（南東から）



4. H区 SD12 土層断面（南東から）



5. H区 SD12 全景（西から）



6. J区 SD14 土層断面 西から



7. J区 SD14 全景（東から）

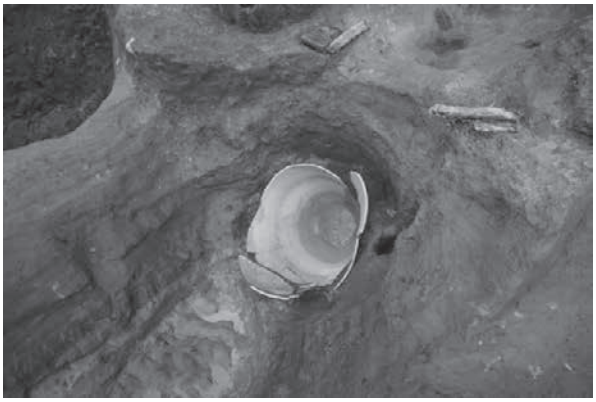
図版45



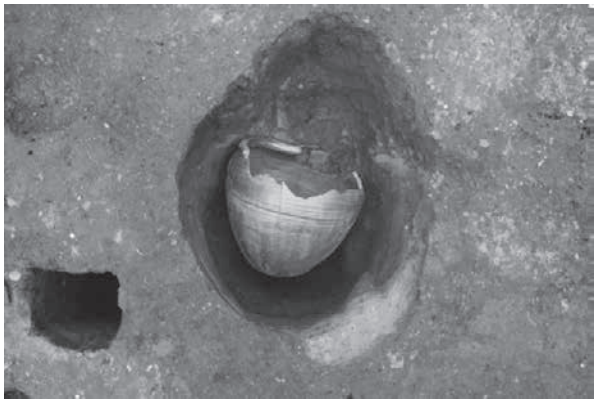
1. H区 SX26・SD12 全景（北から）



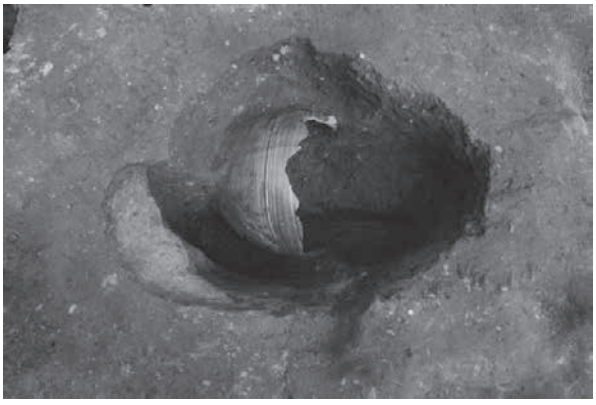
2. H区 SX26・SD12 全景（北東から）



3. H区 SX26 遺物出土状態（北東から）



4. E区 SK41 遺物出土状態（南から）



5. E区 SK41 遺物出土状態（東から）

図版46



1. I区 SD15 土層断面（南から）



2. I区 SD15 完掘（北から）



3. J区 SD19 土層断面（南から）



4. J区 SD19 全景（南から）



5. J区 SD20 土層断面（北から）



6. J区 SD19・SD20 全景（北から）



7. K区 SD21 全景（南から）



8. K区 SD22 完掘（西から）

図版47



1. K区 SD25と層序（西から）



2. K区 SD25 土層断面（西から）



3. J区 SD26 土層断面（西から）



4. J区 SD26 全景（西から）



5. M区 SD28 土層断面（南から）



6. M区 SD28 全景（南から）



7. M区 SD29 土層断面（南から）



8. M区 SB2・SD29（西端） 全景（北から）

図版48



1. M区 SD30 全景（南から）



2. L区 SD31 土層断面 （北から）



3. L区 SD31 遺物出土状態（北から）



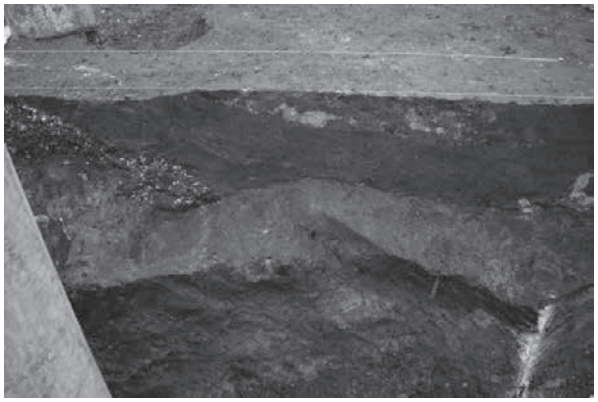
4. L区 SD31 全景（南から）



5. M区 SD33 検出状態（北から）



6. M区 SD33 全景（北から）

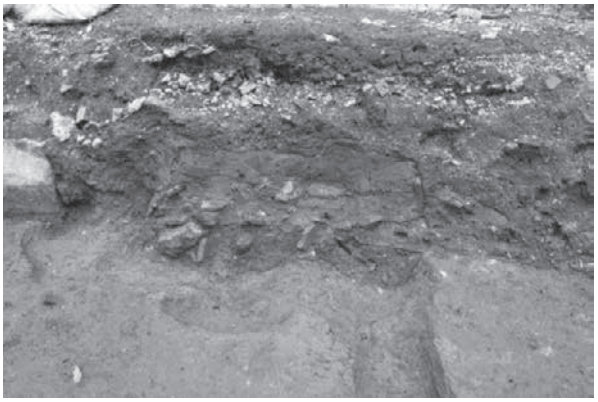


7. M区 SX98 土層断面（北から）



8. M区 SX98 全景（北から）

図版49



1. N区 SD37・SX121 土層断面（東から）



2. N区 SD37 全景（東から）



3. N区 SD36 全景（南から）



4. N区 SD38 土層断面（南から）



5. N区 SD38 全景（南から）

図版50



1. E区 SX16 全景（北から）



2. E区 SX16 全景（東から）



3. E区 SX16 土層断面（北から）



4. E区 SX15 陶器甕出土状態（北から）



5. E区 SX16 掘り方 土層断面（南から）

図版51



1. A区 SE1 1段目土層断面（南から）



2. A区 SE1 完掘（東から）



3. A区 SE1 土層断面（東から）



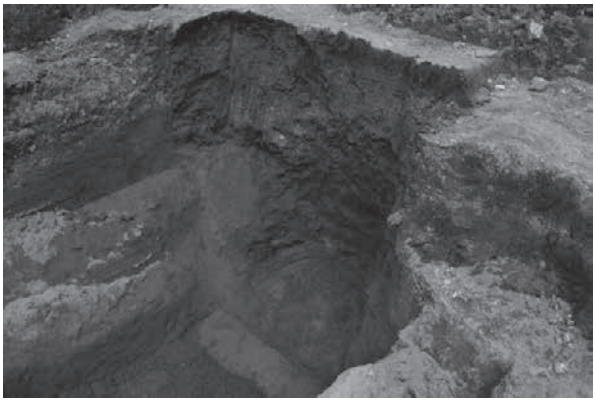
4. A区 SE2 土層断面（南から）



5. A区 SE2 3段目小型桶検出状態（南から）



6. A区 SE2 3段目小型桶断面状態（南から）

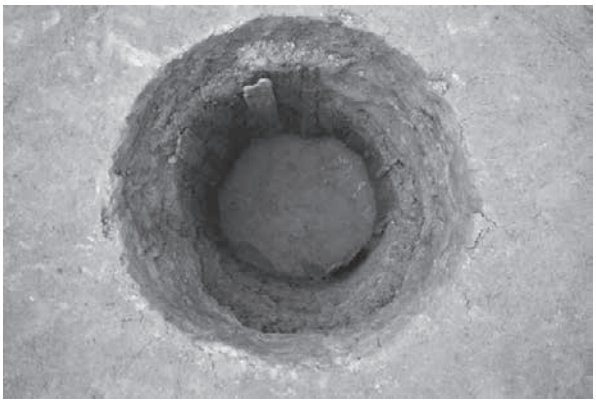


7. A区 SE2 掘り方完掘（南東から）

図版52



1. B区 SE3 土層断面（東から）



2. B区 SE3 完掘（東から）



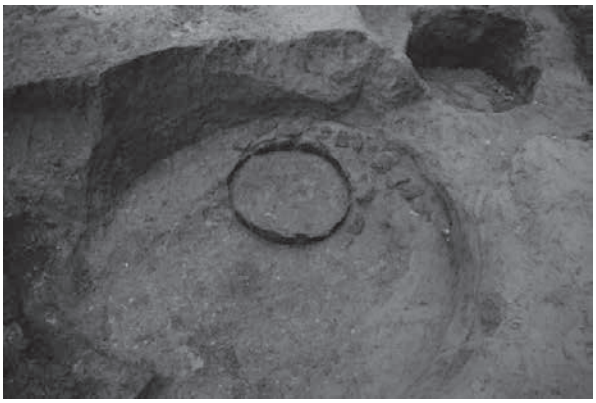
3. A区 SE4 下部桶出土状態（東から）



4. A区 SE4 木樋検出状態（西から）



5. C区 SE5 土層断面（北から）



6. C区 SE5 検出状態（北から）



7. C区 SE5 土層断面（北から）



8. C区 SE5・SE13 土層断面（北から）

図版53



1. C区 SE6 土層断面（南西から）



2. D区 SE7 完掘（東から）



3. F区 SE9 土層断面（西から）



4. F区 SE10 土層断面（東から）



5. F区 SE9・SE10 検出状態（東から）

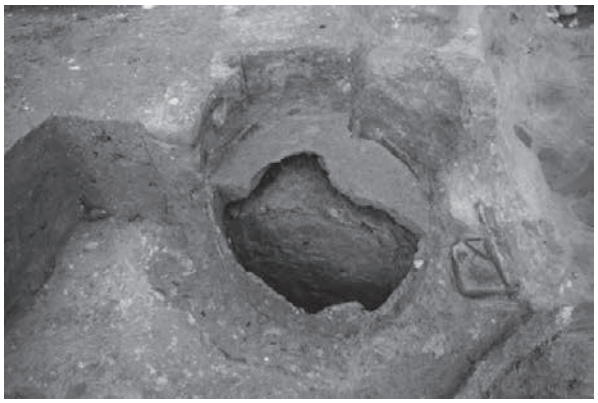


6. H区 SE12 土層断面 西から

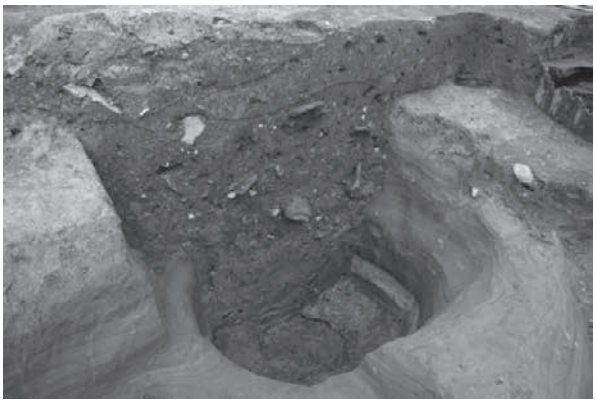


7. H区 SE12 ２段目桶検出状態（東から）

図版54



1. H区 SE14 検出状態（南から）



2. H区 SE15 土層断面（北から）



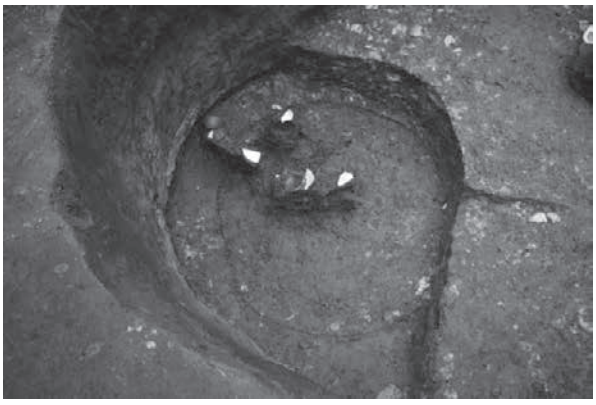
3. I区 SE16 土層断面（南から）



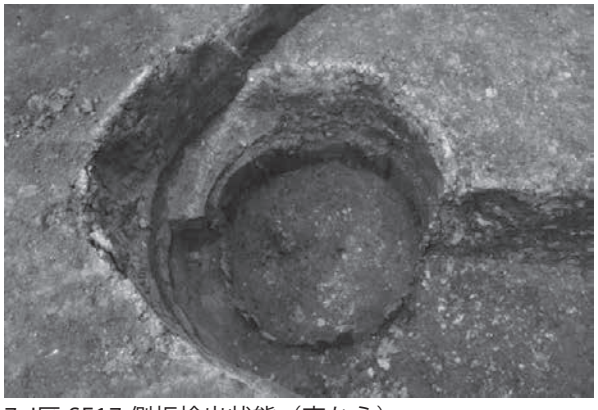
4. I区 SE16 完掘（南から）



5. I区 SE17・SE18 土層断面（南から）



6. I区 SE17 遺物出土状態（南から）



7. I区 SE17 側板検出状態（南から）



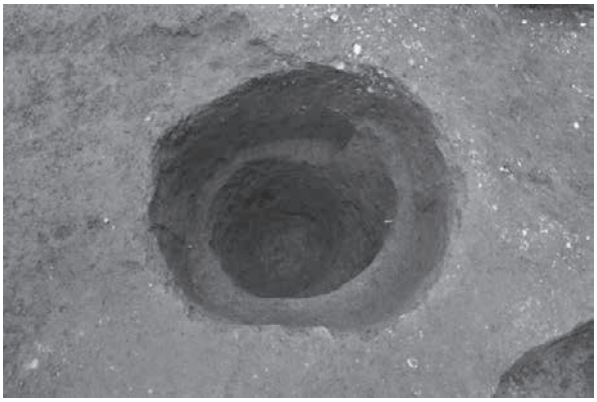
8. I区 SE17・SE18 土層断面（南から）

図版55


1. I区 SE19 土層断面（西から）


2. I区 SE19 完掘（西から）


3. I区 SE19 周辺土坑 全景（北から）


4. I区 SK80 完掘（南から）


5. J区 SE20 土層断面（南から）


6. J区 SE20 桶部完掘（南から）

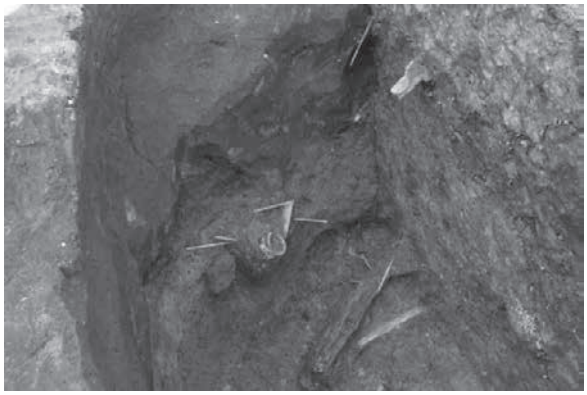

7. J区 SE20 土層断面（北から）


8. J区 SE20 全景（北から）

図版56



1. I区 SE21 土層断面（西から）



2. I区 SE21 遺物出土状態（西から）



3. I区 SE21 中層遺物出土状態（東から）



4. I区 SE21 全景（南から）



5. I区 SE22 土層断面（北から）



6. I区 SE22 調査状況（北から）



7. J区 SE23 上部完掘（南から）



8. J区 SE24（左）完掘・SE23（右）土層断面（西から）

図版57



1. J区 SE24 上部土層断面（南から）



2. J区 SE24 上部完掘（南から）



3. J区 SE23（右）・SE24（左） 土層断面（西から）



4. J区 SE24 完掘（西から）



5. I区 SE25 上面遺物出土状態（西から）



6. I区 SE25 上部完掘（西から）



7. I区 SE25 下部土層断面（西から）

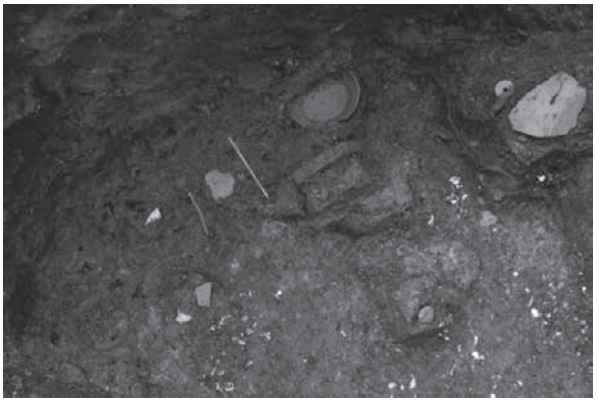


8. I区 SE25完掘（西から）

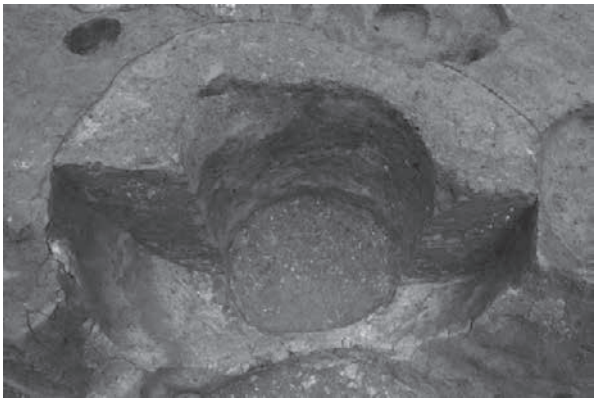
図版58



1. J区 SE26 上部土層断面（南から）



2. J区 SE26 桶部遺物出土状態（南から）



3. J区 SE26 桶部完掘（南から）



4. J区 SE27 上部土層断面（南から）

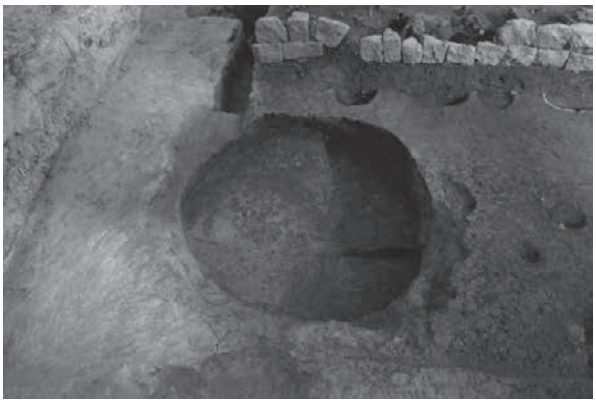


5. J区 SE27 完掘（東から）

図版59



1. J区 SE28 土層断面（南から）



2. J区 SE28 完掘（南から）



3. J区 SE29 遺物出土状態（西から）



4. J区 SE29 土層断面（西から）



5. K区 SE30 上部完掘（西から）



6. K区 SE30 最下層遺物出土状態（西から）



7. K区 SE30 下部土層断面（西から）



8. K区 SE30 完掘（西から）

図版60



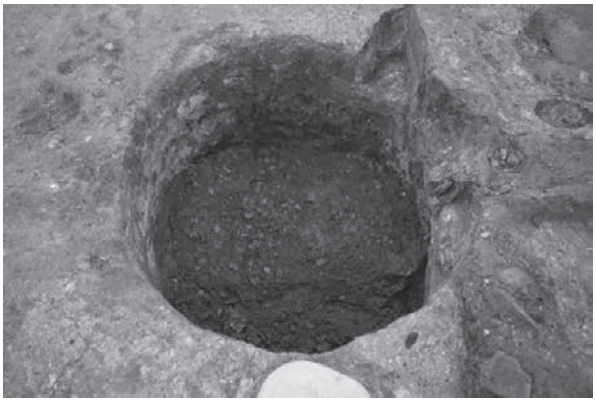
1. L区 SE31・SX73 検出状態（北から）



2. L区 SE31 土層断面（北から）



3. L区 SE31 完掘（北から）



4. M区 SE32 完掘（東から）



5. M区 SE32 桶土層断面（西から）



6. M区 SE32 桶検出状態（西から）



7. M区 SE32 桶内焼塩壷・下駄出土状態（西から）



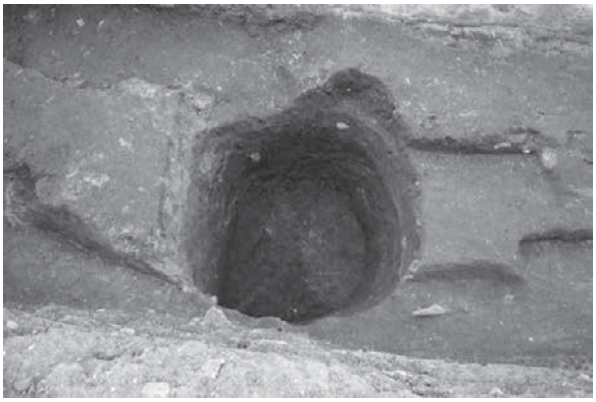
8. M区 SE32 土層断面（西から）

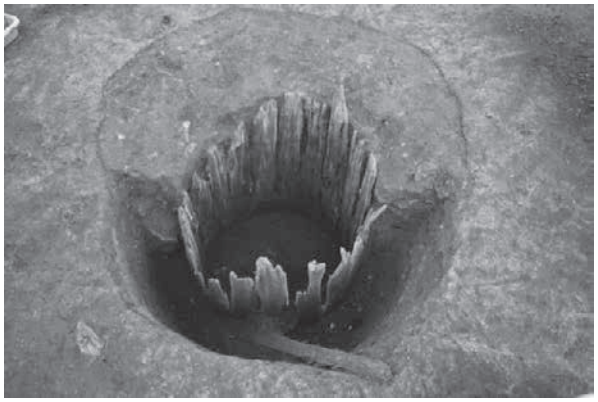
図版61


1. M区 SE33 土層断面（東から）

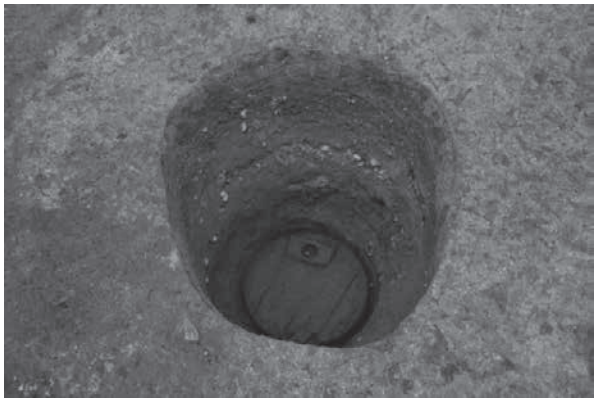

2. M区 SE33 瓦敷検出状態（東から）

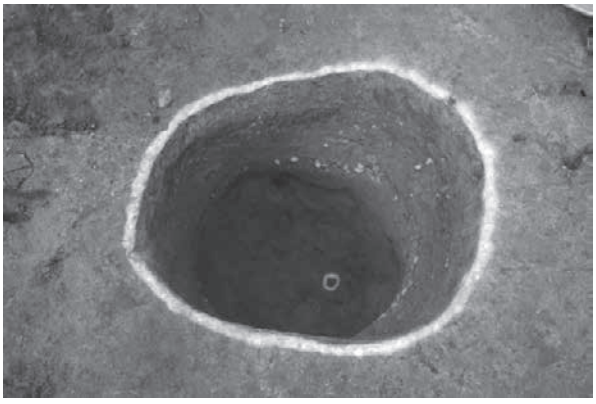

3. M区 SE33 土層断面（北から）


4. M区 SE33 完掘（東から）


5. M区 SE34 桶検出状態（西から）


6. M区 SE34 底板検出状態（西から）


7. M区 SE34 完掘（底板）（西から）


8. M区 SE34 掘り方完掘（南から）

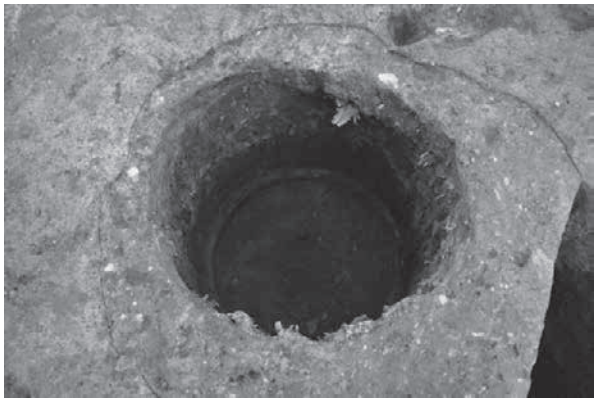
図版62



1. M区 SE35 土層断面（南西から）



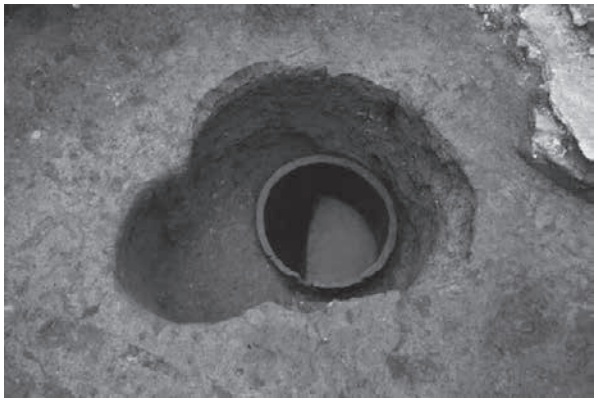
2. M区 SE35 遺物出土状態（南西から）



3. M区 SE35 1段目内側完掘（西から）



4. M区 SE36 土層断面（南から）



5. M区 SE35 桶検出状態（南から）



6. M区 SE35 2段目桶土層断面（西から）



7. L区 SE37 土層断面（北から）



8. L区 SE37 完掘（南から）

図版63



1. M区 SE38 上部土層断面（北から）



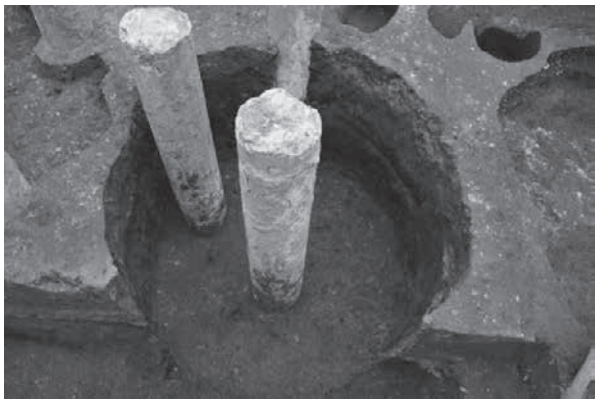
2. M区 SE38 遺物出土状態（北から）



3. M区 SE38 完掘（北から）



4. M区 SE38 下部土層断面（北から）



5. M区 SE39 上部完掘（東から）



6. M区 SE39 漆椀出土状態（北東から）



7. M区 SE39 下部土層断面（北西から）



8. M区 SE39 完掘（北西から）

図版64



1. N区 SE40 土層断面（東から）



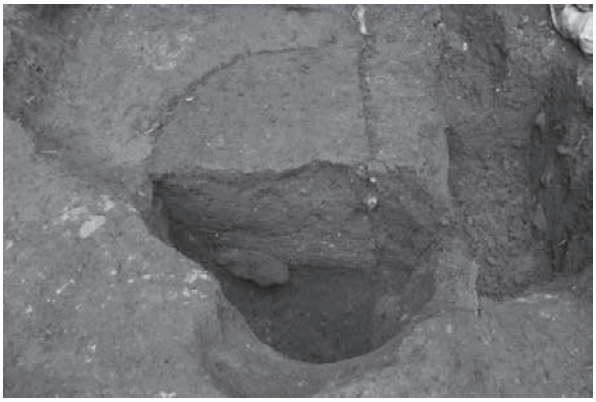
2. N区 SE40 ２段目桶検出状態（東から）



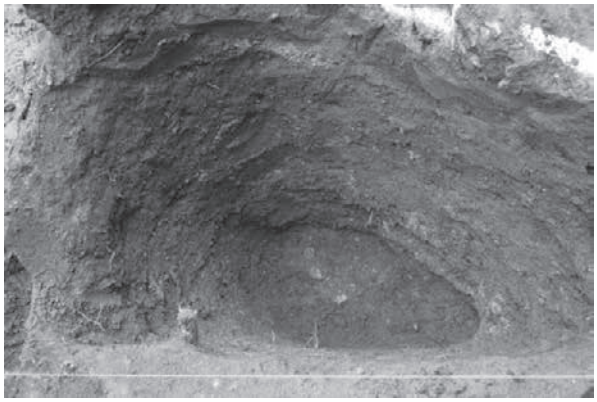
3. N区 SE40 ３段目検出状態（西から）



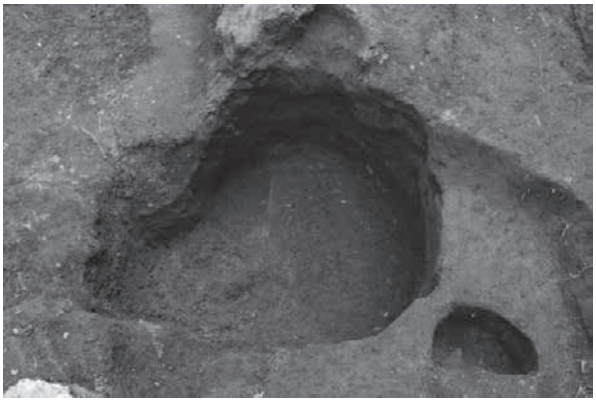
4. N区 SE40 深掘り状況（南から）



5. N区 SE41 土層断面（南から）



6. N区 SE41 銭貨出土状態（南から）

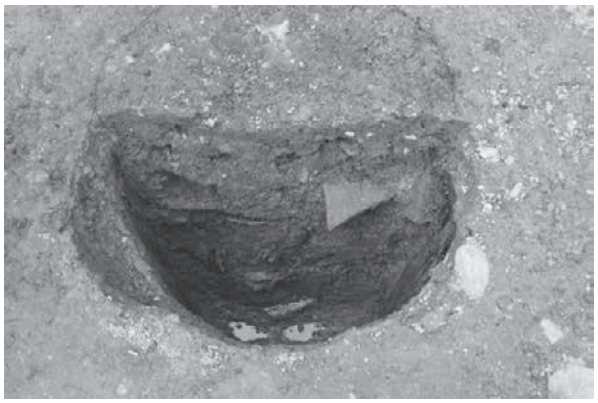


7. N区 SE41 完掘（北から）

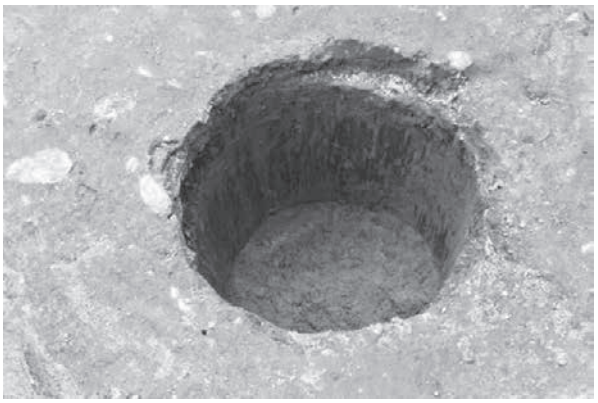


8. N区 SE41 深堀り土層断面（南から）

図版65



1. N区 SE43 土層断面（南東から）



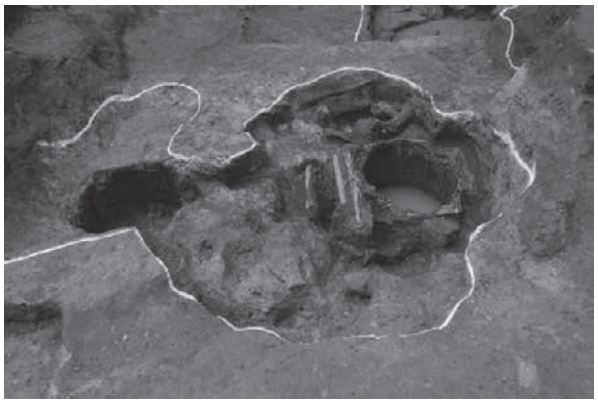
2. N区 SE43 完掘（北から）



3. N区 SX136（井戸） 遺物出土状態（東から）



4. N区 SX136（井戸） 完掘（東から）



5. N区 SX136（井戸）（左）・SE43（右）掘り方（東から）



6. N区 SE45 土層断面（南から）



7. N区 SE45 完掘（南から）



8. N区 SX149（井戸） 1段目・2段目（南東から）

図版66



1. J区 SX50 焼土検出状態（北から）



2. J区 SX50・SX51 土層断面（北から）



3. L区・M区 SX73 焼土検出状態（西から）



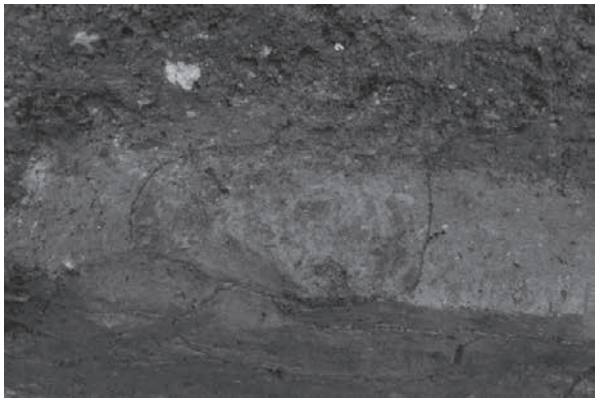
4. L区 SX73 焼土検出状態（南から）



5. E区 SP143 土層断面（西から）



6. M区 SX79 土層断面（東から）



7. L区 SX84 検出状態（北から）



8. L区 SX84 土層断面（東から）

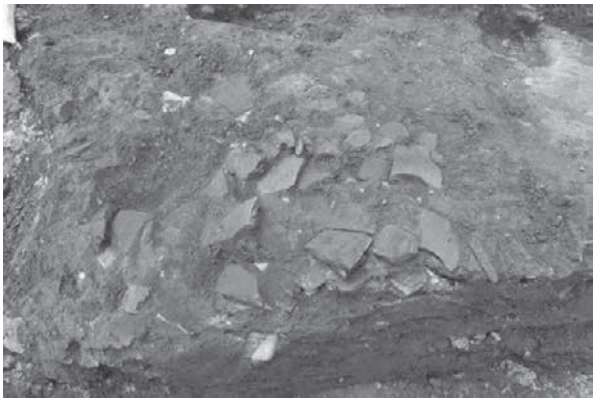
図版67



1. N区 SX110 全景（南から）



2. N区 SX110 焼土・遺物出土状態（南から）



3. N区 SX110 西壁中央瓦出土状態（東から）

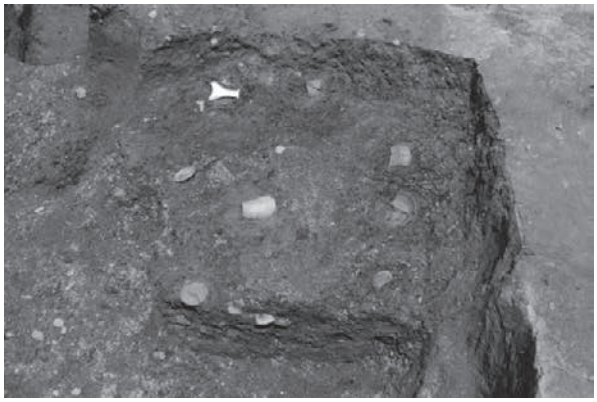


4. N区 SX110 土層断面（東から）



5. N区 SX116 円形焼土検出状態（東から）

図版68



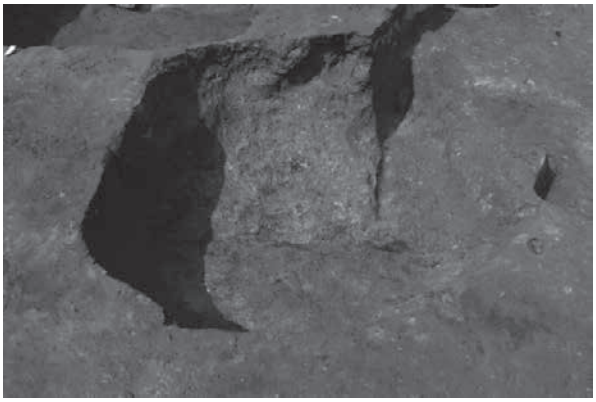
1. K区 SK114 遺物出土状態（南から）



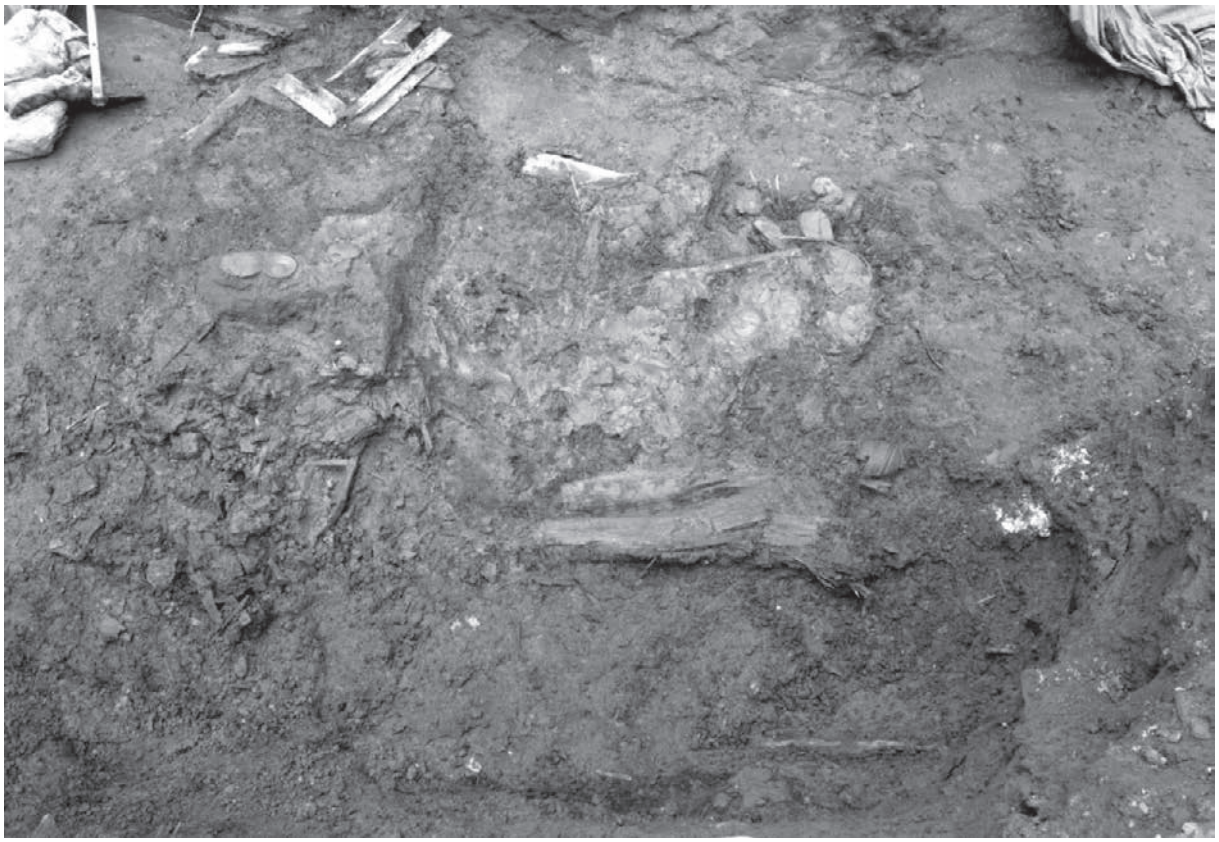
2. K区 SK114 土器皿出土状態（西から）



3. K区 SK114 土層断面（西から）

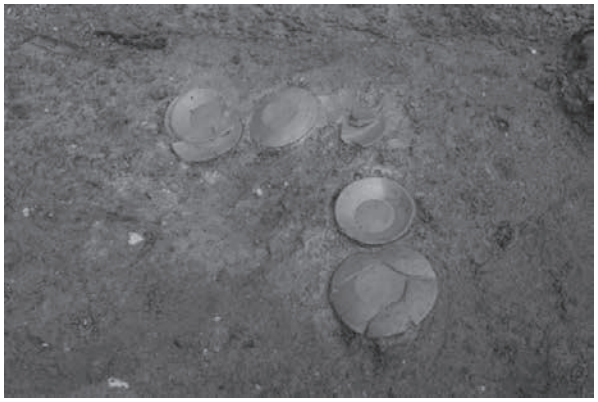


4. K区 SK114 完掘（南から）



5. N区 SX126下層・SX137・SX139 土器皿等出土状態（東から）

図版69



1. N区 SX126下層 土器皿出土状態（南から）



2. N区 SX137 土器皿出土状態（東から）



3. N区 SX139 土器皿出土状態（東から）



4. N区 SX152 土器皿出土状態（北から）



5. B区 SK1 検出状態（西から）



6. B区 SK1 土層断面（北から）

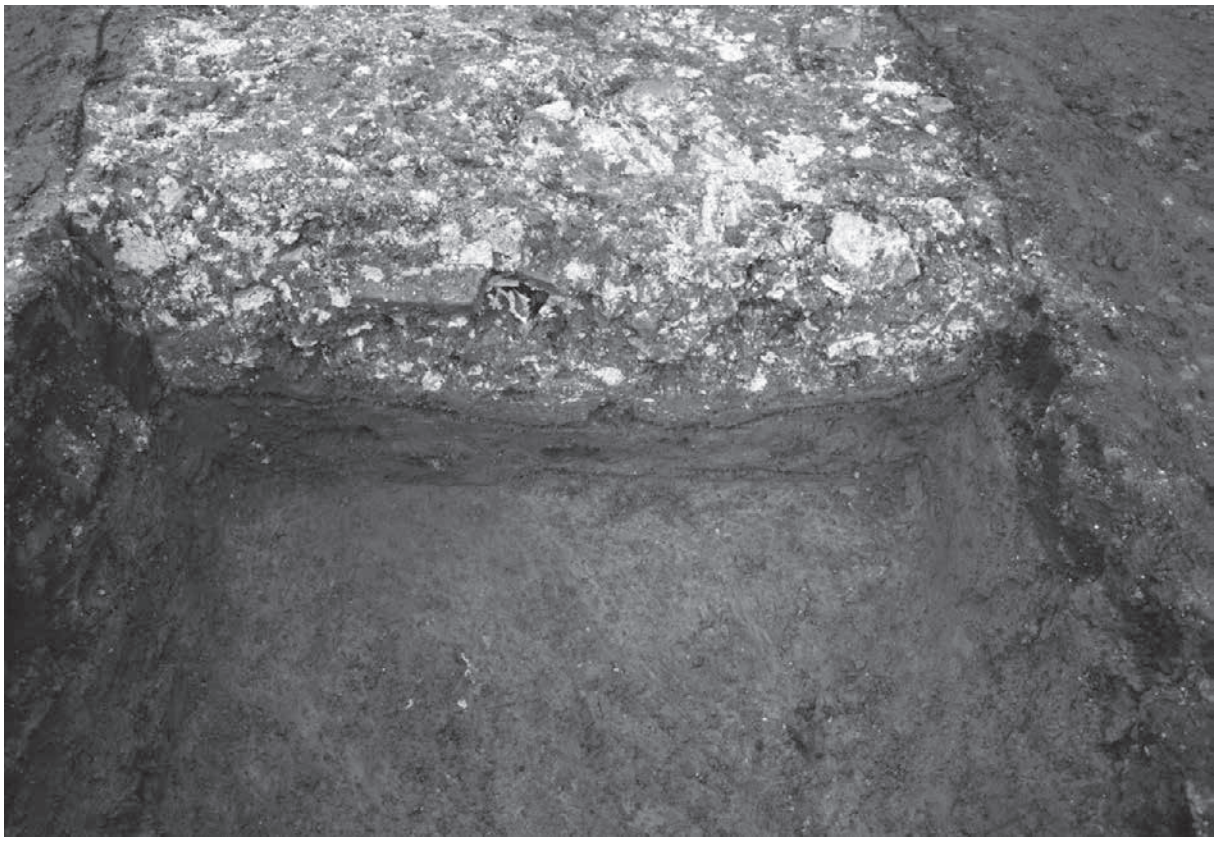


7. B区 SK1 遺物出土状態（北から）



8. B区 SK1 完掘（西から）

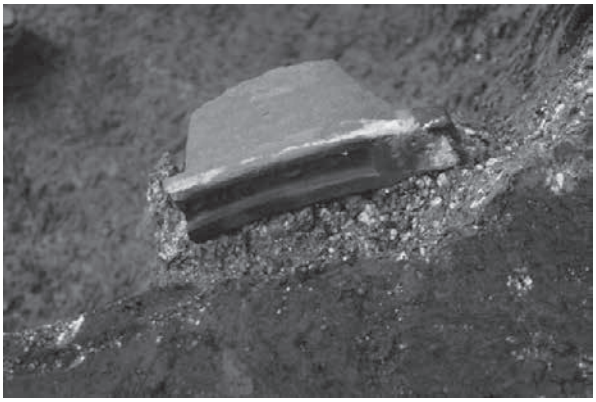
図版70



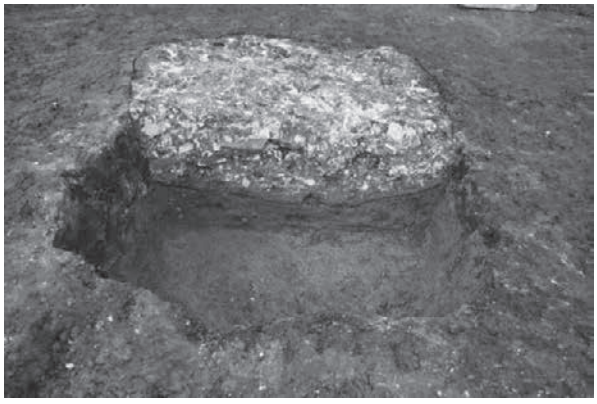
1. M区 SX91 漆喰堆積状態（南から）



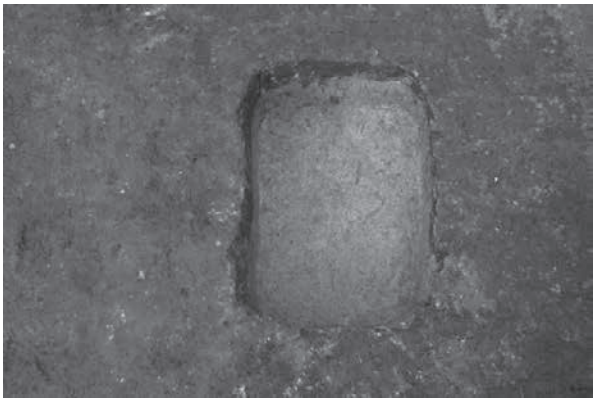
2. M区 SX91 遺物出土状態（南から）



3. M区 SX91 遺物出土状態（東から）



4. M区 SX91 土層断面（南から）



5. M区 SX91 完掘（南から）

図版71



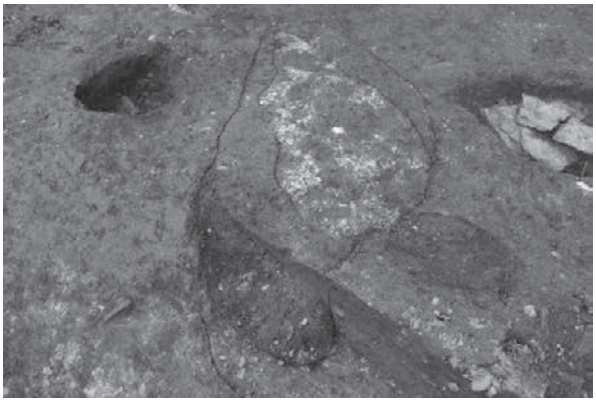
1. N区 SX112 遺物出土状態（東から）



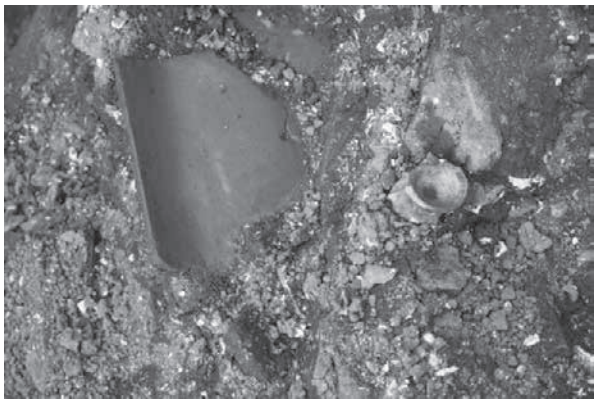
2. N区 SX112 完掘（北から）



3. N区 SX119 検出状態（北から）



4. N区 SX125 漆喰検出状態（北東から）



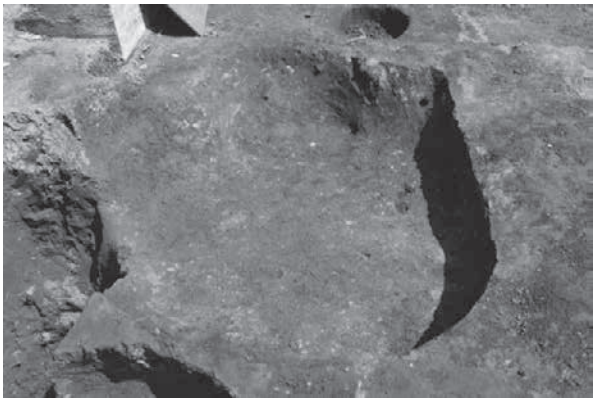
5. N区 SX128 骨・瓦出土状態（東から）



6. N区 SX128 土層断面（南から）



7. N区 SX128 遺物出土状態（東から）



8. N区 SX128 完掘（南から）

図版72



1. A区 SK7 木材出土状態（東から）



2. A区 SK7 木材出土状態（西から）



3. A区 SK7 完掘（北から）



4. F区 SK60 木材出土状態（南から）



5. F区 SK60 土層断面（南から）



6. F区 SK60 下層木材出土状態（西から）



7. F区 SK60 下層木材出土状態（西から）



8. F区 SK60 完掘（西から）

図版73



1. H区 SK68 土層断面（南から）



2. H区 SK68 完掘（南から）



3. H区 SK68・SK70周辺状況 全景（南西から）



4. H区 SK70 土層断面（東から）



5. H区 SK70 完掘（東から）

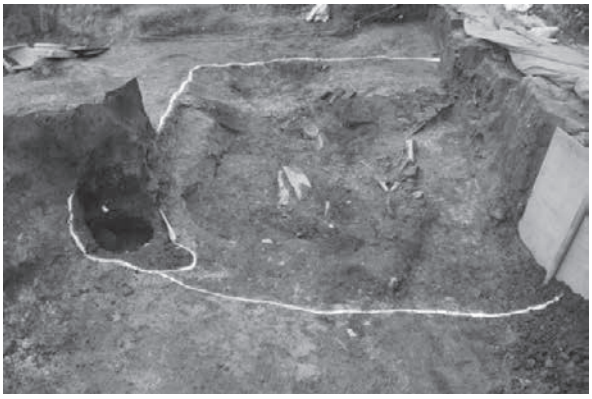
図版74



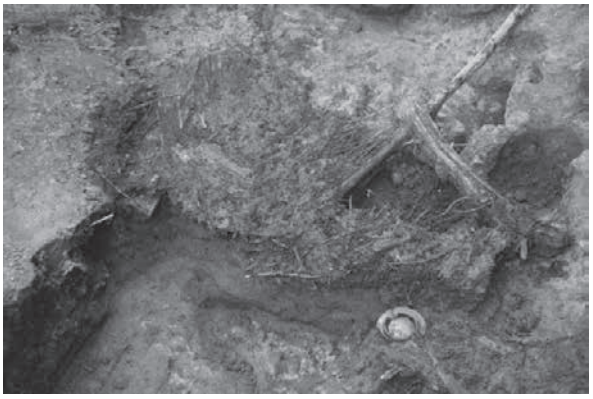
1. N区 SX126北壁 土層断面（南から）



2. N区 SX126 下層木材出土状態（南から）



3. N区 SX137 木材出土状態（北から）

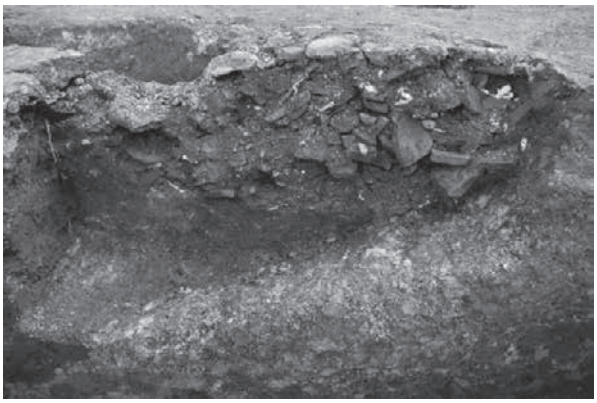


4. N区 SX137 遺物・薄皮状木製品等出土状態（北から）



5. N区 SX137 木製品・木材出土状態（南から）

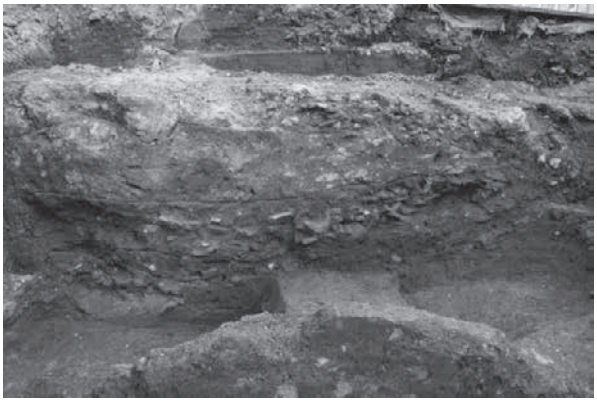
図版75



1. E区 SK36 土層断面（南から）



2. E区 SK37 土層断面（南から）



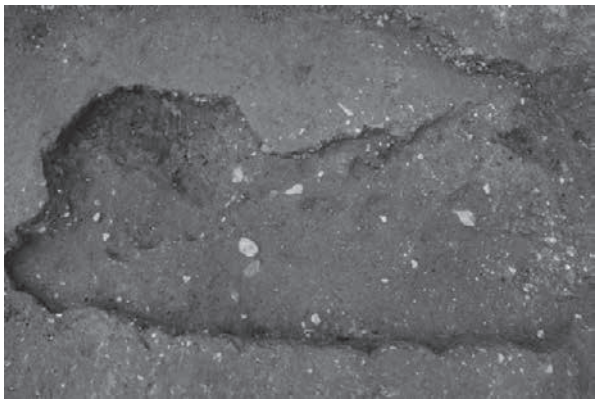
3. E区 SK47 東壁土層断面（西から）



4. E区 SK47 完掘（東から）



5. F区 SK61 土層断面（東から）



6. F区 SK61 完掘（東から）



7. G区 SK67A 検出状態（南西から）



8. G区 SK67A 土層断面（東から）

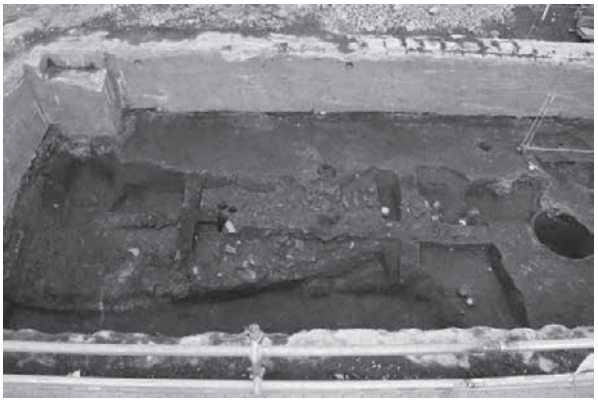
図版76



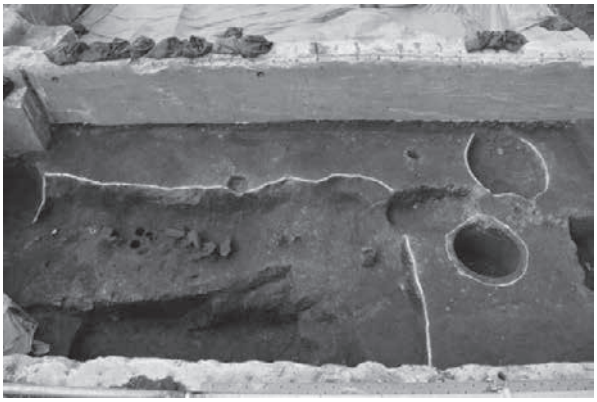
1. A区 SX7 土層断面（南から）



2. A区 SX7 完掘（北から）



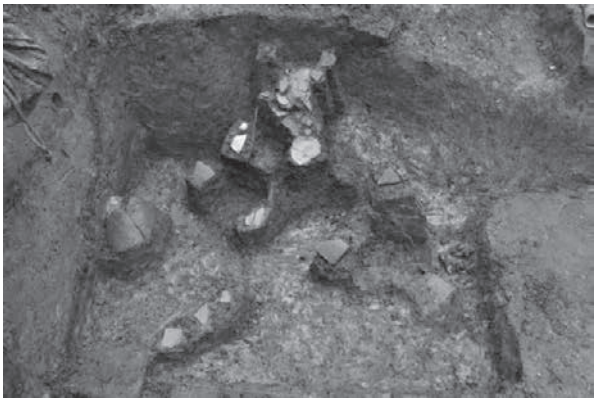
3. I区 SX31 遺物出土状態（南から）



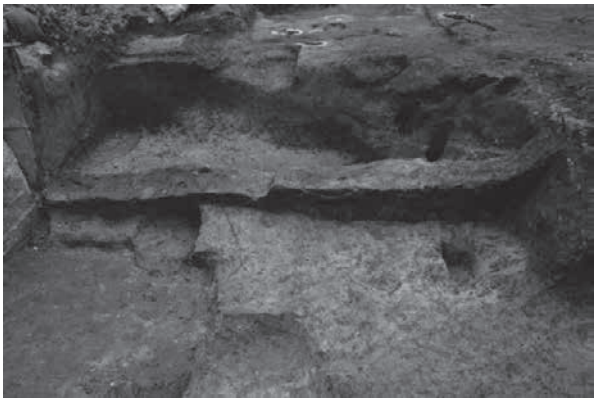
4. I区 SX31 上部完掘（南から）



5. I区 SX31 遺物出土状態（南から）



6. I区 SX39 遺物出土状態（東から）

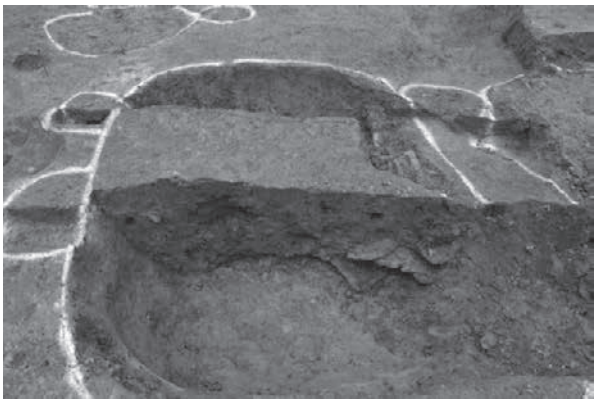


7. I区 SX39 土層断面（東から）

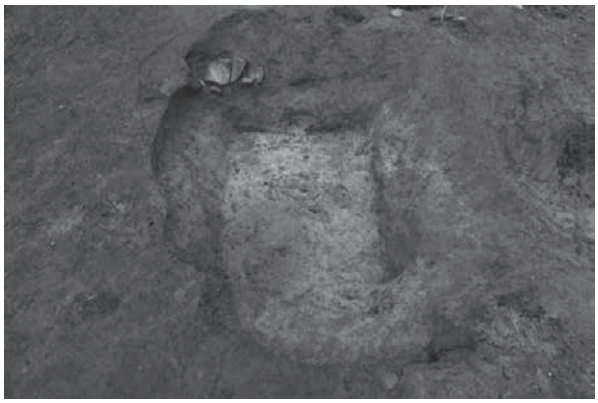


8. I区 SX39 完掘（東から）

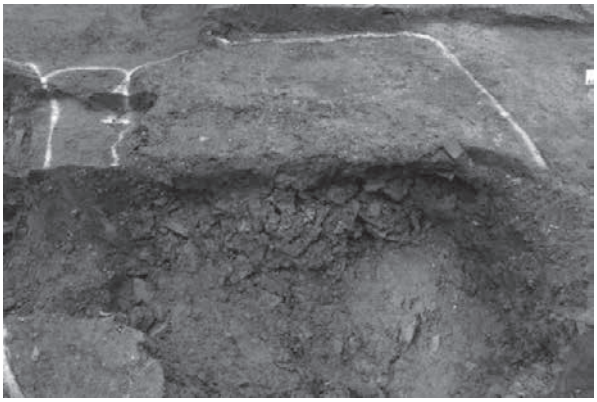
図版77



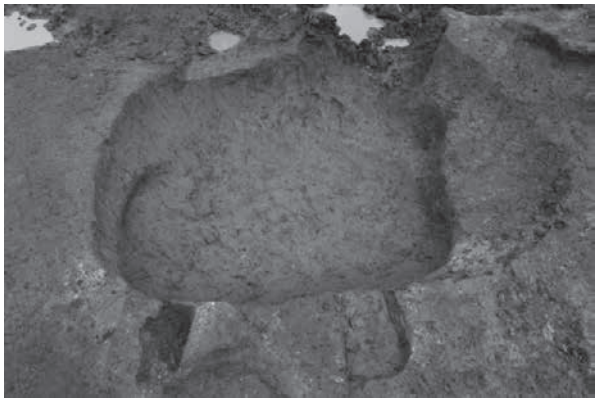
1. J区 SX68 土層断面（南から）



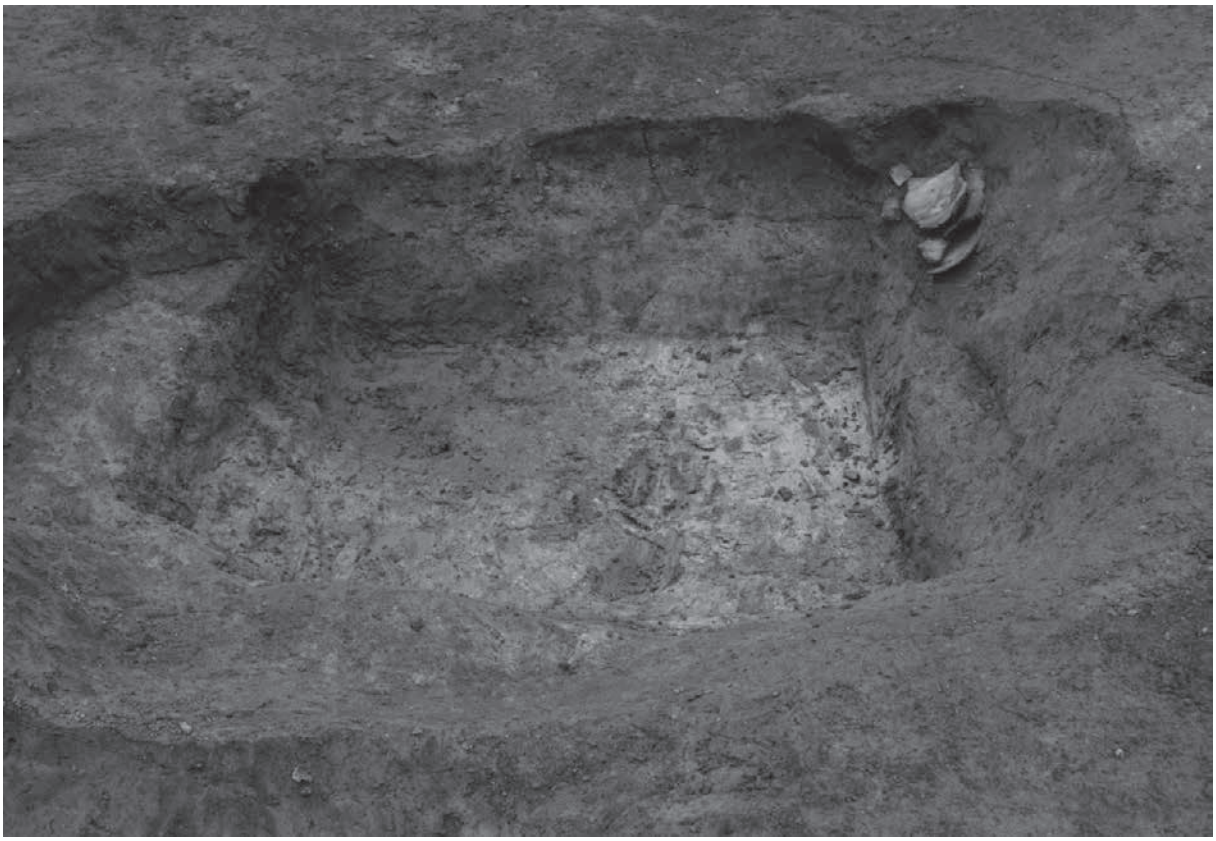
2. J区 SX68 完掘（西から）



3. J区 SX69 土層断面（南から）



4. J区 SX69 完掘（北から）



5. J区 SX69 完掘（西から）

図版78



1. N区 SX114 瓦出土状態（西から）



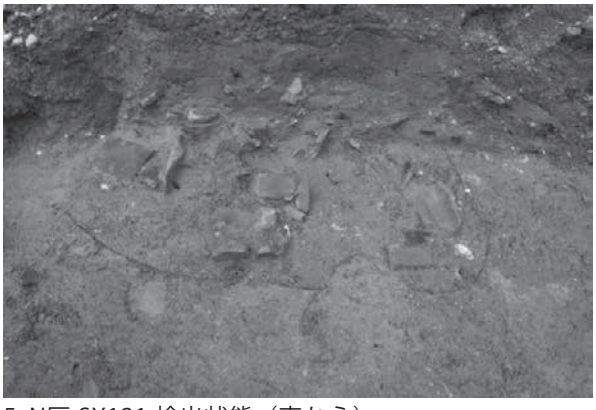
2. N区 SX120 遺物出土状態 （東から）



3. N区 SX120 土層断面（南から）

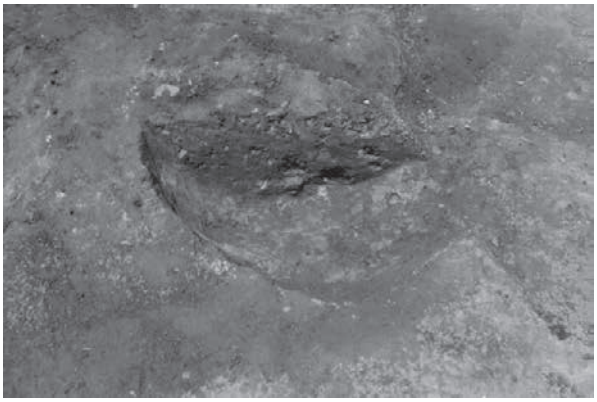


4. N区 SX106 検出状態（東から）

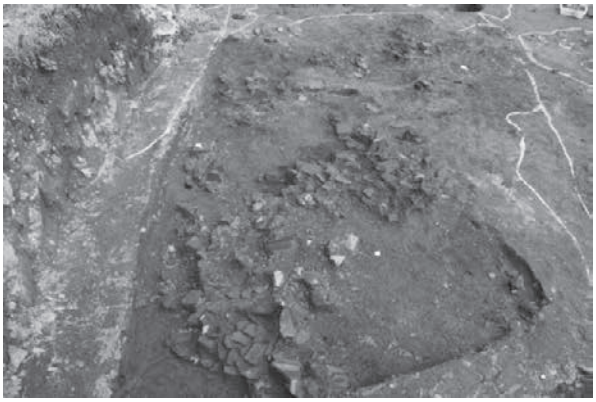


5. N区 SX121 検出状態（東から）

図版79



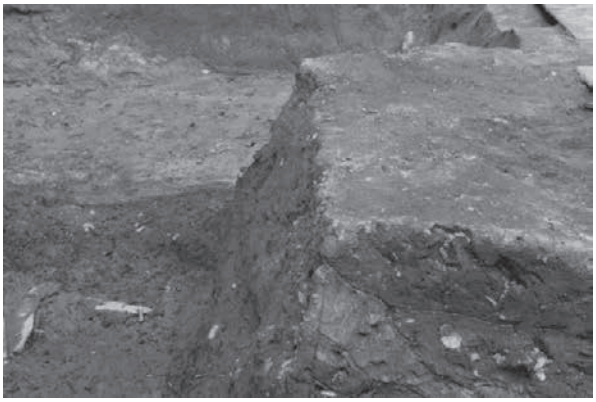
1. N区 SX124 土層断面（東から）



2. N区 SX126・SX127（瓦） 出土状態（南から）



3. N区 SX126 上部土層断面（南から）

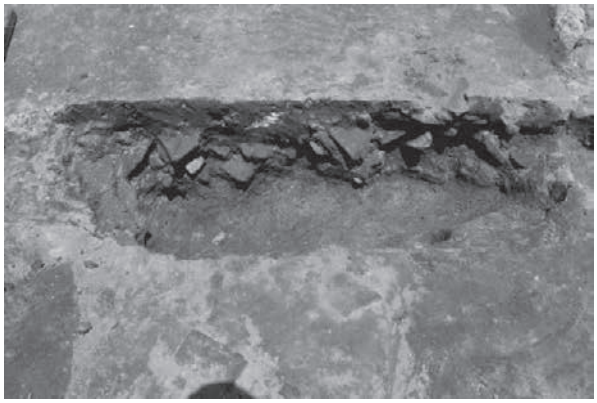


4. N区 SX126 東壁全景（南から）

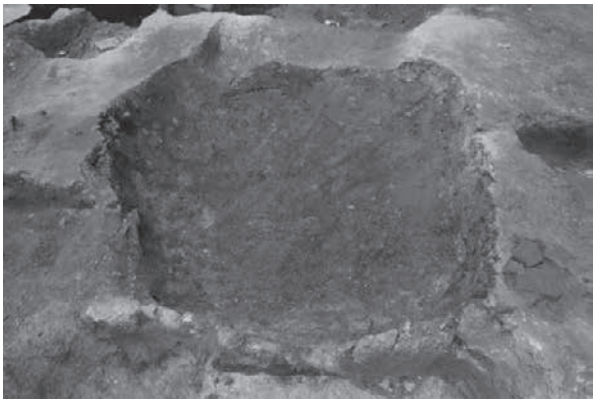


5. N区 SX126 瓦と土器皿出土状態（北から）

図版80



1. N区 SX129 土層断面（南から）



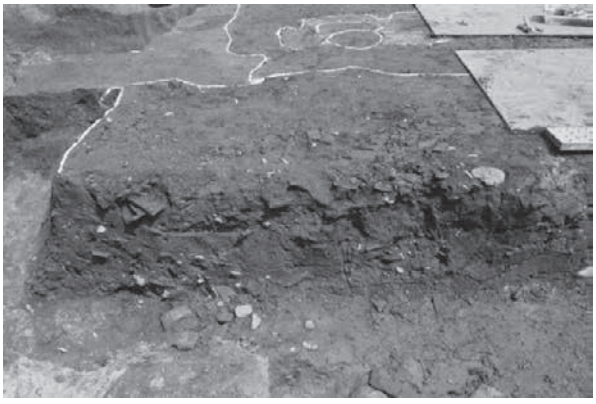
2. N区 SX129 完掘（東から）



3. N区 江戸面遺構検出状態 SX130他（東から）

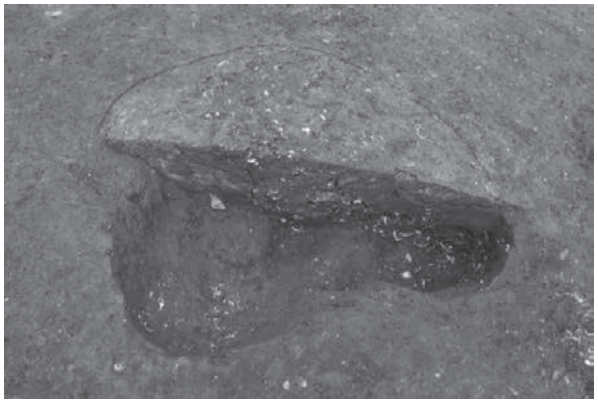


4. N区 SX132 東側プラン検出状態（北から）

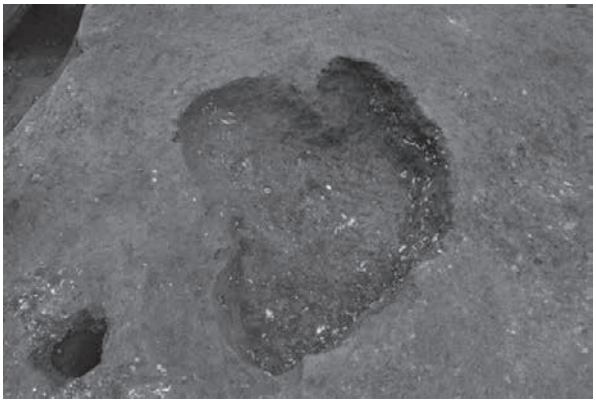


5. N区 SX132東壁・SX134土層断面（南から）

図版81



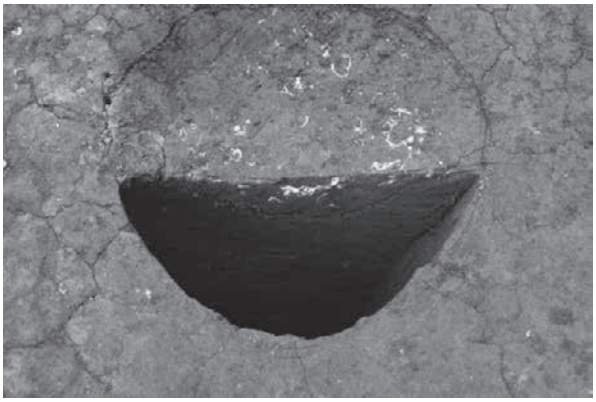
1. I区 SK100 土層断面（南から）



2. I区 SK100 完掘（東から）



3. I区 SK97 土層断面（南から）



4. J区 SP316 土層断面（南から）



5. A区 SX3 北側貝堆積状態（東から）

図版82



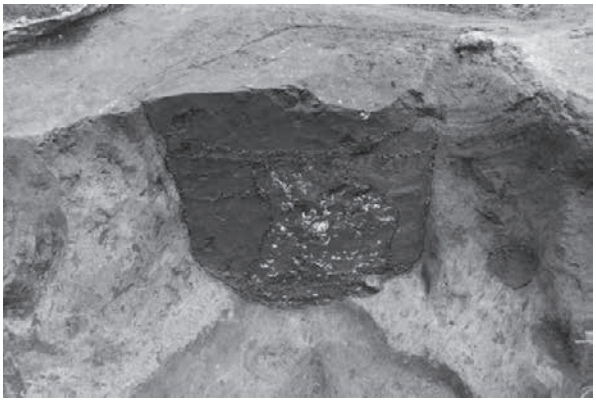
1. J区 SX14 検出状態（南から）



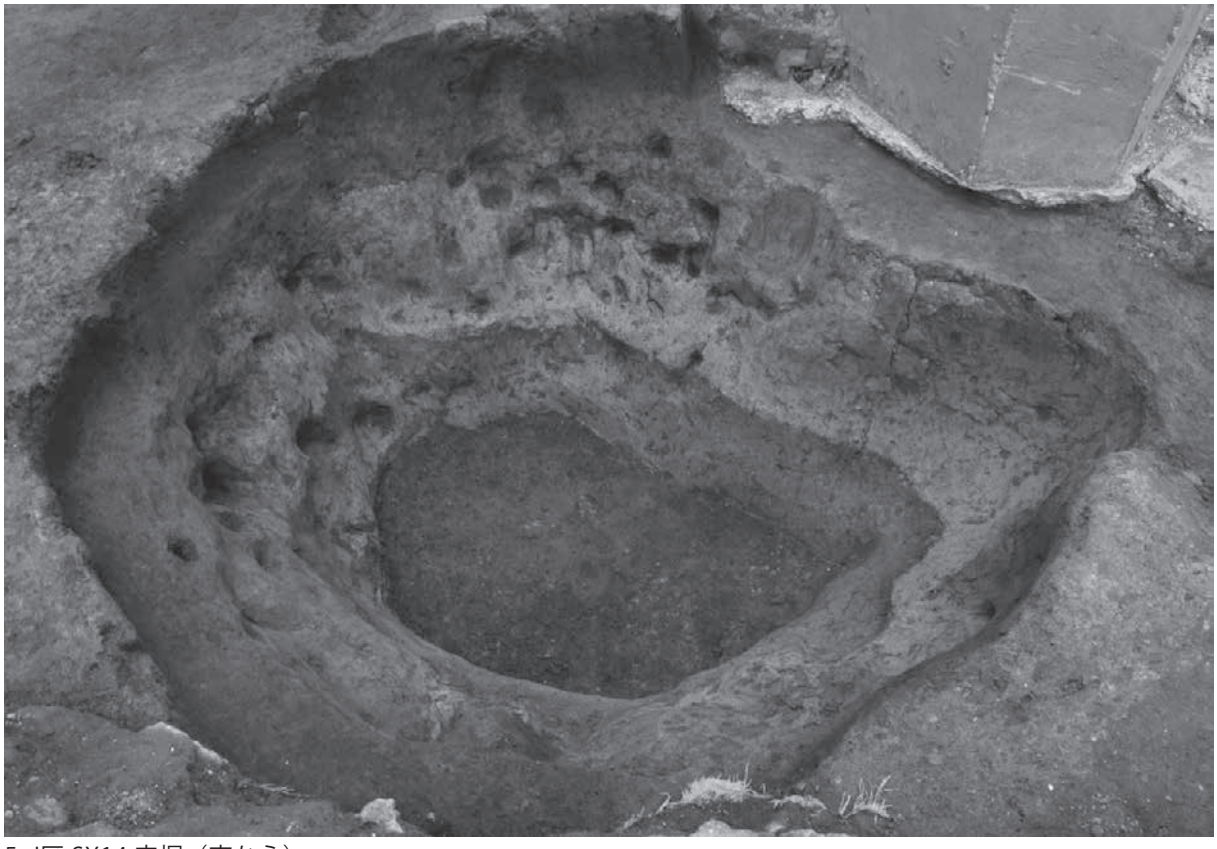
2. J区 SX14 骨出土状態（東から）



3. J区 SX14 土層断面（南から）



4. J区 SX62 土層断面（西から）



5. J区 SX14 完掘（南から）

図版83



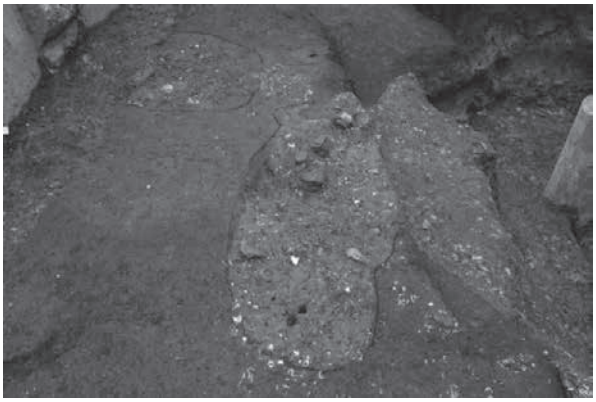
1. J区 SX34 検出状態（東から）



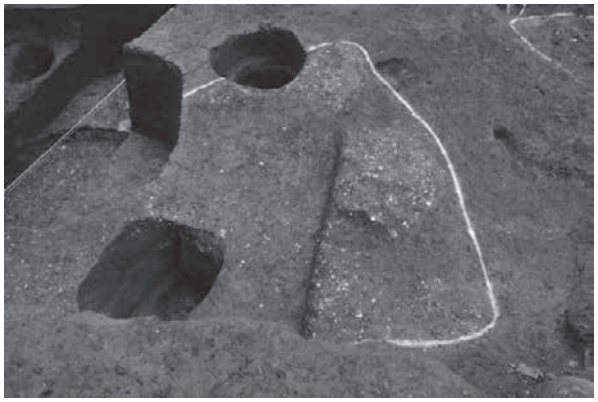
2. J区 SX34 土層断面（東から）



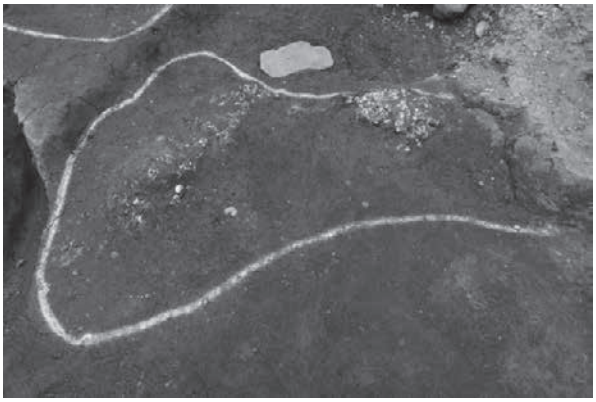
3. J区 SX34 土層断面（東から）



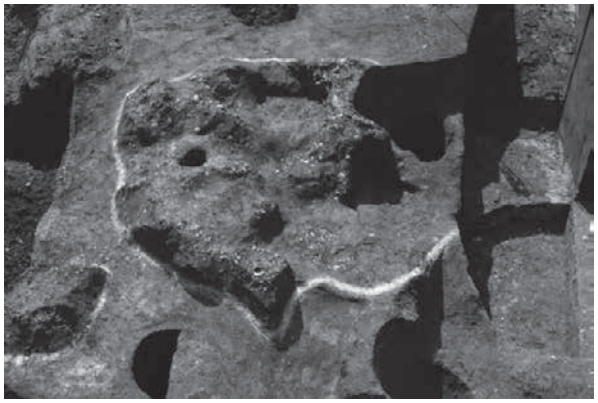
4. J区 SX37 検出状態（東から）



5. I区 SX38 検出状態（東から）



6. I区 SX41 検出状態（南から）

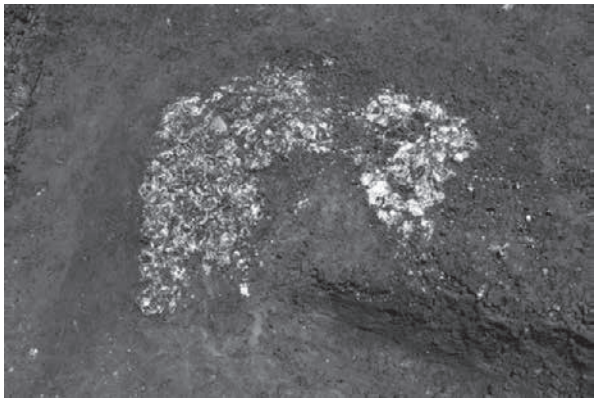


7. I区 SX42 検出状態（東から）

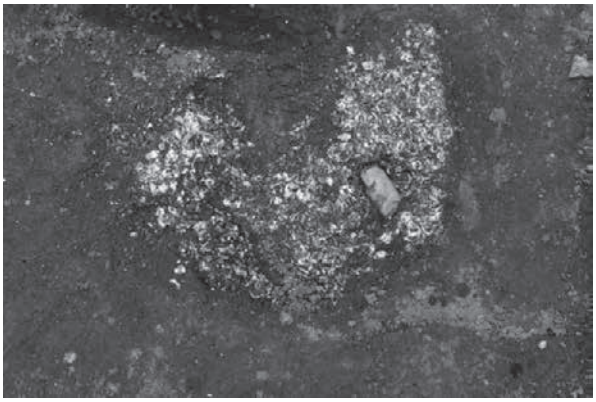


8. I区 SX42 土層断面（南から）

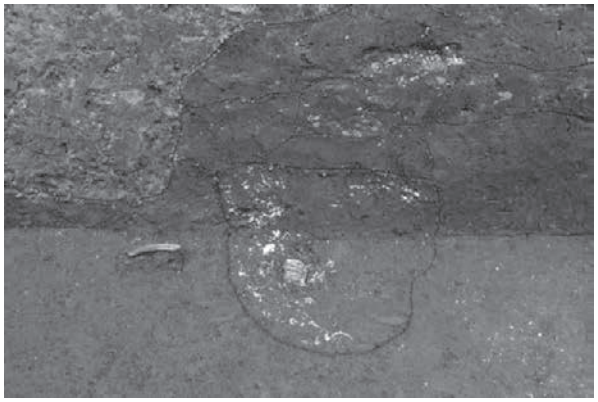
図版84



1. I区 SX43 検出状態（西から）



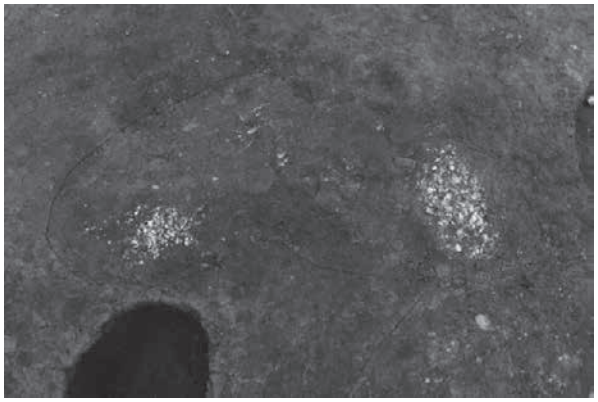
2. I区 SX44 検出状態（南から）



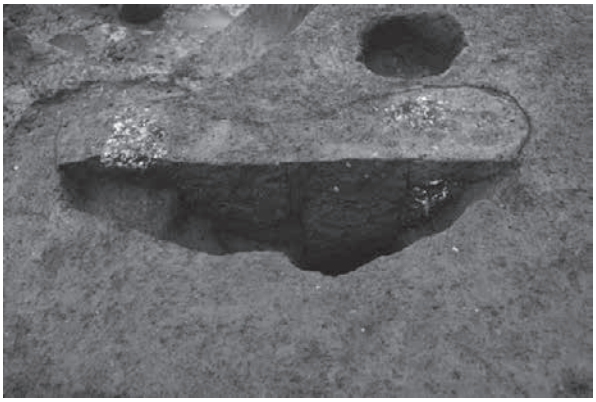
3. I区 SX45 骨・貝出土状態（西から）



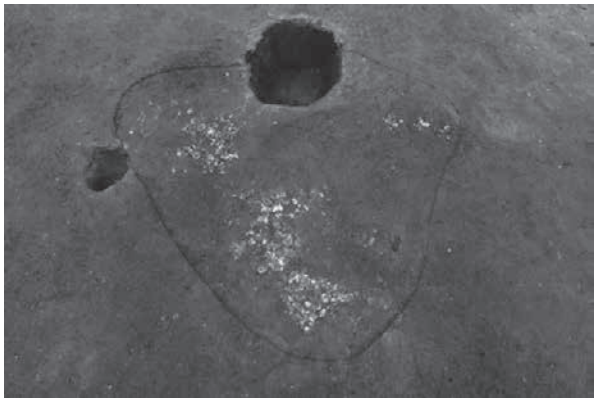
4. I区 SX46 検出状態（東から）



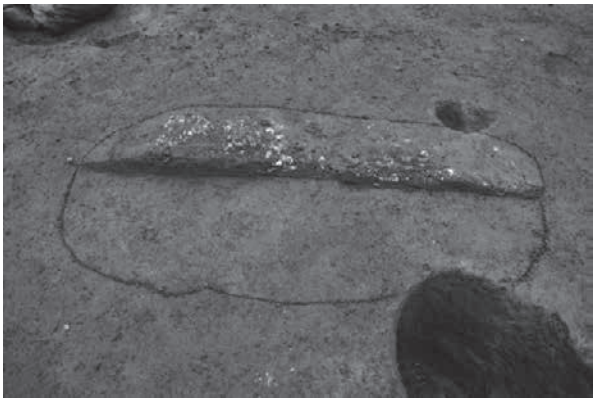
5. J区 SX48 検出状態（南東から）



6. J区 SX48 土層断面（北西から）

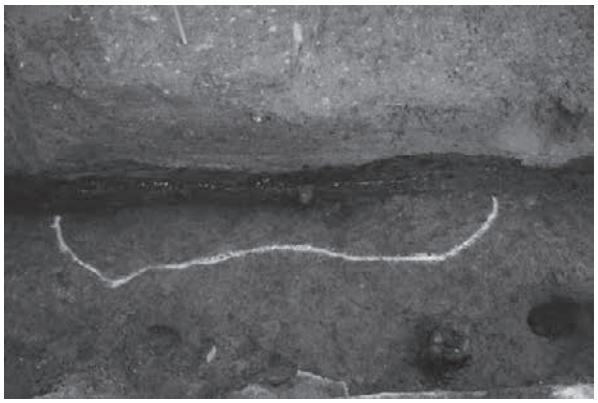


7. J区 SX49 検出状態（南から）

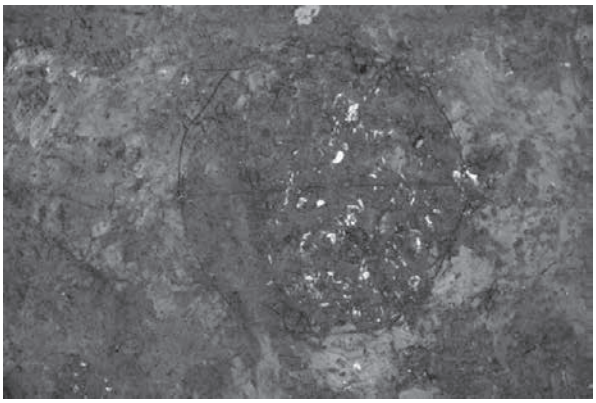


8. J区 SX49 上部土層断面（北東から）

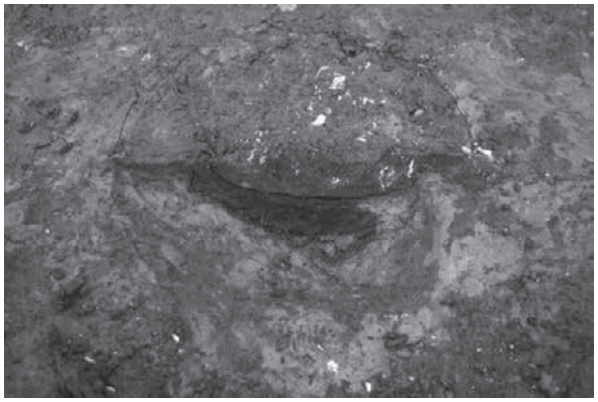
図版85



1. M区 SX81 土層断面（西から）



2. L区 SX89 検出状態（北から）



3. L区 SX89 土層断面（北から）



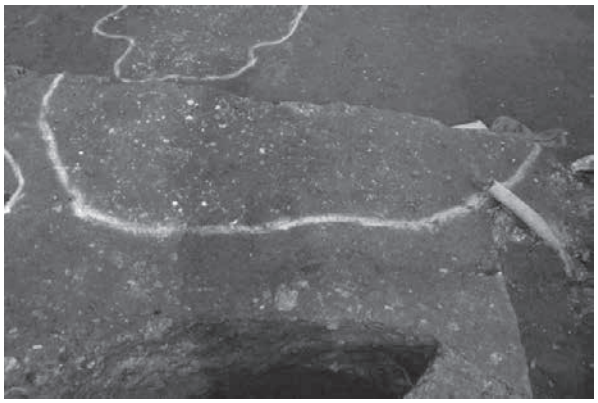
4. M区 SX92 検出状態（南から）



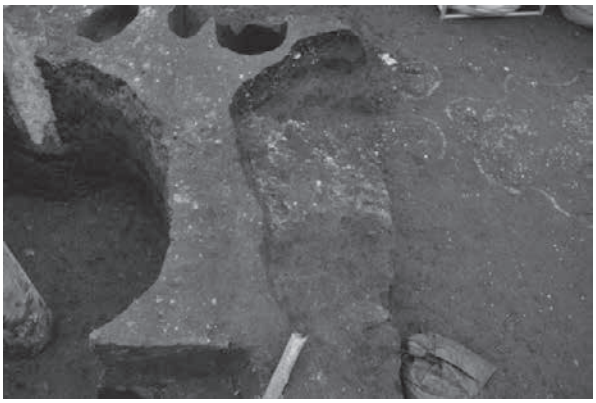
5. M区 SX92 土層断面（北から）



6. M区 SX92 完掘（西から）

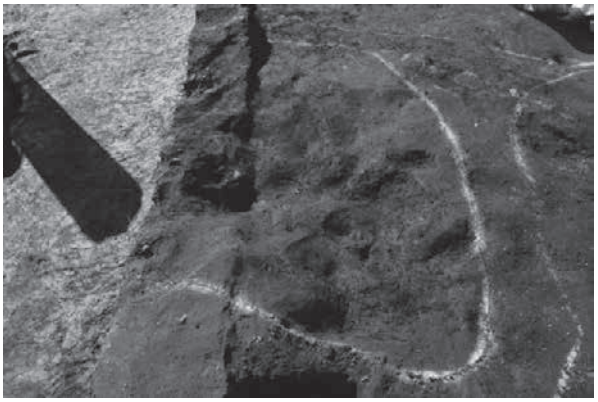


7. M区 SX93 検出状態（南から）



8. M区 SX93 完掘（東から）

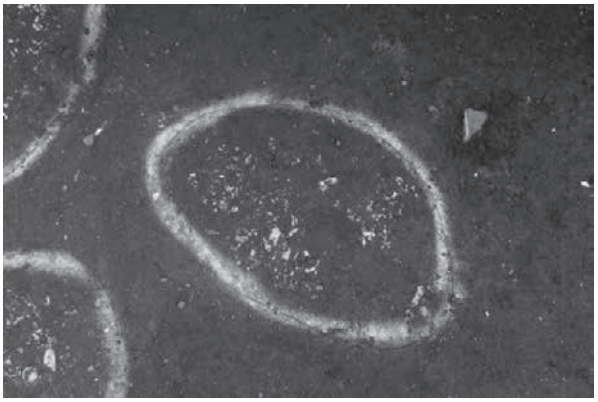
図版86



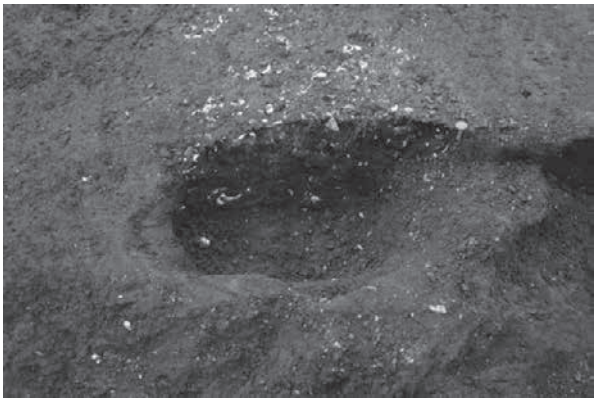
1. M区 SX94 完掘（南東から）



2. M区 SX94 種子出土状態（北から）



3. M区 SX95 検出状態（北から）



4. M区 SX95 土層断面（南東から）

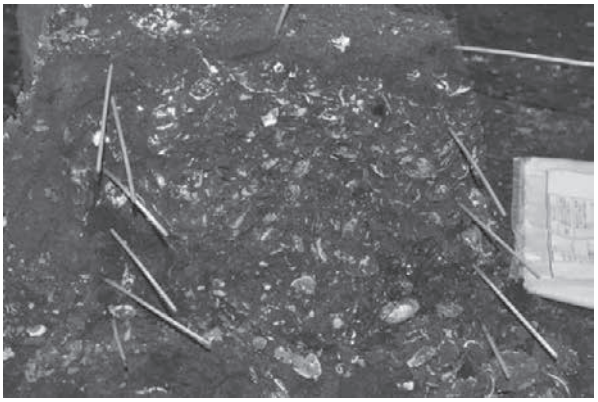


5. M区 SX96 検出状態（東から）

図版87



1. M区 SX96 貝層サンプリング状況



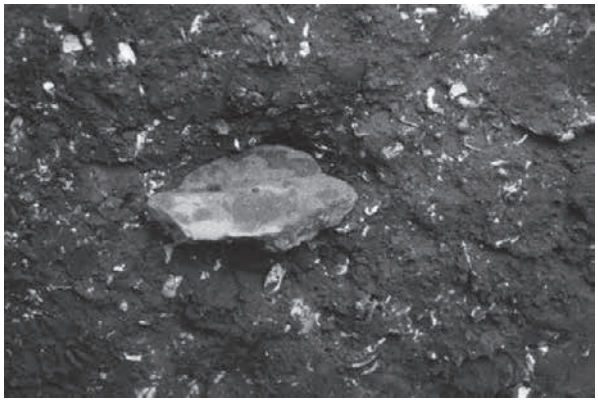
2. M区 SX96 貝層サンプリング状況



3. M区 SX96 土層断面（南東から）



4. M区 SX96 完掘（南東から）



5. M区 SX96 遺物出土状態（西から）



6. M区 SX97 検出状態（東から）

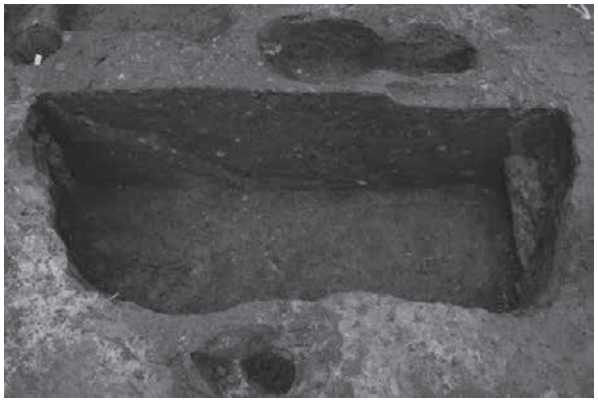


7. M区 SX97 遺物出土状態（東から）

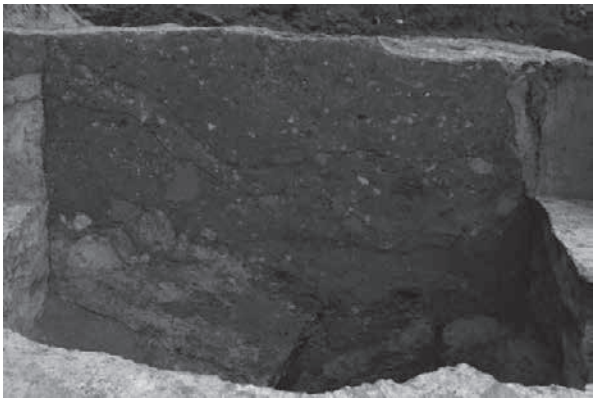


8. M区 SX97 土層断面（南東から）

図版88



1. C区 SK30A 上部土層断面（西から）



2. C区 SK30A 土層断面（西から）



3. C区 SK30B 桶検出状態（南から）



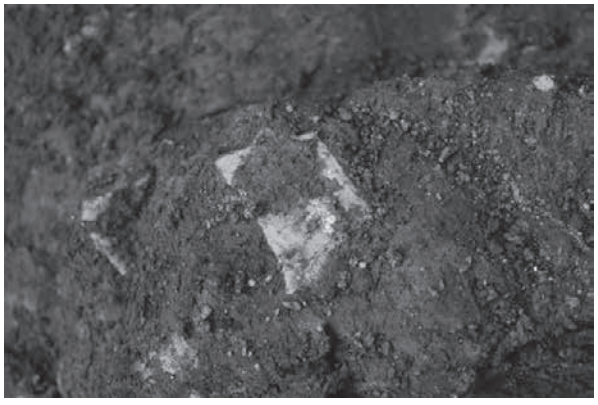
4. C区 SK30B 完掘（北から）



5. I区 SM1 検出状態（西から）



6. I区 SM1 遺物出土状態（南から）



7. I区 SM1 第2面金箔土器出土状態（南から）



8. I区 SM1 全景（南から）

図版89



1. K区 全景（南西から）



2. K区 SM2 土層断面（西から）



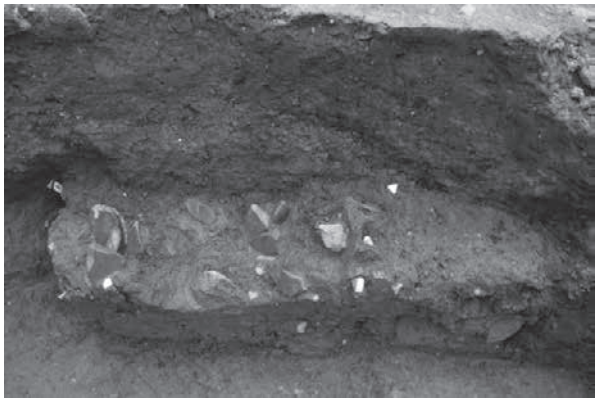
3. K区 SM2 遺物出土状態（南から）



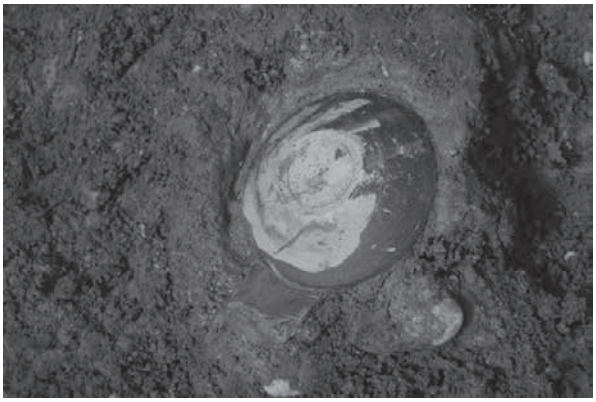
4. K区 SM2 完掘（東から）



5. K区 SM3(左)・SK114(右) 土層断面（南から）



6. K区 SM3 遺物出土状態（西から）



7. K区 SM3 遺物出土状態（南から）



8. K区 SM3 完掘（南から）

図版90



1. K区 SM4 土層断面（西から）



2. K区 SM4（右）・SK117（左） 完掘（西から）



3. J区 SX70 土層断面（北から）



4. J区 SX70 完掘（北から）

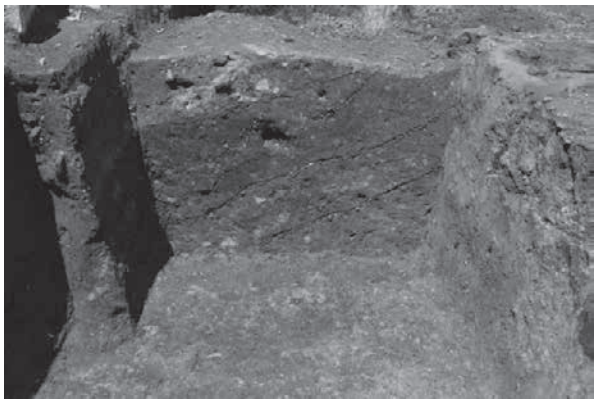


5. F区 SX21 遺物出土状態（西から）

図版91



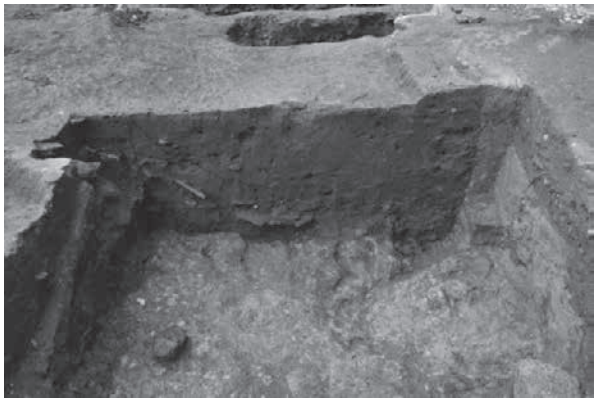
1. N区 SM6 完掘（北から）



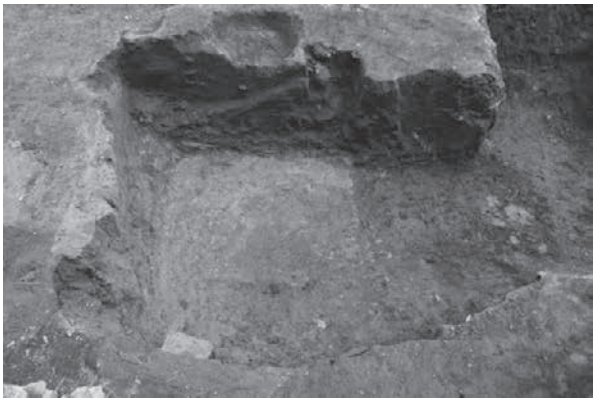
2. N区 SM6 土層断面（南から）



3. N区 SM6下部トレンチ 土層断面（南東から）



4. N区 SX127 土層断面（北から）



5. N区 SX127 完掘（西から）

図版92



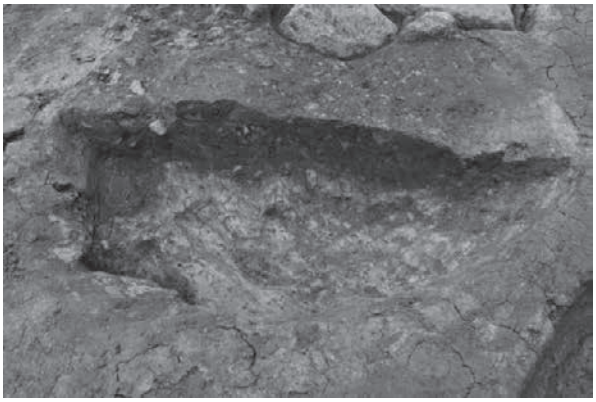
1. B区 SK21 土層断面（北から）



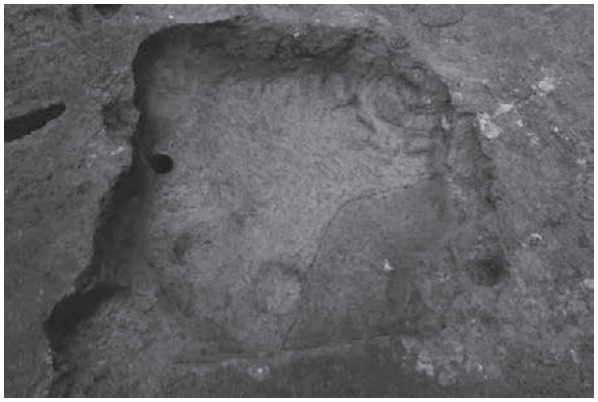
2. B区 SK21 完掘（北から）



3. B区 SK22 土層断面（北から）



4. C区 SK25 土層断面（北から）



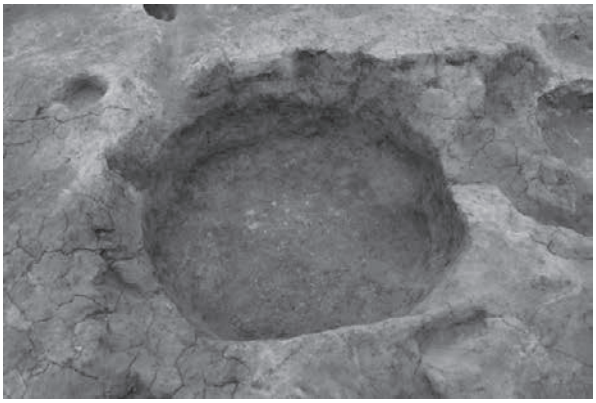
5. C区 SK29 完掘（東から）



6. E区 SK40 土層断面（南から）



7. D区 SK35 土層断面（西から）



8. D区 SK35 完掘（西から）

図版93



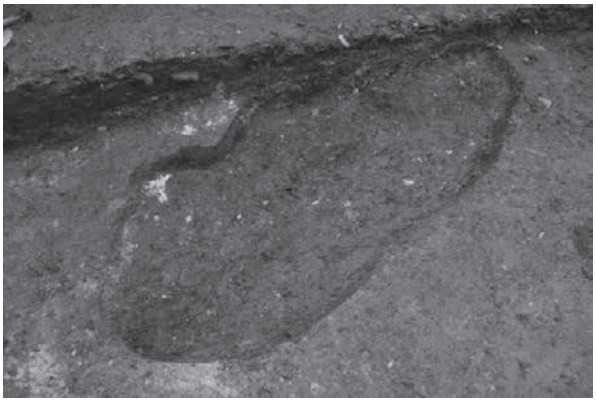
1. F区 SK53 礫出土状態（南から）



2. F区 SK53 土層断面（南から）



3. F区 SK54 検出状態（北から）



4. F区 SK58 完掘（北から）



5. F区 SK55 土層断面（東から）



6. F区 SK55 完掘（南から）



7. F区 SK63 土層断面（南から）



8. F区 SK63 完掘（西から）

図版94



1. F区 SK64 土層断面（南から）



2. F区 SK64 完掘（西から）



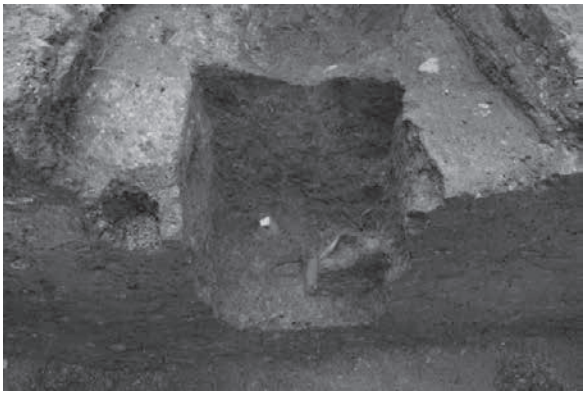
3. H区 SK72 土層断面（南から）



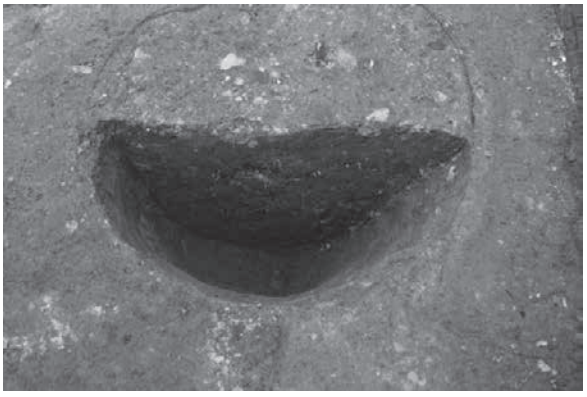
4. H区 SK73（右）・SP229（左） 土層断面（東から）



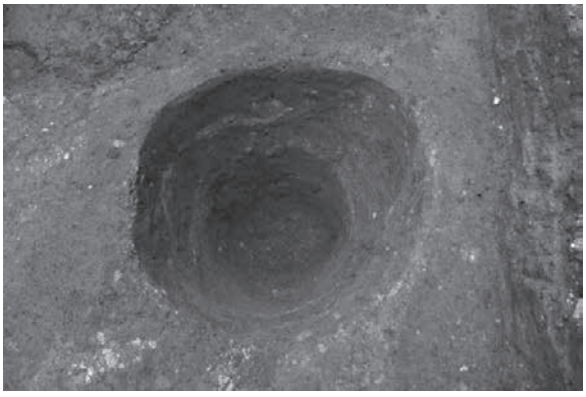
5. I区 SK77 完掘（南から）



6. I区 SK77 遺物出土状態（北から）

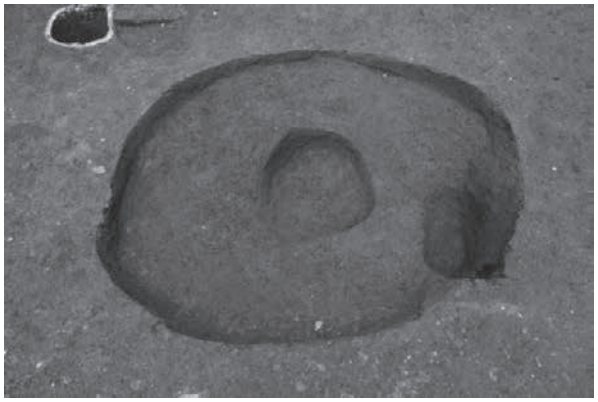


7. I区 SK99 土層断面（南から）



8. I区 SK99 完掘（南から）

図版95



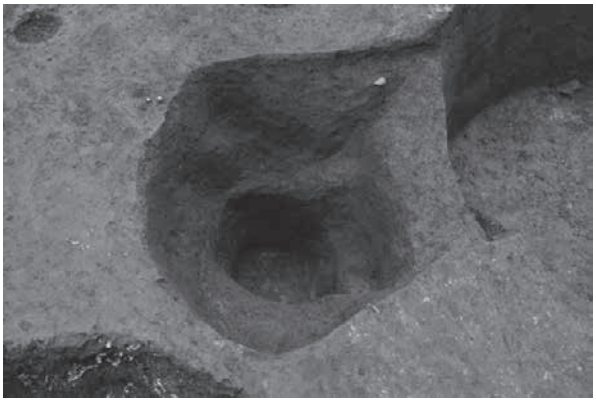
1. J区 SK90 完掘（南から）



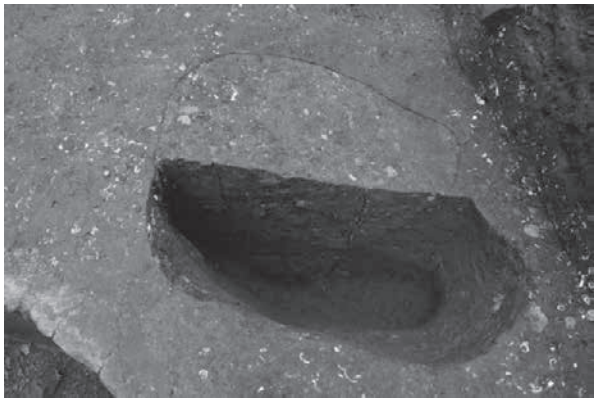
2. J区 SK105 土層断面（南から）



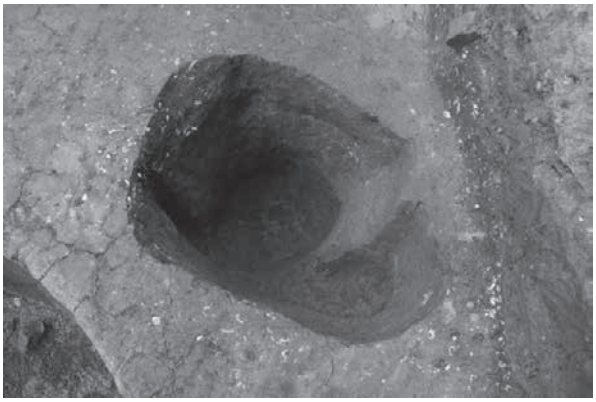
3. I区 SK103 土層断面（南から）



4. I区 SK103 完掘（南から）



5. I区 SK104 土層断面（南から）



6. I区 SK104 完掘（南から）



7. I区 SK108 土層断面（東から）



8. I区 SK108 完掘（東から）

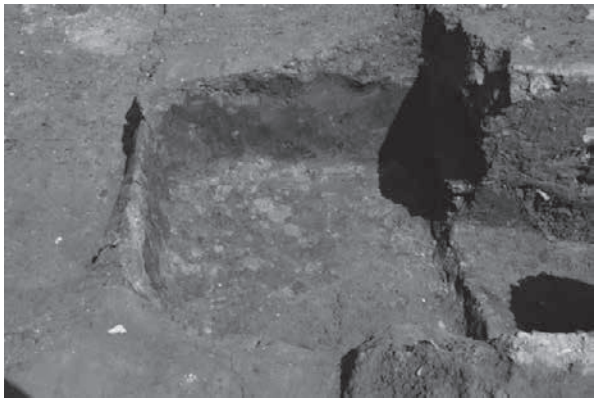
図版96



1. K区 SK113 土層断面（南から）



2. K区 SK113 完掘（北東から）



3. K区 SK117 完掘（西から）



4. E区 SX18 調査状況（南から）

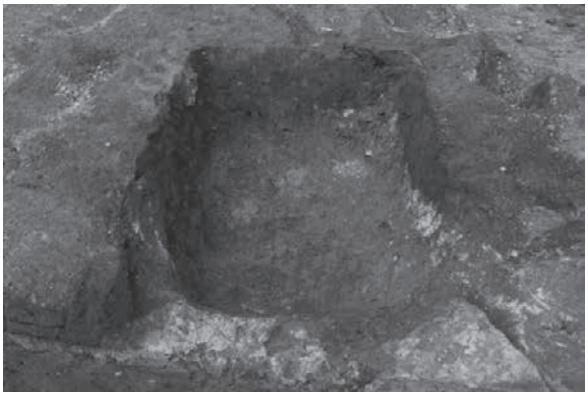


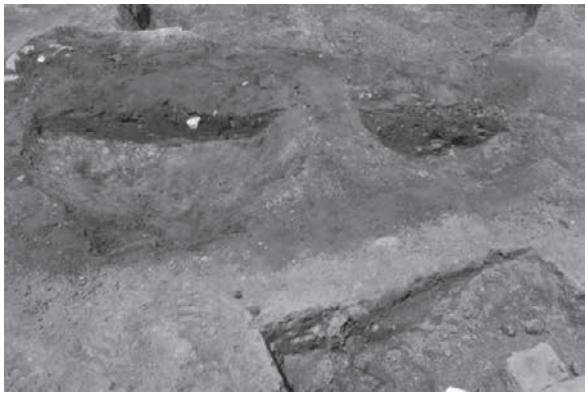
5. E区 SX18 土層断面（南から）

図版97


1. N区 SX127 土層断面（南から）

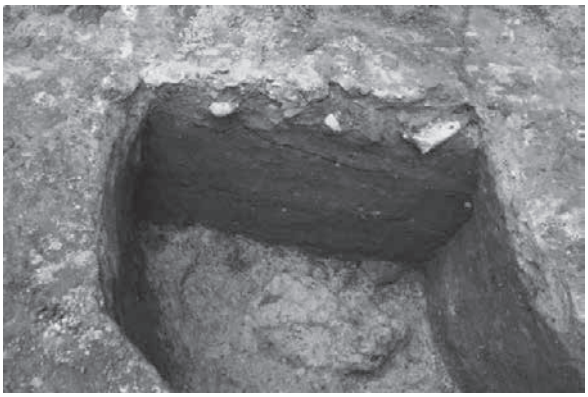

2. N区 SK138 完掘（南から）

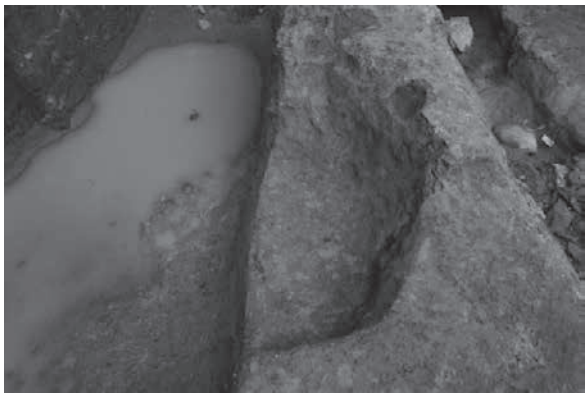

3. N区 SK140 完掘（東から）


4. N区 SK140（左）・SX124（右） 土層断面（東から）

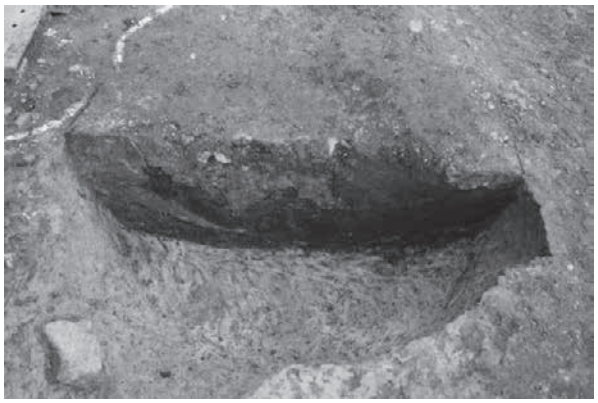

5. N区 SK141 土層断面（南から）


6. N区 SK141 完掘（南から）


7. N区 SK143 土層断面（東から）


8. N区 SK147 完掘（西から）

図版98



1. N区 SK150 土層断面（南から）



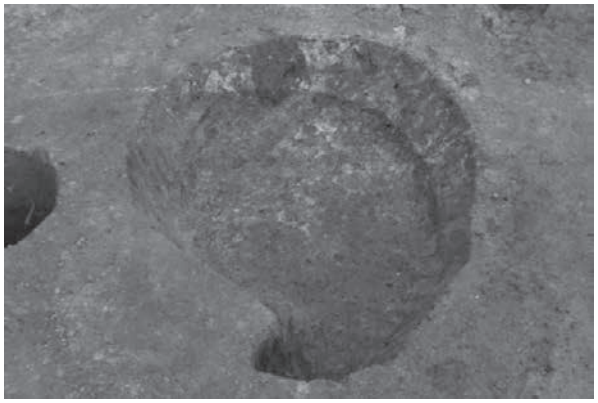
2. N区 SK150（左）・SK152（右） 完掘（西から）



3. N区 SK153 土層断面（東から）



4. N区 SK153 完掘（東から）



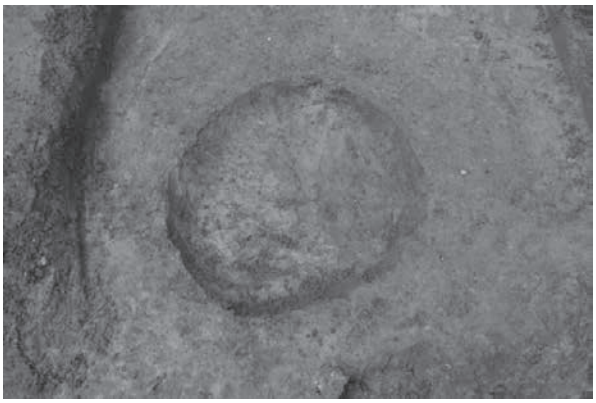
5. N区 SK158 完掘（南から）



6. N区 SK161 土層断面（東から）



7. N区 SK162 土層断面（北から）



8. N区 SK163 完掘（南から）

図版99



1. A区 SP5（右）・SP6（左） 土層断面（東から）



2. A区 SP5（右）・SP6（左） 完掘（西から）



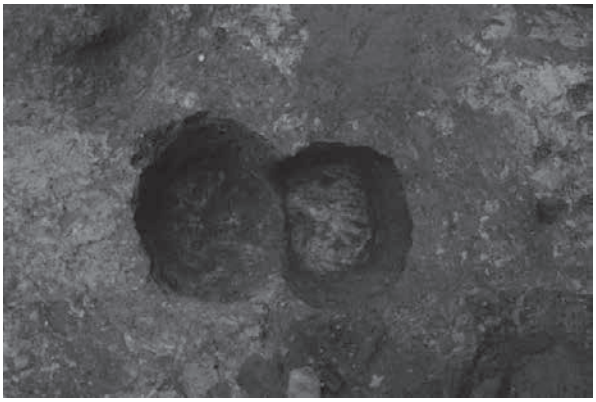
3. A区 SP28（右）・SP30（左） 土層断面（西から）



4. B区 SP62 土層断面（南から）



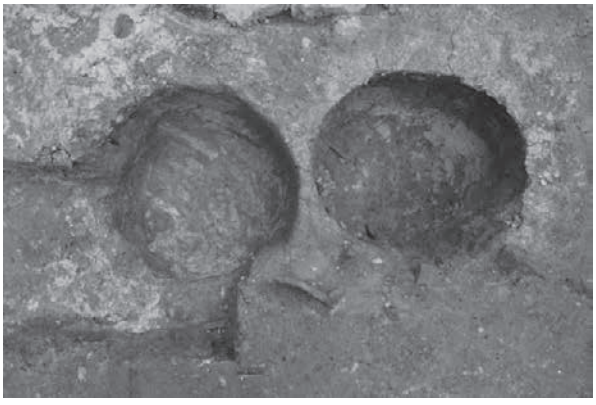
5. C区 SP71 土層断面（南から）



6. C区 SP71（右）・SP84（左）完掘（北から）



7. C区 SP74 土層断面（北から）



8. C区 SP74（左）・SP82（右） 完掘（東から）

図版100



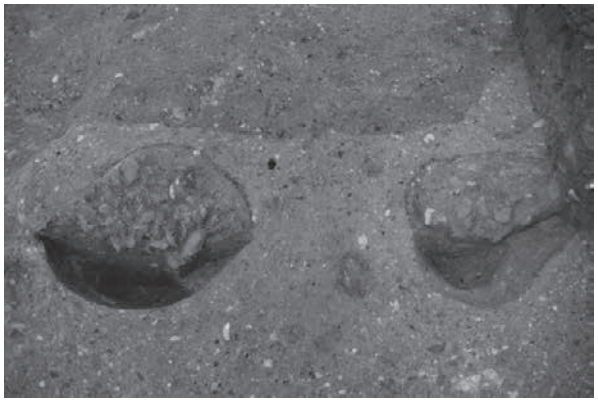
1. F区 SP170 土層断面（南から）



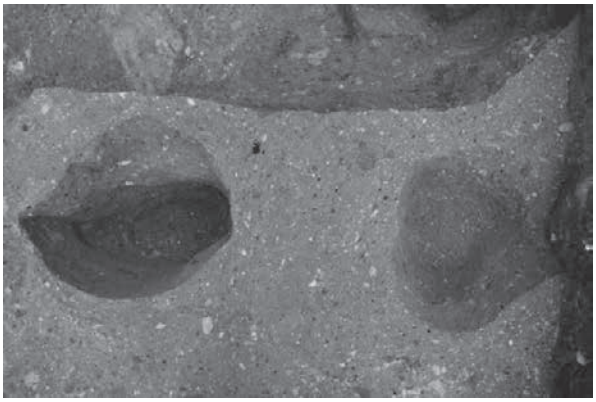
2. F区 SP170 完掘（南から）



3. F区 SP171 土層断面（西から）



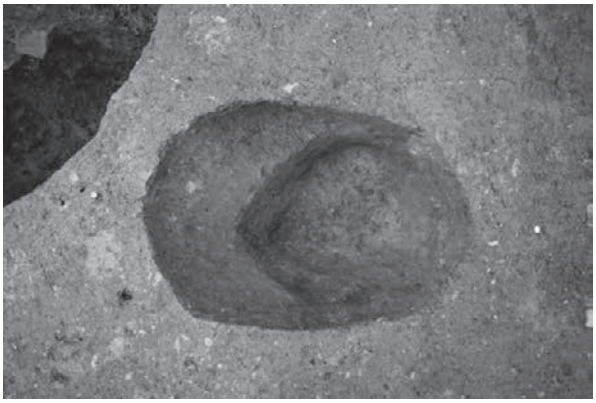
4. F区 SP183（左）・SP184（右） 土層断面（南から）



5. F区 SP183（左）・SP184（右） 完掘（南から）



6. F区 SP190 土層断面（南から）



7. F区 SP190 完掘（南から）

図版101



1. F区 SP194 土層断面（南から）



2. F区 SP194 完掘（西から）



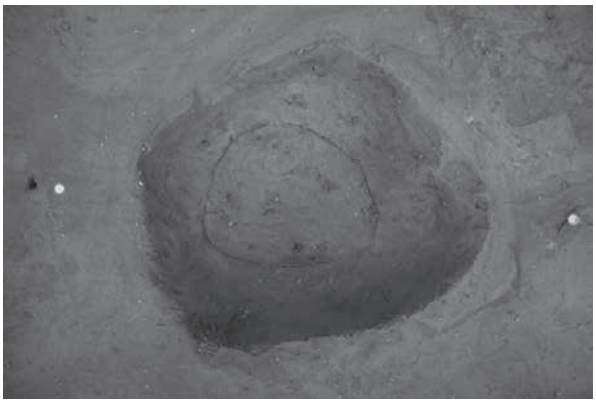
3. F区 SP197 土層断面（南から）



4. H区 SP207 土層断面（北から）



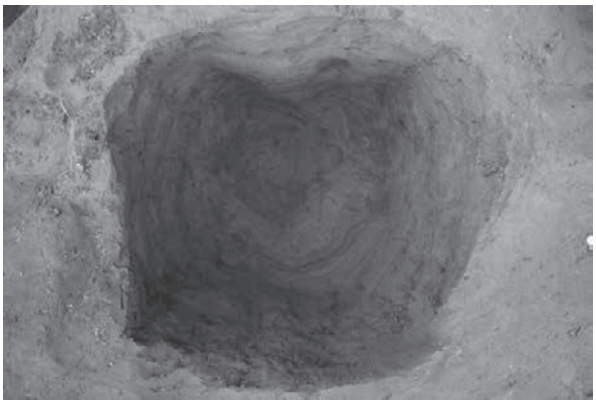
5. H区 SP206 土層断面（東から）



6. H区 SP206 完掘（東から）



7. H区 SP208 土層断面（東から）

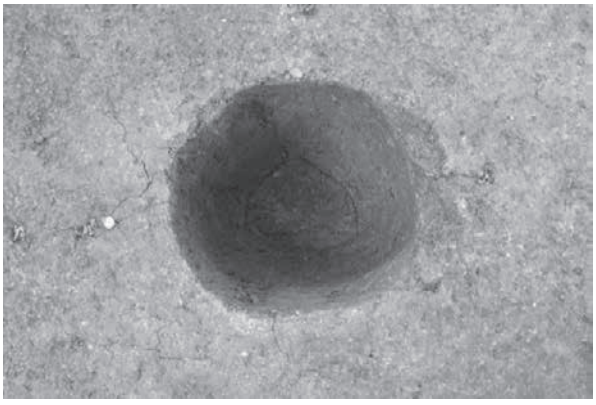


8. H区 SP208 完掘（東から）

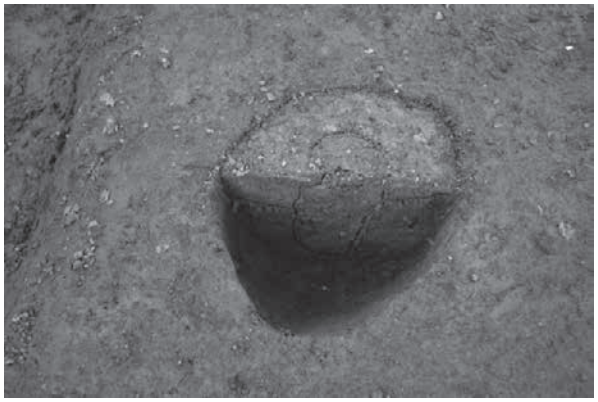
図版102



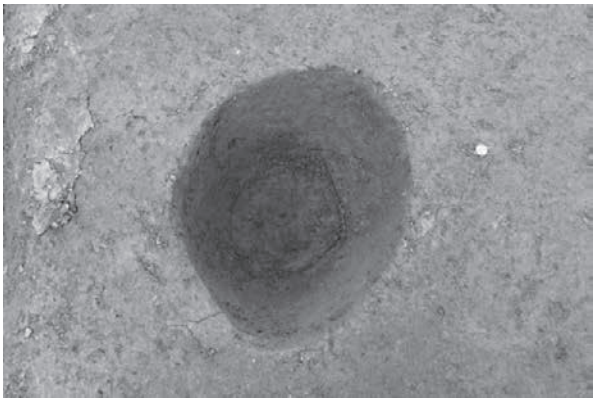
1. J区 SP256 土層断面（南から）



2. J区 SP256 完掘（南から）



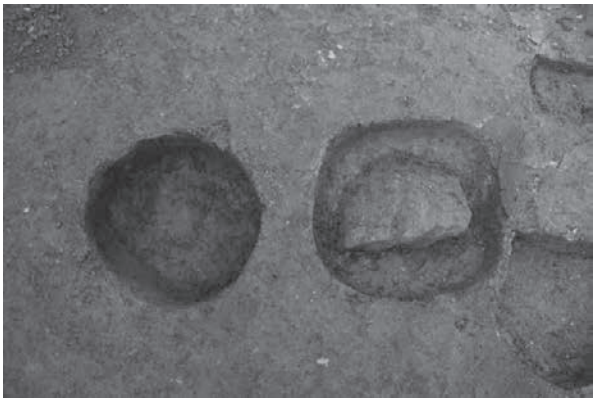
3. J区 SP257 土層断面（南から）



4. J区 SP257 完掘（南から）



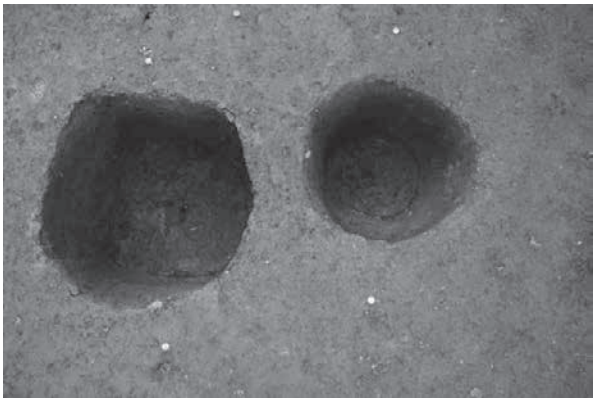
5. J区 SP262 土層断面（南から）



6. J区 SP261（左）・SP262（右） 完掘（南から）

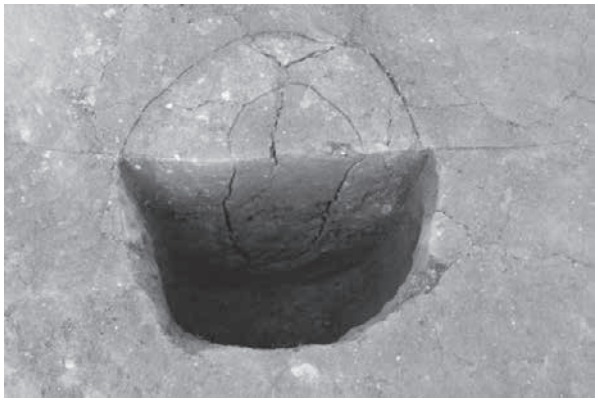


7. J区 SP267 土層断面（南から）

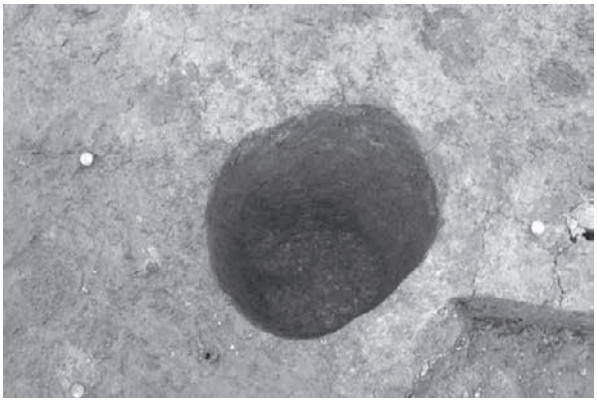


8. J区 SP267（左）・SP268（右） 完掘（東から）

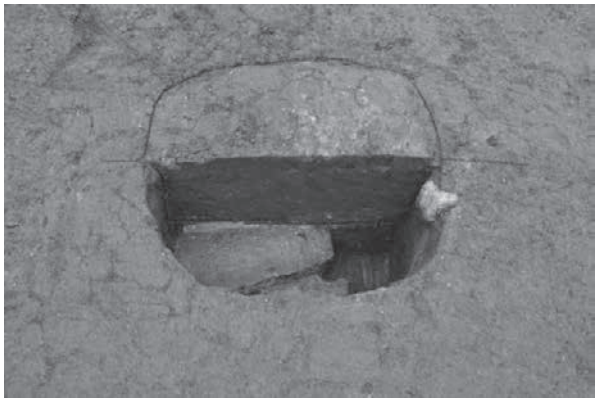
図版103



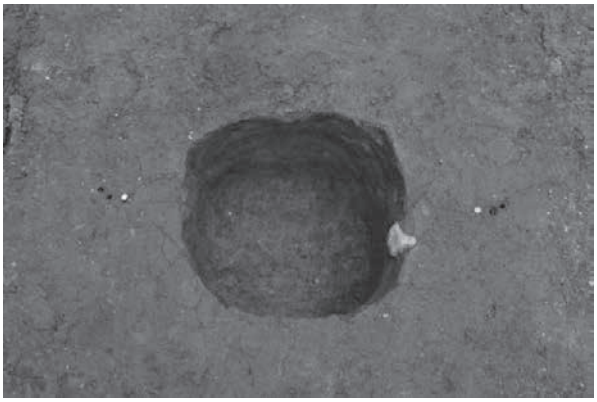
1. I区 SP282 土層断面（南から）



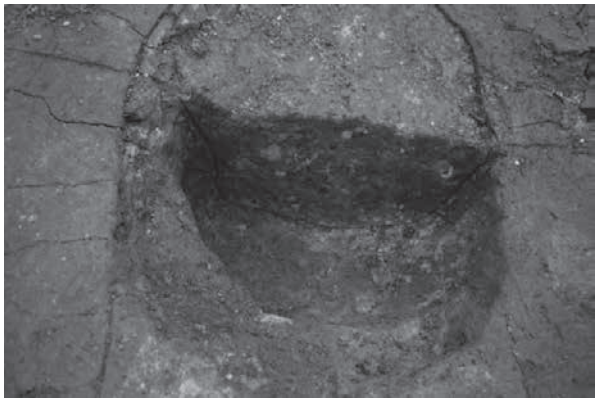
2. I区 SP291 完掘（南から）



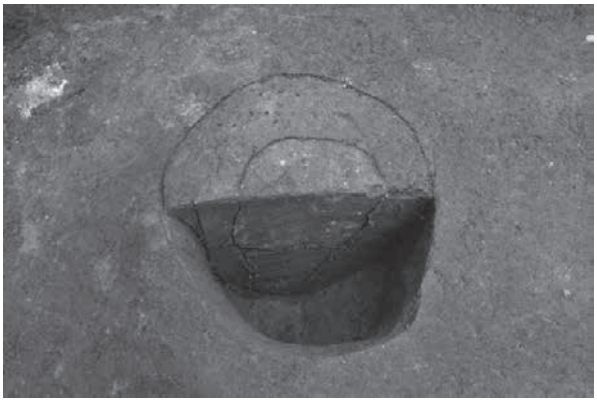
3. I区 SP292 土層断面（南から）



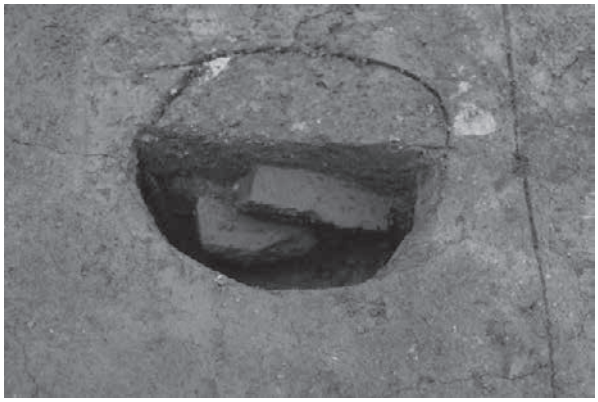
4. I区 SP292 完掘（南から）



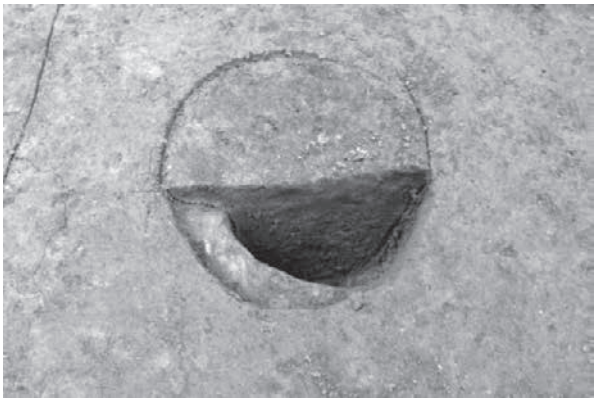
5. I区 SP294 土層断面（南から）



6. I区 SP295 土層断面（南から）

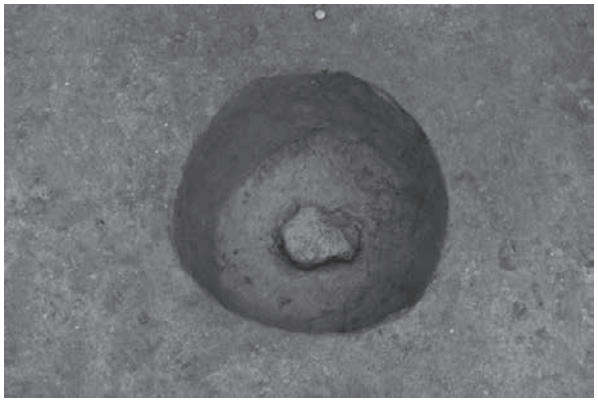


7. J区 SP333 土層断面（南から）

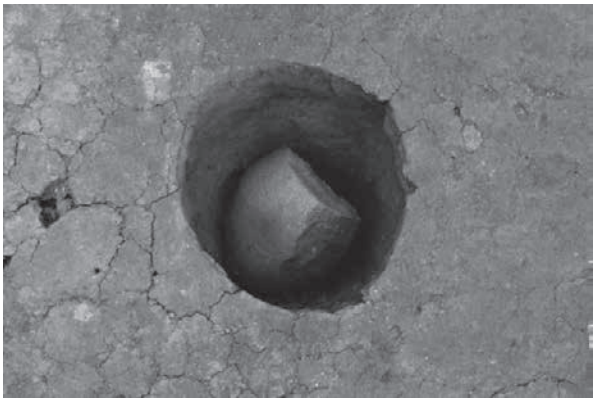


8. J区 SP334 土層断面（南から）

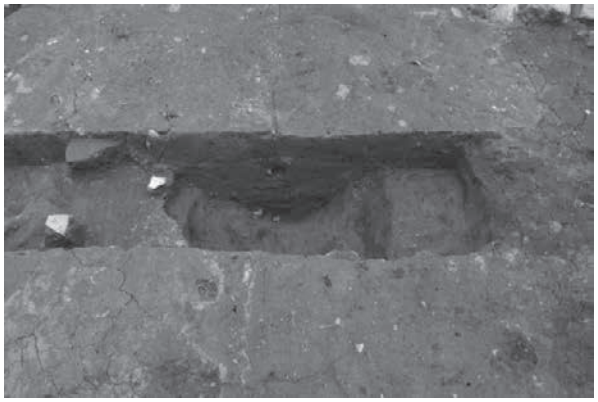
図版104



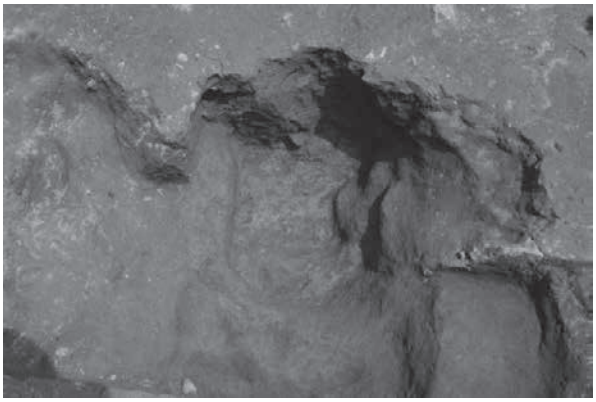
1. J区 SP336 礫出土状態（南から）



2. J区 SP338 礫出土状態（東から）



3. J区 SP361 土層断面（南から）



4. J区 SP361 完掘（南から）



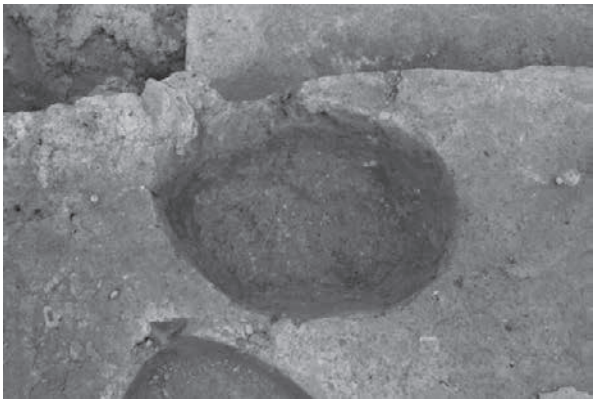
5. J区 SP364 瓦出土状態（南から）



6. J区 SP368 遺物出土状態（南から）



7. J区 SP370 土層断面（西から）



8. J区 SP370 完掘（東から）

図版105



1. J区 SP372 土層断面（東から）



2. J区 SP372 完掘（東から）



3. K区 SP382 土層断面（西から）



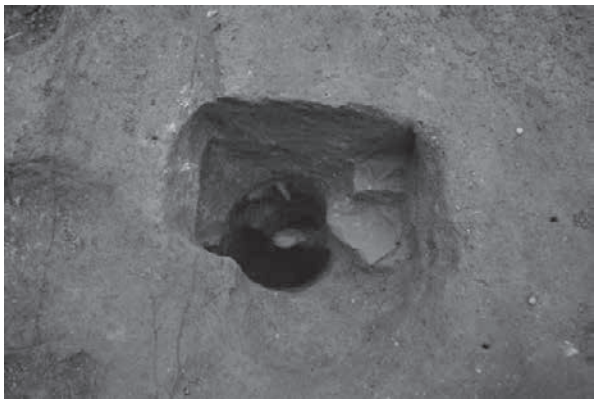
4. K区 SP382 完掘（西から）



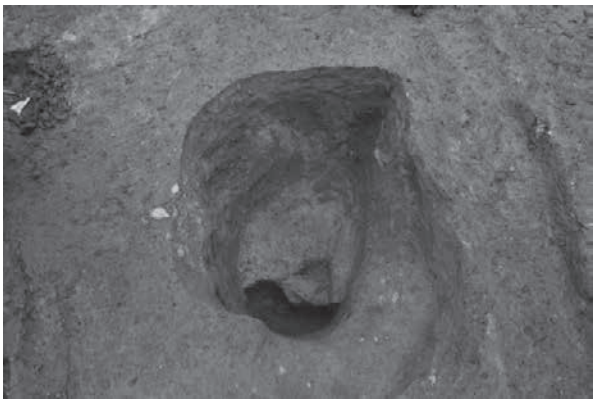
5. K区 SP383 土層断面（南から）



6. J区 SP390 完掘（西から）

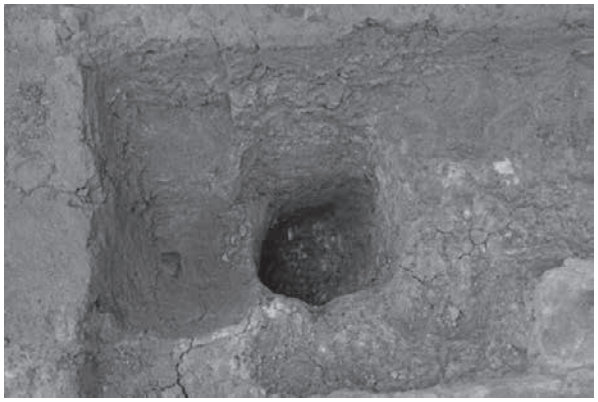


7. J区 SP392 遺物出土状態（西から）



8. J区 SP392 完掘（西から）

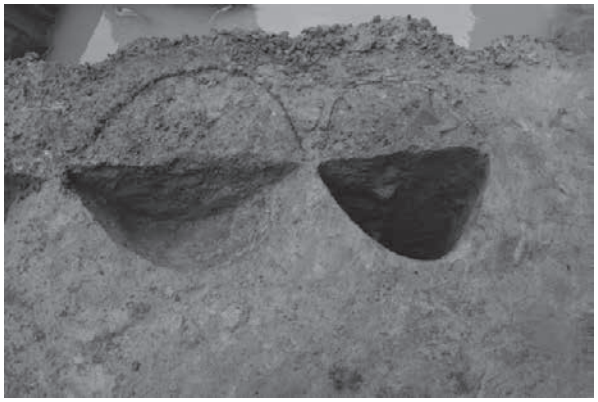
図版106



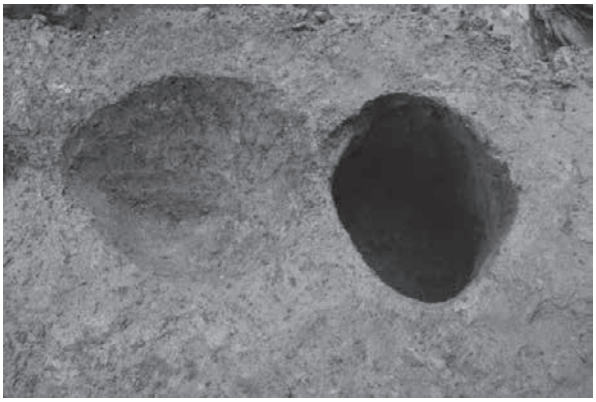
1. N区 SP449 完掘（東から）



2. N区 SP455 土層断面（東から）



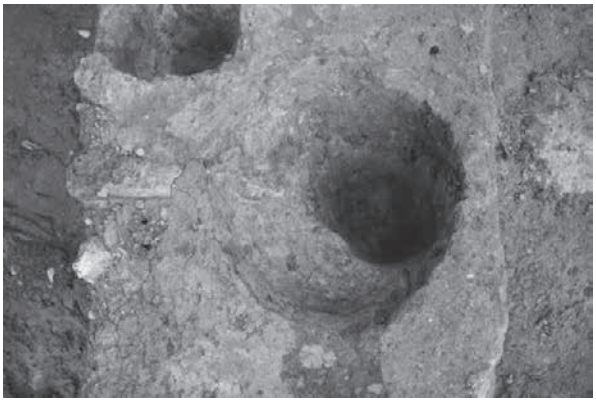
3. N区 SP452（左）・SP453（右） 土層断面（北から）



4. N区 SP452（左）・SP453（右） 完掘（北から）



5. N区 SP455 完掘（南から）



6. N区 SP456 完掘（南から）

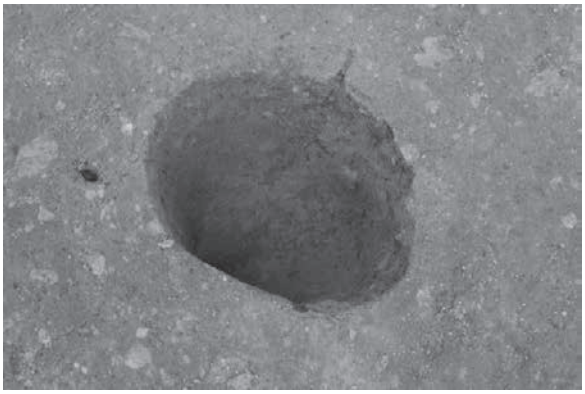


7. N区 SP458 完掘（南から）



8. N区 SP462 土層断面（北から）

図版107



1. N区 SP463 完掘（東から）



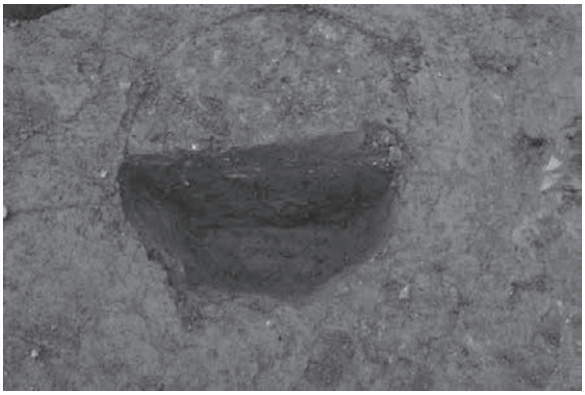
2. N区 SP467（右）・SP468（左） 土層断面（南から）



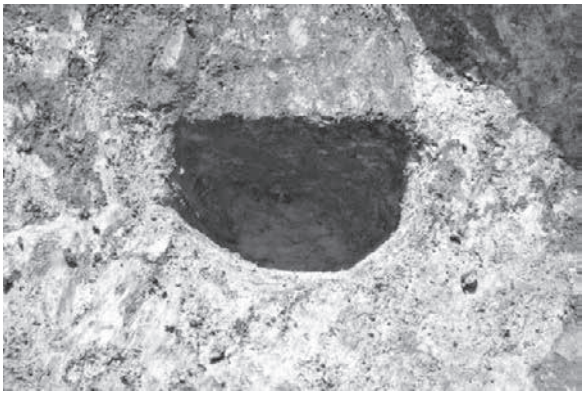
3. N区 SP469（左）・SP470（右） 土層断面（東から）



4. N区 SP475 土層断面（東から）



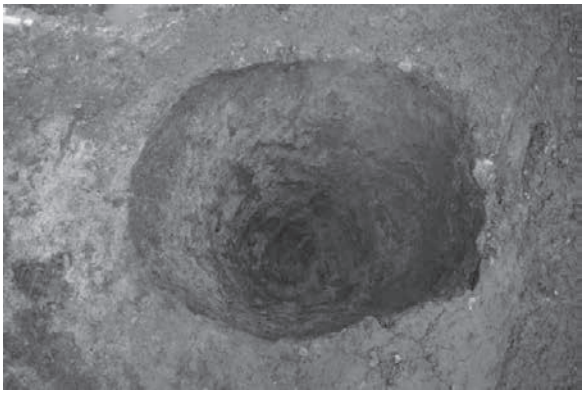
5. N区 SP477 土層断面（東から）



6. N区 SP479 土層断面（北から）

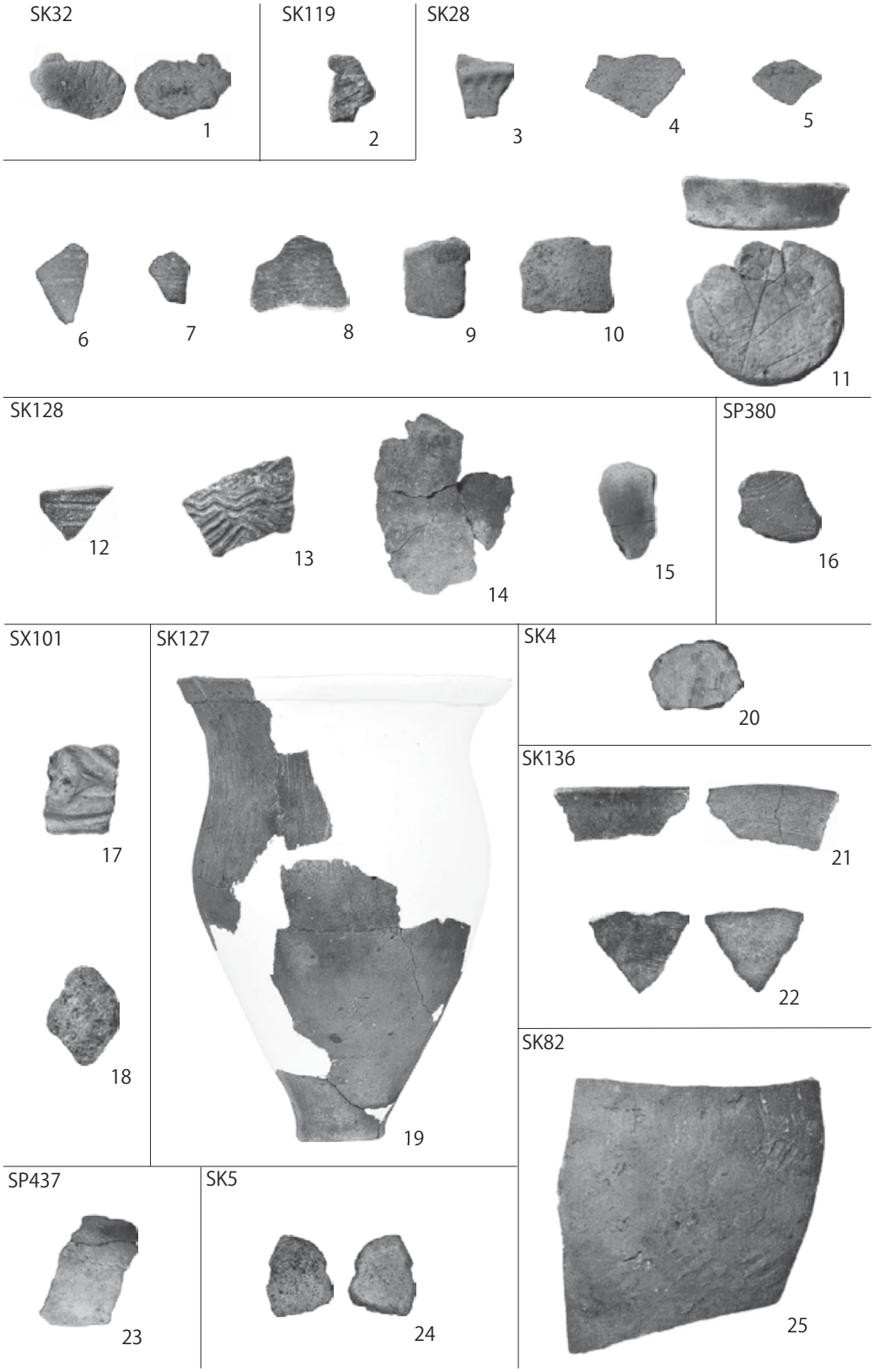


7. N区 SP478 土層断面（北東から）



8. N区 SP478 完掘（南から）

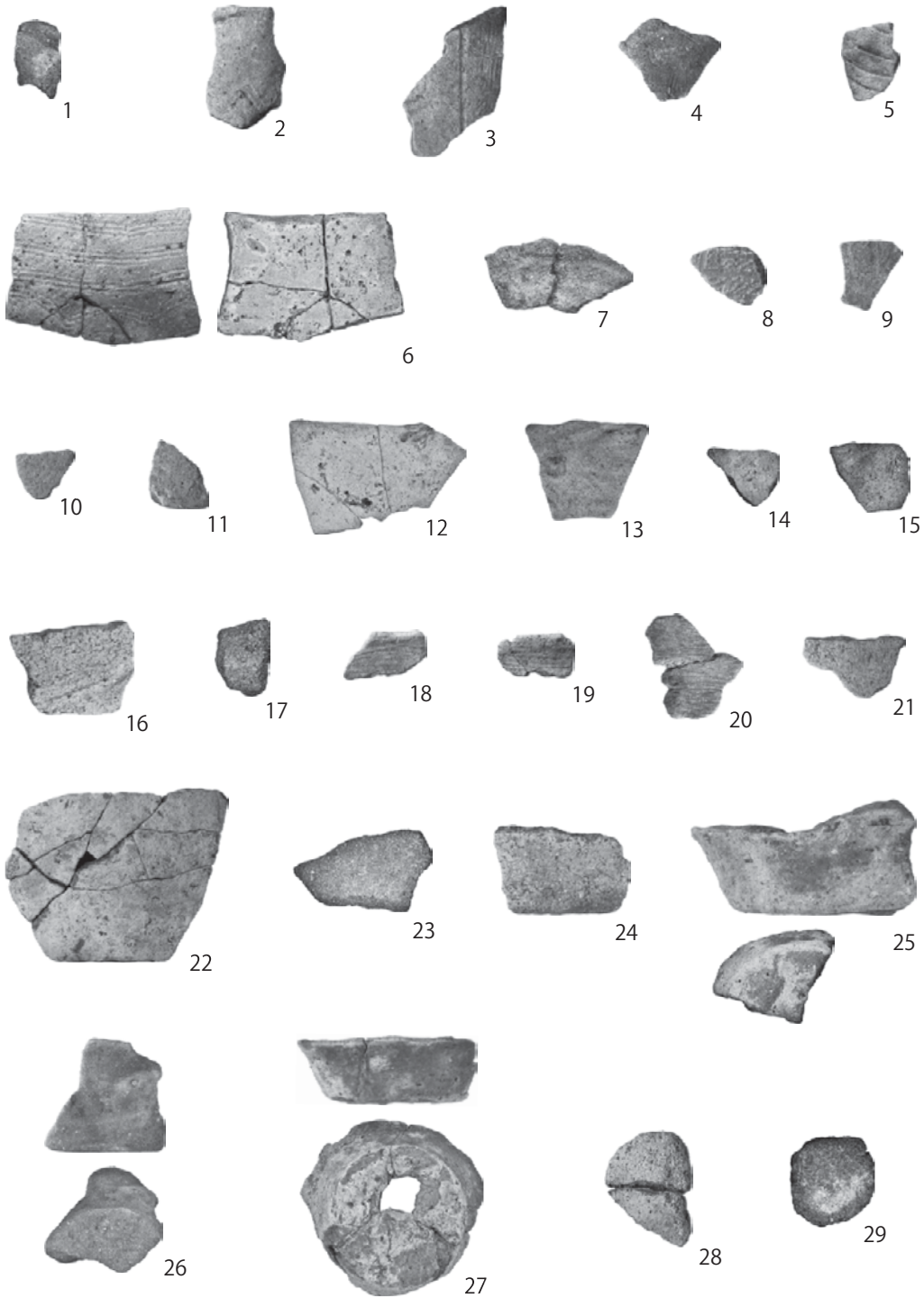
図版108



縄文～古代の出土遺物（１）

図版109

SX65

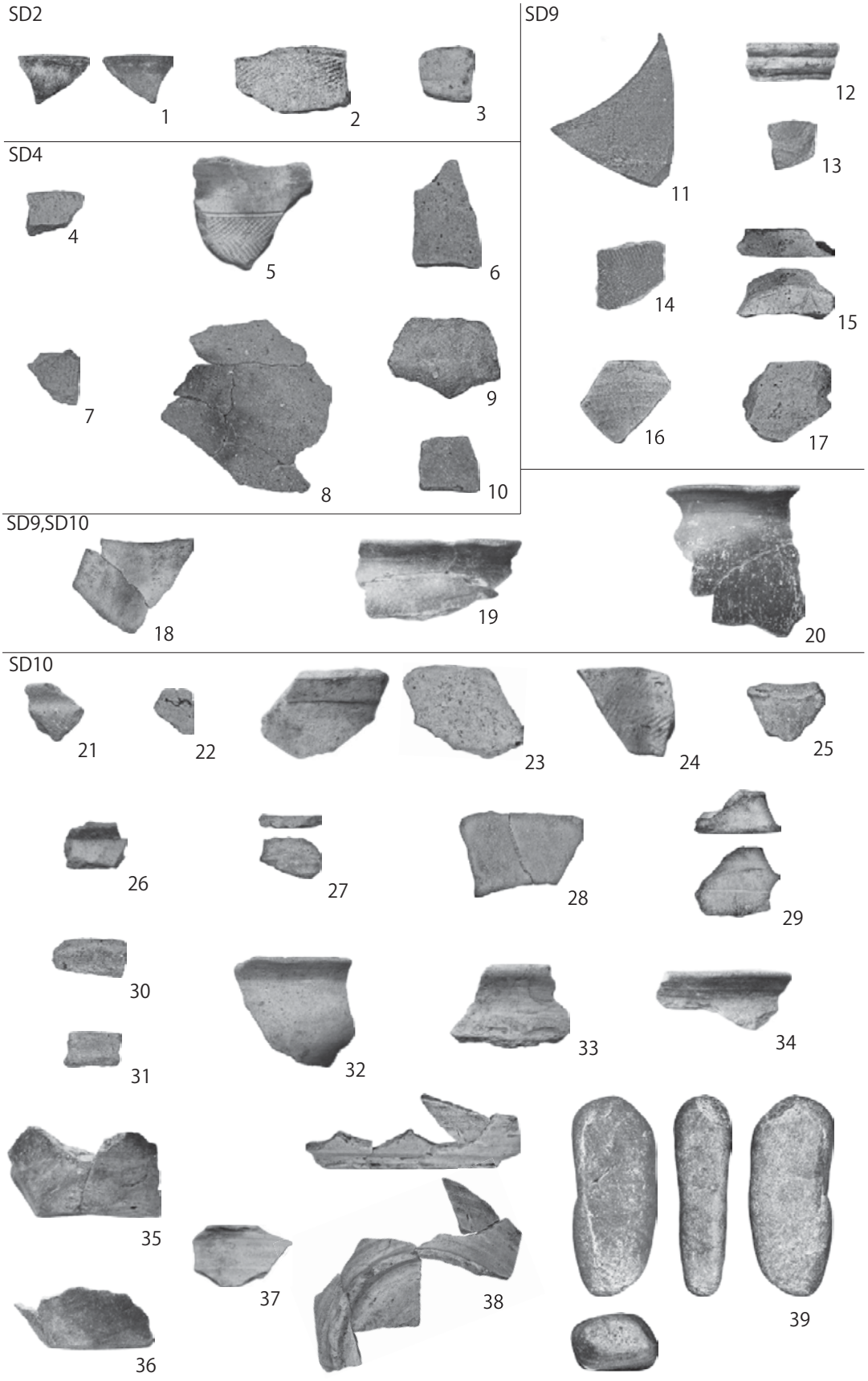


SK120



縄文～古代の出土遺物（２）

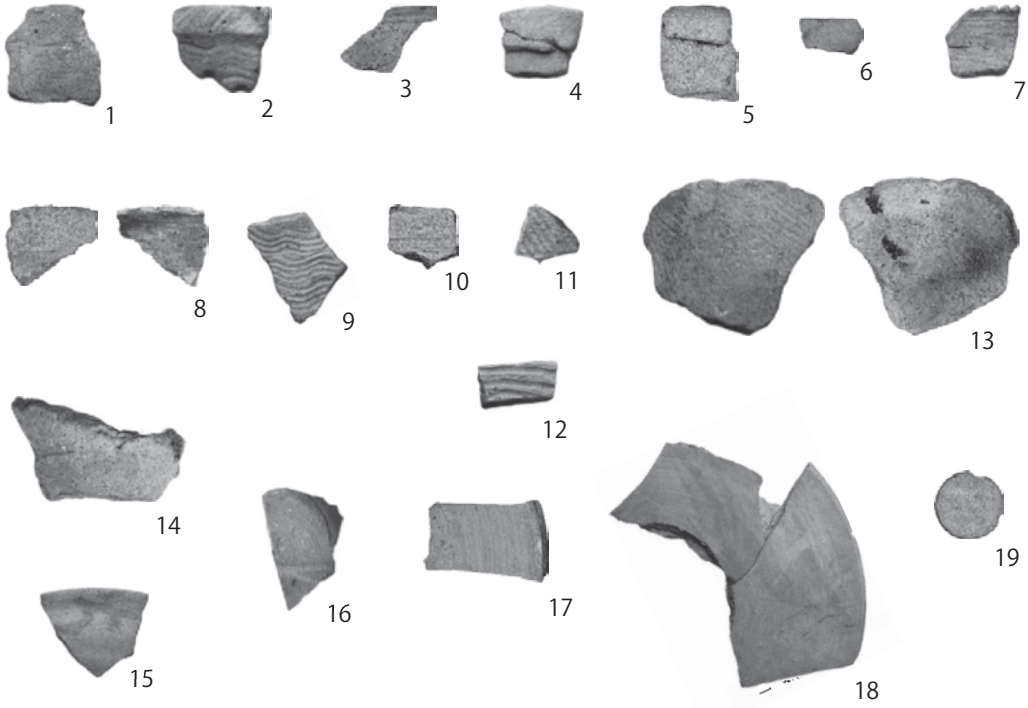
図版110



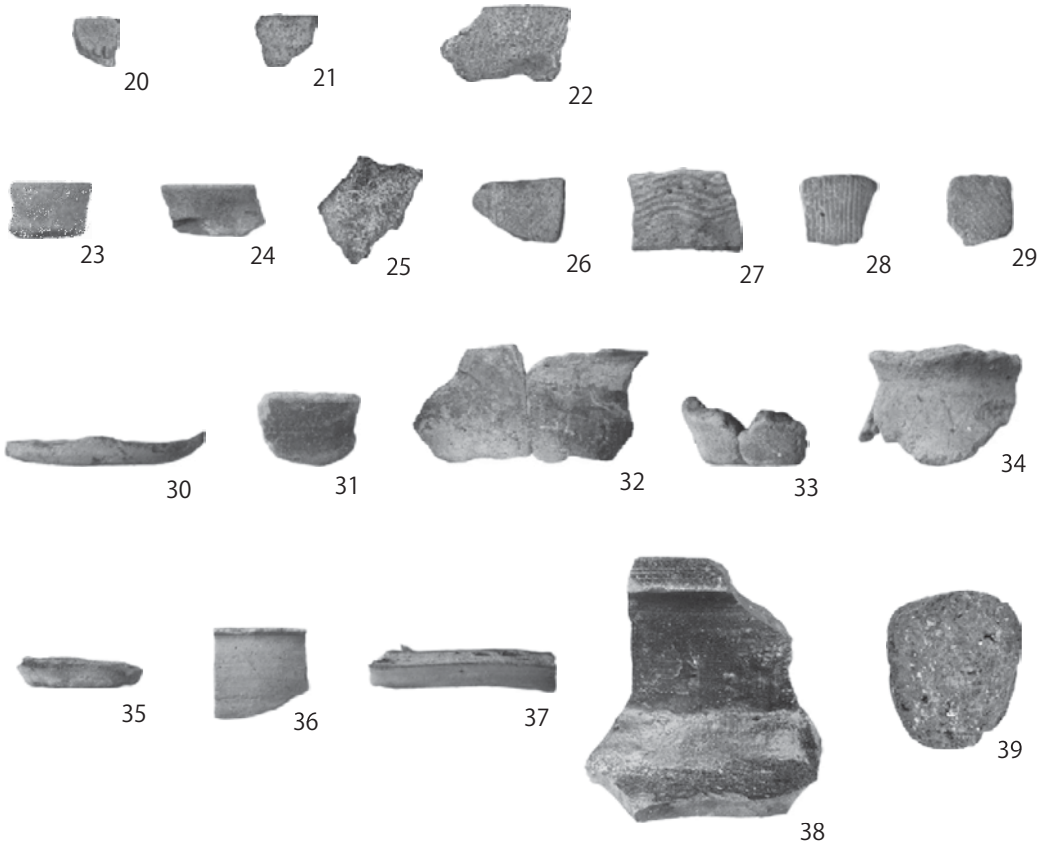
縄文～古代の出土遺物（３）

図版111

SD13



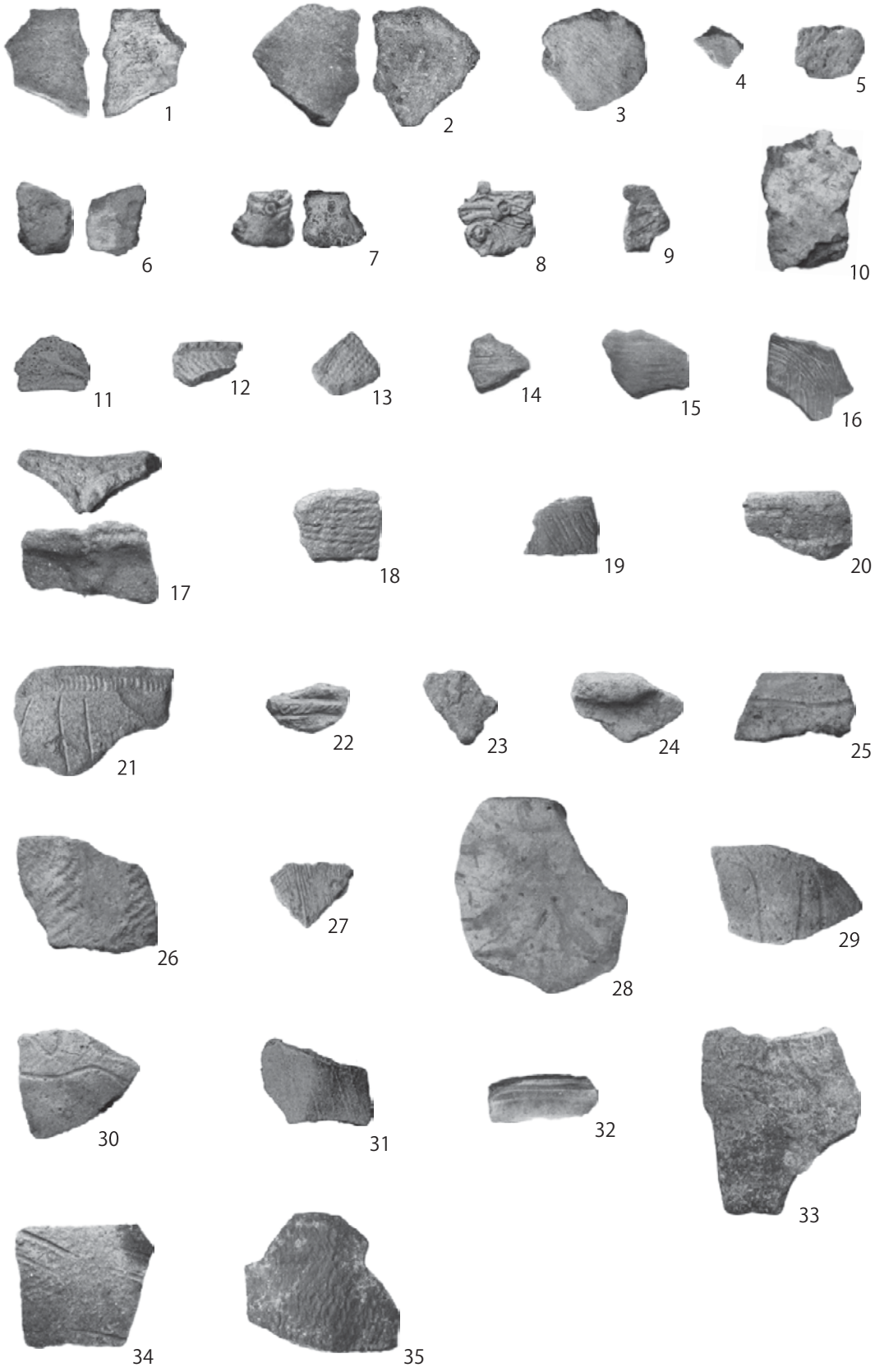
SD16



縄文～古代の出土遺物（４）

図版112

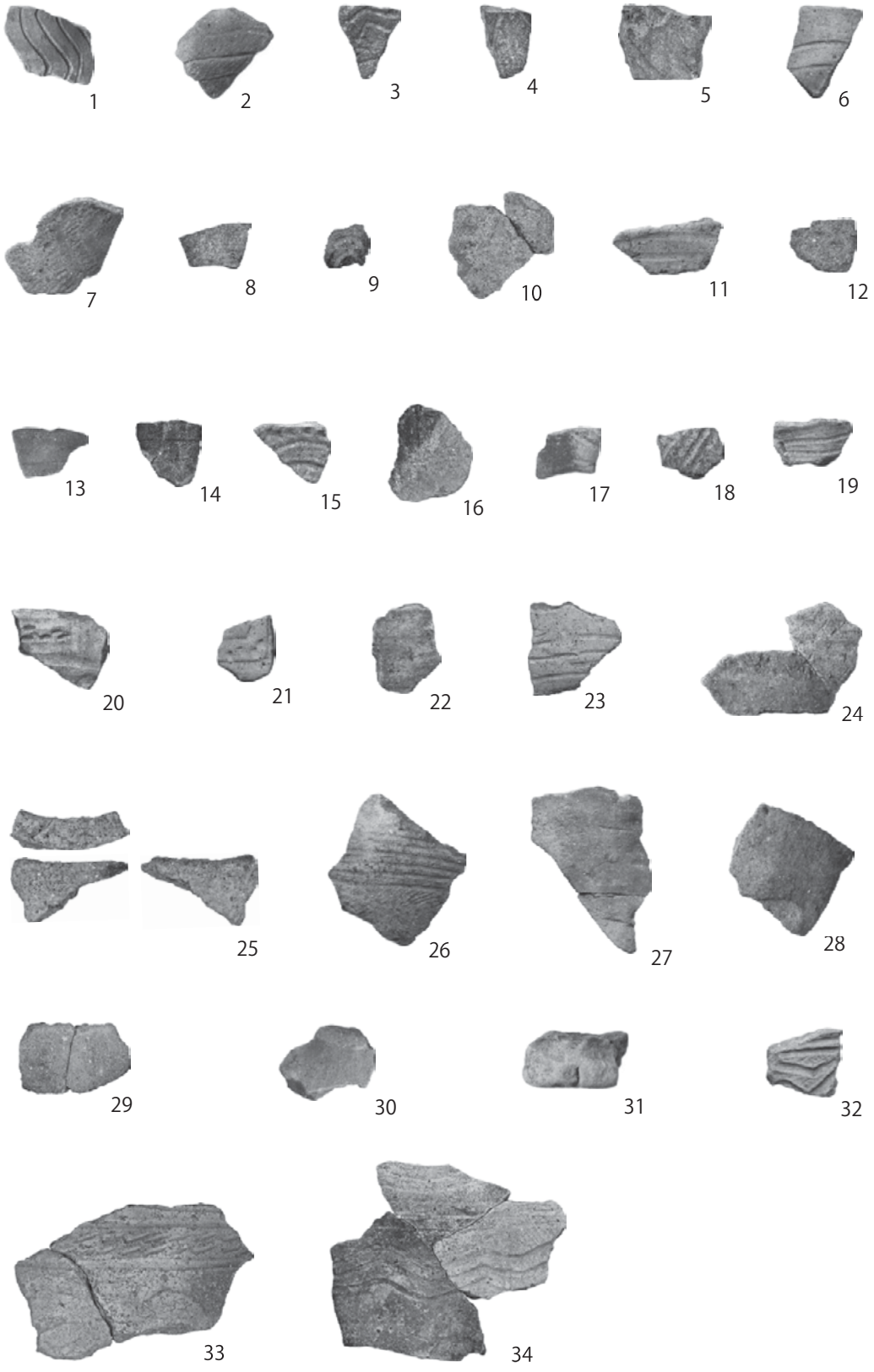
遺構外



縄文～古代の出土遺物（５）

図版113

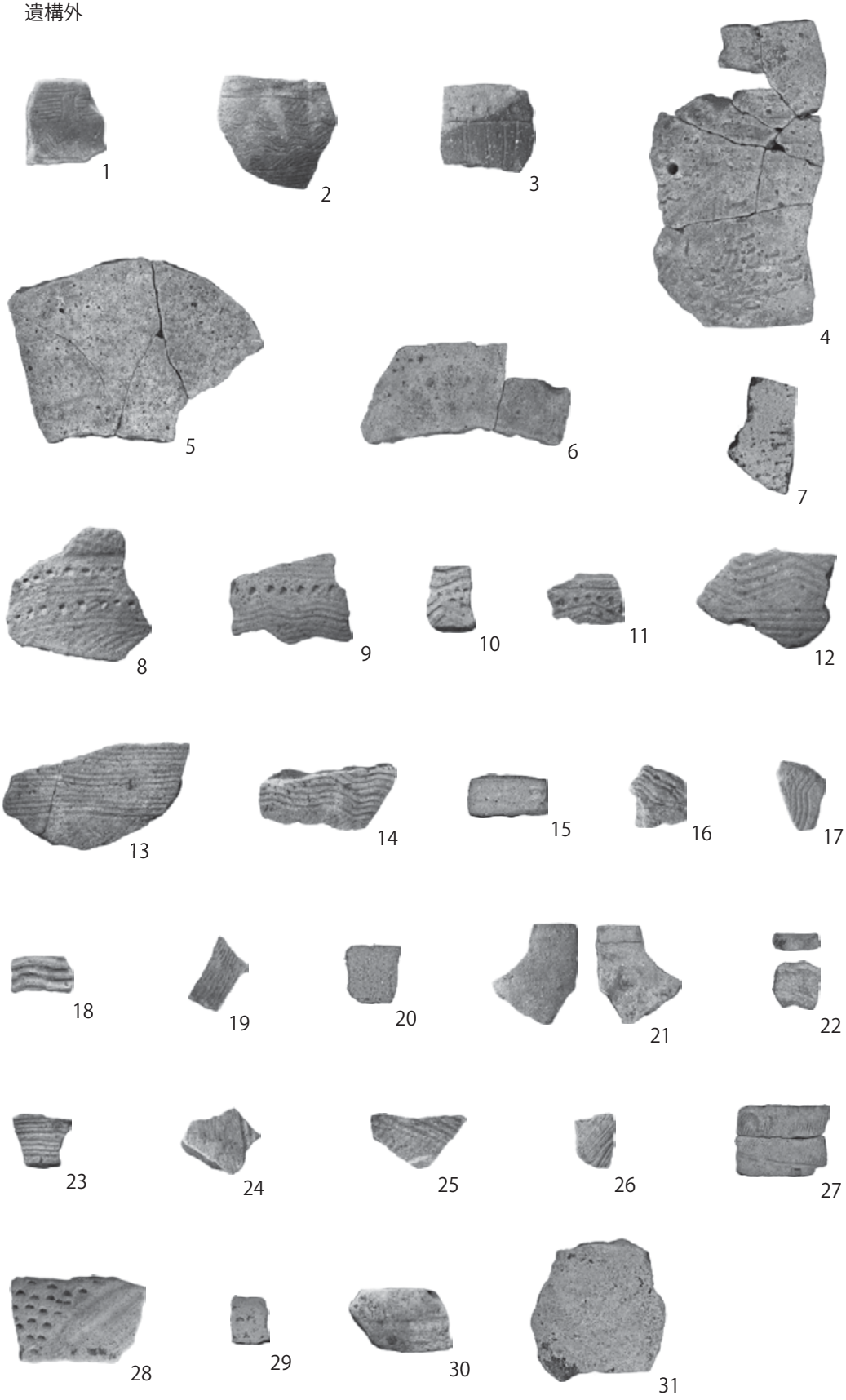
遺構外



縄文～古代の出土遺物（６）

図版114

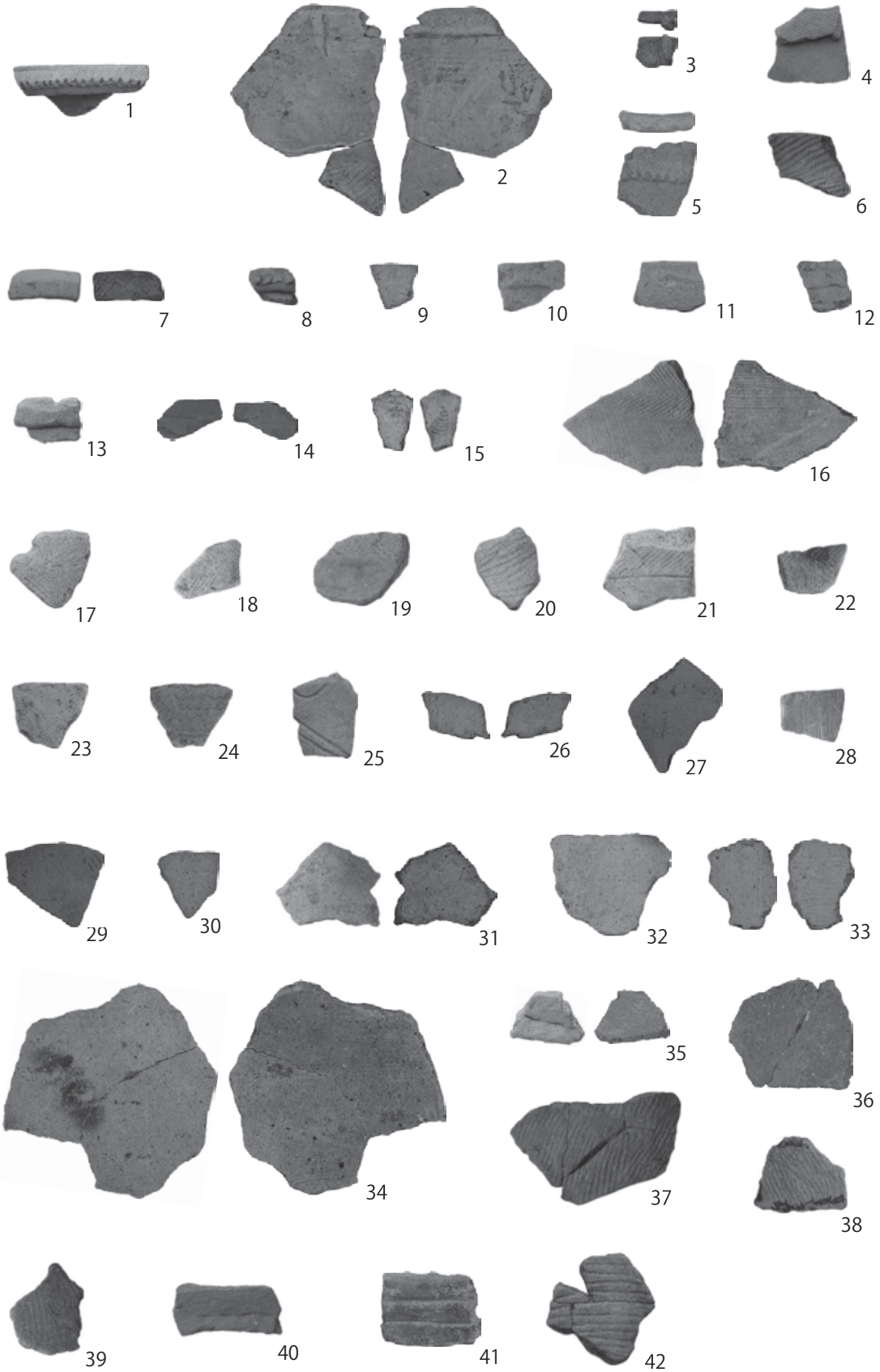
遺構外



縄文～古代の出土遺物（７）

図版115

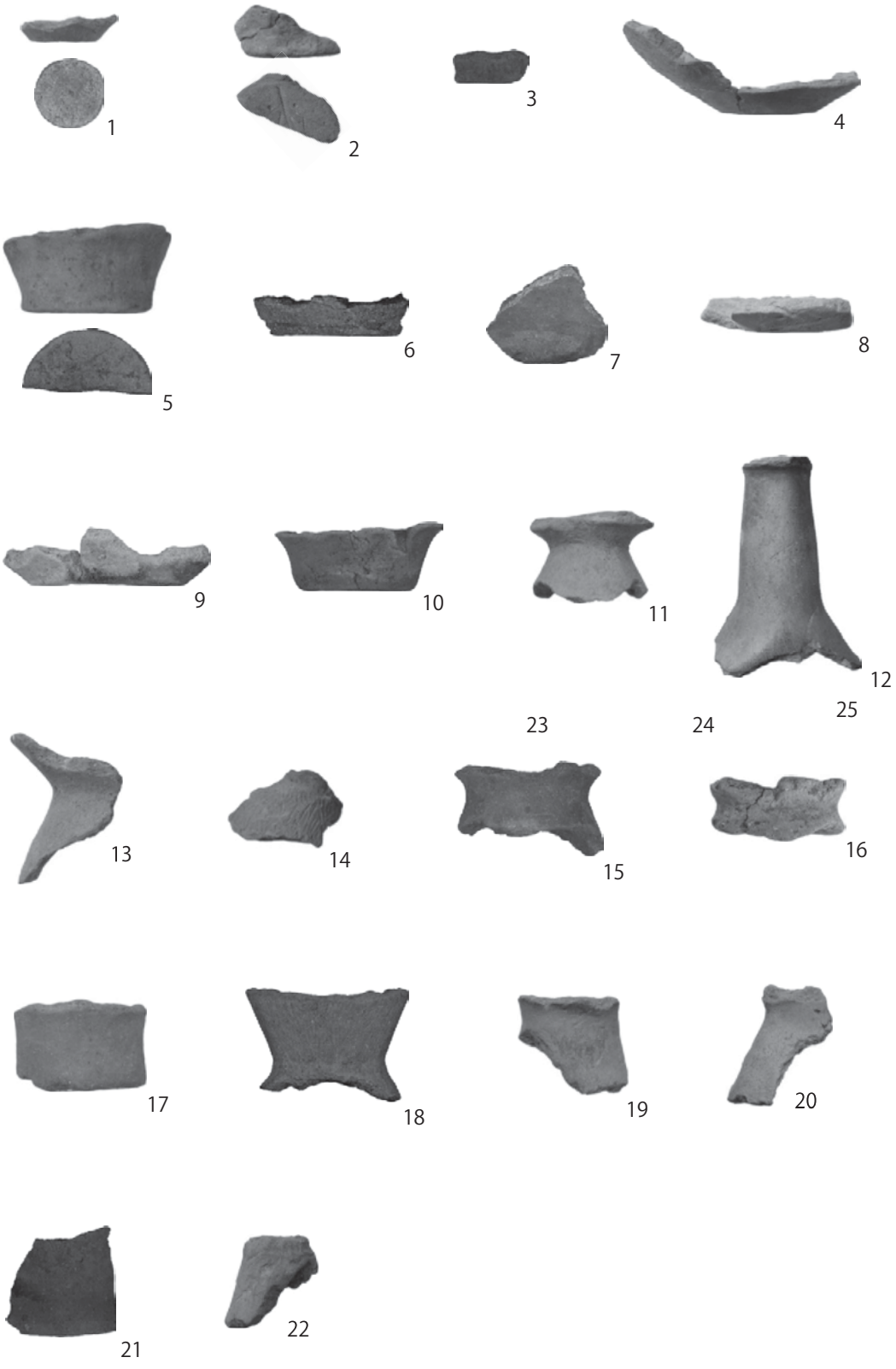
遺構外



縄文～古代の出土遺物（８）

図版116

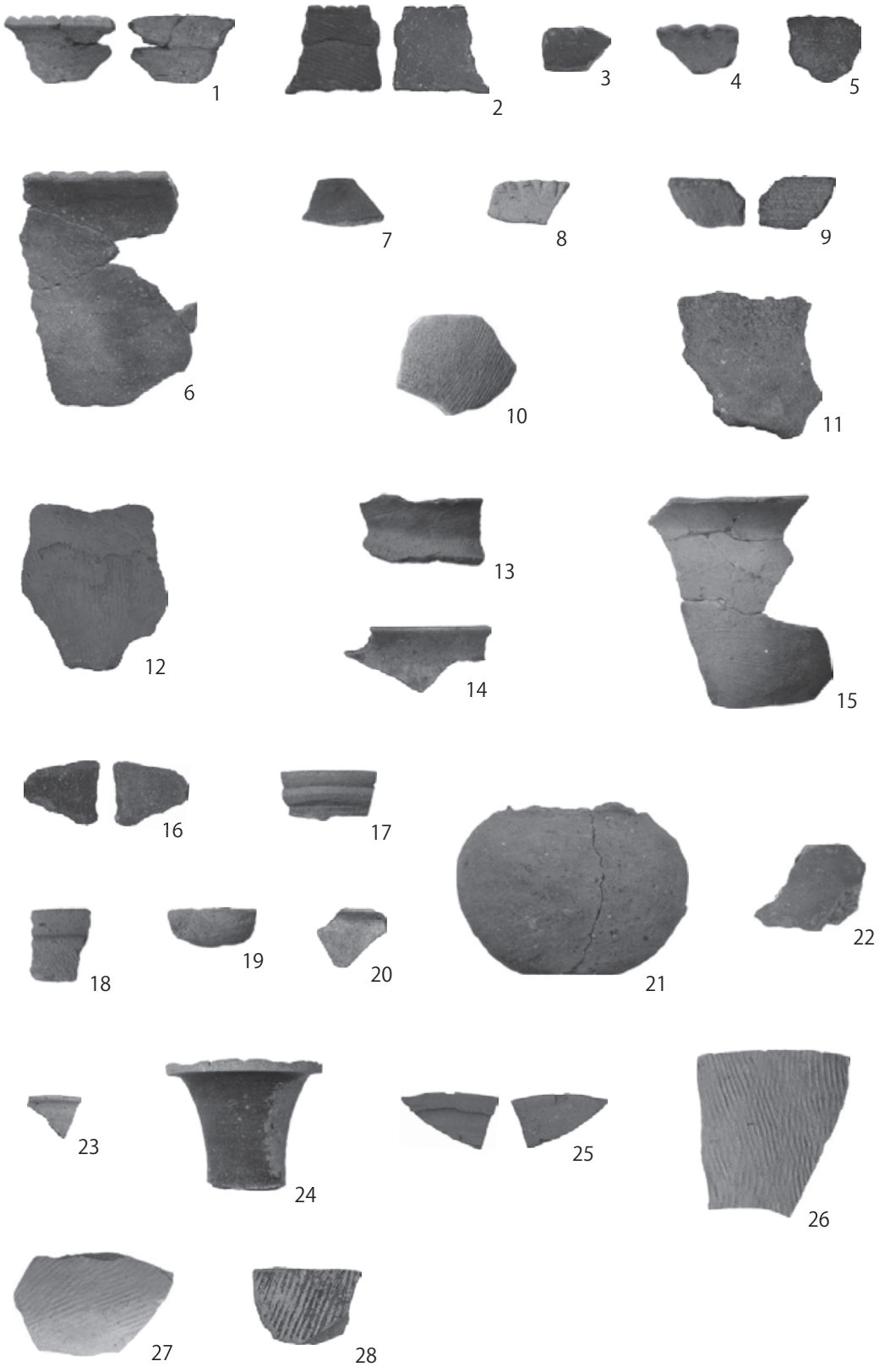
遺構外



縄文～古代の出土遺物（９）

図版117

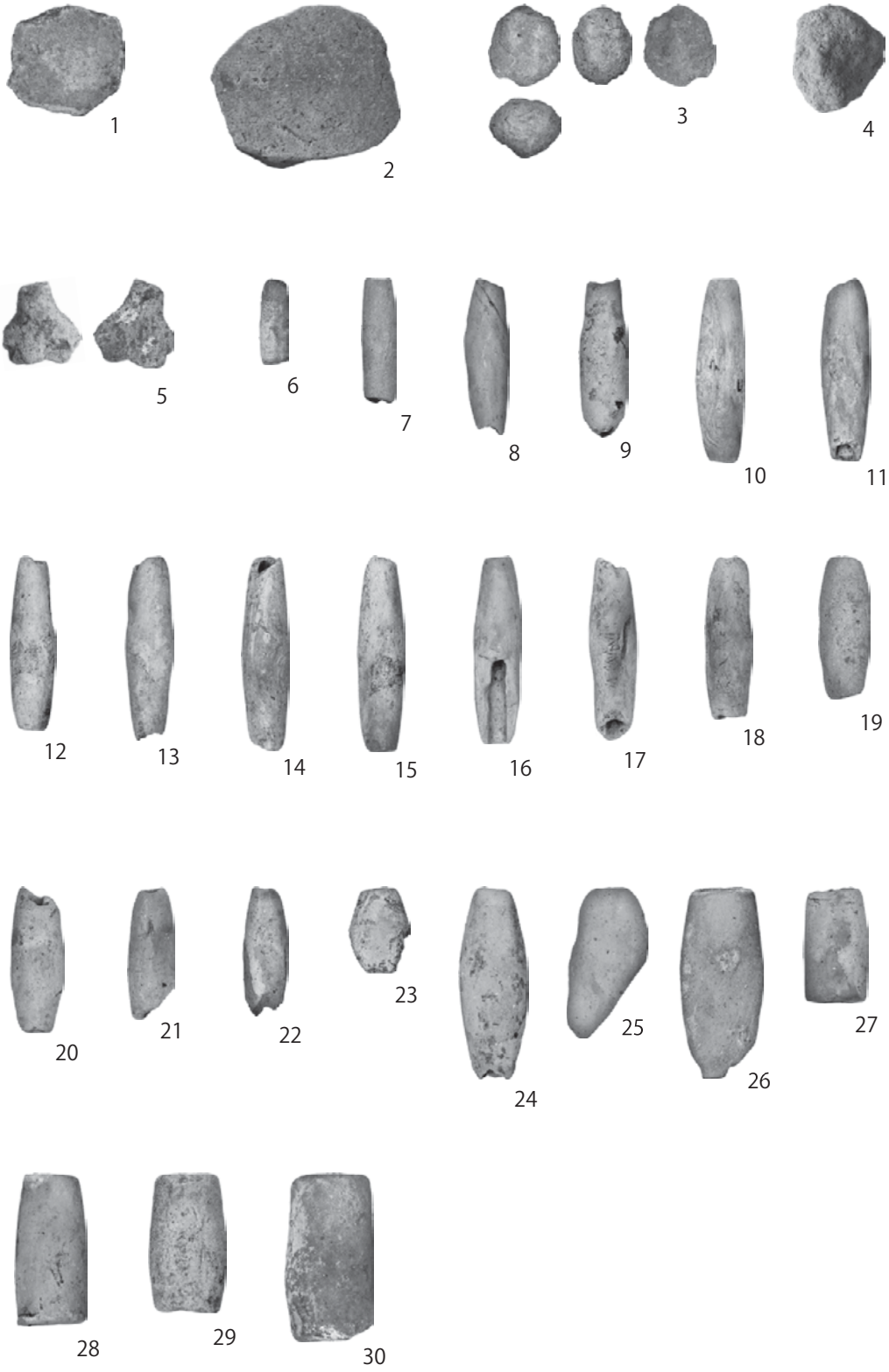
遺構外



縄文～古代の出土遺物（10）

図版118

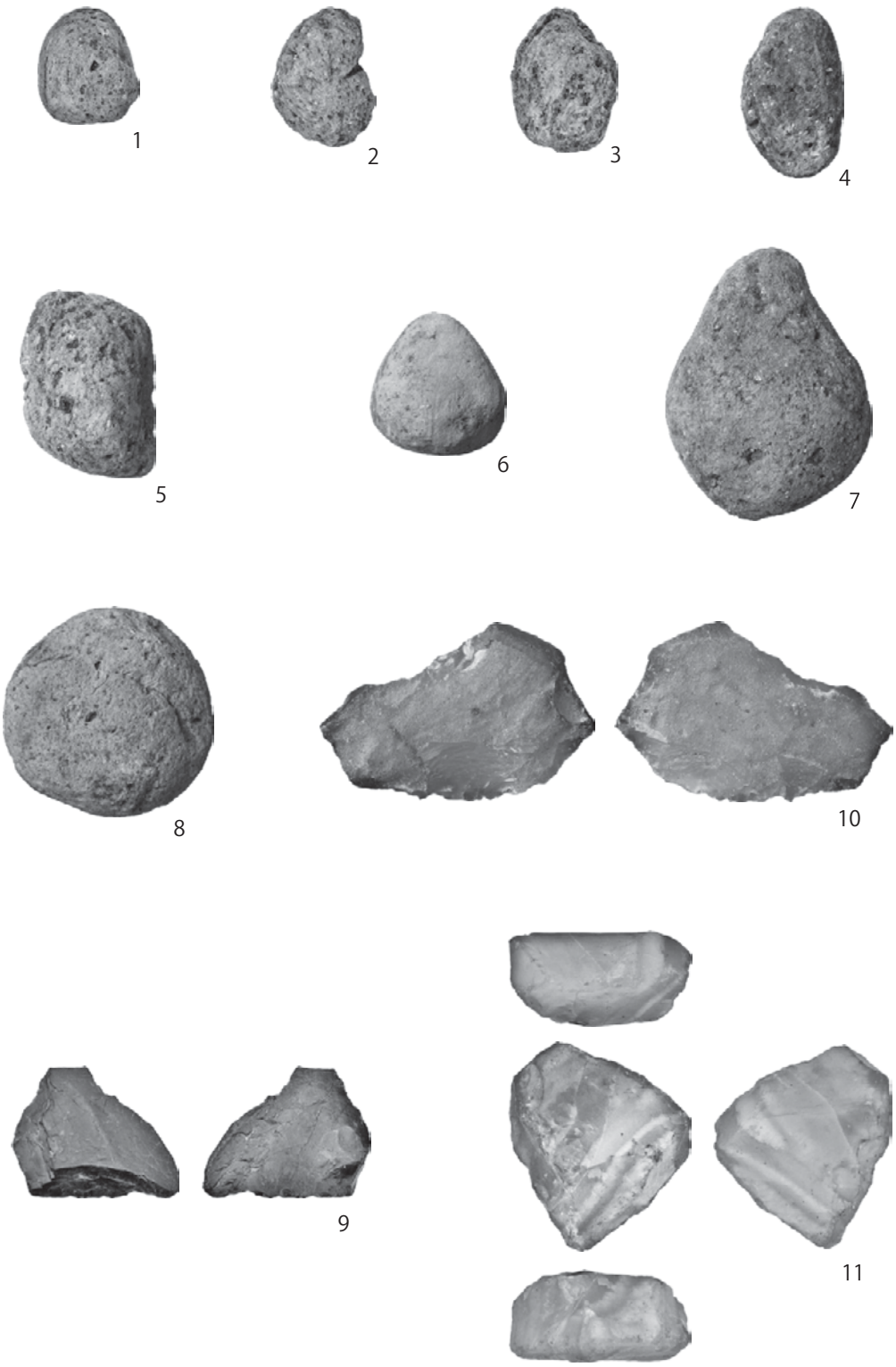
遺構外



縄文～古代の出土遺物（11）

図版119

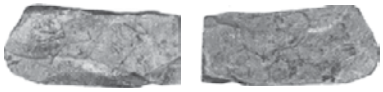
遺構外



縄文～古代の出土遺物（12）

図版120

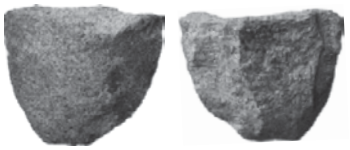
遺構外



1



2



3



4



5

SK28



6



7

報 告 書 抄 録

ふ り が な	みなとくえんぷくじあといせき
書　　名	港区圓福寺跡遺跡
副　書　名	（仮称）愛宕山周辺地区（F・G 地区）市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
シ リ ー ズ 名	東京都埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第 390 集
編 著 者 名	内野　正・金持健司・黒住耐二・宮本由子・鈴木伸哉
編 集 機 関	公益財団法人 東京都教育支援機構 東京都埋蔵文化財センター
所　在　地	〒 206-0033　東京都多摩市落合一丁目 14 番 2　　TEL 042 － 374 － 8044
発 行 年 月 日	西暦　2025 年　8月　31 日

ふ り が な 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	発掘原因
えんぷくじあといせき 圓福寺跡遺跡	とうきょうとみなとくあたごいっ 東京都港区愛宕一 ちょうめなな 丁目 7 ほか	13103	212	33° 39’ 51.0”	139° 44’ 56.7”	20201221 ～ 20241007	3,202㎡	（仮称）愛宕山周辺地区（F・G 地区）市街地再開発事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
圓福寺跡遺跡	社寺	縄文	土坑	縄文土器・石器・大型木材	
		弥生	土坑・ピット	弥生土器	
		古墳・古代	溝・土坑・ピット	土師器・須恵器・管状土錘	
		中世	土坑	板碑	
		近世	地鎮遺構・礎石建物・石組遺構・木組遺構・瓦埋設・埋甕・池跡・井戸跡・焼土跡・胞衣皿埋納遺構・瓦溜り・貝堆積遺構・土坑・大型土坑・木製品・木材廃棄土坑・ピット・便所甕	陶磁器・土器・ミニチュア・土製品・瓦・石塔・石製品・金属製品・銭貨・ガラス製品・骨角製品・漆器・木製品・動物遺体	

要　約

発掘調査の結果、当初の予想どおり、江戸時代に存在した圓福寺に関連する遺構・遺物が多数検出されたが、それらに加え、中世以前、古くは縄文時代に遡る遺構・遺物も検出された。

圓福寺関連の遺構は、建物の礎石・柱穴、排水用の石組溝・素掘り溝、庭園の池、井戸、土坑、地鎮遺構など、遺物は陶磁器・土器、瓦、金属製品、銭貨、漆器・木製品、ガラス製品、石塔、石製品、動物遺体（馬の骨他）、貝殻などである。特に注目されるのは地鎮遺構で、宝瓶、輪宝、独鈷といった銅製品の他、土器皿、五色玉と考えられる小石が出土した。年代は 17 世紀後半以降と考えられ、圓福寺関連の建物を建てる際、地鎮めのための儀礼に伴い埋納されたと考えられる。

中世については、板碑が数点出土している。出土した板碑の中には、文明 6 年（1474 年）の年号が刻まれたものもあり、資料としては貴重である。

古墳時代から古代については、土師器、須恵器の他、管状の土錘が 40 点以上出土しており、当時、漁撈活動が活発に行われていたことが分かる。

弥生時代については、土坑やピットが検出され、当該期の器形の分かる甕や赤彩の壺等が出土している。

縄文時代については、早期から晩期にかけての土器が出土した他、大型木材も出土している。この大型木材は長さ約 4 m、幅約 1 m、深さ約 30㎝の細長い楕円形に掘削された穴に据えられていた。

発掘調査の結果、港区圓福寺跡遺跡及びその周辺地区は、江戸時代はもとより、古くは縄文時代から、人々の生活の場として利用されていたことが明らかになった。

印刷仕様

表紙	レザック	215kg（四六判）
見返し	上質紙	86.5kg（A判）
本文	マットコート紙	57.5kg（A判）
写真図版	マットコート紙	57.5kg（A判）
印刷方式	オフセット印刷	
使用インク	エコマーク商品認定基準に適合	
製版線数	150線（カラー175線）	

本書は永久保存を考慮し、すべて中性紙を使用

港区

圓福寺跡遺跡

－（仮称）愛宕山周辺地区（F・G地区）市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

東京都埋蔵文化財センター調査報告第390集

2025年8月31日　発行

編集・発行　公益財団法人東京都教育支援機構
東京都埋蔵文化財センター
東京都多摩市落合一丁目14番2
TEL 042 - 374 - 8044

印刷　株式会社丸井工文社
東京都港区三田3-11-36